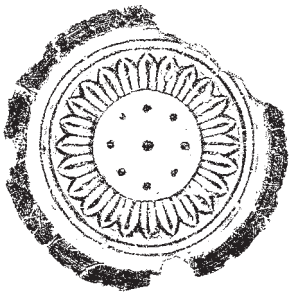
市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第36集

上総国分寺台遺跡調査報告 XXVII

上総国分僧寺跡 II

（本文編 1）



2016

市 原 市 教 育 委 員 会

序　文

房総半島の中央部に位置する市原市は、養老川がもたらした肥沃な平野部、緑豊かな丘陵部など、恵まれた自然環境にあり、貴重な遺跡が数多く残されています。特に「国分寺台」には、国指定史跡の上総国分僧寺・尼寺跡をはじめ、東京湾東岸地域を代表する大型貝塚の西広貝塚や根田祇園原貝塚、東日本最古の古墳として知られる神門古墳群、「王賜」銘鉄剣が出土した稲荷台1号墳など、全国的にも著名な遺跡が存在する地域となっています。

土地区画整理事業により多くの遺跡が失われた「国分寺台」ですが、中門・回廊の復元やガイダンス施設を整備した上総国分尼寺跡、西門を平面整備し七重塔心礎が残る上総国分僧寺跡、案内板を設置した神門5号墳など、主要遺跡の一部は保存整備が行われ、歴史散歩コースとして多くの市民や歴史愛好家に親しまれています。

今回刊行します報告書は、上総国分僧寺跡の寺院地から出土した瓦類を扱ったもので、上総国分僧寺に瓦を供給した神門・南田の両瓦窯跡も対象としています。上総国分僧寺の創建期軒瓦は、平城宮で用いられた文様が忠実に模倣されていることから、都との強い繋がりがかねてより注目されてきました。また、瓦の消費地である上総国分僧寺跡の調査を進める中で、生産地である川焼・南河原坂・神門・南田の各瓦窯跡との関係が明らかになるなど、大きな成果を収めることができました。本書が、学術的な資料としてはもとより、市民の地域史研究、更には埋蔵文化財保護意識向上の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、多大な御尽力を賜りました、文化庁記念物課、千葉県教育庁文化財課、旧市原市国分寺台土地区画整理組合、旧上総国分寺台遺跡調査団、旧財団法人市原市文化財センター及び地元関係者の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

平成28年3月

市原市教育委員会
教育長　前田周一

例　言

1　本書は、千葉県市原市惣社１丁目７番地他に所在する上総国分僧寺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、市原市教育委員会の指導のもと、上総国分寺台遺跡調査団（一部平野考古学研究所）が昭和49・50・53～58年に実施した。本報告では、これに昭和41年から43年にかけて行われた上総国分寺址調査団（早稲田大学）と、平成２年に行われた財団法人市原市文化財センターによる発掘調査の成果を加えた。整理事業は市原市教育委員会が文化庁の国庫補助事業として採択を受け、行った。

3　本書は、上総国分僧寺創建直前段階以降に形成された遺構のうち、瓦出土遺構及び出土瓦を対象とする。なお、全遺構と瓦を除く出土遺物については『上総国分僧寺跡I』（櫻井2009）で報告済みである。また、本書記載の遺構帰属時期区分は上記報告書による。

4　本書に収録した各地区の調査組織、調査期間、調査届出面積、担当者は以下のとおりである。なお、上総国分寺址調査団（早稲田大学）及び上総国分寺台遺跡調査団による発掘調査は、団長を務めた滝口 宏の指導のもと実施された。上総国分寺台遺跡調査団による調査はI次からIX次にわたり、途中、神門瓦窯跡を含む南田瓦窯跡の調査を挟んでいる。

（1）伽藍他（早稲田大学調査地区）（1,331㎡）　惣社字堂ノ前・堂ノ後他
　昭和41年～43年　上総国分寺址調査団（早稲田大学）

（2）I次（南辺部）（2,000㎡）惣社字殿屋敷
　昭和49年　平野考古学研究所　担当　谷島一馬・浅利幸一

（3）南田瓦窯跡（神門瓦窯跡を含む）（800㎡）惣社字南田1,083他
　昭和49年　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉

（4）南田瓦窯跡（600㎡）惣社字南田1,087他
　昭和50年８月１日～９月６日　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉・多宇邦雄

（5）II・III次（寺域確認調査）（1,000㎡）惣社字太子堂812他
　昭和49年～50年12月27日　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉・新田栄治

（6）IV次（北辺部）（8,500㎡）惣社字上クボミ833他
　昭和53年１月５日～54年３月31日　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉・半田堅三

（7）V次（西辺部）（8,500㎡）惣社812他
　昭和54年５月１日～55年３月31日　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉・谷川章雄

（8）VI次（東南部・南辺部・殿屋敷地区）（30,000㎡）惣社字アラク1002番地他・惣社995地先
　昭和55年５月１日～56年３月31日　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉・米田耕之助

（9）VII次（南辺部）（8,000㎡）惣社字殿屋敷他
　昭和56年～57年　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉・田村明義・鈴木英啓・永野康夫

（10）VIII次（北辺部・東南部）（10,000㎡）惣社845番地他・惣社893番地他
　昭和56年５月１日～57年３月31日　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉・浅利幸一

（11）IX次（北辺部）（4,000㎡）惣社847他
　昭和57年４月１日～58年３月31日　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉

（12）東辺部（2,000㎡）惣社899-2地先他

昭和58年5月1日～59年1月31日　上総国分寺台遺跡調査団　担当　須田 勉

（13）セ103（薬師堂地区）（470㎡）惣社911他

平成元年7月1日～10月11日　財団法人市原市文化財センター　担当　浅利幸一

（14）セ116地区（410㎡）惣社字壱町畑

平成2年2月19日～3月31日　財団法人市原市文化財センター　担当　宮本敬一

（15）セ117地区（440㎡）惣社字壱町畑1,787

平成2年4月1日～8月31日　財団法人市原市文化財センター　担当　高橋康男

（16）セ118（薬師堂地区）（260㎡）惣社911他

平成2年4月2日～5月31日　財団法人市原市文化財センター　担当　忍澤成視

各調査次の調査面積は、確認調査と本調査等の重複や、道路等の掘り残しがあり、実際の調査面積とは異なっている。調査区ごとの面積については、実際の調査図面から再測しており、その内訳は以下のとおりである。

伽藍地（早稲田大学調査地区）	1,331㎡	平野調査地区（南辺部）	744㎡
南田瓦窯跡・神門瓦窯跡	872㎡	寺域確認調査	1,717㎡
北辺部	20,520㎡	東辺部	4,050㎡
東南部	19,625㎡	南辺部	9,705㎡
殿屋敷地区	1,760㎡	西辺部	8,935㎡
セ103・118（薬師堂地区）	404㎡	セ116地区	434㎡
セ117地区	522㎡	市原市教育委員会試掘	35㎡

5　整理作業の期間と担当は以下のとおりである。

平成22年4月13日 ～ 平成23年3月28日　担当　櫻井敦史

平成23年4月13日 ～ 平成24年3月28日　担当　櫻井敦史

平成24年4月13日 ～ 平成25年3月25日　担当　高橋康男

平成25年5月15日 ～ 平成26年3月24日　担当　牧野光隆・鶴岡英一

平成26年4月1日 ～ 平成27年3月24日　担当　鶴岡英一・小橋健司・田中清美

平成27年4月1日 ～ 平成28年3月24日　担当　鶴岡英一・小橋健司

なお、上総国分寺台遺跡調査団の調査地区については、発掘調査と併行して、調査概要報告書が刊行されている。

6　軒丸瓦及び格子叩き目の分類は小橋が行った。軒平瓦の分類は牧野が行い、鶴岡が再構成した。

7　本書の原稿執筆は、第5章第1節1と第2節を小橋、第5章第5節を櫻井、これ以外を鶴岡が担当し、編集は鶴岡が行った。

8　本書に掲載した出土資料及び調査記録は、早稲田大学調査地区を除き、市原市埋蔵文化財調査センターで収蔵・保管している。

9　本書の執筆にあたり、以下の方々と機関から御指導、御協力をいただいた。記して謝意を表したい。（敬称略・五十音順）

石橋一恵　石本俊則　加藤千里　加藤正信　倉田義広　小林　嵩　清野孝之　武田剛朗　長原　亘

永井邦仁　中門亮太　久永雅宏　萩原恭一　平原信崇　森本　剛　森本尚子　山田貴久
大網白里市教育委員会　千葉県教育振興財団　千葉市教育委員会　筑波大学人文社会科学研究科
奈良文化財研究所　早稲田大学會津八一記念博物館

凡　例

1　調査概要報告書では、上総国分僧寺の伽藍地を中心に、北側を「北辺部」、北東から東側を「東辺部」、東側から南東側を「東南部」、南側を「南辺部」、南西側を「殿屋敷地区」、西側から北西側を「西辺部」、薬師堂部分を「薬師堂地区」と呼称しており、本書でもこの名称を用いた。

2　本書で使用した遺構番号は、『上総国分僧寺跡Ⅰ』で使用されたものを踏襲した。ただし、番号が付けられていなかった遺構については、各遺構種の最終番号に続く数字を新規に付与した。

3　各調査地区の掲載順は、伽藍地から始め、以下は遺構番号を優先させ、北辺部、西辺部、殿屋敷地区、東南部、南辺部、東辺部、薬師堂地区（セ103・118）、セ116・117地区の順とした。ただし、地区によっては複数回の調査が行われているため、全てが番号順とはなっていない。

4　遺構図面中の標高は海抜高、方位は真北である。

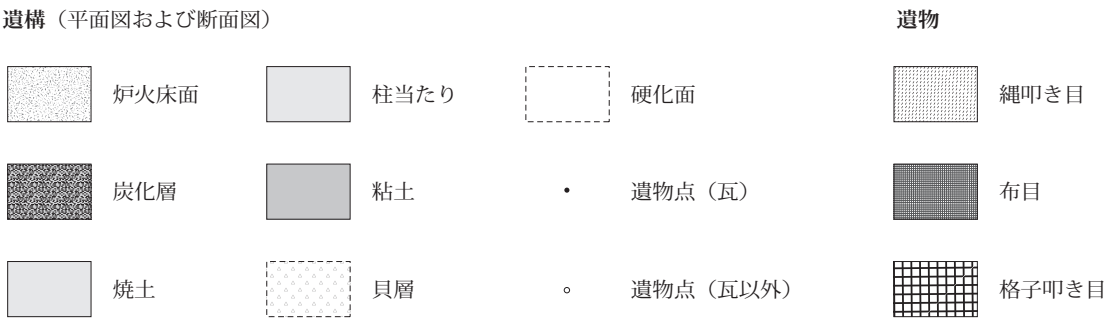
5　本書で使用した遺構実測図の縮尺は、礎石建物・掘立柱建物1/200・1/40、竪穴建物1/80、土坑・井戸1/60を基本とし、溝・道路は一部を除き、1/1,500の全体図中に示した。

6　遺物実測図の縮尺は、軒瓦1/4、軒以外の瓦・道具瓦・瓦製品1/5、土器1/4・1/3、石器1/2・2/3、土製品1/2を基本とした。

7　本文中の瓦の胎土分類は以下のとおりである。

胎土A　粘土質の精緻な土で、色調は灰色系が主体。
胎土B　砂質の粗い土で、色調は灰色系が主体。
胎土C1　胎土Aの焼成不良。
胎土C2　胎土Bの焼成不良。
胎土D　粘土質の精緻な土で、色調は表面付近が橙色系、内部が黒灰色系主体。
胎土E　粘土質の精緻な土で、色調は表面付近が黄色系、内部が黒灰色系主体。
胎土F　粘土質の精緻な土で、色調は黄橙色系が主体。

8　遺構図面中のスクリーントーン・遺物表示の凡例は、下図のとおりである。



本 文 目 次

序　文
例　言
凡　例
第１章　調査の経緯と概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯と方法 …… 1
　第２節　遺跡の立地と概要 …… 4
第２章　遺構と出土瓦 …… 19
　第１節　中心伽藍 …… 19
　第２節　礎石建物 …… 69
　第３節　掘立柱建物 …… 69
　第４節　塀・柵列 …… 148
　第５節　竪穴建物 …… 148
　第６節　土坑・土壙墓 …… 362
　第７節　井戸 …… 397
　第８節　ピット・炉・小鍛冶 …… 405

挿 図 目 次

Fig. 1　上総国分僧寺跡位置図 …… 2
Fig. 2　上総国分僧寺跡現状位置図 …… 3
Fig. 3　国分寺台地区と周辺の遺跡群 …… 5・6
Fig. 4　上総国分僧寺跡と周辺遺跡全体図 …… 7・8
Fig. 5　各調査地区割図 …… 9・10
Fig. 6　上総国分僧寺跡 グリッド配置図 …… 11・12
Fig. 7　北辺、東辺部 遺構配置図 …… 13・14
Fig. 8　西辺部、薬師堂地区 遺構配置図 …… 15・16
Fig. 9　殿屋敷地区、東南、南辺部 遺構配置図 … 17・18
Fig. 10　伽藍地・早稲田大学調査地区 遺構配置図 … 21・22
Fig. 11　金堂（1）遺物 …… 23
Fig. 12　金堂（2）遺物 …… 24
Fig. 13　金堂（3）遺物 …… 25
Fig. 14　金堂（4）遺物、講堂（1）遺物 …… 26
Fig. 15　講堂（2）遺物 …… 27
Fig. 16　講堂（3）遺物 …… 28
Fig. 17　講堂（4）遺物、塔（1）遺物 …… 29
Fig. 18　塔（2）遺物、中門（1）遺物 …… 30
Fig. 19　中門（2）遺物 …… 31
Fig. 20　中門（3）遺物、回廊（1）遺物 …… 32
Fig. 21　回廊（2）遺物、南大門（1）遺物 …… 33
Fig. 22　南大門（2）遺物 …… 34
Fig. 23　南大門（3）遺物、伽藍地外郭溝（1）遺物 …… 35
Fig. 24　伽藍地外郭溝（2）遺物 …… 36
Fig. 25　早稲田大学調査地区（1）遺物 …… 37
Fig. 26　早稲田大学調査地区（2）遺物 …… 38
Fig. 27　早稲田大学調査地区（3）遺物 …… 39
Fig. 28　早稲田大学調査地区（4）遺物 …… 40
Fig. 29　早稲田大学調査地区（5）遺物 …… 41
Fig. 30　溝1199号（1）遺構・調査状況、
　道路2133号（1）遺構、
　道路2134号（1）遺構 …… 43・44
Fig. 31　南大門3064号（1）遺構・調査状況、
　瓦敷遺構1753号a・b・c（1）遺構、
　溝2164号（1）遺構、道路2411号（1）遺構
　…… 45・46
Fig. 32　溝1173号（1）遺構、溝2164号（2）遺構、
　道路2142号a・b（1）遺構 …… 47・48
Fig. 33　溝1173号（2）調査状況 …… 49
Fig. 34　南大門3064号（2）遺物 …… 50
Fig. 35　南大門3064号（3）遺物 …… 51
Fig. 36　南大門3064号（4）遺物 …… 52

Fig.37　瓦敷遺構1753号a（2）遺物 ……53
Fig.38　瓦敷遺構1753号a（3）遺物 ……54
Fig.39　瓦敷遺構1753号a（4）遺物 ……55
Fig.40　瓦敷遺構1753号a（5）遺物 ……56
Fig.41　瓦敷遺構1753号a（6）遺物 ……57
Fig.42　瓦敷遺構1753号a（7）遺物 ……58
Fig.43　瓦敷遺構1753号a（8）遺物 ……59
Fig.44　瓦敷遺構1753号a（9）遺物 ……60
Fig.45　瓦敷遺構1753号a（10）遺物 ……61
Fig.46　瓦敷遺構1753号a（11）遺物 ……62
Fig.47　瓦敷遺構1753号a（12）遺物 ……63
Fig.48　瓦敷遺構1753号a（13）遺物 ……64
Fig.49　瓦敷遺構1753号b（2）遺物 ……65
Fig.50　瓦敷遺構1753号b（3）遺物 ……66
Fig.51　瓦敷通路2414号（1）遺構・調査状況 ……67
Fig.52　瓦敷通路2414号（2）遺物 ……68
Fig.53　礎石建物3176号d（1）遺構 ……70
Fig.54　礎石建物3176号d（2）遺構・調査状況 ……71
Fig.55　礎石建物3176号d（3）遺物 ……72
Fig.56　礎石建物3176号d（4）遺物、
　　掘立柱建物0705号 遺構遺物 ……73
Fig.57　掘立柱建物3110号 遺構遺物・調査状況 ……74
Fig.58　掘立柱建物3111号 遺構遺物 ……75
Fig.59　掘立柱建物3113号a（1）遺構 ……76
Fig.60　掘立柱建物3113号a（2）遺構 ……77
Fig.61　掘立柱建物3113号b（1）遺構 ……78
Fig.62　掘立柱建物3113号a（3）調査状況、
　　掘立柱建物3113号b（2）調査状況 ……79
Fig.63　掘立柱建物3113号a（4）遺物 ……80
Fig.64　掘立柱建物3113号a（5）遺物、
　　掘立柱建物3113号b（3）遺物 ……81
Fig.65　掘立柱建物3114号 遺構遺物 ……82
Fig.66　掘立柱建物3115号 遺構・調査状況 ……83
Fig.67　掘立柱建物3116号（1）遺構・調査状況 ……84
Fig.68　掘立柱建物3116号（2）遺物 ……85
Fig.69　掘立柱建物3120号（1）遺構・調査状況 ……86
Fig.70　掘立柱建物3120号（2）遺物 ……87
Fig.71　掘立柱建物3120号（3）遺物 ……88
Fig.72　掘立柱建物3123号b 遺構 ……89
Fig.73　掘立柱建物3123号c（1）遺構・調査状況 ……90
Fig.74　掘立柱建物3123号c（2）遺構・調査状況 ……91
Fig.75　掘立柱建物3123号c（3）遺構・調査状況 ……92
Fig.76　掘立柱建物3123号b・c（1）遺物 ……93
Fig.77　掘立柱建物3123号b・c（2）遺物 ……94
Fig.78　掘立柱建物3123号b・c（3）遺物 ……95
Fig.79　掘立柱建物3123号b・c（4）遺物 ……96
Fig.80　掘立柱建物3123号b・c（5）遺物 ……97
Fig.81　掘立柱建物3124号 遺構遺物 ……99
Fig.82　掘立柱建物3130号 遺構遺物 …… 100
Fig.83　掘立柱建物3131号（1）遺構 …… 101
Fig.84　掘立柱建物3131号（2）遺物 …… 102
Fig.85　掘立柱建物3136号（1）遺構 …… 103
Fig.86　掘立柱建物3136号（2）遺物 …… 104
Fig.87　掘立柱建物3137号 遺構遺物 …… 105
Fig.88　掘立柱建物3146号 遺構遺物 …… 106
Fig.89　掘立柱建物3152号（1）遺構 …… 107
Fig.90　掘立柱建物3152号（2）遺構・調査状況 …… 108
Fig.91　掘立柱建物3153号（1）遺構遺物・調査状況 … 109
Fig.92　掘立柱建物3153号（2）遺物 …… 110
Fig.93　掘立柱建物3153号（3）遺物 …… 111
Fig.94　掘立柱建物3154号（1）遺構 …… 112
Fig.95　掘立柱建物3154号（2）遺物 …… 113
Fig.96　掘立柱建物3154号（3）遺物・調査状況 …… 114
Fig.97　掘立柱建物3154号（4）遺物 …… 115
Fig.98　掘立柱建物3155号（1）遺構 …… 116
Fig.99　掘立柱建物3155号（2）遺構 …… 117
Fig.100　掘立柱建物3155号（3）遺構 …… 118
Fig.101　掘立柱建物3155号（4）調査状況 …… 119
Fig.102　掘立柱建物3155号（5）遺物 …… 120
Fig.103　掘立柱建物3155号（6）遺物 …… 121
Fig.104　掘立柱建物3155号（7）遺物 …… 122
Fig.105　掘立柱建物3155号（8）遺物 …… 123
Fig.106　掘立柱建物3155号（9）遺物 …… 124
Fig.107　掘立柱建物3155号（10）遺物 …… 125
Fig.108　掘立柱建物3155号（11）遺物 …… 126
Fig.109　掘立柱建物3155号（12）遺物 …… 127
Fig.110　掘立柱建物3155号（13）遺物 …… 128
Fig.111　掘立柱建物3162号a（1）遺構 …… 129
Fig.112　掘立柱建物3162号a（2）遺構 …… 130
Fig.113　掘立柱建物3162号a（3）遺構 …… 131
Fig.114　掘立柱建物3162号a（4）遺構 …… 132
Fig.115　掘立柱建物3162号a（5）遺物・調査状況 …… 133
Fig.116　掘立柱建物3162号b 遺構 …… 134
Fig.117　掘立柱建物3164号a・b 遺構 …… 135
Fig.118　掘立柱建物3165号（1）遺構 …… 136
Fig.119　掘立柱建物3165号（2）遺物 …… 137
Fig.120　掘立柱建物3167号（1）遺構 …… 138
Fig.121　掘立柱建物3167号（2）遺構 …… 139
Fig.122　掘立柱建物3167号（3）遺構遺物 …… 140
Fig.123　掘立柱建物3167号（4）遺物 …… 141
Fig.124　掘立柱建物3167号（5）遺物 …… 142
Fig.125　掘立柱建物3171号（1）遺構遺物・調査状況 … 143

Fig.126 掘立柱建物3171号（2）遺物、
掘立柱建物3179号（1）遺構 …… 144
Fig.127 掘立柱建物3179号（2）遺物 …… 145
Fig.128 掘立柱建物3179号（3）遺物、
掘立柱建物3203号 遺構遺物 …… 146
Fig.129 掘立柱建物3044号 遺構、
掘立柱建物3045号 遺構遺物、
掘立柱建物3062号 遺構 …… 147
Fig.130 塀3134号 遺構・調査状況 …… 149
Fig.131 柵列3138号 遺構 …… 150
Fig.132 塀3145号 遺構遺物 …… 151
Fig.133 竪穴0002号 遺構遺物 …… 152
Fig.134 竪穴0013号（1）遺構遺物・調査状況 …… 153
Fig.135 竪穴0013号（2）遺物 …… 154
Fig.136 竪穴0014号 遺構遺物 …… 155
Fig.137 竪穴0018号 遺構遺物・調査状況 …… 156
Fig.138 竪穴0020号 遺構遺物 …… 157
Fig.139 竪穴0030号 遺構遺物 …… 159
Fig.140 竪穴0039号（1）遺構遺物・調査状況 …… 160
Fig.141 竪穴0039号（2）遺物 …… 161
Fig.142 竪穴0042号 遺構遺物 …… 162
Fig.143 竪穴0044号 遺構、竪穴0048号 遺構 …… 163
Fig.144 竪穴0054号 遺構遺物・調査状況 …… 164
Fig.145 竪穴0058号 遺構遺物・調査状況 …… 166
Fig.146 竪穴0068号 遺構、竪穴0075号 遺構 …… 167
Fig.147 竪穴0071号 遺構遺物 …… 168
Fig.148 竪穴0078号 遺構遺物・調査状況 …… 170
Fig.149 竪穴0081号 遺構、竪穴0086号（1）遺構 … 171
Fig.150 竪穴0086号（2）遺構・調査状況 …… 172
Fig.151 竪穴0088号 遺構 …… 173
Fig.152 竪穴0092号 遺構遺物 …… 174
Fig.153 竪穴0098号 遺構、竪穴0101号 遺構 …… 175
Fig.154 竪穴0107号（1）遺構遺物・調査状況 …… 176
Fig.155 竪穴0107号（2）遺物 …… 177
Fig.156 竪穴0110号 遺構 …… 178
Fig.157 竪穴0112号（1）遺構 …… 179
Fig.158 竪穴0112号（2）遺物 …… 180
Fig.159 竪穴0112号（3）遺物 …… 181
Fig.160 竪穴0125号 遺構遺物 …… 182
Fig.161 竪穴0127号 遺構遺物・調査状況 …… 183
Fig.162 竪穴0140号 遺構 …… 184
Fig.163 竪穴0142号 遺構遺物 …… 185
Fig.164 竪穴0143号（1）遺構・調査状況 …… 186
Fig.165 竪穴0143号（2）遺物 …… 187
Fig.166 竪穴1309号 遺構・調査状況 …… 188
Fig.167 竪穴1310号（1）遺構 …… 189
Fig.168 竪穴1310号（2）遺物、
竪穴1313号 遺構遺物・調査状況 …… 190
Fig.169 竪穴1315号 遺構、竪穴1316号 遺構 …… 191
Fig.170 竪穴1318号a（1）遺構・調査状況 …… 192
Fig.171 竪穴1318号a（2）遺物 …… 193
Fig.172 竪穴1320号 遺構遺物、
竪穴1322号（1）遺構遺物 …… 195
Fig.173 竪穴1322号（2）遺物、竪穴1323号 遺構 … 196
Fig.174 竪穴1324号（1）遺構・調査状況 …… 197
Fig.175 竪穴1324号（2）遺物 …… 198
Fig.176 竪穴1324号（3）遺物 …… 199
Fig.177 竪穴1324号（4）遺物 …… 200
Fig.178 竪穴1325号（1）遺構 …… 201
Fig.179 竪穴1325号（2）遺物 …… 202
Fig.180 竪穴1326号（1）遺構・調査状況 …… 203
Fig.181 竪穴1326号（2）遺物 …… 204
Fig.182 竪穴1326号（3）遺物 …… 205
Fig.183 竪穴1326号（4）遺物 …… 206
Fig.184 竪穴1330号（1）遺構・調査状況、
竪穴1331号（1）遺構・調査状況 …… 207
Fig.185 竪穴1330号（2）遺物 …… 208
Fig.186 竪穴1331号（2）遺物 …… 209
Fig.187 竪穴1332号（1）遺構、
小鍛冶1485号（1）遺構 …… 210
Fig.188 竪穴1332号（2）遺物・調査状況、
小鍛冶1485号（2）調査状況 …… 211
Fig.189 小鍛冶1485号（3）遺物 …… 212
Fig.190 小鍛冶1485号（4）遺物 …… 213
Fig.191 小鍛冶1485号（5）遺物 …… 214
Fig.192 竪穴1333号 遺構遺物 …… 215
Fig.193 竪穴1334号（1）遺構・調査状況 …… 216
Fig.194 竪穴1334号（2）遺物、
竪穴1335号a・b 遺構 …… 217
Fig.195 竪穴1339号 遺構遺物 …… 218
Fig.196 竪穴1342号（1）遺構・調査状況 …… 219
Fig.197 竪穴1342号（2）遺物 …… 220
Fig.198 竪穴1342号（3）遺物 …… 221
Fig.199 竪穴1345号（1）遺構 …… 222
Fig.200 竪穴1345号（2）遺物 …… 223
Fig.201 竪穴1345号（3）遺物 …… 224
Fig.202 竪穴1348号（1）遺構・調査状況 …… 225
Fig.203 竪穴1348号（2）遺物 …… 226
Fig.204 竪穴1349号（1）遺構・調査状況 …… 227
Fig.205 竪穴1349号（2）遺物 …… 228
Fig.206 竪穴1349号（3）遺物、
竪穴1351号 遺構遺物 …… 229

Fig.207 竪穴1353号(1)遺構・調査状況、
竪穴1354号(1)遺構 …… 231
Fig.208 竪穴1353号(2)遺物、
竪穴1354号(2)遺物 …… 232
Fig.209 竪穴1354号(3)遺物 …… 233
Fig.210 竪穴1356号 遺構遺物 …… 234
Fig.211 竪穴1358号(1)遺構、
竪穴1359号(1)遺構遺物…… 235
Fig.212 竪穴1358号(2)遺構、
竪穴1359号(2)遺構・調査状況 …… 236
Fig.213 竪穴1433号 遺構 …… 237
Fig.214 竪穴1454号 遺構・調査状況 …… 238
Fig.215 竪穴1456号 遺構遺物 …… 239
Fig.216 竪穴1462号 遺構・調査状況 …… 240
Fig.217 竪穴1600号(1)遺構・調査状況 …… 241
Fig.218 竪穴1600号(2)遺物 …… 242
Fig.219 竪穴1626号 遺構、
竪穴1707号 遺構、竪穴1708号 遺構 …… 243
Fig.220 竪穴0392号 遺構 …… 244
Fig.221 竪穴0395号 遺構遺物、
竪穴0410号 遺構・調査状況 …… 246
Fig.222 竪穴0417号 遺構遺物、竪穴0445号(1)遺構、
竪穴0446号(1)遺構 …… 248
Fig.223 竪穴0445号(2)遺物、
竪穴0446号(2)遺物 …… 249
Fig.224 竪穴0446号(3)遺物 …… 250
Fig.225 竪穴0457号(1)遺構・調査状況 …… 251
Fig.226 竪穴0457号(2)遺物 …… 252
Fig.227 竪穴0457号(3)遺物 …… 253
Fig.228 竪穴0515号 遺構遺物、
竪穴0537号 遺構遺物 …… 254
Fig.229 竪穴0545号 遺構・調査状況 …… 255
Fig.230 竪穴0546号 遺構、竪穴0547号 遺構 …… 256
Fig.231 竪穴0549号 遺構 …… 257
Fig.232 竪穴0550号 遺構遺物 …… 258
Fig.233 竪穴0551号 遺構 …… 259
Fig.234 竪穴0554号 遺構遺物 …… 260
Fig.235 竪穴0555号(1)遺構遺物…… 261
Fig.236 竪穴0555号(2)遺物 …… 262
Fig.237 竪穴0560号 遺構 …… 263
Fig.238 竪穴0565号 遺構遺物 …… 264
Fig.239 竪穴0568号 遺構遺物 …… 265
Fig.240 竪穴0569号(1)遺構・調査状況 …… 266
Fig.241 竪穴0569号(2)遺物 …… 267
Fig.242 竪穴0648号 遺構遺物 …… 268
Fig.243 竪穴0657号 遺構遺物 …… 269
Fig.244 竪穴0661号 遺構 …… 270
Fig.245 竪穴0684号(1)遺構・調査状況 …… 271
Fig.246 竪穴0684号(2)遺物、竪穴0685号 遺構… 272
Fig.247 竪穴0686号(1)遺構 …… 273
Fig.248 竪穴0686号(2)遺構・調査状況 …… 274
Fig.249 竪穴0687号(1)遺構、竪穴0760号(1)遺構、
竪穴0765号(1)遺構 …… 275
Fig.250 竪穴0687号(2)遺構・調査状況、
竪穴0760号(2)遺構、
竪穴0765号(2)遺構 …… 276
Fig.251 竪穴0687号(3)遺構遺物・調査状況…… 277
Fig.252 竪穴0693号(1)遺構・調査状況 …… 278
Fig.253 竪穴0693号(2)遺物 …… 279
Fig.254 竪穴0693号(3)遺物 …… 280
Fig.255 竪穴0693号(4)遺物 …… 281
Fig.256 竪穴0693号(5)遺物 …… 282
Fig.257 竪穴0712号(1)遺構・調査状況 …… 283
Fig.258 竪穴0712号(2)遺物 …… 284
Fig.259 竪穴0712号(3)遺物、
竪穴0727号(1)遺構 …… 285
Fig.260 竪穴0727号(2)遺物、竪穴0728号 遺構… 286
Fig.261 竪穴0732号(1)遺構・調査状況 …… 288
Fig.262 竪穴0732号(2)遺構 …… 289
Fig.263 竪穴0732号(3)遺物 …… 290
Fig.264 竪穴0732号(4)遺物、竪穴0733号 遺構… 291
Fig.265 竪穴0750号 遺構、竪穴0752号 遺構遺物 … 292
Fig.266 竪穴0758号 遺構 …… 293
Fig.267 竪穴0802号(1)遺構・調査状況 …… 294
Fig.268 竪穴0802号(2)遺物 …… 295
Fig.269 竪穴0802号(3)遺物 …… 296
Fig.270 竪穴0806号 遺構、竪穴0809号 遺構遺物 … 297
Fig.271 竪穴0828号 遺構遺物 …… 299
Fig.272 竪穴0849号 遺構 …… 300
Fig.273 竪穴0850号 遺構遺物 …… 301
Fig.274 竪穴0851号 遺構 …… 302
Fig.275 竪穴0853号(1)遺構 …… 303
Fig.276 竪穴0853号(2)遺物・調査状況 …… 304
Fig.277 竪穴0853号(3)遺物 …… 305
Fig.278 竪穴0853号(4)遺物 …… 306
Fig.279 竪穴0853号(5)遺物 …… 307
Fig.280 竪穴0854号 遺構 …… 308
Fig.281 竪穴0855号 遺構 …… 309
Fig.282 竪穴0860号 遺構遺物 …… 310
Fig.283 竪穴0862号(1)遺構 …… 311
Fig.284 竪穴0862号(2)遺物 …… 312
Fig.285 竪穴0863号 遺構、竪穴0864号 遺構 …… 313

Fig.286 竪穴0865号 遺構遺物 …… 314
Fig.287 竪穴0866号（1）遺構・調査状況 …… 315
Fig.288 竪穴0866号（2）遺物、竪穴0867号 遺構… 316
Fig.289 竪穴0868号（1）遺構・調査状況 …… 318
Fig.290 竪穴0868号（2）遺物、
竪穴0869号 遺構遺物 …… 319
Fig.291 竪穴0872号 遺構・調査状況 …… 320
Fig.292 竪穴0887号 遺構・調査状況 …… 321
Fig.293 竪穴0888号a・b 遺構 …… 322
Fig.294 竪穴0889号 遺構・調査状況 …… 323
Fig.295 竪穴0904号 遺構、竪穴0906号 遺構遺物 … 324
Fig.296 竪穴0907号（1）遺構 …… 325
Fig.297 竪穴0907号（2）遺物 …… 326
Fig.298 竪穴0908号（1）遺構・調査状況 …… 327
Fig.299 竪穴0908号（2）遺物 …… 328
Fig.300 竪穴0908号（3）遺物 …… 329
Fig.301 竪穴0914号 遺構遺物 …… 331
Fig.302 竪穴0915号 遺構、竪穴0916号 遺構、
竪穴0918号 遺構 …… 332
Fig.303 竪穴0919号 遺構遺物 …… 333
Fig.304 竪穴0921号（1）遺構・調査状況 …… 334
Fig.305 竪穴0921号（2）遺物 …… 335
Fig.306 竪穴0922号 遺構・調査状況 …… 336
Fig.307 竪穴0924号 遺構、竪穴0925号 遺構、
竪穴0926号 遺構 …… 337
Fig.308 竪穴0927号 遺構遺物・調査状況 …… 339
Fig.309 竪穴0932号a・b 遺構 …… 340
Fig.310 竪穴0933号 遺構、竪穴0935号 遺構 …… 341
Fig.311 竪穴0936号 遺構遺物、
竪穴0940号（1）遺構 …… 343
Fig.312 竪穴0940号（2）遺物 …… 344
Fig.313 竪穴0941号 遺構遺物 …… 345
Fig.314 竪穴1036号 遺構 …… 346
Fig.315 竪穴1057号 遺構 …… 347
Fig.316 竪穴1074号a・b（1）遺構・調査状況 …… 349
Fig.317 竪穴1074号a（2）遺物 …… 350
Fig.318 竪穴1074号b（2）遺物 …… 351
Fig.319 竪穴1074号b（3）遺物 …… 352
Fig.320 竪穴1088号a・b 遺構・調査状況 …… 353
Fig.321 竪穴1090号 遺構、竪穴1095号 遺構 …… 354
Fig.322 竪穴1096号（1）遺構 …… 355
Fig.323 竪穴1096号（2）遺物 …… 356
Fig.324 竪穴1120号 遺構遺物 …… 357
Fig.325 竪穴1220号（1）遺構、竪穴1222号 遺構… 359
Fig.326 竪穴1200号 遺構、竪穴1220号（2）遺物… 360
Fig.327 竪穴1240号（1）遺構 …… 361
Fig.328 竪穴1240号（2）遺構 …… 362
Fig.329 竪穴1648号b 遺構遺物 …… 363
Fig.330 竪穴1650号 遺構 …… 364
Fig.331 土坑0096号 遺構遺物、土坑0133号 遺構、
土坑0135号 遺構、土坑1368号 遺構遺物 … 366
Fig.332 土坑1372号（1）遺構遺物 …… 367
Fig.333 土坑1372号（2）遺物 …… 368
Fig.334 土坑1443号 遺構遺物、
土坑1543号 遺構遺物 …… 369
Fig.335 土坑1545号 遺構遺物・調査状況 …… 370
Fig.336 土坑1591号a（1）遺構遺物、
土坑1591号b（1）遺構 …… 371
Fig.337 土坑1591号a（2）遺物、
土坑1591号b（2）遺物 …… 372
Fig.338 土坑1591号b（3）遺物、
土坑1591号a・b 遺物 …… 373
Fig.339 土坑0416号 遺構、土坑0450号 遺構、
土坑0487号 遺構・調査状況 …… 375
Fig.340 土坑0665号 遺構遺物、土坑0683号 遺構、
土坑0722号 遺構 …… 376
Fig.341 土坑0734号 遺構遺物・調査状況 …… 377
Fig.342 土坑0766号（1）遺構・調査状況 …… 378
Fig.343 土坑0763号 遺構、土坑0766号（2）遺物… 379
Fig.344 土坑0814号 遺構遺物・調査状況 …… 380
Fig.345 土坑0873号（1）遺構 …… 381
Fig.346 土坑0873号（2）遺物 …… 382
Fig.347 土坑0944号（1）遺構、土坑0945号 遺構… 383
Fig.348 土坑0944号（2）遺物、
土坑0966号 遺構遺物 …… 384
Fig.349 土坑1060号 遺構遺物、土坑1061号 遺構遺物、
土坑1080号 遺構遺物 …… 386
Fig.350 土坑0807号 遺構・調査状況 …… 387
Fig.351 土坑0808号（1）遺構・調査状況 …… 388
Fig.352 土坑0808号（2）遺物 …… 389
Fig.353 土坑1153号（1）遺構遺物、土坑1154号（1）遺構、
土坑1157号（1）遺構、土坑1159号（1）遺構
…… 391
Fig.354 土坑1153号（2）遺物、土坑1154号（2）遺物、
土坑1157号（2）遺物 …… 392
Fig.355 土坑1157号（3）遺物、
土坑1159号（2）遺物 …… 393
Fig.356 土坑1162号 遺構遺物、
土坑1170号 遺構遺物 …… 394
Fig.357 土坑1639号（1）遺構遺物・調査状況 …… 395
Fig.358 土坑1639号（2）遺物、
土坑1641号 遺構遺物・調査状況 …… 396

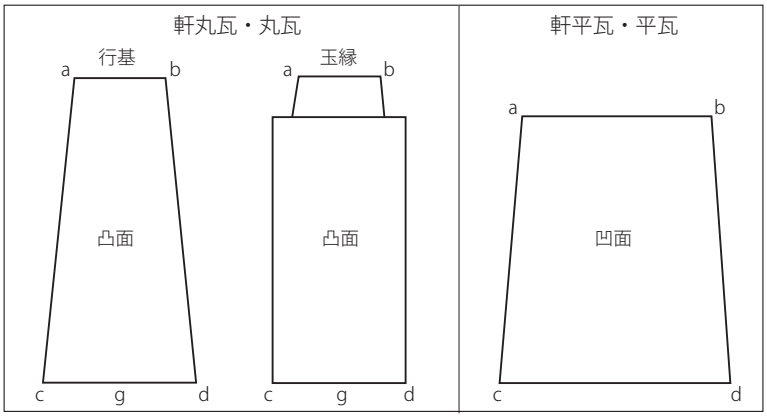
Fig.359 土坑1651号 遺構遺物、
土坑1818号 遺構遺物 …… 398
Fig.360 土坑1830号（1）遺構遺物・調査状況 …… 399
Fig.361 土坑1830号（2）遺物 …… 400
Fig.362 土坑1830号（3）遺物 …… 401
Fig.363 土坑1830号（4）遺物 …… 402
Fig.364 土坑1830号（5）遺物 …… 403
Fig.365 土坑1830号（6）遺物 …… 404
Fig.366 土壙墓1328号 遺構 …… 405
Fig.367 井戸1640号（1）遺構 …… 406
Fig.368 井戸1640号（2）遺構 …… 407
Fig.369 井戸1640号（3）遺構 …… 408
Fig.370 井戸1640号（4）遺構 …… 409
Fig.371 井戸1640号（5）遺構 …… 410
Fig.372 井戸1640号（6）調査状況 …… 411
Fig.373 井戸1640号（7）遺物 …… 412
Fig.374 井戸1640号（8）遺物 …… 413
Fig.375 井戸1640号（9）遺物 …… 414
Fig.376 井戸1640号（10）遺物 …… 415
Fig.377 井戸1640号（11）遺物 …… 416
Fig.378 井戸1640号（12）遺物 …… 417
Fig.379 井戸1640号（13）遺物 …… 418
Fig.380 井戸1640号（14）遺物 …… 419
Fig.381 井戸1640号（15）遺物 …… 420
Fig.382 井戸1640号（16）遺物 …… 421
Fig.383 井戸1640号（17）遺物 …… 422
Fig.384 井戸1640号（18）遺物 …… 423
Fig.385 井戸1640号（19）遺物 …… 424
Fig.386 井戸1640号（20）遺物 …… 425
Fig.387 井戸1640号（21）遺物 …… 426
Fig.388 井戸1640号（22）遺物 …… 427
Fig.389 井戸1640号（23）遺物 …… 428
Fig.390 井戸1640号（24）遺物 …… 429
Fig.391 井戸1640号（25）遺物 …… 430
Fig.392 井戸1640号（26）遺物 …… 431
Fig.393 井戸1640号（27）遺物 …… 432
Fig.394 井戸1640号（28）遺物 …… 433
Fig.395 井戸1640号（29）遺物 …… 434
Fig.396 ピット1620号 遺構遺物、
ピット1837号 遺構遺物 …… 435
Fig.397 ピット1809号 遺構遺物 …… 436
Fig.398 炉1130号 遺構遺物・調査状況 …… 437
Fig.399 小鍛冶1306号 遺構・調査状況 …… 438

表　目　次

Tab.1　瓦出土遺構一覧 …… xi

Tab.28　軒丸瓦観察表
Tab.29　軒平瓦観察表
Tab.30　丸瓦観察表
Tab.31　平瓦観察表
Tab.32　道具瓦観察表
Tab.33　塼観察表
Tab.34　土製品・石製品・金属製品・瓦製品観察表
Tab.35　土器観察表
Tab.36　実測外軒丸瓦出土量一覧
Tab.37　実測外軒平瓦出土量一覧
Tab.38　実測外丸・平瓦出土量一覧
※Tab.28 ～ Tab.38はDVD−ROMのみ収録

瓦観察表残存部位の表記



Tab.1　瓦出土遺構一覧

遺構番号	遺構種別	本文	挿図	図版	地区	グリッド	僧寺編年
−	金堂	19	11	13	早稲田	LK−84	II〜?
−	講堂	19	14	14	早稲田	MK−34	I〜?
−	塔	20	17	15	早稲田	JL−05	II〜?
−	中門	20	18	15	早稲田	IK−36	II〜?
−	回廊	20	20	16	早稲田		II〜?
3064a	南大門（礎石建）	42	21	16	早稲田	HK−46	III〜?
3064b	南大門（掘立柱）	42	21	16	早稲田	HK−46	〜VII?
1753a	瓦敷遺構	42	31	7	南辺部		III〜IV−4
1753b	瓦敷遺構	42	31	7	南辺部		III〜IV−4
1753c	瓦敷遺構	42	31	7	南辺部		III〜IV−4
2414	瓦敷通路	52	51	24	薬師堂（セ 118）	LK−13	II〜?
3176d	礎石建物	69	53	25	北辺部	QL−01	IV−4
0705	掘立柱建物	69	56	25	北辺部	PO−26	I−2
3110	掘立柱建物	69	57	25	北辺部	QJ−97	IV−5
3111	掘立柱建物	69	58	25	北辺部	PJ−08	IV−4〜5
3113a	掘立柱建物	75	59	26	北辺部	PK−12	IV−3
3113b	掘立柱建物	75	61	25	北辺部	PK−12	IV−2
3114	掘立柱建物	79	65		北辺部	PJ−46	?
3115	掘立柱建物	79	66		北辺部	PK−32	III〜IV−1
3116	掘立柱建物	82	67	26	北辺部	PK−63	IV−3
3120	掘立柱建物	82	69	27	北辺部	PL−71	IV−5?
3123b	掘立柱建物	85	72	26	北辺部	PM−07	IV−2
3123c	掘立柱建物	85	73	26	北辺部	PM−07	IV−3
3124	掘立柱建物	85	81	28	北辺部	PM−57	IV−3
3130	掘立柱建物	98	82	29	北辺部	PL−01	IV−1
3131	掘立柱建物	98	83	29	北辺部	PL−11	IV−3
3136	掘立柱建物	98	85	29	北辺部	PJ−28	?
3137	掘立柱建物	98	87	28	北辺部	PK−63	IV−2
3146	掘立柱建物	102	88		北辺部	PJ−59	XII〜XIII 前半
3152	掘立柱建物	102	89		北辺部	QN−34	IV−3
3153	掘立柱建物	104	91	29	北辺部	RM−53	IV−4
3154	掘立柱建物	105	94	29	北辺部	RM−53	V
3155	掘立柱建物	105	98	31	北辺部	RM−52	IV−5
3162a	掘立柱建物	108	111	33	北辺部	QM−27	IV−4
3162b	掘立柱建物	111	116		北辺部	QM−27	IV−3
3164a	掘立柱建物	111	117		北辺部	QL−10	IV−3
3164b	掘立柱建物	111	117		北辺部	QL−10	IV−3
3165	掘立柱建物	114	118		北辺部	QL−19	III〜IV−1
3167	掘立柱建物	117	120	33	北辺部	QL−20	IV−4
3171	掘立柱建物	135	125	34	北辺部	QN−71	IV−3
3179	掘立柱建物	137	126	34	北辺部	PM−57	IV−4
3203	掘立柱建物	138	128	34	北辺部	OJ−08	XII〜XIII 前半
3044	掘立柱建物	142	129		東南部	FP−37	IV−5?
3045	掘立柱建物	142	129	35	東南部	HR−55	XI
3062	掘立柱建物	142	129		東南部	IR−15	IV−4?
3134	塀	148	130		北辺部		III〜IV−1
3138	柵列	148	131		北辺部	OK−14	IV−1?
3145	塀	148	132		北辺部	PJ−40	IV−2〜3
0002	竪穴建物	148	133	35	北辺部	RO−82	VI?
0013	竪穴建物	148	134	35	北辺部	QN−06	VI
0014	竪穴建物	149	136	36	北辺部	QN−30	IV−4
0018	竪穴建物	150	137	36	北辺部	QO−34	IV−4
0020	竪穴建物	151	138	36	北辺部	QO−55	VI
0030	竪穴建物	157	139	36	北辺部	QO−62	IV−5?
0039	竪穴建物	158	140	36	北辺部	SO−52	III〜IV−1
0042	竪穴建物	158	142	36	北辺部	RO−07	IV−1〜2

遺構番号	遺構種別	本文	挿図	図版	地区	グリッド	僧寺編年
0044	竪穴建物	158	143		北辺部	SO−80	VI
0048	竪穴建物	158	143		北辺部	PO−13	IV−4
0054	竪穴建物	158	144		北辺部	QO−91	VII
0058	竪穴建物	165	145	36	北辺部	QN−88	VI
0068	竪穴建物	165	146		北辺部	QN−13	V
0071	竪穴建物	165	147	37	北辺部	QN−44	IV−4
0075	竪穴建物	165	146		北辺部	QN−63	?
0078	竪穴建物	165	148		北辺部	QN−84	VI
0081	竪穴建物	169	149		北辺部	QN−93	VI−2?
0086	竪穴建物	169	149		北辺部	PN−04	?
0088	竪穴建物	169	151		北辺部	QM−80	VI−2?
0092	竪穴建物	169	152		北辺部	RN−82	VII?
0098	竪穴建物	172	153		北辺部	RN−33	VIII
0101	竪穴建物	172	153		北辺部	RN−34	IV−1
0107	竪穴建物	173	154	37	北辺部	SN−53	VI
0110	竪穴建物	173	156		北辺部	RM−20	IV−4
0112	竪穴建物	174	157	37	北辺部	QM−50	III
0125	竪穴建物	178	160		北辺部	SM−97	IV−1
0127	竪穴建物	178	161		北辺部	SL−67	VI
0140	竪穴建物	182	162		北辺部	TL−74	VIII
0142	竪穴建物	184	163	38	北辺部	TL−40	IV−1〜2?
0143	竪穴建物	184	164		北辺部	TL−26	III
1309	竪穴建物	186	166		北辺部	PN−61	V
1310	竪穴建物	187	167		北辺部	PN−35	I?
1313	竪穴建物	187	168		北辺部	QJ−85	I
1315	竪穴建物	188	169		北辺部	QK−52	IV−4?
1316	竪穴建物	188	169		北辺部	QJ−39	?
1318a	竪穴建物	189	170		北辺部	PJ−15	III〜IV−1
1320	竪穴建物	193	172		北辺部	PJ−59	III
1322	竪穴建物	193	172		北辺部	PJ−49	II
1323	竪穴建物	194	173		北辺部	PK−42	IX〜X
1324	竪穴建物	194	174	38	北辺部	PK−42	V
1325	竪穴建物	194	178	39	北辺部	PK−63	IX
1326	竪穴建物	194	180	39	北辺部	PK−64	V?
1330	竪穴建物	200	184	39	北辺部	OK−09	VIII?
1331	竪穴建物	202	184	40	北辺部	PK−99	VIII?
1332	竪穴建物	202	187	42	北辺部	PL−62	V
1333	竪穴建物	206	192		北辺部	OL−05	VIII
1334	竪穴建物	209	193	41	北辺部	PL−84	VI
1335a	竪穴建物	211	194		北辺部	PL−97	VII
1335b	竪穴建物	211	194		北辺部	PL−97	VII
1339	竪穴建物	214	195	42	北辺部	PL−47	VI
1342	竪穴建物	215	196	42	北辺部	PL−68	IX
1345	竪穴建物	216	199	42	北辺部	PM−92	VI
1348	竪穴建物	223	202	42	北辺部	QL−99	VI
1349	竪穴建物	224	204	42	北辺部	OM−07	II
1351	竪穴建物	226	206	43	北辺部	PM−67	VII
1353	竪穴建物	229	207		北辺部	PM−63	IX
1354	竪穴建物	230	207	43	北辺部	PM−62	IX
1356	竪穴建物	230	210		北辺部	PM−16	III
1358	竪穴建物	230	211		北辺部	PM−99	?
1359	竪穴建物	230	211	43	北辺部	PM−90	VII
1433	竪穴建物	234	213		北辺部	PL−56	X
1454	竪穴建物	234	214		北辺部	OJ−05	VI
1456	竪穴建物	234	215		北辺部	OK−01	IX
1462	竪穴建物	237	216		北辺部	OL−12	VIII
1600	竪穴建物	238	217	44	北辺部	QL−35	VI
1626	竪穴建物	238	219		北辺部	ON−23	?

遺構番号	遺構種別	本文	挿図	図版	地区	グリッド	僧寺編年
1707	竪穴建物	240	219		北辺部	SL−08	?
1708	竪穴建物	241	219		北辺部	SL−18	?
0392	竪穴建物	242	220		西辺部	OG−01	IV−1?
0395	竪穴建物	245	221		西辺部	PG−93	VI
0410	竪穴建物	245	221		西辺部	OG−39	?
0417	竪穴建物	245	222	44	西辺部	NG−10	IX
0445	竪穴建物	245	222	45	西辺部	NG−62	III〜IV−1
0446	竪穴建物	245	222	44	西辺部	NG−61	III〜IV−1
0457	竪穴建物	247	225	44	西辺部	MH−31	IV−4
0515	竪穴建物	247	228		西辺部	KG−25	VIII
0537	竪穴建物	247	228		西辺部	NG−11	?
0545	竪穴建物	247	229		東南部	KP−98	IV−5〜V
0546	竪穴建物	251	230		東南部	KP−90	IV−5
0547	竪穴建物	251	230		東南部	KP−80	VI
0549	竪穴建物	253	231		東南部	KQ−82	IV−4
0550	竪穴建物	253	232		東南部	KQ−72	IV−4〜5
0551	竪穴建物	253	233		東南部	JP−60	IV−5
0554	竪穴建物	257	234	46	東南部	JP−28	IV−5〜V
0555	竪穴建物	258	235	45	東南部	JP−38	IV−4
0560	竪穴建物	258	237		東南部	KQ−64	IV−4
0565	竪穴建物	259	238		東南部	JQ−55	VI
0568	竪穴建物	260	239		東南部	KR−84	IV−4
0569	竪穴建物	260	240	45	東南部	JR−31	IV−4
0648	竪穴建物	263	242	45	東南部	FN−02	IV−4?
0657	竪穴建物	263	243		東南部	GM−88	IV−5?
0661	竪穴建物	264	244		東南部	GN−75	VIII
0684	竪穴建物	269	245		東南部	IP−42	IV−4
0685	竪穴建物	270	246		東南部	IP−22	IV−5
0686	竪穴建物	270	247		東南部	IP−31	IV−4
0687	竪穴建物	270	249		東南部	IO−20	IV−4〜5
0693	竪穴建物	274	252	45	東南部	HP−11	IV−4
0712	竪穴建物	282	257	46	東南部	IO−49	VI
0727	竪穴建物	282	259	48	東南部	IP−82	VI
0728	竪穴建物	282	260		東南部	IP−91	IV−4〜5
0732	竪穴建物	287	261	48	東南部	HO−30	VI
0733	竪穴建物	287	264		東南部	HO−39	VI
0750	竪穴建物	287	265		東南部	IP−61	VII?
0752	竪穴建物	287	265	48	東南部	JP−18	?
0758	竪穴建物	287	266		東南部	JO−89	VI
0760	竪穴建物	270	249		東南部	IO−20	VI
0765	竪穴建物	270	249		東南部	IO−20	VII
0802	竪穴建物	288	267	48	東南部	GN−48	VII
0806	竪穴建物	293	270		東南部	FN−36	IV−4?
0809	竪穴建物	293	270		東南部	FN−17	IV−4〜5?
0828	竪穴建物	298	271	47	東南部	EN−02	?
0849	竪穴建物	298	272		東南部	HO−75	IV−5〜V
0850	竪穴建物	298	273	49	東南部	GO−07	IV−4〜5
0851	竪穴建物	298	274		東南部	HO−96	IV−4〜5
0853	竪穴建物	298	275	49	東南部	HO−79	IV−4〜5
0854	竪穴建物	300	280		東南部	HO−70	V
0855	竪穴建物	300	281		東南部	HP−74	VI
0860	竪穴建物	302	282	49	東南部	GO−47	?
0862	竪穴建物	302	283	51	東南部	GO−80	IV−4〜5
0863	竪穴建物	308	285		東南部	GP−62	IV−4
0864	竪穴建物	308	285		東南部	GP−64	IV−4
0865	竪穴建物	309	286		東南部	GP−34	IV−4〜5
0866	竪穴建物	309	287	51	東南部	FP−02	IV−4〜5
0867	竪穴建物	311	288		東南部	FP−04	VII

遺構番号	遺構種別	本文	挿図	図版	地区	グリッド	僧寺編年
0868	竪穴建物	311	289	50	東南部	FP−21	IV−5
0869	竪穴建物	317	290		東南部	FO−06	IV−5
0872	竪穴建物	317	291		東南部	GP−74	VII
0887	竪穴建物	317	292		東南部	GP−94	?
0888a	竪穴建物	317	293		東南部	GP−78	VIII?
0888b	竪穴建物	317	293		東南部	GP−78	VIII?
0889	竪穴建物	317	294		東南部	GP−59	IV−4〜5
0904	竪穴建物	319	295		東南部	FP−58	V
0906	竪穴建物	320	295	51	東南部	FP−71	?
0907	竪穴建物	321	296	51	東南部	FO−80	IV−5
0908	竪穴建物	321	298	52	東南部	FP−91	VII
0914	竪穴建物	322	301		東南部	FQ−12	VII
0915	竪穴建物	323	302		東南部	GQ−22	?
0916	竪穴建物	330	302		東南部	GQ−23	?
0918	竪穴建物	330	302		東南部	GQ−01	?
0919	竪穴建物	330	303		東南部	HP−90	IV−5〜V
0921	竪穴建物	330	304	52	東南部	HP−95	IV−4
0922	竪穴建物	330	306		東南部	GP−07	VI
0924	竪穴建物	334	307		東南部	GQ−55	?
0925	竪穴建物	336	307		東南部	GQ−64	?
0926	竪穴建物	336	307		東南部	GQ−84	?
0927	竪穴建物	338	308		東南部	EP−11	?
0932a	竪穴建物	338	309		東南部	HQ−95	?
0932b	竪穴建物	338	309		東南部	HQ−95	?
0933	竪穴建物	338	310		東南部	GQ−49	?
0935	竪穴建物	338	310		東南部	FO−10	VI?
0936	竪穴建物	342	311		東南部	HQ−71	V〜VI
0940	竪穴建物	342	311	53	東南部	FQ−39	VI?
0941	竪穴建物	342	313	53	東南部	FQ−59	V
1036	竪穴建物	342	314		東南部	KR−92	IV−5
1057	竪穴建物	342	315		東南部	JR−66	III
1074a	竪穴建物	346	316	53	東南部	HQ−11	IV−4
1074b	竪穴建物	346	316	54	東南部	HQ−11	IV−4
1088a	竪穴建物	348	320		東南部	JQ−06	IV−5?
1088b	竪穴建物	348	320		東南部	JQ−06	IV−5?
1090	竪穴建物	348	321		東南部	IQ−37	IV−5?
1095	竪穴建物	348	321		東南部	JR−33	?
1096	竪穴建物	348	322	54	東南部	JR−04	IV−5
1120	竪穴建物	353	324	54	東南部	GP−19	IV−4
1200	竪穴建物	358	326		南辺部	EL−46	VI?
1220	竪穴建物	358	325	55	南辺部	DM−03	VI
1222	竪穴建物	358	325		南辺部	DM−03	VI
1240	竪穴建物	358	327		南辺部	DL−28	VIII
1648b	竪穴建物	360	329	55	東辺部	NO−45	VI
1650	竪穴建物	362	330		東辺部	MO−06	VI
0096	土坑	362	331		北辺部	RN−41	?
0133	土坑	364	331		北辺部	TM−91	?
0135	土坑	364	331		北辺部	TL−96	?
1368	土坑	365	331	55	北辺部	PL−29	IV−5
1372	土坑	365	332	55	北辺部	QL−73	IV−4
1443	土坑	365	334	55	北辺部	OL−07	?
1543	土坑	365	334		北辺部	QL−49	?
1545	土坑	365	335	56	北辺部	PM−93	IV−1
1591a	土坑	368	336	56	北辺部	RK−83	III
1591b	土坑	368	336	57	北辺部	RK−73	III
0416	土坑	370	339		西辺部	NG−08	?
0450	土坑	374	339		西辺部	MG−01	III
0487	土坑	374	339		西辺部	MG−98	?

遺構番号	遺構種別	本文	挿図	図版	地区	グリッド	僧寺編年
0665	土坑	374	340		東南部	FM−87	?
0683	土坑	374	340		東南部	JP−65	?
0722	土坑	374	340		東南部	HP−22	?
0734	土坑	374	341	57	東南部	HO−27	IV−4
0763	土坑	375	343		東南部	IO−30	VI?
0766	土坑	376	342	57	東南部	HO−22	VII〜VIII 前半
0814	土坑	379	344	58	東南部	FN−58	?
0873	土坑	380	345	57	東南部	FO−69	X
0944	土坑	382	347	58	東南部	IR−55	X
0945	土坑	382	347		東南部	IR−64	X
0966	土坑	383	348		東南部	EQ−24	XII
1060	土坑	383	349	58	東南部	JQ−49	?
1061	土坑	385	349		東南部	JQ−48	?
1080	土坑	385	349	58	東南部	FQ−94	?
0807	土坑	385	350		南辺部	HK−73	VII
0808	土坑	385	351	58	南辺部	HK−83	?
1153	土坑	387	353	59	南辺部	EJ−06	XI〜XII
1154	土坑	387	353	59	南辺部	EJ−39	XI〜XII
1157	土坑	390	353	59	南辺部	EK−03	XI〜XII
1159	土坑	390	353	59	南辺部	EK−32	XI〜XII
1162	土坑	390	356		南辺部	HL−80	?
1170	土坑	390	356		南辺部	HL−79	?
1639	土坑	390	357	60	東辺部	OP−01	IV−5〜V
1641	土坑	394	358		東辺部	LO−77	IV−5〜V
1651	土坑	394	359	60	東辺部	MO−09	?
1818	土坑	397	359	60	薬師堂（セ 103）	LL−33	?
1830	土坑	397	360	60	薬師堂（セ 103）	LL−23	IV−4
1328	土壙墓	397	366		北辺部	PJ−60	VIII
1640	井戸	397	367	62	北辺部	RM−93	II〜IV−1
1620	ピット	405	396	70	北辺部	QL−10	?
1837−1	ピット	405	396	70	東南部	IP−63	?
1837−2	ピット	405	396	70	東南部	IP−64	?
1809	ピット	434	397	70	薬師堂（セ 103）	LL−13	?
1130	炉	434	398	70	東南部	FP−23	?
1306	小鍛冶	437	399		北辺部	PN−43	III
1485	小鍛冶	202	187	41	北辺部	PL−62	V
0606	寺院地外郭溝	439	401	70	北辺部		I〜IV−4・XII〜XIII 前半
2020	寺院地外郭溝	439	401	70	西辺部		I〜IV−4・XII〜XIII 前半
2045	寺院地外郭溝	440	407	72	東南部		I〜IV−3
2219	寺院地外郭溝	440	409	73	東辺部		I〜IV−3・XII〜XIII 前半
2201	区画溝	440	410	73	北辺部		IV−3〜5
2202	区画溝	451	411	73	北辺部		IV−3〜5
2204	区画溝	452	412	73	北辺部		IV−1〜3
2206	区画溝	452	412	74	北辺部		V〜VI
2222	区画溝	452	413	74	北辺部		IV−4?
2225	区画溝	452	413		北辺部		XI〜XIII 前半？
2232	区画溝	452	413		北辺部		II〜III
2400	区画溝	454	414	74	北辺部		IV−1〜5
2043	区画溝	456	418	75	東南部		XII
2044	区画溝	461	418	75	東南部		XII〜XIII 前半
2052	区画溝	461	418		東南部		?
2070	溝	461	419	75	殿屋敷		XV
2078	溝	461	419	75	東南部		XII〜XIV
2083a	溝	463	419		東南部		XII〜?
1173	溝	463	32	75	南辺部		III〜IV−4
1199	溝	463	30	80	南辺部		III〜IV−4
2136	溝	508	463	88	南辺部		VI〜?
2137	溝	508	464	89	南辺部		?

遺構番号	遺構種別	本文	挿図	図版	地区	グリッド	僧寺編年
2138	溝	508	464	89	南辺部		?
2139	溝	508	464	89	南辺部		XI～XII
2164	溝	508	31	89	南辺部		XII～XIII 前半
0614	道路	510	466	89	北辺部		I−1～2?
2080	道路	510	467		東南部		XII～XIII 前半
2087	道路	510	467	89	東南部		XI?
2133	道路	510	30	89	南辺部		III～IV−5
2134	道路	514	30	90	南辺部		III～IV−5
2142a	道路	514	32	90	南辺部		III～IV−5
2142b	道路	514	32	90	南辺部		III～IV−5
2411	道路	514	31	91	南辺部		XIII 後半～XV
1900	瓦溜	521	474	2	南辺部	GK−02	IV−4
0633	土採跡	521	475	130	南辺部	GK−02	II～IV−4
1901	瓦溜	523	615	7	南辺部		IV−4
1	瓦窯	787	731	169	神門瓦窯		?
2	瓦窯	787	731	169	神門瓦窯		?
3	瓦窯	787	733	169	神門瓦窯		?
4	瓦窯	791	734	170	神門瓦窯		?
5	瓦窯	794	736	171	神門瓦窯		?
1	瓦窯	796	739	3	南田瓦窯	CI−50	IV−4?
2	瓦窯	809	749	3	南田瓦窯	CK−27	IV−3～4 前半
3	瓦窯	810	785	3	南田瓦窯	DL−94	IV−3～4 前半？
4	瓦窯	848	807	3	南田瓦窯	DK−86	IV−4?
1890	土坑	882	817		南田瓦窯	DK−87	?
1897	土坑	882	818	12	南田瓦窯	CK−19	?
1898	粘土貯蔵跡	882	820	12	南田瓦窯	DP−13	?
1899	粘土採掘坑	882	820	12	南田瓦窯	DP−01	?
0790	鋳造遺構	782	726	166	東南部	IO−16	XVI

※ 時期区分は『上総国分僧寺跡 I』（櫻井 2009）による。



上総国分僧寺跡　七重塔心礎

第 1 章　調査の経緯と概要

第 1 節　調査に至る経緯と方法

市原市では、昭和40年代から臨海部埋立地を中心に工業地帯化が進み、進出企業の社宅や首都圏のベッドタウンとして、宅地開発が急速に進んだ。開発の波は海岸平野に接した台地上にも及び、現在の市庁舎周辺の国分寺台地区では、昭和46年（1971）に市原市国分寺台土地区画整理組合が設立され、区画整理が実施されることとなった。昭和48年（1973）には事業区域内における遺跡分布調査が実施されたが、事業対象地内には上総国分寺跡や西広貝塚、祇園原貝塚などの重要遺跡が存在していたため、開発と遺跡保護の調和をどのように図るかが問題となった。文化庁、県、市及び区画整理組合とで協議を重ねた結果、上総国分僧寺・尼寺跡の主要部分は保存し、その他は発掘調査による記録保存の措置が執られることになった。

昭和46年（1971）には、市原市国分寺台埋蔵文化財調査会が立ち上げられ、調査会のもとに設立された上総国分寺台遺跡調査団（団長早稲田大学　滝口　宏教授）が発掘調査に当たった。また、調査団の作業量を超える部分については、私的調査組織である平野考古学研究所が実施している。当初は、昭和47年（1972）から3か年で調査を終了させる見通しであったが、予想をはるかに越える遺跡が発見されたために計画は見直され、昭和63年（1988）度まで17か年にわたる長期の調査となった。調査会・調査団は昭和60年（1985）3月に解散し、その後の調査・整理作業は財団法人市原市文化財センターが引き継いだ。また、平成18年（2006）3月の財団廃止後は、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターがその責を引き継ぎ、現在に至っている。

調査方法については、平成20年度に刊行した『上総国分僧寺跡I』（櫻井2009）に詳しく触れられているので、ここでは簡単に記載しておく。発掘区の設定は、公共座標に基づくグリッドにより行った。まず30ｍ方眼の大グリッドを設定し、南から北にA・B・C…、西から東にA・B・C…とアルファベットによる名称を付けた。大グリッドは3ｍ方眼の小グリッドに100分割し、北西隅から東に01・02・03…、北西隅から南に01・11・21…と算用数字による名称を付けた（Fig.6）。ただし、早稲田大学調査地区・寺域確認調査・平野考古学研究所調査地区（南辺部）では、任意のトレンチないし磁北を基準とした任意のグリッド、北辺部の東側では磁北を基準とした片仮名表記グリッド（Fig.7）が設定されていたため、全て公共座標グリッドに合わせた。なお、西辺部・東南部・南辺部・殿屋敷地区では、南に0.2ｍ、東に2ｍずれた位置にグリッド杭が設定された状態で調査が行われたため、整理作業段階で遺構平面図等の位置を修正している。ただし、グリッド出土扱いの遺物については、取上げ時の表記のままで処理せざるを得ず、北辺部の片仮名表記グリッド部分とともに誤差が生じている。

なお本書は、上総国分僧寺創建直前以降に形成された遺構のうち、瓦出土遺構及び出土瓦を対象としたもので、全遺構と瓦以外の出土遺物を扱った『上総国分僧寺跡I』（櫻井2009）を補完するものである。





Fig.1　上総国分僧寺跡位置図



市原市基本図より作図

Fig.2　上総国分僧寺跡現状位置図

第２節　遺跡の立地と概要

上総国分僧寺跡は、「国分寺台」に所在する遺跡の一つであり、養老川の沖積平野と東京湾の海岸平野に面した標高25ｍから29ｍの台地上に立地する（Fig.1）。この地域には縄文時代から中世にかけて多数の複合遺跡が展開している。昭和23年（1948）には、千葉県が「市原台総合調査」の一環として早稲田大学に調査を委託し、上総国分僧寺主要伽藍と神門古墳を対象とする確認調査が実施された。その後、国分寺台土地区画整理事業による大規模開発が決まると、昭和48年（1973）には事業区域内における遺跡分布調査が実施され、上総国分僧寺跡と重複し、寺院創建以前に形成された遺構群については、「中台遺跡」として区別された。中台遺跡からは、縄文時代早期と弥生時代後期から古墳時代前期を中心とした遺構が多数検出されたが、特に弥生時代終末期（古墳時代早期）には、近接する南中台遺跡（大村2009）・長平台遺跡（小橋2006）・天神台遺跡などとともに、北陸系・畿内系・東海系・北関東系などの外来系土器が集中出土し、遠距離間交流の拠点地域となっていたことが明らかになっている。また、中台遺跡から検出された独立棟持柱建物を伴う方形区画施設は、東日本最古の前方後円墳（纒向型）として知られる神門古墳（墳丘墓）群の被葬者に深く関わる遺構として注目されている（鶴岡2013）。古墳時代前期以降、遺跡からは生活の痕跡が途切れ、上総国分寺創建期までの空白期間が続くが、人々の生活から隔絶した閑地であったために、この地が国分寺の造営地として選ばれたものと考えられる。上総国分僧寺跡の周辺には、寺院の造・運営に深く関わった荒久遺跡（北見2011）と補修瓦を供給した南田瓦窯跡（須田ほか1976）が所在するが、この関係は、上総国分尼寺跡の坊作遺跡（小出2002）と祇園原瓦窯跡に対応する。

旧市原郡域では、国分僧寺・尼寺の創建以前に上総国府が成立していたはずで、国分寺台西側の低地（村上地区）と、北側の台地（門前・郡本・藤井地区）が候補地として挙げられているが、いまだにその所在は明らかになっていない。国分寺台の東辺から郡本・藤井地区にかけては、現在の国道297号線に沿うようにして古代道が縦断していたものと考えられ、道路に沿って重要遺跡が多く所在している。その代表例としては、多数の掘立柱建物や祭祀遺構、施釉陶器が検出され、国司の館の可能性が指摘される稲荷台遺跡（浅利ほか2003）、上総国分寺創建瓦と同笵瓦が出土した千草山遺跡（田中ほか1989）、市原郡衙関連遺跡とされる郡本遺跡（田所1998）、国府推定地の一つに数えられる古甲遺跡（高橋1994）、市原郡名寺院に比定する説がある光善寺廃寺（須田1998c）、台地下の水田地帯に位置する市原条里制遺跡（大谷1998）が挙げられる。また、下流域が現在の千葉市との境となっている村田川沿いには、上総国分僧寺・尼寺に創建瓦を供給した川焼瓦窯跡（田形1994）と南河原坂窯跡群（村田ほか1996）が所在する。



Fig.3　国分寺台地区と周辺の遺跡群



『市原市南中台遺跡・荒久遺跡Ａ地点』2009　市原市教育委員会 に加筆

Fig.4　上総国分僧寺跡と周辺遺跡全体図

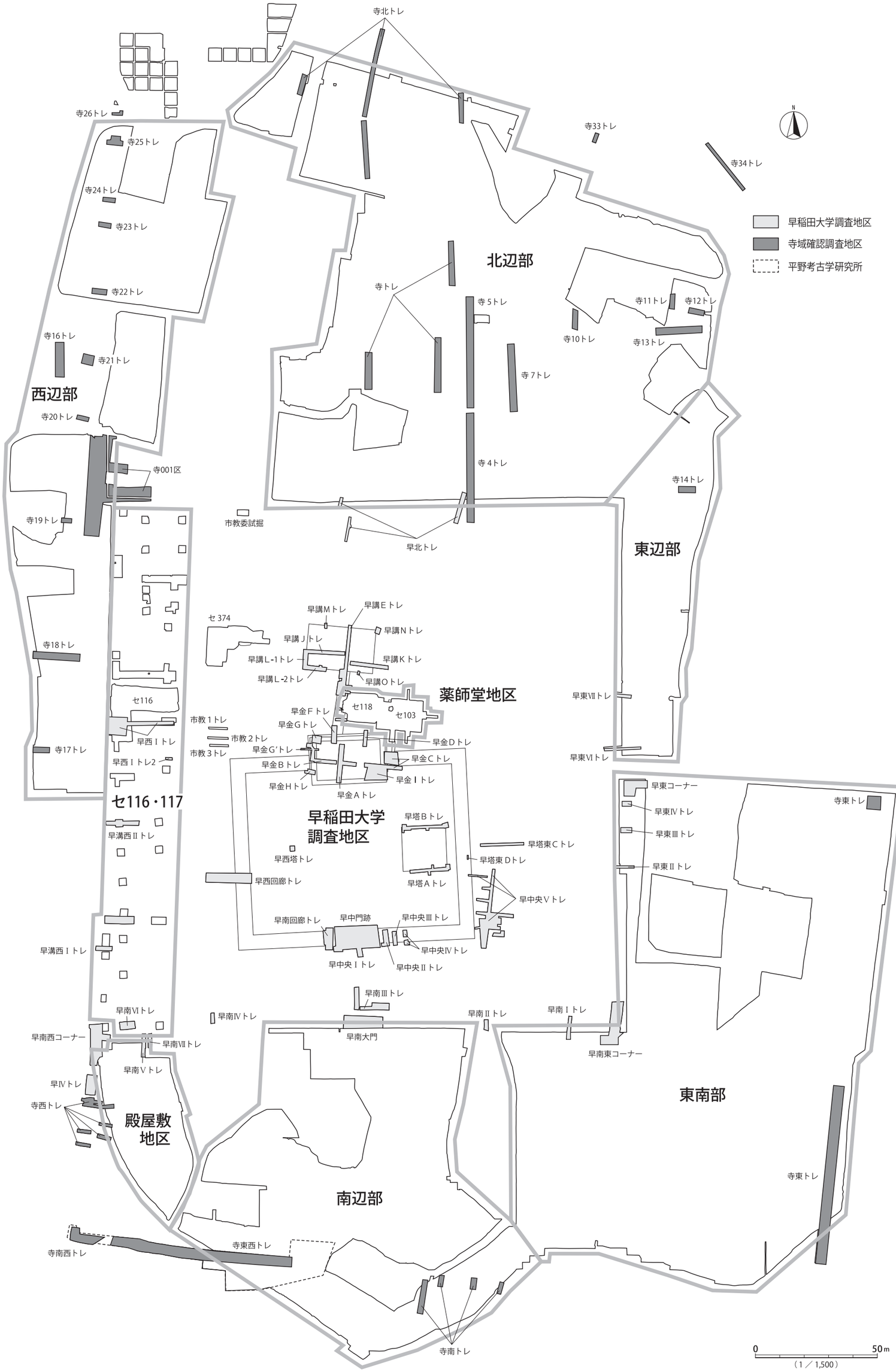


Fig.5　各調査地区割図



Fig.6 上総国分僧寺跡グリッド配置図

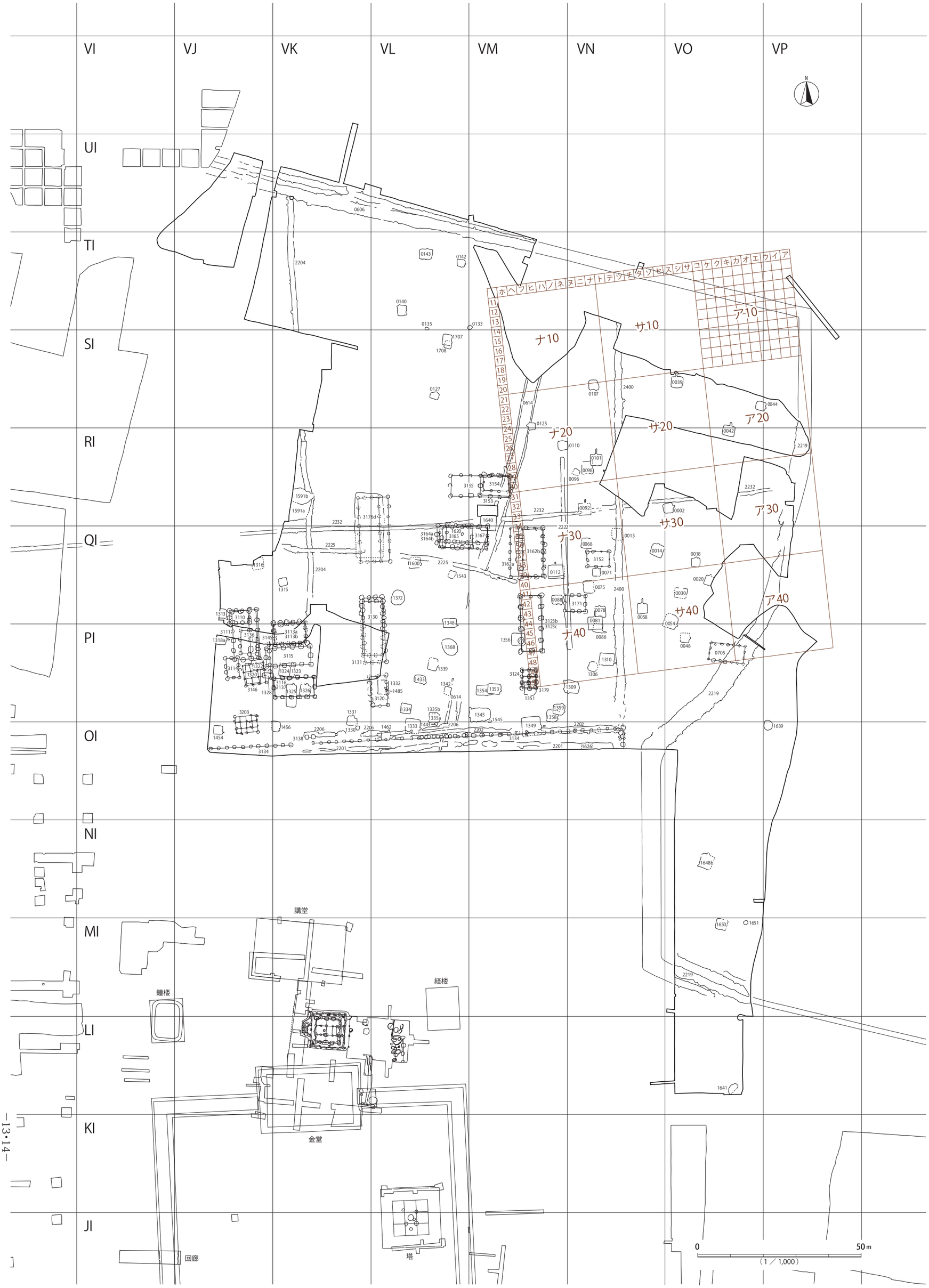


Fig.7　北辺、東辺部 遺構配置図

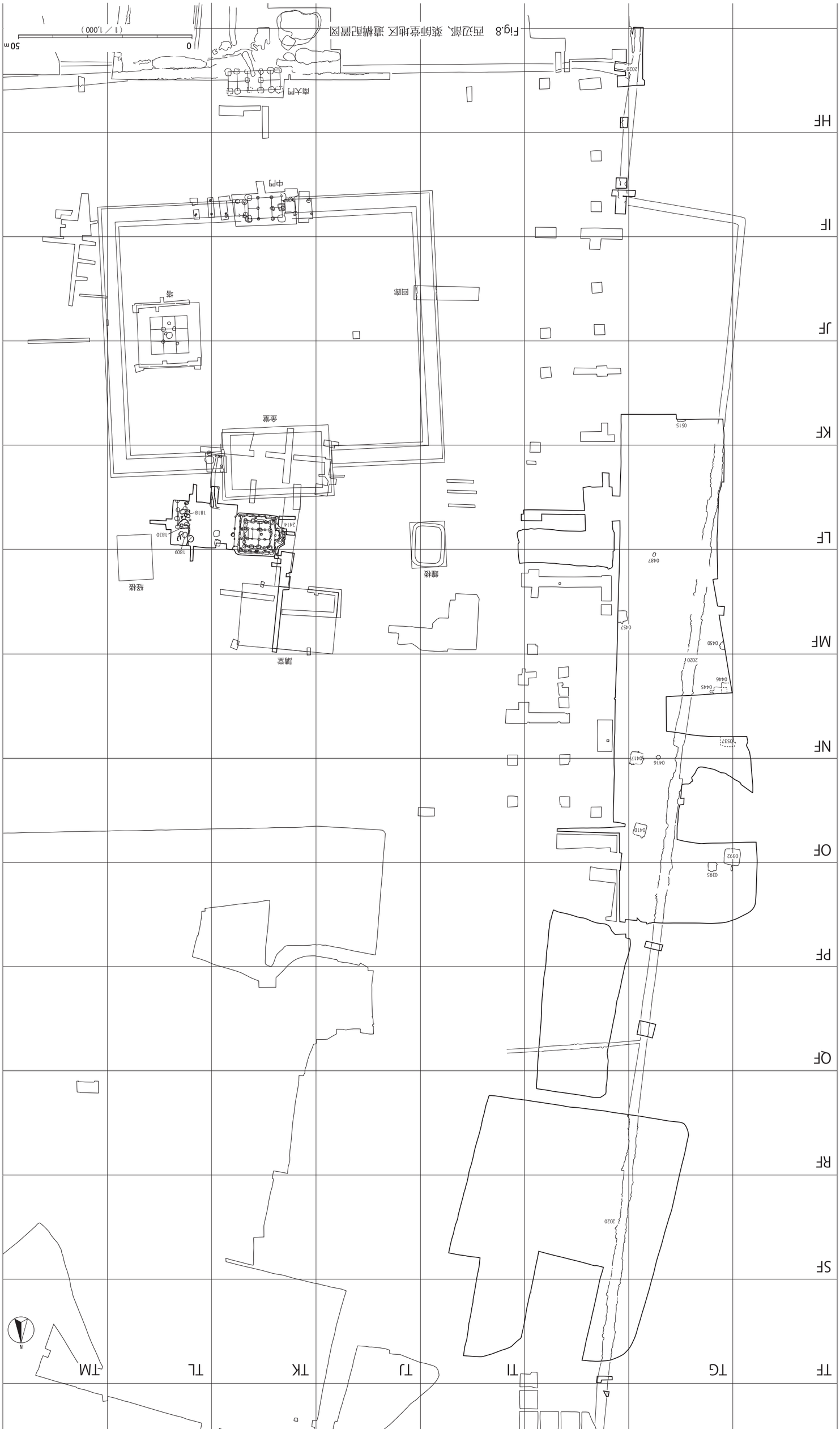


Fig.8　西辺部、薬師堂地区 遺構配置図

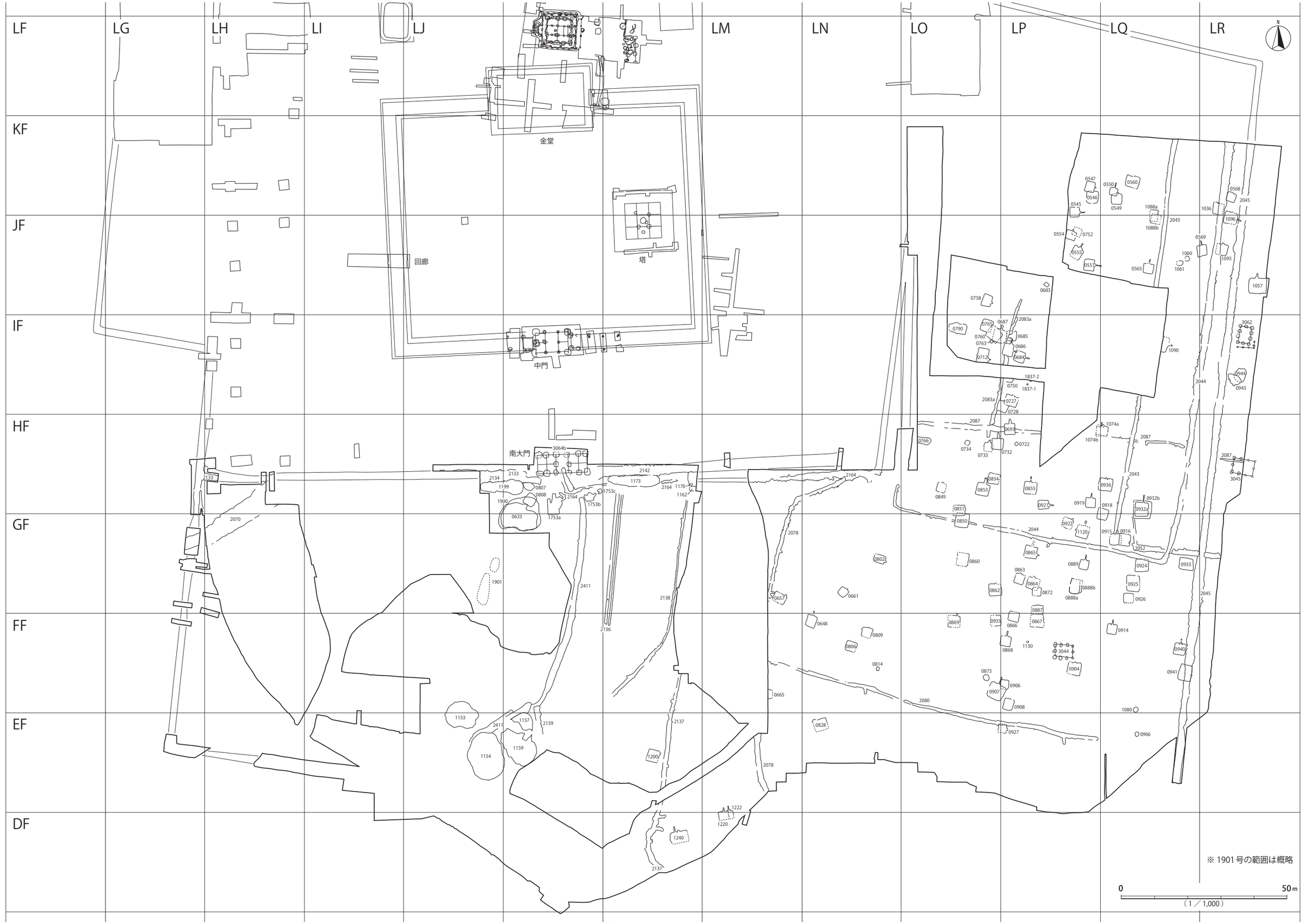


Fig.9　殿屋敷地区、東南、南辺部 遺構配置図

第２章　遺構と出土瓦

本報告の対象となる瓦類が出土した遺構の総数は314である。遺構種別の内訳は、金堂が1、講堂が1、塔が1、中門が1、回廊が1、南大門が1、瓦敷通路が1、瓦敷遺構が3、礎石建物が1、掘立柱建物が33、塀が2、柵列が1、竪穴建物が169、土坑が43、土壙墓が1、井戸が1、ピットが4、炉が1、小鍛冶が2、寺院地外郭溝が4、区画溝が11、溝が10、道路が8、瓦溜が2、瓦窯が9、粘土採掘坑が1、粘土貯蔵穴が1である。また、調査地区別の内訳は、伽藍地の早稲田大学調査地区が6、薬師堂地区が4、寺院地の北辺部が127、西辺部が13、殿屋敷地区が1、南辺部が30、東南部が114、東辺部が6、寺院周辺の神門瓦窯地区が5、南田瓦窯地区が８である。

なお、本文中に〔僧I第□～□図〕と記載した挿図番号は、『上総国分僧寺跡I』の該当箇所を表している。瓦類以外の出土遺物については、こちらを参照されたい。

第１節　中心伽藍

中心伽藍は、薬師堂地区などの一部の調査を除き、早稲田大学によって調査が行われた。検出された遺構は、金堂、講堂、塔、中門、回廊、南大門、瓦敷通路（Fig.10）である。また、早稲田大学による調査では、伽藍地範囲確認のためのトレンチが複数設定されており、ここからも瓦類が出土している。

なお、遺構の関連性から、南大門と門前に設けられた各種遺構群を同一図面にまとめて掲載し、瓦敷遺構のみ、本節中で記載を行っている。

金堂　（Fig.11～14、PL.13・14・215）〔僧Ⅰ第 118～120 図〕

早稲田大学調査地区LK−84を中心に位置する。基壇基礎は厚さ1.6mを超える版築による。規模は、基壇外側をめぐる溝の内側で東西30.3m、南北20.1mを測り、瓦はこれらの溝の外側に散乱埋没していた（滝口1973）。基壇の規模が尼寺跡とほぼ同じであることから、間口７間、奥行き４間の四面庇付きの建物であったと推定されている（宮本1998b）。主軸方位はN−3°−Wである。僧寺編年II期以降の所産と考えられるが、出土する土器類から、10世紀前葉まで建物の運営が継続した可能性がある。

実測可能遺物は、1～3はI型式の蓮華文軒丸瓦、4はIII型式、5はIV型式の重圏文軒丸瓦、6～11はI型式の均整唐草文軒平瓦、12・13はIX型式の重圏文軒平瓦、14は文様不明の軒平瓦、15は塼である。2はDトレンチ、3・8はCトレンチ、4・5・6・9・10・14はFトレンチ、7はGトレンチ、13はHトレンチからの出土で、これ以外は出土位置が明確でない。なお、11はLトレンチからの出土とあり、金堂とされているが、講堂の誤りの可能性が高い。

講堂　（Fig.14～17、PL.14・15）〔僧Ⅰ第 123～125 図〕

早稲田大学調査地区MK−34を中心に位置する。厚さ1m程度のやや粗い版築による基壇基礎部分が残存し、基壇掘込み部の規模は東西27.8m、南北17.9mを測る（滝口1973）。他の主要伽藍の主軸方位がN−3°−E程度であるのに対し、本遺構はN−6°−Eで、大きく東に振れる。上総国分尼寺跡

の調査成果からは、これと同じ主軸方位を示す遺構は創建当初のものであることが確認されていることから、本遺構の整備も伽藍造営の初段階に着手されたと考えられており、当初は金堂であった可能性が指摘されている（須田ほか1982）。僧寺編年I期以降の所産と考えられ、11世紀代まで建物の運営が継続した可能性があるが、遺物が少なく、詳細は明確でない。

実測可能遺物は、1・2はI型式の蓮華文軒丸瓦、3・4はI型式の均整唐草文軒平瓦、5～8はIX型式の重圏文軒平瓦である。4～8はEトレンチからの出土で、1はL−1トレンチからの出土と思われるが、注記が不鮮明である。なお、2はDトレンチからの出土とあり、金堂の誤りの可能性がある。また、3は「金堂址北側土壇」の注記があり、講堂に含めたが、出土位置は明確でない。

塔　（Fig.17・18、PL.15）〔僧I第126・127図〕

早稲田大学調査地区JL−05を中心に位置する。瓦積基壇の中央に心礎と四天柱礎石が遺存する。基壇基礎は厚さ2.2m程の版築によるもので、現地表面からの高さは0.9ｍある。基壇瓦列端から心礎中心までの距離は8.9mを測り、規模は一辺17.8mとなる（滝口1973）。現在の仁王門付近には、塔心礎と同規模の礎石が存在し、西塔心礎の可能性が指摘されているが、明確でない。

実測可能遺物は、1・2はI型式の蓮華文軒丸瓦、3はVII型式の蕨手状唐草文軒平瓦、4・5は凸面に「周」の押印が施される平瓦、6は熨斗瓦である。1・6はDトレンチからの出土で、注記が不鮮明であるが、4も同一地点からの出土と思われる。2はBトレンチ、5はCトレンチからの出土である。3は「塔瓦溜」の注記があるが、出土位置は明確でない。なお、調査時に設定されたトレンチ名から便宜的にここに含めたが、C・Dトレンチはいずれも塔の範囲から外れており、東側回廊に帰属する可能性がある。

中門　（Fig.18～20、PL.15・16）〔僧I第121・122図〕

早稲田大学調査地区IK−36を中心に位置する。桁行柱列の基礎に版築を施す布地業で、規模は東西9.1m、南北6m程度の建物と考えられる（滝口1973）。主軸方位はN−1°−Wである。掘立柱の八脚門が検出されたが、同規模の礎石建中門廃絶後に再建されたものと考えられている（笹生1993・宮本1998）。出土する土器類から、11世紀代まで建物の運営が継続した可能性があるが、遺物が少なく、詳細は明確でない。

実測可能遺物は、1はII型式の重圏文軒丸瓦、2～4はI型式の均整唐草文軒平瓦である。5・6は重圏文軒平瓦で、段顎の5がVIII型式、曲線顎の6がIX型式と考えられる。4の凸面には格子叩き目が残る。

回廊　（Fig.20・21、PL.16）〔僧I第122図〕

早稲田大学調査地区に位置する。中門の東西両側から、柱間3.9m、列間4.2m程度を測る南北一対の柱穴列が検出され、中門東側から検出された柱穴の周囲には、遺構確認面から35㎝程度を測る掘込み地業と版築層が確認され、柱掘り方からは瓦片が出土している（滝口1973）。西回廊トレンチから柱穴は検出されていないが、幅6m程度を測る版築層が確認されたことから、中門と金堂を結ぶ回廊状となっているものと考えられる。確認された回廊の構造は、掘立柱による単廊回廊であるが、これに先行する礎石建回廊が存在した可能性が高い。

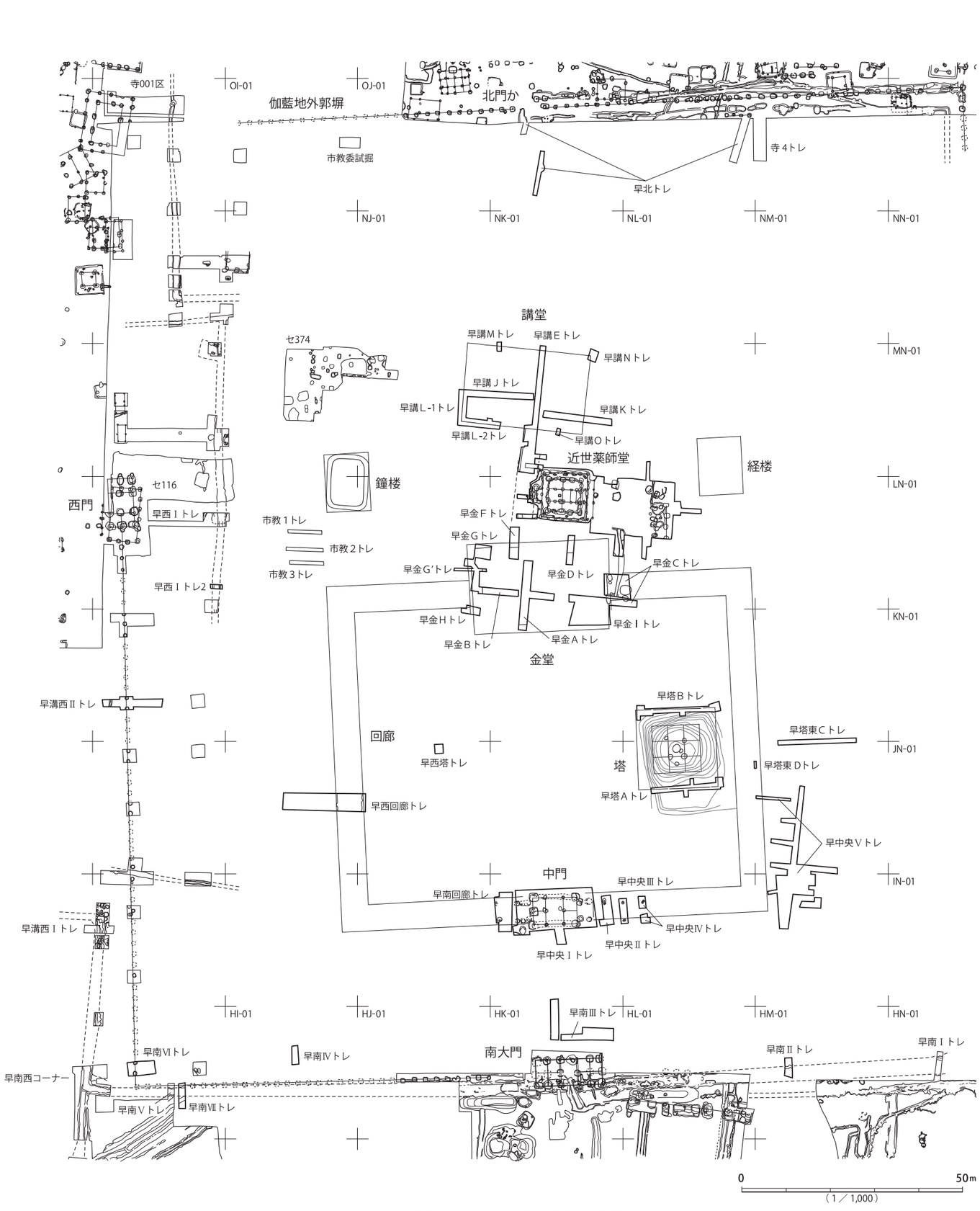


Fig.10　伽藍地・早稲田大学調査地区 遺構配置図

金堂

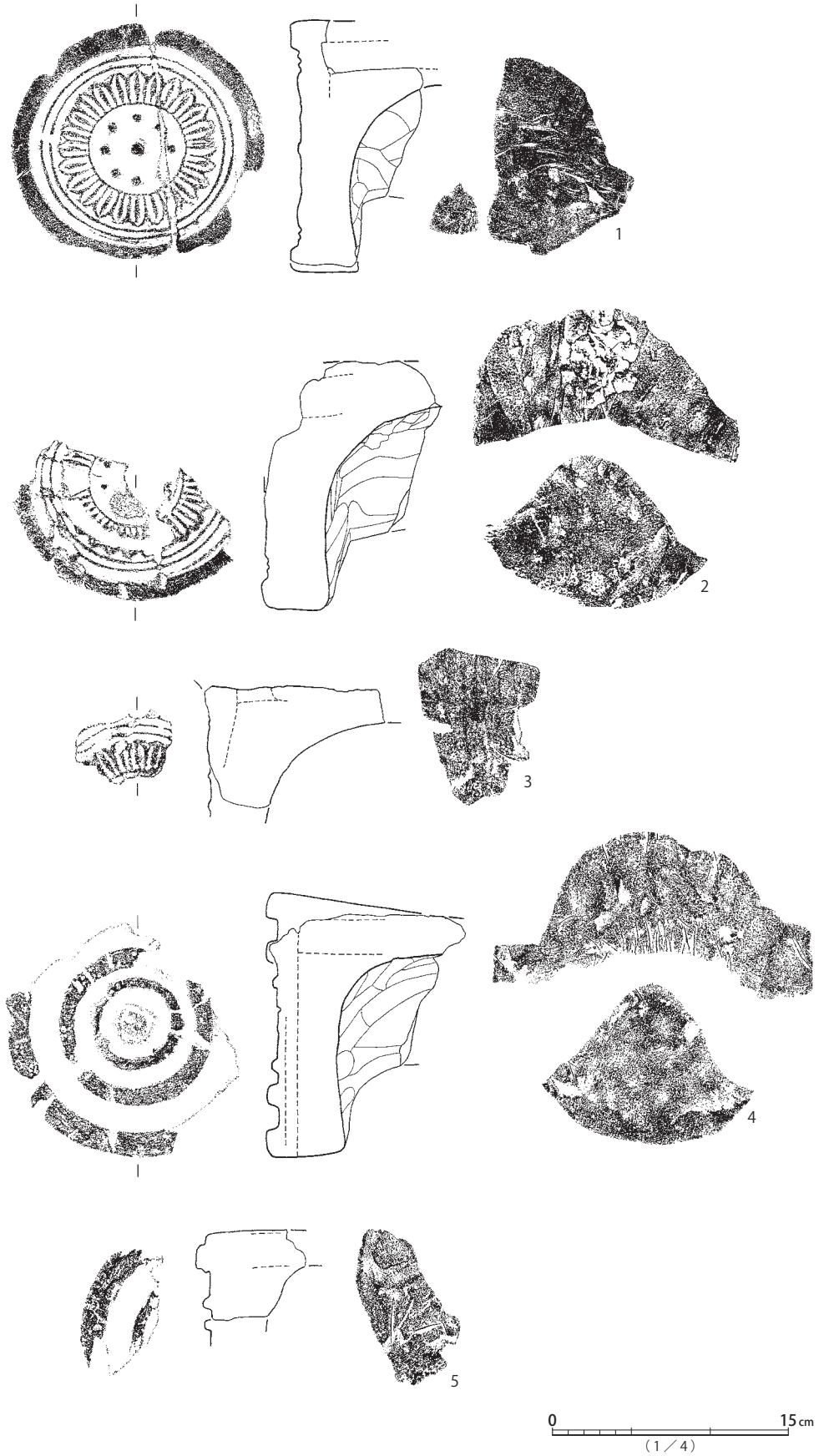


Fig.11　金堂(1) 遺物

金堂

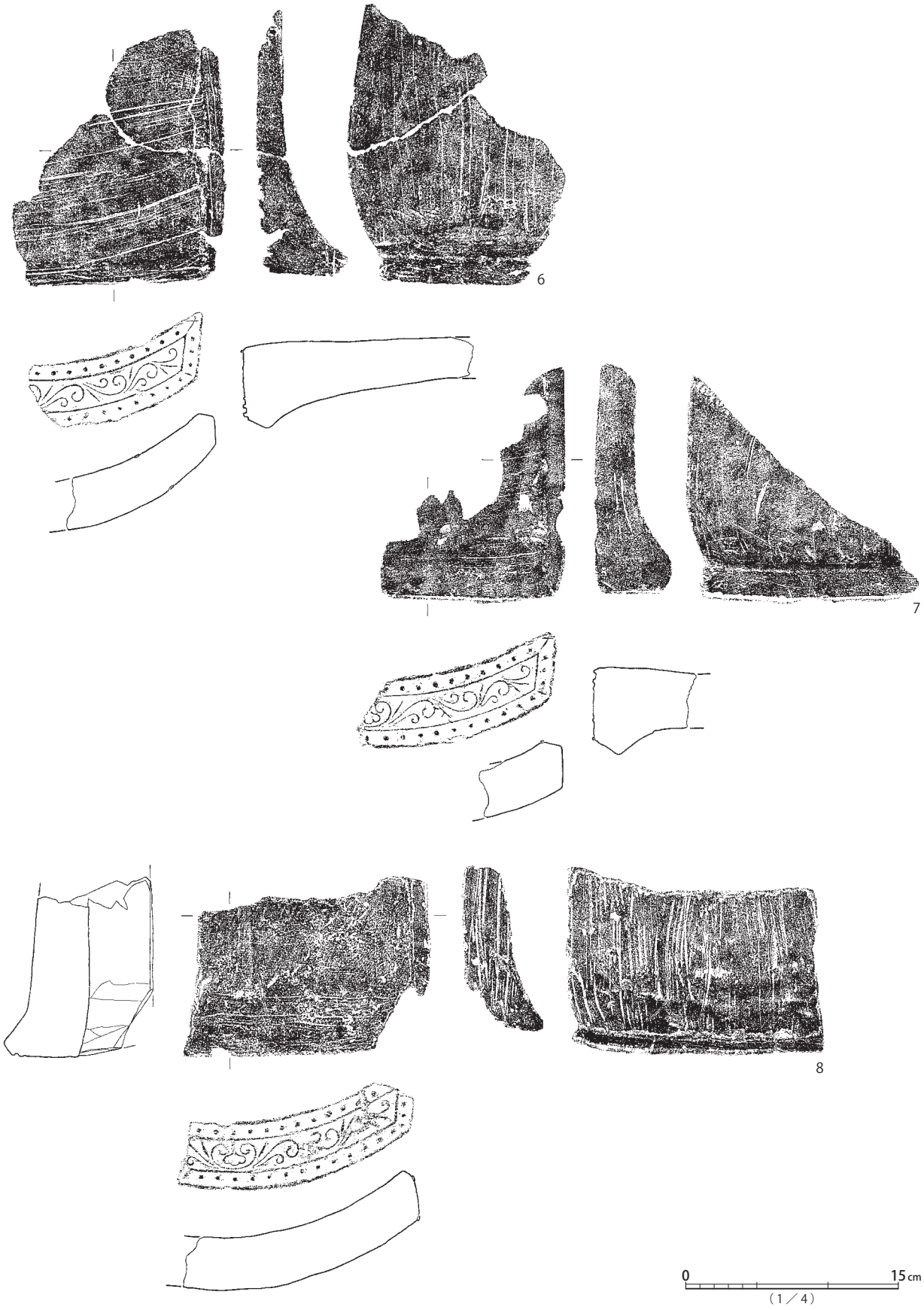


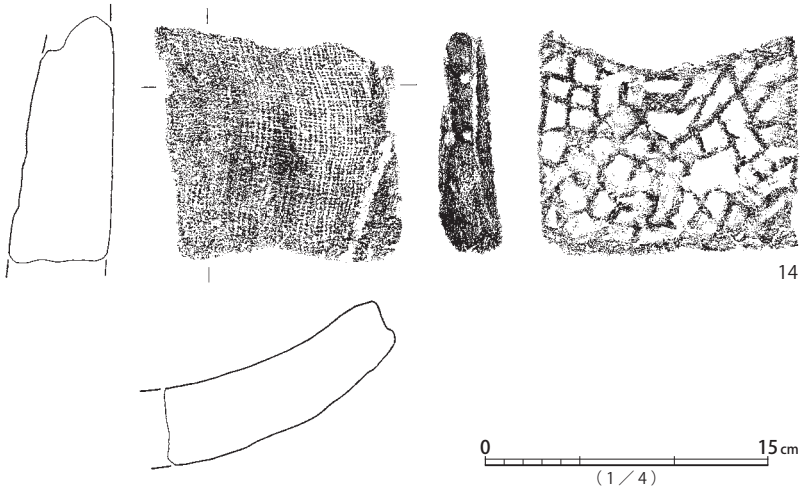
Fig.12　金堂(2) 遺物

金堂

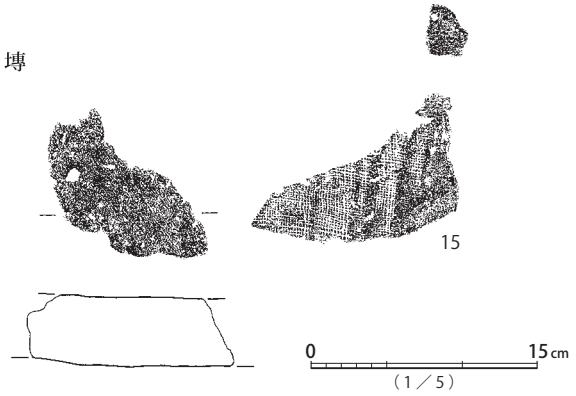


Fig.13　金堂(3) 遺物

金堂



塼



講堂

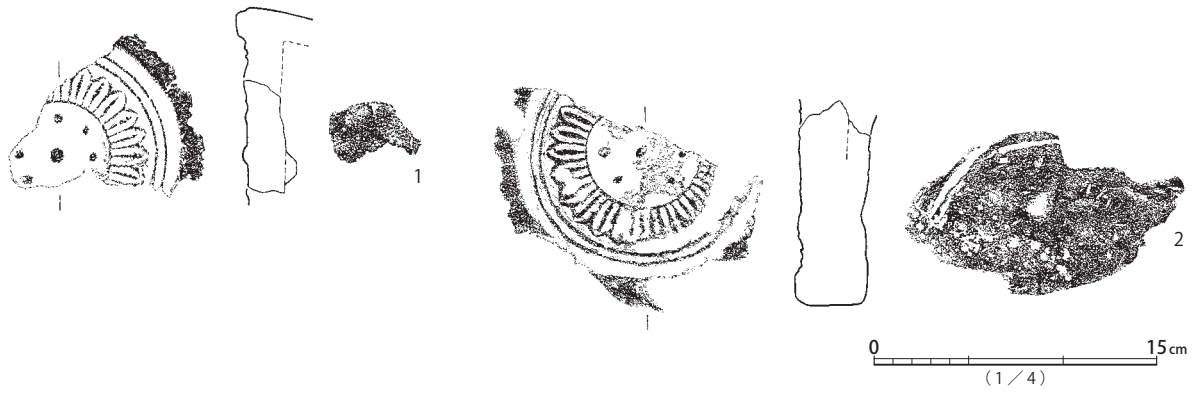


Fig.14　金堂(4) 遺物、講堂(1) 遺物

講堂

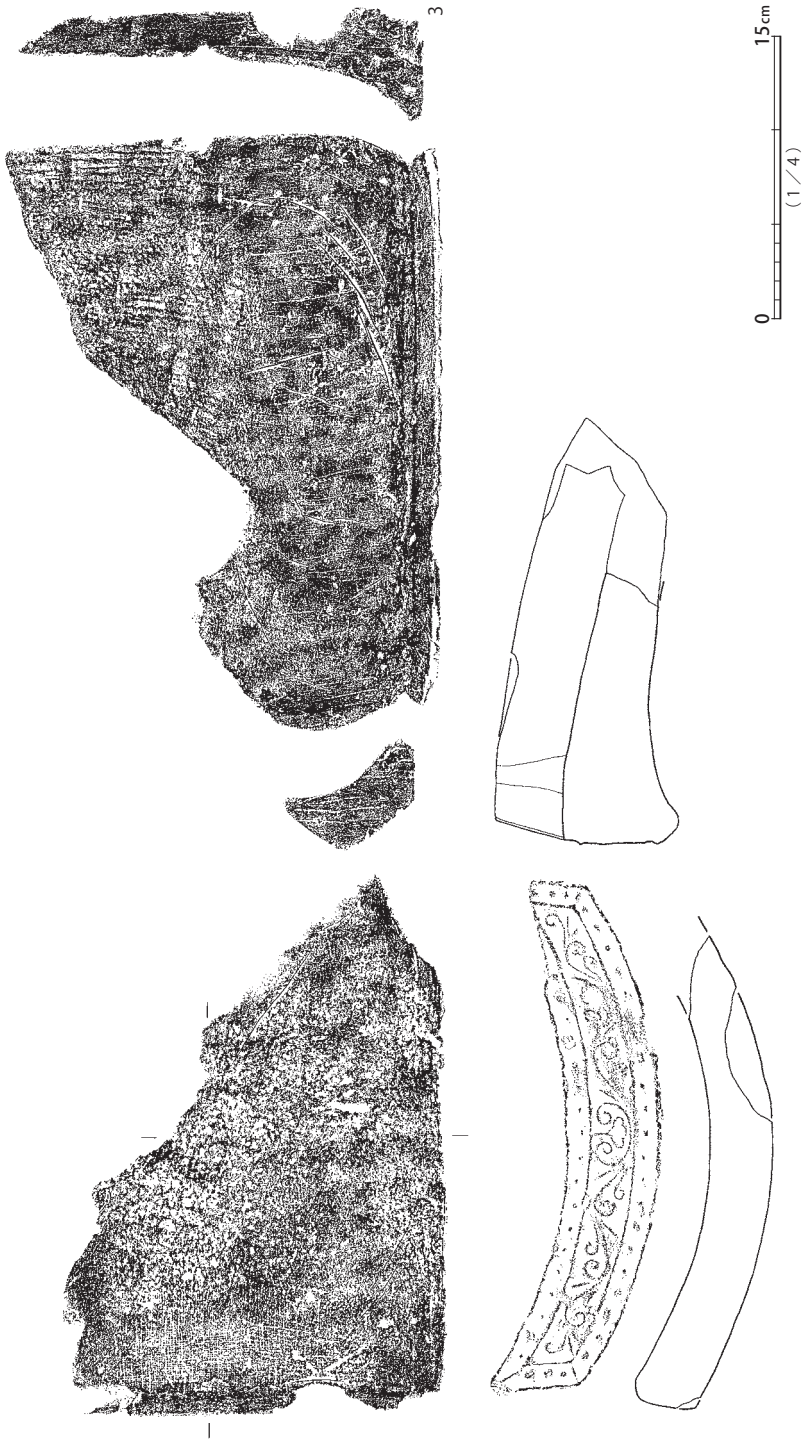


Fig.15　講堂(2) 遺物

講堂

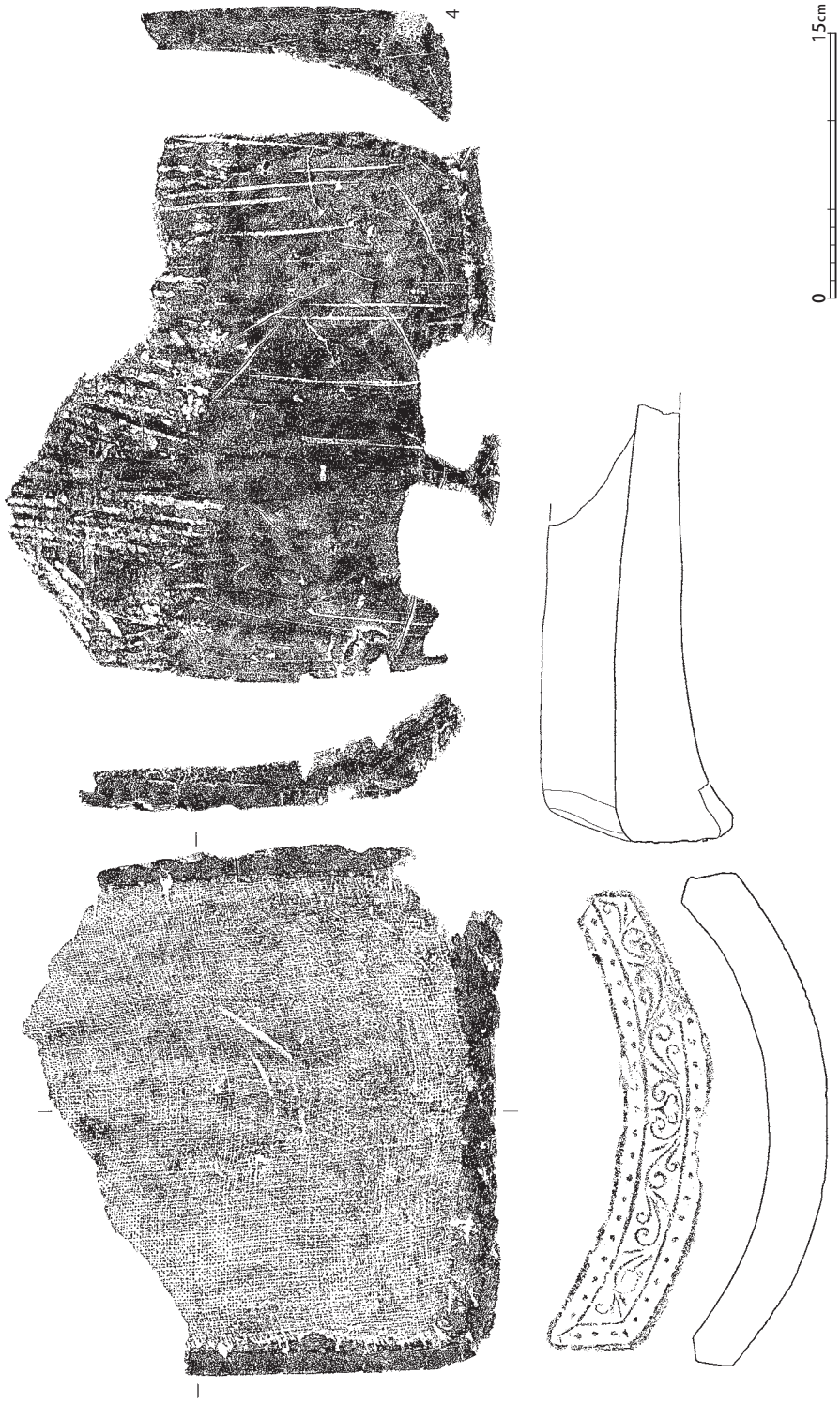
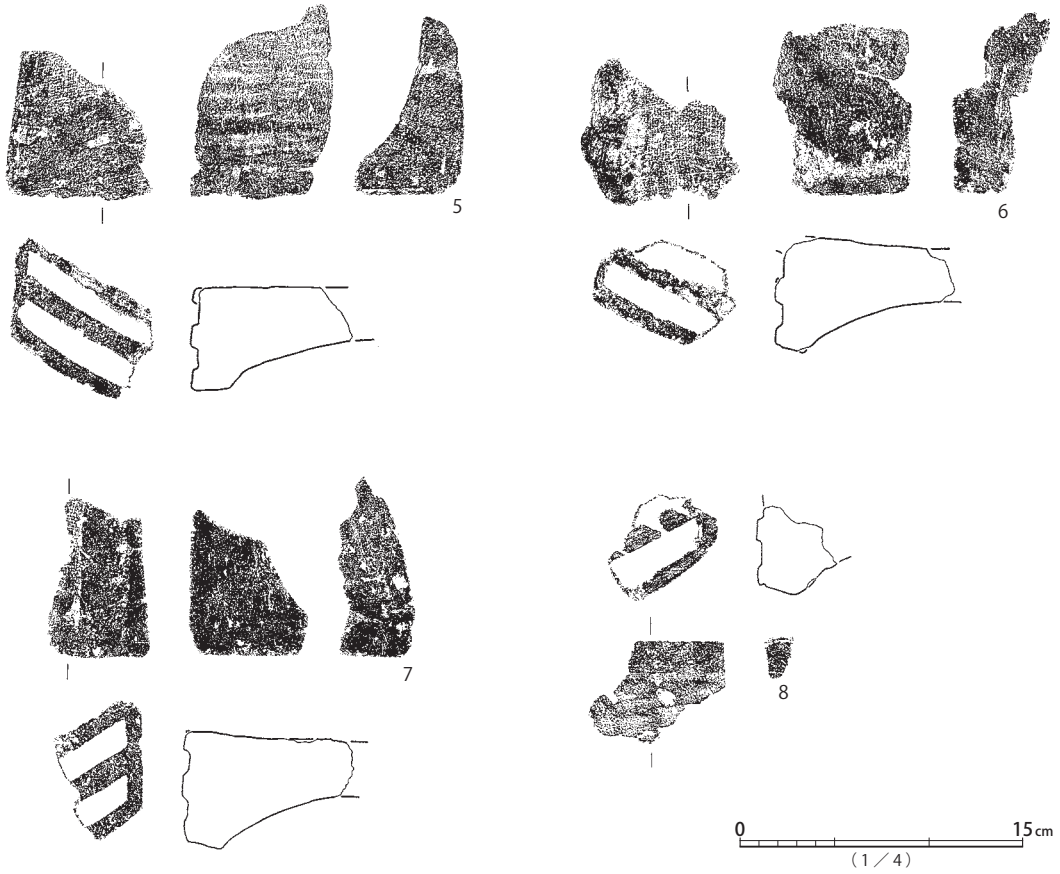


Fig.16　講堂(3) 遺物

講堂



塔

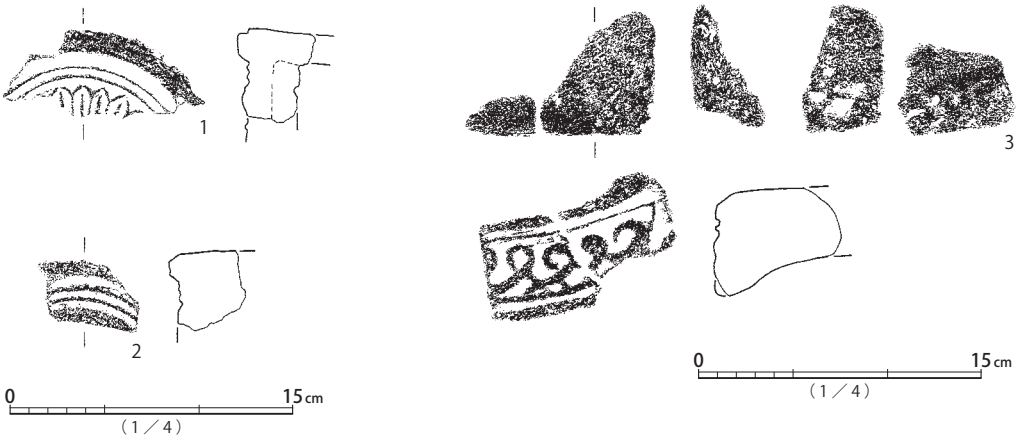
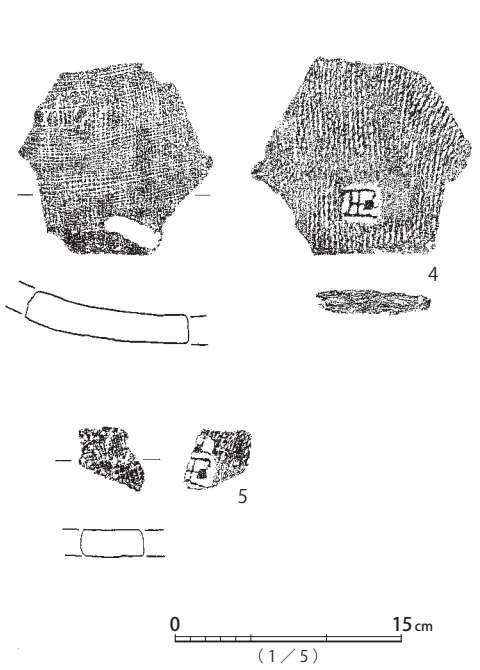
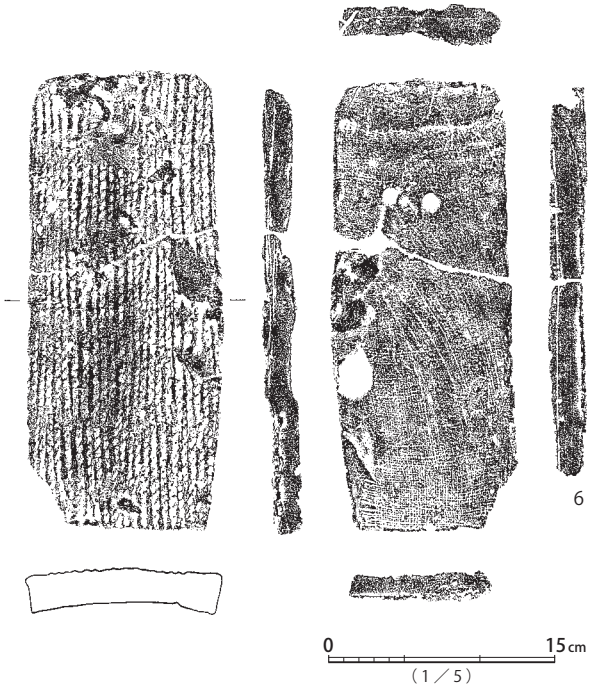


Fig.17　講堂(4) 遺物、塔(1) 遺物

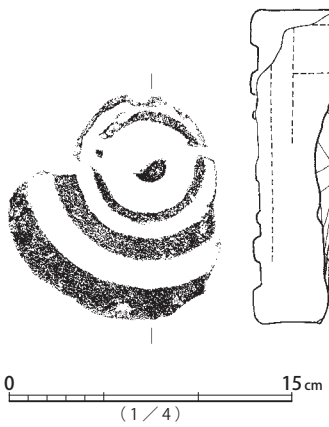
塔

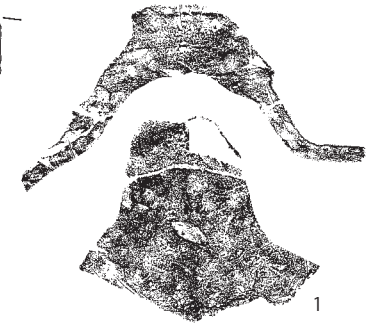


熨斗瓦



中門





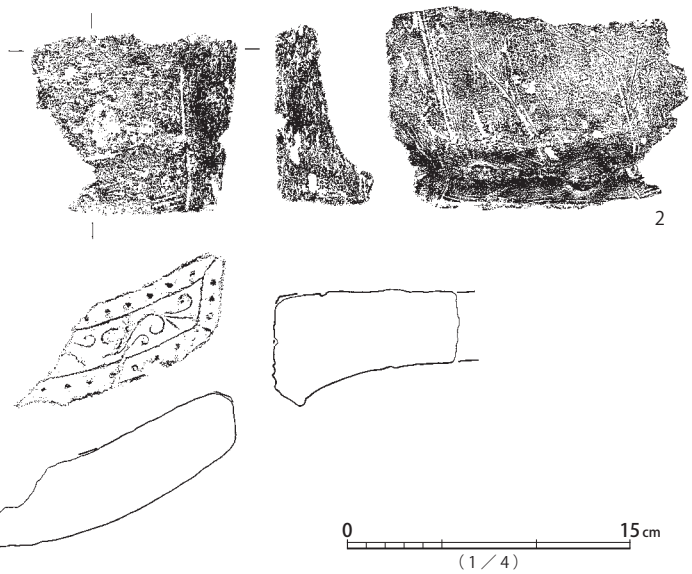


Fig.18　塔(2) 遺物、中門(1) 遺物

中門

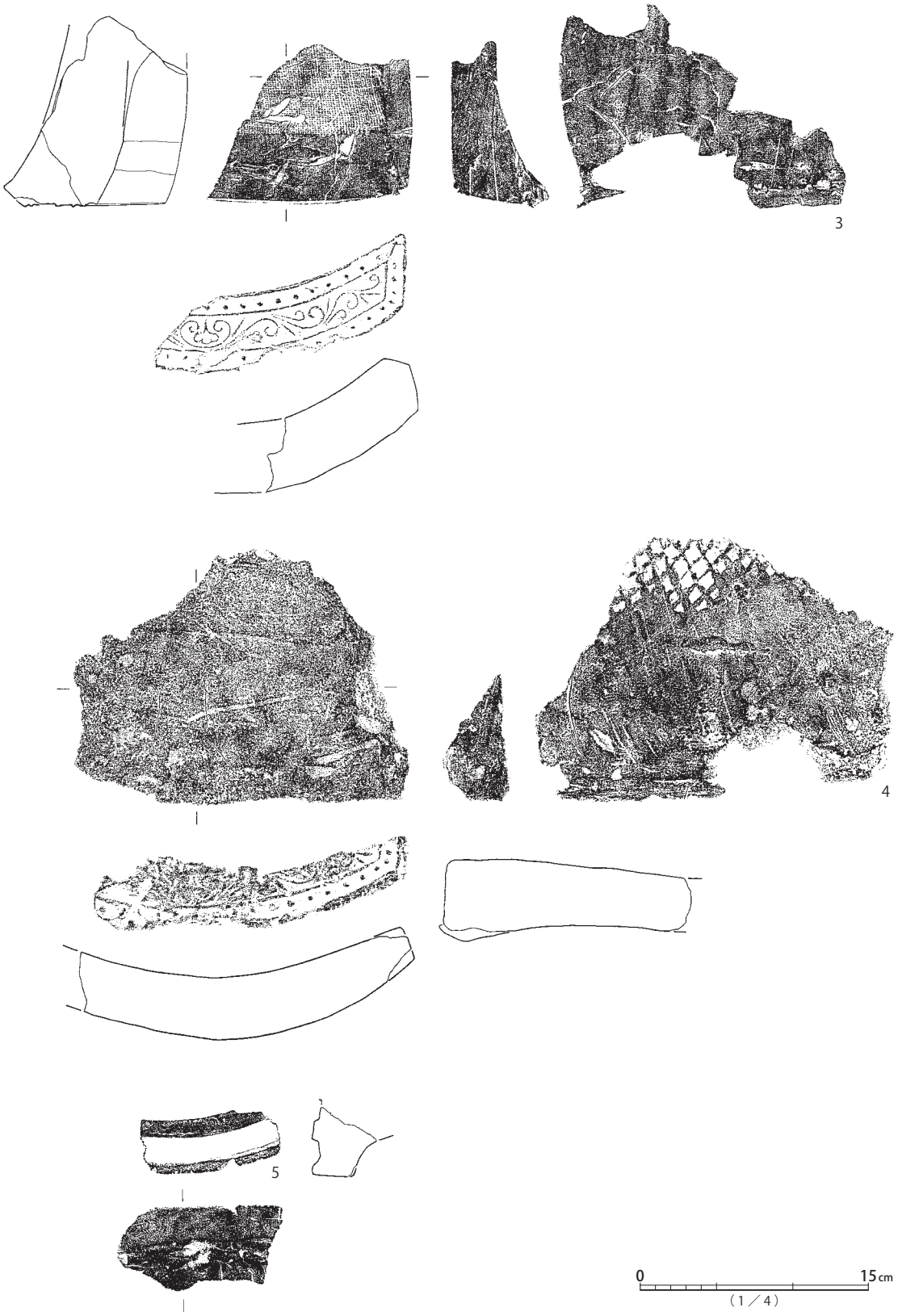
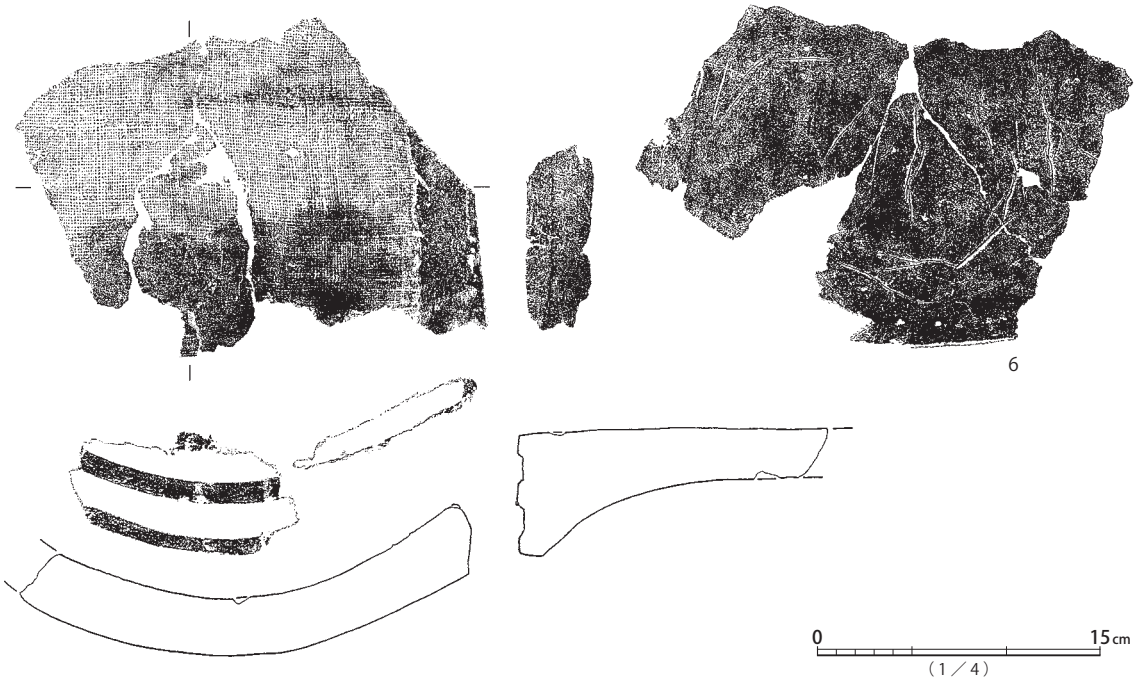


Fig.19　中門(2) 遺物

中門



回廊

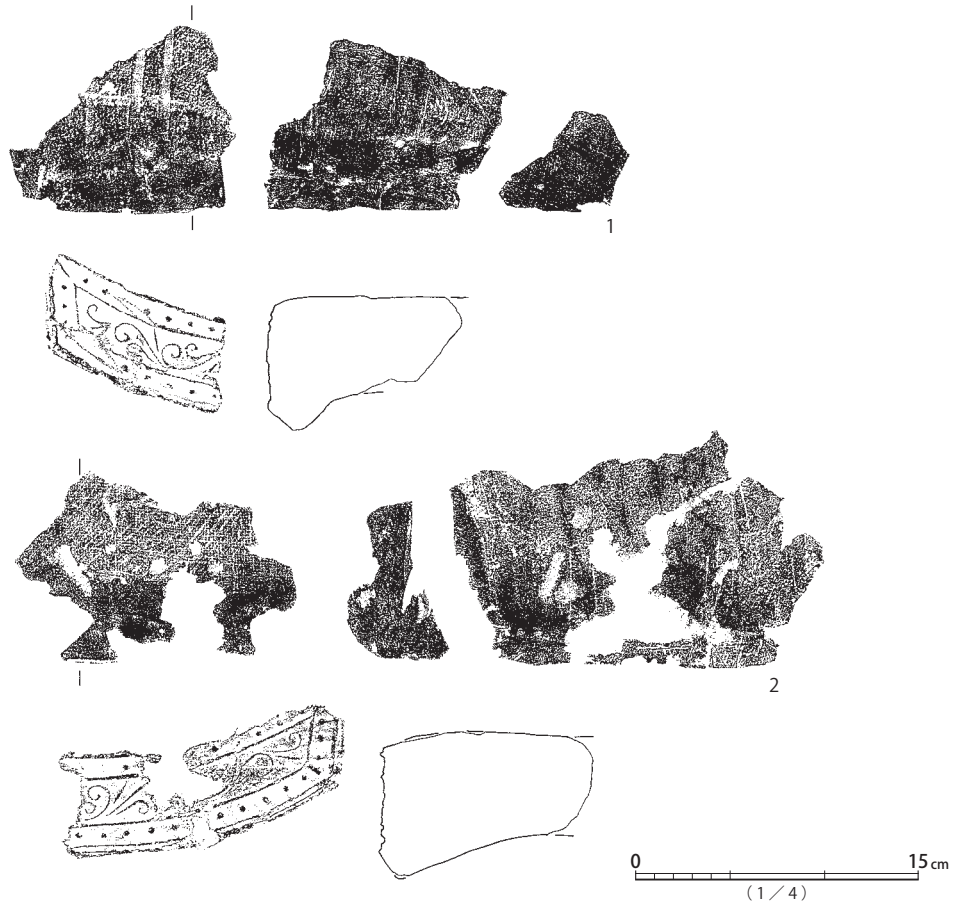
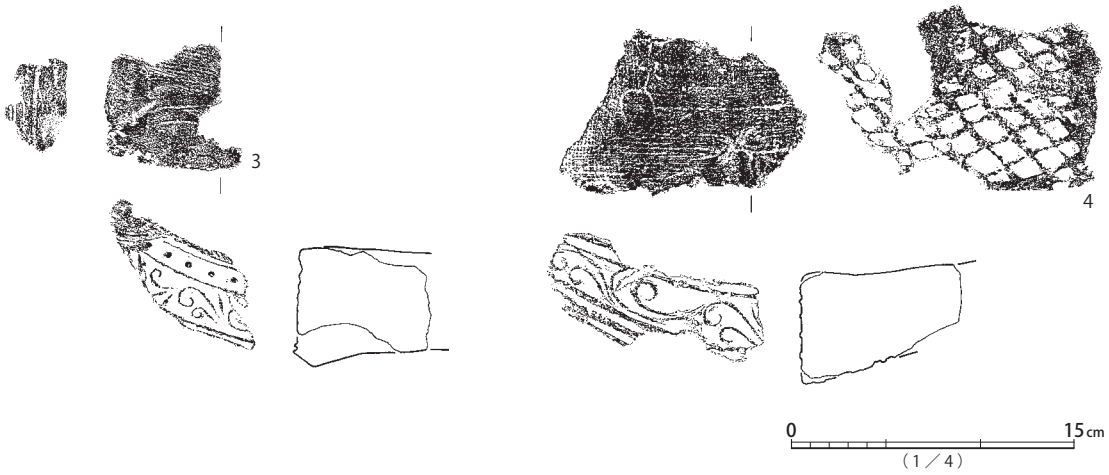


Fig.20　中門(3) 遺物、回廊(1) 遺物

回廊



南大門

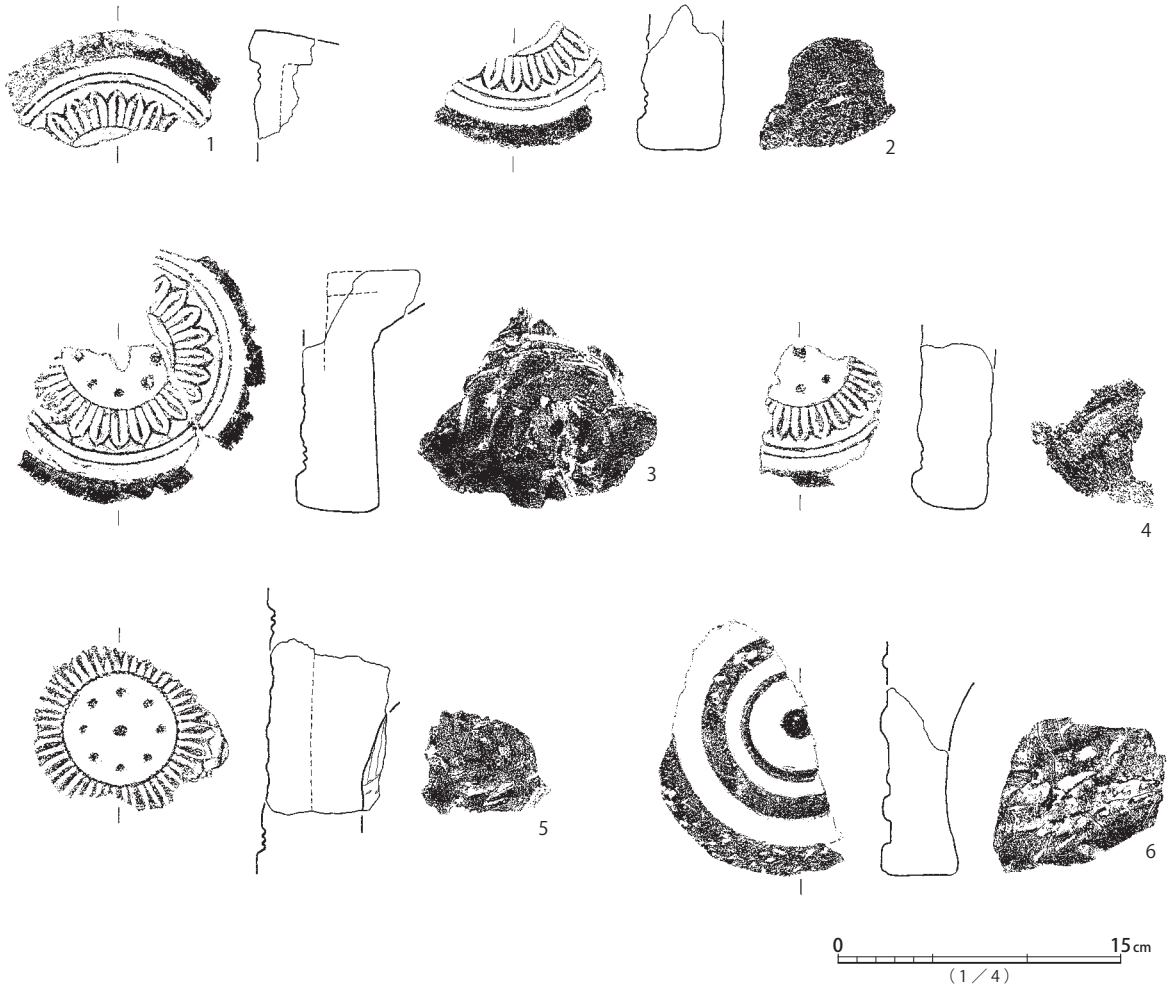


Fig.21　回廊(2) 遺物、南大門(1) 遺物

南大門

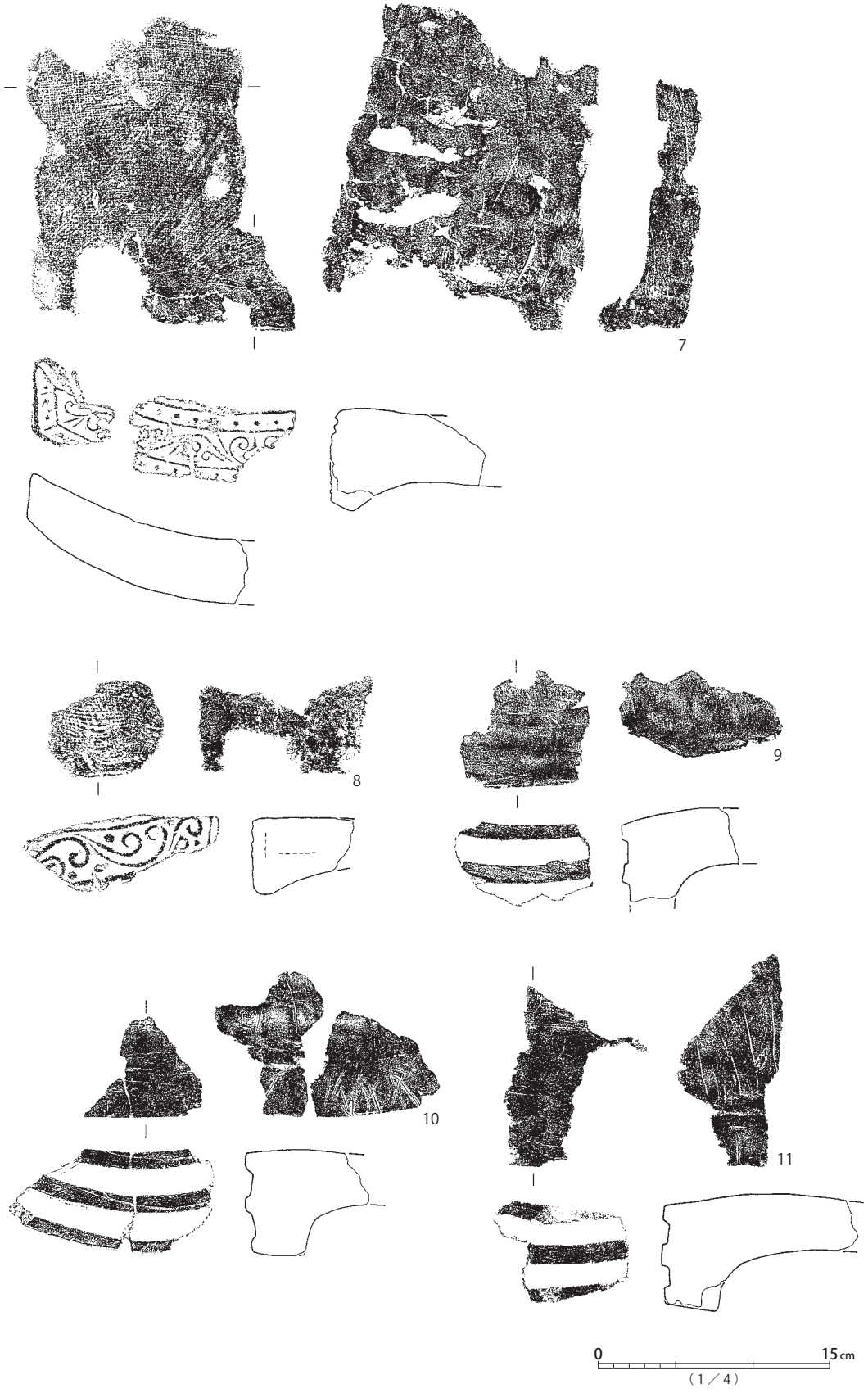


Fig.22　南大門(2) 遺物

南大門



伽藍地外郭溝

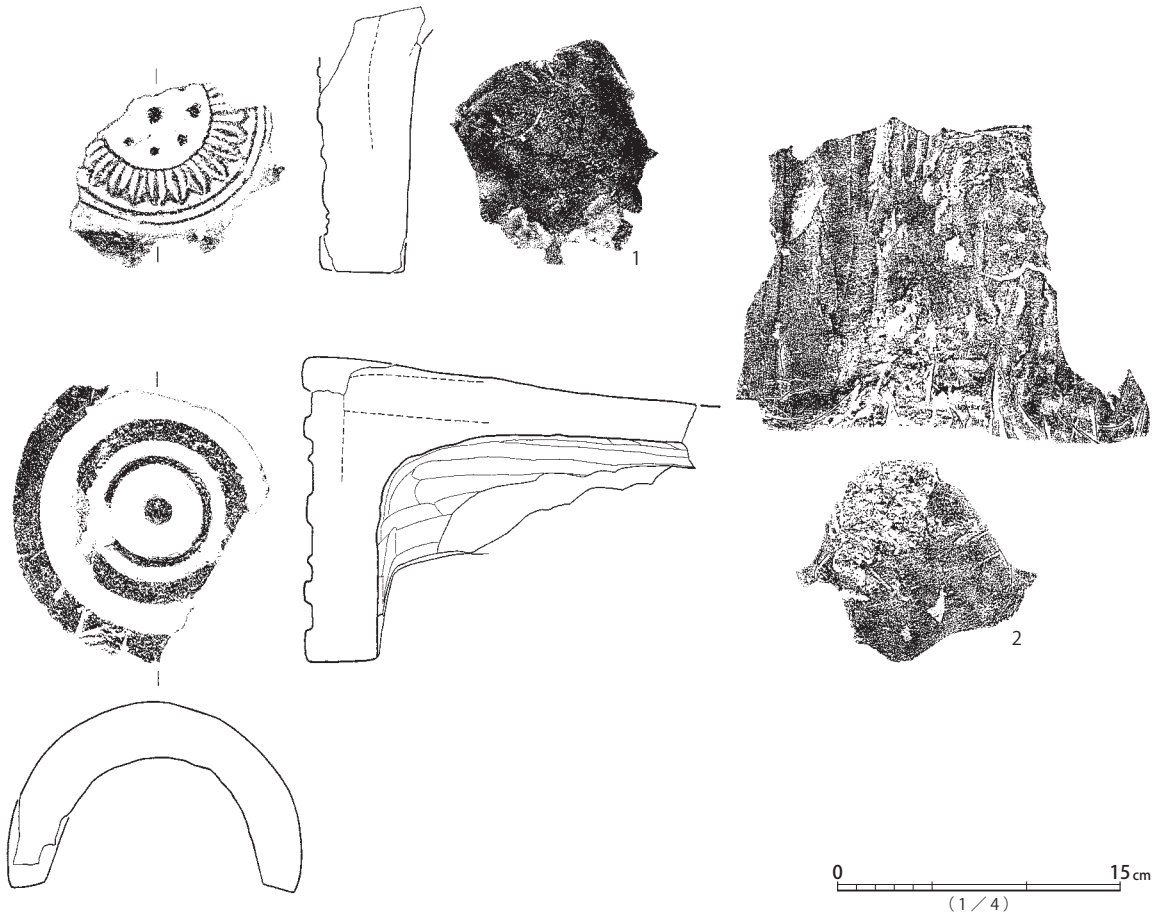


Fig.23　南大門(3) 遺物、伽藍地外郭溝(1) 遺物

伽藍地外郭溝

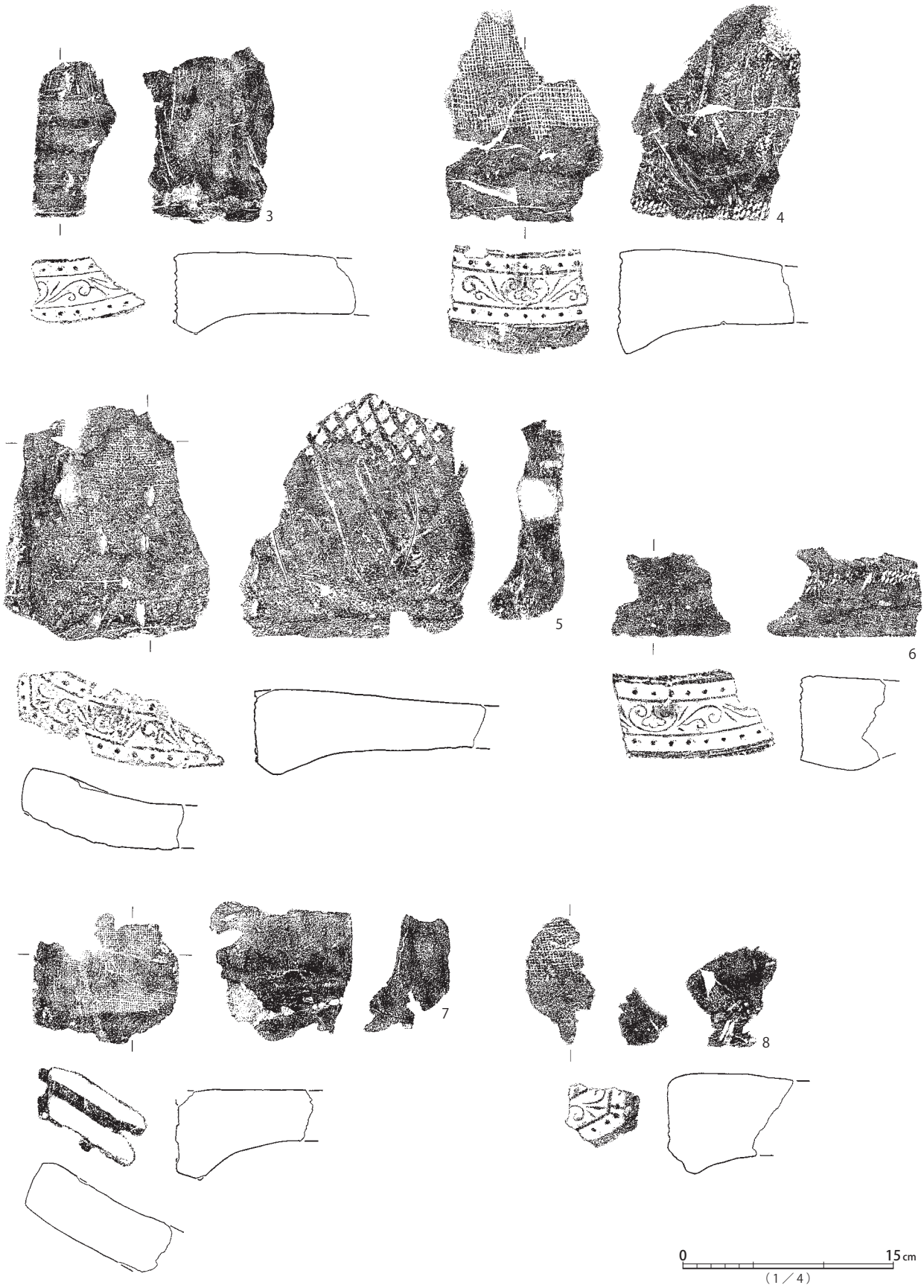


Fig.24　伽藍地外郭溝(2) 遺物

早稲田大学調査地区

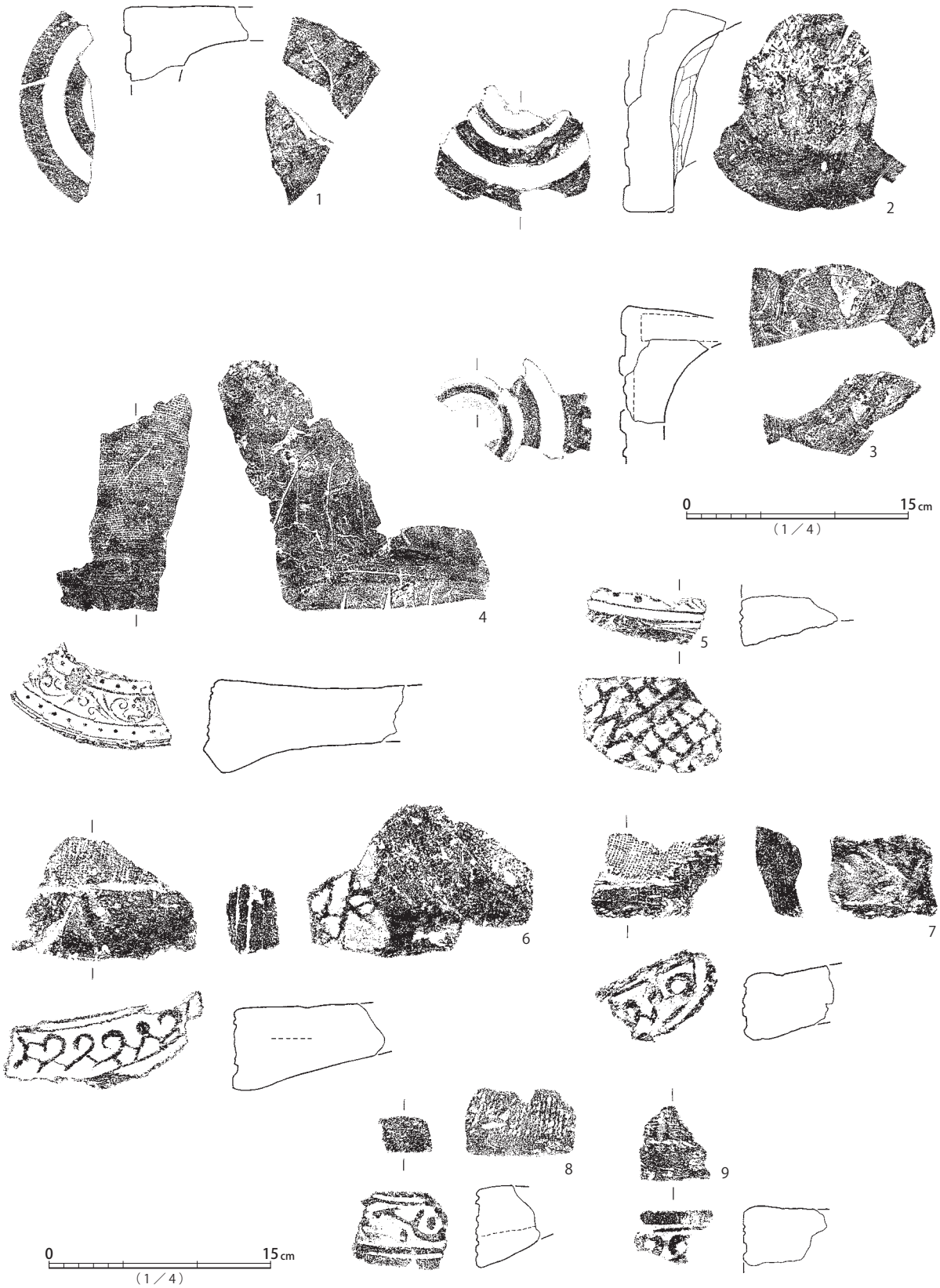


Fig.25　早稲田大学調査地区(1) 遺物

早稲田大学調査地区

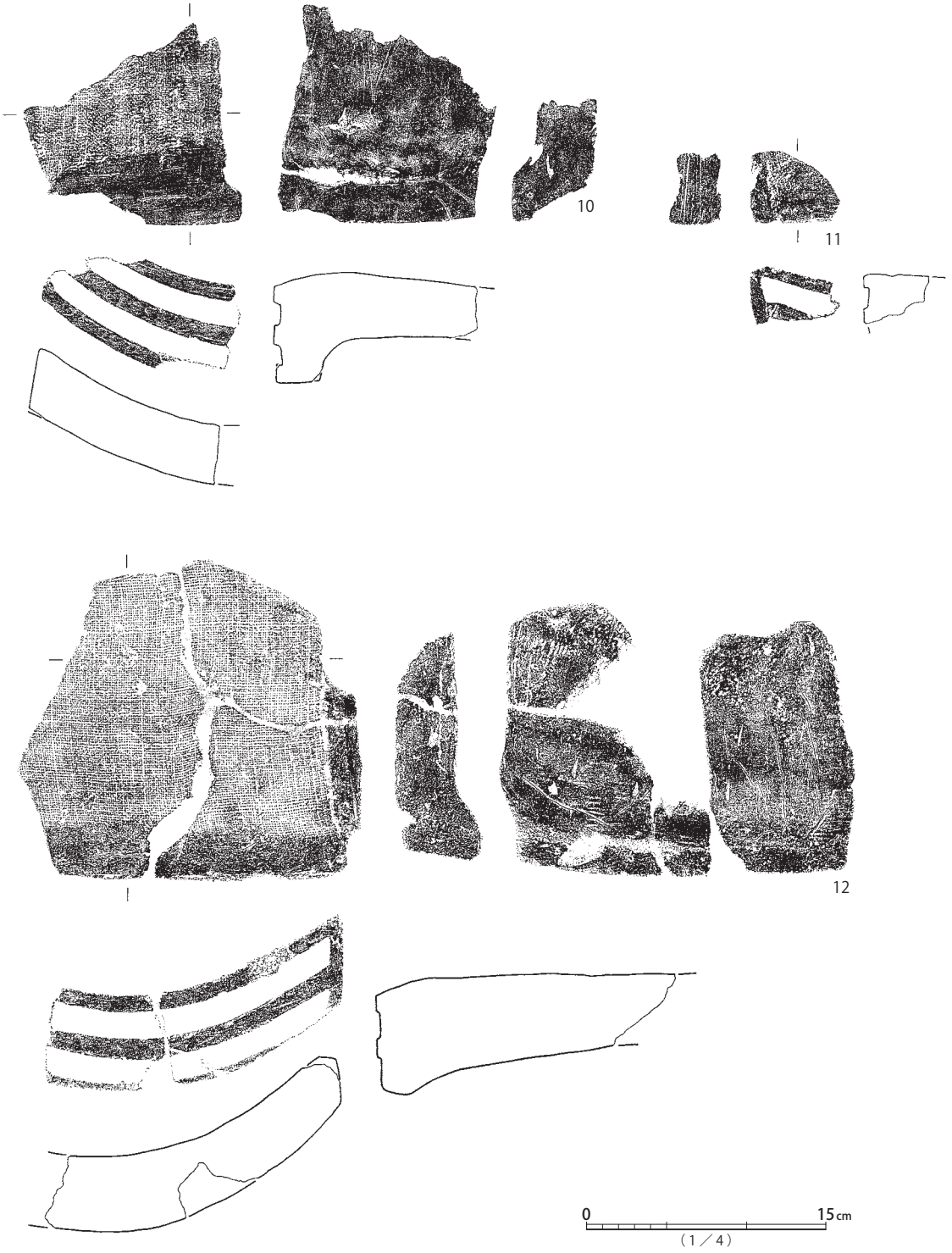


Fig.26　早稲田大学調査地区(2) 遺物

早稲田大学調査地区

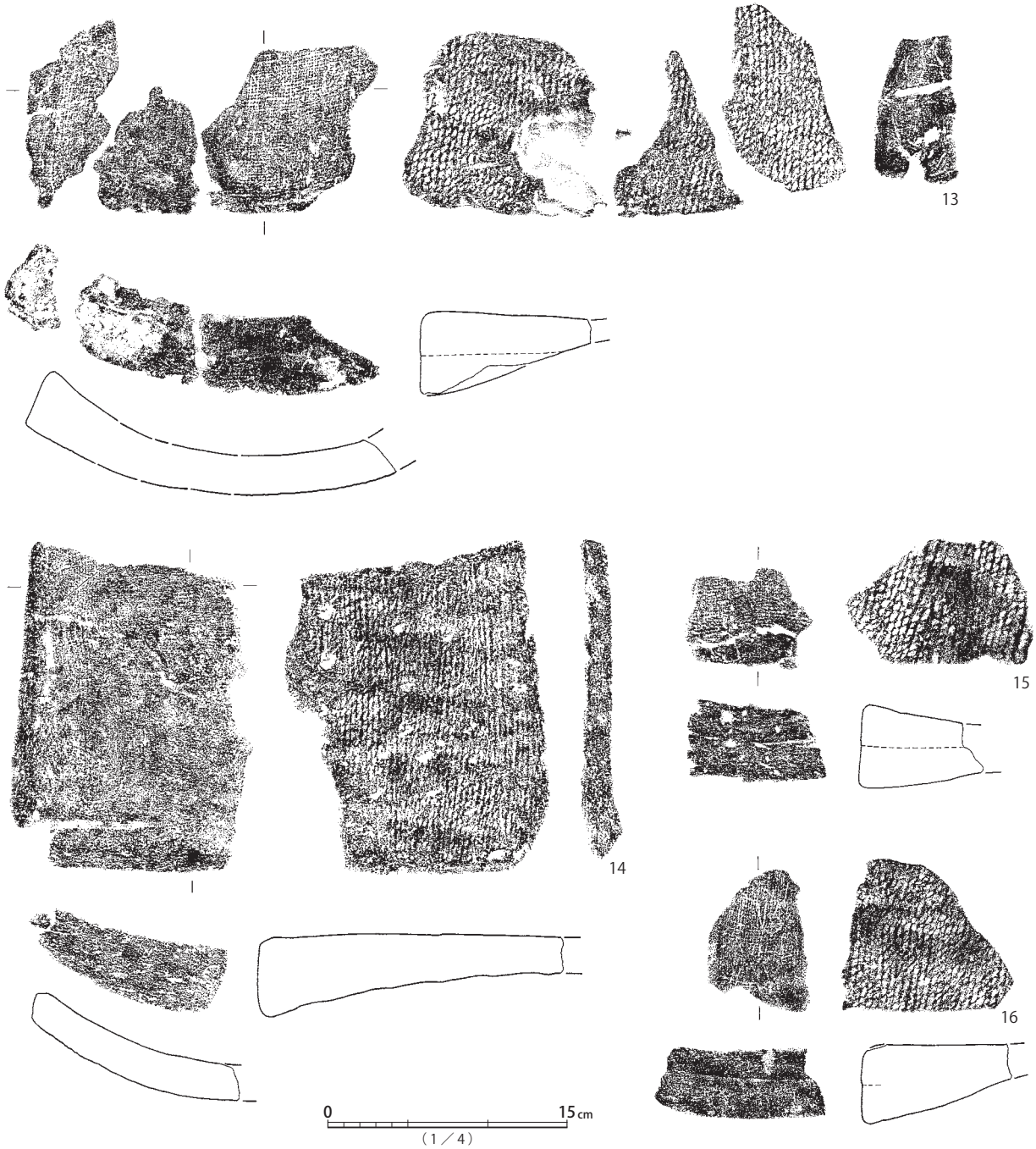


Fig.27　早稲田大学調査地区(3) 遺物

早稲田大学調査地区



Fig.28　早稲田大学調査地区(4) 遺物

早稲田大学調査地区

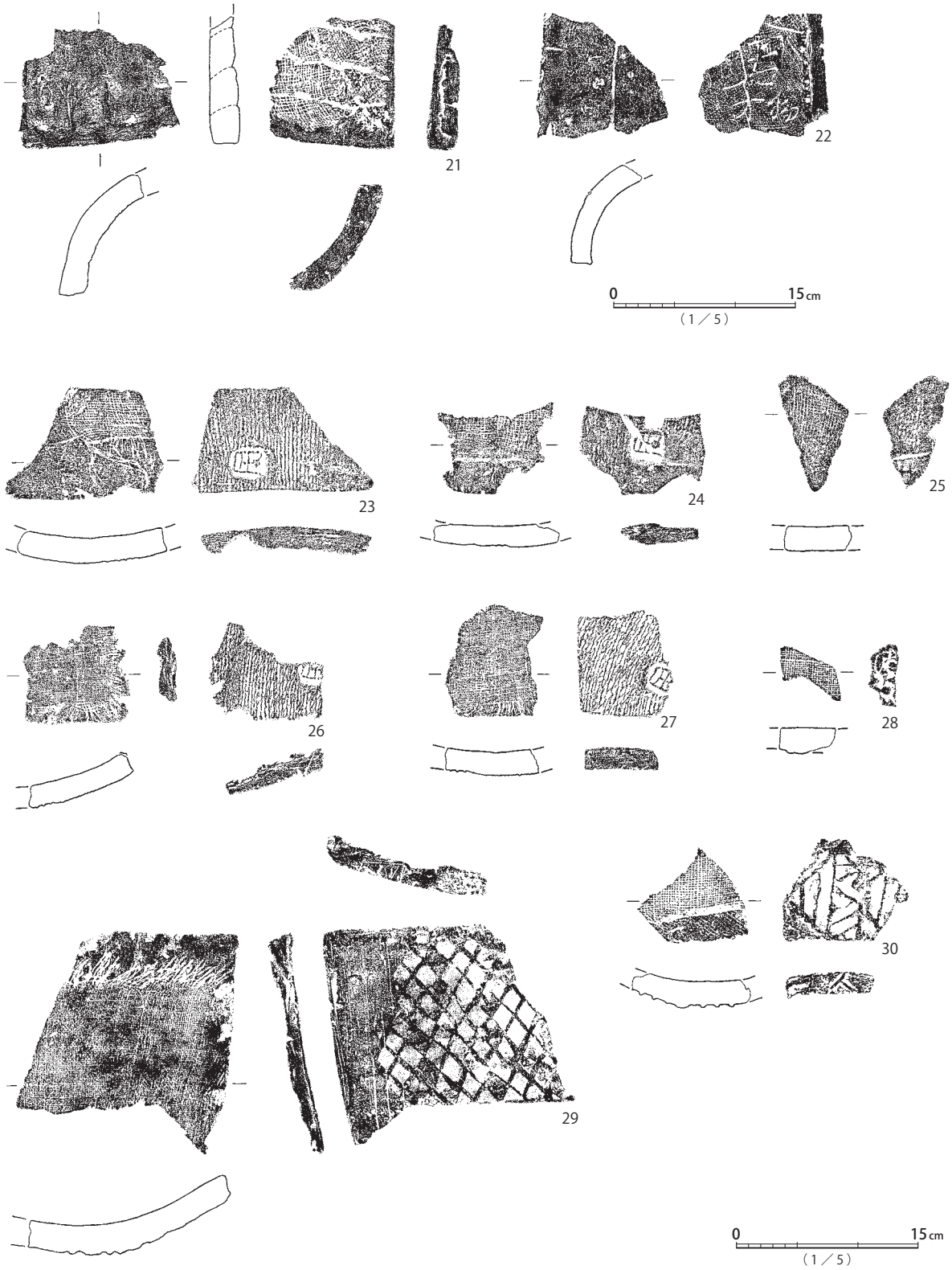


Fig.29　早稲田大学調査地区(5) 遺物

実測可能遺物は、1〜3はI型式、4はIV型式の均整唐草文軒平瓦である。1・2・4は西側回廊からの出土とされるが、注記には「金堂南西表採」とあり、出土位置は明確でない。また、3の注記にある「回廊址 1tre」も場所を特定することができない。

南大門 3064 号　(Fig.21〜23・31・34〜36、PL.16・17・20・215)〔僧 I 第 821・823・829〜834 図〕

早稲田大学調査地区及び南辺部HK−46を中心に位置する。掘立柱南大門3064号bと、これに切られる礎石建南大門3064号aに分けられる。礎石は検出されていないが、大型ピットに版築を施す坪掘地業が確認されている。また、門前には瓦敷遺構1753号が位置する。

規模は東西15.15m、南北6.06mを測る。間口5間、奥行き2間の建物で、主軸方位はN−3°−Wである。僧寺編年III期からVII期までは継続したものと考えられ、途中のある段階で掘立柱南大門3064号bに切り替わるが、時期は明確でない。

実測可能遺物には、早稲田大学による調査の際に出土したもの(Fig.21〜23)と南辺部調査の際に出土したもの(Fig.34〜36)がある。早稲田大学調査出土遺物のうち、1〜6は軒丸瓦で、1〜5はI型式の蓮華文、6はII型式の重圏文である。7〜12は軒平瓦で、7はI型式、8はIII型式の均整唐草文である。9〜12はいずれも重圏文で、脇区が破損するために明確でないが、段顎の9〜11はVIII型式、曲線顎の12はIX型式と考えられる。4・5は版築内からの出土である。

南辺部調査出土遺物のうち、1〜11は軒平瓦で、1〜4はI型式の均整唐草文、5〜7はVII型式の蕨手状唐草文、9はVIII型式の重圏文である。12・13は凸面に縄叩き目が残る丸瓦で、南田1号ないし4号窯の製品である。14〜16は平瓦で、15の凸面には縦方向ののち横方向の縄叩き目が残り、16は2種類の格子叩き目が組み合わされる。1はP10、2・7はP15からの出土である。17・18は報告漏れ資料で、17は砥石、18は板状石製品である。

瓦敷遺構 1753 号 a・b・c　(Fig.31・37〜50、PL.7・21〜24・215)〔僧 I 第 821・823・825 図〕

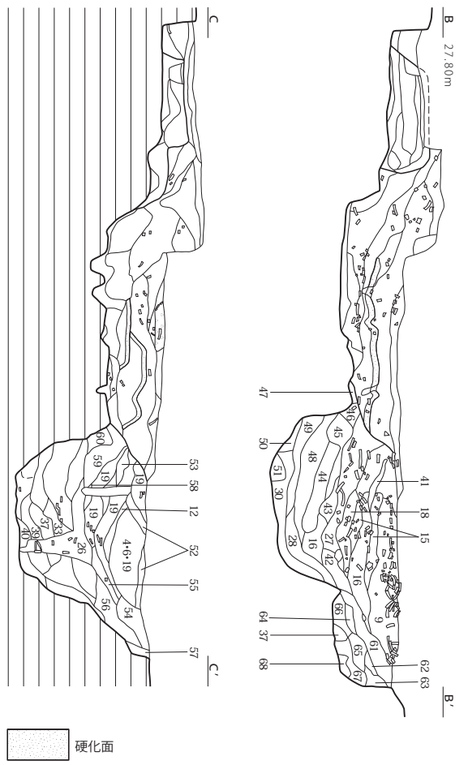
南辺部HKグリッドに位置する。南大門前広場に当たり、南大門正面に位置する1753号aから東側に、1753号b、1753号cの合計3地点で構成される。溝2164号と重複し、本遺構の方が古い。

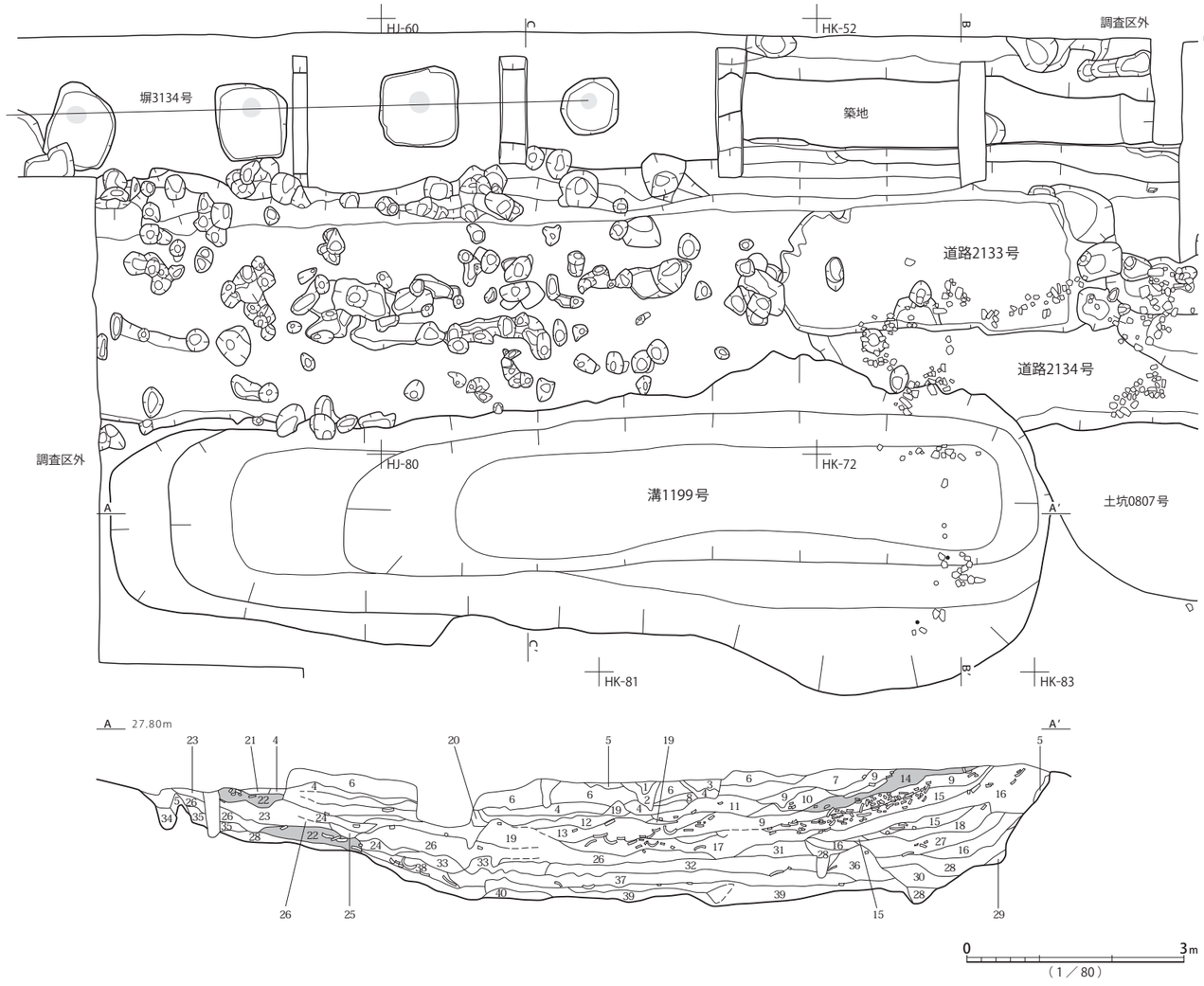
1753号bから出土した須恵器杯蓋と溝1199号出土資料が接合したほか、瓦溜1900号と同様に被熱発泡した瓦が含まれることから、これらの遺構と同時期の僧寺編年III〜IV−4期にかけての所産と考えられる。

実測可能遺物は1753号aとbから抽出され、1753号aはFig.37〜48、1753号bはFig.49・50に掲載した。1753号a出土遺物のうち、1〜12は軒平瓦で、1〜11はI型式の均整唐草文、12はVIII型式の重圏文である。13〜15は丸瓦で、いずれも玉縁式である。16は平瓦、17は隅切平瓦で、17は広端左隅部が切り落とされる。

1753号b出土遺物のうち、1はIII型式の重圏文軒丸瓦、2〜5はI型式の均整唐草文軒平瓦である。

溝1199号、道路2133・2134号



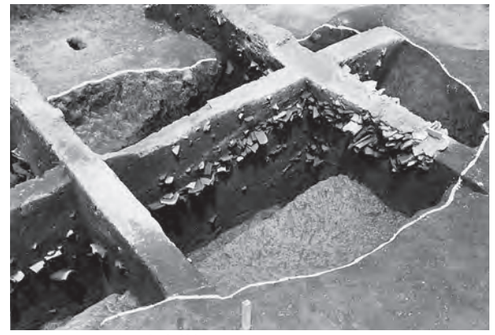




ph.1　1199号　出土状況



ph.2　1199号　出土状況



ph.3　1199号　出土状況

溝1199号

1　暗褐色土　粘土・ロームを含む。
2　暗褐色土　暗褐色土・小ロームブロック・ロームの混合。
3　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
4　暗褐色土　黒色土とロームブロックの混合。硬くしまる。
5　褐色土　ロームを主体とする。
6　明褐色土　ソフトロームとロームブロックの混合で、黒色粒が混じる。
7　暗褐色土　瓦粉・粘土粒・ローム粒を含む。
8　暗褐色土　明褐色土との混合。
9　暗褐色土　粘土を多量に含む。
10　暗褐色土　粘土粒を多量に含み、瓦粉・ローム粒が混じる。
11　暗褐色土　黒褐色土・ローム・小ロームブロックの混合。
12　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。硬くしまる。
13　暗褐色土　小ロームブロック・粗いローム粒を多く含む。硬くしまる。
14　暗乳褐色土　粘土を主体とする。
15　暗褐色土　粘土を多量に含む。
16　暗褐色土　黒褐色土・ローム・ロームブロックの混合。
17　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、黒褐色土も混じる。
18　暗褐色土　粘土を多量に含み、ソフトローム・粗いローム粒が混じる。
19　暗褐色土　ローム微粒を多量に含む。
20　暗褐色土　ローム粒との混合。しまり弱い。
21　暗褐色土
22　乳褐色土　粘土を主体とする。
23　黒色土　黒褐色土との混合で、ローム微粒が混じる。
24　黒褐色土　小ロームブロックを少量含む。
25　黒褐色土　小ロームブロック・粗いローム粒を少量含む。しまりあり。
26　黒褐色土　黒色土との混合で、粗いローム粒を多量に含み、小ロームブロックも少量混じる。しまりあり。
27　暗褐色土　小ロームブロックと粘土粒を多量に含む。
28　黒褐色土　粗いロームブロックを含む。
29　褐色土　ロームを主体とし、暗褐色粒が混じる。しまり弱い。
30　黒色土　ローム粒を多量に含み、小ロームブロックも少量混じる。
31　黒色土　ローム・ロームブロックと交互に堆積する。
32　暗褐色土　黒褐色土との混合で、ロームブロックも少量混じる。硬くしまる。
33　暗褐色土　黒褐色土との混合で、粗いローム粒が多量に混じる。
34　黒褐色土　ロームブロックとの混合。しまりなし。
35　黒色土　黒褐色土との混合で、ローム微粒も混じる。しまりあり。
36　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。
37　暗褐色土　黒褐色土を含む。
38　暗褐色土　黒褐色土との混合で、粗いローム粒を多量に含み、粘土粒も混じる。
39　褐色土　ロームを主体とする。硬くしまる。
40　黒色土　ロームを含む。
41　暗灰褐色土　黒褐色土・粘土粒を少量含む。
42　黒褐色土　黒色土を少量含み、ローム粒・粘土粒もわずかに混じる。
43　暗褐色土　ローム粒を含み、小ロームブロック・粘土粒もわずかに混じる。
44　暗灰褐色土　ローム粒・粘土粒を多量に含む。
45　黒褐色土　粘土粒を多量に含み、ローム粒が混じる。
46　暗褐色土　黒褐色土・小ロームブロック・ローム粒を少量含む。
47　ロームブロック　ローム粒を多量に含み、黒褐色土が混じる。
48　黒褐色土　暗褐色土・ローム粒を少量含み、下部には粘土微粒が混じる。
49　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、小ロームブロックが混じる。
50　黒褐色土　ローム粒を多量に含み、褐色土も混じる。
51　ロームブロック　黒色土・暗褐色土・褐色土を含む。
52　黒褐色土　ローム粒との混合。
53　黒褐色土　ロームブロックを含む。
54　黒色土　粗いローム粒を多量に含む。
55　黒色土　ローム粒を含む。
56　黒色土　暗褐色土・ローム粒を含む。
57　暗褐色土　ロームを含む。
58　黒褐色土　暗褐色粒・ロームを多量に含む。
59　黒色土　粗いローム粒・黒褐色土を多量に含む。
60　黒褐色土　暗褐色粒・ロームを多量に含む。
61　暗褐色土　黒褐色土・ローム粒を含み、粘土粒もわずかに混じる。
62　黒褐色土　暗褐色土・ローム粒を少量含む。
63　暗褐色土　黒褐色土・ローム粒を含む。
64　黒褐色土　ローム粒を含む。
65　黒色土　黒褐色土を含み、ローム粒も少量混じる。
66　黒褐色土　暗褐色土・ローム粒を少量含み、小ロームブロックもわずかに混じる。
67　黒褐色土　ローム粒を含み、褐色土も少量混じる。
68　褐色土　黒褐色土をわずかに含む。

Fig.30　溝1199号(1) 遺構・調査状況、道路2133号(1) 遺構、道路2134号(1) 遺構

南大門 3064 号、瓦敷遺構 1753 号a･b･c、溝 2164 号、道路 2411 号



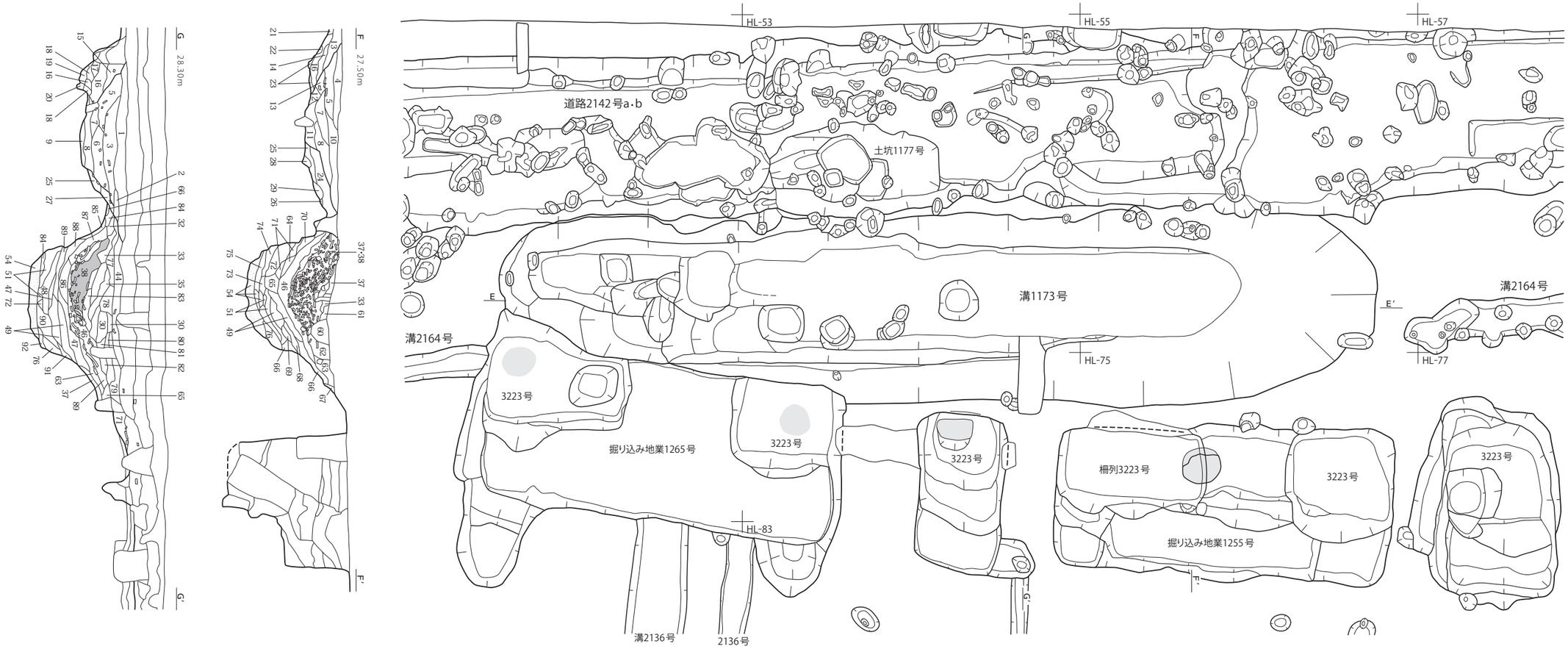
ph.1　出土状況

瓦敷遺構1753 号 a

1　黒褐色土　黒色土ブロック・ローム粒・粘土微粒を含む。
2　黒褐色土　暗褐色土との混合で、ローム・焼土粒も多量に混じる。
3　暗褐色土　黒色粒を多く含み、瓦が集中出土する。
4　黒褐色土　IIａと粘土の混合。
5　暗褐色土　黒色粒を多く含む。しまり強い。

0　3m
（1／80）

Fig.31　南大門3064号(1) 遺構･調査状況、瓦敷遺構1753号a･b･c(1) 遺構、溝2164号(1) 遺構、道路2411号(1) 遺構

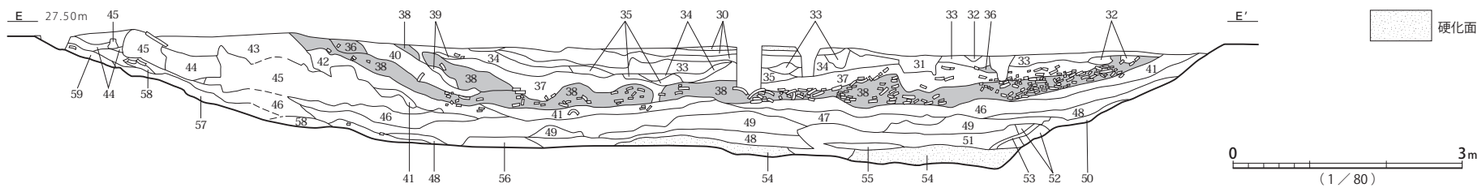


道路2142 号b（新）

1　暗褐色土　ローム粒を少量含み、褐色土もブロック状に混じる。
2　暗褐色土
3　暗褐色土　ローム粒を含む。
4　黒褐色土　暗褐色土をブロック状に含む。
5　黒褐色土
6　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。
7　黒褐色土　ローム粒を含む。
8　黒褐色土　ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。
9　黒色土　ロームブロックを含む。
10　黒褐色土　ローム粒を少量含む。
11　黒色土　ロームブロックを少量含む。
12　黒褐色土　ローム粒を少量含む。しまりあり。

道路2142 号b（旧）

13　黒褐色土　ローム粒を少量含む。
14　黒褐色土
15　黒褐色土　褐色土を含み、ローム粒も少量混じる。
16　黒色土　ローム粒を含む。
17　黒褐色土　ローム粒を多量に含む。
18　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
19　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。
20　褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
21　黄褐色土
22　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。
23　黒褐色土　ローム粒を多量に含み、ロームブロックも混じる。



道路2142 号a

24　黒褐色土
25　黒色土　ローム粒を含む。
26　黒褐色土　ローム粒を多量に含み、ロームブロックも混じる。
27　黒褐色土　ローム粒を含む。
28　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。
29　黒色土　ローム粒を少量含む。

溝1173 号

30　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
31　暗褐色土　黒褐色土中に、ローム粒・粘土粒を含む。
32　黒褐色土
33　黒褐色土　粘土細粒を含む。
34　暗褐色土　黒褐色土中に、ローム粒・粗い粘土粒・瓦粉・炭を含む。
35　黒褐色土　ローム・ローム粒・黒褐色土・黒色粒・粘土粒を含む 。
36　暗褐色土　粘土を主体とし、黒色微粒も多量に混じる。
37　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
38　暗乳褐色粘土　粘土を主体とし、瓦片も多量に混じる。
39　暗褐色土　黒褐色土とロームの混合。
40　黒褐色土　黒色土を多く含み、粘土が混じる。
41　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含み、黒色粒もわずかに混じる。
42　暗褐色土　暗褐色微粒と粘土の混合で、小ロームブロックが混じる。
43　暗褐色土　ロームブロックとの混合。
44　ロームブロック　崩れたロームブロック。
45　ロームブロック　粗いロームブロックを主体とする。
46　黒色土　粘土粒・ローム粒を少量含む。粘性あり。
47　暗褐色土　黒色土を少量含み、小ロームブロックも混じる。
48　黒褐色土　ローム粒・黒色土を含む。
49　暗褐色土　ロームブロックを少量含み、ローム粒も混じる。
50　褐色土　ローム・ローム粒・ロームブロック・暗褐色土との混合。
51　暗褐色土　ロームブロック・黒色粒との混合。
52　黒褐色土　ローム粒を多く含む。
53　褐色土　ローム粒を主体とし、帯状に含む。
54　褐色土　粗いロームブロックを主体とする。しまり強い。
55　暗褐色土　ロームを多量に含み、ロームブロックも混じる。
56　黒褐色土　ローム粒・黒色土を含む。48より明るい。
57　暗褐色土　小ロームブロックを含む。
58　褐色土　ロームを主体とする。
59　暗褐色土　ローム粒を含む。
60　黒褐色土　ローム粒を多量に含み、ロームブロックも混じる。
61　黒色土　ローム粒を含む。
62　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。

Fig.32　溝1173号(1) 遺構、溝2164号(2) 遺構、道路2142号a・b(1) 遺構

溝 1173号

63　黒色土　　ローム粒を少量含む。
64　暗灰褐色土　粘土粒を含む。粘性あり。
65　黒褐色土　　ローム粒を少量含む。
66　暗褐色土　　ローム粒を含む。
67　暗褐色土　　ローム・ローム粒を含む。
68　暗褐色土　　ローム粒を含み、黒色土も少量混じる。
69　暗褐色土　　ローム粒を多量に含む。
70　黒褐色土　　ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。
71　黒褐色土　　ローム粒を含む。
72　暗褐色土
73　黒褐色土　　黒色土・ローム粒を少量含む。
74　黒褐色土　　黒色土・小ロームブロックを少量含む。
75　暗褐色土　　ロームブロックを含む。
76　暗褐色土　　ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。
77　黒褐色土　　ローム細粒を含む。
78　黒褐色土　　ローム粒・ロームブロックを含む。
79　黒色土　　ローム粒を含む。
80　黒褐色土
81　黒褐色土　　ローム粒を少量含む。
82　黒色土　　ローム粒を少量含む。
83　黒褐色土　　ローム・ローム粒・黒色粒・粘土粒との混合。
84　暗褐色土　　ローム粒を少量含む。
85　黒褐色土　　ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。
86　暗褐色土　　ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
87　黒褐色土　　ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
88　灰褐色土　　粘土粒を含む。
89　黒色土
90　暗褐色土　　ローム粒・ロームブロックを含み、黒色土も少量混じる。
91　褐色土　　ローム粒を含む。
92　黒褐色土　　黒色土を含み、ローム粒も少量混じる。


ph.1　出土状況


ph.2　出土状況


ph.3　出土状況


ph.4　出土状況

Fig.33　溝1173号(2) 調査状況

南大門 3064 号



Fig.34　南大門3064号(2) 遺物

南大門 3064 号

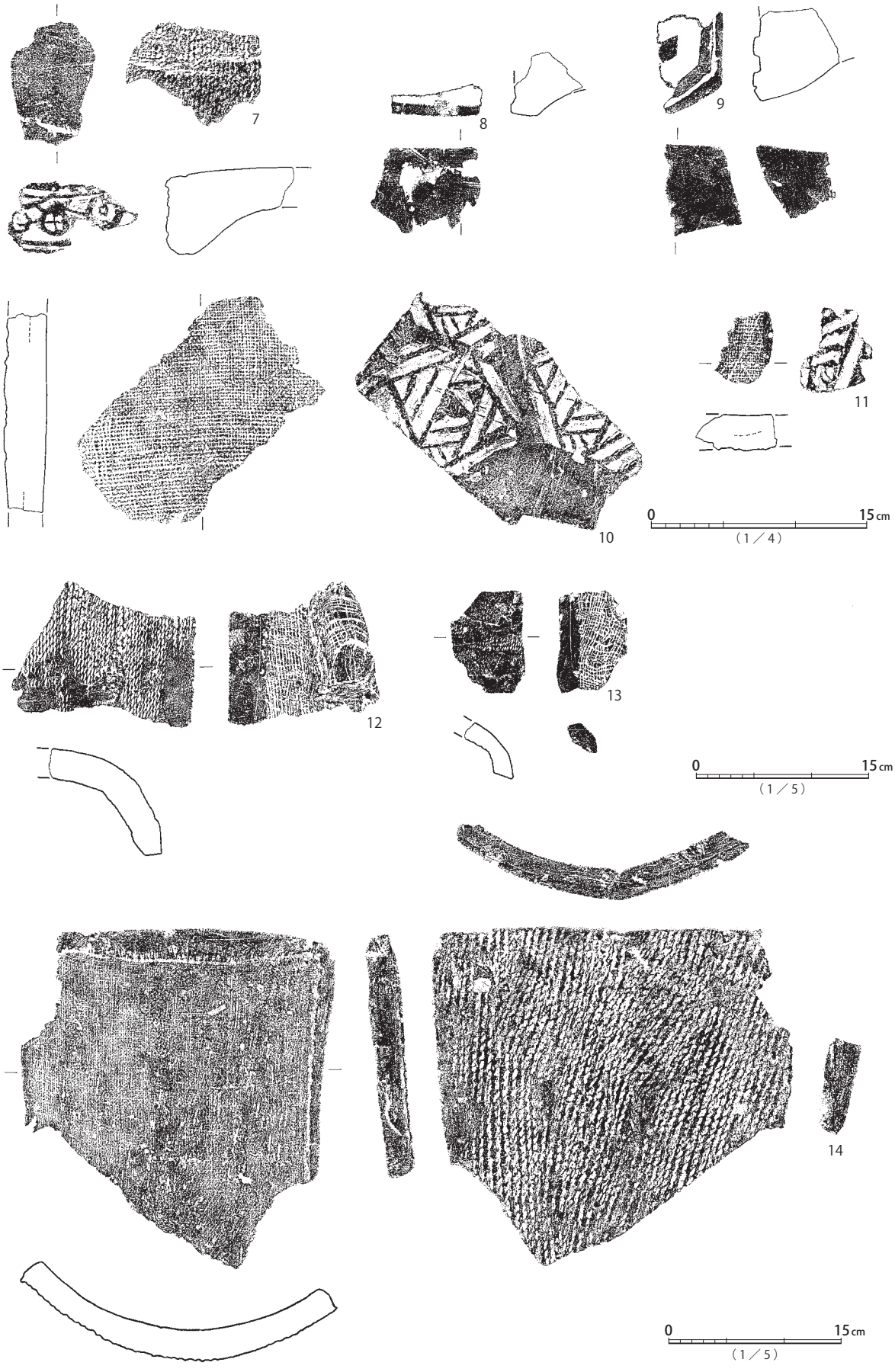


Fig.35　南大門3064号(3) 遺物

南大門 3064 号

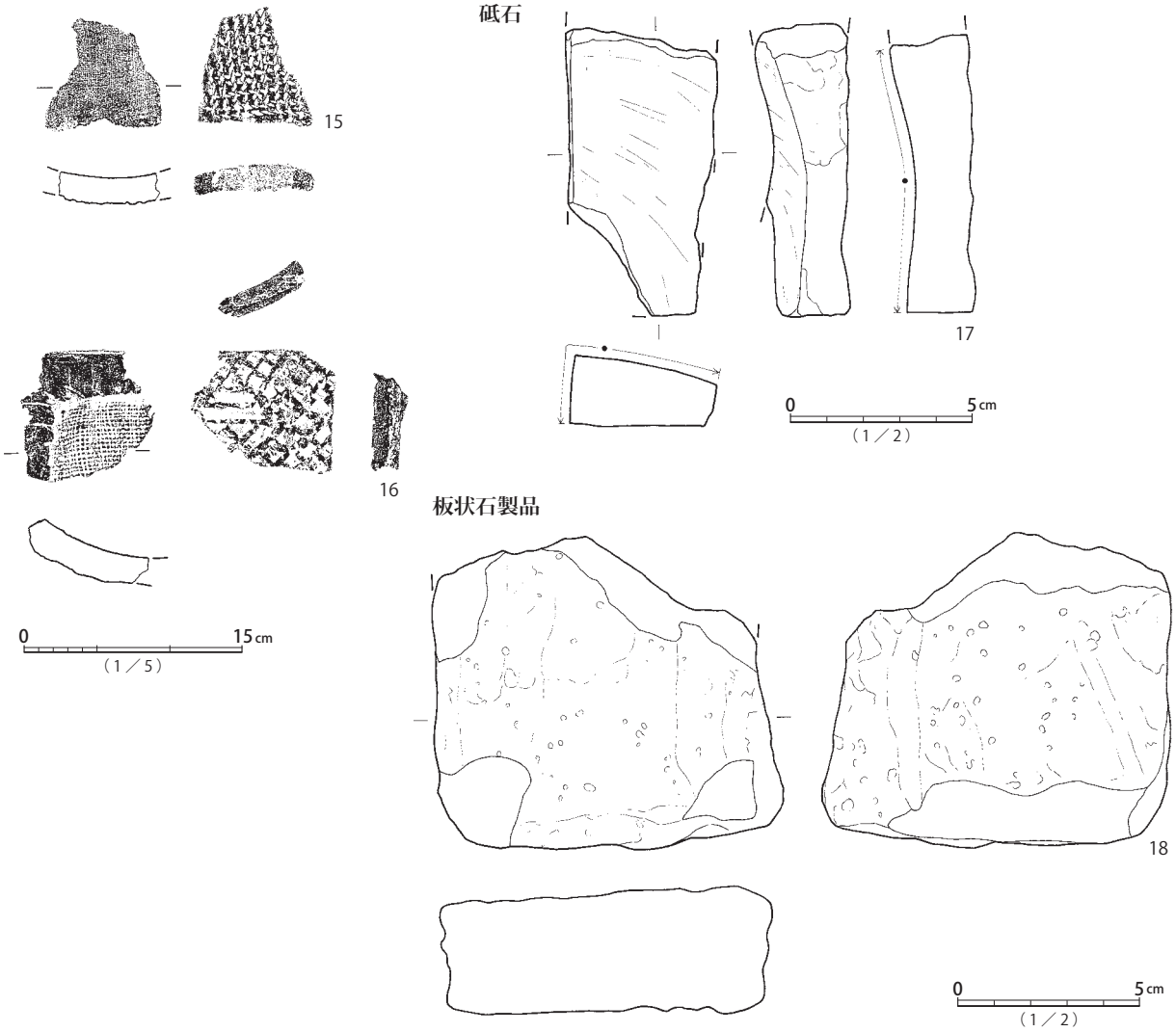


Fig.36　南大門3064号(4) 遺物

瓦敷通路 2414 号　（Fig.51・52、PL.24・224）〔僧 I 第 124・125 図〕

薬師堂地区（セ118）LK−13を中心に位置する。瓦片が敷き詰められ、周辺の土が硬化することから、金堂と講堂を結ぶ通路と考えられる。近世薬師堂の基壇と重複し、本遺構の方が古い。

主軸方位は、講堂と同じくN−6°−E程度を測るものと推定したが、通路縁端部が部分的に検出されているに過ぎないことから、明確でない。僧寺編年II期以降の所産と考えられ、出土する土器類から、11 世紀代まで通路が機能した可能性がある。

実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2・3は平瓦、4は円盤状瓦製品で、いずれも1トレンチからの出土である。2の凹面には「〔奉カ〕伏」の線刻文字が認められ、3の凸面にはまばらな格子叩き目が残る。

瓦敷遺構 1753号a

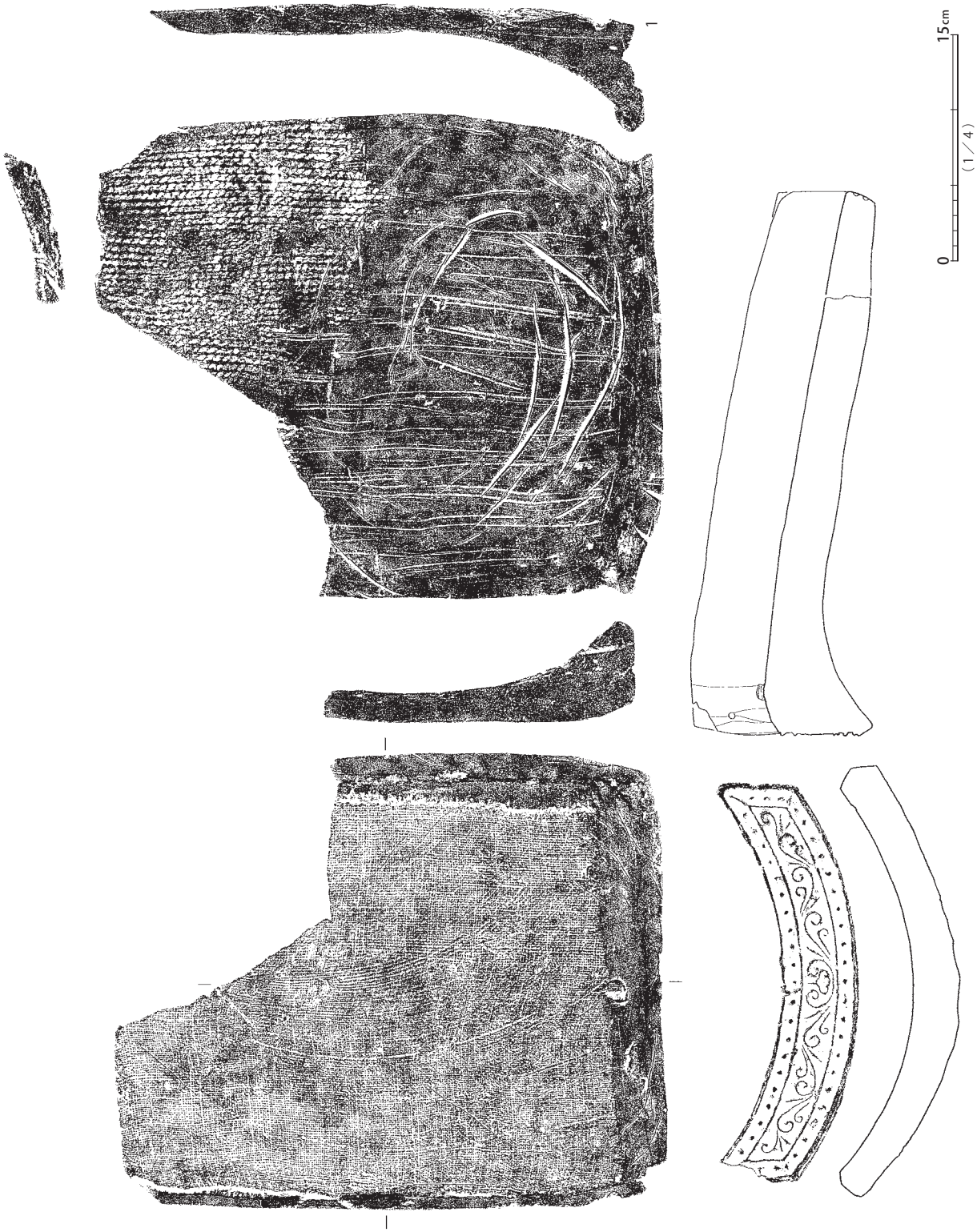


Fig.37　瓦敷遺構1753号a(2) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

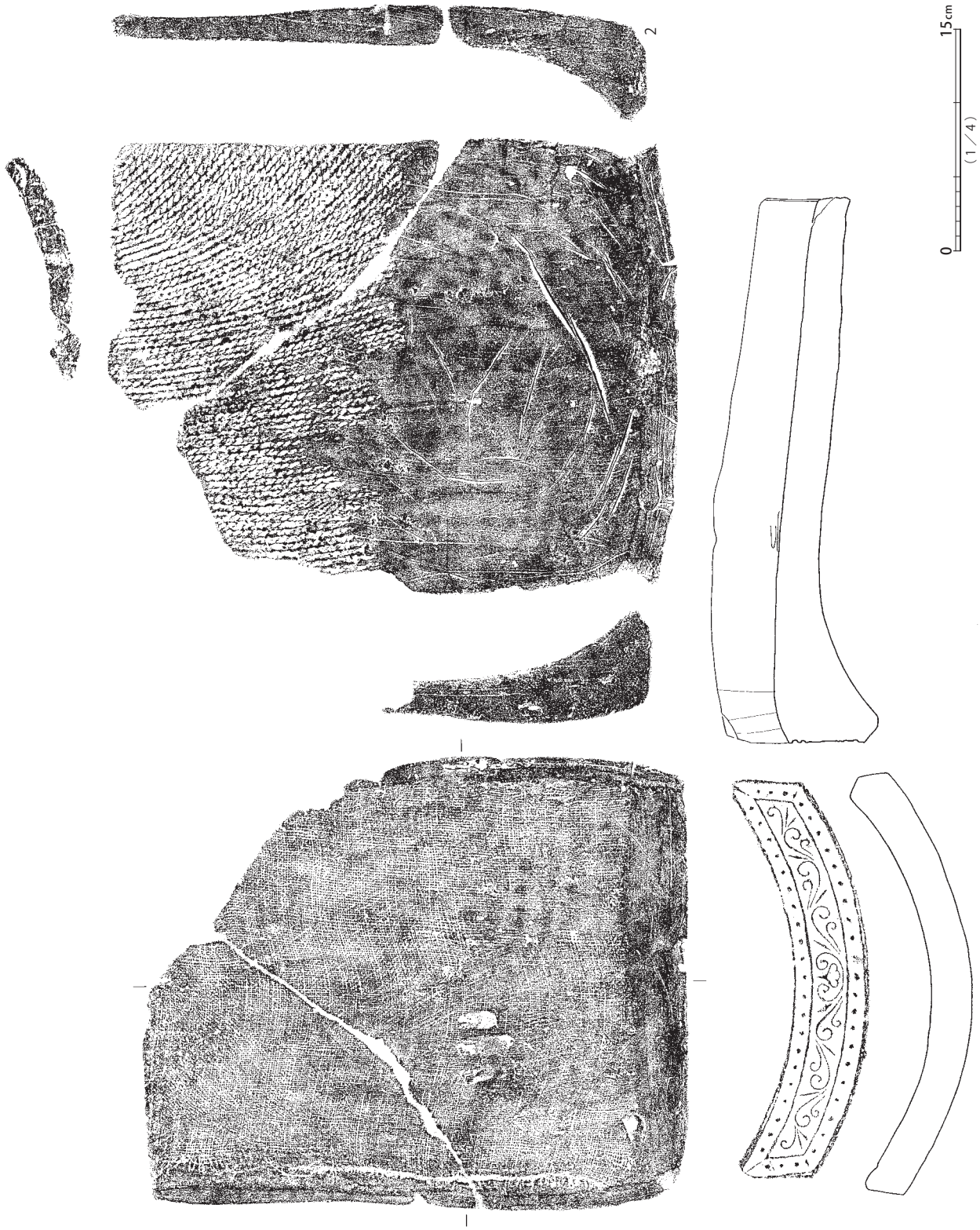


Fig.38　瓦敷遺構1753号a(3) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

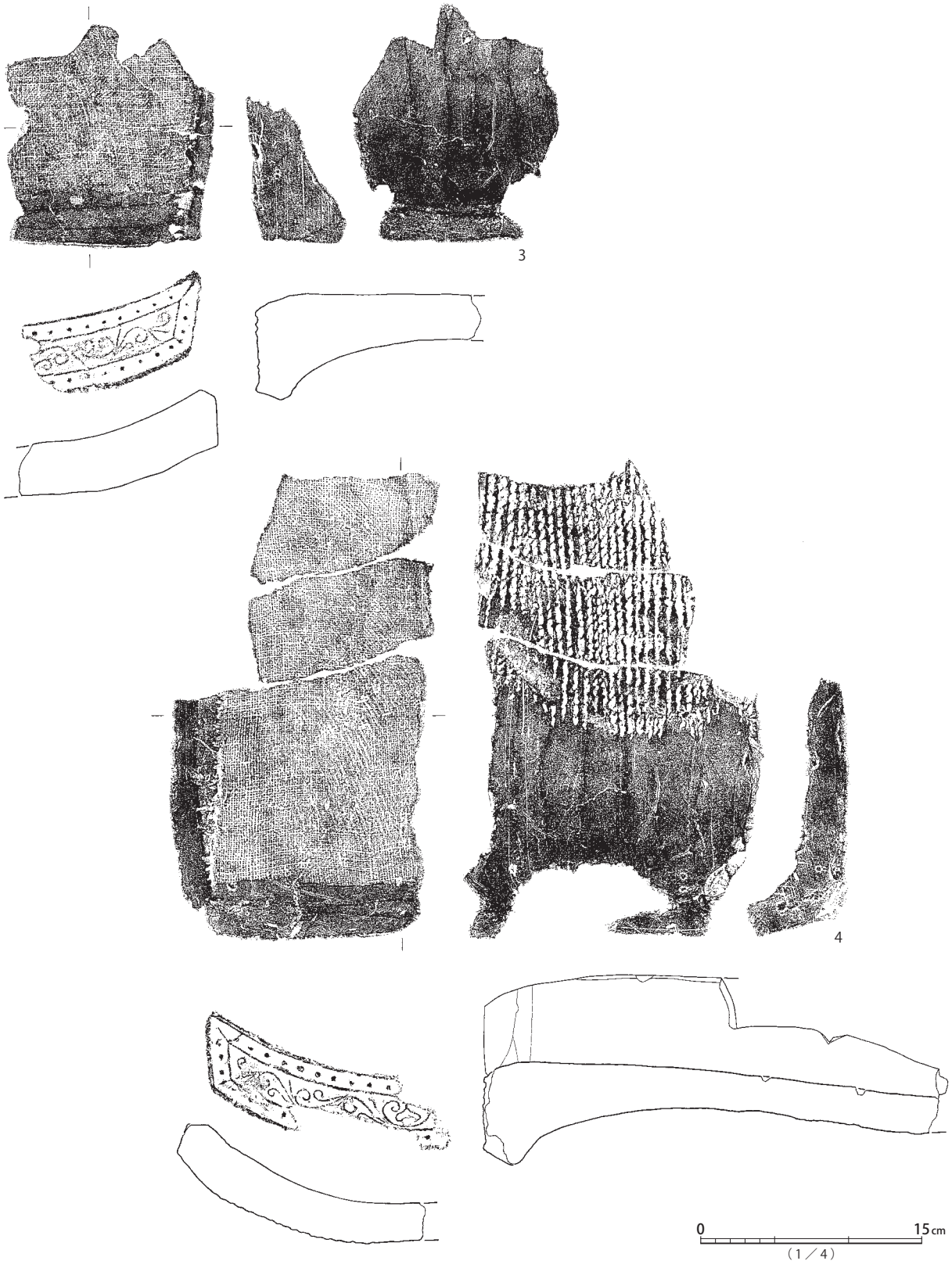


Fig.39　瓦敷遺構1753号a(4) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

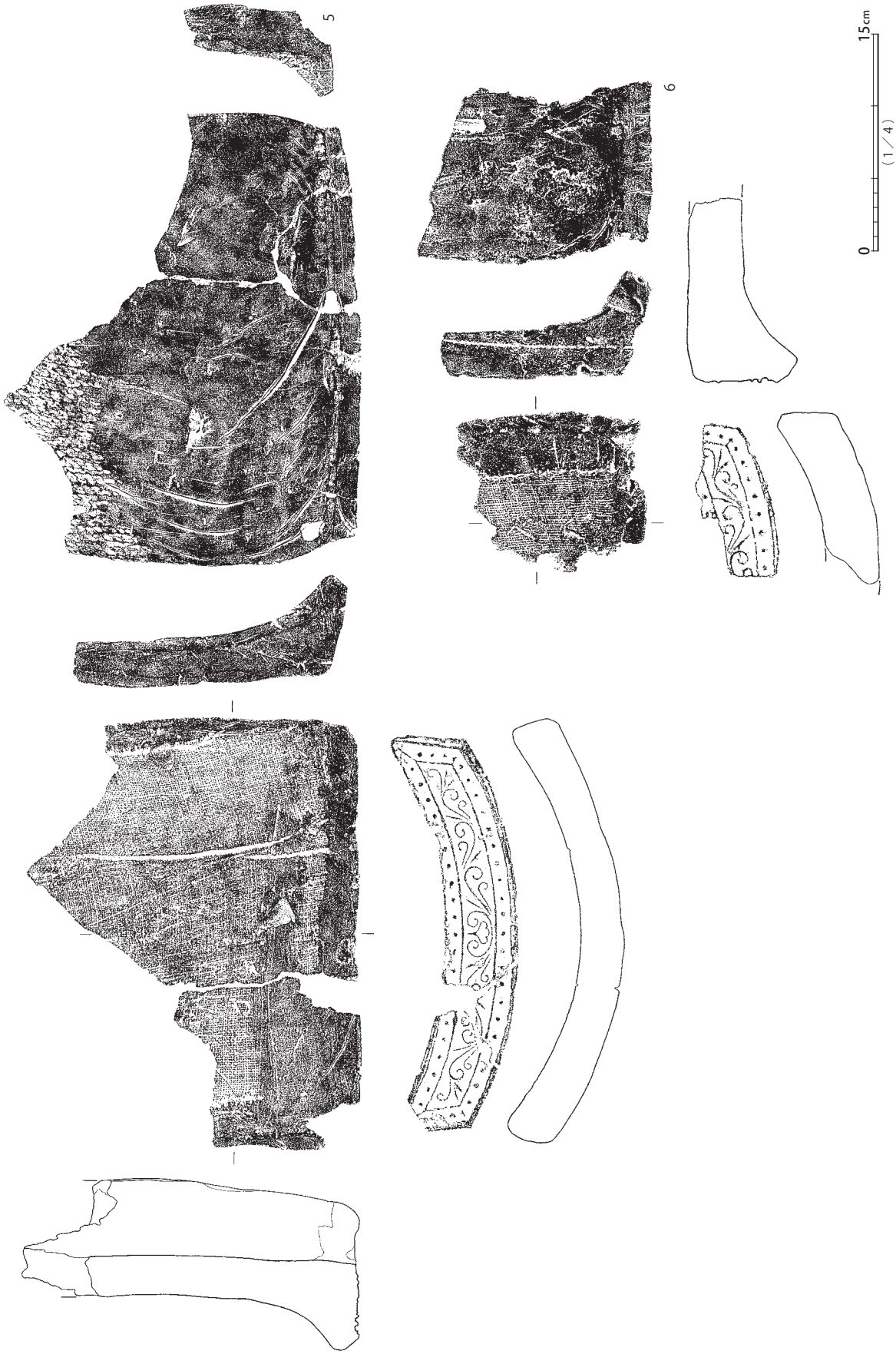


Fig.40　瓦敷遺構1753号a(5) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

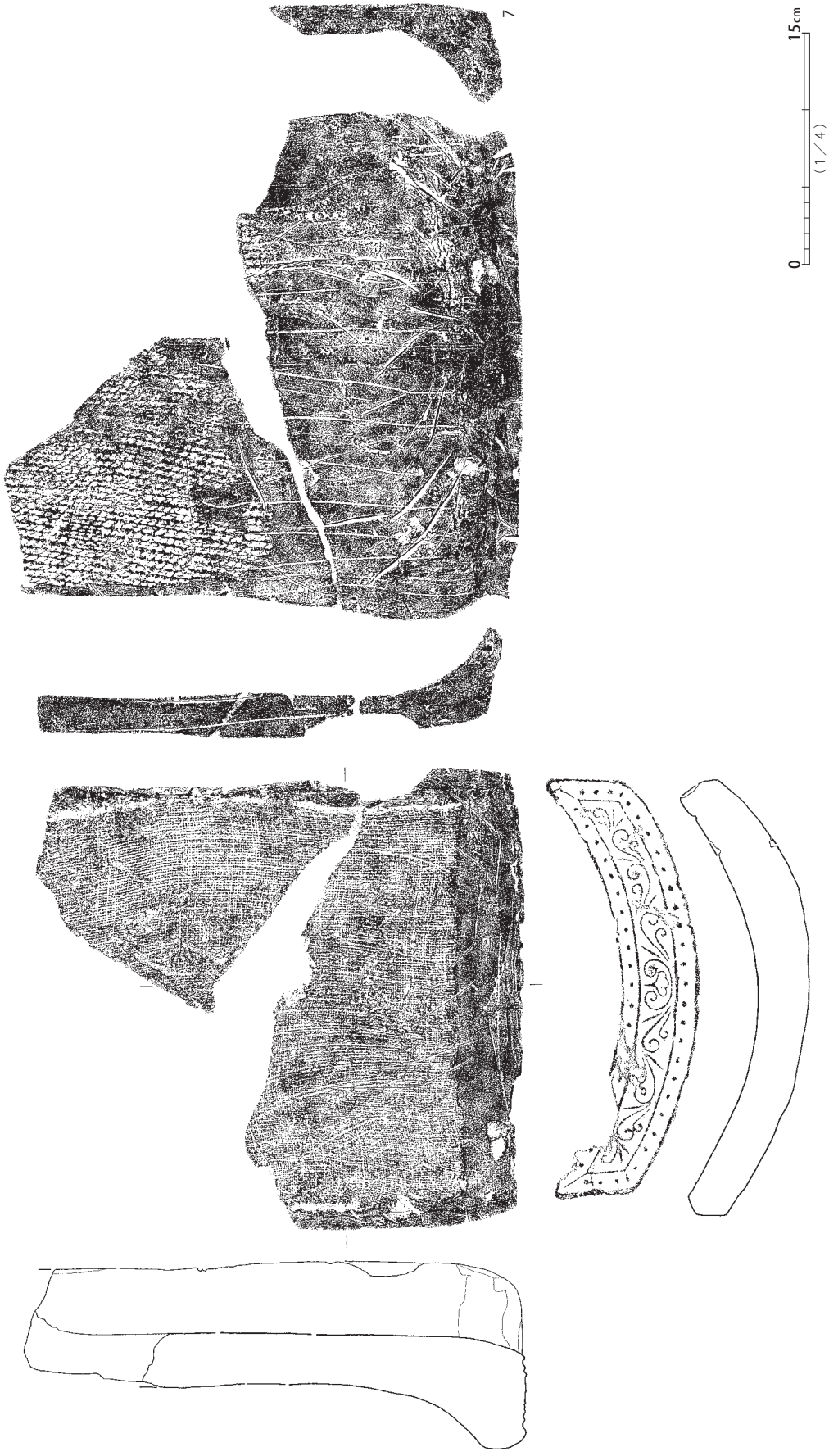


Fig.41　瓦敷遺構1753号a(6) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

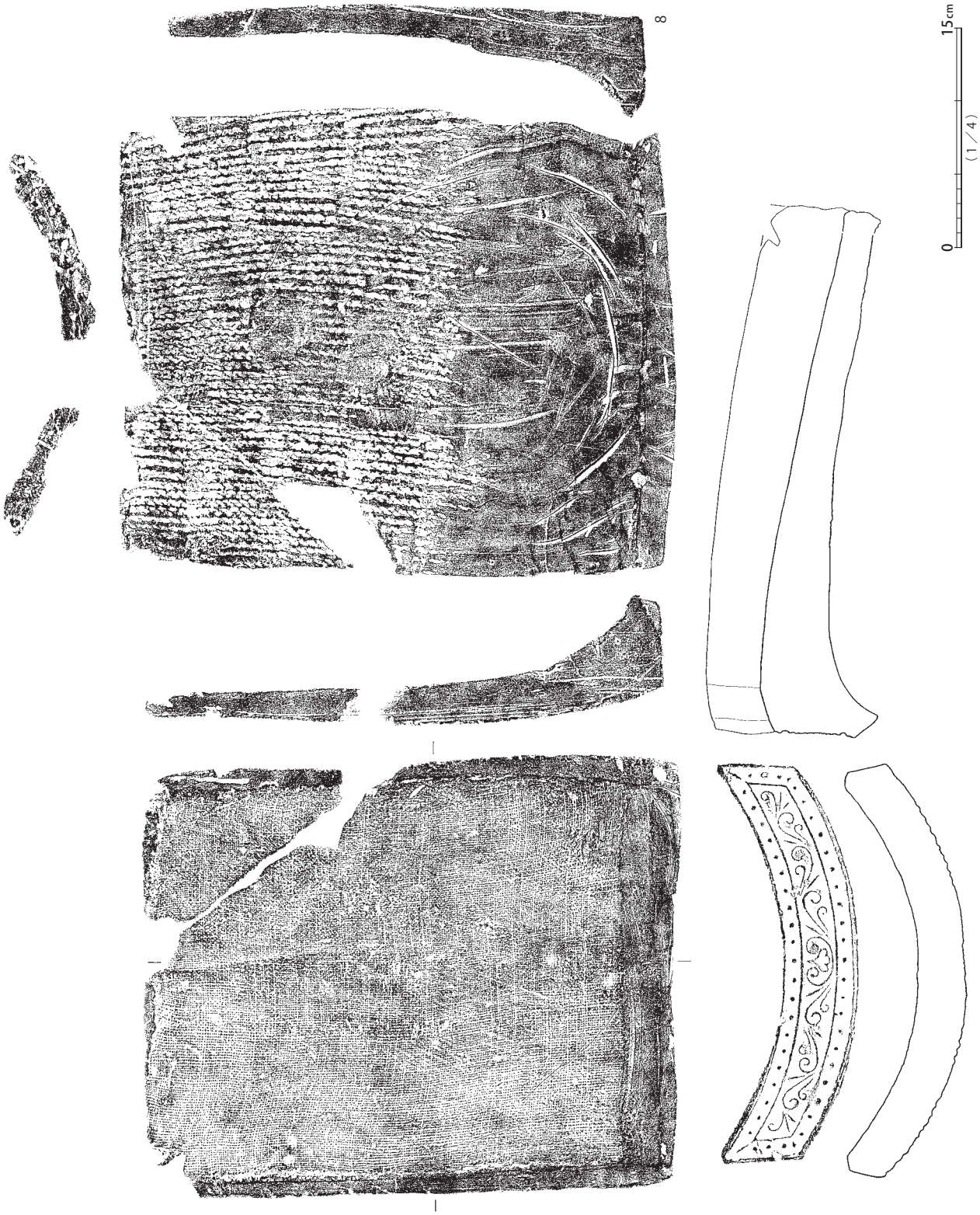


Fig.42　瓦敷遺構1753号a(7) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

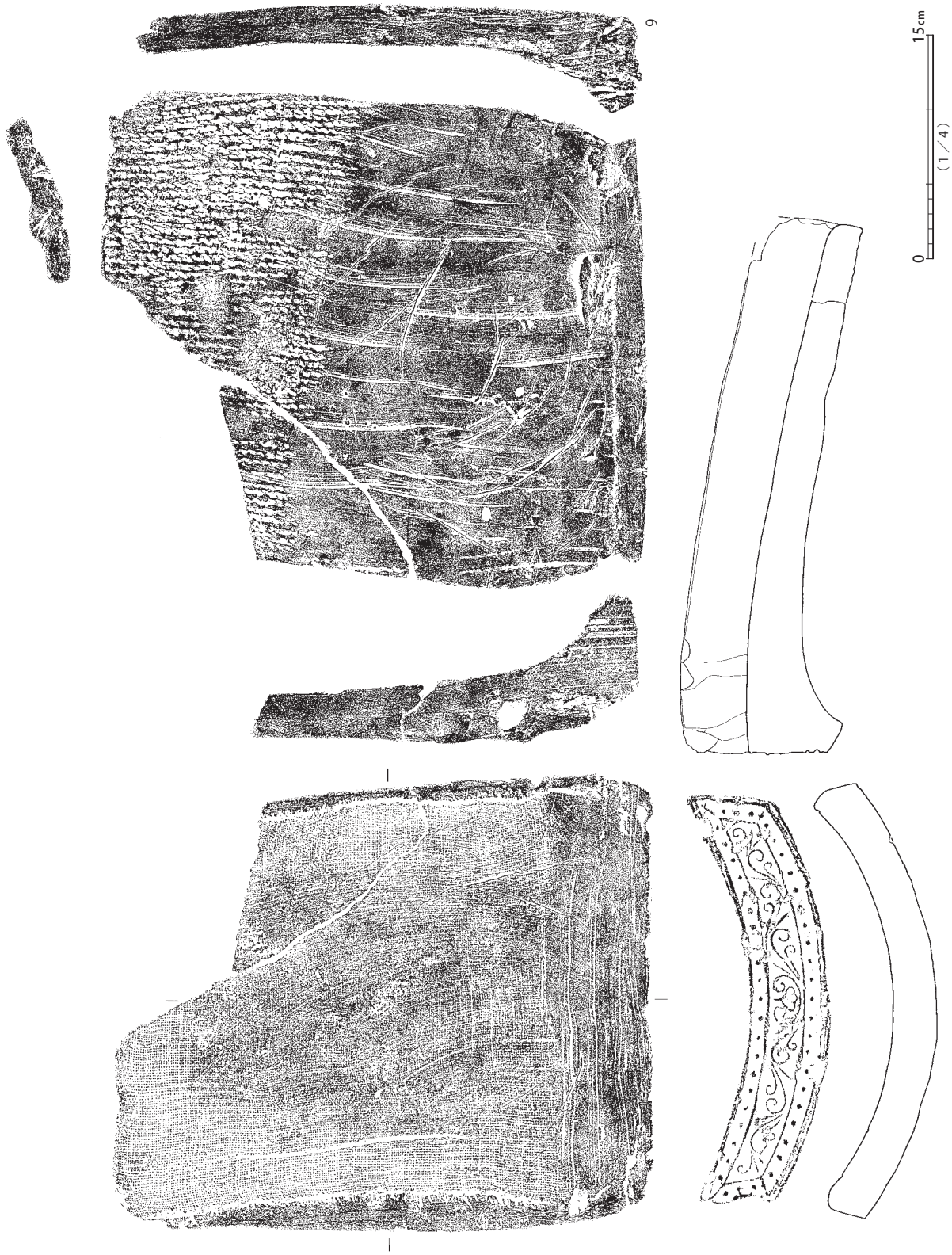


Fig.43　瓦敷遺構1753号a(8) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

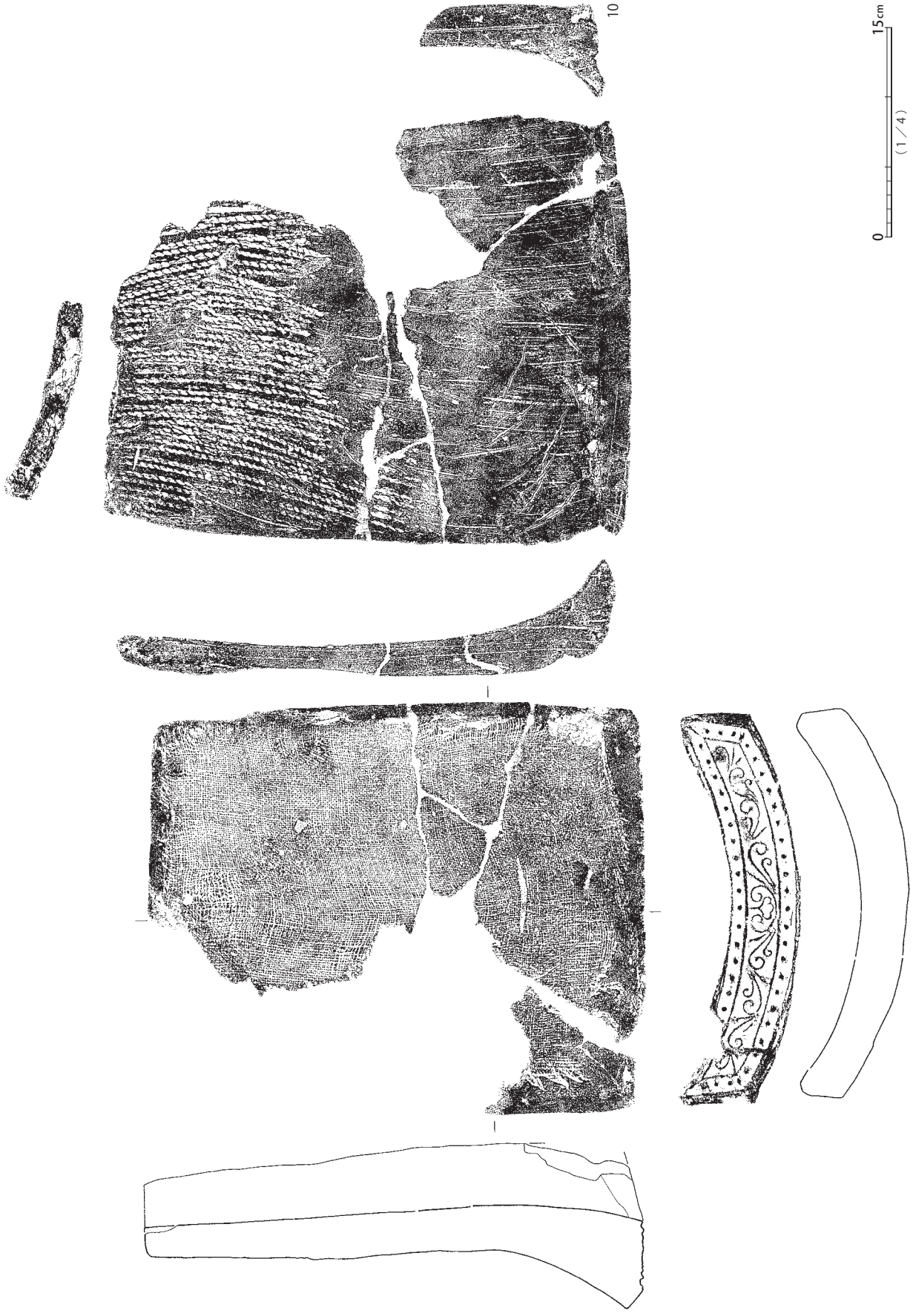


Fig.44　瓦敷遺構1753号a(9) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

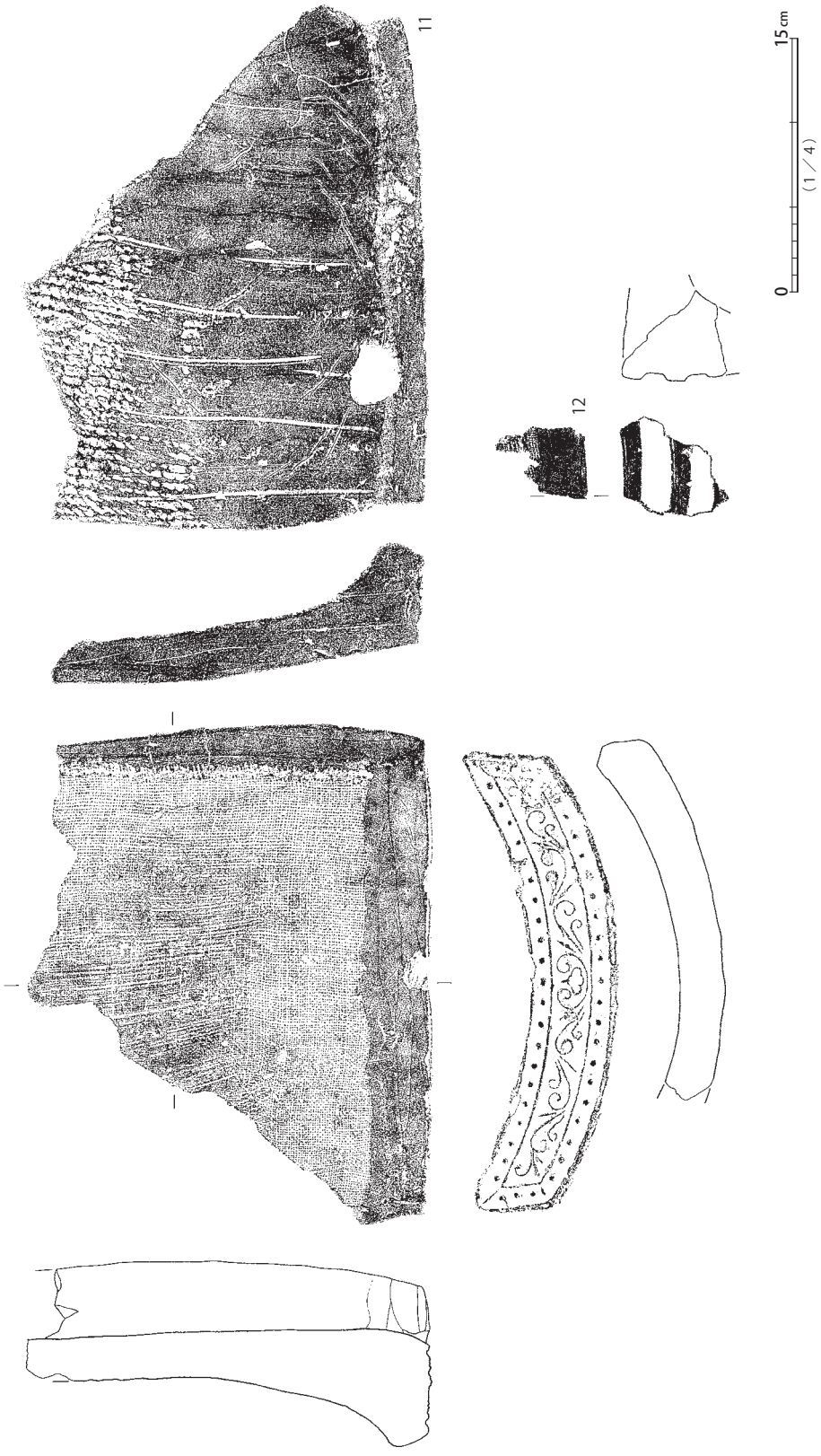


Fig.45　瓦敷遺構1753号a(10) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

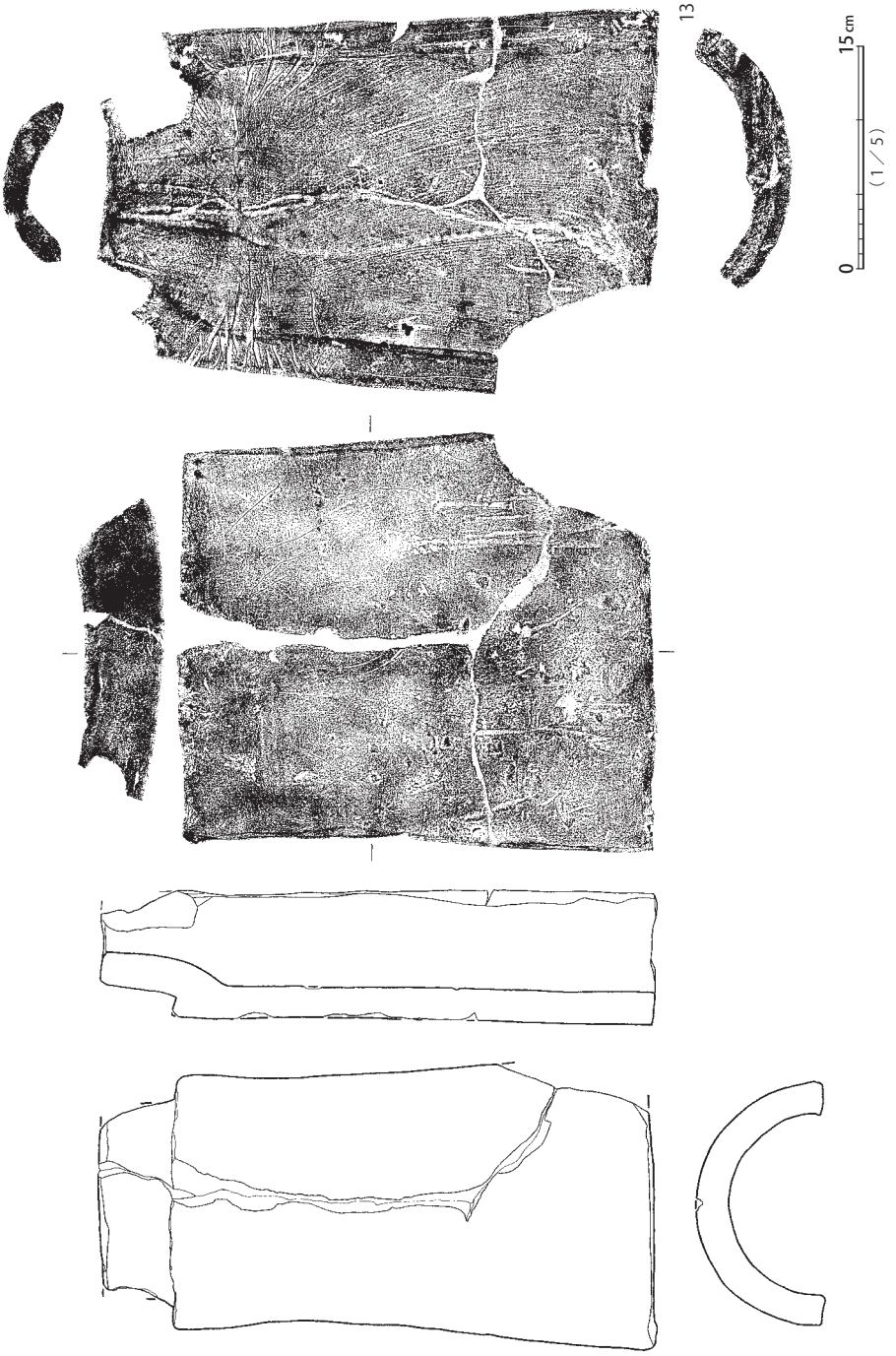


Fig.46　瓦敷遺構1753号a(11) 遺物

瓦敷遺構 1753号a

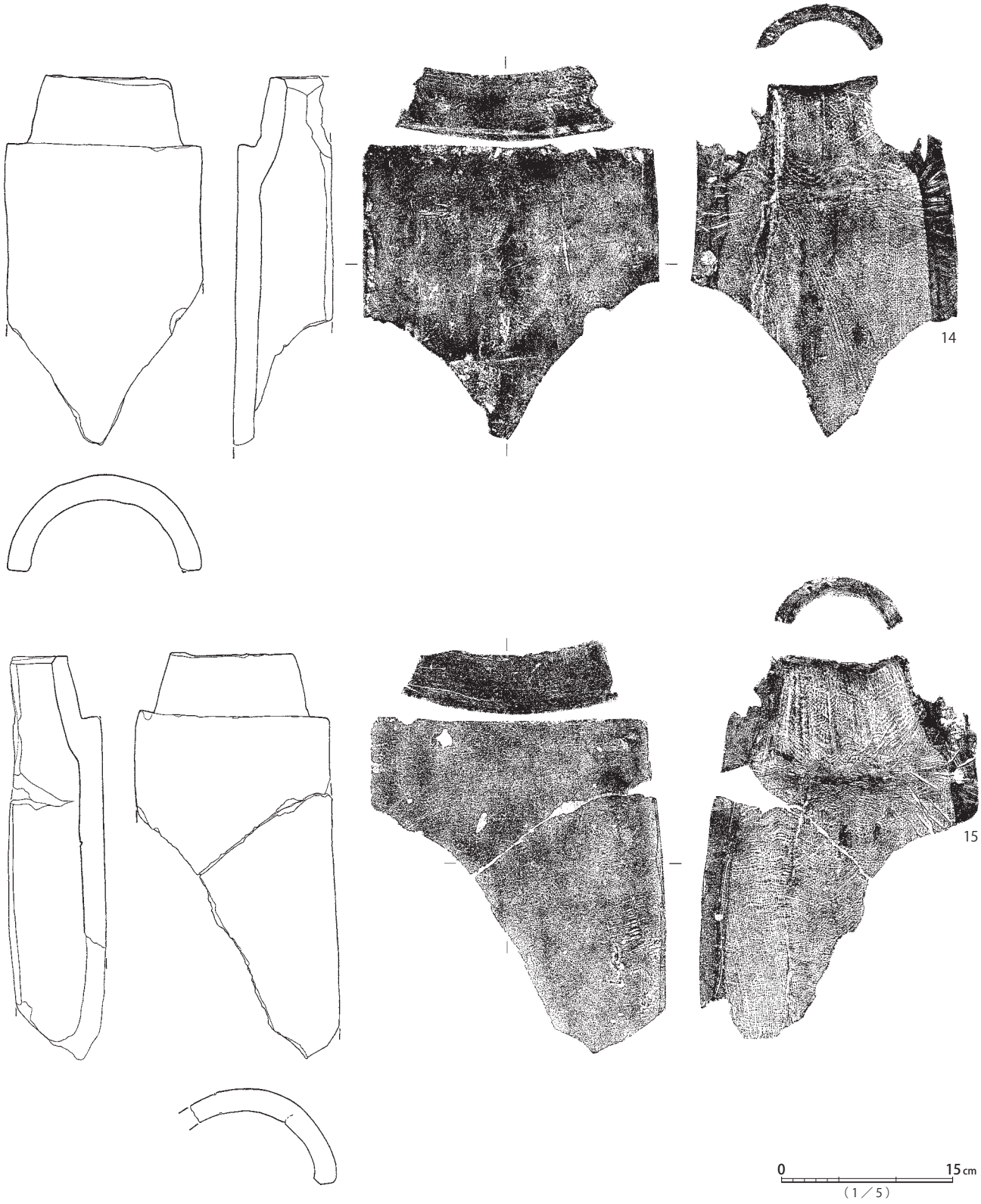
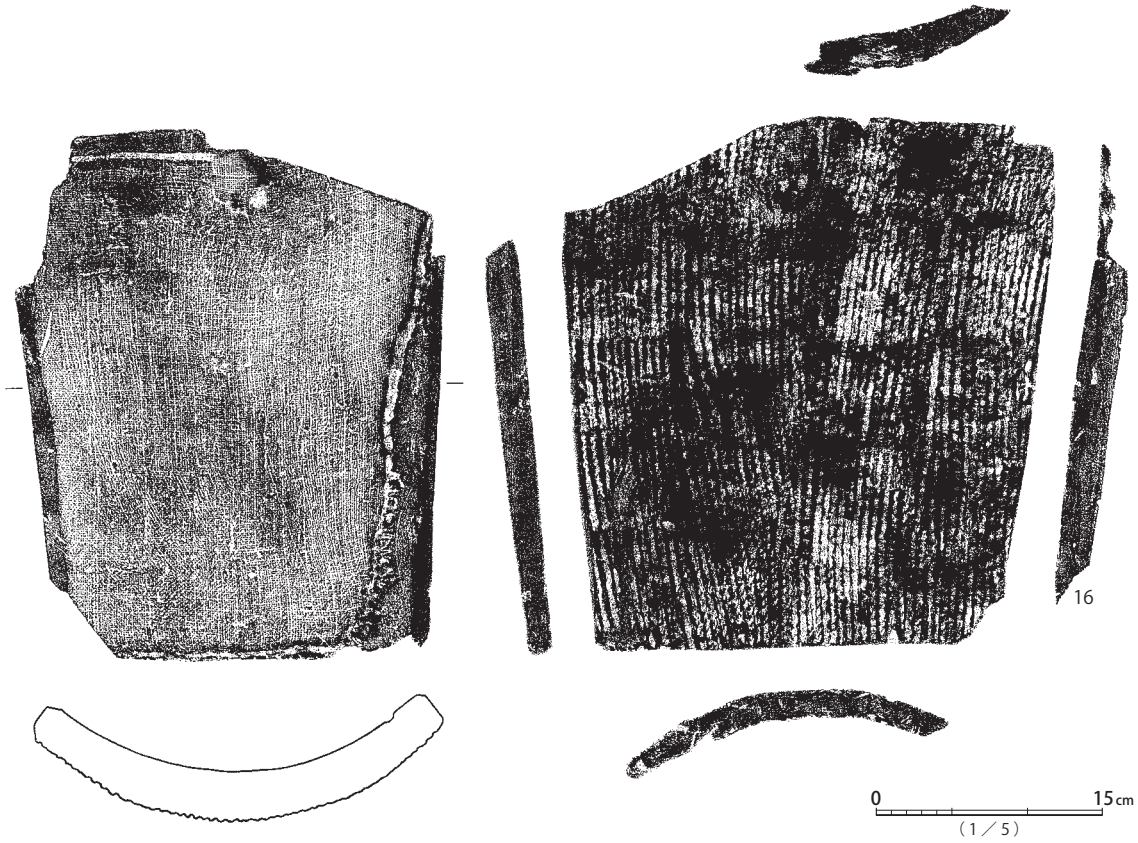


Fig.47　瓦敷遺構1753号a(12) 遺物

瓦敷遺構 1753号a



隅切瓦

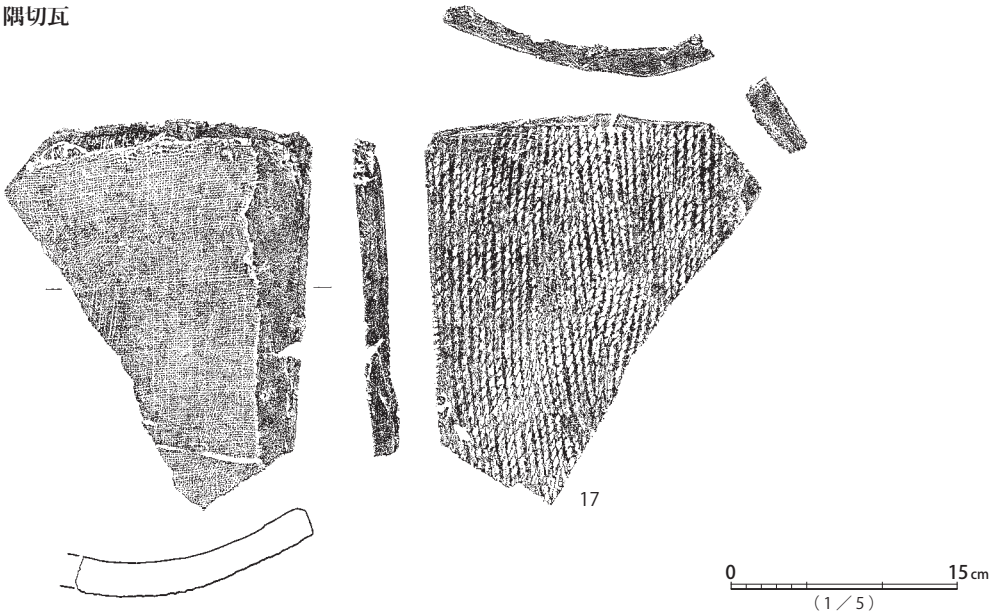


Fig.48　瓦敷遺構1753号a(13) 遺物

瓦敷遺構 1753号b



Fig.49　瓦敷遺構1753号b(2) 遺物

瓦敷遺構 1753号b

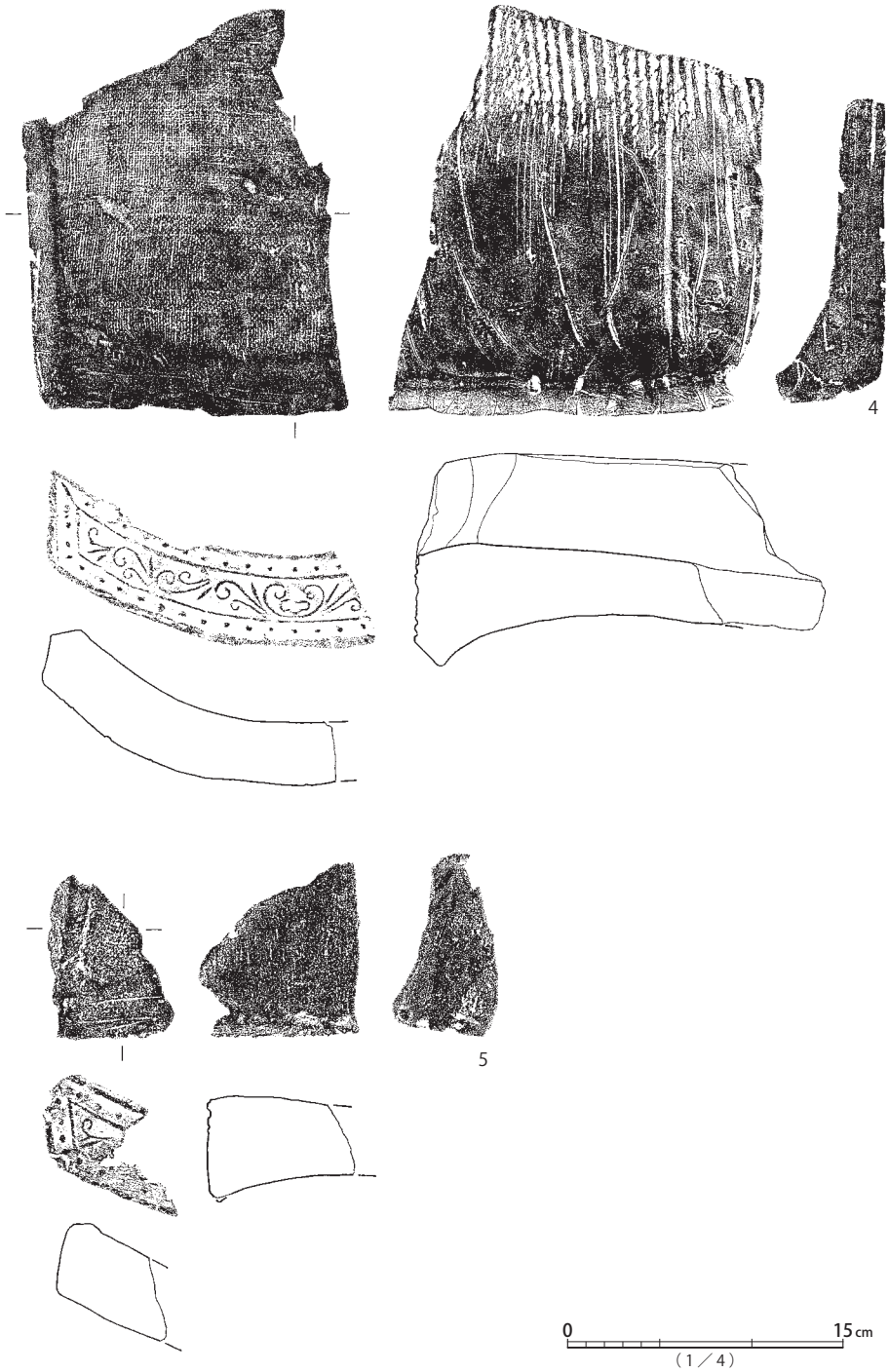
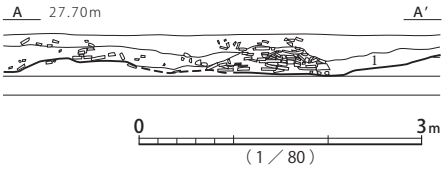


Fig.50　瓦敷遺構1753号b(3) 遺物

瓦敷通路 2414 号





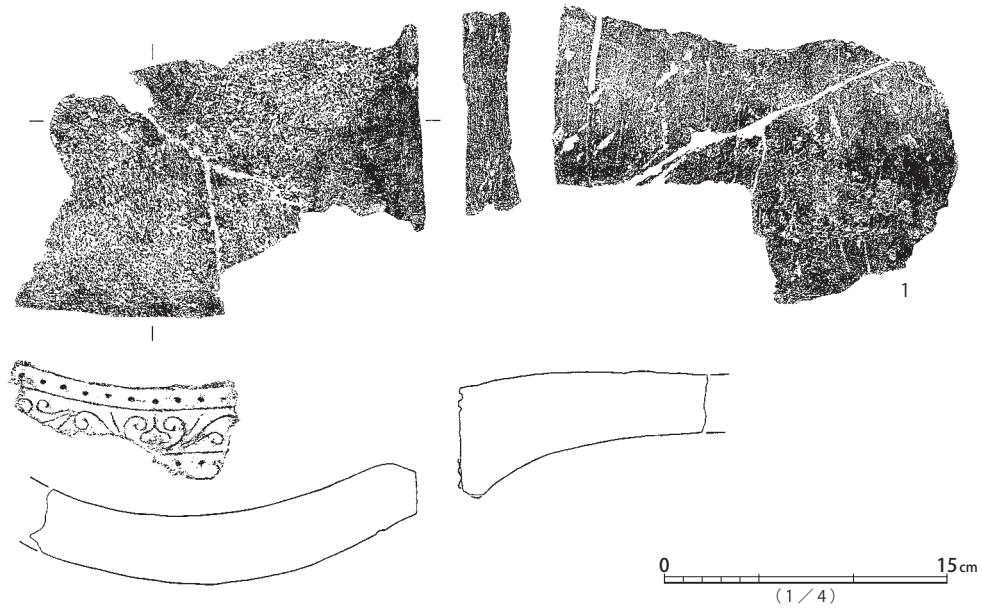


1　暗褐色土　瓦を多く含む。粘性・しまりあり。

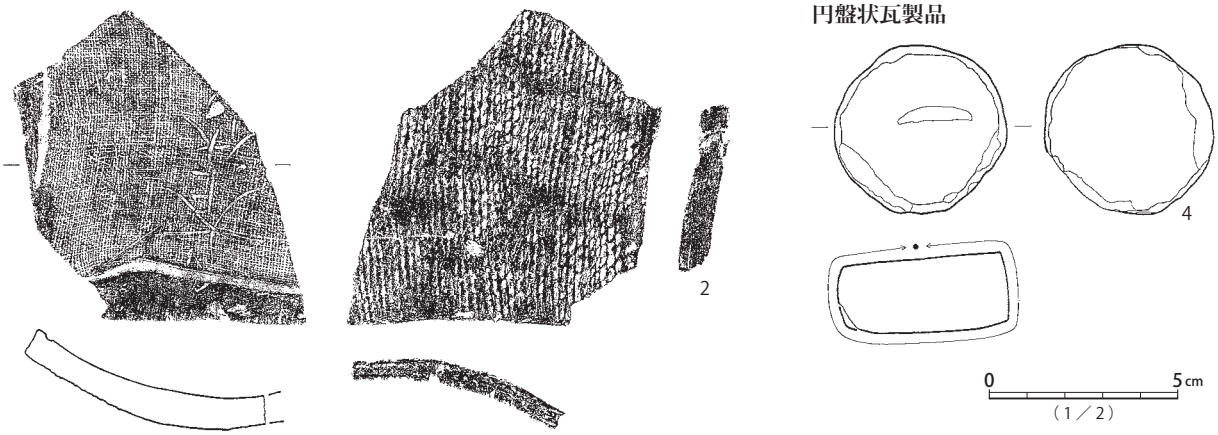
ph.1　1 トレンチ　出土状況

Fig.51　瓦敷通路2414号(1) 遺構・調査状況

瓦敷通路 2414号 1トレンチ



円盤状瓦製品



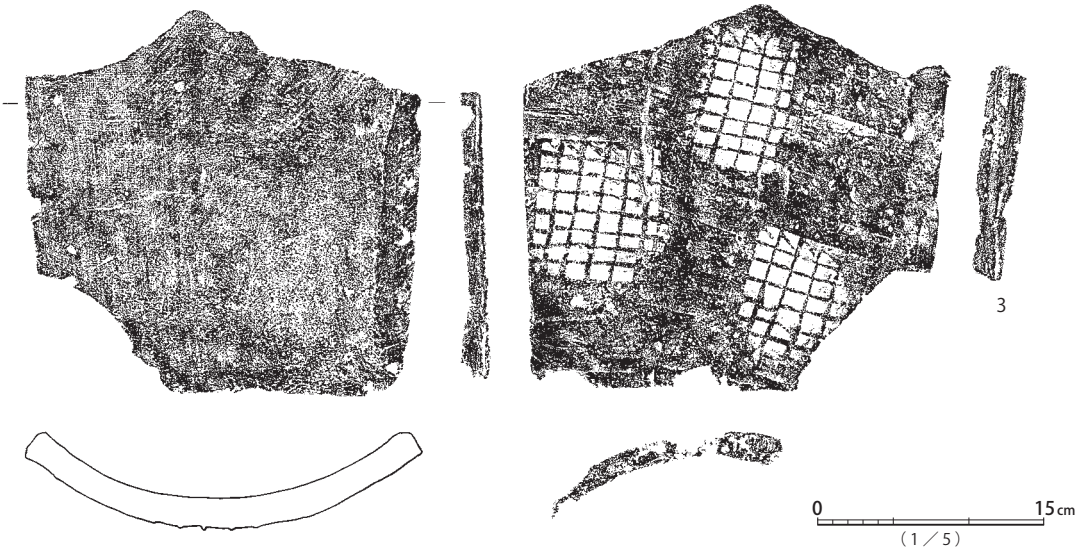


Fig.52　瓦敷通路2414号(2) 遺物

第２節　礎石建物

礎石建物 3176 号 d　（Fig.53～56、PL.25・215）〔僧Ⅰ第 134・135 図〕

北辺部QL−01を中心に位置する。区画溝2223号と重複し、本遺構の方が古い。政所院と捉えられる区域に当たり、庁屋と呼ばれる中心的な施設と推定されている（宮本1998）。

基壇を伴う礎石建物と考えられる。梁行３間、桁行７間の南北棟で、身舎東面に７間の掘立柱による庇を設ける。規模は19.62×6.36m程度を測るものと考えられ、主軸方位はN−1°−Wである。僧寺編年Ⅳ−４期の所産と考えられる。

最低３回（a～d）の建替えが認められるが、瓦は最も新しいd段階の庇柱穴から出土している。

実測可能遺物は、1～3はⅠ型式の均整唐草文軒平瓦、4は平瓦、5は塼である。3の瓦当面寄りには穿孔が施される。1はP3、2はP4、3はP8からの出土で、いずれも礎板としての利用が考えられる。

第３節　掘立柱建物

掘立柱建物 0705 号　（Fig.56、PL.25）〔僧Ⅰ第 141 図〕

北辺部PO−26を中心に位置する。掘立柱建物0704号aを建て替えたものである。

梁行３間の東西棟であるが、東側が寺院地外郭溝2219号と重複するため、規模は明確でない。主軸方位はN−82°−Wである。僧寺編年Ⅰ−２期の所産と考えられる。

実測可能遺物は１の軒平瓦のみで、Ⅰ型式の均整唐草文である。P6底部からの出土で、礎板としての利用が考えられる。

掘立柱建物 3110 号　（Fig.57、PL.25）〔僧Ⅰ第 143 図〕

北辺部QJ−97を中心に位置する。掘立柱建物3111号と重複し、本遺構の方が新しい。

梁行２間、桁行３間の東西棟で、規模は6.08×3.95mを測る。主軸方位はN−89°−Eである。僧寺編年Ⅳ−５期の所産と考えられる。

実測可能遺物は１の平瓦のみで、P7下層からの出土である。瓦片がまとまって出土しており、礎板としての利用が考えられる。

掘立柱建物 3111 号　（Fig.58、PL.25）〔僧Ⅰ第 144～146 図〕

北辺部PJ−08を中心に位置する。掘立柱建物3110・3136号と重複し、いずれも本遺構の方が古い。

梁行２間、桁行５間の南北棟で、身舎東面に５間の庇を設ける。規模は14.75×4.95mを測り、主軸方位はN−2°−Wである。かつて、掘立柱建物3112号とともに厨院を構成した可能性が指摘された（笹生1993）が、両建物から出土したとされる「厨」銘墨書土器が確認できないことから否定され、建物の位置関係から、講師院の双堂建物を引き継ぐ施設と理解されている（櫻井2009）。建替えが認められ、3111号aは僧寺編年Ⅳ−４期、3111号bはⅣ−５期の所産と考えられるが、瓦の出土位置が記録されていないことから、いずれの帰属かは明確でない。

実測可能遺物は１の軒平瓦のみである。Ⅲ型式の均整唐草文で、直線顎である。

礎石建物 3176号d

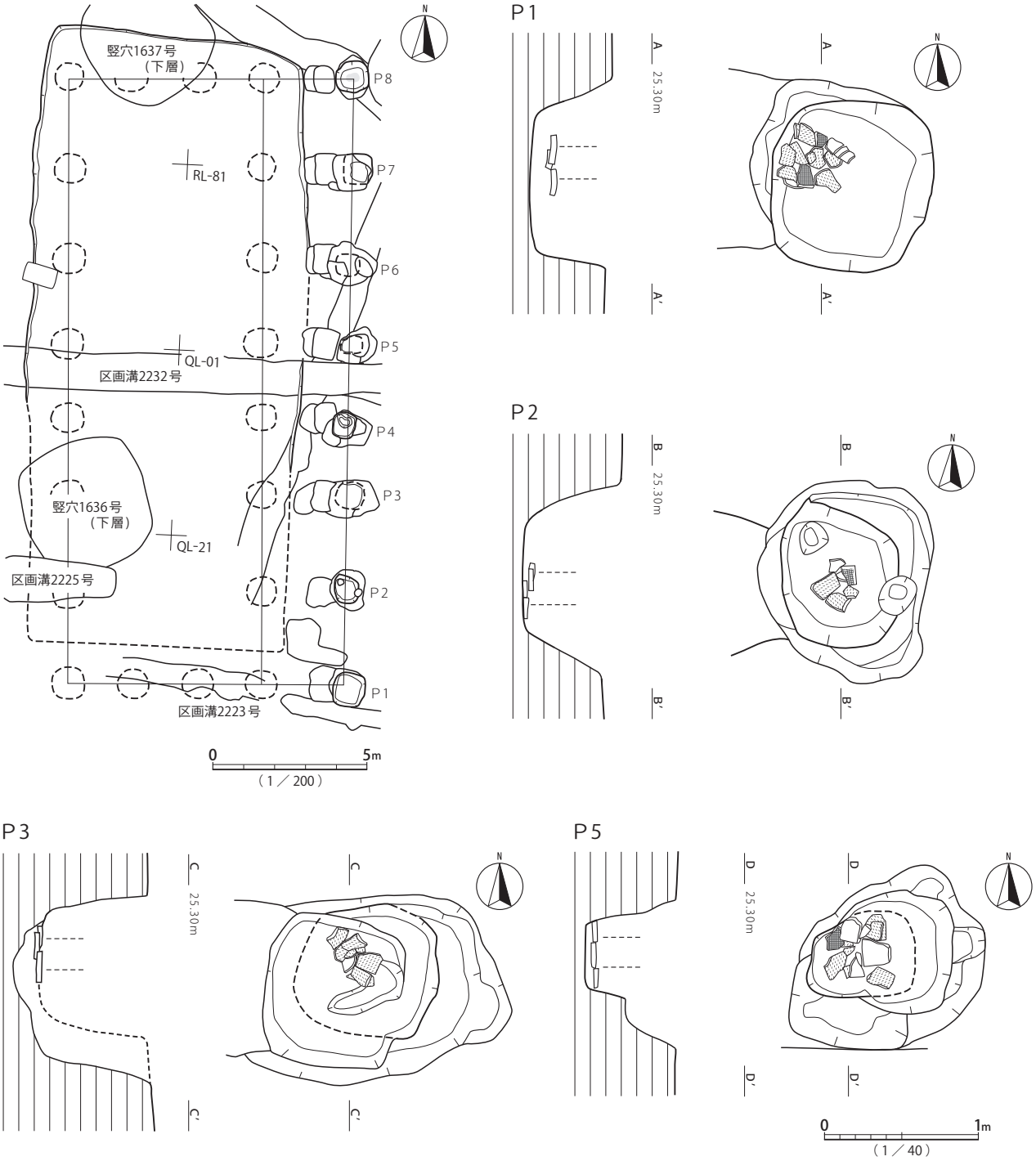
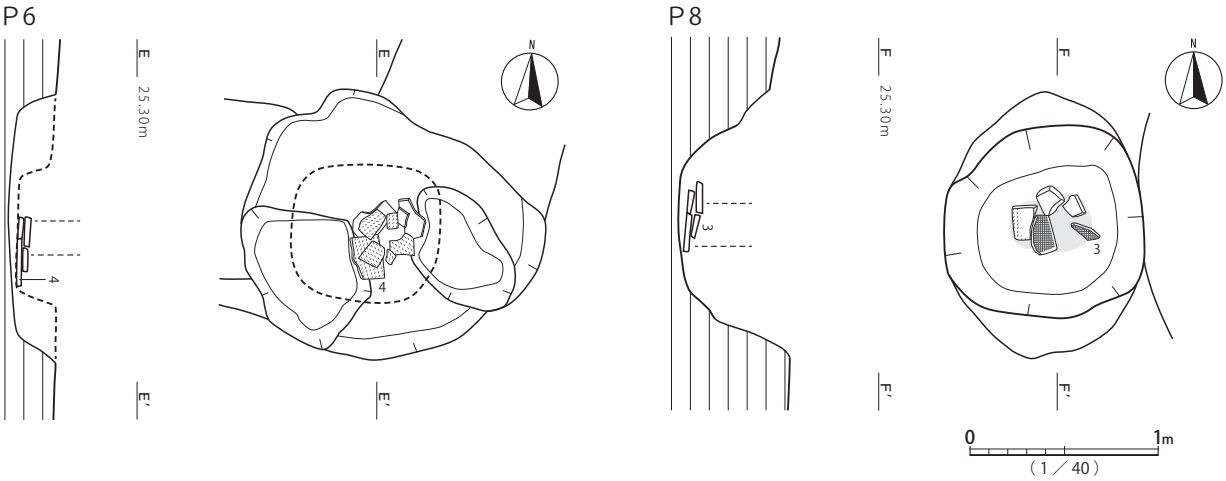
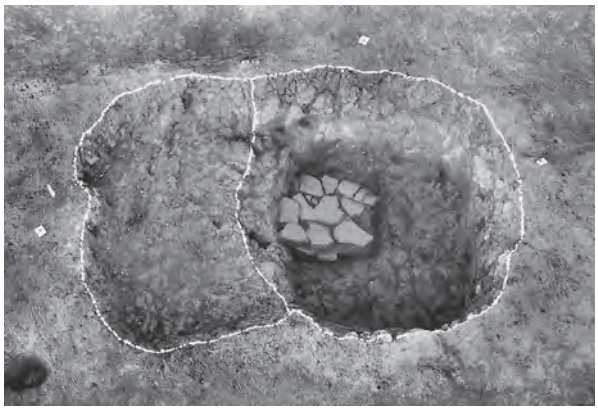


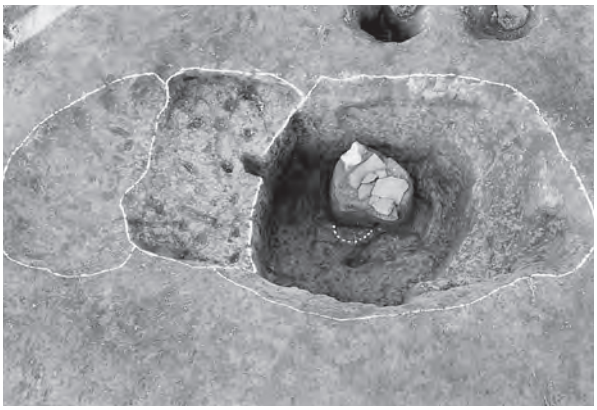
Fig.53　礎石建物3176号d(1) 遺構

礎石建物 3176号d





ph.1　ピット 1　出土状況



ph.2　ピット 3　出土状況



ph.3　ピット 5　出土状況



ph.4　ピット 6　出土状況 4

Fig.54　礎石建物3176号d(2) 遺構・調査状況

礎石建物 3176号d

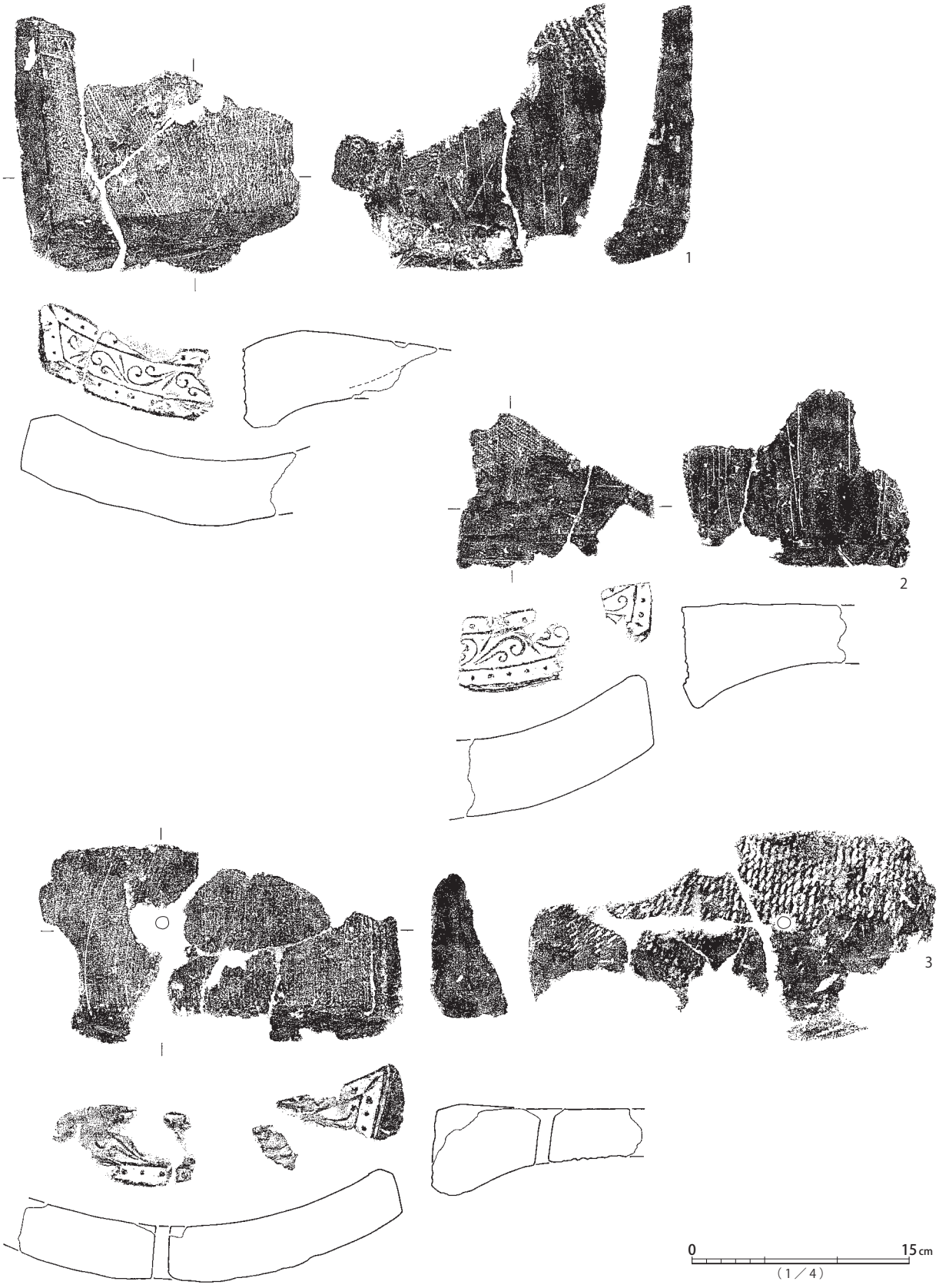
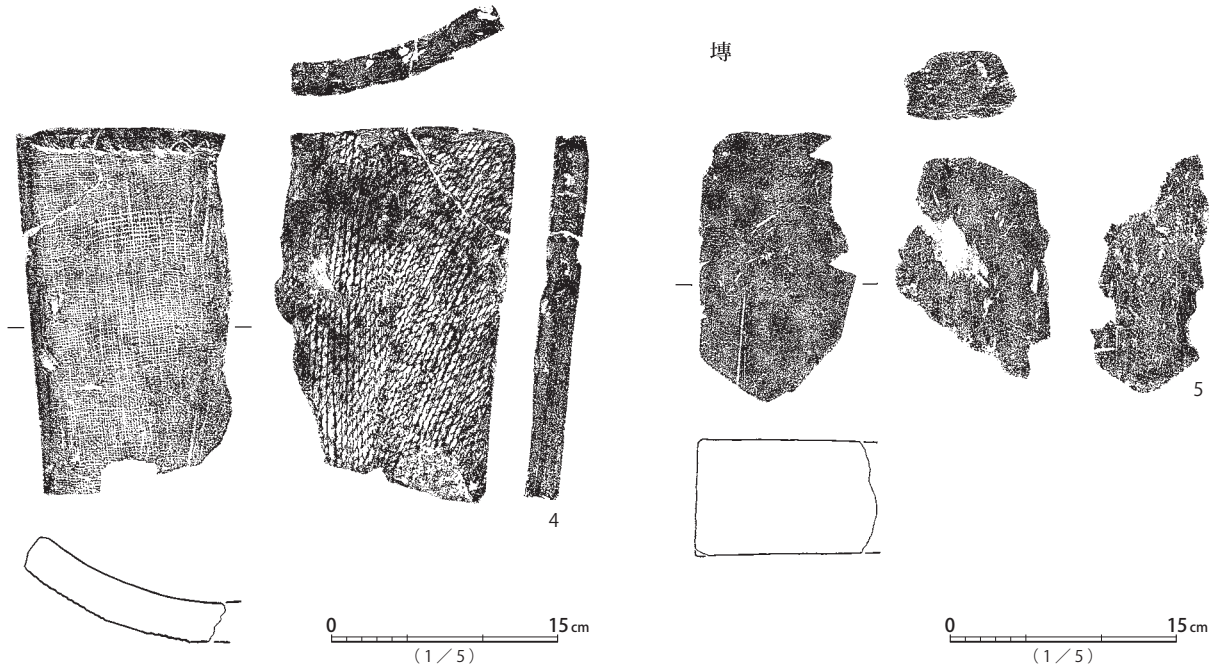


Fig.55　礎石建物3176号d(3) 遺物

礎石建物 3176 号 d



掘立柱建物 0705 号

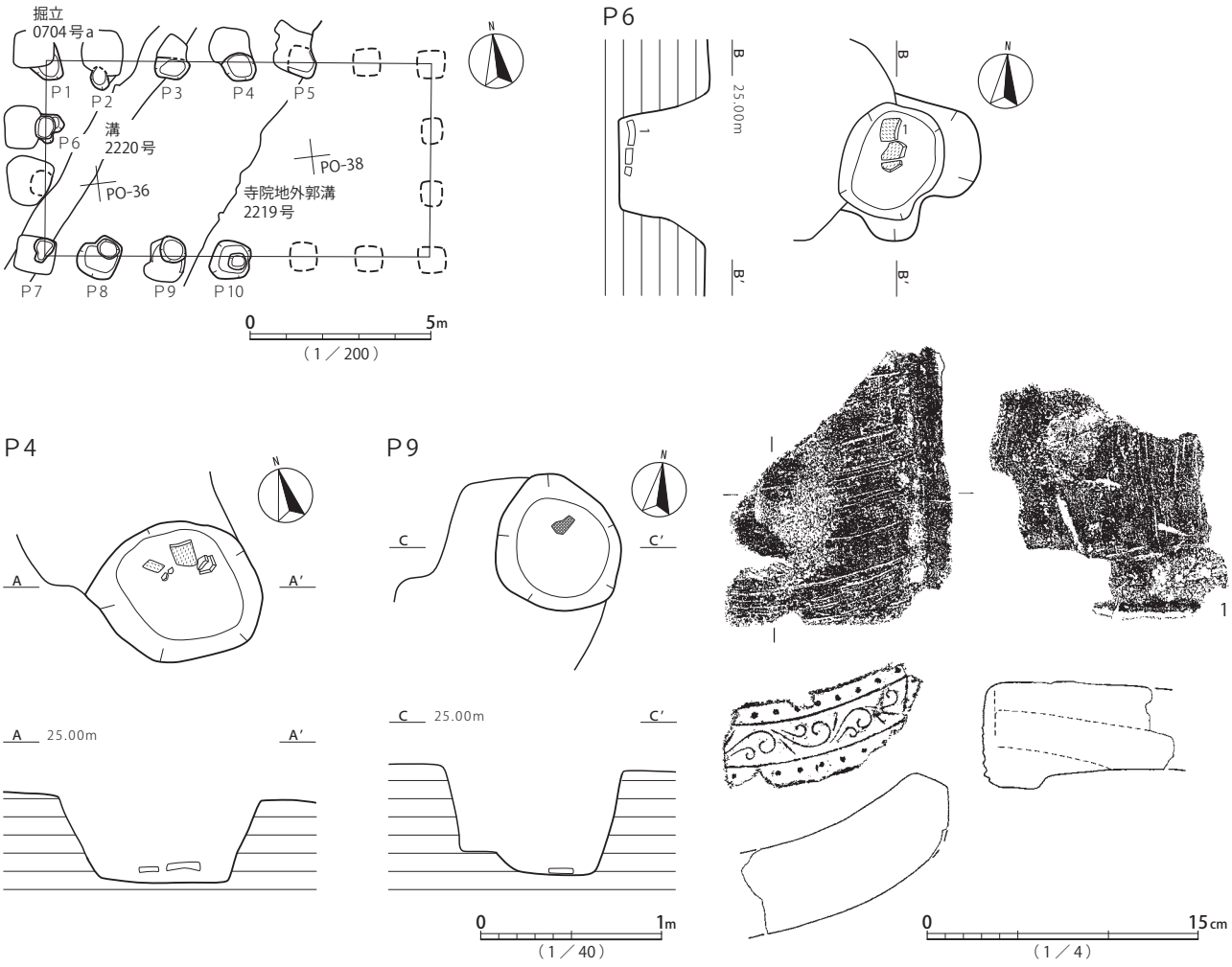
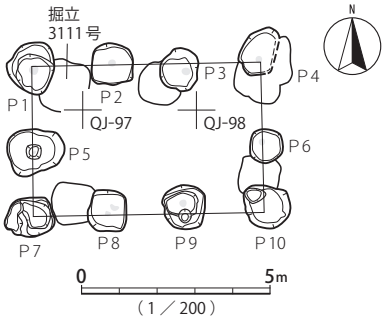
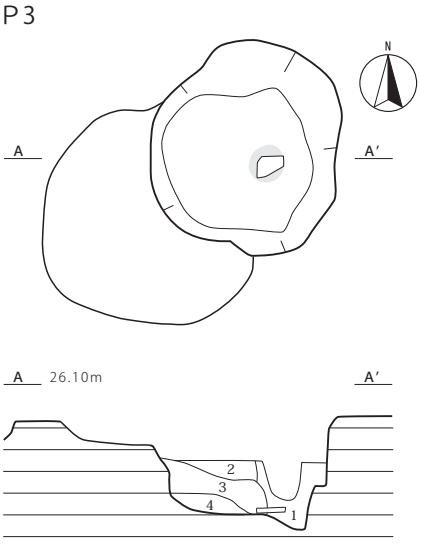
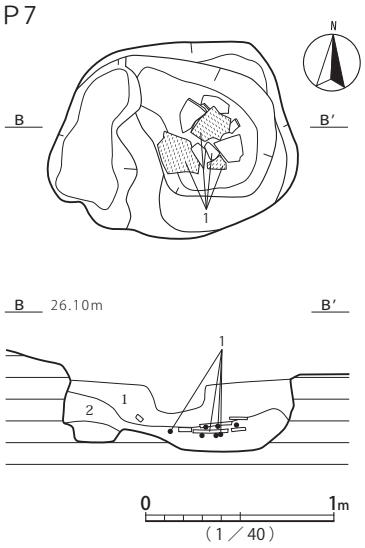


Fig.56　礎石建物3176号d(4) 遺物、掘立柱建物0705号 遺構遺物

掘立柱建物 3110号







P3

1	黒褐色土	ロームを含む。
2	黒褐色土	ローム粒を多く含む。
3	黒褐色土	ローム・粘土粒を含む。
4	ロームブロック	暗褐色土を含む。

P7

1	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒を含む。
2	ロームブロック	黒色土との混合。



ph.1　全景



ph.2　ピット 7　出土状況 1



Fig.57　掘立柱建物3110号 遺構遺物・調査状況

掘立柱建物 3111 号

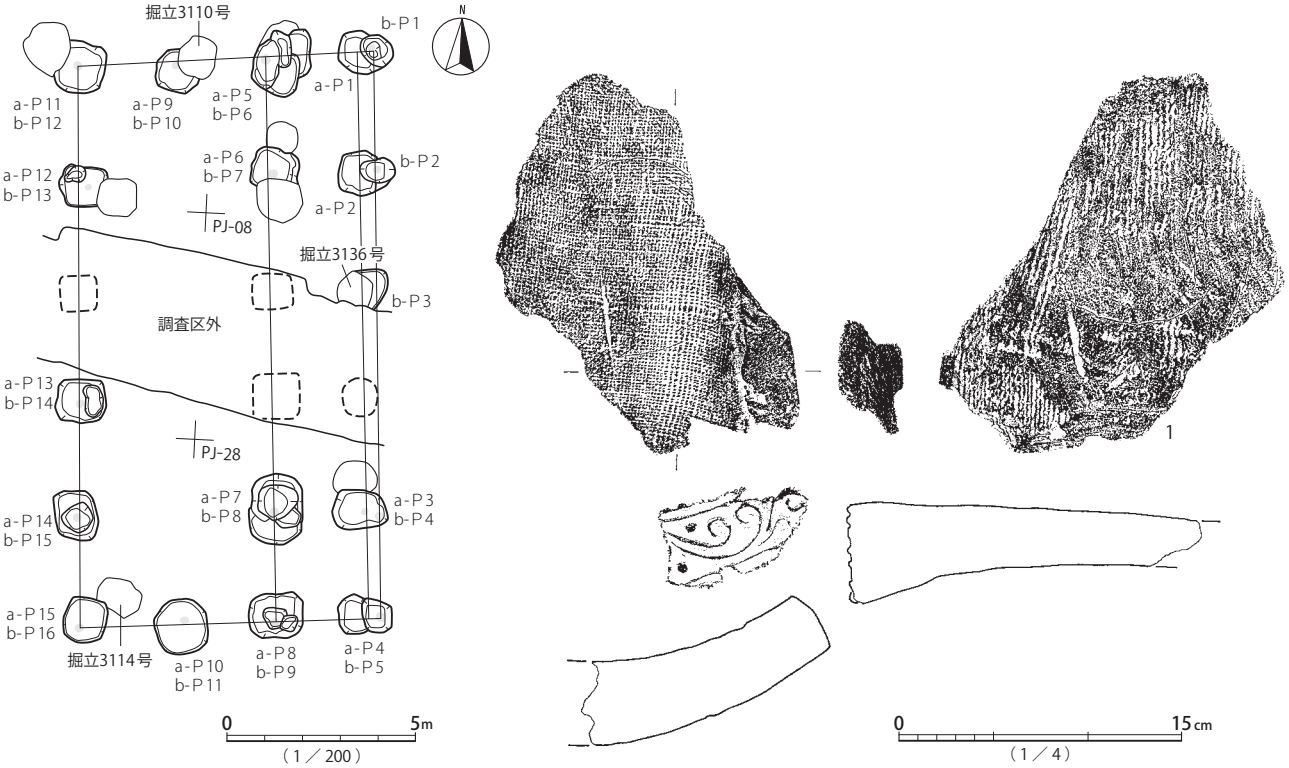


Fig.58　掘立柱建物3111号 遺構遺物

掘立柱建物 3113 号 a　（Fig.59・60・62～64、PL.26）〔僧Ⅰ第 149・151 図〕

北辺部PK−12を中心に位置する。掘立柱建物3115号と重複し、本遺構の方が新しい。

伽藍中心軸上に位置する梁行3間、桁行5間の東西棟で、建替え後のものをaとした。掘立柱建物3116号、塀3133号a・3145号とセットで、一つの施設（講師院）を構成したものと考えられる。規模は9.66×6.00mを測り、主軸方位はN−88°−Wである。僧寺編年Ⅳ−3期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1～3はⅠ型式の均整唐草文軒平瓦、4・5は平瓦である。4の凸面には格子叩き目、5の凸面にはX字状に縄を付加した縄叩き目が残る。1はP12、2はP8、3はP7、4はP9、5はP4からの出土である。

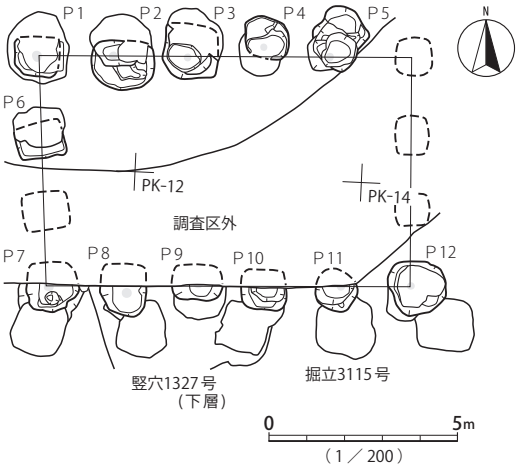
掘立柱建物 3113 号 b　（Fig.61・62・64、PL.25・26）〔僧Ⅰ第 150・151 図〕

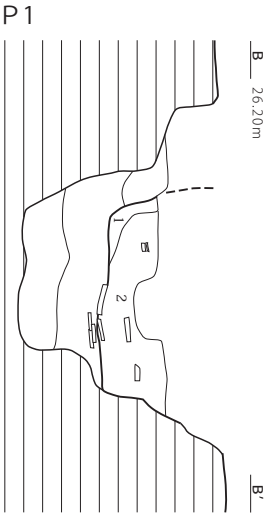
北辺部PK−12を中心に位置する。掘立柱建物3115号と重複し、本遺構の方が新しい。

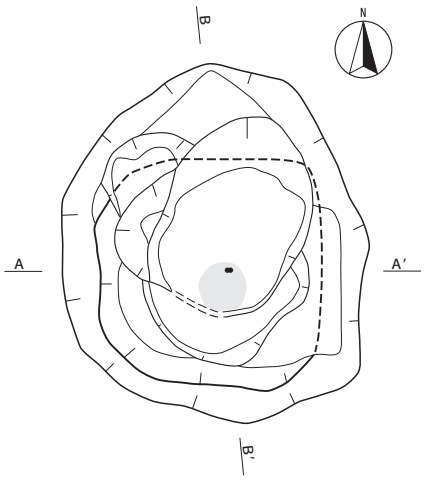
伽藍中心軸上に位置する梁行3間、桁行5間の東西棟で、建替え前のものをbとした。掘立柱建物3137号、塀3133号b・3145号とセットで、一つの施設（国師・講師院）を構成したものと考えられる。規模は9.60×6.24mを測り、主軸方位はN−88°−Wである。僧寺編年Ⅳ−2期の所産と考えられる。

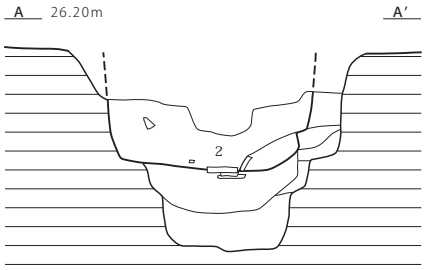
実測可能遺物は、1はⅠ型式の蓮華文軒丸瓦、2は平瓦、3は塼である。2の凸面にはX字状に縄を付加した縄叩き目が残る。1はP6、2はP9、3はP4からの出土である。

掘立柱建物 3113号a









P1

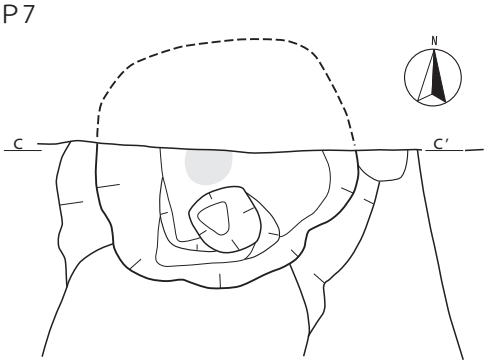
1　暗褐色土　粘土粒を含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。

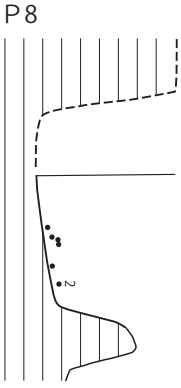
P7

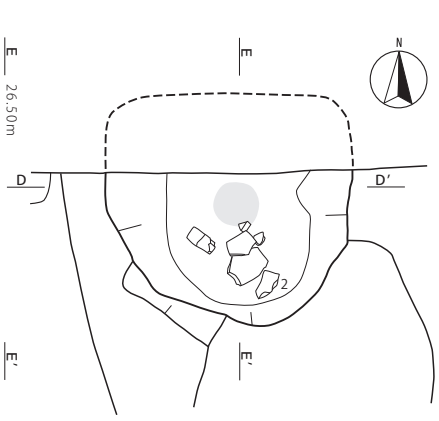
1　暗褐色土　粗いローム粒を多量に含み、粘土もわずかに混じる。柱痕か。
2　暗褐色土　ローム粒を多く含み、粘土粒も混じる。
3　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
4　暗褐色土　粗いローム粒を多量に含み、ローム粒・粘土粒も混じる。硬くしまる。
5　暗褐色土　小ロームブロック・ローム粒・粘土粒を多く含む。硬くしまる。
6　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を多く含む。

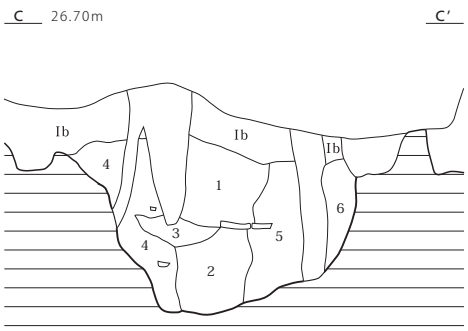
P8

1　暗褐色土　粘土粒を多量に含み、ローム粒も混じる。
2　暗褐色土　粘土粒を含む。
3　暗褐色土　粘土との混合。
4　暗褐色土　粘土粒を多く含み、ローム粒も混じる。しまり弱い。
5　暗褐色土　粗いローム粒を多く含み、粘土粒も混じる。
6　暗褐色土　ロームブロック・粘土粒を含む。
7　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。









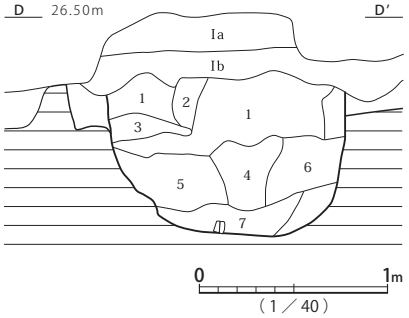
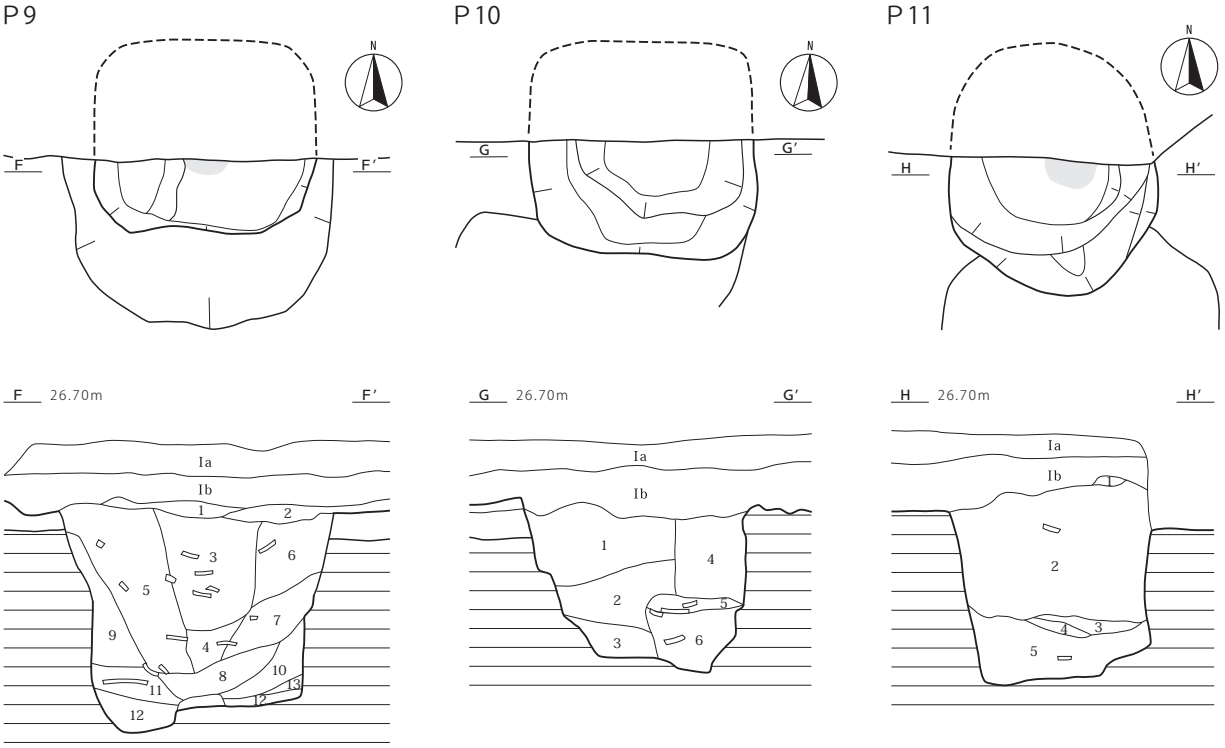
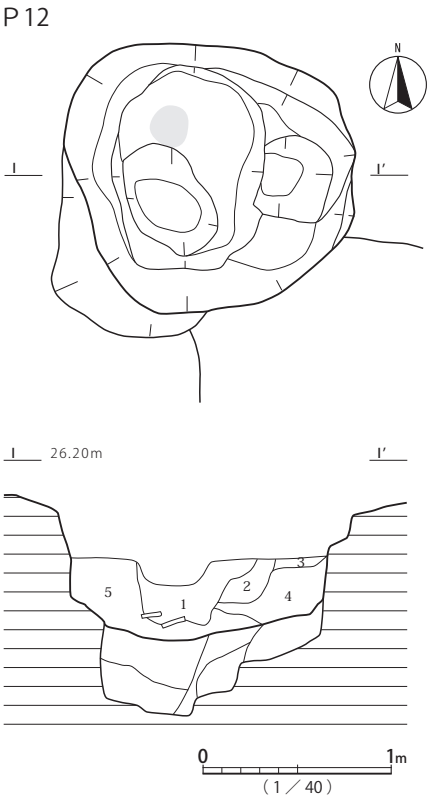


Fig.59　掘立柱建物3113号a(1) 遺構

掘立柱建物 3113号a





P9

1	黒褐色土	ローム粒を含む。
2	暗褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。
3	暗褐色土	粘土・ロームをわずかに含む。
4	暗褐色土	粘土粒を多く含み、ロームも混じる。
5	暗褐色土	粘土粒を多量に含み、ローム粒も混じる。
6	暗褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。
7	暗褐色土	粘土粒を多く含み、ローム粒も混じる。
8	暗褐色土	粗いローム粒を多く含み、粘土もわずかに混じる。
9	黒褐色土	ローム粒を多量に含み、粘土粒・ロームブロックもわずかに混じる。
10	黒褐色土	ロームブロックを含む。
11	黒褐色土	ロームブロックを含む。硬くしまる。
12	ロームブロック	
13	黒色土	

P10

1	暗褐色土	ローム粒を多量に含み、ロームブロック・粘土粒も混じる。
2	暗褐色土	粗いローム粒を多量に含み、粘土粒も混じる。
3	黒褐色土	粗いローム粒を多く含む。
4	暗褐色土	ローム粒を含む。
5	暗褐色土	ローム粒を多く含む。極めて硬くしまる。
6	黒褐色土	粗いローム粒を多量に含む。硬くしまる。

P11

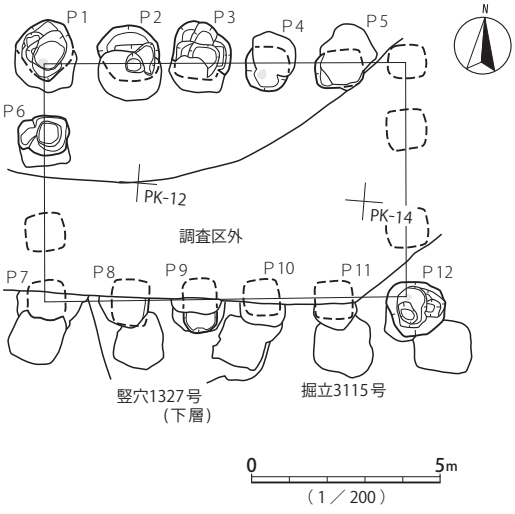
1	暗褐色土	粘土粒を含む。
2	暗褐色土	ローム粒・粘土粒を多く含む。しまり弱い。
3	暗褐色土	粘土質の砂を含む。
4	茶褐色土	粘土質の砂。
5	黒褐色土	粘土粒を多く含み、ロームブロック・ローム粒も混じる。硬くしまる。

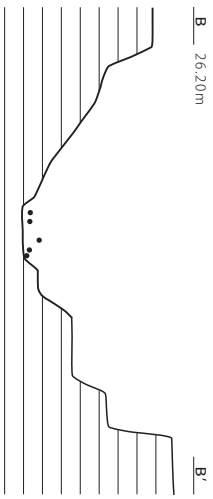
P12

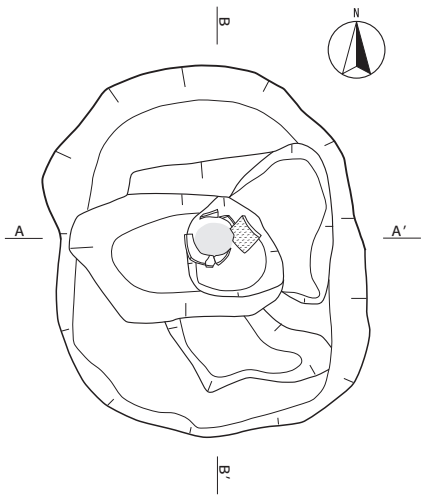
1	暗褐色土	ローム粒を多く含む。しまり弱い。
2	暗褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。
3	ローム	
4	黒色土	粘土を多く含み、ロームも混じる。
5	黒褐色土	粗いローム粒・粘土粒を含む。

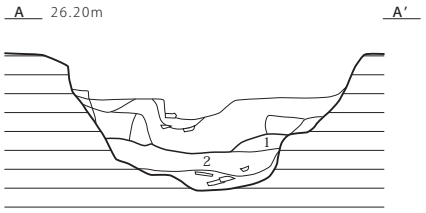
Fig.60　掘立柱建物3113号a(2) 遺構

掘立柱建物 3113号b





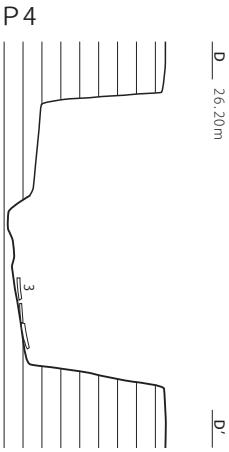


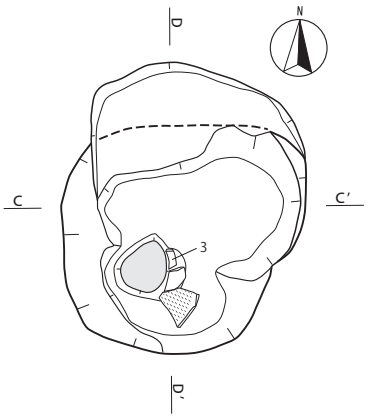


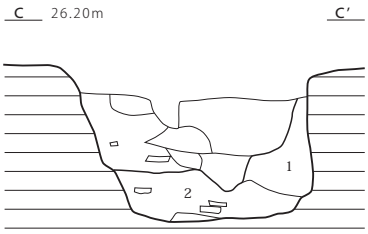
P2
1 黒褐色土
2 黒色土　ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。硬くしまる。

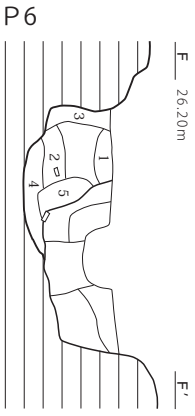
P4
1 黒褐色土　粘土粒を多く含み、ローム粒も混じる。
2 黒褐色土　ロームブロック・粘土粒を含む。

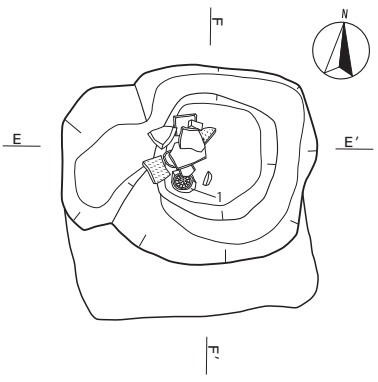
P6
1 暗褐色土　粘土粒を含み、ローム粒もわずかに混じる。
2 暗褐色土　粘土粒・ソフトロームを含む。
3 暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。硬くしまる。
4 暗褐色土　ロームを含む。
5 暗褐色土　粘土粒・ローム・ロームブロックを含む。











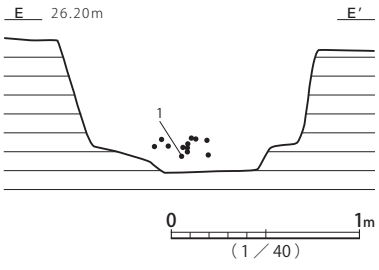


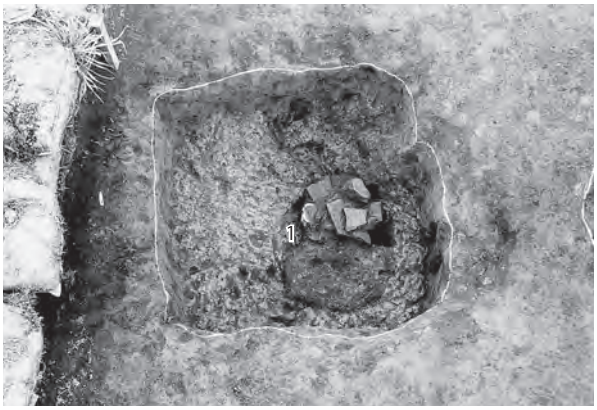
Fig.61　掘立柱建物3113号b(1) 遺構



ph.1　3113号a　ピット8　出土状況 2


ph.2　3113号a　ピット9　出土状況


ph.3　3113号a　ピット10　出土状況



ph.4　3113号b　ピット6　出土状況 1

Fig.62　掘立柱建物3113号a(3) 調査状況、掘立柱建物3113号b(2) 調査状況

掘立柱建物 3114 号　（Fig.65）〔僧Ⅰ第 152 図〕

北辺部PJ−46を中心に位置する。掘立柱建物3112・3202号、土坑1429・1431・1467号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

梁行2間、桁行3間の南北棟で、規模は6.00×3.70mを測る。主軸方位はN−5°−Wである。出土遺物が無く、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の塼のみで、P10底面からの出土である。

掘立柱建物 3115 号　（Fig.66）〔僧Ⅰ第 153・154 図〕

北辺部PK−32を中心に位置する。竪穴1324号、塀3145号、柵列3140号と重複し、いずれも本遺構の方が古い。

伽藍中心軸上に位置する梁行2間、桁行5間の東西棟で、南側に隣接する掘立柱建物3149号及び3149号の建替えである3144号とセットで構成された施設と考えられる。規模は13.70×5.60mを測り、主軸方位はN−87°−Eである。僧寺編年Ⅲ〜Ⅳ−1期の所産と考えられる。

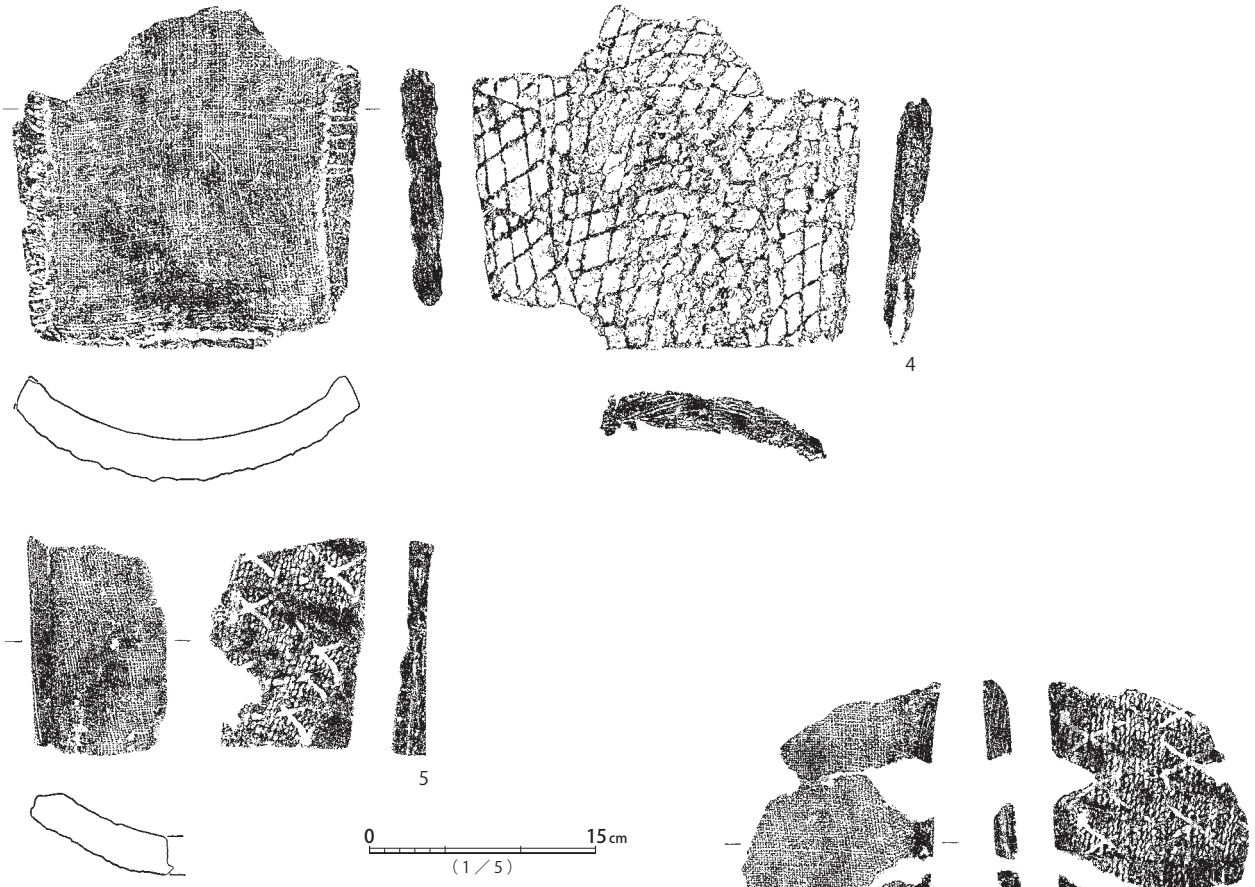
P2とP5の柱穴痕覆土中から平瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

掘立建柱物 3113 号 a



Fig.63　掘立柱建物3113号a(4) 遺物

掘立柱建物 3113 号 a



掘立柱建物 3113 号 b

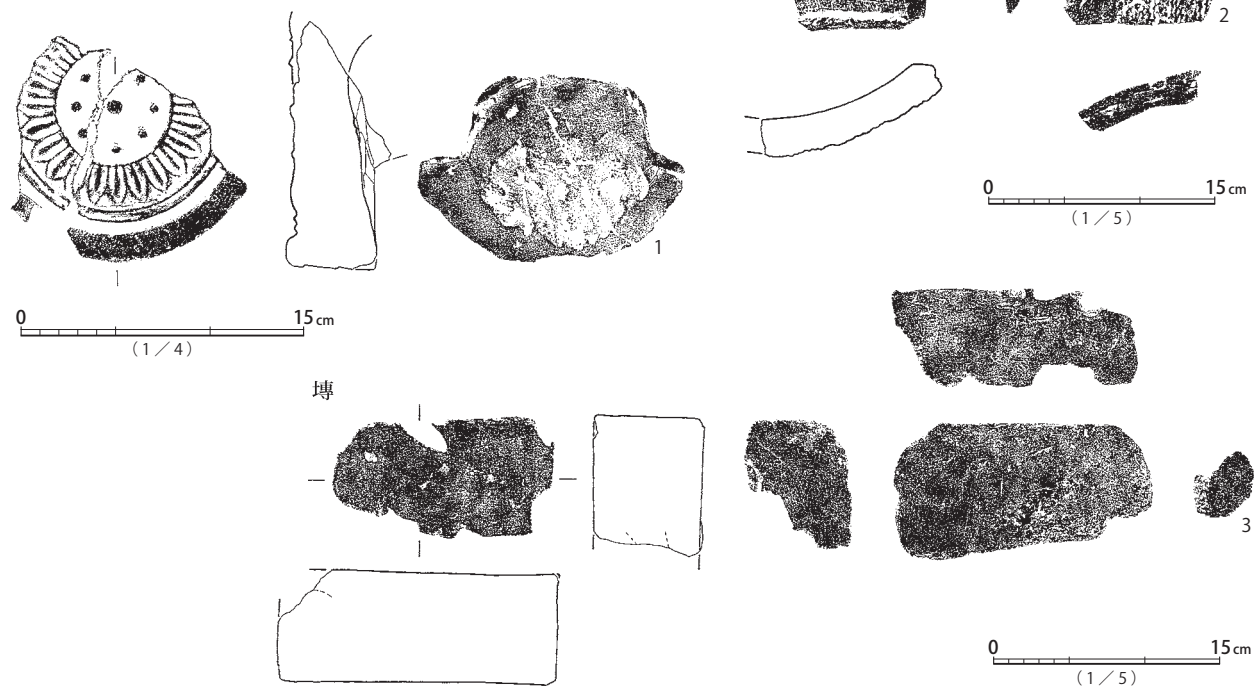


Fig.64　掘立柱建物3113号a(5) 遺物、掘立柱建物3113号b(3) 遺物

掘立柱建物 3114 号

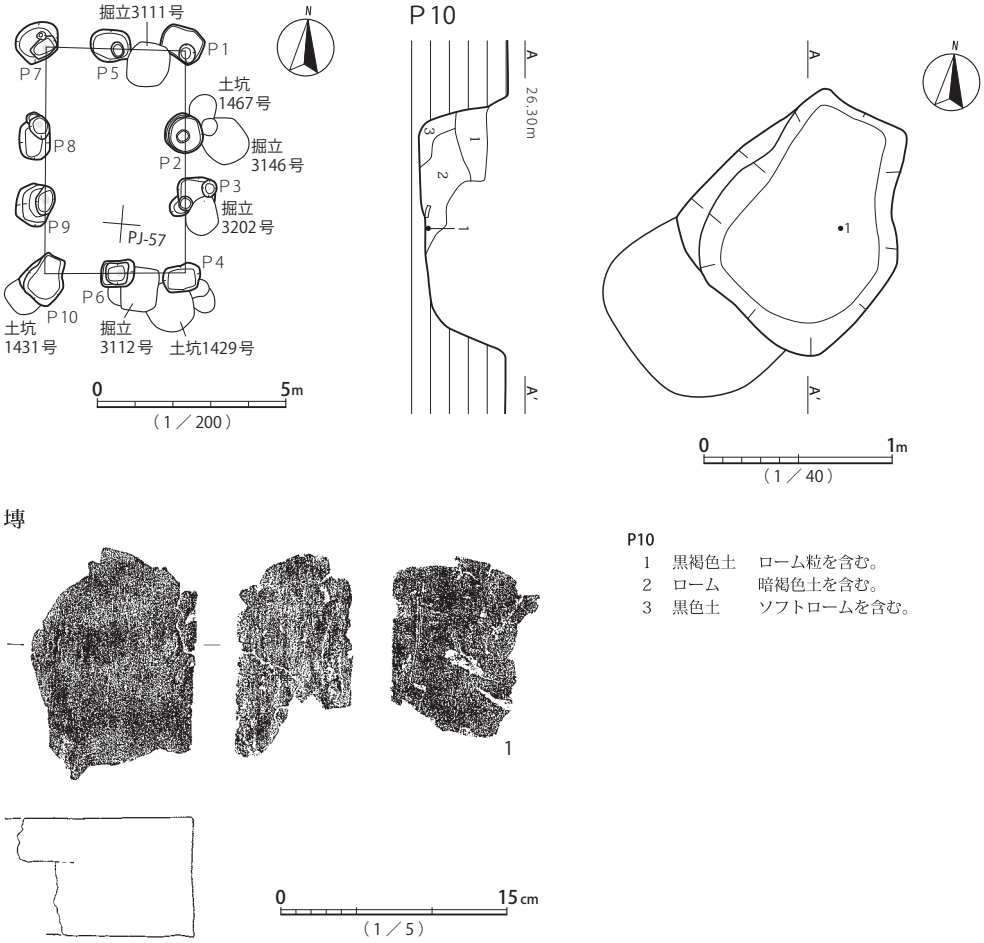


Fig.65 掘立柱建物3114号 遺構遺物

掘立柱建物 3116 号 （Fig.67・68、PL.26）〔僧 I 第 155 図〕

北辺部PK−63を中心に位置する。掘立柱建物3117・3144・3149号、柵列3140号、竪穴1325・1326号と重複し、本遺構が掘立柱建物3117・3149号よりも新しく、掘立柱建物3144号、柵列3140号、竪穴1325・1326号よりも古い。

梁行2間、桁行5間の東西棟で、掘立柱建物3137号を建て替えたものである。掘立柱建物3113号a、塀3133号a・3145号とセットで、一つの施設（講師院）を構成したものと考えられる。規模は12.33×5.62mを測り、主軸方位はN−89°−Eである。僧寺編年Ⅳ−3期の所産と考えられる。

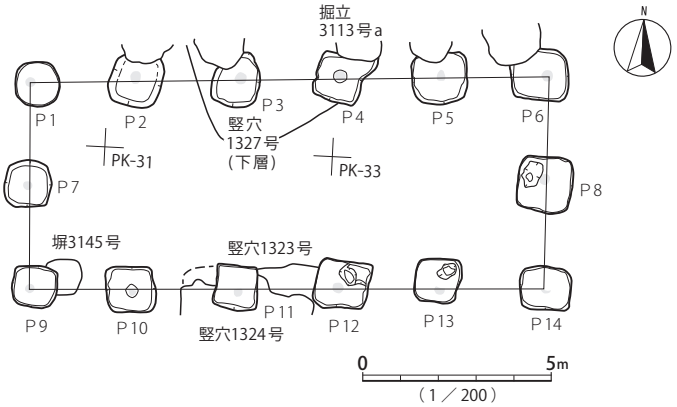
実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。I型式の均整唐草文で、P2底面からの出土である。

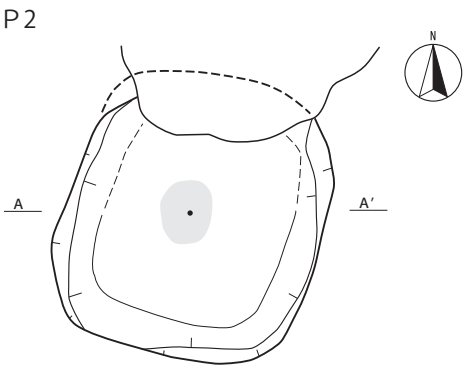
掘立柱建物 3120 号 （Fig.69〜71、PL.27）〔僧 I 第 160・161 図〕

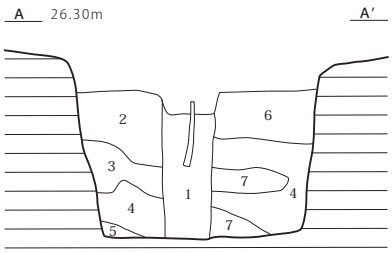
北辺部PL−71を中心に位置する。掘立柱建物3119・3128・3212号、竪穴1332号と重複し、本遺構がいずれの掘立柱建物よりも新しく、竪穴1332号よりも古い。

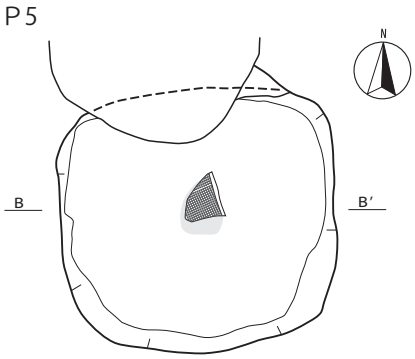
梁行2間、桁行5間の南北棟で、掘立柱建物3212号を建て替えたものである。規模は9.08×4.98mを測り、主軸方位はN−4°−Wである。僧寺編年Ⅳ−5期の所産と考えられるが、帰属時期は

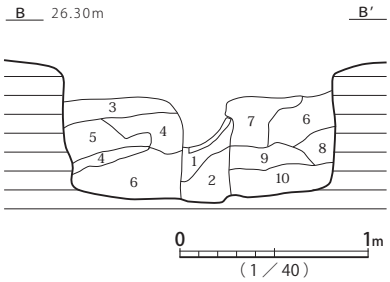
掘立柱建物 3115 号











P2

1	粘土	暗褐色土を含み、ローム粒・ロームブロックも少量混じる。柱痕覆土。
2	黒色土	ロームブロックとの混合。
3	黒色土	ロームブロックを少量含む。
4	黒色土	ロームブロックを含む。
5	黒色土	
6	ロームブロック	黒褐色土を含む。
7	ロームブロック	黒色土を含む。

P5

1	粘土	ローム粒との混合。柱痕覆土。
2	黒褐色土	粘土・ローム粒を含む。柱痕覆土。
3	ロームブロック	黒褐色土との混合。
4	黒褐色土	ロームを含む。
5	黒褐色土	
6	ロームブロック	褐色土を多く含み、黒褐色土も混じる。
7	褐色土	ロームブロックを多く含み、黒褐色土も混じる。
8	黒色土	ロームブロックを少量含む。
9	褐色土	黒色土を含む。
10	ロームブロック	



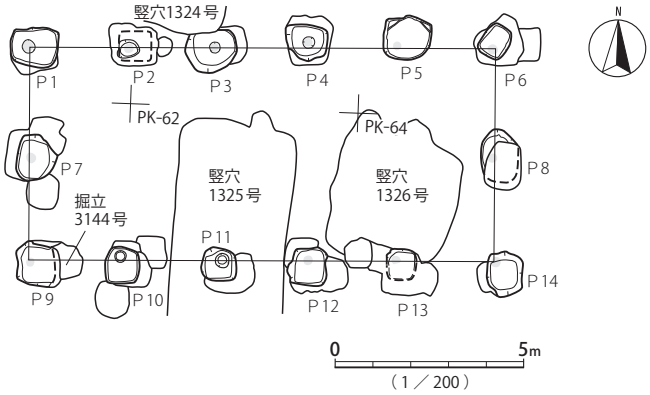
ph.1　ピット 2　出土状況

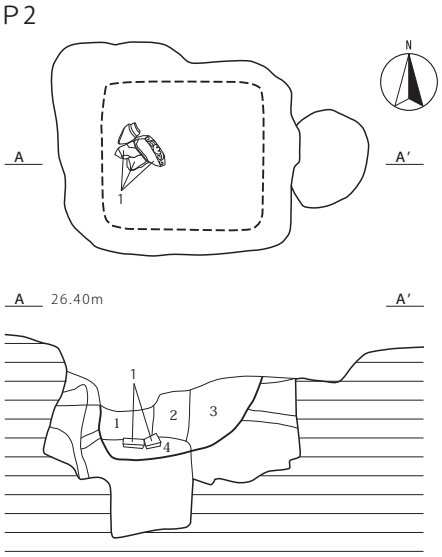


ph.2　ピット 5　出土状況

Fig.66　掘立柱建物3115号 遺構･調査状況

掘立柱建物 3116号

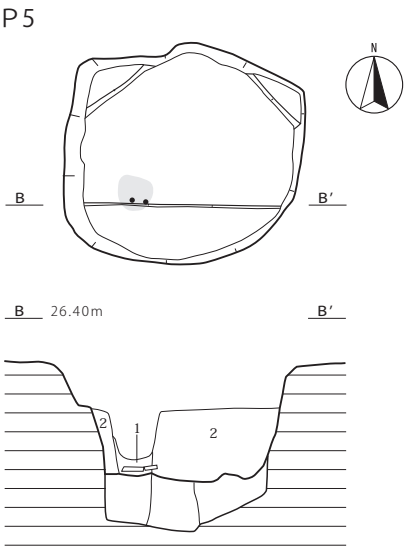


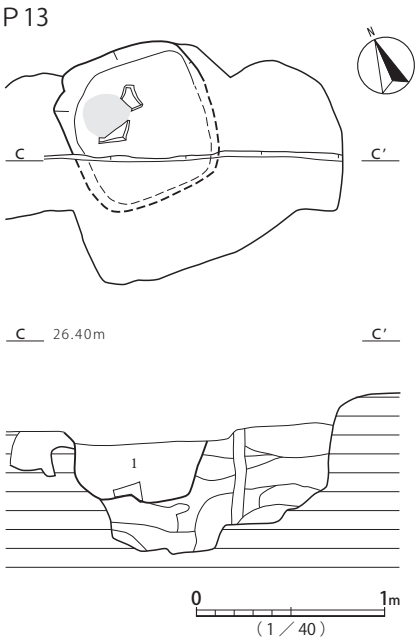


P2
1 黒褐色土 柱痕覆土。底部に柱当り。
2 黒褐色土 ローム・ローム粒を含む。
3 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒を含む。
4 黒褐色土 ロームブロックを含む。

P5
1 黒褐色土 ローム粒をわずかに含む。
2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。

P13
1 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。







ph.1 全景



ph.2 ピット 2 出土状況 1

Fig.67 掘立柱建物3116号(1) 遺構・調査状況

掘立柱建物 3116 号

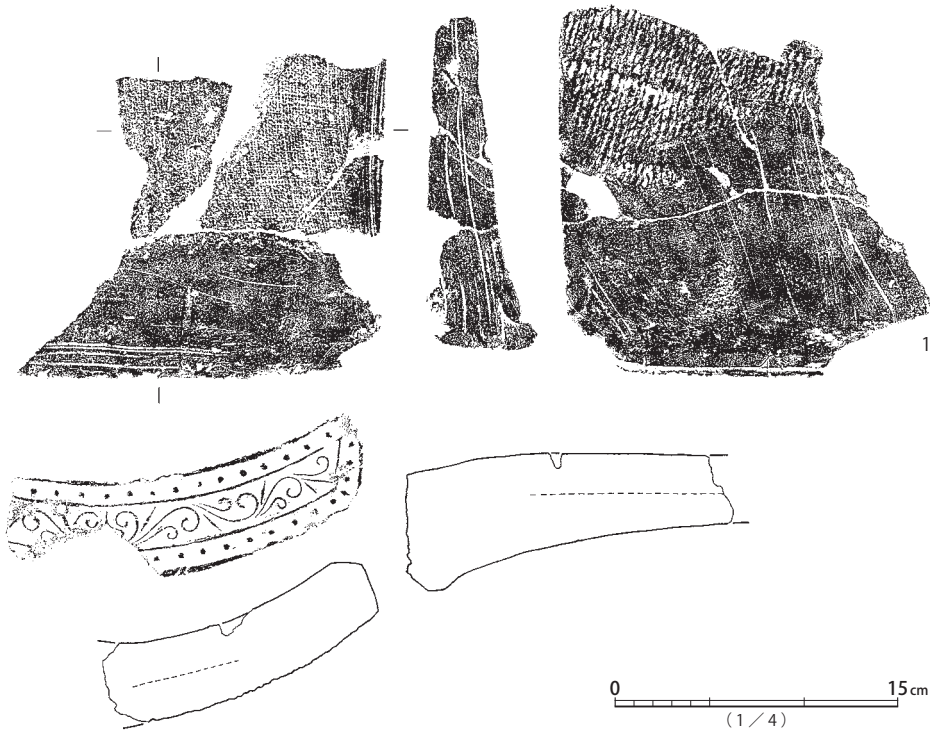


Fig.68　掘立柱建物3116号(2) 遺物

明確でない。

実測可能遺物は、1はI型式、2はIII型式の均整唐草文軒平瓦、3は玉縁式の丸瓦、4は平瓦である。直線顎となる2の凸面には格子叩き目が残る。1はP2、2はP9、3はP4、4はP11からの出土である。

掘立柱建物 3123 号 b・c　（Fig.72～80、PL.26～28）〔僧 I 第 165～168 図〕

北辺部PM−07を中心に位置する。竪穴1356・1369号と重複し、いずれも本遺構の方が新しいと思われるが、明確でない。

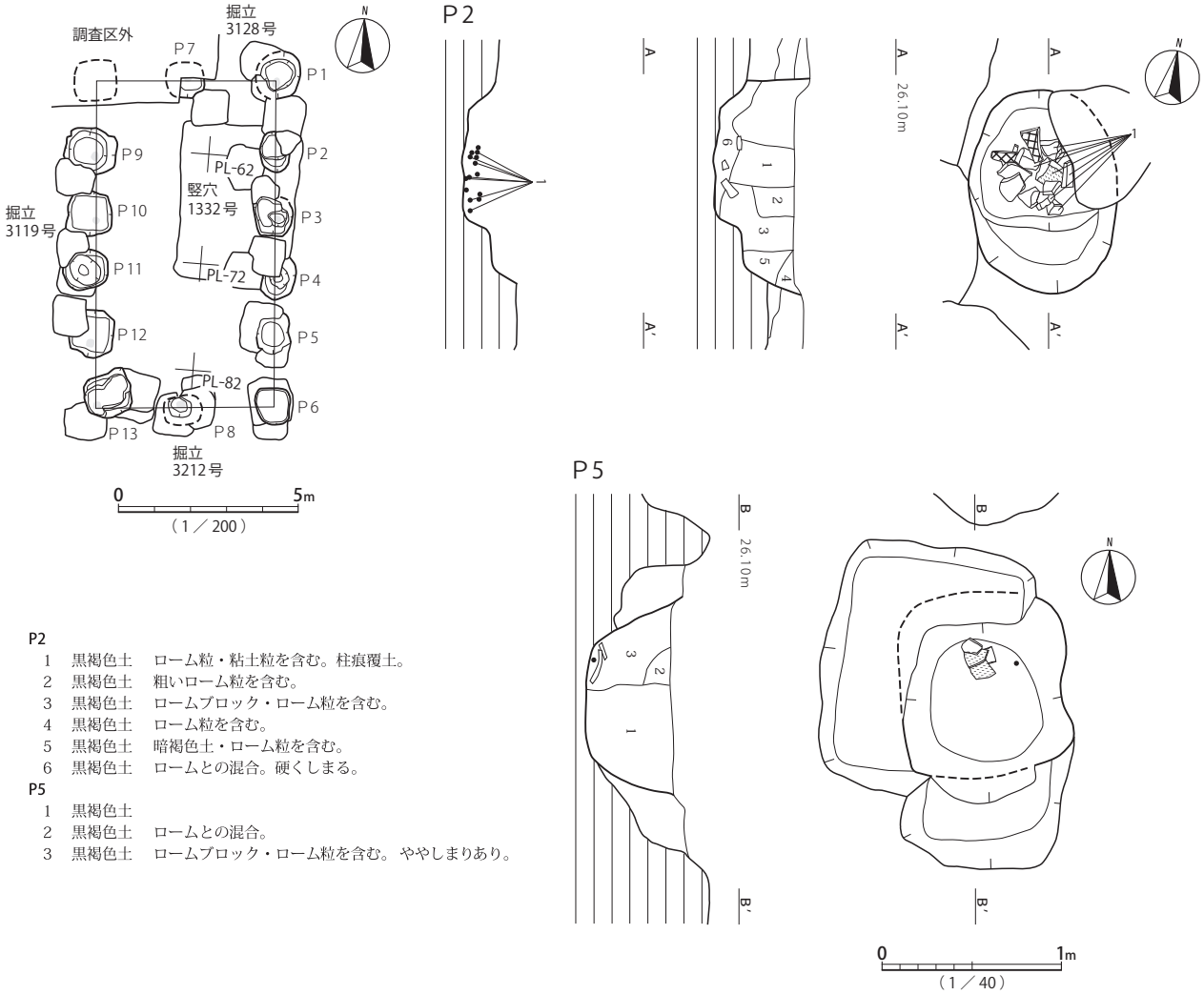
梁行2間、桁行5間の南北棟で、2回（a～c）の建替えが認められる。規模は、3123号bが17.00×6.42m、3123号cが16.84×6.80mを測り、主軸方位はいずれもN−2°−Wである。3123号bが僧寺編年IV−2期、3123号cが僧寺編年IV−3期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1・2はI型式の蓮華文軒丸瓦、3～10はI型式、11はIII型式の均整唐草文軒平瓦、12はIX型式の重圏文軒平瓦、13・14は平瓦、15は塼である。図面と写真の検討から、1・10・13・15は3123号cの帰属と考えられるが、これ以外はいずれの遺構に帰属するものか、明確でない。1・13はP2、2・4・5はP13、3はP5、6・9・15はP12、7はP1、10はP6、14はP9からの出土で、8・11・12は出土位置が明確でない。

掘立柱建物 3124 号　（Fig.81、PL.28）〔僧 I 第 169 図〕

北辺部PM−57を中心に位置する。掘立柱建物3128号、竪穴1351号と重複し、本遺構が3128号

掘立柱建物 3120号



P2
1　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。柱痕覆土。
2　黒褐色土　粗いローム粒を含む。
3　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。
5　黒褐色土　暗褐色土・ローム粒を含む。
6　黒褐色土　ロームとの混合。硬くしまる。

P5
1　黒褐色土
2　黒褐色土　ロームとの混合。
3　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。 ややしまりあり。



ph.1　ピット 2　出土状況 1



ph.2　ピット 9　出土状況 2

Fig.69　掘立柱建物3120号(1) 遺構・調査状況

掘立柱建物 3120 号

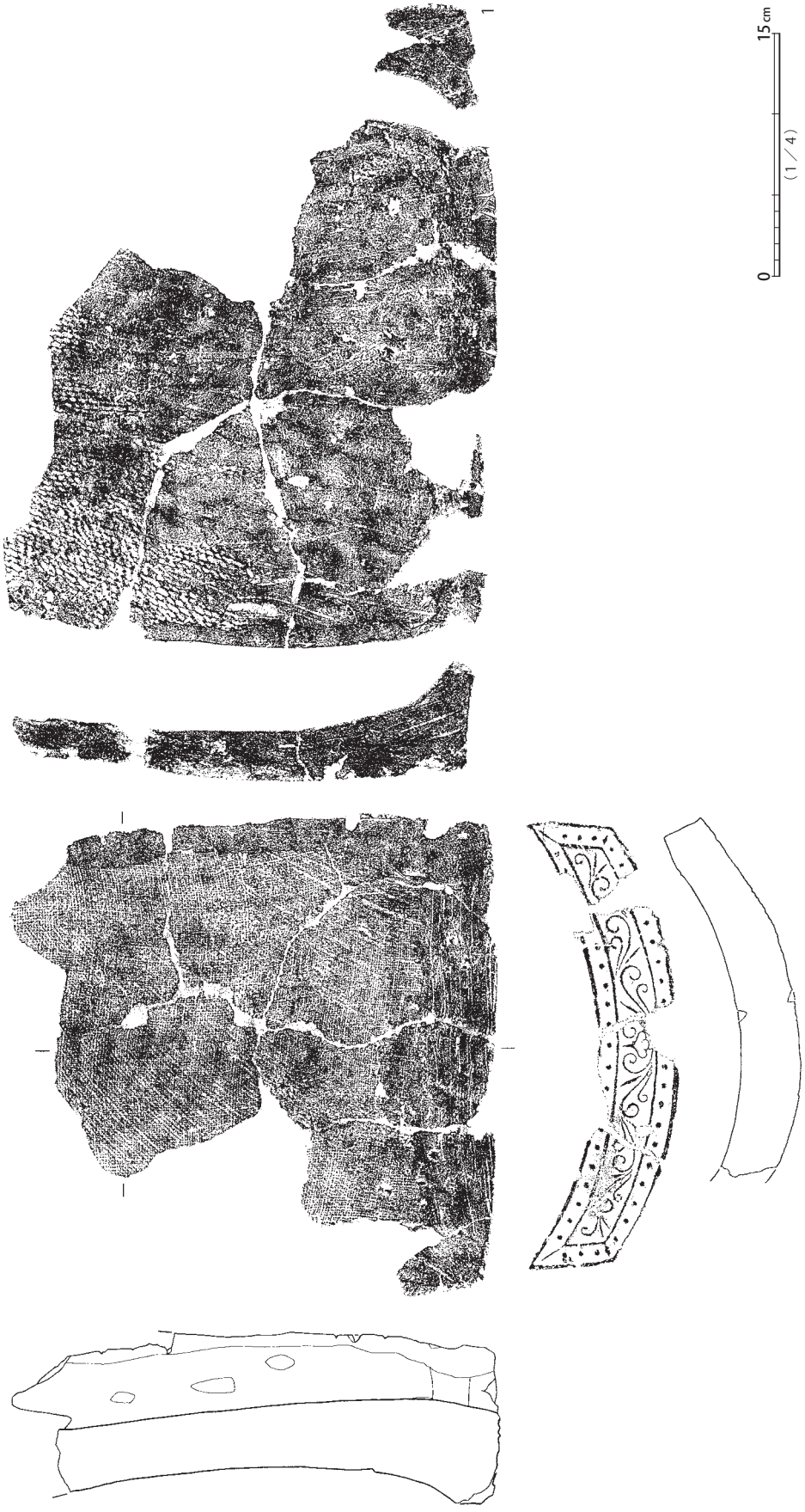


Fig.70　掘立柱建物3120号(2) 遺物

掘立柱建物 3120 号

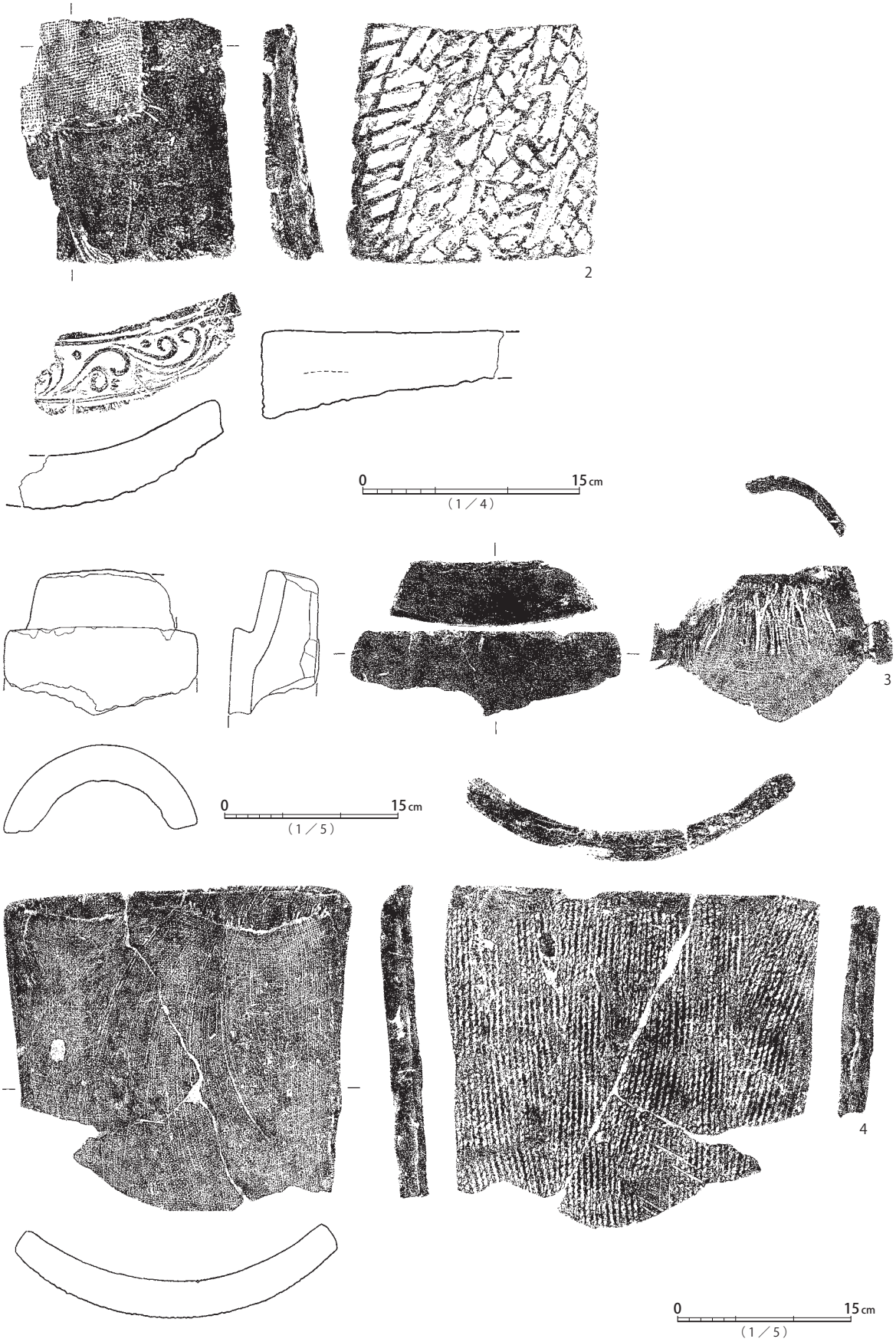
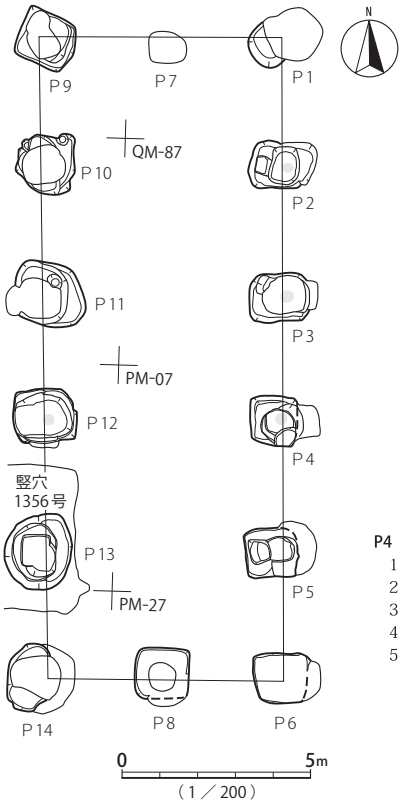
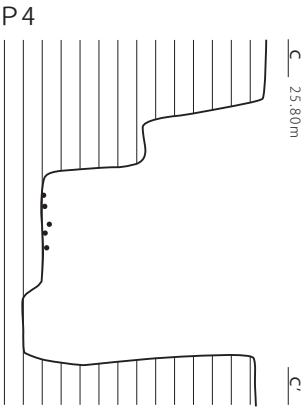
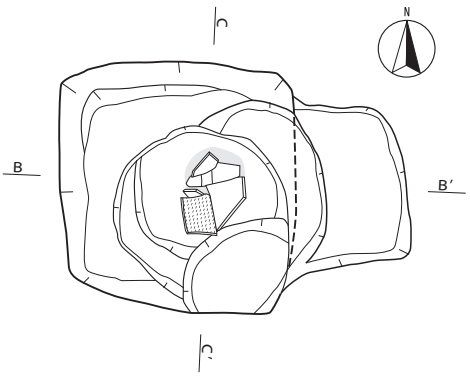


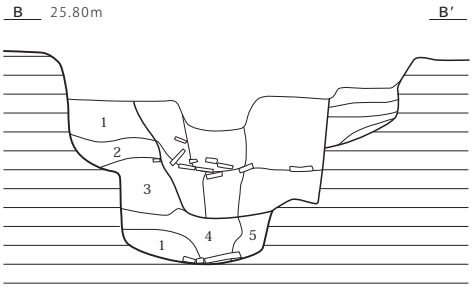
Fig.71　掘立柱建物3120号(3) 遺物

掘立柱建物 3123号b



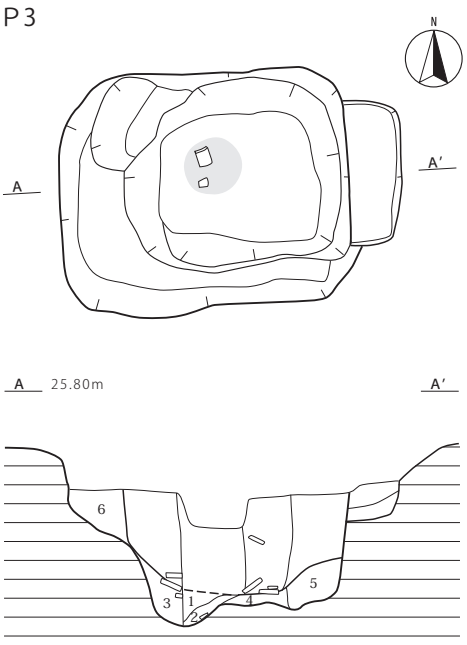


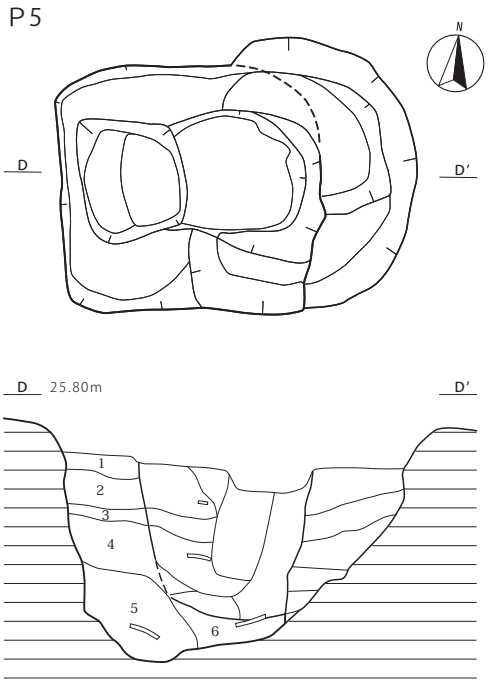




P4

1	黒褐色土	ロームブロックとの混合。
2	黒色土	ロームを含む。
3	ロームブロック	黒褐色土をわずかに含む。
4	黒褐色土	ローム粒を含む。
5	ロームブロック	黒褐色土を含む。





P3

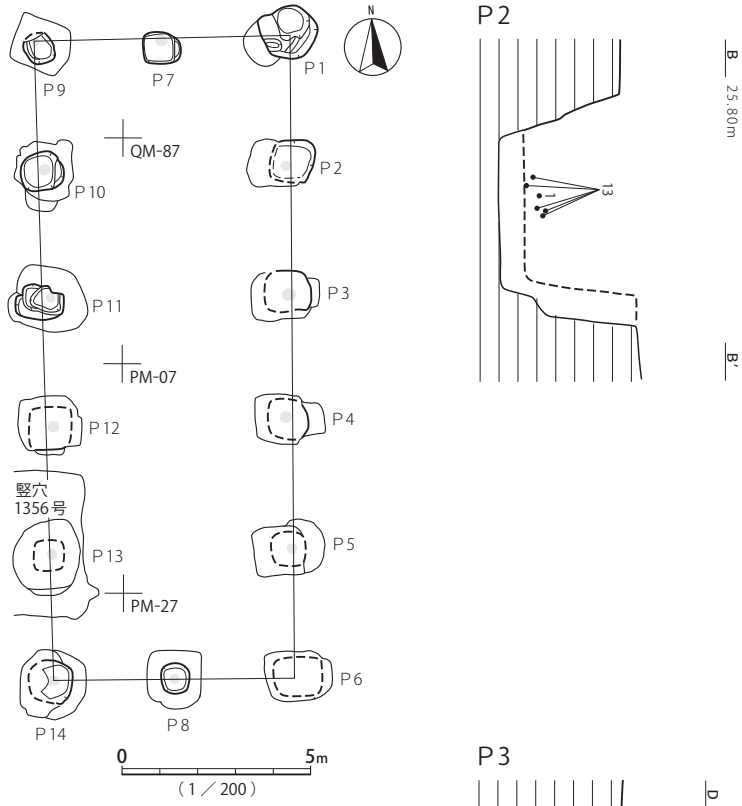
1	暗褐色土	ローム粒を含む。
2	黒褐色土	小ロームブロックを少量含む。硬くしまる。
3	黒褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。
4	ロームブロック	暗褐色土・ローム粒を含む。硬くしまる。
5	ロームブロック	
6	暗褐色土	ロームブロックを含む。

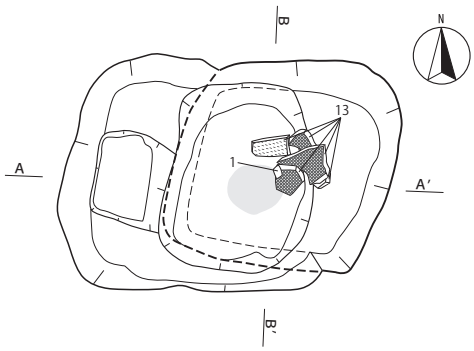
P5

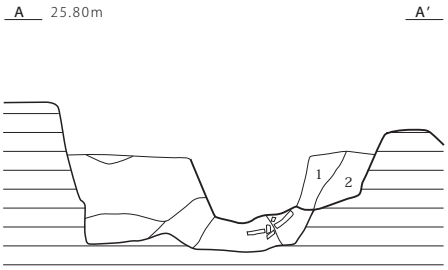
1	ロームブロック	黒色土を含む。
2	黒褐色土	ローム粒を含む。
3	黒色土	ロームを含む。
4	黒色土	ソフトロームを含む。
5	ロームブロック	
6	暗褐色土	ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。硬くしまる。

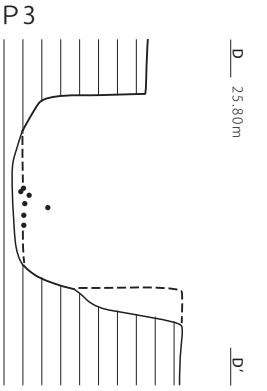
Fig.72　掘立柱建物3123号b 遺構

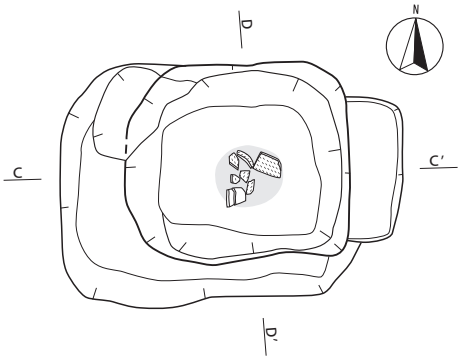
掘立柱建物 3123号c

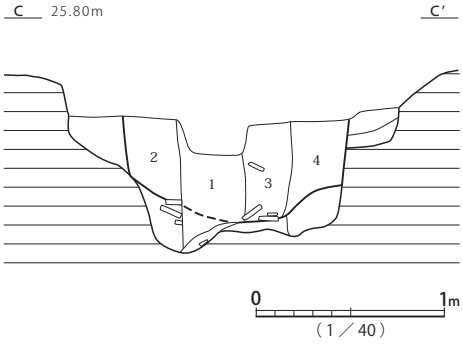












P2
1　黒褐色土　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。

P3
1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。
3　暗褐色土　ローム・粘土粒を含む。
4　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。

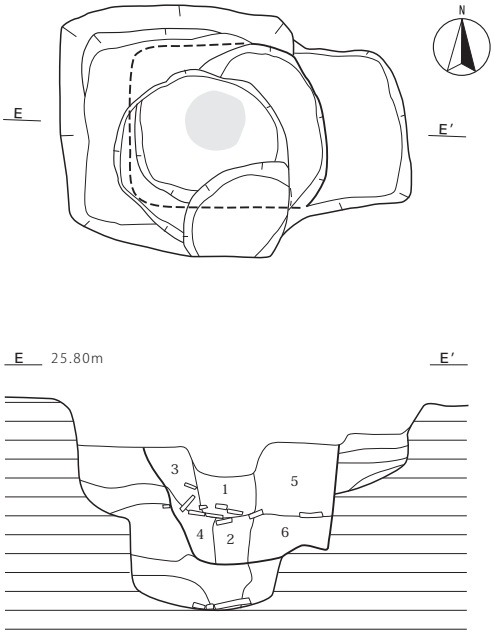


ph.1　全景

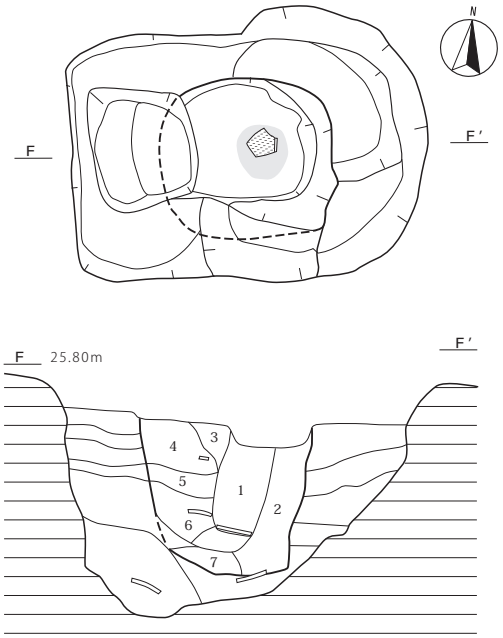
Fig.73　掘立柱建物3123号c(1) 遺構･調査状況

掘立柱建物 3123号c

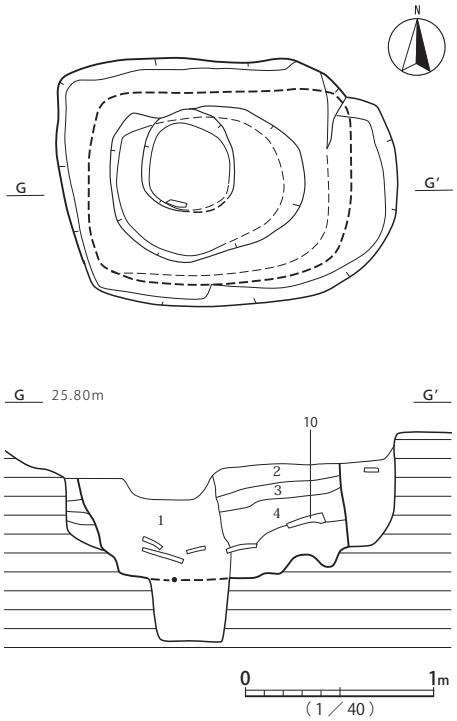
P4



P5



P6





ph.2　ピット 4　出土状況

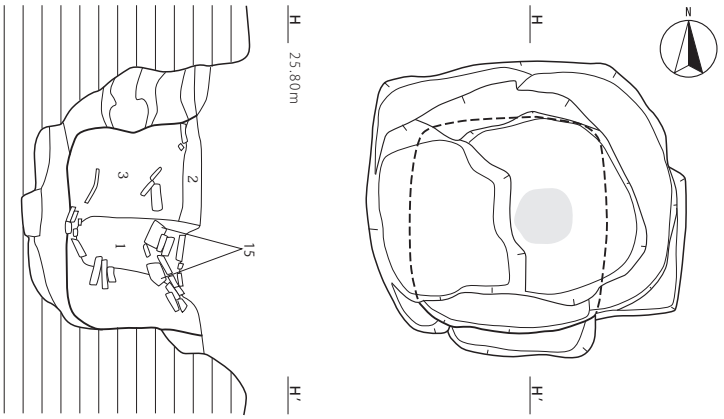


ph.3　ピット 6　出土状況 10

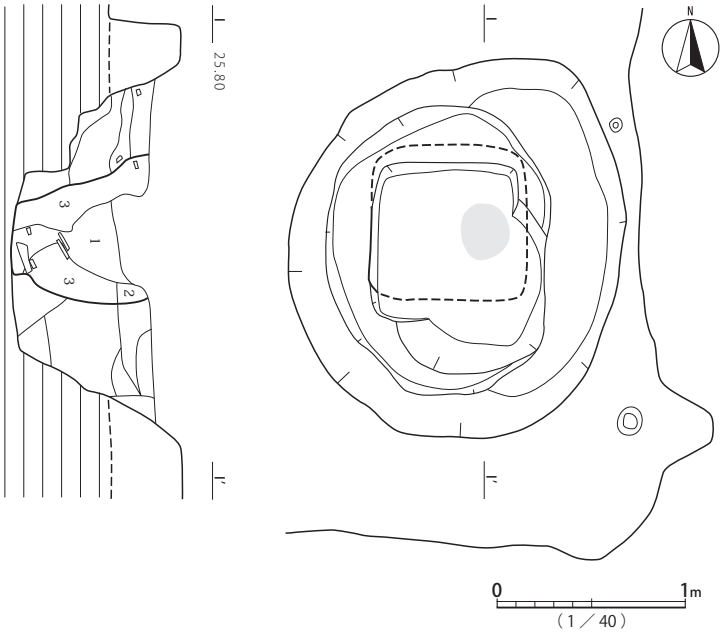
Fig.74　掘立柱建物3123号c(2) 遺構・調査状況

掘立柱建物 3123号c

P12



P13



P4
1 暗褐色土 ローム微粒・粘土粒を含む。しまりなし。
2 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒を含む。
3 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。
4 黒褐色土 ロームブロックを含む。
5 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。
6 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。

P5
1 暗褐色土 粘土粒・ローム粒を含む。しまりなし。
2 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。
3 暗褐色土 粘土粒を含む。
4 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。
5 黒褐色土 ロームを含む。
6 黒色土 ロームを含む。
7 黒褐色土 ローム粒を含む。硬くしまる。

P6
1 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。
2 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。
3 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。
4 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を多く含む。

P12
1 暗褐色土 ローム粒を多く含む。しまりなし。
2 暗褐色土 ロームブロック・粘土粒を含む。
3 黒褐色土 ロームブロックを多く含み、粘土粒も混じる。

P13
1 暗褐色土 ローム粒を含む。
2 暗褐色土 ロームを少量含む。
3 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を多く含む。



ph.4 ピット 12 出土状況 15



ph.5 ピット 13 出土状況

Fig.75 掘立柱建物3123号c(3) 遺構・調査状況

掘立柱建物 3123号b･c

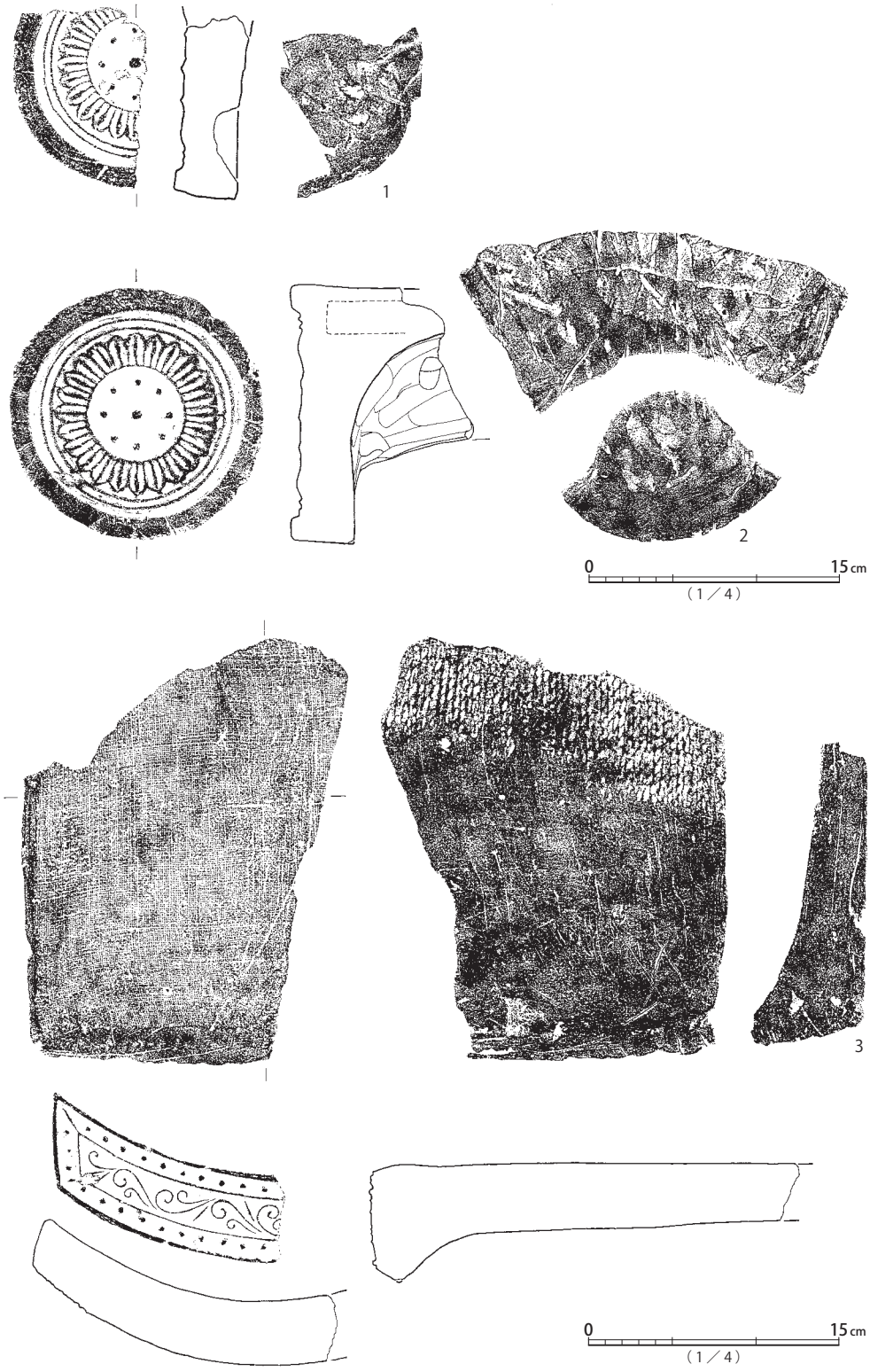


Fig.76　掘立柱建物3123号b･c(1) 遺物

掘立柱建物 3123 号b･c

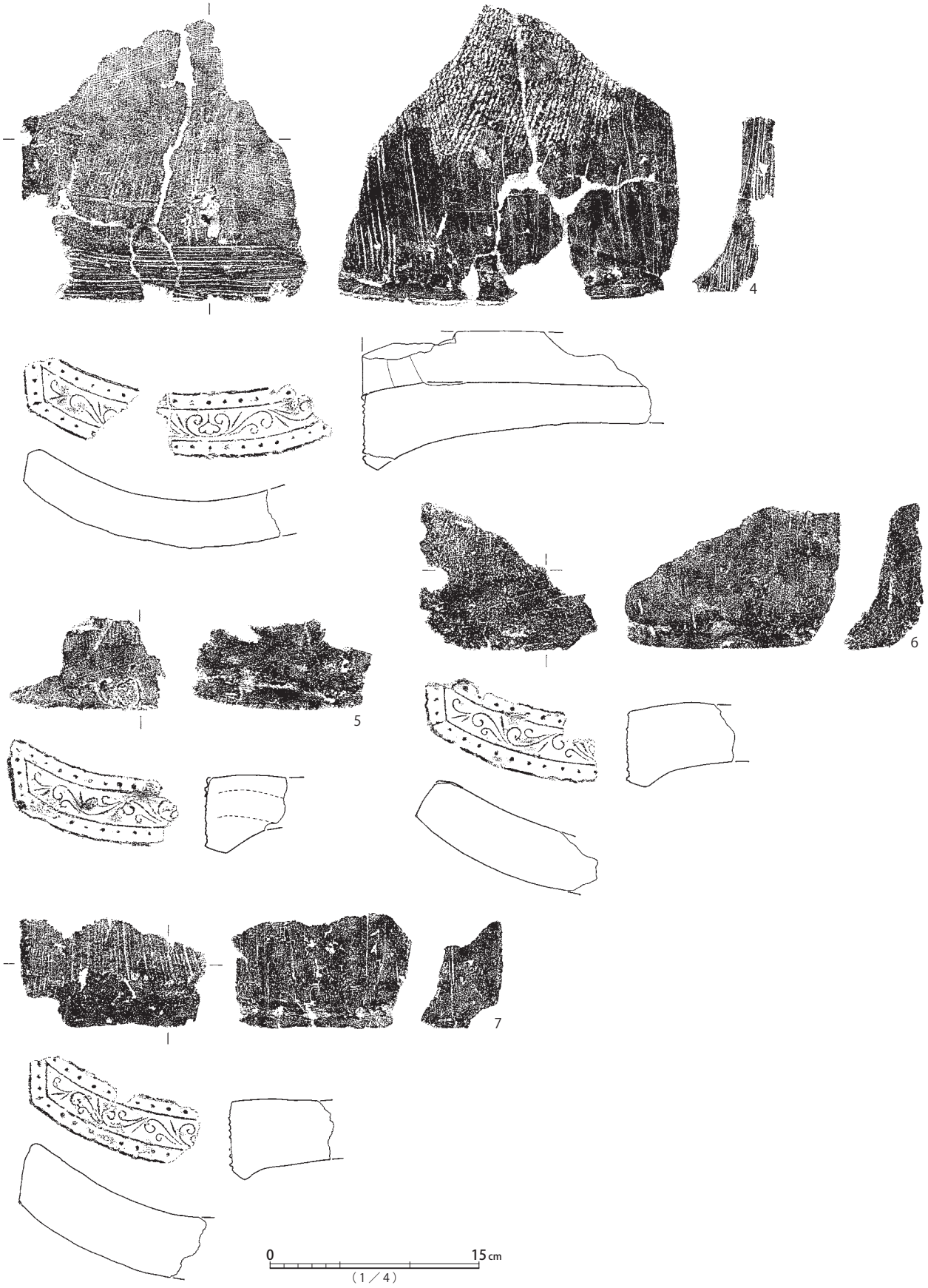


Fig.77　掘立柱建物3123号b･c(2) 遺物

掘立柱建物 3123号b･c



Fig.78　掘立柱建物3123号b･c(3) 遺物

掘立柱建物 3123号b･c

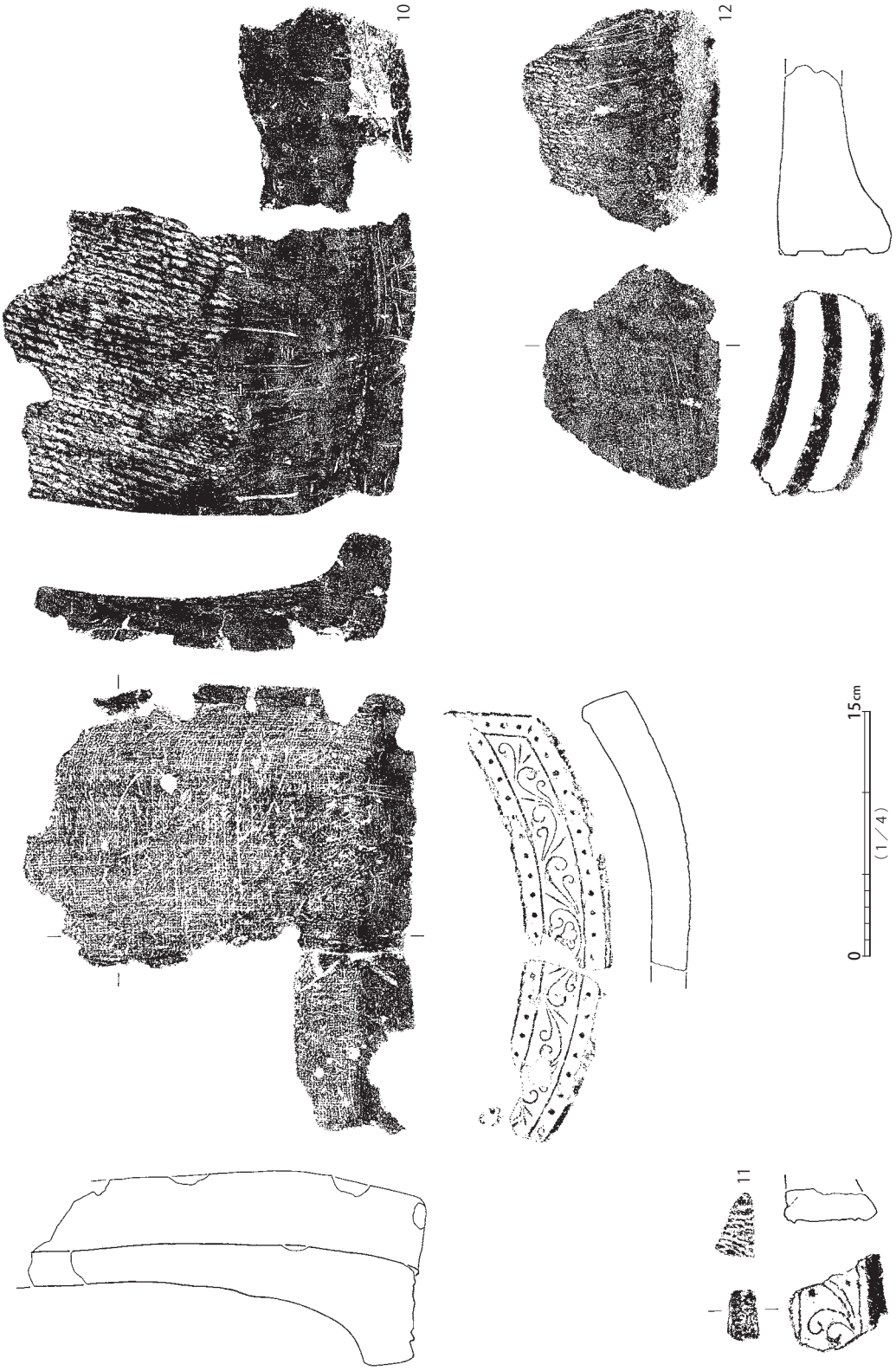
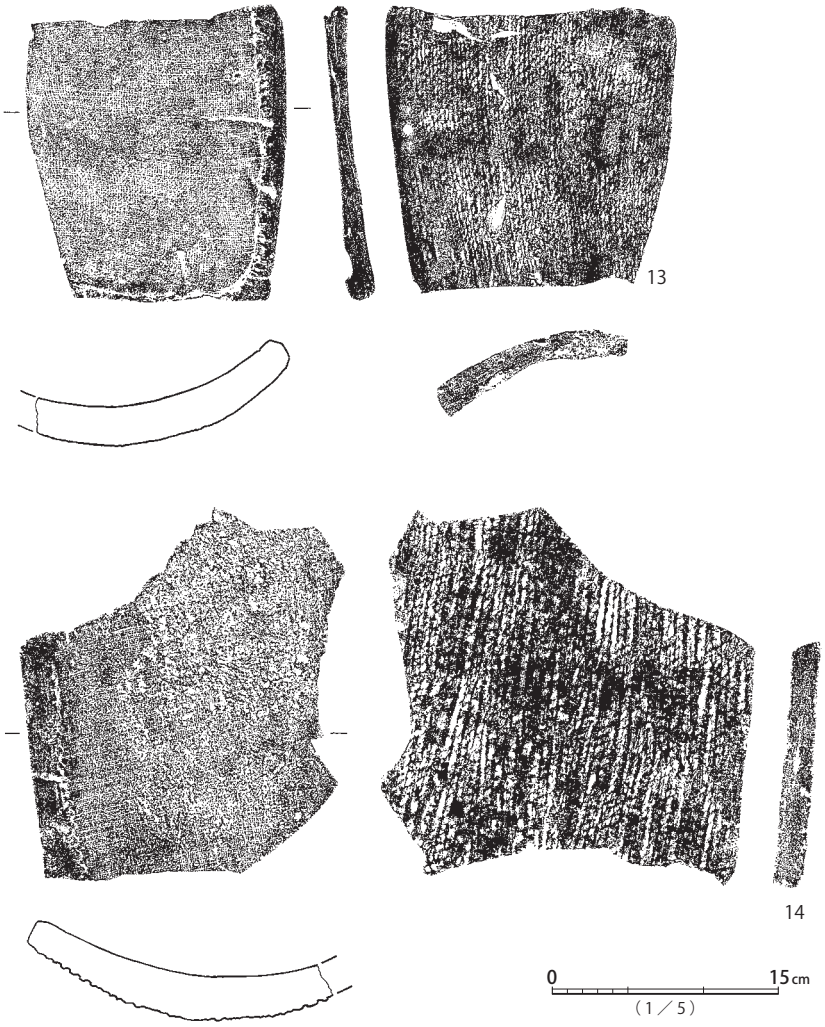


Fig.79　掘立柱建物3123号b･c(4) 遺物

掘立柱建物 3123 号b･c



塼

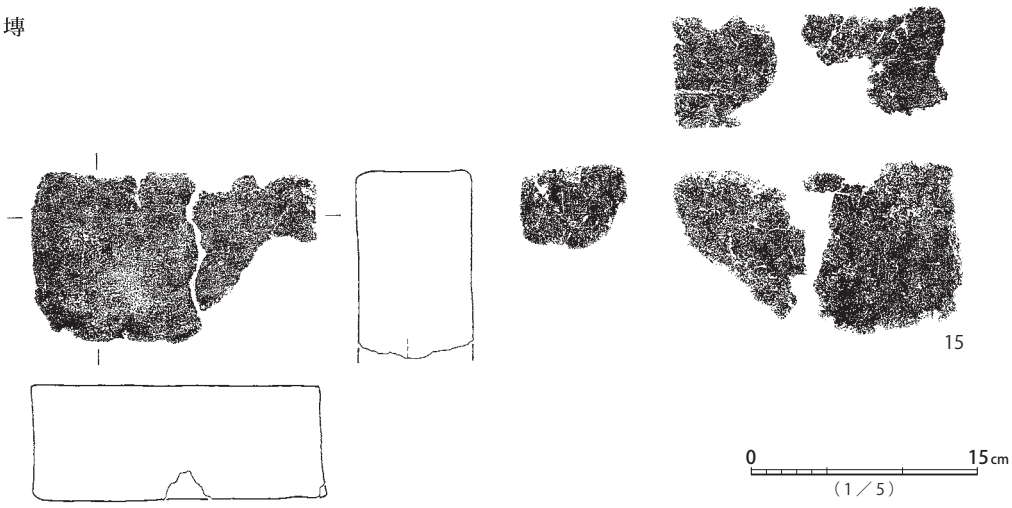


Fig.80　掘立柱建物3123号b･c(5) 遺物

よりも新しく、竪穴1351号よりも古い。

梁行2間、桁行3間で、南北棟の総柱建物である。本遺構の建替えが掘立柱建物3179号となる。規模は5.70×4.28mを測り、主軸方位はN−1°−Wである。僧寺編年Ⅳ−3期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1・2の軒平瓦である。いずれもⅠ型式の均整唐草文で、出土位置は明確でない。

掘立柱建物 3130 号　（Fig.82、PL.29）〔僧Ⅰ第 180 図〕

北辺部PL−01を中心に位置する。掘立柱建物3131号、竪穴1411号と重複し、本遺構が竪穴1411号よりも新しく、掘立柱建物3131号よりも古い。

梁行3間の南北棟であるが、遺構南側が調査区外へ延びるため、規模は明確でない。調査区東側に位置し、本遺構と一対で脇殿になると考えられる掘立柱建物3123号aと同規模とすれば、桁行は7間程度と思われる。規模は17.64×6.14m程度を測るものと考えられ、主軸方位はN−1°−Wである。僧寺編年Ⅳ−1期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、凸面に深い縄叩き目が残る。

掘立柱建物 3131 号　（Fig.83・84、PL.29）〔僧Ⅰ第 181 図〕

北辺部PL−11を中心に位置する。掘立柱建物3130号、竪穴1411号と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。

掘立柱建物3141号を建て替えたもので、掘立柱建物3123号cと一対で脇殿を構成するものと考えられる。遺構南側が調査区外に延びるため、規模は明確でないが、梁行3間、桁行7間の南北棟と思われる。規模は15.18×6.42m程度を測るものと考えられ、主軸方位はN−3°−Wである。僧寺編年Ⅳ−3期の所産と考えられる。

瓦は柱穴底部ないし覆土下層から出土しており、いずれも礎板としての利用が考えられる。

実測可能遺物は1・2の軒平瓦で、いずれもⅠ型式の均整唐草文である。1はP9からの出土で、2は出土位置が明確でない。

掘立柱建物 3136 号　（Fig.85・86、PL.29）〔僧Ⅰ第 184 図〕

北辺部PJ−28を中心に位置する。掘立柱建物3111号と重複し、本遺構の方が新しい。

遺構北側の大部分が調査区外となるが、梁行2間、桁行3間の南北棟と考えられる。規模は7.00×4.74mを測り、主軸方位はN−1°−Wである。帰属時期は明確でない。

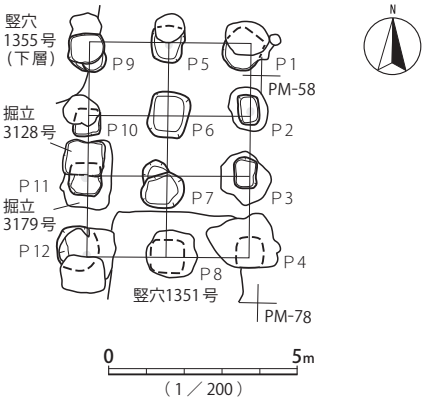
瓦は覆土中から出土しているが、いずれも混入の可能性が高い。

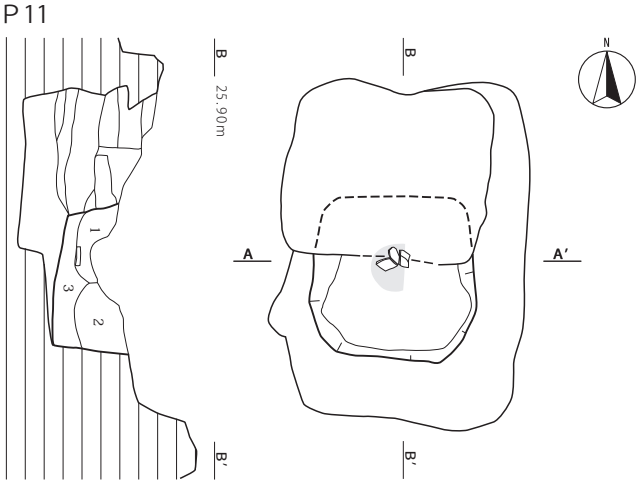
実測可能遺物は、1はⅠ型式の均整唐草文軒平瓦、2は丸瓦、3は柱状瓦製品である。2は玉縁式で、凹面には重なり合わない布の端部痕が認められる。3は両側面に切断面を残し、平瓦側縁部を切り落としたものと思われる。1はP4、2はP7からの出土で、3は出土位置が明確でない。

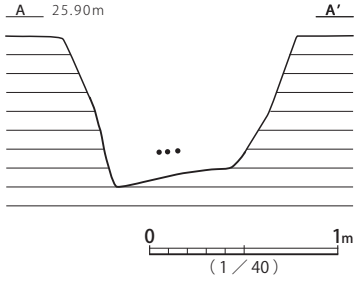
掘立柱建物 3137 号　（Fig.87、PL.28）〔僧Ⅰ第 185 図〕

北辺部PK−63を中心に位置する。掘立柱建物3117・3144・3149号、塀3133号aと重複し、本遺構が掘立柱建物3117・3149号よりも新しく、掘立柱建物3144号、塀3133号aよりも古い。

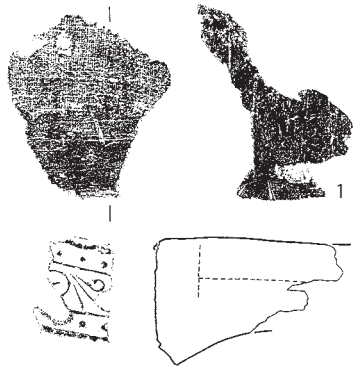
掘立柱建物 3124 号







P11
1　暗褐色土　ローム粒を含む。しまりなし。
2　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。硬くしまる。



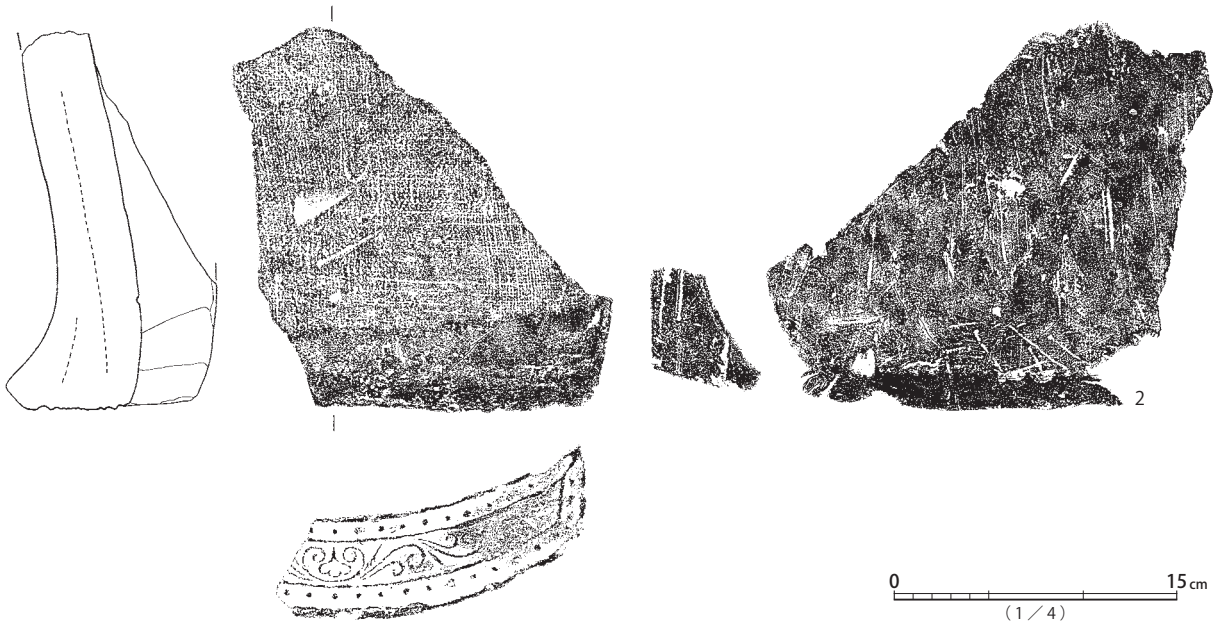


Fig.81　掘立柱建物3124号 遺構遺物

掘立柱建物 3130号

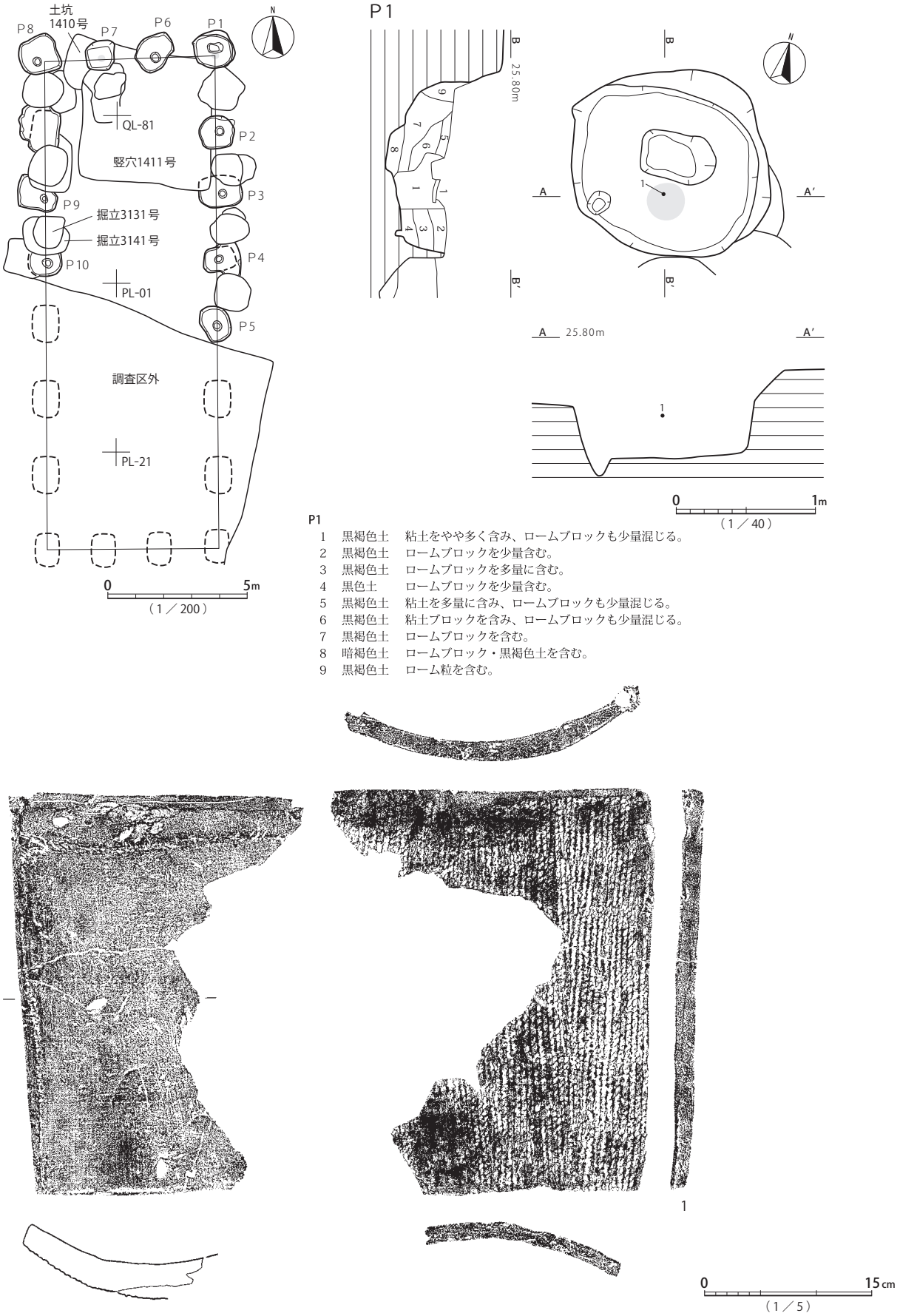
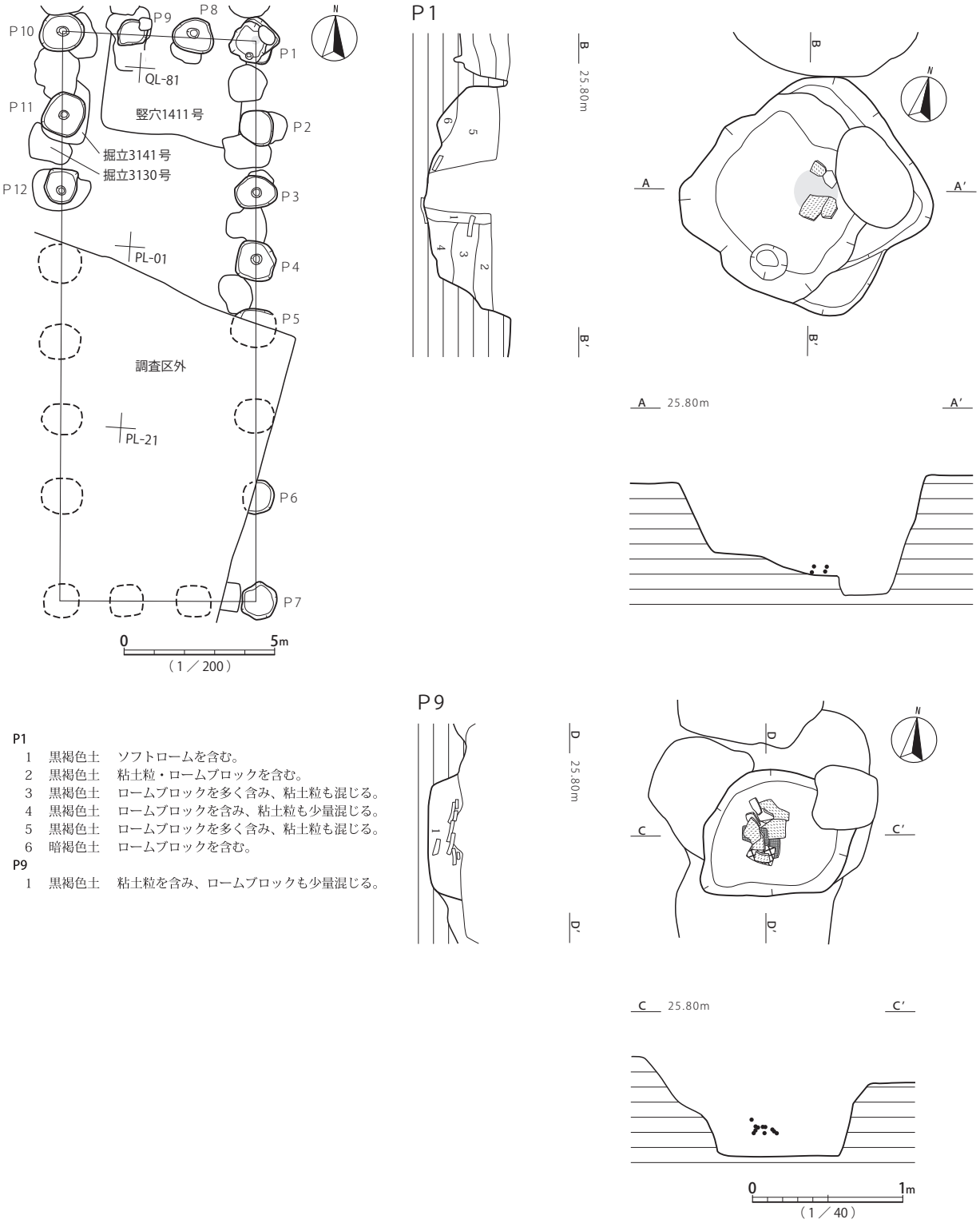


Fig.82　掘立柱建物3130号 遺構遺物

掘立柱建物 3131 号



P1
1　黒褐色土　ソフトロームを含む。
2　黒褐色土　粘土粒・ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　ロームブロックを多く含み、粘土粒も混じる。
4　黒褐色土　ロームブロックを含み、粘土粒も少量混じる。
5　黒褐色土　ロームブロックを多く含み、粘土粒も混じる。
6　暗褐色土　ロームブロックを含む。
P9
1　黒褐色土　粘土粒を含み、ロームブロックも少量混じる。

Fig.83　掘立柱建物3131号(1) 遺構

掘立柱建物 3131 号

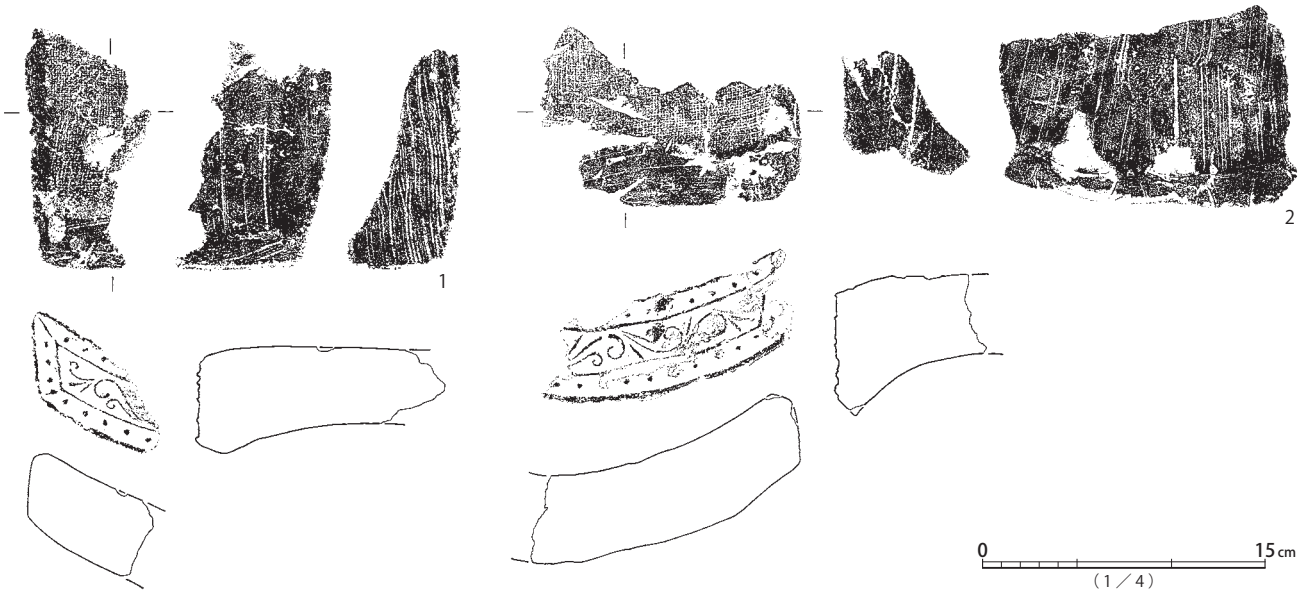


Fig.84　掘立柱建物3131号(2) 遺物

梁行2間、桁行5間の東西棟で、掘立柱建物3144号を建て替えたものである。なお、本遺構の建替えが掘立柱建物3116号となる。掘立柱建物3113号b、塀3133号b・3145号とセットで、一つの施設（国師・講師院）を構成したものと考えられる。規模は11.82×5.80mを測り、主軸方位はN−88°−Eである。僧寺編年IV−2期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1・2の平瓦である。1の凹面にはごく細かい布目痕が残る。2の凸面には格子叩きが施され、側面には凸型台からはみ出した粘土がバリ状に残る。2はP10からの出土で、1は出土位置が明確でない。

掘立柱建物 3146 号　（Fig.88）〔僧 I 第 190 図〕

北辺部PJ−59を中心に位置する。竪穴1320・1322号、土壙墓1328号と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。

梁行3間、桁行3間の総柱建物で、全体に小規模な柱穴を伴う。規模は6.30×6.18mを測り、主軸方位はN−80°−Eである。僧寺編年XII〜XIII期前半に比定され、東南部の方形館と同時期に存在したものと考えられる。

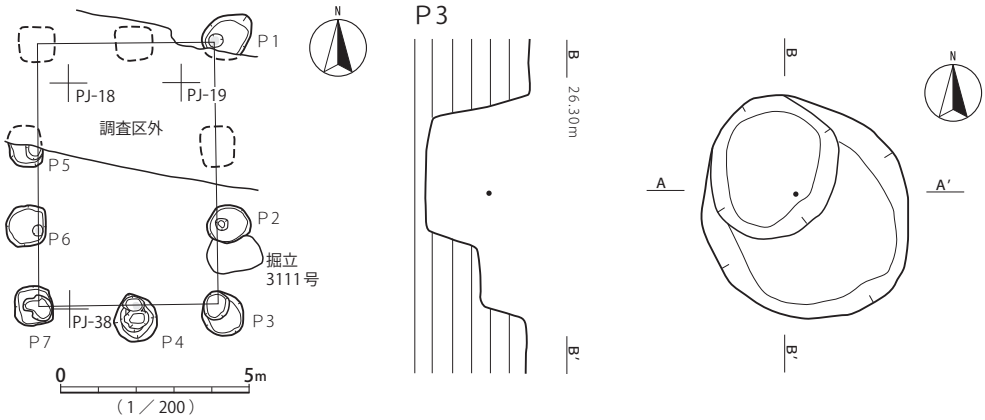
実測可能遺物は1の軒平瓦のみで、出土位置は明確でない。

掘立柱建物 3152 号　（Fig.89・90）〔僧 I 第 196 図〕

北辺部QN−34を中心に位置する。竪穴0070号（下層）と重複し、本遺構の方が新しい。

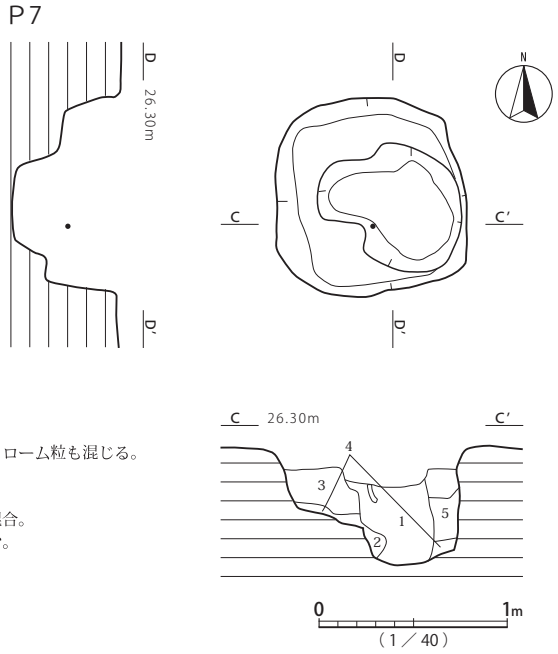
梁行2間、桁行3間の東西棟で、全体に小規模な柱穴を伴う。柱筋を同じくする掘立柱建物3171・3175号とセットで構成されたものと考えられ、掘立柱建物3175号の周囲から鉄滓が集中して出土することから、修理院に該当する可能性がある（櫻井2009）。規模は6.82×4.70mを測り、主軸方位はN−88°−Eである。僧寺編年IV−3期の所産と考えられる。

掘立柱建物 3136 号



P3

1	暗褐色土	ソフトローム・ローム粒を含む。
2	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒を含む。
3	黒褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。
4	黒色土	ロームブロックを含む。
5	黒褐色土	ロームブロック・粘土を含む。
6	黒褐色土	ロームブロックとの混合。
7	ローム	



P7

1	黒褐色土	粘土を多量に含み、ローム粒も混じる。柱痕覆土。
2	ロームブロック	黒褐色土を含む。
3	黒色土	ソフトロームとの混合。
4	黒色土	ローム・粘土を含む。
5	黒色土	粘土を含む。

Fig.85　掘立柱建物3136号(1) 遺構

掘立柱建物 3136 号

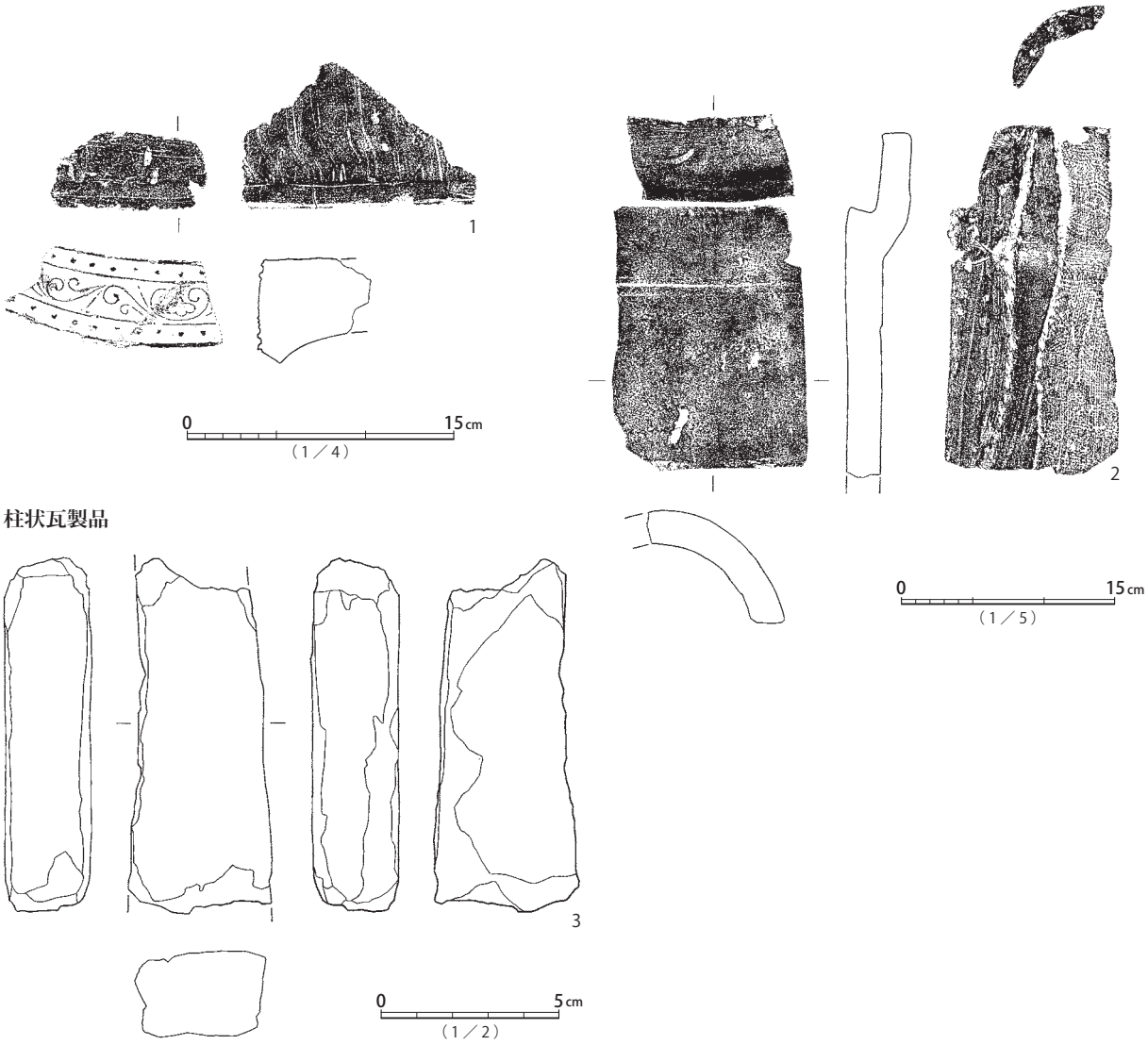


Fig.86　掘立柱建物3136号(2) 遺物

図面と写真からは、礎板として利用されたと思われる瓦の出土がP1・P4・P7で確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

掘立柱建物 3153 号　（Fig.91～93、PL.29・30・215）〔僧Ⅰ第 197 図〕

北辺部RM−53を中心に位置する。掘立柱建物3155・3157・3158号と重複し、本遺構が掘立柱建物3157・3158号よりも新しく、掘立柱建物3155号よりも古い。

梁行2間、桁行3間の東西棟で、本遺構の建替えが掘立柱建物3155号となる。規模は9.20×5.90mを測り、主軸方位はN−87°−Wである。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はⅠ型式の均整唐草文軒平瓦、2は行基葺式の丸瓦、3・4は平瓦である。1の顎付近には、帯状に赤色顔料が付着する。2は厚く粗雑なつくりで、凹面に粘土板接合痕、側面凹面側に半截破面を残す。3の凹面広端側中央には、粘土がなでつけられる。2・3は南田瓦窯跡で焼成され

掘立柱建物 3137 号

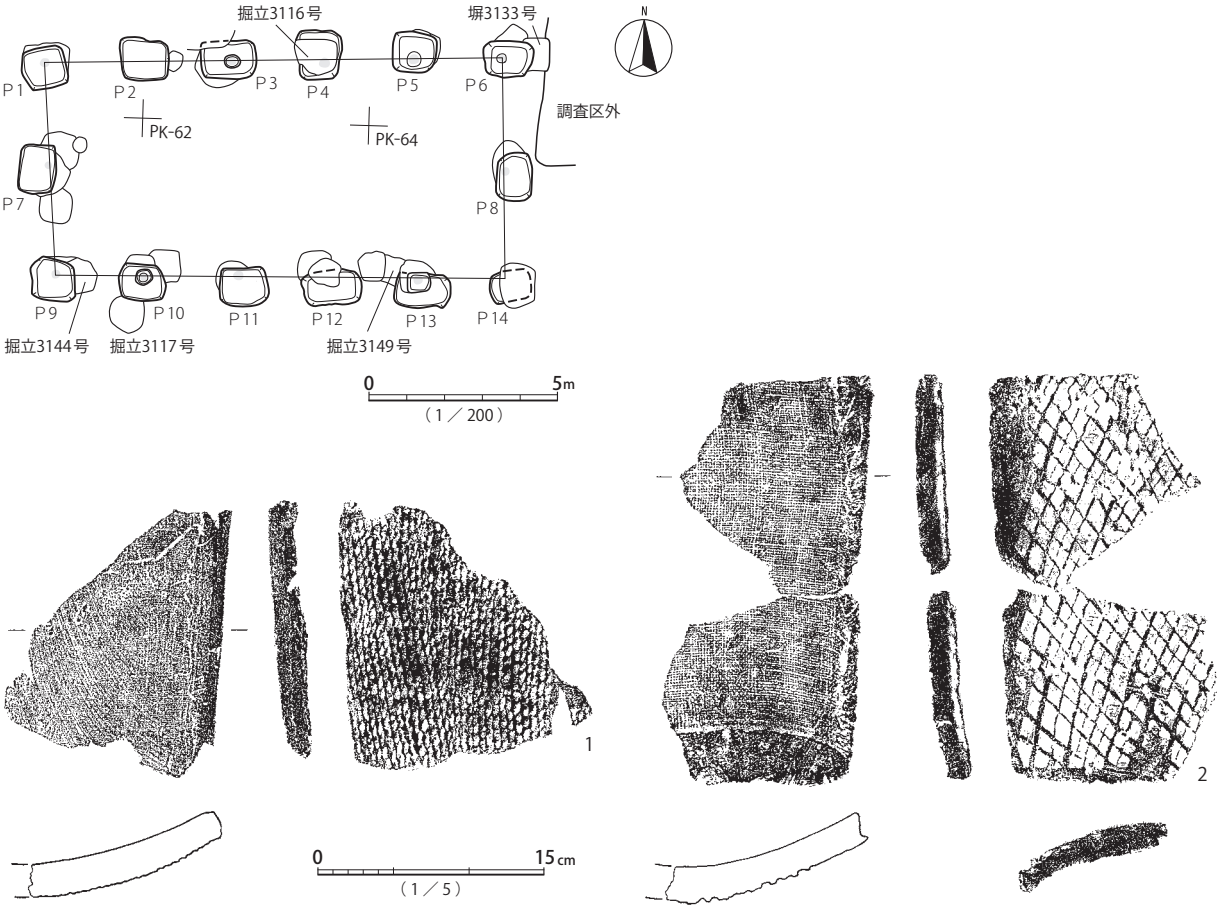


Fig.87　掘立柱建物3137号 遺構遺物

た瓦と特徴が一致する。1はP3からの出土で、2～4は出土位置が明確でない。

掘立柱建物 3154 号　（Fig.94～97、PL.29～31）〔僧Ⅰ第 198・199 図〕

北辺部RM－53を中心に位置する。掘立柱建物3158号、道路0614号と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。

梁行2間、桁行3間の東西棟で、全体に小規模な柱穴を伴う。掘立柱建物3155号を縮小して建て替えたものである。規模は7.78×4.78mを測り、主軸方位はN－89°－Wである。9世紀第3四半期頃の土器類がまとまって出土しており、僧寺編年Ⅴ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はⅠ型式の均整唐草文軒平瓦、2は丸瓦、3～7は平瓦である。1は2次的に被熱し、亀裂が多く入る。2は厚いつくりで、凸面横断面が多角形を呈する。1・2・6はP4、3はP3、4はP1、5はP9、7はP8からの出土である。

掘立柱建物 3155 号　（Fig.98～110、PL.31～33・215）〔僧Ⅰ第 200・201 図〕

北辺部RM－52を中心に位置する。掘立柱建物3156～3158号と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。

掘立柱建物 3146 号

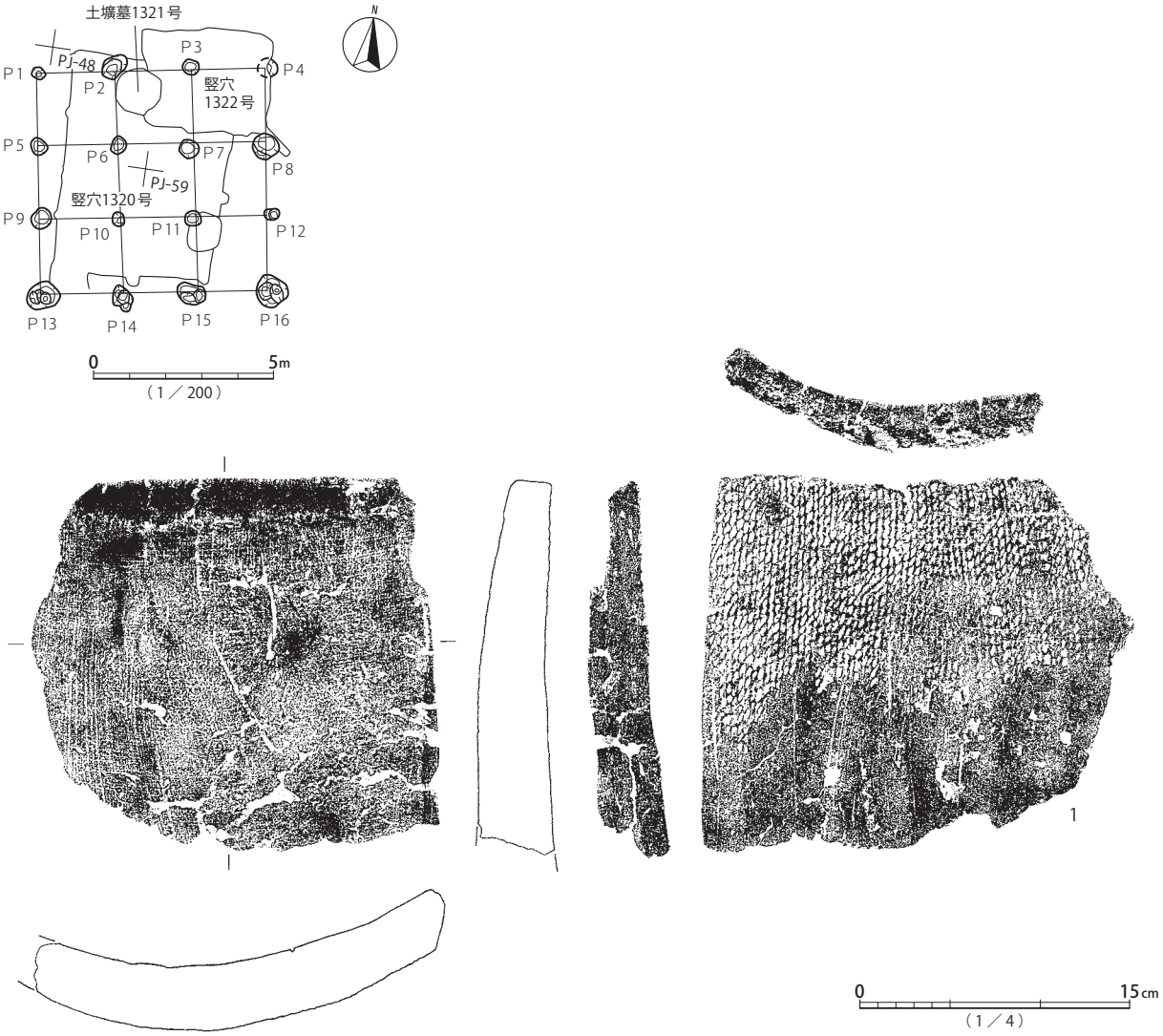


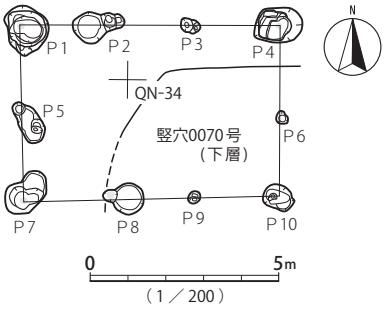
Fig.88　掘立柱建物3146号 遺構遺物

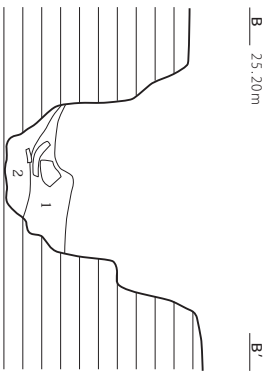
梁行2間、桁行6間の東西棟で、中央に間仕切柱ないし屋内棟持柱を設ける。掘立柱建物3153号を建て替えたもので、本遺構の建替えが掘立柱建物3154号となる。規模は18.00×6.40mを測り、主軸方位はN−89°−Wである。僧寺編年Ⅳ−5期の所産と考えられる。

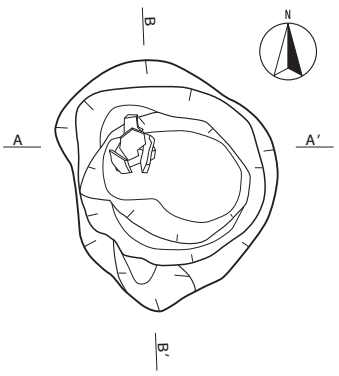
瓦は柱穴底部や柱掘形の版築層から多量に出土しており、礎板として利用されたものが多いと思われる。

実測可能遺物は、1はI型式の蓮華文軒丸瓦、2〜13はI型式の均整唐草文軒平瓦、14〜19は平瓦、20は隅切瓦、21〜24は塼である。2・6・9・10・13は2次的に被熱し、10・13は亀裂が著しい。20は広端左隅部を切り欠く。塼は幅18〜19cm、厚さ7.5cm程度を測り、いずれも長方形を呈するものと考えられる。1・2・20はP4、3・5・21・24はP3、4はP1、6・17・23はP11、7・16・22はP5、8・11はP14、9はP12、14はP6、15はP2、18・19はP8からの出土で、10・12・13は出土位置が明確でない。

掘立柱建物 3152号



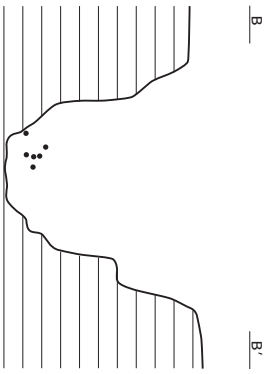


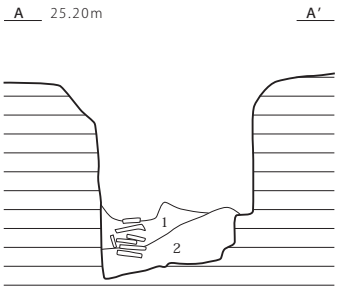


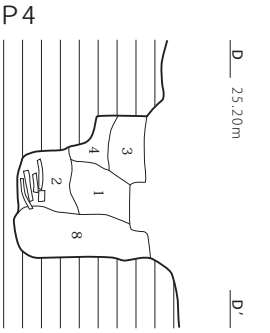
P1

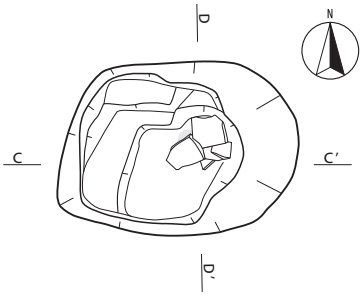
1　暗褐色土　　褐色土・ロームブロック・ローム粒を多量に含み、黒褐色土もわずかに混じる。

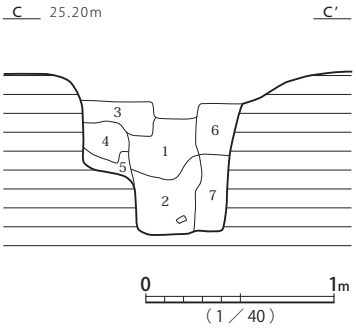
2　ロームブロック　褐色土・ローム粒を多量に含む。









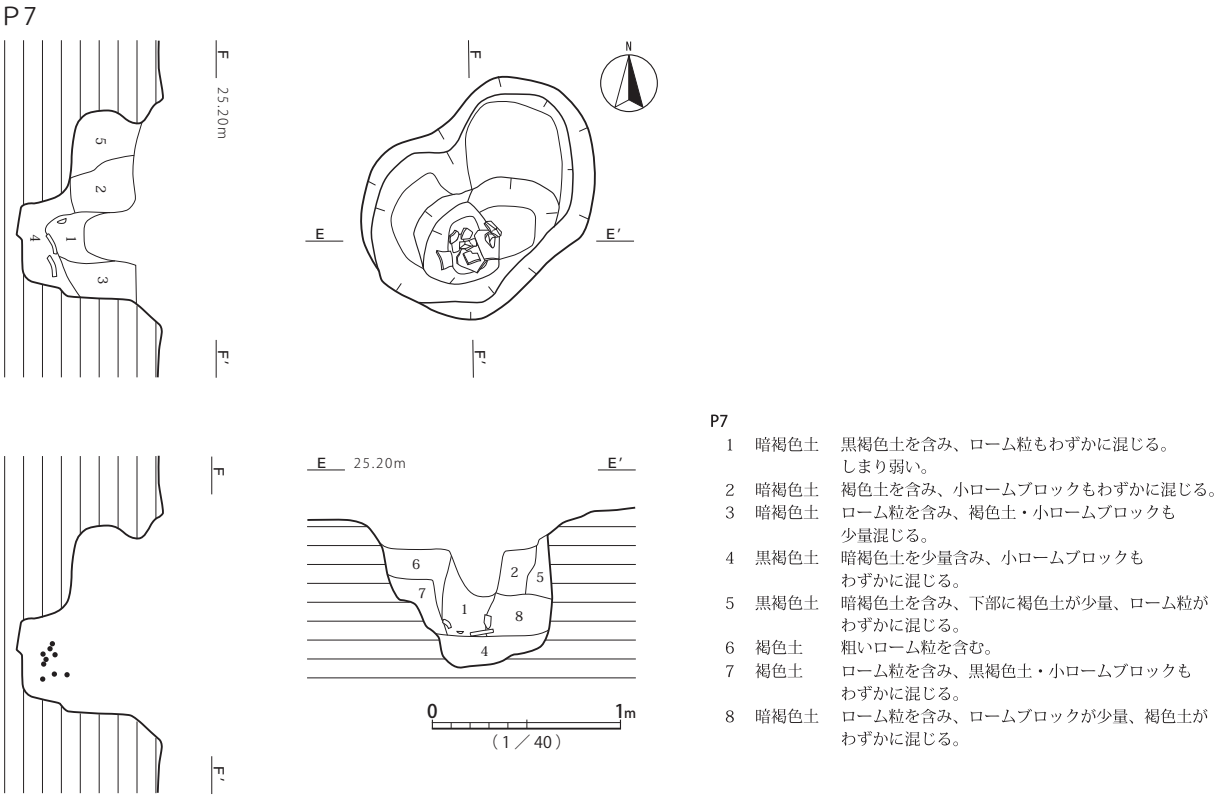


P4

1　暗褐色土　小ロームブロック・ローム粒を含み、褐色土も少量混じる。
2　暗褐色土　ローム粒を含み、褐色土・小ロームブロックも少量混じる。
3　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、褐色土・小ロームブロックもわずかに混じる。
4　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、褐色土が少量、小ロームブロックがわずかに混じる。
5　暗褐色土　ローム粒を含み、褐色土・ロームブロックも少量混じる。
6　暗褐色土　褐色土・ローム粒を含み、小ロームブロックも少量混じる。
7　暗褐色土　ローム粒を含み、褐色土も少量混じる。
8　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、小ロームブロック・褐色土も少量混じる。

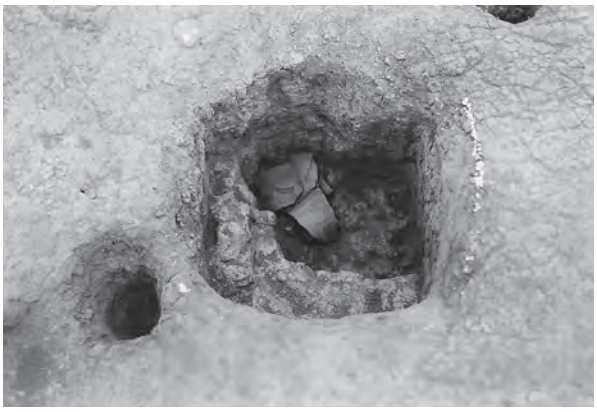
Fig.89　掘立柱建物3152号(1) 遺構

掘立柱建物 3152 号

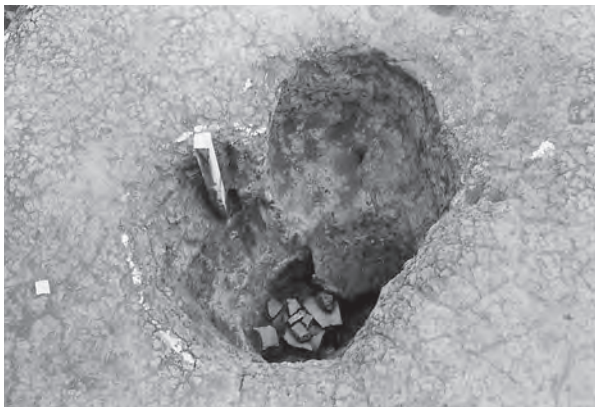


P7

1	暗褐色土	黒褐色土を含み、ローム粒もわずかに混じる。しまり弱い。
2	暗褐色土	褐色土を含み、小ロームブロックもわずかに混じる。
3	暗褐色土	ローム粒を含み、褐色土・小ロームブロックも少量混じる。
4	黒褐色土	暗褐色土を少量含み、小ロームブロックもわずかに混じる。
5	黒褐色土	暗褐色土を含み、下部に褐色土が少量、ローム粒がわずかに混じる。
6	褐色土	粗いローム粒を含む。
7	褐色土	ローム粒を含み、黒褐色土・小ロームブロックもわずかに混じる。
8	暗褐色土	ローム粒を含み、ロームブロックが少量、褐色土がわずかに混じる。



ph.1　ピット 4　出土状況



ph.2　ピット 7　出土状況

Fig.90　掘立柱建物3152号(2) 遺構・調査状況

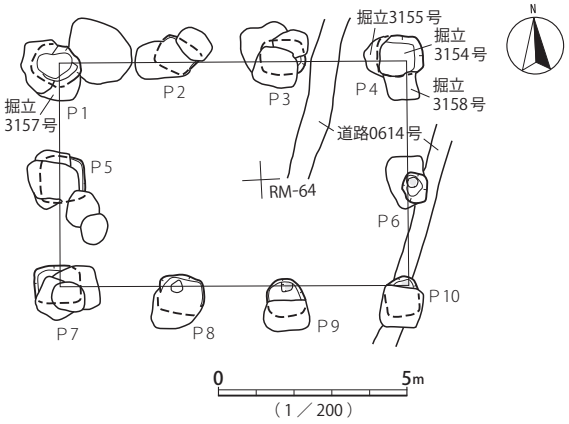
掘立柱建物 3162 号 a　（Fig.111～115、PL.33）〔僧 I 第 207・208 図〕

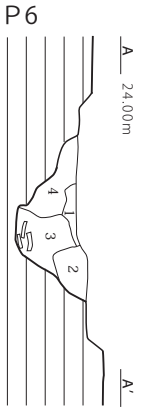
北辺部QM−27を中心に位置する。掘立柱建物3160・3161号と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。

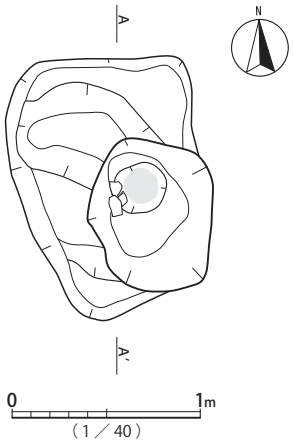
梁行3間、桁行6間の南北棟で、身舎西面に6間の小規模な柱穴による庇を設ける。建替え後のものをaとした。規模は14.85×7.42mを測り、主軸方位はN−1°−Wである。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

瓦はP1・9・13の底部からまとまって出土しているが、いずれも小破片となったものが多い。

掘立柱建物 3153号







P6
1　黒褐色土
2　黒色土　　黒褐色土・ローム粒を含む。
3　黒褐色土　ローム・暗褐色土を含む。
4　黒褐色土　ロームを含む。



ph.1　3153号～3155号　全景



ph.2　ピット 6　出土状況

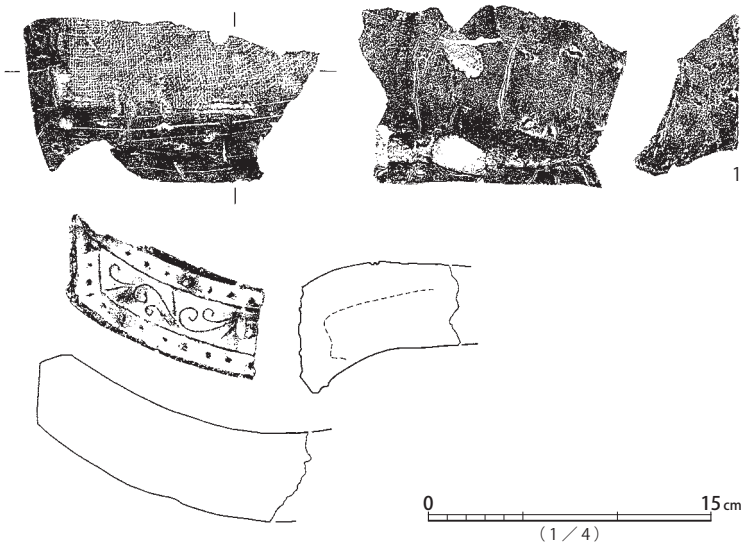


Fig.91　掘立柱建物3153号(1) 遺構遺物・調査状況

掘立柱建物 3153 号

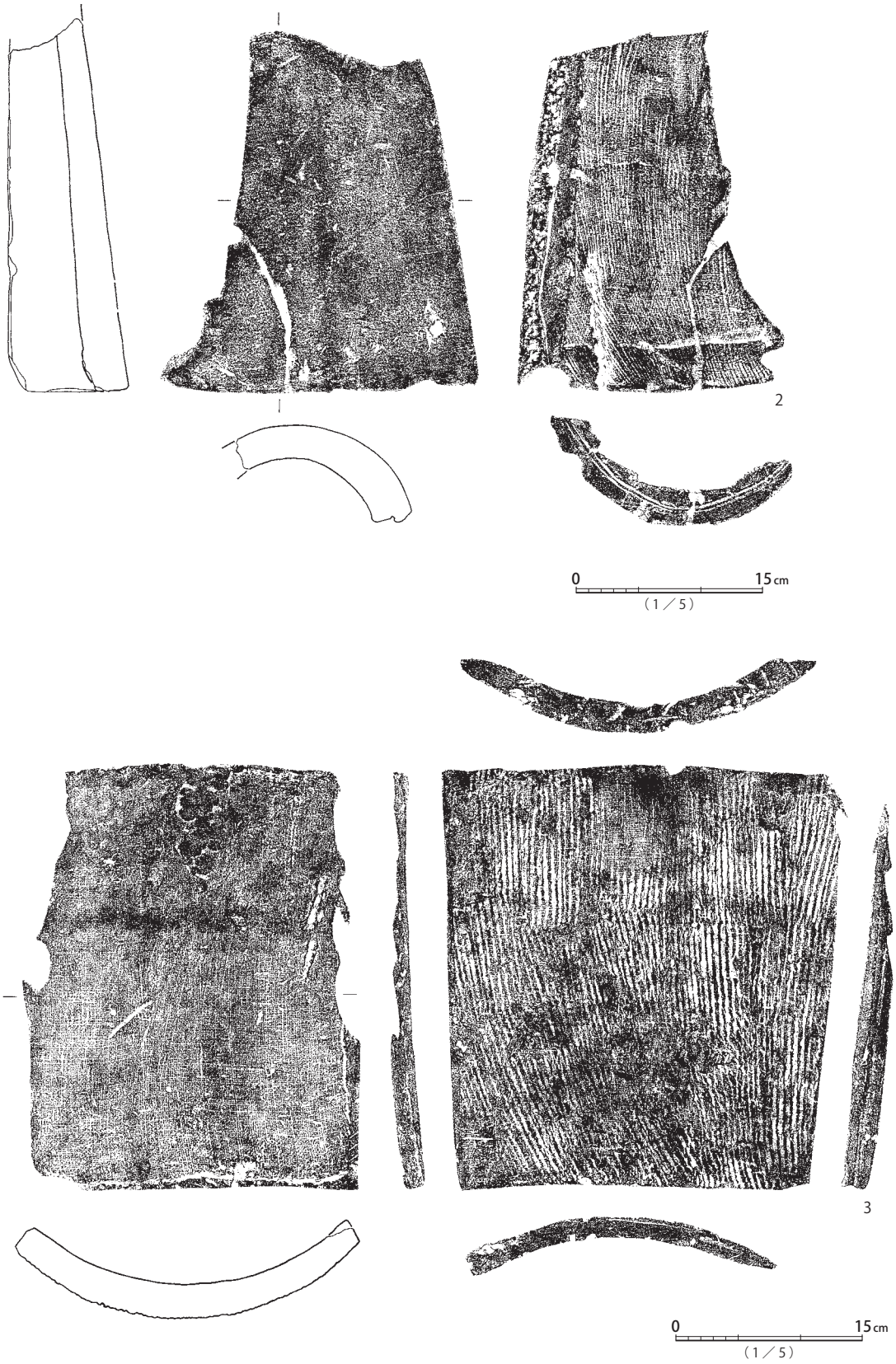


Fig.92　掘立柱建物3153号(2) 遺物

掘立柱建物 3153 号



Fig.93　掘立柱建物3153号(3) 遺物

実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2はVIII型式の重圏文軒平瓦である。2は段顎気味で、中央弧線は脇区に接しない。1はP15、2はP4からの出土である。

掘立柱建物 3162 号 b　（Fig.116）〔僧 I 第 209・210 図〕

北辺部QM−27を中心に位置する。掘立柱建物3160・3161号と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。

梁行3間、桁行6間の南北棟で、建替え前のものをbとした。礎石建物3176号c（西脇殿）と対になる。規模は14.85×6.40mを測り、主軸方位はN−1°−Wである。掘立柱建物3160号→3161号→3162号bの順に建て替えられたもので、僧寺編年IV−3期の所産と考えられる。

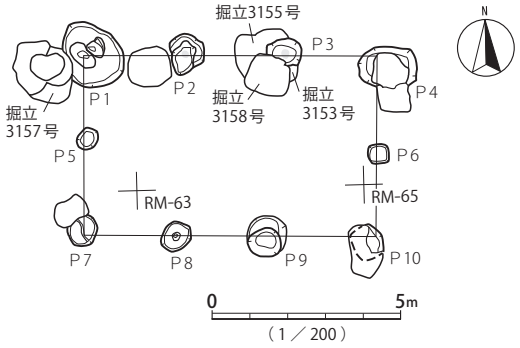
図面からは、P10・13・14・18から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

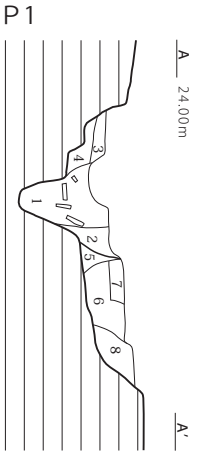
掘立柱建物 3164 号 a・b　（Fig.117）〔僧 I 第 212・213 図〕

北辺部QL−10を中心に位置する。掘立柱建物3165号と重複し、本遺構の方が新しい。

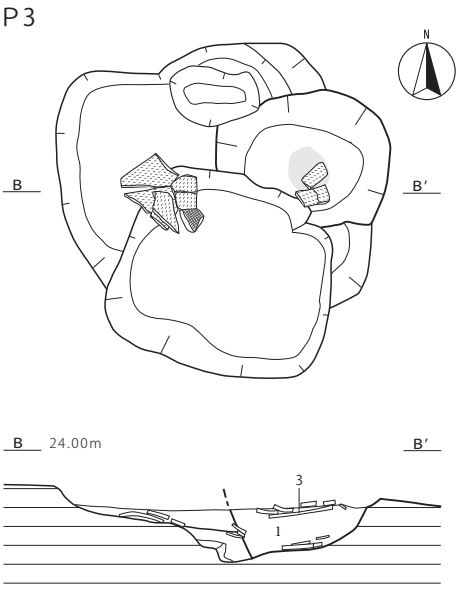
梁行2間、桁行6間の東西棟で、建替え後をa、建替え前をbとした。掘立柱建物3166号を建て替えたもので、本遺構の建替えが掘立柱建物3167号となる。規模は15.38×4.88mを測り、主軸方位はN−89°−Eである。僧寺編年IV−3期の所産と考えられる。

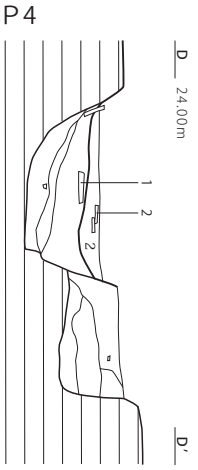
掘立柱建物 3154 号

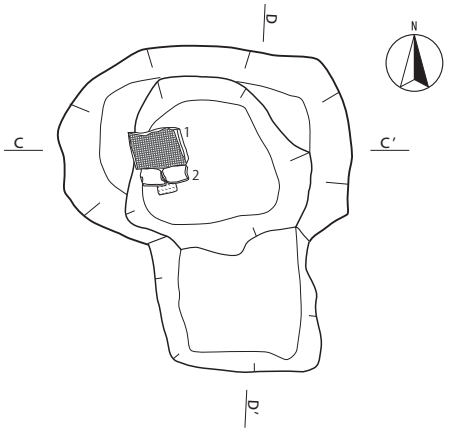


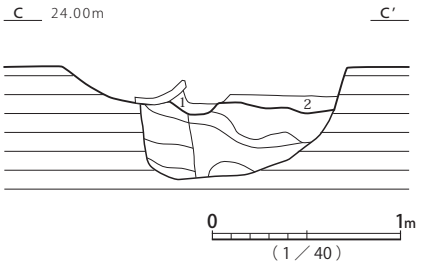


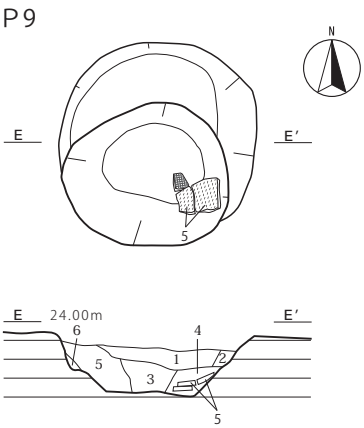












P1
1　黒褐色土　ローム粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
3　黒褐色土　暗褐色土・ローム微粒を含む。
4　暗褐色土
5　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
6　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
7　暗褐色土　ソフトローム・粘土粒を多く含む。
8　黒褐色土

P3
1　暗褐色土　黒褐色土・ローム粒・粘土粒を含む。

P4
1　黒褐色土
2　黒褐色土　ソフトロームを少量含む。

P9
1　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を少量含む。
2　黒褐色土　暗褐色土を少量含む。
3　黒褐色土　ローム粒・粘土粒をわずかに含む。
4　暗褐色土　黒褐色土・ローム粒を含み、褐色土も少量混じる。
5　黒褐色土　褐色土を少量含み、粘土粒・ローム粒もわずかに混じる。
6　黒褐色土　黒色土を含む。

Fig.94　掘立柱建物3154号(1) 遺構

掘立柱建物 3154 号

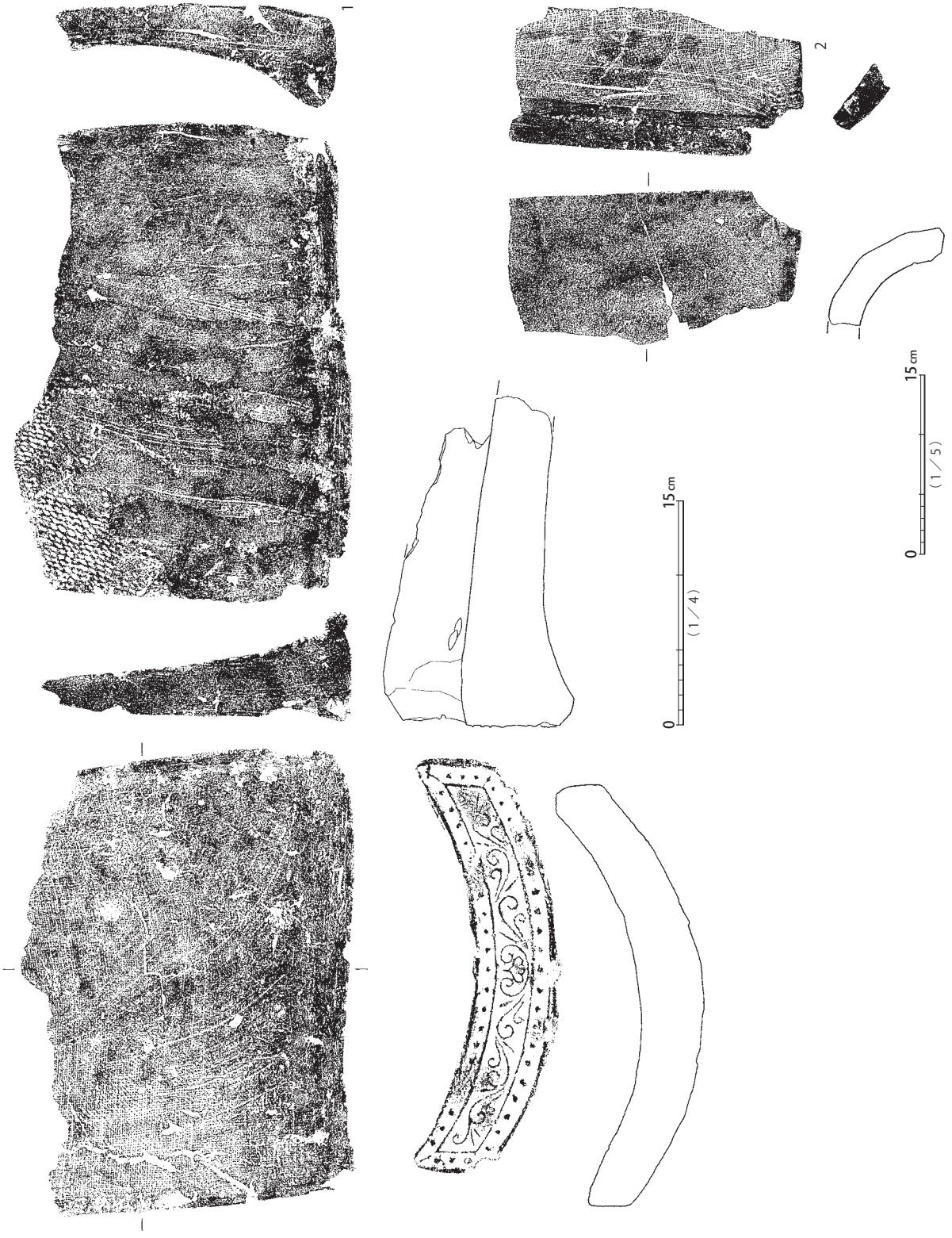
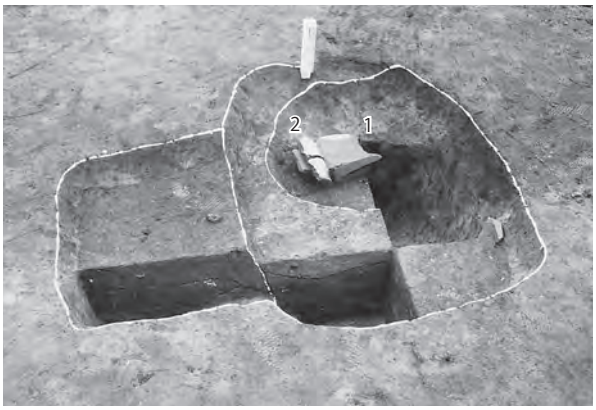


Fig.95　掘立柱建物3154号(2) 遺物



ph.1　ピット３　出土状況



ph.2　ピット４　出土状況１・２



Fig.96　掘立柱建物3154号(3) 遺物・調査状況

図面からは、a・bともにP1の底部から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

掘立柱建物 3165 号　（Fig.118・119）〔僧Ⅰ第 214・215 図〕

北辺部QL−19を中心に位置する。掘立柱建物3164・3167号と重複し、本遺構の方が古い。

梁行２間、桁行３間の東西棟で、国府政庁の正殿に倣った位置に相当する。本遺構を建て替えたものが掘立柱建物3166号である。規模は9.12×6.20mを測り、主軸方位はN−89°−Eである。僧寺編年Ⅲ〜Ⅳ−１期の所産と考えられる。

図面からは、P4・6・10の覆土中から瓦の出土が確認できるが、いずれも混入の可能性が高い。

掘立柱建物 3154 号

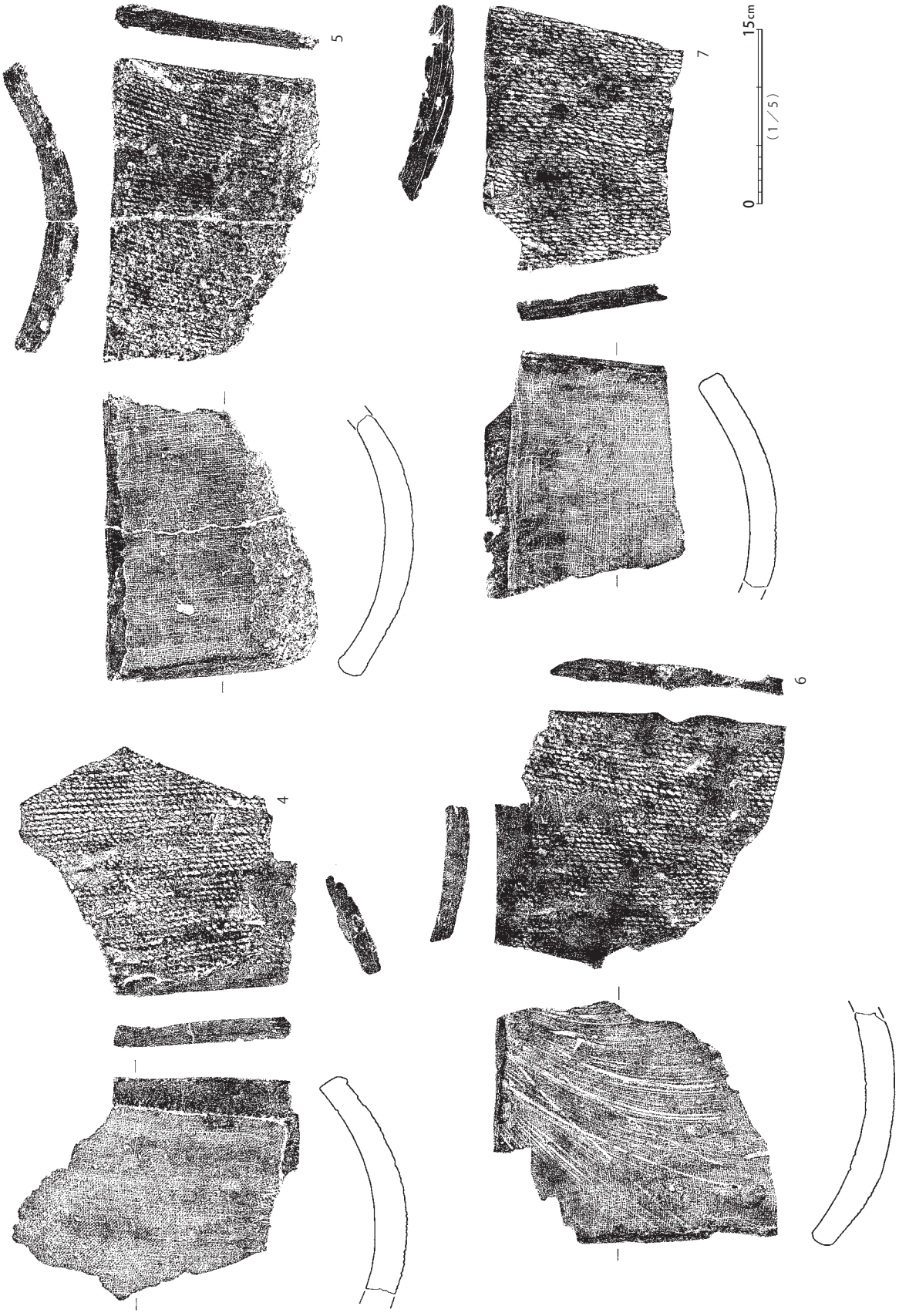
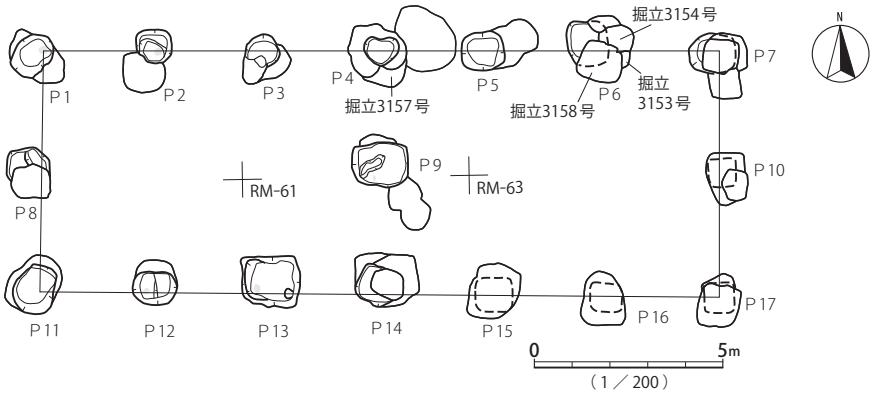


Fig.97　掘立柱建物3154号(4) 遺物

掘立柱建物 3155 号



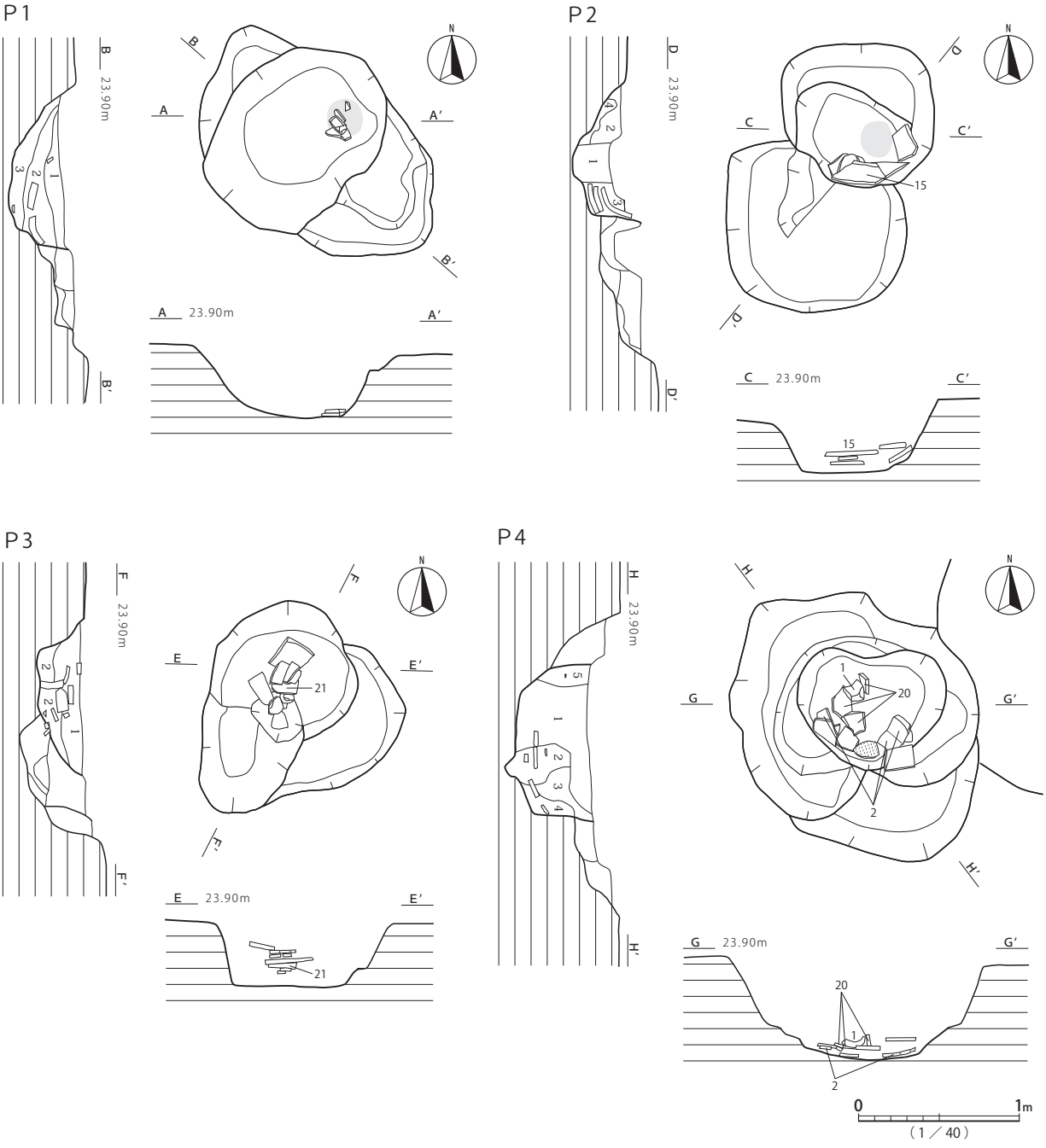
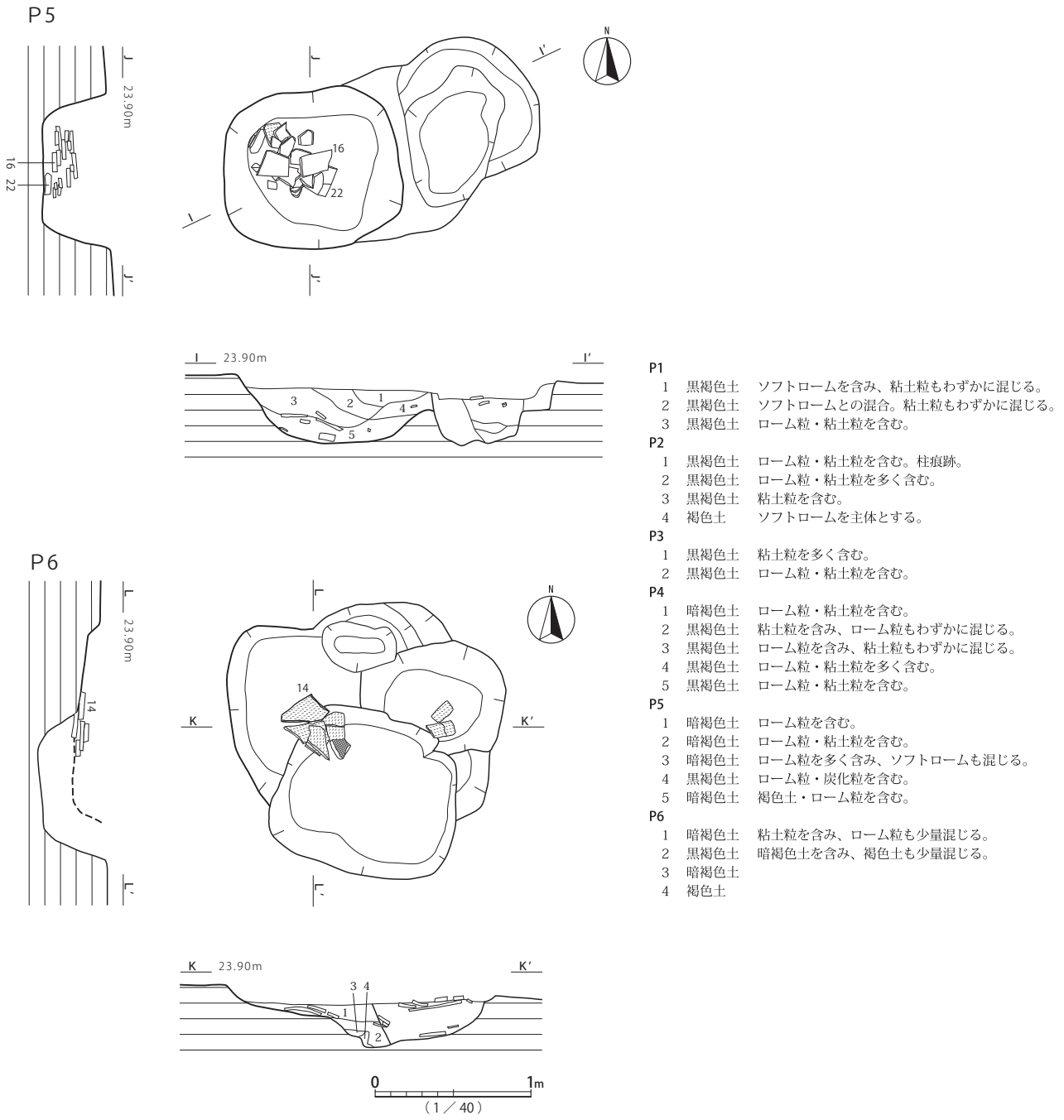


Fig.98　掘立柱建物3155号(1) 遺構

掘立柱建物 3155 号



P1
1 黒褐色土 ソフトロームを含み、粘土粒もわずかに混じる。
2 黒褐色土 ソフトロームとの混合。粘土粒もわずかに混じる。
3 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。

P2
1 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。柱痕跡。
2 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。
3 黒褐色土 粘土粒を含む。
4 褐色土 ソフトロームを主体とする。

P3
1 黒褐色土 粘土粒を多く含む。
2 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。

P4
1 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。
2 黒褐色土 粘土粒を含み、ローム粒もわずかに混じる。
3 黒褐色土 ローム粒を含み、粘土粒もわずかに混じる。
4 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。
5 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。

P5
1 暗褐色土 ローム粒を含む。
2 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。
3 暗褐色土 ローム粒を多く含み、ソフトロームも混じる。
4 黒褐色土 ローム粒・炭化粒を含む。
5 暗褐色土 褐色土・ローム粒を含む。

P6
1 暗褐色土 粘土粒を含み、ローム粒も少量混じる。
2 黒褐色土 暗褐色土を含み、褐色土も少量混じる。
3 暗褐色土
4 褐色土

Fig.99 掘立柱建物3155号(2) 遺構

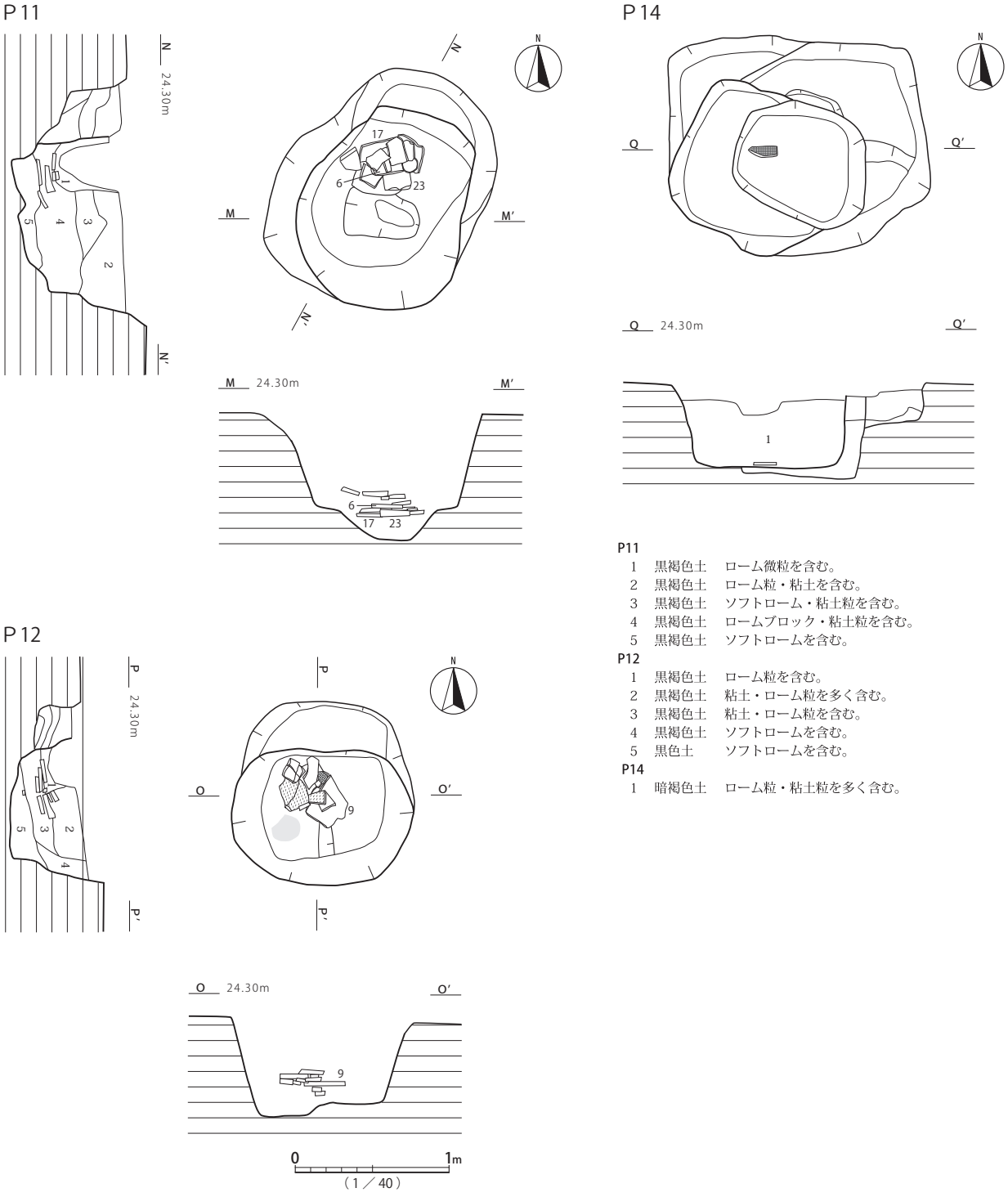
実測可能遺物は1・2の平瓦である。1はP10からの出土で、2は出土位置が明確でない。

掘立柱建物 3167 号 （Fig.120～124、PL.33・34）〔僧 I 第 218・219 図〕

北辺部QL−20を中心に位置する。掘立柱建物3165・3166号、井戸1640号と重複し、いずれも本遺構の方が新しい。

梁行2間、桁行4間の東西棟で、身舎南面に5間、西面に3間の小規模な柱穴による庇を設ける。

掘立柱建物 3155 号



P11
1 黒褐色土 ローム微粒を含む。
2 黒褐色土 ローム粒・粘土を含む。
3 黒褐色土 ソフトローム・粘土粒を含む。
4 黒褐色土 ロームブロック・粘土粒を含む。
5 黒褐色土 ソフトロームを含む。

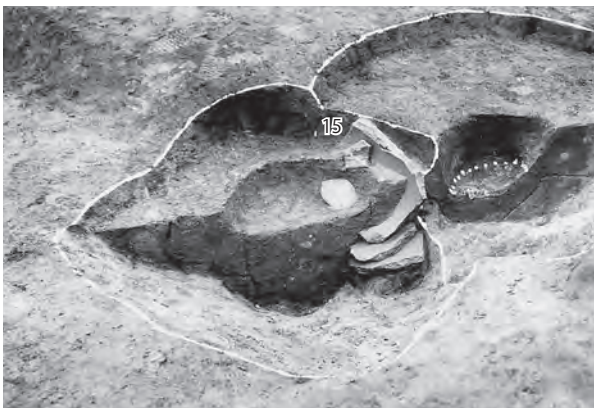
P12
1 黒褐色土 ローム粒を含む。
2 黒褐色土 粘土・ローム粒を多く含む。
3 黒褐色土 粘土・ローム粒を含む。
4 黒褐色土 ソフトロームを含む。
5 黒色土 ソフトロームを含む。

P14
1 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。

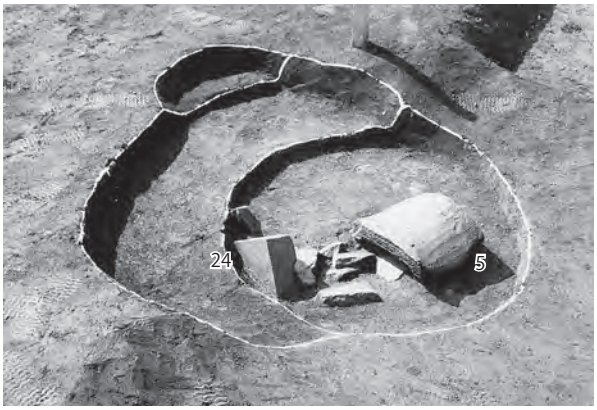
Fig.100 掘立柱建物3155号(3) 遺構



ph.1　ピット 1　出土状況 4



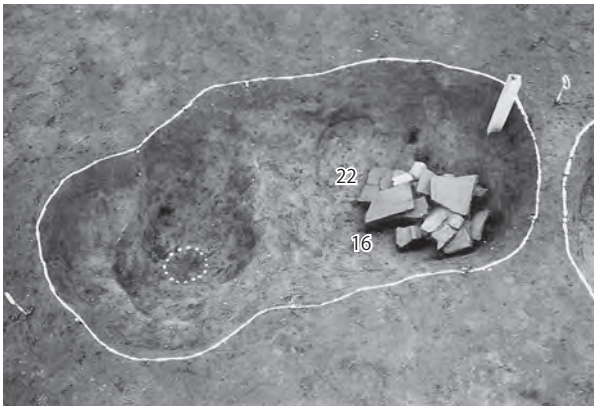
ph.2　ピット 2　出土状況 15



ph.3　ピット 3　出土状況 5・24



ph.4　ピット 4　出土状況 1・2・20



ph.5　ピット 5　出土状況 16・22



ph.6　ピット 6　出土状況 14



ph.7　ピット 11　出土状況 6・23



ph.8　ピット 12　出土状況 9

Fig.101　掘立柱建物3155号(4) 調査状況

掘立柱建物 3155 号



Fig.102　掘立柱建物3155号(5) 遺物

掘立柱建物 3155 号

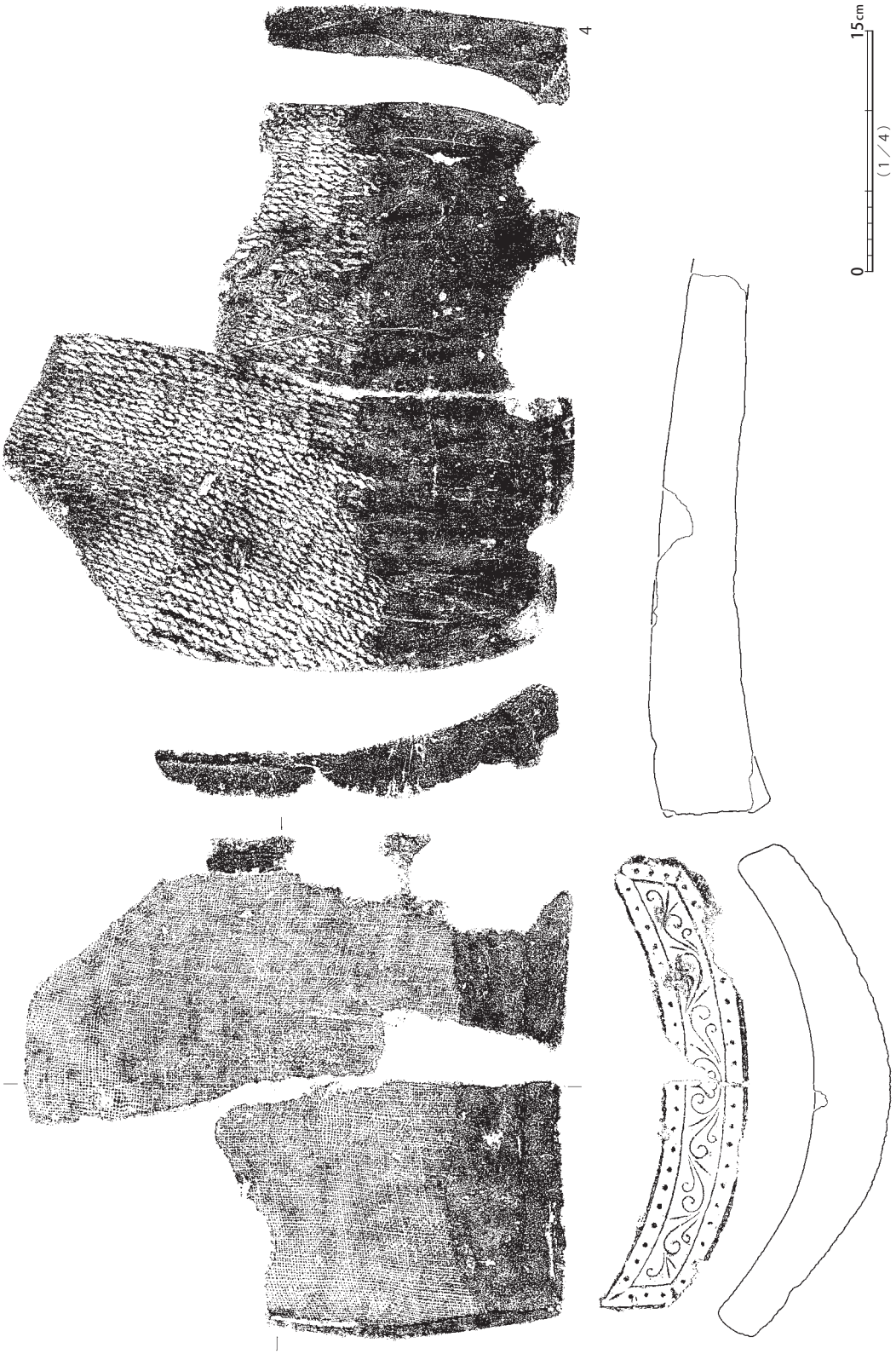


Fig.103　掘立柱建物3155号(6) 遺物

掘立柱建物 3155 号



Fig.104　掘立柱建物3155号(7) 遺物

掘立柱建物 3155 号

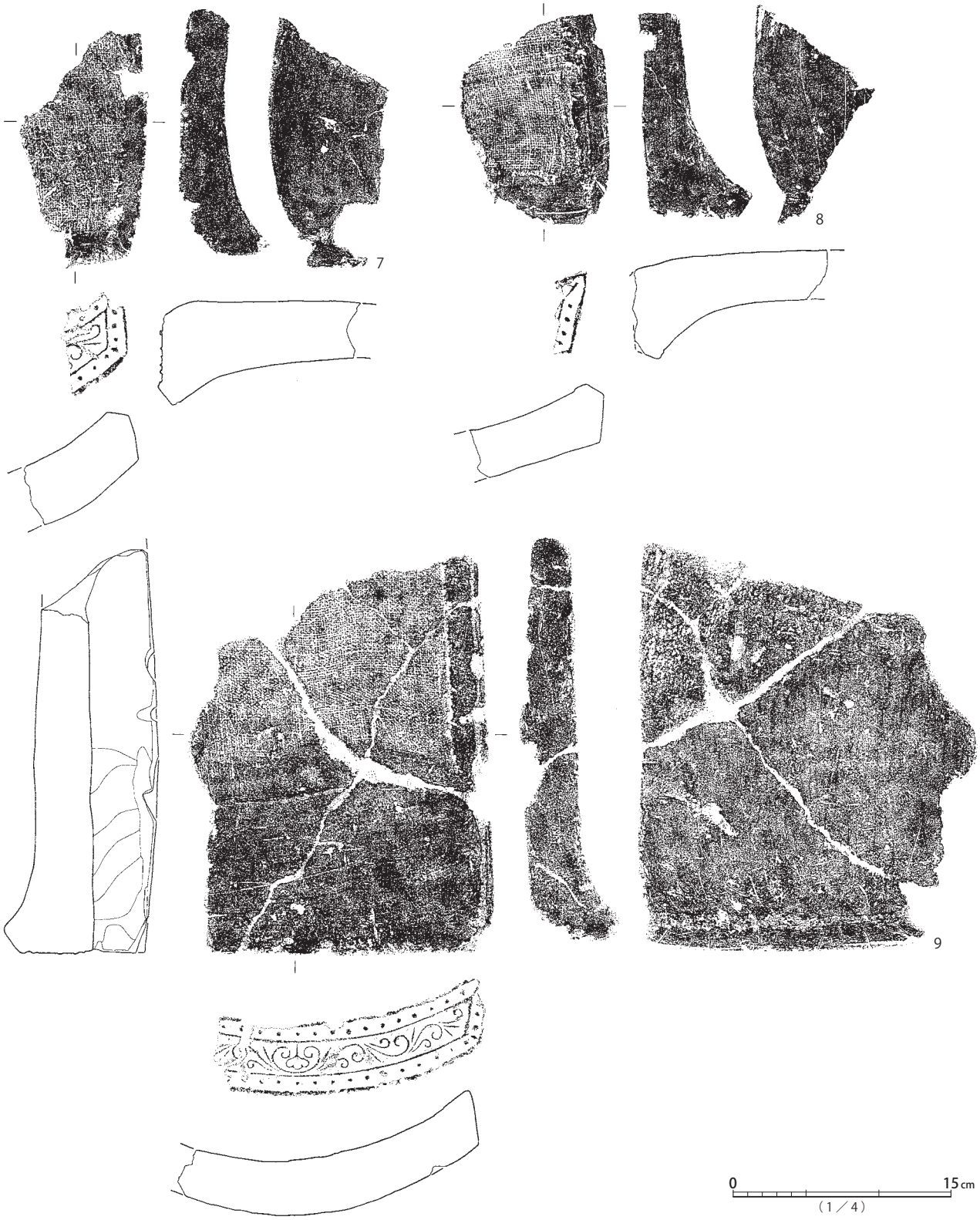


Fig.105　掘立柱建物3155号(8) 遺物

掘立柱建物 3155 号

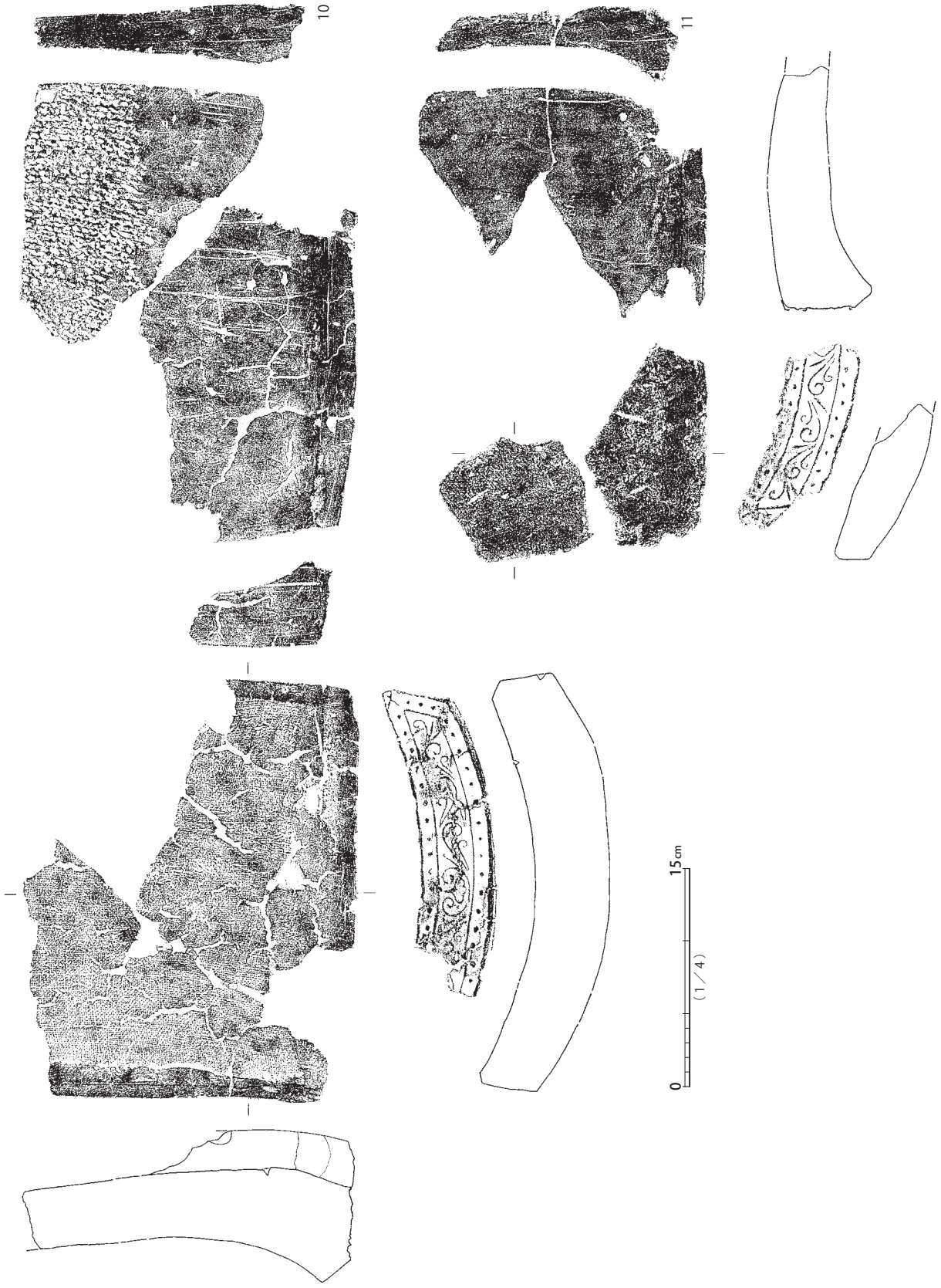


Fig.106　掘立柱建物3155号(9) 遺物

掘立柱建物 3155 号

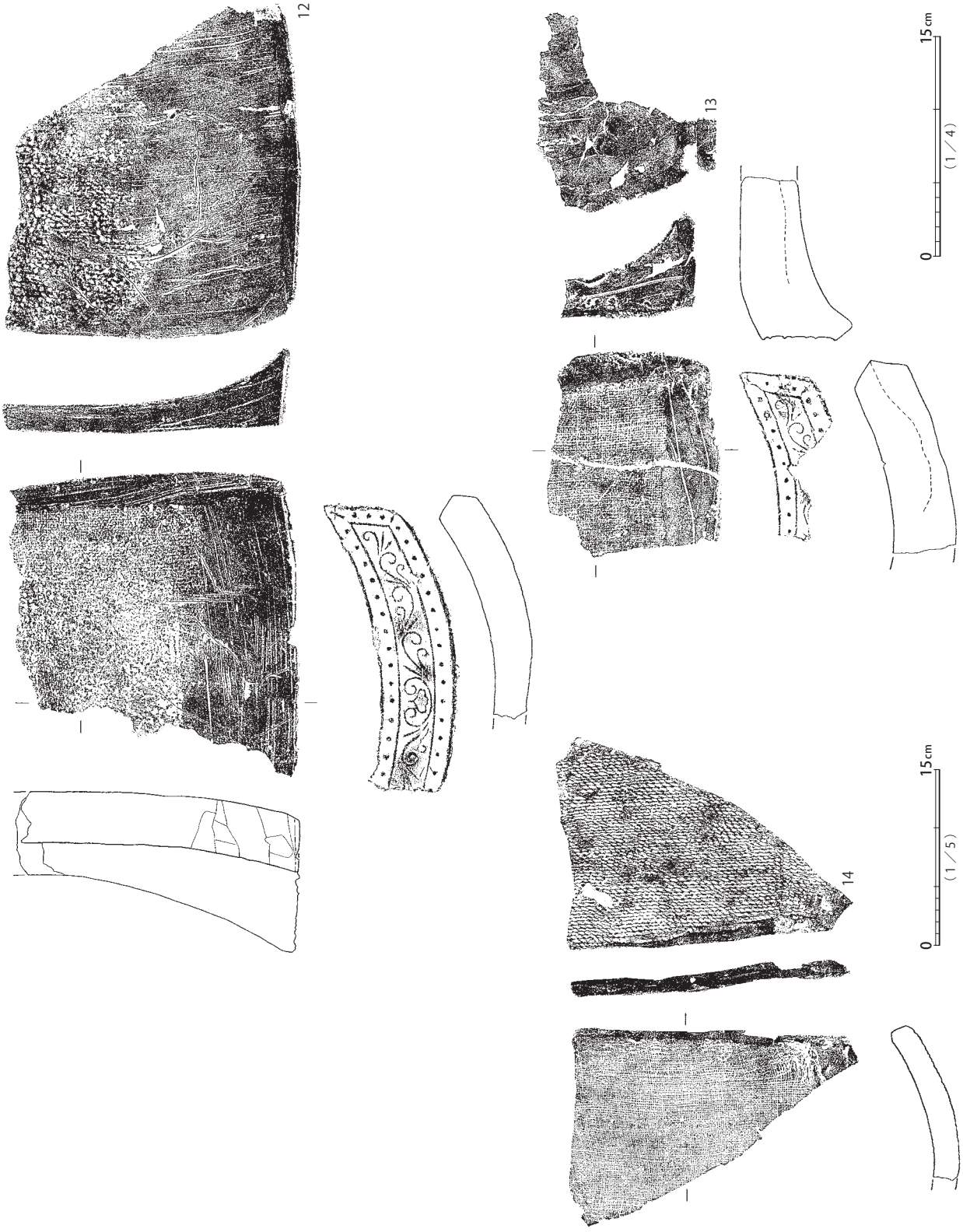


Fig.107　掘立柱建物3155号(10) 遺物

掘立柱建物 3155 号

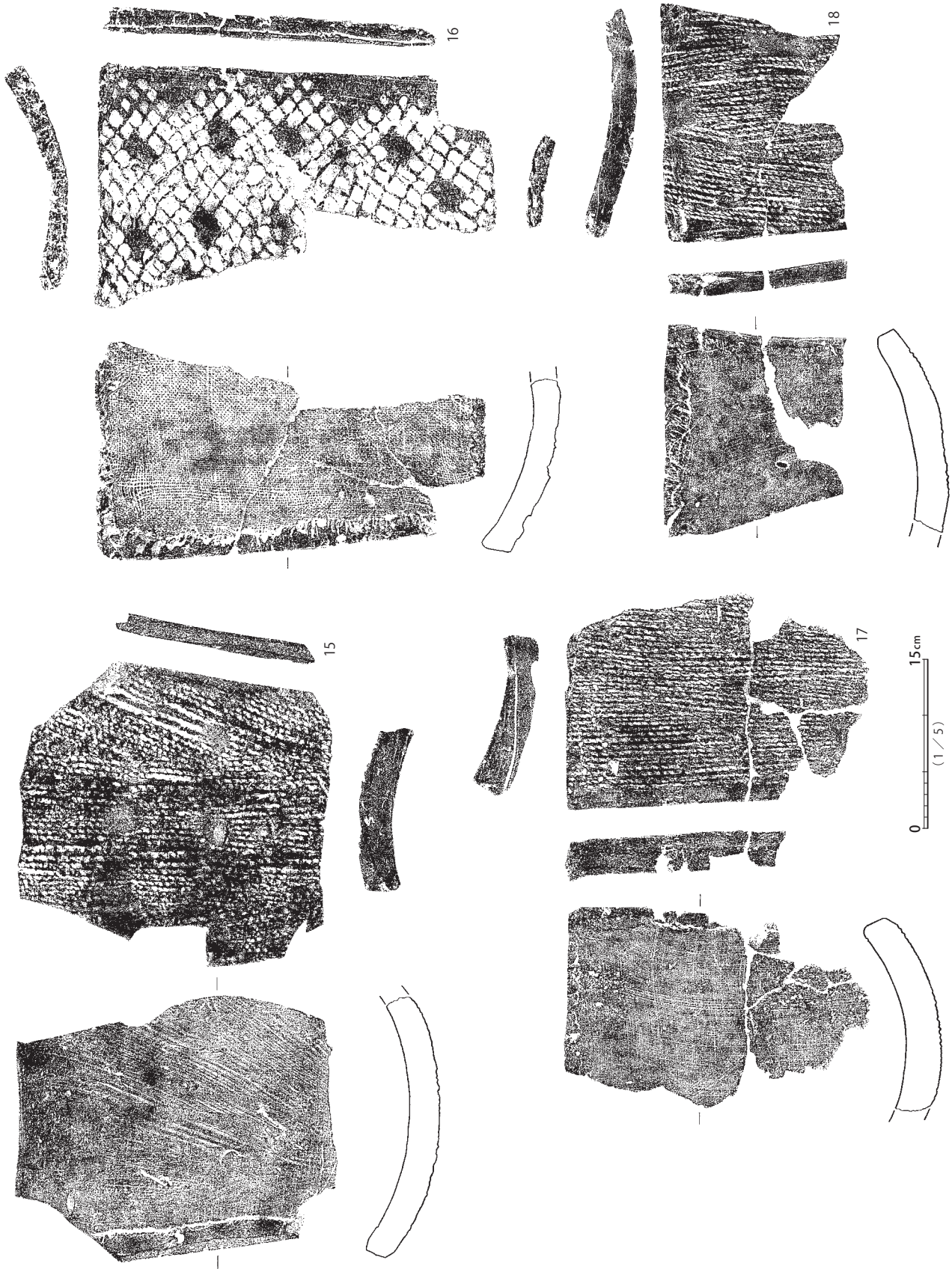


Fig.108　掘立柱建物3155号(11) 遺物

掘立柱建物 3155 号

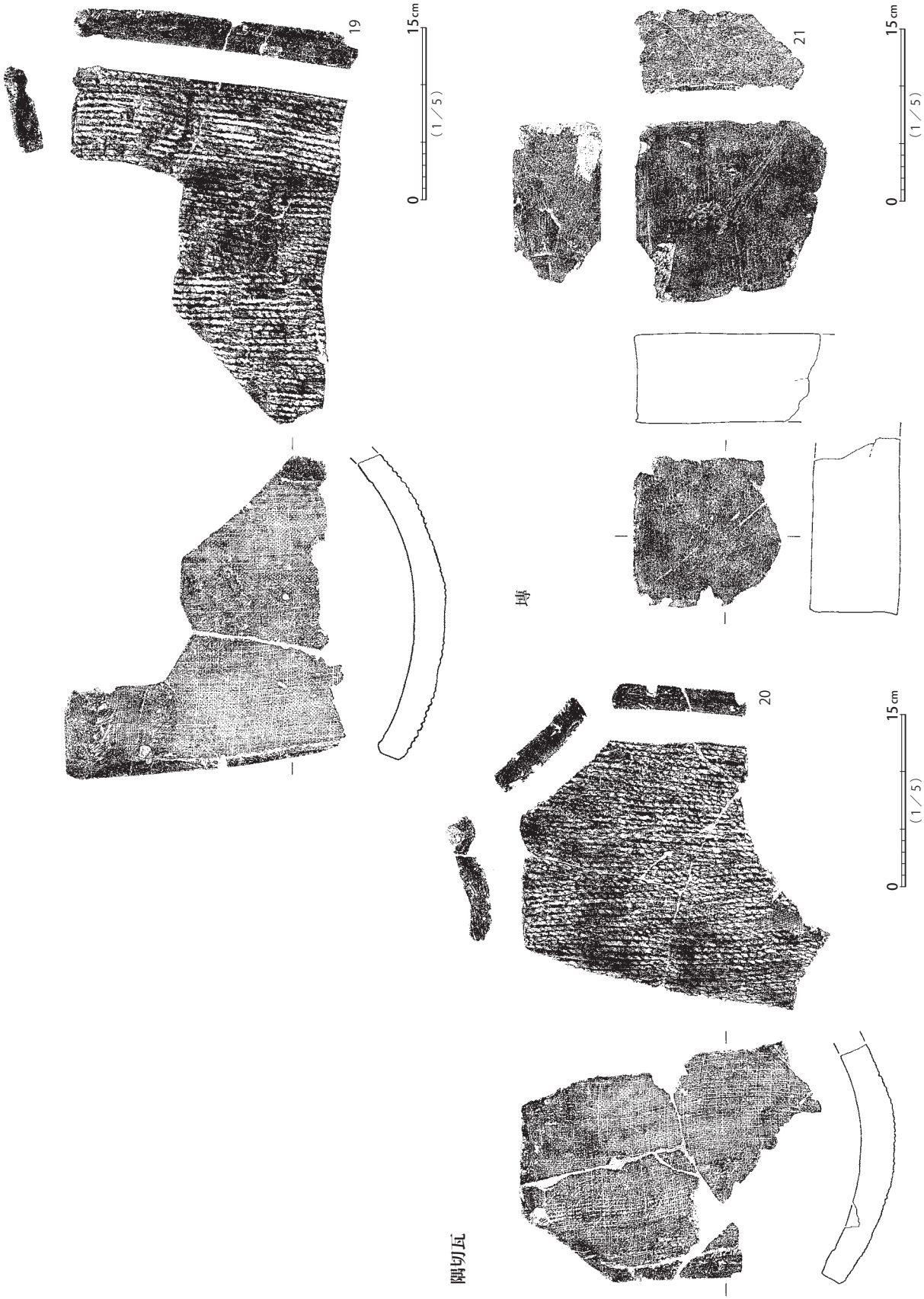


Fig.109　掘立柱建物3155号(12) 遺物

掘立柱建物 3155 号

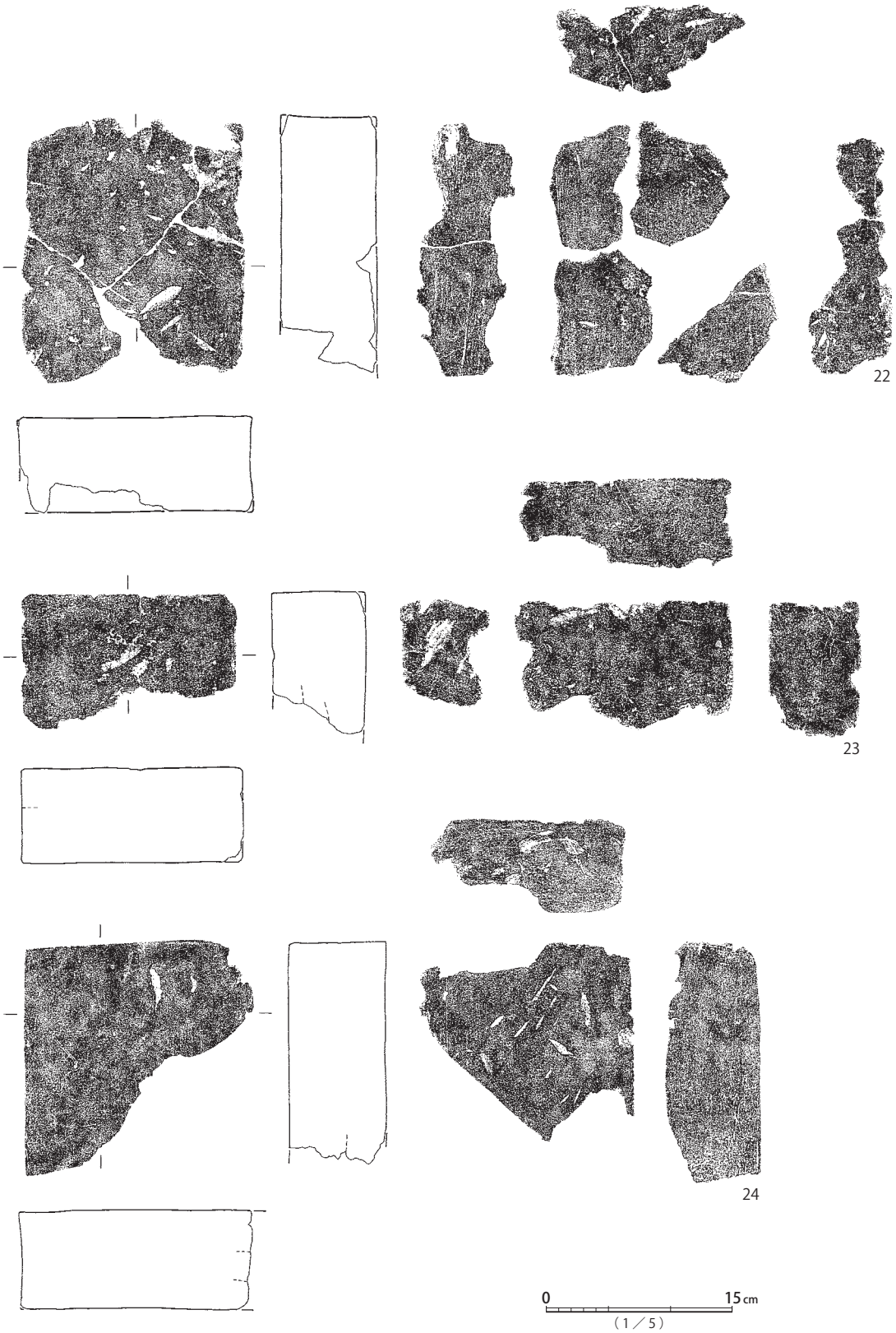
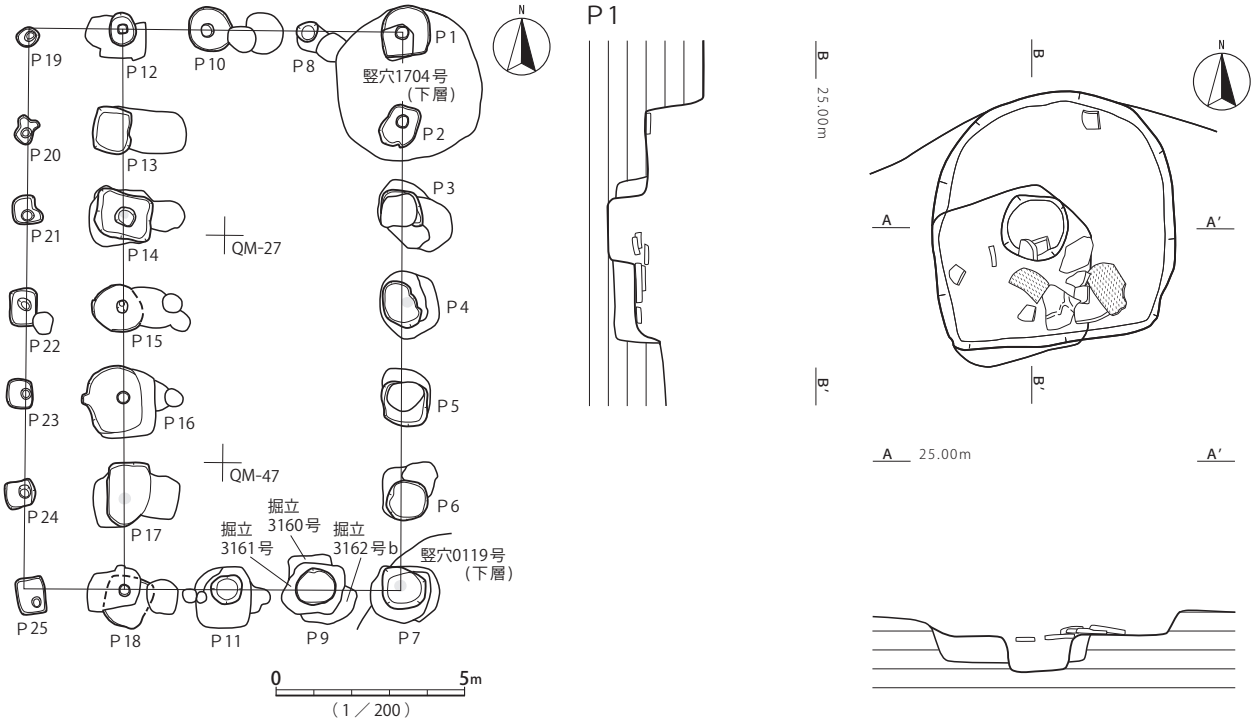
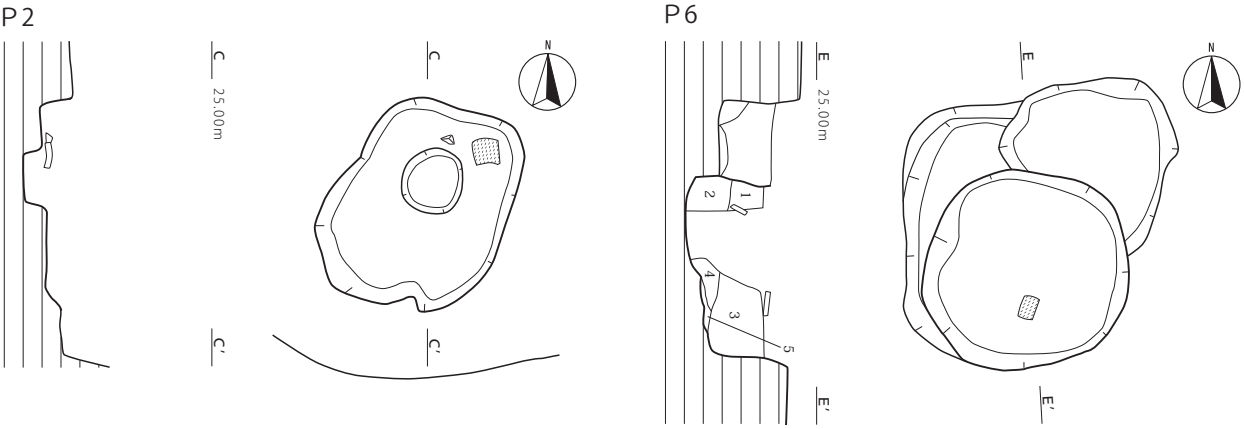
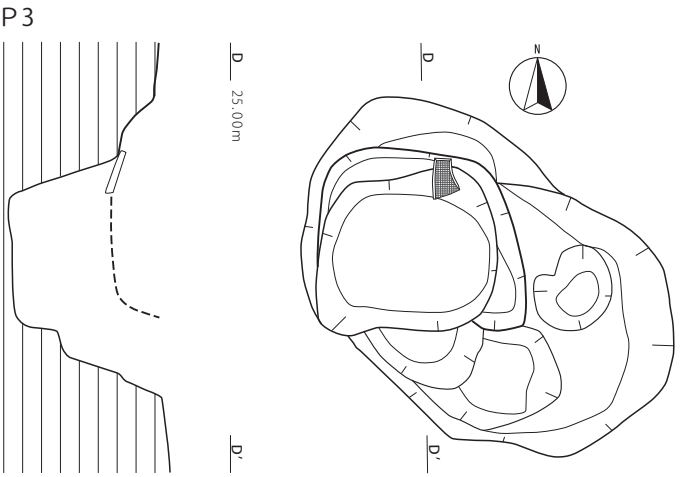


Fig.110　掘立柱建物3155号(13) 遺物

掘立柱建物 3162号a







P6
1　暗褐色土　ロームブロックを含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・粗いローム粒を含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒をわずかに含む。
5　褐色土　ロームブロックを主体とする。

0　1m
（1／40）

Fig.111　掘立柱建物3162号a(1) 遺構

掘立柱建物 3162号a

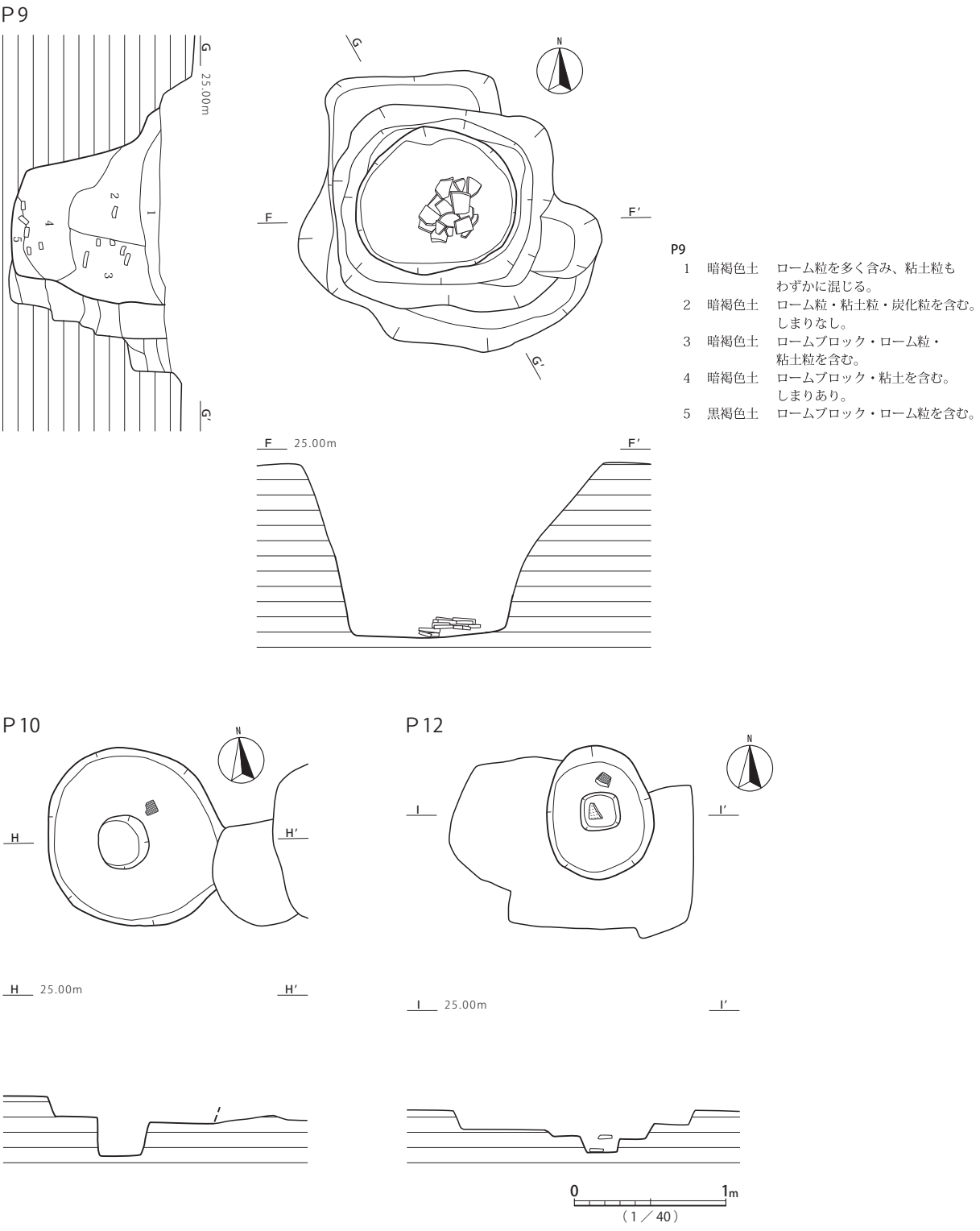
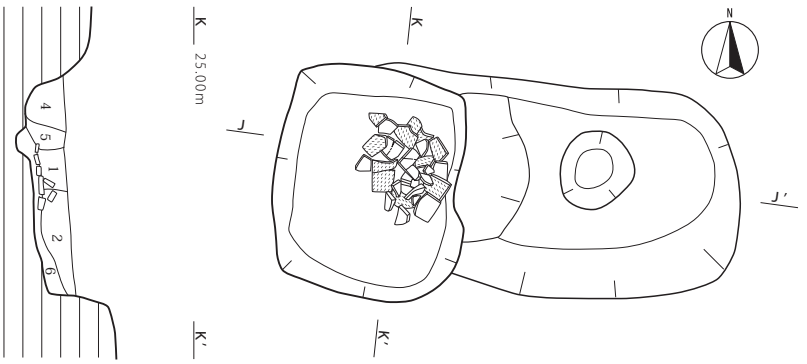


Fig.112　掘立柱建物3162号a(2) 遺構

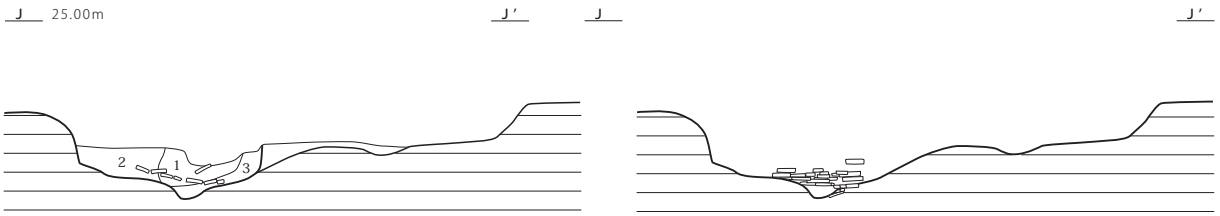
掘立柱建物 3162号a

P13

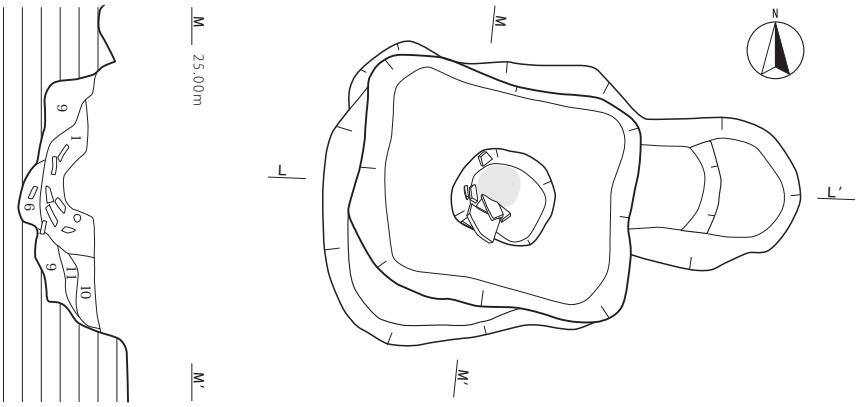


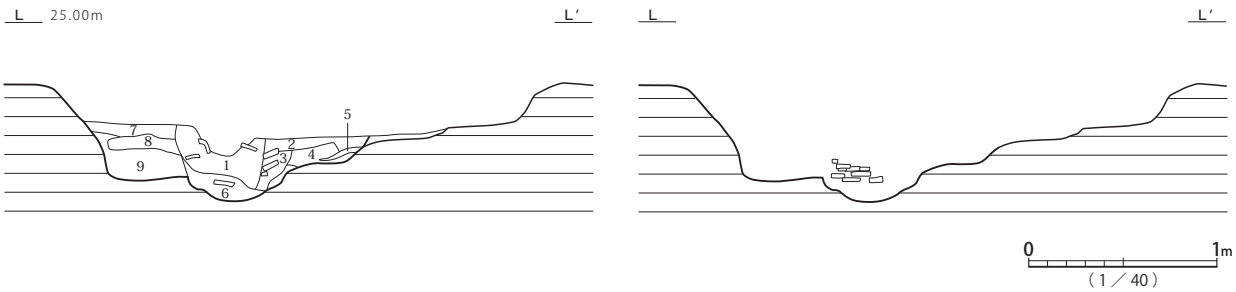
P13

1	暗褐色土	ローム粒・粘土微粒を多量に含み、黒褐色土も混じる。
2	暗褐色土	ローム粒を多量に含み、黒褐色土・ロームブロック・粘土粒も混じる。
3	黒褐色土	褐色土を多く含み、ローム粒も少量混じる。
4	暗褐色土	小ロームブロック・ローム粒・黒褐色土を含み、粘土粒も少量混じる。
5	黒褐色土	ローム粒を含む。
6	黒褐色土	暗褐色土・ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。



P14





0 1m
（1／40）

P14

1	黒褐色土	暗褐色土・ローム粒・粘土粒を少量含み、小ロームブロックもわずかに混じる。
2	暗褐色土	黒褐色土・ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
3	黒褐色土	暗褐色土・ローム粒を含む。
4	褐色土	ロームを主体とし、暗褐色土が混じる。
5	黒褐色土	ローム粒を含む。
6	暗褐色土	ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。硬くしまる。
7	暗褐色土	小ロームブロック・ローム粒・黒褐色土を含む。
8	暗褐色土	褐色土・ローム粒を含む。
9	褐色土	ロームブロックを含む。
10	黒褐色土	暗褐色土・ローム粒を含み、小ロームブロックも少量混じる。
11	暗褐色土	ローム粒を含み、褐色土・ロームブロックも少量混じる。

Fig.113　掘立柱建物3162号a(3) 遺構

掘立柱建物 3162号a

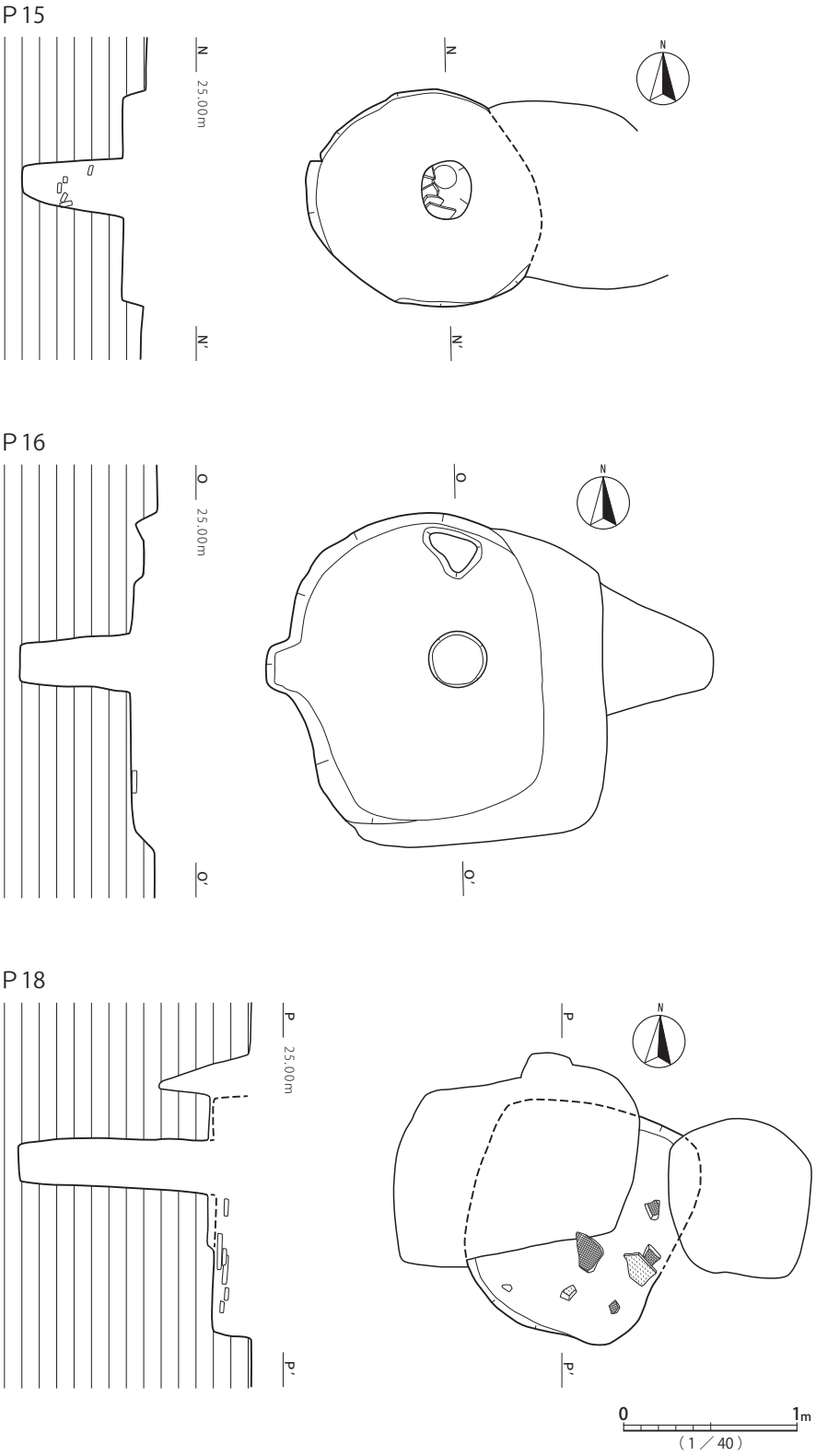
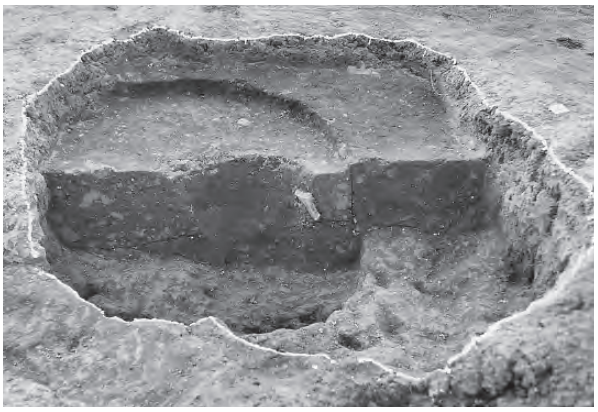
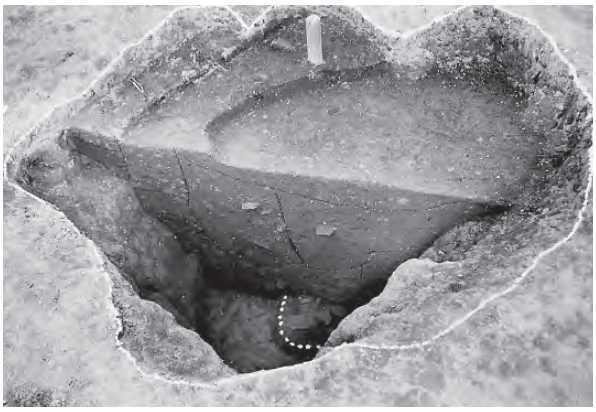


Fig.114　掘立柱建物3162号a(4) 遺構



ph.1　3162号a　ピット 6　出土状況



ph.2　3162号a　ピット 9　出土状況



ph.3　3162号a　ピット 13　出土状況



ph.4　3162号a　ピット 14　出土状況



Fig.115　掘立柱建物3162号a(5) 遺物・調査状況

掘立柱建物 3162号b

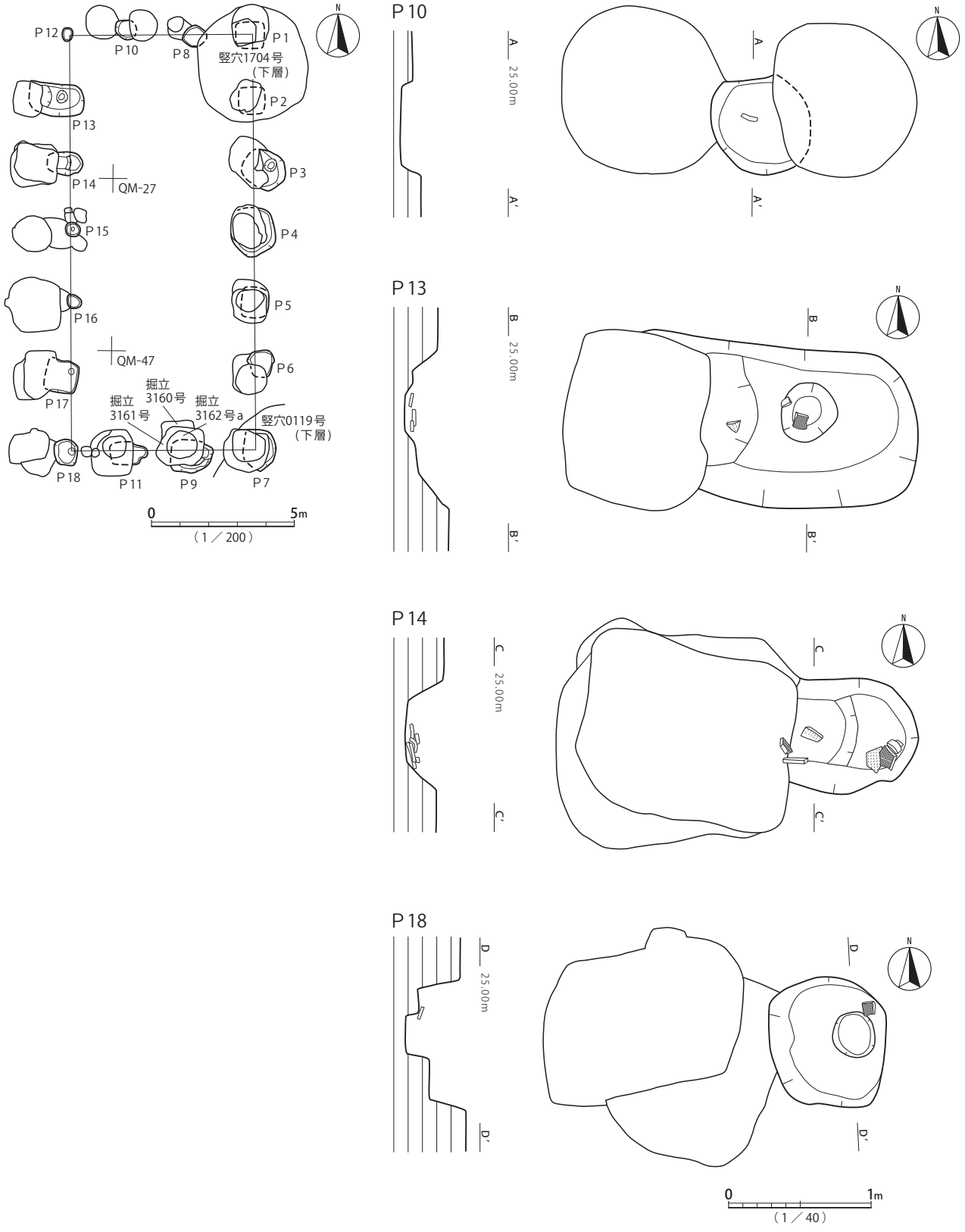
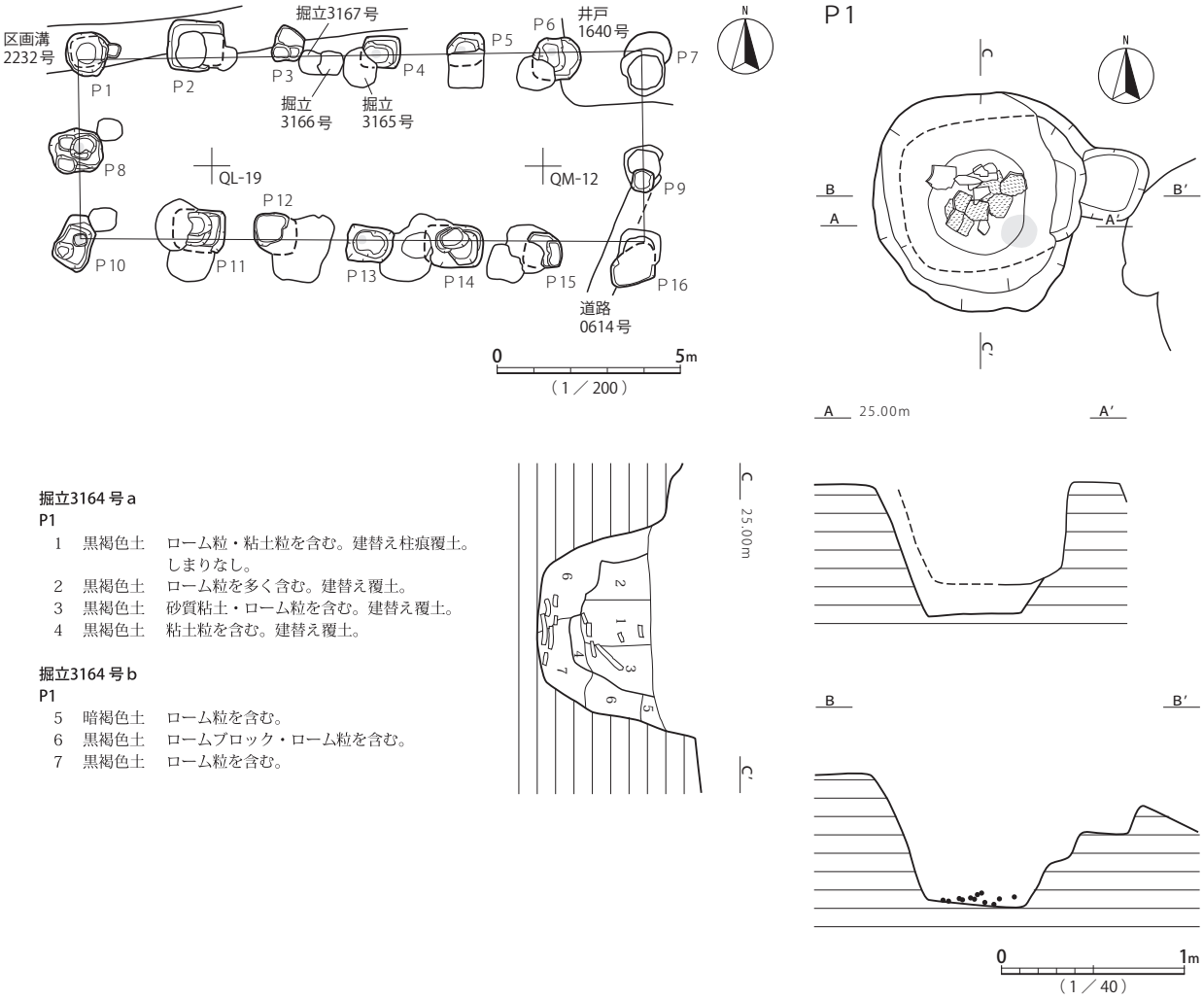


Fig.116　掘立柱建物3162号b 遺構

掘立柱建物 3164 号a･b



掘立3164 号a
P1

1　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。建替え柱痕覆土。しまりなし。
2　黒褐色土　ローム粒を多く含む。建替え覆土。
3　黒褐色土　砂質粘土・ローム粒を含む。建替え覆土。
4　黒褐色土　粘土粒を含む。建替え覆土。

掘立3164 号b
P1

5　暗褐色土　ローム粒を含む。
6　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
7　黒褐色土　ローム粒を含む。

Fig.117　掘立柱建物3164号a･b 遺構

国府政庁の正殿に倣った位置に相当する。掘立柱建物3164号を建て替えたものである。規模は12.65×4.80mを測り、主軸方位はN−87°−Wである。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

瓦は柱穴底部付近から出土しており、礎板として利用された可能性が考えられる。

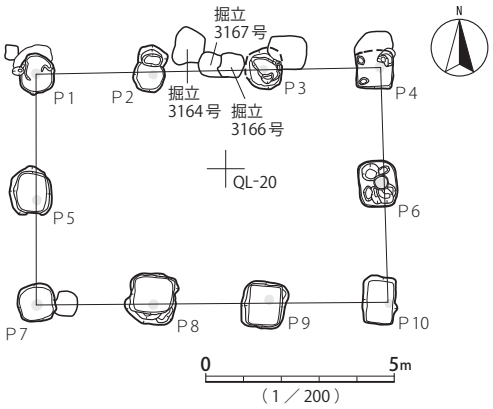
実測可能遺物は、1･2はI型式の均整唐草文軒平瓦、3･4は平瓦である。2の瓦当面寄りには穿孔が施される。2･4はP8からの出土で、1･3は出土位置が明確でない。

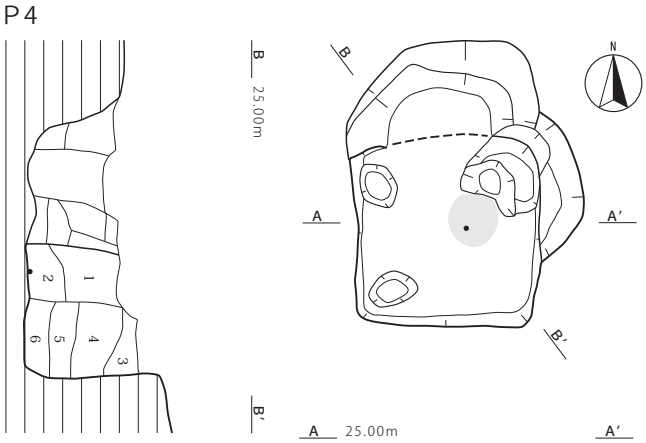
掘立柱建物 3171 号　（Fig.125･126、PL.34）〔僧Ⅰ第 221 図〕

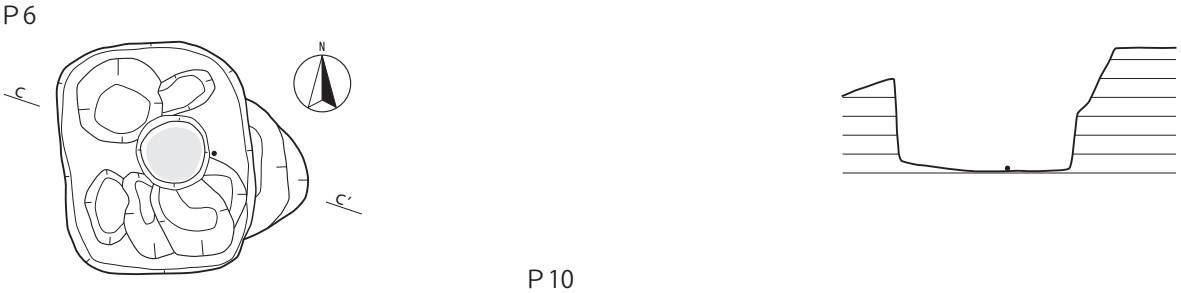
北辺部QN−71を中心に位置する。掘立柱建物3172号と重複し、本遺構の方が新しいと考えられる。

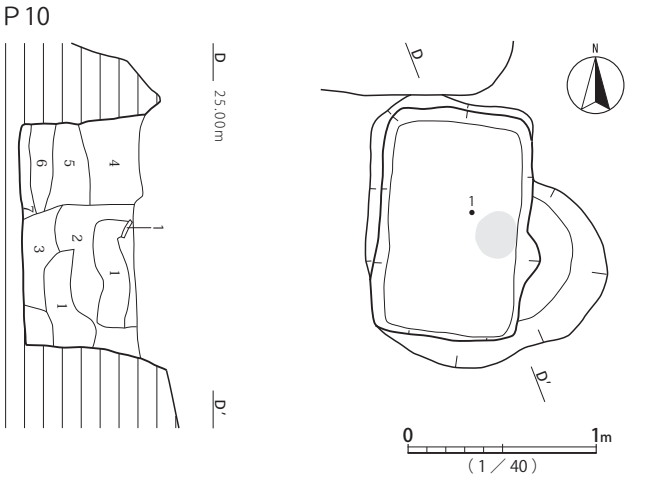
梁行2間、桁行3間の東西棟で、柱筋を同じくする掘立柱建物3152･3175号とセットで構成されたものと考えられる。掘立柱建物3175号の周囲からは鉄滓がまとまって出土し、修理院に該当する可能性がある。規模は6.28×4.94mを測り、主軸方位はN−90°−Wである。僧寺編年Ⅳ−3期の所産と考えられる。

掘立柱建物 3165 号









P4

1	砂質粘土	黒褐色土を含む。柱痕覆土。
2	黒褐色土	砂質粘土を含む。
3	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒を含む。
4	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。
5	黒褐色土	ローム粒を含む。
6	ロームブロック	黒褐色土を含む。

P6

1	砂質粘土	暗褐色土・ローム粒を含む。
2	暗褐色土	ローム粒を含む。
3	砂質粘土	
4	暗褐色土	砂質粘土を含む。
5	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。
6	暗褐色土	ローム粒を含む。
7	黒褐色土	暗褐色土・ロームを含む。
8	黒褐色土	ロームブロックを含む。
9	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒を含む。
10	ロームブロック	

P10

1	砂質粘土	暗褐色土を含む。
2	砂質粘土	暗褐色土との混合。
3	暗褐色土	砂質粘土を含む。
4	暗褐色土	ロームブロック・黒色土との混合。
5	黒褐色土	粗いロームブロックを含む。
6	黒色土	暗褐色土との混合。
7	ロームブロック	暗褐色土を含む。

Fig.118　掘立柱建物3165号(1) 遺構

掘立柱建物 3165 号

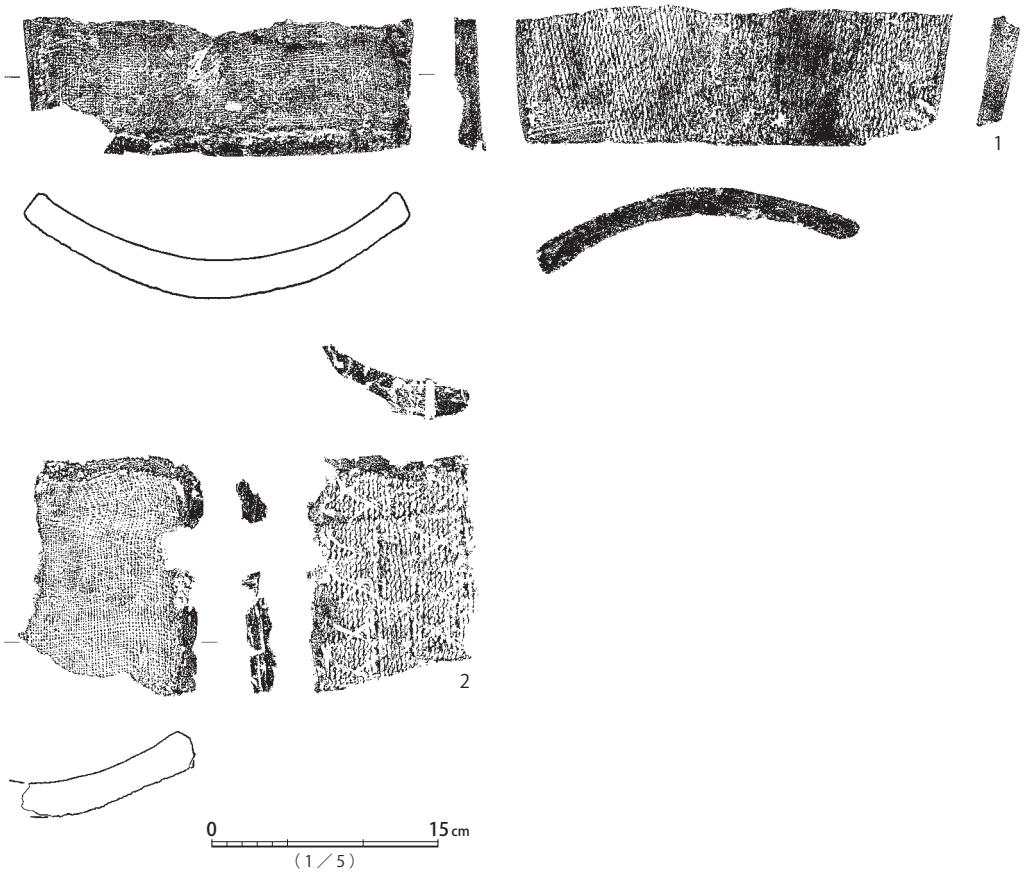


Fig.119　掘立柱建物3165号(2) 遺物

瓦は柱穴下層からまとまって出土しており、礎板としての利用が考えられる。

実測可能遺物は、1は行基葺式の丸瓦、2・3は平瓦である。1の凹面にはごく細かい布目痕が残る。2の凸面にはケズリ状のナデが施され、縄叩き目は認められない。2・3はP4からの出土で、1は出土位置が明確でない。

掘立柱建物 3179 号　（Fig.126～128、PL.34・35）〔僧Ⅰ第 225 図〕

北辺部PM−57を中心に位置する。掘立柱建物3128号、竪穴1351号と重複し、本遺構が掘立柱建物3128号よりも新しく、竪穴1351号よりも古い。

梁行2間、桁行3間で、南北棟の総柱建物である。掘立柱建物3124号を建て替えたもので、本遺構の建替えが掘立柱建物3125号になるものと思われる。規模は5.54×4.20mを測り、主軸方位はN−4°−Eである。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はⅠ型式の均整唐草文軒平瓦、2～5は平瓦である。1は幅広の段顎で、瓦当面寄りには穿孔が施される。2～5の凸面には格子叩き目が残り、2と3は同一個体の可能性が高い。1・4はP3、2・3・5はP12からの出土である。

掘立柱建物 3167 号

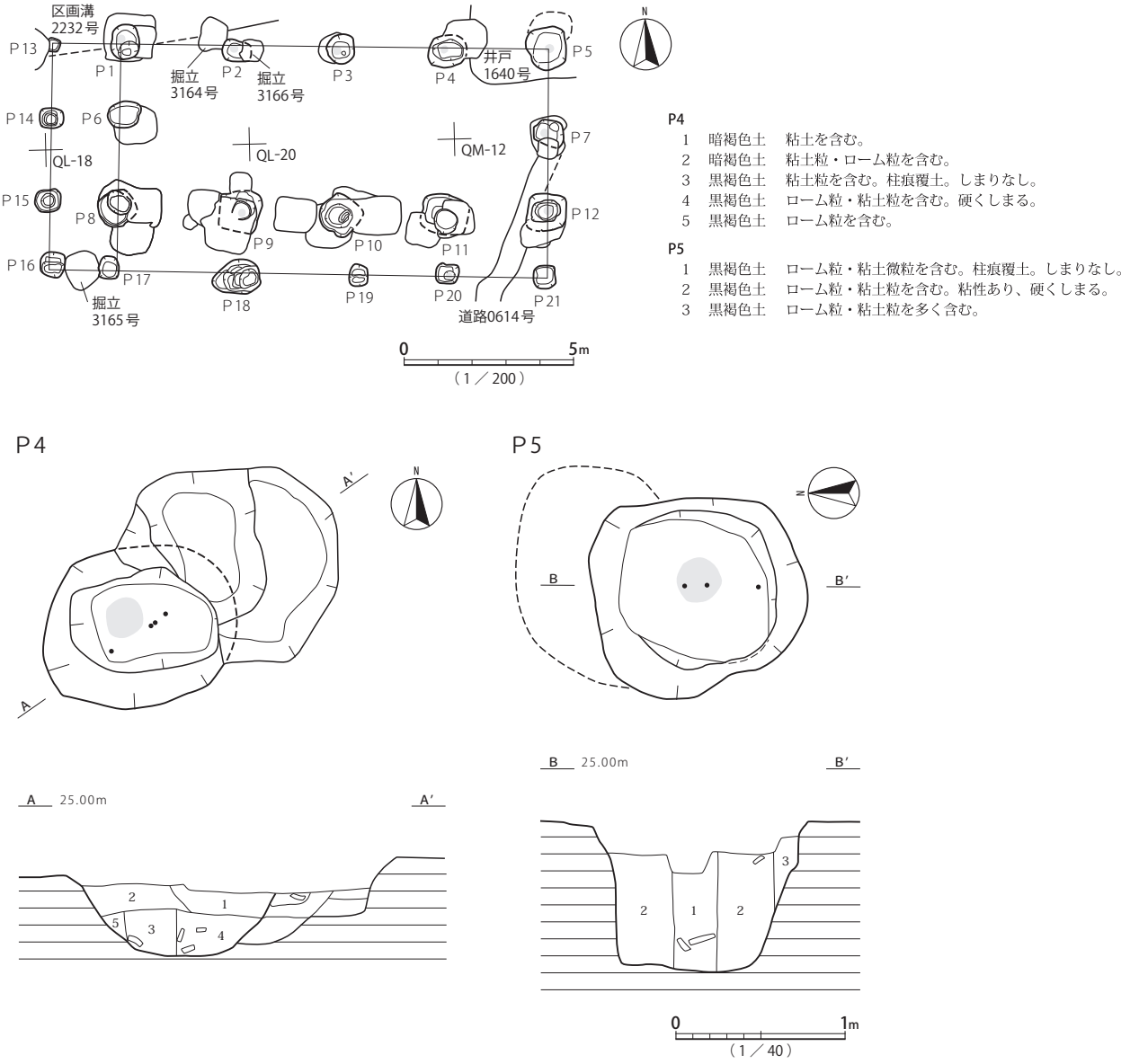


Fig.120 掘立柱建物3167号(1) 遺構

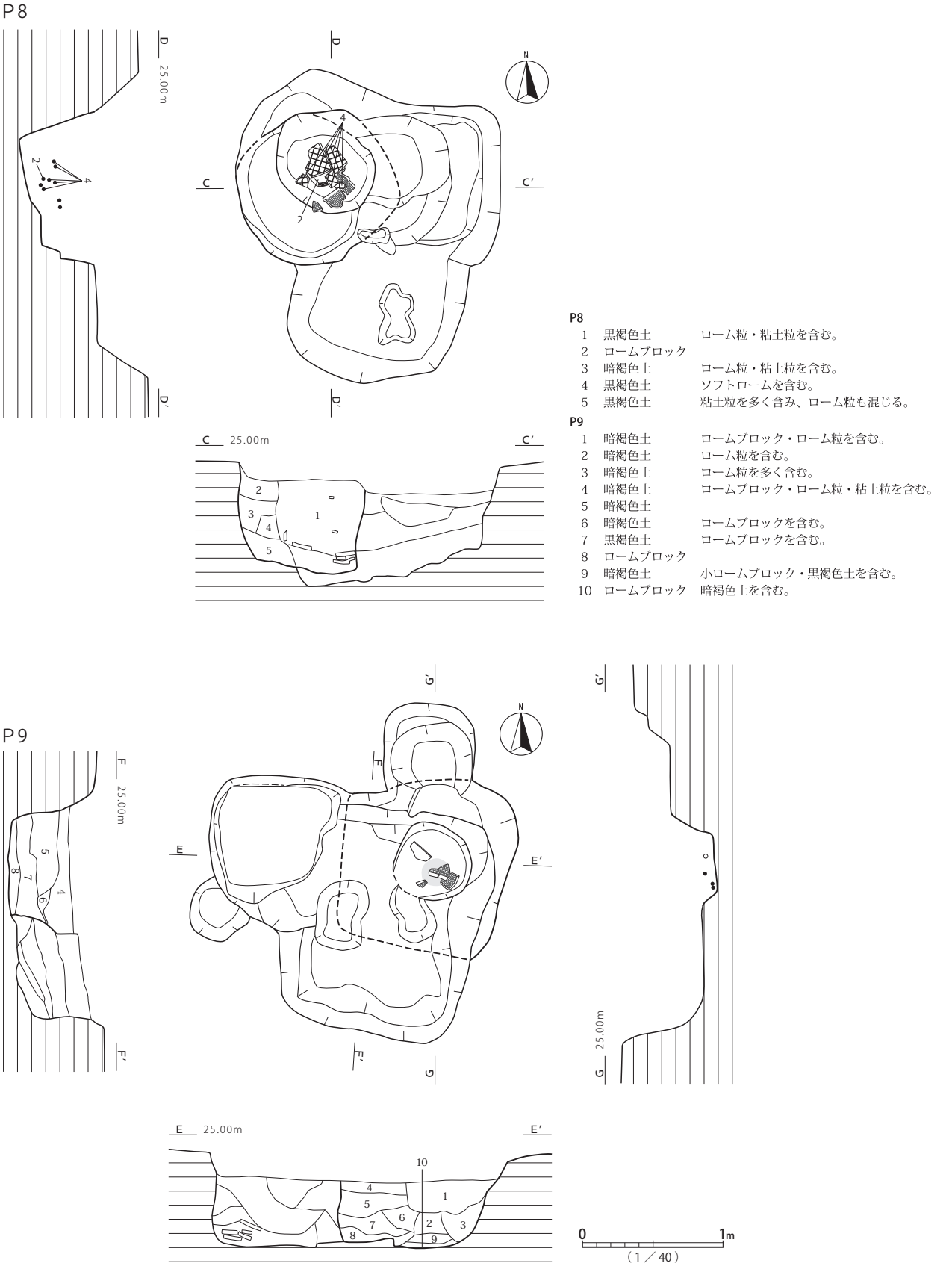
掘立柱建物 3203 号 （Fig.128、PL.34）〔僧Ⅰ第 227 図〕

北辺部OJ−08を中心に位置する。土坑1449号と重複し、本遺構の方が古いと思われるが、明確でない。

梁行3間、桁行4間で、東西棟の総柱建物である。全体に小規模な柱穴を伴う。規模は6.70×5.10mを測り、主軸方位はN−84°−Eである。僧寺編年XII〜XIII期前半に比定され、東南部の方形館と同時期に存在したものと考えられる。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。I型式の均整唐草文で、P10からの出土である。

掘立柱建物 3167 号



P8

1	黒褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。
2	ロームブロック	
3	暗褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。
4	黒褐色土	ソフトロームを含む。
5	黒褐色土	粘土粒を多く含み、ローム粒も混じる。

P9

1	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒を含む。
2	暗褐色土	ローム粒を含む。
3	暗褐色土	ローム粒を多く含む。
4	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。
5	暗褐色土	
6	暗褐色土	ロームブロックを含む。
7	黒褐色土	ロームブロックを含む。
8	ロームブロック	
9	暗褐色土	小ロームブロック・黒褐色土を含む。
10	ロームブロック	暗褐色土を含む。

Fig.121　掘立柱建物3167号(2) 遺構

掘立柱建物 3167 号

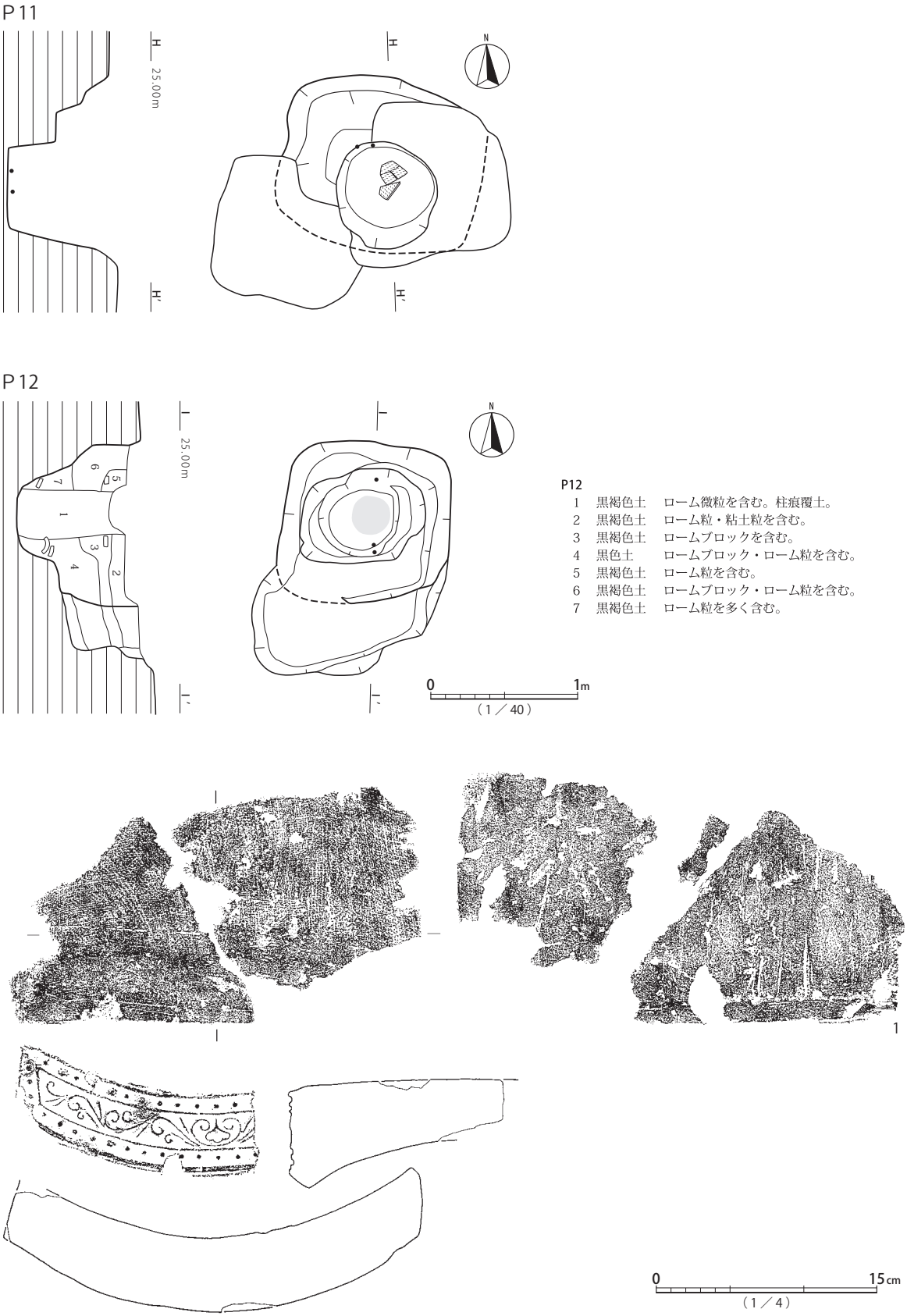


Fig.122　掘立柱建物3167号(3) 遺構遺物

掘立柱建物 3167 号

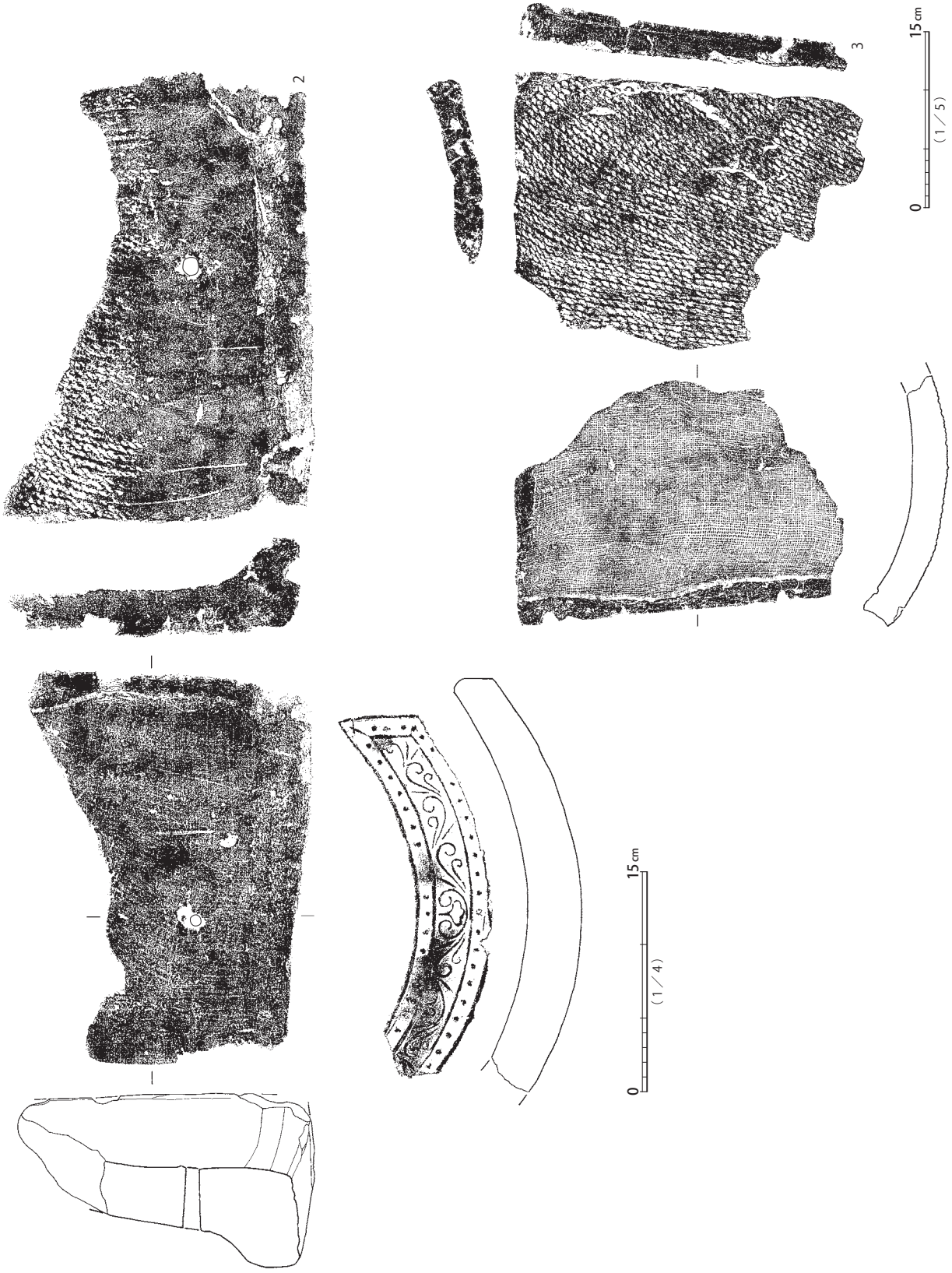


Fig.123　掘立柱建物3167号(4) 遺物

掘立柱建物 3167 号

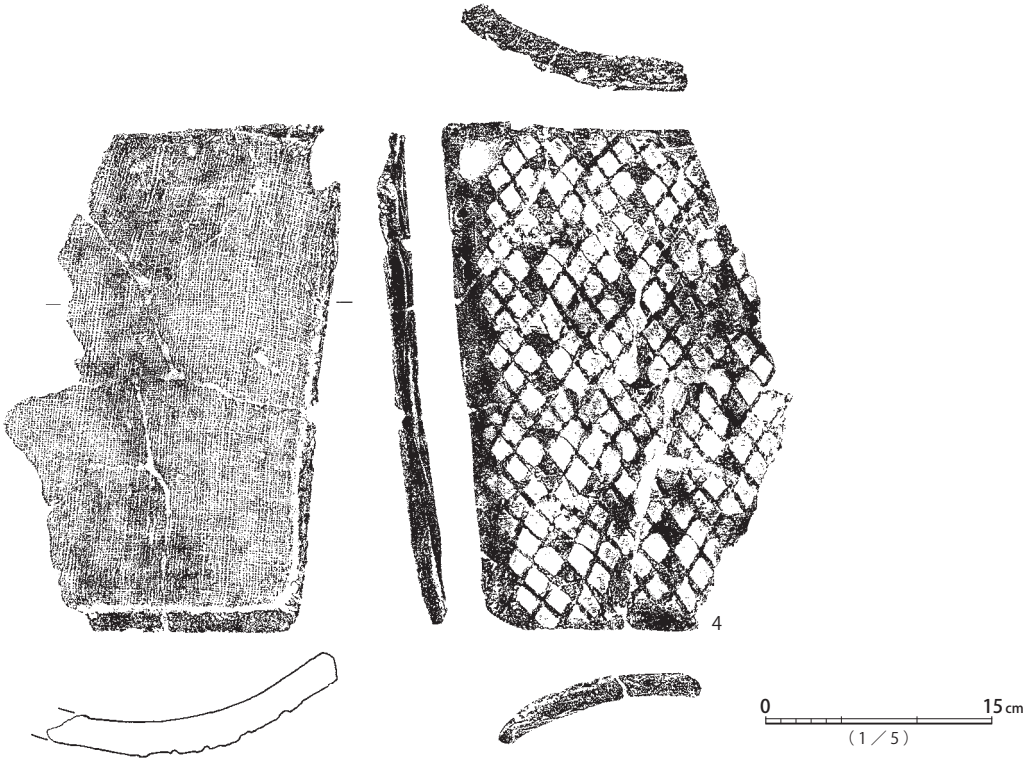


Fig.124　掘立柱建物3167号(5) 遺物

掘立柱建物 3044 号　（Fig.129）〔僧 I 第 517 図〕

東南部FP−37を中心に位置する。方形周溝0903号と重複するが、新旧関係は明確でない。

梁行２間、桁行３間の東西棟で、やや小規模な柱穴を伴う。規模は5.40×3.60mを測り、主軸方位はN−86°−Wである。僧寺編年IV−５期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

図面からは、礎板として利用されたと考えられる平瓦片の出土がP9で確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

掘立柱建物 3045 号　（Fig.129、PL.35）〔僧 I 第 518 図〕

東南部HR−55を中心に位置する。他遺構との重複はない。

梁行２間の東西棟と考えられるが、遺構東側が調査区外に延びるため、規模は明確でない。規模は梁行4.55mを測り、主軸方位はN−80°−Wと思われる。僧寺編年XI期の所産と考えられる。

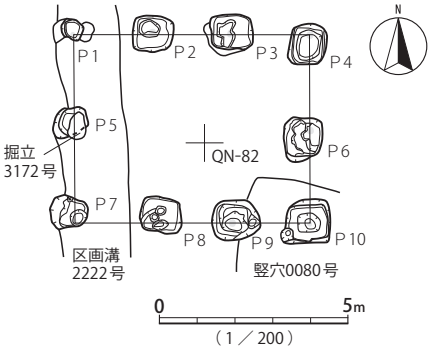
実測可能遺物は１の軒平瓦のみで、III型式の均整唐草文である。直線顎で、凸面には格子叩き目が残る。出土位置は明確でない。

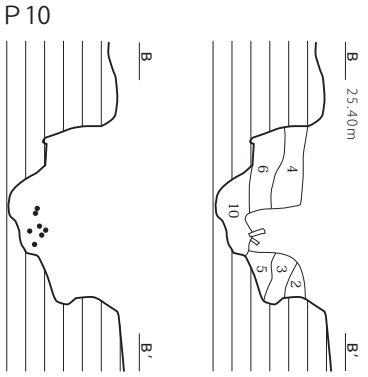
掘立柱建物 3062 号　（Fig.129）〔僧 I 第 525 図〕

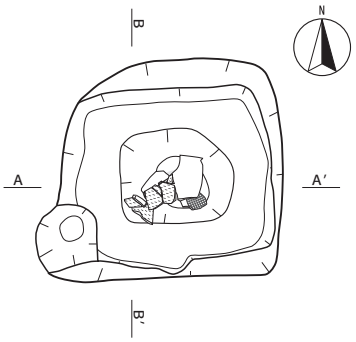
東南部IR−15を中心に位置する。竪穴1070号、方形周溝2124号と重複し、本遺構が方形周溝2124号よりも新しく、竪穴1070号よりも古いと思われるが、新旧関係は明確でない。

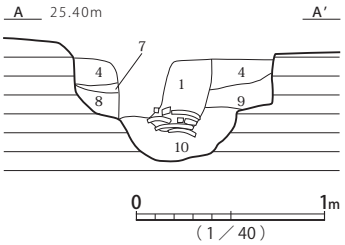
梁行２間、桁行３間の南北棟である。身舎南面から東面南側にかけて小規模な柱穴がL字状に検出

掘立柱建物 3171 号











ph.1　ピット 10　出土状況

P10

1	暗褐色土	ローム粒を少量含み、小ロームブロックもわずかに混じる。
2	暗褐色土	ローム粒を含む。
3	暗褐色土	褐色土を少量含み、小ロームブロック・黒褐色土もわずかに混じる。
4	暗褐色土	粗いローム粒を含み、褐色土も少量混じる。
5	暗褐色土	黒褐色土・ローム粒を少量含む。
6	暗褐色土	褐色土・ローム粒を含む。
7	褐色土	暗褐色土を少量含む。
8	暗褐色土	黒褐色土を含み、褐色土もわずかに混じる。
9	暗褐色土	褐色土・ローム粒を含み、中小ロームブロックも少量混じる。
10	褐色土	ロームブロックを多量に含み、暗褐色土も混じる。

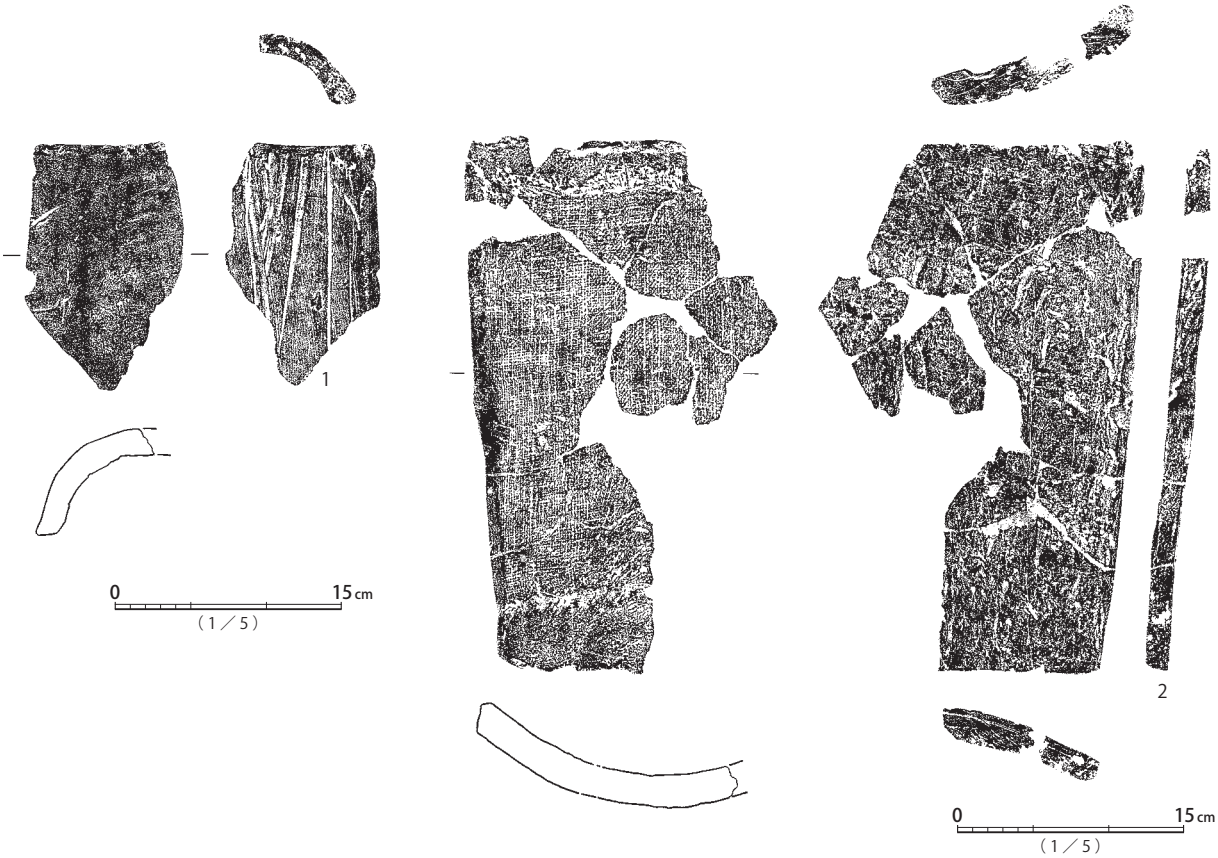
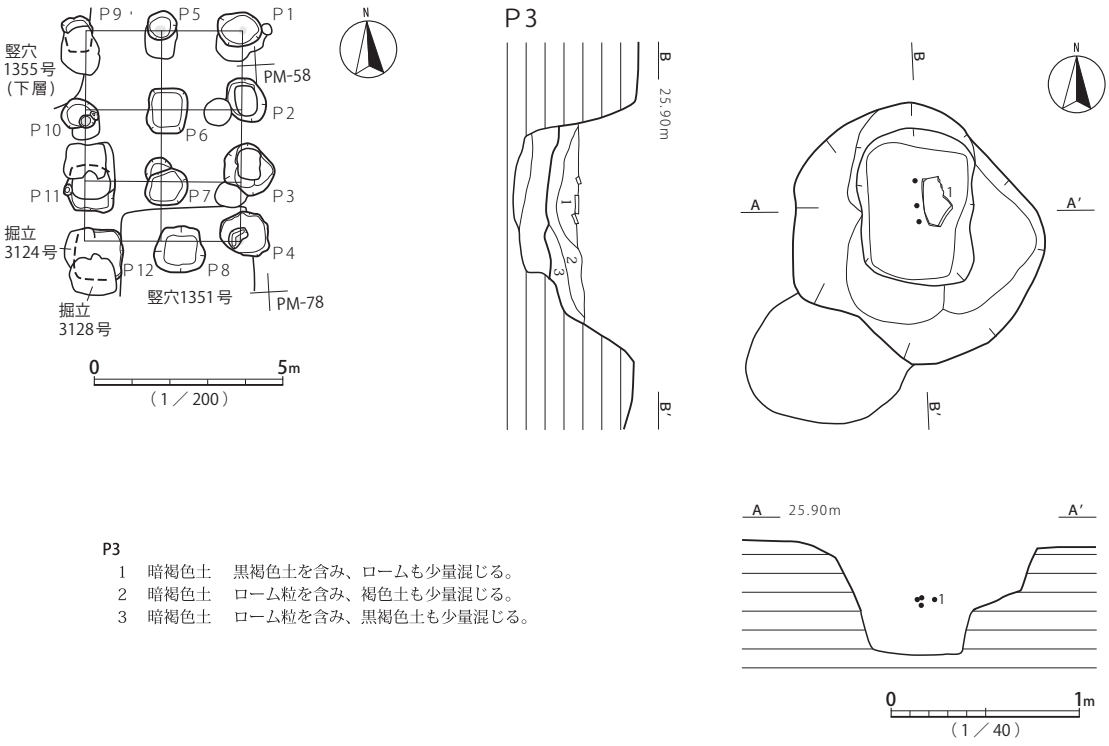


Fig.125　掘立柱建物3171号(1) 遺構遺物・調査状況

掘立柱建物 3171 号



掘立柱建物 3179 号



P3
1　暗褐色土　黒褐色土を含み、ロームも少量混じる。
2　暗褐色土　ローム粒を含み、褐色土も少量混じる。
3　暗褐色土　ローム粒を含み、黒褐色土も少量混じる。

Fig.126　掘立柱建物3171号(2) 遺物、掘立柱建物3179号(1) 遺構

掘立柱建物 3179 号

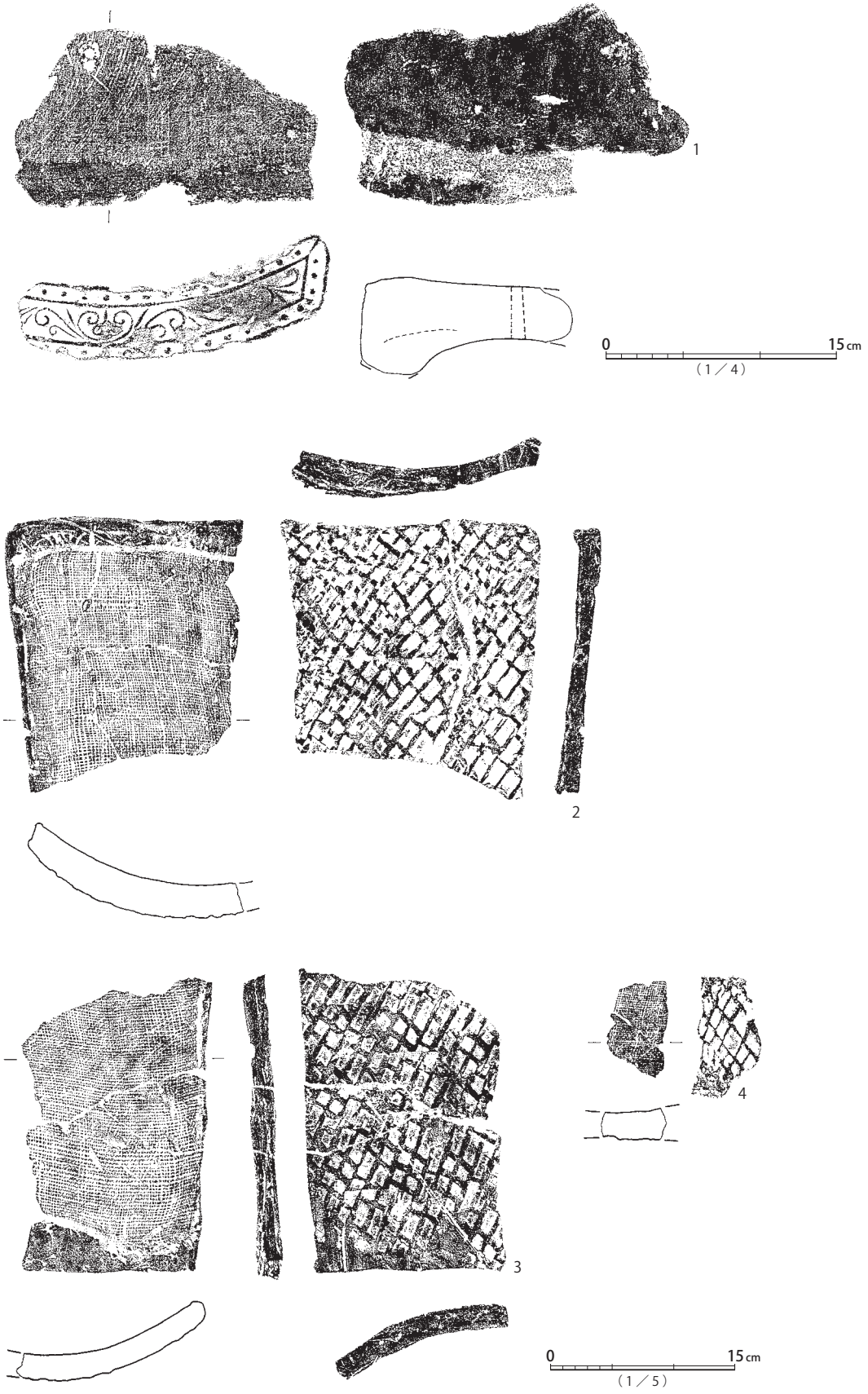
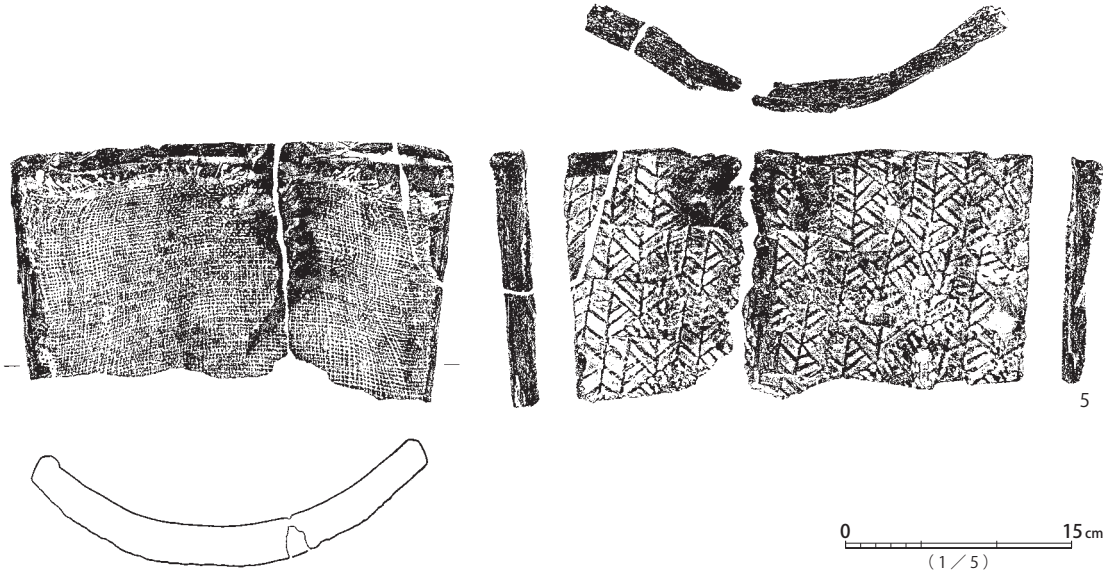


Fig.127　掘立柱建物3179号(2) 遺物

掘立柱建物 3179号



掘立柱建物 3203号

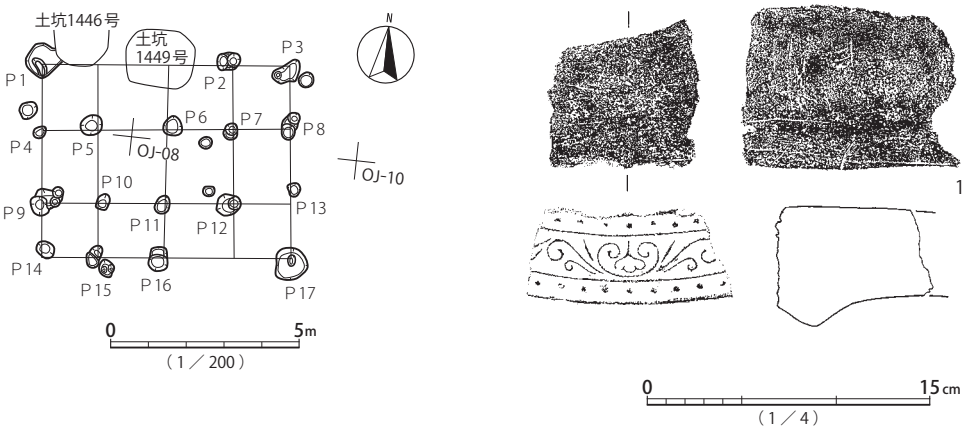
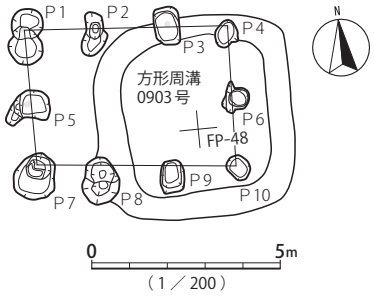


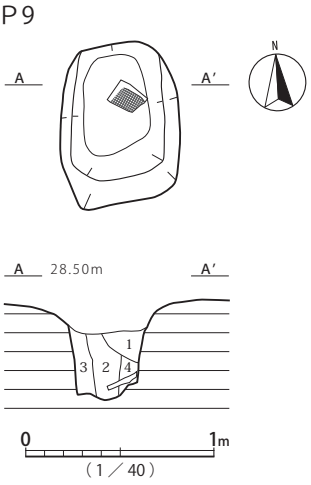
Fig.128　掘立柱建物3179号(3) 遺物、掘立柱建物3203号 遺構遺物

され、塀3229号とした。目隠し塀ないし庇と考えられる。規模は5.00×3.40mを測り、主軸方位はN−10°−Eである。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と思われるが、出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

図面からは、P10から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

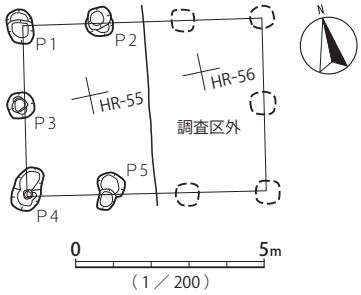
掘立柱建物 3044 号

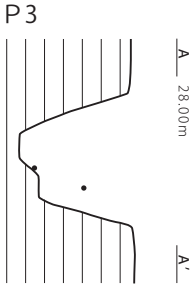


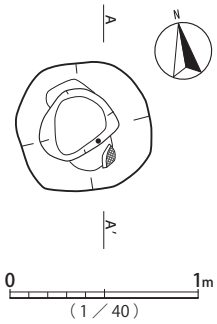


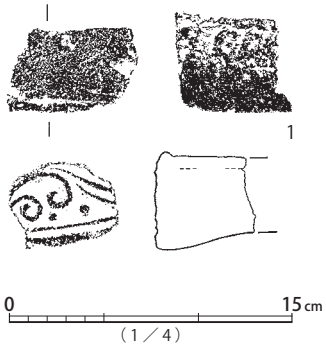
P9
1　暗褐色土　ソフトロームを含む。
2　黒褐色土　粘土を含む。
3　暗褐色土　ローム粒を含む。
4　暗褐色土　褐色土を含む。

掘立柱建物 3045 号

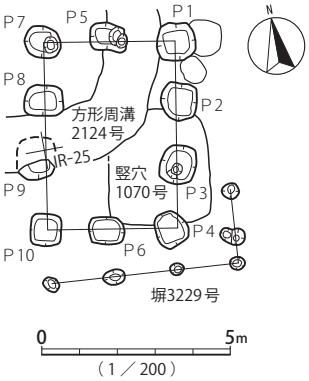


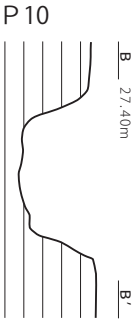


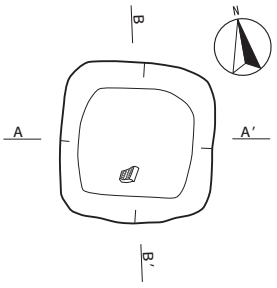


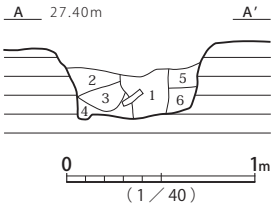


掘立柱建物 3062 号









P10
1　暗褐色土　ローム粒を含み、粘土もわずかに混じる。
2　暗褐色土　黒色土・ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　粘土粒を含む。
4　褐色土　ロームを多く含み、暗褐色土も混じる。
5　暗褐色土
6　黒褐色土　ロームを含む。

Fig.129　掘立柱建物3044号 遺構、掘立柱建物3045号 遺構遺物、掘立柱建物3062号 遺構

第 4 節　塀・柵列

塀 3134 号　（Fig.130）〔僧 I 第 233～240 図〕

伽藍地を方形に囲繞する塀（伽藍地外郭塀）で、南大門と西門に連結する。北側辺では、伽藍中軸延長線上に開口部を持ち、雑舎が所在する寺院地との出入口になっていたことが考えられる。南大門や西門などとともに、主要伽藍整備の最終段階で設置されたものと考えられ、僧寺編年III～IV－1 期の所産と考えられる。

図面からは、北辺西列P6の柱穴痕覆土下層から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

柵列 3138 号　（Fig.131）〔僧 I 第 241 図〕

北辺部OK－14を中心に位置し、塀3134号（伽藍地外郭塀）北側辺の出入口部に隣接する。長方形を呈する２基の柱穴で構成され、北側に傾斜する柱掘形の痕跡から、幡などを掲揚するための施設と考えられている。僧寺編年IV－1期の所産と考えられるが、出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

図面からは、P1・2の底面から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

塀 3145 号　（Fig.132）〔僧 I 第 242 図〕

北辺部PJ－40を中心に位置する。掘立柱建物3115号、土壙墓1328号と重複し、本遺構が3115号よりも新しく、1328号よりも古いと思われる。僧寺編年IV－2～3期の所産と考えられ、IV－2期に掘立柱建物3113号b・3137号、塀3133号bとセット、IV－3期に掘立柱建物3113号a・3116号、塀3133号aとセットで、一つの施設（国師・講師院）を構成したものと考えられる。

P6から瓦がまとまって出土しているが、実測可能遺物はI型式の均整唐草文軒平瓦１点のみである。

第 5 節　竪穴建物

竪穴 0002 号　（Fig.133、PL.35）〔僧 I 第 244・245 図〕

北辺部RO－82を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.02×2.70m、遺構下場面積は6.0㎡、確認面からの深さは0.40mを測る。主軸方位はN－84°－Eである。カマドは東壁中央やや北寄りから検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられるが、帰属時期は明確でない。

カマド内を中心に瓦の分布が認められるが、いずれも覆土上層からの出土である。

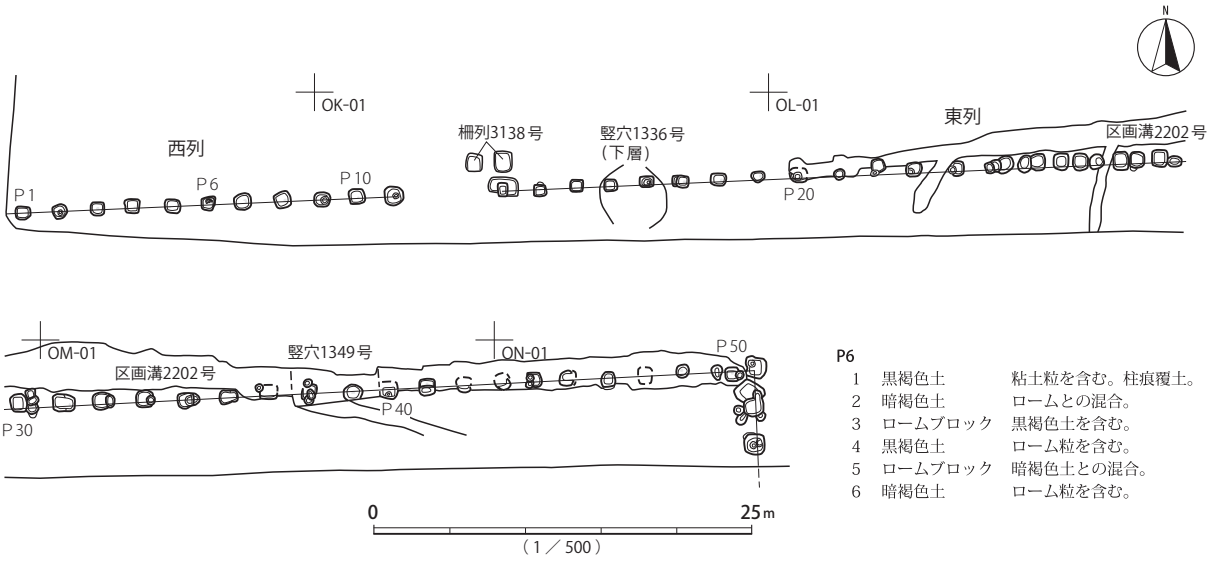
実測可能遺物は１の軒平瓦のみである。I型式の均整唐草文で、凹面中央には煤が付着し、瓦当側中央には風食痕が認められる。カマド右袖上からの出土である。

竪穴 0013 号　（Fig.134・135、PL.35）〔僧 I 第 247・248 図〕

北辺部QN－06を中心に位置する。中央で区画溝2400号と重複し、2400号覆土上に本遺構のカマドが構築されていることから、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は3.3×2.9m、遺構下場面積は7.1㎡程度を測るものと思われるが、壁の立ち上がりが部分的に検出されたのみで、明確でない。主軸方位はN－94°－E程度を測り、カ

塀 3134 号





ph.1　ピット 6　出土状況

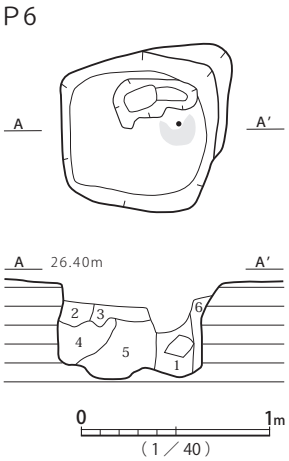


Fig.130　塀3134号 遺構・調査状況

マドは東壁のほぼ中央に位置するものと思われる。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド内から多量の瓦が出土しており、構築材として利用されたものと考えられる。

実測可能遺物は、1～3は丸瓦、4は平瓦で、いずれもカマドからの出土である。1～3は玉縁式で、3の凸面側両側縁には縄叩き目が残る。4の凹面には布目痕が端部まで続き、左側面広端側はわずかに削られる。

竪穴 0014 号　（Fig.136、PL.36）〔僧 I 第 249・250 図〕

北辺部QN−30を中心に位置する。竪穴0015・0026号（下層）と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は3.74×3.68m、遺構下場面積は11.2㎡、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−20°−Eである。カマドは北壁中央やや西寄りから検出されている。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の丸瓦のみである。行基葺式で、凹面には粘土板接合痕が認められ、広端側と狭

柵列 3138号

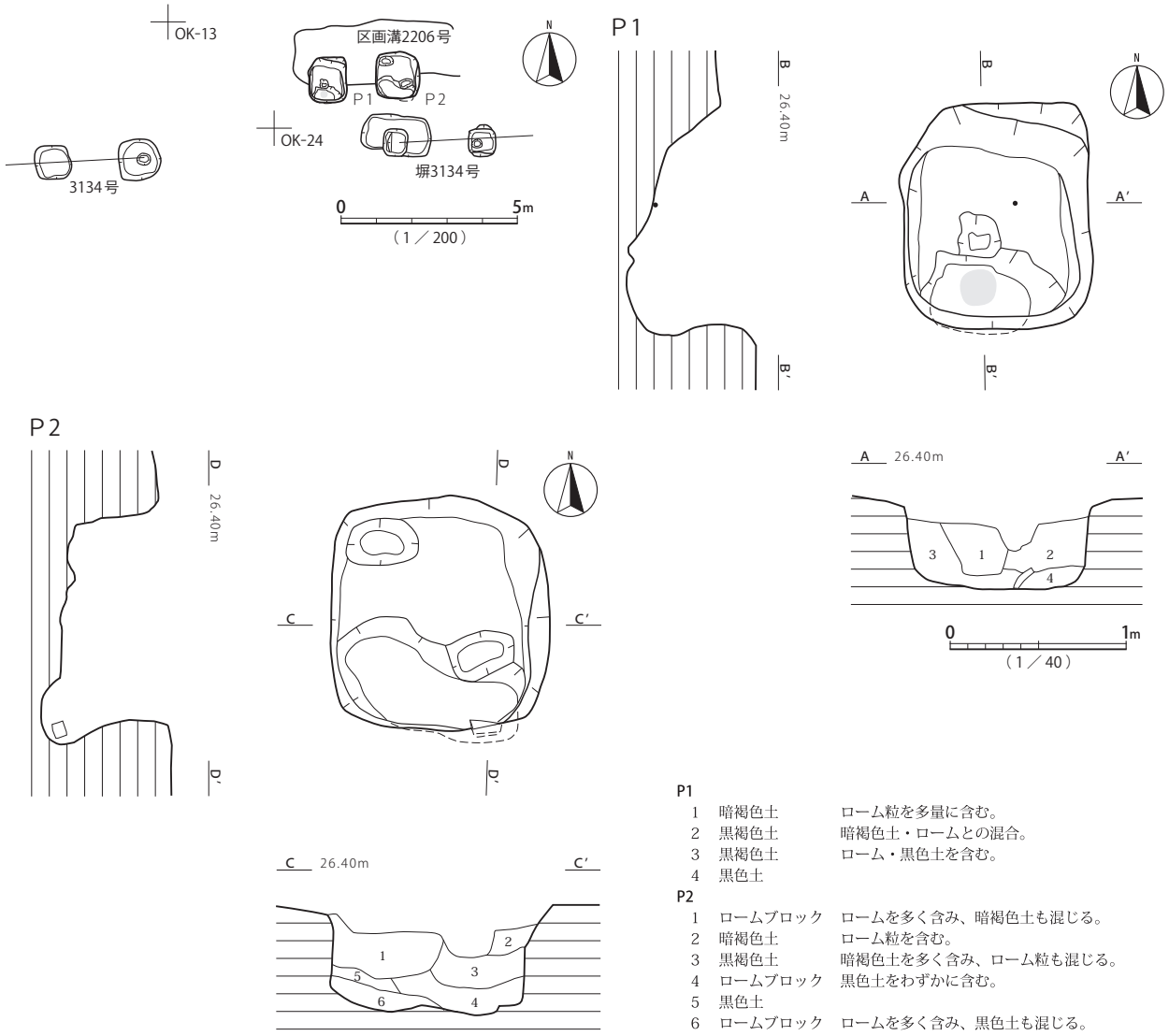


Fig.131　柵列3138号 遺構

端側とで異なる布目痕を残す。南東壁際から検出され、床面上からの出土である。

竪穴 0018 号　（Fig.137、PL.36）〔僧 I 第 251・252 図〕

北辺部QO−34を中心に位置する。掘立柱建物0702号と重複し、本遺構の方が新しいと思われるが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.72×2.58m、遺構下場面積は5.8㎡、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−1°−Eである。カマドは北壁ほぼ中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみである。左側面には部分的に布目痕が認められる。西辺壁際から検出され、床面上からの出土である。

塀 3145 号

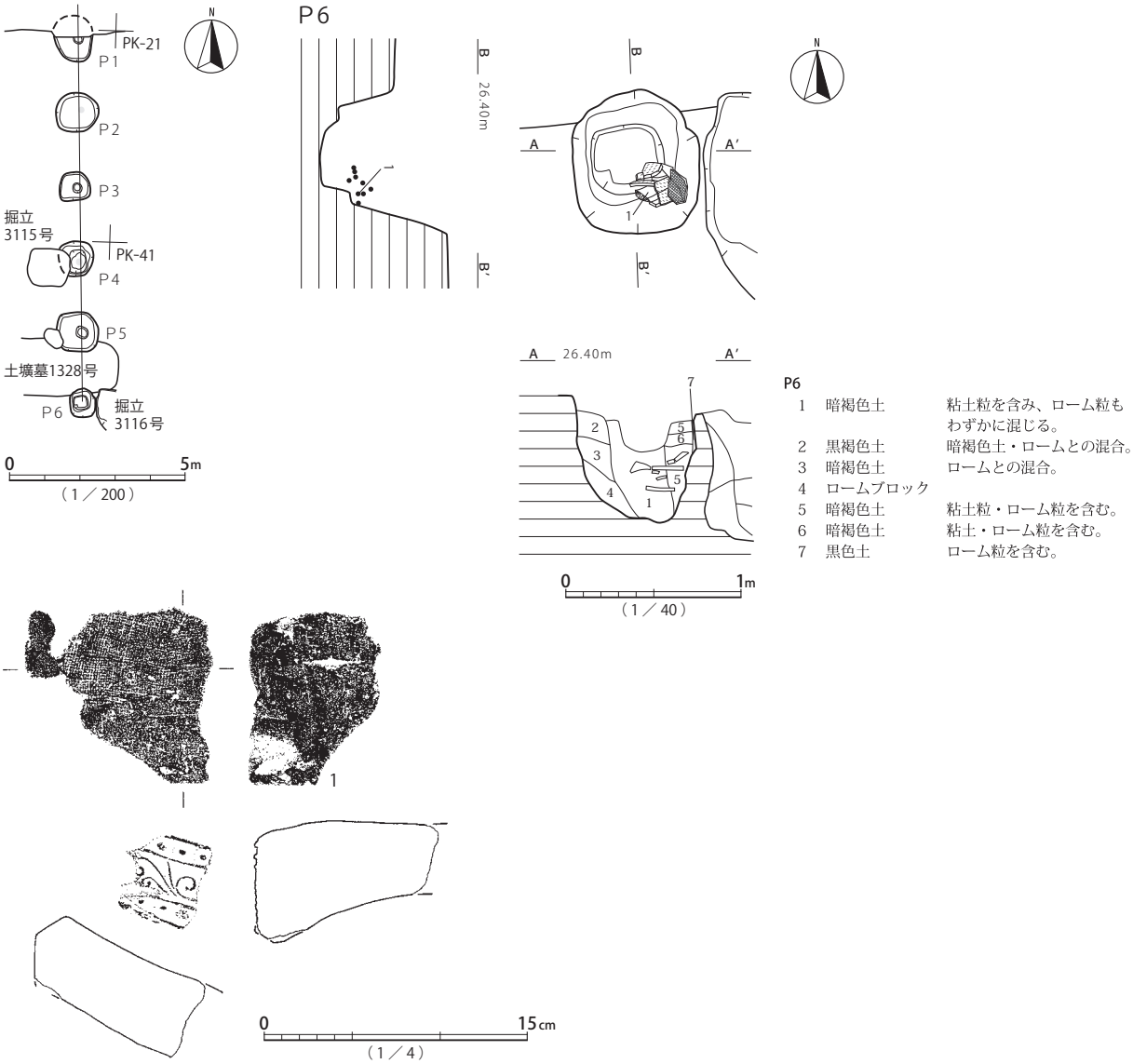


Fig.132　塀3145号 遺構遺物

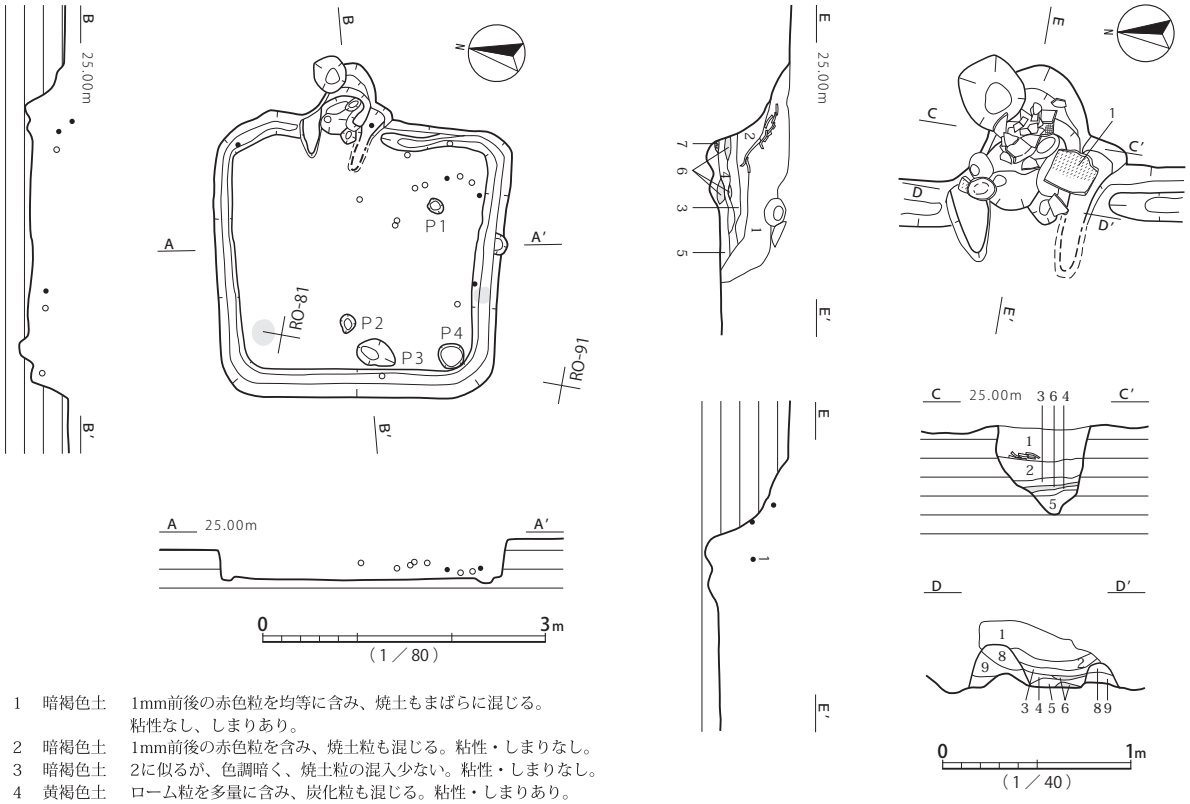
竪穴 0020 号　（Fig.138、PL.36・215）〔僧Ⅰ第 253・254 図〕

北辺部QO−55を中心に位置する。竪穴0019・0021号（下層）と重複し、東側は調査区外へ延びる。新旧関係は、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は主軸長2.90m、確認面からの深さは0.18mを測る。主軸方位はN−17°−Eである。カマドは北辺壁の西寄りから検出されている。僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の丸瓦のみである。凹面には粘土板接合痕が認められ、斜方向の深い糸切痕を残す。カマド奥壁の煙道部寄りからの出土である。

竪穴 0002号



1　暗褐色土　1mm前後の赤色粒を均等に含み、焼土もまばらに混じる。粘性なし、しまりあり。
2　暗褐色土　1mm前後の赤色粒を含み、焼土粒も混じる。粘性・しまりなし。
3　暗褐色土　2に似るが、色調暗く、焼土粒の混入少ない。粘性・しまりなし。
4　黄褐色土　ローム粒を多量に含み、炭化粒も混じる。粘性・しまりあり。
5　黒色土　暗褐色粒・焼土を含む。粘性なし、しまりあり。
6　焼土　灰・炭化粒を含む。しまりなし。
7　炭化物　焼土をわずかに含む。
8　暗褐色土　赤色粘土粒を均等に含む。粘性なし、しまりあり。
9　暗褐色土　焼土・ロームブロックを多量に含む。粘性なし、しまりあり。

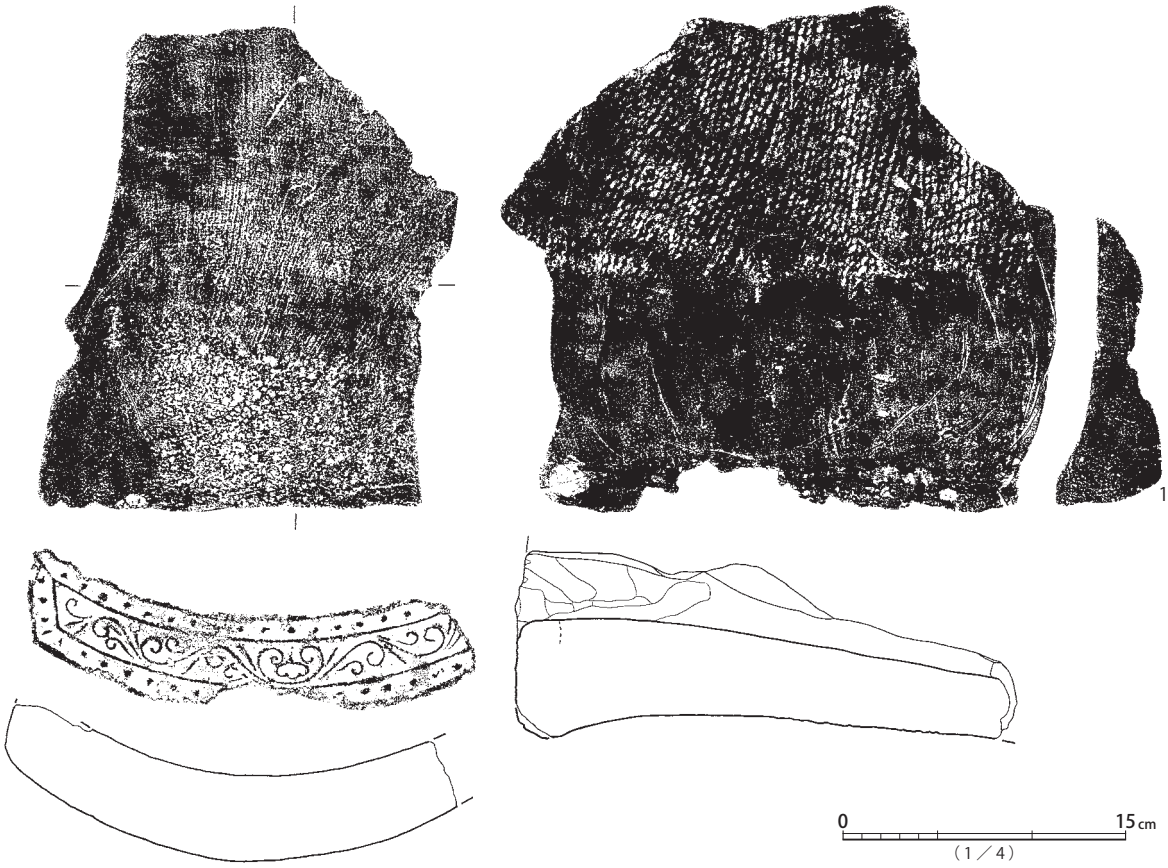
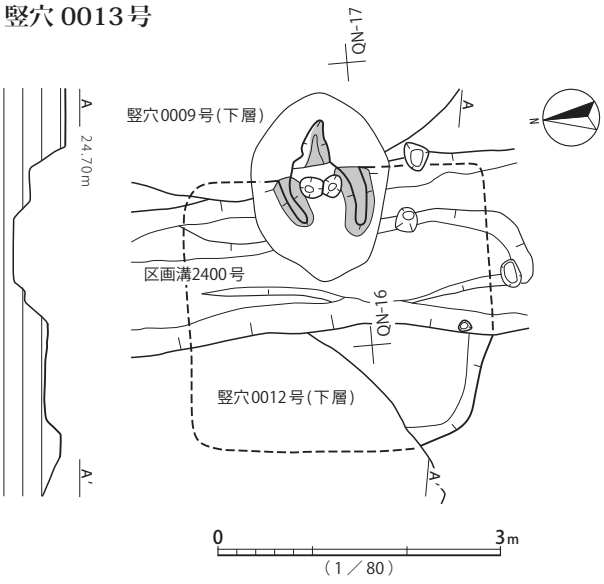


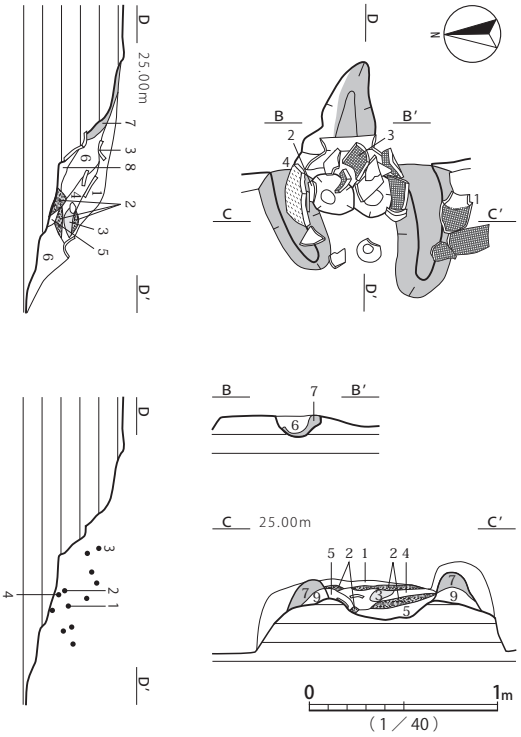
Fig.133　竪穴0002号 遺構遺物

竪穴 0013号





ph.1　カマド 2・3・4



1	暗褐色土	5mm前後のローム粒を多量に含む。粘性なし、しまりあり。
2	灰	暗褐色土・焼土粒・ローム粒を含み、炭化粒もわずかに混じる。
3	焼土	粗い暗赤色焼土がブロック状に点在する。
4	暗褐色土	ロームブロックを多量に含み、焼土粒・炭化粒も混じる。
5	暗褐色土	被熱し、さらさらする。
6	暗褐色土	ローム粒・白色粒・赤色粒を含み、焼土粒もわずかに混じる。粘性・しまりあり。
7	暗褐色粘土	白色粘土を含む。硬くしまる。
8	暗褐色土	被熱し、焼土・灰・炭化粒を多く含む。粘性・しまりあり。
9	ローム	ロームブロックを含む。硬くしまる。

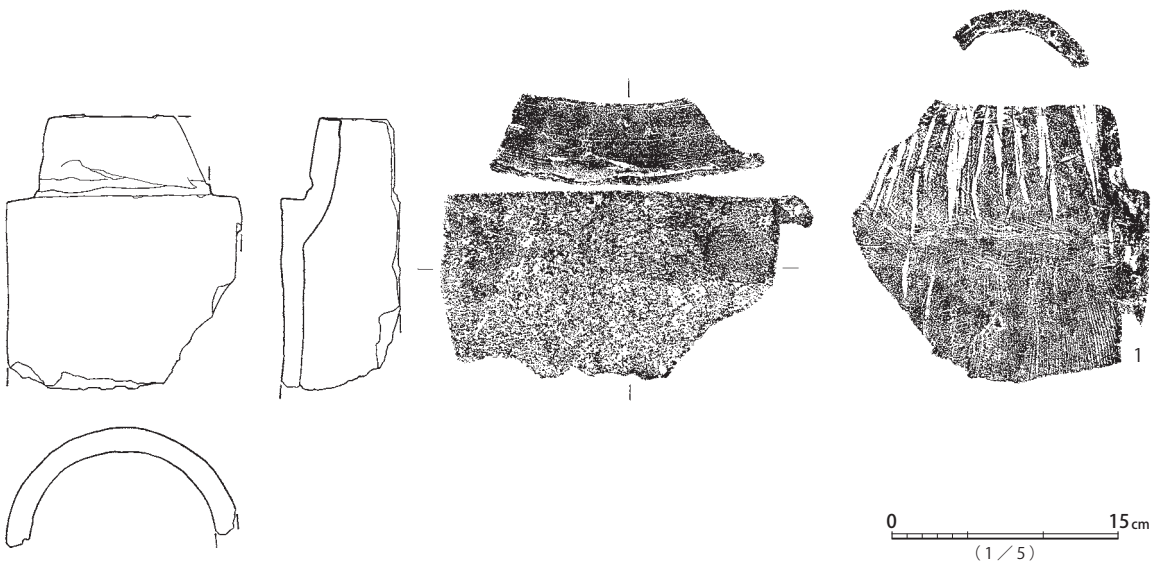


Fig.134　竪穴0013号(1) 遺構遺物・調査状況

竪穴 0013号



Fig.135　竪穴0013号(2) 遺物

竪穴 0014 号

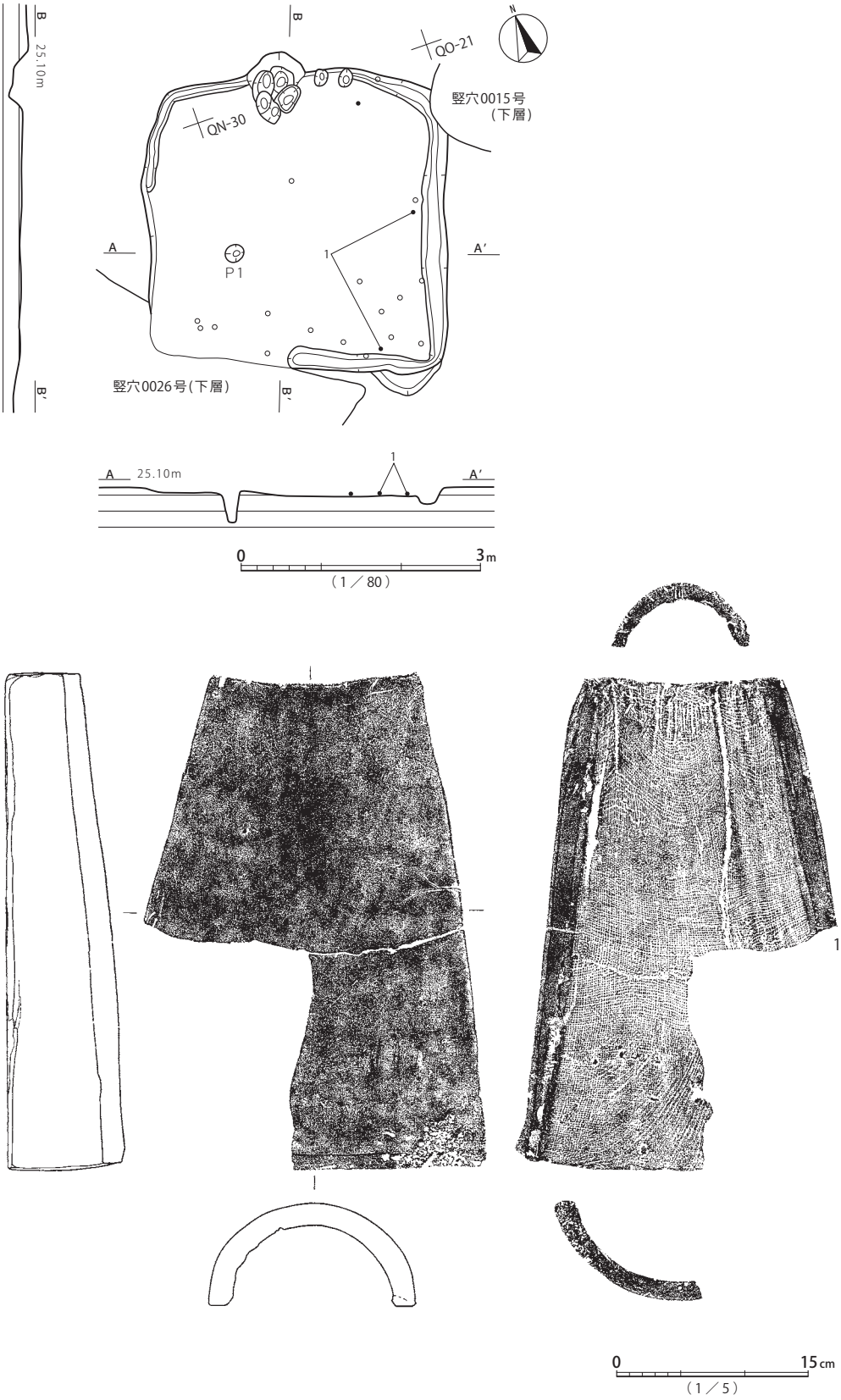
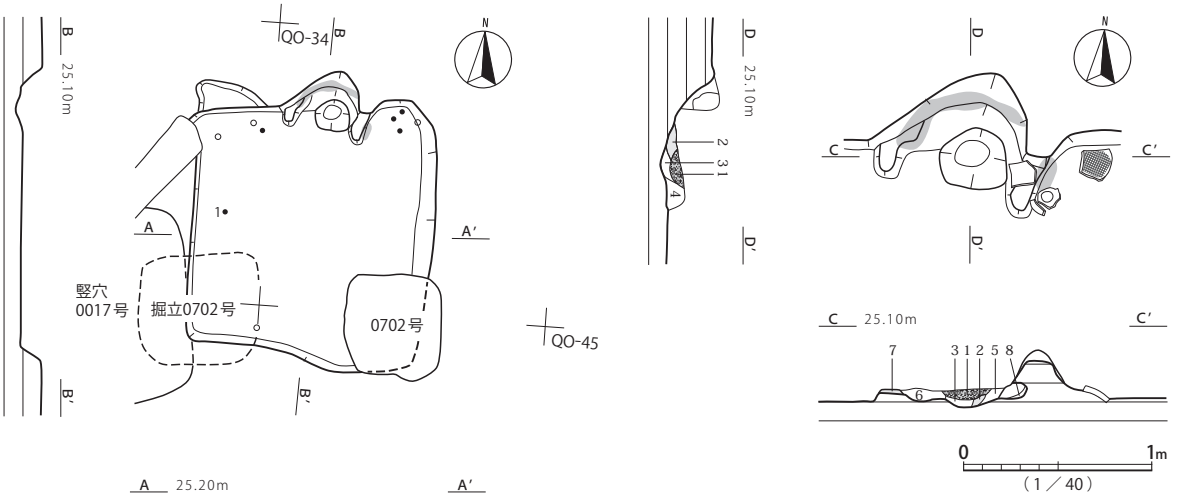


Fig.136　竪穴0014号 遺構遺物

竪穴 0018号



1　灰　　炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
2　焼土
3　赤褐色土　被熱し、炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
4　暗褐色土　赤色粒を均等に含む。粘性・しまりなし。
5　暗褐色土　焼土粒を多量に含み、炭化粒も混じる。粘性・しまりなし。
6　黒色土　　ロームブロック・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
7　焼土　　白色粘土ブロック・炭化粒・焼土ブロックを含む。
8　黒色土　　赤色粒をわずかに含む。粘性・しまりに富む。



ph.1　出土状況 1

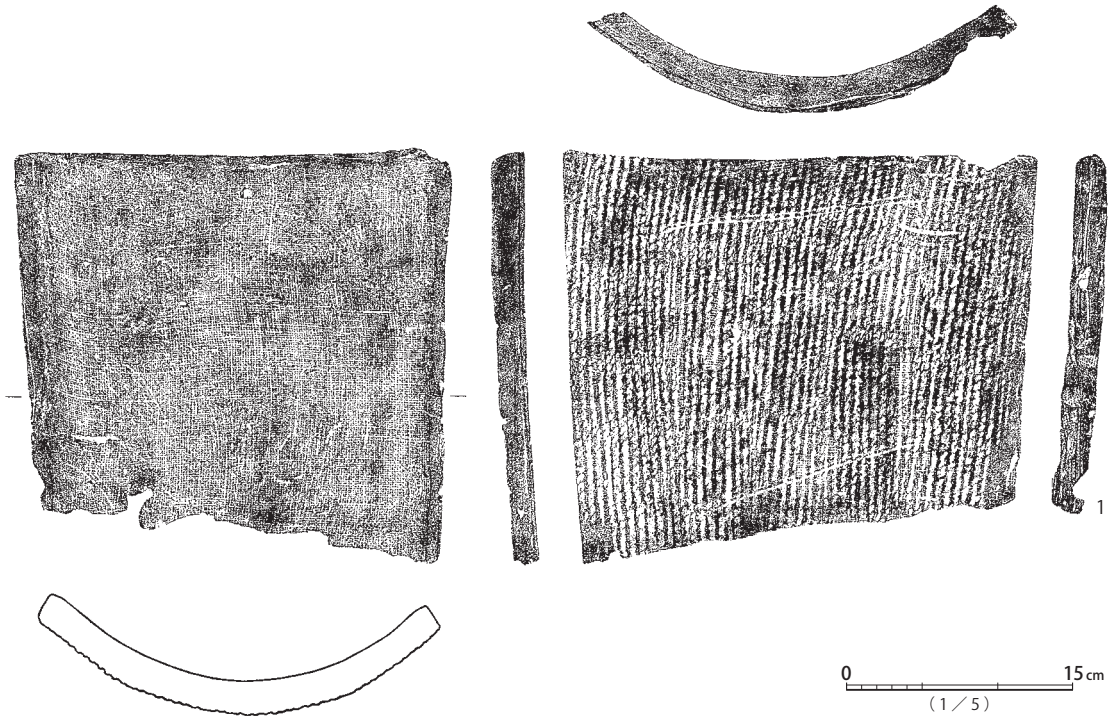


Fig.137　竪穴0018号 遺構遺物・調査状況

竪穴 0020 号

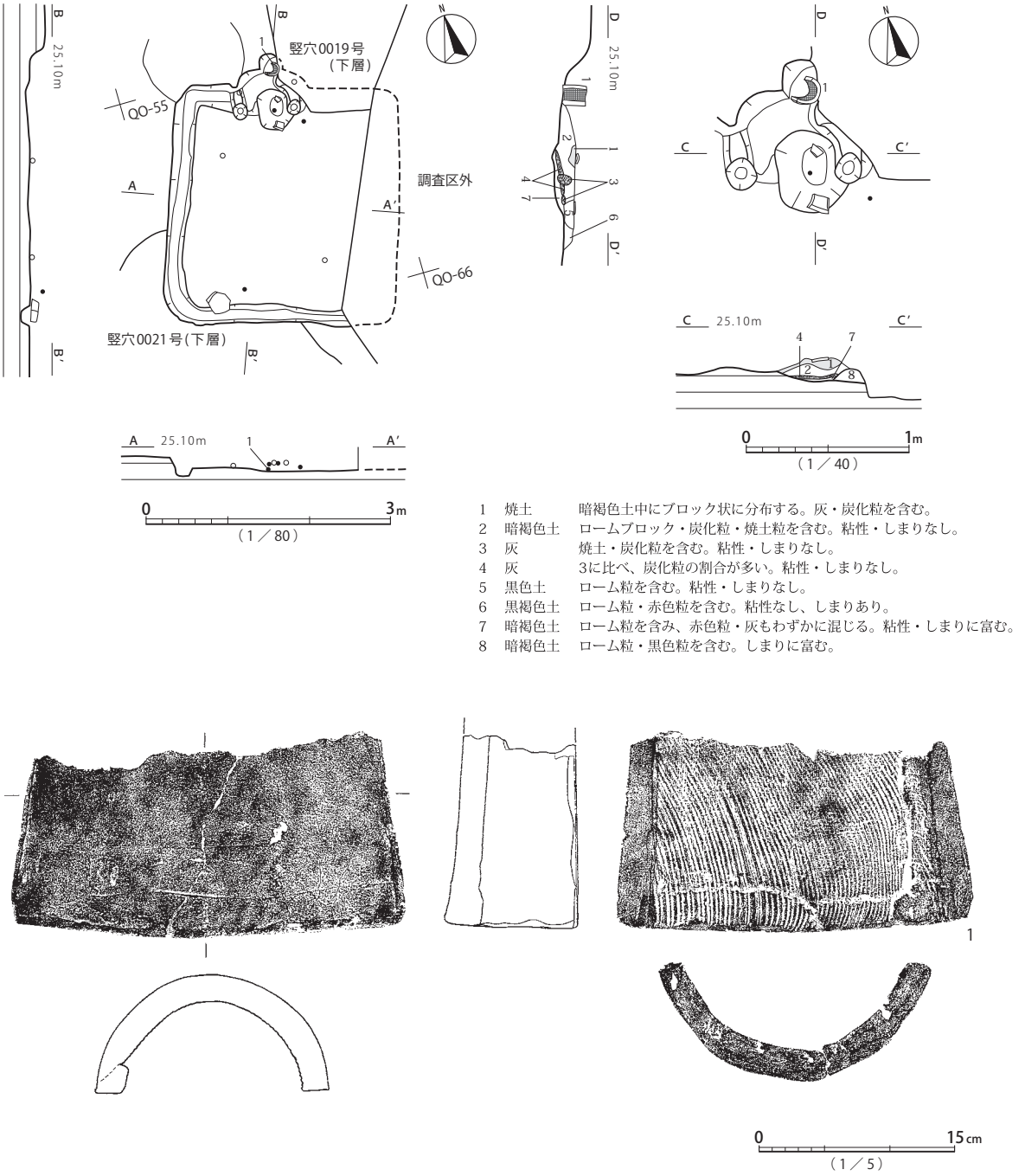


Fig.138　竪穴0020号 遺構遺物

竪穴 0030 号　（Fig.139、PL.36）〔僧 I 第 256 図〕

北辺部QO−62を中心に位置する。掘立柱建物0702号、竪穴0023・0025号（下層）、土坑0031号と重複し、本遺構が0023・0025号よりも新しいが、0702・0031号との関係は、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

平面形態はやや横長の方形を呈するものと考えられるが、西辺壁が検出されておらず、明確でない。規模は主軸長2.96m、確認面からの深さは0.08mを測る。北辺壁を基準とした場合、これと直行す

る軸の方位はN−4°−Eである。カマドは検出されていない。僧寺編年IV−5期の所産と考えられるが、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。I型式の均整唐草文で、凹凸面ともに幅広くヘラケズリを施す。西辺壁際付近からの検出と考えられ、床面上からの出土である。

竪穴0039号　(Fig.140・141、PL.36・37)〔僧I第257図〕

北辺部SO−52を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.56×3.50m、遺構下場面積は9.6㎡、確認面からの深さは0.32mを測る。主軸方位はN−2°−Eである。カマドは北壁ほぼ中央から検出されている。僧寺編年III〜IV−1期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はI型式の蓮華文軒丸瓦、2・3は平瓦である。2はカマド煙道部の覆土上層、3は中央北寄りの床面上からの出土で、1は出土位置が明確でない。

竪穴0042号　(Fig.142、PL.36)〔僧I第258・259図〕

北辺部RO−07を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.68×3.12m、遺構下場面積は8.10㎡、確認面からの深さは0.44mを測る。主軸方位はN−14°−Eである。カマドは北辺壁中央やや東寄りから検出されている。僧寺編年IV−1〜2期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の玉縁式丸瓦のみで、カマド内からの出土である。

竪穴0044号　(Fig.143)〔僧I第259図〕

北辺部SO−80を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.00×2.78m、遺構下場面積は5.40㎡、確認面からの深さは0.18mを測る。主軸方位はN−105°−Eである。カマドは東辺壁中央やや南寄りから検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド周辺と北辺壁際から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴0048号　(Fig.143)〔僧I第260図〕

北辺部PO−13を中心に位置する。掘立柱建物0702号、竪穴0027号(下層)と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

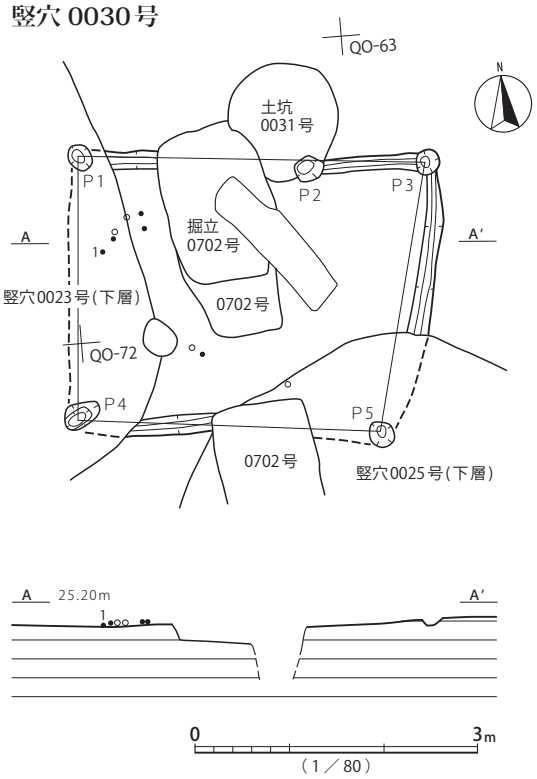
平面形態は方形を呈するものと考えられるが、北辺壁が検出されておらず、明確でない。規模は主軸長2.80m、確認面からの深さは0.12mを測る。主軸方位はN−98°−Eである。カマドは東辺壁から検出され、ほぼ中央に位置するものと思われる。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴0054号　(Fig.144)〔僧I第261図〕

北辺部QO−91を中心に位置する。竪穴0053・0055号(下層)と重複し、本遺構がいずれの遺構よ

竪穴 0030号



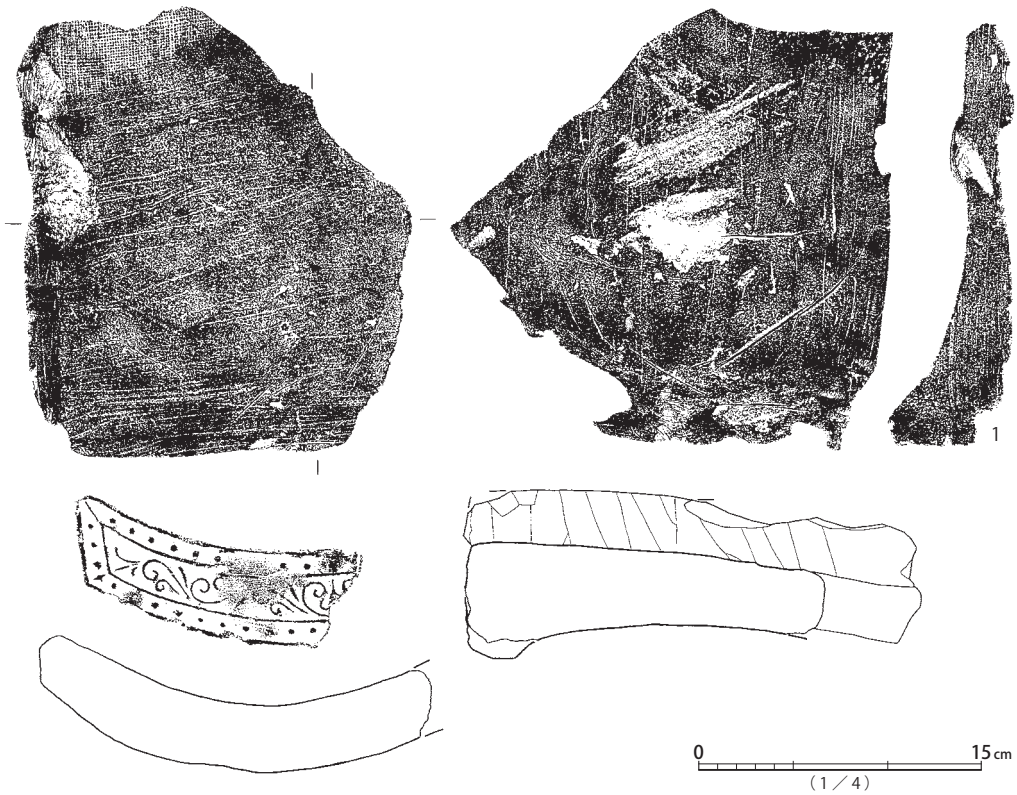
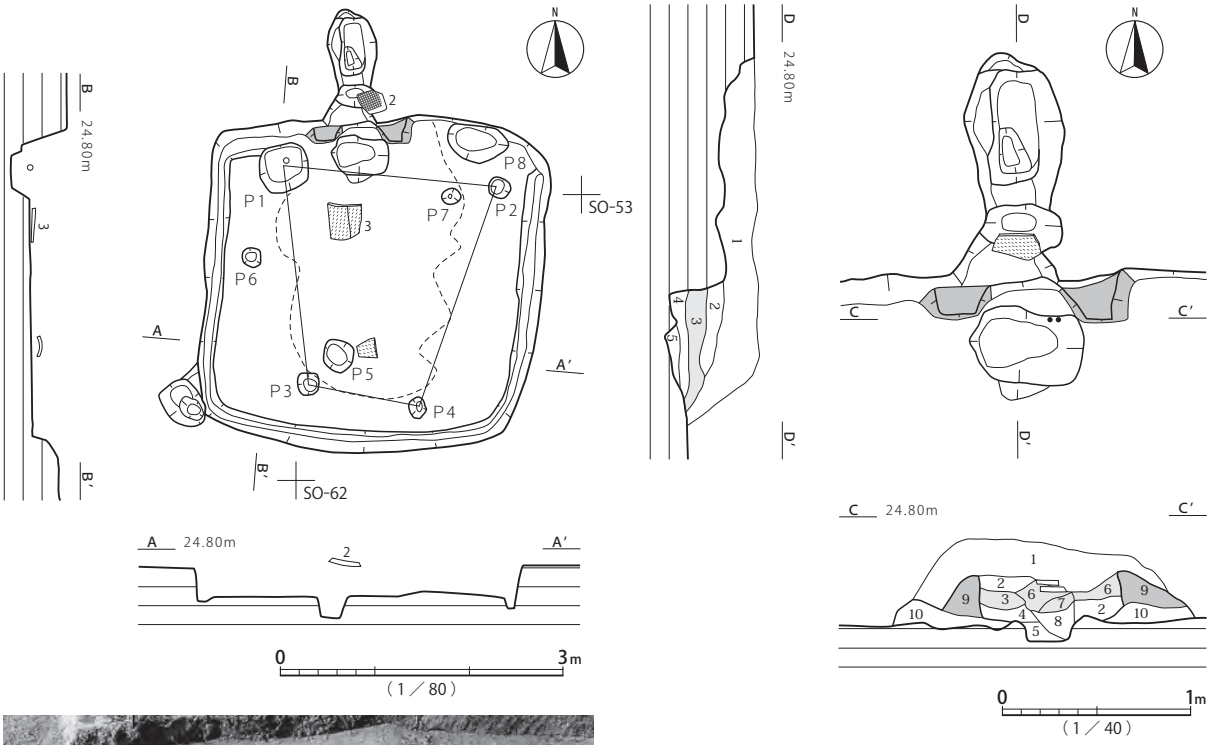


Fig.139　竪穴0030号 遺構遺物

竪穴 0039 号



1　暗褐色土
2　暗褐色土　焼土を含む。
3　焼土　灰を含む。
4　暗褐色土　ロームとの混合。
5　暗褐色土　ロームを含む。
6　焼土　暗褐色土との混合。
7　焼土
8　暗褐色土　灰を含む。
9　粘土
10　ローム　暗褐色土を含む。



ph.1　出土状況 2・3

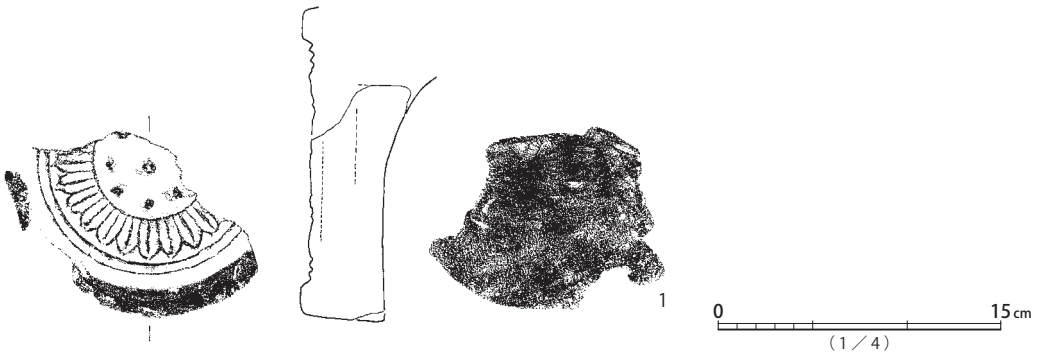


Fig.140　竪穴0039号(1) 遺構遺物・調査状況

竪穴 0039 号

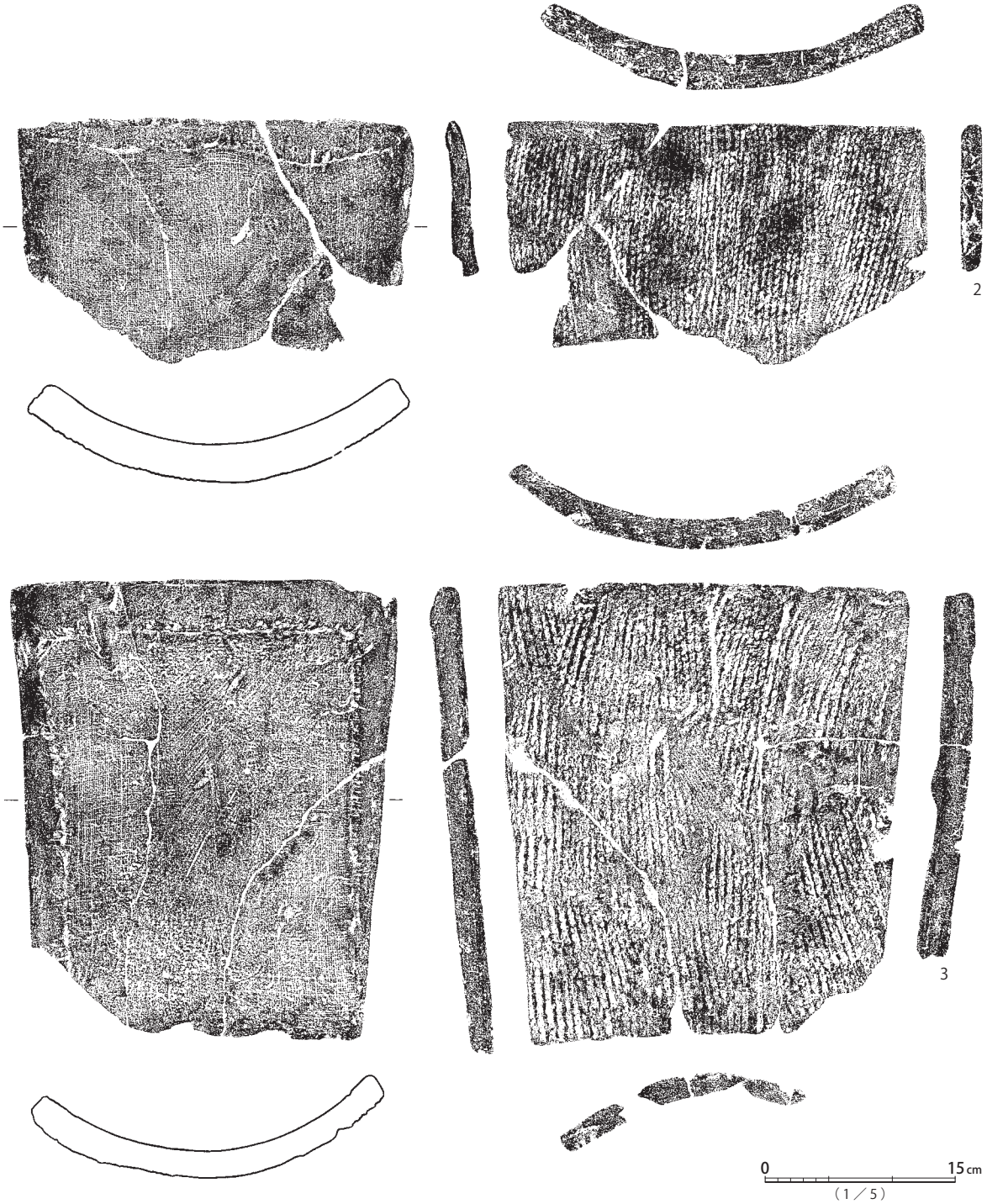


Fig.141　竪穴0039号(2) 遺物

竪穴 0042号

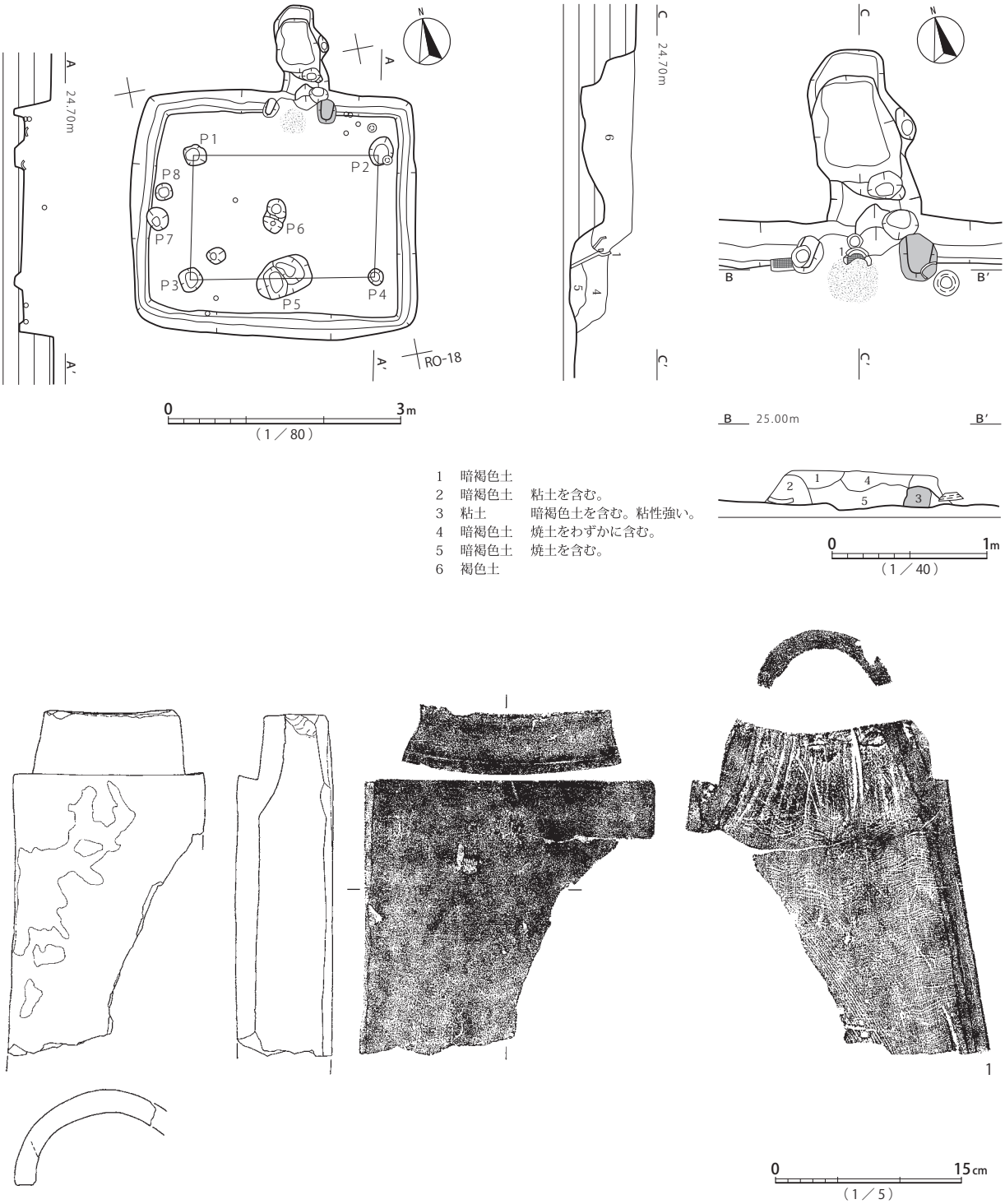
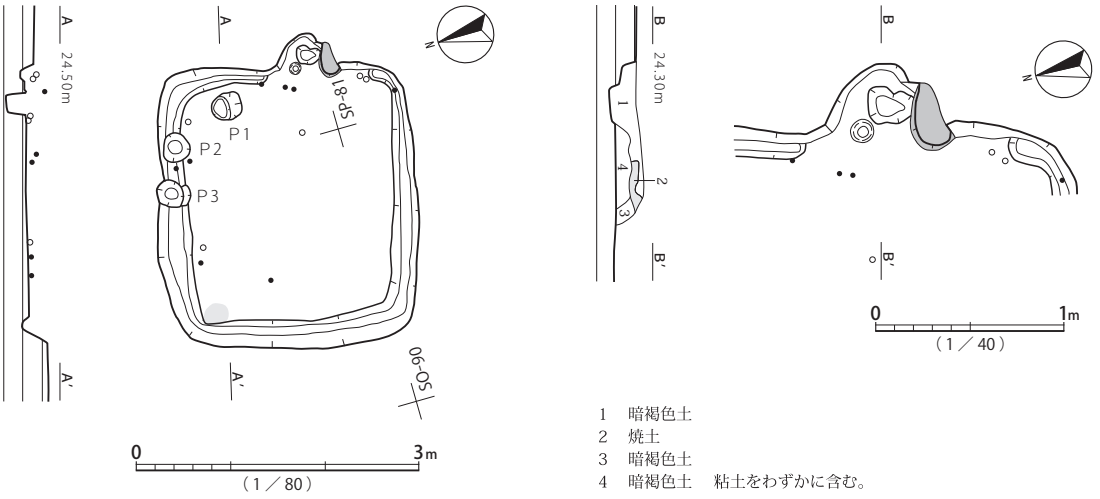


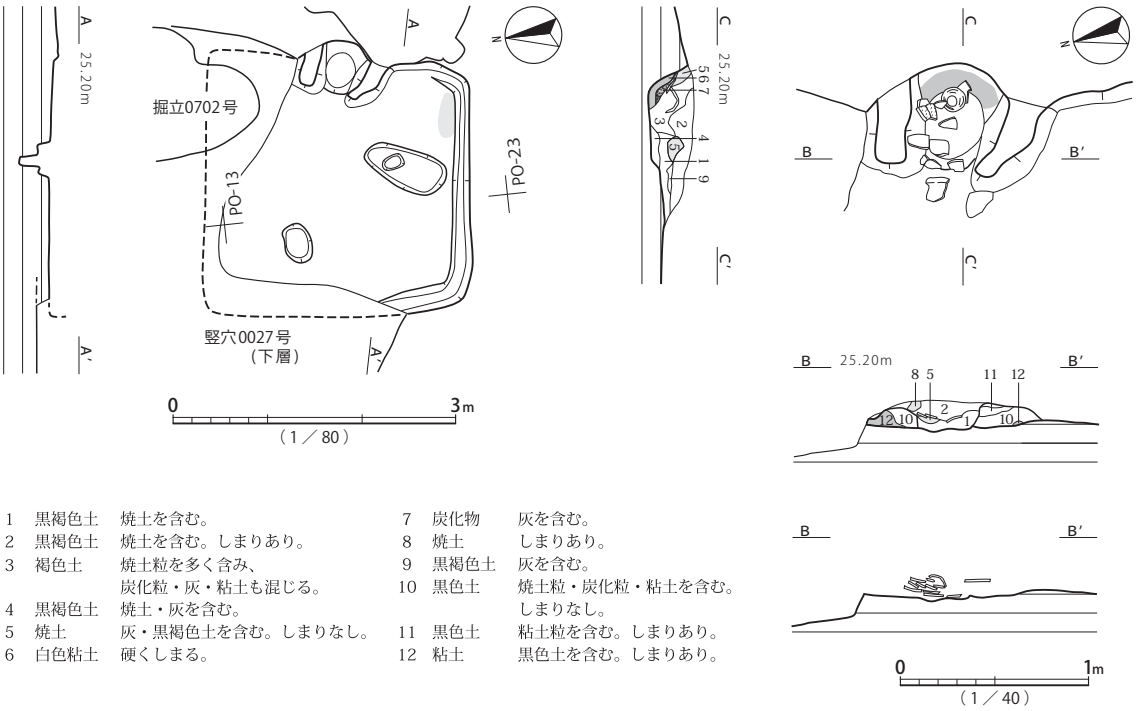
Fig.142 竪穴0042号 遺構遺物

竪穴 0044 号



1　暗褐色土
2　焼土
3　暗褐色土
4　暗褐色土　粘土をわずかに含む。

竪穴 0048 号



1	黒褐色土	焼土を含む。	7	炭化物	灰を含む。
2	黒褐色土	焼土を含む。しまりあり。	8	焼土	しまりあり。
3	褐色土	焼土粒を多く含み、炭化粒・灰・粘土も混じる。	9	黒褐色土	灰を含む。
4	黒褐色土	焼土・灰を含む。	10	黒色土	焼土粒・炭化粒・粘土を含む。しまりなし。
5	焼土	灰・黒褐色土を含む。しまりなし。	11	黒色土	粘土粒を含む。しまりあり。
6	白色粘土	硬くしまる。	12	粘土	黒色土を含む。しまりあり。

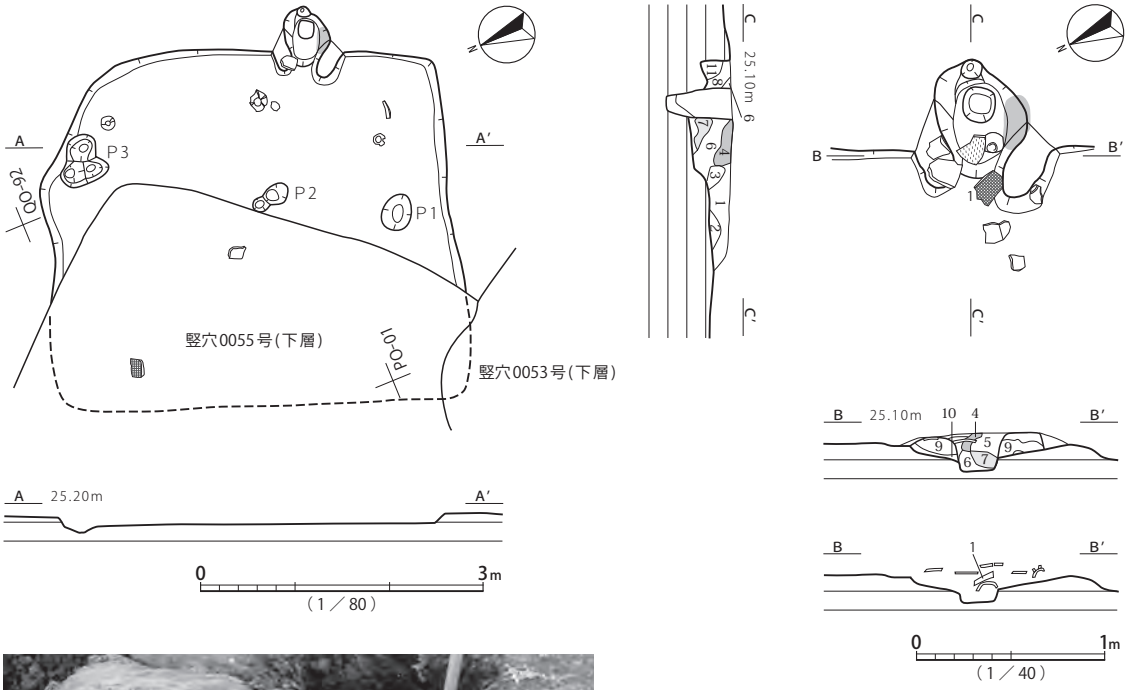
Fig.143　竪穴0044号 遺構、竪穴0048号 遺構

りも新しい。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、西辺壁が検出されておらず、明確でない。規模は副軸長3.72m、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−113°−Eである。カマドは東辺壁中央やや南寄りから検出されている。僧寺編年VII期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の行基葺式丸瓦のみである。やや薄手の成形で、カマド内からの出土である。

竪穴 0054 号





ph.1　カマド 1

1　黒褐色土　粘土ブロックを多く含み、ローム粒・焼土粒・炭化粒も混じる。
2　黒褐色土　粘土・炭化粒をわずかに含む。しまりあり。
3　黒褐色土　粘土・炭化粒を含む黒褐色土ブロック。粘性・しまりあり。
4　粘土　炭化粒を含む。
5　黒褐色土　粘土を含む。しまりあり。
6　黒褐色土　炭化粒を多く含む。粘性・しまりに富む。
7　焼土　灰を含む。粘性・しまりなし。
8　黒褐色土　ローム粒を含む。
9　黒色土　炭化粒を多く含み、粘土粒・焼土粒も混じる。
10　黒褐色土　粘土・焼土粒を含む。粘性・しまりあり。
11　黒褐色土　ローム粒を多く含む。部分的に粘性強い。

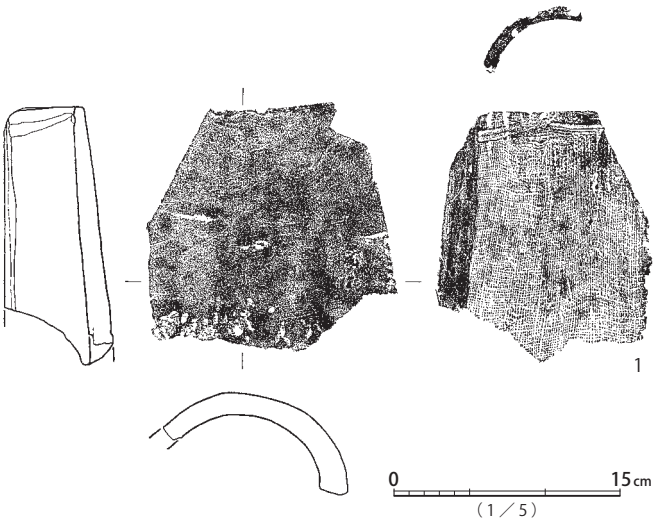


Fig.144　竪穴0054号 遺構遺物・調査状況

竪穴 0058 号　（Fig.145、PL.36）〔僧Ⅰ第 262・263 図〕

北辺部QN−88を中心に位置する。他遺構との重複はないが、壁の一部は撹乱により壊される。

平面形態は方形を呈し、規模は3.22×3.12m、遺構下場面積は7.20㎡、確認面からの深さは0.23mを測る。主軸方位はN−2°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はⅠ型式の均整唐草文軒平瓦、2は平瓦である。1は凸面が被熱黒色化し、2の凹面には縦方向のヘラナデが施され、布目痕が消失する。2はカマド煙道部からの出土で、1は出土位置が明確でない。

竪穴 0068 号　（Fig.146）〔僧Ⅰ第 264 図〕

北辺部QN−13を中心に位置する。竪穴0067号と重複し、出土遺物からは本遺構の方が新しいと思われるが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

東辺壁は検出されないが、平面形態は方形を呈し、規模は3.18m四方、遺構下場面積は7.90㎡、確認面からの深さは0.07m程度を測るものと思われる。主軸方位はN−4°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅴ期の所産と考えられる。

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0071 号　（Fig.147、PL.37）〔僧Ⅰ第 265・266 図〕

北辺部QN−44を中心に位置する。掘立柱建物3151号と重複し、南辺壁の一部は撹乱により壊される。新旧関係は、本遺構の方が3151号よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は2.46×2.44m、遺構下場面積は4.20㎡程度、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−1°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみである。カマド脇から検出され、床面上からの出土である。

竪穴 0075 号　（Fig.146）〔僧Ⅰ第 265・266 図〕

北辺部QN−63を中心に位置する。竪穴0074号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は不整長方形を呈すが、北辺壁の形状は明確でない。確認面からの深さは0.06mを測り、規模は3.06×3.86m、遺構下場面積は10.70㎡程度になるものと思われる。南辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−92°−Eである。カマドは南東隅付近から検出されている。帰属時期は明確でない。

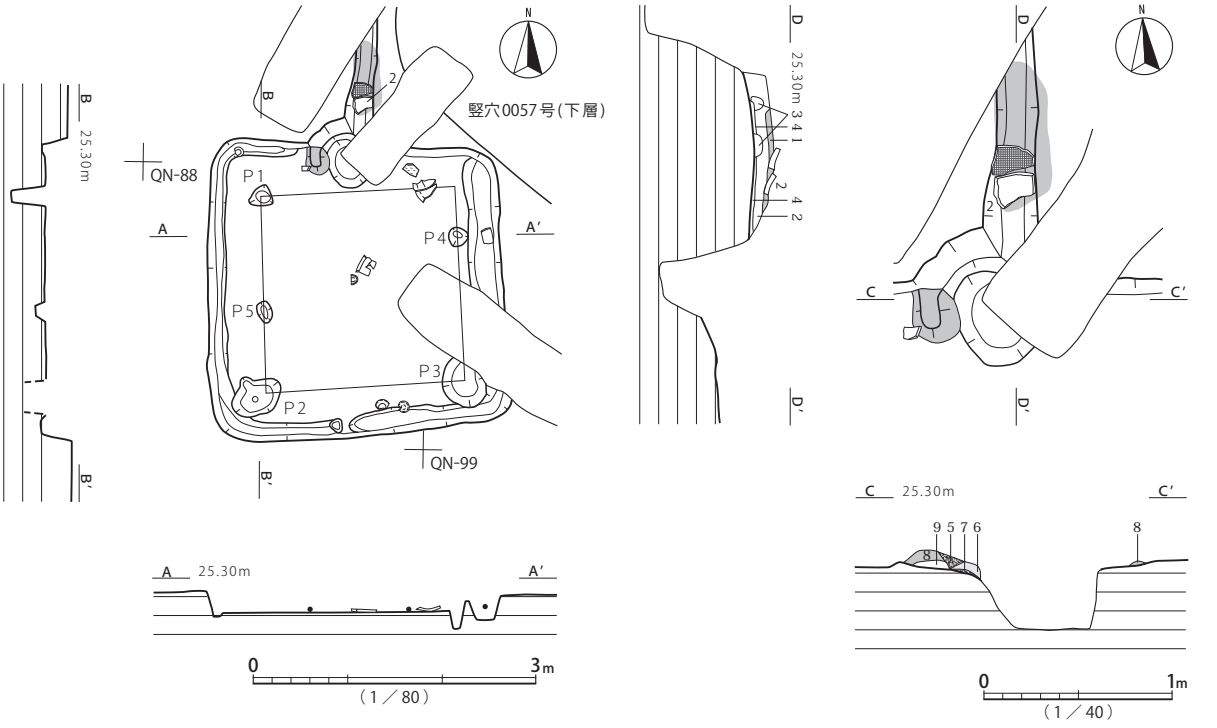
遺構中央付近から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0078 号　（Fig.148）〔僧Ⅰ第 267〜269 図〕

北辺部QN−84を中心に位置する。竪穴0079・0081号と重複し、本遺構の方が0081号よりも新しいと思われるが、0079号との関係は明確でない。

西辺壁は検出されないが、平面形態は方形を呈し、規模は3.26×3.20m、遺構下場面積は8.20㎡、

竪穴 0058号





ph.1　カマド 2

1	粘土	ローム・炭化粒を含む。
2	暗褐色土	1cm大のロームブロックを均等に含む。
3	ロームブロック	
4	ローム	粘土・炭化粒を含む。
5	灰	炭化物を含む。
6	焼土	灰を含む。
7	炭化物	
8	白色粘土	
9	黒褐色土	灰・炭化物を含む。

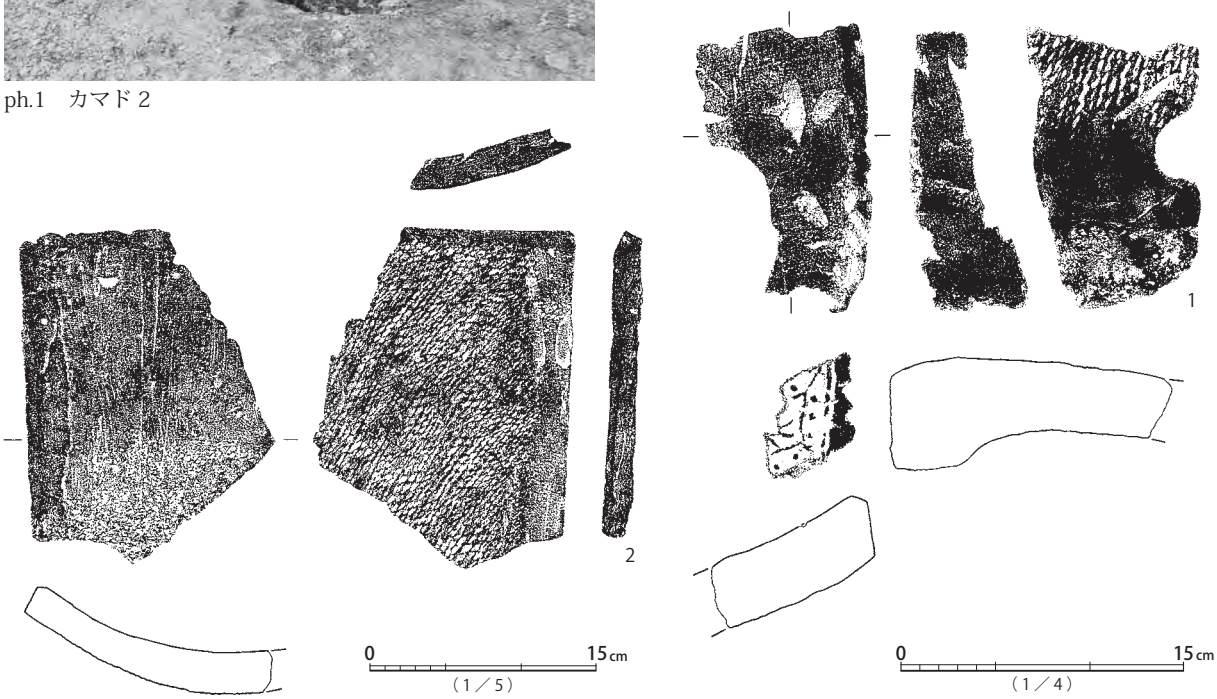
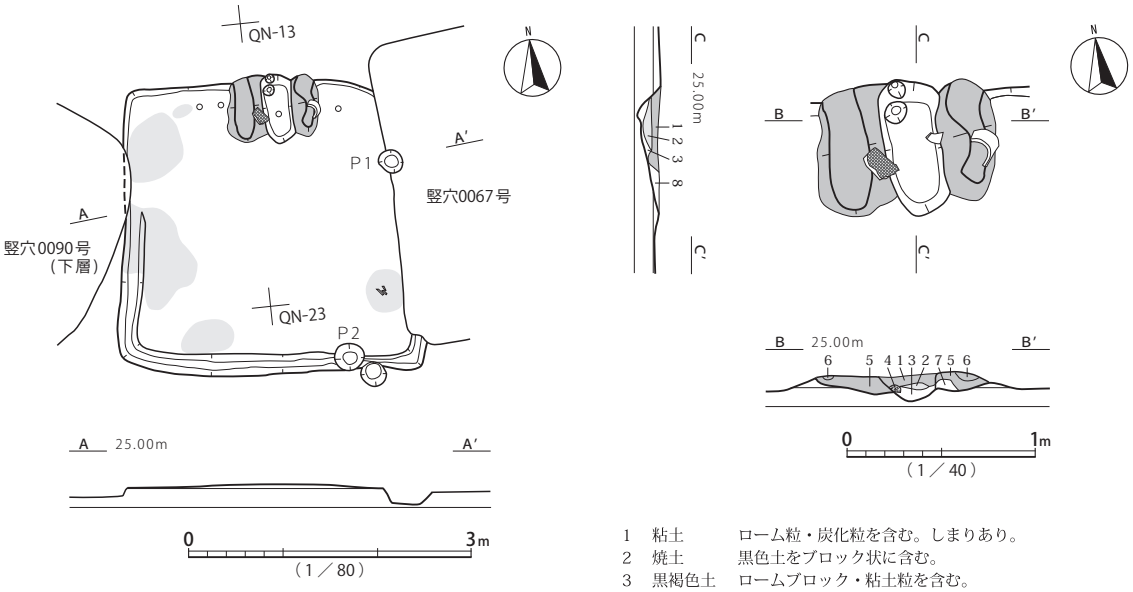


Fig.145　竪穴0058号 遺構遺物・調査状況

竪穴 0068号



1　粘土　　ローム粒・炭化粒を含む。しまりあり。
2　焼土　　黒色土をブロック状に含む。
3　黒褐色土　ロームブロック・粘土粒を含む。
4　灰　　焼土粒を含む。
5　粘土　　炭化物・焼土を含む。しまりあり。
6　粘土
7　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。しまりあり。
8　黒色土　　ローム粒・焼土粒を含む。粘性・しまりなし。

竪穴 0075号

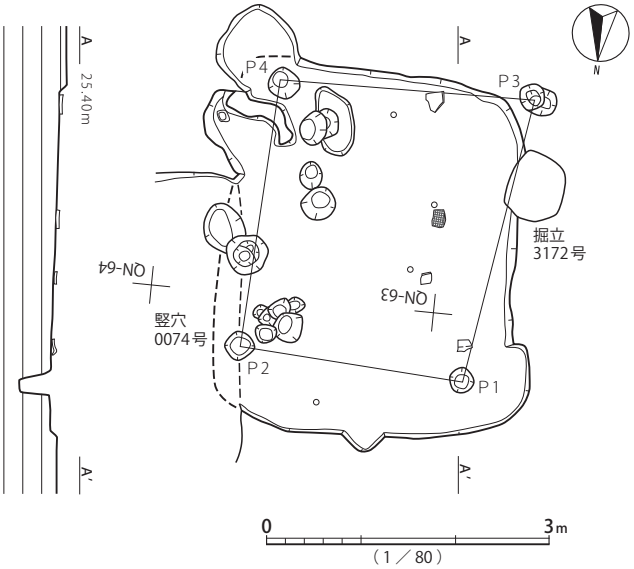
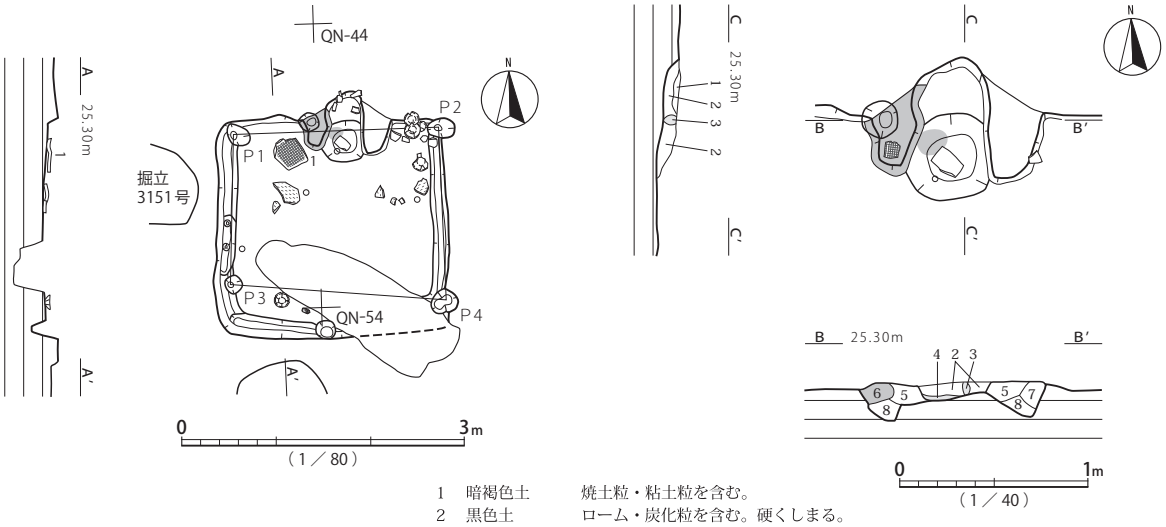


Fig.146　竪穴0068号 遺構、竪穴0075号 遺構

竪穴 0071 号



1	暗褐色土	焼土粒・粘土粒を含む。
2	黒色土	ローム・炭化粒を含む。硬くしまる。
3	焼土	暗赤色を呈す。硬くしまる。
4	焼土	被熱した地山。しまりなし。
5	黒褐色土	ローム粒・焼土粒を含む。粘性・しまりに富む。
6	粘土ブロック	炭化粒・焼土粒を含む。
7	黒色土	ロームブロックを多量に含む。粘性・しまりなし。
8	黒色土	ローム粒を含む。粘性・しまりなし。

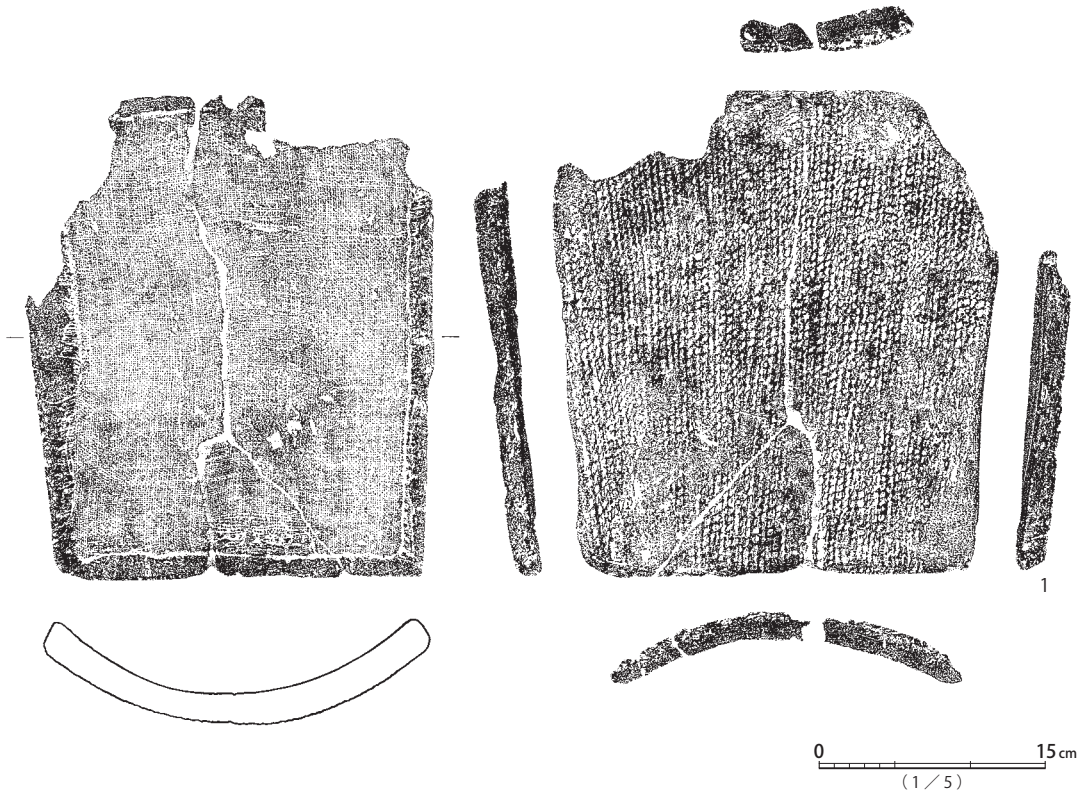


Fig.147　竪穴0071号 遺構遺物

確認面からの深さは0.08m程度を測るものと思われる。主軸方位はN−1°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、凸面には粗い原体の縄叩き目が深く残る。カマド前面から検出され、床面上からの出土である。

竪穴0081号　(Fig.149)〔僧I第267〜269図〕

北辺部QN−93を中心に位置する。竪穴0078・0079・0086号と重複し、本遺構の方が0078・0079号よりも古いと思われるが、0086号との関係は明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は4.40×3.80m、遺構下場面積は12.20㎡、確認面からの深さは0.32mを測る。主軸方位はN−2°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年VI−2期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

カマド付近から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴0086号　(Fig.149・150)〔僧I第267〜269図〕

北辺部PN−04を中心に位置する。竪穴0081号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈すると考えられるが、北辺壁が検出されないため、明確でない。確認面からの深さは0.32mを測り、規模は2.84×2.64m、遺構下端面積は5.60㎡程度になるものと思われる。南辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−99°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。帰属時期は明確でない。

カマド左袖から、構築材と考えられる丸瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。なお、既刊報告書において083号所在不明遺構からの出土としていた仏教関連遺物(僧I第478図083−4)は、本遺構カマドからの出土であることが明らかになった。

竪穴0088号　(Fig.151)〔僧I第270・271図〕

北辺部QM−80を中心に位置する。竪穴0087号(下層)と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態はやや横長の方形を呈し、規模は2.66×3.24m、遺構下場面積は5.80㎡、確認面からの深さは0.23mを測る。東辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−177°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。僧寺編年VI−2期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

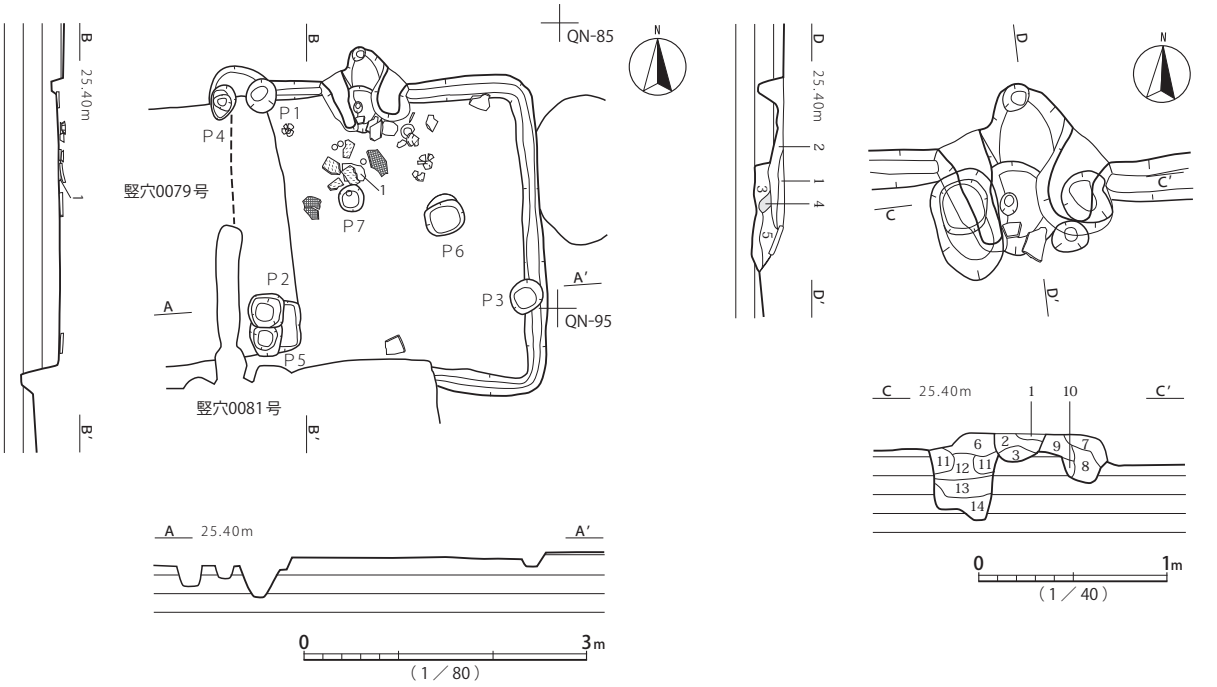
カマド覆土中から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴0092号　(Fig.152)〔僧I第272図〕

北辺部RN−82を中心に位置する。区画溝2232号と重複し、北辺壁の一部は撹乱により壊される。新旧関係は、本遺構の方が2232号よりも新しい。

東辺・北辺壁の一部は検出されないが、平面形態は方形を呈し、規模は3.58×3.70m、遺構下場面積は10.20㎡、確認面からの深さは0.22m程度を測るものと思われる。主軸方位はN−4°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年VII期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

竪穴 0078号



1	黒褐色土	粘性・しまりなし。
2	茶褐色土	焼土・ローム粒を含む。粘性あり、しまりなし。
3	黒色土	ローム粒を含む。しまりあり。火床部下の貼土。
4	焼土	炭化粒を含む。
5	黒色土	粘土・ローム粒を含む。しまりあり。
6	黒褐色土	ロームブロック・焼土粒・粘土粒を含む。粘性・しまりなし。
7	黒色土	ローム粒を含み、やや褐色味強い。
8	黒褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。粘性・しまりなし。
9	黒褐色土	3mm大の焼土粒を含む。
10	褐色土	ロームを主体とする。しまりなし。
11	ロームブロック	
12	黒色土	ロームブロックを含む。粘性・しまりなし。
13	黒色土	ロームブロックを多く含む。しまりなし。
14	黒色土	ロームブロックを多く含む。しまりあり。



ph.1　出土状況

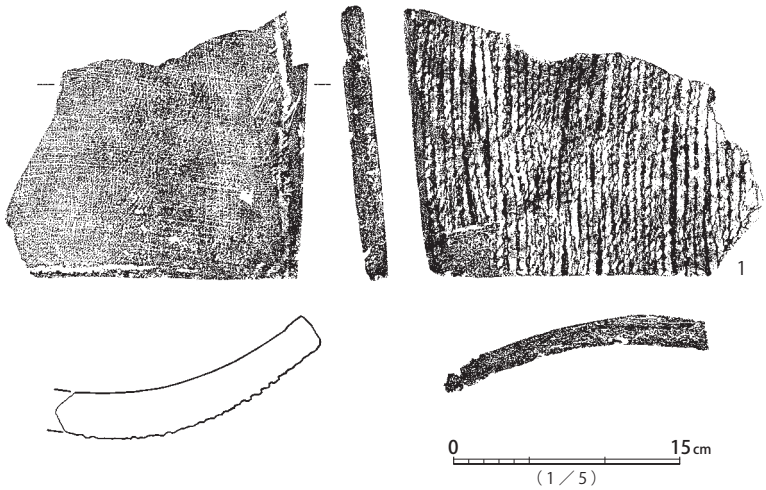
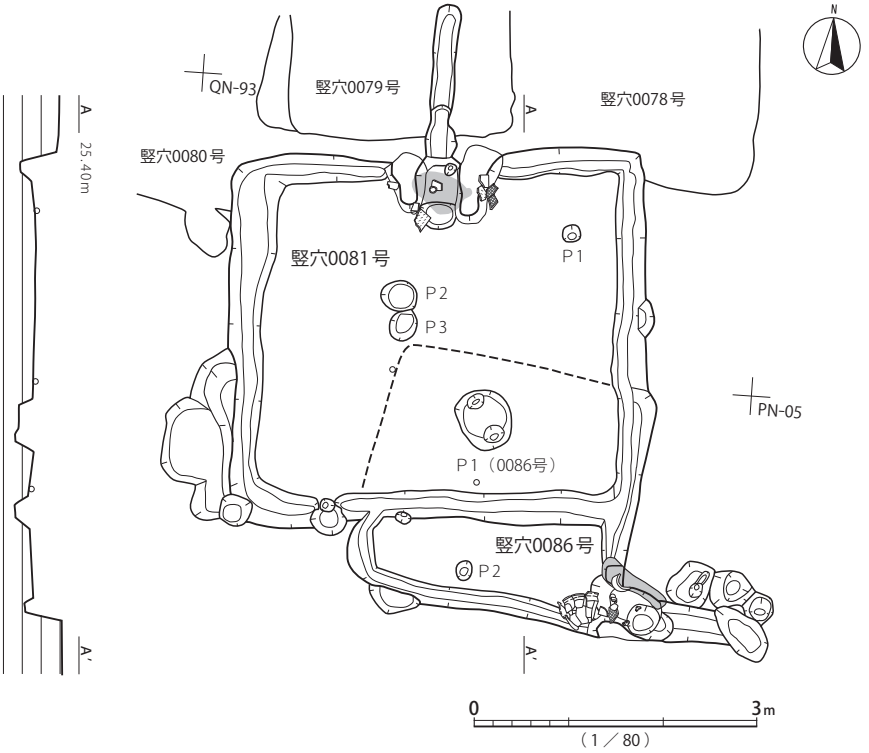
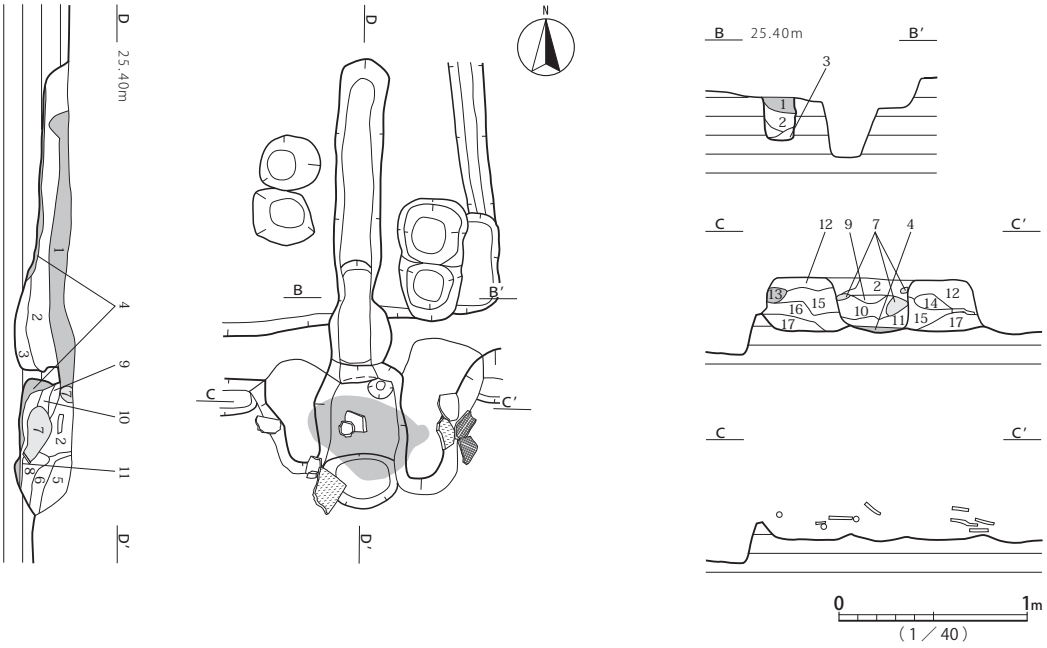


Fig.148　竪穴0078号 遺構遺物・調査状況

竪穴 0081・0086 号

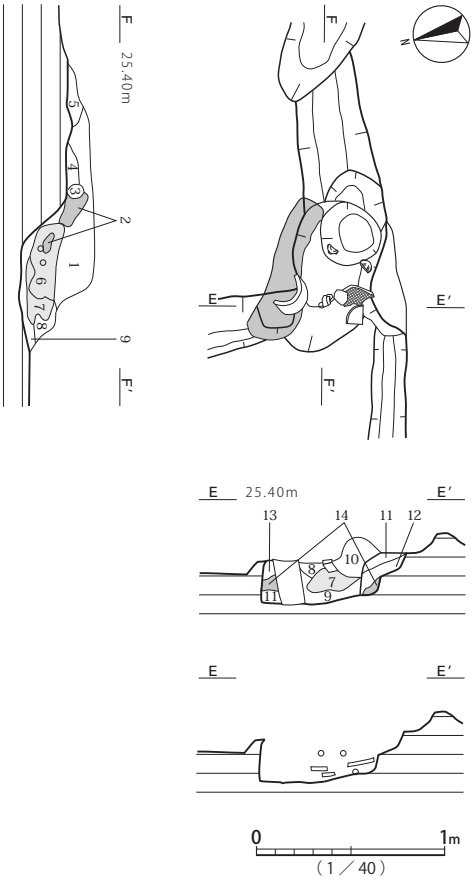




1	粘土	焼土粒・炭化粒を含む。硬くしまる。	10	黒褐色土	焼土粒・粘土粒・炭を多く含む。粘性・しまりあり。
2	黒色土	焼土粒・炭化粒・灰を含む。粘性・しまりなし。	11	黒色土	ロームブロックを含む。しまりあり。
3	ローム	黒色土を含む。粘性・しまりなし。	12	黒褐色土	粗いロームブロックを含む。粘性・しまりなし。
4	粘土	灰を含む。	13	粘土ブロック	焼土・炭化粒を含む。硬くしまる。
5	黒褐色土	炭化粒・粘土粒・灰をわずかに含む。粘性・しまりなし。	14	黒色土	ロームブロックを含む。
6	黒褐色土	焼土粒・粘土粒・灰を多く含む。粘性・しまりなし。	15	暗褐色土	焼土粒・粘土粒を含む。粘性・しまりに富む。
7	焼土		16	暗褐色土	ローム粒を含む。粘性・しまりなし。
8	褐色土	焼土粒・灰・炭・粘土・ローム粒を多く含む。しまりあり。	17	黒色土	炭化粒を多く含み、焼土粒もわずかに混じる。
9	黒色土	炭化粒を多く含む。粘性・しまりなし。			

Fig.149　竪穴0081号 遺構、竪穴0086号(1) 遺構

竪穴 0086 号



1	黒色土	ローム粒を含む。粘性・しまりなし。
2	粘土	炭化粒を含む。粘性・しまりあり。
3	ロームブロック	
4	黒褐色土	粘土粒を多く含み、炭化粒もわずかに混じる。
5	ローム	焼土粒・炭化粒・粘土粒を含む。粘性・しまりに富む。
6	焼土	ロームを多量に含み、炭化粒・粘土粒も多く混じる。粘性・しまりなし。
7	焼土	灰・炭化粒をわずかに含む。火床。硬くしまる。
8	黒褐色土	炭化粒をわずかに含む。粘性・しまりなし。
9	暗褐色土	焼土粒をやや多く含み、炭化粒・灰も混じる。粘性・しまりあり。
10	黒褐色土	赤色粒・粘土粒を含む。
11	黒褐色土	焼土粒・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
12	褐色土	部分的にやや被熱する。
13	褐色土	ローム粒・粘土粒を含む。粘性・しまりなし。
14	粘土	炭化粒を含む。粘性・しまりに富む。



ph.1　カマド

Fig.150　竪穴0086号(2) 遺構・調査状況

実測可能遺物は1の丸瓦のみである。カマド左袖からの検出であるが、構築材として利用されたものかは明確でない。

竪穴 0098 号　（Fig.153）〔僧 I 第 273～275 図〕

北辺部RN−33を中心に位置する。竪穴0097・0100・0101号、土坑0164号と重複し、本遺構の方が0097・0101号よりも新しいと考えられるが、0100・0164号との関係は明確でない。

壁の一部は検出されないが、平面形態は方形を呈し、規模は3.72×3.56m、遺構下場面積は11.40㎡程度、確認面からの深さは0.22mを測る。北辺壁を基準とした場合、これと直行する軸の方位はN−3°−Wである。カマドは検出されていない。僧寺編年VIII期の所産と思われる。

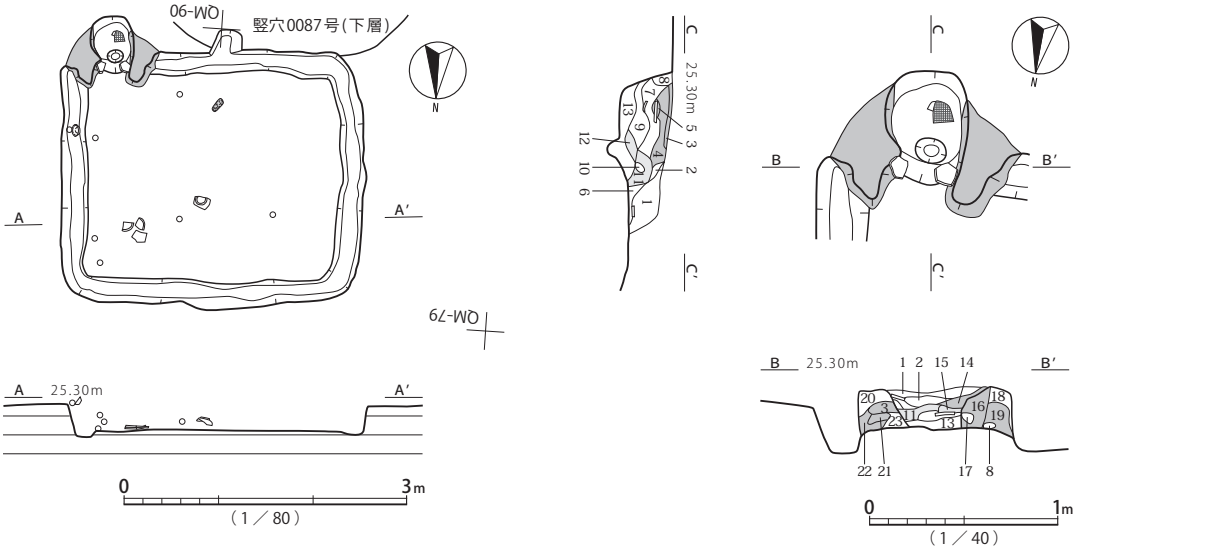
南東隅の床面上から平瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0101 号　（Fig.153）〔僧 I 第 273～275 図〕

北辺部RN−34を中心に位置する。竪穴0098号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.38×3.58m、遺構下場面積は8.80㎡、確認面からの深さは0.27mを測る。主軸方位はN−1°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−1期の所産と考えられる。

竪穴 0088 号



1	黒色土	ローム粒・焼土粒をまばらに含む。
2	黒色土	粘土粒を多く含み、焼土粒もわずかに混じる。粘性・しまりあり。
3	粘土	
4	粘土	黒色土・焼土・炭化粒を含む。硬くしまる。
5	粘土ブロック	
6	黒色土	ローム粒・粘土粒・焼土粒を含む。粘性なし、しまりあり。
7	黒色土	粘土粒・炭化粒わずかに含む。粘性・しまりなし。
8	ロームブロック	
9	黒色土	焼土粒・炭化粒を多く含む。粘性・しまりなし。
10	ロームブロック	被熱する。
11	焼土	黒色土をわずかに含み、粘土粒も混じる。粘性・しまりなし。
12	焼土	灰を含み、粒子細かい。粘性あり。
13	黒色土	ローム粒を多く含む。粘性・しまりなし。
14	粘土	焼土粒を含む。粘性・しまりあり。
15	焼土	がりがりしたブロック状を呈す。
16	砂質粘土	黄褐色を呈す。しまりなし。
17	黒色土	焼土粒をわずかに含む。粘性・しまりに富む。
18	黒色土	ローム粒・ロームブロックを含む。粘性・しまりなし。
19	粘土	黒色土を含む。しまりなし。
20	黒色土	ローム粒・焼土粒を含む。粘性・しまりなし。
21	粘土	焼土・ローム粒を含み、被熱する。しまりなし。
22	粘土	黒色土・焼土粒を含む。しまりに富む。
23	黒褐色土	被熱赤色化する。しまりなし。

Fig.151　竪穴0088号 遺構

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0107 号　（Fig.154・155、PL.37・38）〔僧Ⅰ第 278・279 図〕

北辺部SN−53を中心に位置する。竪穴0108号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態はやや隅丸の方形を呈する。南辺壁と南東隅の形状が明確でないが、確認面からの深さは0.20mを測り、規模は2.80×3.12m、遺構下端面積は6.70㎡程度になるものと思われる。北辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−91°−Eである。カマドは東辺壁中央やや南寄りから検出されているが、袖などの構築物は残存せず、意図的に壊された可能性がある。僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

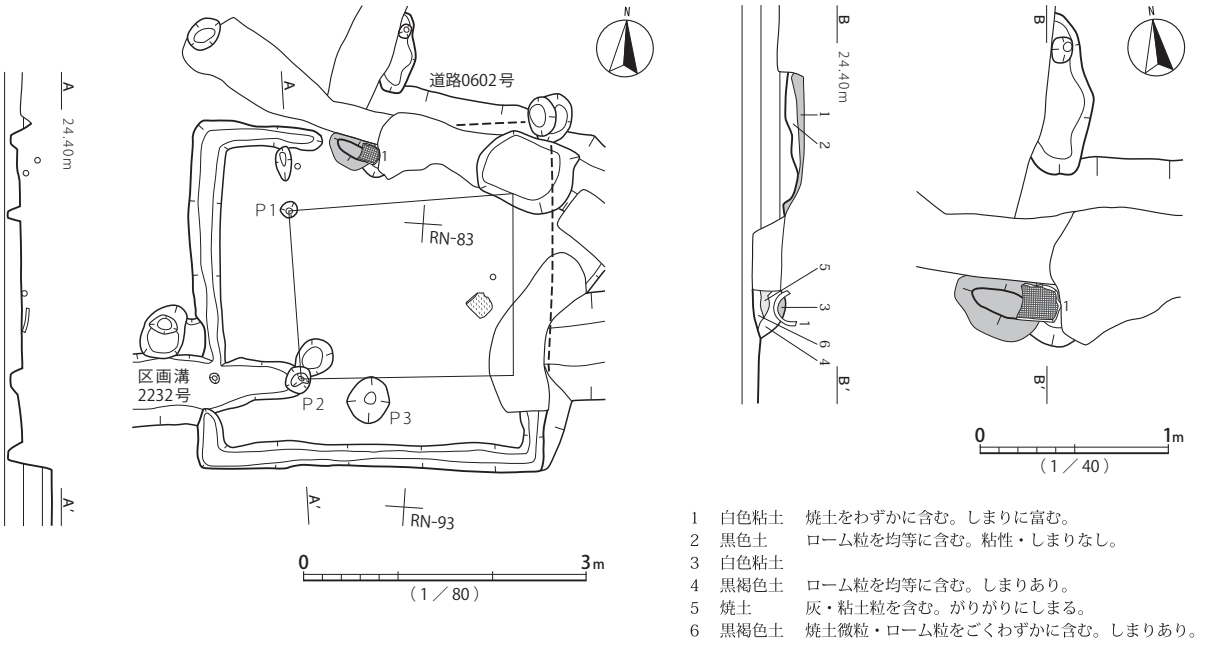
壁際を中心に多量の土器と瓦が出土している。実測可能遺物は、1は行基葺式の丸瓦、2〜5は平瓦である。1・3はカマド部からの出土で、これ以外も床面上からの出土である。

竪穴 0110 号　（Fig.156）〔僧Ⅰ第 276 図〕

北辺部RM−20を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態はやや縦長の方形を呈し、規模は3.04×2.40m、遺構下端面積は6.30㎡、確認面からの深さは0.08mを測る。主軸方位はN−83°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

竪穴 0092 号



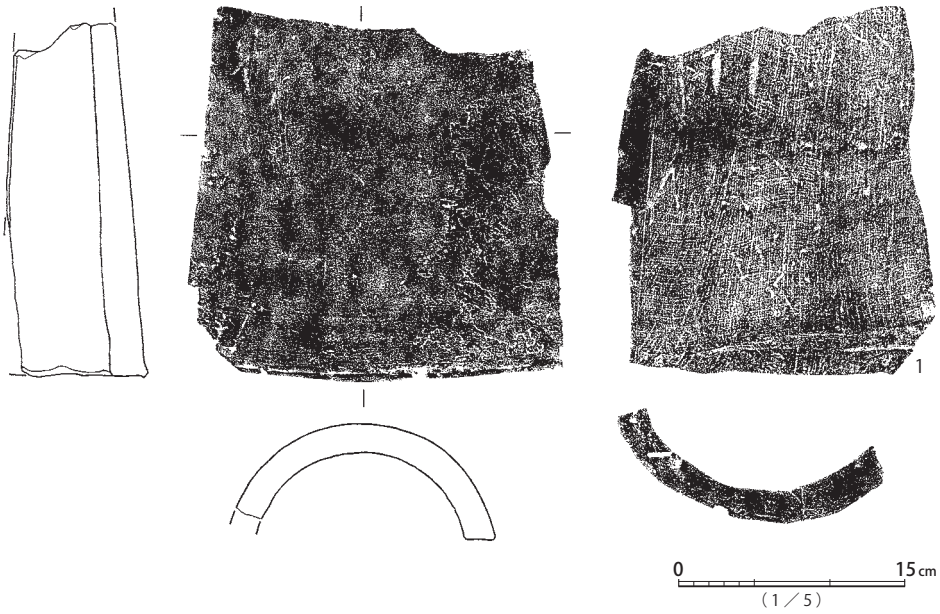


Fig.152　竪穴0092号 遺構遺物

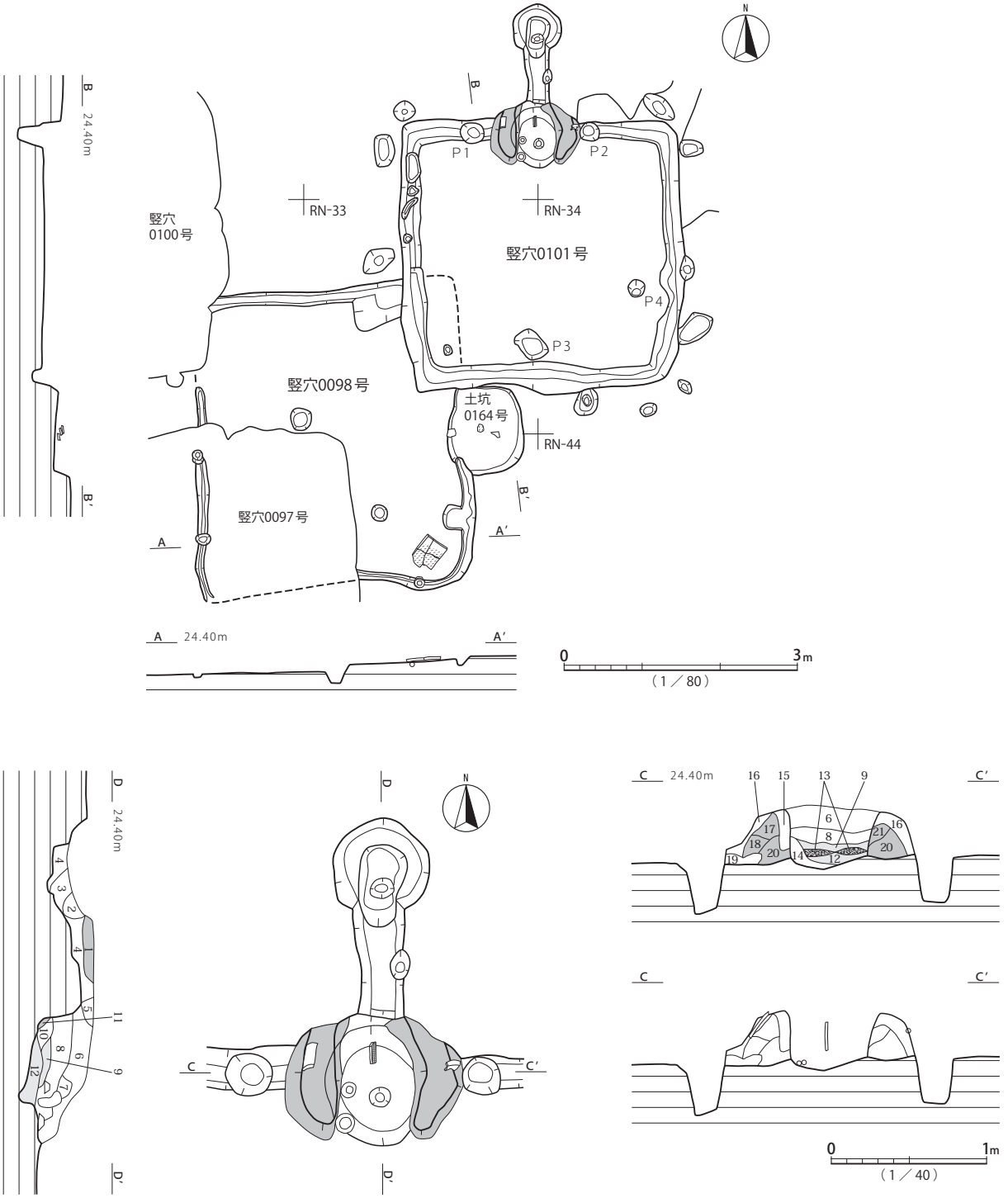
カマド左袖先端と遺構中央に広がる焼土範囲内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0112 号　（Fig.157～159、PL.37・38）〔僧 I 第 280・281 図〕

北辺部QM−50を中心に位置する。区画溝2222号と重複し、本遺構の方が古い。

aを拡張してbに建て替えたものと考えられるが、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。東辺壁は検出されないが、平面形態はやや横長の方形を呈するものと考えられる。規模はaの主軸長

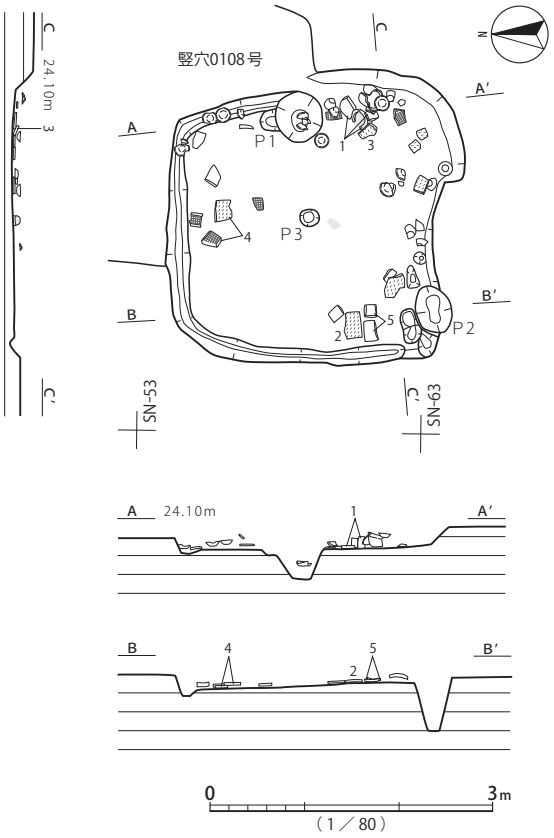
竪穴 0098・0101 号

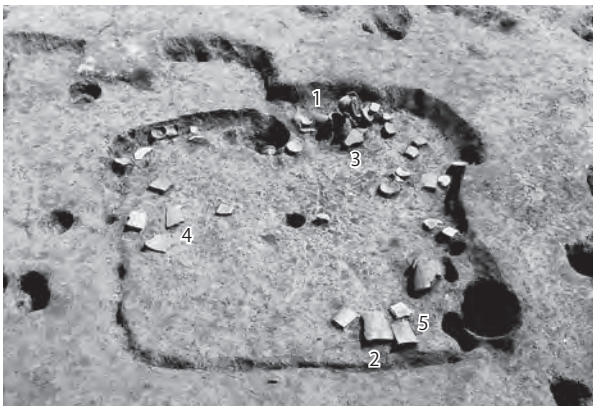


1	粘土	ローム粒・炭化粒を含む。粘性・しまりに富む。
2	黒色土	焼土粒・粘土粒・炭化粒を含む。粘性・しまりに富む。
3	黒色土	粘土粒・炭化粒をわずかに含む。粘性・しまりなし。
4	黒褐色土	ローム粒・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
5	褐色土	2cm大の粘土ブロックとローム粒を含む。
6	黒褐色土	焼土粒・ローム粒を含む。粘性・しまりなし。
7	黒褐色土	粘土粒・ローム粒を多く含む。硬くしまる。
8	黒褐色土	粘土粒を多く含み、焼土粒・炭化粒も混じる。粘性・しまりに富む。
9	焼土	黒褐色土を多量に含み、部分的に灰・炭化粒が混じる。しまりなし。
10	黒色土	5mm大の粘土粒、炭化粒を多く含む。粘性・しまりなし。
11	粘土	粘性・しまりあり。
12	焼土	粘性・しまりなし。
13	灰	乳白色を呈す。粘性・しまりに富む。
14	黒色土	被熱ロームブロックを多く含む。粘性・しまりなし。
15	黒色土	燃焼部側に被熱痕。しまりなし。
16	黒色土	焼土・炭化粒を含む。しまりなし。
17	粘土	ロームブロック・黒褐色土を含む。
18	粘土	ロームブロックを含む。
19	ロームブロック	
20	粘土	
21	粘土	焼土粒・黒褐色土を含む。

Fig.153　竪穴0098号 遺構、竪穴0101号 遺構

竪穴 0107 号





ph.1　出土状況 1・2・3・4・5



ph.2　出土状況 1・3

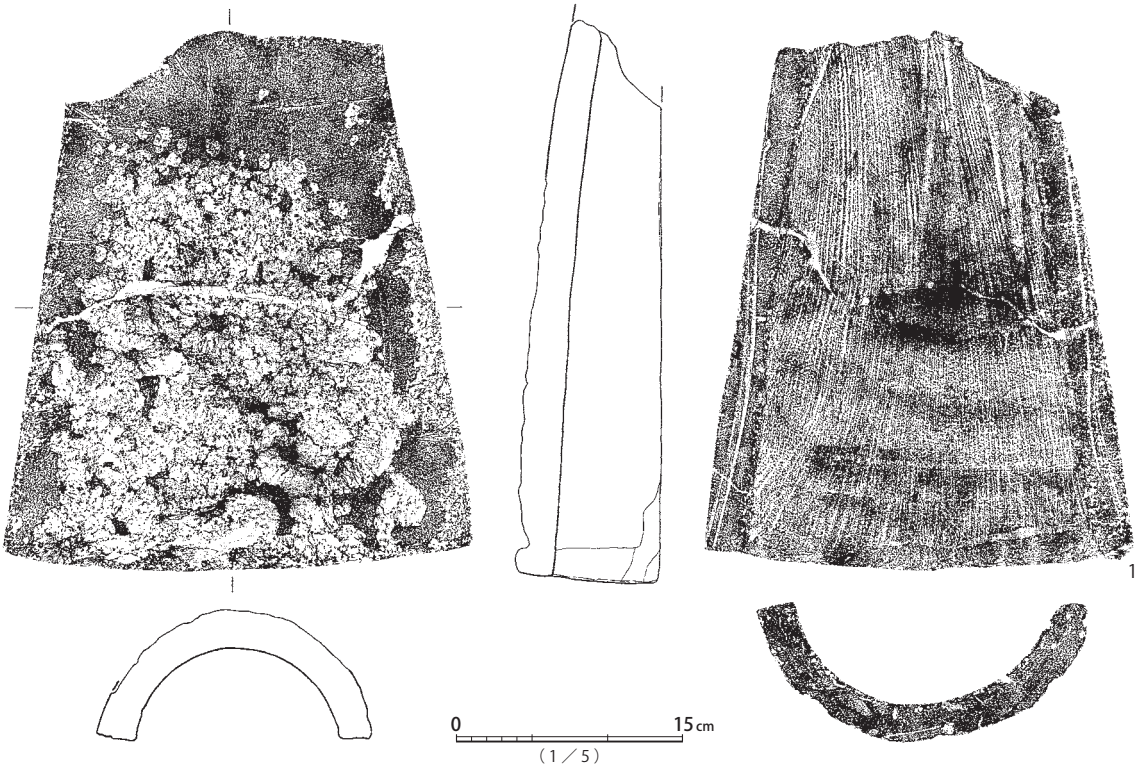


Fig.154　竪穴0107号(1) 遺構遺物・調査状況

竪穴 0107 号

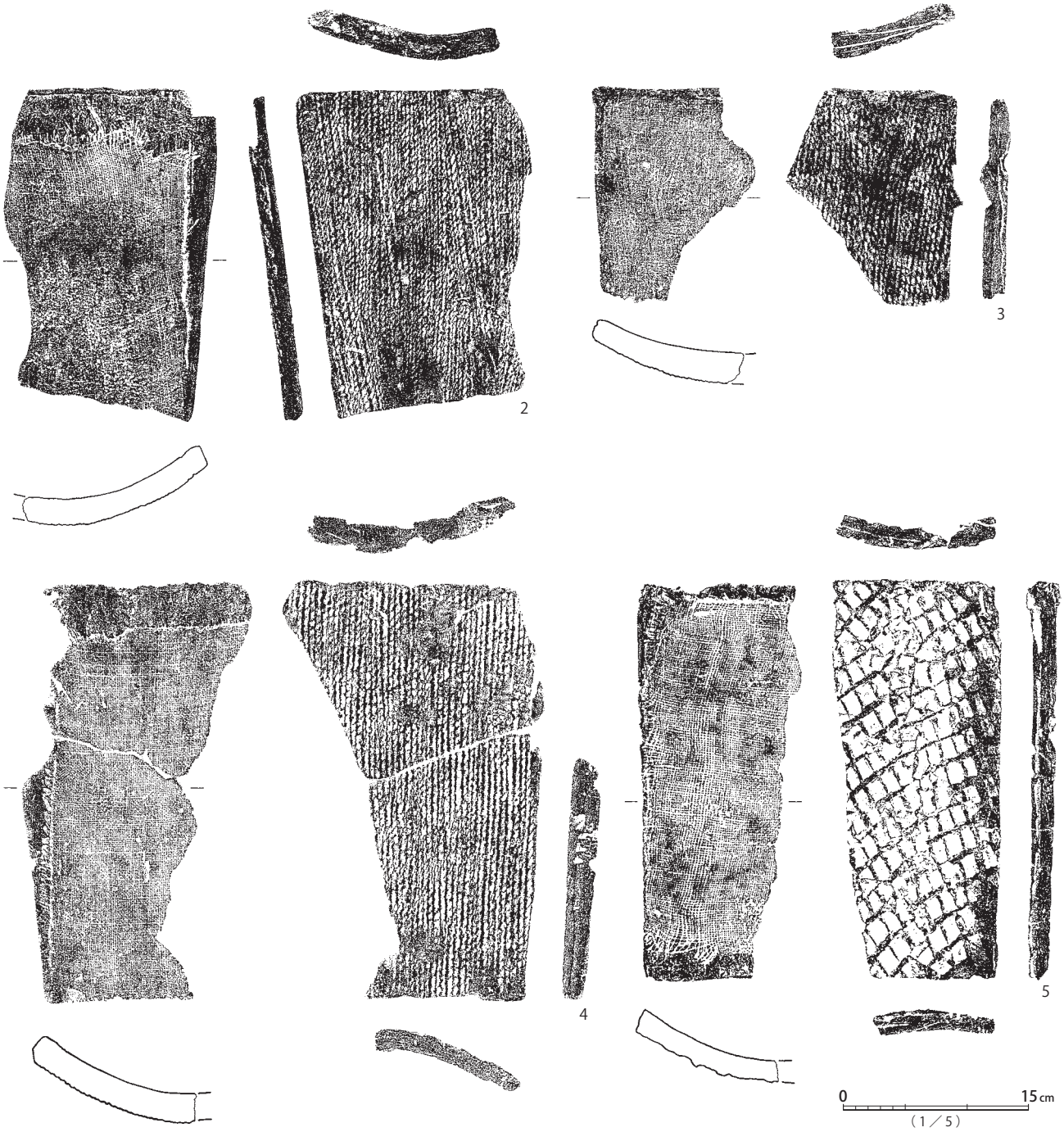
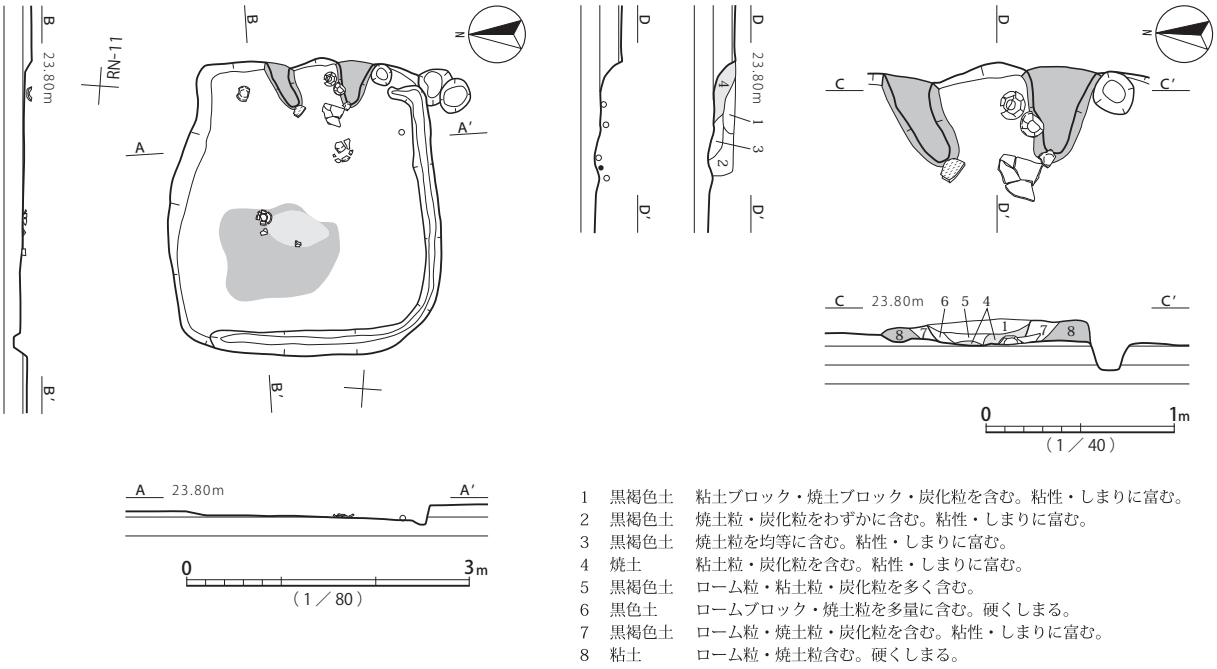


Fig.155　竪穴0107号(2) 遺物

竪穴 0110 号



1　黒褐色土　粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒を含む。粘性・しまりに富む。
2　黒褐色土　焼土粒・炭化粒をわずかに含む。粘性・しまりに富む。
3　黒褐色土　焼土粒を均等に含む。粘性・しまりに富む。
4　焼土　粘土粒・炭化粒を含む。粘性・しまりに富む。
5　黒褐色土　ローム粒・粘土粒・炭化粒を多く含む。
6　黒色土　ロームブロック・焼土粒を多量に含む。硬くしまる。
7　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。粘性・しまりに富む。
8　粘土　ローム粒・焼土粒含む。硬くしまる。

Fig.156　竪穴0110号 遺構

が3.52m、bの主軸長が4.08m、確認面からの深さはいずれも0.46mを測る。主軸方位はN−1°−Wである。カマドは北辺壁から検出され、中央からやや西寄りに位置するものと思われる。僧寺編年III期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1・2はI型式の蓮華文軒丸瓦、3〜5はI型式の均整唐草文軒平瓦、6は平瓦である。1・2は丸瓦の取り付け部がいずれも直角となるが、接合粘土充填部の技法に違いが認められる。5は平瓦部に対して瓦当面が下がり、顎部が大きく発達する。1・2はP1上面からの出土で、3・6はカマド内から検出され、いずれも覆土中からの出土である。

竪穴 0125 号　（Fig.160）〔僧 I 第 286 図〕

北辺部SM−97を中心に位置する。国分寺建設用道路と考えられ、8世紀中葉を中心に機能したと思われる道路0614号と重複する。新旧関係は、本遺構の方が0614号よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は2.12×2.10m、遺構下場面積は4.00㎡、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−89°−Wである。カマドは西辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−1期の所産と考えられる。

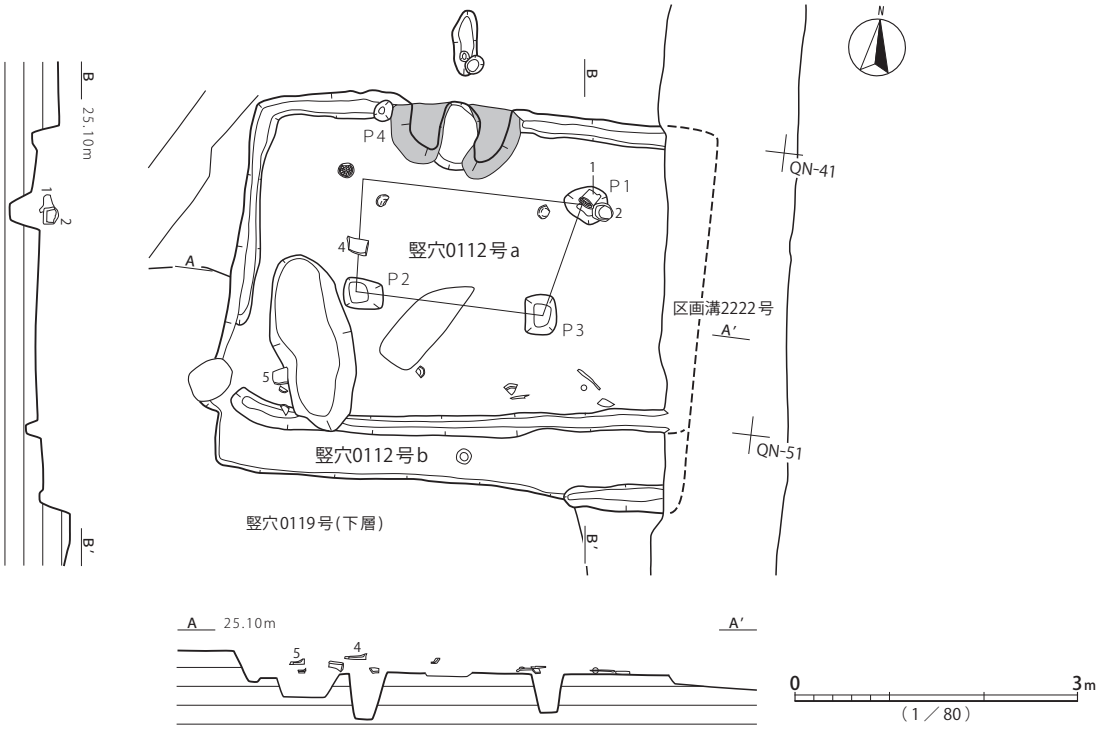
実測可能遺物は1の玉縁式の丸瓦のみで、カマド内からの出土である。なお、本遺構からは、夷隅郡に所在する郷名の「蘆道」と墨書で記された土師器杯が出土している。

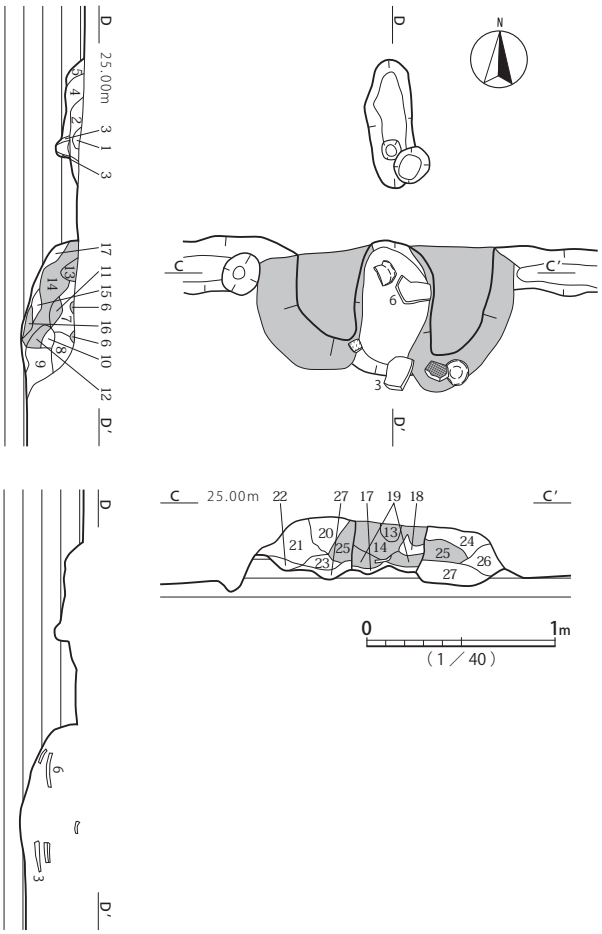
竪穴 0127 号　（Fig.161）〔僧 I 第 287・288 図〕

北辺部SL−67を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は隅丸の不整方形を呈するが、掘込みが浅く、明確でない。規模は1.96×2.58m、遺構下

竪穴 0112号





1	ロームブロック	
2	黒褐色土	粘土ブロックを含む。粘性・しまりに富む。
3	ローム	粘性・しまりなし。
4	黒色土	ローム粒・粘土粒を含む。粘性・しまりあり。
5	暗褐色土	黒色粒をまばらに含む。粘性・しまりなし。
6	粘土ブロック	
7	黒色土	赤色粒・粘土粒をごくわずかに含む。粘性・しまりに富む。
8	黒色土	粘土粒を多く含み、焼土細粒も混じる。しまりに富む。
9	黒色土	焼土粒を多く含み、粘土細粒も混じる。しまりに富む。
10	黒色土	粘土・焼土細粒をわずかに含む。ややしまりなし。
11	粘土	黒色土・焼土粒を含む。しまりあり。
12	粘土	被熱し、炭化粒を含む。しまりに富む。
13	粘土	やや赤味がかる。しまりあり。
14	粘土	黄灰褐色を呈し、黒色土が混じる。粘性・しまりに富む。
15	暗褐色土	炭化粒・焼土粒・ローム粒を含む。粘性・しまりに富む。
16	粘土	粗い焼土粒を含む。しまりに富む。
17	黒色土	ローム粒を含む。しまりなし。
18	ローム	黒色土をわずかに含む。粘性・しまりなし。
19	粘土	焼土粒・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
20	黒褐色土	ローム粒を多く含む。粘性・しまりなし。
21	ローム	黒色土を多く含み、粘土粒も混じる。粘性・しまりに富む。
22	黒色土	ローム粒をごくわずかに含む。粘性・しまりなし。
23	黒褐色土	ローム粒・炭化粒を含む。しまりに富む。
24	粘土	黒色土をやや多く含む。粘性・しまりに富む。
25	粘土	
26	黒色土	焼土・粘土粒・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
27	ローム	黒褐色土を多く含み、粘土粒・焼土粒もわずかに混じる。粘性・しまりなし。

Fig.157　竪穴0112号(1) 遺構

竪穴 0112号

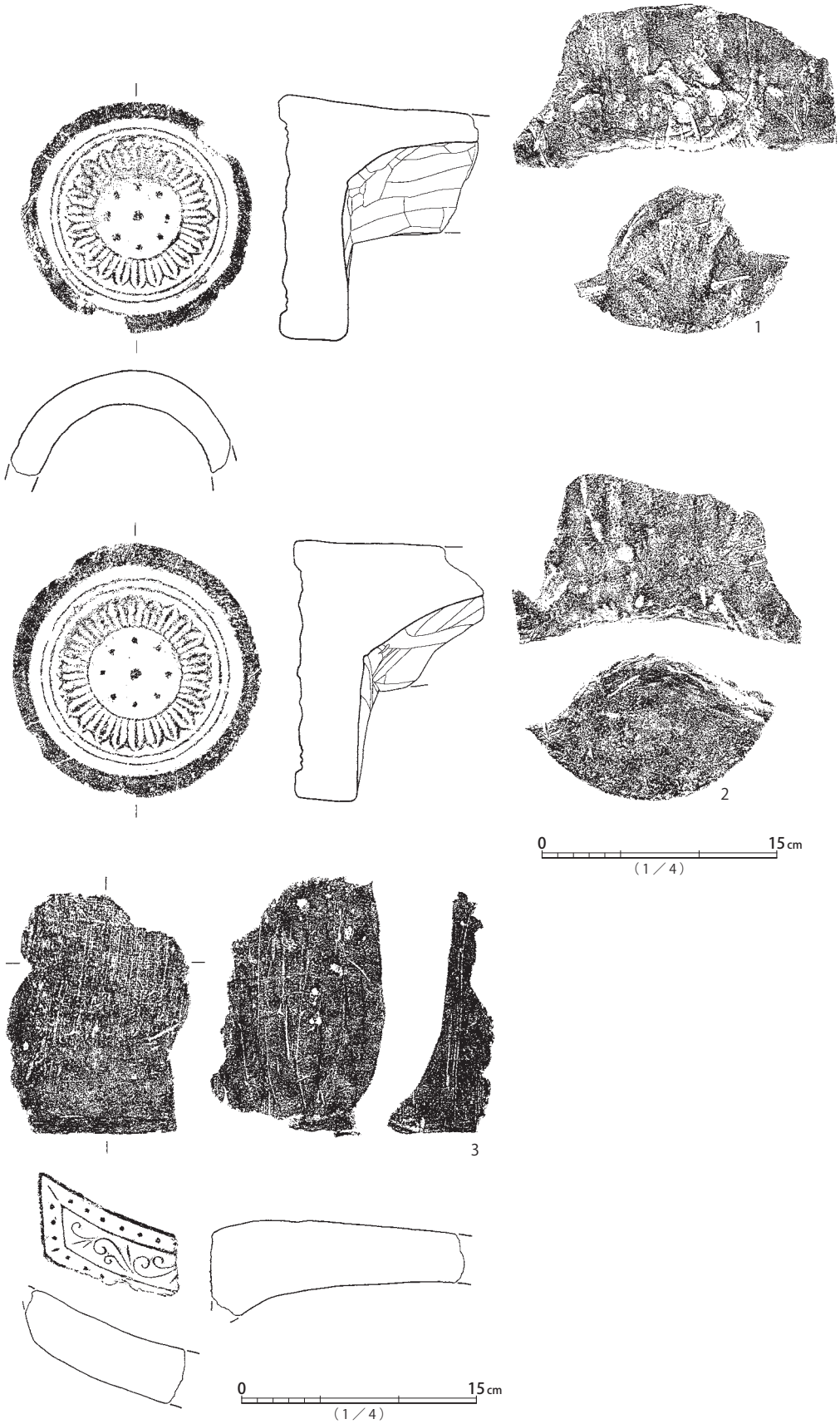


Fig.158　竪穴0112号(2) 遺物

竪穴 0112号

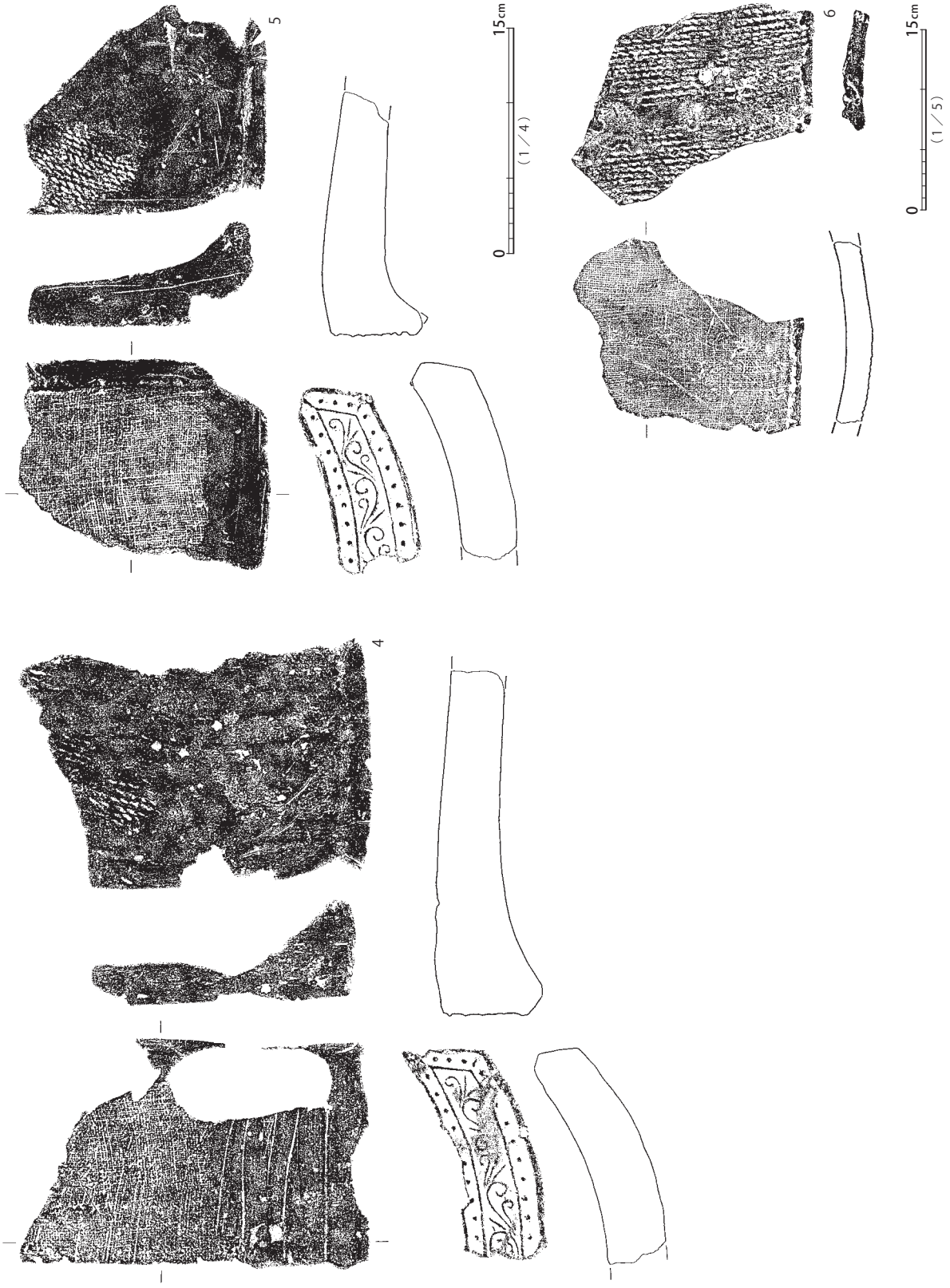


Fig.159　竪穴0112号(3) 遺物

竪穴 0125 号

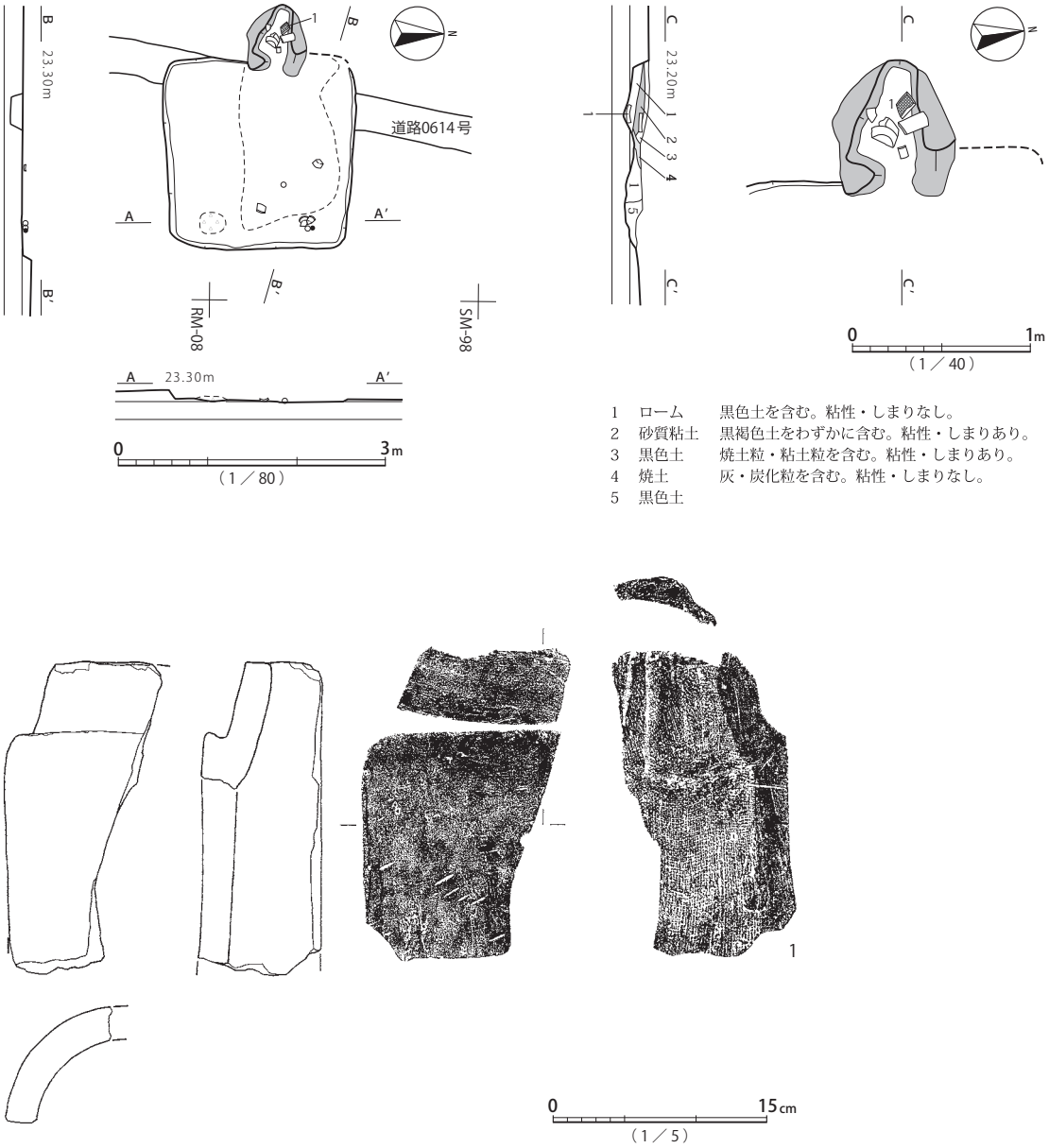


Fig.160　竪穴0125号 遺構遺物

場面積は 4.40 ㎡、確認面からの深さは 0.03m を測る。主軸方位は N−20°−E である。カマドは北辺壁中央やや東寄りから検出されている。僧寺編年 VI 期の所産と考えられる。

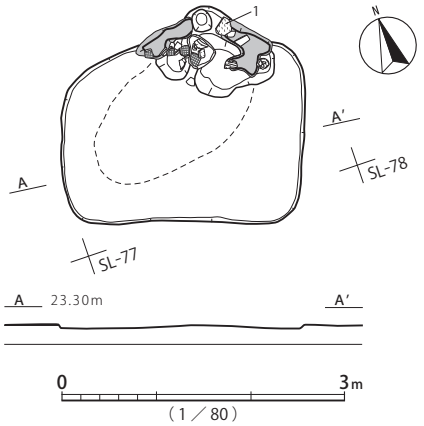
カマド内から土器や瓦が多く出土するが、瓦はいずれも小破片で、実測可能遺物は 1 の平瓦のみである。

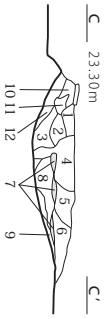
竪穴 0140 号　（Fig.162）〔僧 I 第 290・291 図〕

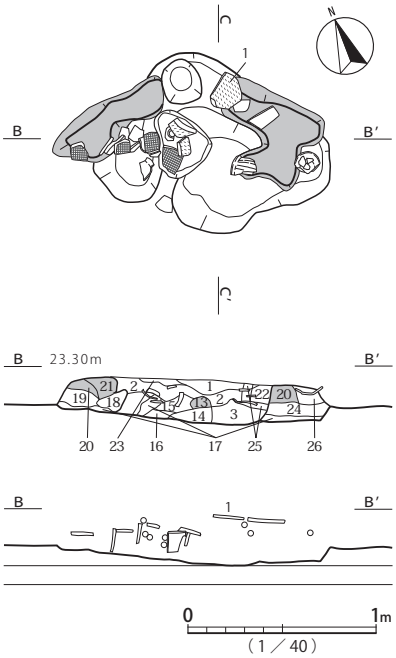
北辺部 TL−74 を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態はやや横長の方形を呈し、規模は 2.56×3.14m、遺構下場面積は 5.8 ㎡、確認面からの深さは 0.08m を測る。北辺壁を基準とした場合、主軸方位は N−90°−E である。カマドは南東隅から

竪穴 0127号







1	黒褐色土	焼土微粒・粘土微粒を含む。粘性・しまりなし。
2	黒色土	粘土粒を多く含み、焼土粒・炭化粒も混じる。粘性・しまりあり。
3	黒褐色土	ロームブロックを多量に含み、粘土ブロックも混じる。粘性・しまりあり。
4	黒色土	焼土粒・ローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。
5	暗褐色土	焼土粒・ローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。
6	黒色土	焼土粒をわずかに含む。粘性・しまりなし。
7	焼土	灰を含む。粘性・しまりなし。
8	黒色土	粘土粒を含み、焼土粒もわずかに混じる。粘性・しまりなし。
9	暗褐色土	ロームを多く含む。粘性・しまりなし。
10	黒色土	焼土粒を含む。粘性なし、しまりあり。
11	黒色土	焼土ブロック・粘土ブロック・焼土粒・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
12	黒褐色土	ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
13	粘土	黒褐色土を含む。粘性・しまりあり。
14	黒色土	粘土粒・ローム粒を含む。しまりあり。
15	黒色土	焼土粒を多く含み、一部黒褐色土が混じる。粘性・しまりなし。
16	黒色土	ローム粒を含む。粘性・しまりなし。
17	ローム	黒色土を含む。粘性・しまりなし。
18	黒色土	焼土粒・ローム粒を含む。粘性・しまりなし。
19	黒色土	ローム粒をわずかに含む。しまりなし。
20	粘土	黒色土・焼土粒を含む。粘性・しまりあり。
21	粘土	ロームを含む。しまりあり。
22	黒褐色土	粗い炭化粒、焼土粒・粘土粒を含む。しまりに富む。
23	黒色土	粗い焼土粒、炭化粒・粘土粒を含む。粘性・しまりなし。
24	黒色土	ローム粒を含む。しまりなし。
25	ロームブロック	
26	黒色土	粘土粒を含む。しまりなし。



ph.1　カマド 1

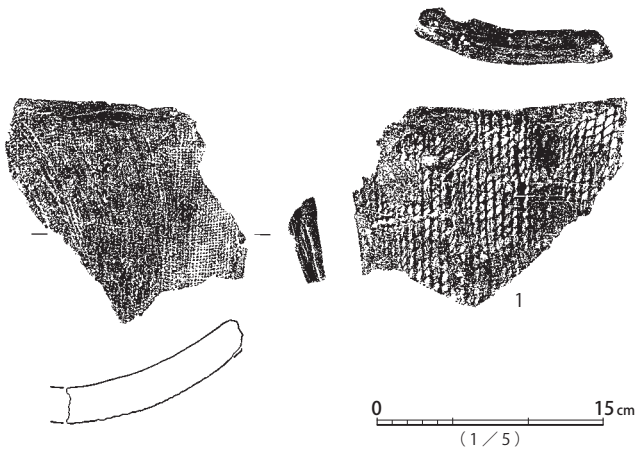
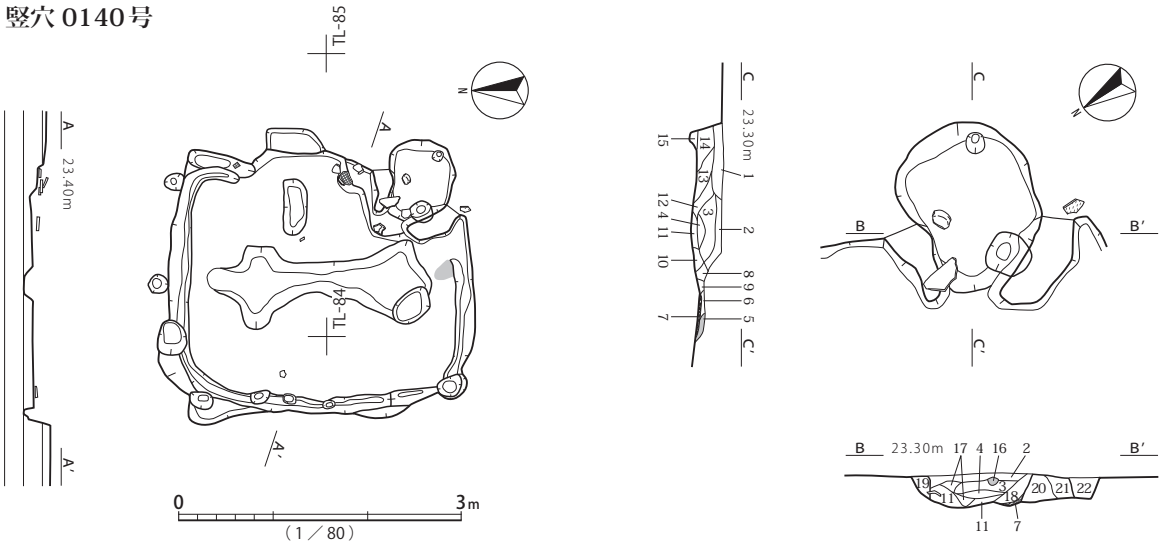


Fig.161　竪穴0127号 遺構遺物・調査状況

竪穴 0140 号



1　暗褐色土　炭化粒・粘土ブロック(径2～3cm)を含む。しまりに富む。
2　黒褐色土　ローム粒・粘土粒・焼土粒を含む。粘性・しまりに富む。
3　黒色土　粘土粒・焼土粒を含み、ローム粒もわずかに混じる。粘性・しまりに富む。
4　黒褐色土　被熱した粘土粒・炭化粒を多く含む。粘性・しまりなし。
5　粘土
6　ローム　焼土粒を含む。
7　炭化物　粘性・しまりに富む。
8　赤褐色土　黒色土・焼土粒を多く含み、やや被熱する。粘性・しまりあり。
9　黒褐色土　焼土粒を含む。粘性あり。
10　黒色土　ローム粒・粘土粒・炭化粒を含む。しまりなし。
11　ローム
12　暗褐色土　灰・粘土粒・焼土粒を含む。しまりなし。
13　暗褐色土　粗い焼成粘土粒を含み、炭化粒もわずかに混じる。粘性なし、しまりあり。
14　暗褐色土　赤色微粒・灰・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
15　ローム　黒色土・焼土粒を含む。粘性・しまりなし。
16　粘土ブロック
17　ローム　黒色土を含む。
18　黒色土　灰を多く含む。粘性・しまりに富む。
19　黒色土　焼土粒を多く含む。粘性・しまりに富む。
20　黒褐色土　ローム粒を均等に含む。粘性・しまりに富む。
21　黒褐色土　粘土粒を含む。粘性・しまりに富む。
22　黒色土　粘性・しまりなし。

Fig.162　竪穴0140号 遺構

検出されている。僧寺編年Ⅷ期の所産と考えられる。

カマド付近から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0142 号　（Fig.163、PL.38）〔僧Ⅰ第 292・293 図〕

北辺部TL−40を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は不整方形を呈し、規模は2.44×2.12m、遺構下場面積は4.1㎡、確認面からの深さは0.24mを測る。主軸方位はN−95°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−1～2期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の隅切平瓦のみで、広端左隅部を切り欠く。カマド右袖脇からの出土である。

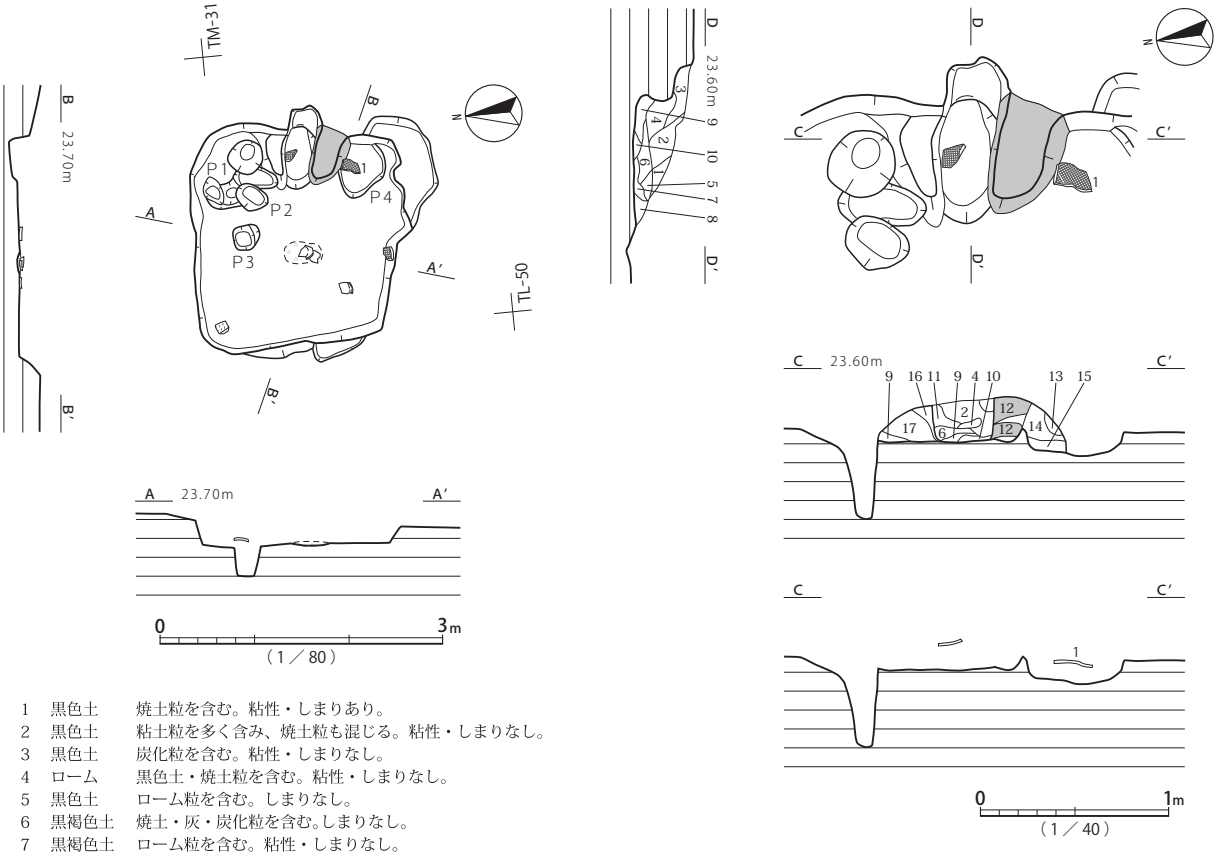
竪穴 0143 号　（Fig.164・165）〔僧Ⅰ第 292～294 図〕

北辺部TL−26を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.24×3.90m、遺構下場面積は9.8㎡、確認面からの深さは0.38mを測る。主軸方位はN−6°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅲ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1・2の平瓦で、2の凹面には横方向の布縫合わせ痕が認められる。1は2点が接合

竪穴 0142号



1 黒色土 焼土粒を含む。粘性・しまりあり。
2 黒色土 粘土粒を多く含み、焼土粒も混じる。粘性・しまりなし。
3 黒色土 炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
4 ローム 黒色土・焼土粒を含む。粘性・しまりなし。
5 黒色土 ローム粒を含む。しまりなし。
6 黒褐色土 焼土・灰・炭化粒を含む。しまりなし。
7 黒褐色土 ローム粒を含む。粘性・しまりなし。
8 黒色土 ローム粒を含む。粘性・しまりに富む。
9 ローム 黒色土を含む。粘性・しまりなし。
10 黒色土 焼土粒をわずかに含む。
11 黒色土 焼土粒・ローム粒を含む。粘性・しまりなし。
12 粘土 黒色土・ロームをごくわずかに含む。粘性・しまりに富む。
13 黒褐色土 焼土粒を均等に含む。しまりあり。
14 黒色土 粘土ブロックを含み、焼土・ローム粒もわずかに混じる。粘性・しまりに富む。
15 黒褐色土 ローム粒を含む。粘性・しまりなし。
16 黒褐色土 ローム粒を多く含む。しまりあり。
17 黒褐色土 粘土ブロックを含む。粘性・しまりに富む。

隅切瓦

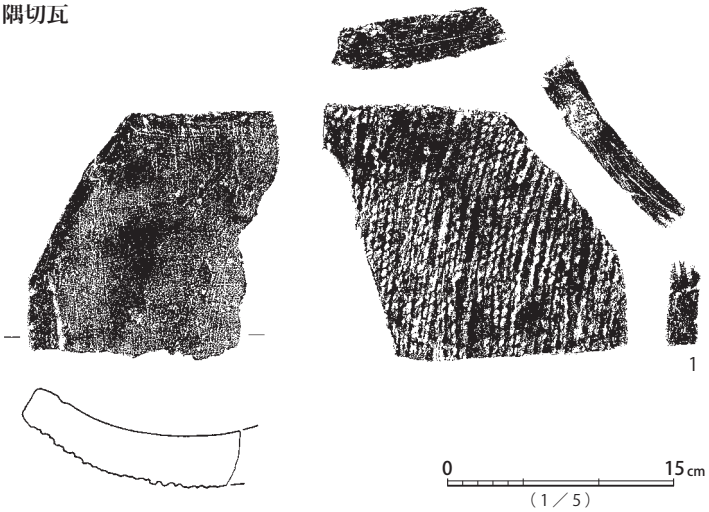
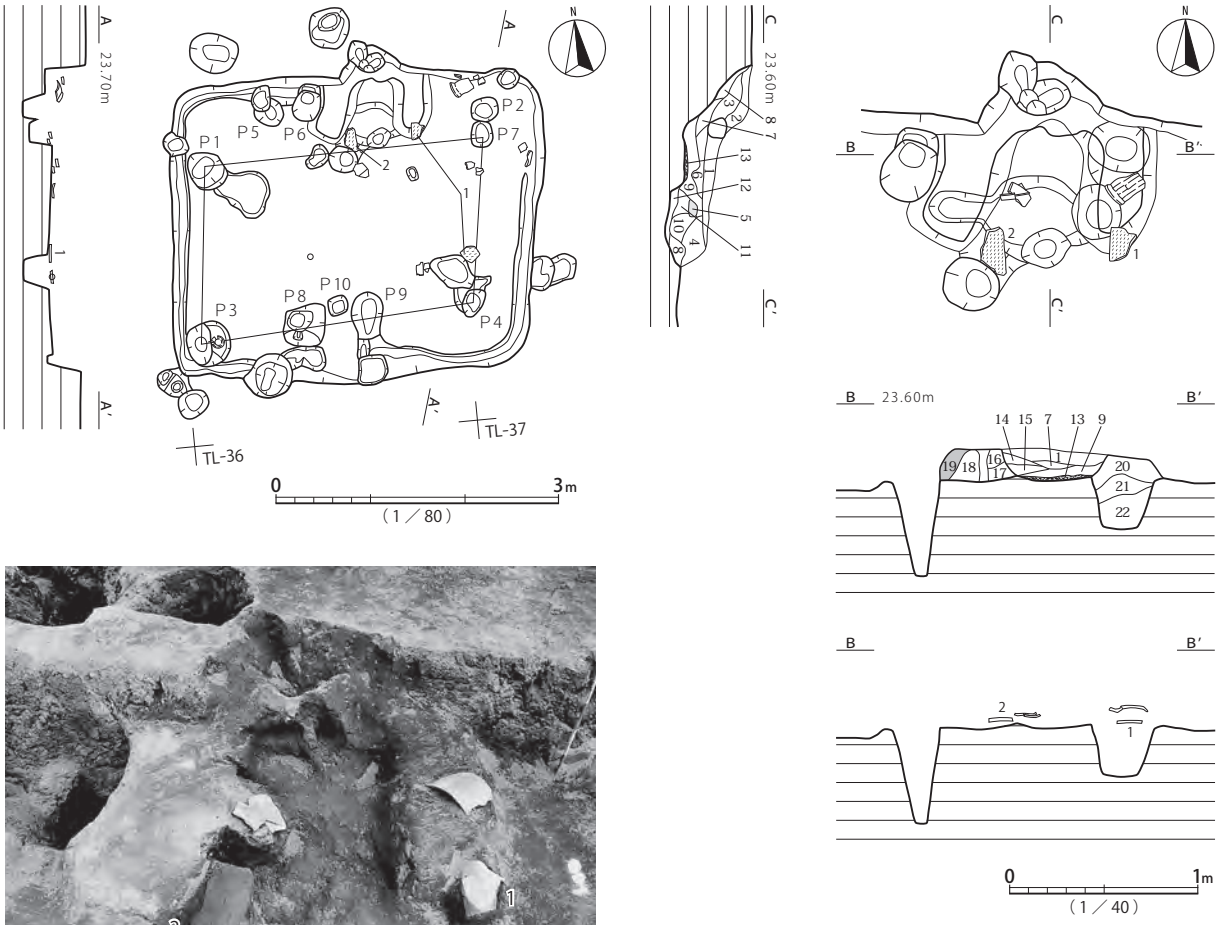


Fig.163 竪穴0142号 遺構遺物

竪穴 0143 号





ph.1　カマド 1・2

1	黒色土	粘土粒を含み、焼土粒もわずかに混じる。粘性・しまりに富む。
2	黒色土	炭化粒を含む。粘性なし、しまりあり。
3	黒色土	ロームを含み、炭化粒もわずかに混じる。粘性・しまりなし。
4	黒褐色土	焼土粒・ローム粒を含む。粘性・しまりに富む。
5	焼土ブロック	灰・炭化粒を含む。粘性・しまりなし。
6	黒褐色土	粘土粒を多く含み、粗い焼土粒も少量混じる。粘性・しまりに富む。
7	黒色土	焼土粒をやや多く含む。粘性・しまりなし。
8	ローム	黒色土を含む。粘性・しまりなし。
9	黒褐色土	焼土微粒を含む。粘性・しまりなし。
10	黒褐色土	灰・炭化粒を含む。しまりあり。
11	黒色土	粘土微粒・灰を含む。粘性・しまりなし。
12	黒褐色土	ローム粒を多く含む。粘性・しまりなし。
13	灰	粘土粒を含む。粘性なし、しまりあり。
14	黒褐色土	灰・焼土を含み、赤味を帯びる。
15	黒色土	焼土粒を含む。粘性・しまりなし。
16	黒褐色土	粘土ブロック・焼土粒を含む。しまりに富む。
17	黒褐色土	焼土粒をわずかに含む。しまりなし。
18	黒褐色土	ローム粒・炭化粒を含む。しまりなし。
19	白色粘土	粘性・しまりに富む。
20	黒色土	部分的にローム粒を含む。粘性・しまりなし。
21	黒褐色土	ローム粒を均等に含む。粘性・しまりなし。
22	黒色土	ローム粒を多く含む。粘性・しまりなし。

Fig.164　竪穴0143号(1) 遺構・調査状況

したもので、カマド右袖脇とP4脇からの出土、2はカマド内からの出土である。なお、本遺構からは「油菜所」の墨書が記された土師器杯と「官」の墨書が記された須恵器盤が出土している。

竪穴 1309 号　（Fig.166）〔僧 I 第 303・304 図〕

北辺部PN−61を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長方形を呈し、規模は4.64×3.70m、遺構下場面積は14.0㎡、確認面からの深さは0.08mを測る。主軸方位はN−97°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅴ期の所産と考えられる。

竪穴 0143 号



Fig.165　竪穴0143号(2) 遺物

カマド右袖部内壁に、構築材と考えられる平瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1310 号　（Fig.167・168）〔僧Ⅰ第 301・302 図〕

北辺部PN−35を中心に位置する。カマド部分が区画溝2400号、土坑（遺構番号なし）と重複し、本遺構の方が土坑よりも新しく、2400号よりも古い。

平面形態は長方形を呈し、規模は4.42×3.52m、遺構下場面積は11.5㎡、確認面からの深さは0.30mを測る。主軸方位はN−97°−Eである。カマドは東辺壁中央南寄りから検出されている。僧寺編年Ⅰ期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1・2の平瓦である。未接合の同一個体で、いずれもカマド覆土上層からの出土である。

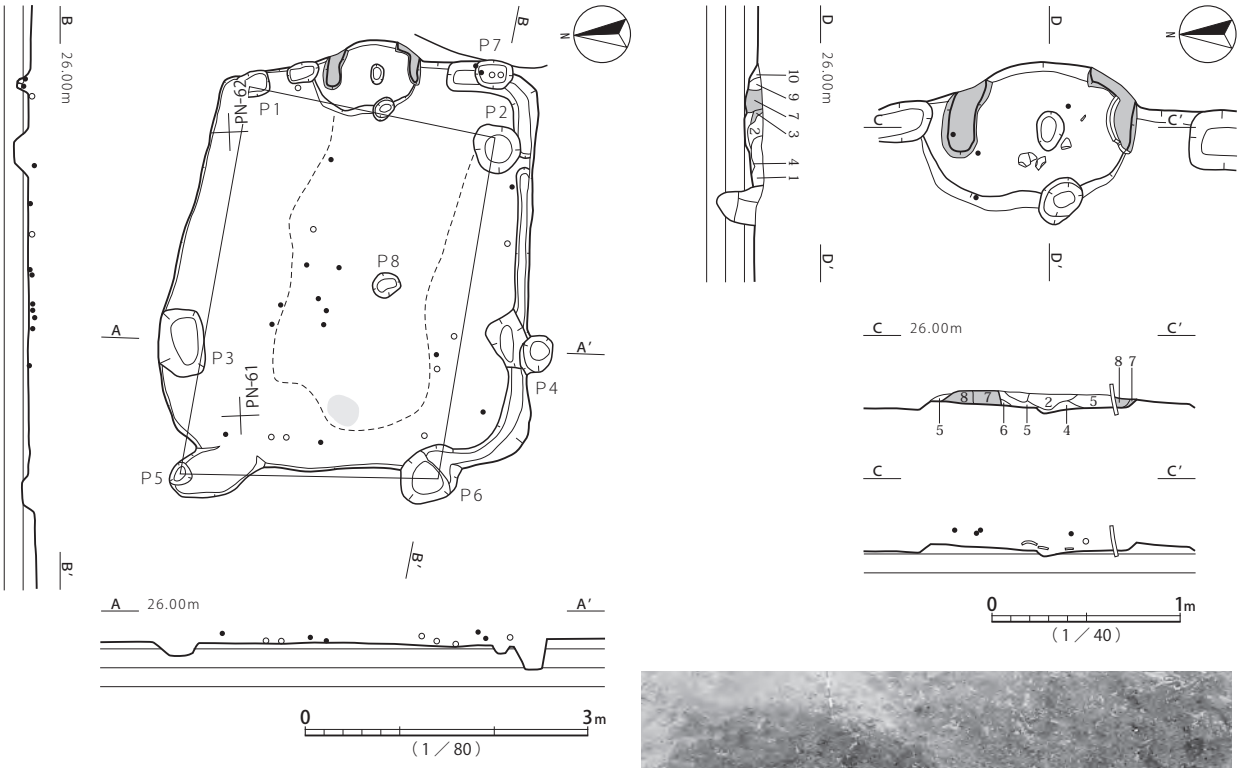
竪穴 1313 号　（Fig.168）〔僧Ⅰ第 304 図〕

北辺部QJ−85を中心に位置する。掘立柱建物3110号と重複し、西側は調査区外へ延びる。新旧関係は、本遺構の方が3110号よりも古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられ、規模は副軸長2.90m、確認面からの深さは0.40mを測る。主軸方位はN−98°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。僧寺編年Ⅰ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみで、Ⅰ型式の均整唐草文である。写真からは完形に近い平瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1309 号



1　暗褐色土　粘土粒を少量含み、焼成不良瓦片が混じる。
2　暗褐色土　焼土粒を少量含み、粘土粒も混じる。
3　粘土　薄く被熱する。
4　黒褐色土　灰を含み、焼土粒もわずかに混じる。
5　暗褐色土　粘土粒を含む。1よりしまる。
6　黒褐色土　粘土粒を含み、ロームも少量混じる。
7　粘土　暗褐色土との混合。
8　粘土
9　黒褐色土　粘土粒を含む。
10　褐色土　粘土粒を含む。



ph.1　カマド

Fig.166　竪穴1309号 遺構・調査状況

竪穴 1315 号　（Fig.169）〔僧 I 第 305 図〕

北辺部QK−52を中心に位置する。土坑（遺構番号なし）と重複し、本遺構の方が土坑よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は2.34×2.52m、遺構下場面積は4.4㎡、確認面からの深さは0.15mを測る。東辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−12°−Wである。カマドは検出されていない。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

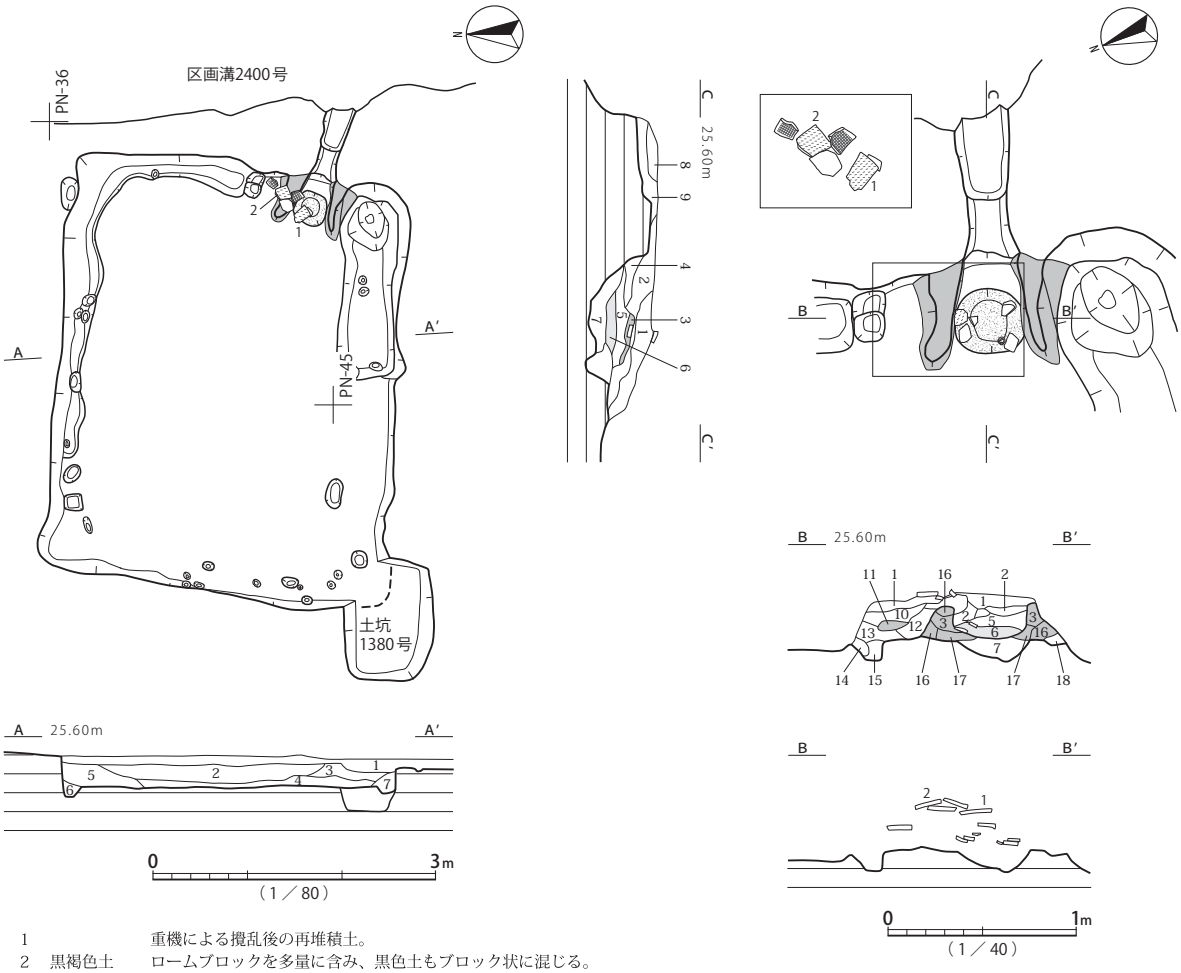
周溝南西隅や覆土中から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1316 号　（Fig.169）〔僧 I 第 306 図〕

北辺部QJ−39を中心に位置する。竪穴1541号（下層）と重複し、西側は調査区外へ延びる。新旧関係は、本遺構の方が1541号よりも新しい。

平面形態は方形を呈すると考えられるが、カマド部分のみの検出のため、規模は明確でない。主軸

竪穴 1310号



1　　重機による攪乱後の再堆積土。
2　黒褐色土　ロームブロックを多量に含み、黒色土もブロック状に混じる。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
4　黒褐色土　黒色土ブロック・粘土ブロック・ロームブロックを含む。
5　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。
6　黒褐色土　黒色土・ロームブロックを含む。
7　黒褐色土　ロームブロックを多量に含み、黒色土も少量混じる。

カマド
1　黒褐色土　粘土粒・ローム粒・黒色土を含む。
2　暗灰褐色土　粘土粒を含み、ローム粒・焼土粒も少量混じる。
3　粘土　暗褐色土を含む。
4　暗灰褐色土　焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
5　灰褐色土　焼土粒・灰を含む。
6　淡赤褐色土　焼土を多量に含む。
7　暗褐色土　粘土粒・ロームブロックを少量含む。
8　暗褐色土　粘土粒を含む。
9　褐色土　ロームを含み、粘土粒も少量混じる。
10　黒褐色土　粘土粒を多く含み、ローム粒も少量混じる。
11　粘土　黒褐色土を含む。
12　暗褐色土　粘土粒を多く含む。
13　暗褐色土　ロームブロックを少量含み、粘土粒も混じる。
14　黒褐色土　小ロームブロックを含む。
15　暗褐色土　ロームブロックを含む。
16　粘土
17　粘土　暗褐色土・少量のロームブロックとの混合。
18　黒褐色土　ローム粒を少量含む。

Fig.167　竪穴1310号(1) 遺構

方位はN−11°−W程度と思われる。カマドは北辺壁際に位置する。帰属時期は明確でない。

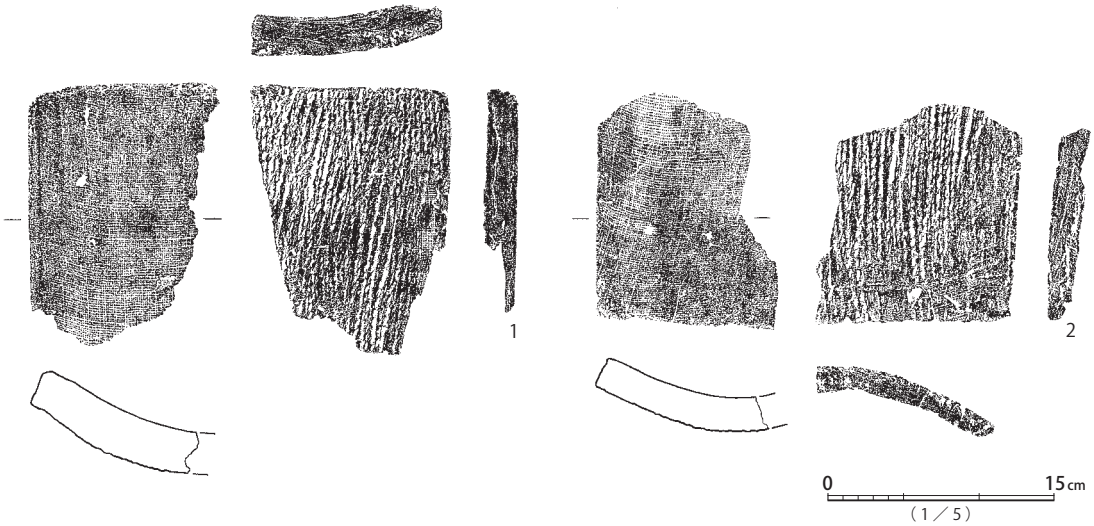
カマド覆土中から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1318 号 a　（Fig.170・171）〔僧 I 第 307・308 図〕

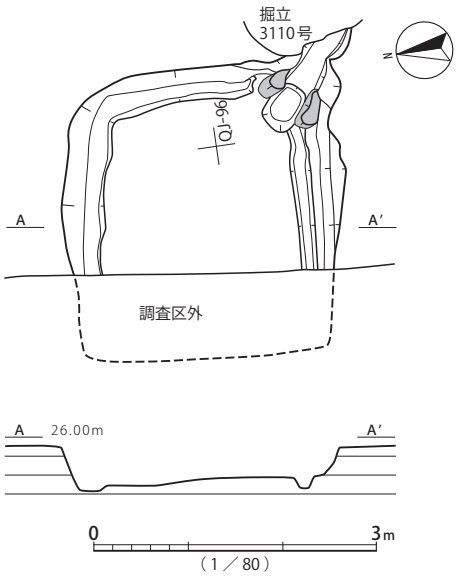
北辺部PJ−15を中心に位置する。竪穴1318号bと重複し、北側と西側は調査区外へ延びる。新旧関係は、本遺構の方が1318号bよりも新しい。

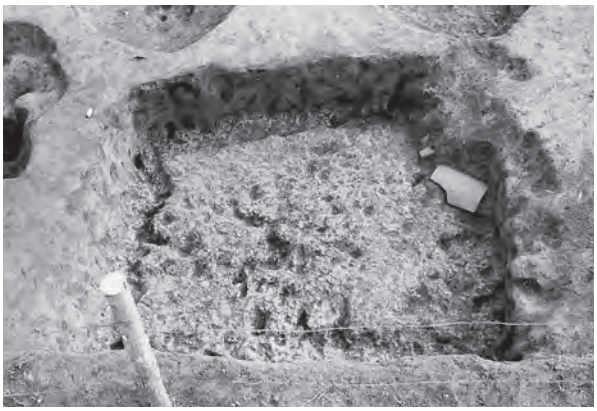
平面形態は方形を呈すると考えられるが、南東隅部のみの検出のため、規模は明確でない。確認面

竪穴 1310号



竪穴 1313号





ph.1　出土状況

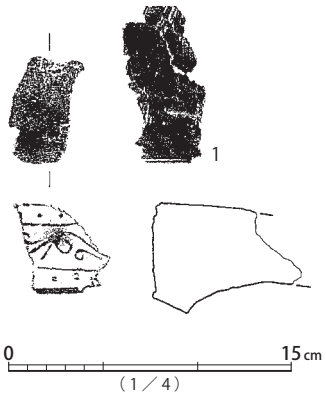
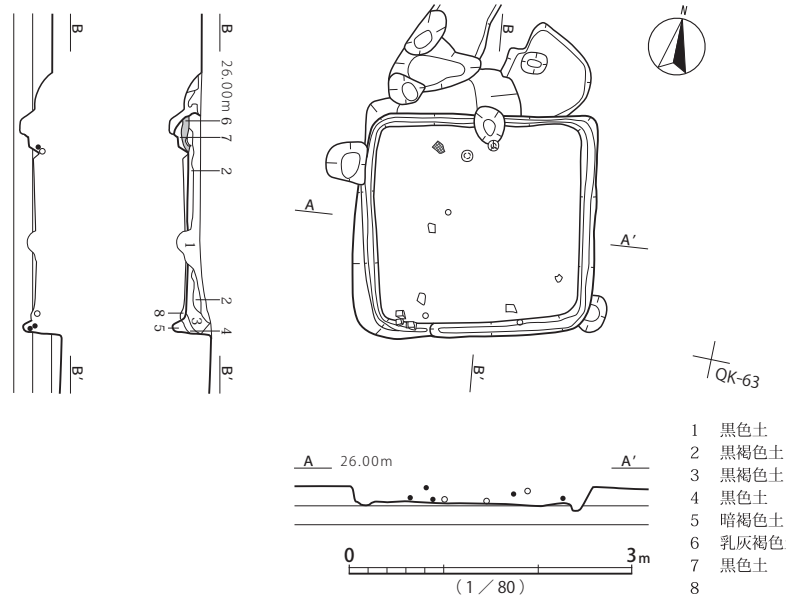


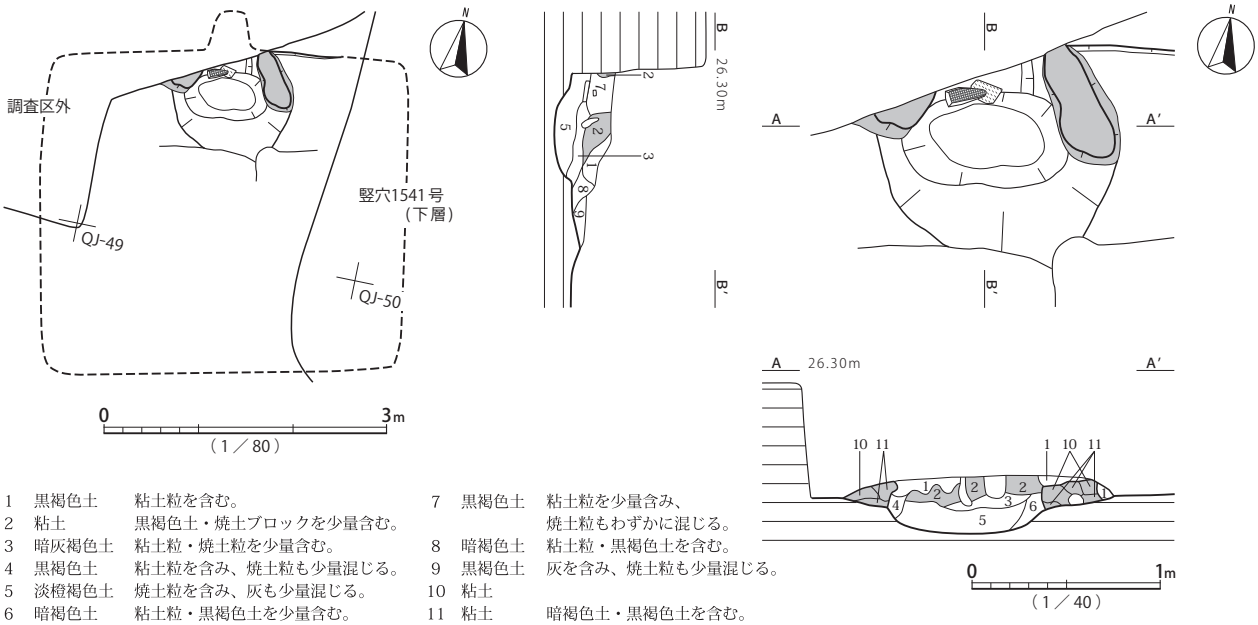
Fig.168　竪穴1310号(2) 遺物、竪穴1313号 遺構遺物・調査状況

竪穴 1315号



1	黒色土	ローム粒をわずかに含む。
2	黒褐色土	ローム粒を多量に含み、焼土粒も局部的に少量混じる。
3	黒褐色土	ローム粒を多量に含む。
4	黒色土	ソフトローム微粒との混合。
5	暗褐色土	4に似るが、色調明るい。
6	乳灰褐色土	粘土を主体とする。
7	黒色土	粘土粒・ローム粒を含み、焼土粒も少量混じる。
8		貼床。

竪穴 1316号



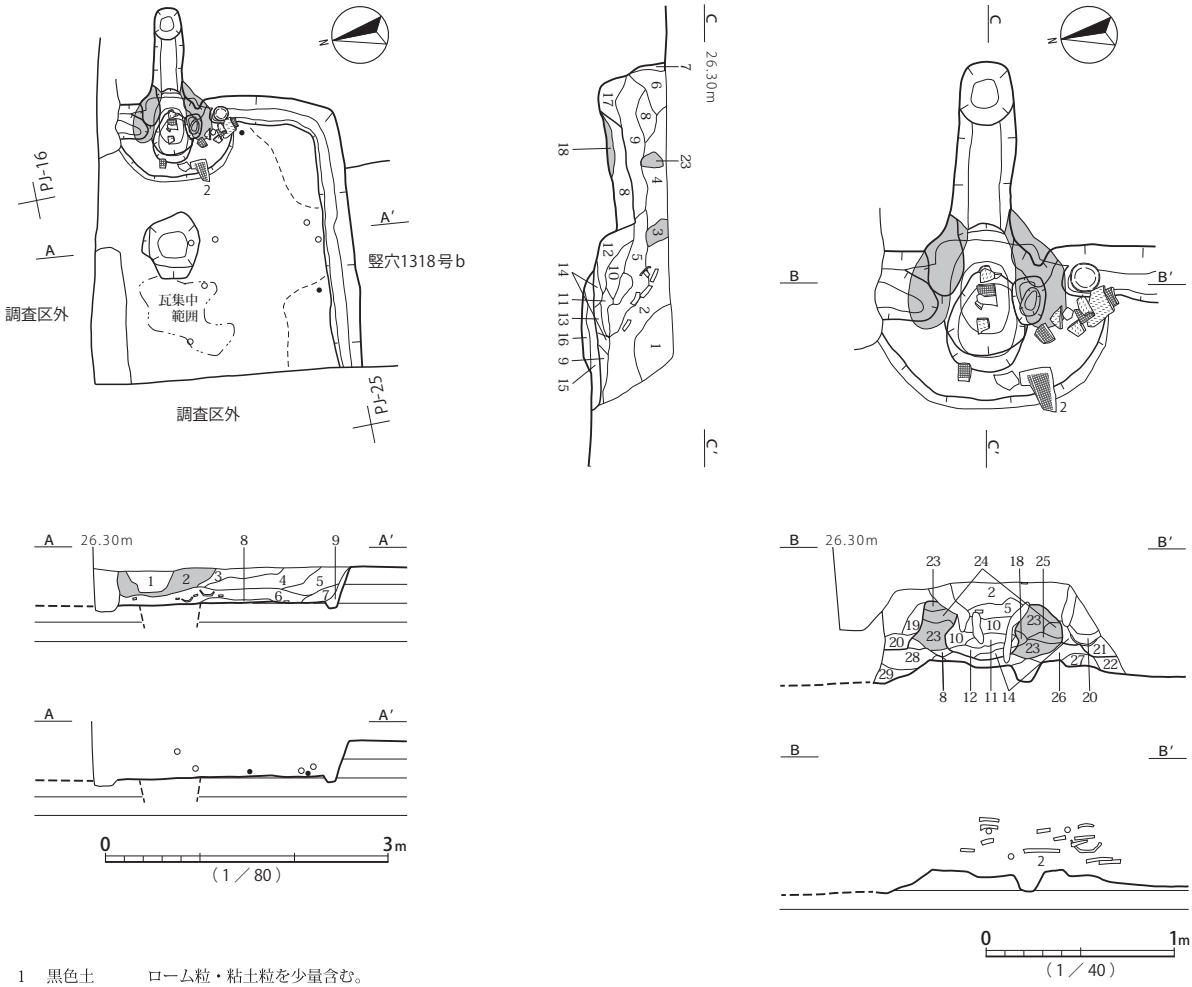
1	黒褐色土	粘土粒を含む。	7	黒褐色土	粘土粒を少量含み、焼土粒もわずかに混じる。
2	粘土	黒褐色土・焼土ブロックを少量含む。	8	暗褐色土	粘土粒・黒褐色土を含む。
3	暗灰褐色土	粘土粒・焼土粒を少量含む。	9	黒褐色土	灰を含み、焼土粒も少量混じる。
4	黒褐色土	粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。	10	粘土	
5	淡橙褐色土	焼土粒を含み、灰も少量混じる。	11	粘土	暗褐色土・黒褐色土を含む。
6	暗褐色土	粘土粒・黒褐色土を少量含む。			

Fig.169　竪穴1315号 遺構、竪穴1316号 遺構

からの深さは0.46mを測る。主軸方位はN−94°−Eである。カマドは東辺壁際に位置する。僧寺編年III〜IV−1期の所産と考えられる。

遺構中央寄りの床面付近から、瓦片が集中して出土している。実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2は平瓦である。2はカマド前面から検出され、覆土下層からの出土である。

竪穴 1318号a



1　黒色土　ローム粒・粘土粒を少量含む。
2　粘土
3　灰褐色土　粘土を多量に含み、小ロームブロックも少量混じる。
4　暗灰褐色土　粘土ブロック・小ロームブロックを少量含む。
5　黒褐色土　粘土粒を含む。
6　黒褐色土　ローム粒を少量含み、粘土粒も混じる。
7　黒色土　小ロームブロックを少量含み、粘土粒も混じる。
8　黒色土　ロームブロックを含む。
9　暗褐色土　ソフトロームを含む。



ph.1　出土状況 2

カマド
1　黒褐色土　粘土を多く含み、小ロームブロックも少量混じる。粘性強い。
2　黒褐色土　ローム粒を少量含み、粘土粒も混じる。粘性あり。
3　粘土　黒褐色土を含む。
4　暗灰褐色土　粘土を含む。
5　灰褐色土　粘土を多く含み、黒褐色土も少量混じる。
6　暗褐色土　粘土粒を含む。
7　褐色土　粘土粒を少量含む。
8　黒褐色土　粘土を含む。
9　黒褐色土　粘土粒を含む。
10　暗灰褐色土　焼土粒を少量含み、粘土も混じる。
11　暗灰褐色土　灰を多量に含み、焼土粒・粘土も少量混じる。
12　灰褐色土　粘土を含む。
13　暗灰褐色土　焼土粒を少量含み、粘土粒もわずかに混じる。
14　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
15　暗褐色土　黒褐色土・粘土を含み、小ロームブロックも少量混じる。しまりあり。
16　暗灰褐色土　焼土・粘土粒を含む。旧カマド火床部。
17　灰褐色土　焼土を含む。
18　粘土　黒褐色土を少量含む。
19　黒褐色土　粘土粒を多く含む。
20　黒褐色土　粘土粒を少量含み、ローム粒も混じる。
21　黒褐色土　小ロームブロック・粘土粒を少量含む。
22　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。
23　粘土
24　粘土　黒褐色土との混合。
25　粘土　ロームブロックを含む。
26　暗灰褐色土　ローム粒を少量含み、粘土粒も混じる。
27　暗褐色土　ローム粒・褐色土・粘土粒を少量含む。
28　暗褐色土　粘土粒を少量含み、ローム粒も混じる。
29　褐色土　ローム粒を含む。

Fig.170　竪穴1318号a(1) 遺構・調査状況

竪穴 1318号a

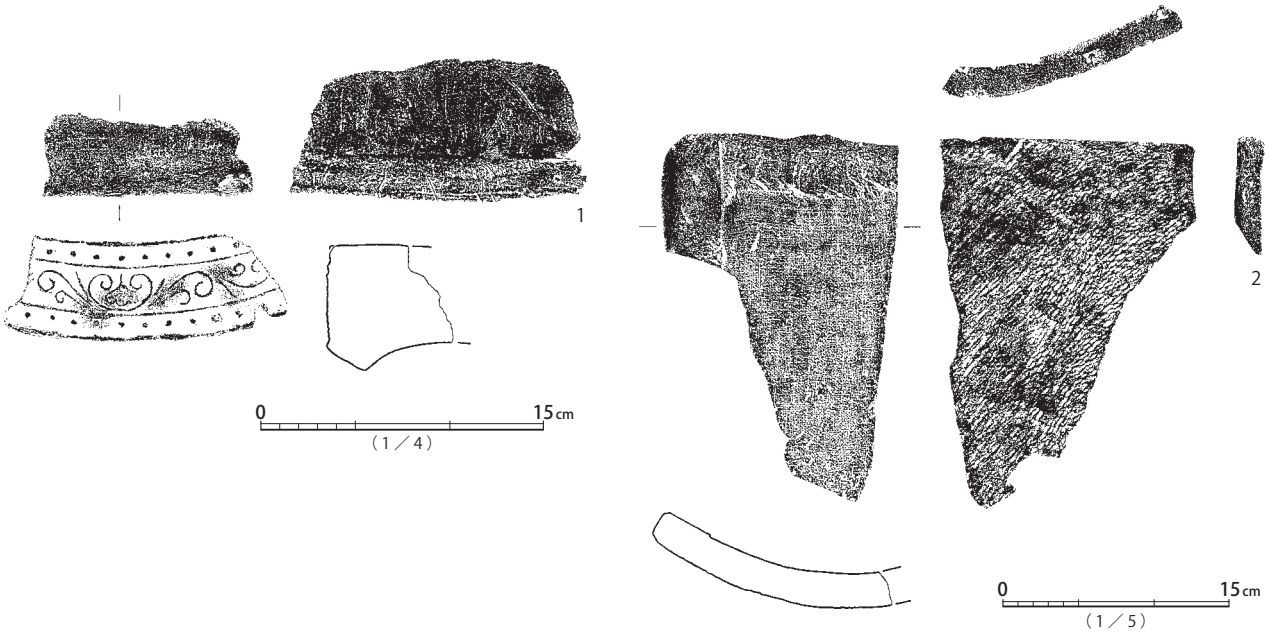


Fig.171　竪穴1318号a(2) 遺物

竪穴 1320 号　（Fig.172）〔僧 I 第 309・310 図〕

北辺部PJ−59を中心に位置する。掘立柱建物3112・3146号、竪穴1322号、土壙墓1321号と重複し、本遺構の方が1322号よりも新しく、3146・1321号よりも古い。

平面形態は長方形を呈し、規模は6.02×4.48m、遺構下場面積は25.2㎡、確認面からの深さは0.07mを測る。西辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−4°−Wである。カマドは検出されていない。僧寺編年III期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の丸瓦のみで、出土位置は明確でない。一般的な丸瓦に比べて著しく薄く、道具瓦に分類したが、用途は明確でない。

竪穴 1322 号　（Fig.172・173）〔僧 I 第 309・310 図〕

北辺部PJ−49を中心に位置する。掘立柱建物3146号、竪穴1320号、土壙墓1321号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.42×2.84m、遺構下端面積は7.1㎡、確認面からの深さは0.26mを測る。主軸方位はN−86°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。僧寺編年II期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はI型式の蓮華文軒丸瓦、2はI型式の均整唐草文軒平瓦、3は玉縁式の丸瓦である。いずれも出土位置は明確でない。

竪穴 1323 号　（Fig.173）〔僧Ⅰ第 312 図〕

北辺部PK−42を中心に位置する。掘立柱建物3115・3116・3137号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

平面形態は方形を呈すると考えられるが、北辺及び西辺壁の一部が検出されたのみで、規模は明確でない。北辺壁を基準とした場合、これと直行する軸の方位はN−2°−Wである。カマドは検出されていない。僧寺編年Ⅸ〜Ⅹ期の所産と考えられる。

多量の土器類に混じって瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1324 号　（Fig.174〜177、PL.38〜40・215）〔僧Ⅰ第 313・314 図〕

北辺部PK−42を中心に位置する。掘立柱建物3115・3116・3137号、竪穴1323号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は3.42×3.30m、遺構下端面積は8.5㎡、確認面からの深さは0.28mを測る。主軸方位はN−6°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅴ期の所産と考えられる。

カマド内と床面から、土器類とともに瓦が多く出土する。実測可能遺物は、1は行基葺式の丸瓦、2〜6は平瓦である。4は両側面が弧状に抉れ、広狭端の区別が明確でない。また、凸面には横ないし斜方向のヘラナデが施され、叩き目は認められない。1・3はカマド内からの出土で、いずれも構築材として利用されたものと考えられる。

竪穴 1325 号　（Fig.178・179、PL.39）〔僧Ⅰ第 315・316 図〕

北辺部PK−63を中心に位置する。掘立柱建物3116・3117・3137・3149号、土坑1463・1659号、小鍛冶1631号と重複する。新旧関係は、本遺構の方が3116・3117・3137・3149号よりも新しく、1463号よりも古いと考えられるが、1463・1659号との関係は明確でない。

平面形態は長方形を呈し、規模は6.82×3.02m、遺構下端面積は17.5㎡、確認面からの深さは0.24mを測る。主軸方位はN−3°−Eである。カマドは北辺壁中央やや東寄りから検出されている。僧寺編年Ⅸ期の所産と考えられる。

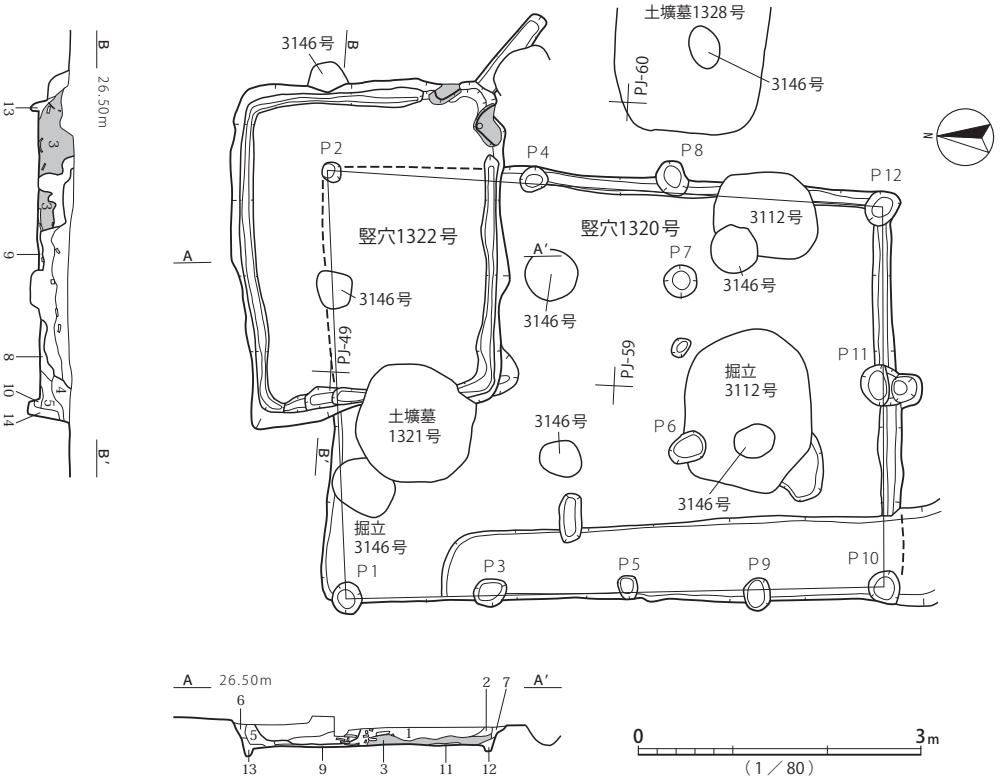
実測可能遺物は1の塼のみで、長方形のレンガ状を呈するものと考えられる。カマド脇から検出され、床面上からの出土である。

竪穴 1326 号　（Fig.180〜183、PL.39・40）〔僧Ⅰ第 317 図〕

北辺部PK−64を中心に位置する。掘立柱建物3116・3137・3144・3149号、土坑1634号と重複し、本遺構の方が3116・3137・3144・3149号よりも新しいと考えられるが、1634号との関係は明確でない。

平面形態は方形を呈する。確認面からの深さは0.24mを測り、南辺壁が検出されないことから明確でないが、規模は3.46×3.20m、遺構下端面積は8.0㎡程度になるものと思われる。主軸方位はN−14°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅴ期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

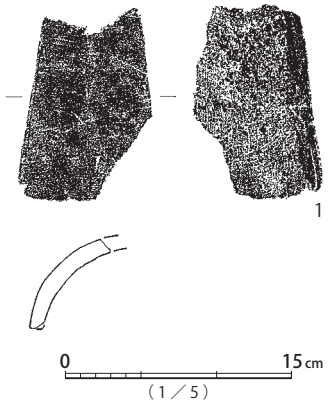
竪穴 1320・1322 号



1	灰褐色土	粘土を多量に含み、小ロームブロックも少量混じる。	8	暗褐色土	ローム粒を含む。
2	ロームブロック		9	暗灰褐色土	小ロームブロックを含む。
3	粘土		10	黒褐色土	小ロームブロックを含む。
4	黒褐色土	ローム粒、粘土粒を少量含む。	11	黒褐色土	粘土粒を含む。
5	黒色土	粘土粒を少量含む。	12	黒褐色土	小ロームブロック、粘土粒を少量含む。
6	暗褐色土	黒色土、ロームを少量含む。	13	暗褐色土	黒褐色土、ロームブロックを含む。
7	黒褐色土	小ロームブロックを少量含み、粘土ブロックも混じる。	14	暗褐色土	ローム粒、小ロームブロックを含む。

竪穴 1320 号

薄丸瓦



竪穴 1322 号

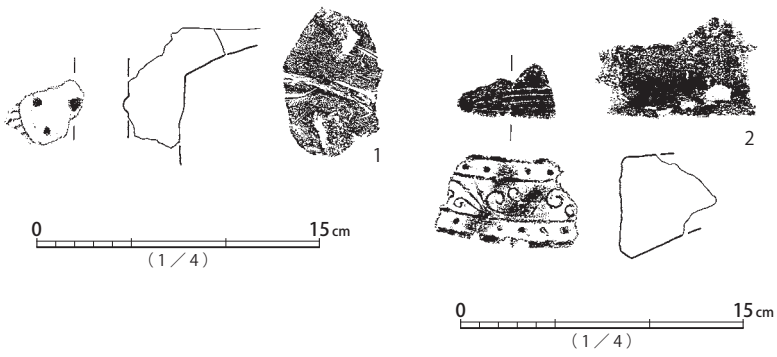
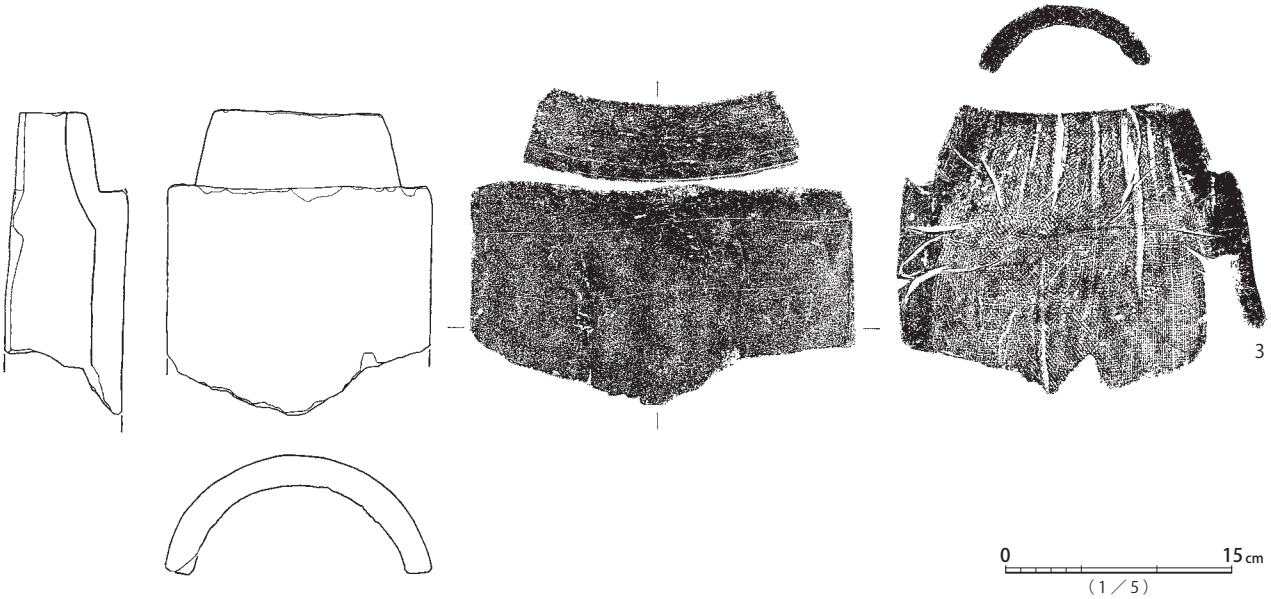


Fig.172　竪穴1320号 遺構遺物、竪穴1322号(1) 遺構遺物

竪穴 1322号



竪穴 1323号

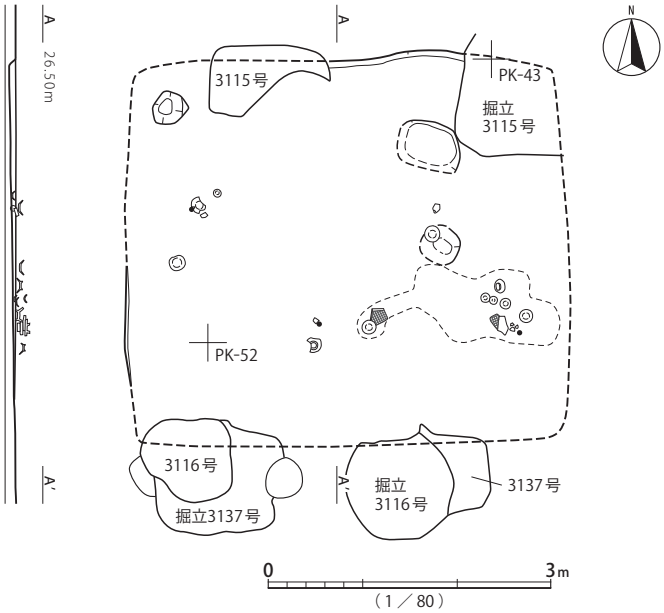
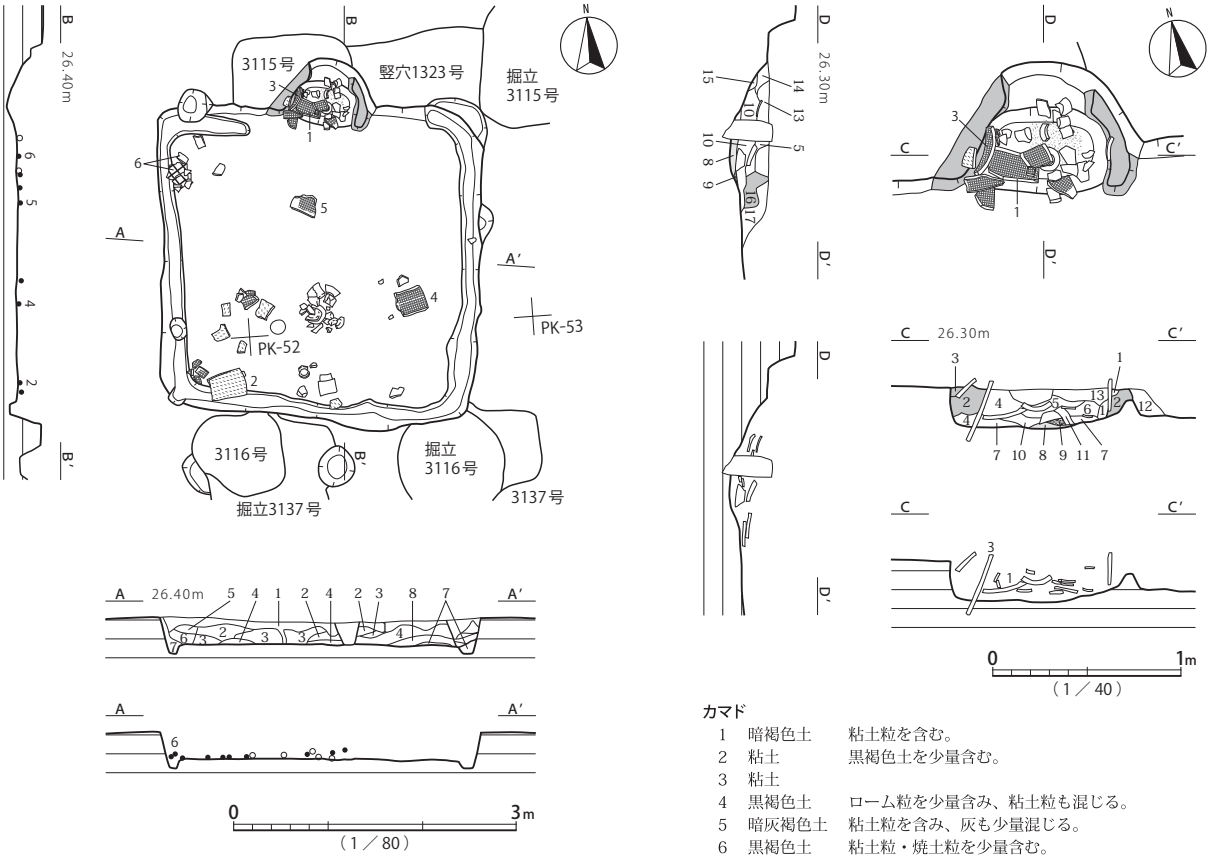


Fig.173　竪穴1322号(2) 遺物、竪穴1323号 遺構

竪穴 1324号



1 黒色土 ローム粒を含む。
2 黒色土 ローム粒を多く含み、小ロームブロック・焼土も少量混じる。
3 黒色土 粗いローム粒を多量に含む。
4 黒褐色土 粗いローム粒を多量に含む。
5 黒色土 粗いローム粒を少量含む。1に似る。
6 黒色土 ローム微粒を多量に含む。
7 暗黄褐色土 ローム2対黒色土1の割合。
8 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を含み、焼土微粒も少量混じる。

カマド

1 暗褐色土 粘土粒を含む。
2 粘土 黒褐色土を少量含む。
3 粘土
4 黒褐色土 ローム粒を少量含み、粘土粒も混じる。
5 暗灰褐色土 粘土粒を含み、灰も少量混じる。
6 黒褐色土 粘土粒・焼土粒を少量含む。
7 暗灰褐色土 粘土・焼土粒を少量含む。
8 焼土
9 灰
10 灰褐色土 粘土粒・灰を含む。
11 暗褐色土 焼土粒を含む。
12 黒褐色土 褐色土とローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
13 暗褐色土 焼土粒をわずかに含み、粘土粒も混じる。
14 暗褐色土 ローム粒を少量含み、粘土粒も混じる。
15 黒褐色土 粘土粒をわずかに含む。
16 粘土 黒褐色土を含む。
17 黒褐色土 粘土粒を含む。



ph.1 出土状況 2・3・4・5・6



ph.2 カマド 1・3

Fig.174 竪穴1324号(1) 遺構・調査状況

竪穴 1324 号

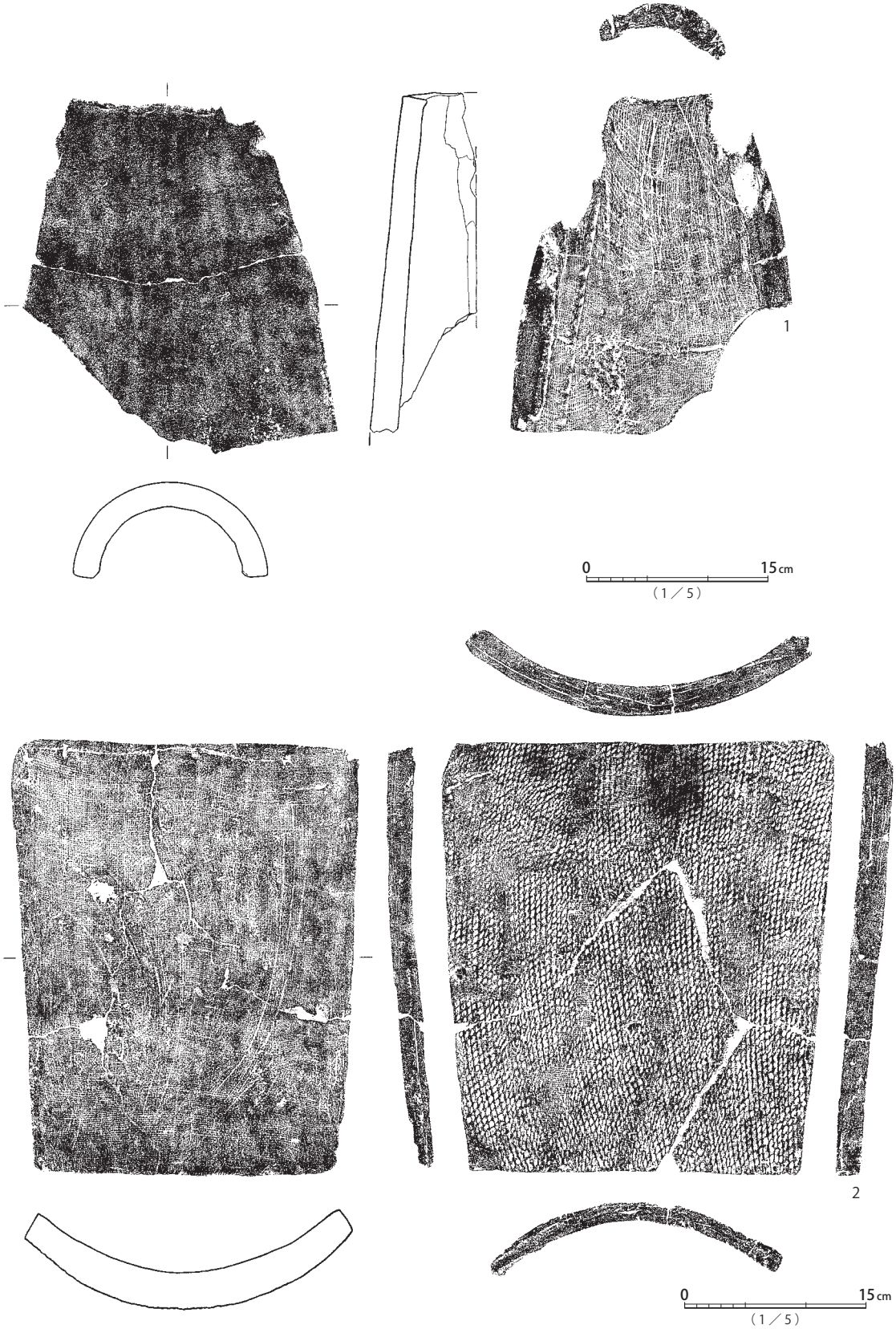


Fig.175　竪穴1324号(2) 遺物

竪穴 1324 号

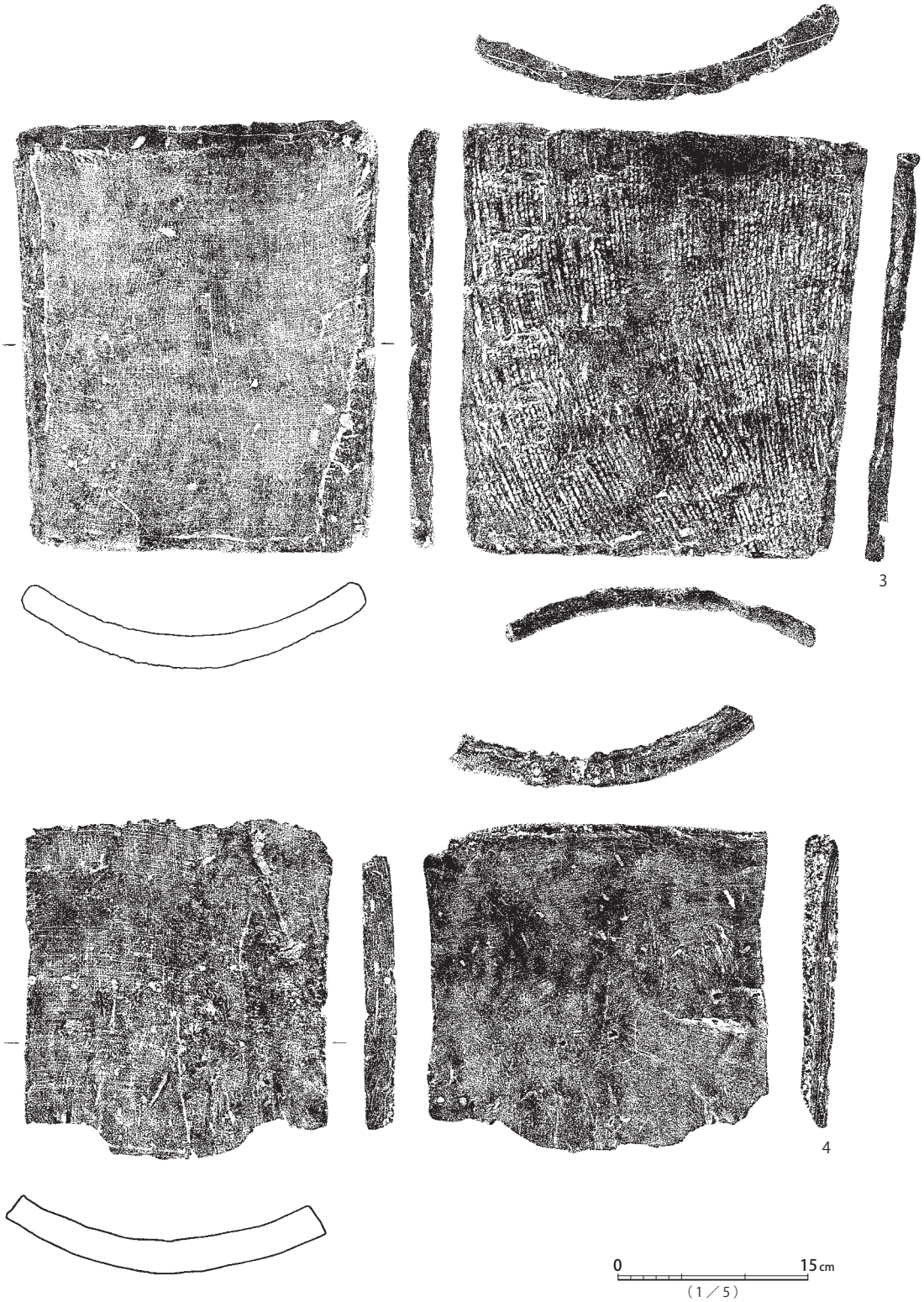


Fig.176　竪穴1324号(3) 遺物

竪穴 1324 号

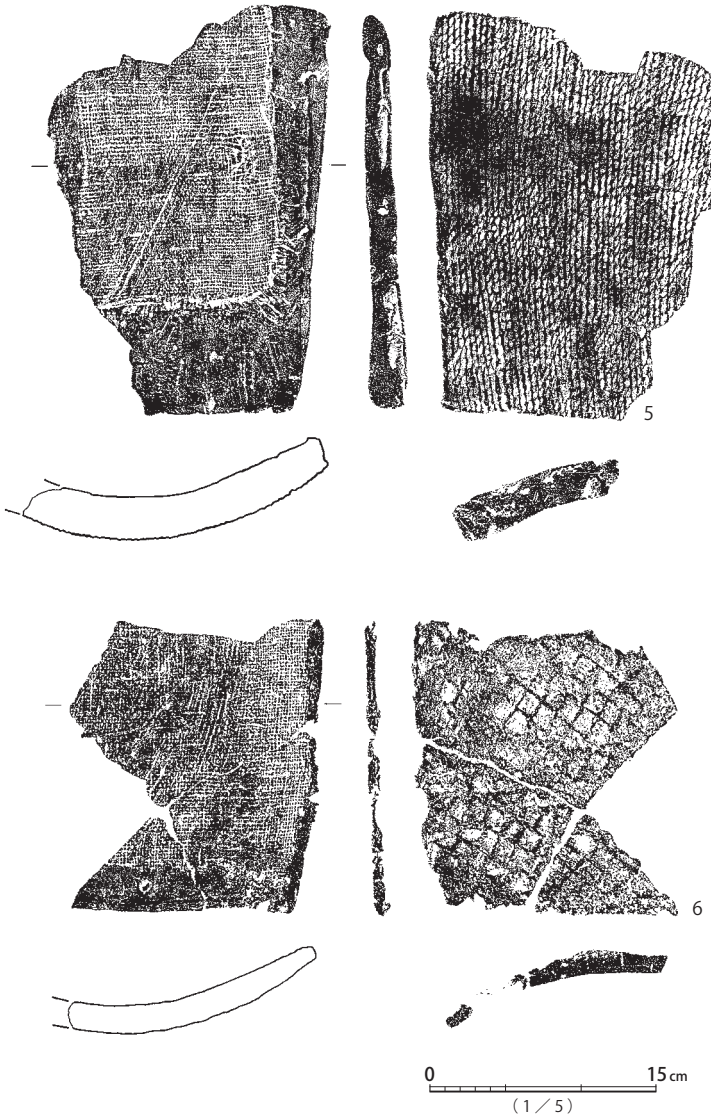


Fig.177　竪穴1324号(4) 遺物

実測可能遺物は1～6の平瓦で、1は他に比べて小型の個体である。いずれもカマド内から検出され、構築材として利用されたものと考えられる。

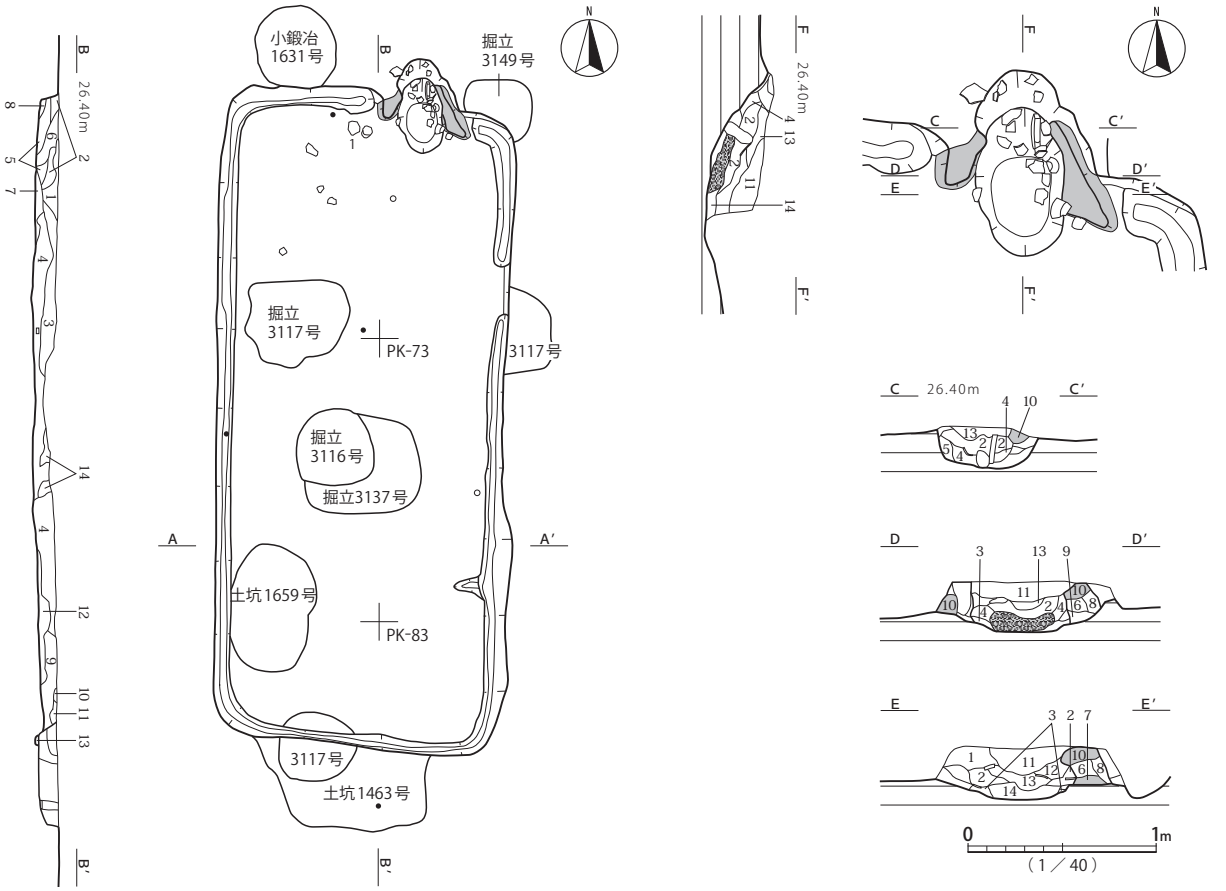
竪穴 1330 号　（Fig.184・185、PL.39・40）〔僧Ⅰ第 318・319 図〕

北辺部OK−09を中心に位置する。竪穴1331号、土坑1475号と重複すると思われるが、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈すると考えられるが、東辺壁に位置すると考えられるカマドが検出されたのみで、規模等は明確でない。僧寺編年Ⅷ期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は、1はXI型式の無文軒平瓦、2・3は平瓦である。1の凸面には、縦方向ののち、顎部を中心に斜方向の縄叩きが施される。3の凸面には、工具幅が狭く、細かい原体の縄叩き目が残り、

竪穴 1325号



1　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、黒色土も混じる。
2　暗褐色土　黒色土を多量に含み、ロームブロックも少量混じる。
3　暗褐色土　２に似るが、軟質。
4　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。
5　暗褐色土　ロームを多量に含み、焼土粒も少量混じる。
6　暗褐色土　ロームを多量に含み、黒色土、粘土ブロックも少量混じる。
7　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。しまり強い。
8　黒色土　粘土粒・焼土粒を含む。
9　暗褐色土　黒褐色土・ローム粒を含む。
10　黒褐色土　ローム粒を少量含む。
11　暗褐色土　黒褐色土をわずかに含む。
12　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
13　褐色土　周溝覆土。
14　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。硬くしまる。
15　褐色土　ハードロームを主体とする。
16　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、炭化粒もわずかに混じる。
17　暗褐色土　16に似るが、硬くしまる。
18　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、褐色土が少量、
炭化粒がわずかに混じる。
19　暗褐色土　ローム粒・炭化粒・土器細片・黒褐色土を少量含む。

カマド
1　暗褐色土　粗いローム粒を含む。
2　暗灰褐色土　焼土粒・灰を少量含む。
3　灰褐色土　粘土粒を少量含み、灰も混じる。
4　灰褐色土　粘土粒・焼土粒を少量含む。
5　暗褐色土　焼土粒を少量含む。
6　黒褐色土　粘土を含み、暗褐色土も少量混じる。
7　粘土　黒褐色土を含む。
8　暗褐色土　粘土粒を少量含み、黒褐色土も混じる。
9　暗灰褐色土　粘土を含む。
10　粘土
11　黒褐色土　ローム粒を少量、粘土粒をわずかに含み、
暗褐色土も混じる。
12　黒褐色土　粘土粒を少量含む。
13　黒褐色土　焼土粒をわずかに含み、ローム粒も混じる。
11・12よりも暗く、ややしまる。
14　暗灰褐色土　焼土粒・灰を少量含む。

Fig.178　竪穴1325号(1) 遺構

竪穴 1325 号

塼



Fig.179　竪穴1325号(2) 遺物

南田1号ないし4号窯の製品と考えられる。いずれもカマドを取り囲んでおり、構築材として利用されたものと考えられる。

竪穴 1331 号　（Fig.184・186、PL.40）〔僧Ⅰ第 318・319 図〕

北辺部PK−99を中心に位置する。掘立柱建物3142号、土坑1475・1526・1527号と重複し、本遺構の方が3142・1526号よりも新しいと考えられるが、1475・1527号との関係は明確でない。

平面形態は、西側が方形を呈するのに対し、東側は不整形となる。確認面からの深さは0.20mを測り、規模は2.82×3.14m、遺構下端面積は6.3㎡程度になるものと思われる。西辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−8°−Eである。カマドは北辺壁から検出されている。僧寺編年Ⅷ期か、これよりやや新しい段階の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は、1は平瓦、2は隅切平瓦である。1は粗雑な整形で、凸面には指頭圧による窪みを残す。2は広端側左隅部をわずかに面取りするもので、ここでは隅切平瓦としたが、川焼瓦窯跡の1号窯に類例があり、工人の「くせ」と理解されている（田形1994）。なお、川焼瓦窯跡で焼かれた蓮華文軒丸瓦には、丸瓦部の広端隅部を斜めに切り欠いて瓦当部と接合するものがあり、共通した技法とも考えられる。

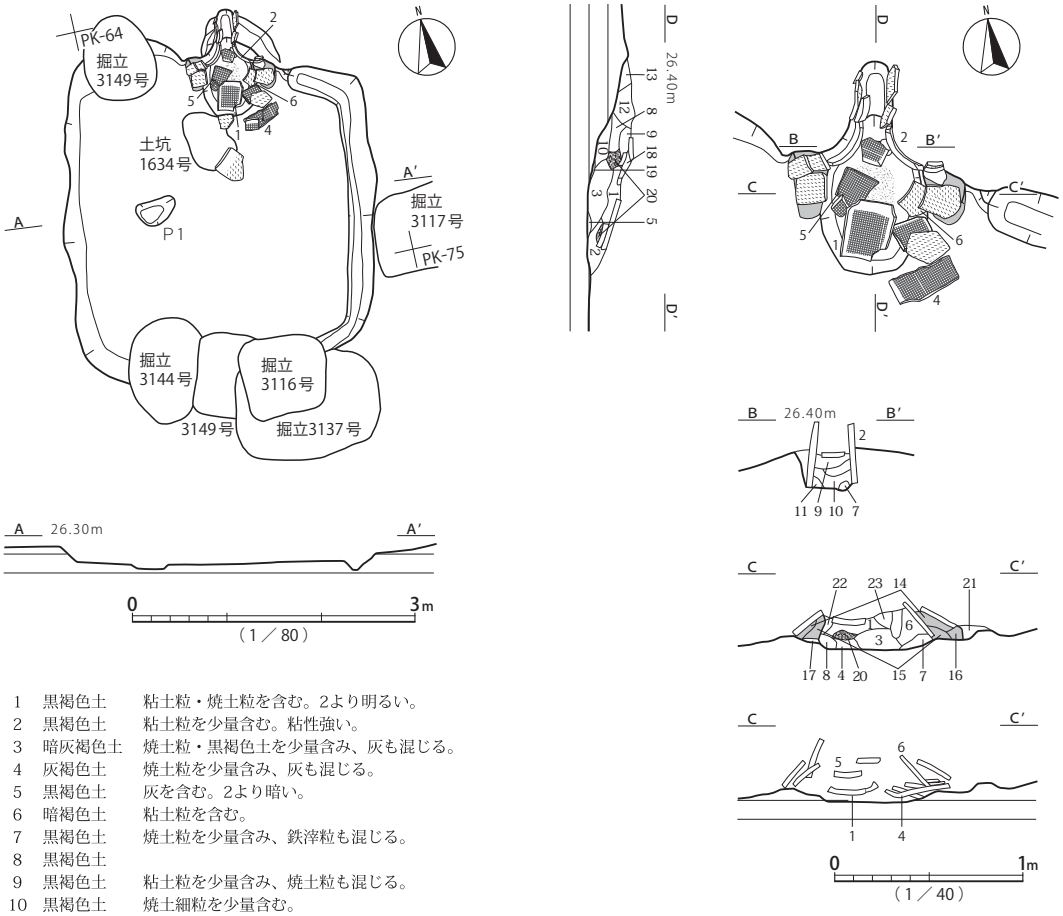
竪穴 1332 号・小鍛冶 1485 号　（Fig.187〜191、PL.41・42・215）〔僧Ⅰ第 320 図〕

北辺部PL−62を中心に位置する。掘立柱建物3119・3120・3128号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

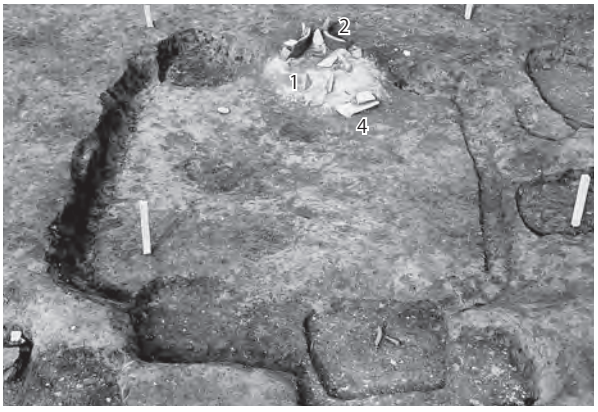
竪穴1332号の平面形態は長方形を呈する。確認面からの深さは0.12mを測り、壁の一部が検出されないが、規模は4.36×3.10m、遺構下端面積は12.4㎡程度になるものと思われる。

小鍛冶1485号は竪穴1332号に伴うものと考えられ、平面形態は不整長楕円形を呈する。規模は1.44×0.62m、1332号床面からの深さは0.22mを測る。主軸方位はいずれもN−1°−Wで、僧寺編

竪穴 1326号



1　黒褐色土　粘土粒・焼土粒を含む。2より明るい。
2　黒褐色土　粘土粒を少量含む。粘性強い。
3　暗灰褐色土　焼土粒・黒褐色土を少量含み、灰も混じる。
4　灰褐色土　焼土粒を少量含み、灰も混じる。
5　黒褐色土　灰を含む。2より暗い。
6　暗褐色土　粘土粒を含む。
7　黒褐色土　焼土粒を少量含み、鉄滓粒も混じる。
8　黒褐色土
9　黒褐色土　粘土粒を少量含み、焼土粒も混じる。
10　黒褐色土　焼土細粒を少量含む。
11　黒色土　ローム粒を少量含む。硬くしまる。瓦を固定。
12　黒褐色土　攪乱を受ける。しまりなし。
13　暗褐色土　ローム粒を少量含み、黒褐色土も混じる。
14　粘土
15　粘土　暗灰褐色土との混合。
16　粘土　粘土を主体とし、黒褐色土が混じる。
17　黒褐色土　ローム・粘土を少量含む。
18　黒褐色土　粘土粒・焼土粒を少量含む。
19　焼土
20　灰
21　黒褐色土　ロームを少量含み、粘土粒もわずかに混じる。
22　黒褐色土　焼土粒をわずかに含み、粘土も混じる。
23　黒褐色土　粘土粒・焼土粒を少量含む。



ph.1　出土状況 1・2・4



ph.2　カマド 1・2・4・5・6

Fig.180　竪穴1326号(1) 遺構・調査状況

竪穴 1326号



Fig.181　竪穴1326号(2) 遺物

竪穴 1326号



Fig.182　竪穴1326号(3) 遺物

竪穴 1326号

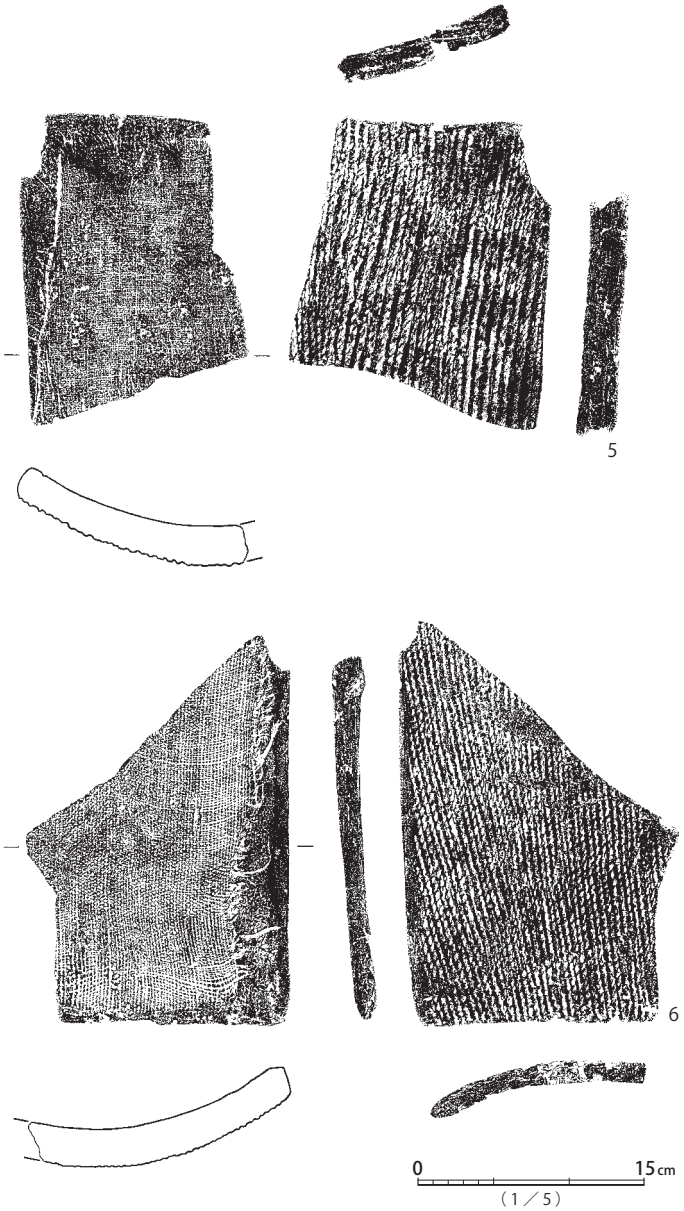


Fig.183　竪穴1326号(4) 遺物

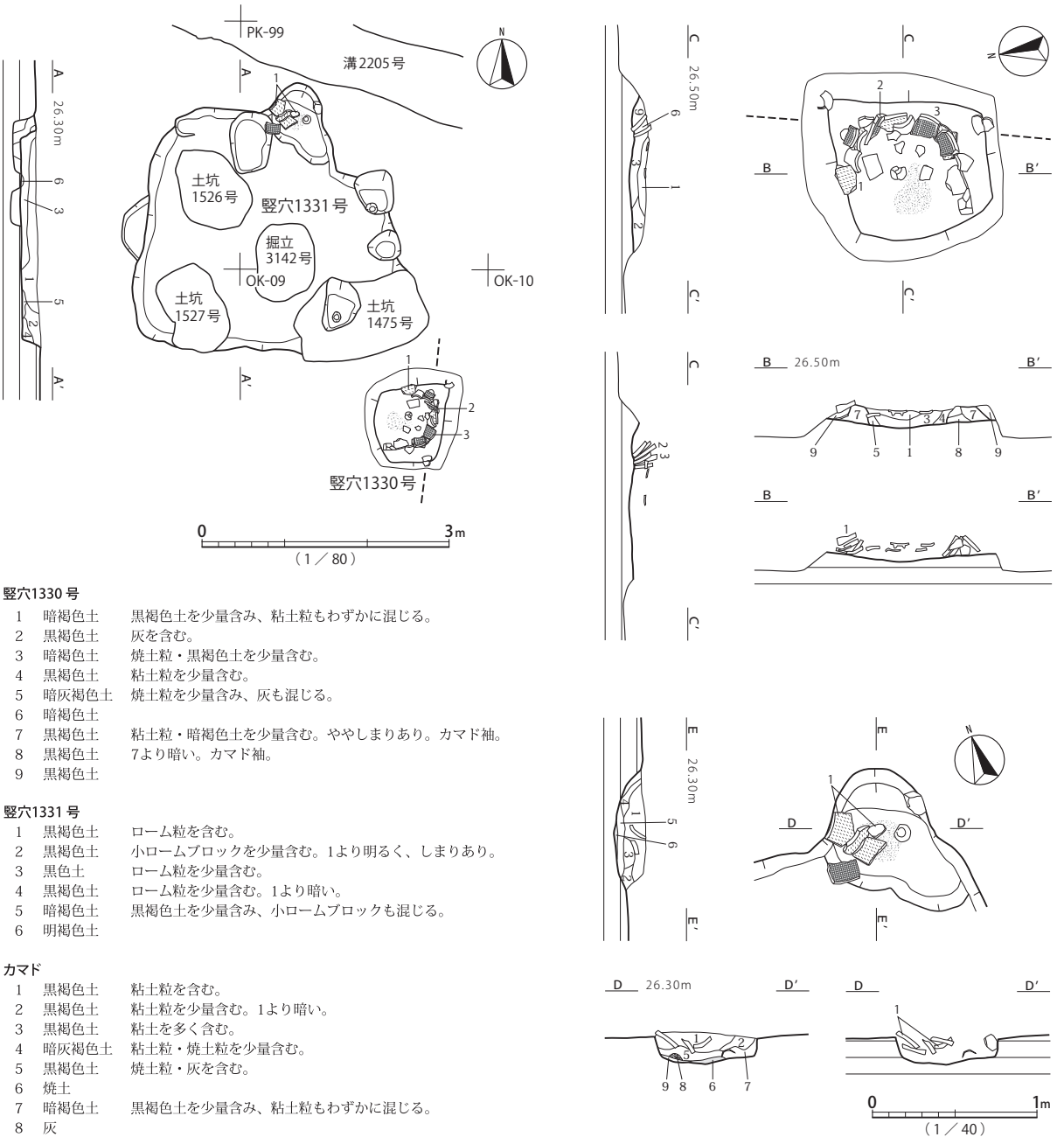
年Ⅴ期の所産と思われる。

実測可能遺物は、1332号は1の軒平瓦のみで、Ⅰ型式の均整唐草文である。1485号は、1は文様不明の軒平瓦、2・3は行基葺式の丸瓦、4・5は平瓦で、いずれも鍛冶炉の構築材として利用されたものである。1・4・5は炉床部、2・3は送風部に相当する場所からの出土であろうか。4の凹面には粘土紐を並べたような縦方向の筋が入るが、破損部断面からは確認できない。5の凹面両端部付近にはハケ目が残り、南田2号ないし3号窯の製品と考えられる。

竪穴 1333 号　（Fig.192）〔僧Ⅰ第 321～323 図〕

北辺部OL−05を中心に位置する。竪穴1373号、土坑1442・1464号、区画溝2202・2203・2206

竪穴 1330・1331 号



竪穴1330 号

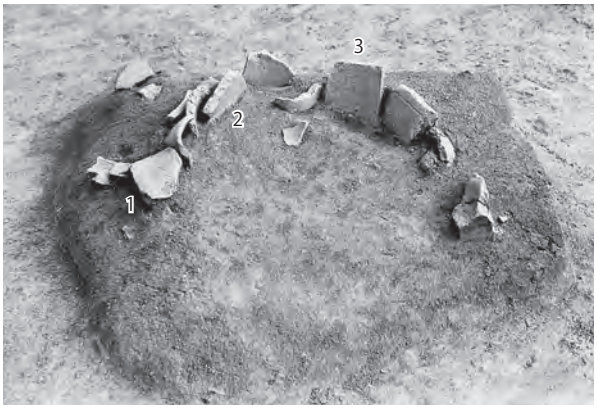
1	暗褐色土	黒褐色土を少量含み、粘土粒もわずかに混じる。
2	黒褐色土	灰を含む。
3	暗褐色土	焼土粒・黒褐色土を少量含む。
4	黒褐色土	粘土粒を少量含む。
5	暗灰褐色土	焼土粒を少量含み、灰も混じる。
6	暗褐色土	
7	黒褐色土	粘土粒・暗褐色土を少量含む。ややしまりあり。カマド袖。
8	黒褐色土	7より暗い。カマド袖。
9	黒褐色土	

竪穴1331 号

1	黒褐色土	ローム粒を含む。
2	黒褐色土	小ロームブロックを少量含む。1より明るく、しまりあり。
3	黒色土	ローム粒を少量含む。
4	黒褐色土	ローム粒を少量含む。1より暗い。
5	暗褐色土	黒褐色土を少量含み、小ロームブロックも混じる。
6	明褐色土	

カマド

1	黒褐色土	粘土粒を含む。
2	黒褐色土	粘土粒を少量含む。1より暗い。
3	黒褐色土	粘土を多く含む。
4	暗灰褐色土	粘土粒・焼土粒を少量含む。
5	黒褐色土	焼土粒・灰を含む。
6	焼土	
7	暗褐色土	黒褐色土を少量含み、粘土粒もわずかに混じる。
8	灰	



ph.1　1330号　カマド 1・2・3



ph.2　1331号　カマド 1

Fig.184　竪穴1330号(1) 遺構・調査状況、竪穴1331号(1) 遺構・調査状況

竪穴 1330号

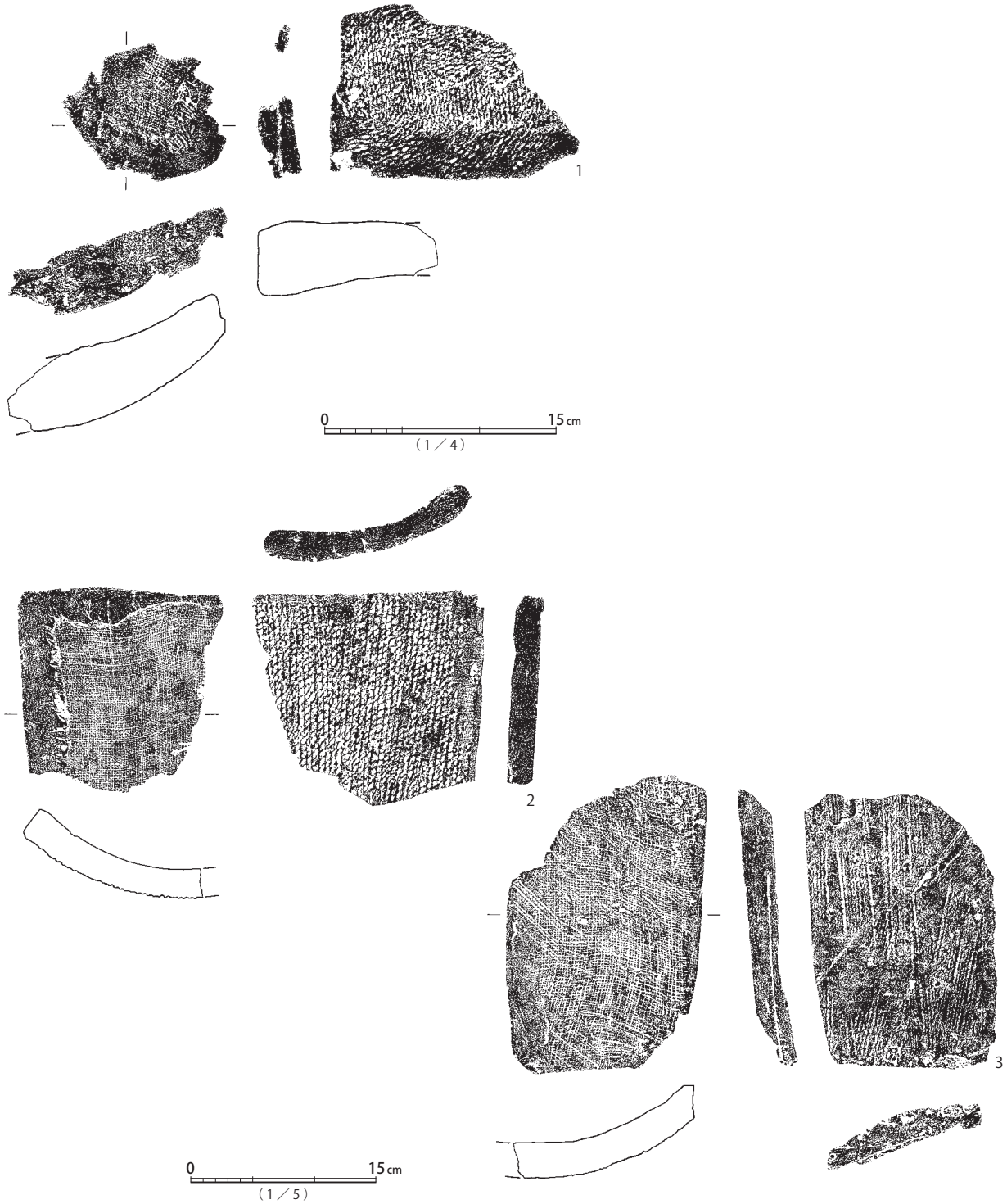
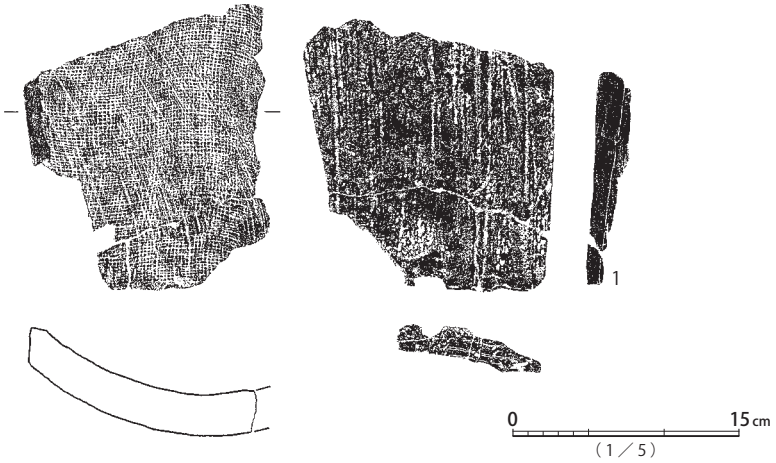


Fig.185　竪穴1330号(2) 遺物

竪穴 1331 号



隅切瓦

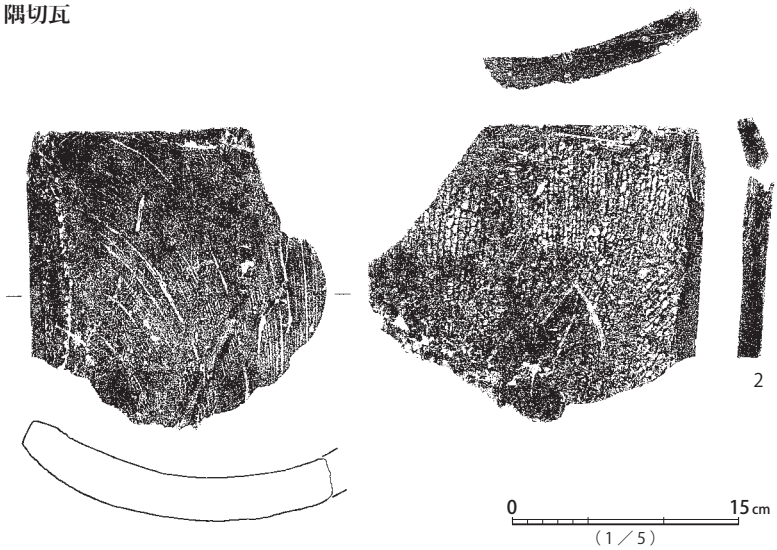


Fig.186　竪穴1331号(2) 遺物

号、溝2205号と重複し、本遺構の方が1373号よりも新しく、区画溝2203号よりも古い。その他の遺構との新旧関係は、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

南辺壁が検出されないが、平面形態は方形を呈するものと考えられる。規模は主軸長4.22m、確認面からの深さは0.21mを測る。主軸方位はN−95°−Eである。カマドは東辺壁から検出されている。僧寺編年VIII期の所産と考えられる。

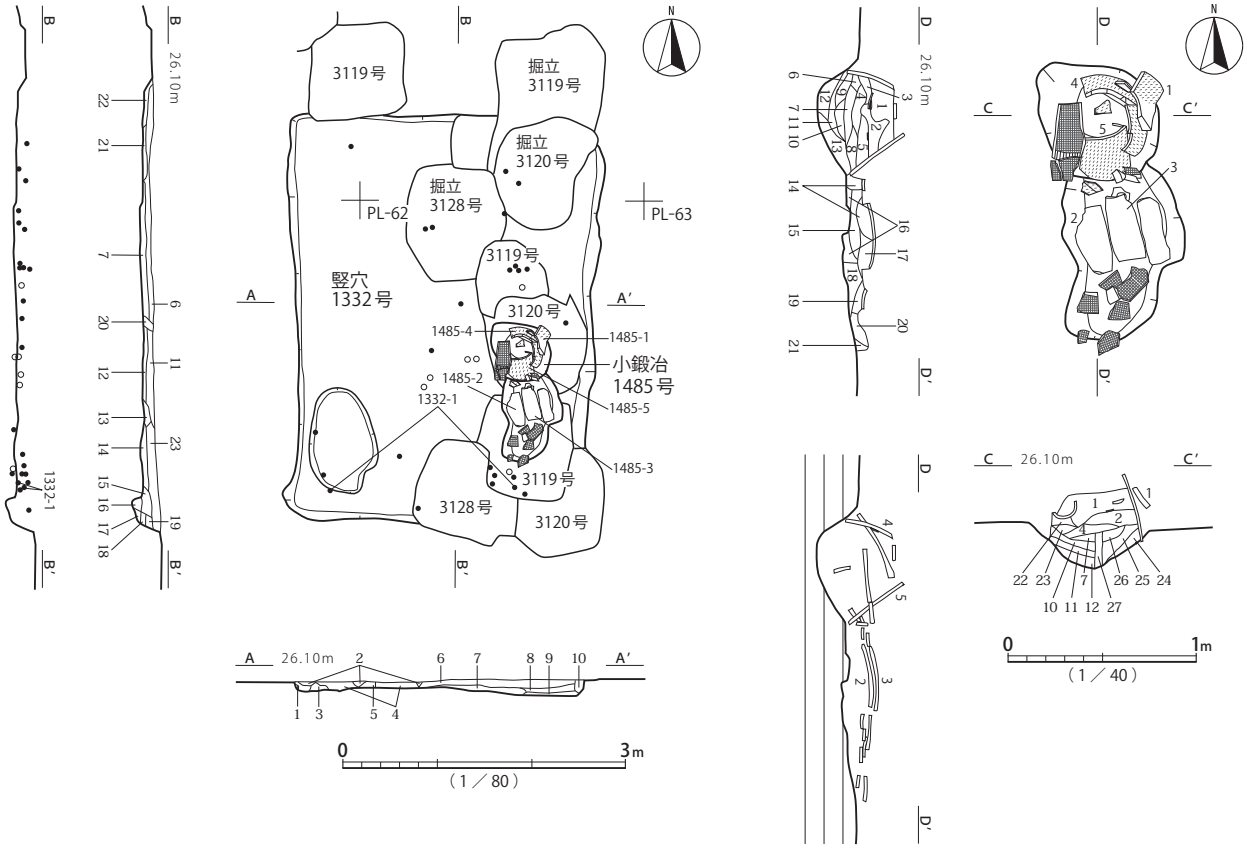
実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2は行基葺式の丸瓦で、いずれも出土位置は明確でない。

竪穴 1334 号　（Fig.193・194、PL.41・42）〔僧 I 第 321〜324 図〕

北辺部PL−84を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.84×3.10m、遺構下端面積は6.6㎡、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−9°−Eである。カマドは北辺壁ほぼ中央から検出されている。僧寺編年VI期

竪穴 1332 号、小鍛冶 1485 号



竪穴1332 号

1	暗褐色土	褐色土を多量に含む。
2	暗褐色土	ローム粒を含む。
3	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
4	黒褐色土	暗褐色土・ローム粒を含み、土器粉・炭粉も少量混じる。
5	黒褐色土	ローム粒を含み、土器粉・炭粉も少量混じる。
6	暗褐色土	ローム粒・粘土粒を含み、土器粉・炭粉も少量混じる。
7	黒褐色土	ローム粒を含み、土器粉もわずかに混じる。
8	黒褐色土	ローム粒を含み、土器粉・炭粉が少量、粘土粒がわずかに混じる。
9	黒褐色土	ローム粒・粘土粒を含み、土器粉・炭粉も少量混じる。
10	暗褐色土	褐色土を含み、ロームブロックも少量混じる。
11	暗褐色土	ローム粒を含み、小ロームブロックが少量、粘土微粒・炭粉・土器粉がわずかに混じる。
12	黒褐色土	暗褐色土・ローム粒を少量含み、粘土微粒・炭粉・土器粉もわずかに混じる。
13	黒褐色土	ローム粒・ロームブロックを含み、暗褐色土が少量、粘土微粒・土器粉がわずかに混じる。
14	黒褐色土	
15	黒褐色土	ローム粒を含み、粘土粒・炭粒もわずかに混じる。
16	黒褐色土	ローム粒を含み、粘土粒もわずかに混じる。
17	暗褐色土	ローム粒・小ロームブロックを多く含み、黒褐色土も混じる。
18	黒褐色土	ローム粒・小ロームブロックを多量に含む。
19	黒褐色土	黒色土を含み、ローム粒・小ロームブロックも少量混じる。
20	黒褐色土	暗褐色土を含み、ローム粒が多量、土器粉がわずかに混じる。
21	暗褐色土	黒褐色土・ローム粒を含み、土器粉・粘土粒もわずかに混じる。
22	暗褐色土	ローム粒・粘土粒を少量含む。
23	暗褐色土	ローム粒を含み、土器粉・粘土粒もわずかに混じる。

小鍛冶1485 号

1	黒褐色土	ローム粒を少量含み、炭化粒・小ロームブロックもわずかに混じる。
2	黒褐色土	焼土を含み、炭化粒・粘土もわずかに混じる。
3	黒褐色土	粘土粒を少量含み、焼土もわずかに混じる。
4	黒褐色土	焼土を多量に含み、焼土ブロック・粘土もわずかに混じる。
5	黒褐色土	焼土・粘土粒を含む。
6	黒褐色土	焼土粒・粘土粒をわずかに含む。
7	暗赤褐色土	焼土を多量に含み、粘土・焼土ブロックも混じる。
8	黒褐色土	焼土粒・粘土粒をわずかに含む。
9	黒褐色土	ローム粒・粘土粒を少量含み、小ロームブロックもわずかに混じる。
10	黒褐色土	焼土・ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
11	黒褐色土	ローム粒・粘土を少量含み、焼土もわずかに混じる。
12	黒褐色土	ローム粒を少量含み、粘土粒・炭化粒もわずかに混じる。
13	暗褐色土	黒褐色土を多量に含み、ローム粒が少量、炭化粒がわずかに混じる。
14	黒褐色土	焼土粒・粘土粒・ローム粒をわずかに含む。
15	暗褐色土	黒褐色土・焼土粒・粘土粒・ローム粒を少量含む。
16	黒褐色土	ローム粒を少量含み、焼土粒もわずかに混じる。
17	黒褐色土	粘土粒を少量含み、焼土粒・炭化粒もわずかに混じる。
18	黒褐色土	ローム粒・焼土粒を少量含み、粘土粒・炭化粒もわずかに混じる。
19	黒褐色土	ローム粒・焼土粒をわずかに含む。
20	黒褐色土	ローム粒をわずかに含む。
21	暗褐色土	ローム粒を含み、褐色土も少量混じる。
22	暗褐色土	粘土粒を多量に含み、焼土も混じる。
23	暗乳褐色土	粘土を多量に含み、焼土粒も少量混じる。
24	黒褐色土	粘土粒・ローム粒をわずかに含む。
25	暗褐色土	黒褐色土・ローム粒を含み、粘土粒が少量、炭化粒がわずかに混じる。
26	黒褐色土	ローム粒・焼土粒を含み、炭化粒もわずかに混じる。
27	黒褐色土	ローム粒を少量含む。

Fig.187　竪穴1332号(1) 遺構、小鍛冶1485号(1) 遺構



ph.1　1332号　出土状況 1



ph.2　1485号　出土状況 2・3・4・5

竪穴 1332号



Fig.188　竪穴1332号(2) 遺物・調査状況、小鍛冶1485号(2) 調査状況

の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はⅣ型式の均整唐草文軒平瓦、2は塼である。1は直線顎で、凸面には格子叩き目が残る。いずれも床面上からの出土である。

竪穴 1335 号 a・b　（Fig.194）〔僧 I 第 321・322・324 図〕

北辺部PL−97を中心に位置する。竪穴1373号、土坑1443号と重複し、本遺構の方が1373号よりも新しいと思われるが、1443号との関係は明確でない。

a・bがあり、いずれかが建替えと考えられるが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。平面形態は、aは胴張り気味の方形を呈する。bは方形を呈するものと考えられるが、北辺

小鍛冶 1485号

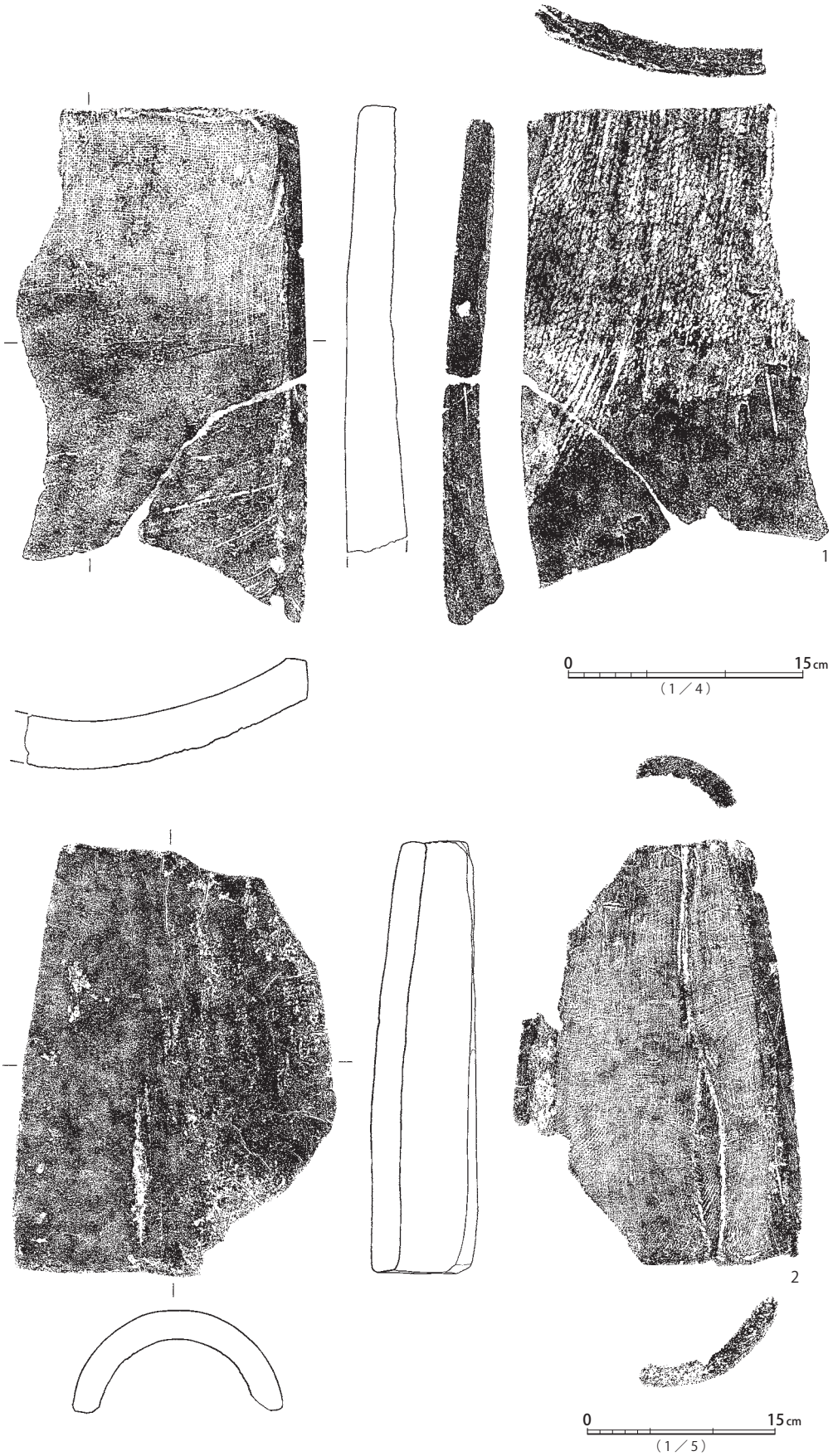


Fig.189　小鍛冶1485号(3) 遺物

小鍛冶 1485号

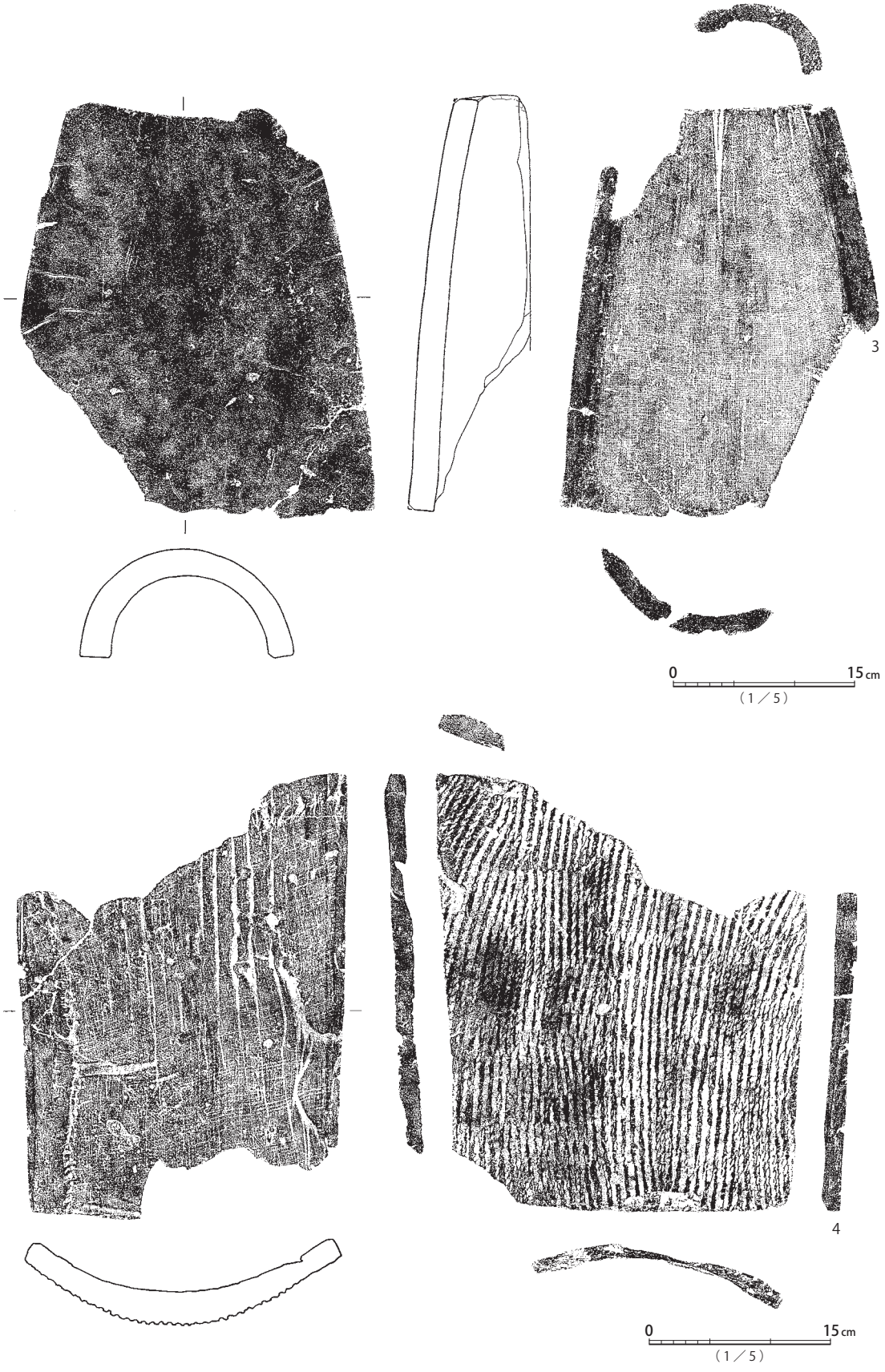


Fig.190　小鍛冶1485号(4) 遺物

小鍛冶 1485 号



Fig.191　小鍛冶1485号(5) 遺物

壁が検出されたのみで、明確でない。規模は、aは2.66×3.10m、bは副軸長2.56mで、確認面からの深さはいずれも0.21mを測る。主軸方位はN−3°−Eである。カマドは北辺壁から検出されている。僧寺編年VII期の所産と考えられる。

遺構中央付近とbのカマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1339 号　（Fig.195、PL.42）〔僧 I 第 328・329 図〕

北辺部PL−47を中心に位置する。掘立柱建物3150号、竪穴1340号（下層）、土坑1465・1466号、土壙墓1376号と重複する。新旧関係は、本遺構の方が1340号よりも新しく、1465・1466号よりも古い。3150・1376号との関係は、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

平面形態はやや横長の方形を呈し、規模は2.76×3.70m、確認面からの深さは0.04mを測る。北西隅が検出されないが、遺構下端面積は7.1㎡程度になるものと思われる。主軸方位はN−101°−Eである。カマドは東辺壁ほぼ中央から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド内を中心に瓦片が出土する。実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2は玉縁式の丸瓦である。2はカマド前面の床面上からの出土で、1は出土位置が明確でない。

竪穴 1333号

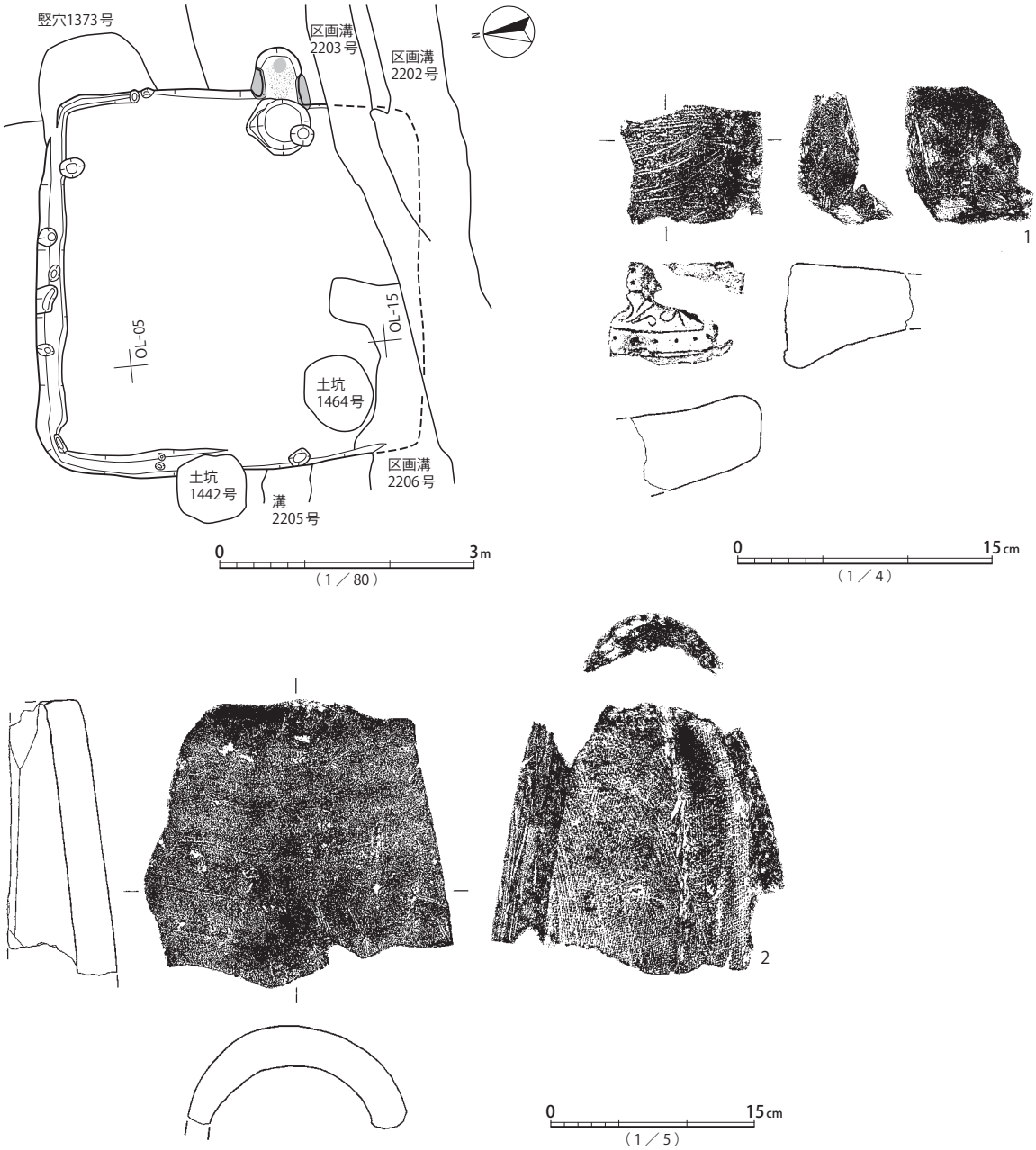


Fig.192　竪穴1333号 遺構遺物

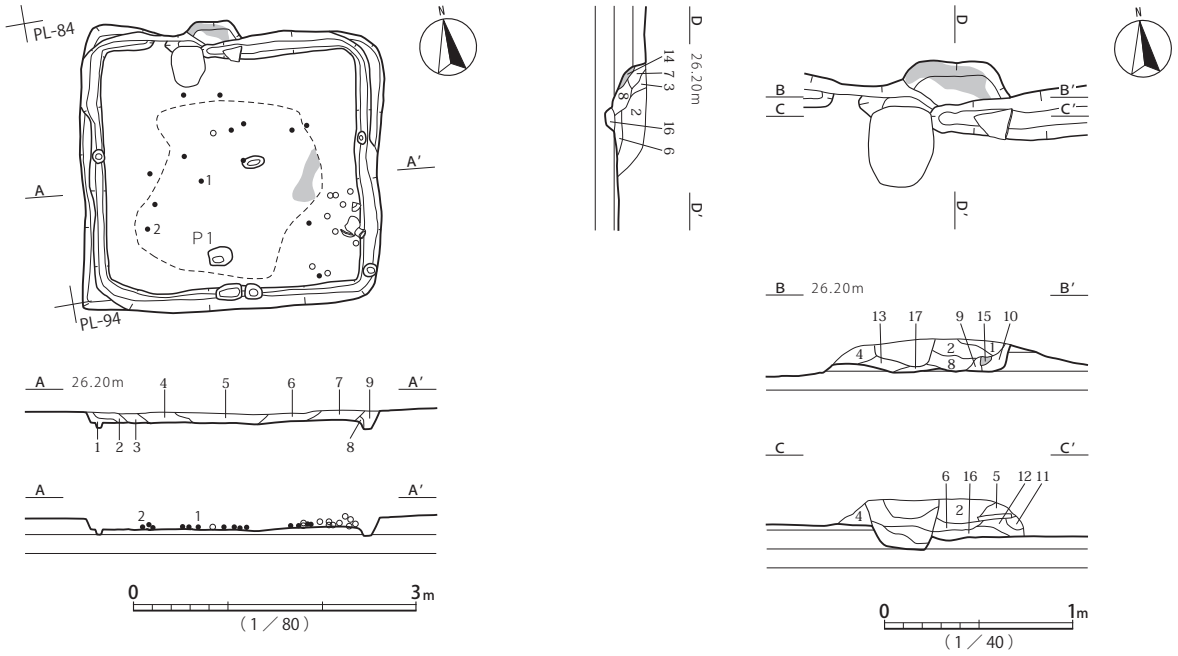
竪穴 1342 号　（Fig.196～198、PL.42）〔僧Ⅰ第 325～327 図〕

北辺部PL−68を中心に位置する。掘立柱建物3128号、竪穴1343号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

平面形態は横長の方形を呈するものと考えられるが、南辺壁が検出されないため、明確でない。規模は主軸長1.96m、確認面からの深さは0.34mを測る。北辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−100°−Eである。カマドは東辺壁から検出され、南東隅に位置するものと考えられる。僧寺編年Ⅸ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1・2は玉縁式の丸瓦、3は行基葺式の丸瓦、4は平瓦である。1は凸面に細かい

竪穴 1334 号



1　暗褐色土　黒褐色土を含む。
2　黒褐色土　暗褐色土を少量含み、炭化粒もわずかに混じる。
3　暗褐色土　ローム粒・黒褐色土を含む。
　　部分的に褐色土が混じり、炭化粒・粘土粒も少量混じる。
4　黒褐色土　暗褐色土を含み、部分的に褐色土も少量混じる。
　　ローム粒が少量、粘土粒・炭化粉がわずかに混じる。
5　黒褐色土　暗褐色土を少量含み、ローム粒・粘土粒・炭化粉も少量混じる。
6　黒褐色土　暗褐色土を少量含み、ローム粒・粘土粒・
　　炭化粉もわずかに混じる。
7　黒褐色土　暗褐色土を含み、部分的に褐色土も混じる。
　　ローム粒・炭化粉・土器粉もわずかに混じる。
8　褐色土　暗褐色土を含む。
9　暗褐色土　黒褐色土・褐色土を含む。

カマド
1　黒褐色土　焼土粒を少量含み、粘土粒も混じる。
2　黒褐色土　粘土粒を少量含む。
3　暗褐色土　粘土粒を少量含み、焼土粒も混じる。
4　黒褐色土　粘土粒・ローム粒を少量含み、暗褐色土も混じる。
5　暗褐色土　粘土粒・黒褐色土を含む。
6　黒褐色土　暗褐色土・粘土粒を少量含む。
7　褐色土　粘土粒・焼土粒をわずかに含む。
8　黒褐色土　灰を少量含み、粘土粒も混じる。
9　灰褐色土　焼土・灰を少量含む。
10　暗褐色土　黒褐色土を少量含み、粘土粒も混じる。
11　黒褐色土
12　暗褐色土　ロームを少量含み、黒褐色土も混じる。
13　暗褐色土　粘土粒を少量含み、黒褐色土も混じる。
14　粘土　黒褐色土との混合。
15　粘土
16　暗褐色土　粘土粒を少量含み、褐色土も混じる。
17　暗褐色土　ソフトロームを含む。



ph.1　出土状況 1・2

Fig.193　竪穴1334号(1) 遺構・調査状況

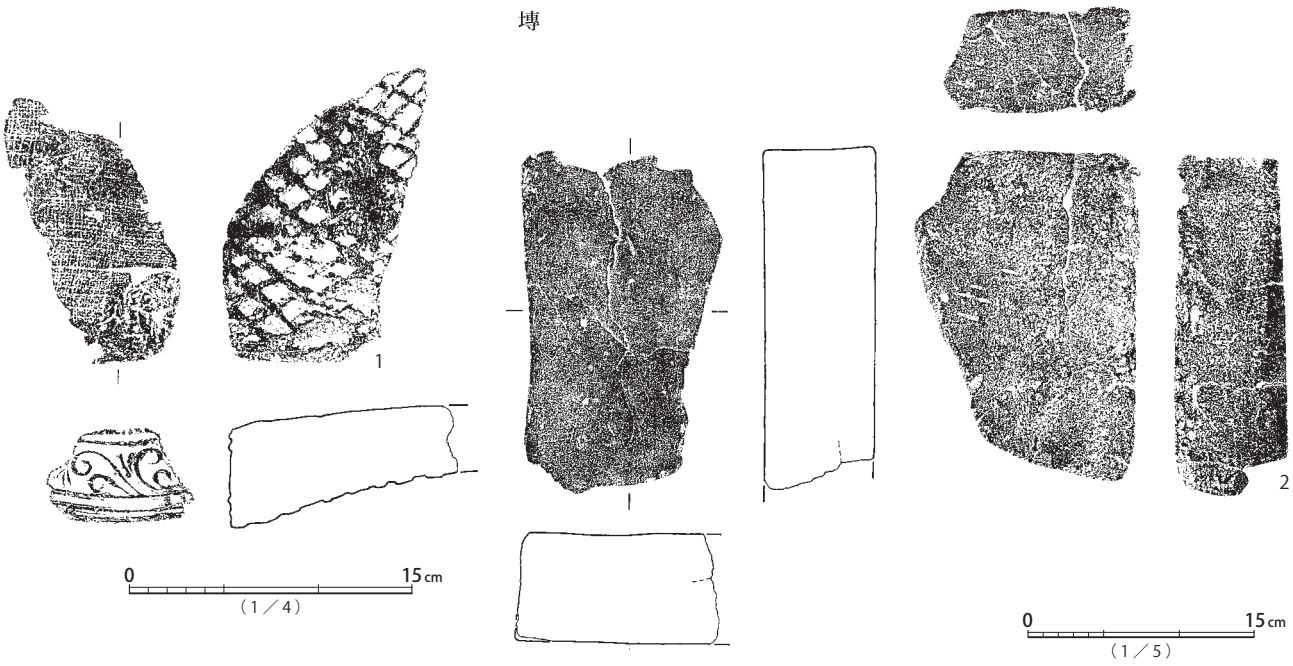
原体の縄叩き目を残す。両側面と広端面は凹面側が削られ、断面は鋭角になる。南田 1 号ないし 4 号窯の製品である。2〜4 はカマド内からの出土で、構築材として利用されたものと考えられる。

竪穴 1345 号　（Fig.199〜201、PL.42）〔僧 I 第 330・331 図〕

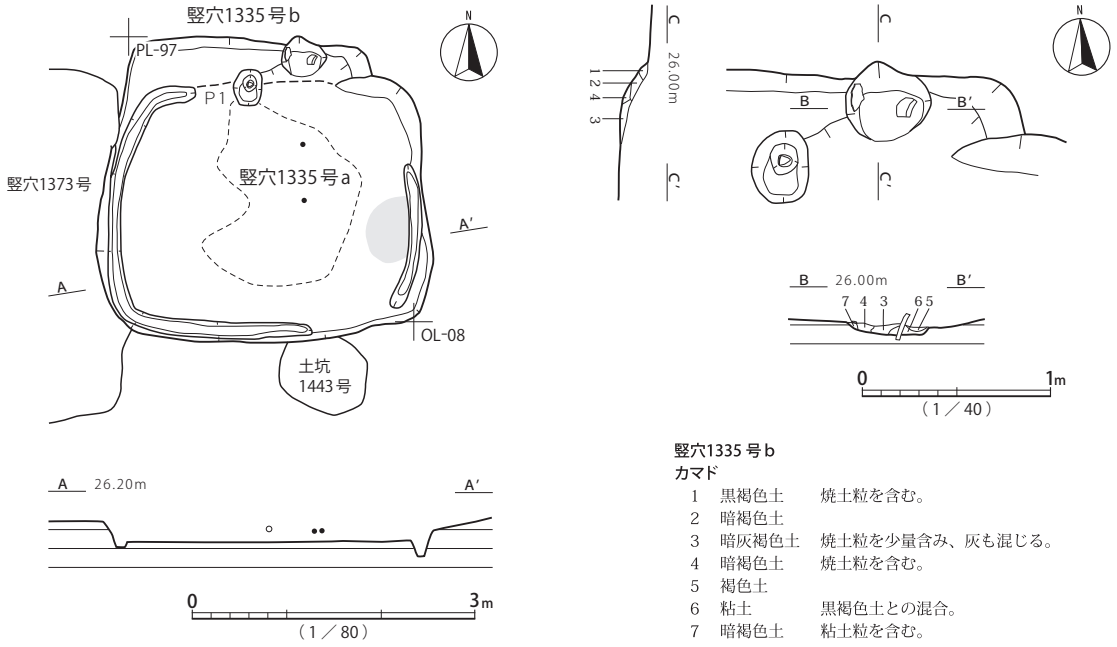
北辺部PM−92を中心に位置する。掘立柱建物3127号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は隅丸気味の長方形を呈し、規模は4.00×5.90m、遺構下端面積は17.3㎡、確認面からの深さは0.12mを測る。主軸方位はN−3°−Wである。カマドは北辺壁西隅付近から検出されている。

竪穴 1334 号



竪穴 1335 号a・b



竪穴1335 号b
カマド

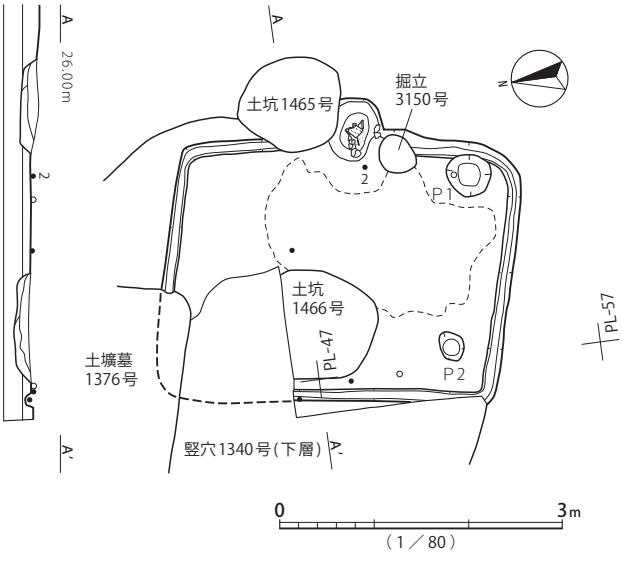
1	黒褐色土	焼土粒を含む。
2	暗褐色土	
3	暗灰褐色土	焼土粒を少量含み、灰も混じる。
4	暗褐色土	焼土粒を含む。
5	褐色土	
6	粘土	黒褐色土との混合。
7	暗褐色土	粘土粒を含む。

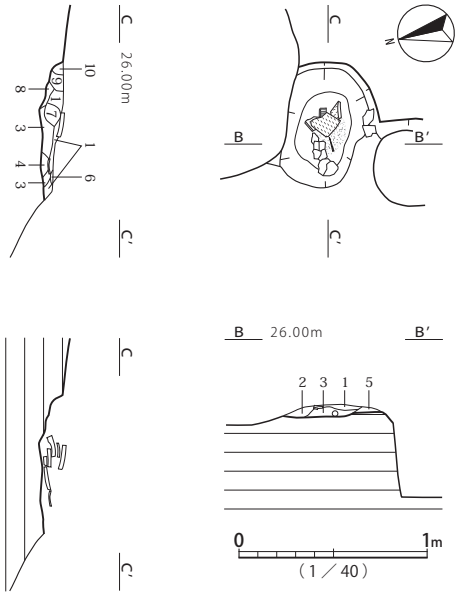
Fig.194　竪穴1334号(2) 遺物、竪穴1335号a・b 遺構

僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

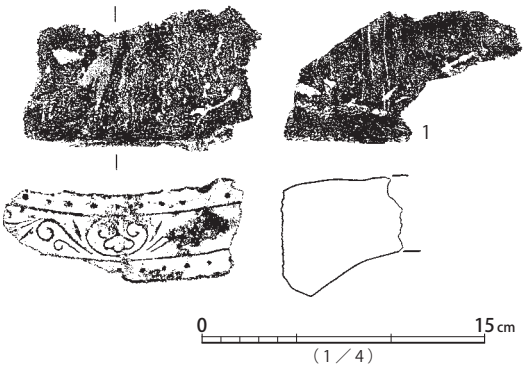
実測可能遺物は、1は軒丸瓦、2～4は行基葺式の丸瓦、5は平瓦である。2の凹面には、重なり合う布端部痕が認められ、成形台には右側を上にして布が巻き付けられていたことがわかる。2・4・5はいずれもカマド付近からの出土である。

竪穴 1339号





1　黒褐色土　粘土粒をわずかに含む。
2　暗褐色土　ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
3　黒褐色土　灰を少量含み、焼土粒もわずかに混じる。
4　暗褐色土　粘土粒を少量含む。
5　暗褐色土　ロームを少量含み、黒褐色土も混じる。
6　焼土　粘土を含む。
7　黒褐色土　粘土を多く含む。
8　暗灰褐色土　焼土粒をわずかに含む。
9　明褐色土　ローム粒を多く含む。
10　黒褐色土



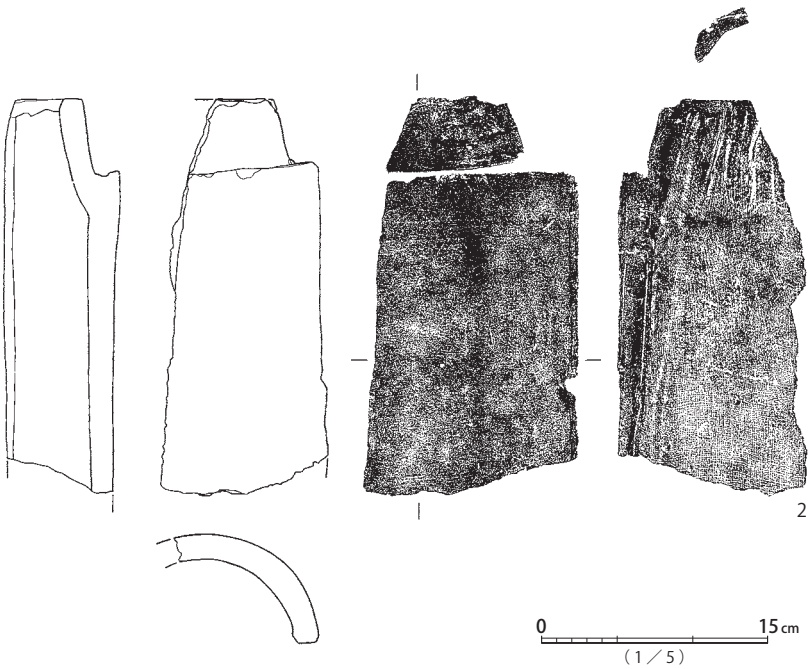
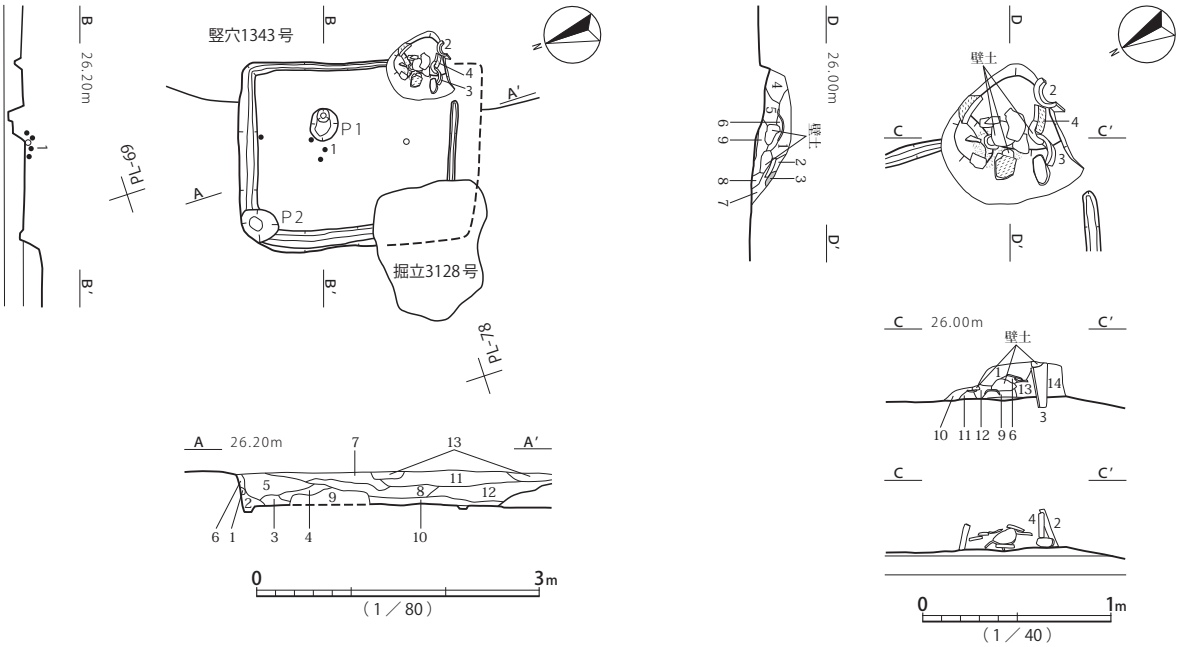


Fig.195　竪穴1339号 遺構遺物

竪穴 1342号



1	黄褐色土	
2	暗褐色土	小ロームブロックを少量含み、黒褐色土も混じる。
3	黒色土	ロームブロックを含む。
4	黒色土	焼土粒を少量含み、粘土も混じる。
5	黒褐色土	
6	暗褐色土	ロームを含む。
7	暗褐色土	黒色土を少量含む。
8	黒褐色土	粘土粒・焼土粒を少量含み、ロームブロックも混じる。
9		粘土と焼土の混合。
10	黒褐色土	小ロームブロックを少量含み、粘土粒も混じる。
11	黒褐色土	ローム粒を含む。しまりあり。
12	黒褐色土	ローム粒を含む。11より色調暗い。
13	黒褐色土	粘土粒を少量含み、ローム粒も混じる。しまりあり。色調明るい。

カマド

1	黒褐色土	粘土粒を少量含み、壁土の小片も混じる。
2	暗褐色土	粘土細粒を少量含む。
3	粘土	
4	黒褐色土	ローム粒を少量含み、粘土細粒も混じる。
5	暗灰褐色土	粘土粒を含む。
6	黒褐色土	粘土粒を含む。
7	黒褐色土	粘土粒・灰を含む。
8	黒褐色土	粘土粒・灰を少量含む。
9	灰褐色土	焼土粒・灰を少量含む。
10	黒褐色土	粘土を含み、灰も少量混じる。
11	黒褐色土	焼土粒を少量含み、粘土粒もわずかに混じる。
12	暗灰褐色土	焼土粒を少量含む。
13	黒褐色土	粘土粒を含み、ローム粒も少量混じる。
14	暗褐色土	粘土粒を含む。



ph.1　出土状況 2・3・4



ph.2　カマド 2・3・4

Fig.196　竪穴1342号(1) 遺構・調査状況

竪穴 1342号

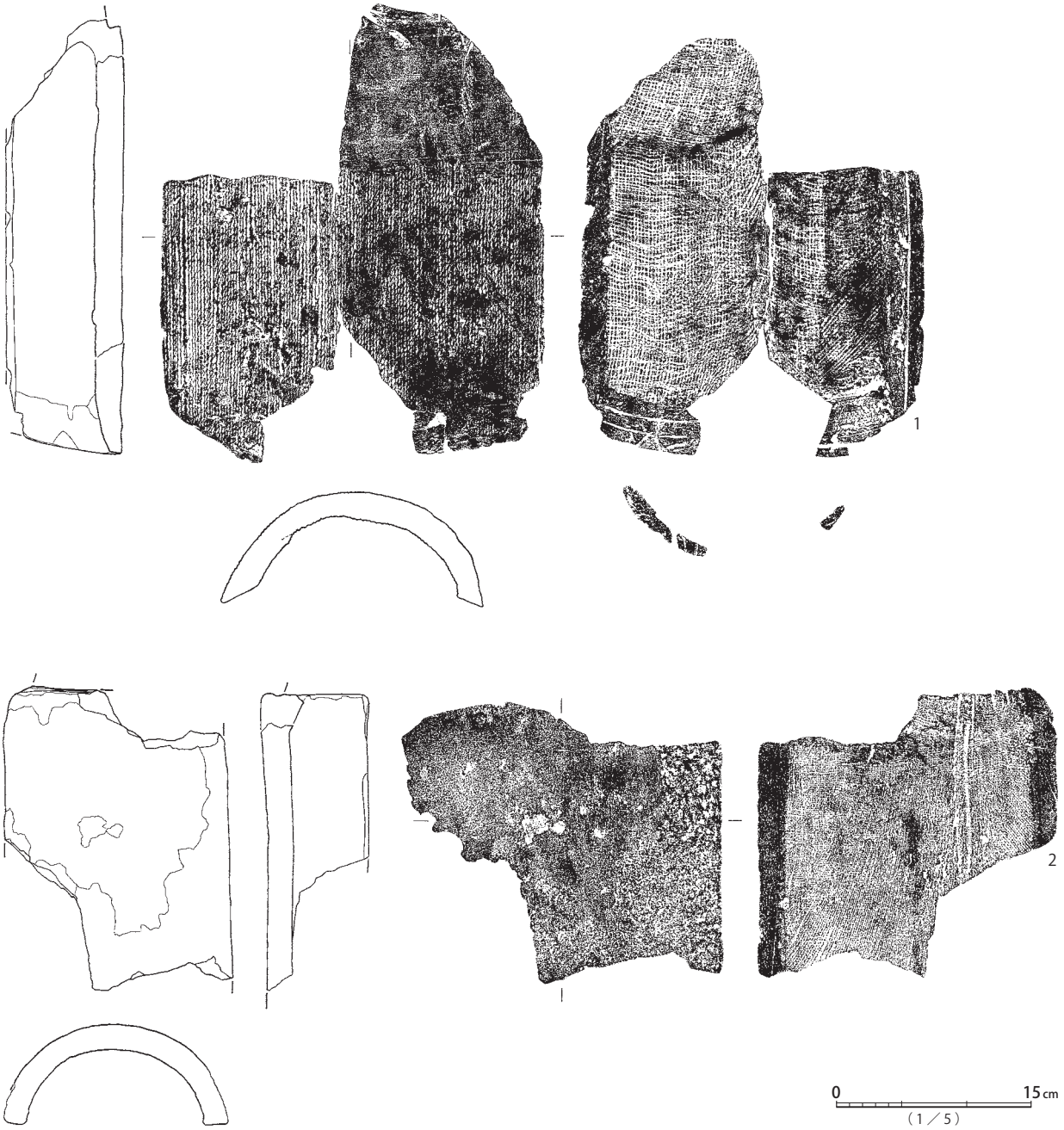
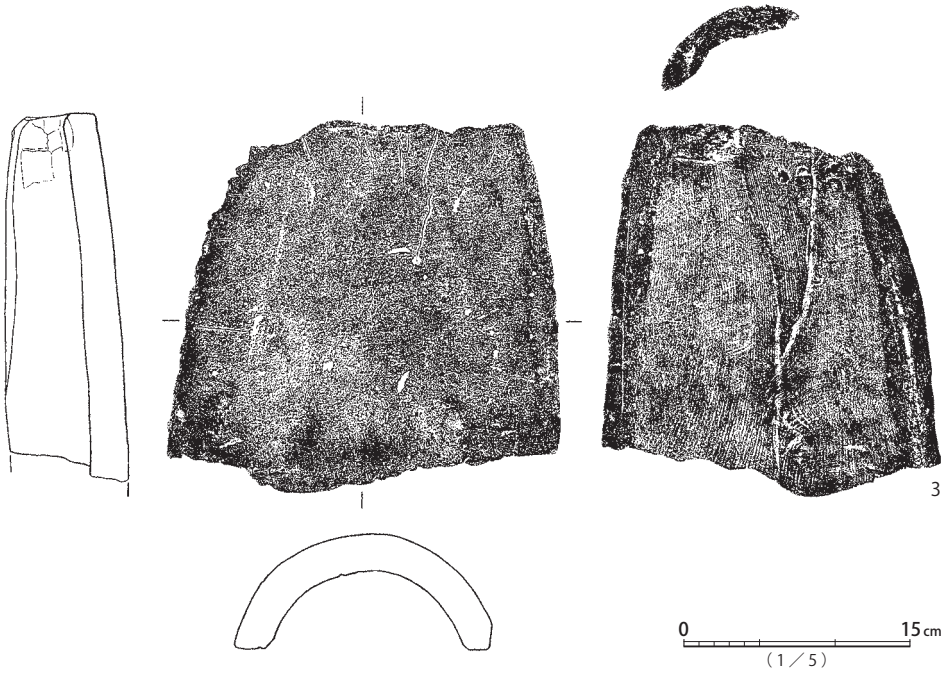


Fig.197　竪穴1342号(2) 遺物

竪穴 1342号



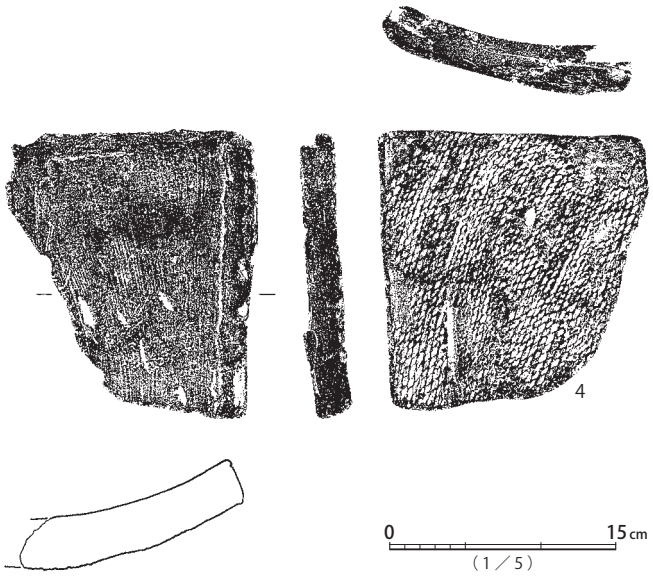
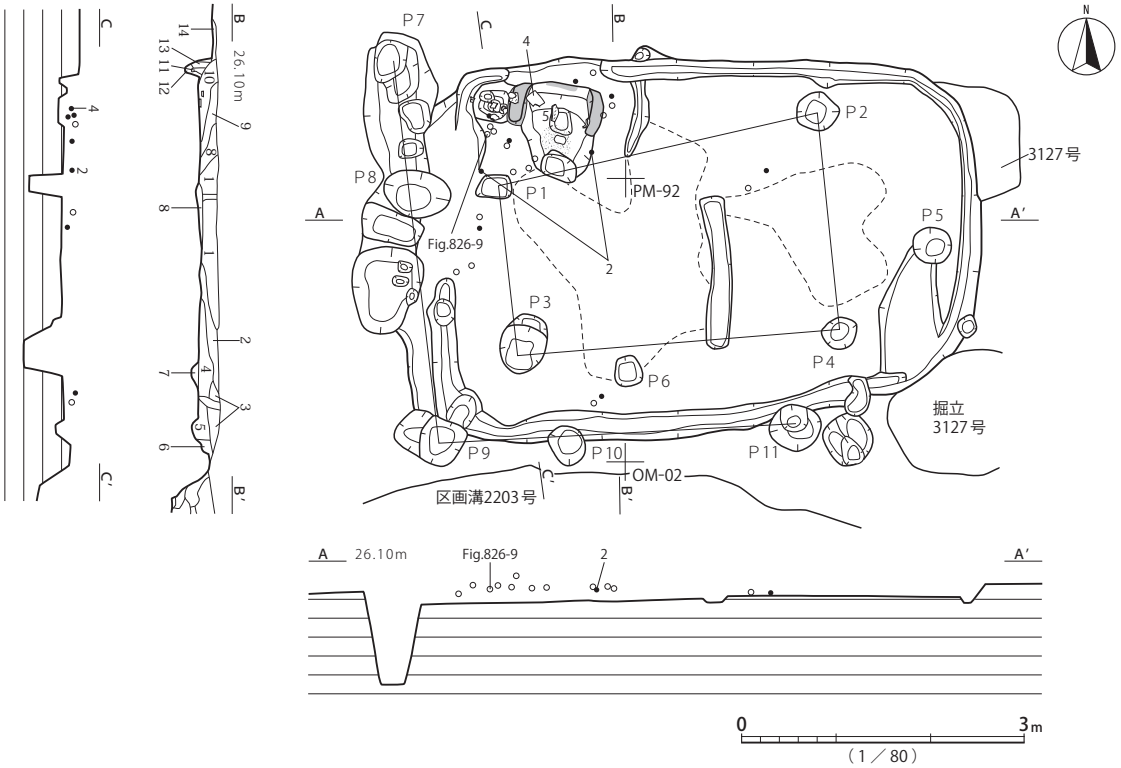
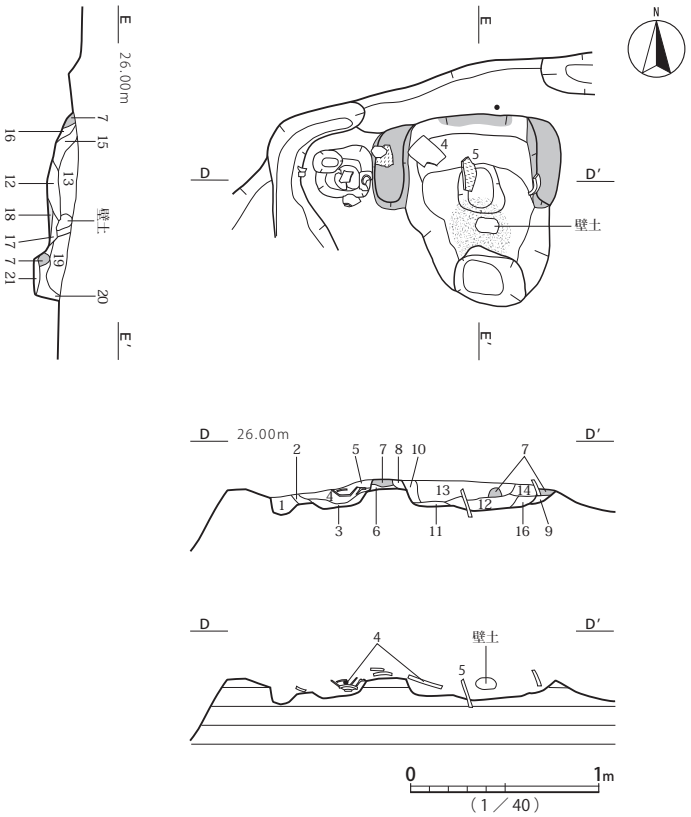


Fig.198　竪穴1342号(3) 遺物

竪穴 1345号





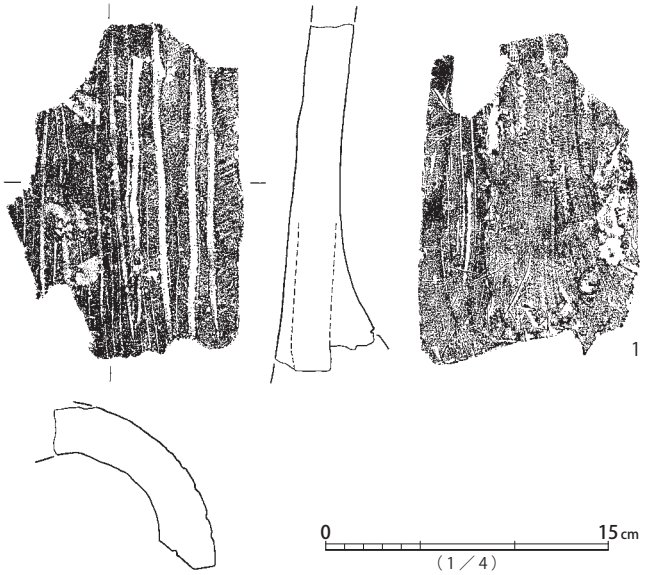
1 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を少量含む。
2 黒褐色土 ローム粒を少量含み、炭化粒・粘土粒もわずかに混じる。
3 黒褐色土 暗褐色土・ローム粒を少量含む。
4 黒褐色土 暗褐色土・ローム粒を含む。
5 暗褐色土 ローム粒を含み、黒褐色土も少量混じる。
6 暗褐色土 黒褐色土を含み、ローム粒も少量混じる。
7 褐色土 ローム粒を多量に含み、暗褐色土が少量、炭化粒がわずかに混じる。
8 黒褐色土 ローム粒を含み、粘土粒もわずかに混じる。
9 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を少量含み、炭化粒もわずかに混じる。
10 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を含み、暗褐色土が少量、炭化粒がわずかに混じる。
11 黒褐色土 ローム粒を含む。
12 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。
13 暗褐色土 ローム粒を含む。
14 褐色土 黒褐色土を少量含む。

カマド

1 黒褐色土 ローム粒を含む。
2 褐色土
3 暗褐色土 粘土粒をわずかに含む。
4 暗灰褐色土 粘土粒を含み、ローム粒が少量、焼土粒がわずかに混じる。
5 暗褐色土 粘土粒を含む。
6 褐色土 粘土との混合。
7 粘土
8 黒褐色土 粘土を多く含む。
9 黒褐色土 粘土との混合。
10 暗褐色土 粘土粒・ローム粒を少量含む。
11 黒褐色土 焼土粒を含む。
12 黒褐色土 焼土粒・粘土粒を少量含む。
13 黒褐色土 粘土粒を含む。
14 黒褐色土 黒色土を含み、粘土粒も少量混じる。
15 暗灰褐色土 粘土粒を少量含み、焼土粒もわずかに混じる。
16 黒褐色土 粘土を含む。
17 灰褐色土 灰・焼土粒を少量含む。
18 焼土 火床部。
19 黒褐色土 粘土・壁土小ブロックを含む。
20 黒褐色土 焼土粒・灰を少量含む。
21 暗褐色土 小ロームブロックを含む。

Fig.199 竪穴1345号(1) 遺構

竪穴 1345 号



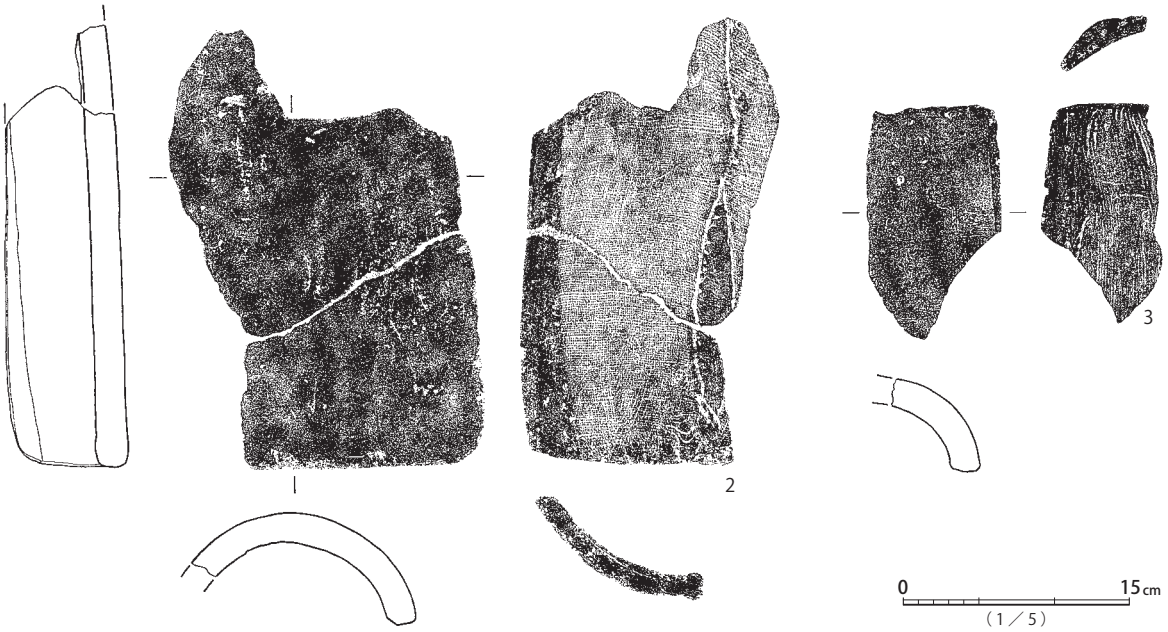


Fig.200　竪穴1345号(2) 遺物

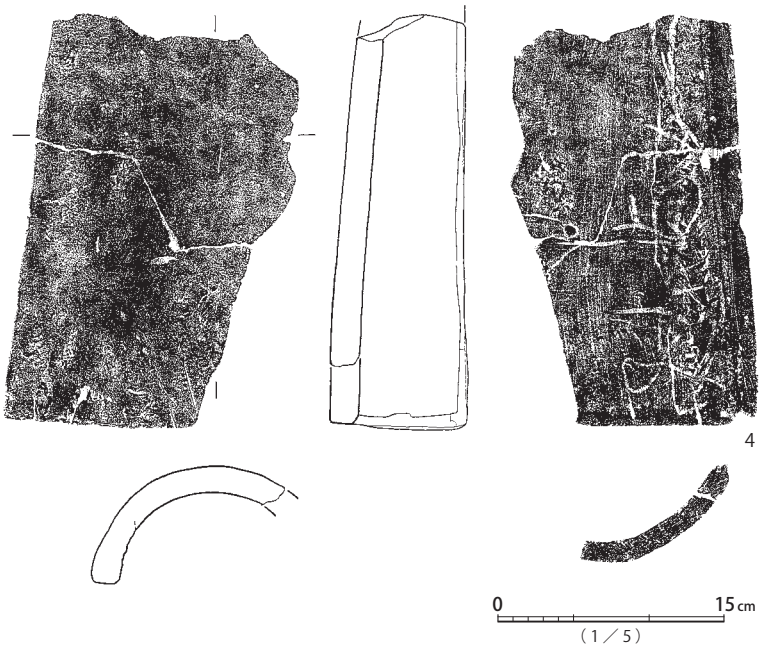
竪穴 1348 号　（Fig.202・203、PL.42）〔僧 I 第 332 図〕

北辺部QL−99を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長方形を呈し、規模は4.20×2.70m、遺構下端面積は8.3㎡、確認面からの深さは0.22mを測る。主軸方位はN−88°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2は平瓦、3は行基葺式の丸瓦である。2の凸面には叩き板の端部痕が明瞭に残り、部分的に木目痕も認められる。2・3はカマド内からの出土で、構築材として利用されたものと考えられる。

竪穴 1345 号



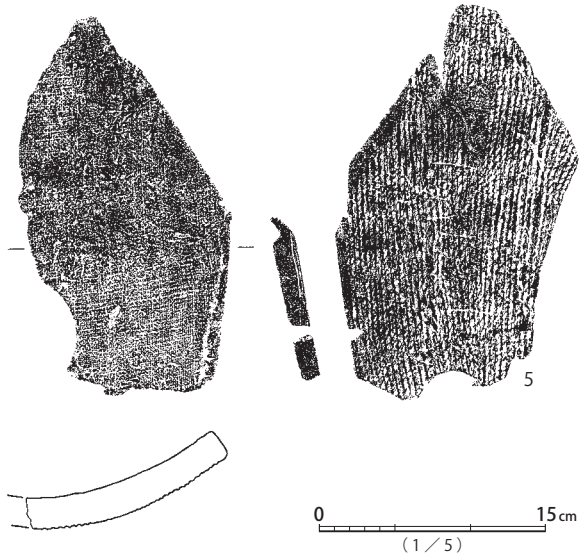


Fig.201　竪穴1345号(3) 遺物

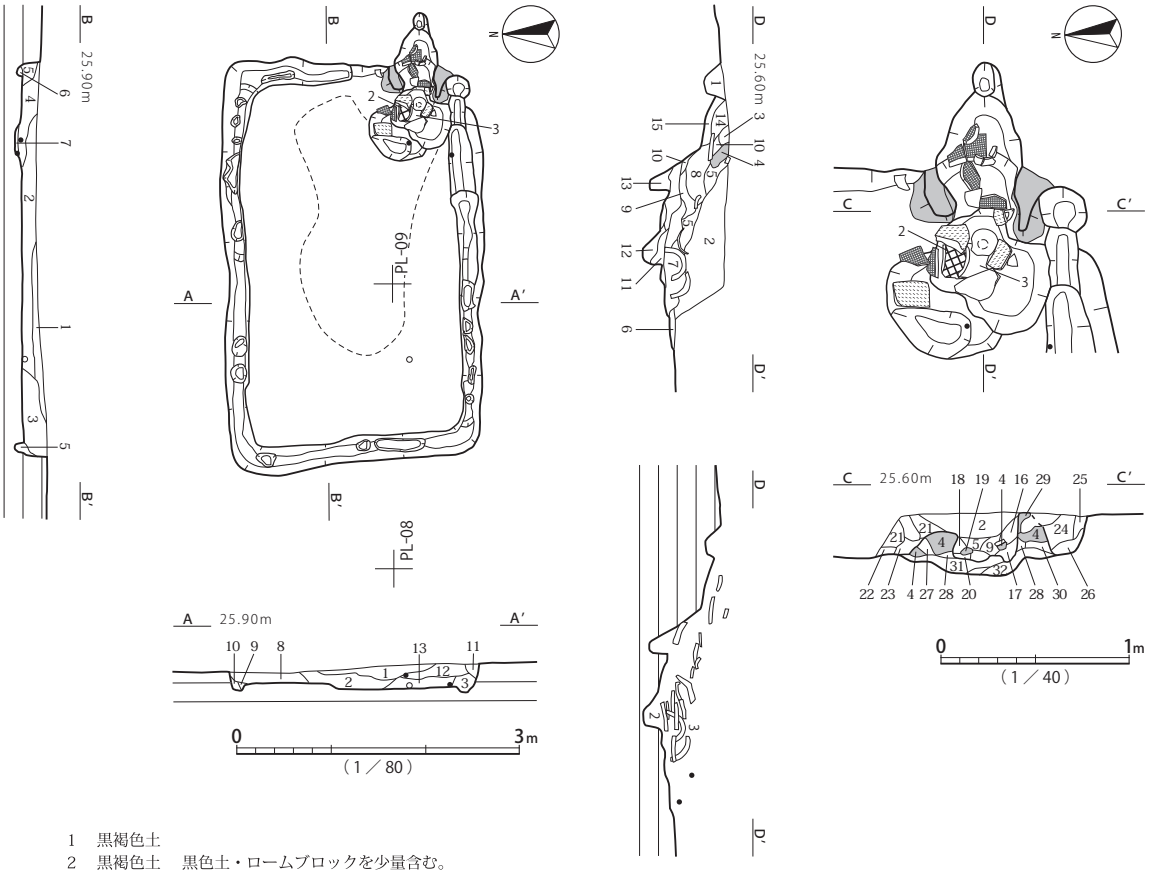
竪穴 1349 号　（Fig.204～206、PL.42・43）〔僧Ⅰ第 333～335 図〕

北辺部OM−07を中心に位置する。塀3134号、区画溝2202・2203号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は方形を呈する。確認面からの深さは0.40mを測り、南辺・西辺壁の一部が検出されないが、規模は5.76×5.80m、遺構下端面積は26.4㎡程度になるものと思われる。主軸方位はN−84°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅱ期の所産と考えられる。

瓦は覆土下層から床面付近に散在し、P3周辺からはまとまって出土している。実測可能遺物は、1はⅠ型式の蓮華文軒丸瓦、2・3はⅠ型式の均整唐草文軒平瓦、4は玉縁式の丸瓦、5は平瓦で、1は遺

竪穴 1348号



1 黒褐色土
2 黒褐色土　黒色土・ロームブロックを少量含む。
3 黒褐色土　ロームブロックを含む。
4 黒褐色土　ローム粒を少量含む。
5 暗褐色土　ローム粒・小ロームブロックを含む。
6 黒褐色土　小ロームブロックを含む。
7 黒褐色土　ロームブロック・黒色土を含む。
8 暗褐色土　黒褐色土・ロームブロックを含む。
9 褐色土　ロームブロックを含む。
10 黒褐色土
11 黒色土　ローム粒を含む。
12 黒褐色土　暗褐色土を含み、ロームブロックも少量混じる。
13 黒褐色土　ローム粒を含む。



ph.1　カマド 2・3

カマド

1 黒褐色土　粘土粒を含み、ローム粒も少量混じる。
2 黒褐色土　ローム粒を含み、粘土粒・小ロームブロックも少量混じる。
3 黒色土
4 粘土
5 黒褐色土　粘土粒を含む。
6 暗褐色土　ローム・黒褐色土を含む。
7 黒褐色土　灰を含み、粘土粒も少量混じる。
8 暗灰褐色土　粘土粒を少量含む。しまりなし。
9 暗褐色土　粘土粒・黒褐色土を少量含む。
10 暗褐色土
11 黒褐色土　ローム粒を含む。
12 褐色土
13 暗褐色土　ロームブロックを少量含む。
14 灰褐色土　粘土粒を多量に含み、ローム粒も少量混じる。
15 暗褐色土　粘土粒を含む。
16 暗灰褐色土　粘土粒を多く含む。
17 暗灰褐色土　灰を少量含み、粘土粒もわずかに混じる。
18 灰褐色土　粘土粒を少量含み、焼土粒もわずかに混じる。粘性あり。
19 粘土　うすく焼土化する。
20 黒褐色土　灰・焼土粒を少量含む。粘性あり。
21 黒褐色土　暗褐色土を含み、粘土粒も少量混じる。
22 暗褐色土　ロームを含み、粘土粒も少量混じる。
23 黒褐色土　粘土粒を含む。
24 黒褐色土　ローム粒・暗褐色土を含み、粘土粒も少量混じる。
25 暗褐色土　ローム粒を含む。
26 褐色土　ロームを含む。
27 黒褐色土　粘土ブロックを含む。
28 暗灰褐色土　粘土を含む。しまりあり。
29 粘土　黒褐色土を含む。
30 灰褐色土　小ロームブロックと粘土粒を含む。
31 暗褐色土　小ロームブロックを含み、粘土粒も少量混じる。
32 暗褐色土　ロームを多く含む。

Fig.202　竪穴1348号(1) 遺構・調査状況

竪穴 1348 号

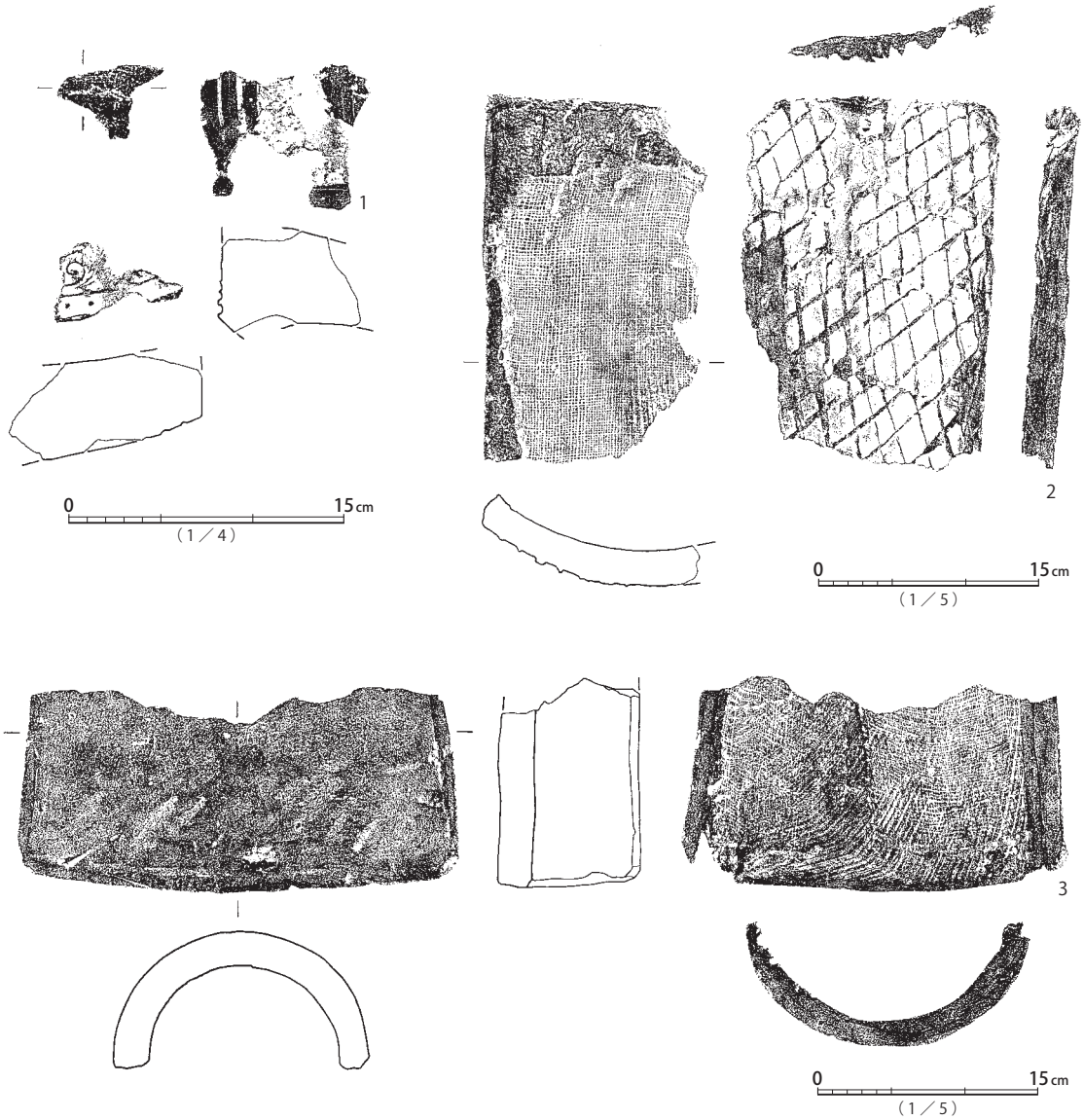


Fig.203　竪穴1348号(2) 遺物

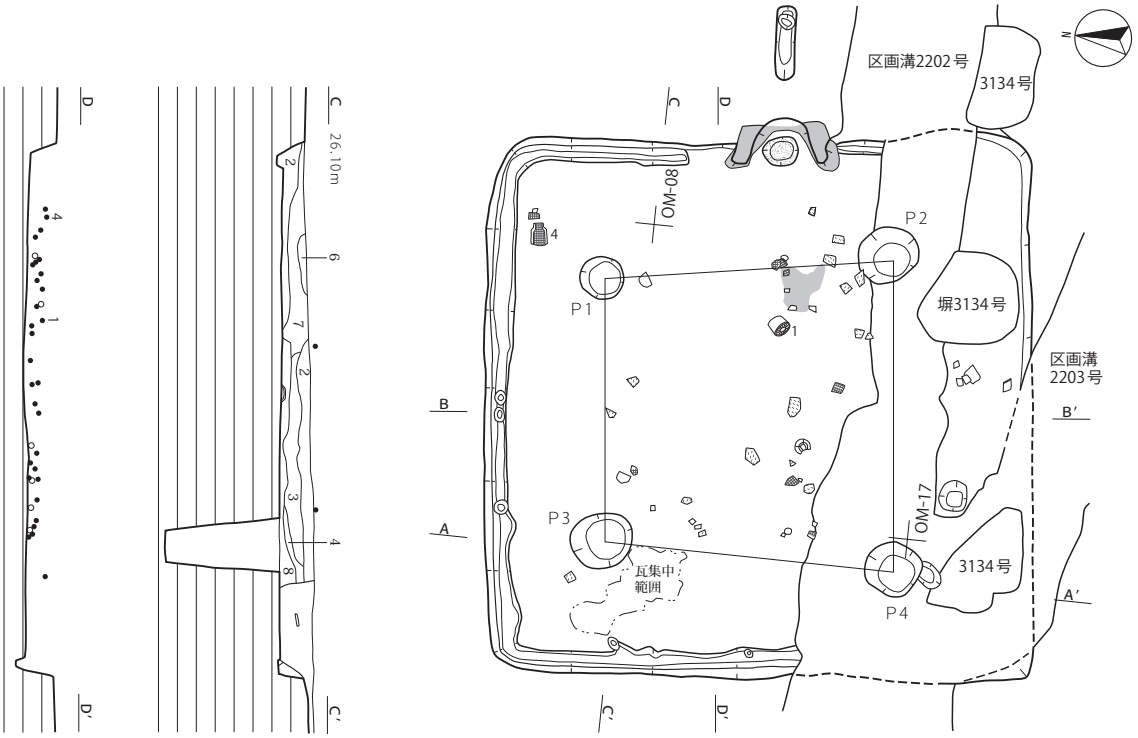
構中央付近、4は北東隅付近からの出土である。なお、本遺構からは、長柄郡刑部郷に関連すると考えられる「〔長〕柄刑田」と墨書で記された土師器杯が出土している。

竪穴 1351 号　（Fig.206、PL.43）〔僧 I 第 336 図〕

北辺部PM−67を中心に位置する。掘立柱建物3125・3179号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

平面形態は、西側が方形を呈するのに対し、東側は不整形となる。確認面からの深さは0.13mを測り、規模は3.18×3.50m、遺構下端面積は9.0㎡程度になるものと思われる。北辺壁を基準とした場合、これと直行する軸の方位はN−2°−Eである。カマドは検出されていない。僧寺編年VII期の所産と考えられる。

竪穴 1349号



1　黒褐色土
2　褐色土　ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒・黒色土を含む。
4　黒褐色土　黒色土・ローム粒・ロームブロックを含む。
5　褐色土　ローム粒を多量に含む。
6　褐色土　黒色土・ローム粒との混合。
7　褐色土　ローム粒・ロームブロックとの混合。
8　暗黄褐色土





ph.1　出土状況 1

ph.2　出土状況 1

Fig.204　竪穴1349号(1) 遺構・調査状況

竪穴 1349号

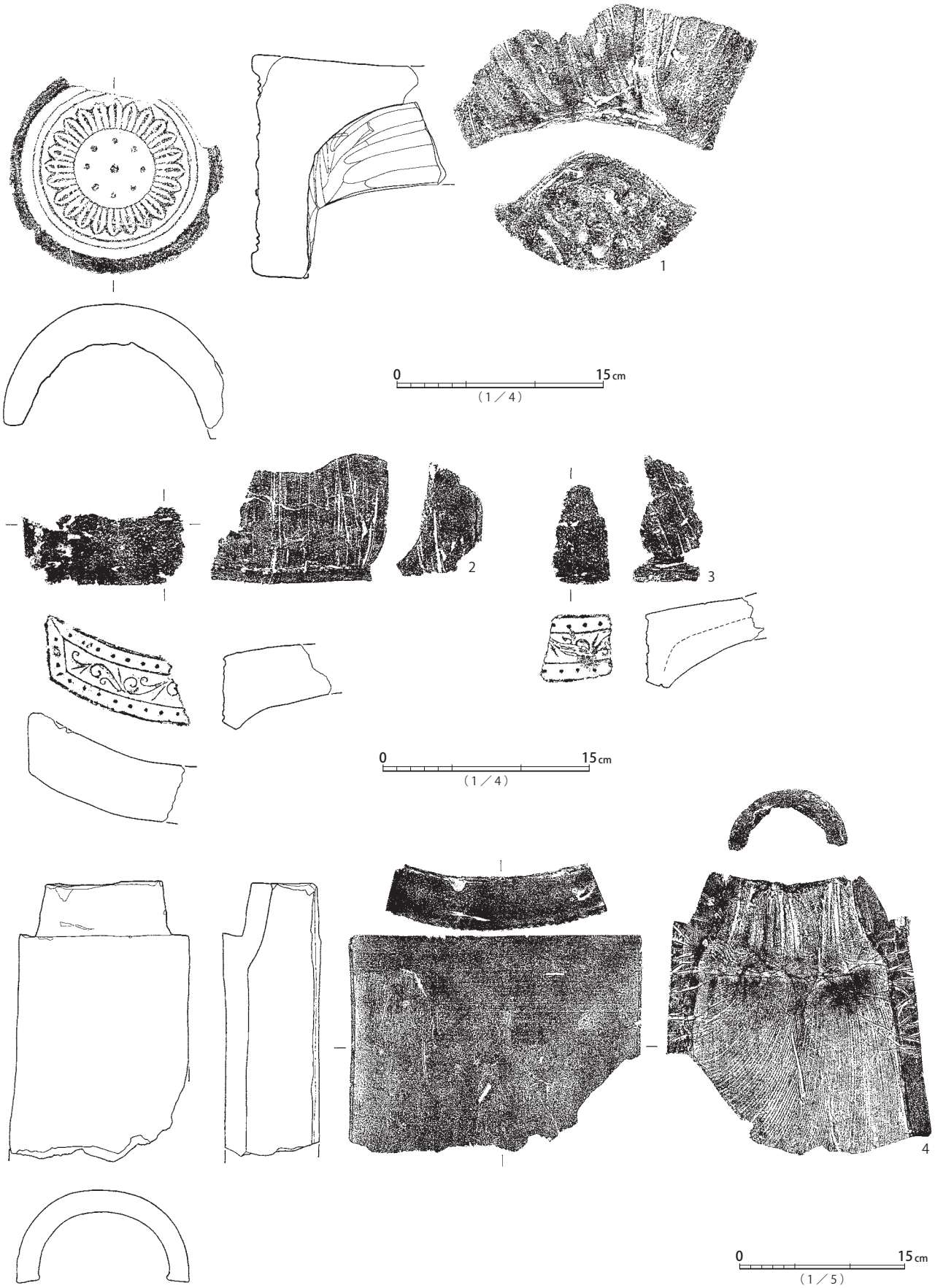
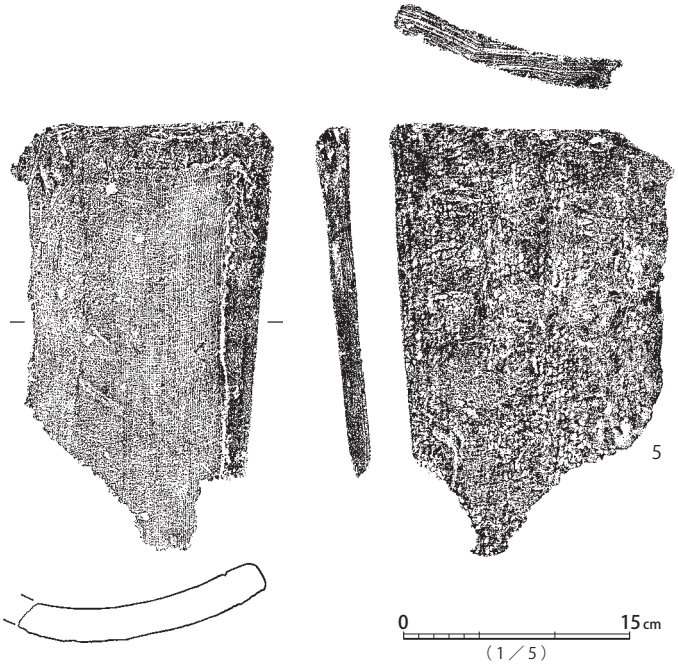


Fig.205　竪穴1349号(2) 遺物

竪穴 1349 号



竪穴 1351 号

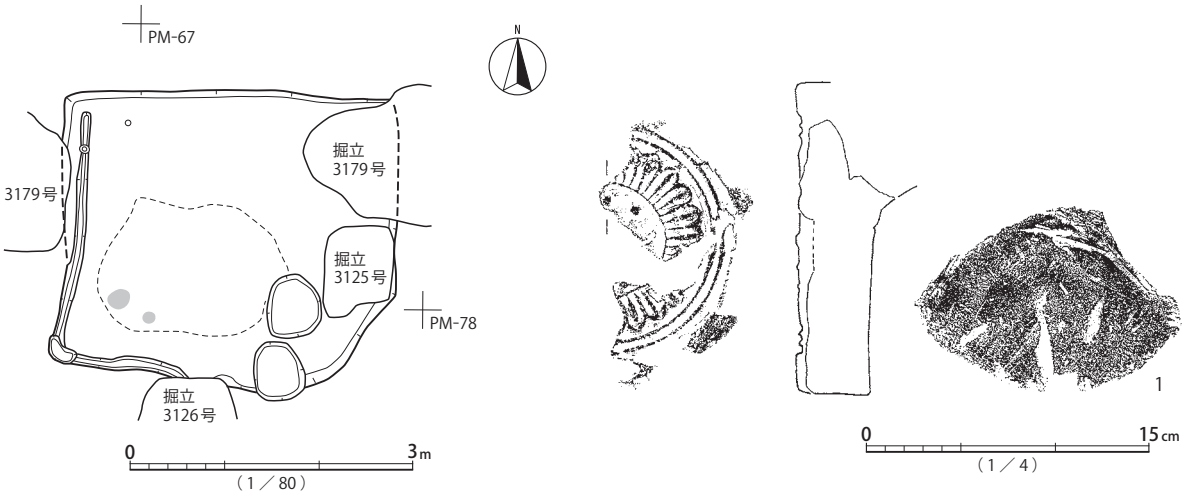


Fig.206　竪穴1349号(3) 遺物、竪穴1351号 遺構遺物

実測可能遺物は 1 の軒丸瓦のみで、I型式の蓮華文である。

竪穴 1353 号　（Fig.207・208）〔僧 I 第 337～339 図〕

北辺部PM−63を中心に位置する。掘立柱建物3127・3128号、竪穴1352号（下層）、土坑1400号と重複する。新旧関係は、本遺構が3127・3128・1352号よりも新しく、1400号よりも古い。

平面形態は長方形を呈する。規模は3.94×3.04m、確認面からの深さは0.24mを測り、遺構下端面積は10.0㎡程度になるものと思われる。主軸方位はN−96°−Eである。カマドは東辺壁中央から

検出されている。僧寺編年IX期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、凸面には斜方向のヘラナデが施され、叩き目は認められない。カマド内からの出土である。

竪穴 1354 号　（Fig.207～209、PL.43・215）〔僧 I 第 337～339 図〕

北辺部PM−62を中心に位置する。掘立柱建物3127・3128号、竪穴1353号と重複し、本遺構の方が3127・3128号よりも新しい。1353号との関係は、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

平面形態は長方形を呈するものと考えられるが、東辺壁が検出されないため、明確でない。規模は主軸長3.00m、確認面からの深さは0.32mを測る。主軸方位はN−0°である。カマドは北辺壁から検出され、ほぼ中央に位置するものと思われる。僧寺編年IX期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1は玉縁式、2・3は行基葺式の丸瓦で、いずれも床面上からの出土である。

竪穴 1356 号　（Fig.210）〔僧 I 第 340～342 図〕

北辺部PM−16を中心に位置する。掘立柱建物3123号と重複し、本遺構の方が古いと思われるが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.76×3.98m、遺構下端面積は13.1㎡、確認面からの深さは0.48mを測る。西辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−0°である。カマドは検出されていない。僧寺編年III期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。段顎で、VIII型式の重圏文と考えられる。

竪穴 1358 号　（Fig.211・212）〔僧 I 第 333～335 図〕

北辺部PM−99を中心に位置する。竪穴1359号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は、西側が方形を呈するのに対し、東側は北東隅が張り出して不整形となる。規模は副軸長3.50m、確認面からの深さは0.20mを測る。主軸方位はN−94°−Eである。カマドは東辺壁の南隅付近から検出されている。帰属時期は明確でないが、軸向きと平面形態が類似する竪穴1359号と近い時期の所産と思われる。

カマド内と遺構中央から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

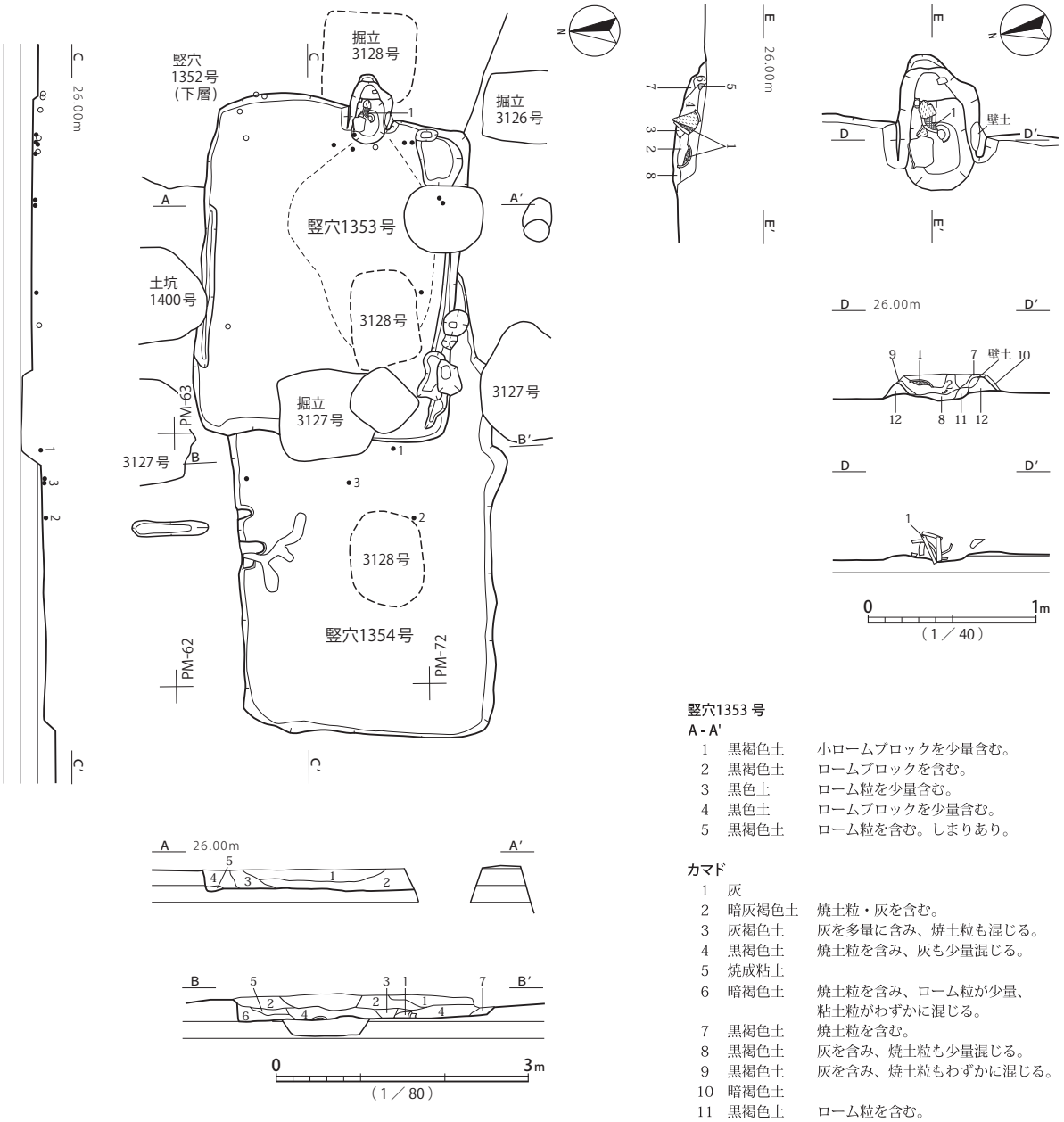
竪穴 1359 号　（Fig.211・212、PL.43）〔僧 I 第 333～335 図〕

北辺部PM−90を中心に位置する。竪穴1358号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈するが、東辺壁のカマド左側は掘り込まれて、長方形気味となる。規模は3.64×3.14m、遺構下端面積は7.5㎡、確認面からの深さは0.38mを測る。主軸方位はN−94°−Eである。カマドは東辺壁南隅付近から検出されている。僧寺編年VII期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の玉縁式の丸瓦のみで、側面の一部に半截破面を残す。カマド左袖の延長上から検出され、構築材として利用されたものと考えられる。

竪穴 1353・1354 号



竪穴1353 号

A - A'

1	黒褐色土	小ロームブロックを少量含む。
2	黒褐色土	ロームブロックを含む。
3	黒色土	ローム粒を少量含む。
4	黒色土	ロームブロックを少量含む。
5	黒褐色土	ローム粒を含む。しまりあり。

カマド

1	灰	
2	暗灰褐色土	焼土粒・灰を含む。
3	灰褐色土	灰を多量に含み、焼土粒も混じる。
4	黒褐色土	焼土粒を含み、灰も少量混じる。
5	焼成粘土	
6	暗褐色土	焼土粒を含み、ローム粒が少量、粘土粒がわずかに混じる。
7	黒褐色土	焼土粒を含む。
8	黒褐色土	灰を含み、焼土粒も少量混じる。
9	黒褐色土	灰を含み、焼土粒もわずかに混じる。
10	暗褐色土	
11	黒褐色土	ローム粒を含む。
12	黒褐色土	ローム粒・小ロームブロックを含む。ややしまりあり。

竪穴1354 号

B - B'

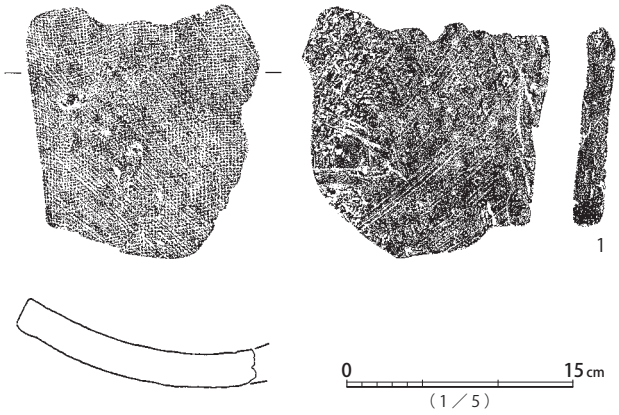
1	黒褐色土	ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
2	黒褐色土	ローム粒を少量含む。
3	黒色土	小ロームブロックを含む。
4	黒褐色土	ローム粒・ロームブロックを少量含む。
5	黒褐色土	
6	黒色土	黒褐色土・ローム粒を含む。
7	黒褐色土	ローム細粒を含む。



ph.1　1353号　カマド 1

Fig.207　竪穴1353号(1) 遺構・調査状況、竪穴1354号(1) 遺構

竪穴 1353号



竪穴 1354号

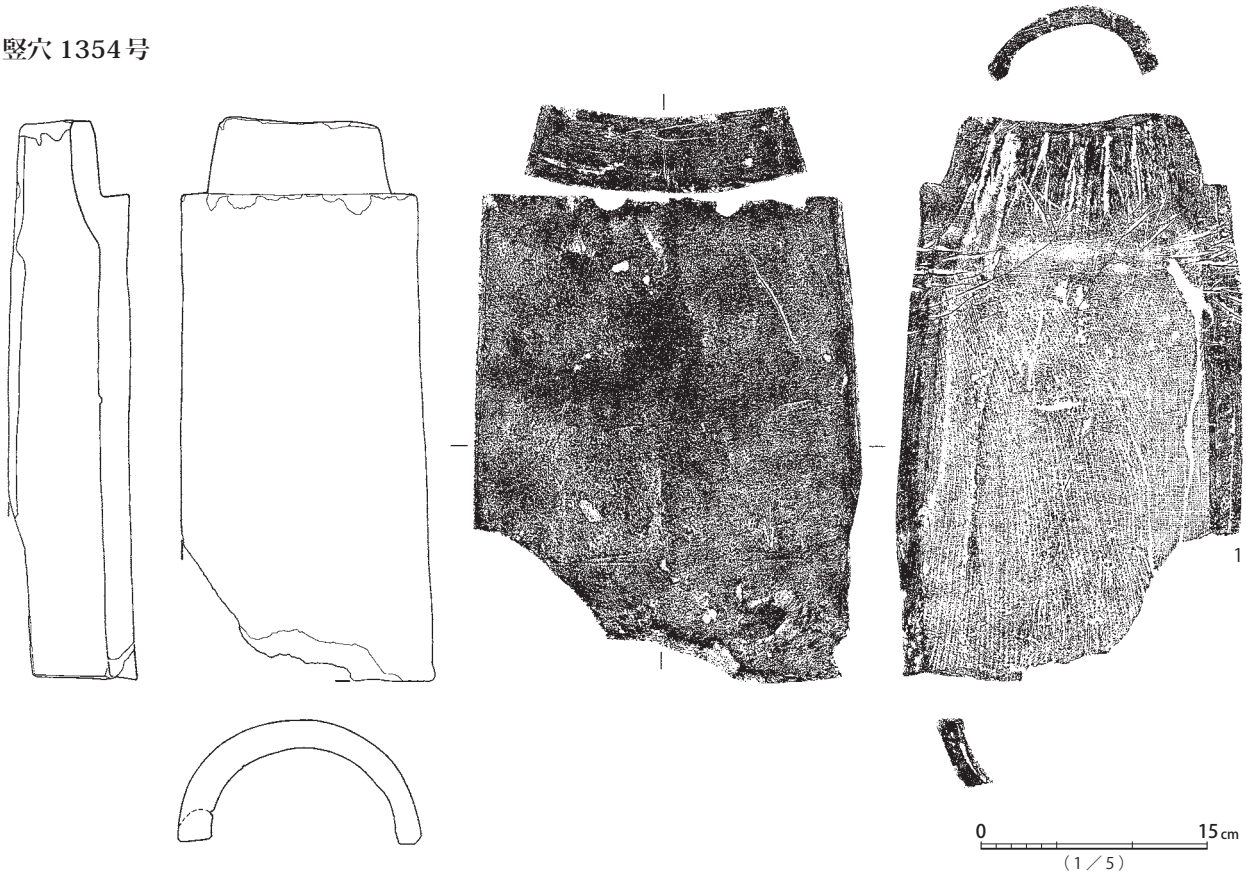


Fig.208　竪穴1353号(2) 遺物、竪穴1354号(2) 遺物

竪穴 1354号

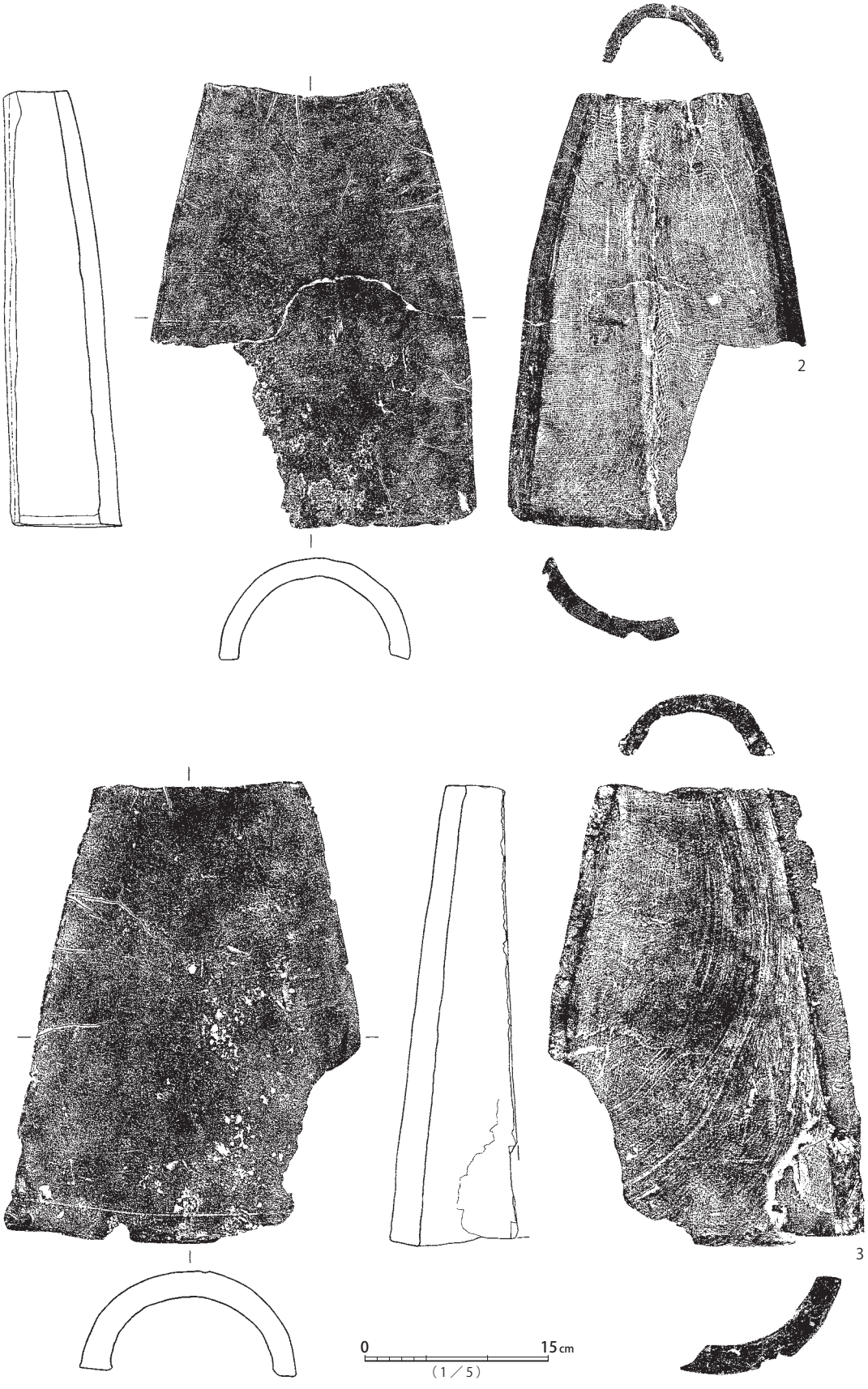


Fig.209　竪穴1354号(3) 遺物

竪穴 1356 号

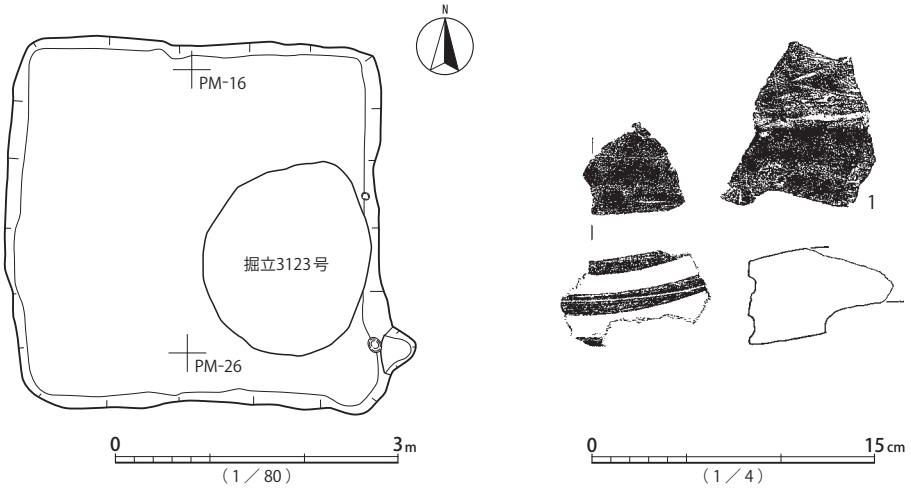


Fig.210　竪穴1356号 遺構遺物

竪穴 1433 号　（Fig.213）〔僧 I 第 352 図〕

北辺部PL−56を中心に位置する。竪穴1337号（下層）と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は不整長方形を呈し、規模は3.74×2.42m、遺構下端面積は7.0㎡、確認面からの深さは0.30mを測る。主軸方位はN−104°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。僧寺編年X期の所産と考えられる。

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1454 号　（Fig.214）〔僧 I 第 353・354 図〕

北辺部OJ−05を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.58×2.50m、遺構下端面積は5.1㎡、確認面からの深さは0.06mを測る。主軸方位はN−90°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド内から構築材として利用されたと考えられる瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

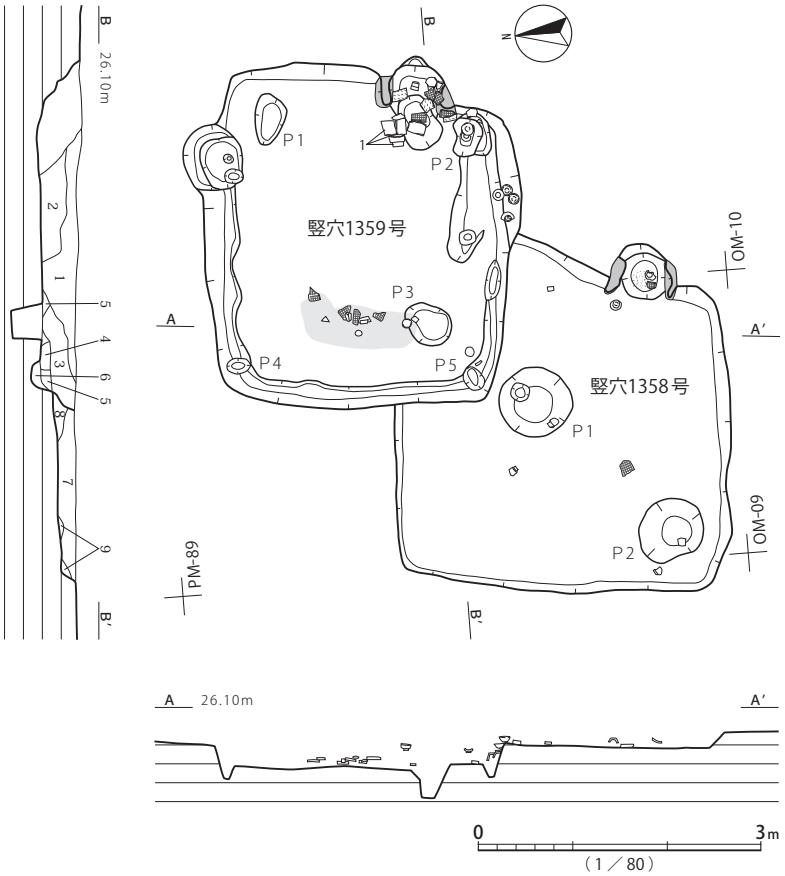
竪穴 1456 号　（Fig.215）〔僧 I 第 355・356 図〕

北辺部OK−01を中心に位置する。土坑1461号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈すると思われるが、西辺壁が検出されず、掘込みも浅いため、明確でない。規模は副軸長3.16m、確認面からの深さは0.06mを測る。主軸方位はN−92°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。僧寺編年IX期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の丸瓦のみで、カマド内からの出土である。広端面と両側面の凹面側は丁寧に面取りされ、玉縁式と考えられる。

竪穴 1358・1359 号



竪穴1359 号
1 黒褐色土
2 黒褐色土 木炭粒・焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
3 黒褐色土 ローム粒を含む。
4 褐色土 黒褐色土との混合。焼土粒も混じる。
5 褐色土 粗いローム粒を含む。
6 褐色土

竪穴1358 号
7 黒褐色土
8 黒褐色土 ローム粒を含む。
9 褐色土 粗いローム粒を含む。

竪穴 1359 号

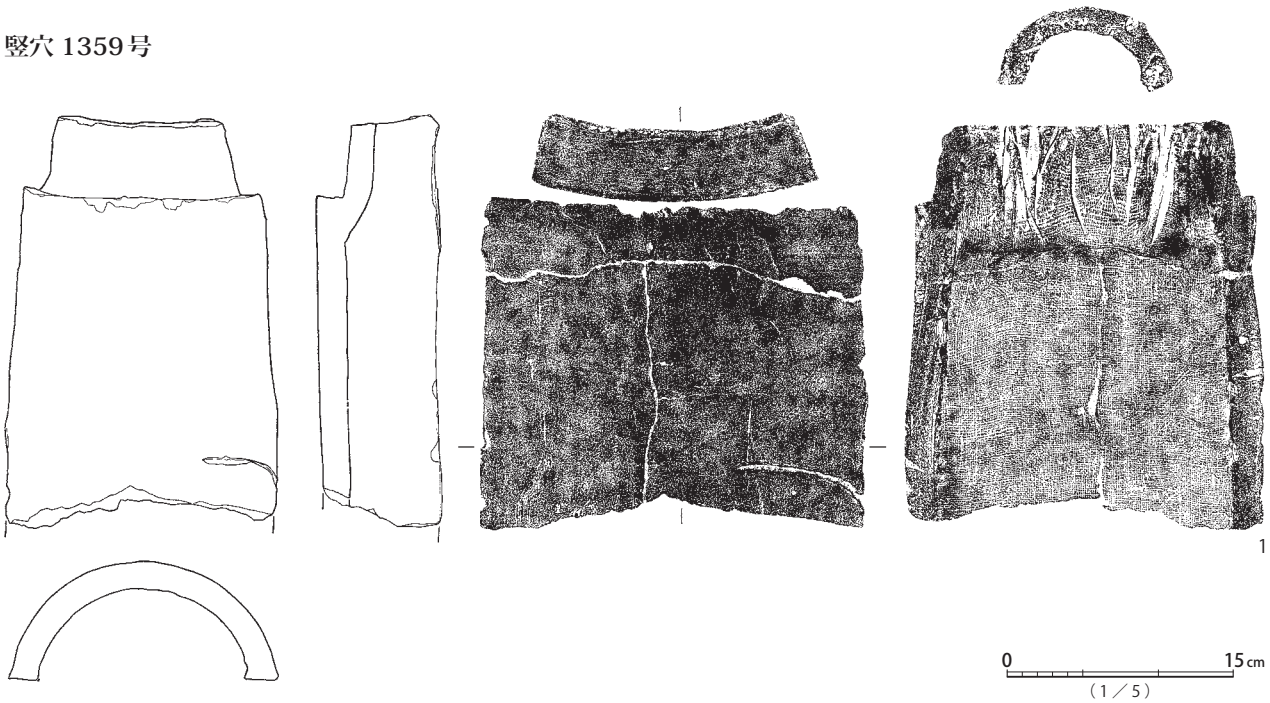
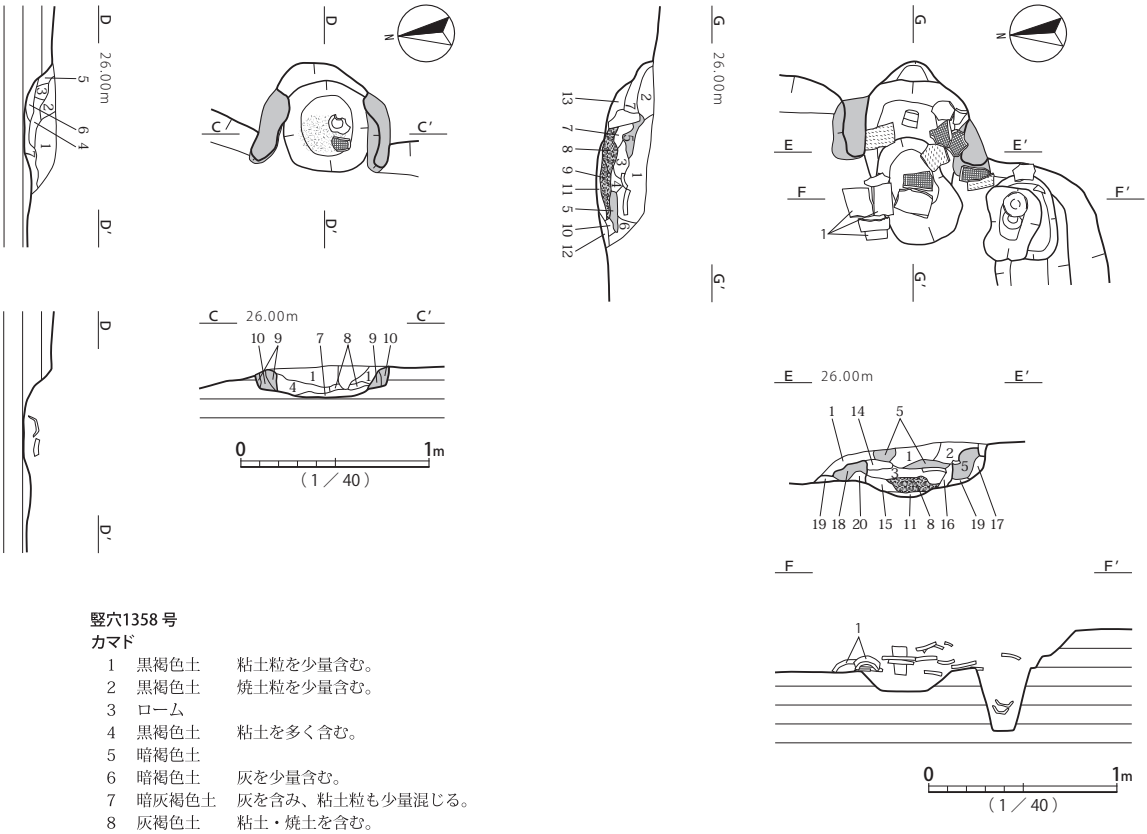


Fig.211 竪穴1358号(1) 遺構、竪穴1359号(1) 遺構遺物

竪穴 1358・1359号



竪穴1358 号
カマド

1	黒褐色土	粘土粒を少量含む。
2	黒褐色土	焼土粒を少量含む。
3	ローム	
4	黒褐色土	粘土を多く含む。
5	暗褐色土	
6	暗褐色土	灰を少量含む。
7	暗灰褐色土	灰を含み、粘土粒も少量混じる。
8	灰褐色土	粘土・焼土を含む。
9	粘土	
10	粘土	黒褐色土との混合。



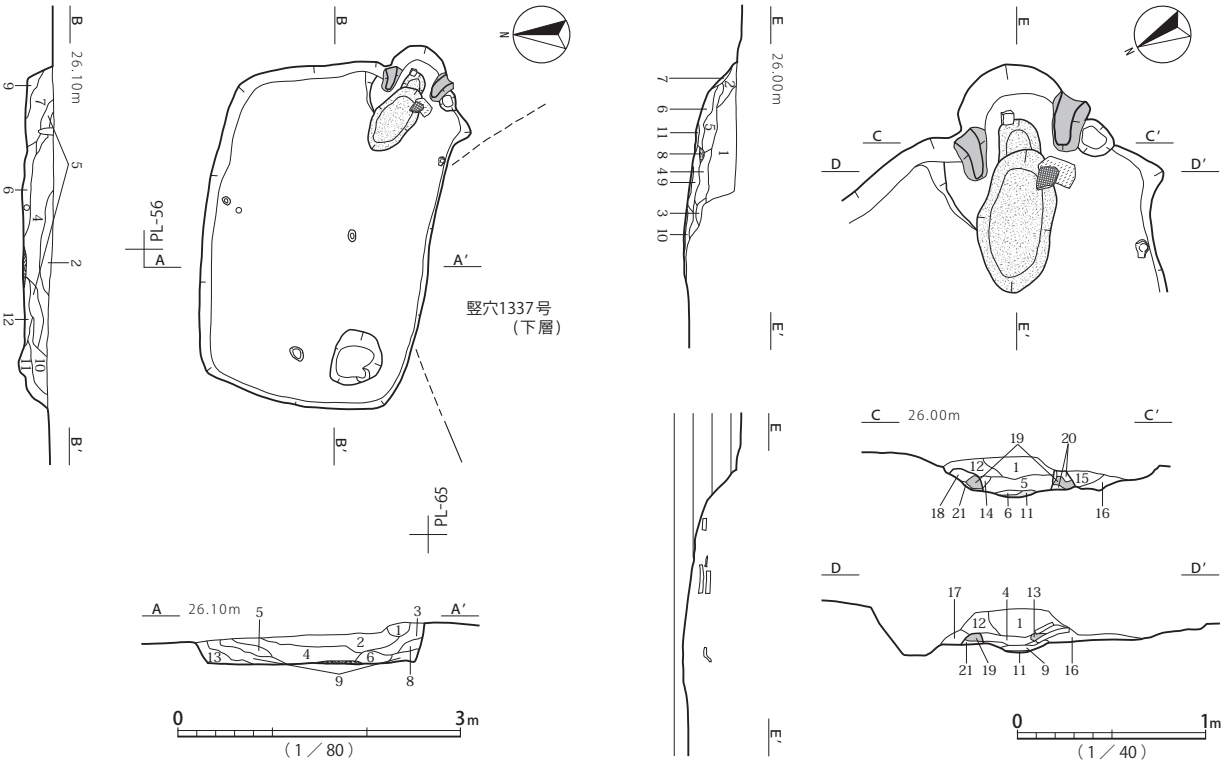
ph.1　1359号　カマド 1

竪穴1359 号
カマド

1	黒褐色土	粘土粒を含み、ロームも少量混じる。
2	黒褐色土	粘土粒を多く含む。
3	黒褐色土	粘土粒を含む。
4	暗褐色土	粘土粒を少量含む。
5	粘土	
6	黒褐色土	
7	暗褐色土	粘土粒・焼土粒を少量含み、ロームも混じる。
8	灰色灰	暗褐色土を含み、粘土粒も少量混じる。
9	黒色灰	黒褐色土を含む。
10	黒褐色土	焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
11	淡赤灰褐色土	焼土・灰を含む。
12	黒褐色土	ローム粒を含み、灰も少量混じる。
13	暗灰褐色土	焼土粒・粘土粒を少量含み、灰も混じる。
14	黒褐色土	粘土粒を少量含み、小ロームブロックも混じる。
15	黒褐色土	灰を含む。
16	暗灰褐色土	灰を含み、粘土も少量混じる。
17	褐色土	粘土を含む。
18	粘土	黒褐色土を含む。
19	暗褐色土	粘土・ロームを含む。
20	黒褐色土	粘土を含む。 ややしまりあり。

Fig.212　竪穴1358号(2) 遺構、竪穴1359号(2) 遺構・調査状況

竪穴 1433号



1　黒褐色土
2　黒褐色土　ローム粒を含む。
3　黒褐色土　ローム細粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。
5　暗褐色土　ロームブロックを含む。
6　黒褐色土　小ロームブロックを少量含む。
7　黒褐色土　ロームブロックを含み、黒色土も少量混じる。
8　黒褐色土　ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。
9　黒色土　ローム粒を少量含む。
10　黒褐色土　ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
11　黒褐色土　黒色土を含み、粘土粒も少量混じる。
12　黒褐色土　焼土粒・ローム粒を含み、灰も少量混じる。
13　暗褐色土　ローム粒を多く含む。

カマド
1　暗褐色土　ローム粒・黒褐色土を含む。
2　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土　粘土を多く含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含み、焼土粒も少量混じる。
5　黒褐色土　粘土粒を少量含み、灰もわずかに混じる。
6　灰　暗褐色土との混合。
7　暗褐色土　焼土粒・灰を含む。
8　灰
9　暗灰褐色土　粘土粒を含み、灰も少量混じる。
10　暗灰褐色土　灰を含み、焼土粒もわずかに混じる。
11　焼土
12　黒褐色土　粘土粒を少量含み、ローム粒もわずかに混じる。
13　焼成粘土
14　黒褐色土　粘土粒・焼土粒を含む。
15　暗褐色土　粘土粒を少量含み、焼土粒もわずかに混じる。
16　黒褐色土　灰を含み、ローム粒も少量混じる。
17　黒褐色土　暗褐色土を含み、粘土粒も少量混じる。
18　粘土　暗褐色土との混合。
19　粘土
20　黒褐色土　粘土を含む。
21　明褐色土　粘土を含む。

Fig.213　竪穴1433号 遺構

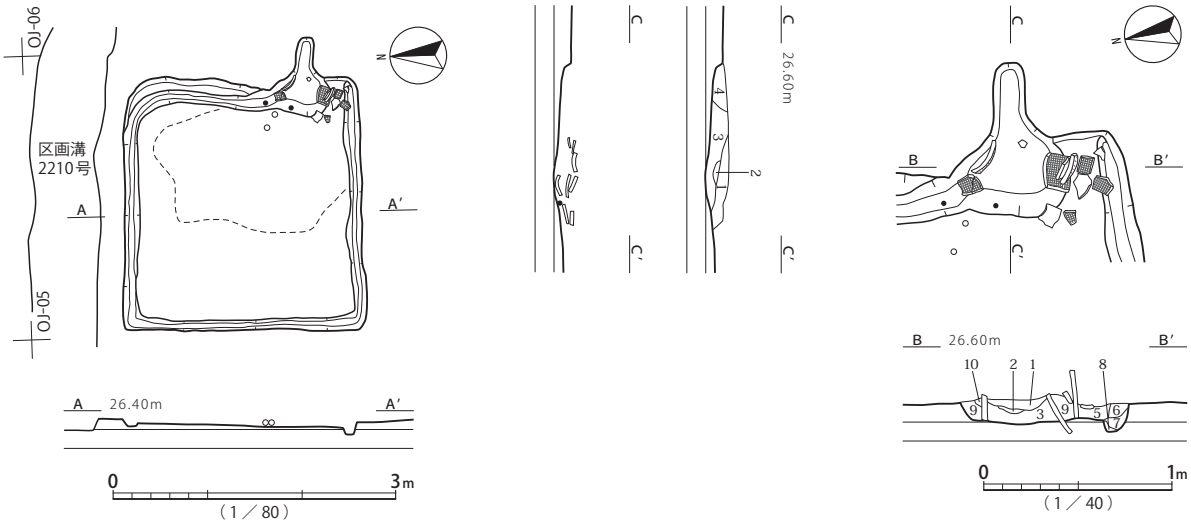
竪穴 1462 号　（Fig.216）〔僧Ⅰ第 357・358 図〕

北辺部OL−12を中心に位置する。区画溝2202・2206号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は2.64×2.64m、遺構下端面積は6.2㎡、確認面からの深さは0.38mを測る。主軸方位はN−5°−Eである。カマドは北東隅から検出されている。僧寺編年Ⅷ期の所産と考えられる。

カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1454 号





ph.1　カマド

1　暗褐色土　黒褐色土を含み、ローム粒も少量混じる。
2　黒褐色土　焼土粒を含む。
3　黒褐色土　粘土細粒を少量含み、焼土粒もわずかに混じる。
4　暗褐色土　黒褐色土を含み、粘土粒も少量混じる。
5　黒褐色土　ローム粒を少量含む。
6　黒褐色土　ローム粒・暗褐色土を含む。
7　黒褐色土
8　黒色土
9　黒褐色土　暗褐色土・粘土粒を含む。ややしまりあり。
10　暗褐色土

Fig.214　竪穴1454号 遺構・調査状況

竪穴 1600 号　（Fig.217・218、PL.44）〔僧 I 第 345・346 図〕

北辺部QL−35を中心に位置する。土坑1601号、溝2223・2225号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は方形を呈すると思われるが、北辺壁が検出されないため、明確でない。規模は主軸長3.70m、確認面からの深さは0.13mを測る。主軸方位はN−88°−Eである。カマドは東辺壁中央南寄りから検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

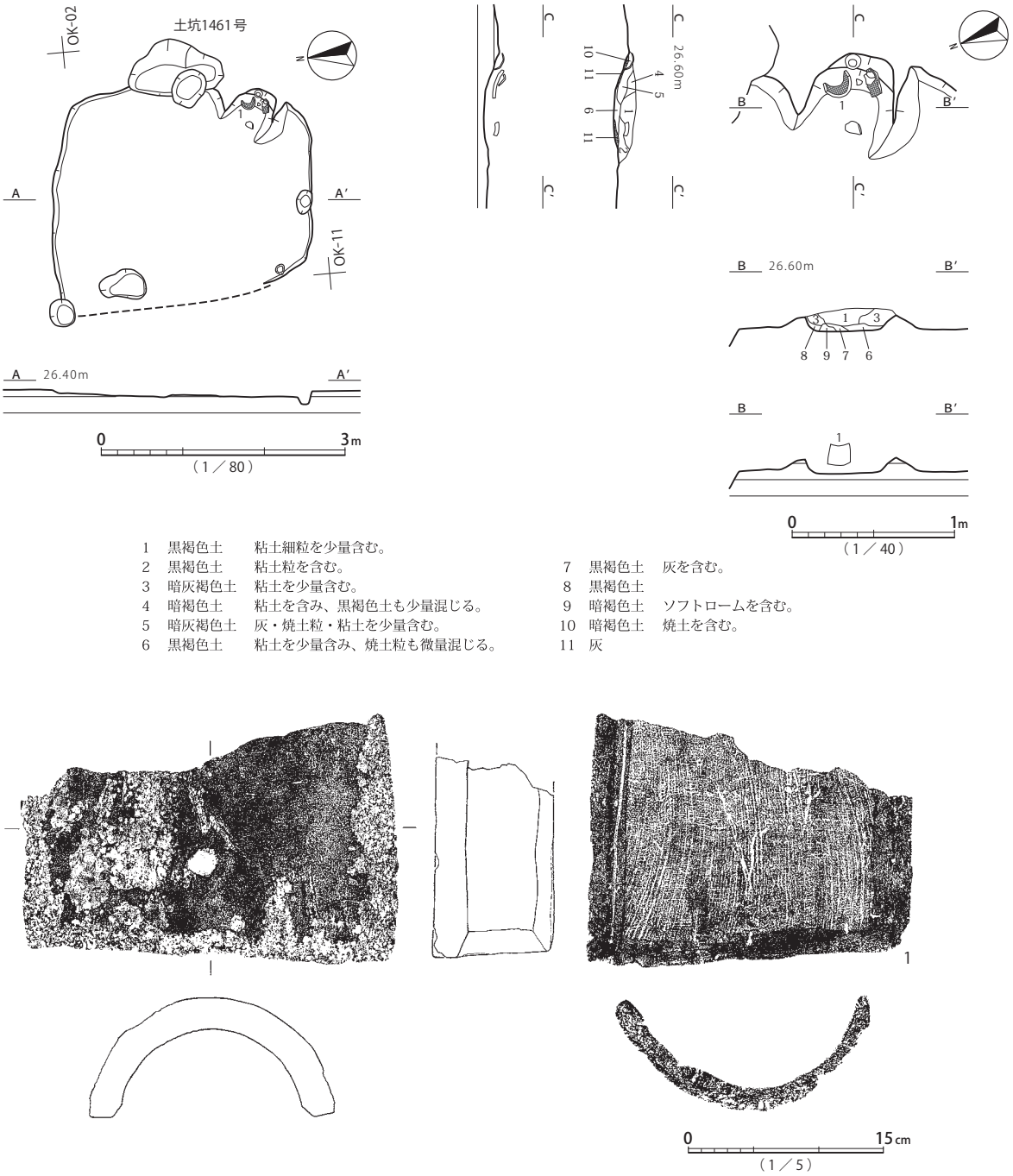
実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2は平瓦である。2はカマド内からの出土で、凹面は被熱し、やや赤色化する。構築材として利用されたものであろう。

竪穴 1626 号　（Fig.219）〔僧 I 第 363 図〕

北辺部ON−23を中心に位置する。竪穴1714号、区画溝2201号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈すると考えられるが、北辺壁に位置すると考えられるカマドが検出されたのみ

竪穴 1456号



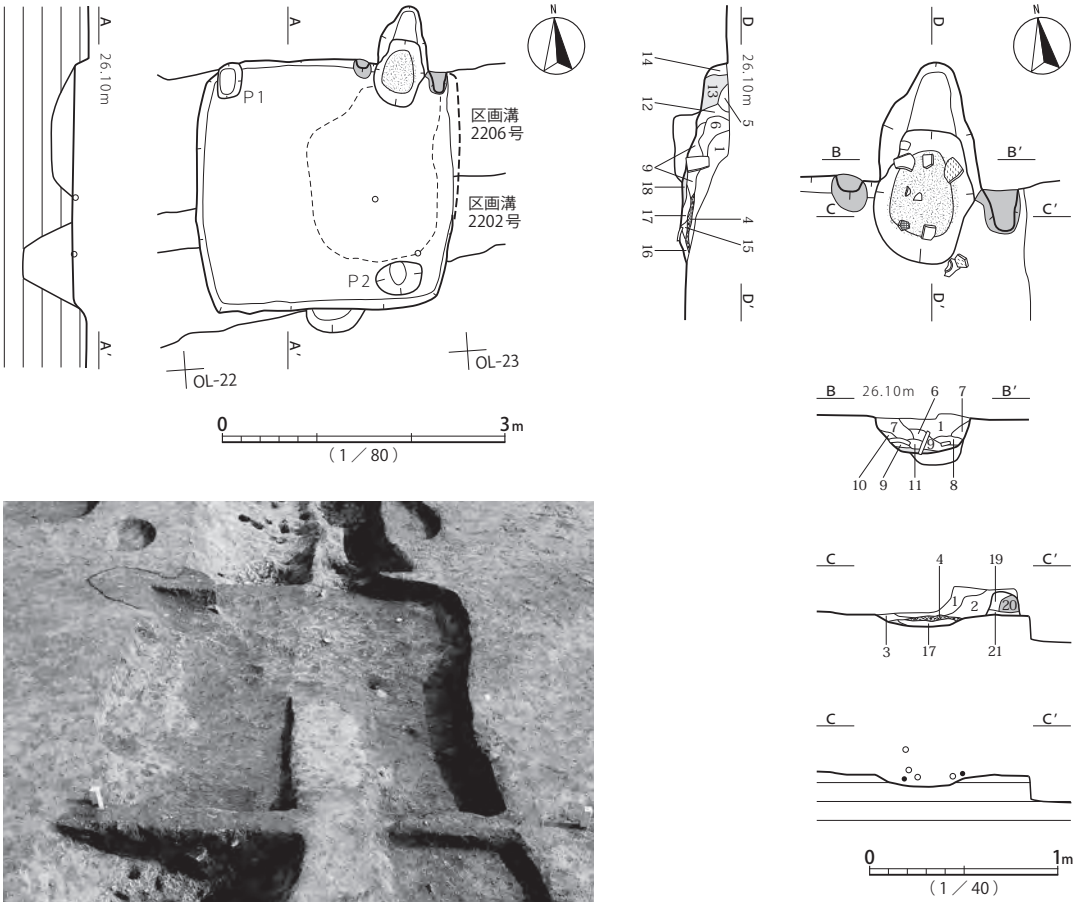
1 黒褐色土 粘土細粒を少量含む。
2 黒褐色土 粘土粒を含む。
3 暗灰褐色土 粘土を少量含む。
4 暗褐色土 粘土を含み、黒褐色土も少量混じる。
5 暗灰褐色土 灰・焼土粒・粘土を少量含む。
6 黒褐色土 粘土を少量含み、焼土粒も微量混じる。
7 黒褐色土 灰を含む。
8 黒褐色土
9 暗褐色土 ソフトロームを含む。
10 暗褐色土 焼土を含む。
11 灰

Fig.215 竪穴1456号 遺構遺物

で、規模や帰属時期は明確でない。

カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1462 号



ph.1　出土状況

1　黒褐色土　粘土粒を少量含む。
2　黒褐色土　粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。
3　暗灰褐色土　焼土粒を含み、灰も少量混じる。
4　灰
5　黒褐色土　焼土を含む。
6　暗灰褐色土　粘土を多く含み、焼土粒も少量混じる。
7　暗褐色土　粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。
8　暗灰褐色土　灰を含む。
9　灰褐色土　灰を含み、焼土粒も少量混じる。
10　褐色土
11　黒褐色土　粘土粒・灰を少量含む。
12　暗褐色土　焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
13　焼土　黒褐色土を少量含む。
14　黒褐色土　焼土粒を少量含む。
15　暗灰褐色土　粘土粒を含む。
16　暗褐色土　粘土を少量含む。
17　淡赤褐色土　焼土・灰を含む。
18　焼土
19　粘土　黒褐色土との混合。
20　粘土
21　黒褐色土　粘土粒を含む。しまりあり。

Fig.216　竪穴1462号 遺構・調査状況

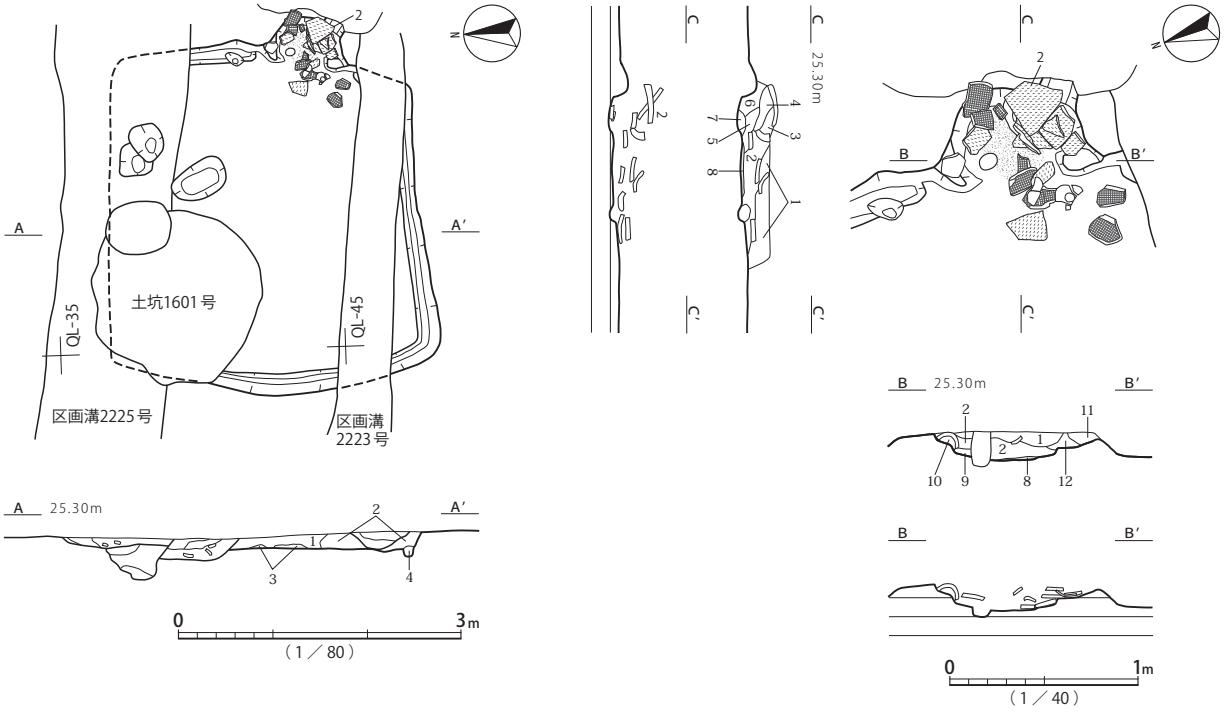
竪穴 1707 号　（Fig.219）〔僧 I 第 364・365 図〕

北辺部SL−08を中心に位置する。竪穴1708号と重複し、断面図など記録上の根拠がないが、本遺構の方が新しいと考えられる。

平面形態はやや横長の方形を呈し、規模は3.26×2.86m、遺構下端面積は8.1㎡、確認面からの深さは0.06mを測る。主軸方位はN−101°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

カマド周辺から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1600 号





ph.1　カマド

1　黒褐色土　ローム粒・小ロームブロックを含む。
2　黒褐色土　小ロームブロックを含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含む。

カマド
1　暗褐色土　ローム粒を少量含み、粘土粒もわずかに混じる。
2　暗褐色土　粘土粒を含む。
3　黒褐色土　焼土粒・粘土粒を少量含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
5　黒褐色土　焼土粒・ローム粒を少量含む。
6　黒褐色土
7　黒褐色土　焼土粒を少量含む。
8　焼土　被熱赤色化したローム。
9　暗灰褐色土　灰を少量含む。
10　黒褐色土　粘土粒を少量含む。
11　暗褐色土　黒褐色土を含み、ローム・粘土も少量混じる。
12　黒褐色土　小ロームブロックを少量含む。

Fig.217　竪穴1600号(1) 遺構・調査状況

竪穴 1708 号　（Fig.219）〔僧 I 第 364 図〕

北辺部SL−18を中心に位置する。竪穴1707号と重複し、断面図など記録上の根拠がないが、本遺構の方が古いと考えられる。

平面形態は方形を呈すると思われるが、遺構南側が検出されたのみであるため、明確でない。規模は東西軸長2.20m、確認面からの0.06mを測る。南辺軸を基準とした場合、主軸方位はN−100°−Eである。カマドは検出されていない。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

床面上から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1600 号

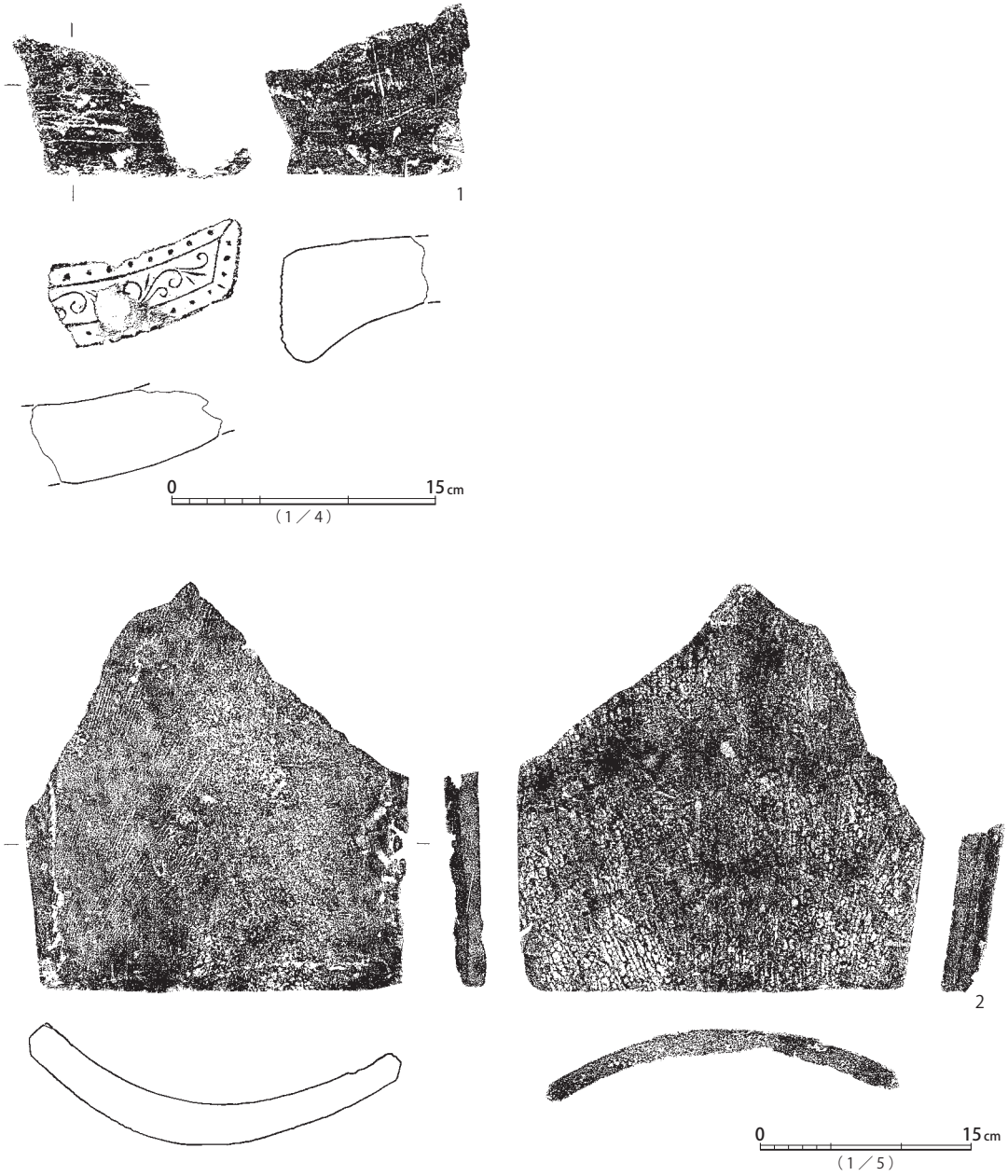


Fig.218　竪穴1600号(2) 遺物

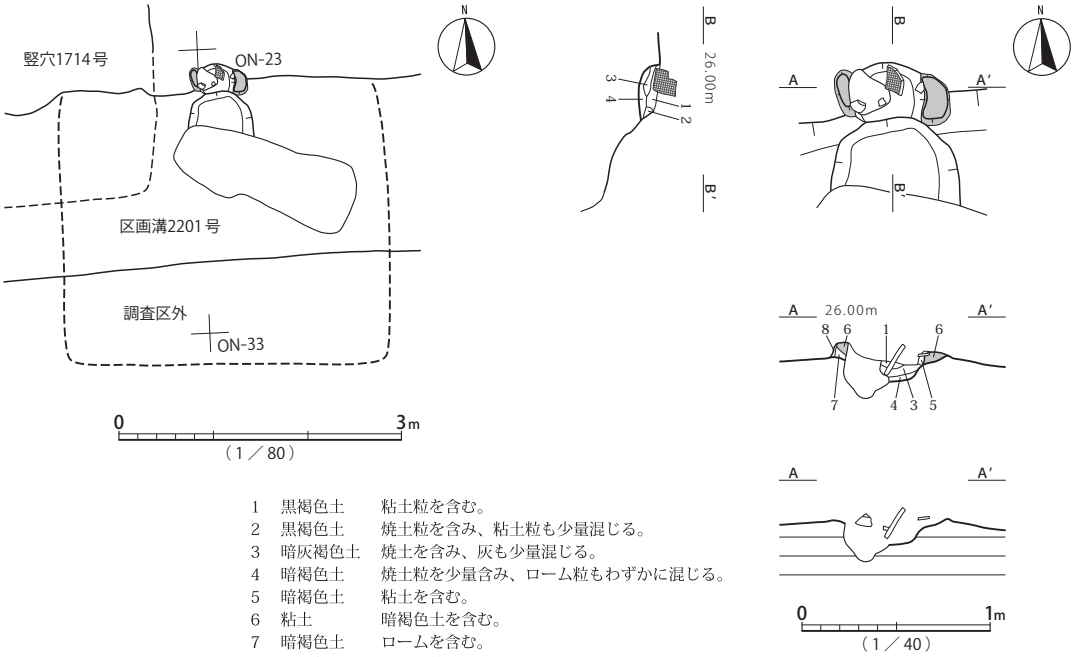
竪穴 0392 号　（Fig.220）〔僧 I 第 1023・1024 図〕

西辺部OG−01を中心に位置する。竪穴0393・0394号、掘立柱建物3198号と重複する。新旧関係は、本遺構の方が3198号よりも古いと考えられるが、0393・0394号との関係は、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は4.70×4.55m、遺構下端面積は15.0㎡、確認面からの深さは0.28mを測る。主軸方位はN−6°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−1期の所産と思われるが、出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

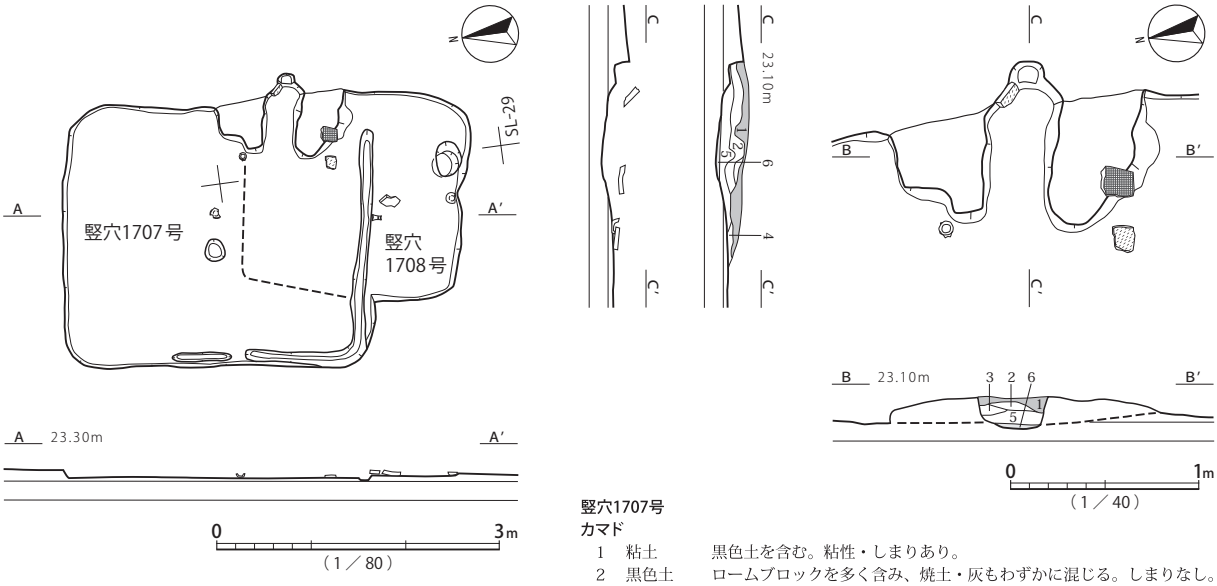
カマド脇から瓦がまとまって出土しているが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 1626号



1　黒褐色土　粘土粒を含む。
2　黒褐色土　焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
3　暗灰褐色土　焼土を含み、灰も少量混じる。
4　暗褐色土　焼土粒を少量含み、ローム粒もわずかに混じる。
5　暗褐色土　粘土を含む。
6　粘土　暗褐色土を含む。
7　暗褐色土　ロームを含む。
8　黒褐色土　ローム粒を含む。

竪穴 1707・1708号

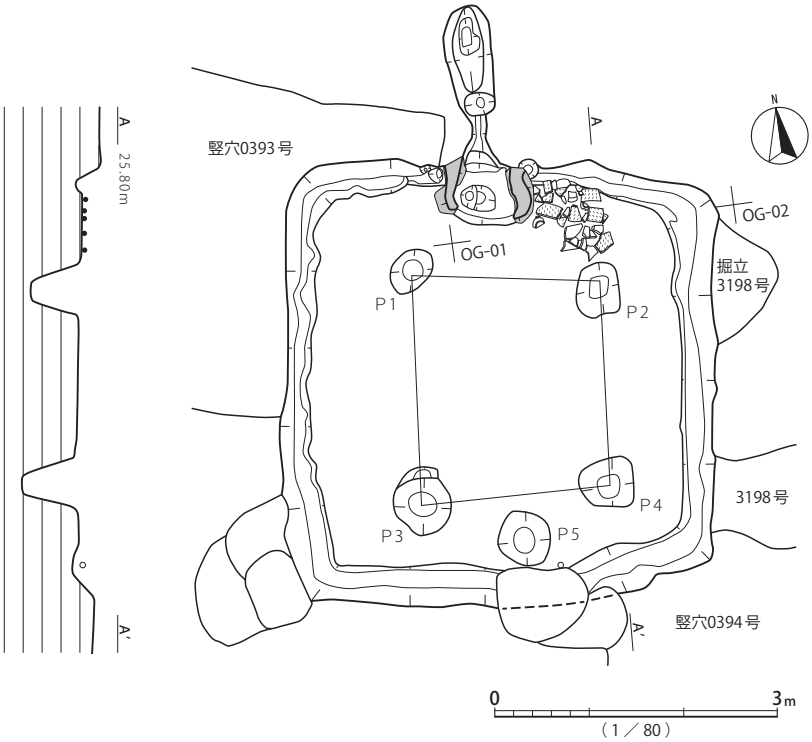


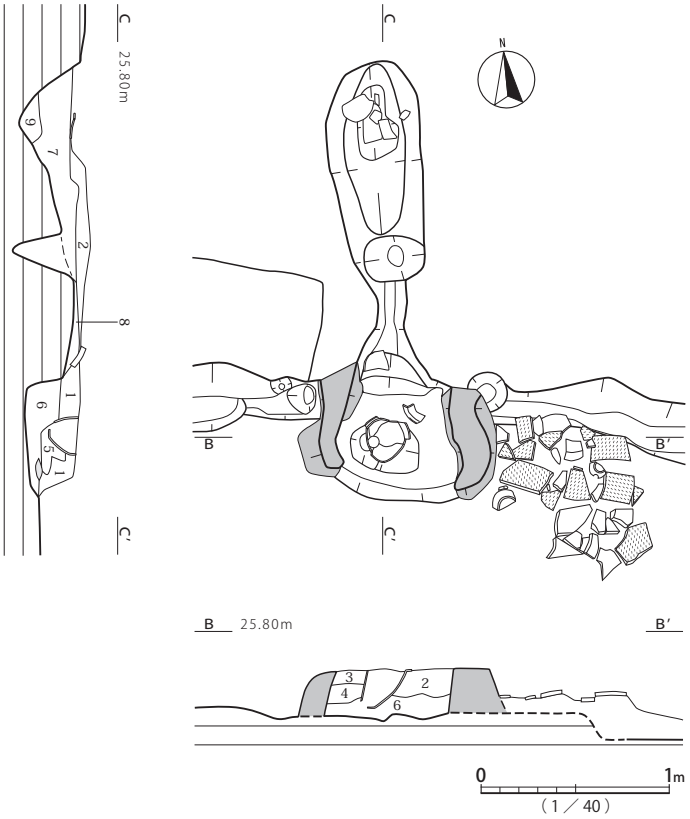
竪穴1707号
カマド

1　粘土　黒色土を含む。粘性・しまりあり。
2　黒色土　ロームブロックを多く含み、焼土・灰もわずかに混じる。しまりなし。
3　黒褐色土　砂質粘土ブロックを含む。粘性・しまりに富む。
4　黒褐色土　焼土粒・粘土粒を均等に含む。粘性・しまりあり。
5　黒色土　焼土粒をわずかに含む。粘性・しまりに富む。
6　焼土　粒子細かい。粘性・しまりなし。

Fig.219　竪穴1626号 遺構、竪穴1707号 遺構、竪穴1708号 遺構

竪穴 0392号





1　暗褐色土　粘土粒・ロームを含み、焼土もわずかに混じる。
2　暗褐色土　焼土・粘土粒・ロームをわずかに含む。
3　暗褐色土　粘土粒をわずかに含む。
4　褐色土　粘土を多く含む。
5　焼土　暗褐色土との混合。
6　暗褐色土　焼土を含む。
7　暗褐色土　ローム・粘土粒・炭化物を含む。
8　暗褐色土　ロームを多く含む。
9　暗褐色土　炭化物を多量に含む。

Fig.220　竪穴0392号 遺構

竪穴 0395 号　（Fig.221）〔僧 I 第 1023～1025 図〕

西辺部PG−93を中心に位置する。掘立柱建物3198号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は2.40×2.40m、遺構下端面積は3.2㎡、確認面からの深さは0.24mを測る。主軸方位はN−1°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド内から瓦がまとまって出土しており、構築材として利用されたものと考えられる。実測可能遺物は1の丸瓦のみで、遺構北東隅から検出され、床面上からの出土である。

竪穴 0410 号　（Fig.221）〔僧 I 第 1027 図〕

西辺部OG−39を中心に位置する。掘立柱建物3221号、竪穴0409号（下層）と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は3.48×3.45m、遺構下端面積は8.7㎡、確認面からの深さは0.32mを測る。主軸方位はN−15°−Eである。カマドは北西隅から検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

カマド内から瓦がまとまって出土しており、構築材として利用されたものと考えられるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0417 号　（Fig.222、PL.44・215）〔僧 I 第 1028・1029 図〕

西辺部NG−10を中心に位置する。掘立柱建物3214号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、遺構西側の形状が不明瞭である。確認面からの深さは0.04mを測り、規模は3.44×3.56m程度になるものと考えられる。東辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−6°−Eである。カマドは検出されていないが、瓦がややまとまって分布する南東隅の掘込みがカマドの痕跡であろうか。僧寺編年IX期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみである。覆土中からの出土で、凹凸面と側端面に深い糸切痕を残す。粗雑な整形で、南田1号ないし4号窯の製品と考えられる。

竪穴 0445 号　（Fig.222・223、PL.45・215）〔僧 I 第 1032～1034 図〕

西辺部NG−62を中心に位置する。竪穴0446号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、遺構北側が調査区外に伸び、西辺壁も検出されないため、明確でない。確認面からの深さは0.35mを測る。主軸方位はN−95°−Eである。カマドは東辺壁から検出された。僧寺編年III～IV−1期の所産と考えられる。

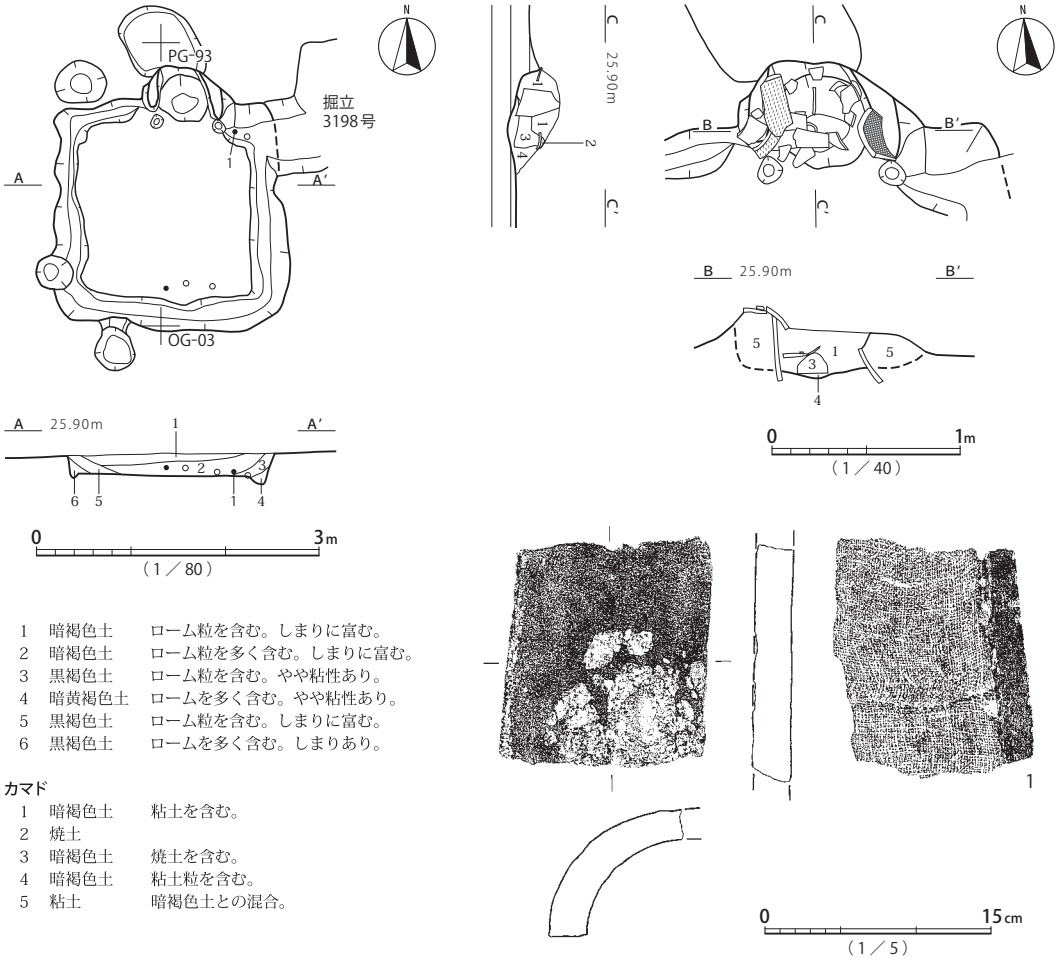
実測可能遺物は、1はI型式の蓮華文軒丸瓦、2は行基葺式の丸瓦である。1は丸瓦取付け部が緩くカーブし、2の凹面にはごく細かい布目痕が残る。いずれも覆土上層からの出土である。

竪穴 0446 号　（Fig.222～224、PL.44）〔僧 I 第 1032・1034 図〕

西辺部NG−61を中心に位置する。竪穴0445号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、南東隅が検出されたのみで、明確でない。確認面か

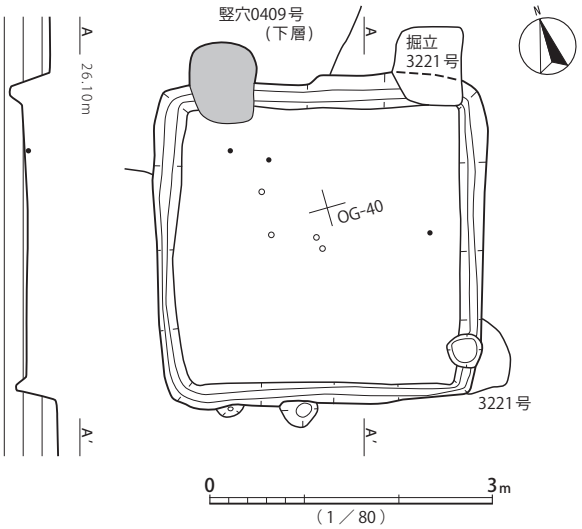
竪穴 0395号



1　暗褐色土　　ローム粒を含む。しまりに富む。
2　暗褐色土　　ローム粒を多く含む。しまりに富む。
3　黒褐色土　　ローム粒を含む。やや粘性あり。
4　暗黄褐色土　ロームを多く含む。やや粘性あり。
5　黒褐色土　　ローム粒を含む。しまりに富む。
6　黒褐色土　　ロームを多く含む。しまりあり。

カマド
1　暗褐色土　　粘土を含む。
2　焼土
3　暗褐色土　　焼土を含む。
4　暗褐色土　　粘土粒を含む。
5　粘土　　暗褐色土との混合。

竪穴 0410号





ph.1　カマド

Fig.221　竪穴0395号 遺構遺物、竪穴0410号 遺構・調査状況

らの深さは0.46mを測る。東辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−1°−E程度となる。カマドは、調査範囲からは検出されていない。覆土中に粘土と焼土が堆積する。僧寺編年III〜IV−1期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1・2の軒平瓦で、I型式の均整唐草文である。2はほぼ完形で、顎部が下方に大きくせり出す。いずれも覆土上層からの出土である。

竪穴0457号　(Fig.225〜227、PL.44・45)〔僧I第1036・1037図〕

西辺部MH−31を中心に位置する。竪穴0456号(下層)と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、遺構東側が調査区外に延びるため、明確でない。規模は主軸長3.00m、確認面からの0.30mを測る。主軸方位はN−5°−Wである。カマドは北辺壁から検出された。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1・2は行基葺式の丸瓦、3は平瓦である。1の凹面には斜方向、2の凹面には横方向の布合わせ目痕が残る。1・2はカマド左袖部、3はカマド右袖部からの出土で、いずれも構築材として利用されたものである。

竪穴0515号　(Fig.228)〔僧I第1041・1042図〕

西辺部KG−25を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、北側の一部が検出されたのみで、明確でない。規模は東西軸長2.40m、確認面からの深さは0.10mを測る。北辺壁を基準とした場合、これと直行する軸の方位はN−3°−Wとなる。カマドは、調査範囲からは検出されていない。僧寺編年VIII期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1・2の行基葺式の丸瓦である。未接合の同一個体で、出土位置は明確でない。

竪穴0537号　(Fig.228)〔僧I第1043図〕

西辺部NG−11を中心に位置する。区画溝0532号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

カマド周辺が検出されたのみで、平面形態や規模は明確でない。また、出土遺物が少なく、帰属時期も明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、凹面の広端側に赤色顔料、中央に煤が付着する。出土位置は明確でない。

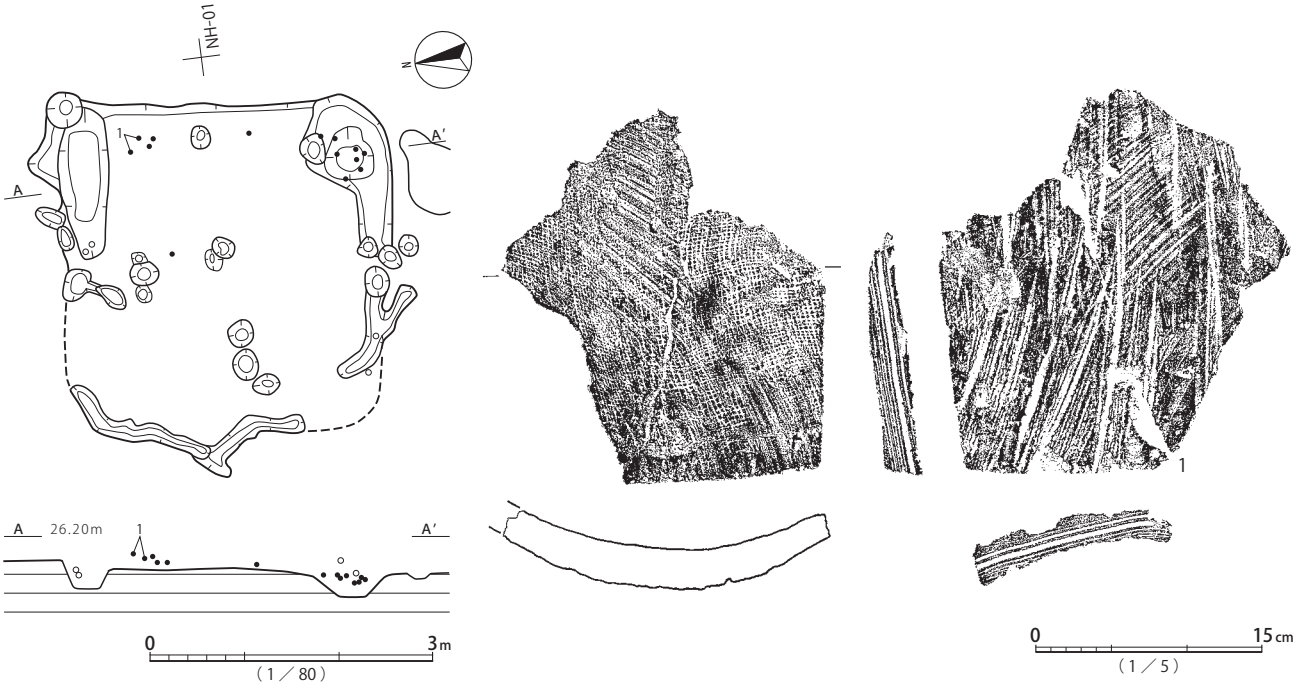
竪穴0545号　(Fig.229)〔僧I第539〜541図〕

東南部KP−98を中心に位置する。土坑(遺構番号なし)と重複し、本遺構の方が古い。

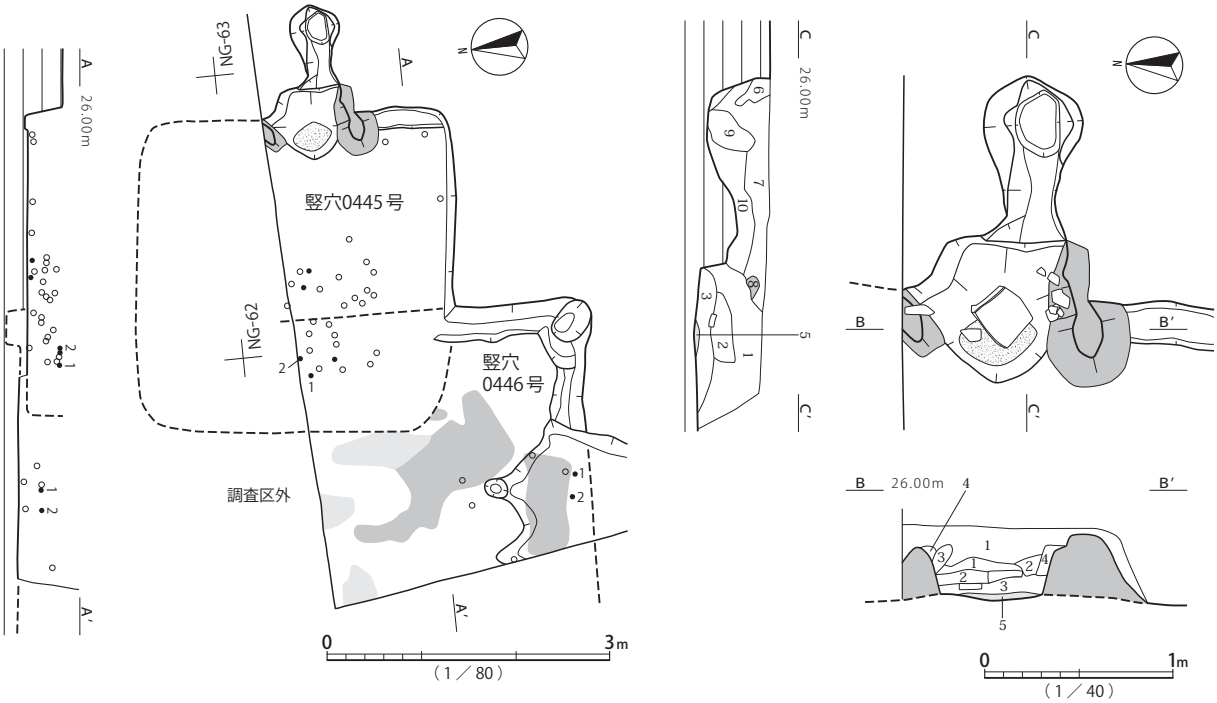
平面形態は方形を呈し、規模は2.85×2.85m、遺構下端面積は5.3㎡、確認面からの深さは0.18mを測る。主軸方位はN−89°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−5〜V期の所産と考えられる。

カマド内を中心に瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0417号



竪穴 0445・0446号

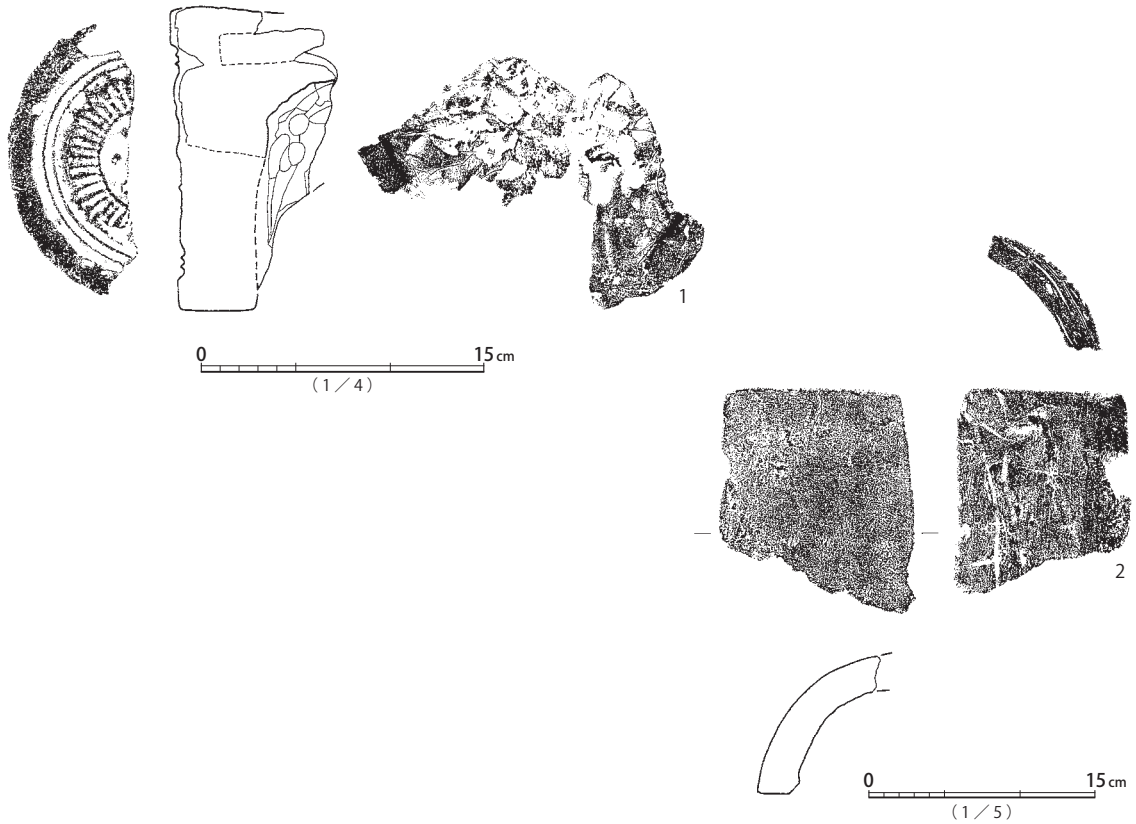


竪穴0445 号
カマド

1　暗褐色土　焼土、粘土粒を含む。
2　暗褐色土　粘土を多く含み、焼土もわずかに混じる。
3　暗褐色土　焼土を多く含み、粘土粒も混じる。
4　褐色土　粘土粒を多く含む。
5　焼土
6　暗褐色土　ロームを多く含む。
7　暗褐色土　粘土、炭化物を含む。
8　粘土
9　黒褐色土　炭化粒を含み、焼土もわずかに混じる。
10　暗褐色土　粘土粒、炭化物を多く含む。

Fig.222　竪穴0417号 遺構遺物、竪穴0445号(1) 遺構、竪穴0446号(1) 遺構

竪穴 0445 号



竪穴 0446 号

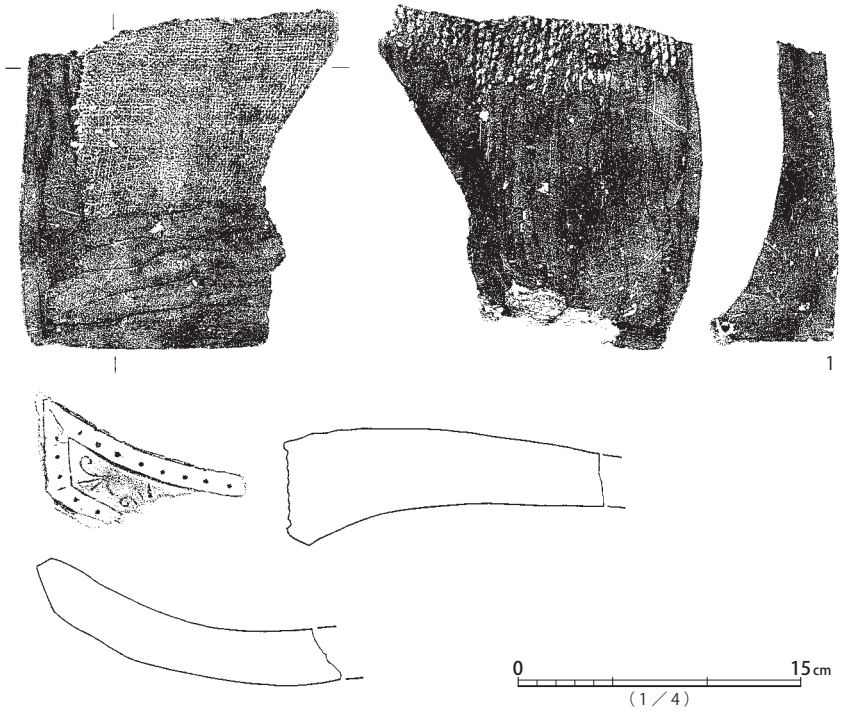


Fig.223　竪穴0445号(2) 遺物、竪穴0446号(2) 遺物

竪穴 0446 号

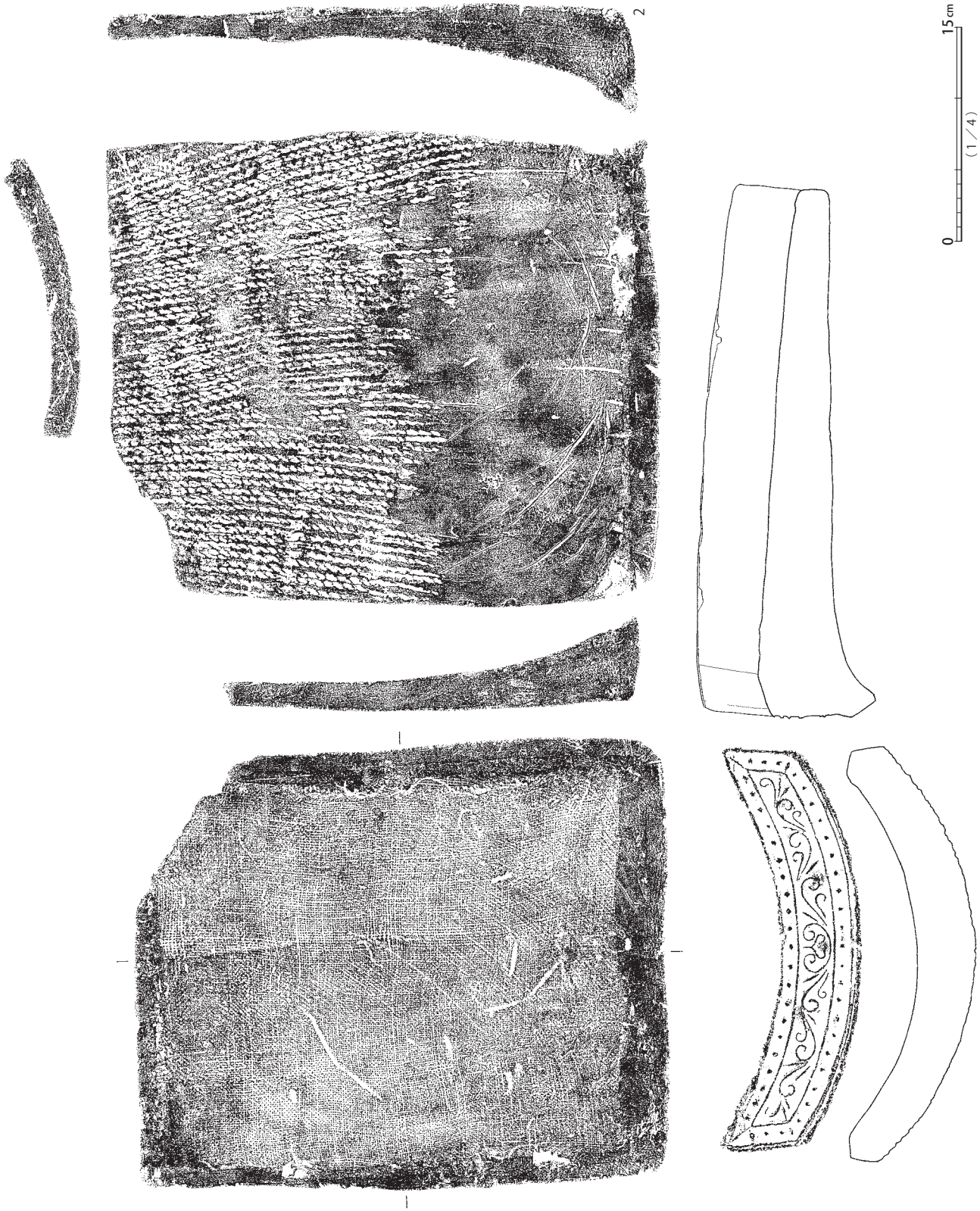
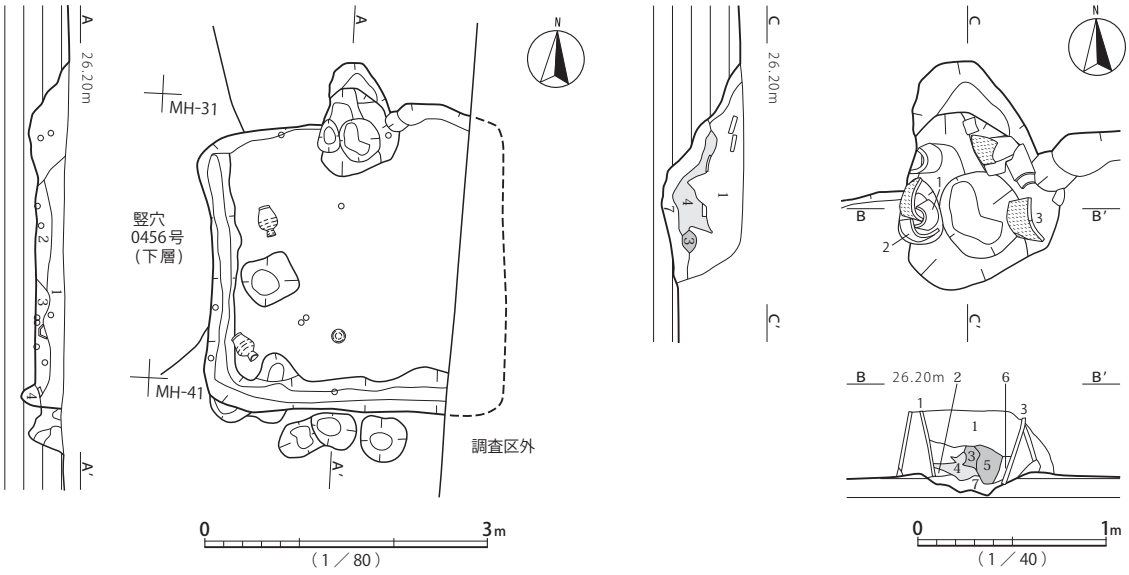


Fig.224　竪穴0446号(3) 遺物

竪穴 0457 号



1　暗褐色土　ローム、ローム粒をわずかに含む。
2　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。
3　褐色土　ローム粒を多量に含む。
4　褐色土　ローム粒、ロームブロックを含む。

カマド
1　黒褐色土　焼土粒・粘土粒をわずかに含む。
2　黒褐色土
3　粘土
4　焼土　粘土との混合で、炭化物もわずかに混じる。
5　焼成粘土
6　黒褐色土　焼土をわずかに含む。
7　暗褐色土　粘土・焼土、炭化粒を含む。



ph.1　カマド 1・2・3

Fig.225　竪穴0457号(1) 遺構・調査状況

竪穴 0546 号　（Fig.230）〔僧 I 第 539・541 図〕

東南部KP−90を中心に位置する。竪穴0547号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.62×3.58m、確認面からの深さは0.15mを測る。主軸方位はN−6°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−5期の所産と考えられる。

遺構東側から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0547 号　（Fig.230）〔僧 I 第 539・540・542 図〕

東南部KP−80を中心に位置する。竪穴0546号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は2.78×3.14m、遺構下端面積は5.9㎡、確認面からの深さは0.31mを測る。主軸方位はN−114°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0457号

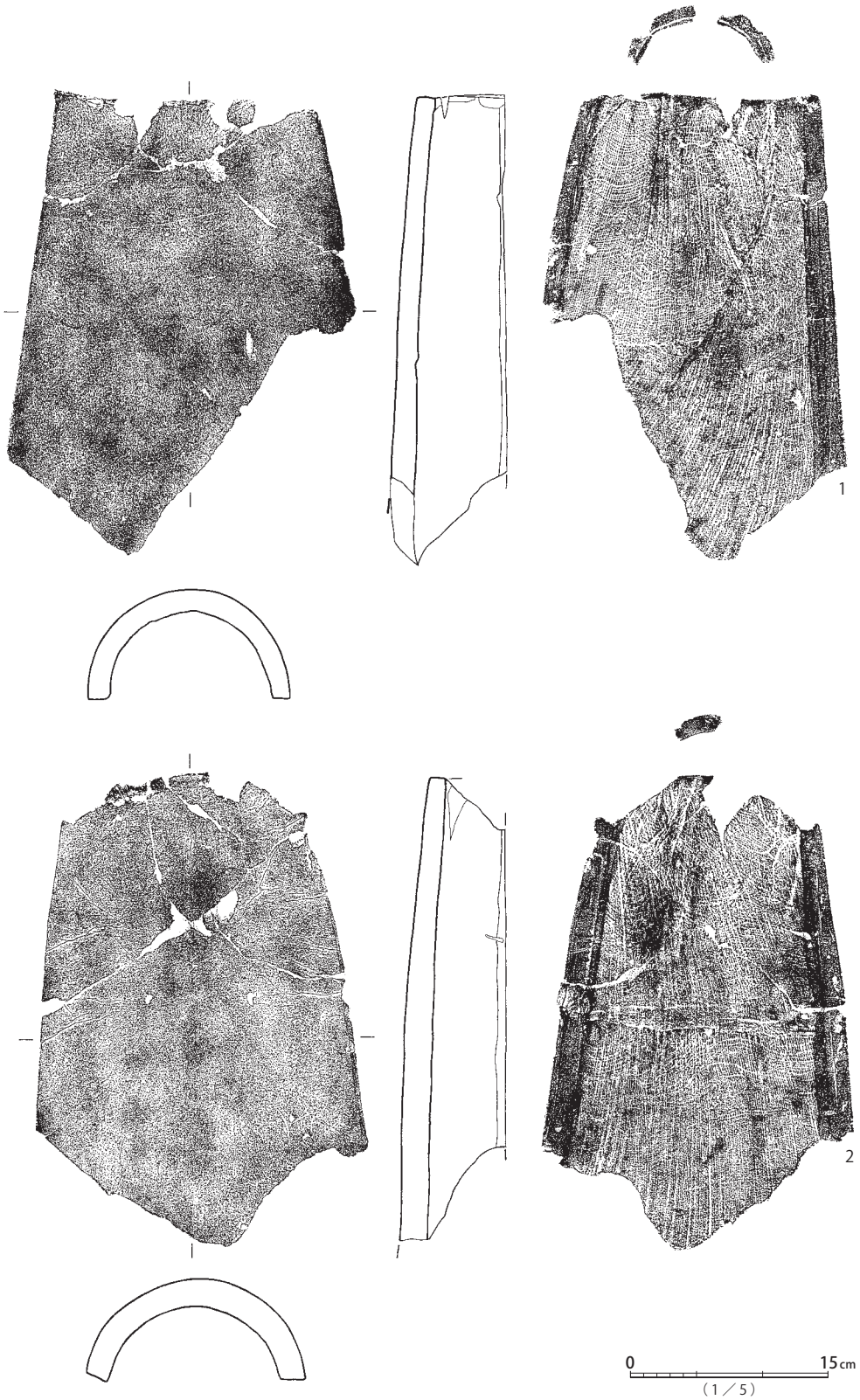


Fig.226　竪穴0457号(2) 遺物

竪穴 0457 号

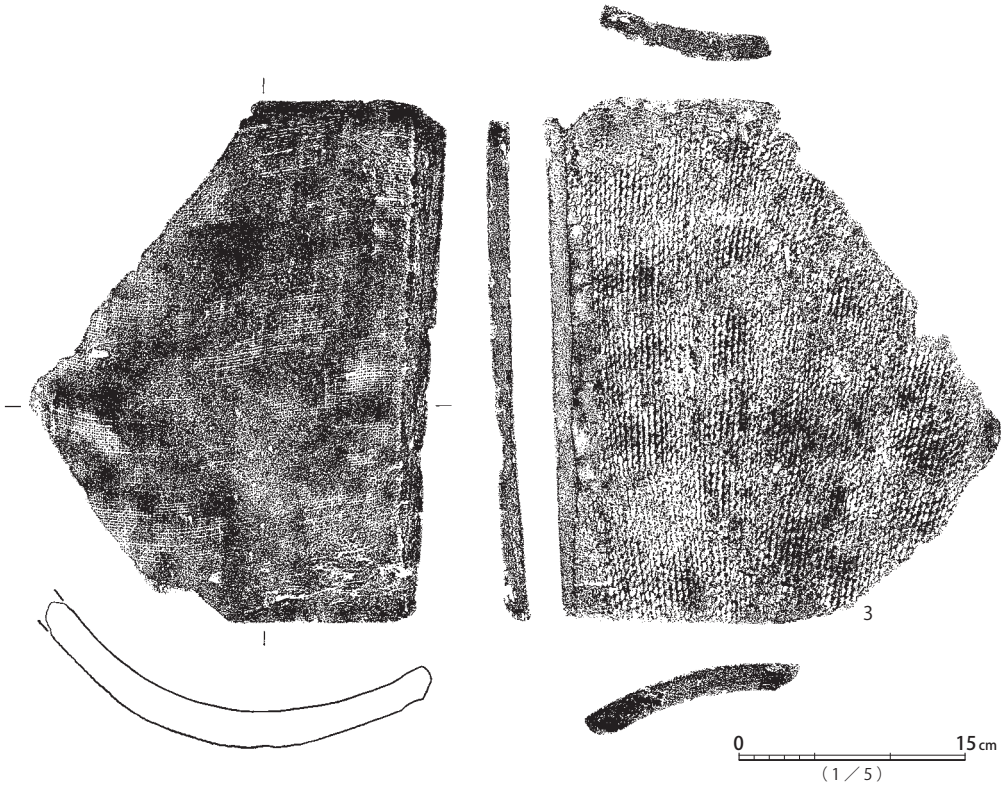


Fig.227　竪穴0457号(3) 遺物

竪穴 0549 号　（Fig.231）〔僧 I 第 543～545 図〕

東南部KQ−82を中心に位置する。竪穴0550号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.25×3.15m、確認面からの深さは0.20mを測る。遺構下端面積は7.0㎡程度になるものと思われる。主軸方位はN−3°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

カマド付近を中心に瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

竪穴 0550 号　（Fig.232）〔僧 I 第 543・545・546 図〕

東南部KQ−72を中心に位置する。竪穴0549号と重複し、本遺構の方が新しい。

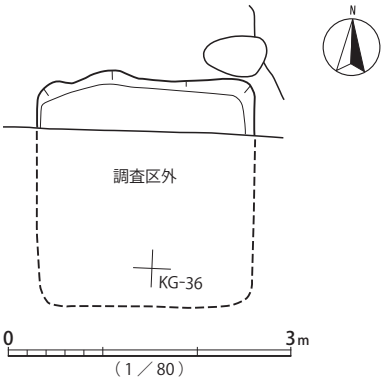
平面形態は方形を呈し、規模は2.36×2.16m、遺構下端面積は3.2㎡、確認面からの深さは0.26mを測る。主軸方位はN−13°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−4～5期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。I型式の均整唐草文で、カマド煙道部からの出土である。

竪穴 0551 号　（Fig.233）〔僧 I 第 547・548 図〕

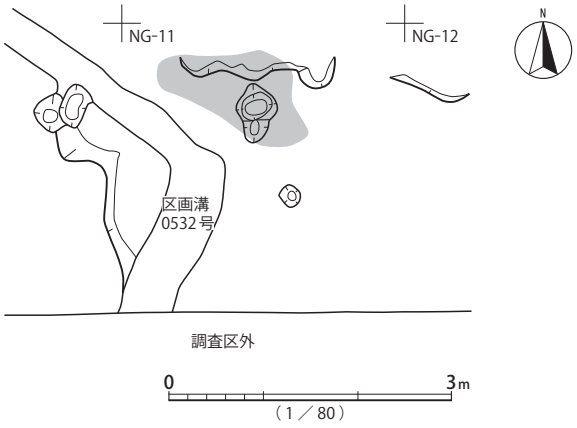
東南部JP−60を中心に位置する。竪穴0751号、土坑0552号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。

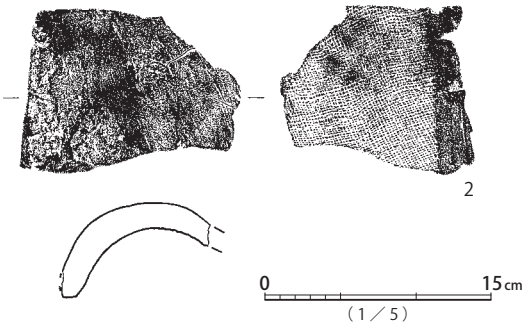
竪穴 0515号





竪穴 0537号





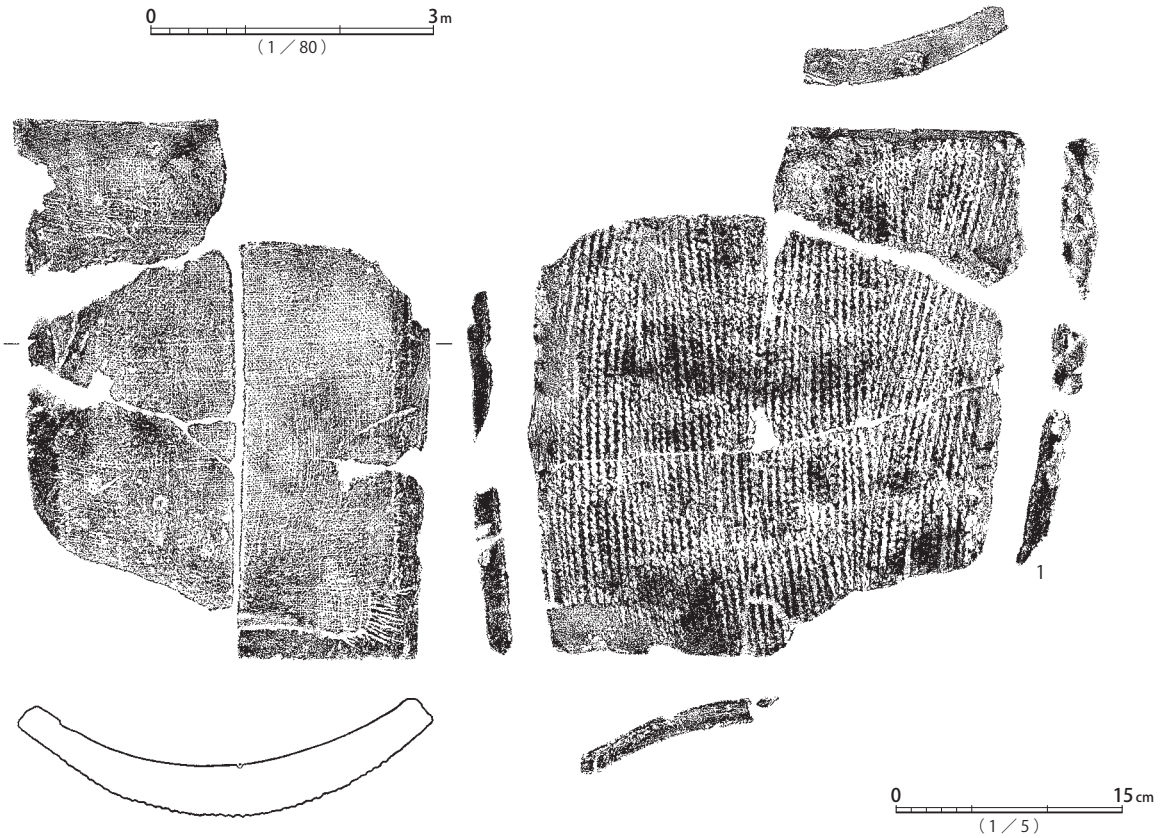
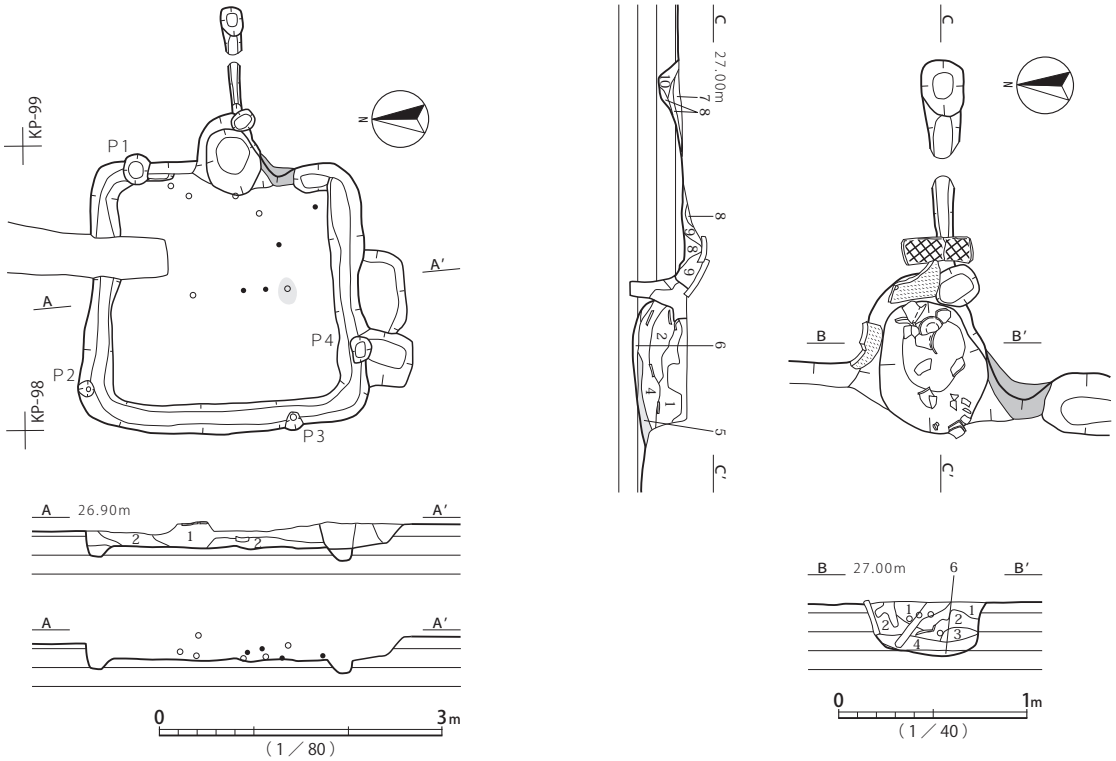


Fig.228　竪穴0515号 遺構遺物、竪穴0537号 遺構遺物

竪穴 0545 号



1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　暗褐色土　焼土粒を含む。

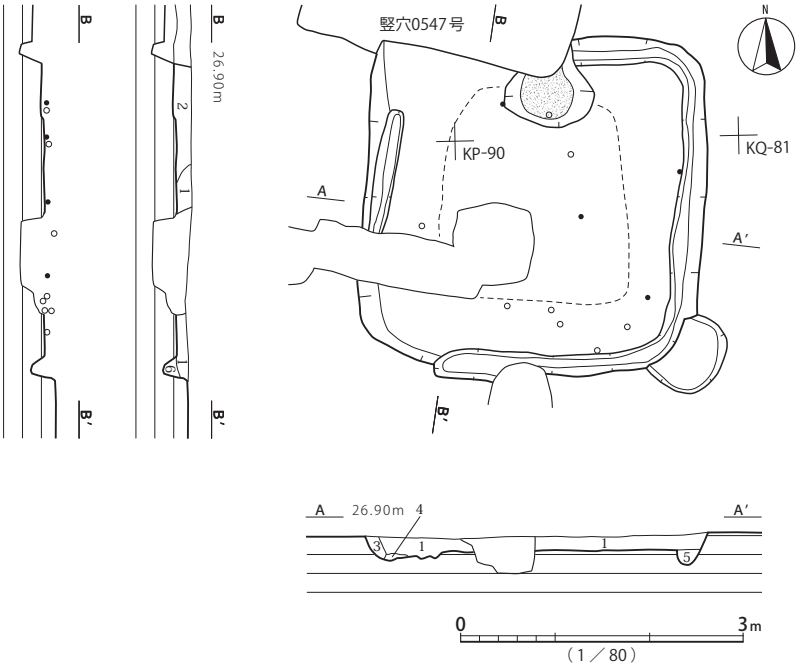
カマド
1　暗褐色土　粘土・焼土・ソフトローム・黒色粒の混合。
2　褐色土　　1に似るが、焼土を多量に含む。
3　黒褐色土　粘土微粒・焼土微粒を含む。
4　暗褐色土　焼土微粒・粘土ブロック・小ロームブロックを含む。
5　淡赤褐色土　焼土（焼成ローム・粘土）を主体とする。
6　黄褐色土　焼けたロームブロック。
7　暗褐色土　焼土・粘土粒を少量含む。
8　赤褐色土　被熱した粘土ブロック。
9　黄褐色土　ソフトロームを主体とし、粘土微粒が混じる。
10　黒褐色土　粘土粒・ローム微粒を多量に含む。


ph.1　出土状況


ph.2　カマド

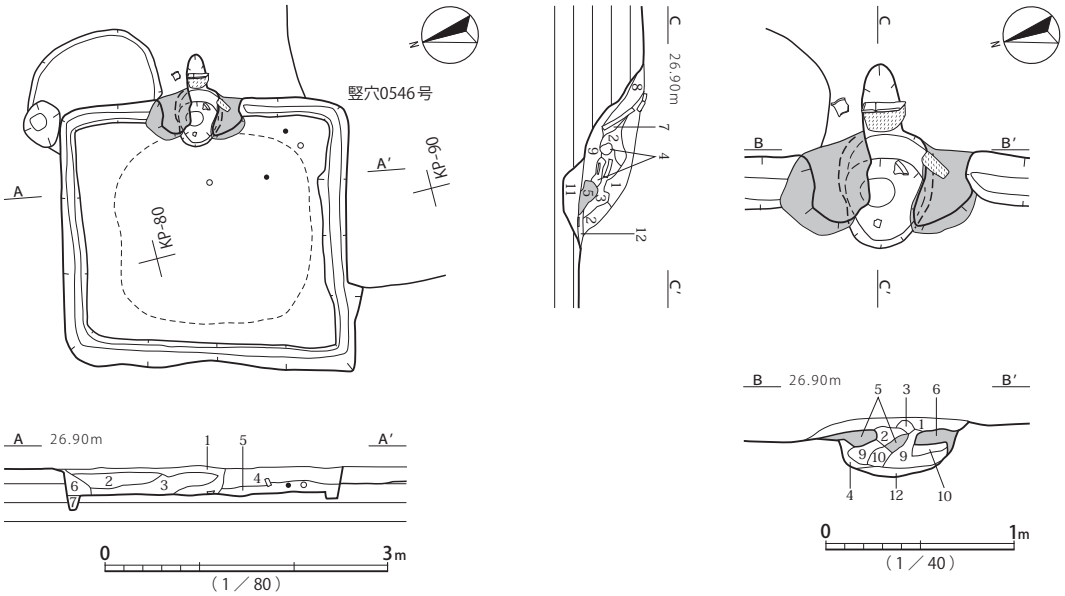
Fig.229　竪穴0545号 遺構・調査状況

竪穴 0546号



1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　褐色土　ロームを主体とする。
4　褐色土　ロームを含む。
5　暗褐色土　ロームを含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを含む。

竪穴 0547号

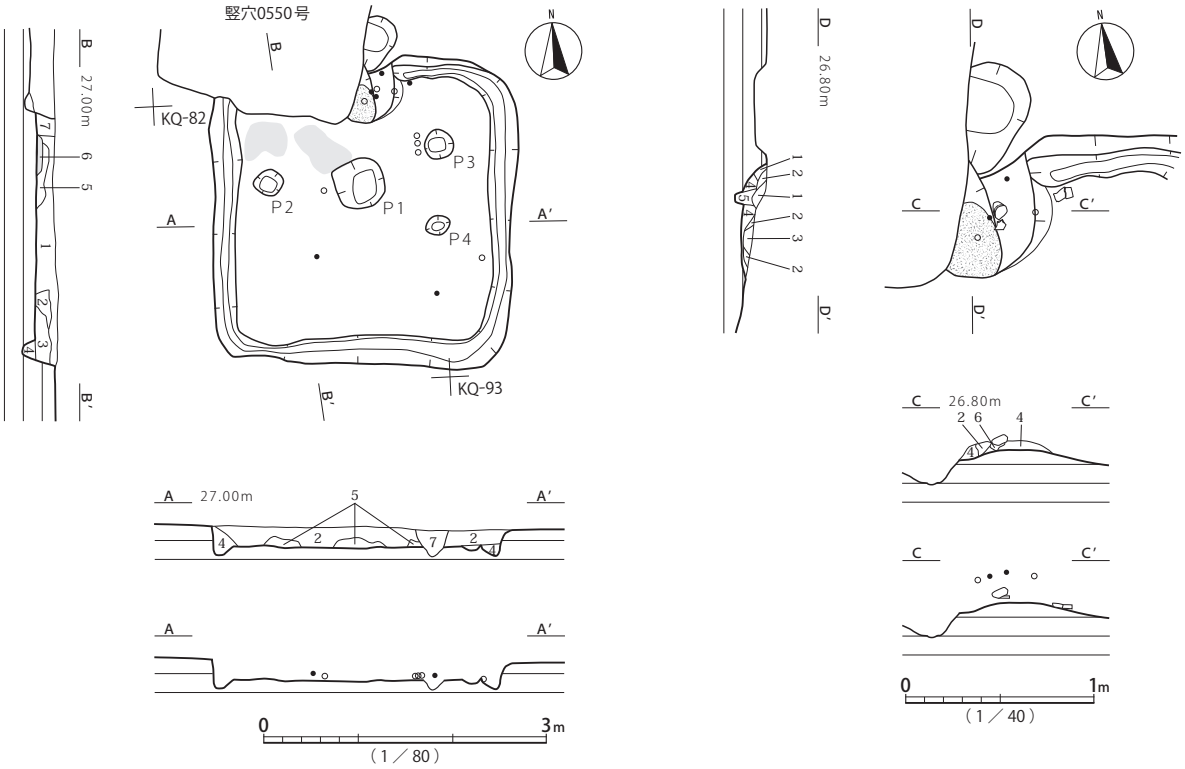


1　暗褐色土
2　暗褐色土　ロームブロックを含む。
3　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含む。
5　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
6　褐色土　ロームブロックを含む。
7　暗褐色土　ロームブロックとの混合。

カマド
1　黒色土　焼土・粘土粒・ローム微粒を含む。
2　黒色土　ソフトロームを多量に含む。
3　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を多量に含む。
4　暗灰色土　黒色土と粘土粒の混合。
5　白色粘土　粘土ブロック。
6　粘土　被熱し、赤褐色を呈す。
7　黒色土　炭化粒を多量に含む。
8　暗褐色土　粘土との混合で、焼土粒も多量に混じる。
9　暗赤色土　黒色土に多量の焼土を含み、ローム微量も混じる。
10　暗褐色土　9に似るが、黒色土が多い。
11　暗褐色土　ロームブロックとの混合。
12　黄褐色土　被熱したロームブロック。

Fig.230　竪穴0546号 遺構、竪穴0547号 遺構

竪穴 0549 号



1　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
2　暗褐色土　ローム粒を含む。
3　黒褐色土　ロームブロックを含む。
4　褐色土　ロームブロックを含む。
5　暗褐色土　焼土を含む。
6　焼土
7　黒色土

カマド
1　暗赤褐色土　焼土微粒・ローム粒・黒色土の混合。
2　暗黄褐色土　ソフトローム・暗褐色土の混合。
3　明赤褐色土　焼成粘土・焼成ローム・灰の混合。
4　黄褐色土　ソフトローム粒を主体とする。
5　黒褐色土　黒色土・ロームの混合。
6　砂　風・水化する。

Fig.231　竪穴0549号 遺構

平面形態は方形を呈し、規模は3.10×3.40m、遺構下端面積は7.9㎡、確認面からの深さは0.18mを測る。主軸方位はN−95°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−5期の所産と考えられる。

カマドと遺構覆土中から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されなかった。

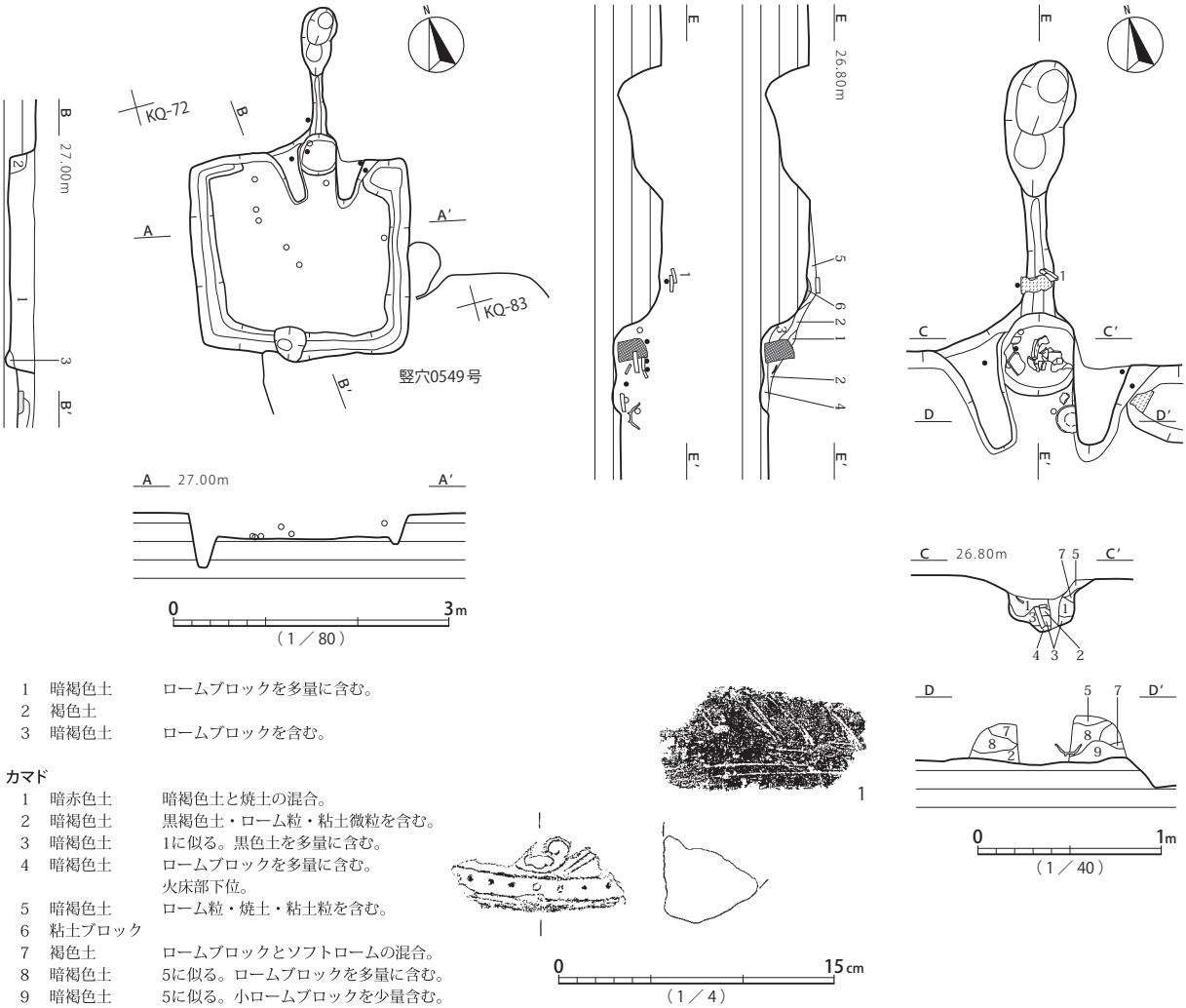
竪穴 0554 号　（Fig.234、PL.46）〔僧Ⅰ第 549〜551 図〕

東南部JP−28を中心に位置する。竪穴0752号、区画溝2042号と重複し、南西隅は調査区外へ延びる。新旧関係は、本遺構の方が2042号よりも古いが、0752号との関係は、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.54×3.10m、確認面からの深さは0.24mを測る。遺構下端面積は6.5㎡程度になるものと思われる。主軸方位はN−24°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−5〜Ⅴ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみである。凸面に細かい原体の縄叩き目が残り、南田1号ないし4号瓦

竪穴 0550 号



1　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。
2　褐色土
3　暗褐色土　ロームブロックを含む。

カマド
1　暗赤色土　暗褐色土と焼土の混合。
2　暗褐色土　黒褐色土・ローム粒・粘土微粒を含む。
3　暗褐色土　1に似る。黒色土を多量に含む。
4　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。
　　火床部下位。
5　暗褐色土　ローム粒・焼土・粘土粒を含む。
6　粘土ブロック
7　褐色土　ロームブロックとソフトロームの混合。
8　暗褐色土　5に似る。ロームブロックを多量に含む。
9　暗褐色土　5に似る。小ロームブロックを少量含む。

Fig.232　竪穴0550号 遺構遺物

窯跡の製品と考えられる。カマド覆土上層からの出土で、隣接する竪穴0752号に帰属する可能性がある。

竪穴 0555 号　（Fig.235・236、PL.45）〔僧 I 第 549～551 図〕

東南部JP−38を中心に位置する。竪穴0556・0754号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

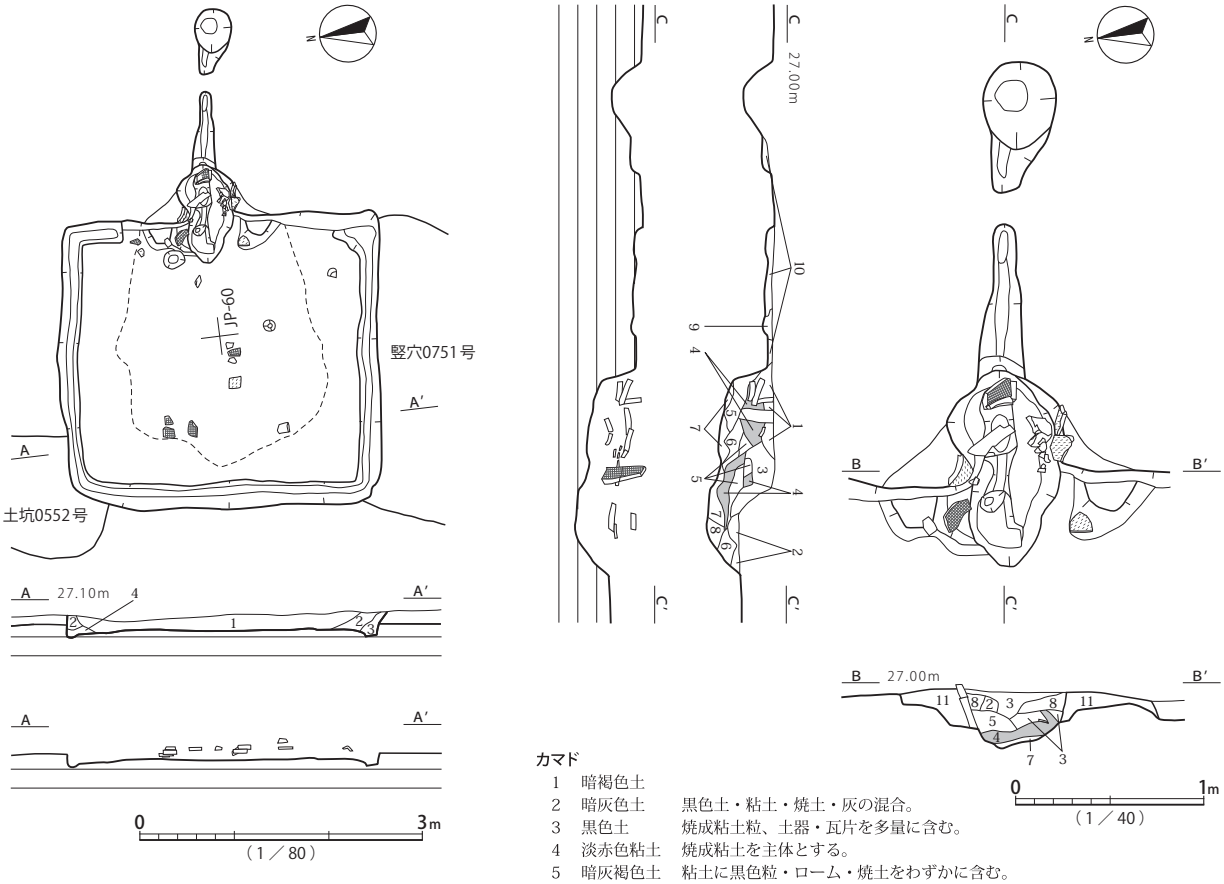
平面形態は方形を呈し、規模は3.26×3.22m、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−30°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1・2は玉縁式、3は行基葺式の丸瓦である。2の凸面には炭化物が付着し、3の凸面には明瞭な横方向のナデ痕が認められる。1・2はカマド内、3は遺構北東隅からの出土である。

竪穴 0560 号　（Fig.237）〔僧 I 第 543・544・546 図〕

東南部KQ−64を中心に位置する。竪穴0559号を建て替えたものと考えられる。

竪穴 0551 号



1　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
2　黒色土
3　暗褐色土　ロームを含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。

カマド
1　暗褐色土
2　暗灰色土　黒色土・粘土・焼土・灰の混合。
3　黒色土　焼成粘土粒、土器・瓦片を多量に含む。
4　淡赤色粘土　焼成粘土を主体とする。
5　暗灰褐色土　粘土に黒色粒・ローム・焼土をわずかに含む。
6　暗黄褐色土　ロームに粘土・灰を含む。
7　黄褐色土　ローム・焼成ロームブロック・炭化粒を含む。
8　黒褐色土　黒色土と粘土の混合。
9　黒色土
10　暗褐色土　ロームを主体とし、局部的に焼成粘土も混じる。
11　暗褐色土　粘土を多量に含み、ローム・炭・焼土・土器粉・灰も混じる。

Fig.233　竪穴0551号 遺構

平面形態は長方形を呈し、規模は3.16×4.15m、遺構下端面積は6.9㎡、確認面からの深さは0.11mを測る。主軸方位はN−9°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

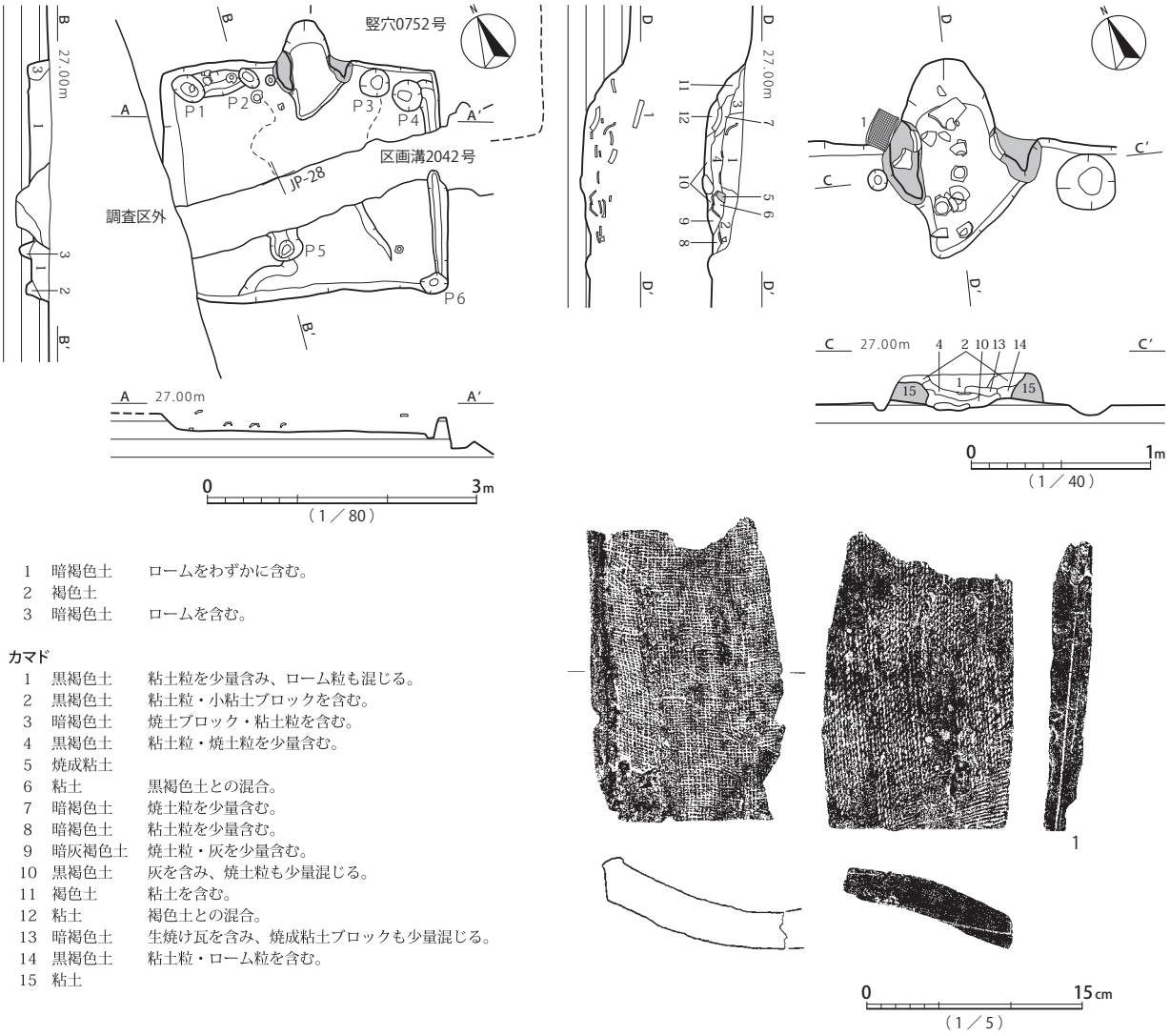
竪穴 0565 号　（Fig.238）〔僧Ⅰ第 557・558 図〕

東南部JQ−55を中心に位置する。竪穴0563号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈し、規模は2.84×3.08m、確認面からの深さは0.18mを測る。遺構下端面積は10.1㎡程度になるものと考えられる。主軸方位はN−19°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、出土レベルから本遺構の帰属と判断した。凸面の縄叩き目には2種類の原体が認められ、原体の潰れた粗い縄叩き目の上に、細かい原体の縄叩き目が残る。

竪穴 0554 号



1　暗褐色土　　ロームをわずかに含む。
2　褐色土
3　暗褐色土　　ロームを含む。

カマド
1　黒褐色土　　粘土粒を少量含み、ローム粒も混じる。
2　黒褐色土　　粘土粒・小粘土ブロックを含む。
3　暗褐色土　　焼土ブロック・粘土粒を含む。
4　黒褐色土　　粘土粒・焼土粒を少量含む。
5　焼成粘土
6　粘土　　黒褐色土との混合。
7　暗褐色土　　焼土粒を少量含む。
8　暗褐色土　　粘土粒を少量含む。
9　暗灰褐色土　焼土粒・灰を少量含む。
10　黒褐色土　　灰を含み、焼土粒も少量混じる。
11　褐色土　　粘土を含む。
12　粘土　　褐色土との混合。
13　暗褐色土　　生焼け瓦を含み、焼成粘土ブロックも少量混じる。
14　黒褐色土　　粘土粒・ローム粒を含む。
15　粘土

Fig.234　竪穴0554号 遺構遺物

竪穴 0568 号　（Fig.239）〔僧 I 第 560～563 図〕

東南部KR−84を中心に位置する。区画溝2044号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈し、規模は2.75×2.75m、遺構下端面積は4.9㎡、確認面からの深さは0.06mを測る。主軸方位はN−18°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

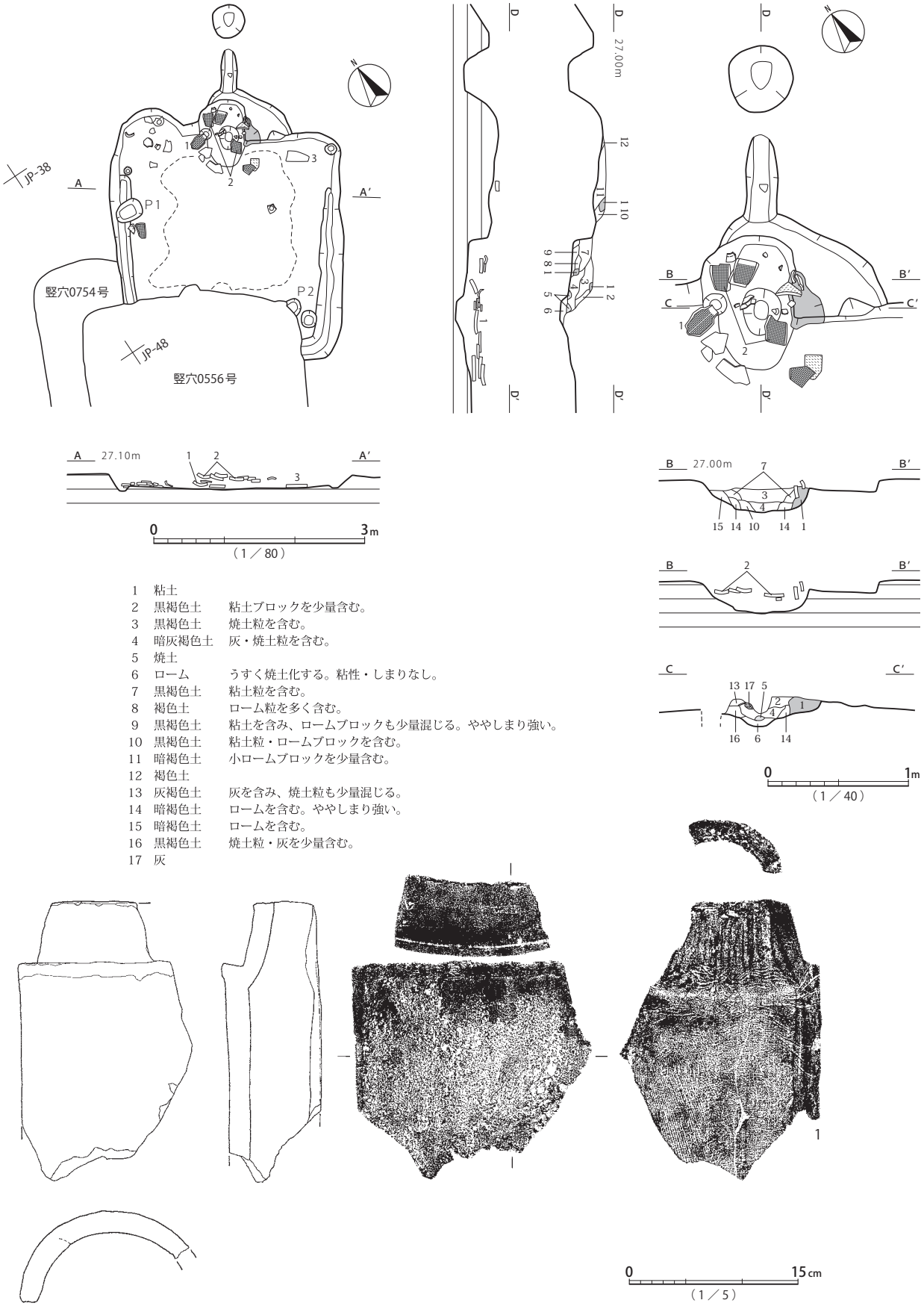
実測可能遺物は1の玉縁式丸瓦のみである。北辺壁際からの出土で、玉縁部側面には複数回の切痕が認められる。

竪穴 0569 号　（Fig.240・241、PL.45・46・215）〔僧 I 第 564・565 図〕

東南部JR−31を中心に位置する。区画溝2042号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.20×2.90m、遺構下端面積は6.7㎡、確認面からの深さは0.30mを測る。主軸方位はN−10°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−4

竪穴 0555 号



1　粘土
2　黒褐色土　粘土ブロックを少量含む。
3　黒褐色土　焼土粒を含む。
4　暗灰褐色土　灰・焼土粒を含む。
5　焼土
6　ローム　うすく焼土化する。粘性・しまりなし。
7　黒褐色土　粘土粒を含む。
8　褐色土　ローム粒を多く含む。
9　黒褐色土　粘土を含み、ロームブロックも少量混じる。ややしまり強い。
10　黒褐色土　粘土粒・ロームブロックを含む。
11　暗褐色土　小ロームブロックを少量含む。
12　褐色土
13　灰褐色土　灰を含み、焼土粒も少量混じる。
14　暗褐色土　ロームを含む。ややしまり強い。
15　暗褐色土　ロームを含む。
16　黒褐色土　焼土粒・灰を少量含む。
17　灰

Fig.235　竪穴0555号(1) 遺構遺物

竪穴 0555 号

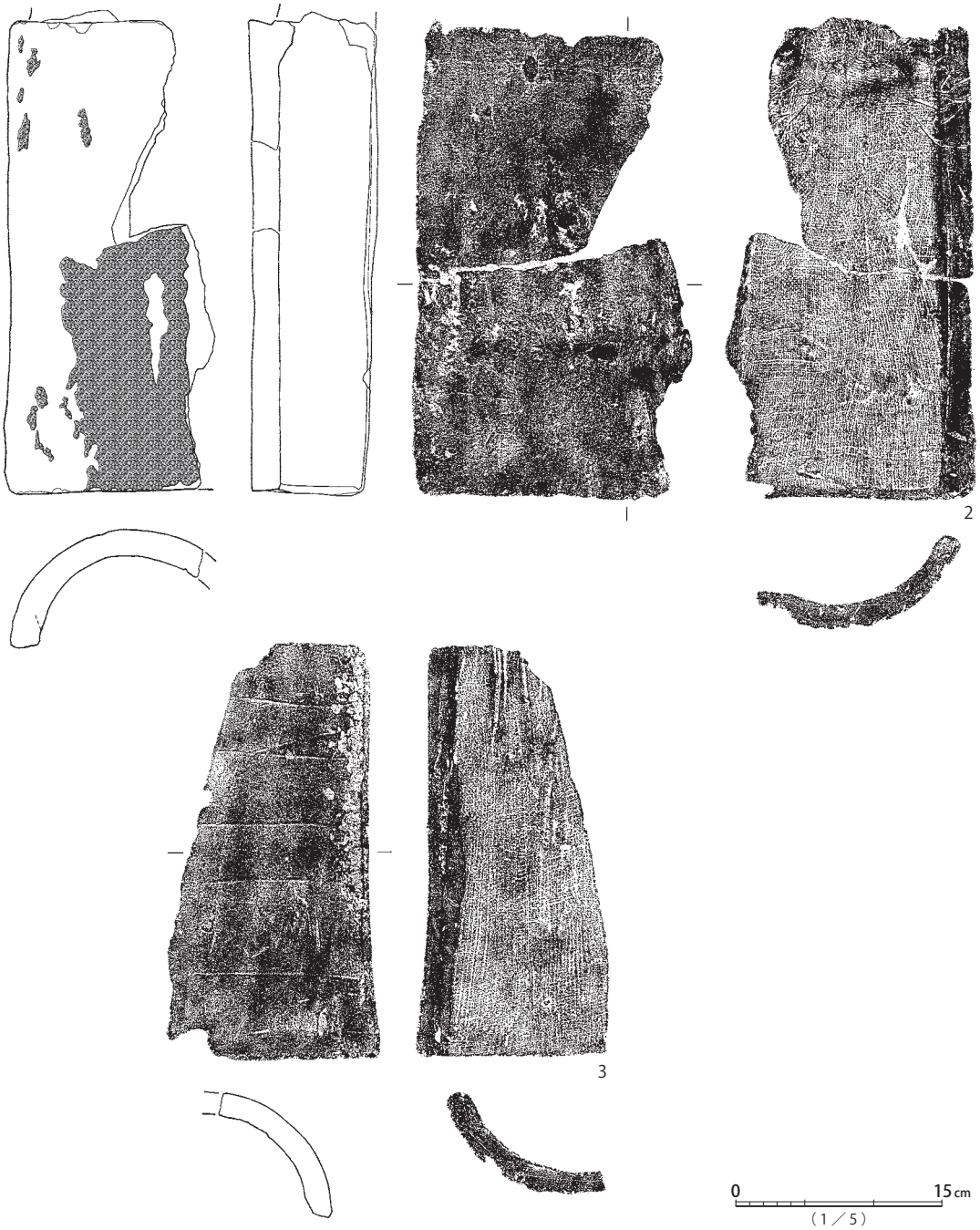
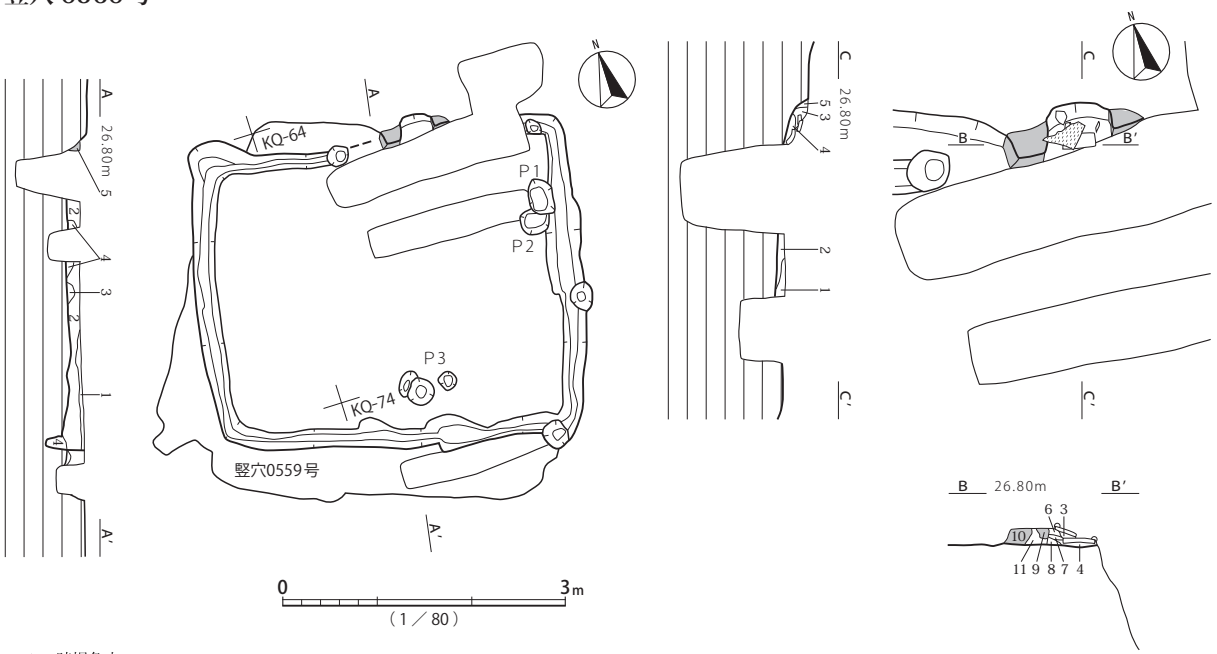


Fig.236　竪穴0555号(2) 遺物

期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2は平瓦である。1は瓦当面左上隅の笵割れ痕と顎部のみ縄叩き目を残すという特徴から、南田２号窯障壁土台の構築材として利用されていた軒平瓦と同時期のものである。凹面中央の弱い指ナデ痕は「キ」の字状を呈し、記号の可能性もあるが、他に類例がないことから、明確でない。いずれもカマド内からの出土で、構築材として利用されたと考えられる。

竪穴 0560 号



1　暗褐色土
2　暗褐色土　　ロームブロック・ローム粒を含む。
3　暗褐色土　　ロームブロックを含む。
4　暗褐色土　　ロームブロックを多く含む。
5　粘土

カマド
1　黒褐色土　　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　　焼土ブロックを含み、ロームブロックも少量混じる 。
3　黒褐色土　　焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
4　暗灰褐色土　焼土粒を含む。
5　暗赤褐色土　焼土を含む。
6　暗褐色土　　粘土を含む。
7　暗灰褐色土　焼土ブロック・粘土粒を含む。
8　暗褐色土　　粘土ブロックを含む。
9　粘土　　被熱赤色化する。
10　粘土
11　粘土　　暗褐色土との混合。

Fig.237　竪穴0560号 遺構

竪穴 0648 号　（Fig.242、PL.45）〔僧 I 第 566・567 図〕

東南部FN−02を中心に位置する。区画溝2111号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.46×2.90m、遺構下端面積は8.0㎡、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−20°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみである。凸面には縄巻叩き板の側縁部痕が、段差となって残る。カマド右袖部内壁部からの出土で、構築材として利用されたものである。

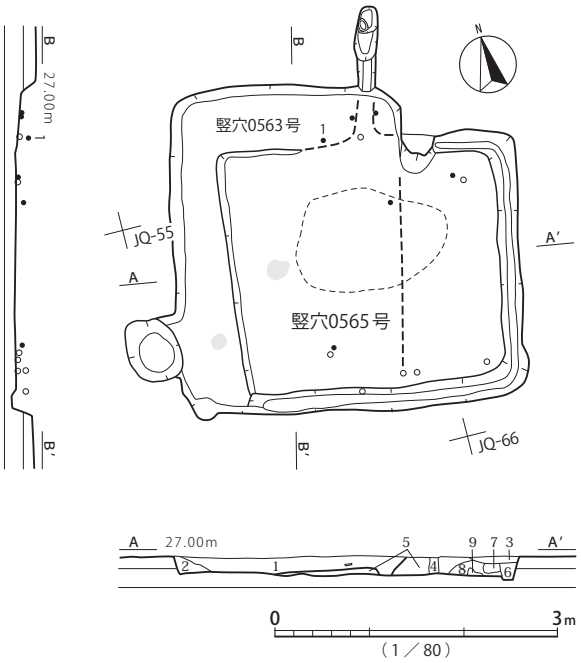
竪穴 0657 号　（Fig.243）〔僧 I 第 568・569 図〕

東南部GM−88を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長方形を呈し、規模は2.92×3.78m、確認面からの深さは0.12mを測る。南辺壁の一部が検出されないが、遺構下端面積は8.7㎡程度になるものと思われる。主軸方位はN−29°−Eである。カマドは北東隅から検出されている。僧寺編年Ⅳ−5期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみである。凸面には細かい原体の縄叩き目が残り、南田1号ないし4号瓦窯跡の製品と考えられる。カマド内から瓦の出土が確認できるが、1の出土位置は明確でない。

竪穴 0565 号



竪穴0563 号
1　黒褐色土　ローム粒・炭化粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。

竪穴0565 号
3　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。
4　黒褐色土　ロームを多く含む。
5　暗褐色土　ローム・ローム粒・粘土を含む。
6　黒褐色土　粗いローム粒を含む。
7　褐色土
8　黒褐色土　ローム粒を含む。
9　ローム

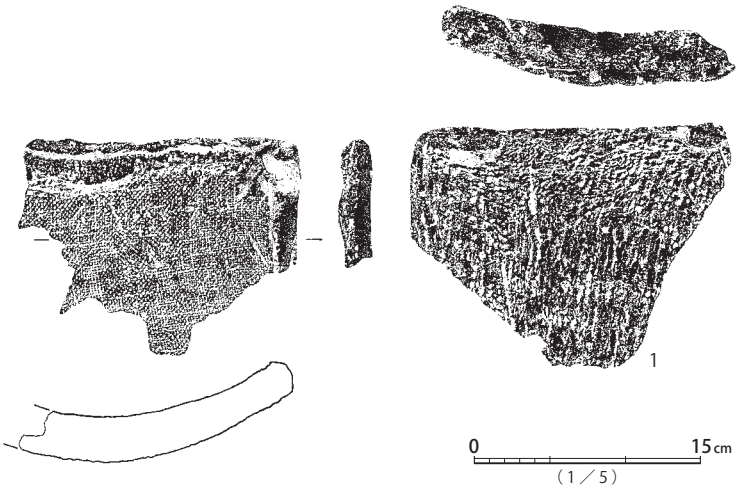


Fig.238　竪穴0565号 遺構遺物

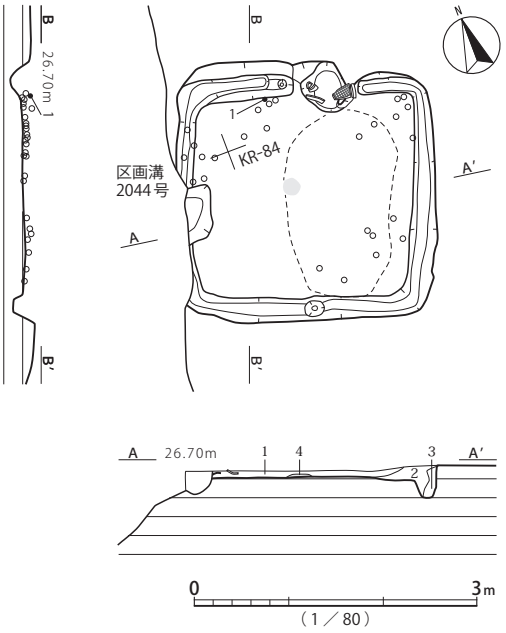
竪穴 0661 号　（Fig.244）〔僧 I 第 570・571 図〕

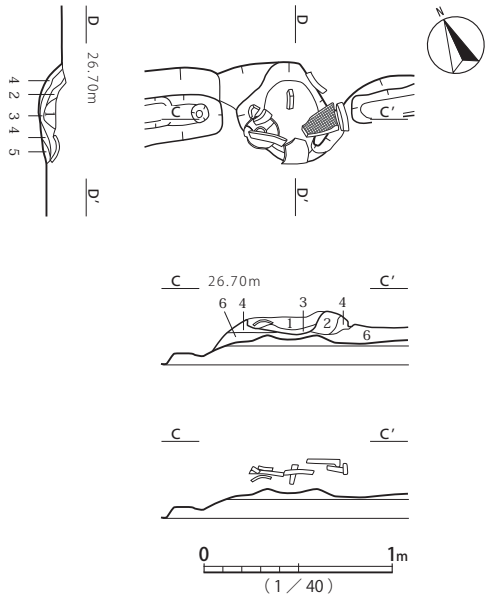
東南部GN−75を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.70×2.62m、遺構下端面積は5.2㎡、確認面からの深さは0.09mを測る。主軸方位はN−40°−Eである。カマドは北辺壁中央やや東寄りから検出されている。僧寺編年VIII期の所産と考えられる。

床面上から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0568号





1　暗褐色土
2　暗褐色土　ローム粒を含む。
3　褐色土　ローム粒を多量に含む。
4　焼土

カマド
1　黒褐色土　焼土微粒を含む。
2　黒褐色土　小焼土ブロック・粘土・ローム粒を含む。
3　暗褐色土　黒褐色土にローム・焼土・粘土・炭粒を多量に含む。
4　暗黄褐色土　ロームを主体とし、黒色粒、焼土・粘土微粒も混じる。
5　暗赤褐色土　焼土・ローム・黒色土の混合。
6　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。

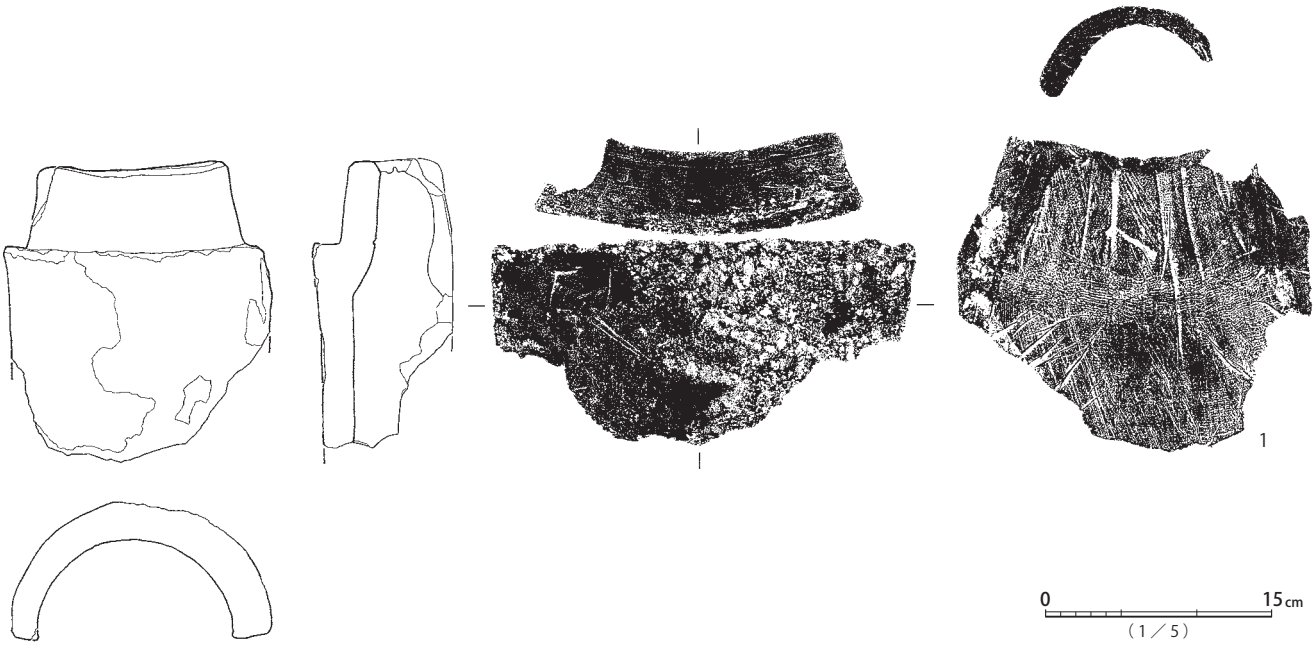
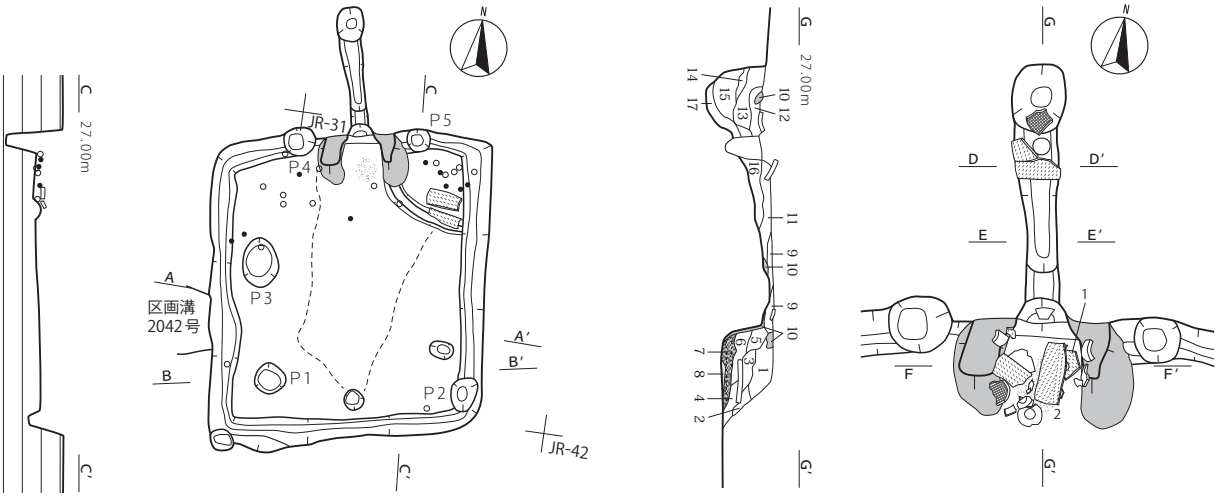
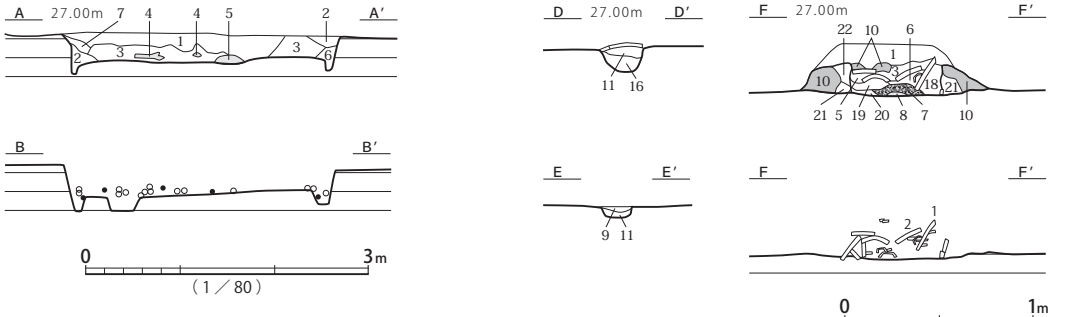


Fig.239　竪穴0568号 遺構遺物

竪穴 0569号





1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 ローム粒を含む。
3 褐色土 ローム粒・ロームブロックを含む。
4 焼土 焼土と炭の混合。
5 焼土
6 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
7 褐色土 ロームブロックを含む。

カマド

1 黒褐色土 ローム粒を含み、粘土粒も少量混じる。
2 黒褐色土 1に焼土ブロックが混じる。
3 黒褐色土 粘土・焼土粒を含む。
4 暗灰褐色土 焼土粒を含み、灰も少量混じる。
5 黒褐色土 粘土・小ロームブロックを含む。
6 暗灰褐色土 焼土ブロックを含み、粘土も少量混じる。
7 灰 焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
8 焼土
9 黒褐色土 粘土粒を含む。
10 粘土
11 黒褐色土 粘土ブロックを含み、焼土ブロックも少量混じる。
12 黒褐色土 粘土粒を含み、灰も少量混じる。
13 暗褐色土 粘土粒を含む。
14 褐色土
15 黒褐色土 黒色土・ロームブロックを少量含む。
16 暗褐色土 粘土粒を含み、ロームブロックも少量混じる。
17 暗褐色土 ロームブロックを含む。
18 暗灰褐色土 粘土・ロームブロックを含む。
19 灰褐色土 焼土粒を含み、灰も少量混じる。
20 灰褐色土 焼土ブロック・灰を含む。
21 粘土 黒褐色土との混合。ロームブロックが混じる。
22 黒褐色土 粘土を含む。



ph.1 出土状況



ph.2 カマド 1・2

Fig.240 竪穴0569号(1) 遺構・調査状況

竪穴 0569 号

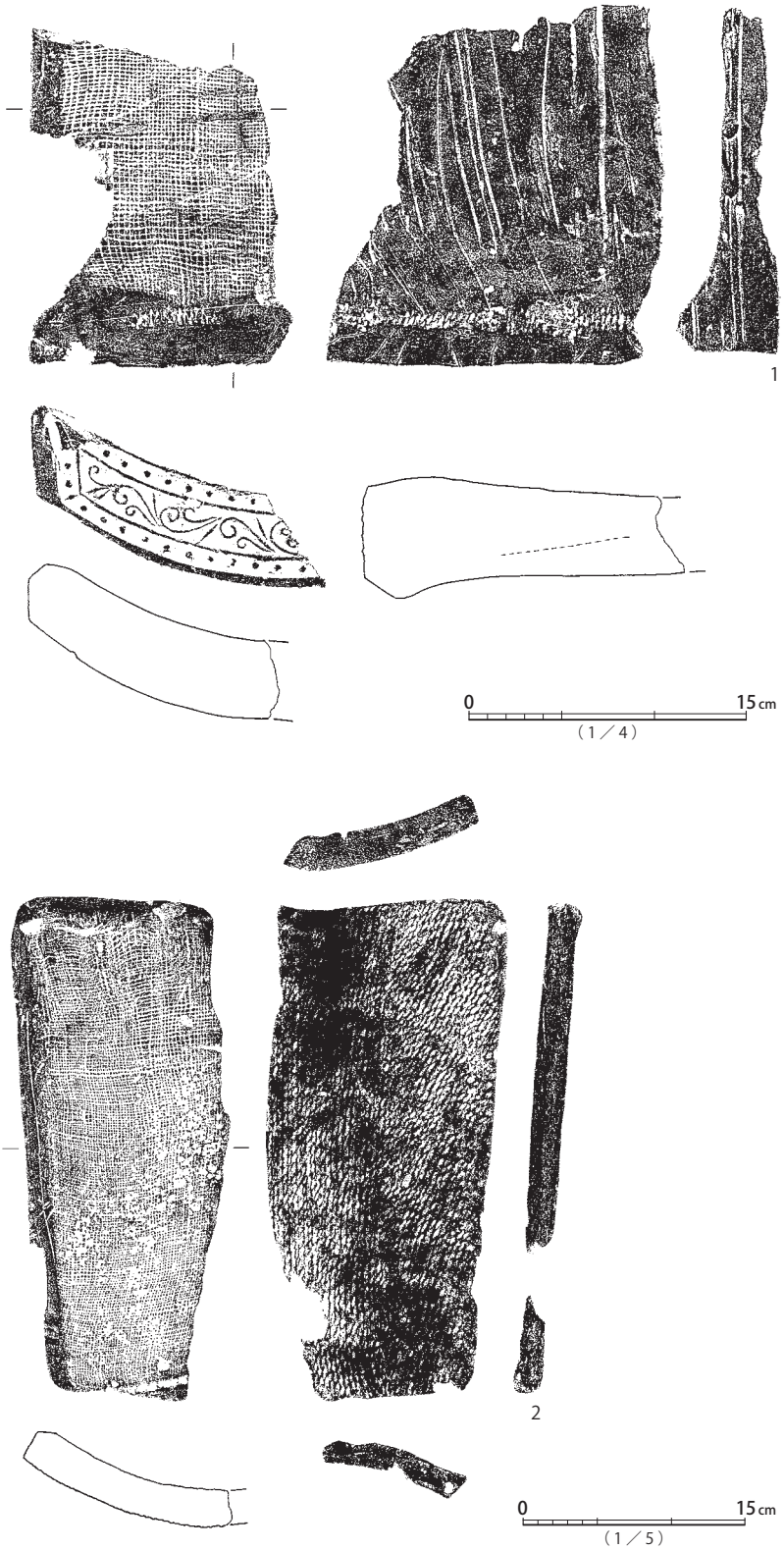
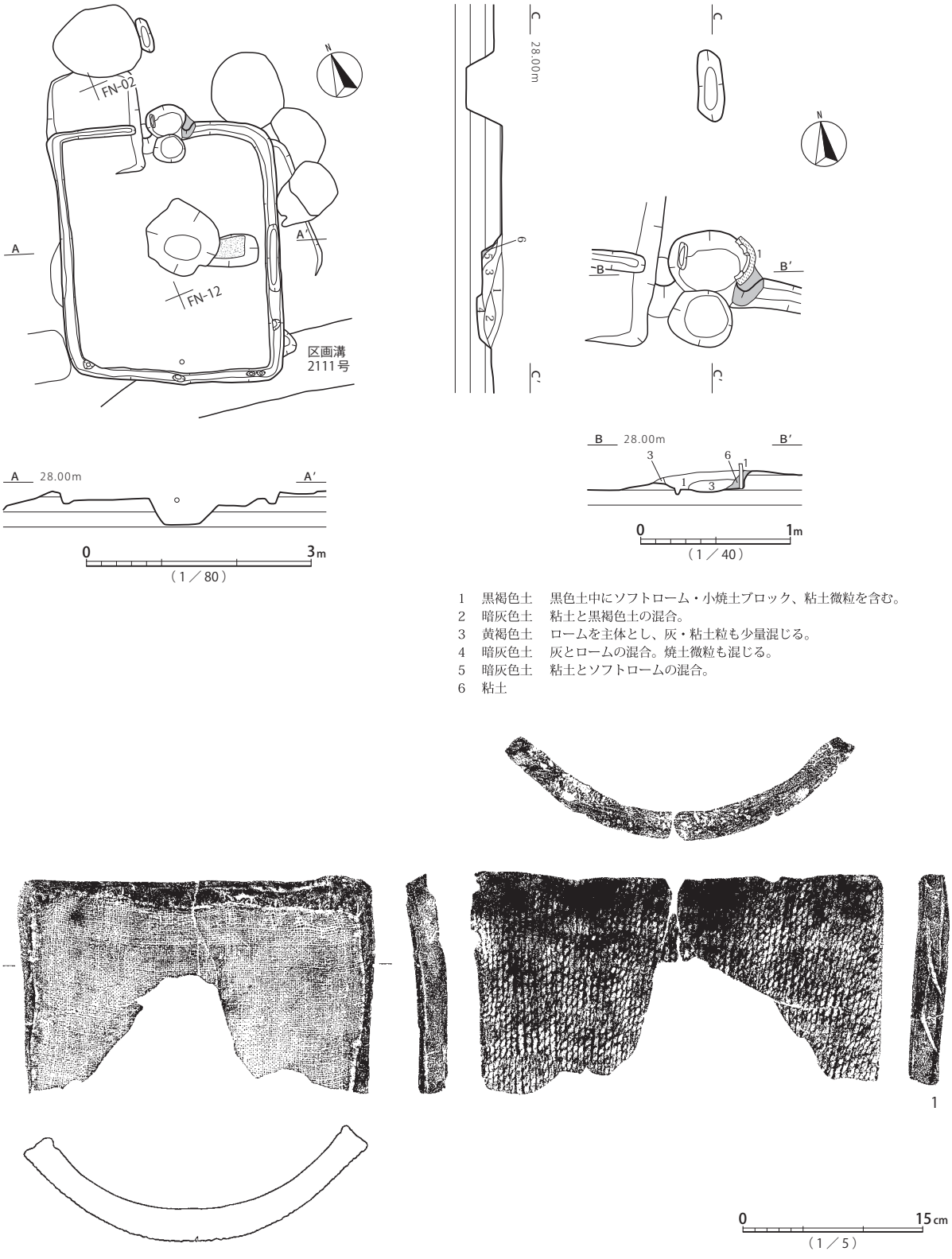


Fig.241　竪穴0569号(2) 遺物

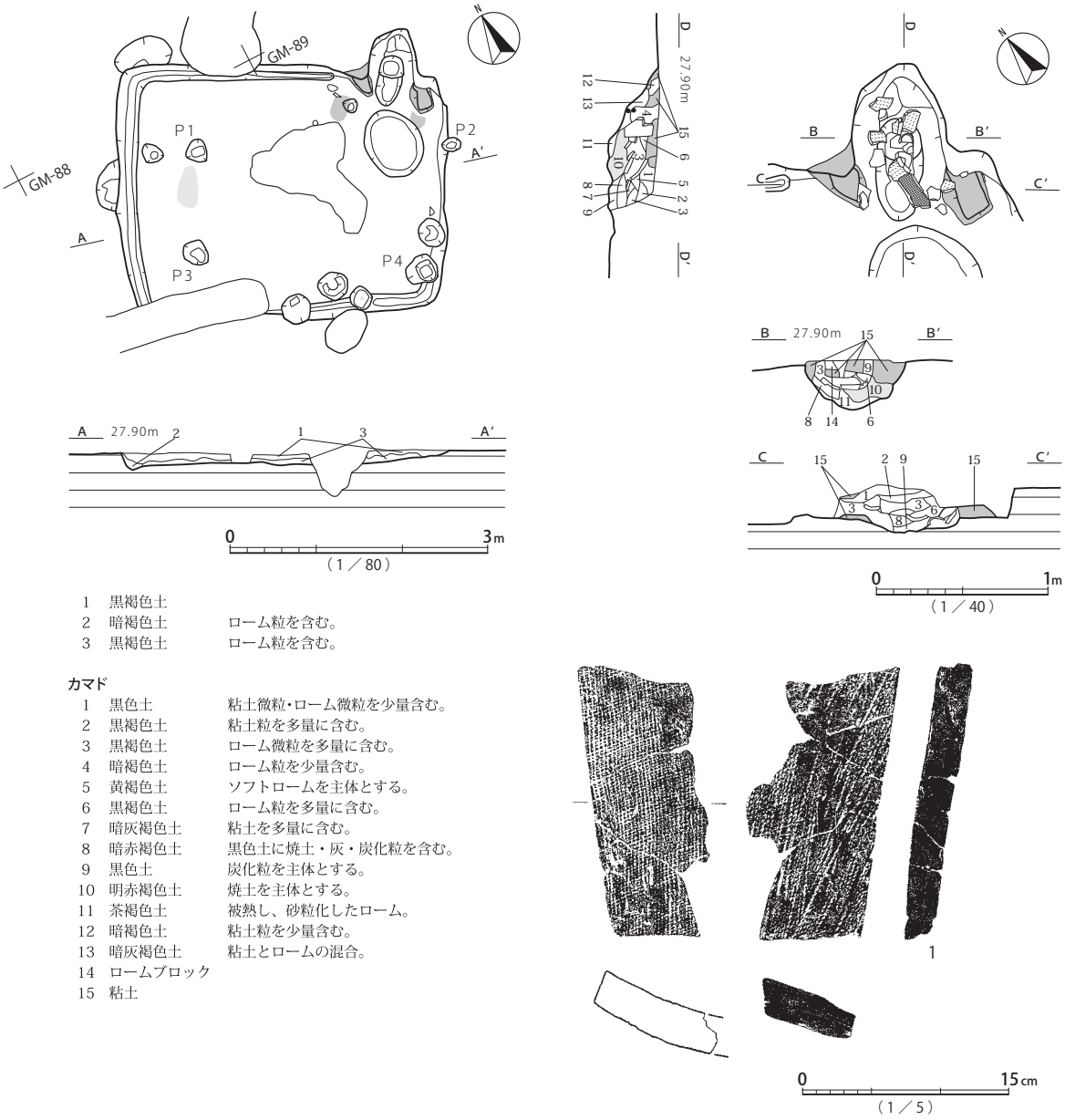
竪穴 0648号



1　黒褐色土　黒色土中にソフトローム・小焼土ブロック、粘土微粒を含む。
2　暗灰色土　粘土と黒褐色土の混合。
3　黄褐色土　ロームを主体とし、灰・粘土粒も少量混じる。
4　暗灰色土　灰とロームの混合。焼土微粒も混じる。
5　暗灰色土　粘土とソフトロームの混合。
6　粘土

Fig.242　竪穴0648号 遺構遺物

竪穴 0657 号



1　黒褐色土
2　暗褐色土　　ローム粒を含む。
3　黒褐色土　　ローム粒を含む。

カマド
1　黒色土　　粘土微粒・ローム微粒を少量含む。
2　黒褐色土　　粘土粒を多量に含む。
3　黒褐色土　　ローム微粒を多量に含む。
4　暗褐色土　　ローム粒を少量含む。
5　黄褐色土　　ソフトロームを主体とする。
6　黒褐色土　　ローム粒を多量に含む。
7　暗灰褐色土　　粘土を多量に含む。
8　暗赤褐色土　　黒色土に焼土・灰・炭化粒を含む。
9　黒色土　　炭化粒を主体とする。
10　明赤褐色土　　焼土を主体とする。
11　茶褐色土　　被熱し、砂粒化したローム。
12　暗褐色土　　粘土粒を少量含む。
13　暗灰褐色土　　粘土とロームの混合。
14　ロームブロック
15　粘土

Fig.243　竪穴0657号 遺構遺物

竪穴 0684 号　（Fig.245・246）〔僧 I 第 572～574 図〕

東南部IP−42を中心に位置する。掘立柱建物3190号、竪穴0686号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.26×3.20m、遺構下端面積は8.1㎡、確認面からの深さは0.35mを測る。主軸方位はN−110°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の丸瓦のみである。凹面には2種類の布目痕が認められ、広端側左隅部をわずかに切り欠く。カマド付近を中心に瓦の出土が確認できるが、1の出土位置は明確でない。

竪穴 0661 号

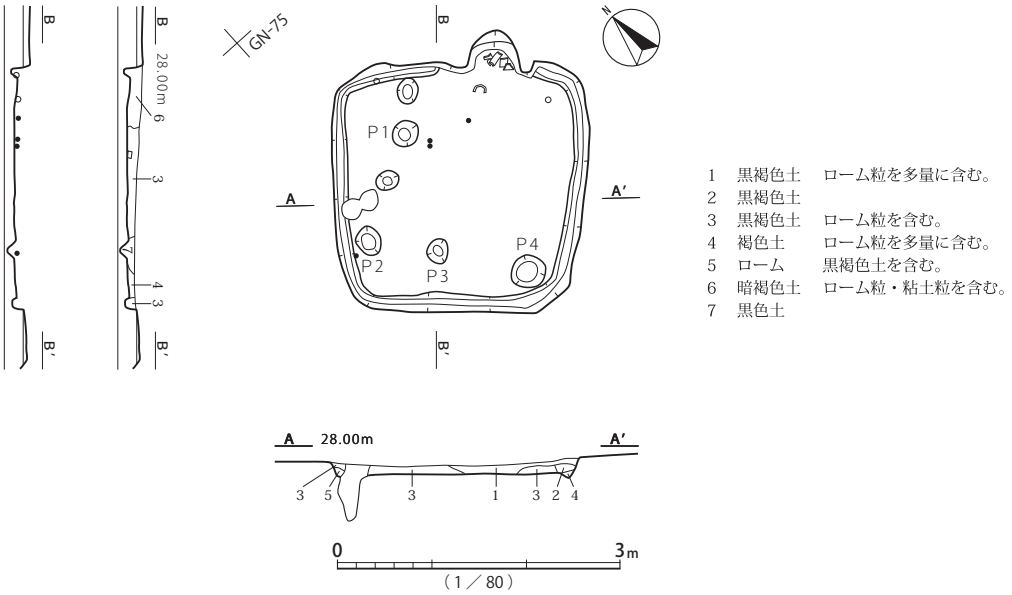


Fig.244 竪穴0661号 遺構

竪穴 0685 号 （Fig.246）〔僧 I 第 572・573・575 図〕

東南部IP−22を中心に位置する。竪穴0686号、溝2053・2083号と重複し、本遺構の方が0686号よりも新しく、2053・2083号よりも古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、遺構西側が検出されないため、明確でない。規模は南北軸長2.80m、確認面からの深さは0.22mを測る。東辺壁を基準とした場合の主軸方位はN−5°−Eである。カマドは北辺壁に位置したものと思われるが、明確でない。僧寺編年IV−5期の所産と考えられる。

遺構北側を中心に瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0686 号 （Fig.247・248）〔僧 I 第 572・573・575 図〕

東南部IP−31を中心に位置する。竪穴0685号、溝2053・2083号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

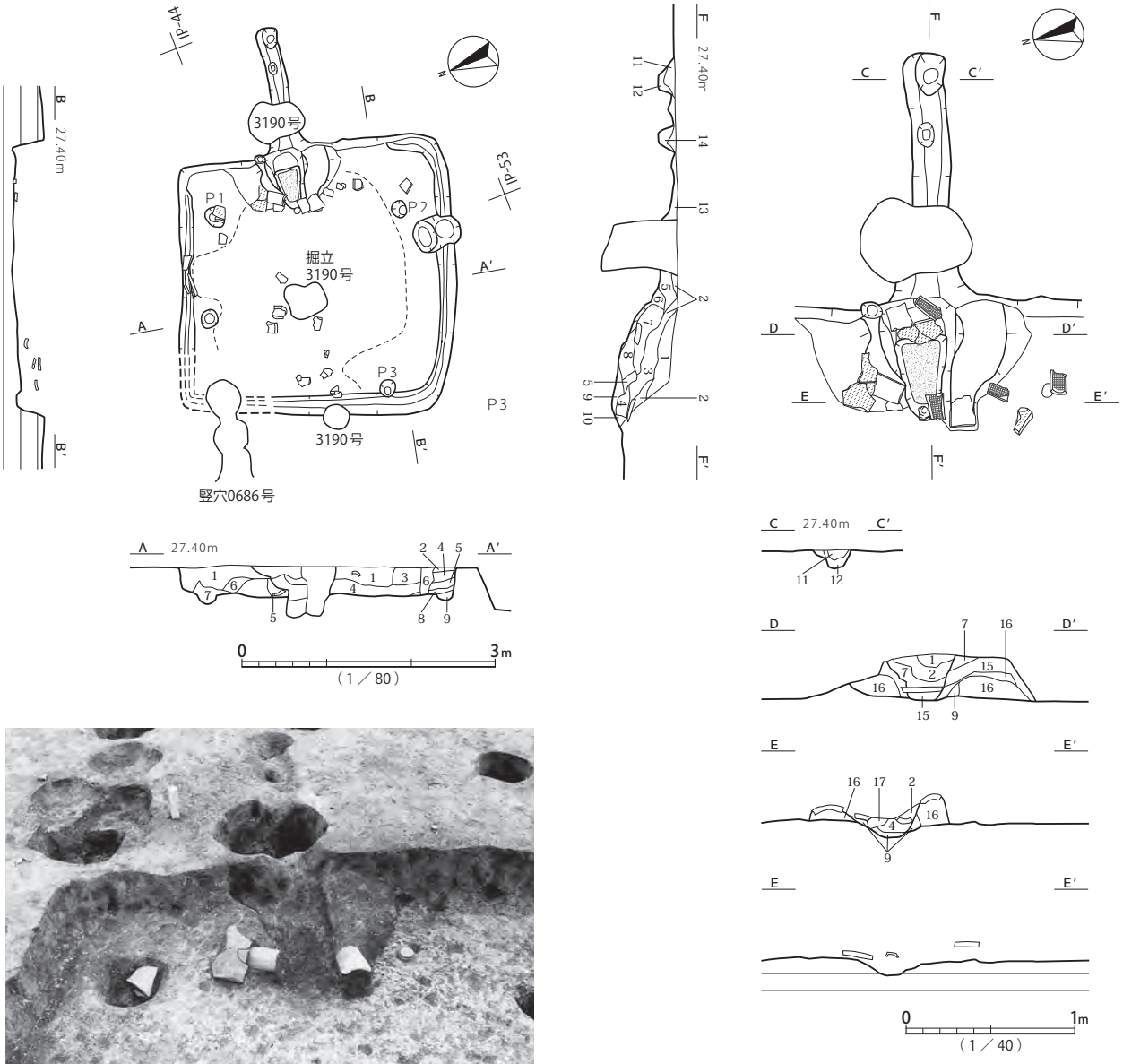
平面形態はやや横長の方形を呈し、規模は2.90×3.60m、遺構下端面積は7.7㎡、確認面からの深さは0.34mを測る。主軸方位はN−105°−Eである。カマドは東辺壁中央に位置するが、北辺壁からは古いカマドの痕跡が検出されている。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

遺構中央付近とカマドb（旧カマド）から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0687・0760・0765 号 （Fig.249〜251）〔僧 I 第 576〜579 図〕

東南部IO−20を中心に位置する。各遺構の新旧関係は、0765号が最も新しく、0687号が最も古い。このほかに、0687号は竪穴0764号と溝2053号、0760号は掘立柱建物3191号と竪穴0764号、

竪穴 0684 号



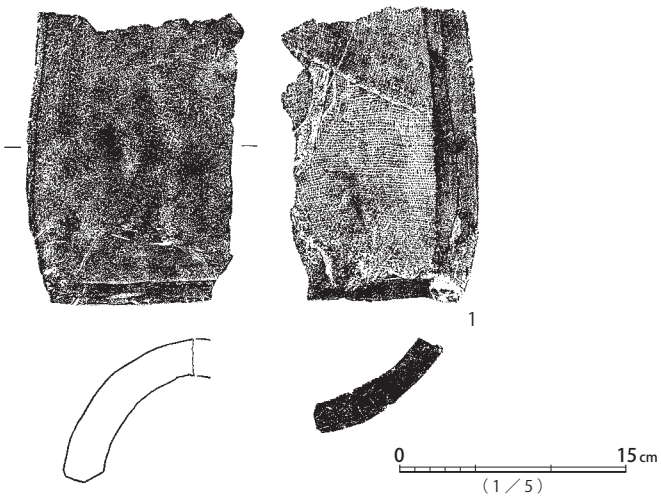
ph.1　カマド

1　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒を含む。
3　暗褐色土　小ロームブロック、ローム粒を含む。
4　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
5　暗褐色土　ロームブロックを含む。
6　黒褐色土
7　暗褐色土　ローム粒を含む。硬くしまる。
8　黒褐色土　ロームを含む。
9　茶褐色土　暗褐色土を含む。

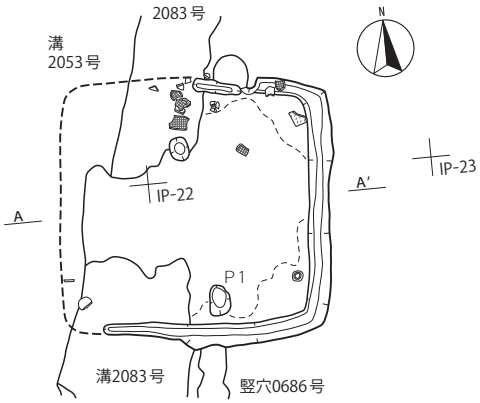
カマド
1　黒褐色土　粗い粘土粒を含む。
2　黒褐色土　粗い粘土粒を含む。硬くしまる。
3　暗褐色土　粘土・ローム粒を多量に含み、
　　焼土粒もごくわずかに混じる。
4　茶褐色土　ローム微粒・焼土粒を含む。
5　淡赤褐色土　粘土・焼土・ローム粒の混合。
6　ロームブロック
7　黒褐色土　部分的に粘土粒を含む。
8　暗褐色土　黒色土を多量に含む。
9　赤褐色土　焼土粒とローム微粒の混合。
10　暗褐色土　ロームブロック・焼土・炭の混合。
11　暗褐色土　粘土をやや多く含み、焼土粒も少量混じる。
12　暗褐色土　粘土粒を少量含む。
13　暗褐色土
14　褐色土　ソフトロームを主体とし、暗褐色土も混じる。
15　黒褐色土　ローム微粒・粘土微粒、粗い焼土粒を含む。
16　暗褐色土　ローム・粘土との混合。硬くしまる。
17　黒褐色土　粘土粒・焼土粒を少量含む。

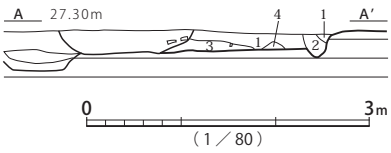
Fig.245　竪穴0684号(1) 遺構･調査状況

竪穴 0684 号



竪穴 0685 号

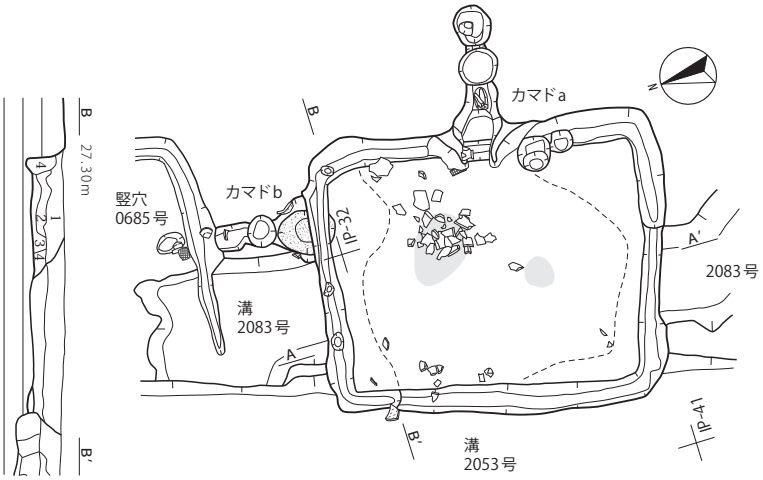




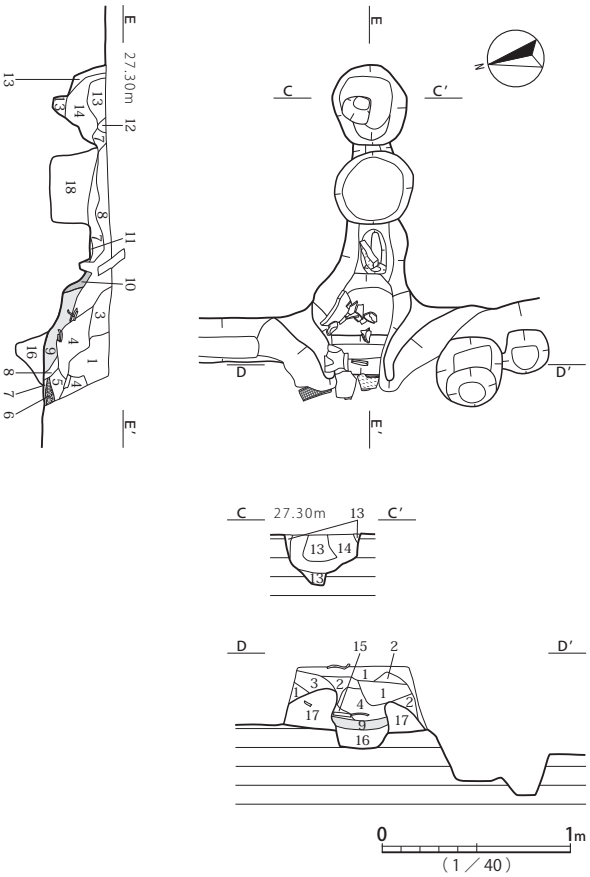
1　暗褐色土
2　黒褐色土　　ローム粒を多量に含む。
3　暗褐色土　　ローム粒を含む。硬くしまる。
4　黒褐色土

Fig.246　竪穴0684号(2) 遺物、竪穴0685号 遺構

竪穴 0686 号



1　暗褐色土　ローム細粒を含む。
2　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
3　暗褐色土　ローム・粘土を含む。
4　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。

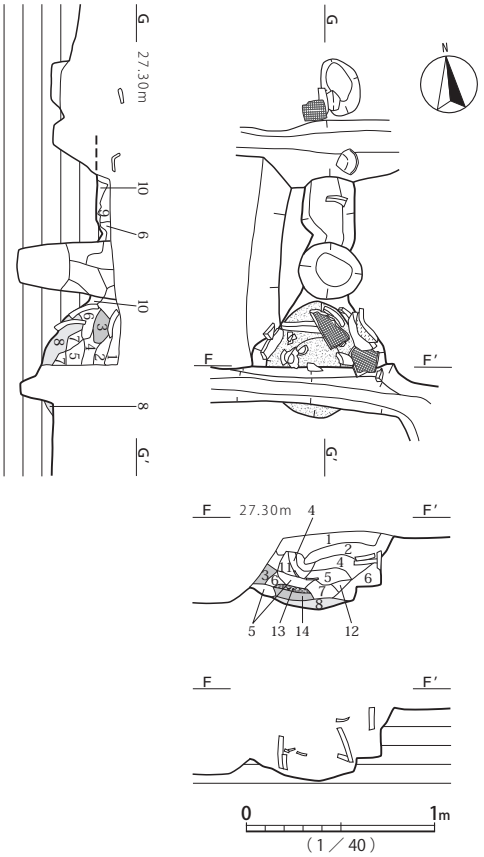


カマド a

1　黒色土　ローム微粒・焼土粒をごくわずかに含む。
2　黒褐色土　焼土粒・粘土粒を含む。
3　黒褐色土　焼土・粘土・ロームを含む。
4　黒褐色土　焼土・粘土を多量に含む。
5　黒色土　炭化粒・焼土粒を多量に含む。
6　黒色土　炭化粒を主体とする。
7　褐色土　粘土とロームの混合。
8　暗赤褐色土　ソフトローム粒を主体とし、焼土も混じる。
9　暗赤褐色土　焼土を主体とし、黒色土・炭化粒・焼土粒も混じる。
10　明赤褐色土　焼成粘土を主体とする。
11　褐色土　ソフトロームを多く含む。
12　暗赤褐色土　ローム・焼土・粘土の混合。
13　黒色土
14　黒褐色土　黒色土中に粘土を多量に含む。
15　暗褐色土　ローム・粘土を多量に含み、焼土も少量混じる。
16　黒色土　粗いローム粒を多量に含み、上層には焼土粒がわずかに混じる。
17　黒褐色土　焼土・粘土・ロームを含む。硬くしまる。
18　黒褐色土　ロームブロックを含む。

Fig.247　竪穴0686号(1) 遺構

竪穴 0686 号



カマド b

1	黒褐色土	ローム微粒・焼土粒を少量含む。
2	黒褐色土	焼土微粒を多量に含み、粘土粒も混じる。
3	粘土ブロック	
4	黒褐色土	焼土微粒・粘土粒を多量に含む。
5	黒褐色土	粗い粘土粒を多量に含み、焼土微粒も少量混じる。
6	淡暗赤褐色土	焼成粘土と灰の混合。
7	暗赤褐色土	焼成粘土と灰を主体とし、黒色土が混じる。
8	茶褐色土	焼成ローム。
9	黒褐色土	ソフトロームを多量に含み、焼土粒もごくわずかに混じる。
10	褐色土	ソフトロームを主体とする。
11	暗灰褐色土	粘土を多量に含む。
12	ロームブロック	
13	淡赤色土	灰と焼土微粒の混合。
14	赤褐色粘土	焼成粘土。



ph.1　カマド b

Fig.248　竪穴0686号(2) 遺構・調査状況

0765 号は竪穴0762 号、0764 号と重複する。

平面形態は、いずれも方形を呈するものと考えられる。規模は、0687 号が主軸長3.90m、0760 号が3.34×4.34m、0765 号が3.26×3.75m を測る。主軸方位は、0687 号がN−17°−E、0760 号がN−37°−E である。0765 号は、西辺壁を基準とした場合、N−20°−E となる。カマドは0687 号のみ検出され、北辺壁中央に位置するものと考えられる。帰属時期は、0687 号が僧寺編年Ⅳ−4〜5 期、0760 号が僧寺編年Ⅵ期、0765 号が僧寺編年Ⅶ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は0687 号1 の平瓦のみである。カマド付近を中心に瓦の出土が確認できるが、1 の出土位置は明確でない。

竪穴 0693 号　（Fig.252〜256、PL.45〜47・215・224）〔僧Ⅰ第 580〜583 図〕

東南部HP−11 を中心に位置する。竪穴0692 号、道路2087 号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.14×3.10m、遺構下端面積は7.1 ㎡、確認面からの深さは0.40m を測る。主軸方位はN−2°−W である。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4 期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1・2 は行基葺式の丸瓦、3〜8 は平瓦である。1・2 の側面には粘土板接合部から

竪穴 0687・0760・0765 号

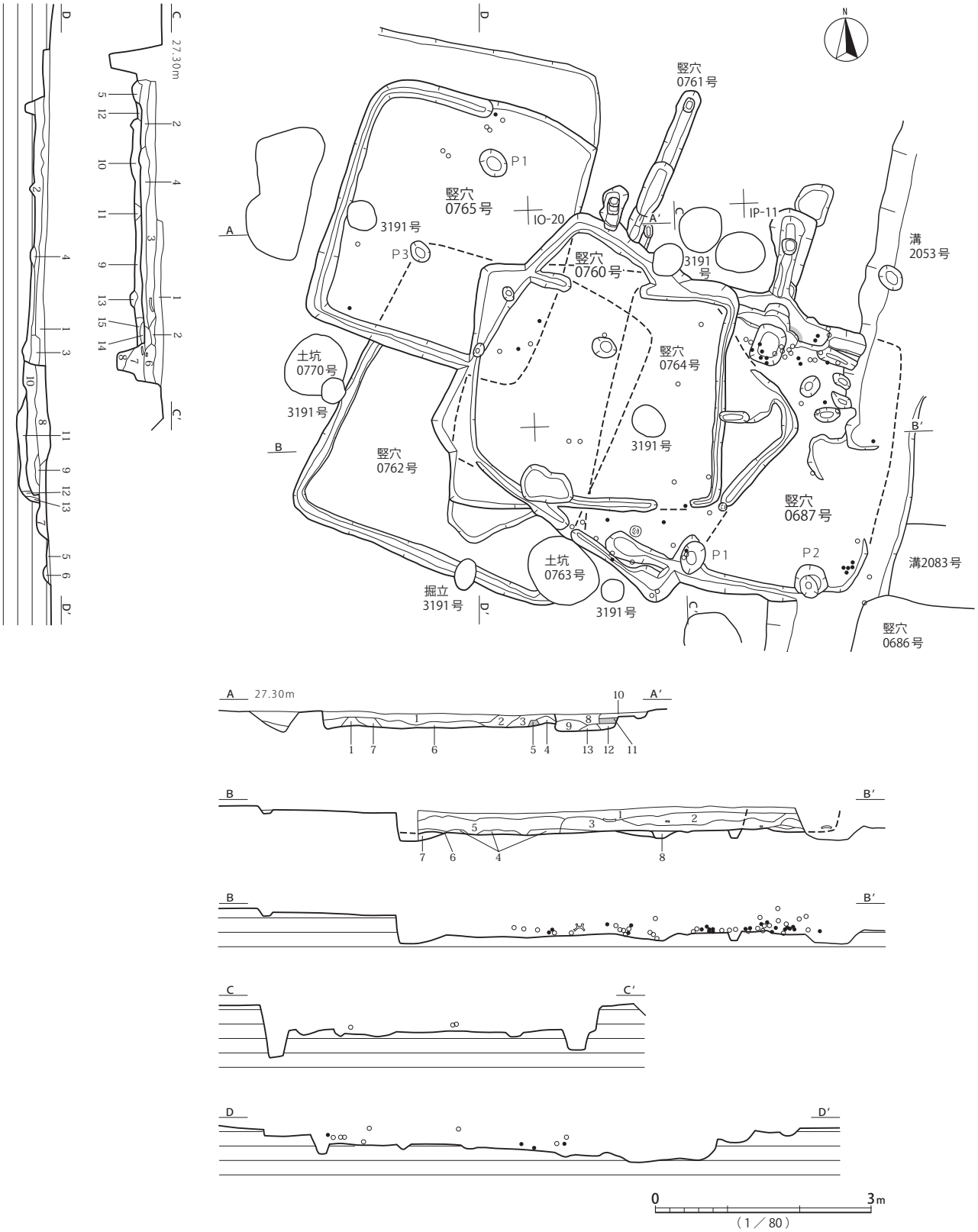


Fig.249　竪穴0687号(1) 遺構、竪穴0760号(1) 遺構、竪穴0765号(1) 遺構

竪穴 0687・0760・0765 号

A－A'
竪穴0765 号
1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
2　褐色土　ローム粒を含む。
3　暗褐色土　粘土を含む。
4　暗褐色土　粘土との混合。
5　粘土
6　暗褐色土　ローム粒を含む。硬くしまる。
7　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
竪穴0760 号
8　暗褐色土　ローム・焼土粒をわずかに含む。
9　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
10　暗褐色土
11　焼成粘土
12　暗褐色土　粘土・焼土を含む。
13　褐色土　ロームを多量に含む。

B－B'
竪穴0760 号
1　暗褐色土
2　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
3　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・粘土粒をわずかに含む。
4　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。硬くしまる。
5　暗褐色土　ローム粒・粘土粒・炭化粒を含む。
6　黒褐色土　ローム粒を多量に含む。
竪穴0764 号
7　ロームブロック　黒褐色土を含む。
8　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。硬くしまる。

C－C'
竪穴0760 号
1　暗褐色土
2　黒褐色土
3　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
4　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・粘土粒をわずかに含む。
5　褐色土　ロームを多量に含む。
6　褐色土　ローム粒を含む。
7　暗褐色土　ローム粒を含む。
8　ロームブロック　暗褐色土を含む。
竪穴0764 号
9　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。硬くしまる。
10　暗褐色土　ローム・粘土・焼土を含む。
11　暗褐色土　ロームとの混合。
12　褐色土　ロームを多く含み、暗褐色土も混じる。硬くしまる。
13　暗褐色土　ローム粒を含む。
14　ロームブロック　暗褐色土を含む。
15　暗褐色土　ローム粒をわずかに含む。

D－D'
竪穴0765 号
1　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒をわずかに含む。
3　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
4　黒褐色土　粒子細かい。
竪穴0762 号
5　-　竪穴覆土。
6　-　周溝覆土。
竪穴0760 号
7　暗褐色土
8　暗褐色土　ローム粒をわずかに含む。
9　暗褐色土　ローム粒との混合。
10　黒褐色土　ローム粒を多量に含む。
竪穴0764 号
11　暗褐色土　ローム粒との混合。
12　暗褐色土　ロームを含む。
13　ソフトローム

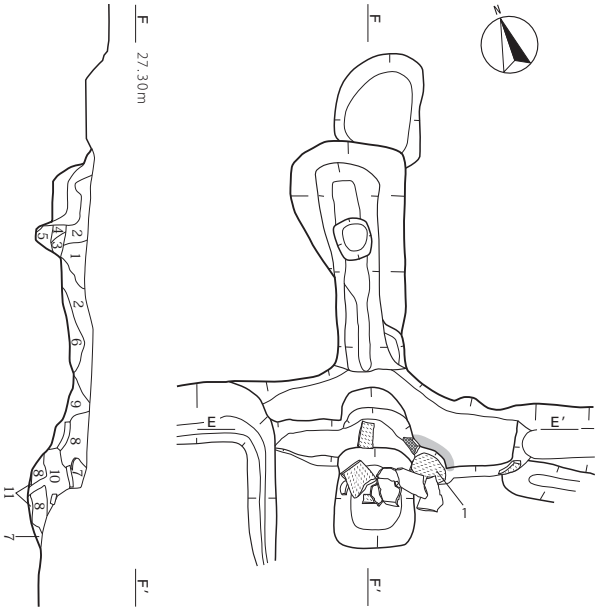

ph.1　出土状況


ph.2　0687号　出土状況

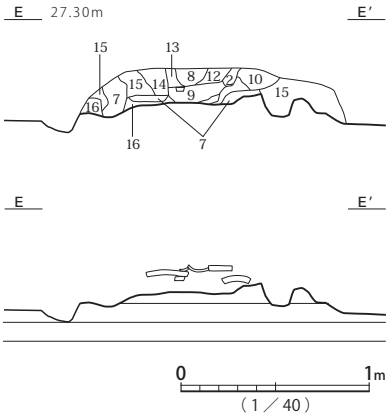
Fig.250　竪穴0687号(2) 遺構・調査状況、竪穴0760号(2) 遺構、竪穴0765号(2) 遺構

の剥離痕が認められ、剥離した側面部が板状瓦製品として認識されている可能性がある。いずれもカマド煙道部からの出土で、凸面を上にして、煙道と直行方向に設置されていた。3～5・7・8の凸面狭端側には、周淮郡を示すものと考えられる「周」の文字が押印される。6の凹凸面には縦方向の沈線が刻まれ、熨斗瓦製作用の分割線の可能性があるが、線の位置が凹凸面でずれており、明確でない。3・4・5はカマド袖部内壁からの出土で、凸面を燃焼部側にして設置されていた。なお、本遺構の北辺壁周溝内からは、灰釉手付瓶が出土している。

竪穴 0687 号



1　暗褐色土　ソフトロームとの混合。
2　暗褐色土　黒色土にソフトローム・粘土・焼土微粒を含む。
3　暗黄褐色土　ソフトローム中に黒色粒を含む。
4　黒色土
5　暗褐色土　焼土・粘土を多量に含み、ロームも混じる。硬くしまる。
6　暗灰褐色土　暗褐色土と粘土の混合。
7　黒褐色土　ローム粒を多量に含み、粗いローム粒も少量混じる。
8　暗赤褐色土　暗褐色土中に焼土粒を多量に含む。
9　暗褐色土　粘土・ローム微粒を多量に含む。硬くしまる。
10　暗褐色土　焼土粒・粘土粒・ロームを多量に含み、粘土ブロックも混じる。硬くしまる。
11　茶褐色土　被熱したローム細粒。
12　黒褐色土　焼土・粘土を多量に含む。硬くしまる。
13　褐色土　焼土粒・粘土粒を含む。しまりなし。
14　暗褐色土　黒褐色粒・ローム粒を含む。
15　暗褐色土　ローム粒・粘土粒・ロームブロックを含む。
16　ソフトローム





ph.1　カマド 1

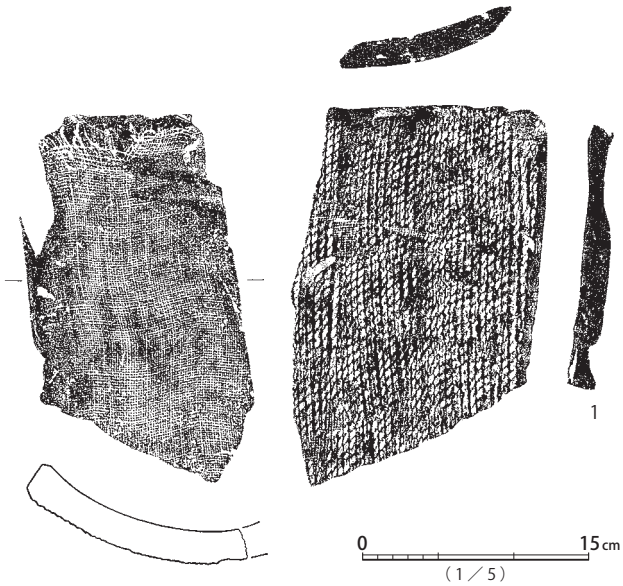
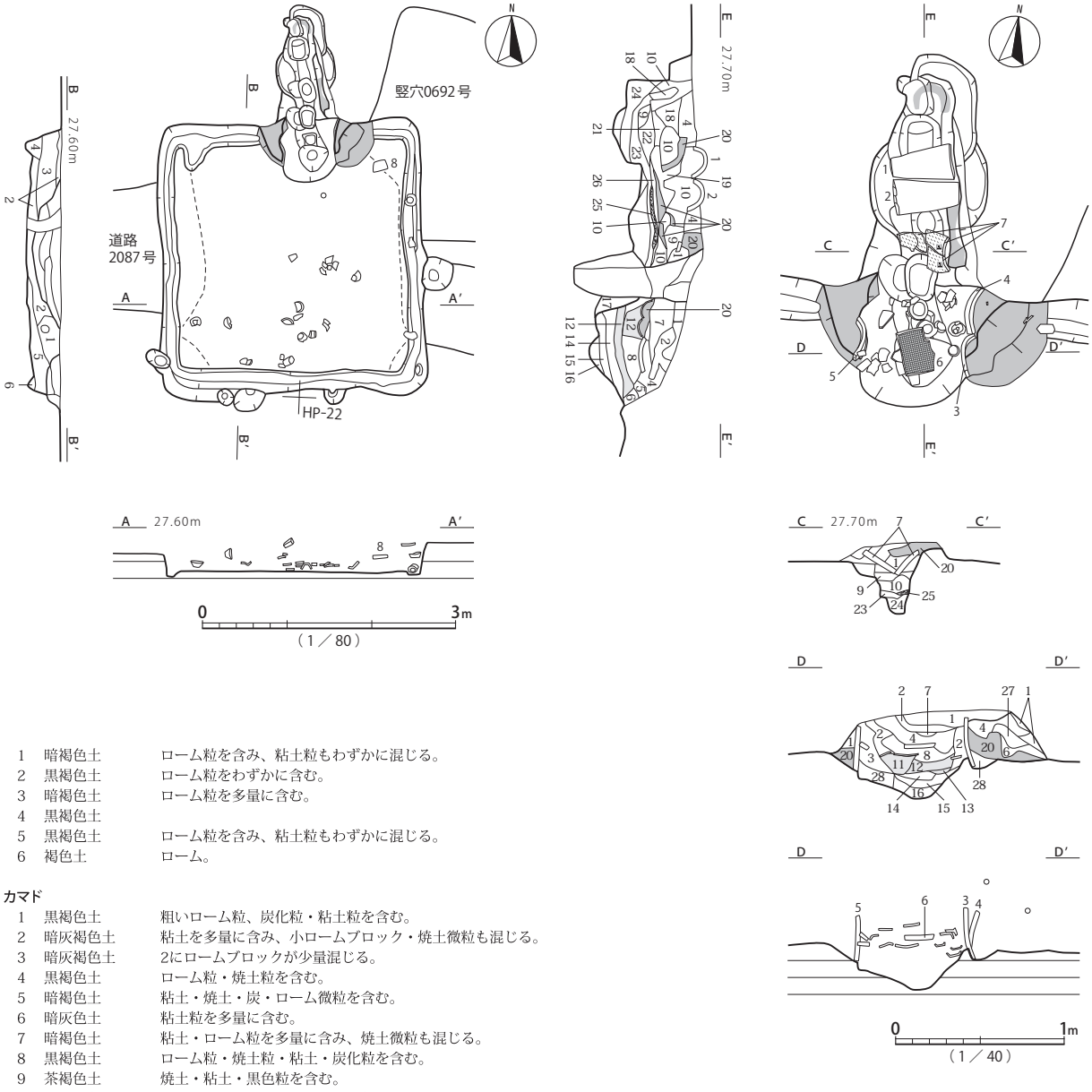


Fig.251　竪穴0687号(3) 遺構遺物・調査状況

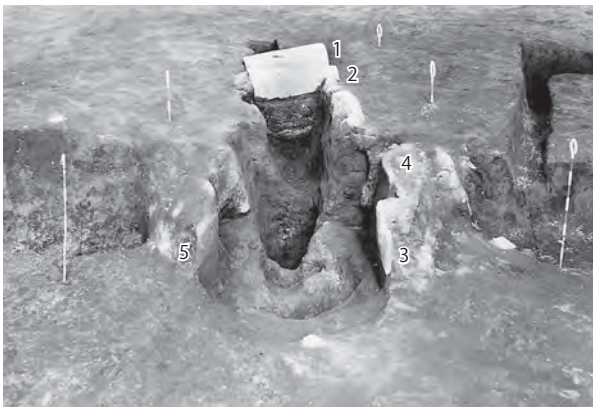
竪穴 0693 号



1	暗褐色土	ローム粒を含み、粘土粒もわずかに混じる。
2	黒褐色土	ローム粒をわずかに含む。
3	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
4	黒褐色土	
5	黒褐色土	ローム粒を含み、粘土粒もわずかに混じる。
6	褐色土	ローム。

カマド

1	黒褐色土	粗いローム粒、炭化粒・粘土粒を含む。
2	暗灰褐色土	粘土を多量に含み、小ロームブロック・焼土微粒も混じる。
3	暗灰褐色土	2にロームブロックが少量混じる。
4	黒褐色土	ローム粒・焼土粒を含む。
5	暗褐色土	粘土・焼土・炭・ローム微粒を含む。
6	暗灰色土	粘土粒を多量に含む。
7	暗褐色土	粘土・ローム粒を多量に含み、焼土微粒も混じる。
8	黒褐色土	ローム粒・焼土粒・粘土・炭化粒を含む。
9	茶褐色土	焼土・粘土・黒色粒を含む。
10	暗灰褐色土	粘土中にローム・焼土微粒・黒色粒を含む。
11	焼土	不規則に堆積した焼土。
12	焼土	層状に堆積した焼土。
13	焼土	層状に堆積した焼土に灰が大量に混じる。
14	暗褐色土	焼土粒を含む。
15	黒褐色土	炭を多量に含む。
16	暗褐色土	ごく粗いローム粒を多量に含む。
17	黄褐色土	強く被熱し、もろくなったローム壁。
18	黒色土	粘土粒を少量含む。
19	ロームブロック	粘土との混合。
20	粘土	ローム・焼土を少量含む。
21	黒色土	粘土粒を多量に含む。
22	黒色土	粘土・ローム・焼土を少量含む。
23	暗褐色土	ローム粒・焼土微粒を少量含む。
24	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
25	炭化物	硬くしまる。
26	暗黄褐色土	突き固められたローム粒。硬くしまる。
27	黒褐色土	粘土微粒を含む。
28	ロームブロック	



ph.1　カマド 1・2・3・4・5

Fig.252　竪穴0693号(1) 遺構・調査状況

竪穴 0693 号

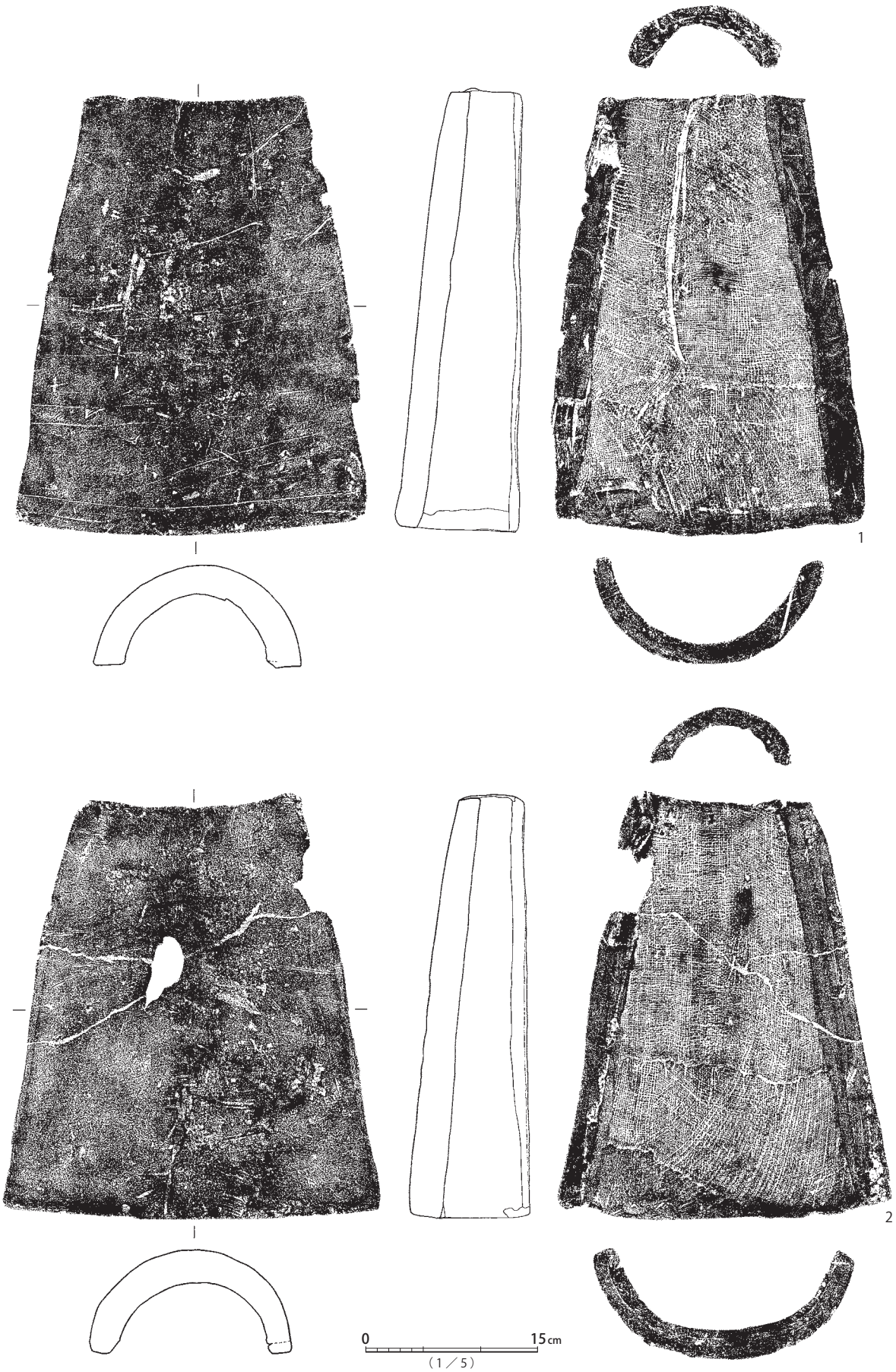


Fig.253　竪穴0693号(2) 遺物

竪穴 0693 号

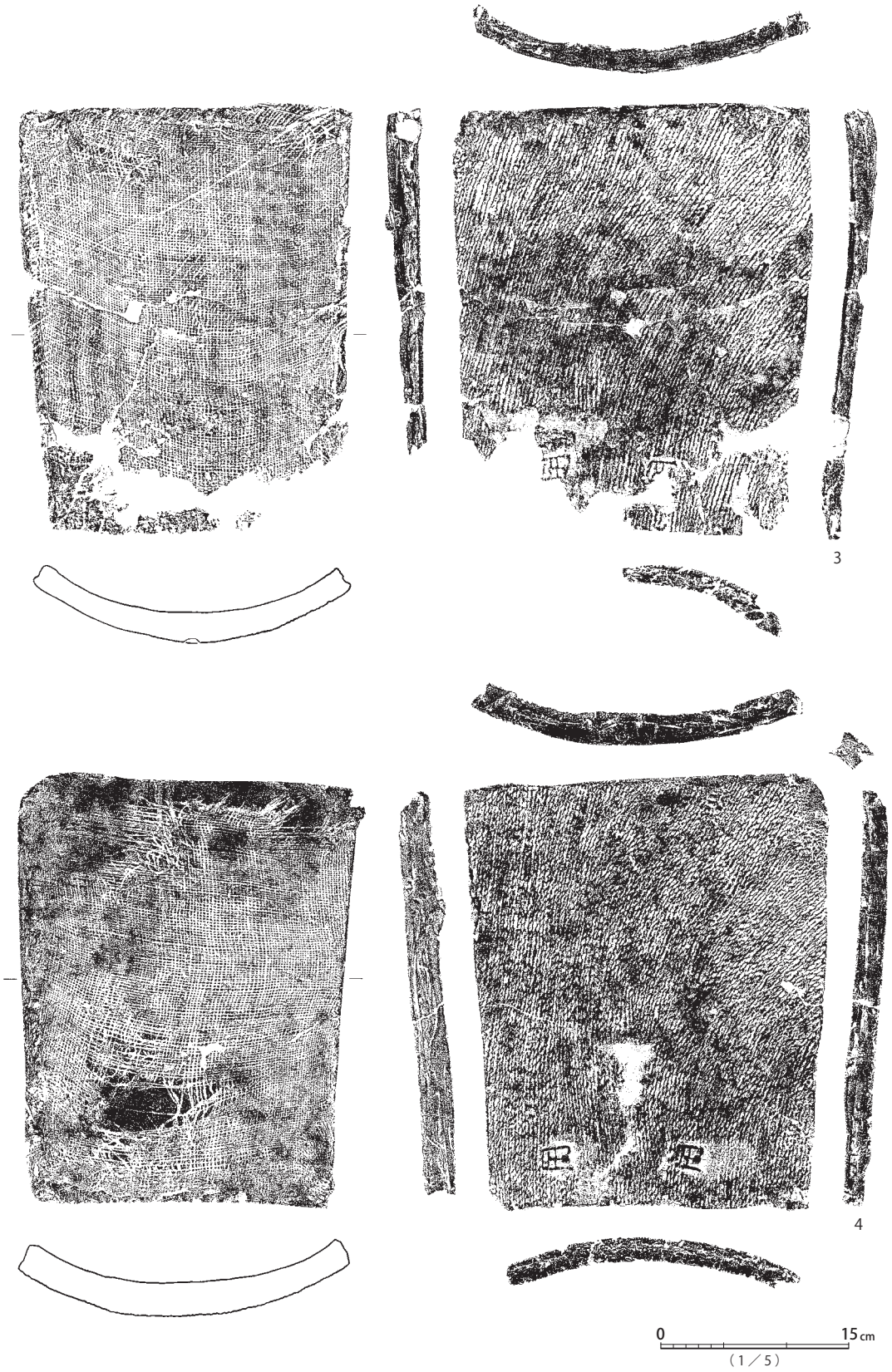


Fig.254　竪穴0693号(3) 遺物

竪穴 0693 号

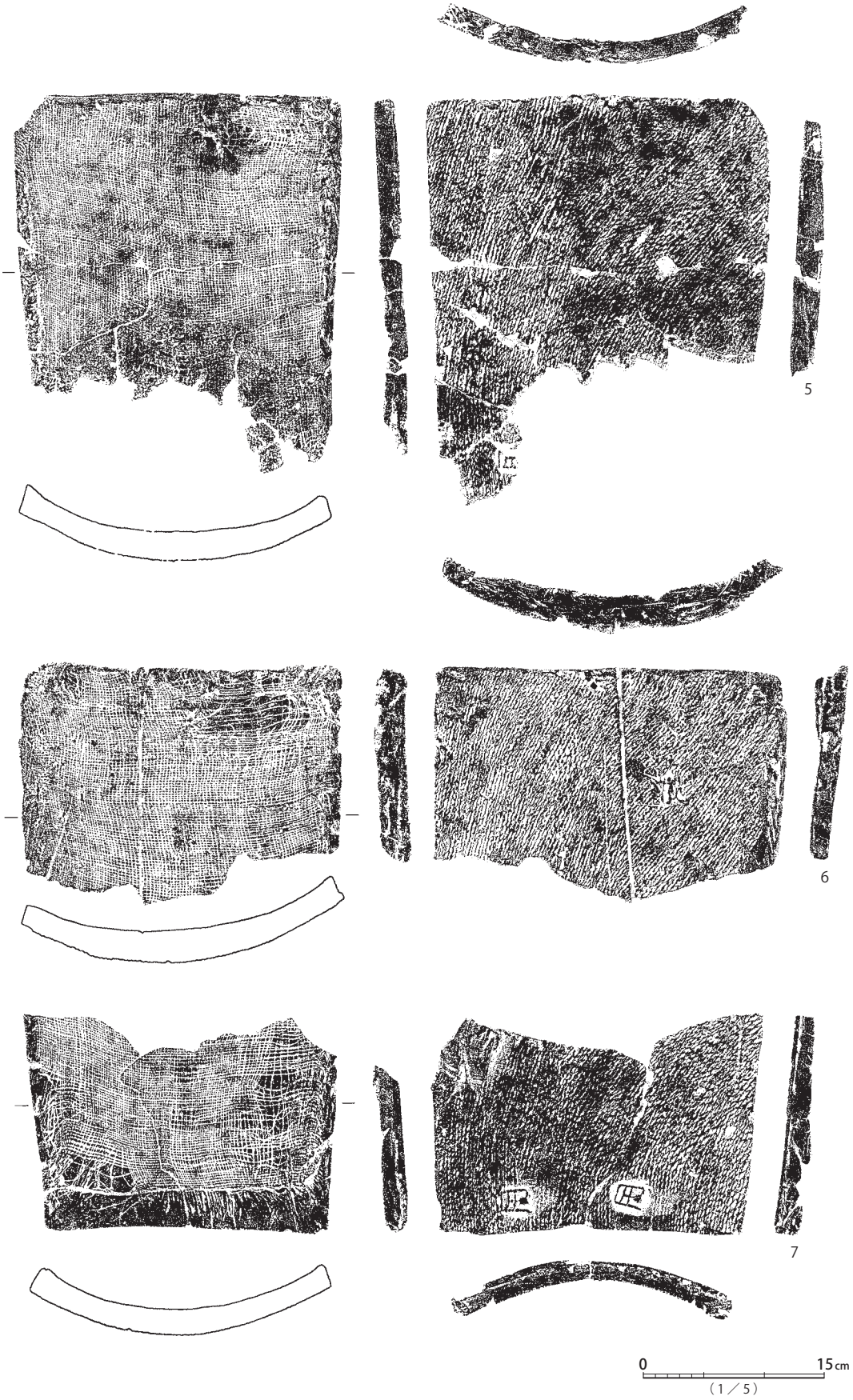


Fig.255　竪穴0693号(4) 遺物

竪穴 0693 号

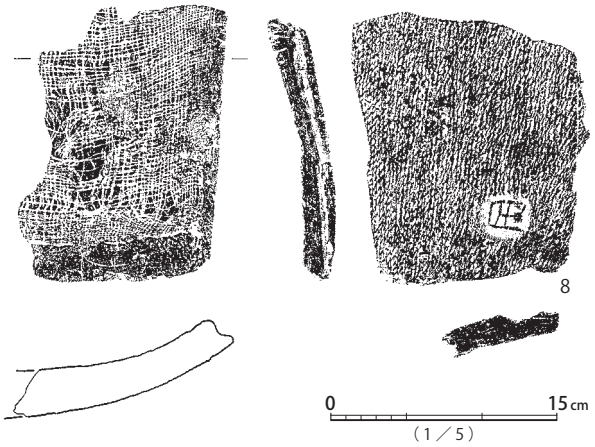


Fig.256　竪穴0693号(5) 遺物

竪穴 0712 号　（Fig.257～259、PL.46・48）〔僧 I 第 584・585 図〕

東南部IO−49を中心に位置する。柵列3236号と重複し、本遺構の方が古いと考えられる。

南辺壁が調査区外に延びるため明確でないが、平面形態は長方形を呈し、規模は主軸長3.30m、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−100°−Eである。カマドは東辺壁から検出されており、南東隅付近に位置するものと思われる。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1・2は玉縁式の丸瓦、3は平瓦である。1・2はカマド煙道部からの出土で、凹面を上にして2本の丸瓦を連結し、煙道に沿うように設置されていた。3はカマド左袖部内壁からの出土で、凹面を燃焼部側にして設置されていた。

竪穴 0727 号　（Fig.259・260、PL.48）〔僧 I 第 586～588 図〕

東南部IP−82を中心に位置する。竪穴0728号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.10×3.80m、遺構下端面積は9.7㎡、確認面からの深さは0.18mを測る。主軸方位はN−19°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、カマド内からの出土である。凸面側の一部が被熱赤色化しており、構築材として使用されていたものと考えられる。

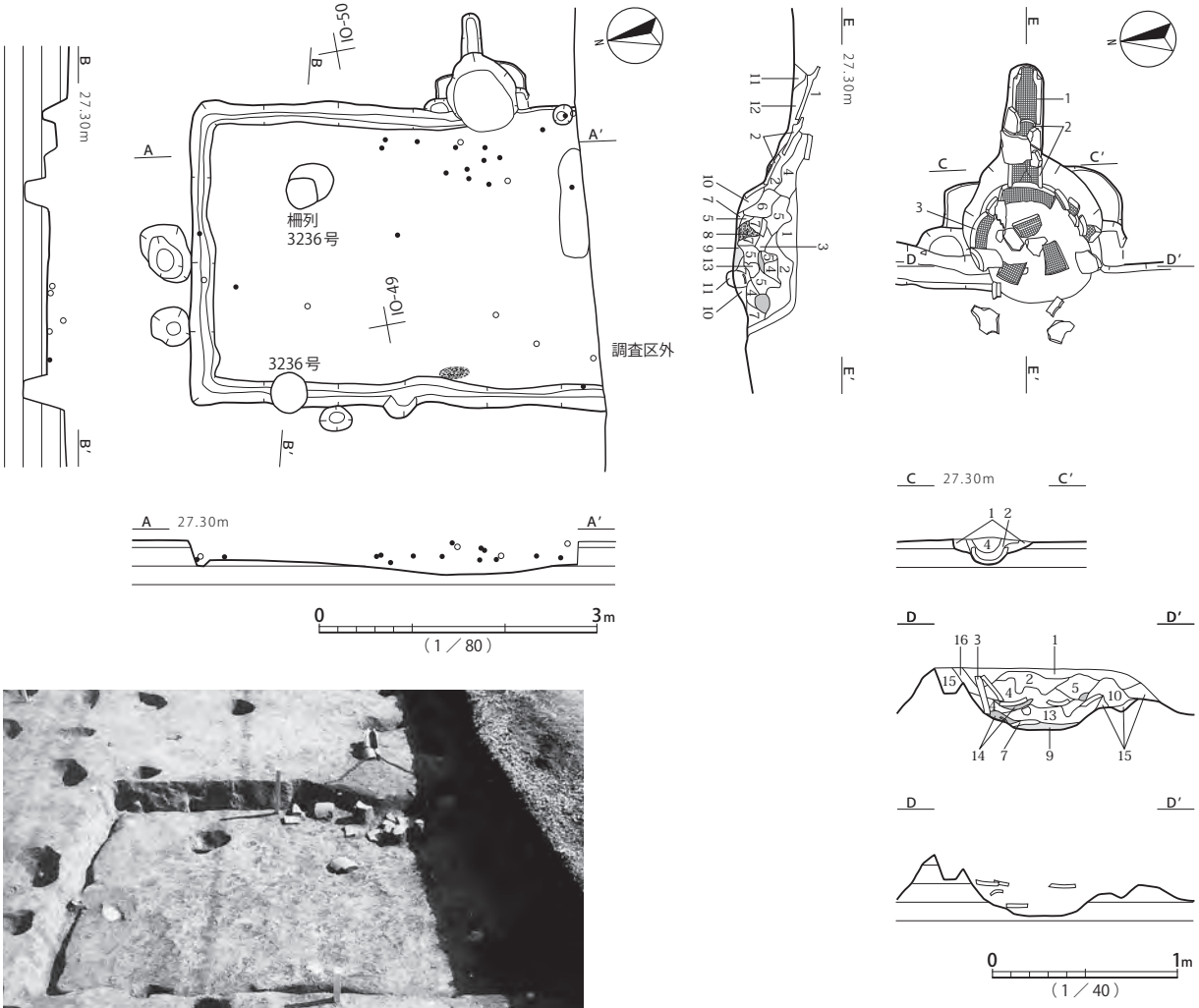
竪穴 0728 号　（Fig.260）〔僧 I 第 586～588 図〕

東南部IP−91を中心に位置する。竪穴0727号、溝2083号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

遺構北東隅が検出されないが、平面形態は方形を呈し、規模は3.30×3.00m、確認面からの深さは0.23mを測る。主軸方位はN−19°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−4～5期の所産と思われる。

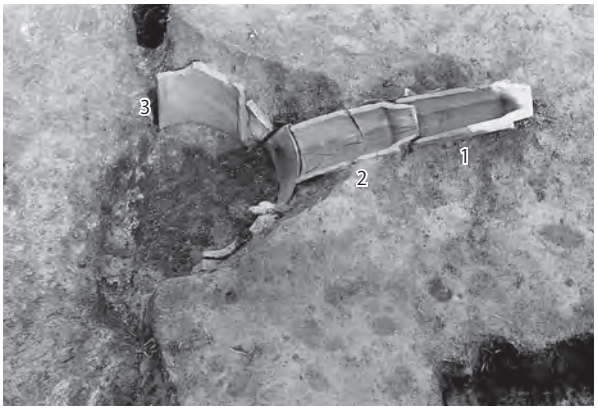
カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0712号





ph.1　出土状況



ph.2　カマド 1・2・3

1	黒色土	ローム微粒をごくわずかに含む。
2	黒褐色土	黒色土に焼土粒を多量に含み、粘土粒もわずかに混じる。
3	黒褐色土	黒色土に焼土粒・粘土粒を多量に含む。
4	暗灰褐色土	焼土・粘土・ローム粒を多量に含む。
5	暗灰褐色土	粘土粒を多量に含み、焼土もごくわずかに混じる。
6	赤褐色土	焼土粒・ローム粒・炭化粒・粘土粒の混合。
7	黒色土	炭化粒と焼土の混合。
8	灰褐色土	灰を多量に含む。
9	赤褐色土	焼土を主体とし、ローム微粒も混じる。
10	暗黄褐色土	ソフトロームを主体とし、粘土粒も少量混じる。
11	ロームブロック	
12	黒色土	ローム粒を少量含み、上層に焼土粒・瓦粉が混じる。
13	暗赤褐色土	焼土・粘土・炭の混合。
14	明赤褐色土	焼成粘土。
15	黒色土	ソフトローム・粘土を含む。
16	黒色土	ローム微粒をごくわずかに含む。硬くしまる。

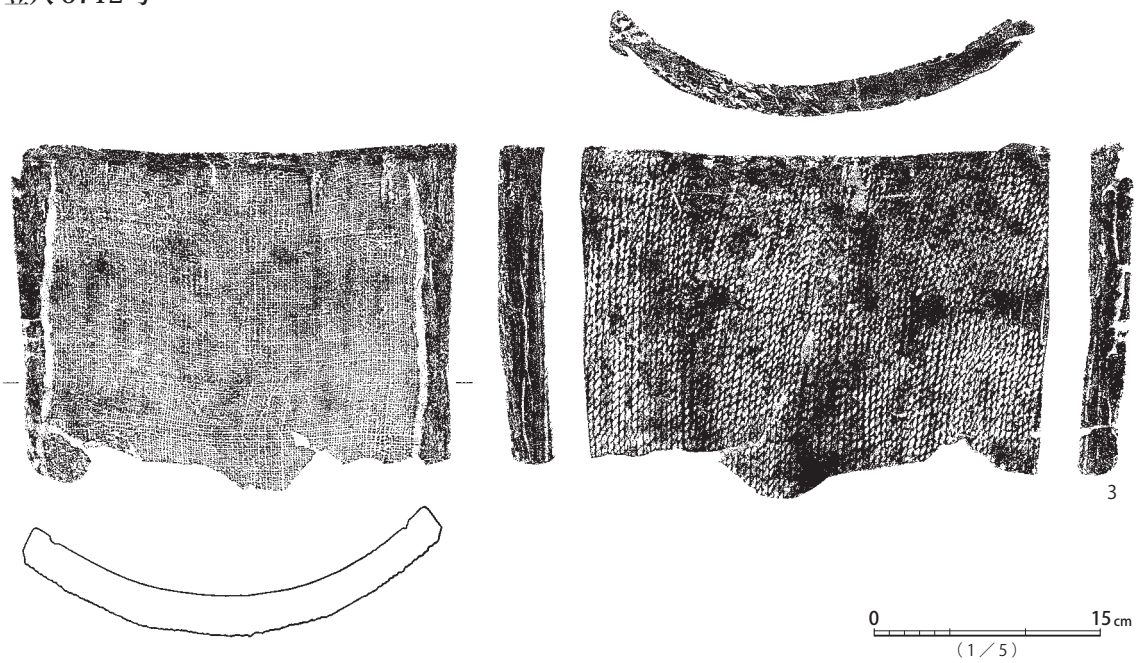
Fig.257　竪穴0712号(1) 遺構・調査状況

竪穴 0712号

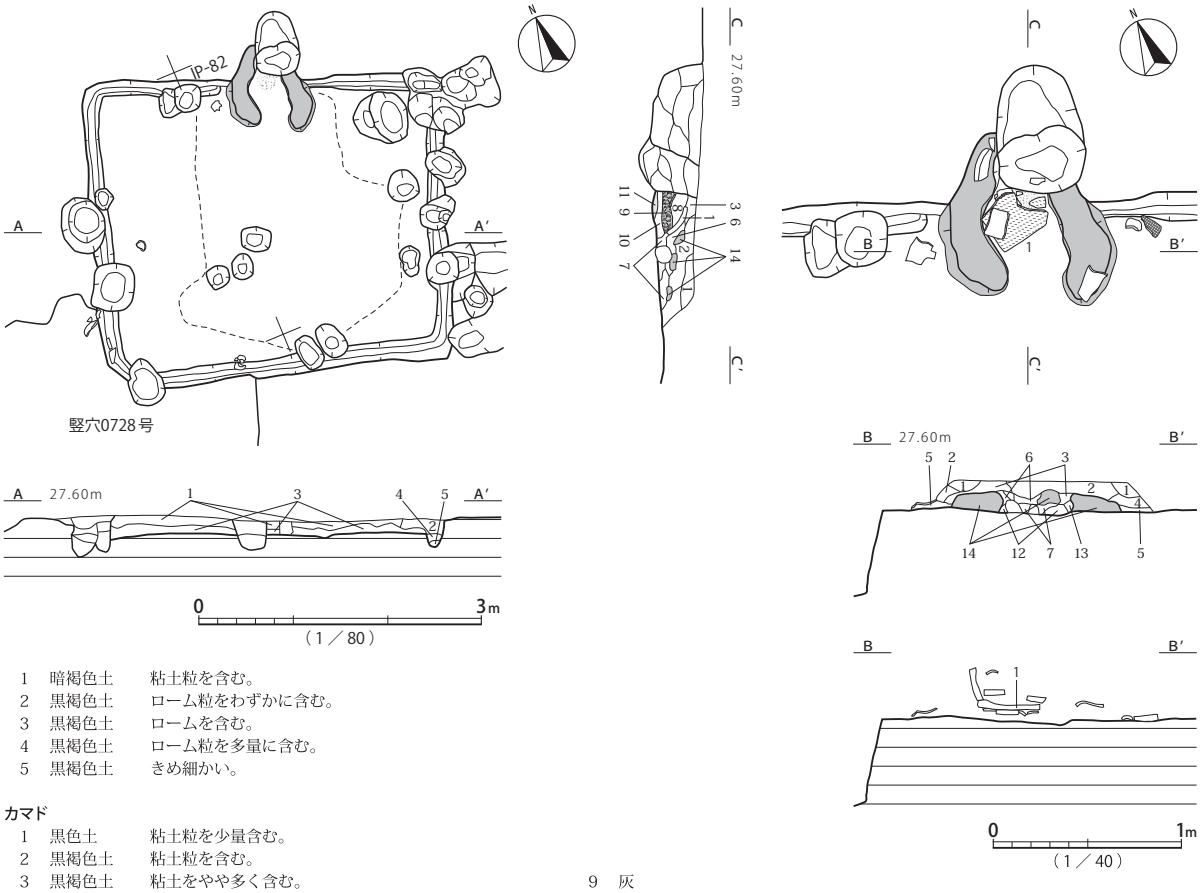


Fig.258　竪穴0712号(2) 遺物

竪穴 0712号



竪穴 0727号



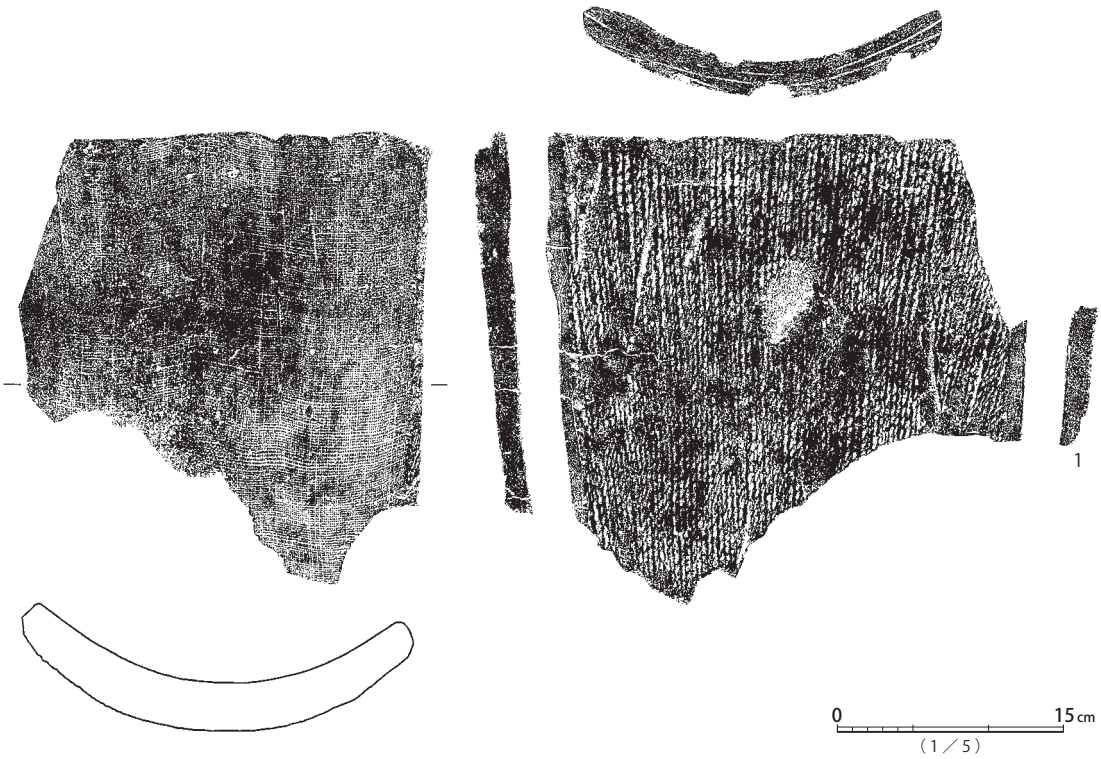
1　暗褐色土　　粘土粒を含む。
2　黒褐色土　　ローム粒をわずかに含む。
3　黒褐色土　　ロームを含む。
4　黒褐色土　　ローム粒を多量に含む。
5　黒褐色土　　きめ細かい。

カマド

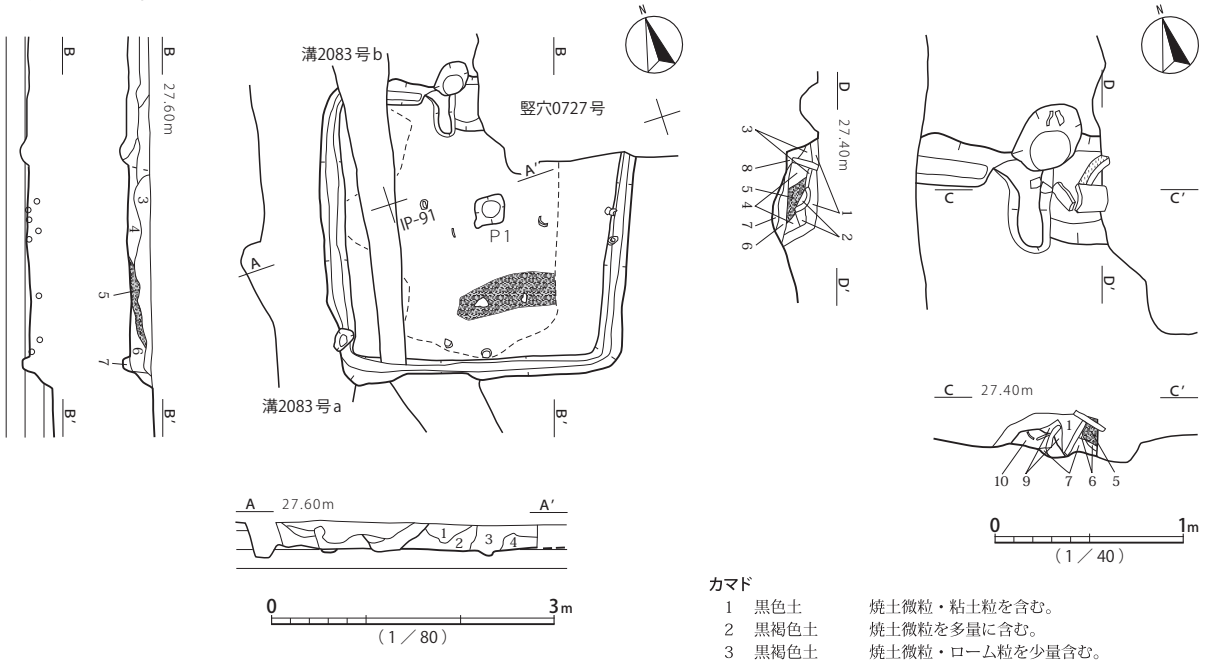
1　黒色土　　粘土粒を少量含む。
2　黒褐色土　　粘土粒を含む。
3　黒褐色土　　粘土をやや多く含む。
4　暗褐色土　　粘土・ロームブロックを含む。
5　黒褐色土　　粘土粒・小ロームブロックを含む 。
6　暗灰褐色土　粘土・焼土ブロックを少量含む。粘性あり。
7　灰褐色土　　粘土粒を含み、灰も少量混じる。
8　灰褐色土　　灰を多く含み、焼土ブロックも少量混じる。
9　灰
10　淡赤褐色土　焼土・灰を含む。
11　焼土
12　灰褐色土　　黒褐色土との混合。焼土ブロックも少量混じる。
13　暗灰褐色土　粘土を含む。
14　粘土

Fig.259　竪穴0712号(3) 遺物、竪穴0727号(1) 遺構

竪穴 0727号



竪穴 0728号



1 黒褐色土 ローム粒を含む。
2 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。
3 黒褐色土 粘土・ローム粒を含む。
4 黒褐色土 ローム粒をわずかに含む。
5 灰 暗褐色土・粘土粒をわずかに含む。
6 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。
7 茶褐色土 ソフトロームを多量に含む。

カマド
1 黒色土 焼土微粒・粘土粒を含む。
2 黒褐色土 焼土微粒を多量に含む。
3 黒褐色土 焼土微粒・ローム粒を少量含む。
4 黒褐色土 焼土微粒を少量含む。
5 明灰赤褐色土 灰に焼土を多量に含む。
6 黒色土 灰・炭・焼土を多量に含む。
7 黄褐色土 ロームを主体とする。
8 黒褐色土 ローム粒を多量に含み、焼土微粒も少量混じる。
9 黒褐色土 焼土・粘土・炭を含む。
10 黒褐色土 粘土・炭・ロームを含み、焼土も少量混じる。

Fig.260 竪穴0727号(2) 遺物、竪穴0728号 遺構

竪穴 0732 号　（Fig.261～264、PL.48）〔僧Ⅰ第 589～591 図〕

東南部HO−30を中心に位置する。竪穴0733号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.50×3.28m、遺構下端面積は7.8㎡、確認面からの深さは0.32mを測る。主軸方位はN−2°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1は文様不明の軒平瓦、2～4は平瓦である。カマド煙道部両側に瓦片を積み上げて構築しており、いずれもこの部分からの出土である。1の凸面には格子叩き目が残る。3は比較的整った縦長破片で、切痕や研磨痕は認められないが、熨斗瓦の可能性がある。

竪穴 0733 号　（Fig.264）〔僧Ⅰ第 589～591 図〕

東南部HO−39を中心に位置する。竪穴0732号、区画溝2047号と重複し、本遺構の方が0732号よりも新しく、2047号よりも古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、2047号との重複により南辺壁が検出されないため、明確でない。規模は副軸長2.52m、確認面からの深さは0.20mを測る。主軸方位はN−10°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0750 号　（Fig.265）〔僧Ⅰ第 594 図〕

東南部IP−61を中心に位置する。溝2083号bと重複し、本遺構の方が古いと思われる。

平面形態は方形を呈するものと思われるが、遺構南東隅と南辺壁の一部が検出されたのみであるため、明確でない。確認面からの深さは0.05mを測る。主軸方位はN−95°−Eである。カマドは南東隅から検出されている。僧寺編年Ⅶ期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0752 号　（Fig.265、PL.48）〔僧Ⅰ第 549・552 図〕

東南部JP−18を中心に位置する。竪穴0554号、区画溝2042号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

床硬化面が検出されたのみである。遺構範囲は、硬化面と遺物の分布状況から推定したもので、平面形態や規模、主軸方位は明確でない。カマドは検出されていない。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

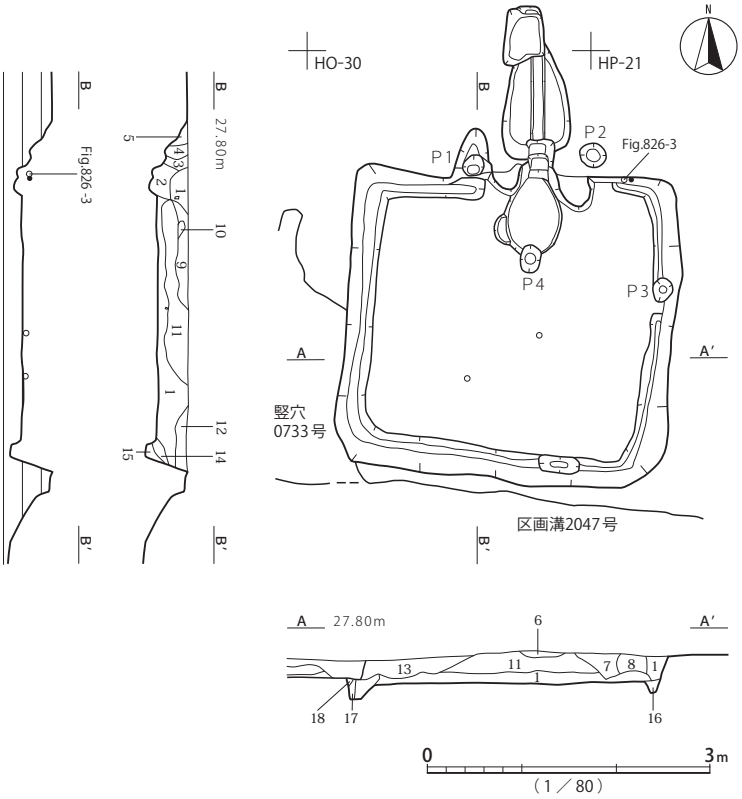
実測可能遺物は、1はⅠ型式の蓮華文軒丸瓦、2は玉縁式の丸瓦である。2の凸面には細かい原体の縄叩き目が残り、南田1号ないし4号窯の製品と考えられる。

竪穴 0758 号　（Fig.266）〔僧Ⅰ第 597・598 図〕

東南部JO−89を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態はやや台形気味の方形を呈し、規模は2.70×3.42m、遺構下端面積は7.1㎡、確認面からの深さは0.20mを測る。主軸方位はN−106°−Eである。カマドは東辺壁ほぼ中央から検出されてい

竪穴 0732 号



1 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。
2 暗褐色土 粘土との混合。
3 暗褐色土 ロームブロック・粘土を含む。
4 暗褐色土 ローム粒・粘土粒をわずかに含む。
5 褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。
6 暗褐色土 粘土粒・焼土粒を含む。
7 暗褐色土 焼土を多量に含み、粘土粒も少量混じる。
8 暗褐色土 粘土粒をわずかに含む。
9 暗褐色土 焼土・粘土粒を含む。
10 粘土 暗褐色土・炭化物を含む。
11 暗褐色土 炭化物・粘土・焼土粒を含む。
12 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。
13 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を含む。
14 暗褐色土 ローム粒を含む。
15 褐色土 ローム粒を多量に含む。
16 暗褐色土 粘土・ローム粒を含む。
17 褐色土 ローム粒を多く含む。
18 茶褐色土 ローム粒を多量に含む。



ph.1 出土状況 Fig.826-3



ph.2 カマド

Fig.261 竪穴0732号(1) 遺構・調査状況

る。僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

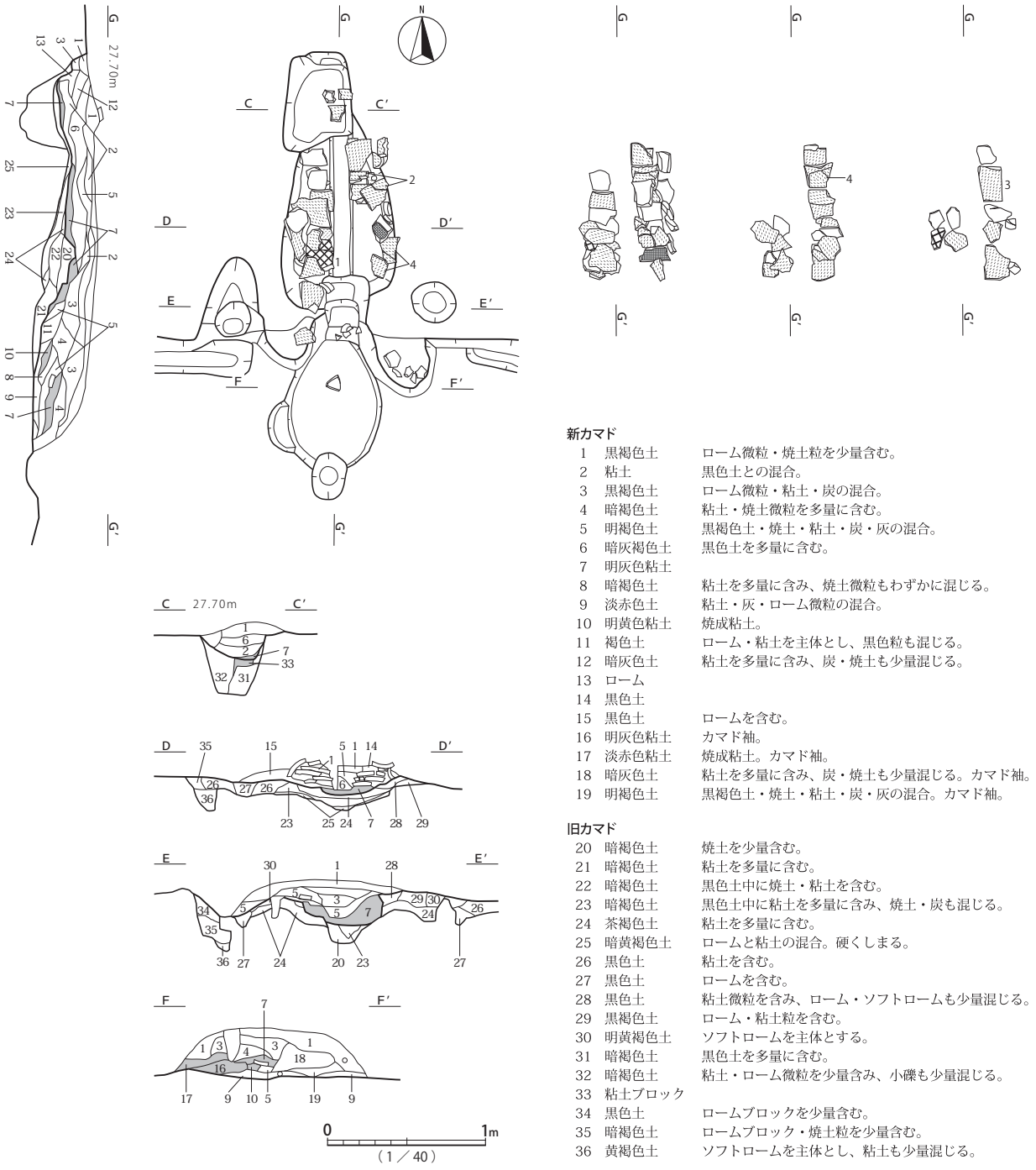
カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0802 号 （Fig.267～269、PL.48・49・216）〔僧Ⅰ第 600～602 図〕

東南部GN−48を中心に位置する。土壙墓0794号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.40×2.40m、遺構下端面積は5.7㎡、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−110°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅶ期の所産と考えられる。

竪穴 0732号



新カマド

1	黒褐色土	ローム微粒・焼土粒を少量含む。
2	粘土	黒色土との混合。
3	黒褐色土	ローム微粒・粘土・炭の混合。
4	暗褐色土	粘土・焼土微粒を多量に含む。
5	明褐色土	黒褐色土・焼土・粘土・炭・灰の混合。
6	暗灰褐色土	黒色土を多量に含む。
7	明灰色粘土	
8	暗褐色土	粘土を多量に含み、焼土微粒もわずかに混じる。
9	淡赤色土	粘土・灰・ローム微粒の混合。
10	明黄色粘土	焼成粘土。
11	褐色土	ローム・粘土を主体とし、黒色粒も混じる。
12	暗灰色土	粘土を多量に含み、炭・焼土も少量混じる。
13	ローム	
14	黒色土	
15	黒色土	ロームを含む。
16	明灰色粘土	カマド袖。
17	淡赤色粘土	焼成粘土。カマド袖。
18	暗灰色土	粘土を多量に含み、炭・焼土も少量混じる。カマド袖。
19	明褐色土	黒褐色土・焼土・粘土・炭・灰の混合。カマド袖。

旧カマド

20	暗褐色土	焼土を少量含む。
21	暗褐色土	粘土を多量に含む。
22	暗褐色土	黒色土中に焼土・粘土を含む。
23	暗褐色土	黒色土中に粘土を多量に含み、焼土・炭も混じる。
24	茶褐色土	粘土を多量に含む。
25	暗黄褐色土	ロームと粘土の混合。硬くしまる。
26	黒色土	粘土を含む。
27	黒色土	ロームを含む。
28	黒色土	粘土微粒を含み、ローム・ソフトロームも少量混じる。
29	黒褐色土	ローム・粘土粒を含む。
30	明黄褐色土	ソフトロームを主体とする。
31	暗褐色土	黒色土を多量に含む。
32	暗褐色土	粘土・ローム微粒を少量含み、小礫も少量混じる。
33	粘土ブロック	
34	黒色土	ロームブロックを少量含む。
35	暗褐色土	ロームブロック・焼土粒を少量含む。
36	黄褐色土	ソフトロームを主体とし、粘土も少量混じる。

Fig.262　竪穴0732号(2) 遺構

実測可能遺物は、1はVII型式の蕨手状唐草文軒平瓦、2はVIII型式の重圏文軒平瓦、3は行基葺式の丸瓦である。1は直線顎で、凸面には格子叩き目が残り、狭端面には「人」の文字が押印される。1・3はカマド内からの出土で、構築材として利用された可能性が考えられる。なお、貯蔵穴の可能性があるP1から軒平瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0732 号

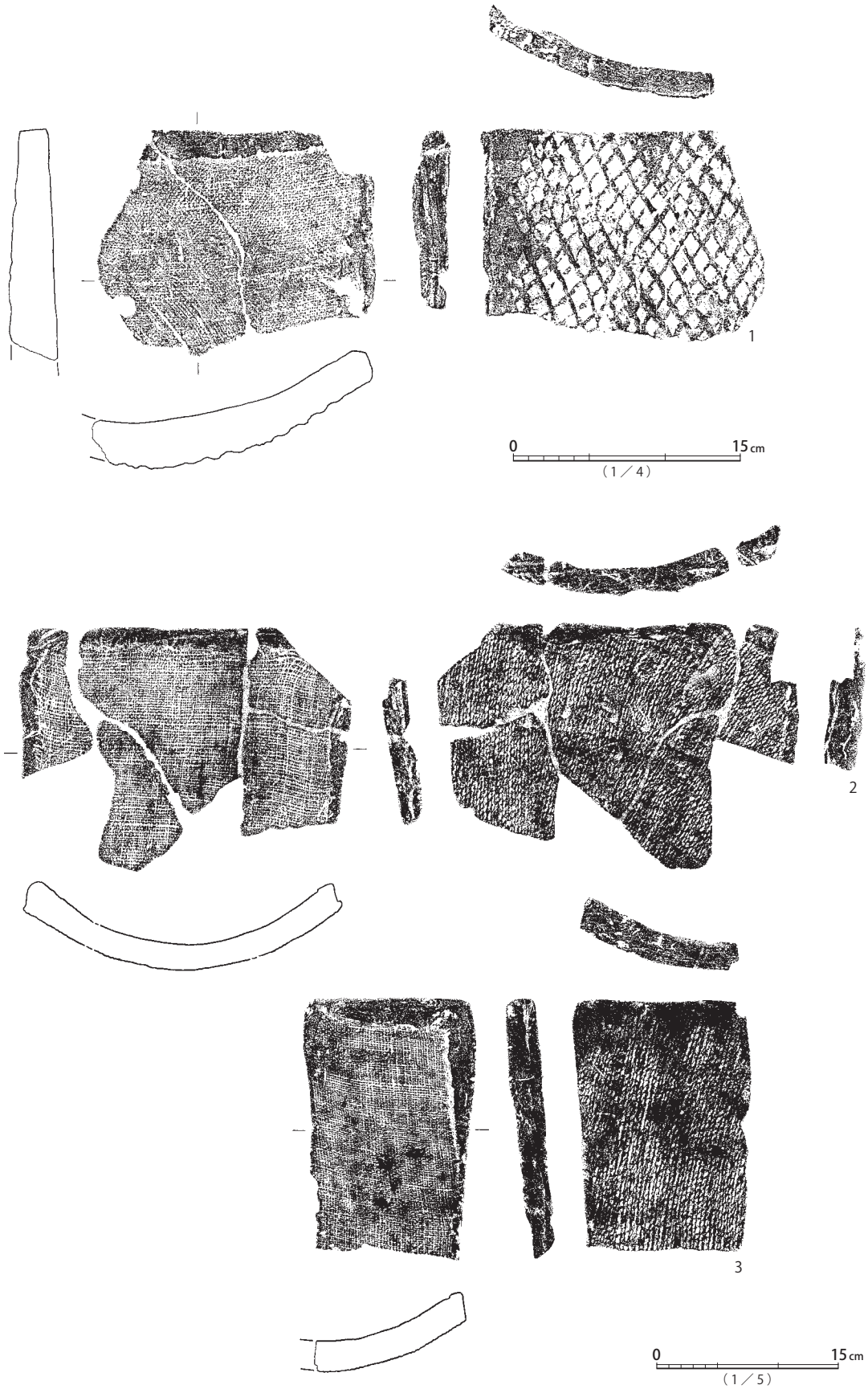
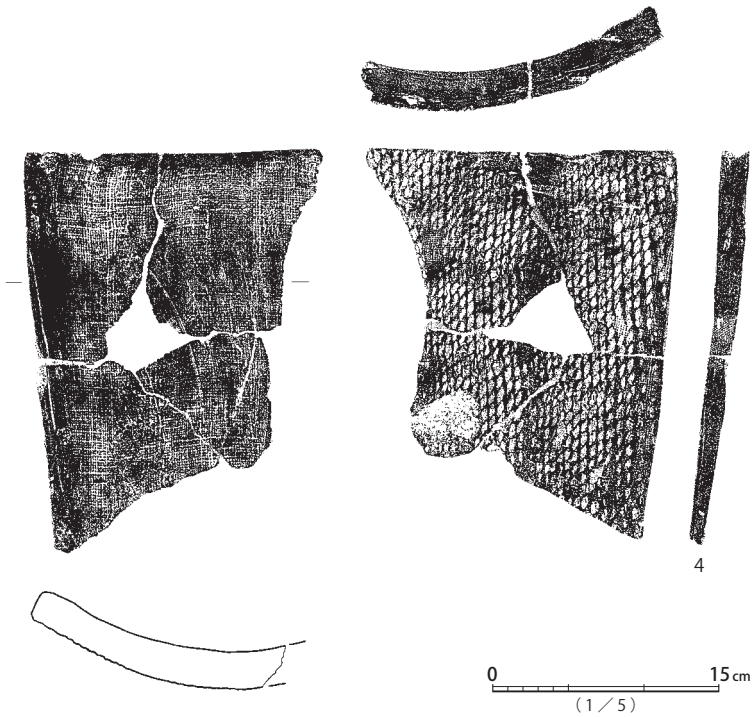
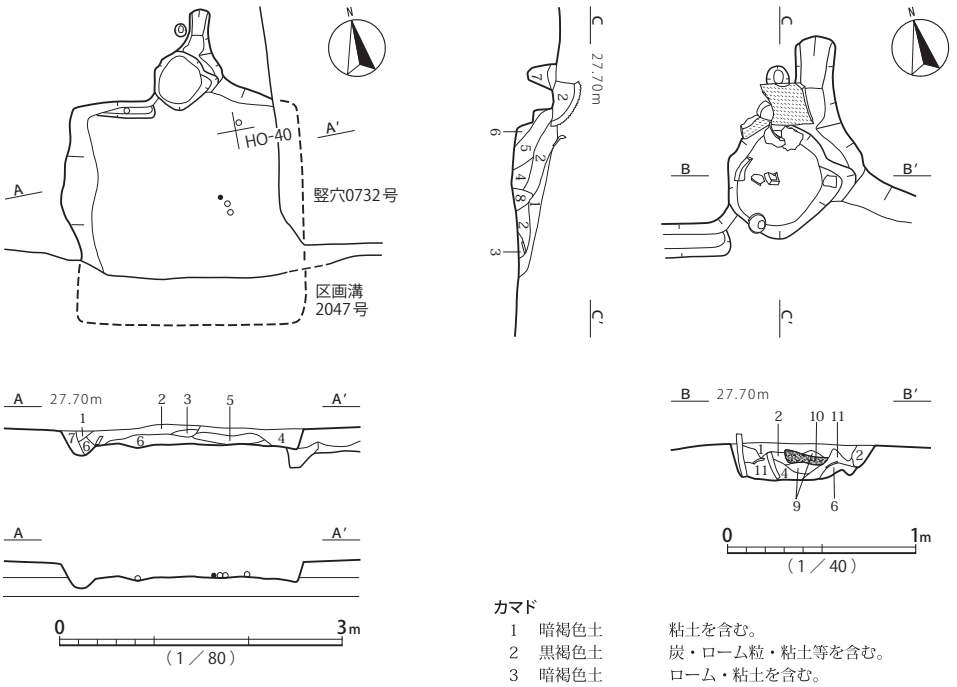


Fig.263　竪穴0732号(3) 遺物

竪穴 0732号



竪穴 0733号

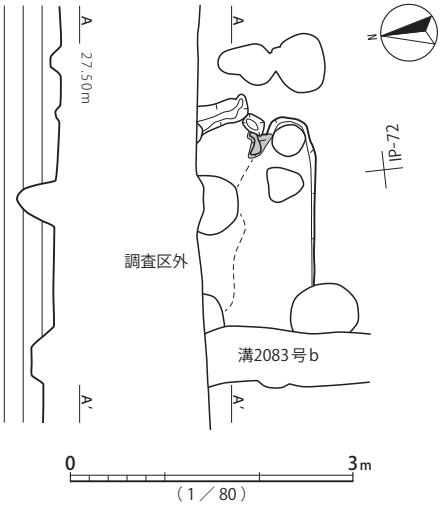


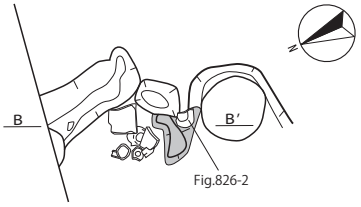
1　暗褐色土　ロームを多量に含む。
2　暗褐色土
3　褐色土　ローム粒を多量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒・粘土粒をわずかに含む。
5　暗褐色土　ローム粒・粘土粒・炭化粒を少量含む。
6　暗褐色土　ローム粒を含む。
7　褐色土　ローム粒を含む。

カマド
1　暗褐色土　粘土を含む。
2　黒褐色土　炭・ローム粒・粘土等を含む。
3　暗褐色土　ローム・粘土を含む。
4　暗褐色土　黒色土と焼土粒の混合。
5　暗褐色土　ローム微粒を多量に含む。
6　明褐色土　ソフトローム・炭・粘土の混合。
7　暗褐色土　黒褐色土とロームの混合。
8　ロームブロック
9　暗灰褐色土　粘土・焼土・炭の混合。
10　灰
11　茶褐色土　灰を主体とし、粘土・焼土を多量に含む。

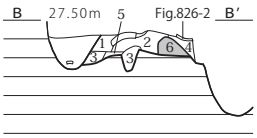
Fig.264　竪穴0732号(4) 遺物、竪穴0733号 遺構

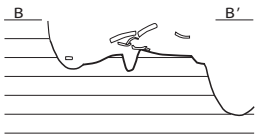
竪穴 0750号



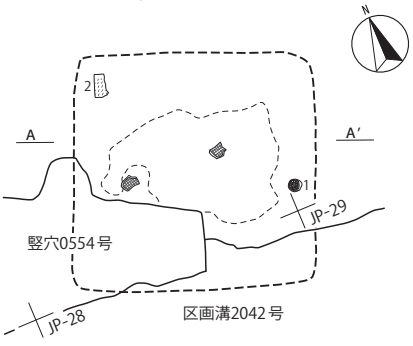


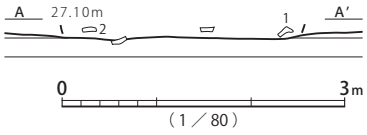
1　黒色土　焼土粒を多量に含み、粘土粒もわずかに混じる。
2　黒褐色土　粘土粒を多量に含み、焼土微粒もごくわずかに混じる。
3　暗灰色土　粘土粒を多量に含む。
4　暗褐色土　焼土粒・ローム粒を少量含む。
5　暗黄褐色土　ソフトローム。
6　粘土

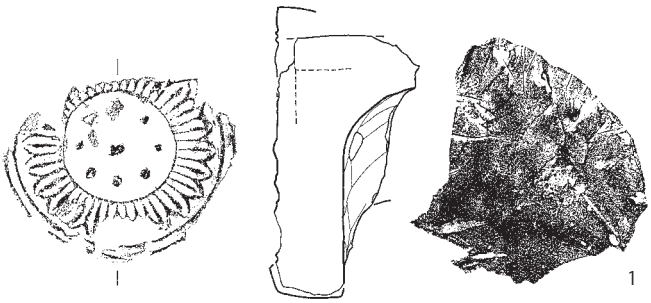




竪穴 0752号







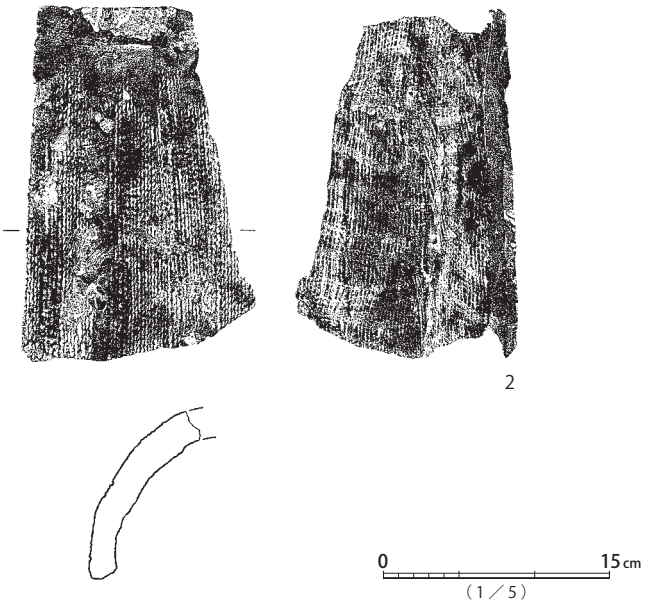
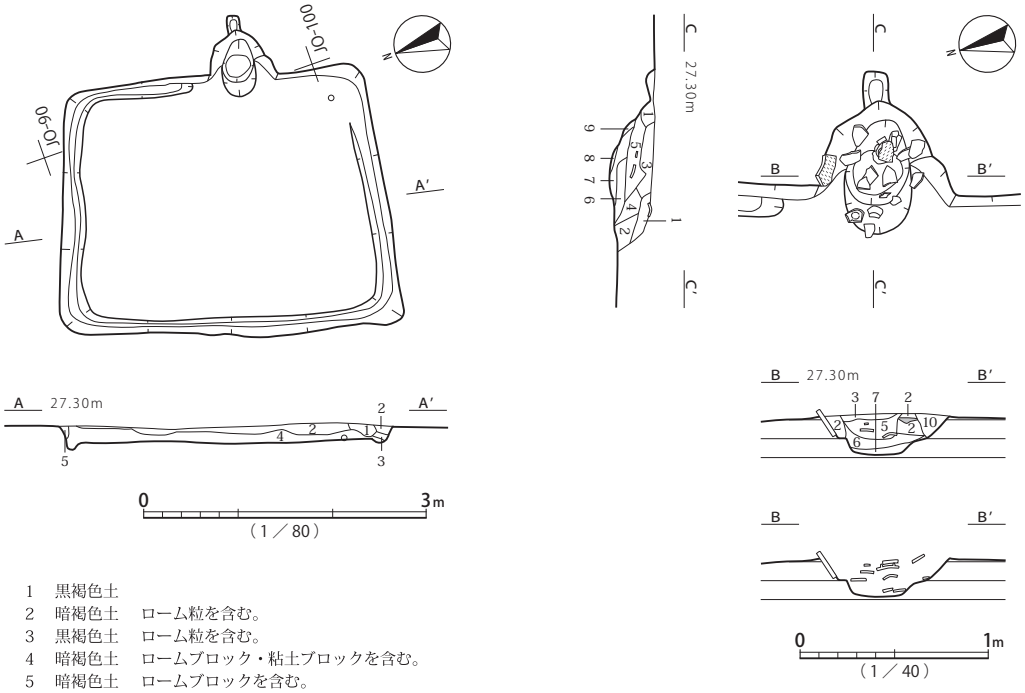


Fig.265　竪穴0750号 遺構、竪穴0752号 遺構遺物

竪穴 0758 号



1　黒褐色土
2　暗褐色土　ローム粒を含む。
3　黒褐色土　ローム粒を含む。
4　暗褐色土　ロームブロック・粘土ブロックを含む。
5　暗褐色土　ロームブロックを含む。

カマド
1　黒褐色土　黒色土・暗褐色土・粘土粒の混合。
2　黒褐色土　ソフトロームを多量に含む。
3　黒色土　焼土微粒を含む。
4　黒色土　小焼土ブロックを含む。
5　黒褐色土　黒色土にソフトローム微粒・焼土・粘土を含む。
6　黒褐色土　黒色土に焼土を多量に含む。
7　暗黄褐色土　被熱した砂質ソフトロームを主体とし、粘土・焼土・灰が混じる。
8　赤褐色土　焼土・灰・炭化粒・粘土微粒の混合。
9　黄褐色土　硬化したローム。
10　黄褐色土　ソフトロームを主体とし、焼土･粘土が混じる。

Fig.266　竪穴0758号 遺構

竪穴 0806 号　（Fig.270）〔僧 I 第 603・604 図〕

東南部FN−36を中心に位置する。土坑0842号と重複し、カマド煙道部と南東隅は撹乱により壊される。新旧関係は、本遺構の方が0842号よりも新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は2.96×3.26m、確認面からの深さは0.12mを測る。主軸方位はN−19°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と思われるが、出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

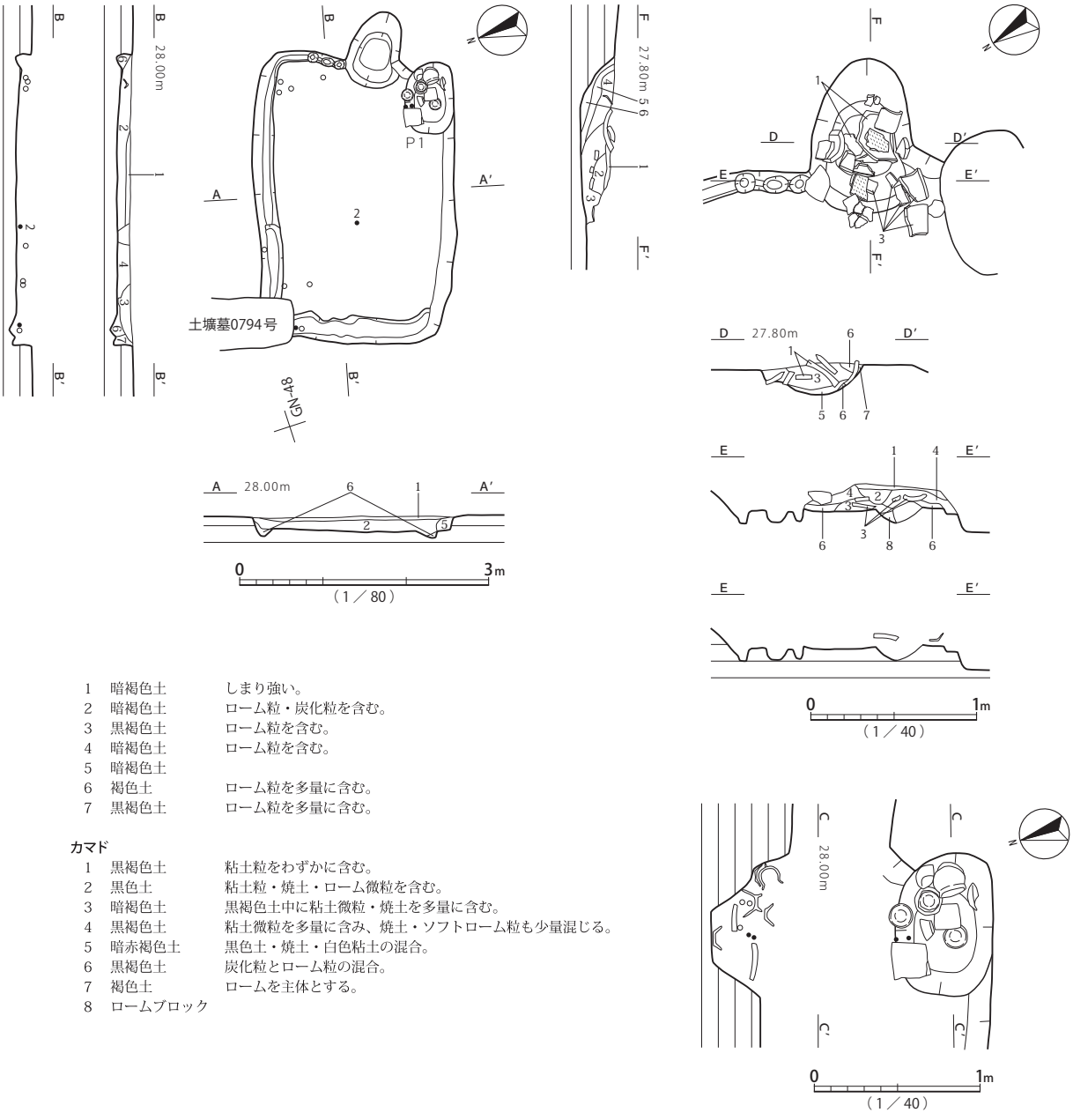
竪穴 0809 号　（Fig.270）〔僧 I 第 603・604 図〕

東南部FN−17を中心に位置する。区画溝2111号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈するが、南辺壁の形状が明確でない。規模は副軸長2.95m、確認面からの深さは0.14mを測る。主軸方位はN−16°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4〜5期の所産と思われるが、出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみである。凸面には格子叩き目が残り、凹面には「月廿」の文字が焼成前に線刻される。日付を記したものと考えられる。床面上から瓦の出土が確認できるが、1の出土位置は明確でない。

竪穴 0802 号



1　暗褐色土　　しまり強い。
2　暗褐色土　　ローム粒・炭化粒を含む。
3　黒褐色土　　ローム粒を含む。
4　暗褐色土　　ローム粒を含む。
5　暗褐色土
6　褐色土　　ローム粒を多量に含む。
7　黒褐色土　　ローム粒を多量に含む。

カマド
1　黒褐色土　　粘土粒をわずかに含む。
2　黒色土　　粘土粒・焼土・ローム微粒を含む。
3　暗褐色土　　黒褐色土中に粘土微粒・焼土を多量に含む。
4　黒褐色土　　粘土微粒を多量に含み、焼土・ソフトローム粒も少量混じる。
5　暗赤褐色土　　黒色土・焼土・白色粘土の混合。
6　黒褐色土　　炭化粒とローム粒の混合。
7　褐色土　　ロームを主体とする。
8　ロームブロック



ph.1　カマド 1・3



ph.2　ピット 1　出土状況

Fig.267　竪穴0802号(1) 遺構・調査状況

竪穴 0802 号

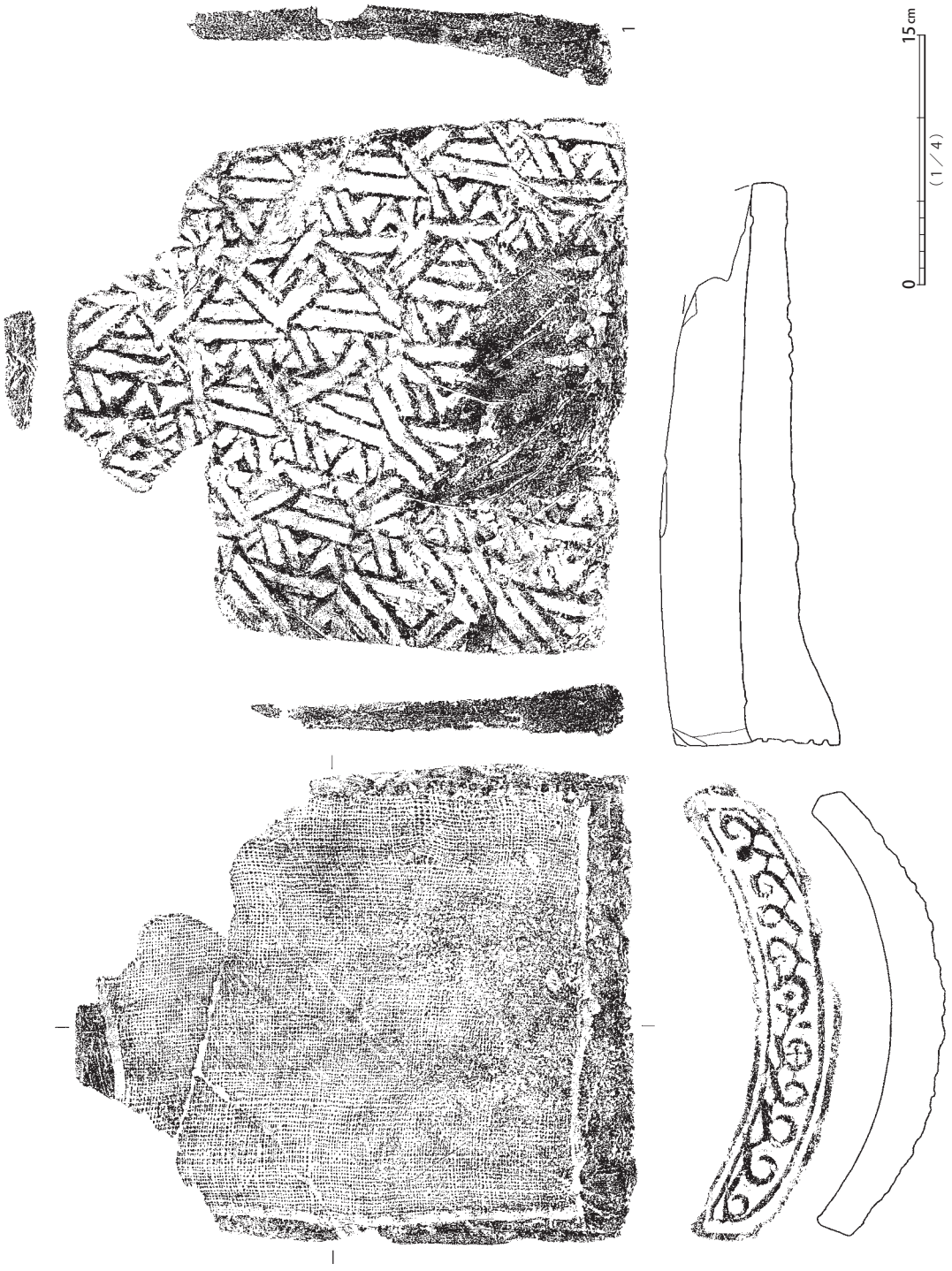
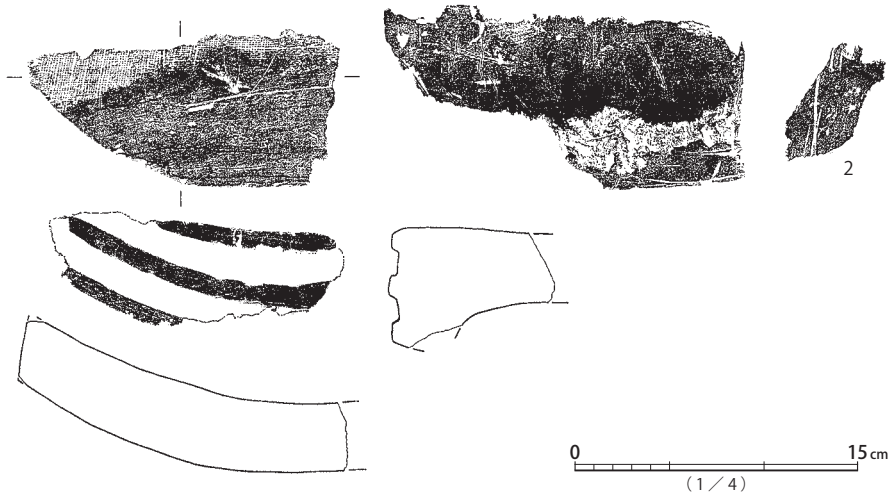


Fig.268　竪穴0802号(2) 遺物

竪穴 0802 号



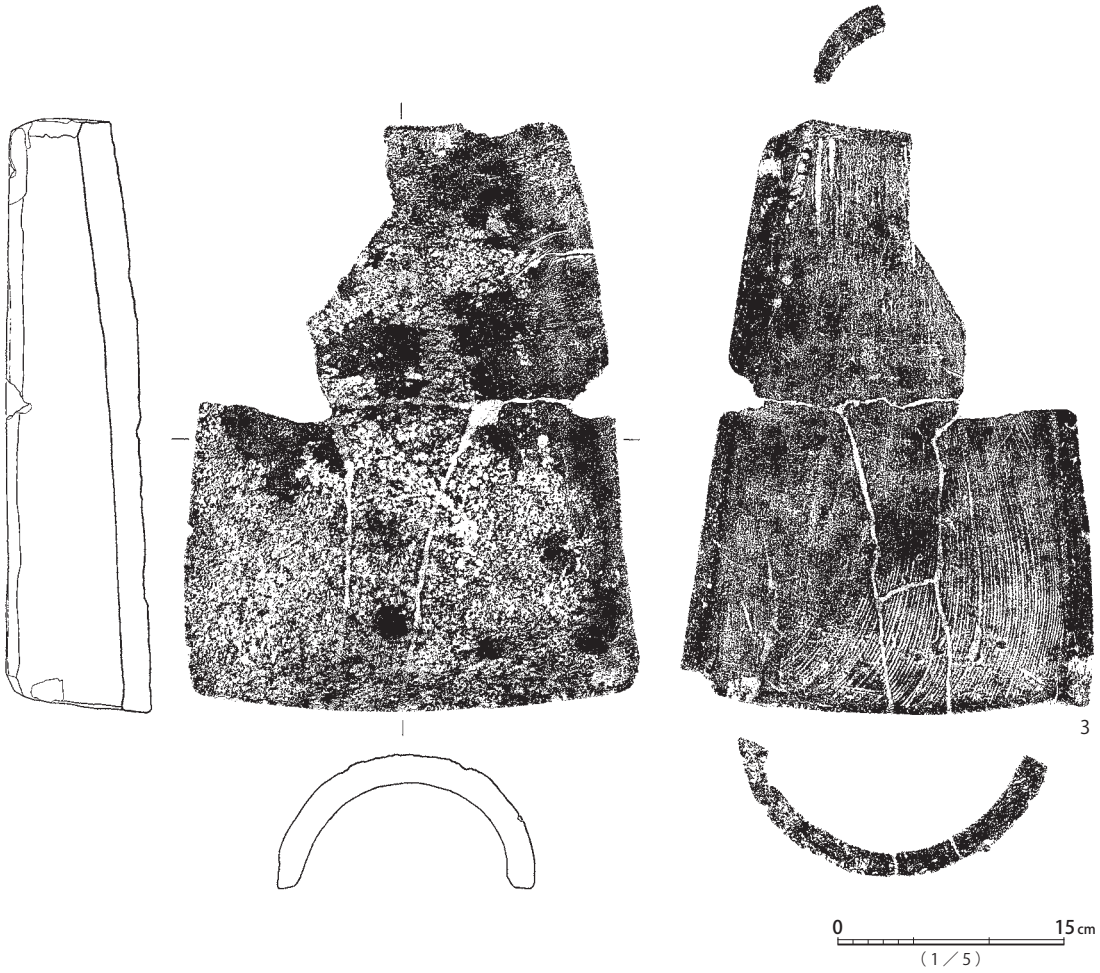
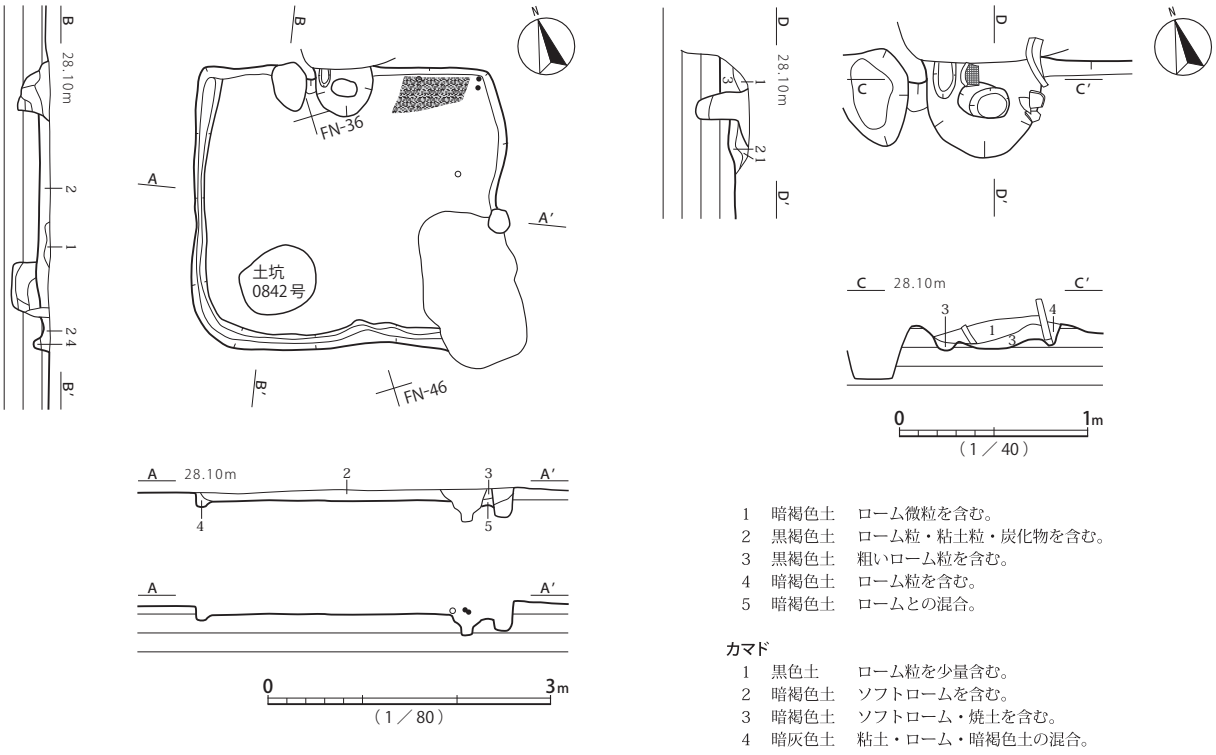


Fig.269　竪穴0802号(3) 遺物

竪穴 0806号



1　暗褐色土　ローム微粒を含む。
2　黒褐色土　ローム粒・粘土粒・炭化物を含む。
3　黒褐色土　粗いローム粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含む。
5　暗褐色土　ロームとの混合。

カマド
1　黒色土　ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　ソフトロームを含む。
3　暗褐色土　ソフトローム・焼土を含む。
4　暗灰色土　粘土・ローム・暗褐色土の混合。

竪穴 0809号

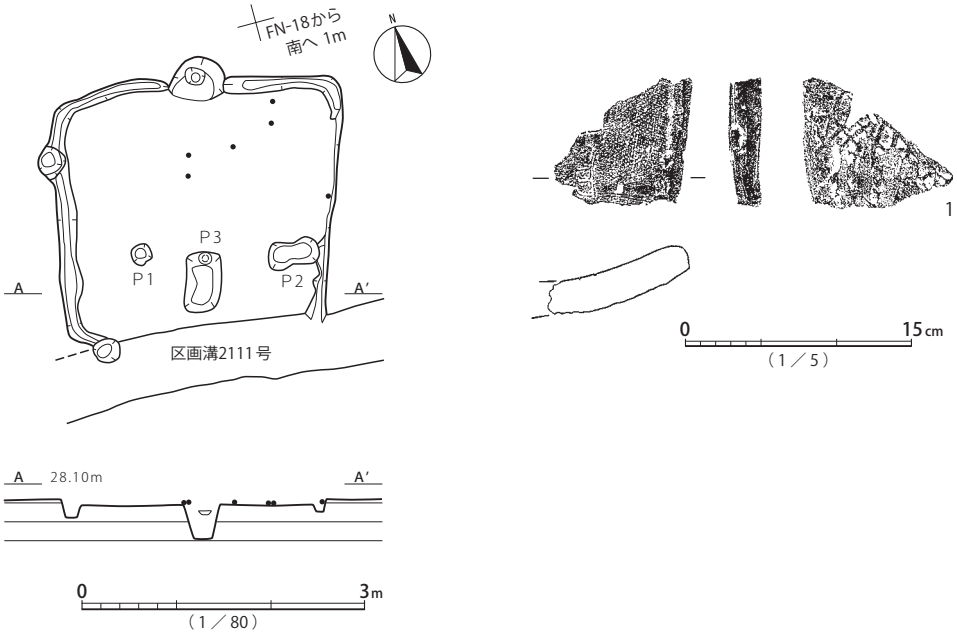


Fig.270　竪穴0806号 遺構、竪穴0809号 遺構遺物

竪穴 0828 号　（Fig.271、PL.47）〔僧 I 第 607・608 図〕

東南部EN−02を中心に位置する。他遺構との重複はないが、攪乱により、一部壊される。

平面形態は長方形を呈するものと考えられるが、遺構南側が検出されないため、明確でない。規模は副軸長4.12m、確認面からの深さは0.40mを測る。主軸方位はN−15°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、カマド右袖部内壁からの出土である。構築材として利用されたものと考えられる。

竪穴 0849 号　（Fig.272）〔僧 I 第 609 図〕

東南部HO−75を中心に位置する。他遺構との重複はないが、攪乱により、一部壊される。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、東辺壁が検出されないため、明確でない。規模は主軸長2.70m、確認面からの深さは0.12mを測る。主軸方位はN−18°−Eである。カマドは北辺壁から検出され、ほぼ中央に位置するものと思われる。僧寺編年IV−5〜V期の所産と考えられる。

カマド左袖前面から丸瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0850 号　（Fig.273、PL.49・216）〔僧 I 第 610〜612 図〕

東南部GO−07を中心に位置する。竪穴0851号、区画溝2044号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は方形を呈し、規模は4.18×4.02m、確認面からの深さは0.15mを測る。主軸方位はN−9°−Eである。カマドは検出されないが、北辺壁中央に位置し、竪穴0851号との重複により壊されたものと考えられる。僧寺編年IV−4〜5期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1は文様不明の軒丸瓦、2はI型式の均整唐草文軒平瓦である。1の丸瓦部広端面には刻み目が付けられ、瓦当部との接着用と考えられる。1は西辺壁際、2は遺構中央付近から検出され、いずれも床面付近からの出土である。

竪穴 0851 号　（Fig.274）〔僧 I 第 611 図〕

東南部HO−96を中心に位置する。竪穴0850・0852号、溝2053号と重複し、本遺構の方が0850号よりも新しく、2053号よりも古い。0852号との関係は、断面図と出土遺物で齟齬が生じており、明確でない。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.57×3.05m、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−89°−Eである。カマドは東辺壁中央やや北寄りから検出されている。僧寺編年IV−4〜5期の所産と考えられる。

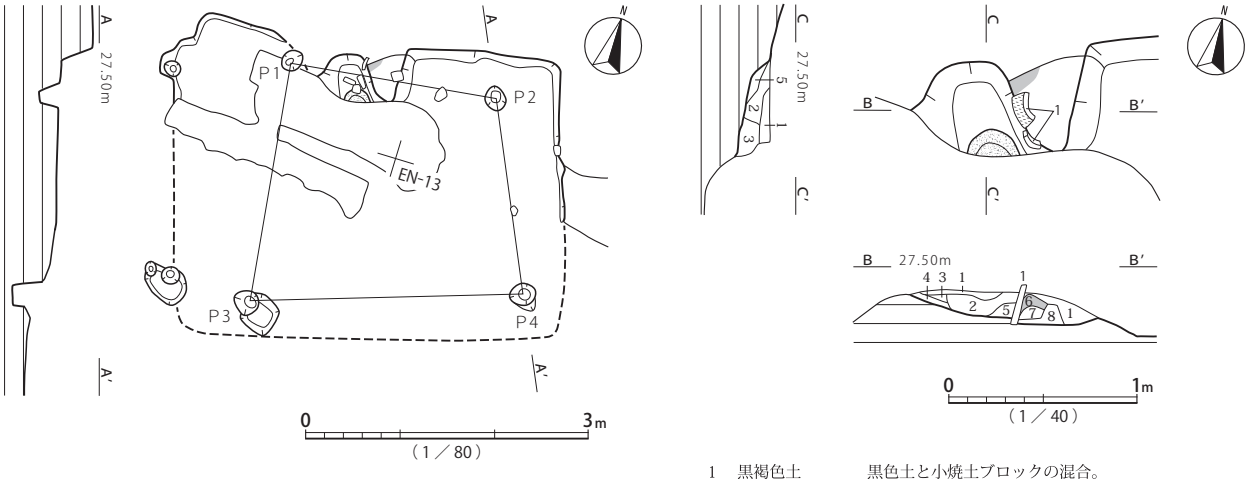
カマド内から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0853 号　（Fig.275〜279、PL.49・50・216）〔僧 I 第 613〜616 図〕

東南部HO−79を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.90×3.70m、遺構下端面積は11.5㎡、確認面からの深さは

竪穴 0828号



1	黒褐色土	黒色土と小焼土ブロックの混合。
2	暗赤褐色土	粗い焼土粒・黒色粒・ローム粒の混合。
3	赤褐色土	焼土・ローム・灰の混合。
4	暗褐色土	粘土・焼土・黒褐色土の混合。
5	黄褐色土	ロームブロック・ソフトロームの混合。
6	粘土	
7	粘土	ソフトロームブロックとの混合。
8	ロームブロック	硬くしまる。

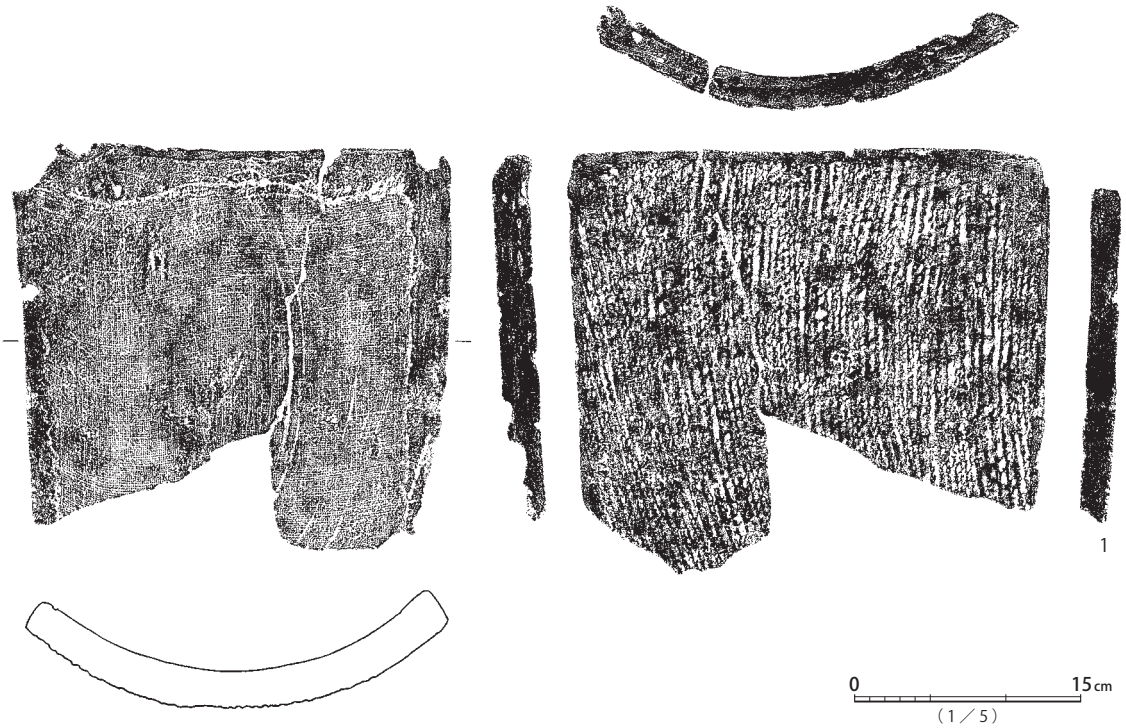
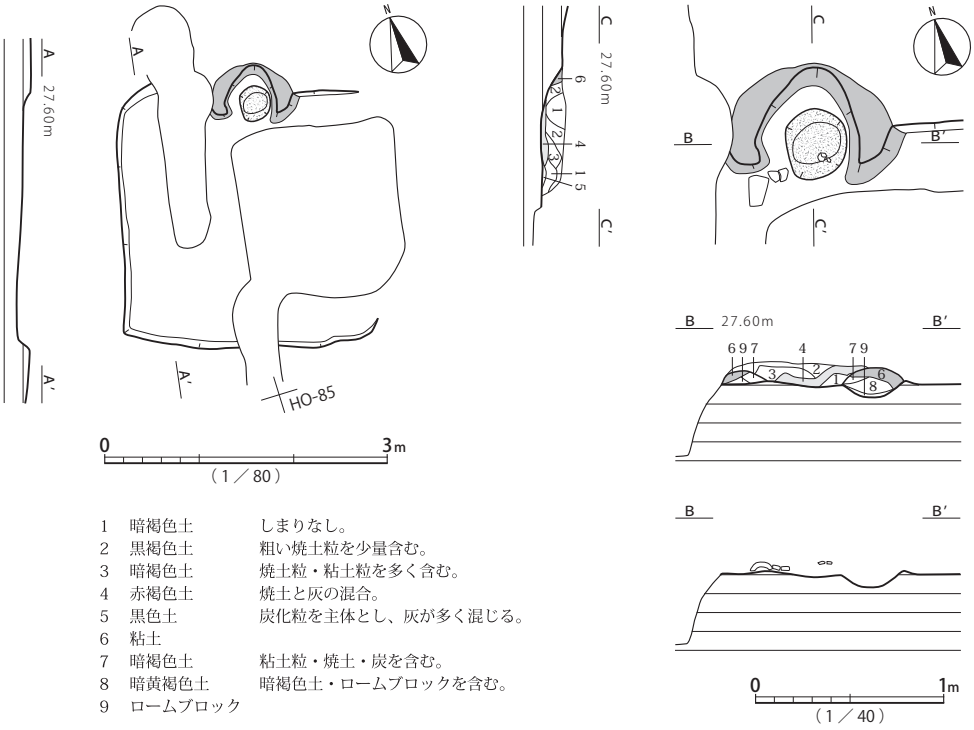


Fig.271　竪穴0828号 遺構遺物

竪穴 0849 号



1　暗褐色土　　しまりなし。
2　黒褐色土　　粗い焼土粒を少量含む。
3　暗褐色土　　焼土粒・粘土粒を多く含む。
4　赤褐色土　　焼土と灰の混合。
5　黒色土　　炭化粒を主体とし、灰が多く混じる。
6　粘土
7　暗褐色土　　粘土粒・焼土・炭を含む。
8　暗黄褐色土　　暗褐色土・ロームブロックを含む。
9　ロームブロック

Fig.272　竪穴0849号 遺構

0.46mを測る。主軸方位はN−13°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4〜5期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1〜3は丸瓦、4〜8は平瓦で、広端側が厚い6は軒平瓦の可能性がある。1・3は玉縁式、2は行基葺式である。1・3は同一個体で、挿図作成後に接合が確認された。凹面には重なり合わない布両端部痕を残す。6・7以外はカマドからの出土で、構築材として利用されたものと考えられる。このうち4・5は、カマド袖部内壁に凸面を内側に向けて設置されていた。

なお、本遺構の出土遺物には長頸瓶・平瓶などの灰釉陶器が一定量含まれるほか、長頸腸抉三角型の鉄鏃も出土している。

竪穴 0854 号　（Fig.280）〔僧Ⅰ第 613・614・616 図〕

東南部HO−70を中心に位置する。他遺構との重複はないが、攪乱により、一部壊される。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.42×3.10m、確認面からの深さは0.14mを測る。主軸方位はN−79°−Wである。カマドは西辺壁ほぼ中央から検出されている。僧寺編年Ⅴ期の所産と考えられる。

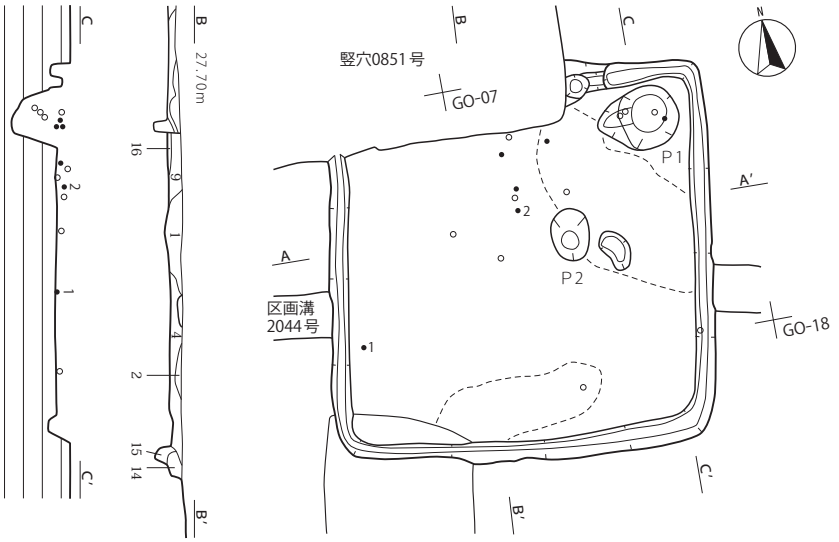
カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0855 号　（Fig.281）〔僧Ⅰ第 617〜619 図〕

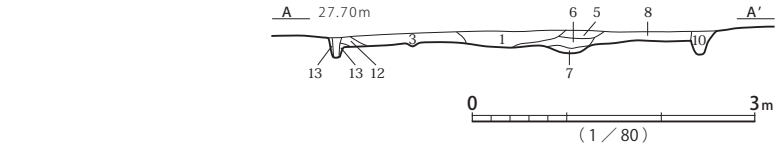
東南部HP−74を中心に位置する。区画溝2050号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.80×3.78m、確認面からの深さは0.22mを測る。主軸方位はN−5°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅵ期の所産と考えられる。

竪穴 0850号



1　暗褐色土　ローム微粒・粘土粒を含む。
2　黒褐色土　ローム粒を含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
4　暗褐色土　ローム微粒を多量に含む。
5　暗褐色土　ローム微粒を含む。
6　黒褐色土　ローム微粒・粘土を含む。
7　暗褐色土　粘土粒・焼土を含む。
8　黒褐色土　ローム微粒をわずかに含む。
9　暗褐色土　ローム粒・粘土粒をわずかに含む。
10　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
11　黒褐色土　ロームを含む。
12　褐色土　ローム粒を多く含む。
13　ローム
14　黒褐色土　ロームブロックを含む。
15　黒褐色土
16　黒褐色土　粘土粒を含む。硬くしまる。



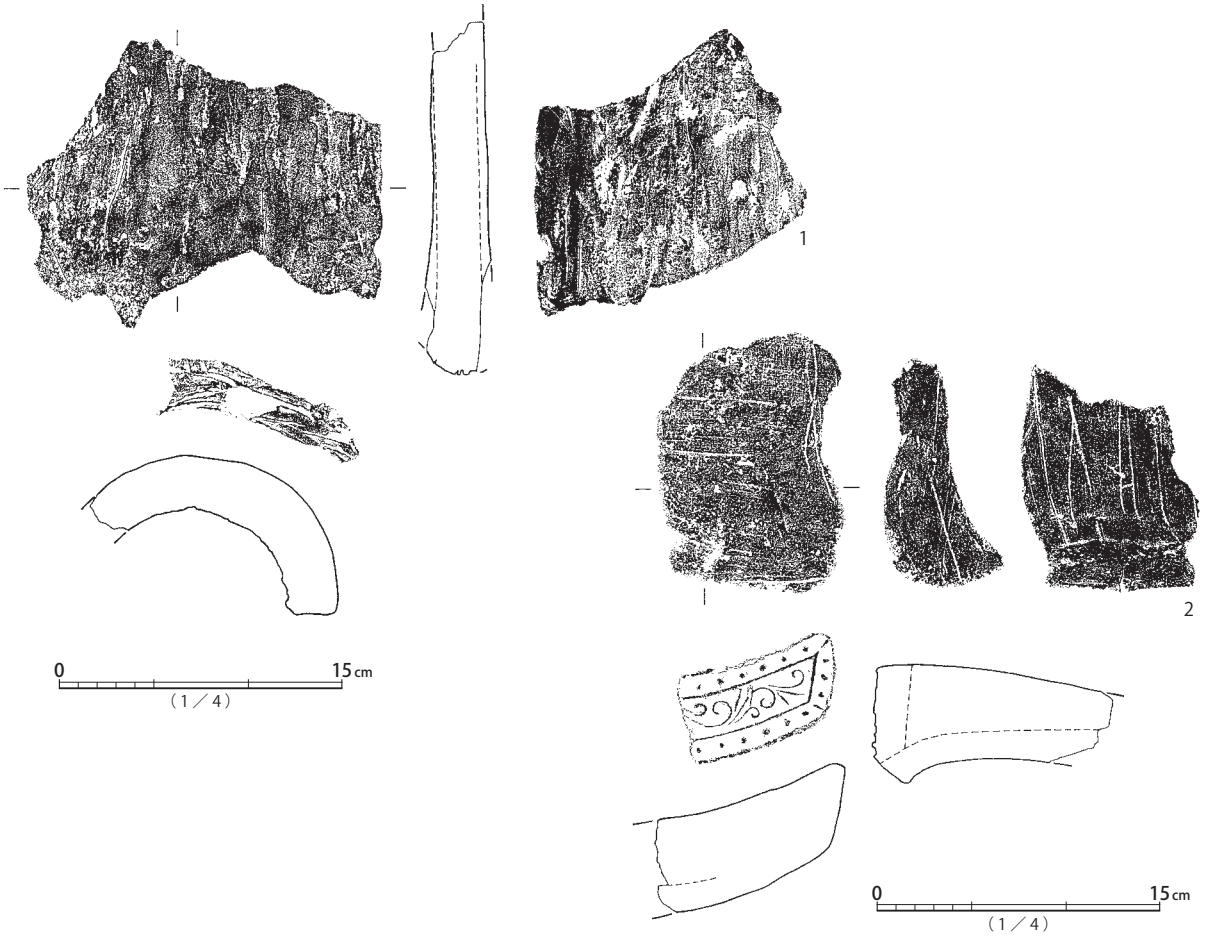
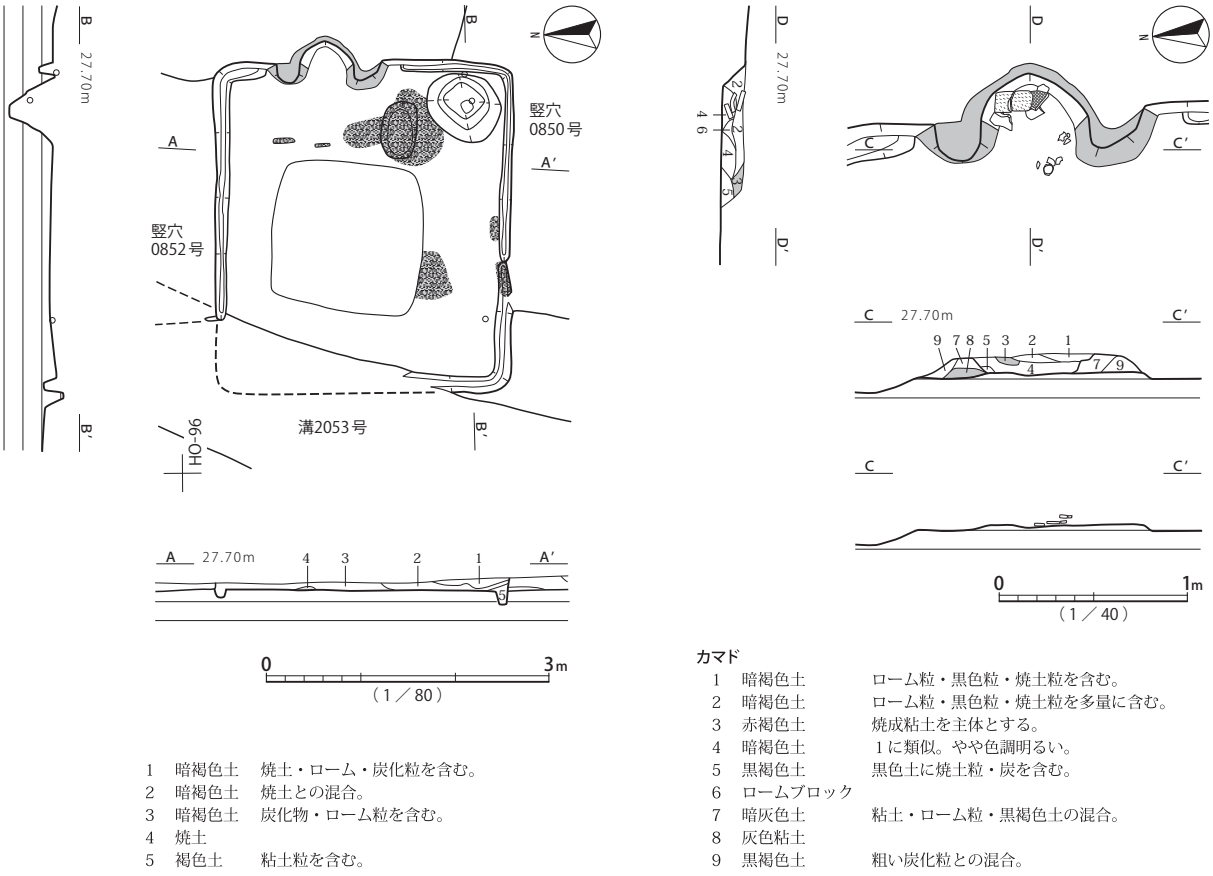


Fig.273　竪穴0850号 遺構遺物

竪穴 0851 号



1　暗褐色土　焼土・ローム・炭化粒を含む。
2　暗褐色土　焼土との混合。
3　暗褐色土　炭化物・ローム粒を含む。
4　焼土
5　褐色土　粘土粒を含む。

カマド
1　暗褐色土　ローム粒・黒色粒・焼土粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・黒色粒・焼土粒を多量に含む。
3　赤褐色土　焼成粘土を主体とする。
4　暗褐色土　1に類似。やや色調明るい。
5　黒褐色土　黒色土に焼土粒・炭を含む。
6　ロームブロック
7　暗灰色土　粘土・ローム粒・黒褐色土の混合。
8　灰色粘土
9　黒褐色土　粗い炭化粒との混合。

Fig.274　竪穴0851号 遺構

カマド内から、わずかに瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0860 号　（Fig.282、PL.49）〔僧 I 第 620・621 図〕

東南部GO−47を中心に位置する。竪穴0859・0861号と重複し、本遺構の方が0859号よりも新しく、0861号よりも古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.94×3.50m、確認面からの深さは0.10mを測る。東辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−7°−Eである。カマドは検出されないが、北辺壁に位置し、撹乱により壊されたものと考えられる。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

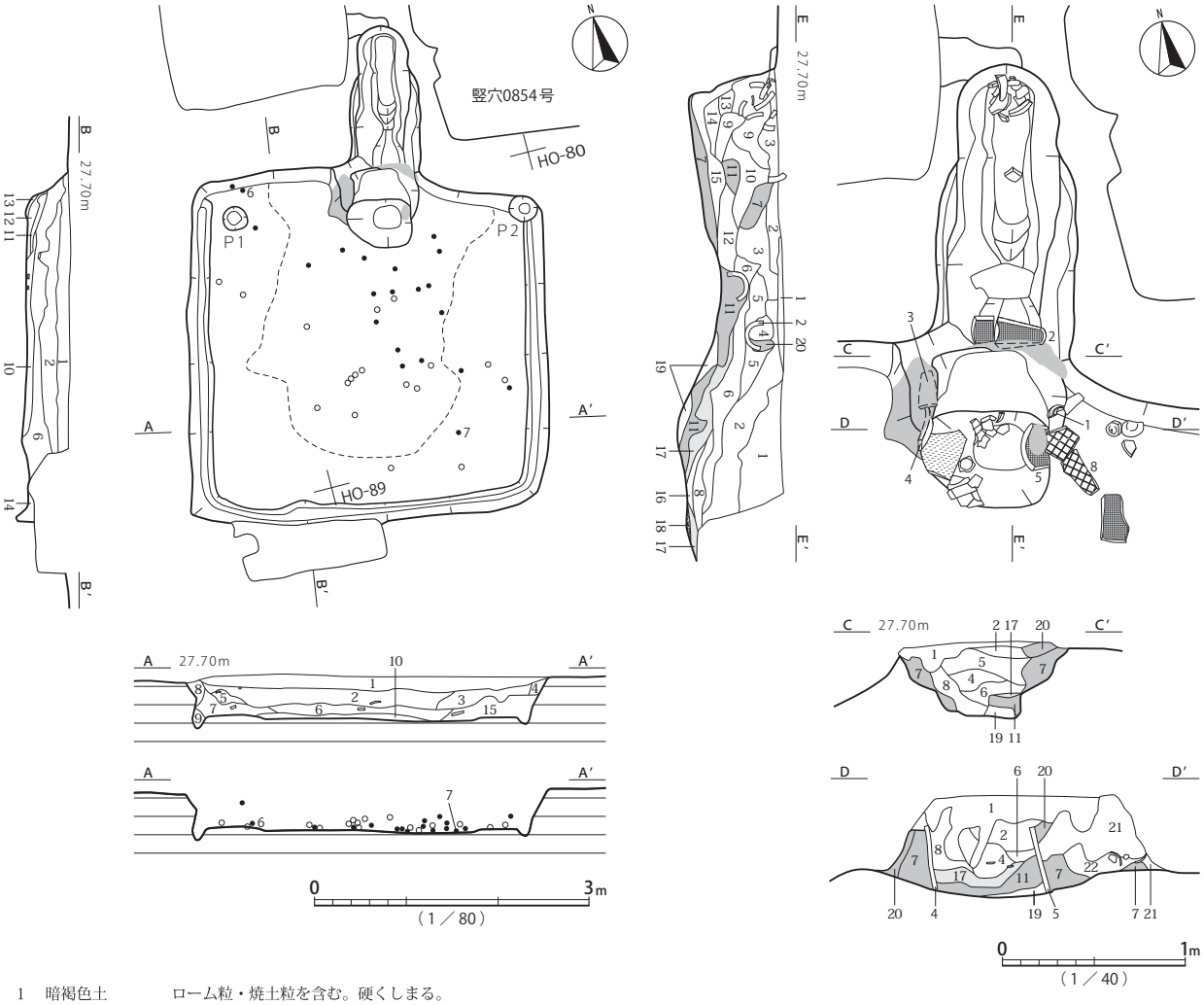
実測可能遺物は1の行基葺式の丸瓦のみで、床面上からの出土である。

竪穴 0862 号　（Fig.283・284、PL.51）〔僧 I 第 622 図〕

東南部GO−80を中心に位置する。他遺構との重複はない。

撹乱により遺構北東隅が検出されないが、平面形態は方形を呈し、規模は3.70×3.86m、確認面からの深さは0.08mを測る。主軸方位はN−2°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4〜5期の所産と考えられる。

竪穴 0853号



1	暗褐色土	ローム粒・焼土粒を含む。硬くしまる。
2	暗褐色土	ローム粒・焼土粒・炭化物を含む。
3	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒を含む。
4	暗褐色土	ロームブロック・粘土を含む。
5	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
6	暗褐色土	ローム粒・焼土・炭化物・粘土を含む。
7	暗褐色土	ロームブロック・ローム粒・木炭を含む。
8	褐色土	ローム粒を多く含む。
9	黒褐色土	炭化粒・焼土粒を含む。
10	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む。
11	褐色土	粘土・ローム・焼土粒を含む。
12	暗褐色土	焼土・木炭を含む。
13	ロームブロック	粘土との混合。硬くしまる。
14	暗褐色土	ロームブロック・粘土粒を含む。
15	暗褐色土	ロームブロックを多量に含み、粘土粒・焼土粒も少量混じる。

カマド

1	黒色土	粘土・焼土・壁材を含む。
2	暗赤褐色土	黒褐色土に焼土を多量に含む。
3	黒褐色土	ローム粒を多量に含み、焼土・粘土・粗いローム粒も少量混じる。
4	暗赤褐色土	2に比べ、色調明るい。
5	黒褐色土	焼土・粘土を多量に含む。
6	灰赤褐色土	粘土・炭・灰・壁材の混合。
7	粘土	
8	黒褐色土	焼土・灰・ローム粒・粘土微粒を含む。
9	暗褐色土	粗いローム粒・粘土・半焼成粘土粒を含む。
10	黒褐色土	粘土・焼土・ローム粒を含む。
11	焼成粘土	
12	赤褐色土	粘土を主体とし、焼土・粗いローム粒も多量に混じる。
13	黒褐色土	黒色土にローム粒・粘土ブロックが混じる。
14	茶褐色土	黒褐色土・焼土微粒の混合。
15	褐色土	黒褐色土と焼土微粒の混合で、粘土も多量に含む。
16	赤褐色土	焼土・灰・粘土の混合。
17	明赤褐色土	焼土と灰の混合。
18	黒色土	炭化粒を主体とする。
19	灰赤色土	ローム・黒色粒を含む。
20	粘土	スサ入りの壁材を含む。
21	黒色土	ローム粒を多量に含む。
22	暗褐色土	粘土粒を多量に含む。

Fig.275　竪穴0853号(1) 遺構

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。I型式の均整唐草文で、凹面を中心に2次的に被熱し、凸面狭端側には焼砂が付着する。床面上からの出土である。



ph.1　出土状況 7



ph.2　出土状況



ph.3　カマド 4・5・8



ph.4　カマド 3・4・5・8

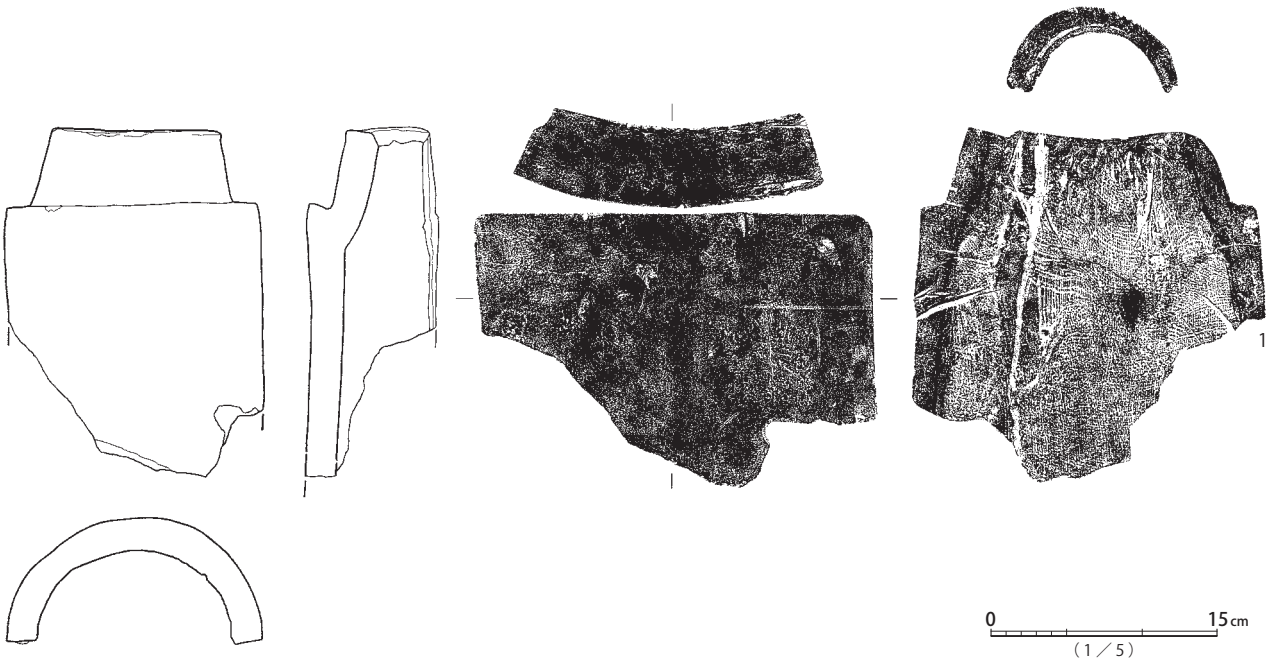


Fig.276　竪穴0853号(2) 遺物・調査状況

竪穴 0853号

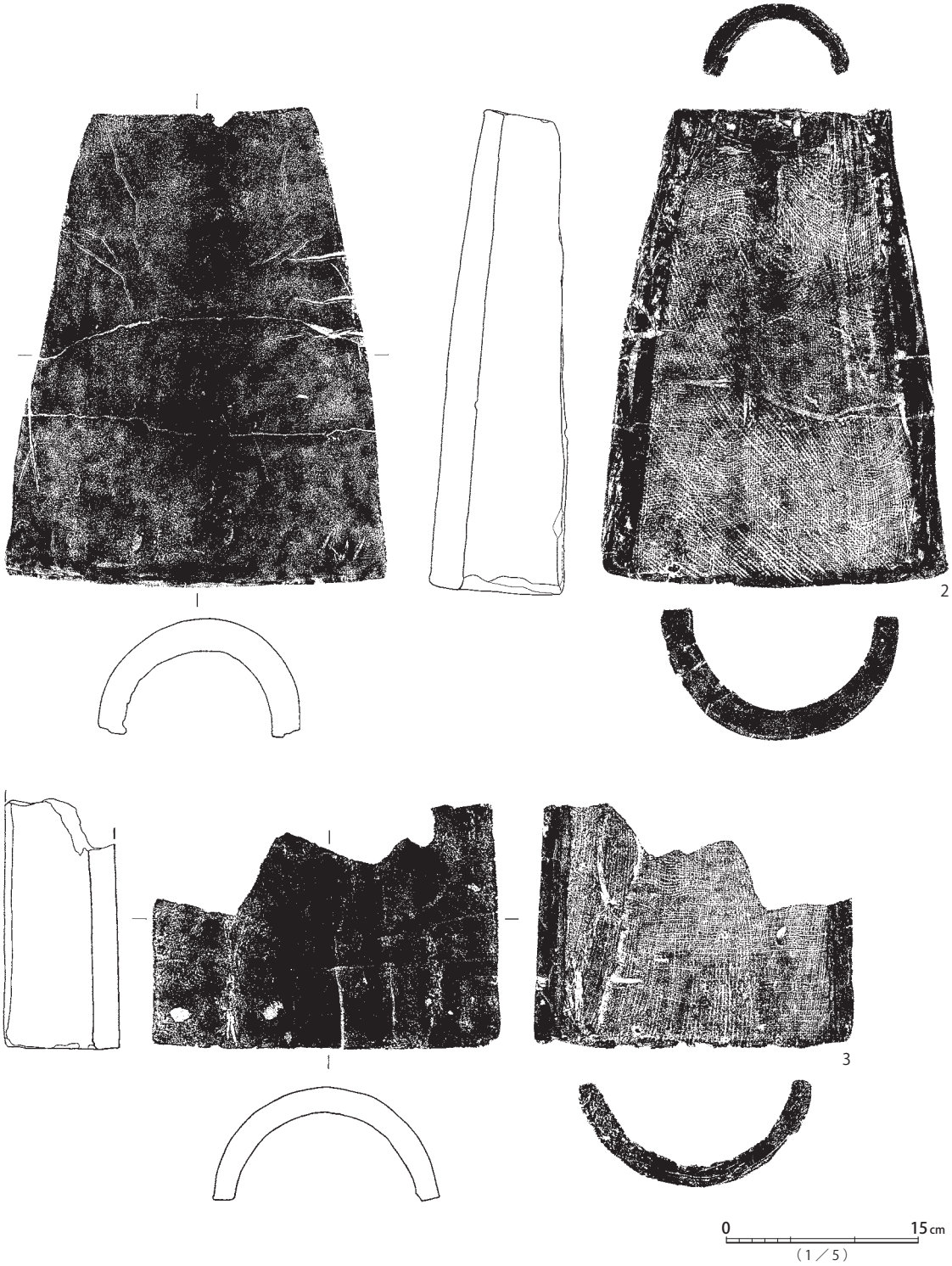


Fig.277　竪穴0853号(3) 遺物

竪穴 0853 号

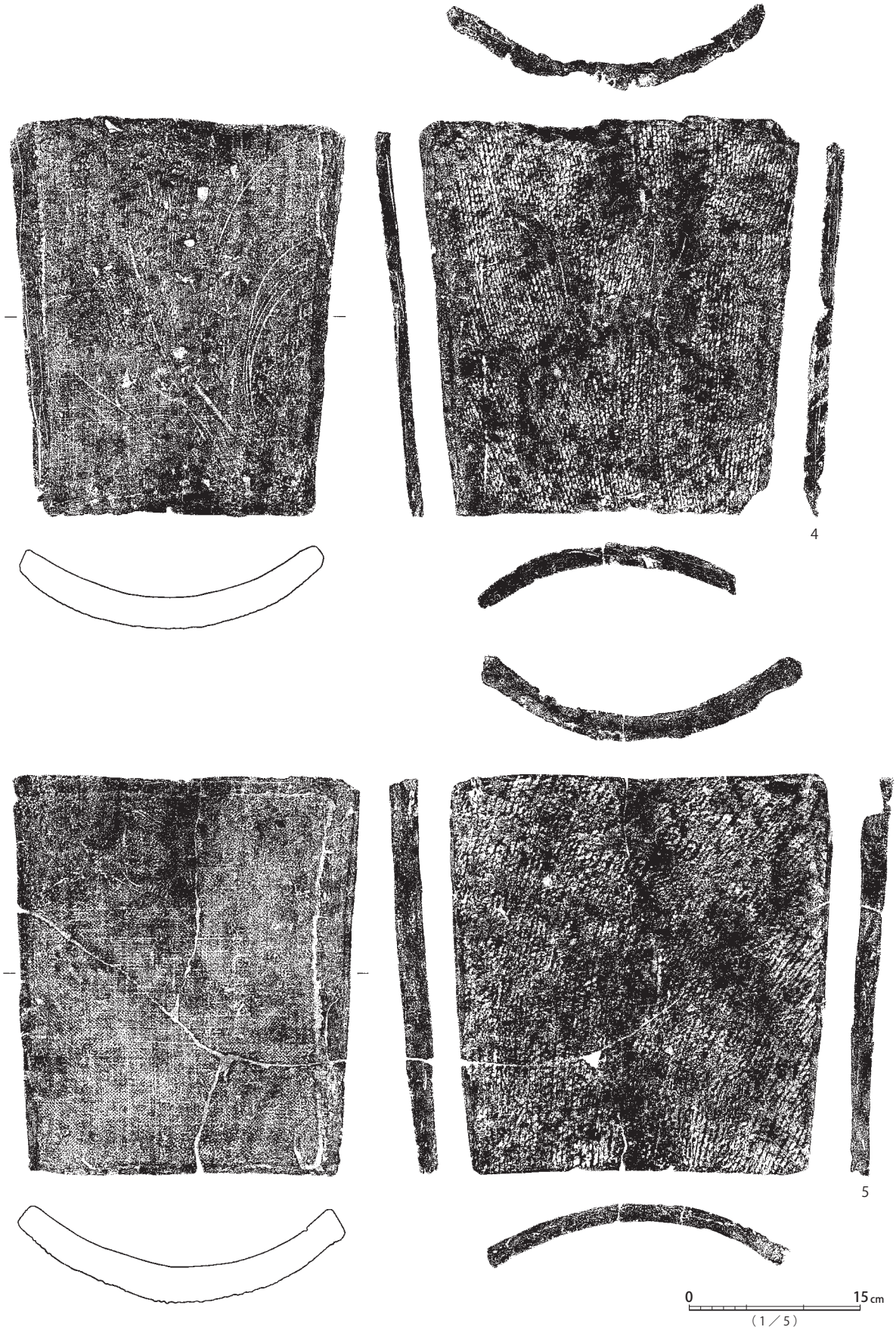


Fig.278　竪穴0853号(4) 遺物

竪穴 0853 号

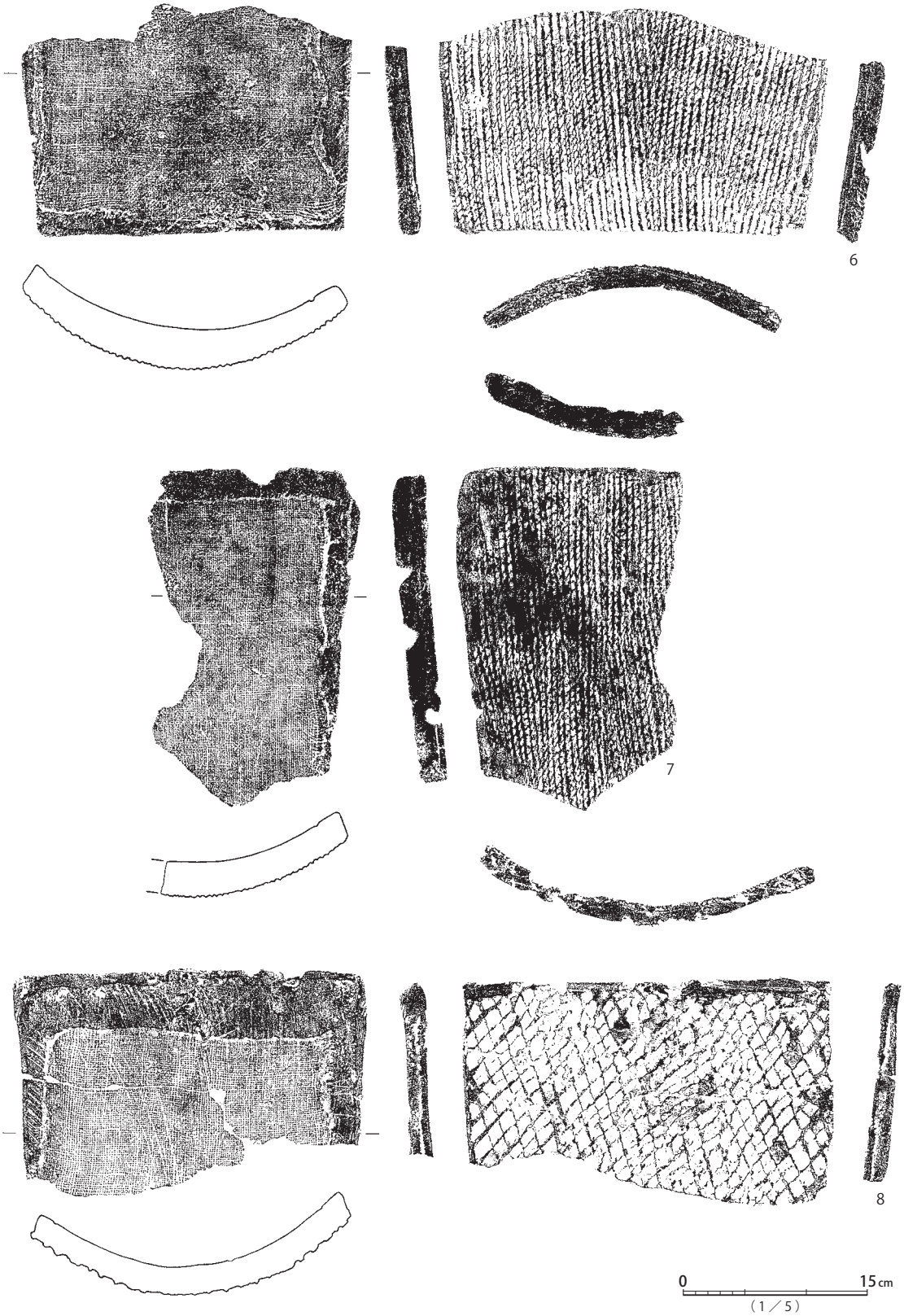
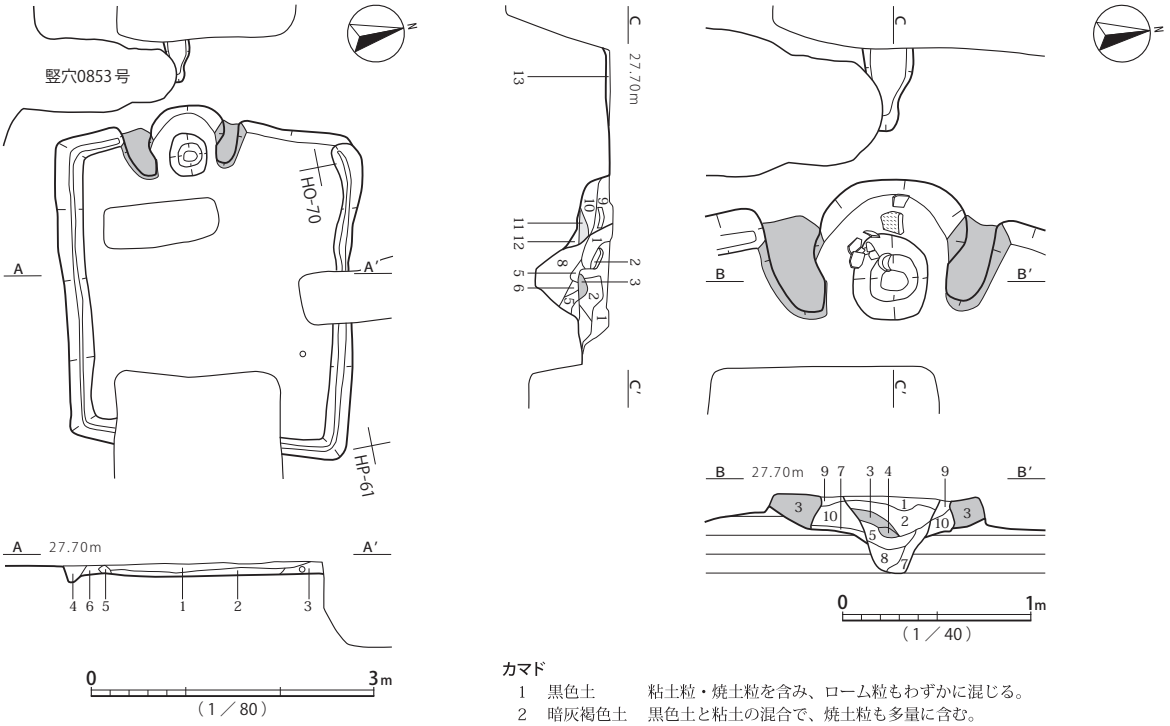


Fig.279　竪穴0853号(5) 遺物

竪穴 0854 号



1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　暗褐色土　部分的にロームブロックを含み、ローム粒もわずかに混じる。
3　黒褐色土　ローム微粒を少量含む。
4　褐色土　ローム微粒を主体とする。
5　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
6　褐色土　ローム粒を含む。

カマド
1　黒色土　粘土粒・焼土粒を含み、ローム粒もわずかに混じる。
2　暗灰褐色土　黒色土と粘土の混合で、焼土粒も多量に含む。
3　灰褐色粘土　粘土を主体とする。
4　焼成粘土
5　茶褐色土　被熱したローム粒。
6　淡褐色土　ソフトロームを主体とする。
7　暗褐色土　黒褐色土とロームの混合で、炭・焼土微粒も混じる。
8　暗褐色土　ロームブロック・灰・粘土・焼土を含む。
9　黒褐色土　焼土粒を少量含む。
10　暗褐色土　焼土粒・粘土粒を含む。
11　焼土　灰を含む。
12　黒褐色土　黒色土・ローム・焼土の混合。
13　暗褐色土　粘土を含み、焼土微粒も少量混じる。
※1～9は後世のピット覆土

Fig.280　竪穴0854号 遺構

竪穴 0863 号　（Fig.285）〔僧 I 第 623・624 図〕

東南部GP−62を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.96×2.86m、確認面からの深さは0.08mを測る。主軸方位はN−17°−Eである。撹乱により北辺壁の大部分が壊されるが、カマドの痕跡が北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

カマド周辺から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

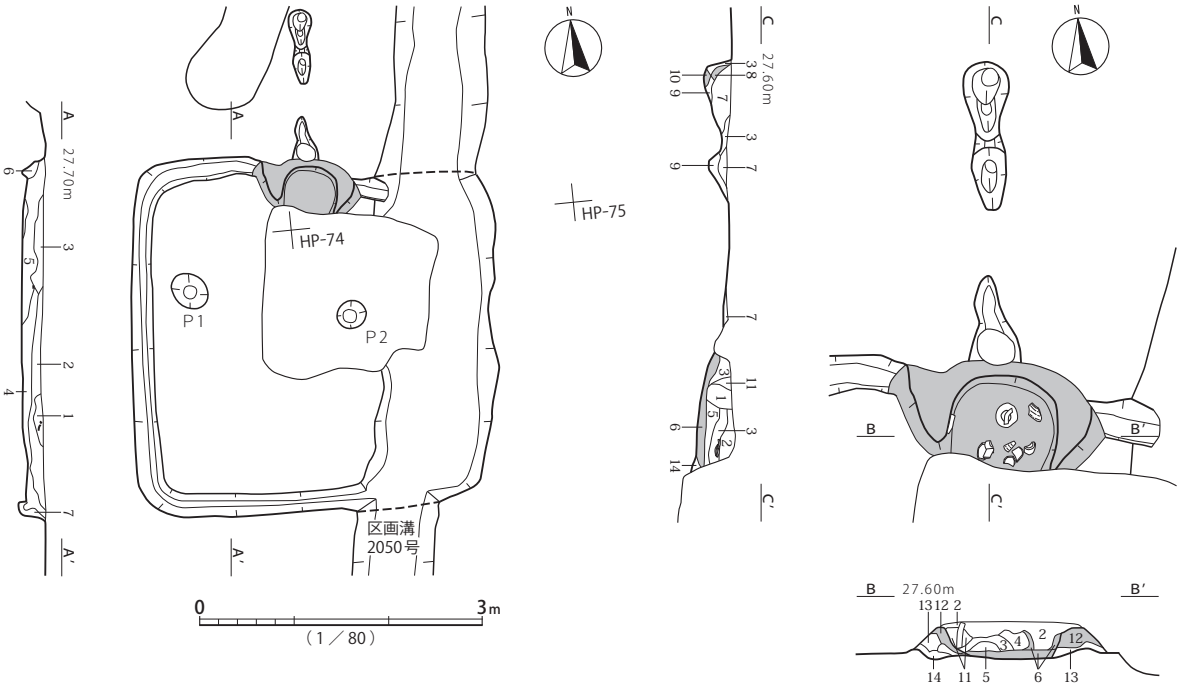
竪穴 0864 号　（Fig.285）〔僧 I 第 623～625 図〕

東南部GP−64を中心に位置する。竪穴0872号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、撹乱により東辺壁が検出されないため、明確でない。規模は主軸長3.30m、確認面からの深さは0.08mを測る。主軸方位はN−17°−Eである。カマドは北辺壁から検出され、ほぼ中央に位置するものと思われる。僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

カマド周辺から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0855 号



1　暗褐色土　焼土との混合。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
3　黒褐色土　ローム粒・粘土粒・焼土粒を含む。
4　暗褐色土　ローム微粒を多く含む。
5　暗褐色土　焼土・粘土粒を多量に含む。
6　暗褐色土　ローム微粒をわずかに含む。しまりなし。
7　ローム

カマド
1　黒色土　粗い焼土粒をわずかに含む。
2　黒褐色土　焼土ブロック・粘土微粒を多量に含む。
3　赤褐色土　粘土・ローム・焼土の混合。
4　暗褐色土　粘土微粒を多量に含み、焼土もわずかに混じる。
5　淡褐色粘土　ソフトロームを多量に含み、焼土微粒も少量混じる。
6　褐色粘土　焼土微粒を含む。
7　黒色土　焼土粒を多量に含む。
8　焼成粘土
9　暗褐色土　粘土・ローム・焼土を多量に含む。
10　明灰色粘土　黒色粒・焼土粒・炭化物を含む。
11　黒褐色土　焼土粒ブロック・粘土微粒・ソフトロームを多量含む。
12　粘土
13　暗褐色土　ロームブロックとの混合。
14　ロームブロック

Fig.281　竪穴0855号 遺構

竪穴 0865 号　（Fig.286）〔僧 I 第 626・627 図〕

東南部GP−34を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.54×3.52m、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−12°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されるが、撹乱により大部分が壊されている。また、東辺壁中央南寄りからは、古いカマドの痕跡が検出されている。僧寺編年Ⅳ−4〜5期の所産と考えられる。

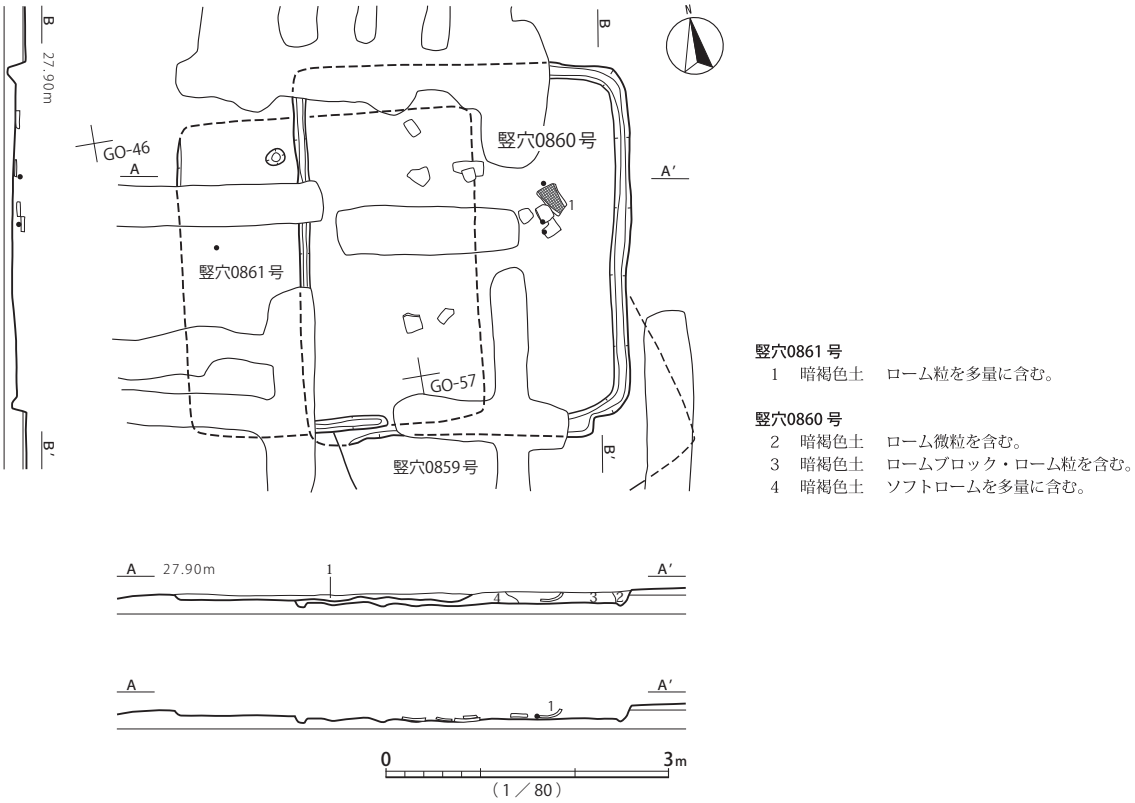
実測可能遺物は1の平瓦のみである。カマド右袖上からの出土で、強く被熱し、表面には亀裂が入る。

竪穴 0866 号　（Fig.287・288、PL.51）〔僧 I 第 628〜630 図〕

東南部FP−02を中心に位置する。他遺構との重複はない。

撹乱により北辺壁の一部が壊されるが、平面形態は長方形を呈し、規模は3.12×2.82m、遺構下端面積は7.2㎡程度、確認面からの深さは0.14mを測る。主軸方位はN−78°−Wである。カマドは西

竪穴 0860号



竪穴0861 号
1　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。

竪穴0860 号
2　暗褐色土　ローム微粒を含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
4　暗褐色土　ソフトロームを多量に含む。

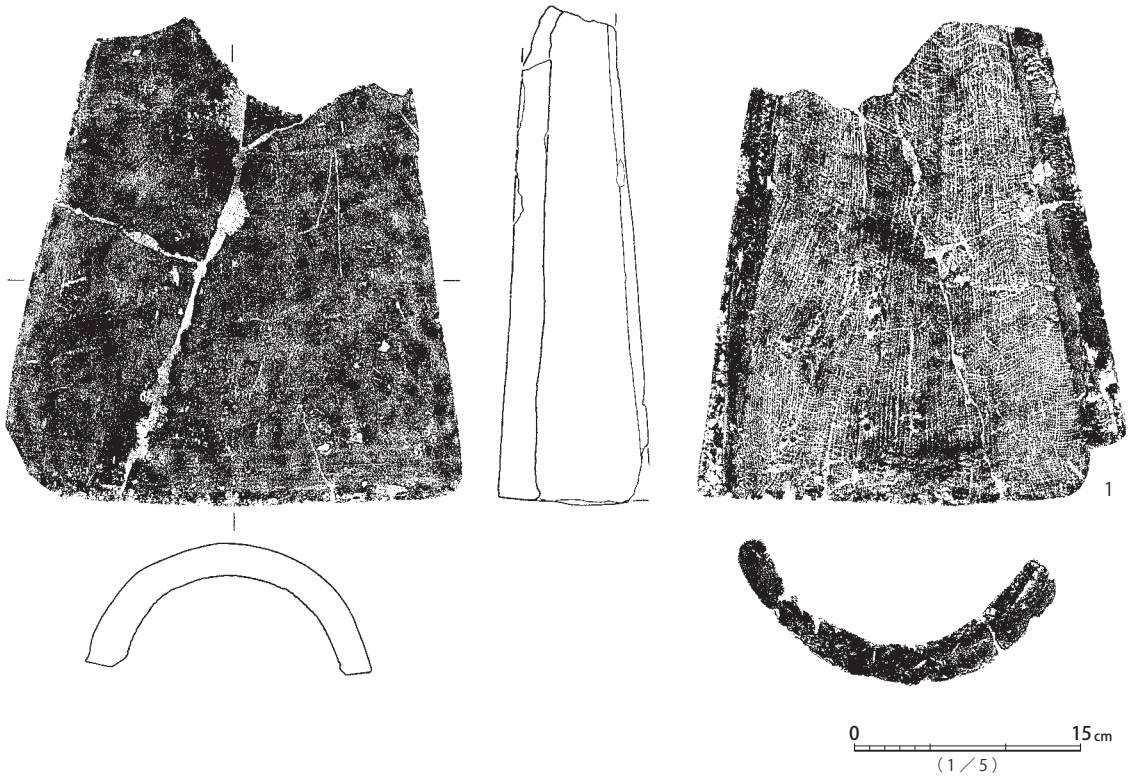
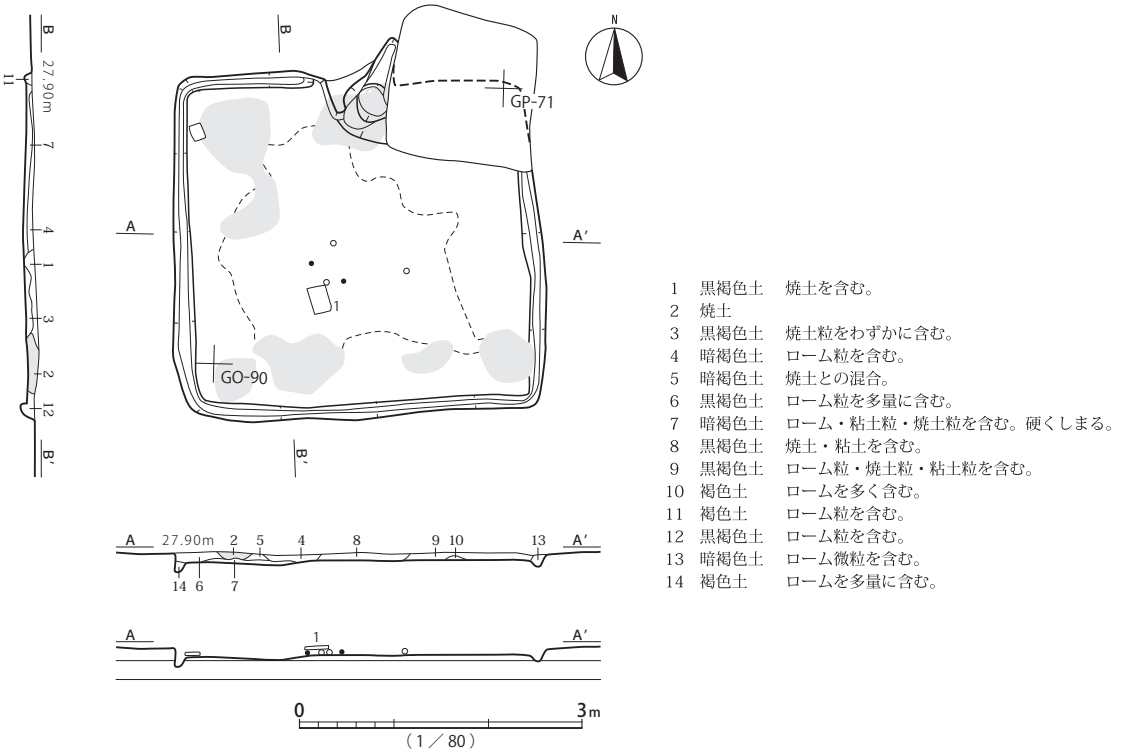


Fig.282　竪穴0860号 遺構遺物

竪穴 0862 号



1　黒褐色土　焼土を含む。
2　焼土
3　黒褐色土　焼土粒をわずかに含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含む。
5　暗褐色土　焼土との混合。
6　黒褐色土　ローム粒を多量に含む。
7　暗褐色土　ローム・粘土粒・焼土粒を含む。硬くしまる。
8　黒褐色土　焼土・粘土を含む。
9　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・粘土粒を含む。
10　褐色土　ロームを多く含む。
11　褐色土　ローム粒を含む。
12　黒褐色土　ローム粒を含む。
13　暗褐色土　ローム微粒を含む。
14　褐色土　ロームを多量に含む。

Fig.283　竪穴0862号(1) 遺構

辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−4〜5期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、遺構中央の床面上からの出土である。凸面には円弧状の縄叩き目と布目痕を残し、中央は被熱黒色化する。

竪穴 0867 号　（Fig.288）〔僧Ⅰ第 632・633 図〕

東南部FP−04を中心に位置する。竪穴0887号、土坑0886号と重複する。新旧関係は、断面図など記録上の根拠がないために明確でないが、本遺構の方が0887号よりも新しいと思われる。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、西辺壁が検出されないため、明確でない。規模は副軸長3.90m、確認面からの深さは0.14mを測る。主軸方位はN−90°−Eである。カマドは東辺壁中央やや南寄りから検出されている。僧寺編年Ⅶ期の所産と考えられる。

カマド内と遺構中央北西寄りから瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0868 号　（Fig.289・290、PL.50）〔僧Ⅰ第 628〜631 図〕

東南部FP−21を中心に位置する。掘立柱建物3041号と重複し、本遺構の方が新しい。

撹乱により遺構北西隅が壊されるが、平面形態は方形を呈し、規模は3.12×3.02m、遺構下端面積は6.7㎡程度、確認面からの深さは0.24mを測る。主軸方位はN−10°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅳ−5期の所産と考えられる。

竪穴 0862 号

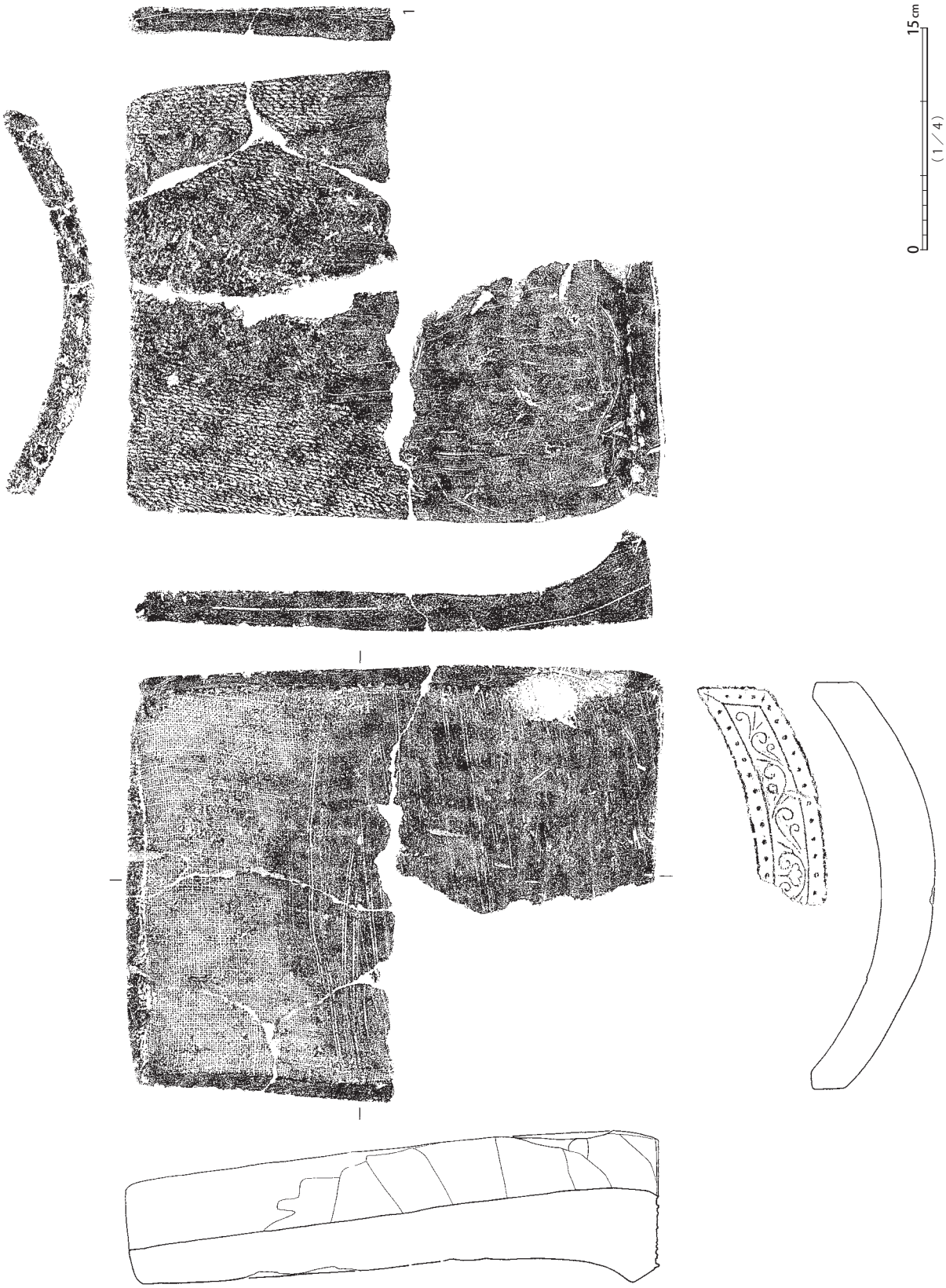
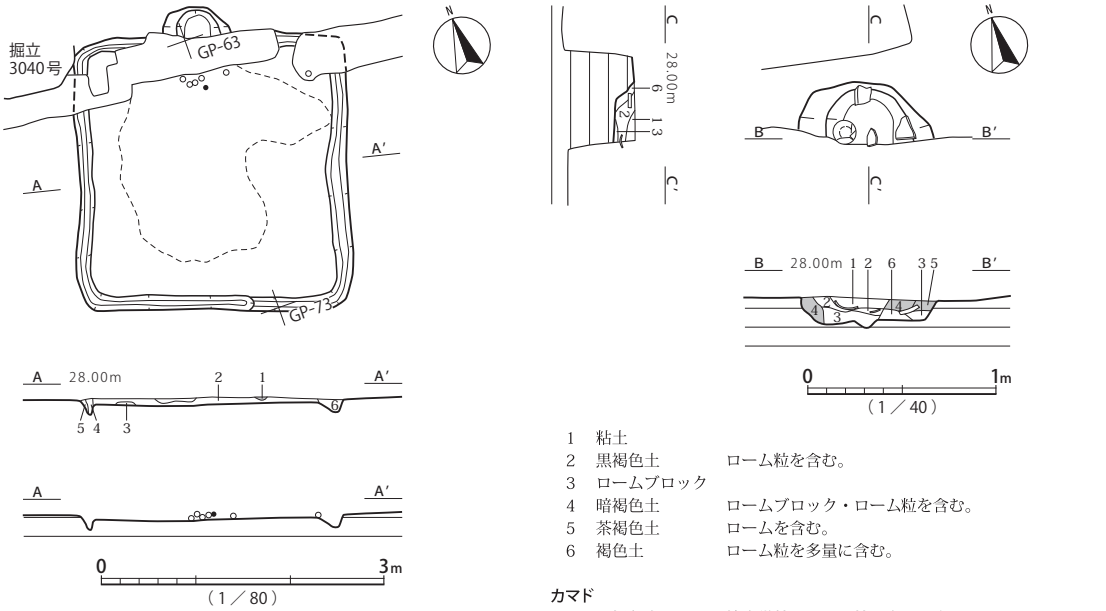


Fig.284　竪穴0862号(2) 遺物

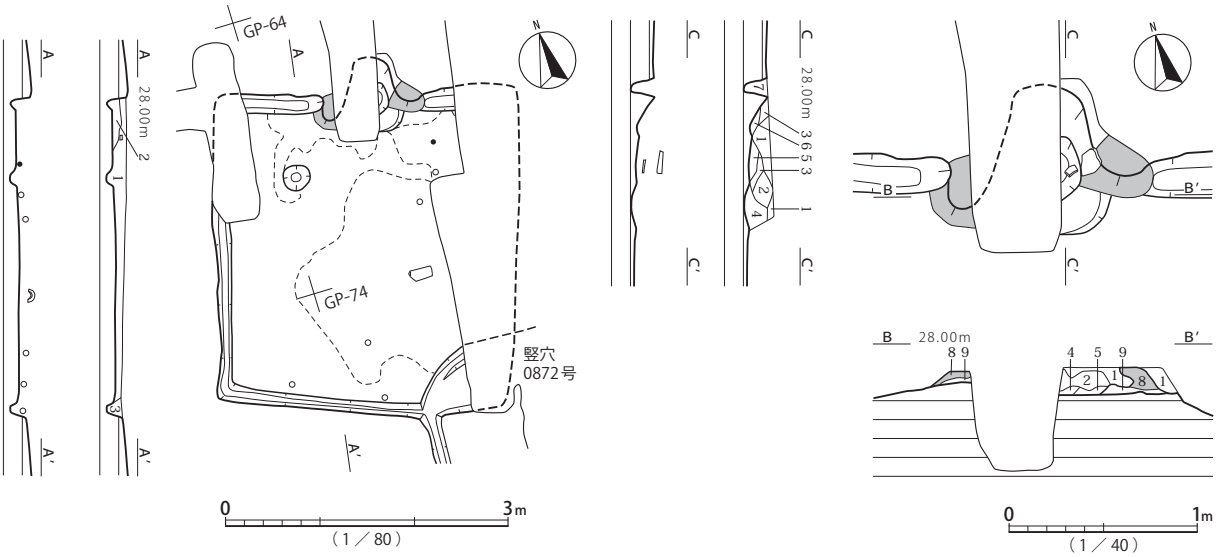
竪穴 0863号



1　粘土
2　黒褐色土　　ローム粒を含む。
3　ロームブロック
4　暗褐色土　　ロームブロック・ローム粒を含む。
5　茶褐色土　　ロームを含む。
6　褐色土　　ローム粒を多量に含む。

カマド
1　黒褐色土　　焼土微粒・ローム粒を多量に含む。
2　黒褐色土　　焼土微粒・ローム粒・ソフトローム粒を多量に含む。
3　暗褐色土　　粗いローム粒を多量に含み、粘土粒も混じる。
4　暗灰褐色粘土　　粘土を主体とし、ソフトロームが混じる。
5　明灰褐色粘土　　粘土ブロック。
6　暗褐色土　　灰を多量に含み、粘土・焼土もわずかに混じる。

竪穴 0864号

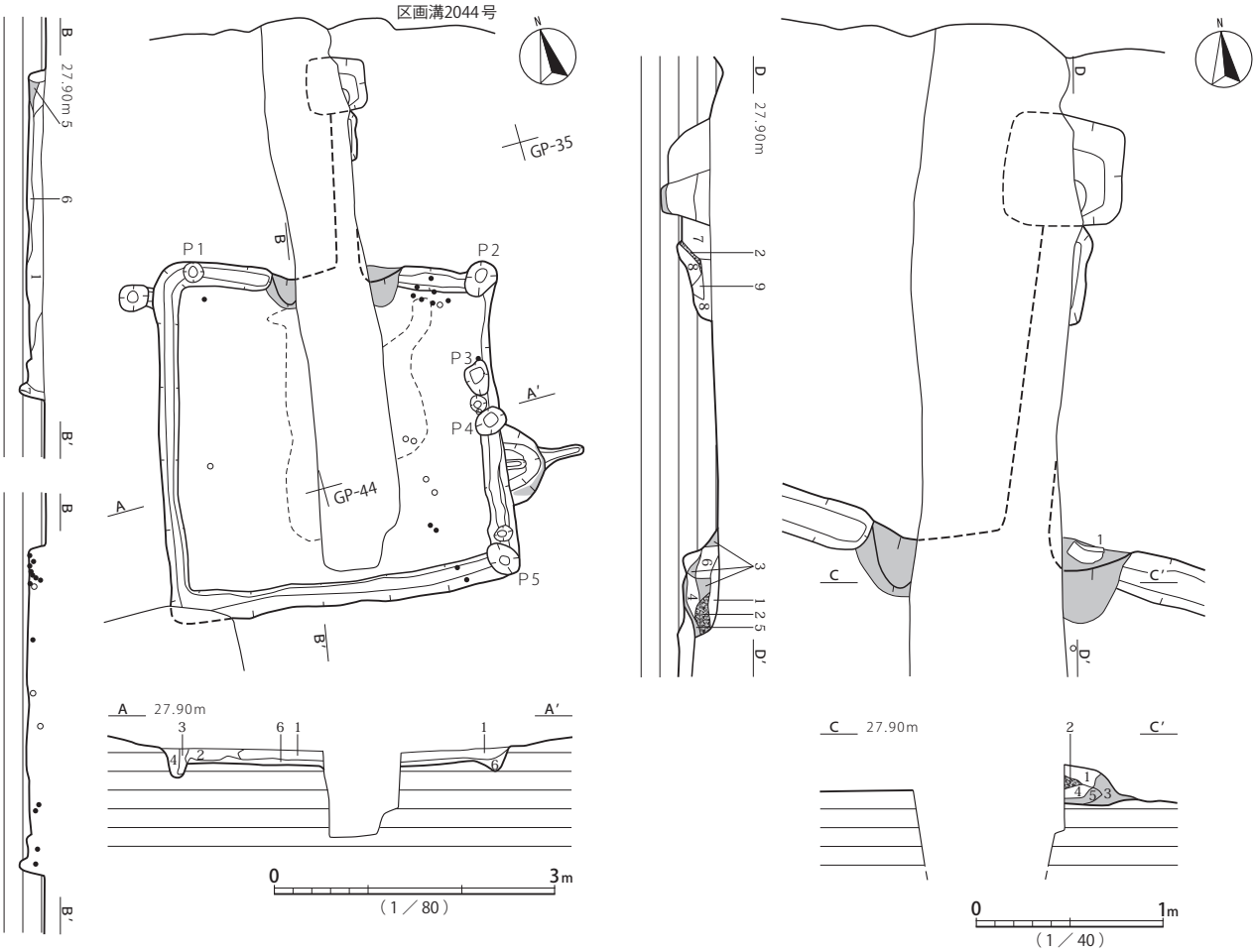


1　暗褐色土　　ソフトローム・ローム粒を含む。
2　褐色土　　ロームブロックを含む。
3　褐色土　　ソフトロームを含む。

カマド
1　黒褐色土　　黒色土・粘土・焼土・ロームの混合。
2　暗赤褐色土　　粘土・焼土・ローム粒・炭化粒の混合。
3　褐色土　　黒褐色土・粘土・焼土微粒の混合。
4　暗褐色土　　ロームを多量に含み、暗褐色土と炭が混じる。
5　暗灰褐色土　　粘土と黒褐色土の混合で、焼土微粒も多量に混じる。
6　黒褐色土　　黒色土に炭を多量に含む。
7　暗褐色土　　ローム粒・黒褐色粒・焼土粒の混合。
8　明灰色粘土　　粘土を主体とする。
9　粘土　　ロームとの混合。

Fig.285　竪穴0863号 遺構、竪穴0864号 遺構

竪穴 0865 号



1　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
3　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。
5　粘土　黒褐色土を含む。
6　黒褐色土　粘土が縞状に混じる。
7　褐色土　ロームを多量に含む。

カマド
1　茶褐色土　黒褐色土中に粘土・焼土微粒を含む。
2　黒色土　炭化粒を主体とする。
3　明褐色土　粘土を主体とする。
4　暗褐色土　ロームを多量に含む。
5　暗灰褐色土　灰と粘土の混合。
6　暗灰褐色土　黒褐色土中に粘土、やや粗い焼土粒を含む。
7　暗褐色土　粗い焼土粒を多く含む。
8　暗褐色土　粘土・焼土を含む。しまり弱い。
9　暗褐色土　8よりも色調暗い。

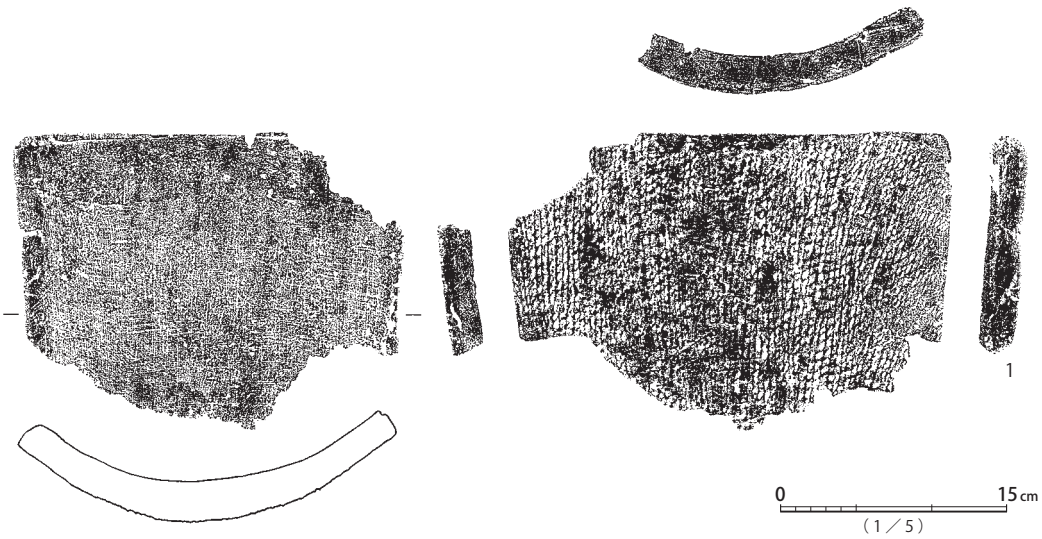
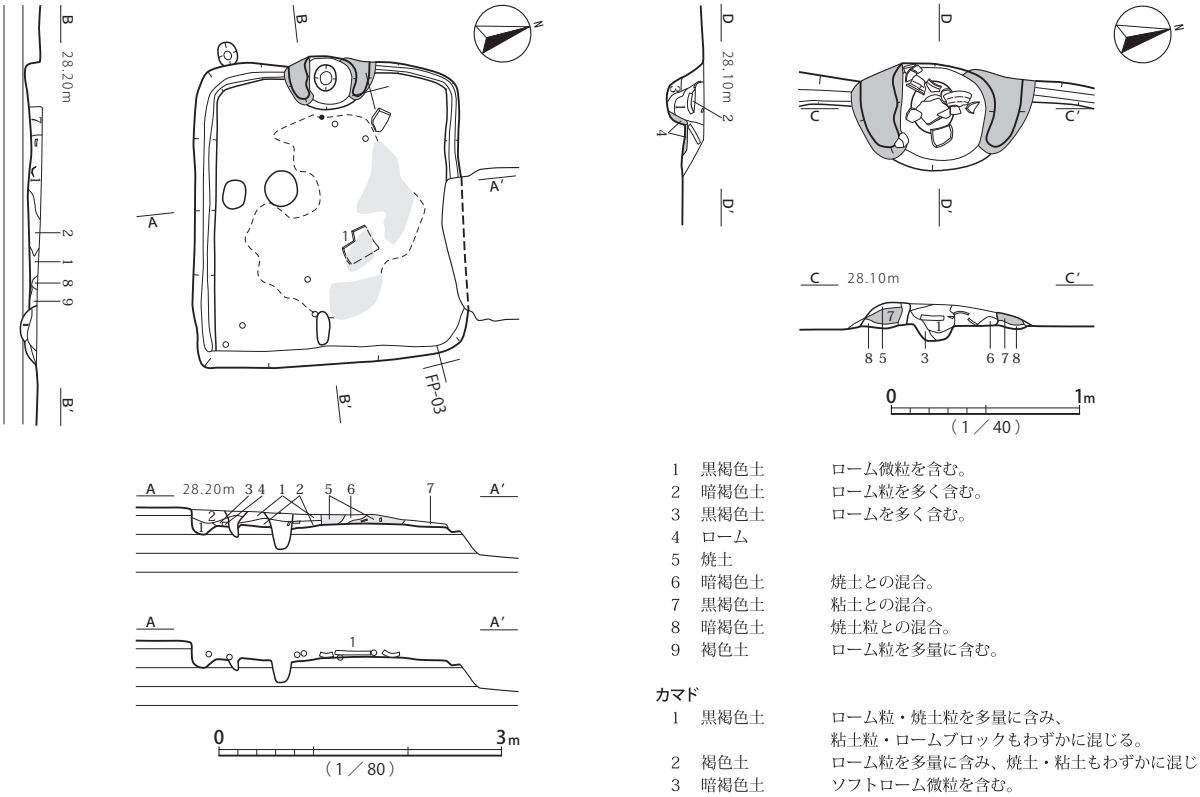


Fig.286　竪穴0865号 遺構遺物

竪穴 0866 号



1	黒褐色土	ローム微粒を含む。
2	暗褐色土	ローム粒を多く含む。
3	黒褐色土	ロームを多く含む。
4	ローム	
5	焼土	
6	暗褐色土	焼土との混合。
7	黒褐色土	粘土との混合。
8	暗褐色土	焼土粒との混合。
9	褐色土	ローム粒を多量に含む。

カマド

1	黒褐色土	ローム粒・焼土粒を多量に含み、 粘土粒・ロームブロックもわずかに混じる。
2	褐色土	ローム粒を多量に含み、焼土・粘土もわずかに混じる。
3	暗褐色土	ソフトローム微粒を含む。
4	明赤褐色粘土	焼成粘土。
5	暗褐色土	粗いローム粒を多量に含み、焼土粒も少量混じる。
6	ロームブロック	
7	淡暗褐色粘土	
8	黒褐色土	ローム・粘土を含む。



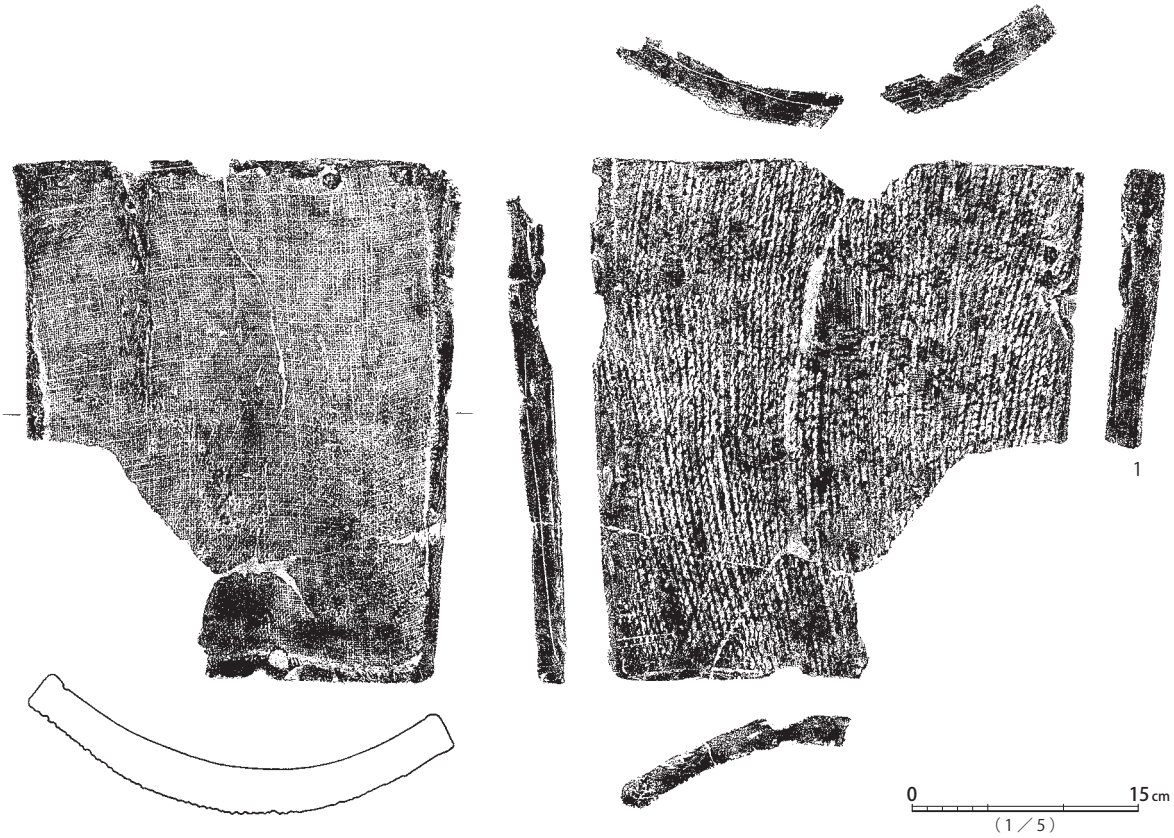
ph.1　出土状況 1



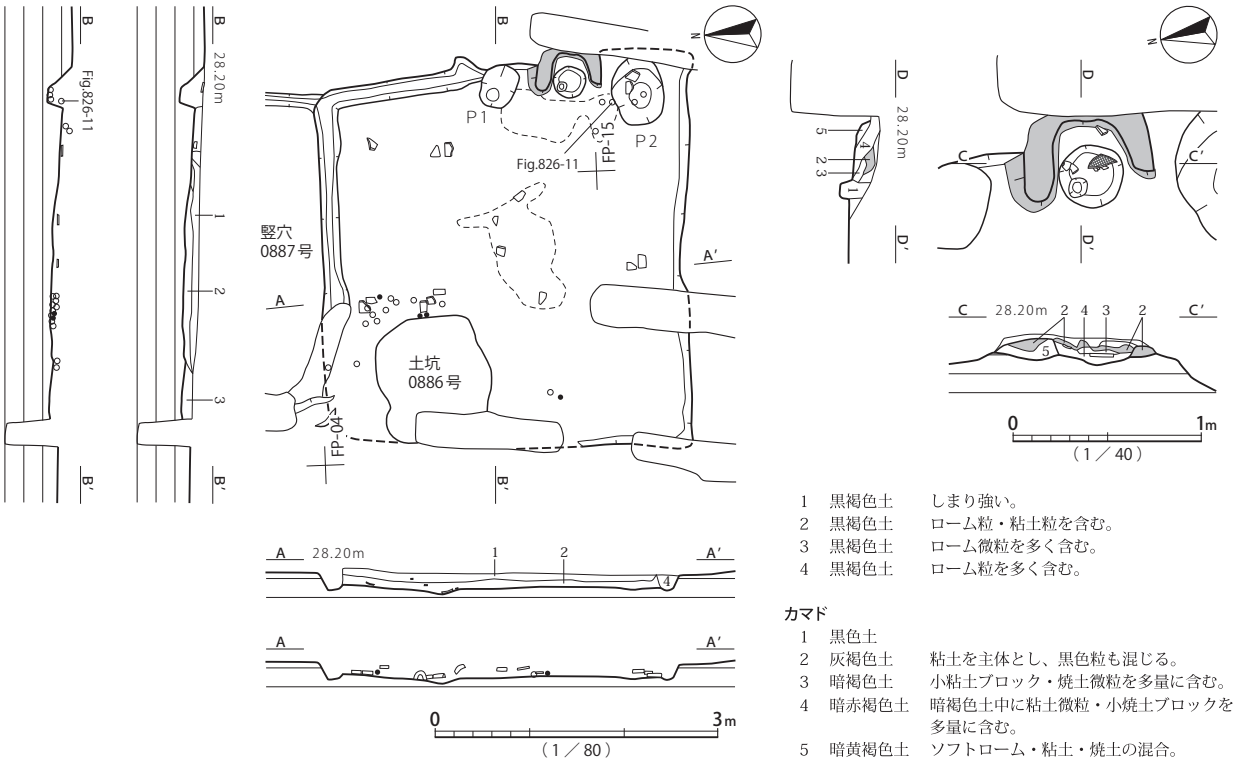
ph.2　カマド

Fig.287　竪穴0866号(1) 遺構・調査状況

竪穴 0866 号



竪穴 0867 号



1　黒褐色土　しまり強い。
2　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
3　黒褐色土　ローム微粒を多く含む。
4　黒褐色土　ローム粒を多く含む。

カマド

1　黒色土
2　灰褐色土　粘土を主体とし、黒色粒も混じる。
3　暗褐色土　小粘土ブロック・焼土微粒を多量に含む。
4　暗赤褐色土　暗褐色土中に粘土微粒・小焼土ブロックを多量に含む。
5　暗黄褐色土　ソフトローム・粘土・焼土の混合。

Fig.288　竪穴0866号(2) 遺物、竪穴0867号 遺構

実測可能遺物は1の平瓦のみで、凸面には格子叩き目が残る。出土位置は明確でない。遺構中央付近からは丸瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴0869号　(Fig.290)〔僧I第635・636図〕

東南部FO−06を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、撹乱により遺構北西及び南東隅が壊され、掘込みが浅く、南辺壁の形状も明確でない。確認面からの深さは0.03mを測り、規模は3.64×3.56m程度になるものと思われる。主軸方位はN−4°−Eである。カマドは北辺壁中央東寄りから検出されている。僧寺編年IV−5期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の丸瓦のみで、凹面にはごく細かい布目痕が残る。

竪穴0872号　(Fig.291)〔僧I第623〜625図〕

東南部GP−74を中心に位置する。竪穴0864号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈し、規模は2.60×2.58m、確認面からの深さは0.14mを測る。主軸方位はN−92°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年VII期の所産と考えられる。

カマド周辺と遺構南東隅部から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴0887号　(Fig.292)〔僧I第632〜634図〕

東南部GP−94を中心に位置する。竪穴0867号と重複し、本遺構の方が新しいと思われるが、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

平面形態は方形を呈すると考えられるが、西辺・南辺壁が検出されないことから、明確でない。確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−1°−Eである。カマドは北辺壁から検出され、中央やや東寄りに位置するものと思われる。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

カマド部分から平瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴0888号a・b　(Fig.293)〔僧I第637・638図〕

東南部GP−78を中心に位置する。建替え前をa、建替え後をbとした。

平面形態は長方形を呈するものと考えられ、規模は4.30×3.50m、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−9°−Eである。カマドは北辺壁ほぼ中央から検出されている。僧寺編年VIII期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

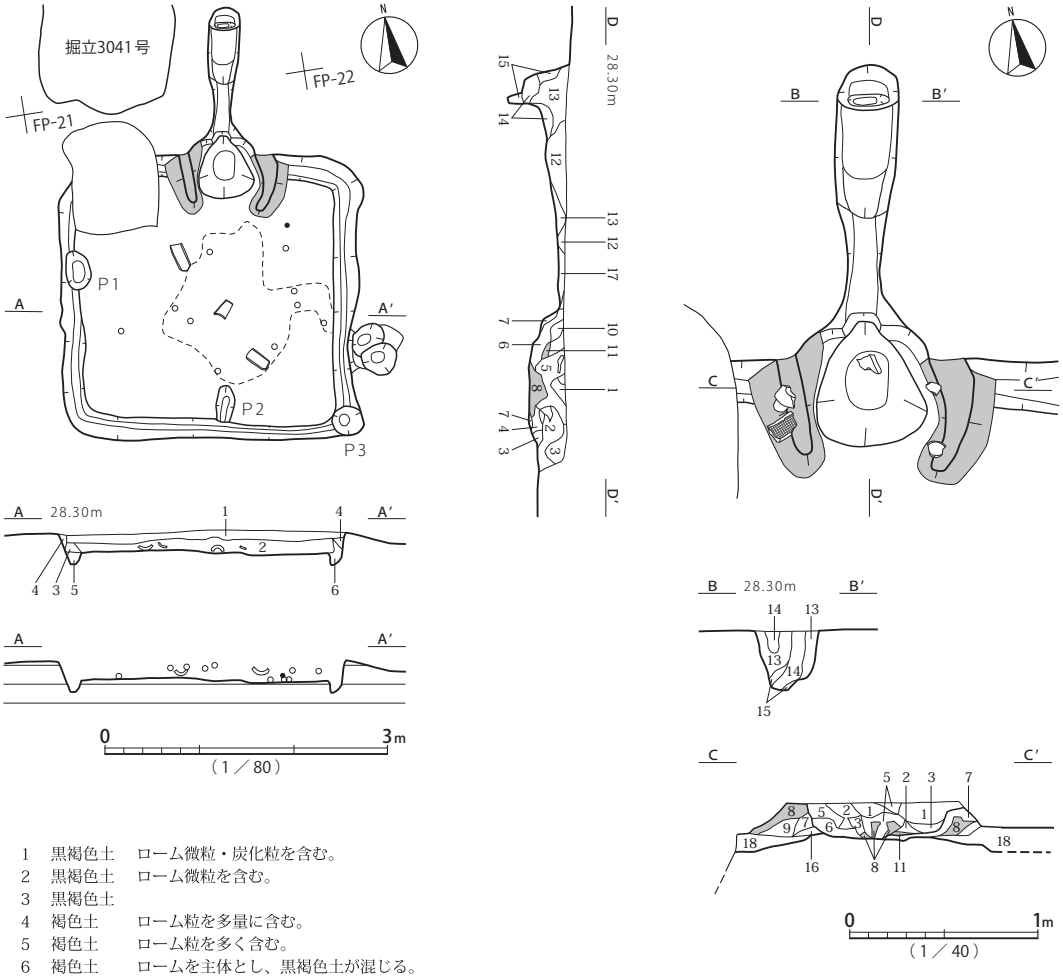
カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴0889号　(Fig.294)〔僧I第637〜639図〕

東南部GP−59を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.84×2.78m、遺構下端面積は5.5㎡、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−14°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−4〜5期の所産と考えられる。

竪穴 0868号



1　黒褐色土　ローム微粒・炭化粒を含む。
2　黒褐色土　ローム微粒を含む。
3　黒褐色土
4　褐色土　ローム粒を多量に含む。
5　褐色土　ローム粒を多く含む。
6　褐色土　ロームを主体とし、黒褐色土が混じる。

カマド

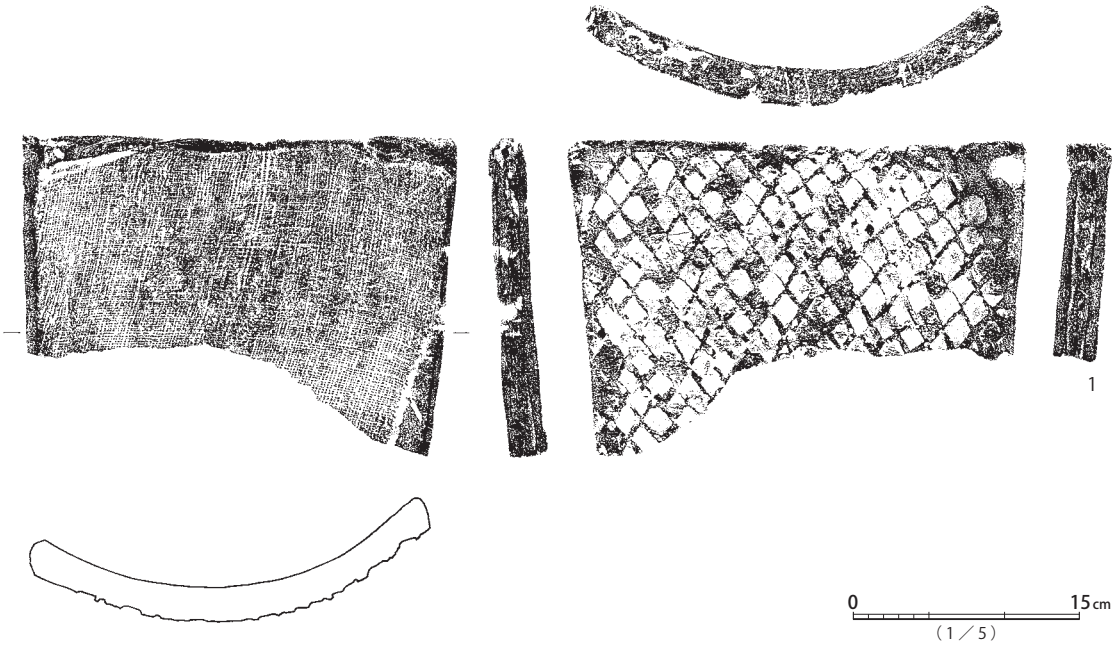
1　暗褐色土　焼土・ローム粒を多量に含む。
2　淡褐色土　粘土粒を多量に含み、焼土・ローム粒も混じる。
3　暗褐色土　粘土・焼土微粒をわずかに含む。
4　暗褐色土　粘土粒を多量に含む。
5　黒褐色土　黒色土中に焼土微粒・粘土粒を少量含む。
6　黒褐色土　5の硬質部分。
7　暗褐色土　3にロームが混じる。
8　褐灰色土　白色粘土ブロックを多く含む。
9　黒褐色土　黒色土と焼土を含む。
10　暗褐色土　ロームを含む。
11　灰色粘土
12　暗褐色土　ローム微粒を多量に含み、焼土・粘土粒も少量混じる。
13　黒褐色土　黒色土にローム・焼土・粘土を含む。
14　赤褐色土　焼成粘土・ロームを多量に含み、粘土粒も少量混じる。
15　暗褐色土　黒色粒・粗い焼土粒・ローム微粒・粘土粒の混合。
16　ローム
17　褐色土　ロームを主体とする。
18　黒褐色土　ロームブロックとの混合。



ph.1　出土状況

Fig.289　竪穴0868号(1) 遺構・調査状況

竪穴 0868 号



竪穴 0869 号

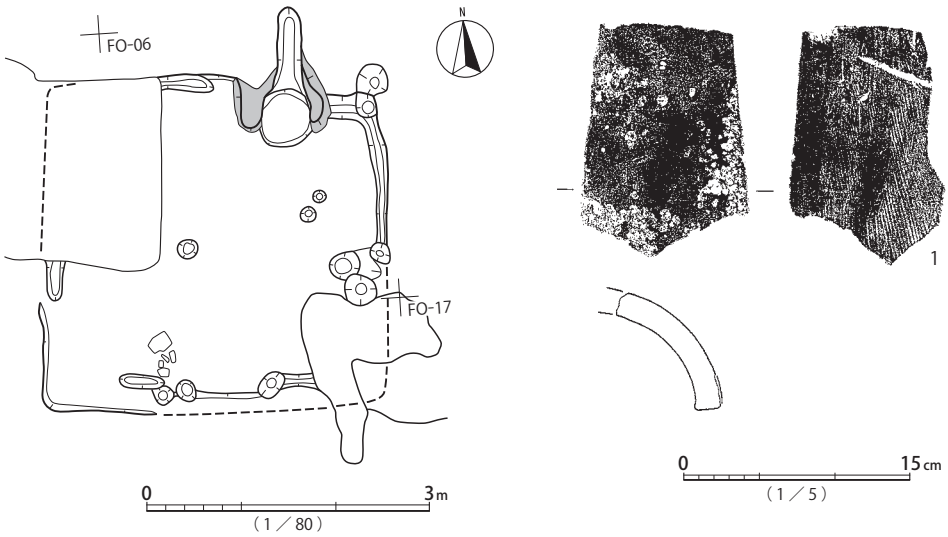


Fig.290　竪穴0868号(2) 遺物、竪穴0869号 遺構遺物

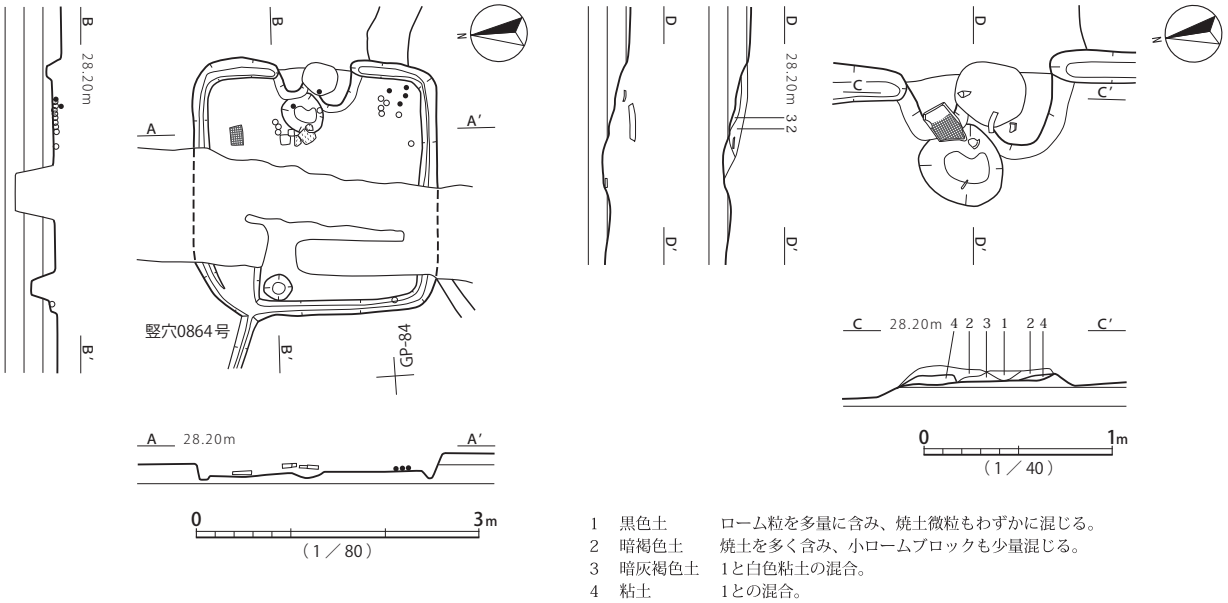
カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0904 号　（Fig.295）〔僧Ⅰ第 641・642 図〕

東南部FP−58を中心に位置する。方形周溝0903号、区画溝2111号と重複する。新旧関係は、本遺構の方が溝2111号よりも古いが、0903号との関係は、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

平面形態は不整方形を呈し、規模は4.00×3.90m、確認面からの深さは0.12mを測る。主軸方位はN−10°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅴ期の所産と考えられる。

竪穴 0872 号





ph.1　出土状況



ph.2　出土状況

Fig.291　竪穴0872号 遺構・調査状況

カマド周辺と南壁際から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

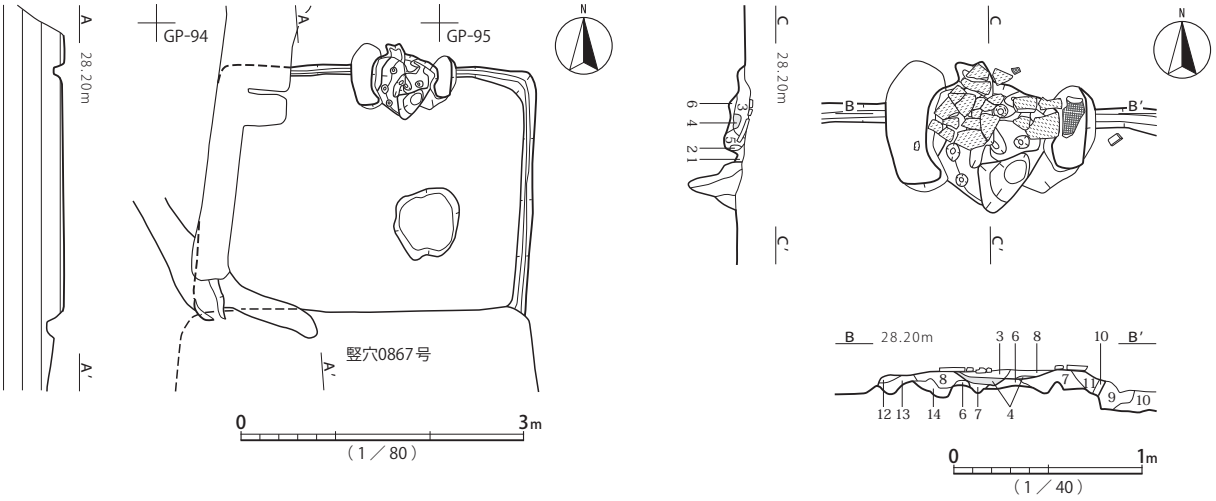
竪穴 0906 号　（Fig.295、PL.51）〔僧 I 第 651 図〕

東南部FP−71を中心に位置する。竪穴0907号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈するものと考えられる。規模は副軸長2.60m、確認面からの深さは0.18mを測る。主軸方位はN−98°−Eである。カマドは検出されていないが、東辺壁中央南側に位置したものと考えられる。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、凸面には格子叩き目が残る。

竪穴 0887 号





ph.1　出土状況

1　暗褐色土　焼土粒を含む。
2　暗褐色土　焼土粒を多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒を多く含み、焼土粒も混じる。
4　焼土　乳灰色土との混合。
5　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
6　暗褐色土　ロームを多く含む。
7　暗褐色土　ローム粒を含む。
8　暗褐色土　焼土粒・粘土粒を含む。
9　暗褐色土
10　ローム　暗褐色土との混合。
11　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を少量含む。
12　ローム　暗褐色土を少量含む。
13　暗褐色土　ロームを少量含む。
14　暗褐色土　ロームを含む。

Fig.292　竪穴0887号 遺構・調査状況

竪穴 0907 号　（Fig.296・297、PL.51・52）〔僧 I 第 651～653 図〕

東南部FO−80を中心に位置する。掘立柱建物3041号、竪穴0906号と重複する。新旧関係は、本遺構の方が3041号よりも新しいが、0906号との関係は、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は5.00×4.70m、遺構下端面積は15.2㎡、確認面からの深さは0.26mを測る。主軸方位はN−23°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−5期の所産と考えられる。

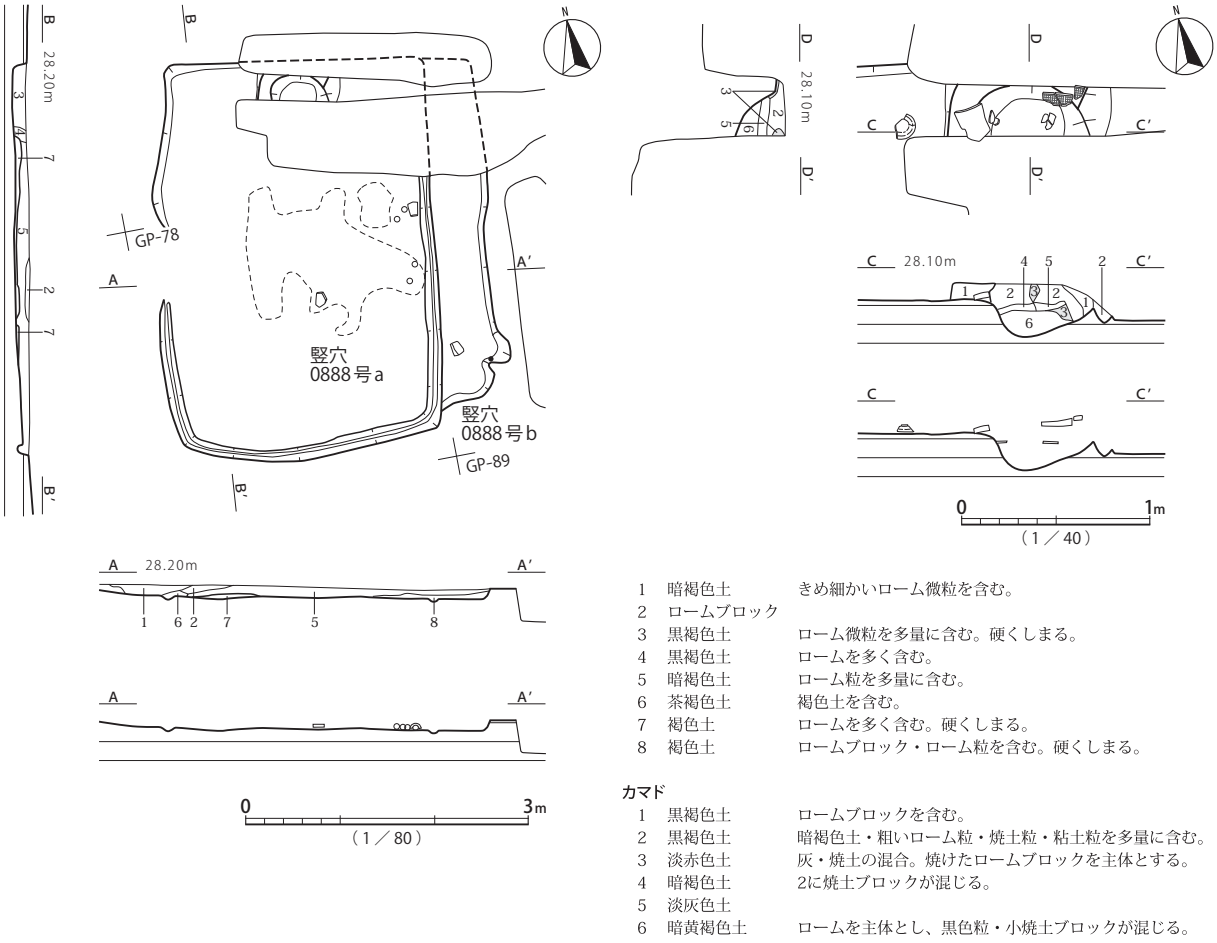
実測可能遺物は、1は文様不明の軒丸瓦、2は平瓦、3は隅切平瓦である。1は丸瓦広端面部分の破片で、補強粘土が一部残存する。2は遺構北側から検出され、床面上からの出土である。3はカマド左袖上からの出土で、広端側左隅部をやや弧状に切り欠く。

竪穴 0908 号　（Fig.298～300、PL.52）〔僧 I 第 654・655 図〕

東南部FP−91を中心に位置する。土坑1019号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.00×3.50m、遺構下端面積は8.0㎡、確認面からの深さは

竪穴 0888 号a・b



1	暗褐色土	きめ細かいローム微粒を含む。
2	ロームブロック	
3	黒褐色土	ローム微粒を多量に含む。硬くしまる。
4	黒褐色土	ロームを多く含む。
5	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
6	茶褐色土	褐色土を含む。
7	褐色土	ロームを多く含む。硬くしまる。
8	褐色土	ロームブロック・ローム粒を含む。硬くしまる。

カマド

1	黒褐色土	ロームブロックを含む。
2	黒褐色土	暗褐色土・粗いローム粒・焼土粒・粘土粒を多量に含む。
3	淡赤色土	灰・焼土の混合。焼けたロームブロックを主体とする。
4	暗褐色土	2に焼土ブロックが混じる。
5	淡灰色土	
6	暗黄褐色土	ロームを主体とし、黒色粒・小焼土ブロックが混じる。

Fig.293　竪穴0888号a・b 遺構

0.16mを測る。主軸方位はN−106°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅶ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2は玉縁式の丸瓦、3・4は行基葺式の丸瓦、5は平瓦である。5の凸面には縄叩き目が残り、規則的に表れる深く刻まれた条が特徴的である。3以外は全て遺構北東隅からの出土で、多量に出土した杯類とともに検出されている。

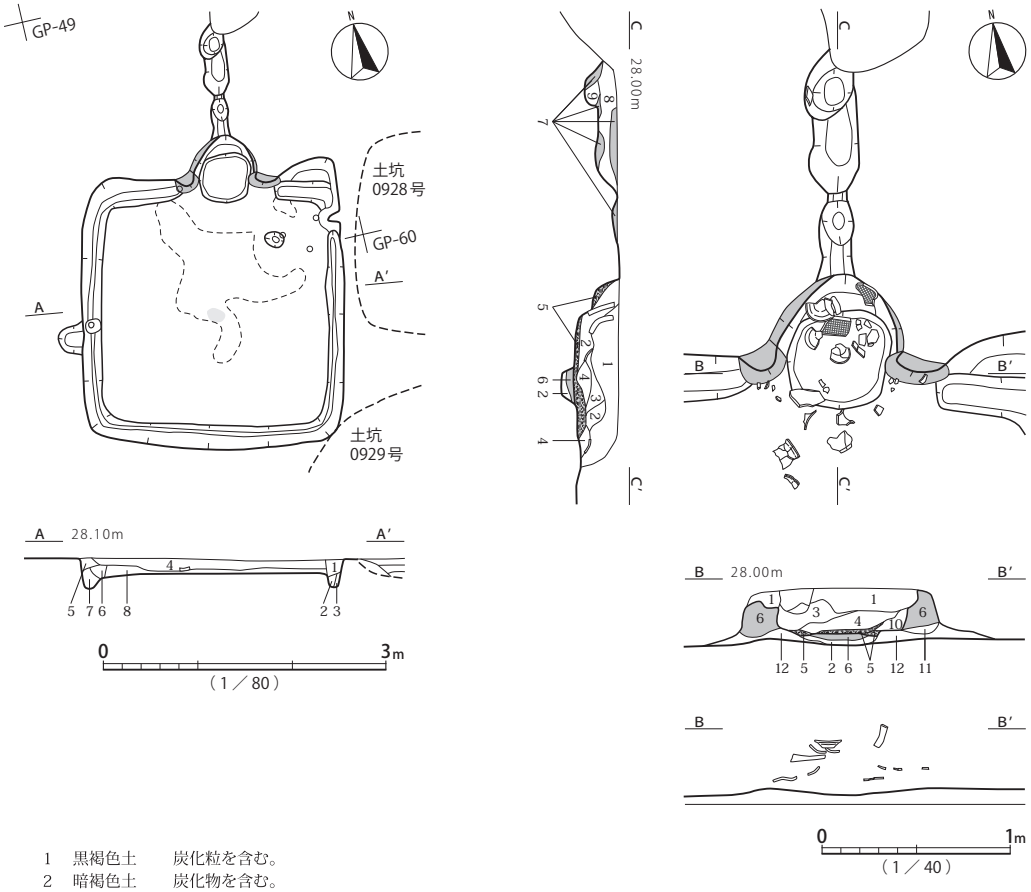
竪穴 0914 号　（Fig.301）〔僧Ⅰ第 660・661 図〕

東南部FQ−12を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.98×2.94m、遺構下端面積は6.7㎡、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−9°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅶ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の行基葺式の丸瓦のみで、カマド内からの出土である。側面の欠損は円形を呈し、人為的に行われた可能性もあるが、明確でない。なお、カマド両袖部内壁には、平瓦が構築材として利用されているが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0889 号



1　黒褐色土　炭化粒を含む。
2　暗褐色土　炭化物を含む。
3　ローム
4　暗褐色土　ロームブロック・焼土粒を含む。
5　褐色土
6　黒褐色土　ローム粒を含む。
7　褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
8　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。

カマド

1　黒褐色土　黒色土中に、ローム粒を多量に含む。
2　茶褐色土　暗褐色土と焼土微粒の混合。
3　黒褐色土　黒色土中に、粘土・焼土・ローム粒を含む。
4　暗赤褐色土　焼土と暗褐色土の混合。
5　黒色土　炭化粒を主体とする。
6　淡褐色土　粘土を主体とし、暗褐色土・ローム粒も混じる。
7　淡褐色土　粘土を主体とする。
8　黒褐色土　黒色土中に、焼土・半焼成粘土・炭化微粒を含む。
9　暗黄褐色土　ソフトロームと焼土微粒の混合。
10　黒褐色土　黒色土中に、ローム粒・焼土粒を含む。
11　淡褐色土　6に小ロームブロックが混じる。
12　黄褐色土



ph.1　カマド

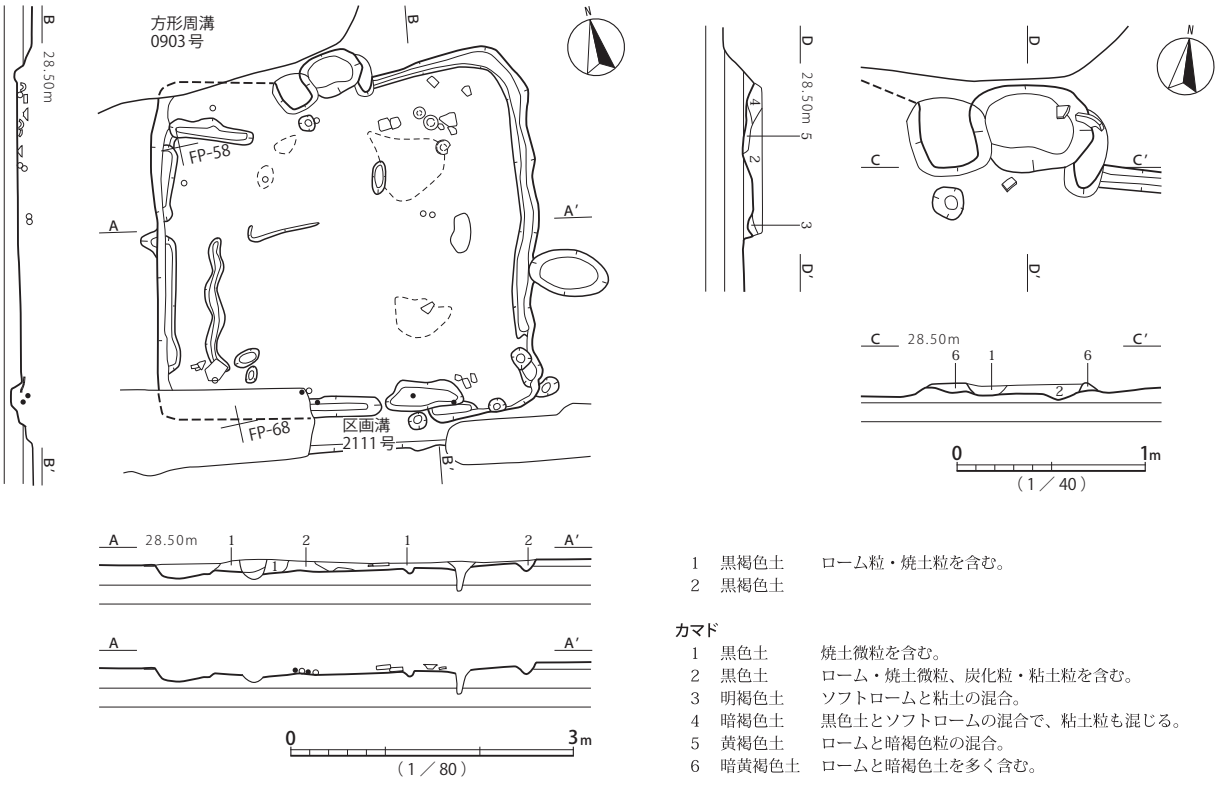
Fig.294　竪穴0889号 遺構・調査状況

竪穴 0915 号　（Fig.302）〔僧 I 第 662・663 図〕

東南部GQ−22を中心に位置する。竪穴0916号、土坑0968号、区画溝2043号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、東辺壁が検出されないことから、明確でない。規模は南北軸長3.40m、確認面からの深さは0.10mを測る。西辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−3°−Wである。明確なカマドは検出されていないが、北辺壁の掘込みがカマドの痕跡であろうか。

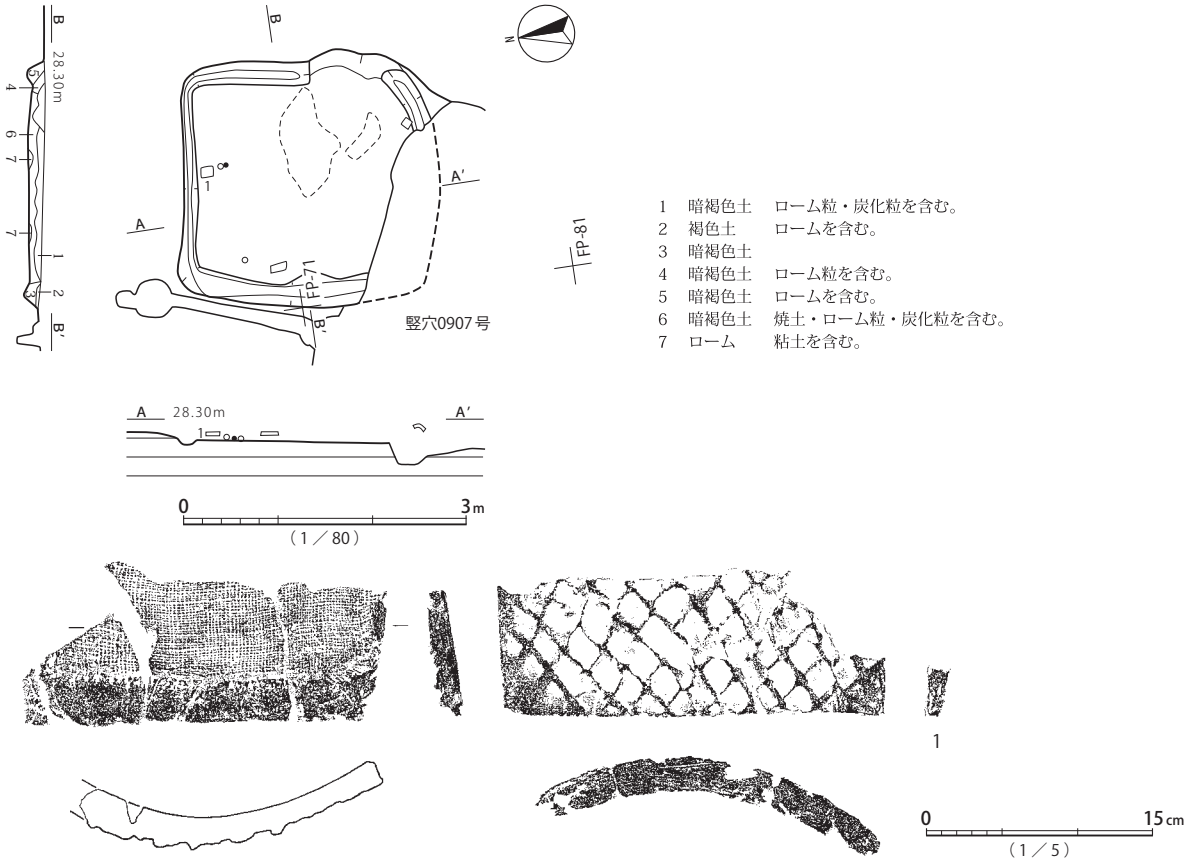
竪穴 0904 号



1　黒褐色土　　ローム粒・焼土粒を含む。
2　黒褐色土

カマド
1　黒色土　　焼土微粒を含む。
2　黒色土　　ローム・焼土微粒、炭化粒・粘土粒を含む。
3　明褐色土　ソフトロームと粘土の混合。
4　暗褐色土　黒色土とソフトロームの混合で、粘土粒も混じる。
5　黄褐色土　ロームと暗褐色粒の混合。
6　暗黄褐色土　ロームと暗褐色土を多く含む。

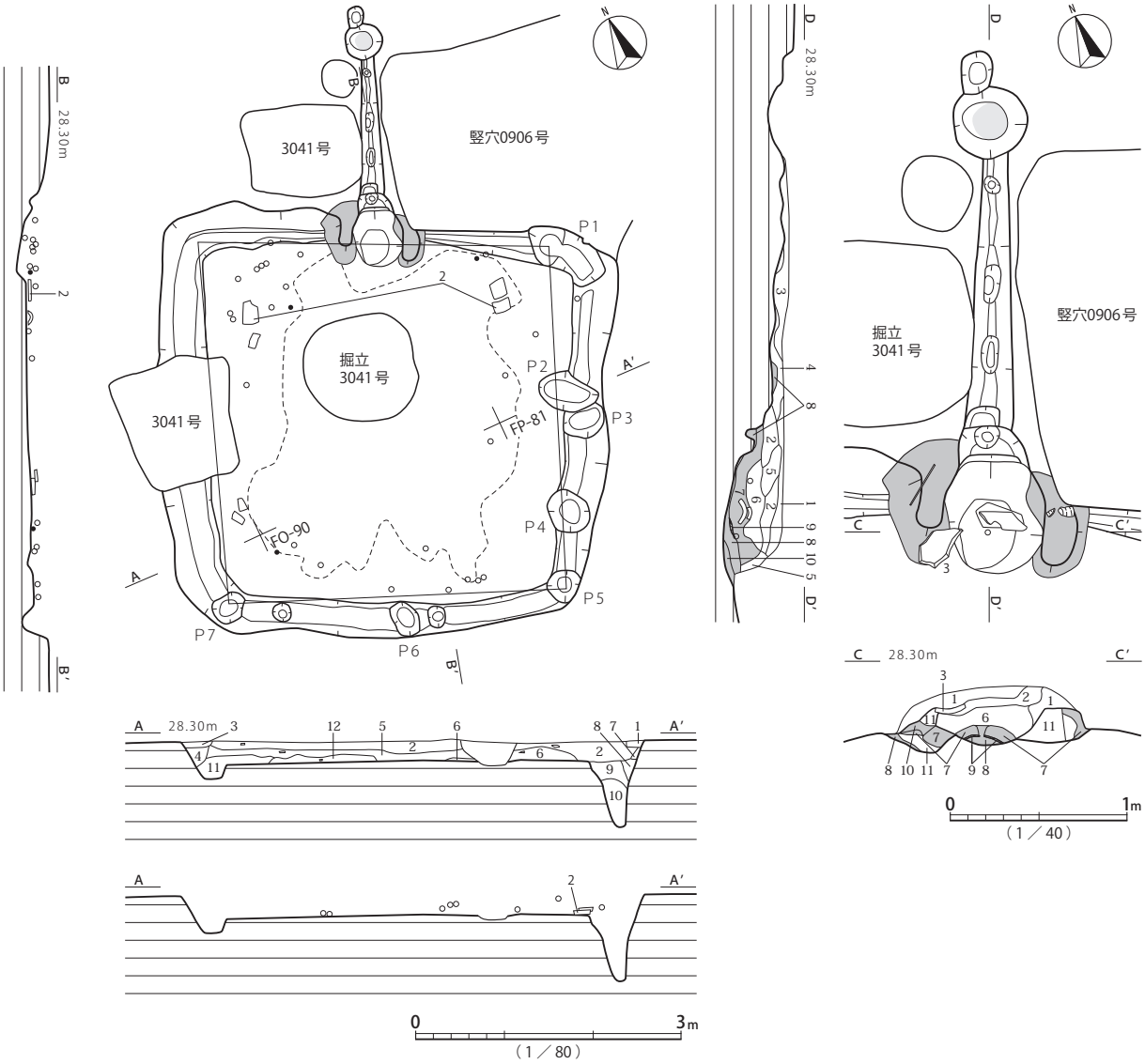
竪穴 0906 号



1　暗褐色土　ローム粒・炭化粒を含む。
2　褐色土　　ロームを含む。
3　暗褐色土
4　暗褐色土　ローム粒を含む。
5　暗褐色土　ロームを含む。
6　暗褐色土　焼土・ローム粒・炭化粒を含む。
7　ローム　　粘土を含む。

Fig.295　竪穴0904号 遺構、竪穴0906号 遺構遺物

竪穴 0907 号

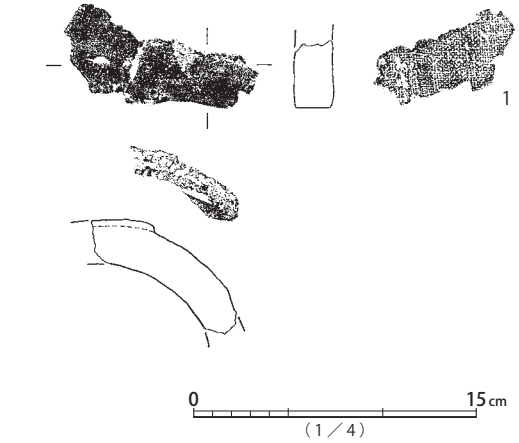


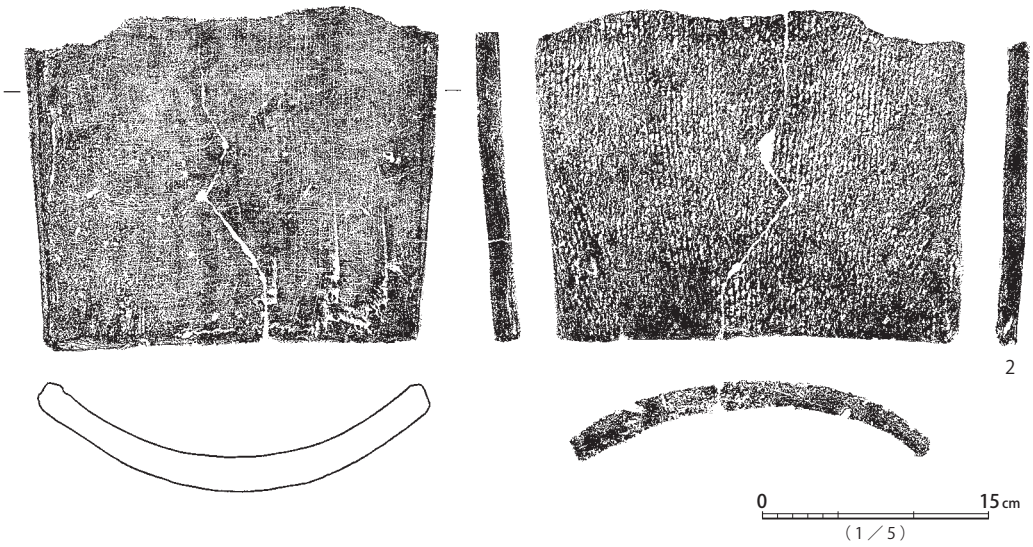
1　褐色土　ローム微粒を含む。
2　暗褐色土　ローム・焼土微粒を含む。
3　褐色土　ローム微粒を含む。
4　黒褐色土　ローム微粒をわずかに含む。
5　黒褐色土　ローム・焼土微粒を含む。
6　褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
7　暗褐色土　褐色土・ローム粒を含む。
8　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
9　黒褐色土　小ロームブロックをわずかに含む。
10　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
11　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
12　ローム　暗褐色土との混合。硬くしまる。

カマド
1　暗褐色土　粗いローム・焼土粒を含む。
2　暗褐色土　ローム・焼土微粒を含む。
3　黒色土　ローム・粘土・焼土微粒を少量含む。
4　黒褐色土　粘土を多量に含み、焼土微粒も少量混じる。
5　暗褐色土　ロームを多量に含む。
6　暗褐色土　粘土・焼土を多量に含む。
7　淡褐色土　粘土を主体とし、焼土微粒が混じる。
8　淡褐色土　白色粘土を多量に含む。
9　黒色土　炭化粒からなる。
10　淡赤褐色土　粘土を主体とし、焼土粒も多量に混じる。
11　淡灰褐色土　粘土を多く含み、炭・焼土・暗褐色土が混じる。

Fig.296　竪穴0907号(1) 遺構

竪穴 0907 号



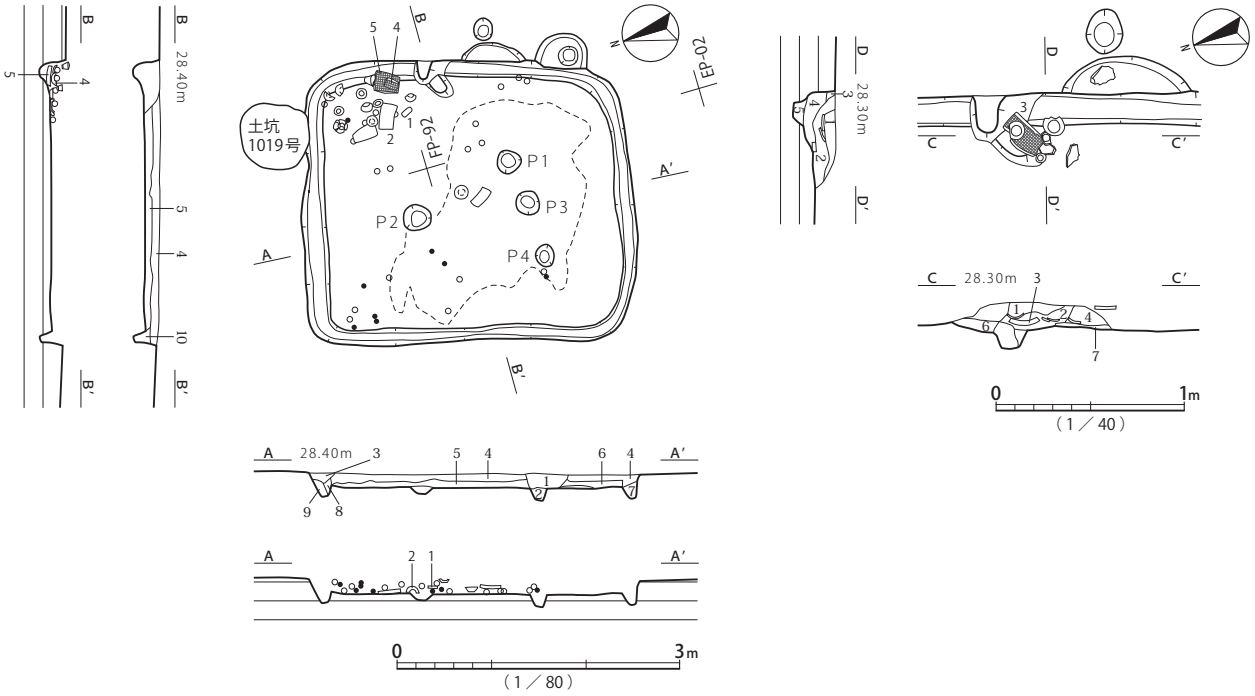


隅切瓦



Fig.297　竪穴0907号(2) 遺物

竪穴 0908号



1　黒褐色土　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　硬くしまる。
3　褐色土
4　暗褐色土　ローム微粒を含む。
5　暗褐色土　ローム粒を含む。
6　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
7　褐色土　ローム粒を含む。
8　褐色土　粘土粒を含む。
9　暗褐色土
10　褐色土　ローム粒を多量に含む。

カマド
1　黒褐色土　ローム粒を多量に含む。
2　黒褐色土　ローム粒、焼土・粘土微粒を多量に含む。
3　ロームブロック
4　暗褐色土　ローム粒、焼土・粘土微粒を多量に含む。
5　黒色土　小ロームブロックとの混合。
6　暗褐色土　小ロームブロック・粘土粒を多量に含み、ローム粒も混じる。
7　暗黄褐色土　ローム粒、焼土を多量に含み、小ロームブロックも少量混じる。



ph.1　出土状況 2・4・5



ph.2　出土状況 1・2・4・5

Fig.298　竪穴0908号(1) 遺構・調査状況

竪穴 0908 号

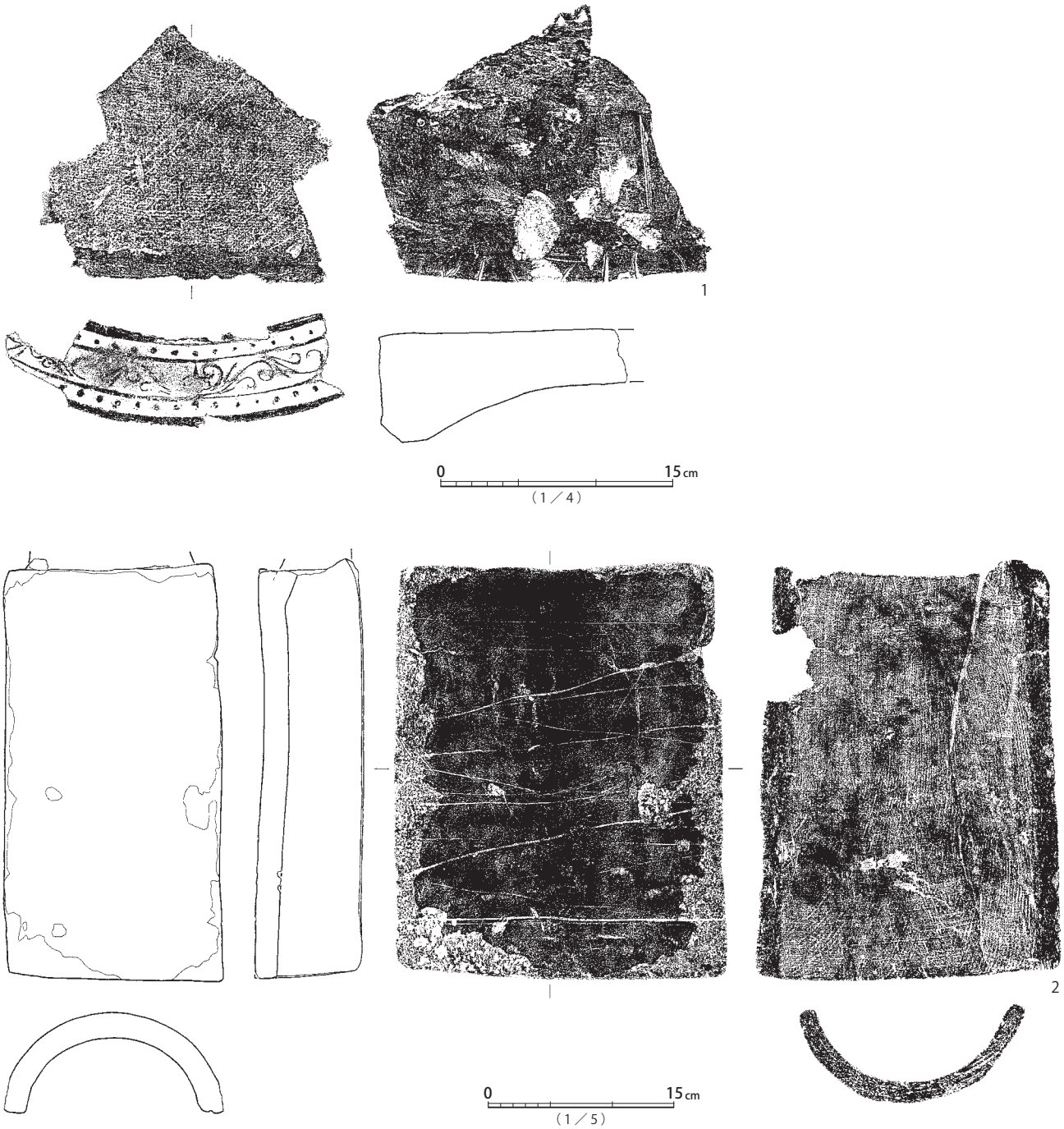
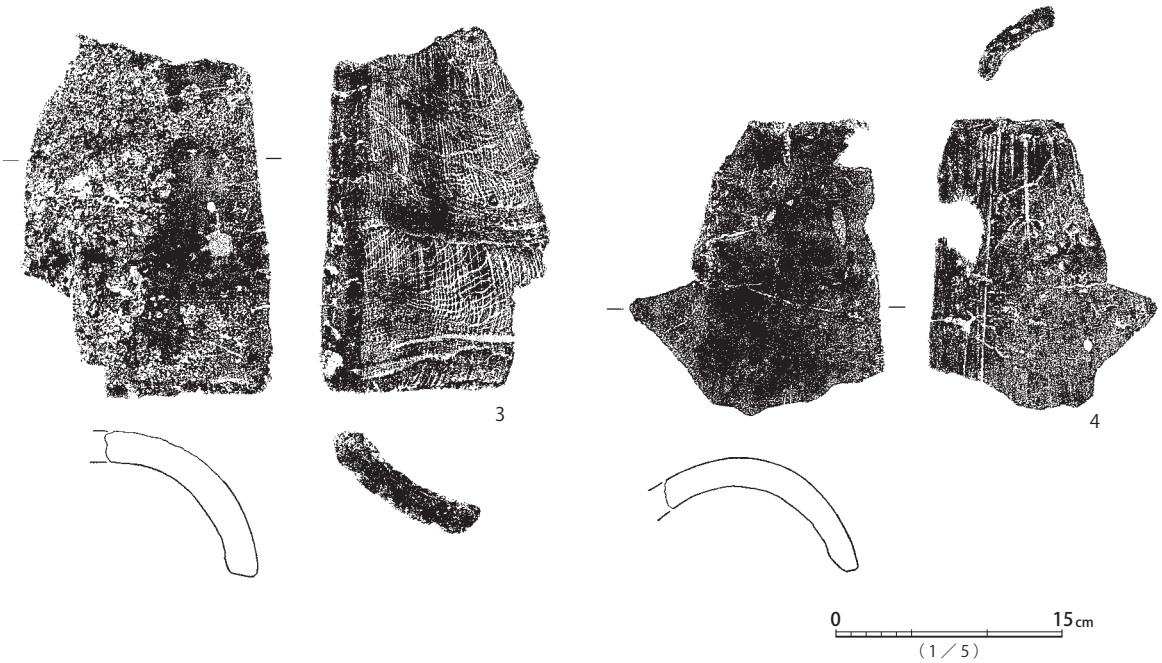


Fig.299　竪穴0908号(2) 遺物

出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

　土坑0968号との重複部から瓦片が出土しており、出土位置が床面と同レベルであることから、本遺構の帰属と考えられるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0908 号



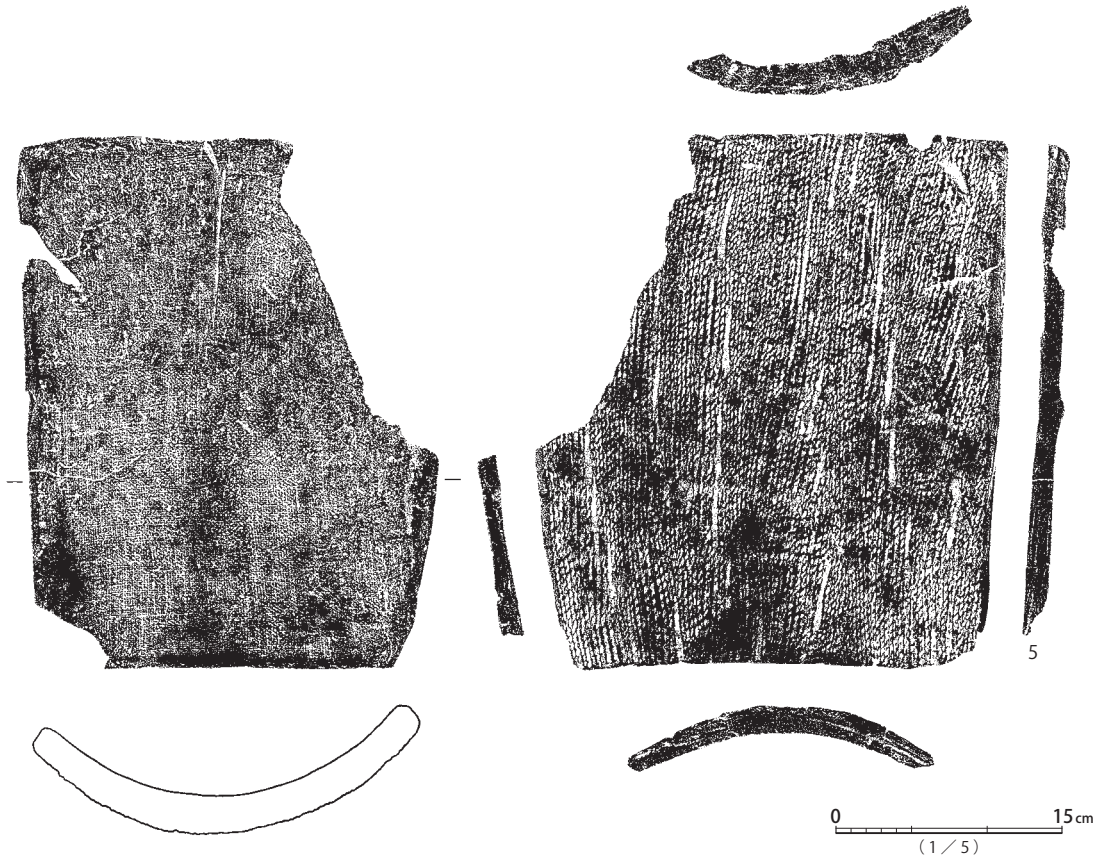


Fig.300　竪穴0908号(3) 遺物

竪穴 0916 号　（Fig.302）〔僧 I 第 662・663 図〕

東南部GQ−23を中心に位置する。竪穴0915号、区画溝2051号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.45×3.52m、遺構下端面積は9.2㎡程度、確認面からの深さは0.09mを測る。主軸方位はN−99°−Eである。カマドは東辺壁中央やや南寄りから検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

カマド周辺から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0918 号　（Fig.302）〔僧 I 第 664 図〕

東南部GQ−01を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.18×3.30m、遺構下端面積は8.9㎡、確認面からの深さは0.08mを測る。主軸方位はN−104°−Eである。カマドは東辺壁中央やや南寄りから検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

床面上から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0919 号　（Fig.303）〔僧 I 第 664・665 図〕

東南部HP−90を中心に位置する。溝2123号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は2.85×3.00m、遺構下端面積は6.7㎡、確認面からの深さは0.09mを測る。主軸方位はN−5°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−5〜V期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、南壁際からの出土である。凸面には縄叩き目の上から付けられた布目痕が部分的に認められるが、目の細かい凹面の布目痕とは別のものである。

竪穴 0921 号　（Fig.304・305、PL.52・216）〔僧 I 第 617〜619 図〕

東南部HP−95を中心に位置する。溝2123号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.20×2.50m、遺構下端面積は6.4㎡、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−92°−Eである。カマドは東辺壁中央から検出されている。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

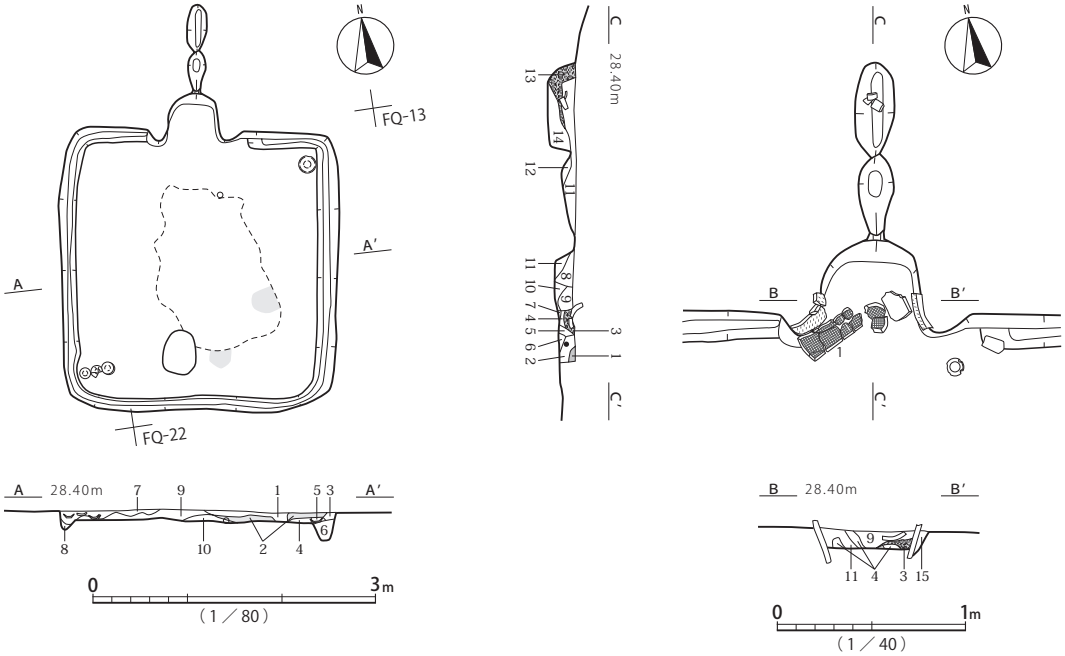
実測可能遺物は1・2の丸瓦で、いずれも行基葺式である。1の凸面には、明瞭な横方向のヘラナデ痕を残す。2はカマドからの出土で、凹面広端側にはまつり縫いによる布綴じ目痕が認められる。

竪穴 0922 号　（Fig.306）〔僧 I 第 669・670 図〕

東南部GP−07を中心に位置する。土坑0994号、土壙墓1134・1135号、区画溝2050号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、東西辺壁が検出されないことから、明確でない。規

竪穴 0914号



1　暗褐色土　焼土を含む。
2　焼土
3　暗褐色土
4　黒褐色土　粘土を多量に含む。
5　黒褐色土　ローム粒を含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを含む。
7　黒褐色土　ローム微粒を多く含む。
8　暗褐色土　ローム粒を含む。
9　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
10　暗褐色土　焼土との混合。

カマド

1　赤褐色土　焼成粘土。
2　暗赤褐色土　黒褐色土と焼土の混合。
3　黒褐色土　炭化粒を主体とし、焼土ブロックが少量混じる。
4　暗褐色土　焼土・灰・粘土粒を含む。
5　明黄褐色土　ロームブロック。
6　黒褐色土　炭化粒を主体とし、焼土・粘土・焼成粘土・炭化ブロックが混じる。
7　黄褐色土　ロームを主体とし、焼土微粒もごくわずかに混じる。
8　暗灰色土　暗褐色土と灰の混合。小焼土ブロックも多量に含む。
9　黒褐色土　粗い焼土粒、粘土微粒を多量に含む。
10　黒褐色土　小焼土ブロックを多く含む。
11　暗褐色土　焼土微粒、小粘土ブロックを少量含む。
12　暗黄褐色土　11にローム粒・小ロームブロックが混じる。
13　淡灰褐色土　灰・ローム粒・焼土粒の混合。
14　暗褐色土　黒色土とソフトロームの混合。
15　粘土　黒褐色土・暗褐色土との混合。

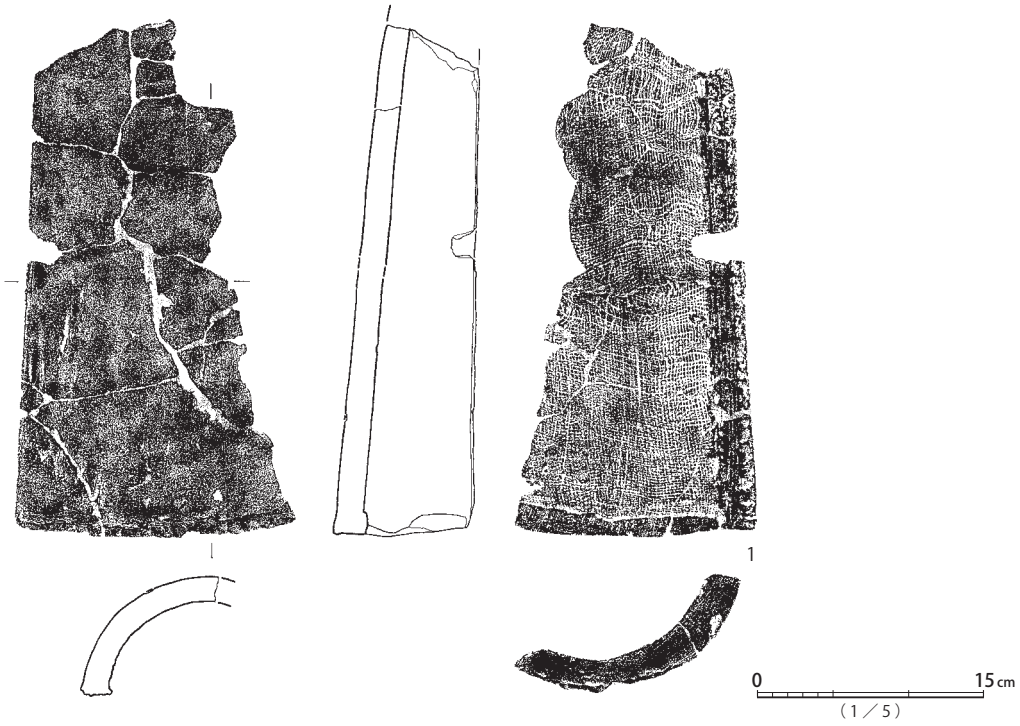
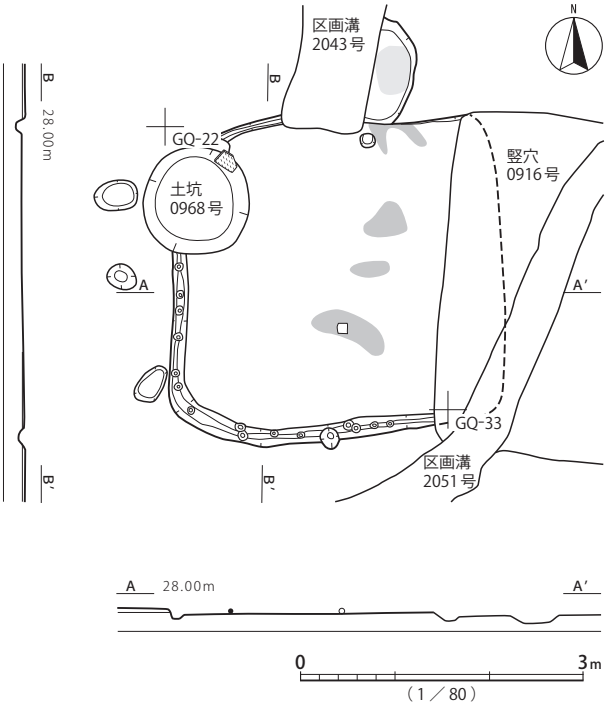
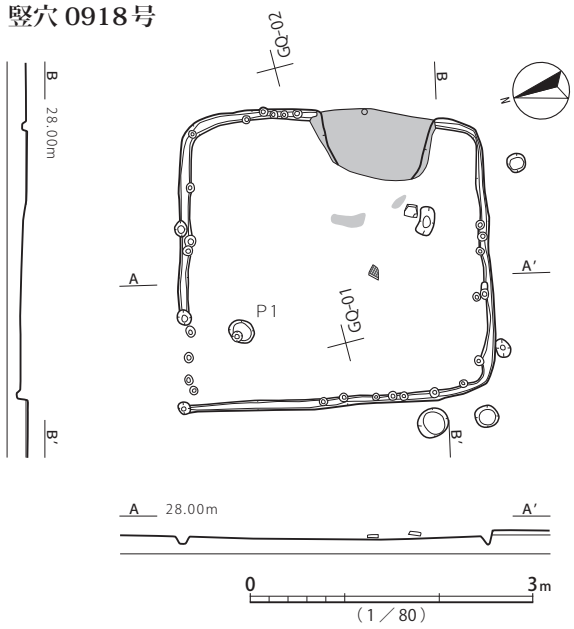


Fig.301　竪穴0914号 遺構遺物

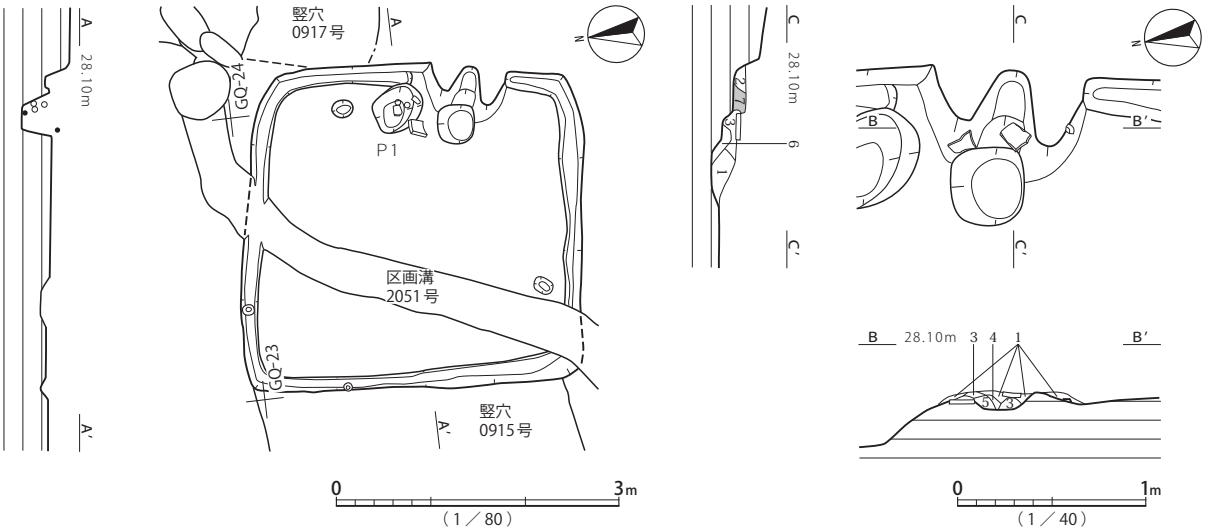
竪穴 0915号



竪穴 0918号



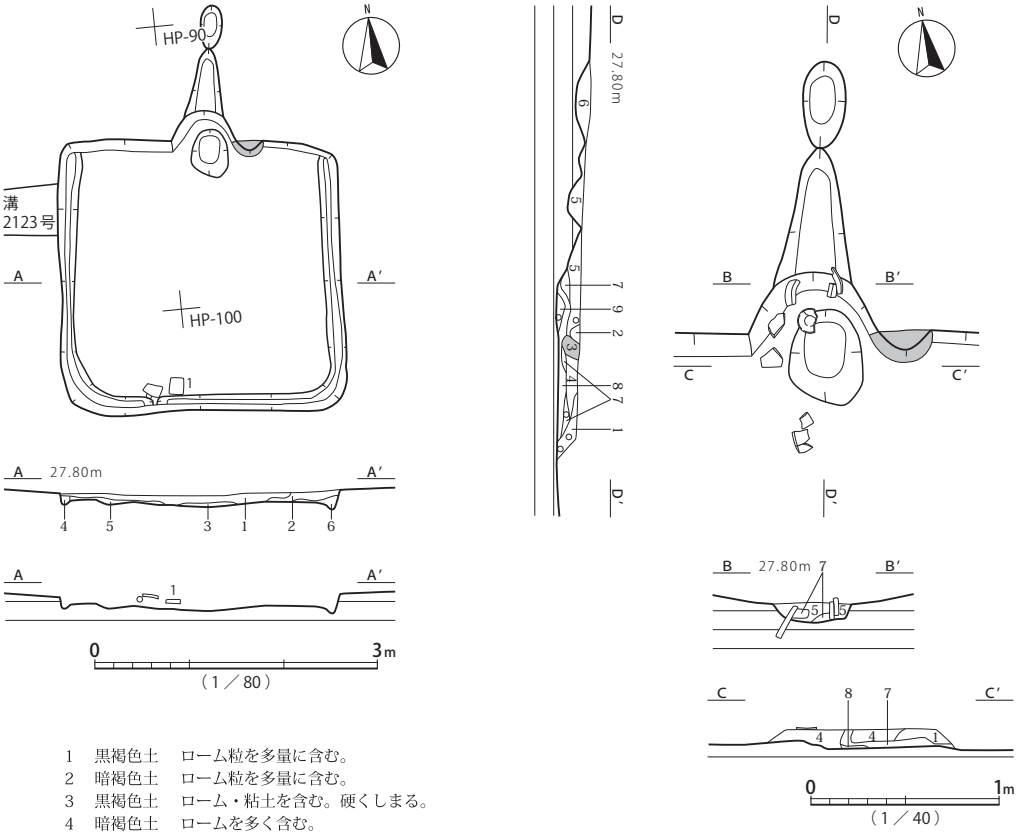
竪穴 0916号



1　黒褐色土　粘土粒・焼土微粒を少量含む。
2　黒褐色土　粘土粒を少量含む。
3　淡赤色土　被焼した粘土粒とソフトローム粒の混合。
4　褐色土　3に似るが、ソフトロームが多い。
5　暗褐色土　焼土・粘土を含む。
6　黒褐色土　炭化粒を多量に含む。
7　白色粘土

Fig.302　竪穴0915号 遺構、竪穴0916号 遺構、竪穴0918号 遺構

竪穴 0919号



1　黒褐色土　ローム粒を多量に含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。
3　黒褐色土　ローム・粘土を含む。硬くしまる。
4　暗褐色土　ロームを多く含む。
5　黒褐色土　ローム微粒を多く含む。
6　黒褐色土　ローム粒を多く含む。

カマド

1　暗褐色土　ロームブロックを含む。
2　黒色土　ローム粒をわずかに含む。
3　粘土　粘土ブロック。
4　暗褐色土　小焼土ブロック・小粘土ブロックを多量に含む。
5　暗褐色土　小焼土ブロックを多量に含む。
6　黒褐色土　焼土粒を多量に含む。
7　黒褐色土　焼土微粒・粘土微粒を多量に含む。
8　黒褐色土　焼土微粒を多量に含み、炭化粒・ローム粒も少量混じる。
9　暗赤褐色土　焼土微粒・ローム粒を多量に含む。

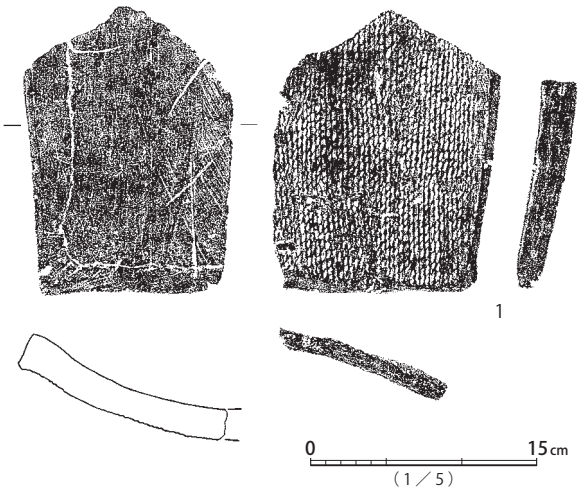
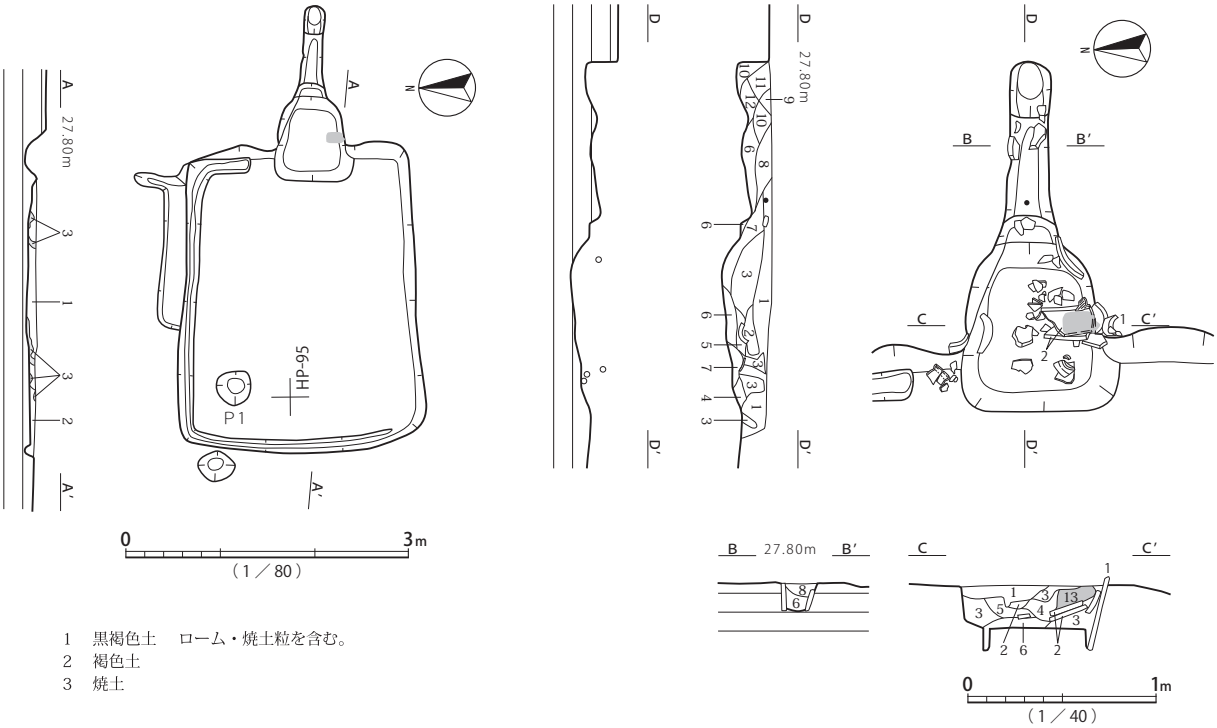


Fig.303　竪穴0919号 遺構遺物

竪穴 0921 号



1　黒褐色土　ローム・焼土粒を含む。
2　褐色土
3　焼土



ph.1　カマド 1・2

カマド

1	黒色土	
2	暗灰色土	粘土と黒褐色土の混合。
3	黒褐色土	ローム粒・ロームブロックを含む。
4	黒褐色土	ローム粒・粘土粒・焼土微粒・炭化粒を含む。
5	淡赤褐色土	焼土・粘土・灰の混合で、ローム粒も含む。
6	淡褐色土	淡赤褐色土とソフトロームの混合。
7	黒色土	しまりなし。
8	暗褐色土	粘土粒を多く含み、ソフトローム、大小焼土粒が混じる。
9	ロームブロック	
10	茶褐色土	黒色粒、粗い粘土粒、小粘土ブロックを多量に含む。
11	暗褐色土	炭・ソフトローム・粘土粒を含む。
12	黒褐色土	茶褐色土に黒色粒が多量に混じる。
13	粘土ブロック	

Fig.304　竪穴0921号(1) 遺構・調査状況

模は主軸長2.85m、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−22°−Eである。カマドは北東隅から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0924 号　（Fig.307）〔僧 I 第 671 図〕

東南部GQ−55を中心に位置する。竪穴1713号、区画溝2044号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.85×3.90m、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−1°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

遺構北西隅部を中心に瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0921 号

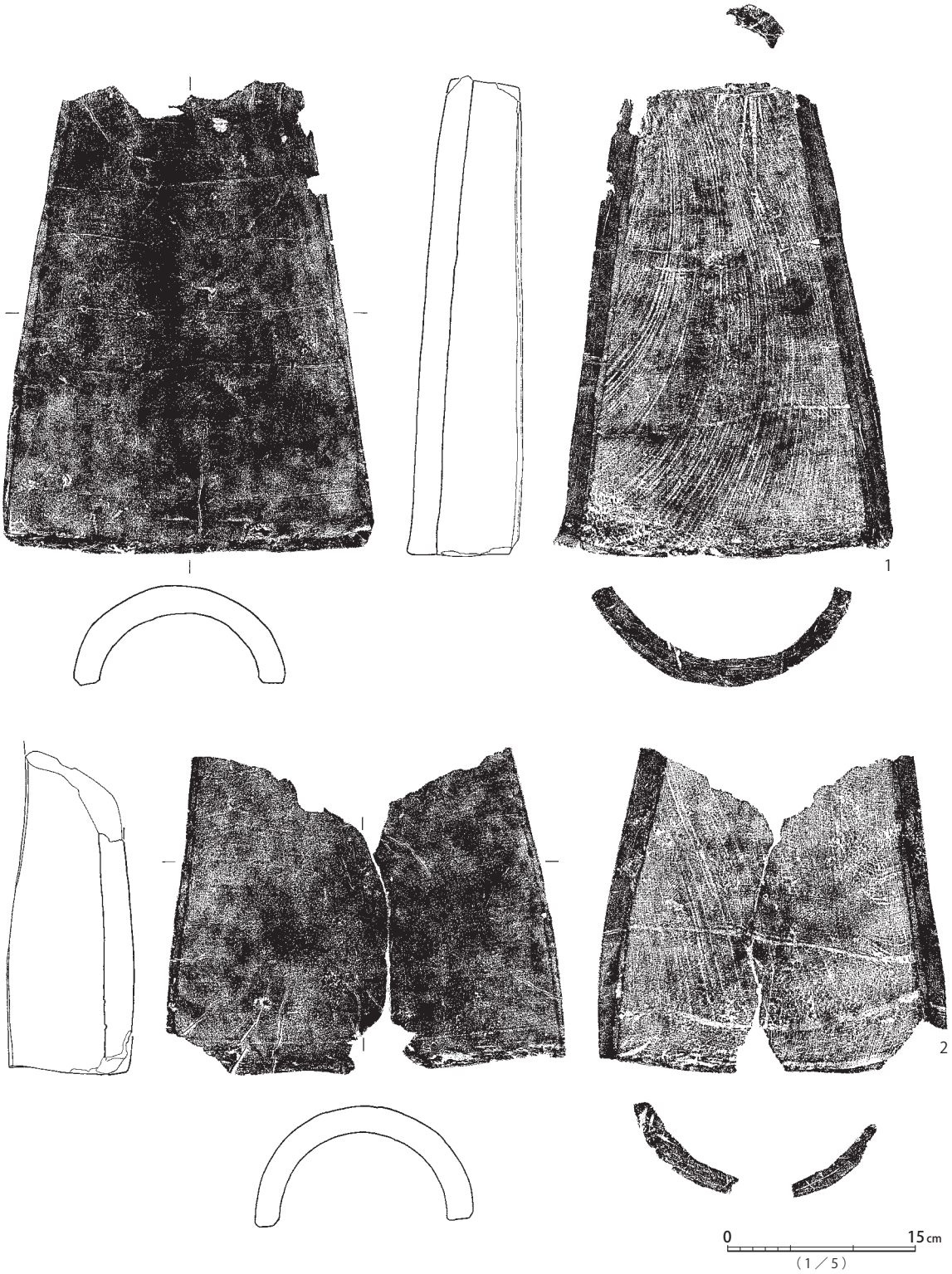
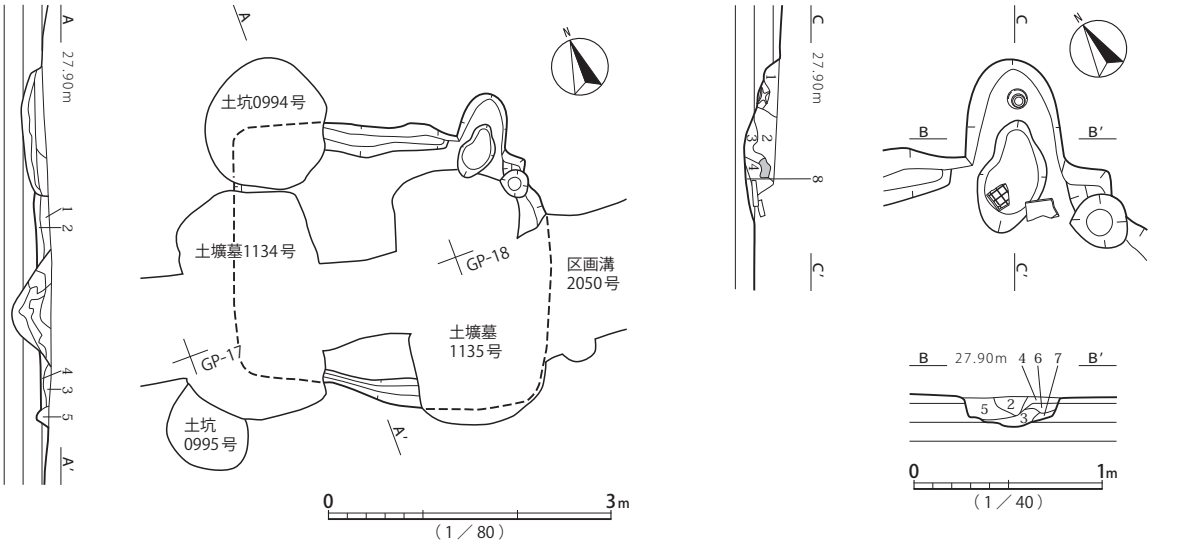


Fig.305　竪穴0921号(2) 遺物

竪穴 0922 号



1　暗褐色土　ローム粒・炭化粒を多く含む。
2　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
3　黒褐色土　ローム粒を含む。
4　黒褐色土
5　暗褐色土　ローム粒を含む。

カマド
1　黒褐色土　小焼土ブロックを含む。
2　黒色土　小焼土ブロックを含む。
3　黒色土　ローム粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒を多量に含み、焼土粒・粘土粒も混じる。
5　黒褐色土　焼土粒・粘土粒を含む。
6　暗赤色土　焼土粒と黒褐色土の混合。
7　暗褐色土　被熱したローム。
8　暗褐色土　ロームブロックとの混合。



ph.1　カマド

Fig.306　竪穴0922号 遺構・調査状況

竪穴 0925 号　（Fig.307）〔僧 I 第 671 図〕

東南部GQ−64を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長方形を呈するが、遺構南側を中心に撹乱により壊される。規模は3.96×4.86m、確認面からの深さは0.20mを測る。北辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−91°−Eである。カマドは検出されていないが、東辺壁側に位置したものと考えられる。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

床面上から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0926 号　（Fig.307）〔僧 I 第 672 図〕

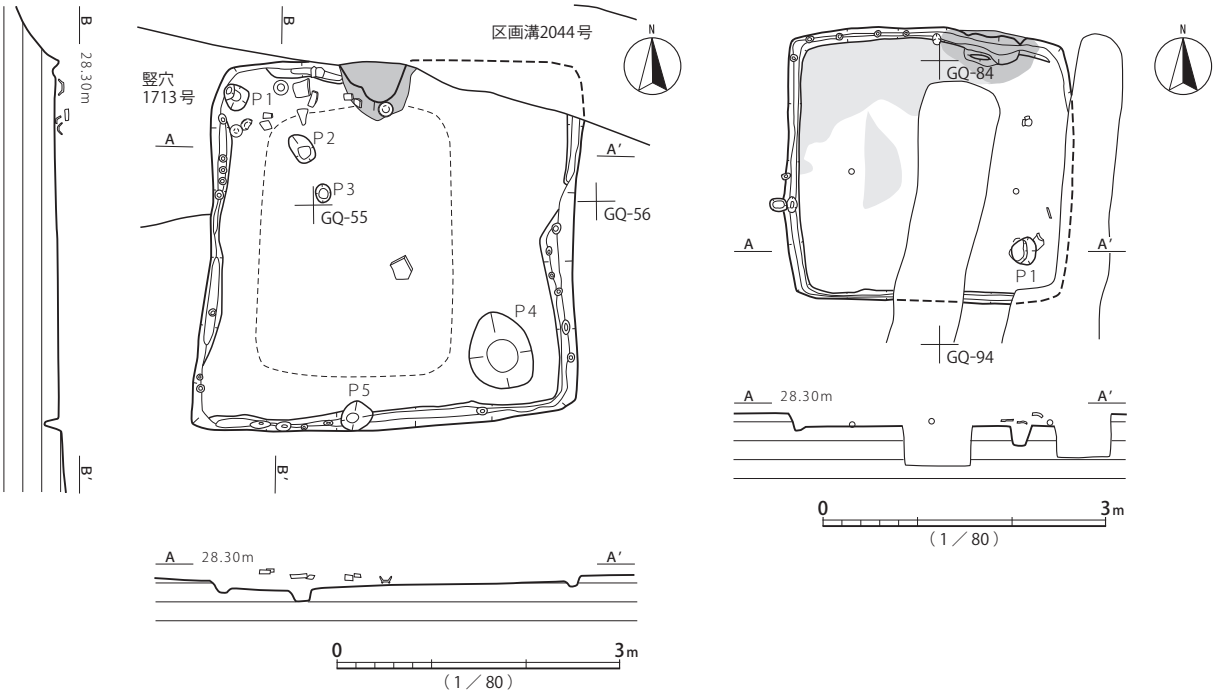
東南部GQ−84を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈するが、東辺壁は撹乱により壊される。規模は副軸長2.85m、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−0°である。カマドの痕跡が、北辺壁中央東寄りから検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

覆土下層ないし床面上から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0924号

竪穴 0926号



竪穴 0925号

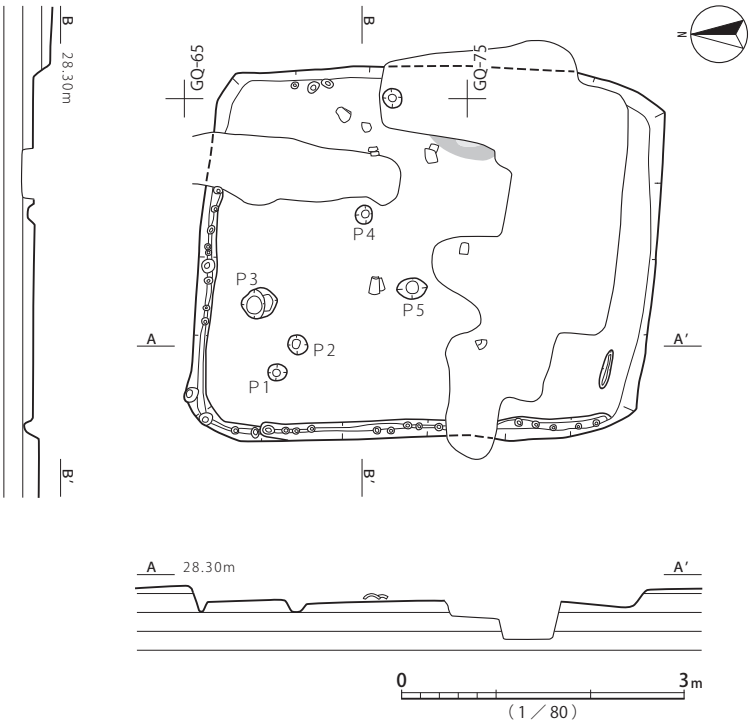


Fig.307　竪穴0924号 遺構、竪穴0925号 遺構、竪穴0926号 遺構

竪穴 0927 号　（Fig.308）〔僧 I 第 673 図〕

東南部EP−11を中心に位置する。区画溝2115号、道路2080号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、南北辺壁が検出されないことから、明確でない。規模は主軸長2.50m、確認面からの深さは0.07mを測る。主軸方位はN−95°−Eである。カマドは東辺壁から検出されており、内壁材として丸瓦が利用される。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、出土位置は明確でない。

竪穴 0932 号 a・b　（Fig.309）〔僧 I 第 674・675 図〕

東南部HQ−95を中心に位置する。溝（遺構番号なし）と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

建替え後をa、建替え前をbとしており、平面形態はいずれも方形を呈する。規模はaが5.28×5.42m、bが4.06×4.18、遺構下端面積はaが25.4㎡、bが13.6㎡、確認面からの深さはaが0.17m、bが0.18mを測る。主軸方位はaがN−94°−E、bがN−1°−Eである。カマドはaが東辺壁中央、bが北辺壁中央から検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

aのカマド内と覆土下層、bのカマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0933 号　（Fig.310）〔僧 I 第 676・677 図〕

東南部GQ−49を中心に位置する。竪穴0998号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.84×4.20m、遺構下端面積は12.7㎡、確認面からの深さは0.18mを測る。主軸方位はN−5°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

カマド左袖部から、構築材と考えられる瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

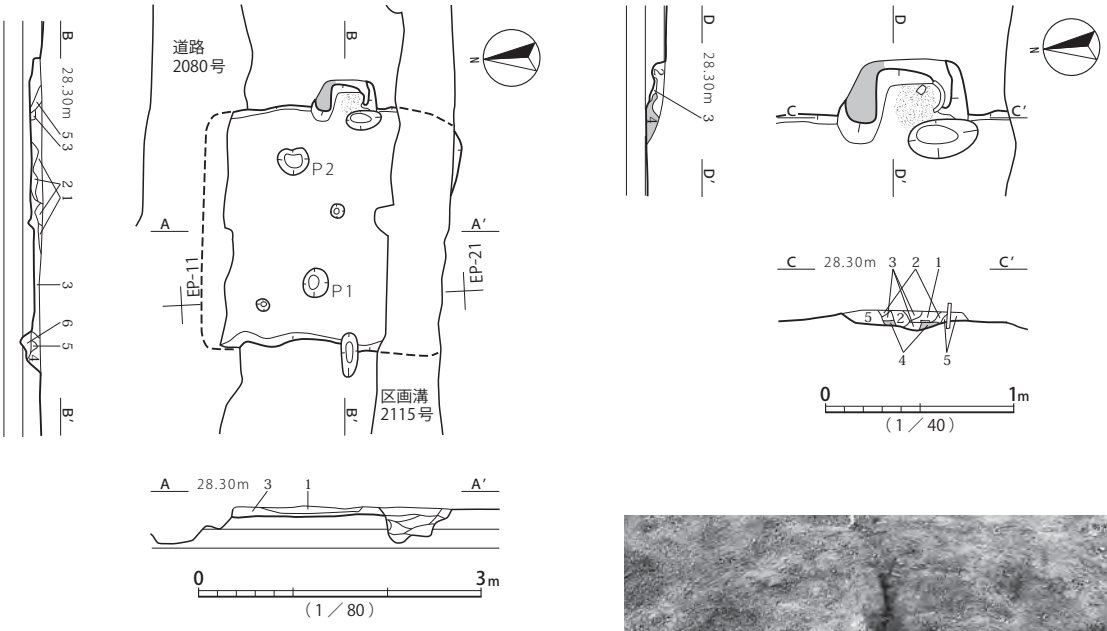
竪穴 0935 号　（Fig.310）〔僧 I 第 628・631 図〕

東南部FO−10を中心に位置する。掘立柱建物3041号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、撹乱等により遺構西側が検出されないことから、明確でない。規模は主軸長3.12m、確認面からの深さは0.10mを測る。主軸方位はN−2°−Wである。カマドは北辺壁から検出されており、ほぼ中央に位置するものと考えられる。僧寺編年VI期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

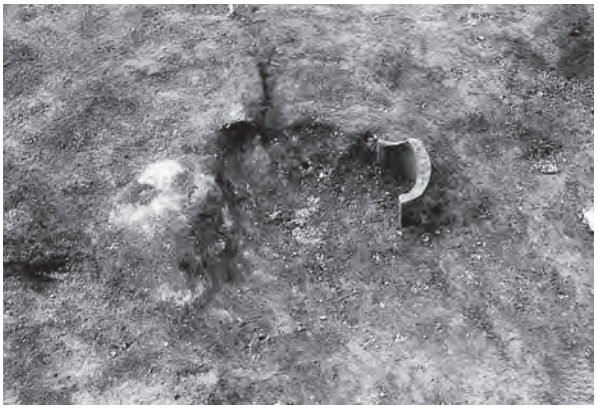
東辺壁際から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 0927号



1　黒褐色土　ローム微粒を含む。
2　褐色土　ロームを含む。
3　褐色土　ローム粒を多く含む。
4　褐色土　ソフトロームを含む。
5　ローム
6　褐色土　ローム粒を含む。

カマド
1　暗褐色土　小焼土・粘土ブロック、ローム粒を含む。しまりなし。
2　暗褐色土　1に小ロームブロックが混じる。焼土少ない。
3　淡褐色土　焼土粒とソフトロームの混合。
4　明褐色粘土　被熱した粘土。
5　黄褐色土　被熱したロームを主体とする。



ph.1　カマド

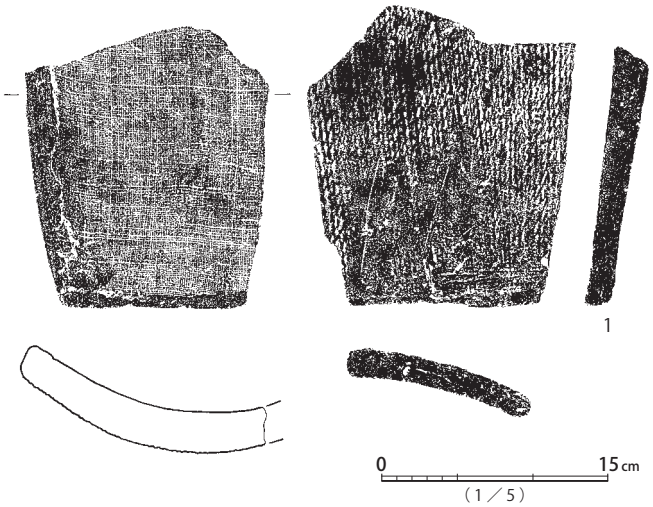
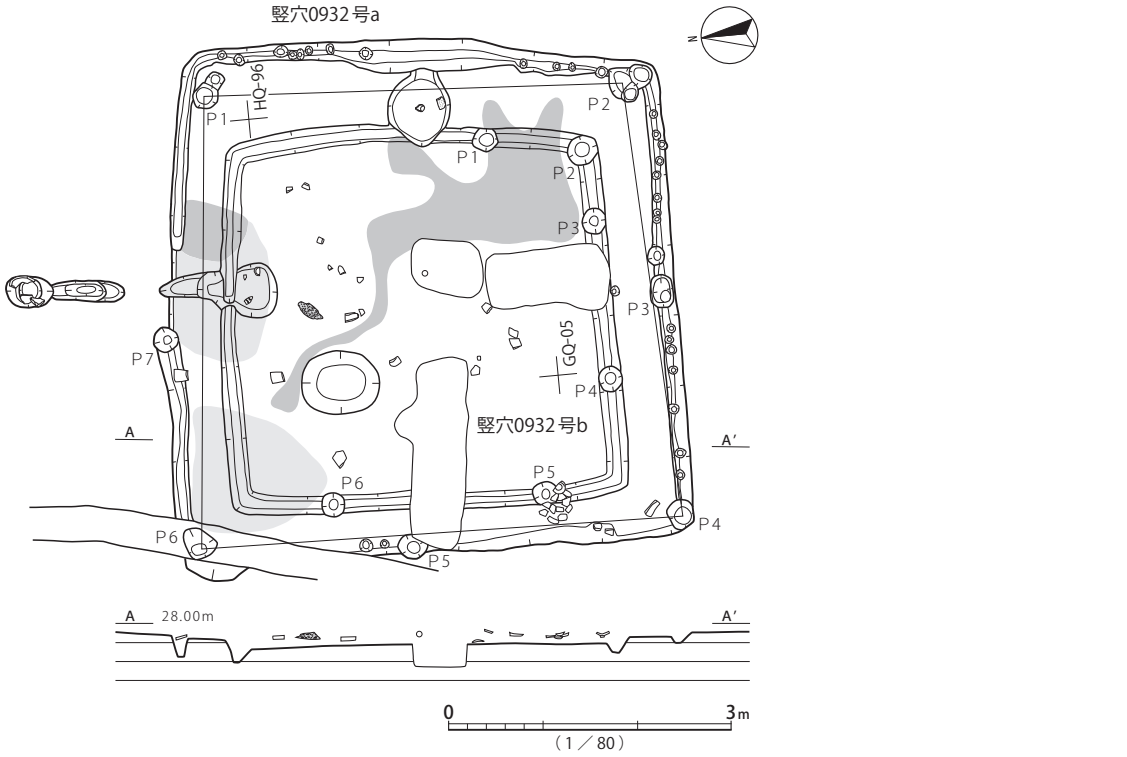
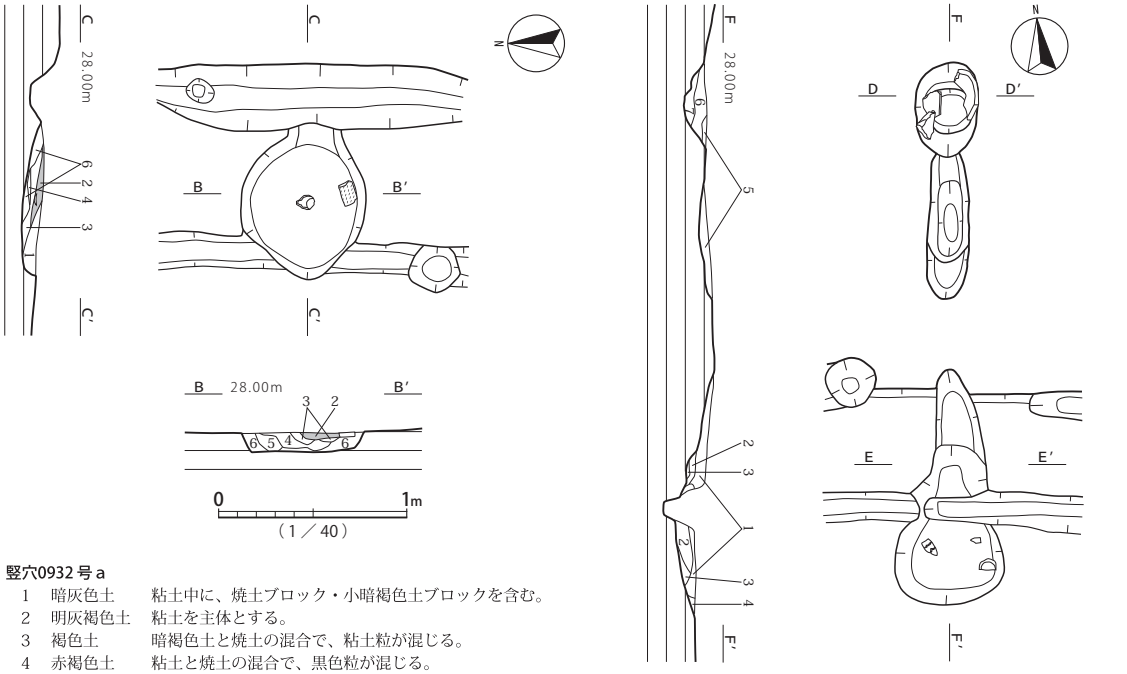


Fig.308　竪穴0927号 遺構遺物・調査状況

竪穴 0932 号a・b





竪穴0932 号 a

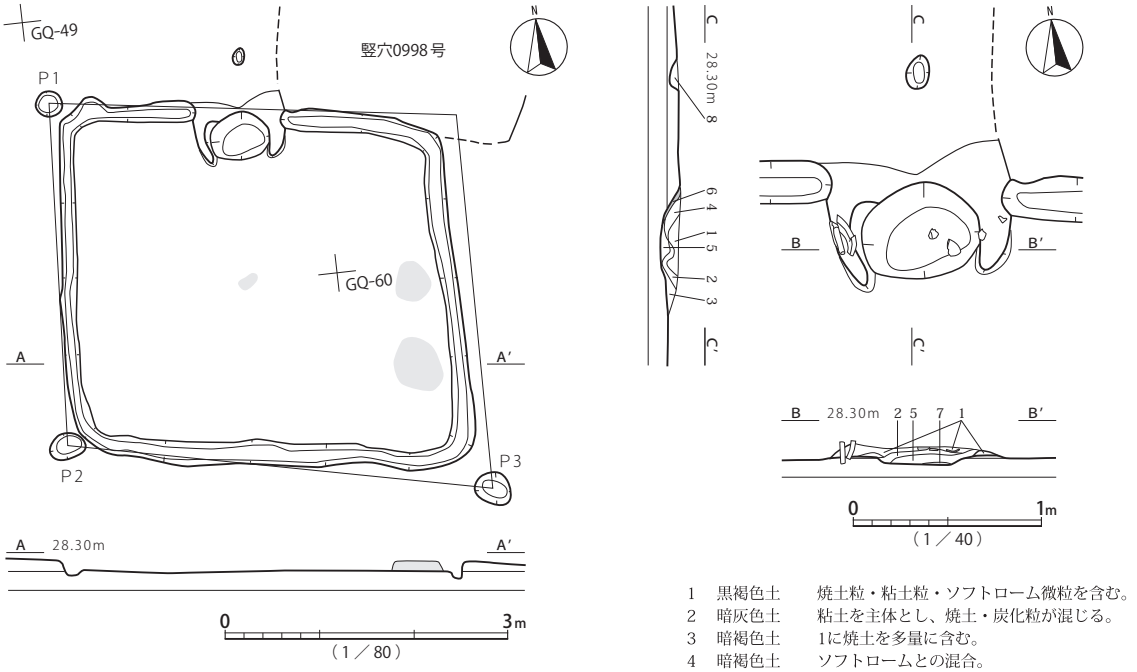
1	暗灰色土	粘土中に、焼土ブロック・小暗褐色土ブロックを含む。
2	明灰褐色土	粘土を主体とする。
3	褐色土	暗褐色土と焼土の混合で、粘土粒が混じる。
4	赤褐色土	粘土と焼土の混合で、黒色粒が混じる。
5	赤褐色土	粘土と焼土微粒の混合。
6	茶褐色土	半焼成ローム。

竪穴0932 号 b

1	暗褐色土	小焼土ブロック・焼土粒・粗い粘土粒を多量に含む。
2	黒褐色土	黒色土中に、粗い焼土粒・粘土微粒を多量に含む。
3	暗黄褐色土	暗褐色土中にロームを多く含み、焼土・黒色粒も少量混じる。
4	暗褐色土	ロームブロックを含む。
5	黒褐色土	黒色中に、粘土粒を多量に含む。
6	暗褐色土	5とロームの混合。
7	黒褐色土	6にロームブロックを含む。

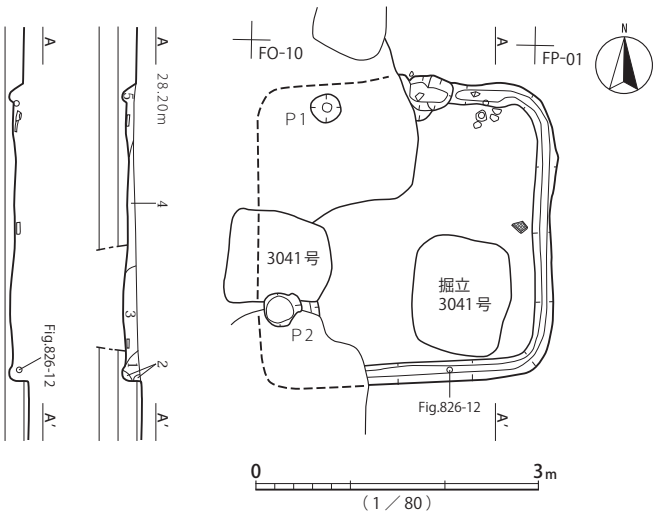
Fig.309　竪穴0932号a・b 遺構

竪穴 0933 号



1　黒褐色土　　焼土粒・粘土粒・ソフトローム微粒を含む。
2　暗灰色土　　粘土を主体とし、焼土・炭化粒が混じる。
3　暗褐色土　　1に焼土を多量に含む。
4　暗褐色土　　ソフトロームとの混合。
5　黒褐色土　　粘土・焼土微粒との混合。しまり弱い。
6　灰色粘土
7　暗赤色土　　焼土を主体とする。
8　暗黄褐色土　ソフトロームを主体とし、粘土粒が混じる。

竪穴 0935 号



1　黒褐色土　　ローム粒を含む。
2　ソフトローム
3　黒褐色土　　ロームブロック・ローム粒を含む。
4　暗褐色土　　ロームブロック・ローム粒を含む。
5　暗褐色土　　ローム粒を含む。

Fig.310　竪穴0933号 遺構、竪穴0935号 遺構

竪穴 0936 号　（Fig.311）〔僧Ⅰ第 664～666 図〕

東南部HQ−71を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.70×4.20m、遺構下端面積は12.0㎡、確認面からの深さは0.13mを測る。主軸方位はN−7°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅴ～Ⅵ期の所産と思われる。

実測可能遺物は1の丸瓦のみで、凹面にはごく細かい布目痕が残る。遺構北東隅部から検出され、床面上からの出土である。

竪穴 0940 号　（Fig.311・312、PL.53）〔僧Ⅰ第 679・680 図〕

東南部FQ−39を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈し、規模は3.50×3.50m、遺構下端面積は9.4㎡、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−10°−Eである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年Ⅵ期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は、1は行基葺式の丸瓦、2は平瓦である。1の凹面には大きく崩れた布目痕と横方向の布合わせ目痕が残る。いずれもカマド内から検出され、1は煙道部、2は左袖部内壁からの出土である。

竪穴 0941 号　（Fig.313、PL.53）〔僧Ⅰ第 679・681・682 図〕

東南部FQ−59を中心に位置する。寺院地外郭溝2045号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は長方形を呈し、規模は4.90×3.90m、遺構下端面積は14.7㎡、確認面からの深さは0.19mを測る。主軸方位はN−14°−Eである。カマドは北辺壁中央やや西寄りから検出されている。僧寺編年Ⅴ期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の行基葺式の丸瓦のみで、出土位置は明確でない。なお、本遺構からは鋤先や紡錘車など、生産活動に関わる鉄製品が出土している。

竪穴 1036 号　（Fig.314）〔僧Ⅰ第 690・691 図〕

東南部KR−92を中心に位置する。竪穴1037号、区画溝2044号と重複し、本遺構の方が1037号よりも新しく、2044号よりも古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、遺構東側が検出されないことから、明確でない。規模は主軸長3.50m、確認面からの深さは0.18mを測る。主軸方位はN−7°−Eである。カマドは北辺壁に位置し、ほぼ中央に位置するものと考えられる。僧寺編年Ⅳ−5期の所産と考えられる。

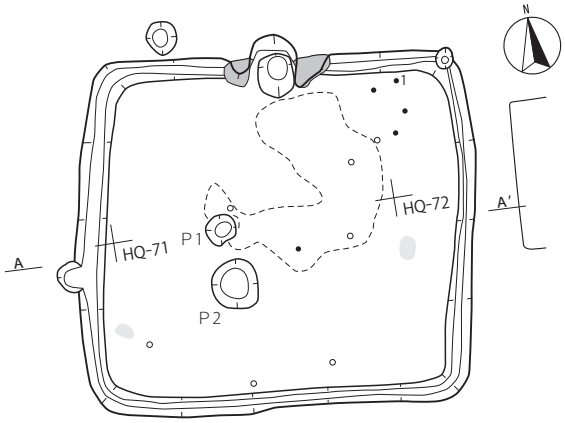
カマド付近を中心に、床面上から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

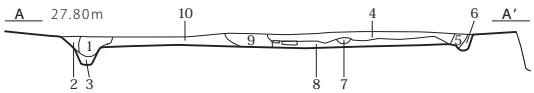
竪穴 1057 号　（Fig.315）〔僧Ⅰ第 699・700 図〕

東南部JR−66を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長方形を呈し、規模は4.46×5.40m、遺構下端面積は18.6㎡、確認面からの深さは0.44mを測る。主軸方位はN−1°−Eである。カマドは北辺壁中央やや西寄りから検出されている。

竪穴 0936号

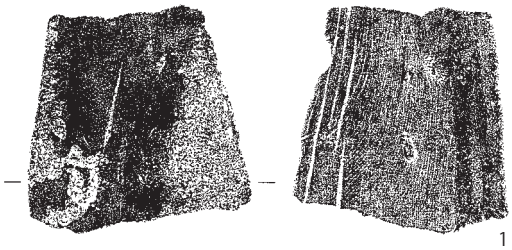


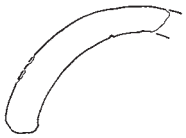




0 3m
（1／80）

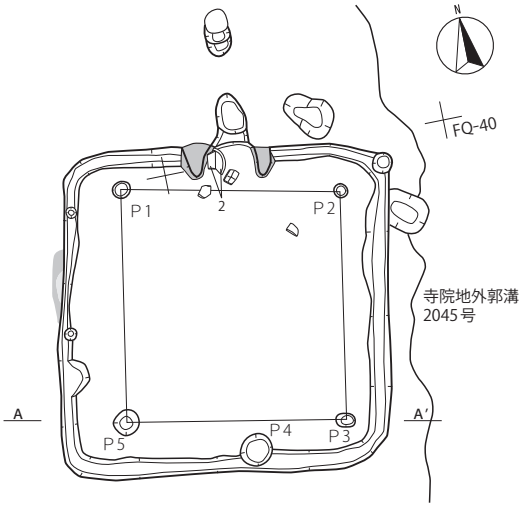
1	黒褐色土	ローム微粒をわずかに含む。
2	暗褐色土	ロームを含む。
3	暗褐色土	ローム粒を含む。
4	黒褐色土	ローム粒を含む。
5	黒褐色土	ローム粒をわずかに含む。
6	褐色土	ローム粒を多く含む。
7	ロームブロック	壁土。
8	黒褐色土	ローム・ローム粒・焼土粒を含む。
9	黒褐色土	ローム微粒・焼土微粒を含む。
10	黒褐色土	ローム・焼土粒を含む。

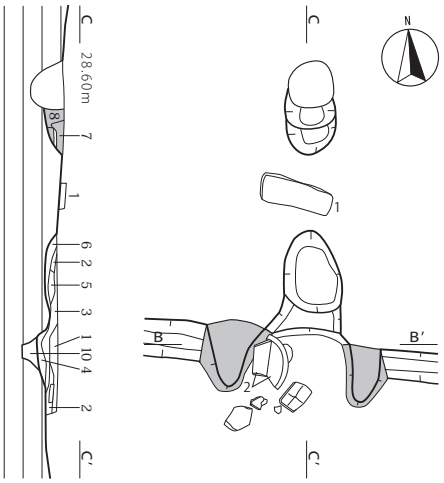


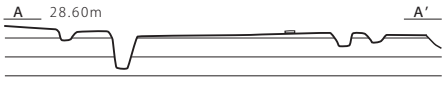


0 15cm
（1／5）

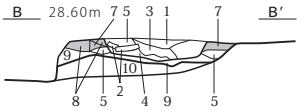
竪穴 0940号

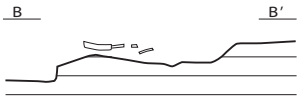






0 3m
（1／80）





0 1m
（1／40）

1	暗褐色土	黒褐色土・焼土・粘土微粒・ローム粒の混合。
2	暗赤褐色土	1に似る。焼土を多量に含む。
3	暗褐色土	ローム粒を含み、焼土・粘土微粒も少量混じる。
4	暗褐色土	焼土微粒を多量に含み、粘土・炭も少量混じる。
5	淡赤褐色土	粘土粒と焼土微粒の混合。
6	黄褐色土	ソフトローム中に、粘土・焼土が少量混じる。
7	乳白色粘土	ソフトロームが混じる。
8	乳白色粘土	
9	黄褐色土	ソフトロームを主体とする。
10	暗褐色土	ロームブロックを含む。周溝埋土。

Fig.311　竪穴0936号 遺構遺物、竪穴0940号(1) 遺構

竪穴 0940 号

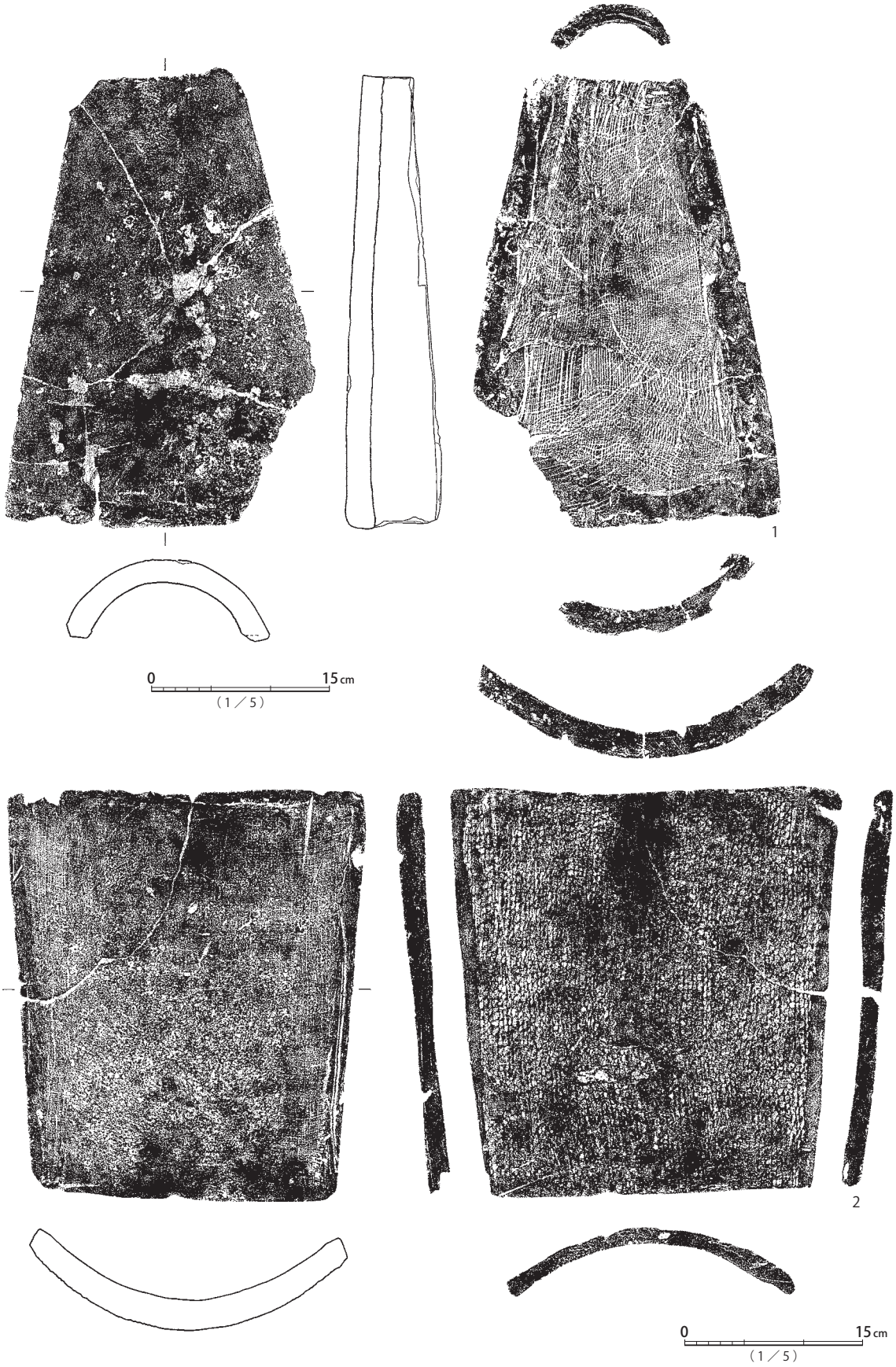


Fig.312　竪穴0940号(2) 遺物

竪穴 0941 号

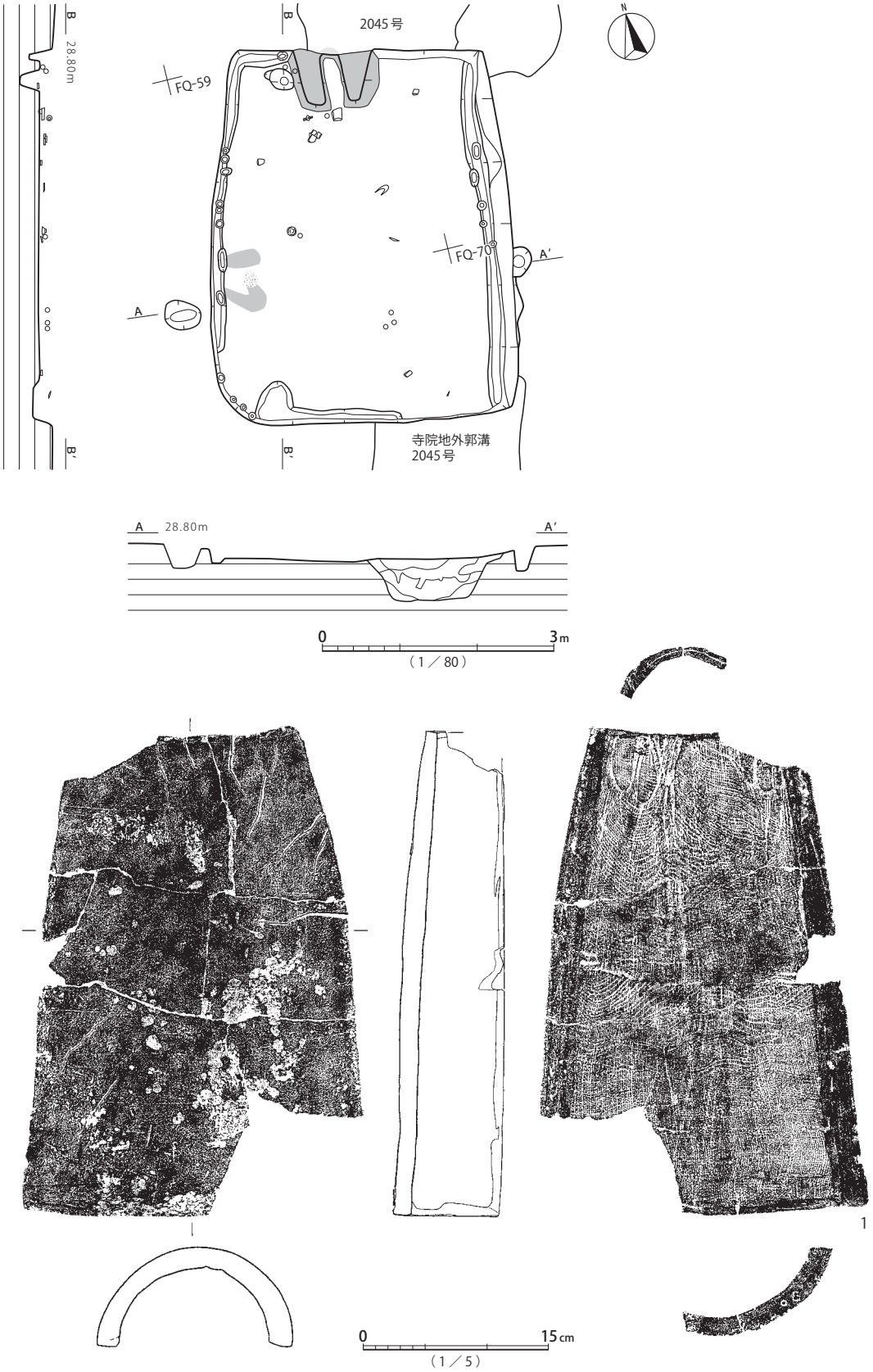
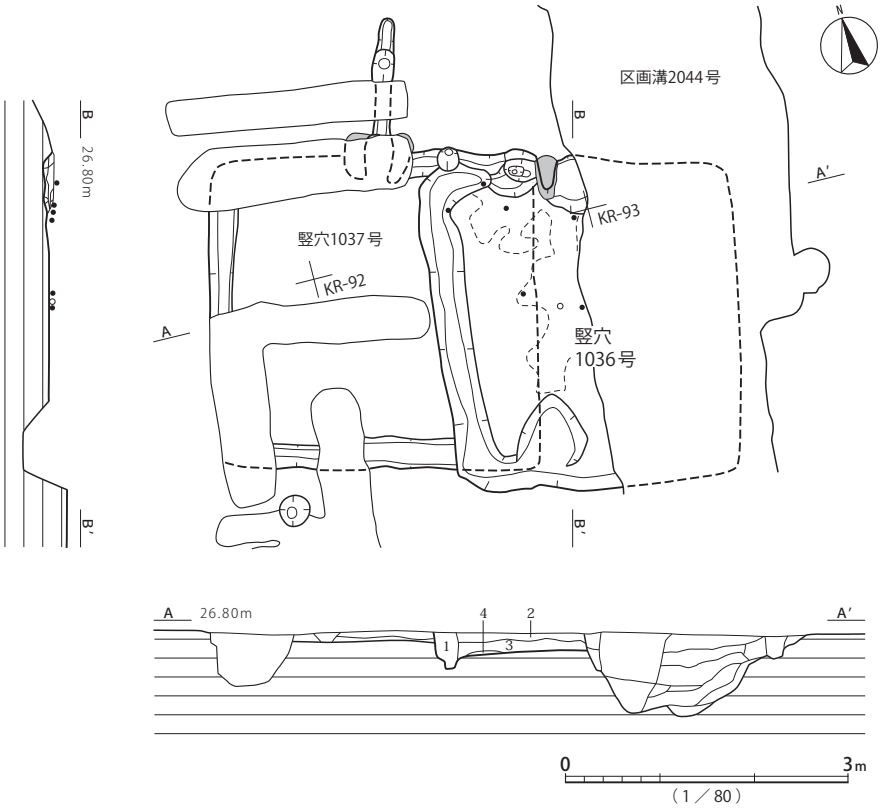


Fig.313　竪穴0941号 遺構遺物

竪穴 1036 号



1　暗褐色土　　焼土・木炭粒を含み、ロームブロックもわずかに混じる。
2　暗褐色土　　ローム粒をわずかに含む。
3　暗褐色土　　ローム粒・焼土粒・木炭粒・粘土粒を含む。
4　褐色土　　ロームブロックを含む。

Fig.314　竪穴1036号 遺構

僧寺編年Ⅲ期の所産と考えられる。

カマド内から、構築材の一部と考えられる瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

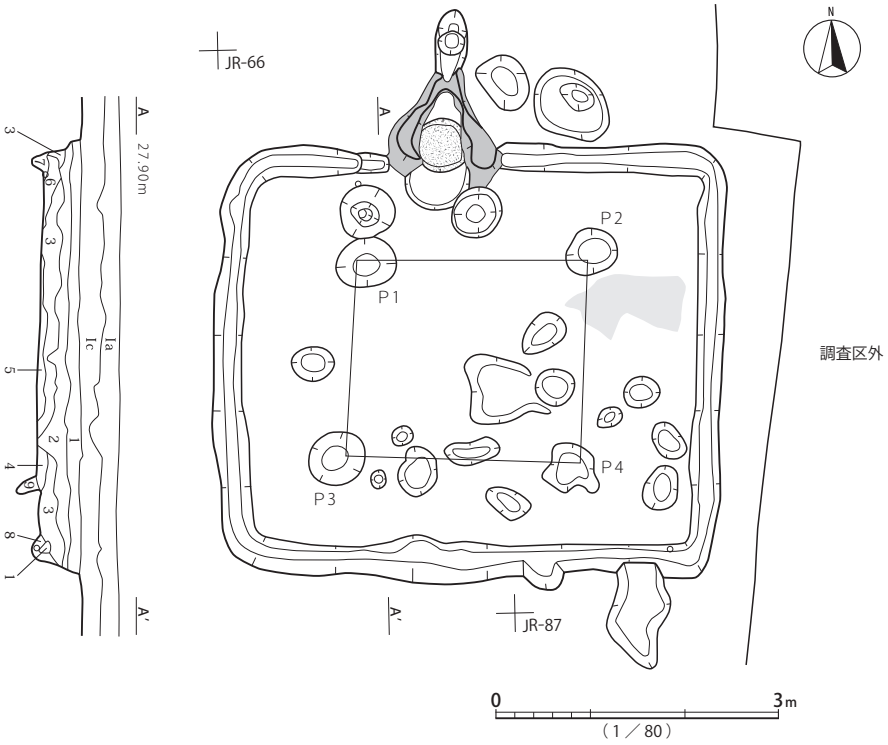
竪穴 1074 号 a・b　（Fig.316～319、PL.53・54・216）〔僧Ⅰ第 704～707 図〕

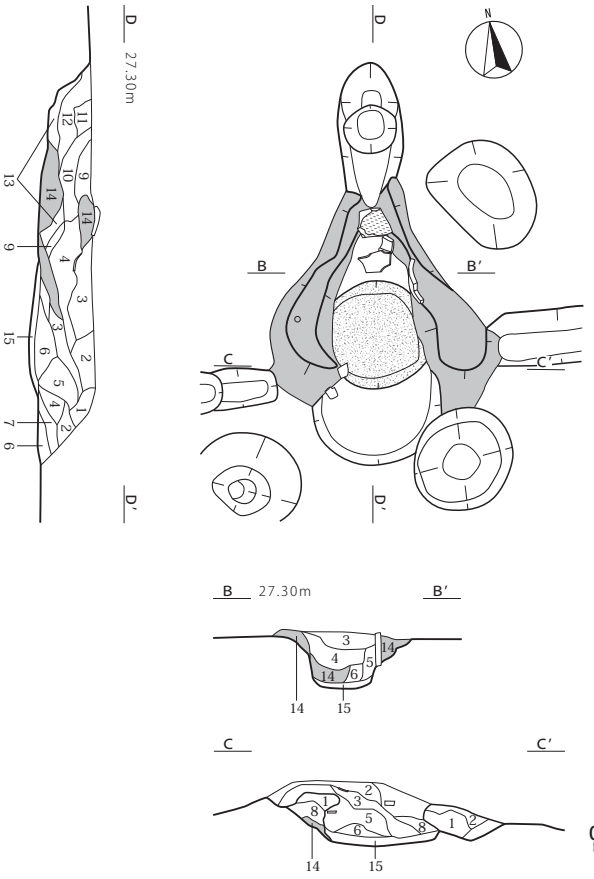
東南部HQ−11を中心に位置する。竪穴1075・1121号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも新しいと考えられる。建替え前をa、建替え後をbとしている。

平面形態はいずれも方形を呈するものと考えられるが、西辺・南辺壁が検出されないことから、明確でない。主軸長はaが2.94m、bが2.70m程度を測り、主軸方位はaがN−10°−E、bがN−3°−W程度になるものと思われるが、明確でない。確認面からの深さはいずれも0.28mを測る。カマドはいずれも北辺壁から検出されており、構築材として瓦を利用している。いずれも僧寺編年Ⅳ−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、aの1・2は平瓦である。いずれもカマド内壁材として利用されていたもので、凸面を燃焼室側に向けて設置されていた。1の凹面には端部が大きくほつれた布目痕が残り、全体に粗雑な整形である。bの1・2は行基葺式の丸瓦、3は玉縁式の丸瓦、4・5は平瓦である。1・4はカマド

竪穴 1057号





1 黒褐色土
2 黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
3 暗褐色土　ローム粒を多く含む。
4 暗褐色土　粗いローム粒を多く含む。
5 暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
6 褐色土　焼土・ロームブロックを多く含む。
7 褐色土　ロームを多く含み、ローム粒も混じる。
8 褐色土　ローム・ローム粒を含む。
9 暗黄褐色土　ロームを多く含む。

カマド
1 茶褐色土　ロームと粗い焼土粒の混合。
2 黒色土　焼土微粒を少量含む。
3 黒褐色土　黒色土中にローム粒・焼土粒を多量に含む。
4 黒褐色土　黒色土中にローム粒を多量に含み、焼土粒も少量混じる。
5 暗褐色土　小焼土ブロック・焼土粒を多量に含む。
6 暗赤褐色土　暗褐色土中に焼土ブロックを多量に含む。
7 灰赤色土　粘土ブロック・焼土粒・炭・被熱ロームブロックの混合。
8 褐色土　ローム・焼土・粘土の混合。
9 暗褐色土　黒褐色土と焼土微粒の混合。
10 暗褐色土　黒褐色土と焼土微粒の混合で、ロームが混じる。
11 暗赤色土　小焼土ブロックを多量に含む。
12 赤褐色土　黒色粒を多量に含む。
13 暗褐色土　黒褐色土とロームの混合。
14 粘土
15 暗褐色土　半焼成ロームブロック・暗褐色土・黒色粒の混合。

Fig.315　竪穴1057号 遺構

煙道部から、5は床面上からの出土で、5の凸面には縄叩き目の上から付けられた布目痕が残り、狭端側には太沈線状の布端部痕も認められる。なお、実測可能遺物として抽出されていないが、bのカマド内壁材にも平瓦が利用されており、ここでは凹面を燃焼室側に向けて設置されていた。

竪穴 1088 号 a・b　（Fig.320）〔僧 I 第 708 図〕

東南部JQ−06を中心に位置する。他遺構との重複はないが、遺構の大部分が撹乱により壊される。建替え前をb、建替え後をaとしている。

平面形態はいずれも方形を呈するものと考えられるが、大きく撹乱を受け、壁とカマドの一部が検出されたに過ぎないことから、明確でない。主軸方位はaがN−93°−E、bがN−9°−E程度になるものと思われる。確認面からの深さはいずれも0.10m程度を測る。カマドはaが東辺壁、bが北辺壁から検出されている。いずれも僧寺編年IV−5期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

a・bともにカマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 1090 号　（Fig.321）〔僧 I 第 709・710 図〕

東南部IQ−37を中心に位置する。他遺構との重複はないが、遺構西側は調査区外に延びる。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、遺構南東隅が検出されたに過ぎないことから、明確でない。確認面からの深さはいずれも0.48mを測る。主軸方位はN−103°−Eである。カマドは東辺壁から検出されている。僧寺編年IV−5期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 1095 号　（Fig.321）〔僧 I 第 712・713 図〕

東南部JR−33を中心に位置する。土坑1084号、区画溝2044号と重複し、本遺構がいずれの遺構よりも古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、西辺壁が検出されないことから、明確でない。規模は主軸長3.25m、確認面からの深さは0.12mを測る。主軸方位はN−9°−Eである。カマドは北辺壁から検出され、ほぼ中央に位置するものと考えられる。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

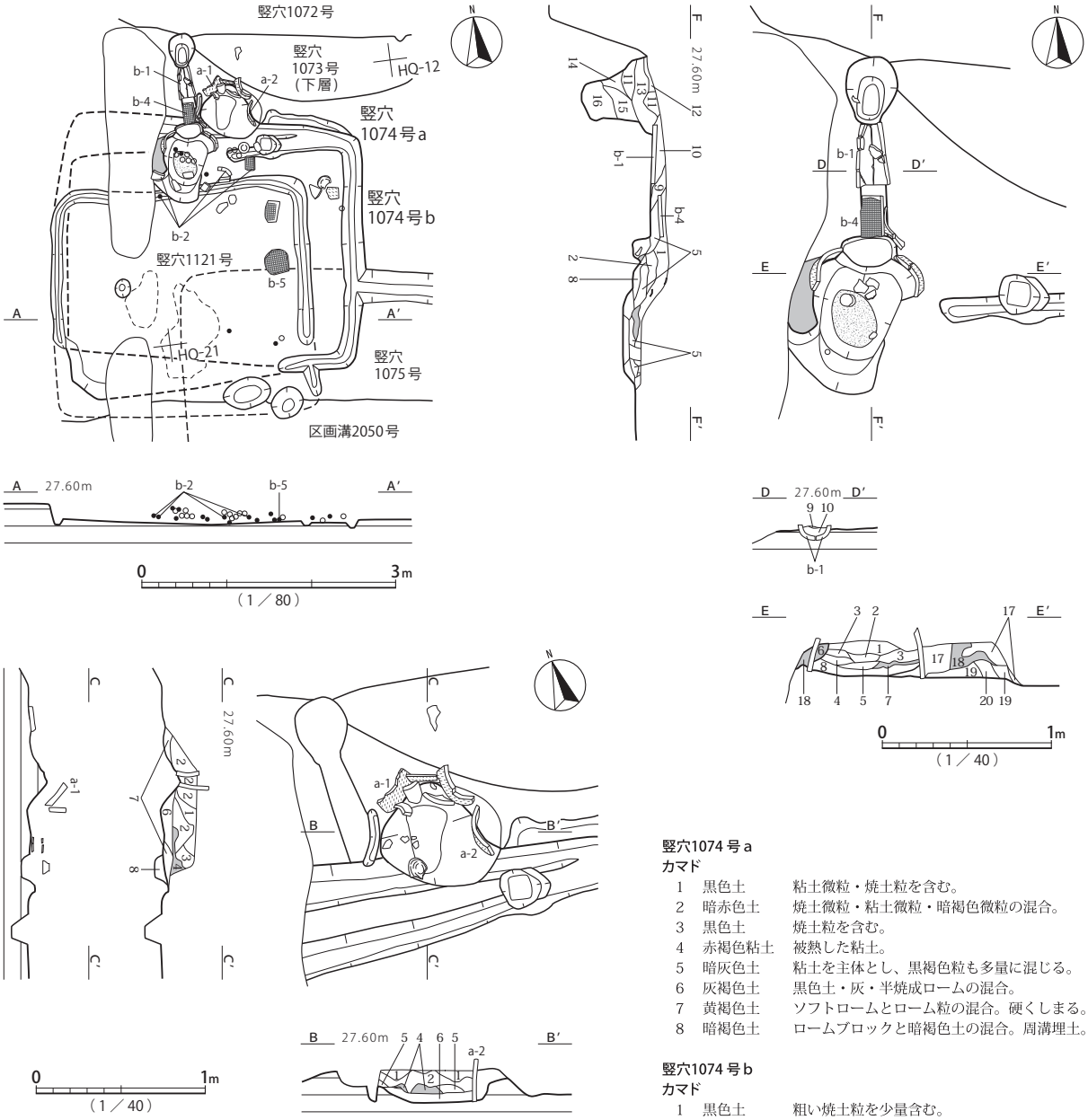
竪穴 1096 号　（Fig.322・323、PL.54・55）〔僧 I 第 560・561・563 図〕

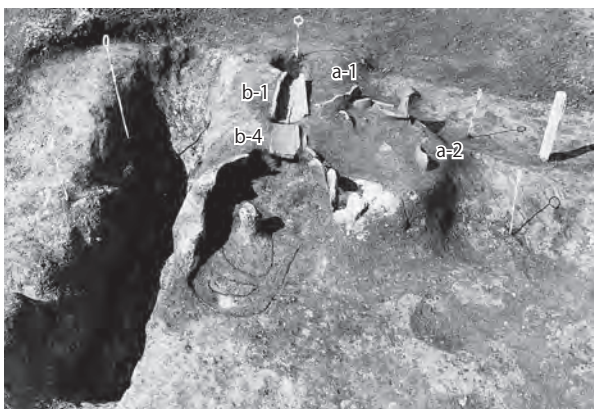
東南部JR−04を中心に位置する。寺院地外郭溝2045号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は長方形を呈し、規模は3.54×3.96m、確認面からの深さは0.16mを測る。カマドは東辺壁中央（カマドa）から北辺壁中央（カマドb）につくり変えられており、いずれも構築材として瓦が利用されている。主軸方位はカマドaを基準とした場合N−98°−E、カマドbを基準とした場合N−10°−Eである。僧寺編年IV−5期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1・2の平瓦である。1はカマド内壁材として利用されていたもので、凹面を燃焼室側に設置されていた。2は南辺壁付近からの出土で、凹面にはごく細かい布目痕が残る。

竪穴 1074 号a・b





ph.1　カマド a-1・a-2・b-1・b-4

竪穴1074 号a
カマド

1	黒色土	粘土微粒・焼土粒を含む。
2	暗赤色土	焼土微粒・粘土微粒・暗褐色微粒の混合。
3	黒色土	焼土粒を含む。
4	赤褐色粘土	被熱した粘土。
5	暗灰色土	粘土を主体とし、黒褐色粒も多量に混じる。
6	灰褐色土	黒色土・灰・半焼成ロームの混合。
7	黄褐色土	ソフトロームとローム粒の混合。硬くしまる。
8	暗褐色土	ロームブロックと暗褐色土の混合。周溝埋土。

竪穴1074 号b
カマド

1	黒色土	粗い焼土粒を少量含む。
2	暗褐色土	半焼成ロームブロック・粗い焼土粒を含む。
3	暗褐色土	粗い焼土粒・小焼土ブロックを含む。
4	暗赤色土	焼土粒・粘土微粒・小粘土ブロックを含む。
5	黒褐色土	半焼成粘土ブロックを含む。
6	暗赤色粘土	半焼成粘土ブロック。
7	白色粘土	
8	黒褐色土	黒色土中に粘土微粒を含む。
9	暗褐色土	焼土微粒をわずかに含む。
10	暗褐色土	ローム微粒を多量に含む。
11	黒褐色土	黒色土中に焼土微粒を多量に含む。
12	黒褐色土	黒色土中に粘土微粒を多量に含む。
13	暗褐色土	黒色土と焼土微粒の混合。
14	黒褐色土	ロームブロック・ローム粒を多量に含む。
15	暗褐色土	黒色土・焼土微粒・ローム微粒の混合。
16	褐色土	ローム粒を主体とする。
17	黒色土	粘土粒との混合。
18	灰褐色粘土	
19	黄褐色土	ロームブロックを主体とする。
20	暗褐色土	黒褐色土・粘土・焼土・ローム粒を含む。

Fig.316　竪穴1074号a・b(1) 遺構・調査状況

竪穴 1074 号 a

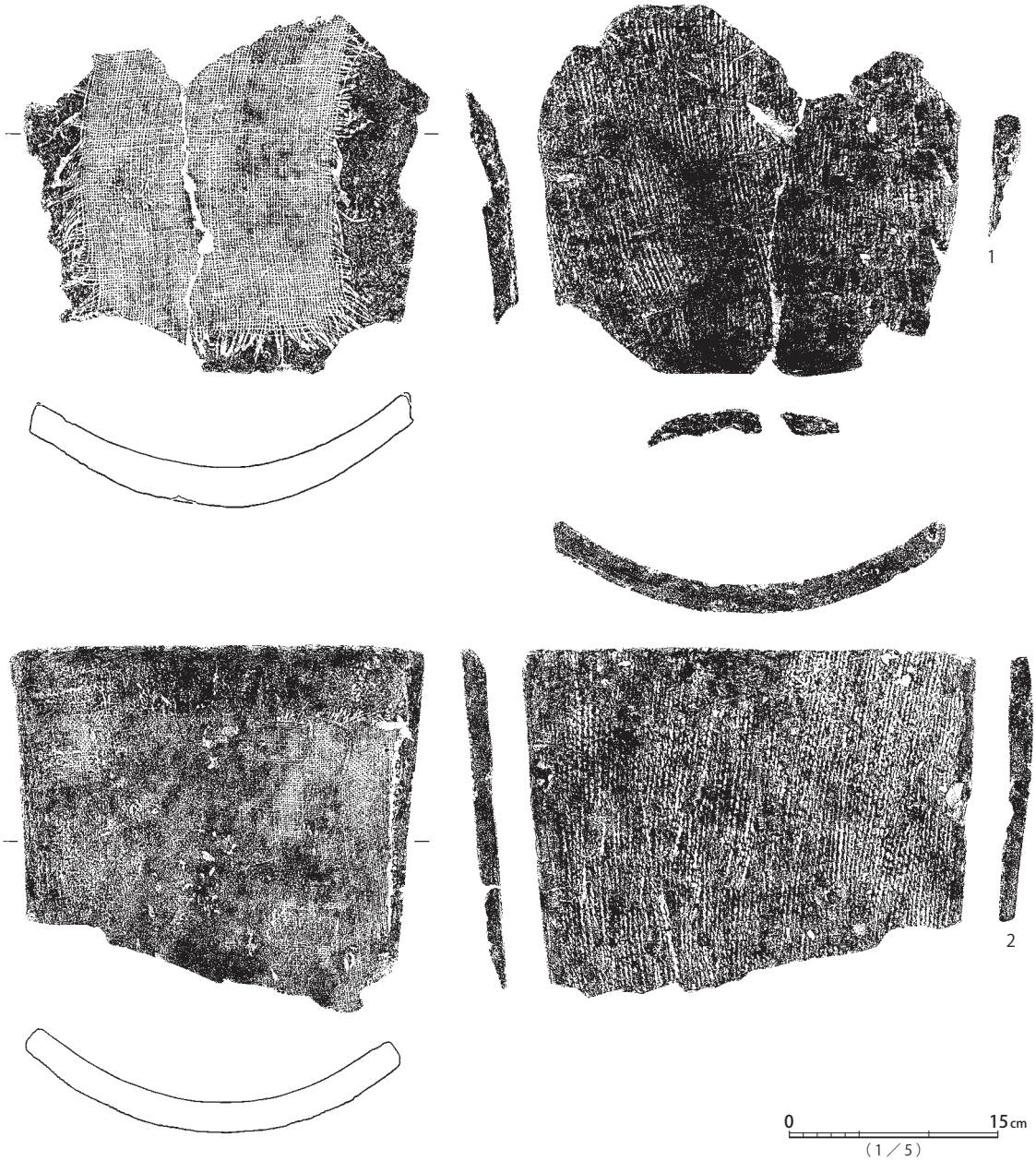


Fig.317　竪穴1074号a(2) 遺物

竪穴 1074 号 b

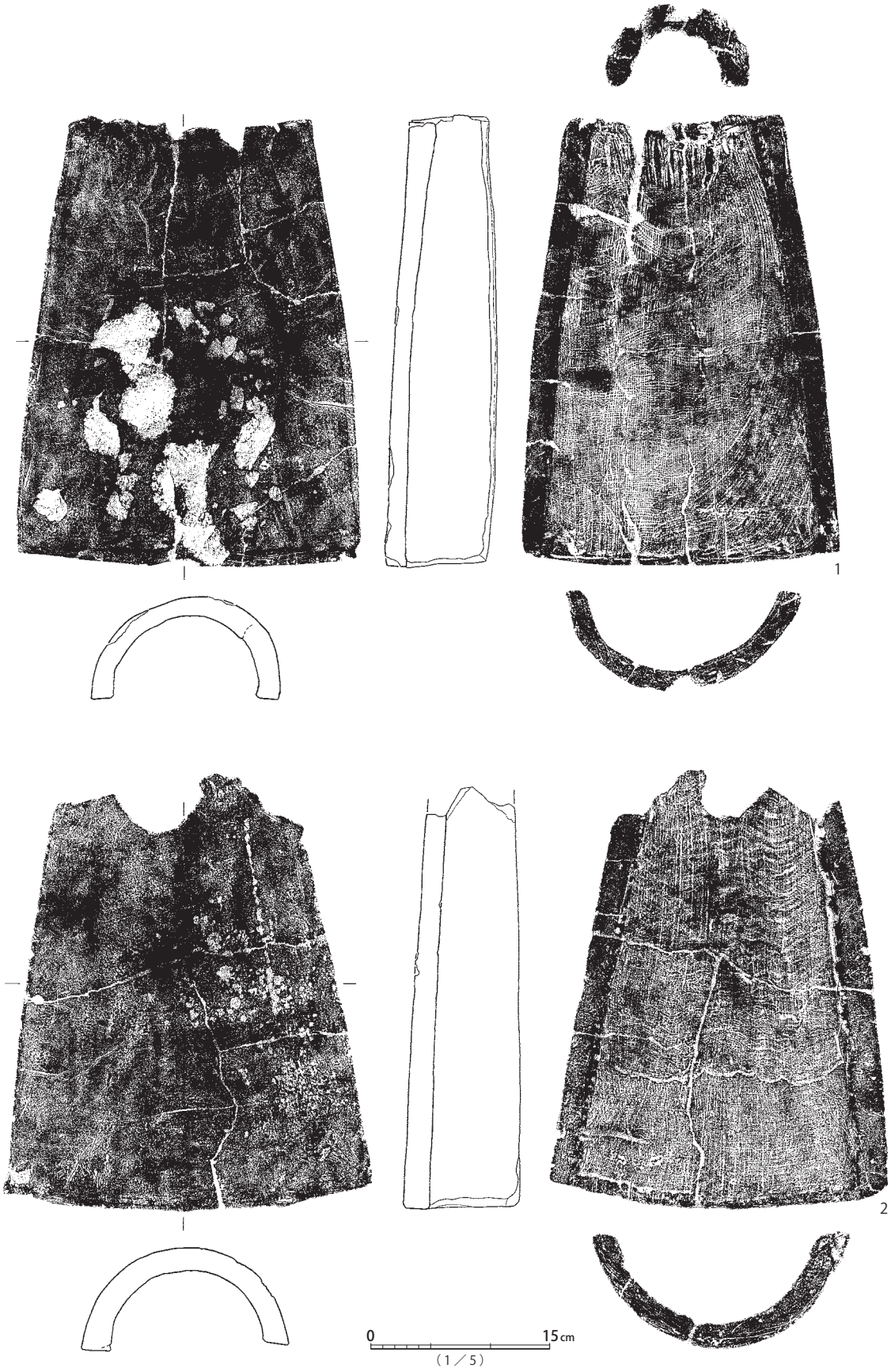


Fig.318　竪穴1074号b(2) 遺物

竪穴 1074 号 b

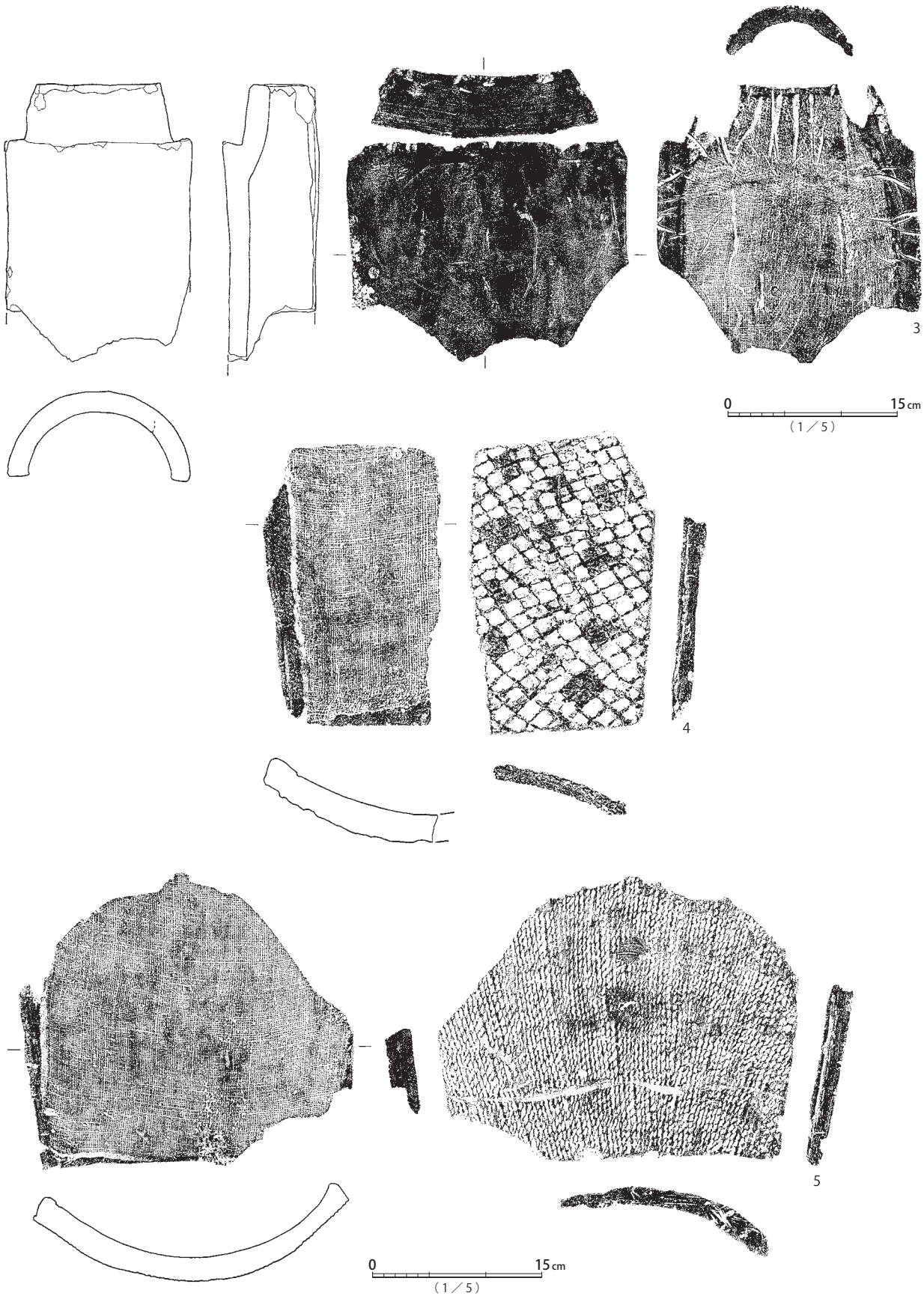
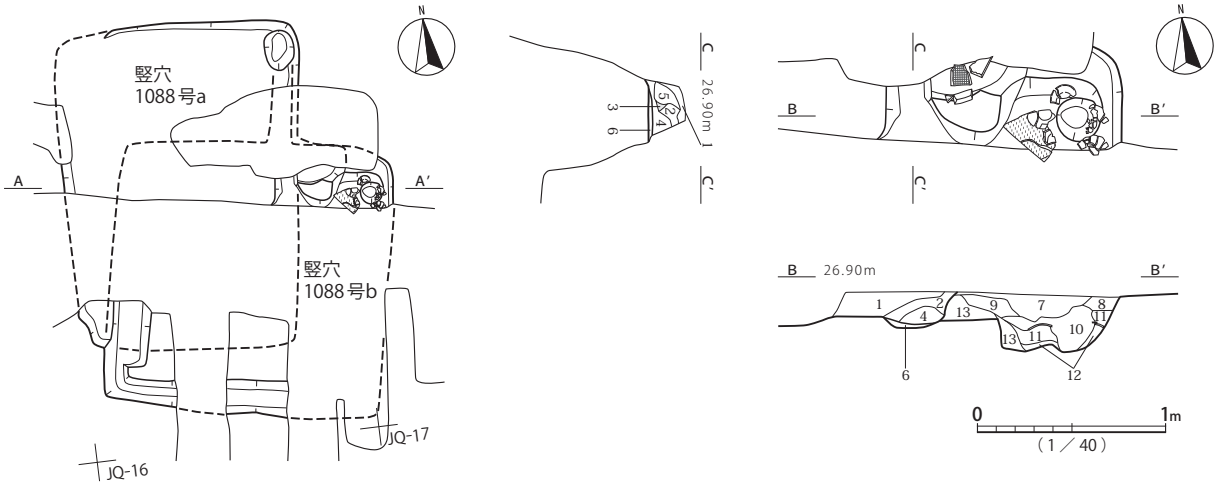


Fig.319　竪穴1074号b(3) 遺物

竪穴 1088 号 a・b



竪穴1088 号 a

1	黒褐色土	粘土・焼土・ローム粒を多量に含み、小粘土ブロックも少量混じる。
2	暗褐色土	粘土・粘土ブロック・焼土・ローム粒を多量に含む。
3	焼土ブロック	
4	黒褐色土	粘土・焼土・炭化粒・ローム粒を多量に含み、小粘土ブロックも少量混じる。
5	暗褐色土	粘土・粘土ブロック・焼土・粗いローム粒を多量に含む。

竪穴1088 号 b

6	黒褐色土	黒色土とローム粒の混合。
7	黒褐色土	焼土・ローム粒を多量に含む。
8	黒褐色土	ロームブロックを含む。
9	黒褐色土	粘土・焼土・ローム粒を多量に含み、小粘土ブロックも少量混じる。
10	黒褐色土	ローム微粒を多量に含む。
11	黄褐色土	ロームを主体とする。壁の崩落土。
12	黄褐色土	ロームブロックを主体とする。
13	暗褐色土	粘土・粘土ブロック・焼土・粗いローム粒を多量に含む。



ph.1　カマド

Fig.320　竪穴1088号a・b 遺構・調査状況

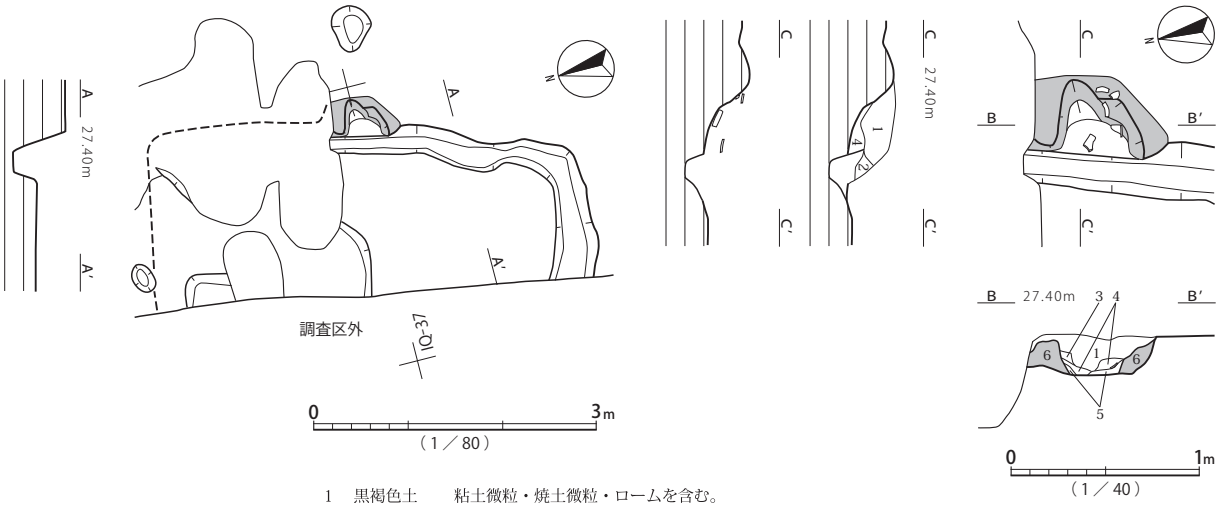
竪穴 1120 号　（Fig.324、PL.54）〔僧 I 第 669・670 図〕

東南部GP−19を中心に位置する。区画溝2050号と重複し、本遺構の方が古い。

平面形態は方形を呈するものと考えられるが、遺構北側が検出されないことから、明確でない。規模は東西軸長3.60m、確認面からの深さは0.14mを測る。カマドは西辺壁（カマドb）から検出されている。また、南北方向の中心軸上から、瓦を多量に含む長楕円形のピットが検出されており、北辺壁に位置したカマドの煙道部と考えられる。新旧関係は明確でないが、北側（カマドa）から西側（カマドb）につくり変えられたものと思われる。主軸方位はカマドaを基準とした場合N−15°−E、カマドbを基準とした場合N−75°−Wである。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

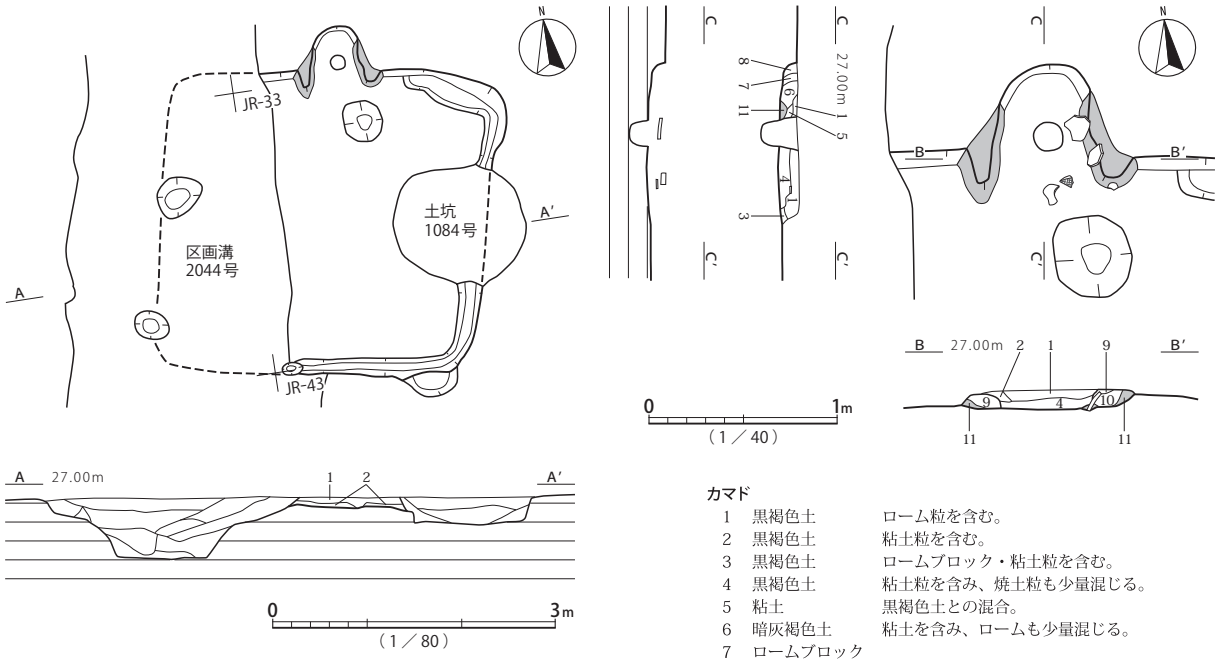
実測可能遺物は1の行基葺式の丸瓦のみで、カマドbからの出土である。凹面に粘土板接合痕、左側面凹面側の一部に半截破面を残す。

竪穴 1090号



1　黒褐色土　　粘土微粒・焼土微粒・ロームを含む。
2　黒褐色土　　粘土微粒・焼土微粒・小粘土ブロック・ロームを含む。
3　黄褐色土　　ロームブロック。
4　暗褐色土　　ロームを多量に含み、粘土微粒・焼土微粒も混じる。
5　暗褐色土　　粘土を多量に含み、ロームブロック・ローム粒も混じる。
6　灰褐色粘土　ローム粒・黒色粒を含む。

竪穴 1095号

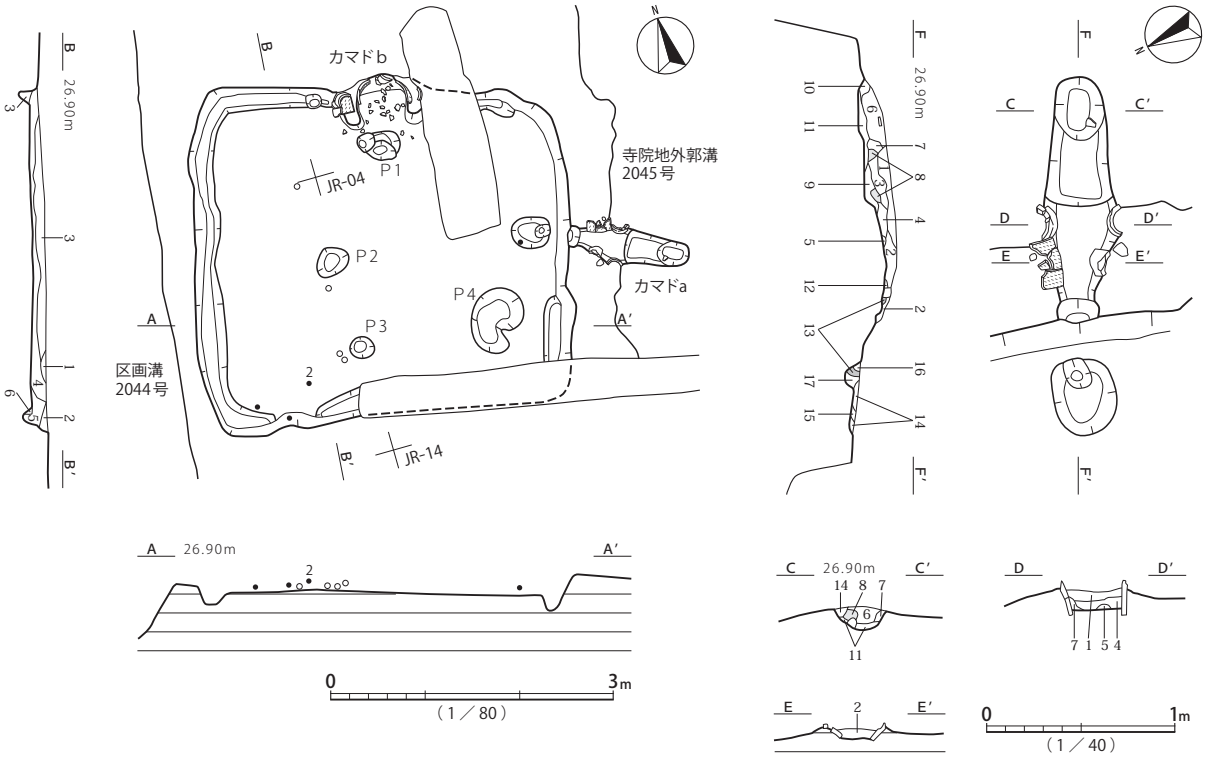


1　黒褐色土　ローム粒を多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多く含む。

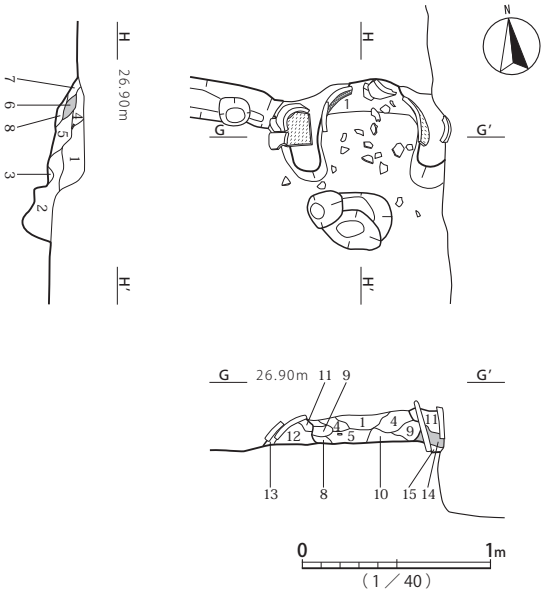
カマド
1　黒褐色土　　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　　粘土粒を含む。
3　黒褐色土　　ロームブロック・粘土粒を含む。
4　黒褐色土　　粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。
5　粘土　　黒褐色土との混合。
6　暗灰褐色土　粘土を含み、ロームも少量混じる。
7　ロームブロック
8　暗褐色土　　粘土粒を少量含む。
9　粘土　　暗褐色土との混合。
10　粘土　　ロームとの混合。
11　粘土

Fig.321　竪穴1090号 遺構、竪穴1095号 遺構

竪穴 1096 号



1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
3　黒褐色土　ローム粒を多く含む。
4　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
5　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
6　褐色土　ロームを多く含む。



カマドa

1	黒褐色土	粘土ブロックを含み、ローム粒も少量混じる。
2	暗褐色土	粘土粒を含む。
3	黒褐色土	粘土ブロック・焼土ブロックを含む。
4	黒褐色土	粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。
5	明褐色土	
6	黒褐色土	焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
7	黒褐色土	
8	焼土	
9	黒褐色土	粘土ブロック・焼土粒を少量含む。
10	暗褐色土	焼土粒・粘土粒を少量含む。
11	黒褐色土	粘土を含む。
12	暗灰褐色土	
13	粘土	
14	暗褐色土	ローム粒を含む。
15	粘土	暗灰褐色土との混合。
16	黒褐色土	粘土粒を含む。
17	暗灰褐色土	粘土を少量含む。

カマドb

1	黒褐色土	ローム粒を多く含み、粘土ブロックも少量混じる。
2	黒褐色土	
3	ロームブロック	黒褐色土との混合。
4	黒褐色土	ローム粒を多く含み、粘土ブロック・焼土ブロックも少量混じる。
5	暗灰褐色土	焼土ブロック・灰・ロームを少量含む。
6	粘土	うすく焼土化し、暗褐色土を少量含む。
7	黒褐色土	粘土を少量含む。
8	黒灰褐色土	粘土・灰を少量含む。
9	暗褐色土	粘土を含み、焼土ブロックも少量混じる。
10	暗褐色土	焼土ブロック・灰を少量含む。
11	暗褐色土	粘土を含む。
12	暗褐色土	粘土との混合。
13	暗褐色土	
14	粘土	
15	暗褐色土	ロームブロックを含む。

Fig.322　竪穴1096号(1) 遺構

竪穴 1096 号

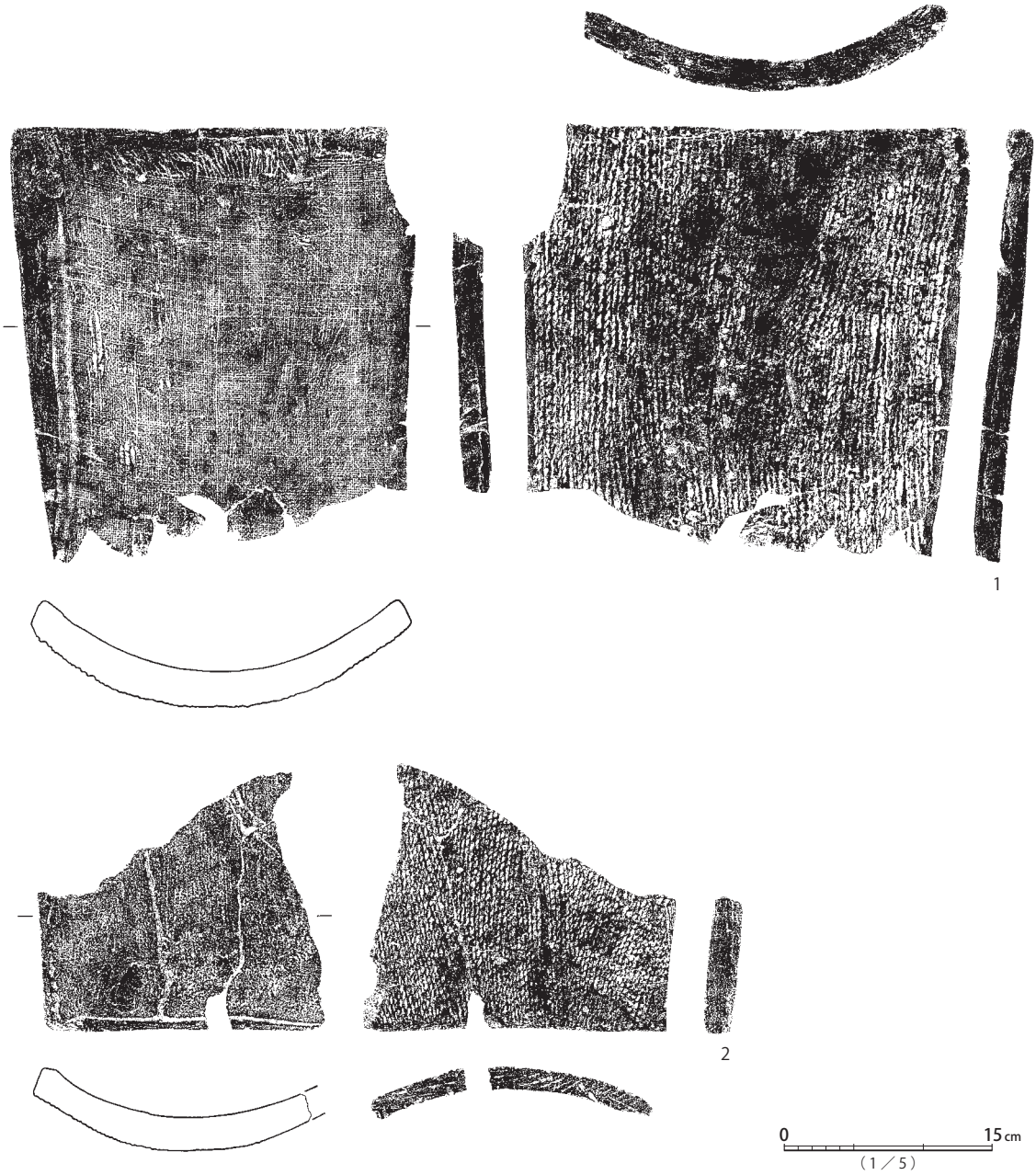
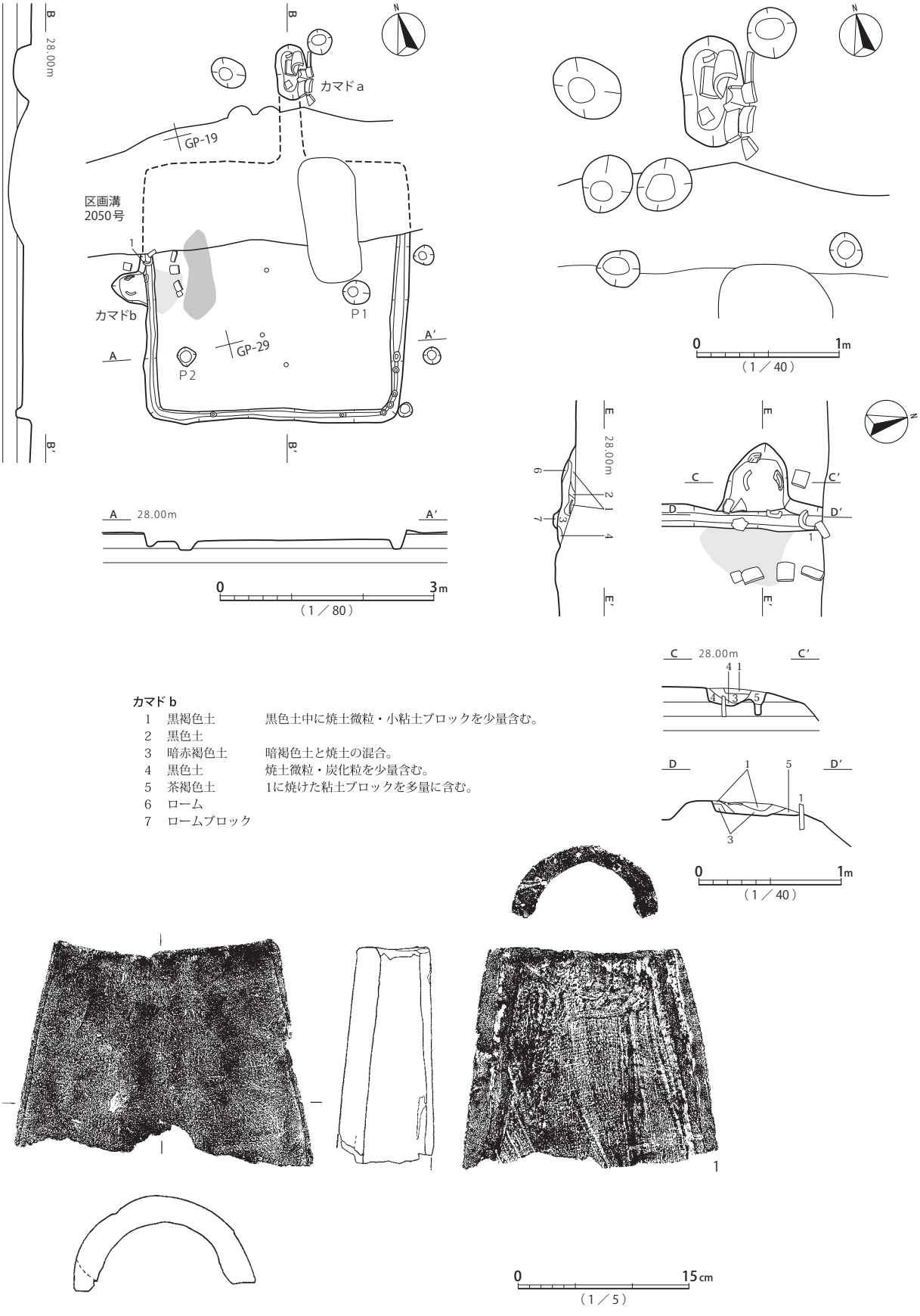


Fig.323　竪穴1096号(2) 遺物

竪穴 1120号



カマド b

1	黒褐色土	黒色土中に焼土微粒・小粘土ブロックを少量含む。
2	黒色土	
3	暗赤褐色土	暗褐色土と焼土の混合。
4	黒色土	焼土微粒・炭化粒を少量含む。
5	茶褐色土	1に焼けた粘土ブロックを多量に含む。
6	ローム	
7	ロームブロック	

Fig.324　竪穴1120号 遺構遺物

竪穴 1200 号　（Fig.326）〔僧 I 第 844・845 図〕

南辺部EL−46を中心に位置する。竪穴1206号（下層）、区画溝2144号と重複し、本遺構の方が1206号よりも新しく、2144号よりも古い。

平面形態は方形を呈し、規模は3.58×3.48m、確認面からの深さは0.14mを測る。主軸方位はN−16°−Eである。カマドは北東隅から検出されている。僧寺編年VI期の所産と思われるが、帰属時期は明確でない。

カマド脇から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 1220 号　（Fig.325・326、PL.55）〔僧 I 第 846〜848 図〕

南辺部DM−03を中心に位置する。竪穴1222号と重複し、出土遺物からは本遺構の方が古いと思われるが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

切土整地を伴う傾斜地に位置し、南辺壁が検出されないが、平面形態は方形を呈するものと考えられる。規模は副軸長3.00m、確認面からの深さは0.40mを測る。主軸方位はN−10°−Wである。カマドは北辺壁中央から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。VII型式の蕨手状唐草文で、凸面には格子叩き目が残る。

竪穴 1222 号　（Fig.325）〔僧 I 第 846・847・849 図〕

南辺部DM−03を中心に位置する。竪穴1220号と重複する。出土遺物からは、本遺構の方が1220号よりも新しいと思われるが、断面図など記録上の根拠がなく、明確でない。

切土整地を伴う傾斜地に位置し、遺構北東側が検出されたのみであるが、平面形態は方形を呈するものと考えられる。確認面からの深さは0.40mを測る。主軸方位はN−9°−Wである。カマドは北辺壁から検出され、ほぼ中央に位置するものと考えられる。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド前面から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

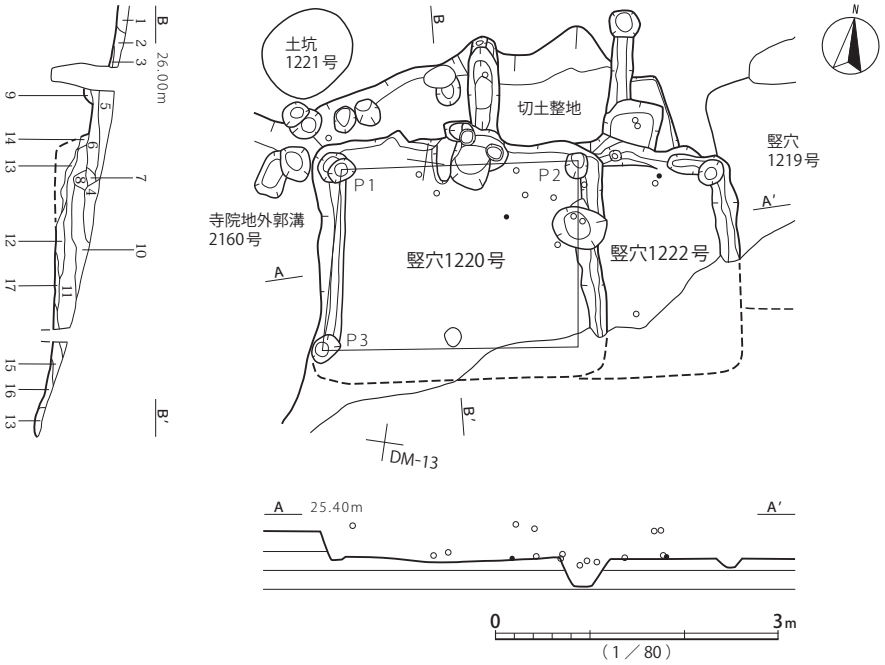
竪穴 1240 号　（Fig.327・328）〔僧 I 第 850・852 図〕

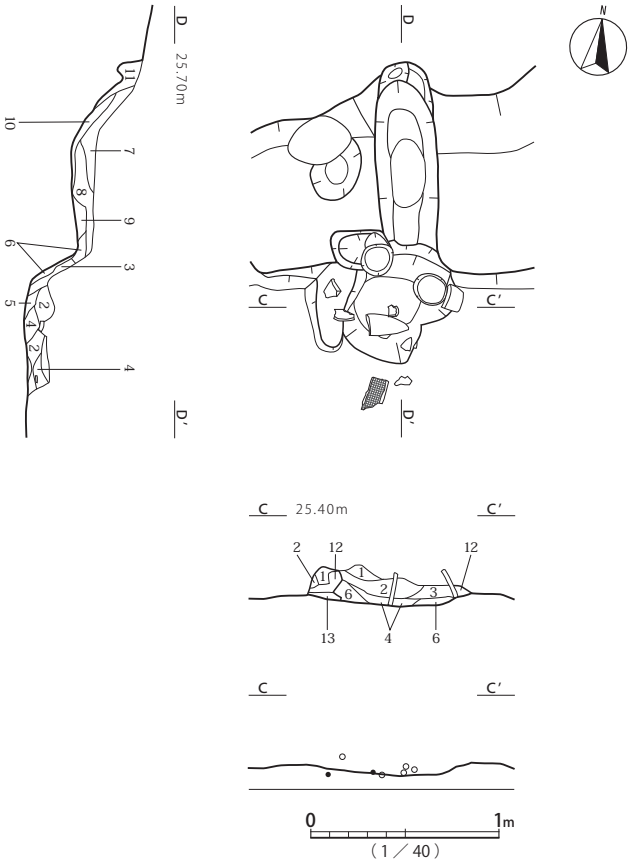
南辺部DL−28を中心に位置する。竪穴1241号と重複するが、両遺構範囲の出土遺物に時期差が認められない点や、床硬化面の広がりから、本遺構は1241号を東方向に拡張して、建て替えたものと考えられる。床面中央の南北方向に延びる溝は1241号の東壁周溝の痕跡で、煙道部のみ残存するカマドaも1241号に由来する施設と考えられる。

傾斜地に位置し、南辺壁が検出されないが、平面形態は長方形を呈するものと考えられる。規模は副軸長4.98m、確認面からの深さは0.35mを測る。主軸方位はN−15°−Wである。カマドbは北辺壁から検出され、ほぼ中央に位置するものと考えられる。僧寺編年VIII期の所産と考えられる。

カマド内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

竪穴 1220・1222号





竪穴1220 号

切土整地

1	黒褐色土	ロームブロックを少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒を含む。
3	褐色土	
4	黒褐色土	小ロームブロックを少量含む。
5	黒褐色土	ローム粒を少量含む。
6	黒褐色土	
7	暗褐色土	ローム粒を含む。硬くしまる。
8	黒褐色土	ローム粒を含む。
9	褐色土	ローム粒を少量含む。

竪穴

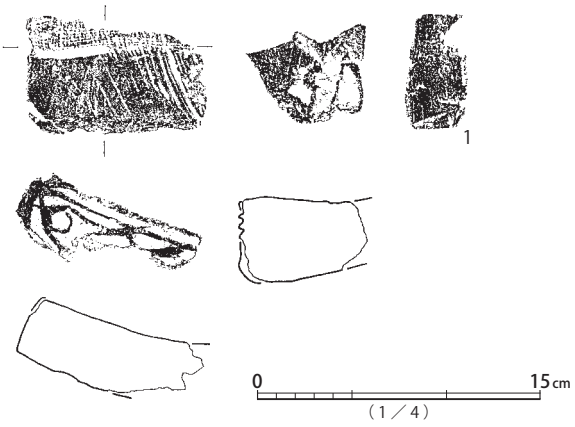
10	暗褐色土	小ロームブロックを少量含む。
11	暗褐色土	ロームブロックを少量含む。
12	黒褐色土	焼土粒・粘土粒を少量含む。
13	暗褐色土	粘土粒を含む。
14	暗黄褐色土	
15	黒褐色土	粘土粒を少量含む。
16	褐色土	粘土粒を少量含む。

カマド

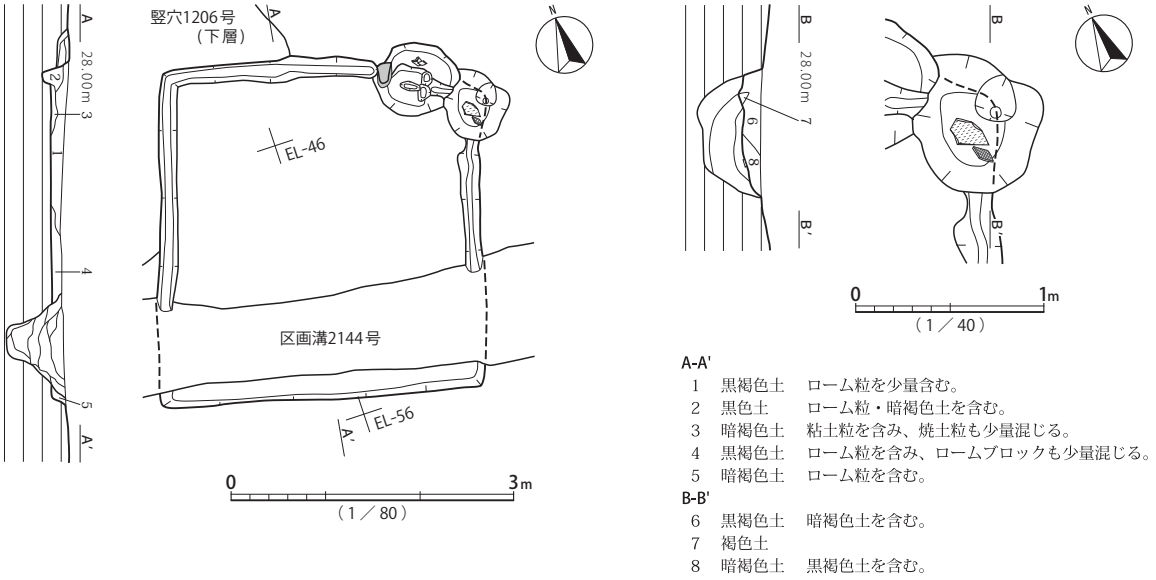
1	乳褐色土	粘土を主体とし、暗褐色土が混じる。
2	暗褐色土	黒色土中に、焼土粒を多く含む。
3	黒褐色土	黒色土中に、ローム・焼土微粒を含む。
4	暗褐色土	粘土・焼土微粒・ローム粒・暗褐色土の混合。
5	暗褐色土	ローム・粗い焼土粒を多量に含み、炭も少量混じる。
6	褐色土	ロームを主体とする。しまりなし。
7	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
8	暗褐色土	ローム粒を多く含む。
9	暗褐色土	
10	褐色土	ロームと暗褐色土の混合。
11	ローム	
12	黒褐色土	粗いローム粒を多量に含み、小粘土ブロックも混じる。
13	褐色土	ロームを主体とする。

Fig.325　竪穴1220号(1) 遺構、竪穴1222号 遺構

竪穴 1220 号



竪穴 1200 号



A-A'
1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
2 黒色土 ローム粒・暗褐色土を含む。
3 暗褐色土 粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。
4 黒褐色土 ローム粒を含み、ロームブロックも少量混じる。
5 暗褐色土 ローム粒を含む。

B-B'
6 黒褐色土 暗褐色土を含む。
7 褐色土
8 暗褐色土 黒褐色土を含む。

Fig.326 竪穴1200号 遺構、竪穴1220号(2) 遺物

竪穴 1648 号 b （Fig.329、PL.55）〔僧 I 第 488～490 図〕

東辺部NO−45を中心に位置する。竪穴1648号aと重複するが、aは本遺構の掘形ないし掘り過ぎの可能性がある。

平面形態は方形を呈するものと考えらえるが、遺構東側が削平され、東辺壁が検出されないことから、明確でない。規模は主軸長4.30m、確認面からの深さは0.36mを測る。主軸方位はN−22°−Eである。カマドは北辺壁から検出され、やや西側に位置する可能性がある。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はXI型式の無文軒平瓦、2は平瓦である。1はカマド内からの出土で、凸面に格子叩きを施したのち、顎部を残して、瓦当面側にヘラケズリを加える。2の凸面には網目（格子目）状の縄叩き目が残る。

竪穴 1240号

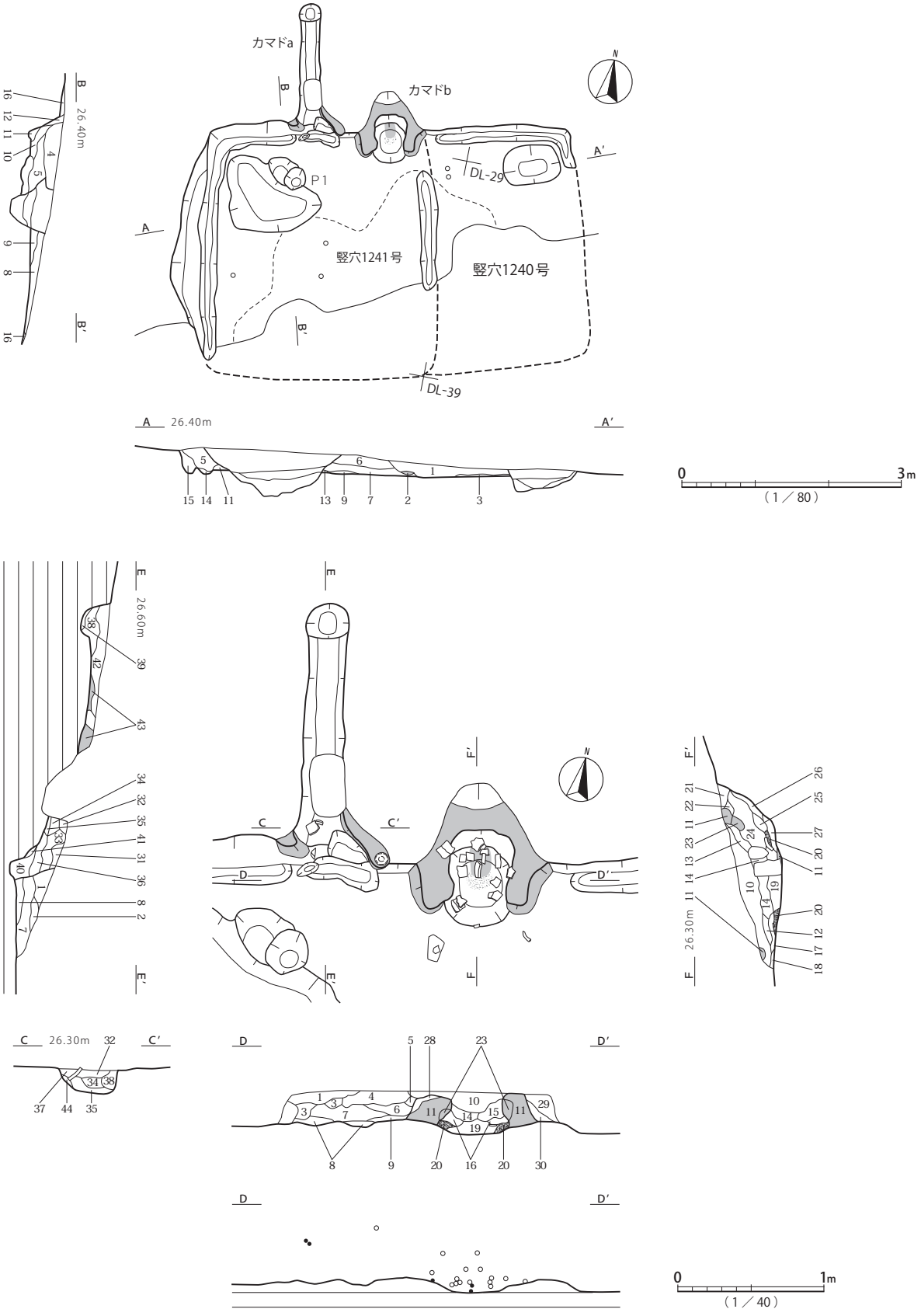


Fig.327　竪穴1240号(1) 遺構

竪穴 1240 号

1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
2 粘土
3 暗褐色土
4 暗褐色土 ロームブロックを含む。
5 黒褐色土
6 暗褐色土 黒褐色土を含む。
7 黒褐色土 粘土を含む。
8 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
9 黒褐色土 粘土粒を少量含む。
10 黒褐色土 白色粘土をわずかに含む。
11 暗褐色土 小ロームブロックを含む。
12 暗褐色土 粘土・黒褐色土を少量含む。
13 褐色土
14 暗褐色土 小ロームブロックを少量含む。
15 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
16 暗褐色土

カマド b
1 黒褐色土
2 暗灰褐色土 粘土を含む。
3 黒褐色土 粘土を多く含む。
4 暗褐色土 黒色土・ローム粒を少量含む。
5 灰褐色土
6 暗灰褐色土 粘土を含む。
7 黒褐色土 粘土粒・ローム粒を含む。
8 暗褐色土 粘土粒・ロームブロックを含む。
9 暗灰褐色土 粘土・木炭粒を含む。
10 黒褐色土 粘土を少量含む。
11 粘土
12 暗灰褐色土 粘土粒を含む。
13 暗褐色土 粘土を多く含む。
14 灰褐色土 焼成粘土ブロックを含む。
15 暗褐色土 粘土を多量に含む。
16 暗灰褐色土 焼土ブロックを含む。
17 暗褐色土 粘土粒・灰を含む。
18 暗褐色土 小ロームブロックを含む。
19 暗灰褐色土 灰を多く含み、焼土ブロックも少量混じる。
20 灰
21 黒褐色土 焼土ブロックを含み、粘土粒も少量混じる。
22 灰褐色土 粘土粒を含む。
23 焼成粘土
24 暗赤褐色土 焼土を多量に含む。
25 灰褐色土 焼土ブロックを含み、灰も少量混じる。
26 暗褐色土 粘土粒を少量含む。
27 暗灰褐色土 粘土粒・灰を含む。
28 粘土 暗褐色土との混合。
29 黒褐色土 粘土粒を少量含む。
30 暗褐色土 粘土を含む。

カマド a
31 暗褐色土 粘土粒を含む。
32 灰褐色土 粘土を含む。
33 暗灰褐色土
34 暗赤褐色土 粘土粒・焼土粒を含む。
35 暗褐色土 粘土粒を含み、小ロームブロックも少量混じる。
36 暗灰褐色土 粘土粒を含む。
37 淡赤褐色土 焼土粒を多量に含み、粘土粒も少量混じる。
38 粘土 暗褐色土との混合。
39 褐色土 粘土粒を含む。
40 暗灰褐色土 焼土ブロックを含み、粘土粒も少量混じる。
41 暗褐色土 粘土粒・ロームブロックを含む。
42 暗褐色土 粘土を多く含み、ロームブロックも少量混じる。
43 粘土
44 褐色土

Fig.328 竪穴1240号(2) 遺構

竪穴 1650 号 （Fig.330）〔僧 I 第 491・492 図〕

東辺部MO−06を中心に位置する。他遺構との重複はないが、遺構北側は撹乱により壊される。

平面形態は方形を呈し、規模は3.40×3.30m、確認面からの深さは0.32mを測る。主軸方位はN−105°−Eである。カマドは南東隅付近から検出されている。僧寺編年VI期の所産と考えられる。

カマド周辺から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

第 6 節 土坑・土壙墓

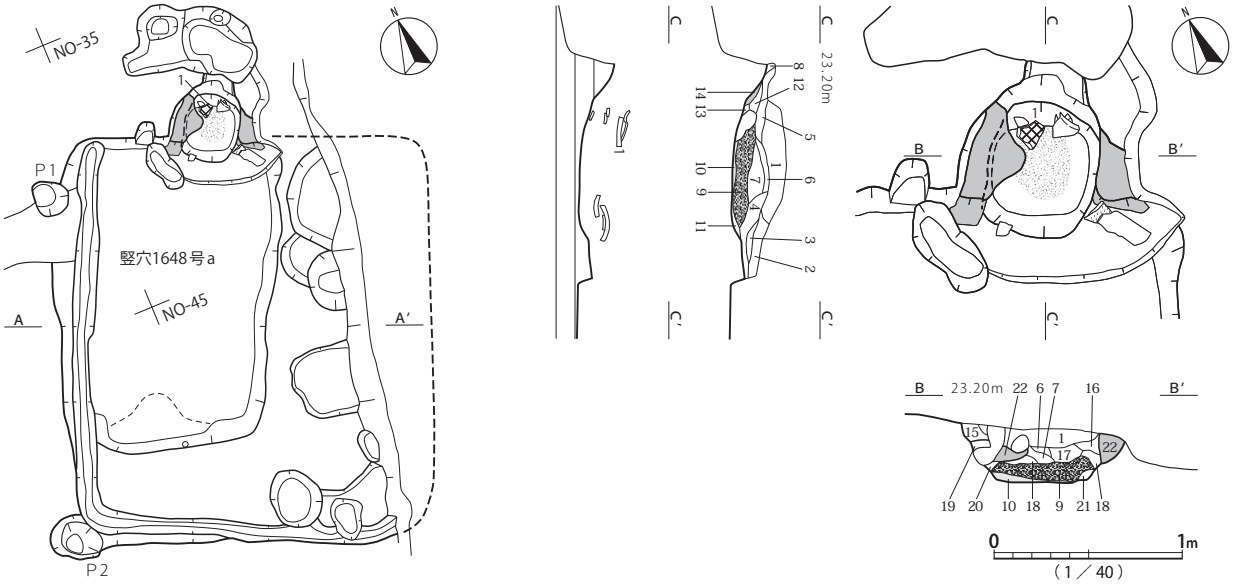
土坑 0096 号 （Fig.331）〔僧 I 第 273・274 図〕

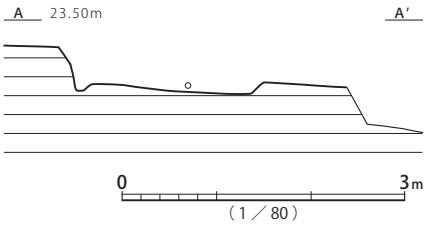
北辺部RN−41を中心に位置する。竪穴0097号、土坑0095号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は方形を呈するものと思われるが、遺構北側の一部が検出されたのみで、明確でない。規模は東西軸長2.02m、確認面からの深さは0.50mを測る。北辺壁を基準とした場合、これと直行する軸の方位はN−32°−Eである。帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。I型式の均整唐草文で、顎部の面取り幅が広く、平瓦と水平気味になる。

竪穴 1648号b





1　黒褐色土　ローム粒を含み、焼土粒も少量混じる。
2　暗褐色土　粘土を含む。
3　暗褐色土　焼土粒を含み、粘土粒も少量混じる。
4　黒褐色土　暗褐色土を含み、焼土粒・灰も少量混じる。
5　黒褐色土　焼土粒を含む。
6　暗灰褐色土　焼土粒・灰を含む。
7　灰褐色土　粘土を含み、灰も少量混じる。
8　暗褐色土　ローム粒を含む。
9　灰　焼土粒を少量含む。
10　焼土　灰との混合。
11　黒褐色土　灰を含む。
12　暗灰褐色土　焼土粒を多く含む。
13　暗灰褐色土　焼土粒を含む。
14　粘土　暗褐色土をわずかに含む。
15　暗褐色土　木炭・焼土ブロック・粘土を含む。
16　灰褐色土　焼土ブロック・粘土を含む。
17　黒褐色土　焼土粒が少量、灰がわずかに混じる。
18　暗褐色土　焼土粒・粘土を少量含む。

19　黒褐色土　粘土粒を含む。
20　暗褐色土　粘土との混合。
21　暗褐色土　灰・ロームを少量含む。
22　粘土

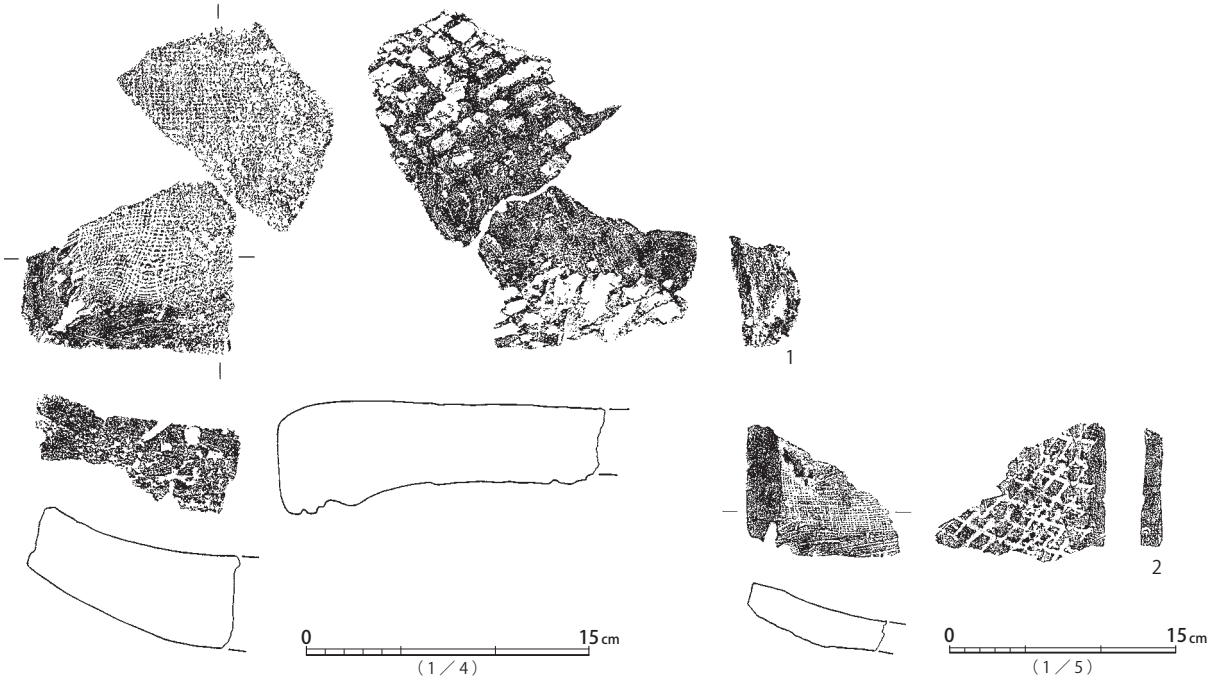
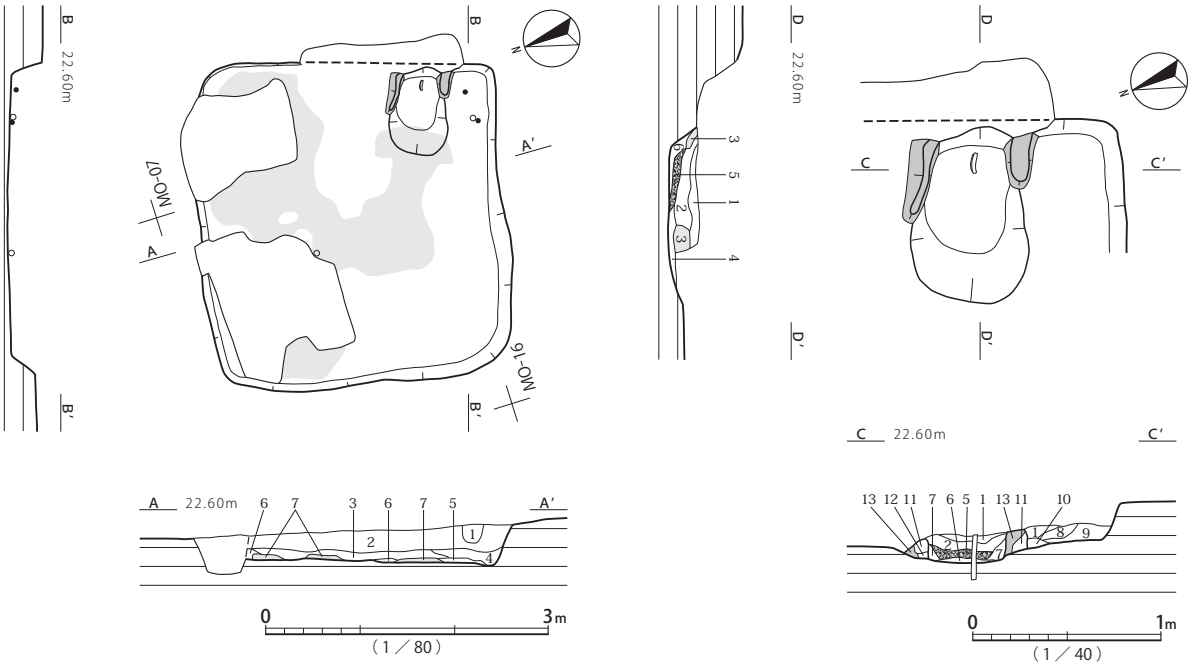


Fig.329　竪穴1648号b 遺構遺物

竪穴 1650号



1　暗褐色土
2　黒褐色土
3　黒褐色土　焼土粒を含む。
4　黒褐色土　粘土粒をわずかに含む。
5　黒褐色土　粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。
6　黒褐色土　焼土を多く含む。
7　焼土　黒褐色土を含む。

カマド
1　黒褐色土　粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。
2　暗灰褐色土　粘土粒・焼土粒を含む。
3　焼土
4　黒褐色土　粘土粒を少量含む。
5　灰
6　淡赤褐色土　焼土粒を含み、灰も少量混じる。
7　灰褐色土　粘土粒・焼土粒を含む。
8　黒褐色土　粘土粒を含む。
9　黒褐色土　粘土細粒を少量含み、焼土粒もわずかに混じる。
10　暗灰褐色土　粘土粒を含み、焼土粒も少量混じる。
11　粘土　黒褐色土との混合。
12　灰褐色土　うすく焼土化し、粘土を含む。
13　粘土

Fig.330　竪穴1650号 遺構

土坑 0133 号　（Fig.331）〔僧 I 第 364 図〕

北辺部TM−91を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は不整楕円形を呈し、規模は1.38×1.20m、確認面からの深さは0.08mを測る。主軸方位はN−48°−E程度と考えられる。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

底面上から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

土坑 0135 号　（Fig.331）〔僧 I 第 364・365 図〕

北辺部TL−96に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は不整長方形を呈し、規模は1.34×1.22m、確認面からの深さは0.12mを測る。主軸方位はN−77°−Wである。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

底面付近から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

土坑 1368 号　（Fig.331、PL.55）〔僧 I 第 390・391 図〕

北辺部PL−29を中心に位置する。土坑1404号とわずかに重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。土器が多く出土し、廃棄土坑と捉えられている。

平面形態は長楕円形を呈し、規模は5.82×4.46m、確認面からの深さは0.50mを測る。主軸方位はN−28°−Wである。僧寺編年IV−5期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。I型式の均整唐草文で、2次的に被熱し、側面は発泡する。

土坑 1372 号　（Fig.332・333、PL.55・56）〔僧 I 第 397・398 図〕

北辺部QL−73を中心に位置する。他遺構との重複はない。杯類がまとまって出土し、廃棄土坑と捉えられている。

平面形態は不整楕円形を呈し、規模は4.50×3.88m、確認面からの深さは0.56mを測る。主軸方位はN−2°−Eである。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1〜3は軒平瓦、4は平瓦である。1はIII型式、2はI型式の均整唐草文で、1の凸面は顎部にのみ縄叩き目を残す。3は文様不明であるが、狭端面には「人」の文字が押印される。東南部竪穴0802号では、VII型式の蕨手状唐草文に「人」の押印が認められ、同じ瓦当文様の可能性があるが、凸面の格子叩き目は3とは異なる。4の凸面狭端側には「周」の文字が押印される。

土坑 1443 号　（Fig.334、PL.55）〔僧 I 第 321 図〕

北辺部OL−07に位置する。竪穴1335号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は楕円形を呈し、規模は副軸長0.80m、確認面からの深さは0.20mを測る。主軸方位はN−66°−W程度と思われる。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみで、底面付近からの出土である。I型式の均整唐草文で、段顎を呈し、瓦当面寄りに方形気味の穿孔が施される。

土坑 1543 号　（Fig.334）〔僧 I 第 385 図〕

北辺部QL−49を中心に位置する。溝2223号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は不整方形を呈し、規模は2.30×1.96m、確認面からの深さは0.14mを測る。主軸方位はN−22°−E程度と考えられる。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

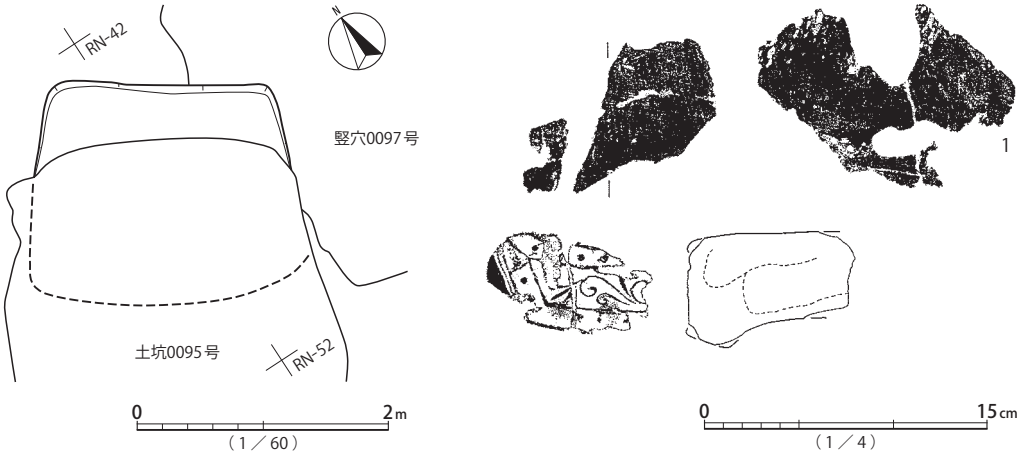
実測可能遺物は1の軒平瓦のみで、I型式の均整唐草文である。

土坑 1545 号　（Fig.335、PL.56）〔僧 I 第 173・174 図〕

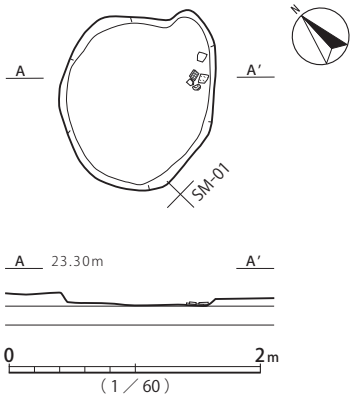
北辺部PM−93に位置する。掘立柱建物3127号P18と重複し、本遺構の方が新しい。

北側の壁が検出されないが、平面形態は隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は1.01×0.80m、確認面からの深さは0.35mを測る。遺構規模からは、掘立柱建物の柱穴の可能性が高い。僧寺編年IV−1期の所産と考えられる。

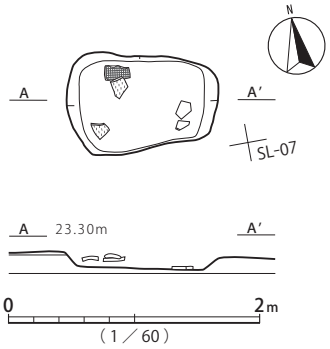
土坑 0096号



土坑 0133号



土坑 0135号

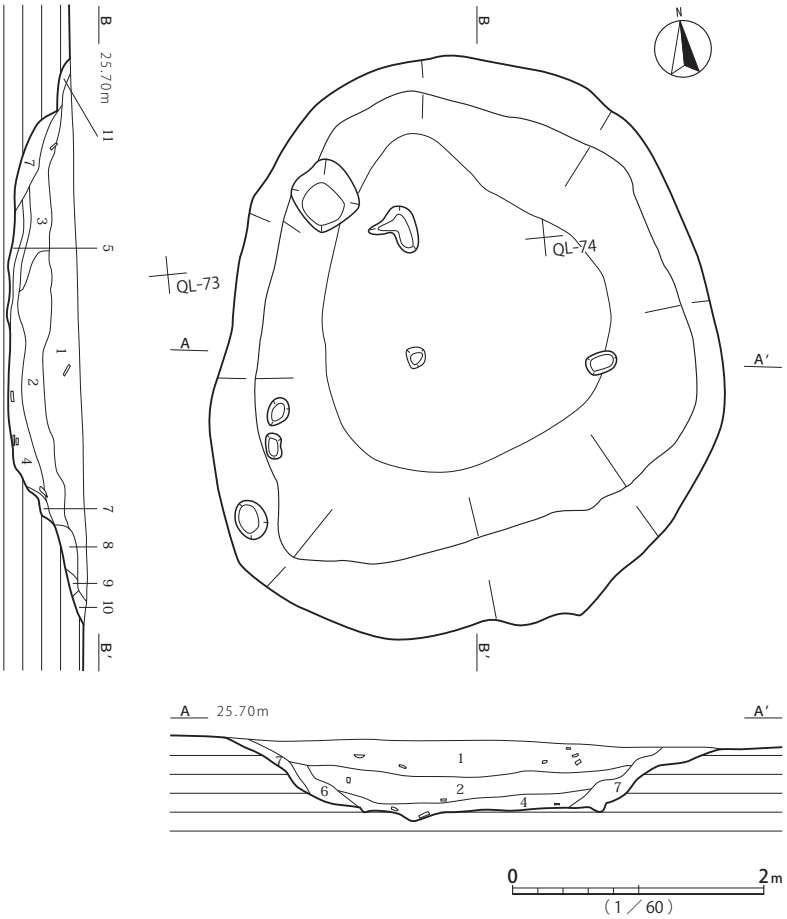


土坑 1368号



Fig.331　土坑0096号 遺構遺物、土坑0133号 遺構、土坑0135号 遺構、土坑1368号 遺構遺物

土坑 1372号



1　黒褐色土　ローム粒・暗褐色土を少量含み、
　　土器粉・炭化粒もわずかに混じる。
2　黒褐色土　炭化粒を少量含み、ローム粒・土器粉も
　　わずかに混じる。
3　黒褐色土　暗褐色土を多量に含み、ローム粒が少量、
　　炭化粒がわずかに混じる。
4　黒褐色土　暗褐色土を多量に含み、ローム粒・
　　炭化粒が少量、土器粉がわずかに混じる。
5　暗褐色土　ローム粒を多量に含み、炭化粒・
　　黒褐色土も少量混じる。
6　暗褐色土　黒褐色土・炭化粒をわずかに含み、
　　ローム粒も混じる。
7　暗褐色土　褐色土・ローム粒を少量含み、
　　下部に小ロームブロックがわずかに混じる。
8　暗褐色土　黒褐色土をわずかに含む。
9　褐色土
10　暗褐色土
11　暗褐色土　褐色土を含む。

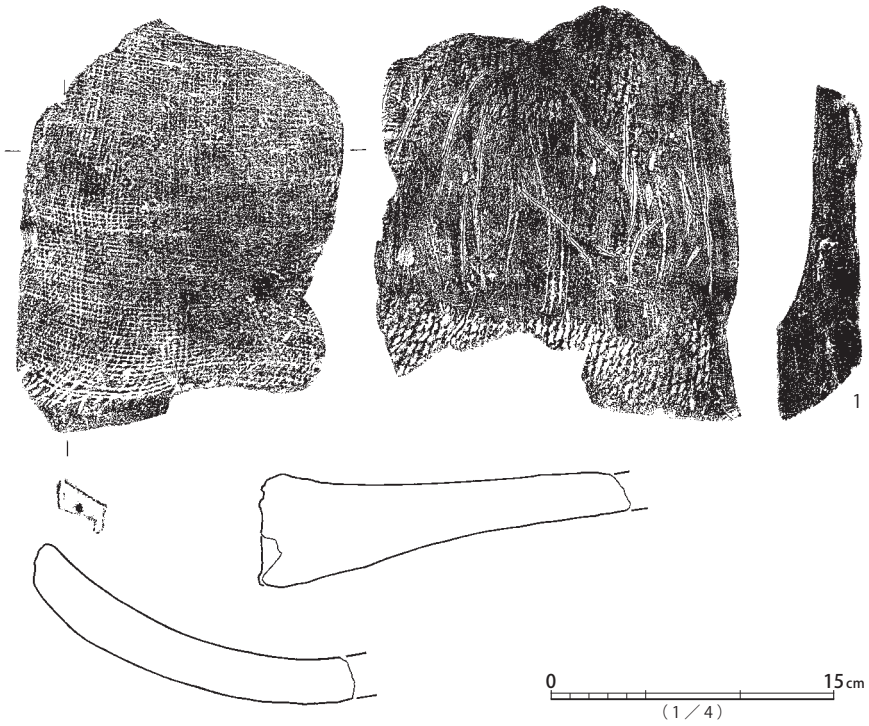


Fig.332　土坑1372号(1) 遺構遺物

土坑 1372 号

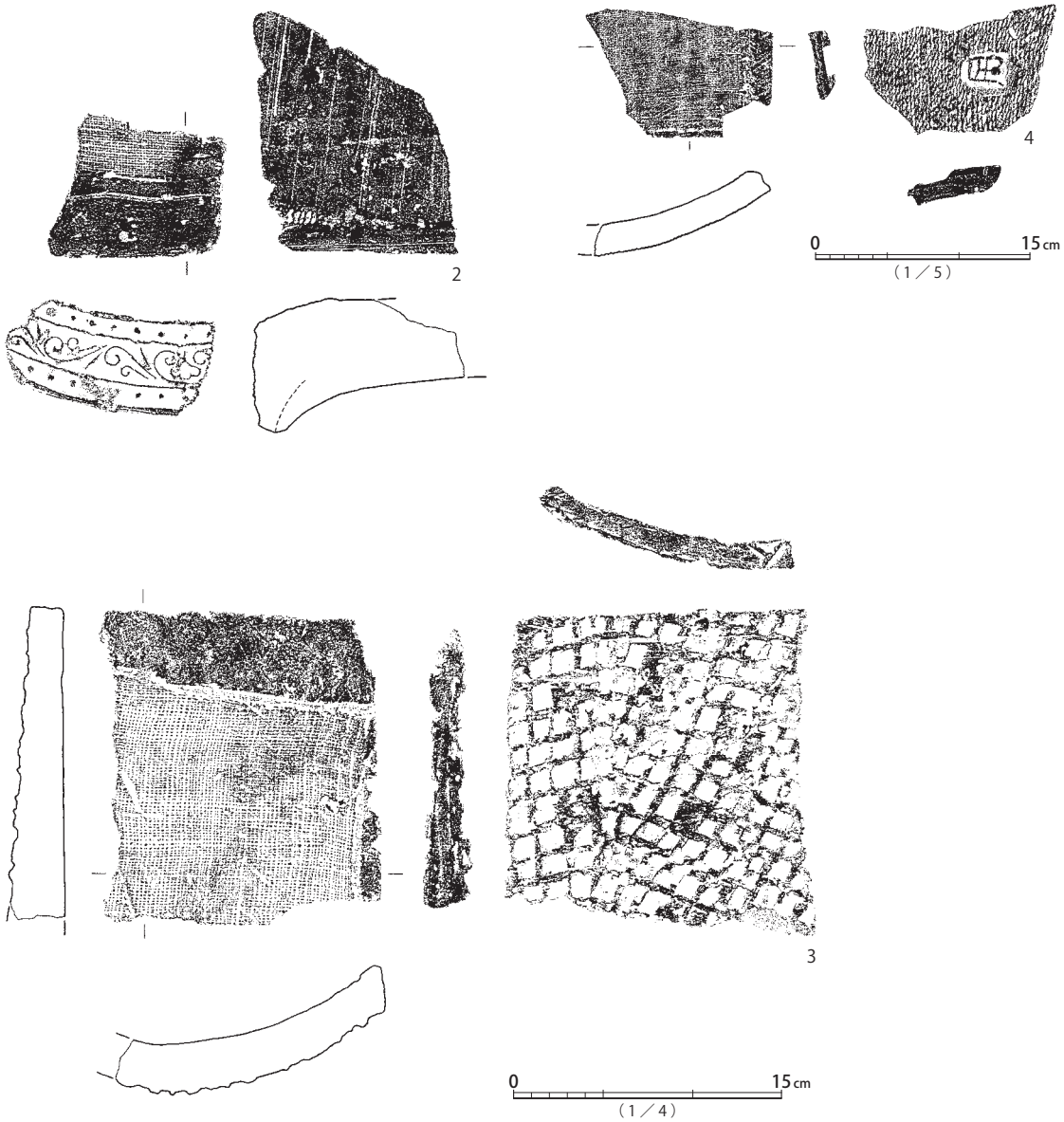


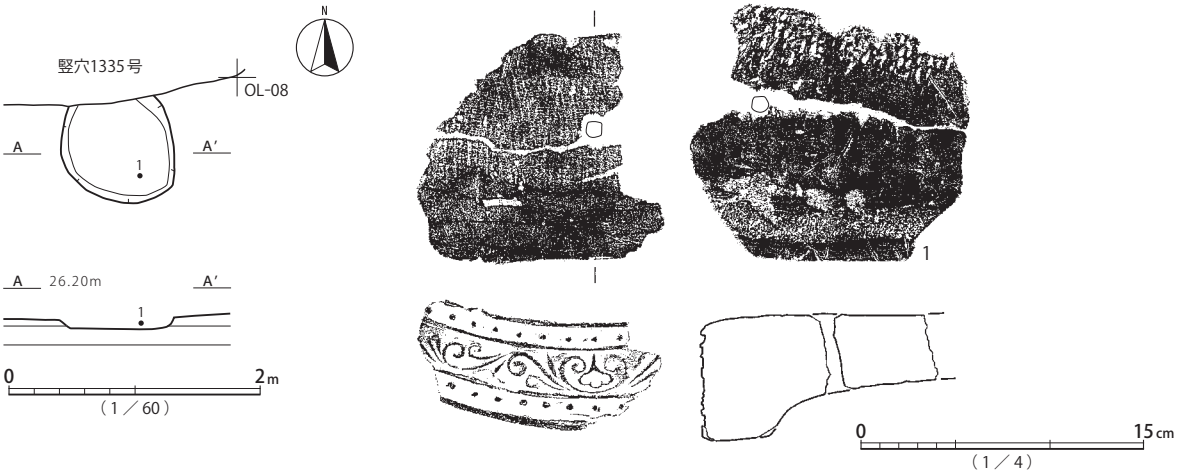
Fig.333　土坑1372号(2) 遺物

実測可能遺物は1の平瓦のみである。3個体以上の新治産須恵器甕片とともに底面から出土しており、礎板としての利用が考えられる。

土坑 1591 号 a・b　（Fig.336～338、PL.56・57）〔僧 I 第 401～405 図〕

aは北辺部RK−83、bは北辺部RK−73を中心に位置する。溝2204号と重複し、本遺構の方が古い。礎石建物3176号基壇構築用の土採跡と捉えられ、多量の土器類が検出されることから、廃棄土坑として利用されたことが考えられる。出土遺物には「西館」の墨書が記された土師器杯が含まれ、3176号を示しているものと考えられる。

土坑 1443号



土坑 1543号

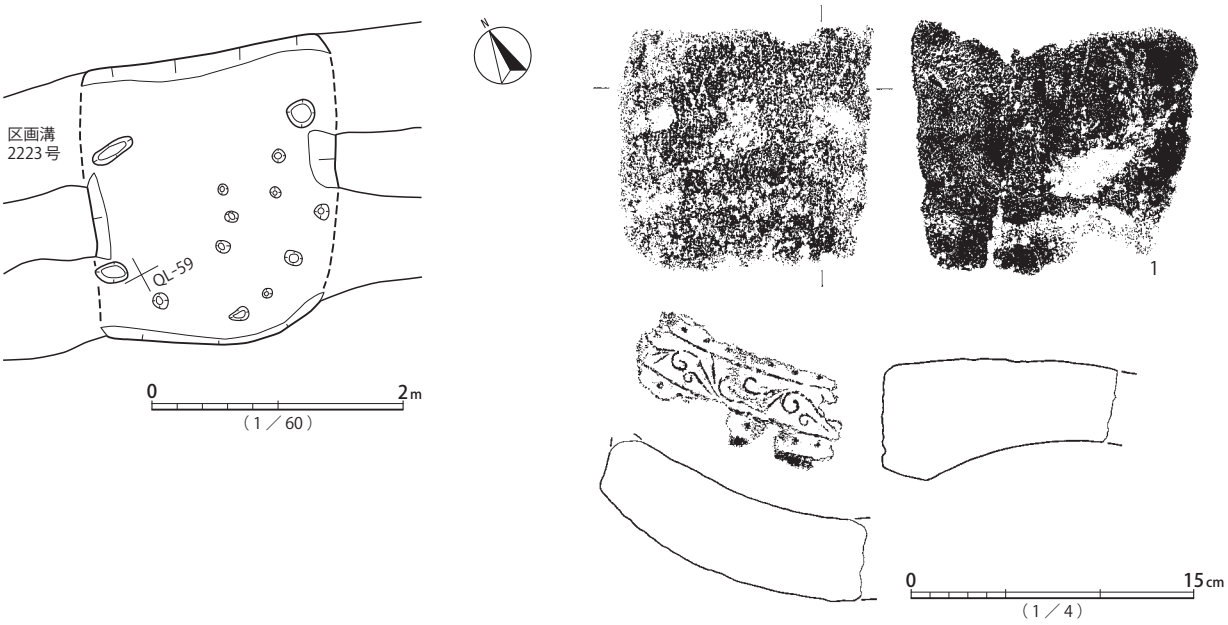
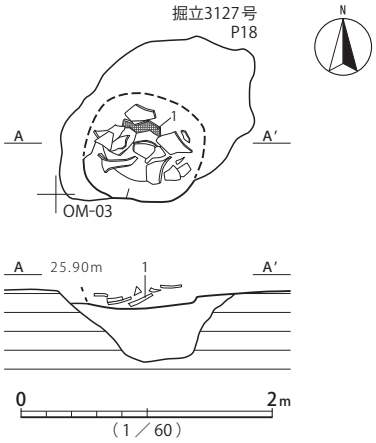


Fig.334　土坑1443号 遺構遺物、土坑1543号 遺構遺物

平面形態は、aは方形、bは楕円形を呈するものと思われる。遺構西側が調査区外に延びるため規模は明確でないが、南北長9.52mを測り、このうちbの範囲は5.04mである。確認面からの深さは、aが2.58ｍ、bが1.74mを測る。いずれも、僧寺編年III期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、aの1～3はI型式の均整唐草文軒平瓦で、1は瓦当面に対し、平瓦部が鋭角に取り付く。bの1・2はI型式の均整唐草文軒平瓦、4は平瓦、5は塼である。3は薄く扁平な瓦で、道具瓦と考えられるが、用途は不明である。このほか、a・bいずれの帰属か明確でないI型式の蓮華文軒丸瓦が1点出土している。なお、本遺構からは畔蒜郡に関連すると考えられる「畔」や「西館」の字が墨書で記された土師器杯が出土している。

土坑 1545 号





ph.1　出土状況 1



Fig.335　土坑1545号 遺構遺物・調査状況

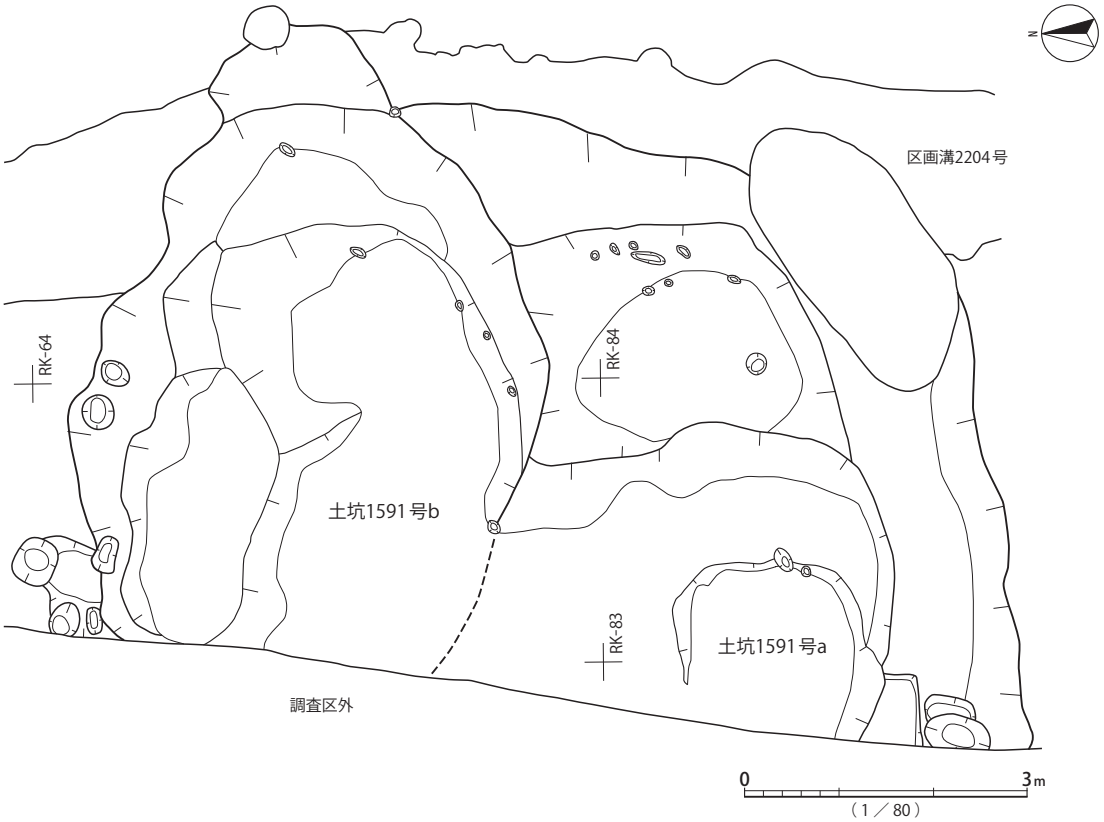
土坑 0416 号　（Fig.339）〔僧 I 第 1028・1029 図〕

西辺部NG−08を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は不整円形を呈し、規模は直径 1.20m、確認面からの深さは0.30mを測る。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

覆土中層から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

土坑 1591 号a･b



土坑 1591 号a

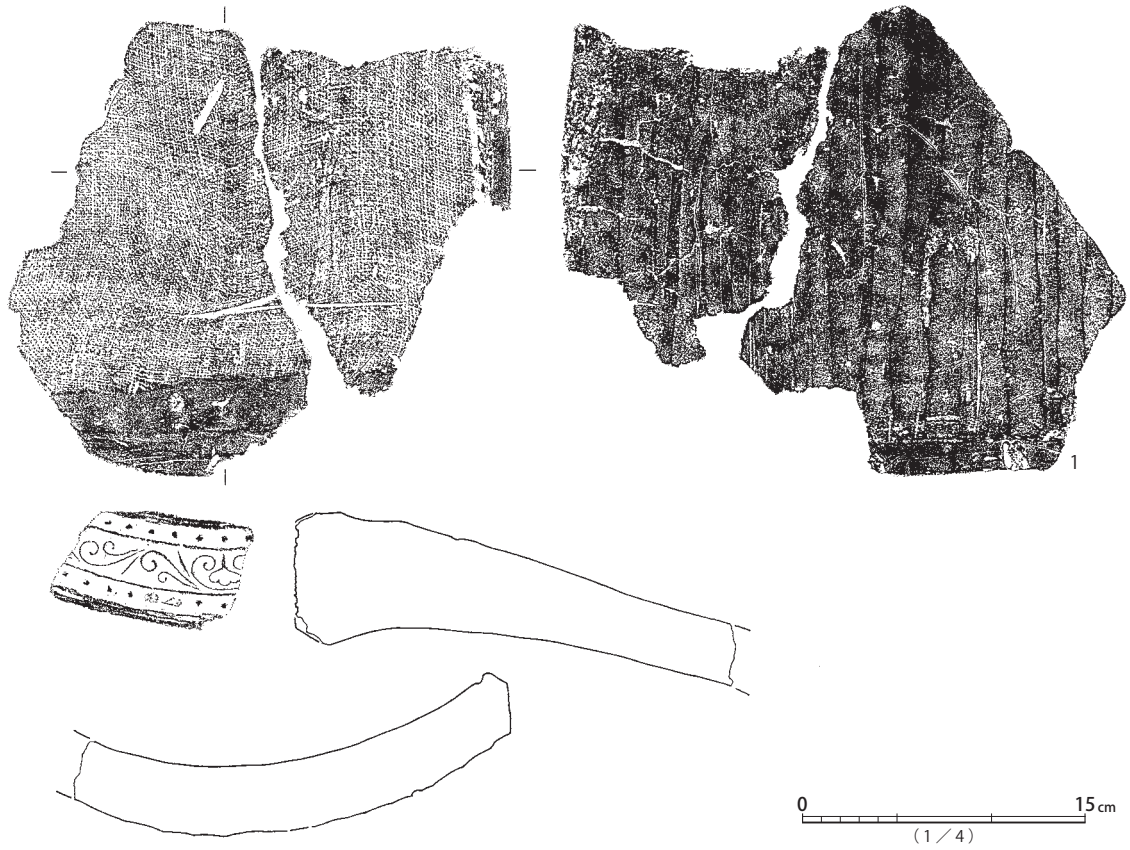


Fig.336　土坑1591号a(1) 遺構遺物、土坑1591号b(1) 遺構

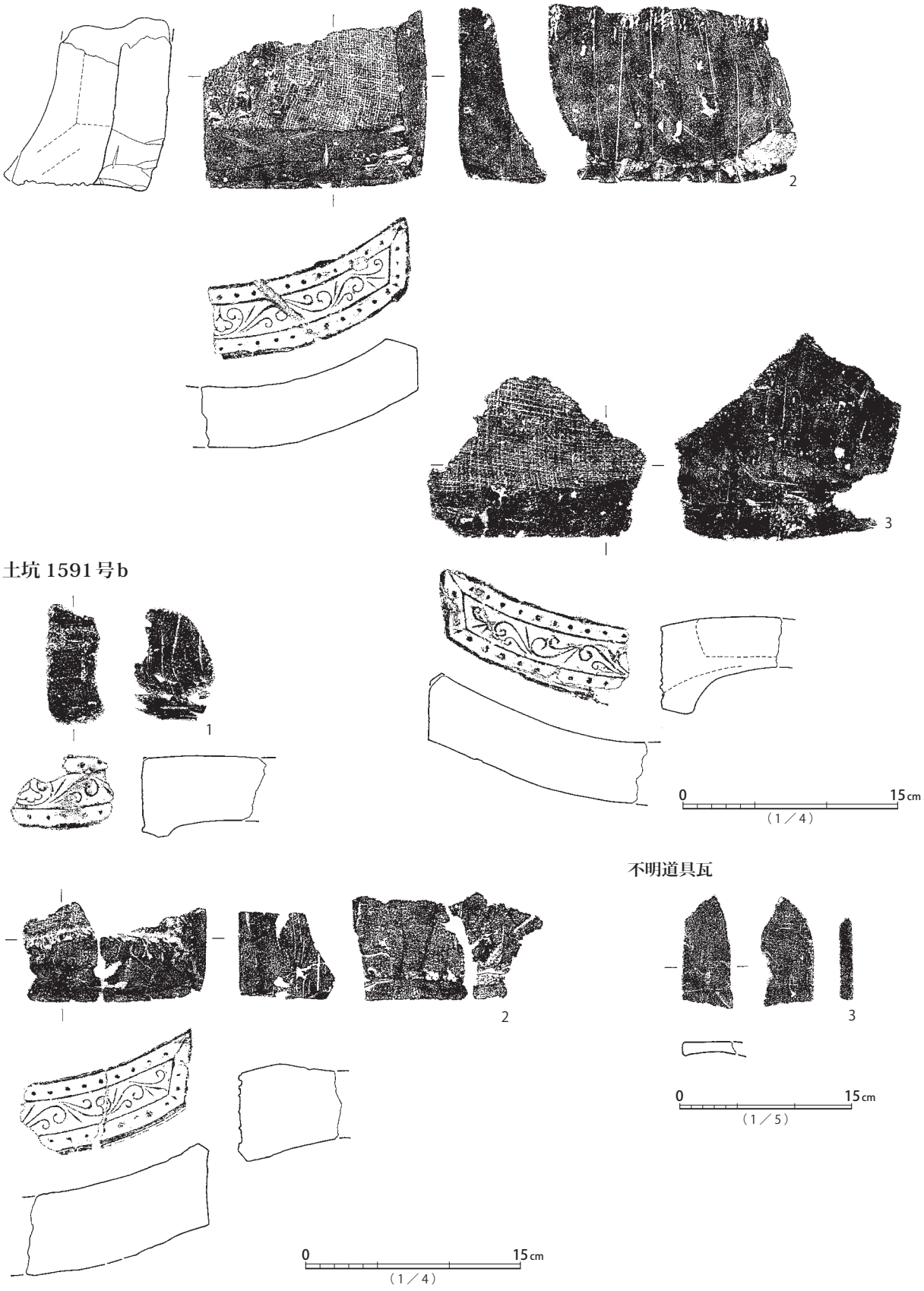
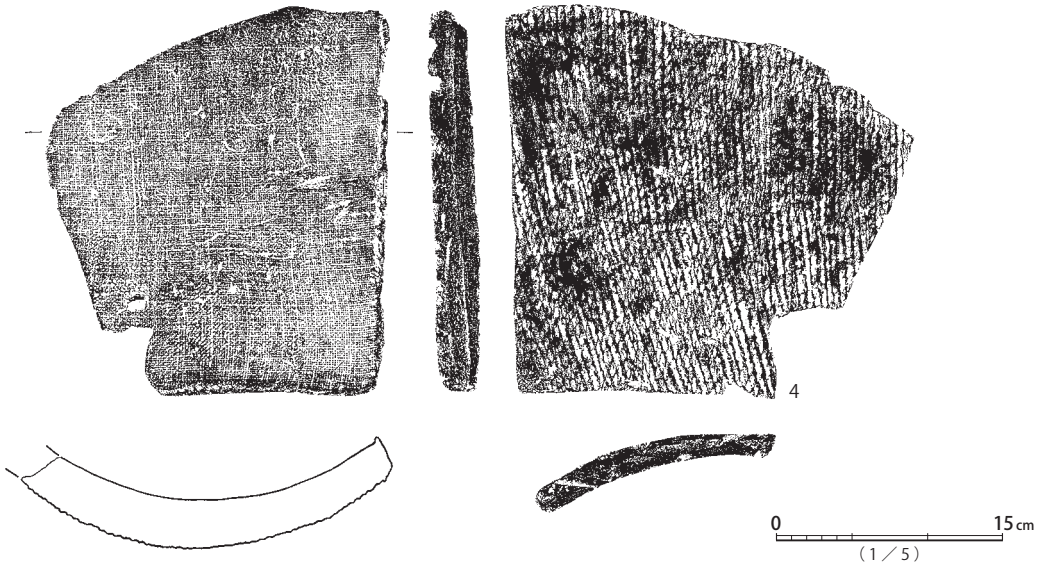


Fig.337　土坑1591号a(2) 遺物、土坑1591号b(2) 遺物

土坑 1591 号b



塼



土坑 1591 号a･b

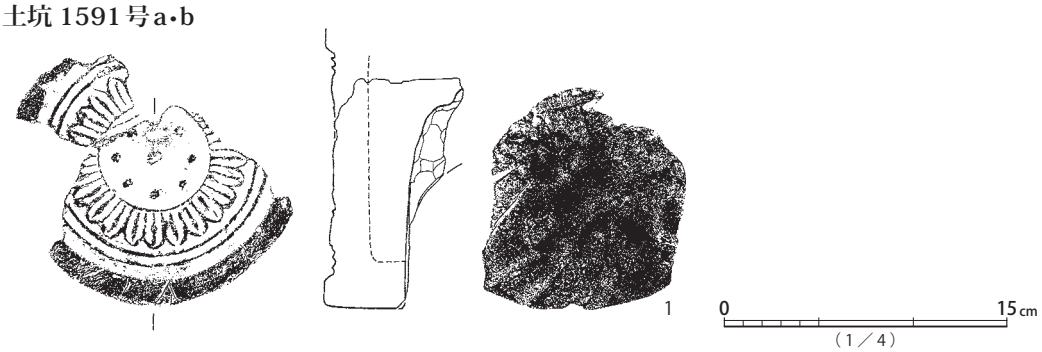


Fig.338　土坑1591号b(3) 遺物、土坑1591号a･b 遺物

土坑 0450 号　（Fig.339）〔僧 I 第 1062 図〕

西辺部MG−01を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は不整方形を呈するものと思われるが、遺構西側が調査区外に延びることから、明確でない。確認面からの深さは0.32mを測る。東辺壁を基準とした場合、主軸方位はN−3°−Eである。僧寺編年III期の所産と考えられる。

底面と壁面から瓦の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

土坑 0487 号　（Fig.339）〔僧 I 第 1065 図〕

西辺部MG−98に位置する。竪穴0477号（下層）と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は1.08×0.78m、確認面からの深さは0.60mを測る。主軸方位はN−22°−Eである。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

覆土中層から瓦がまとまって出土しているが、実測可能遺物として抽出されていない。

土坑 0665 号　（Fig.340）〔僧 I 第 727 図〕

東南部FM−87を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は方形を呈するものと思われるが、遺構西側が調査区外に延び、東辺壁も検出されないことから、明確でない。規模は南北長2.65m、確認面からの深さは0.13mを測る。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、出土レベルは明確でない。

土坑 0683 号　（Fig.340）〔僧 I 第 728・729 図〕

東南部JP−65を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長方形を呈し、規模は1.40×1.04m、確認面からの深さは0.30mを測る。主軸方位はN−60°−Wである。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

覆土中から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

土坑 0722 号　（Fig.340）〔僧 I 第 580・583 図〕

東南部HP−22を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は円形を呈し、規模は直径0.90m程度、確認面からの深さは0.50mを測る。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

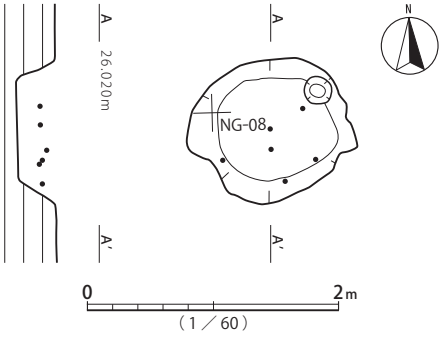
覆土中から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

土坑 0734 号　（Fig.341、PL.57）〔僧 I 第 592・593 図〕

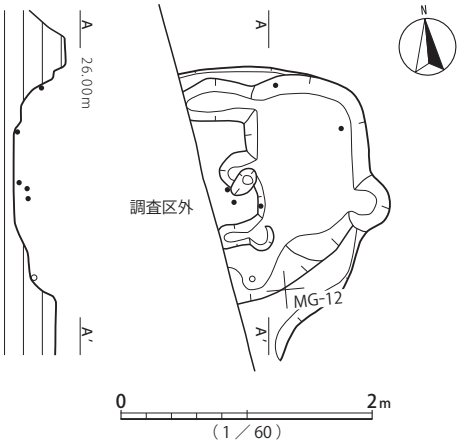
東南部HO−27を中心に位置する。掘立柱建物3043号、溝2047号と重複し、本遺構の方が3043号よりも新しく、2047号よりも古い。

平面形態は円形を呈し、規模は直径1.50m程度、確認面からの深さは0.29mを測る。僧寺編年IV−4期の所産と考えられる。

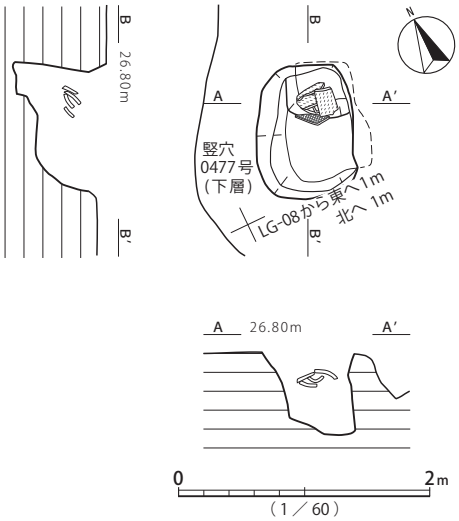
土坑 0416 号



土坑 0450 号



土坑 0487 号





ph.1　出土状況

Fig.339　土坑0416号 遺構、土坑0450号 遺構、土坑0487号 遺構・調査状況

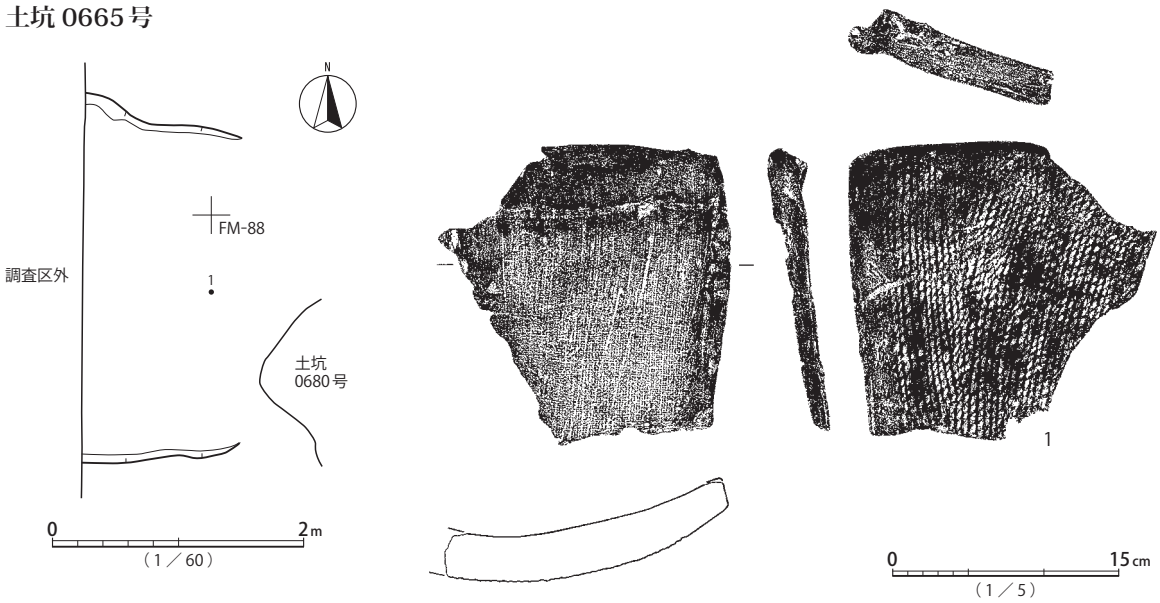
実測可能遺物は1の平瓦のみで、底面からの出土である。中央から縦方向に2つに割れており、ほぼ完形に復元される。一方は凸面を上、もう一方は凹面を上にした状態で検出されていることから、廃棄時には既に割れていたものと考えられる。

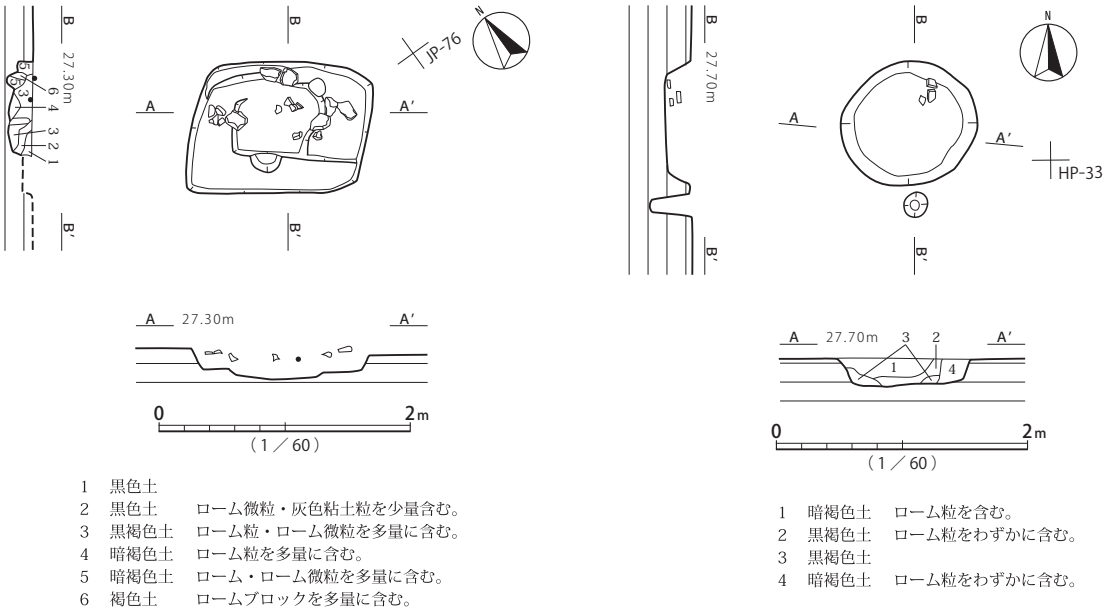
なお、本遺構からは灰釉長頸瓶のほか、土師器杯・椀類がまとまって出土しており、一括して廃棄された可能性が考えられる。

土坑 0763 号　（Fig.343）〔僧 I 第 576・579 図〕

東南部IO−30を中心に位置する。竪穴0762号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は楕円形を呈し、規模は1.06×0.88m、確認面からの深さは0.42mを測る。主軸方位はN−31°−Wである。僧寺編年VI期の所産と思われるが、重複する竪穴0762号と出土遺物が分離でき





1　黒色土
2　黒色土　　ローム微粒・灰色粘土粒を少量含む。
3　黒褐色土　ローム粒・ローム微粒を多量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。
5　暗褐色土　ローム・ローム微粒を多量に含む。
6　褐色土　　ロームブロックを多量に含む。

1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
3　黒褐色土
4　暗褐色土　ローム粒をわずかに含む。

Fig.340　土坑0665号 遺構遺物、土坑0683号 遺構、土坑0722号 遺構

ていない可能性があり、明確でない。

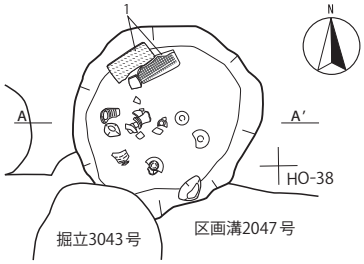
覆土上層から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

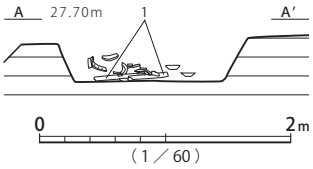
土坑 0766 号　（Fig.342・343、PL.57）〔僧Ⅰ第 742 図〕

東南部HO−22を中心に位置する。重複する区画溝2047号に伴うものと考えられ、2頭分のウマ下顎歯が遺存する、ウマ埋納土坑である。

平面形態は長楕円形を呈するものと思われるが、遺構西側が調査区外に延びるため、明確でない。

土坑 0734 号







ph.1　出土状況 1

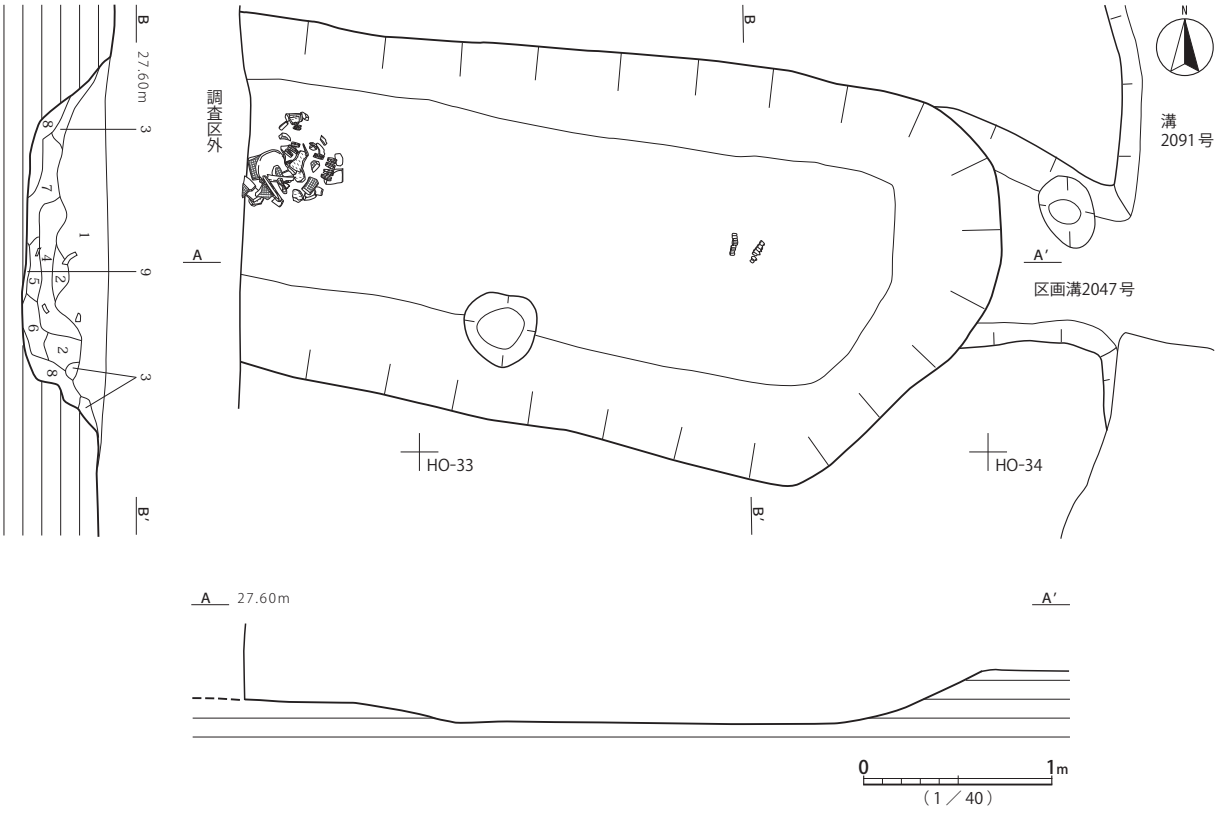


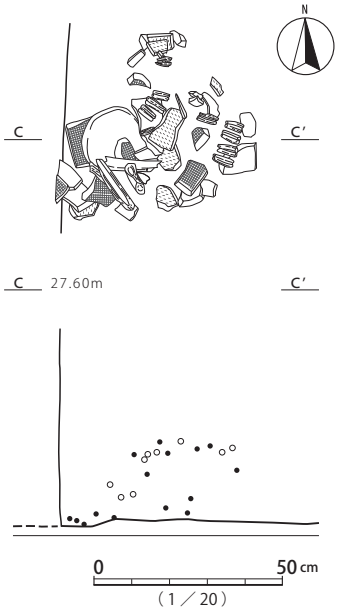
Fig.341　土坑0734号 遺構遺物・調査状況

規模は副軸長2.26m、確認面からの深さは0.46mを測る。主軸方位はN−81°−Wである。溝2047号との関係から、僧寺編年VII〜VIII期前半の所産と思われる。

ウマの歯や骨に混じって、覆土中層から下層にかけて瓦片が出土している。実測可能遺物は1・2の軒平瓦で、I型式の均整唐草文である。

土坑 0766号





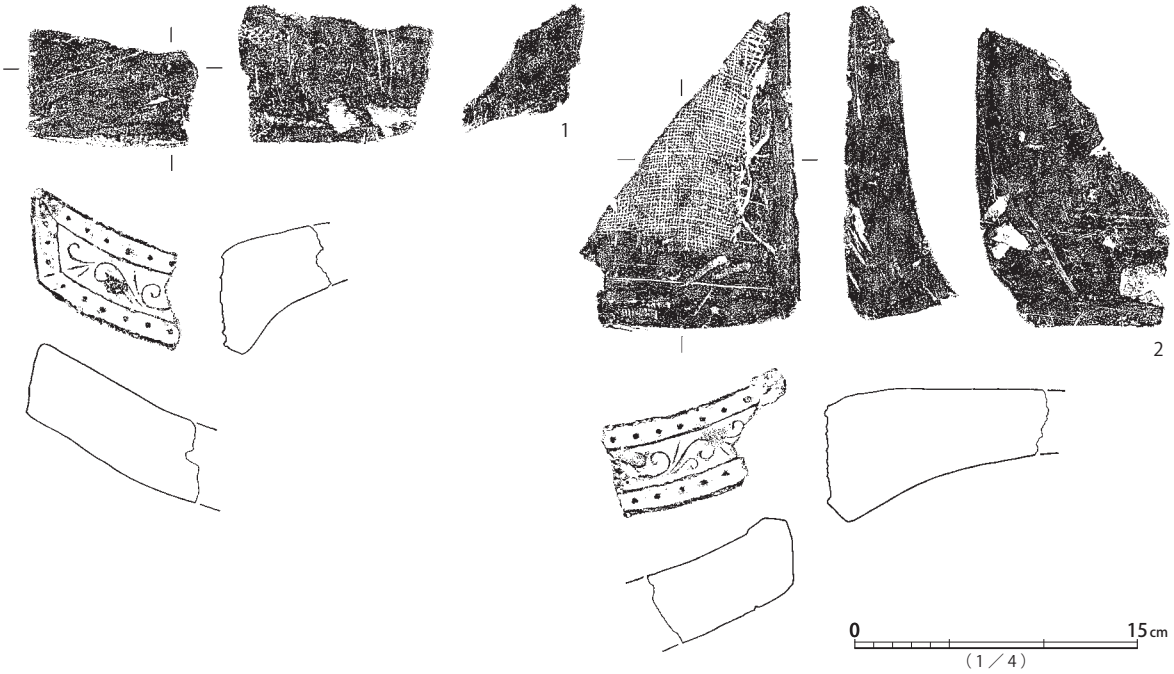


ph.1　出土状況

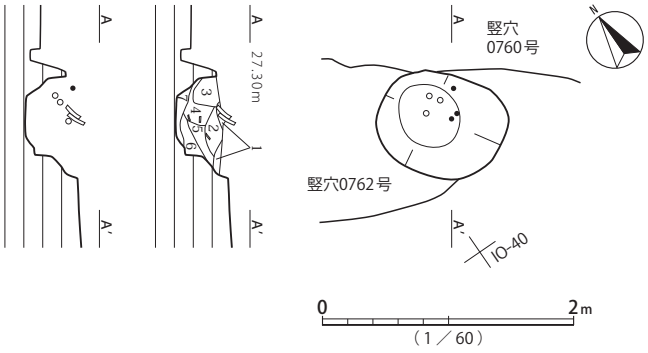
1　黒褐色土　　ローム微粒・瓦片・瓦粉を多量に含む。
2　黒褐色土　　焼土微粒・瓦粉を含む。
3　暗褐色土　　ソフトロームを多量に含む。
4　黒褐色土　　焼土微粒を含み、ローム粒も少量混じる。
5　黒褐色土　　焼土微粒を含む。
6　黒褐色土　　ローム粒を多量に含み、炭化粒も少量混じる。
7　黒褐色土　　焼土微粒・瓦粉を含み、炭化粒も少量混じる。
8　暗褐色土　　ソフトローム・粗いローム粒を多量に含む。
9　暗黄褐色土　ソフトローム・粗いローム粒を多量に含み、暗褐色土も多く混じる。

Fig.342　土坑0766号(1) 遺構・調査状況

土坑 0766 号



土坑 0763 号



1　暗褐色土　　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　　ローム粒を含む。
3　黒褐色土　　ローム粒・粘土粒・焼土粒を含む。
4　黒色土　　粘土微粒を少量含む。
5　黒褐色土　　ローム粒を多量に含み、粗いローム粒も少量混じる。
6　黒色土　　ローム微粒を多量に含み、粘土粒も少量混じる。
7　暗黄褐色土　暗褐色土とソフトロームの混合。

Fig.343　土坑0763号 遺構、土坑0766号(2) 遺物

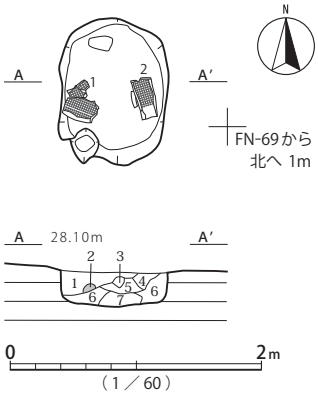
土坑 0814 号　（Fig.344、PL.58・216）〔僧 I 第 743 図〕

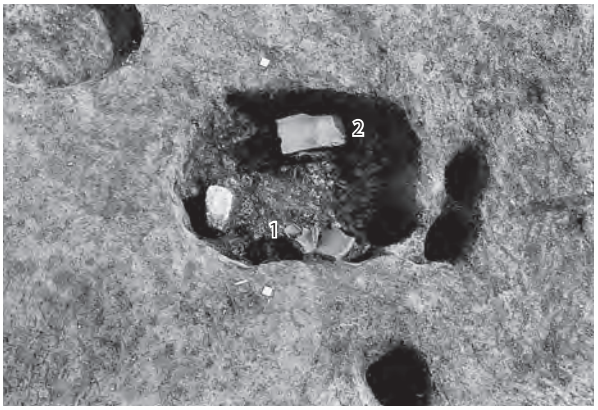
東南部FN−58に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は楕円形を呈し、規模は1.14×0.80m、確認面からの深さは0.27mを測る。主軸方位はN−2° −Wである。帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は、1は丸瓦、2は平瓦で、いずれも覆土中からの出土である。2の狭端面の欠損は円形で、人為的に行われた可能性もあるが、明確でない。

土坑 0814 号





ph.1　出土状況 1・2

1　黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
2　粘土
3　粘土　　黒褐色土との混合で、ローム粒が混じる。
4　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
5　褐色土　　ローム粒を多量に含む。
6　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。
7　黒褐色土　ローム粒を多量に含み、粘土粒もわずかに混じる。

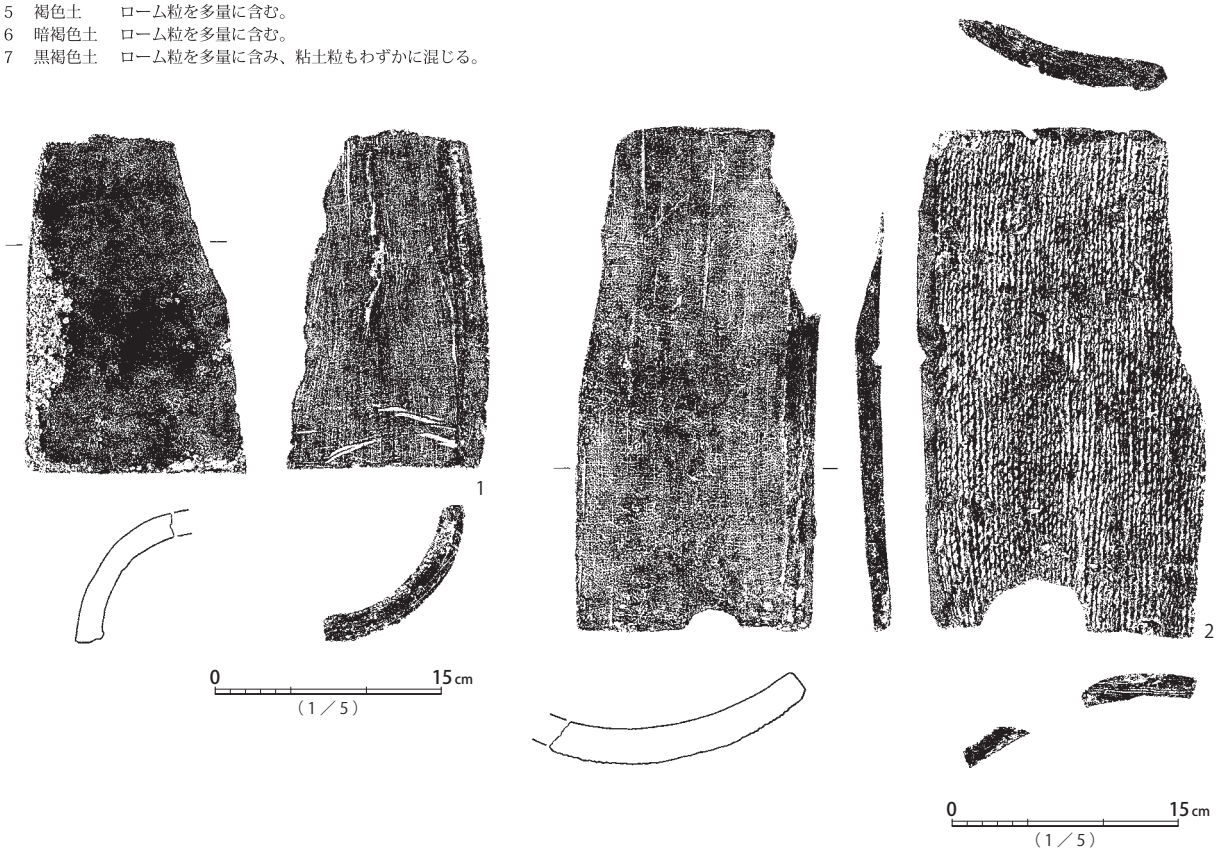


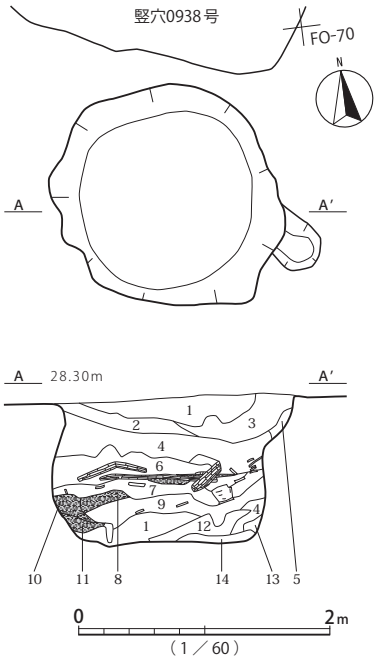
Fig.344　土坑0814号 遺構遺物・調査状況

土坑 0873 号　（Fig.345・346、PL.57・216）〔僧Ⅰ第 643～650 図〕

東南部FO−69に位置する。他遺構との重複はない。覆土中からは炭化材・炭化穀物のほか、年代幅を持つ土師器・須恵器・灰釉陶器などの土器類、大型の釘を主体とする鉄製品類、詳細不明な銅製品類が多数出土しており、主要伽藍の一部や倉庫施設が焼失した後の廃棄土坑と捉えられている。

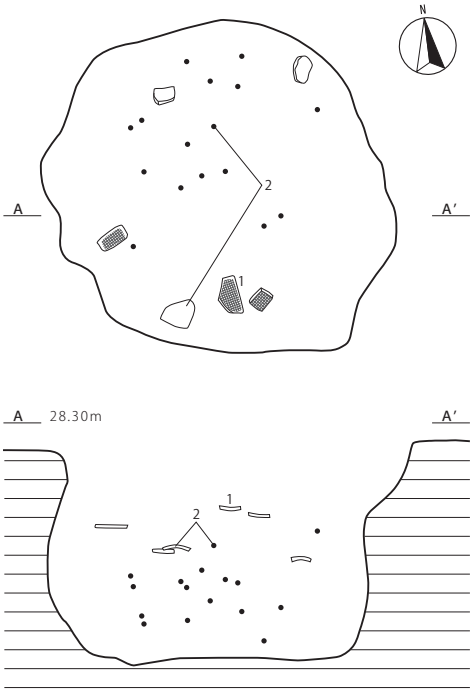
平面形態は不整円形を呈し、規模は直径1.70m程度、確認面からの深さは1.15mを測る。僧寺編年X期の所産と考えられる。

土坑 0873号



1	褐色土	ロームブロック・ローム粒を含む。
2	褐色土	ローム粒を含む。
3	暗褐色土	ロームブロックをわずかに含む。
4	暗褐色土	ローム粒を含む。
5	褐色土	ソフトローム・暗褐色土を含む。
6	暗褐色土	ロームブロックとの混合。
7	暗褐色土	焼土・炭を多量に含む。
8	炭化物	暗褐色土・焼土を含む。
9	暗褐色土	焼土・炭化物を多量に含む。
10	炭化物	焼土を多く含む。
11	炭化物	焼土との混合。
12	ロームブロック	暗褐色土を含む。
13	ロームブロック	
14	暗褐色土	粒子細かい。

瓦分布



土器・金属器分布

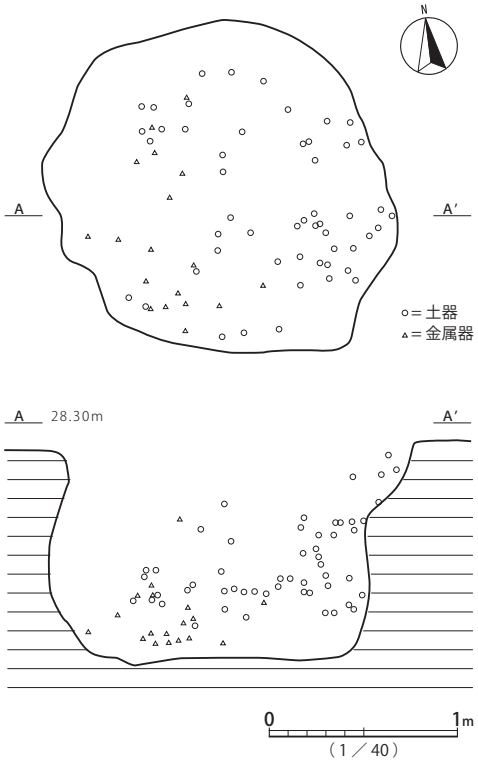


Fig.345　土坑0873号(1) 遺構

土坑 0873 号



Fig.346　土坑0873号(2) 遺物

実測可能遺物は1・2の平瓦である。1の凸面には幅の狭い工具による縄叩き目が残り、凹面狭端側には指頭圧痕が認められる。2の凸面は縦方向のヘラナデののち、方形の叩き板縁辺部痕を残す「花」模様のスタンプ文が押印される。

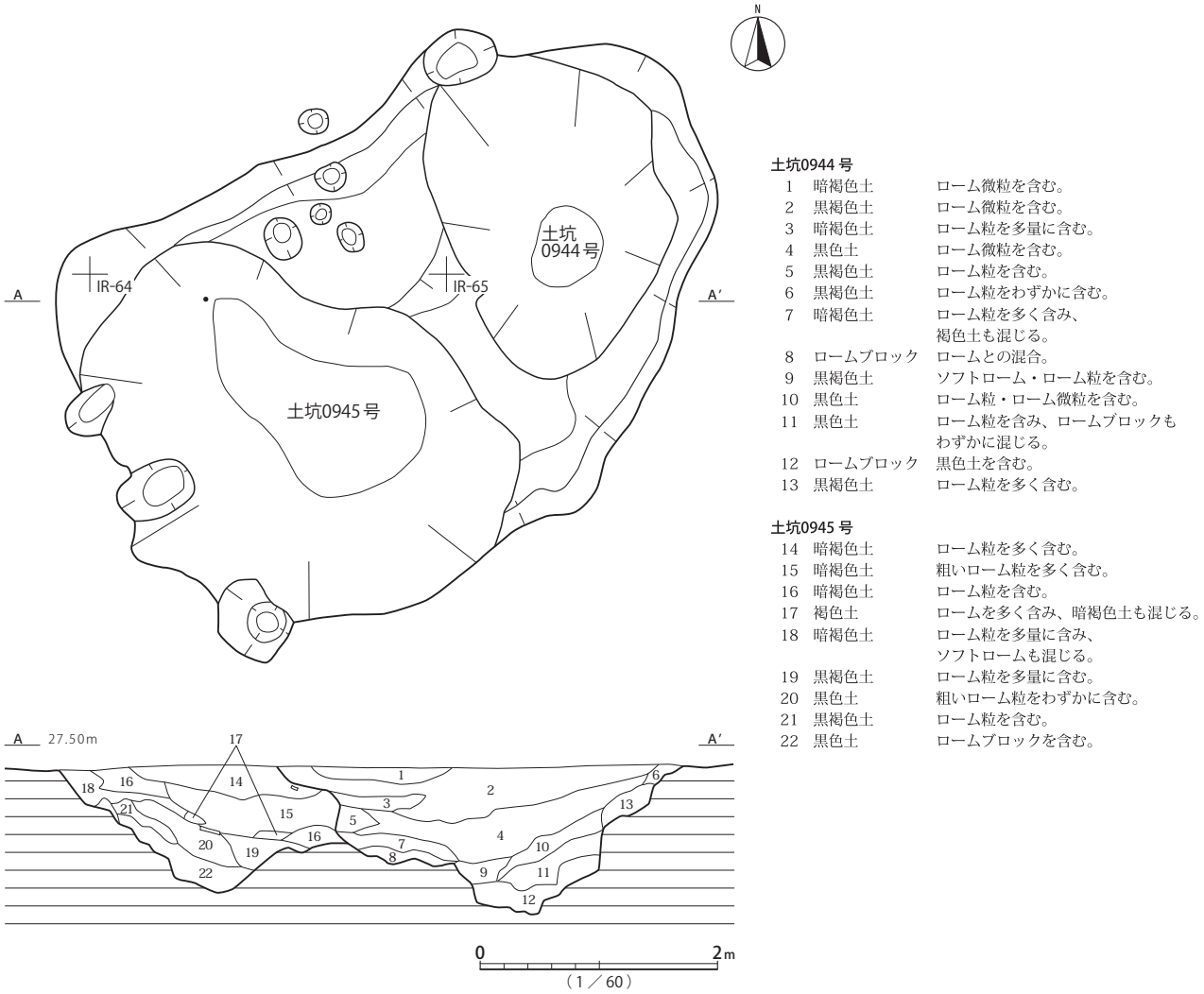
土坑 0944・0945 号　（Fig.347・348、PL.58）〔僧 I 第 684・685 図〕

土坑0944号は東南部IR−55、土坑0945号は東南部IR−64を中心に位置する。新旧関係は、0944号の方が0945号よりも新しい。

平面形態は、いずれも不整楕円形を呈する。規模は0944号が3.90×3.40m程度、0945号が長軸4.27m程度、確認面からの深さは0944号が1.22m、0945号が1.01mを測る。主軸方位は0944号がN−1°−W、0945号がN−32°−Wである。いずれも僧寺編年X期の所産と考えられる。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、0944号からの出土である。凸面にも部分的に布目痕が認められる。

土坑 0944・0945 号



土坑0944 号

1	暗褐色土	ローム微粒を含む。
2	黒褐色土	ローム微粒を含む。
3	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。
4	黒色土	ローム微粒を含む。
5	黒褐色土	ローム粒を含む。
6	黒褐色土	ローム粒をわずかに含む。
7	暗褐色土	ローム粒を多く含み、褐色土も混じる。
8	ロームブロック	ロームとの混合。
9	黒褐色土	ソフトローム・ローム粒を含む。
10	黒色土	ローム粒・ローム微粒を含む。
11	黒色土	ローム粒を含み、ロームブロックもわずかに混じる。
12	ロームブロック	黒色土を含む。
13	黒褐色土	ローム粒を多く含む。

土坑0945 号

14	暗褐色土	ローム粒を多く含む。
15	暗褐色土	粗いローム粒を多く含む。
16	暗褐色土	ローム粒を含む。
17	褐色土	ロームを多く含み、暗褐色土も混じる。
18	暗褐色土	ローム粒を多量に含み、ソフトロームも混じる。
19	黒褐色土	ローム粒を多量に含む。
20	黒色土	粗いローム粒をわずかに含む。
21	黒褐色土	ローム粒を含む。
22	黒色土	ロームブロックを含む。

Fig.347　土坑0944号(1) 遺構、土坑0945号 遺構

土坑 0966 号　（Fig.348）〔僧 I 第 658・659 図〕

東南部EQ−24を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は楕円形を呈し、規模は1.34×1.18m、確認面からの深さは0.32mを測る。僧寺編年XII期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2は丸瓦、3は平瓦である。2の凸面には細かい原体の縄叩き目が残り、南田1号ないし4号窯の製品と考えられる。3の凸面には格子叩き目が残り、部分的に布目痕も認められる。

土坑 1060 号　（Fig.349、PL.58）〔僧 I 第 693 図〕

東南部JQ−49に位置する。他遺構との重複はないが、西側壁はわずかに撹乱を受ける。

平面形態は方形気味の楕円形を呈し、規模は長軸長1.45m、確認面からの深さは0.24mを測る。主軸方位はN−2°−Wである。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

土坑 0944 号



土坑 0966 号

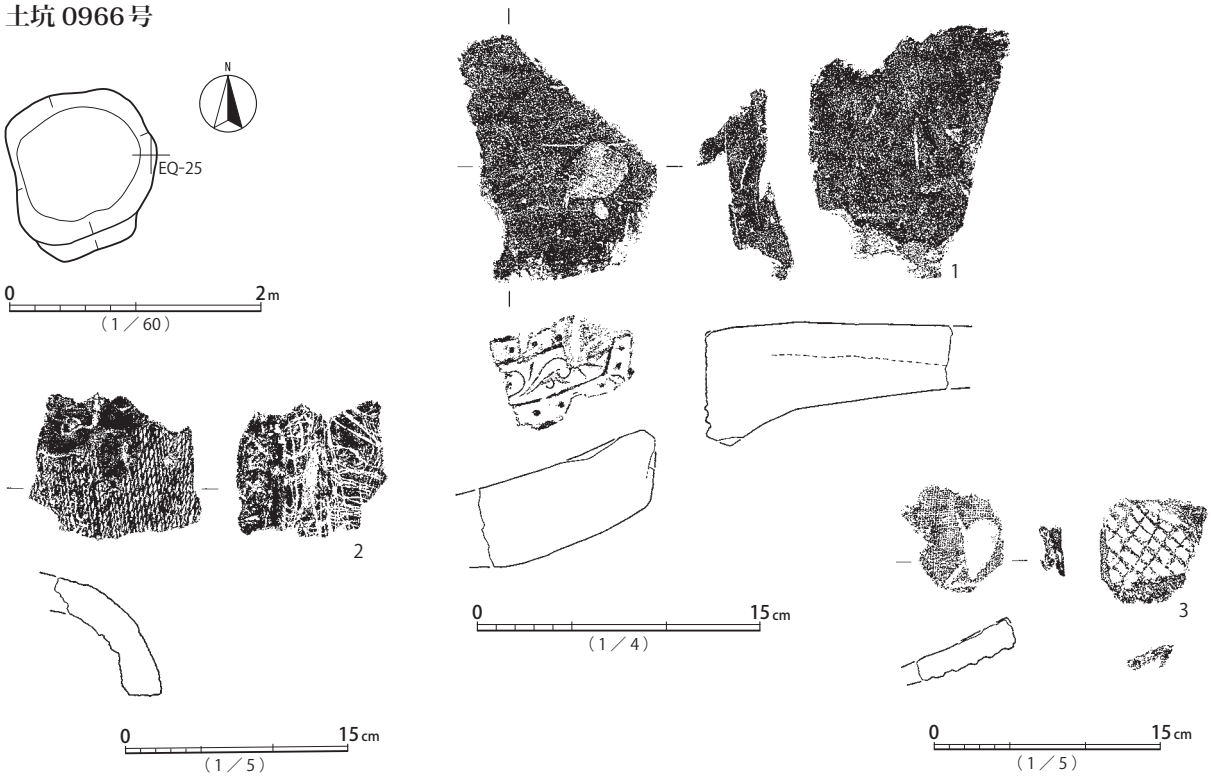


Fig.348　土坑0944号(2) 遺物、土坑0966号 遺構遺物

実測可能遺物は1の平瓦のみである。

土坑 1061 号　（Fig.349）〔僧 I 第 693 図〕

東南部JQ−48を中心に位置する。溝2128号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

撹乱により遺構西側が検出されないが、平面形態は長楕円形を呈するものと考えられる。規模は短軸長1.42m、確認面からの深さは0.16mを測る。主軸方位はN−87°−Eである。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、凹面には細かい布目痕が残る。

土坑 1080 号　（Fig.349、PL.58）〔僧 I 第 658・659 図〕

東南部FQ−94に位置する。竪穴0912・0913号と重複する。0913号の床硬化面を本遺構が切っているものと考えられるが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は楕円形を呈し、規模は1.63×1.38m、確認面からの深さは0.33mを測る。主軸方位はN−35°−Eである。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の平瓦のみで、北東壁面からの出土である。凸面には縄叩き目が残り、狭端縁に「周」の文字が押印される。文字はやや縦長で、口が土と接しており、東南部竪穴0693号から多数検出された「周」の文字スタンプとは字体が異なる。

土坑 0807 号　（Fig.350）〔僧 I 第 894・895 図〕

南辺部HK−73を中心に位置する。道路2134号と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形態は長楕円形を呈し、規模は3.52×2.26m、確認面からの深さは0.64mを測る。主軸方位はN−86°−Wである。僧寺編年VII期の所産と考えられる。

覆土中から多量の瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

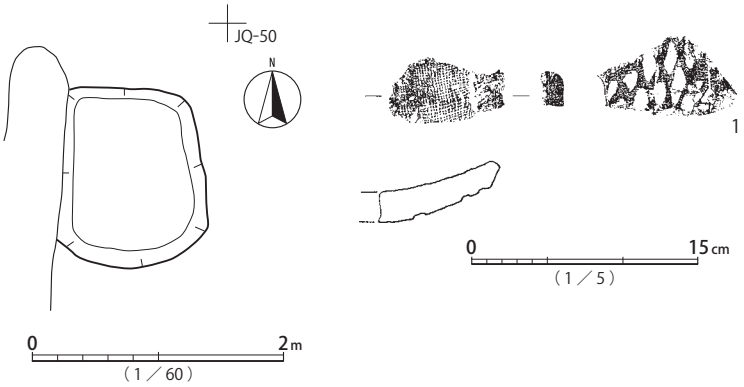
土坑 0808 号　（Fig.351・352、PL.58）〔僧 I 第 894・895 図〕

南辺部HK−83を中心に位置する。瓦溜1900号と一部重複するものと考えられるが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

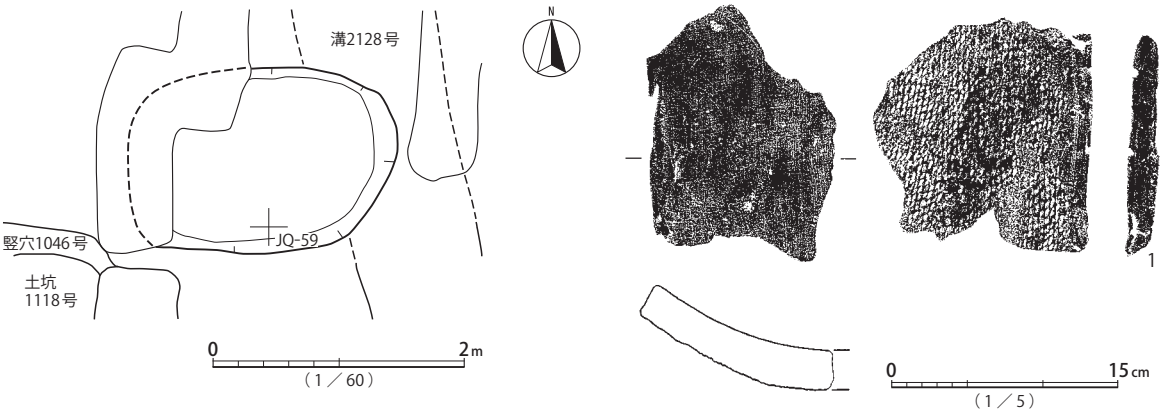
平面形態は不整方形を呈し、底面には不規則な凹凸が認められる。規模は3.68×3.38m、確認面からの深さは0.34mを測る。主軸方位はN−36°−Eである。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でないが、瓦溜1900号と同時期の僧寺編年IV−4期、あるいは近接する土坑0807号と同時期の僧寺編年VII期の所産と考えられようか。

覆土下層から多量の瓦片が検出されている。実測可能遺物は、1〜3はI型式、4はIII型式の均整唐草文軒平瓦である。3は凸面顎部にのみ縄叩き目が残される。4は直線顎で、凸面には格子叩き目が残る。

土坑 1060号



土坑 1061号



土坑 1080号

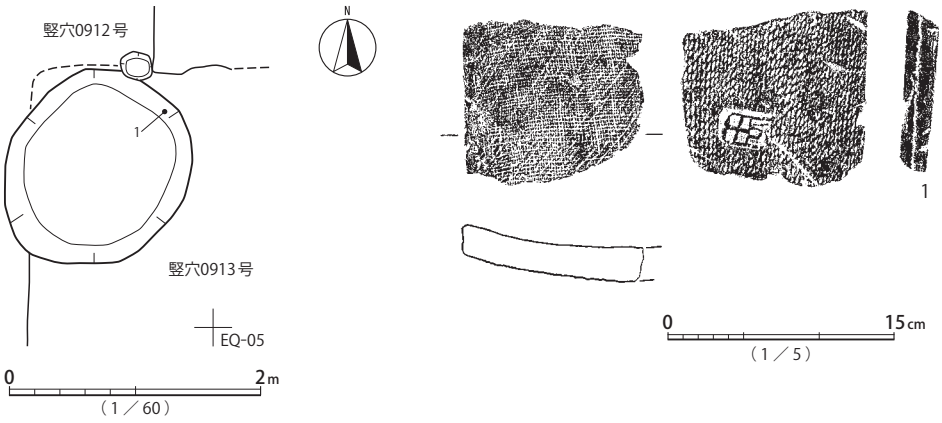
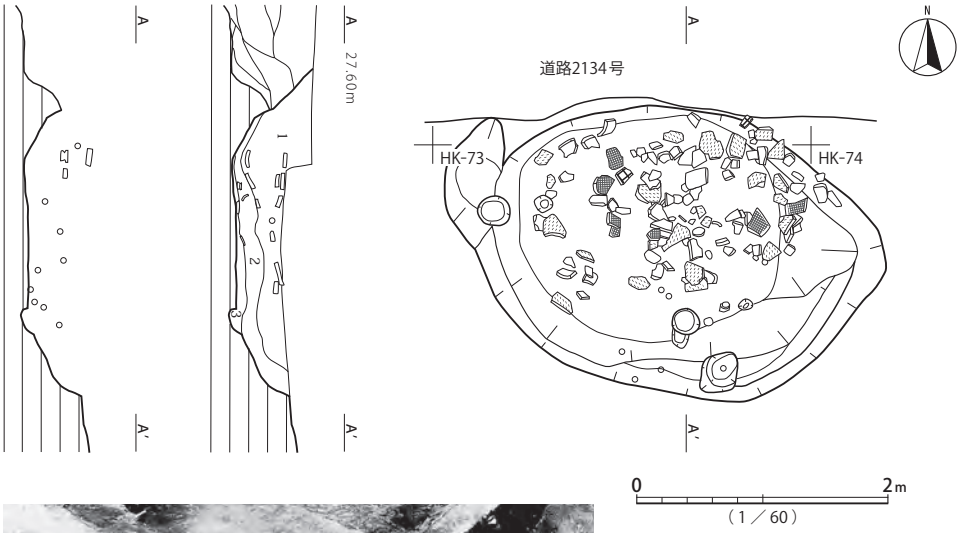


Fig.349　土坑1060号 遺構遺物、土坑1061号 遺構遺物、土坑1080号 遺構遺物

土坑 0807 号





ph.1　出土状況

1　黒褐色土　焼土粒を含む。粒子粗い。
2　黒褐色土　ローム粒・粘土粒・焼土微粒・黒色粒を含む。硬くしまる。
3　暗褐色土　粗いローム粒との混合。しまりなし。

Fig.350　土坑0807号 遺構・調査状況

土坑 1153 号　（Fig.353・354、PL.59）〔僧 I 第 896 図〕

南辺部EJ−06に位置する。方形区画溝1160号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は不整円形を呈し、規模は10.20×7.50m、確認面からの深さは2.10mを測る。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でないが、隣接する土坑1154〜1159号とほぼ同時期で、僧寺編年XI〜XII期の所産と思われる。

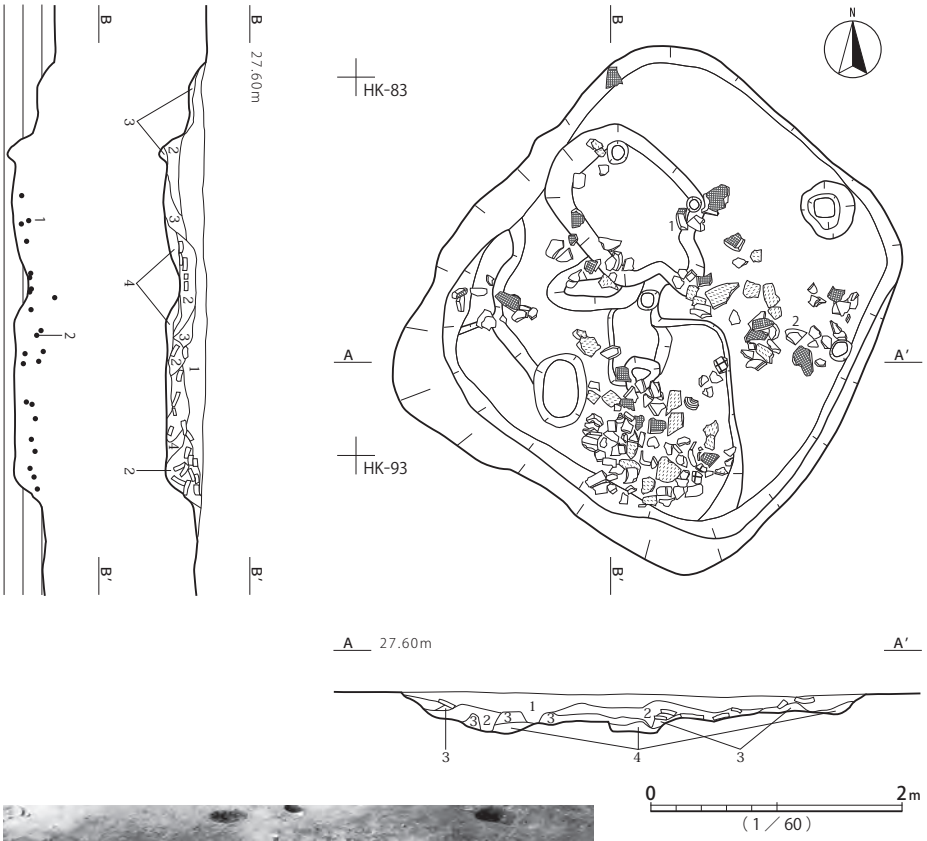
実測可能遺物は、1はI型式の蓮華文軒丸瓦、2はVIII型式の重圏文軒平瓦、3は平瓦である。3の凸面には、東南部土坑1080号から出土したものと同じく、土と口が接するタイプの「周」の文字が押印される。

土坑 1154 号　（Fig.353・354、PL.59）〔僧 I 第 899 図〕

南辺部EJ−39を中心に位置する。道路2411号と重複し、本遺構の方が古い。土坑1155〜1159号とともに方形区画溝1160号によって囲繞され、土採跡と考えられる。

平面形態は長楕円形を呈し、規模は14.05×10.70m、確認面からの深さは2.55mを測る。主軸方

土坑 0808 号





1　黒色土　　ローム微粒を少量含む。しまりなし。
2　黒褐色土　暗褐色土との混合で、焼土粒を多量に含む。
3　暗褐色土　ロームとの混合。硬くしまる。
4　黄褐色土　ソフトローム・暗褐色粒を含む。

ph.1　出土状況 1・2

Fig.351　土坑0808号(1) 遺構・調査状況

位はN−0° である。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でないが、隣接する土坑群と同様に、僧寺編年XI〜XII期の所産と思われる。

実測可能遺物は1・2の軒平瓦で、1はI型式の均整唐草文、2はV型式の唐草文である。1は段顎で、凹面に細かい布目痕を残し、瓦当面寄りに穿孔が施されるタイプと考えられる。2は直線顎で、著しく退化した唐草文の周囲に大粒の珠文をめぐらす。南辺部の遺構外からも細片が出土している（Fig.691−20）が、他に類例を見出すことができない文様である。

土坑 0808 号

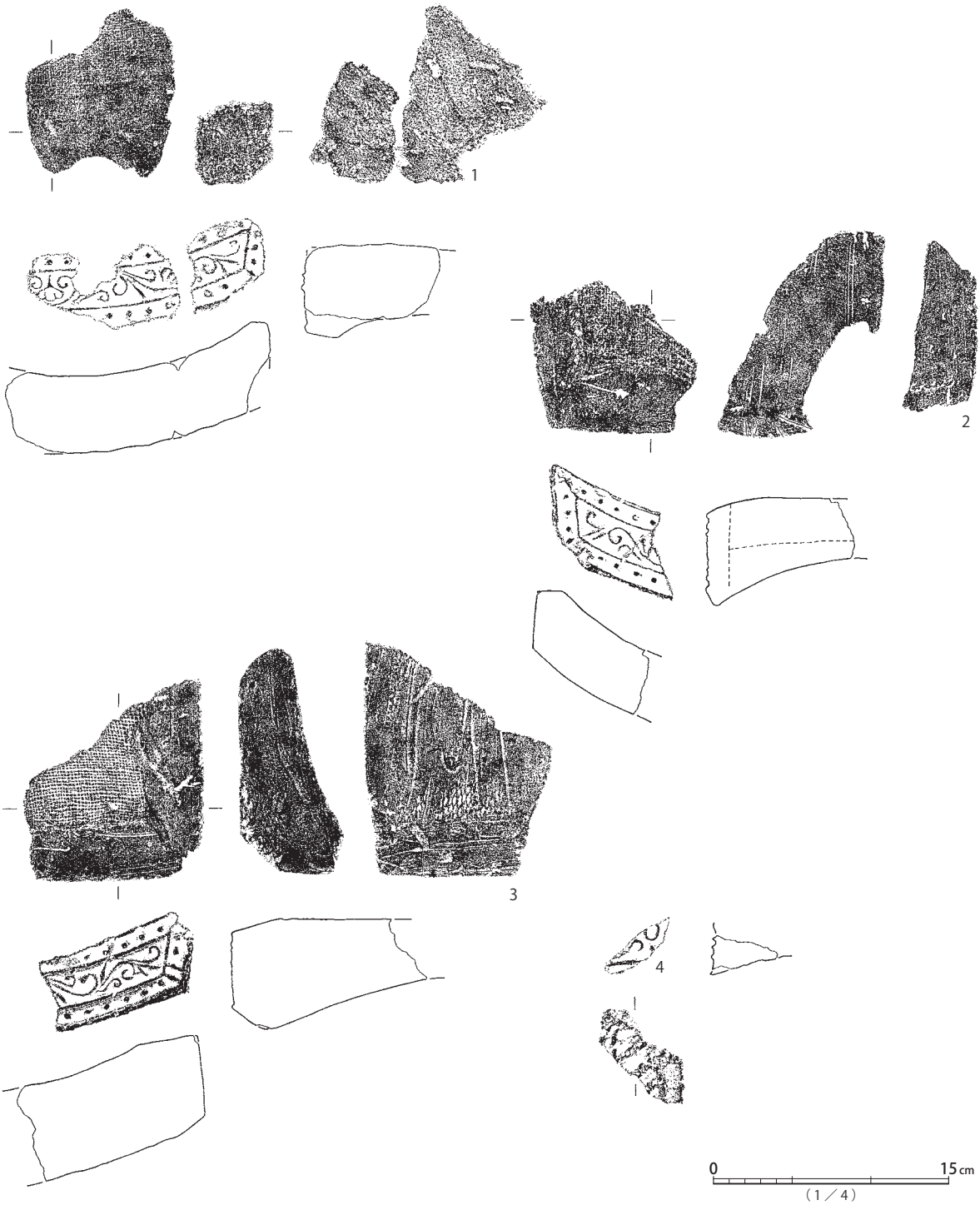


Fig.352　土坑0808号(2) 遺物

土坑 1157 号　（Fig.353～355、PL.59）〔僧 I 第 900 図〕

南辺部EK−03を中心に位置する。土坑1155・1156・1158・1159号とともに形成される大型土採跡の一部で、方形区画溝1160号によって囲繞される。

平面形態は長楕円形を呈し、規模は4.50×3.40m、確認面からの深さは1.50mを測る。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でないが、隣接する土坑群と同様に、僧寺編年XI～XII期の所産と思われる。

実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2はI型式の蓮華文軒丸瓦である。

土坑 1159 号　（Fig.353・355、PL.59・216）〔僧 I 第 901 図〕

南辺部EK−32を中心に位置する。土坑1155～1158号とともに形成される大型土採跡の一部で、方形区画溝1160号によって囲繞される。

平面形態は不整長楕円形を呈し、規模は10.50×8.00m程度、確認面からの深さは3.30mを測る。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でないが、隣接する土坑群と同様に、僧寺編年XI～XII期の所産と思われる。

実測可能遺物は、1はI型式の蓮華文軒丸瓦、2は平瓦である。

土坑 1162 号　（Fig.356）〔僧 I 第 856 図〕

南辺部HL−80を中心に位置する。土坑1161・1170号と接するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は長方形を呈するものと思われるが、遺構東側が調査区外に延びるため、明確でない。規模は短軸長1.44m、確認面からの深さは0.62mを測る。主軸方位はN−82°−Wである。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみで、I型式の均整唐草文である。

土坑 1170 号　（Fig.356）〔僧 I 第 856 図〕

南辺部HL−79を中心に位置する。土坑1162号と接するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は長楕円形を呈し、規模は1.14×0.66m、確認面からの深さは0.45mを測る。主軸方位はN−30°−Eである。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の軒平瓦のみである。X型式の重圏文で、直線顎の凸面には縄叩き目が残る。

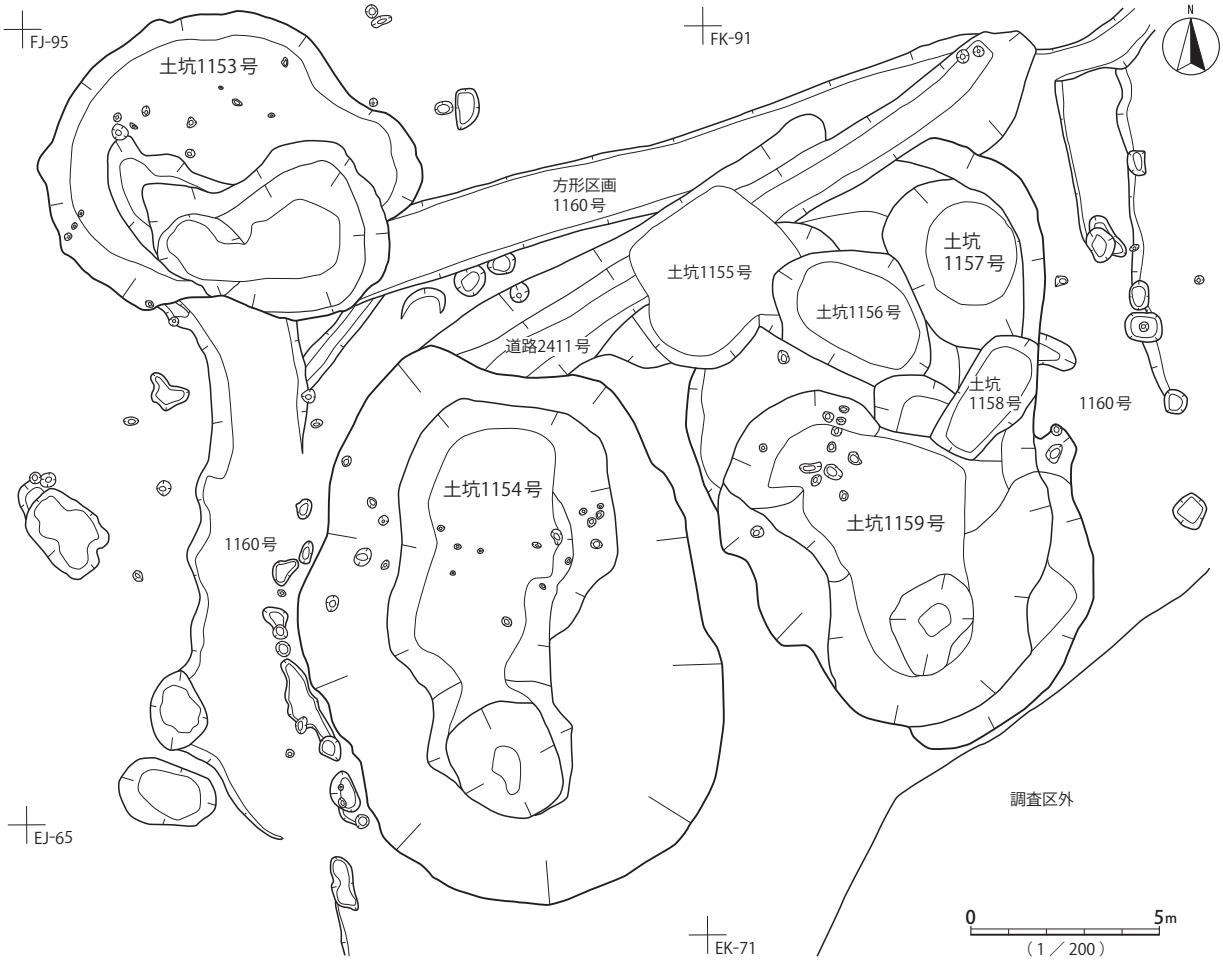
土坑 1639 号　（Fig.357・358、PL.60・224）〔僧 I 第 483～487 図〕

東辺部OP−01を中心に位置する。竪穴1645号と重複し、本遺構の方が古い。覆土下層から土器が多量に出土し、廃棄土坑と捉えられている。

平面形態は不整円形を呈し、規模は3.00×2.55m、確認面からの深さは1.20mを測る。僧寺編年IV−5～V期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1はI型式の均整唐草文軒平瓦、2～4は丸瓦である。2の凸面には焼成前の線刻文字が認められる。欠損するため文字を判読することはできないが、南辺部瓦溜1900号出土の丸瓦

土坑 1153・1154・1157・1159号



土坑 1153号

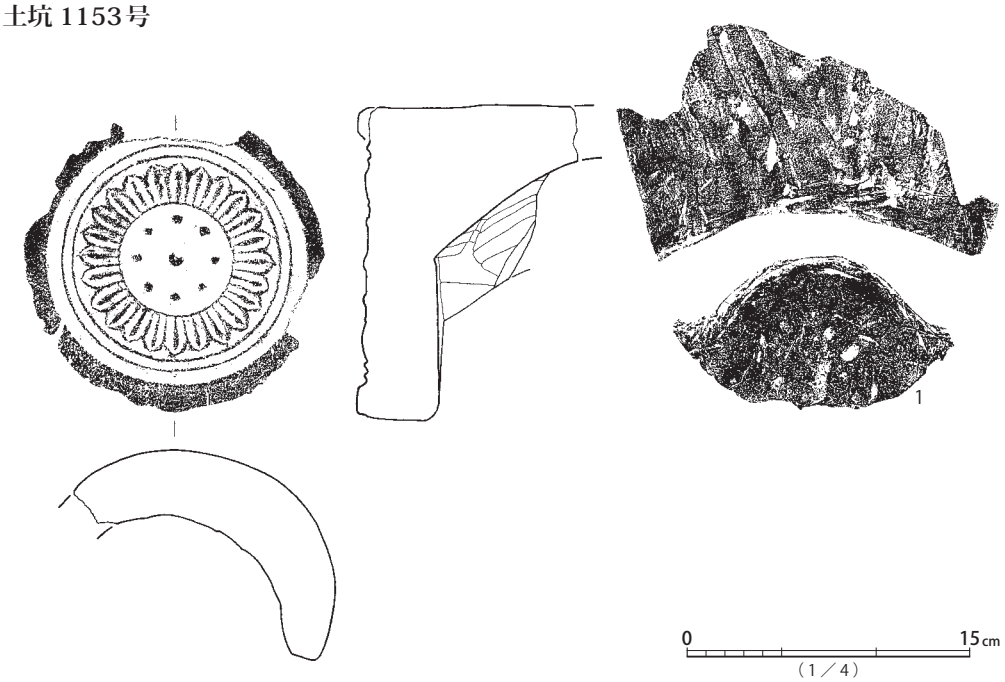
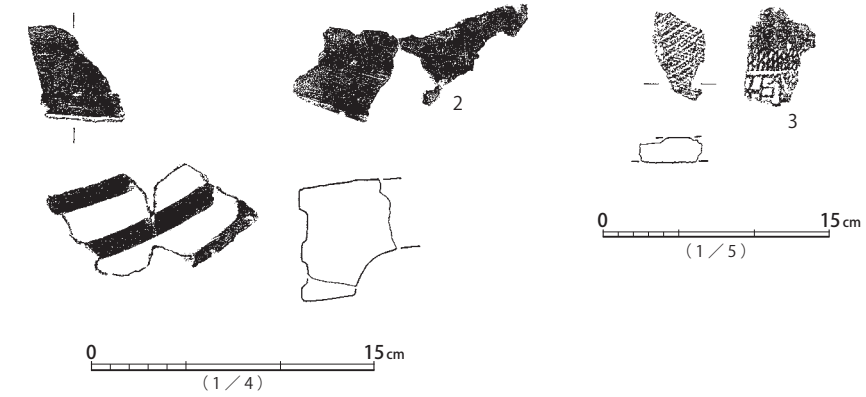


Fig.353　土坑1153号(1) 遺構遺物、土坑1154号(1) 遺構、土坑1157号(1) 遺構、土坑1159号(1) 遺構

土坑 1153号



土坑 1154号



土坑 1157号

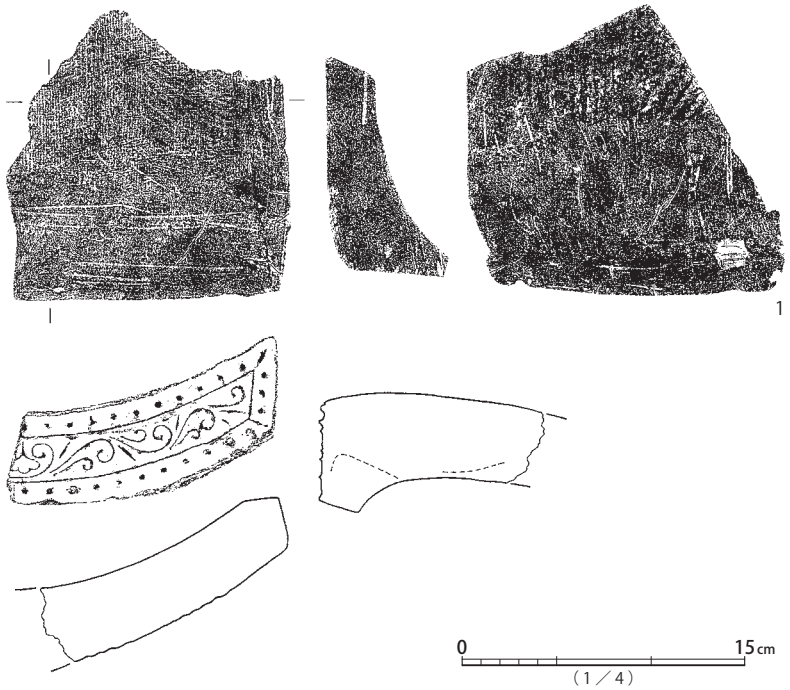
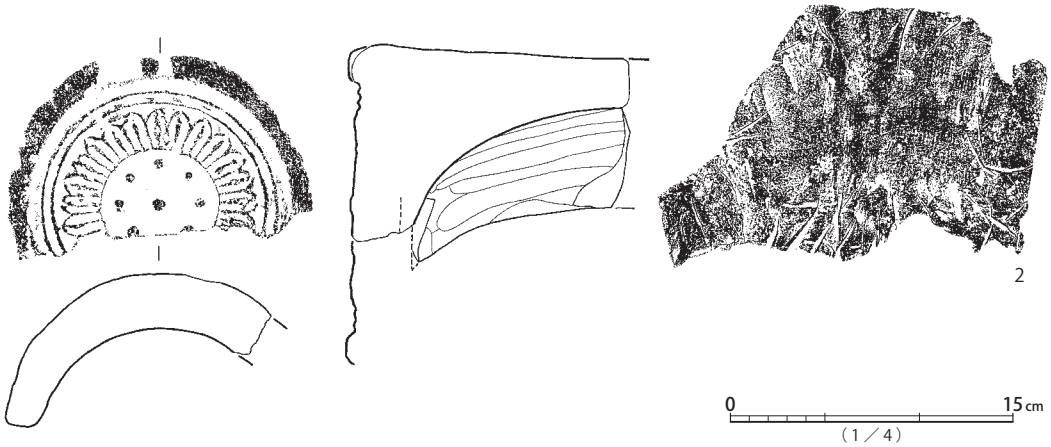


Fig.354　土坑1153号(2) 遺物、土坑1154号(2) 遺物、土坑1157号(2) 遺物

土坑 1157号



土坑 1159号

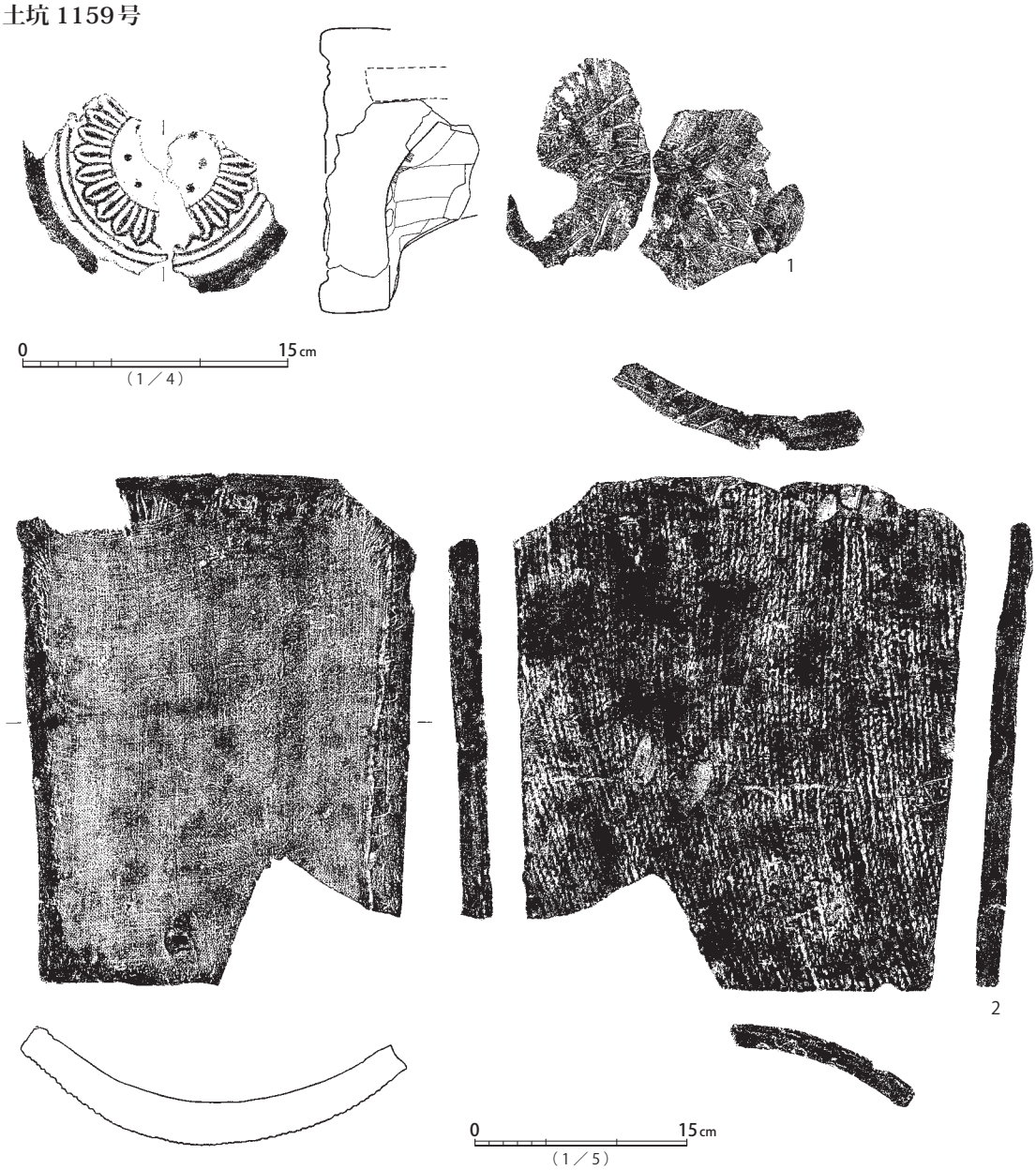


Fig.355　土坑1157号(3) 遺物、土坑1159号(2) 遺物

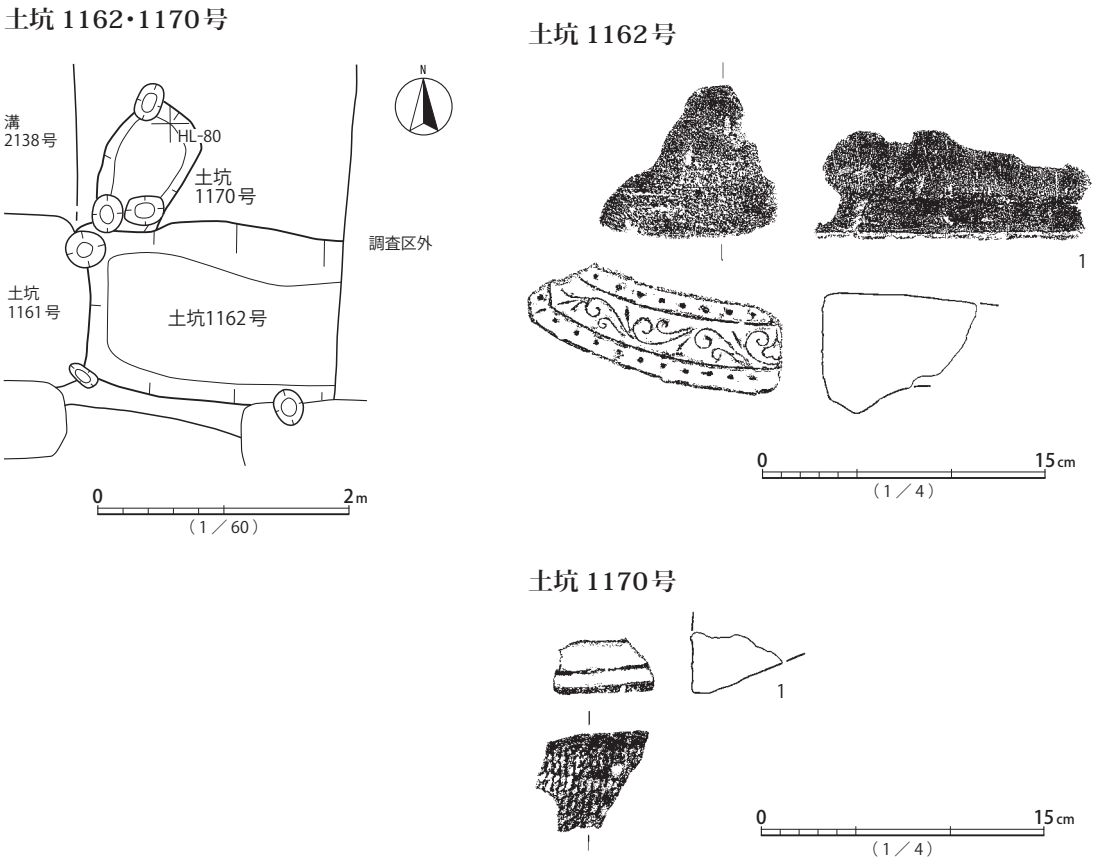


Fig.356　土坑1162号 遺構遺物、土坑1170号 遺構遺物

（Fig.565−170）凸面に記された「几」に「ニ」を加えて「月」に似た文字と同じであろうか。4の剥離面には布目痕が認められる。

土坑 1641 号　（Fig.358）〔僧Ⅰ第 501 図〕

東辺部LO−77を中心に位置する。南側で土坑（遺構番号なし）と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は長楕円形を呈し、規模は長軸3.20m、確認面からの深さは0.66mを測る。主軸方位はN−43°−Eである。僧寺編年Ⅳ−5〜Ⅴ期の所産と考えられる。

覆土中から多量の瓦片が検出されているが、実測可能遺物は1の軒平瓦のみで、Ⅰ型式の均整唐草文である。

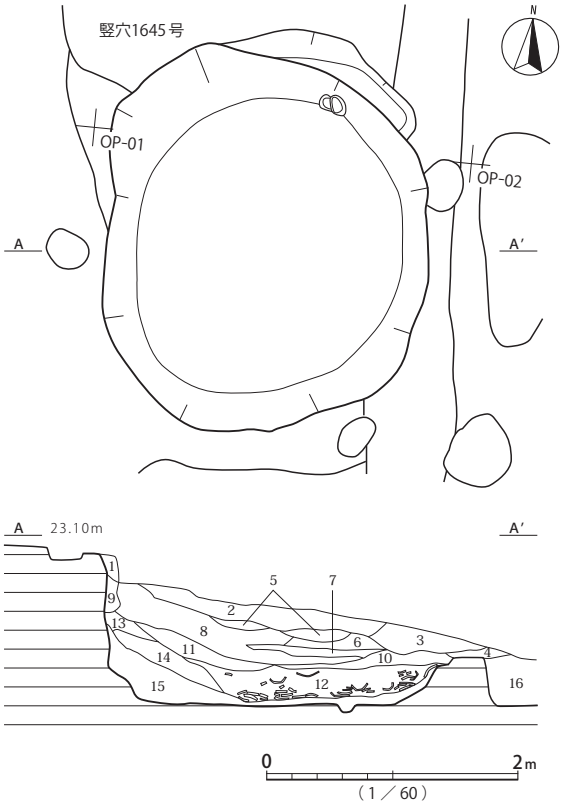
土坑 1651 号　（Fig.359、PL.60）〔僧Ⅰ第 500 図〕

東辺部MO−09に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は楕円形を呈し、規模は1.40×1.15m、確認面からの深さは0.38mを測る。主軸方位はN−74°−Eである。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は1の円盤状瓦製品のみである。円形に打ち欠かれた平瓦の周縁と表裏面には、研磨痕が認められる。

土坑 1639号





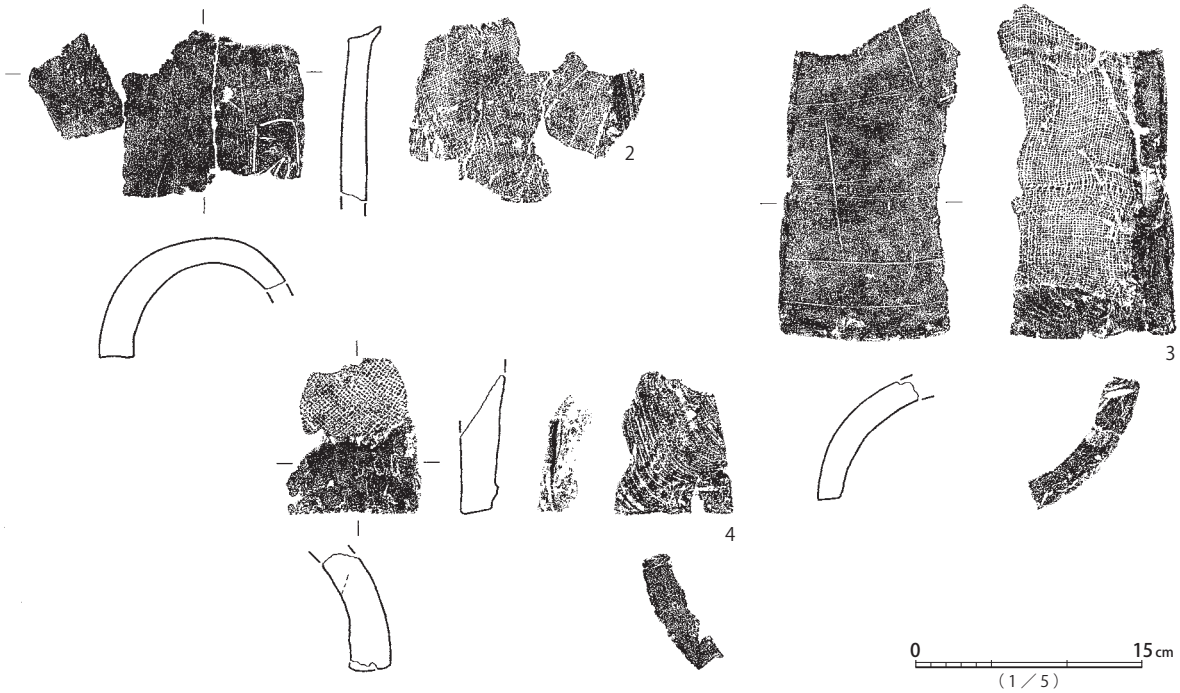
ph.1　出土状況

1	黒褐色土	ロームを含む。
2	黒褐色土	ローム粒を多く含む。
3	黒褐色土	ロームをわずかに含む。
4	暗褐色土	ソフトロームを多く含む。
5	暗褐色土	ローム粒を含む。
6	暗褐色土	ロームとの混合。
7	黒色土	暗褐色土を含む。
8	暗褐色土	ソフトロームを含む。
9	褐色土	ロームとの混合。
10	黒褐色土	ソフトロームをわずかに含む。
11	黒褐色土	ソフトローム・暗褐色土との混合。
12	黒褐色土	
13	ローム	黒色土をわずかに含む。
14	黒色土	ソフトローム・暗褐色土との混合。
15	ローム	
16	ロームブロック	

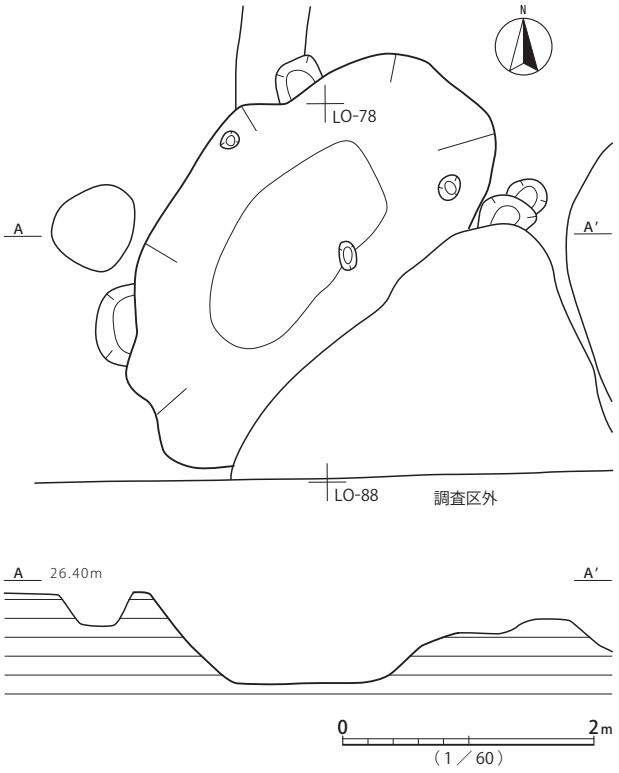


Fig.357　土坑1639号(1) 遺構遺物・調査状況

土坑 1639号



土坑 1641号





ph.1　出土状況

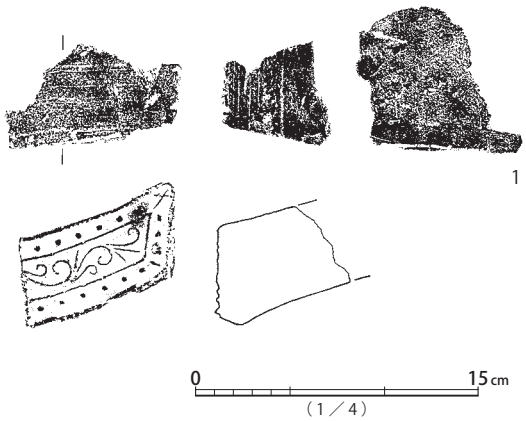


Fig.358　土坑1639号(2) 遺物、土坑1641号 遺構遺物・調査状況

土坑 1818 号　（Fig.359、PL.60）〔僧 I 第 1116 図〕

薬師堂地区（セ 103）LL−33 に位置する。土坑 1817 号、柵列 1819 号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は楕円形を呈し、規模は0.88×0.80m、確認面からの深さは0.20mを測る。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

覆土中から瓦片が多く検出されているが、実測可能遺物は 1 の軒平瓦のみである。III 型式の均整唐草文で、直線顎の凸面には、格子叩き目が残る。

土坑 1830 号　（Fig.360〜365、PL.60〜62・216）〔僧 I 第 1119・1120 図〕

薬師堂地区（セ 103）LL−23 を中心に位置する。柵列 3243 号、ピット 1811・1812 号と重複し、本遺構の方が 1811・1812 号よりも新しく、3243 号よりも古い。覆土中からは土師器杯類と瓦片が多量に出土し、大型の鉄釘が含まれることから、中心伽藍の建物部材等を投棄した廃棄土坑と捉えられている。

平面形態は楕円形を呈し、規模は 3.00×2.86m、確認面からの深さは 0.68m を測る。僧寺編年 IV−4 期の所産と考えられる。

実測可能遺物は、1〜3 は軒丸瓦、4〜18 は軒平瓦、19〜21 は丸瓦、22〜25 は平瓦である。1 は I 型式の蓮華文、2 は III 型式の重圏文、3 は V 型式の重圏文、4〜9 は I 型式の均整唐草文、10〜12 は III 型式の均整唐草文、13 は IX 型式の重圏文、14 は X 型式の重圏文、15・16 は XI 型式の無文、19 は玉縁式、20〜21 は行基葺式である。14 は薄い平瓦に三角形の粘土を貼り付けて、顎部を成形する。24 は縄叩き目の上から格子叩き目を組み合わせる数少ない事例である。

土壙墓 1328 号　（Fig.366）〔僧 I 第 309・311 図〕

北辺部 PJ−60 を中心に位置する。掘立柱建物 3146 号、塀 3135・3145 号と重複し、本遺構の方が 3146 号よりも古い。3135・3145 号との関係は、断面図など記録上の根拠はないが、本遺構の方が新しいと考えられる。

平面形態は長方形を呈し、規模は 3.66×1.62m、確認面からの深さは 0.38m を測る。主軸方位は N−88° −W である。僧寺編年 VIII 期の所産と考えられる。

遺構内から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

第 7 節　井　戸

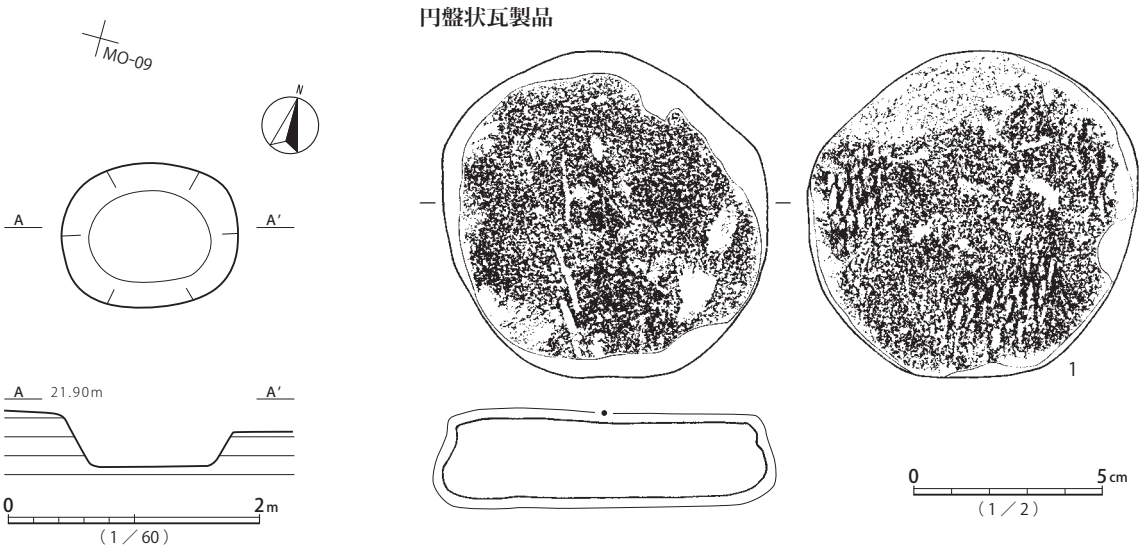
井戸 1640 号　（Fig.367〜395、PL.62〜69・216）〔僧 I 第 368〜373 図〕

北辺部 RM−93 を中心に位置する。掘立 3167 号と重複し、本遺構の方が古い。

最下層には木製の井戸枠、中層までは瓦積みの内壁が残存する。36〜42 層と 49・50 層で瓦がまとまって検出されており、内壁の瓦積みが段階的に崩落した状況が認められる。なお、調査は 5 段階に分けて掘削されており、段階ごとに出土遺物が取り上げられている。

平面形態は方形を呈し、規模は井戸枠部で約 1.3m 四方、内壁版築部で約 2.0m 四方、井戸掘り方上面で 4.54×4.80m、確認面から底面までの深さは 6.3m を測る。主軸方位は N−1° −E である。僧寺

土坑 1651号



土坑 1818号

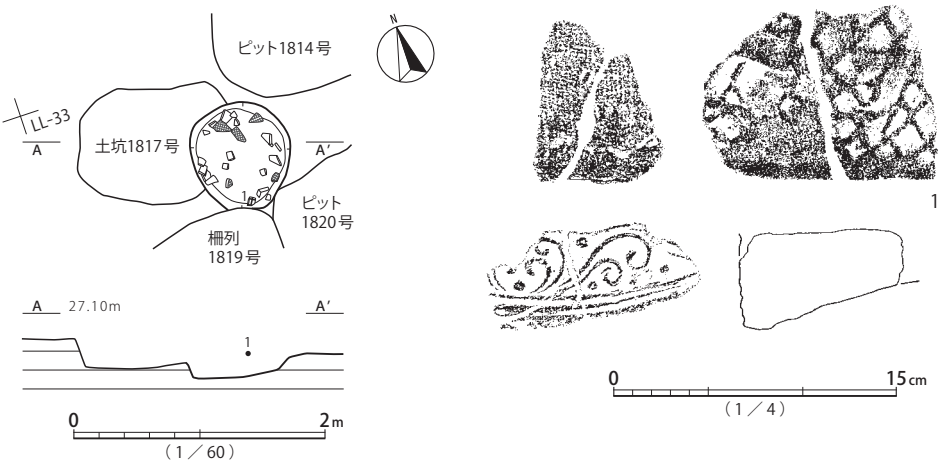
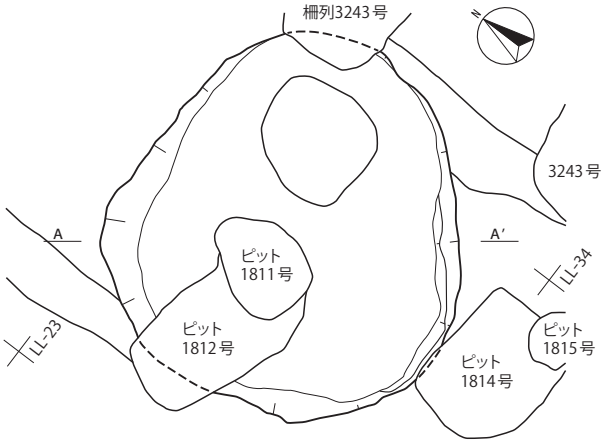


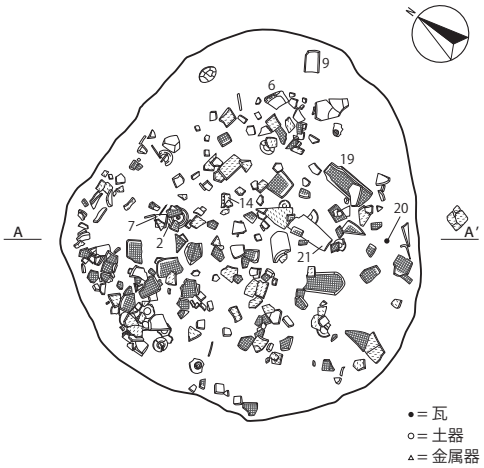
Fig.359　土坑1651号 遺構遺物、土坑1818号 遺構遺物

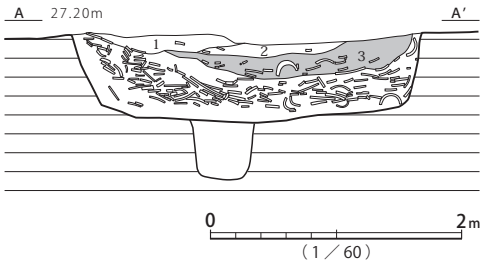
編年II～IV－1期の所産と考えられる。

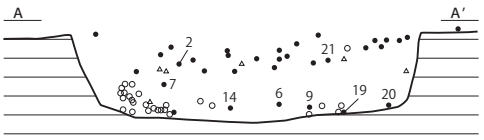
実測可能遺物は、1～6はI型式の蓮華文軒丸瓦、7～23はI型式の均整唐草文軒平瓦、24～28は玉縁式の丸瓦、29～32は行基葺式の丸瓦、33～45は平瓦である。47～58は道具瓦で、46は薄丸瓦、47～55は隅切平瓦、56～58は熨斗瓦である。なお、50は切り落としが小さく、整形痕の一部とも考えられる。59～63は塼である。このうち、13・20・23・34は内壁の瓦積みから検出されたもので、井戸構築当初のものと考えられる。出土した軒瓦は、いずれもI型式で創建瓦と考えられる蓮華文軒丸瓦と均整唐草文軒平瓦のみで、他の笵種を含まない。なお、本遺構からは、僧寺を表す「金寺」と墨書で記された須恵器杯が出土している。

土坑 1830号





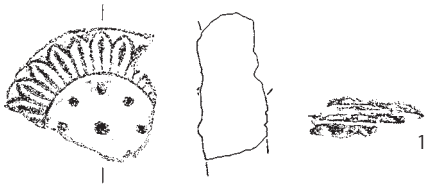




1　暗褐色土　粘土をわずかに含む。
2　暗褐色土　粘土を少量含む。
3　粘土



ph.1　出土状況 9・19



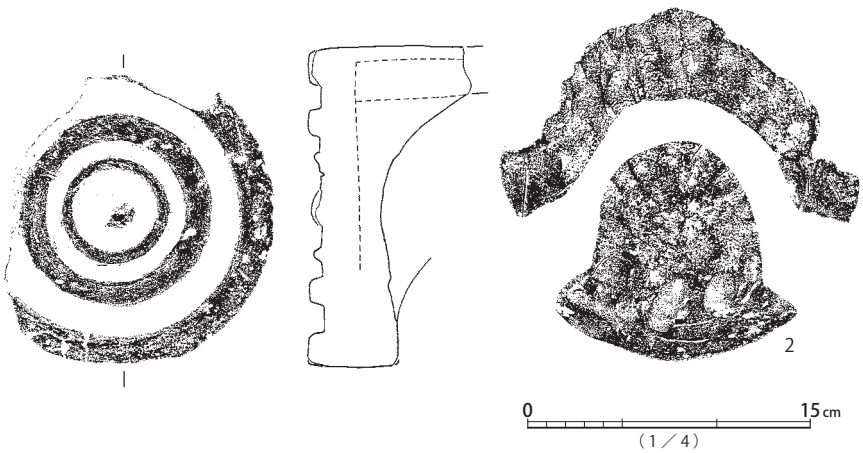


Fig.360　土坑1830号(1) 遺構遺物・調査状況

土坑 1830号

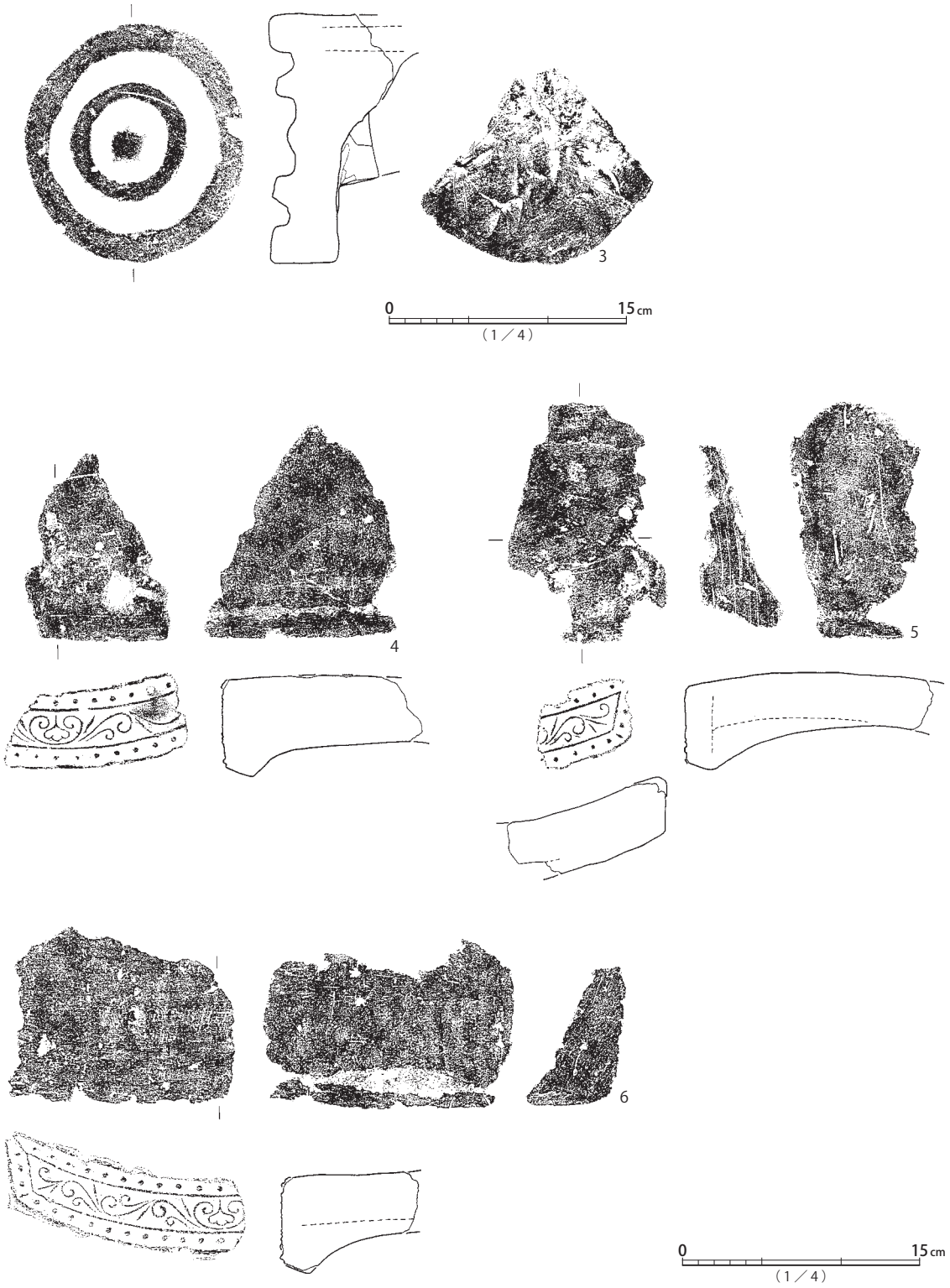


Fig.361　土坑1830号(2) 遺物

土坑 1830号

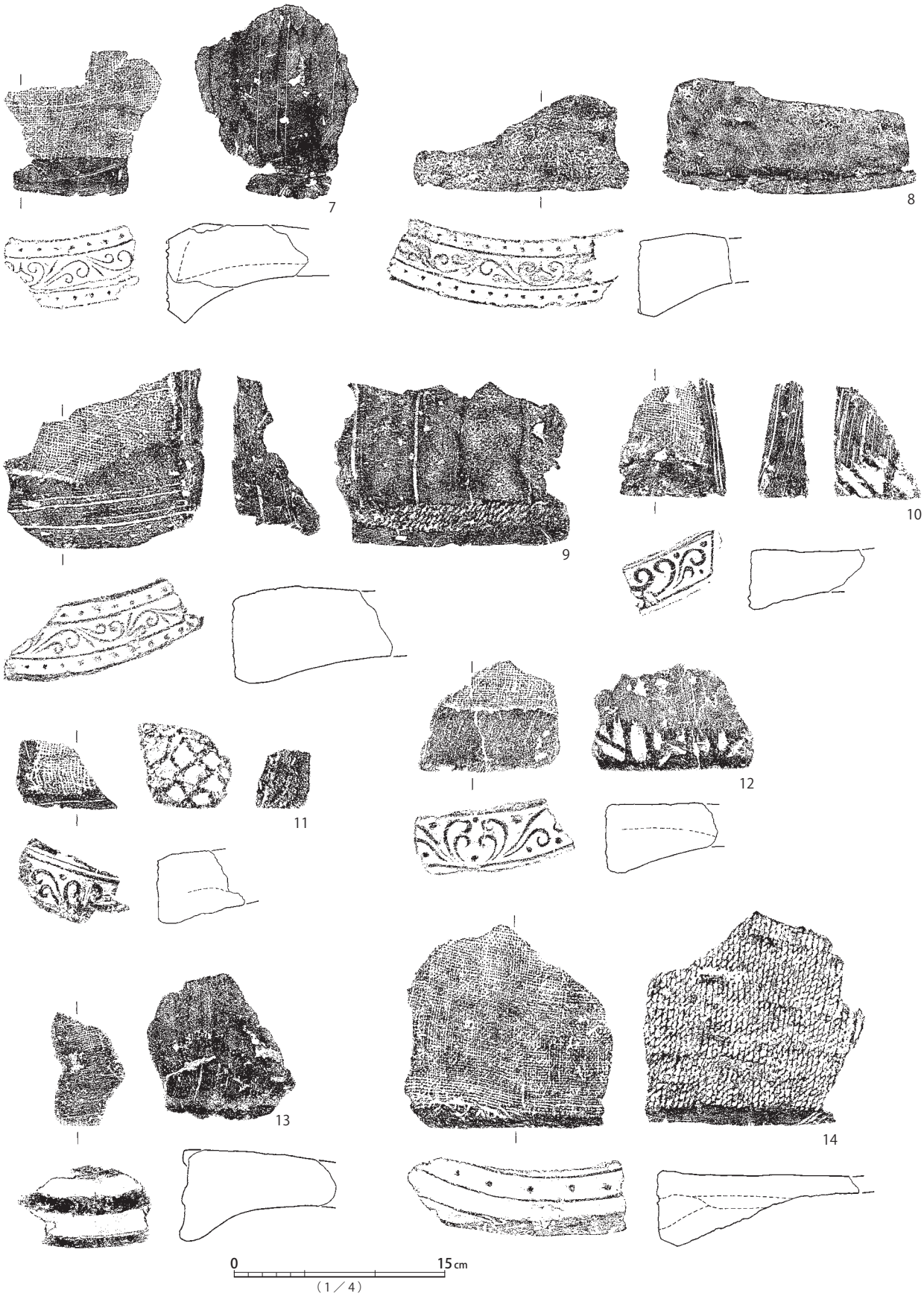


Fig.362　土坑1830号(3) 遺物

土坑 1830号

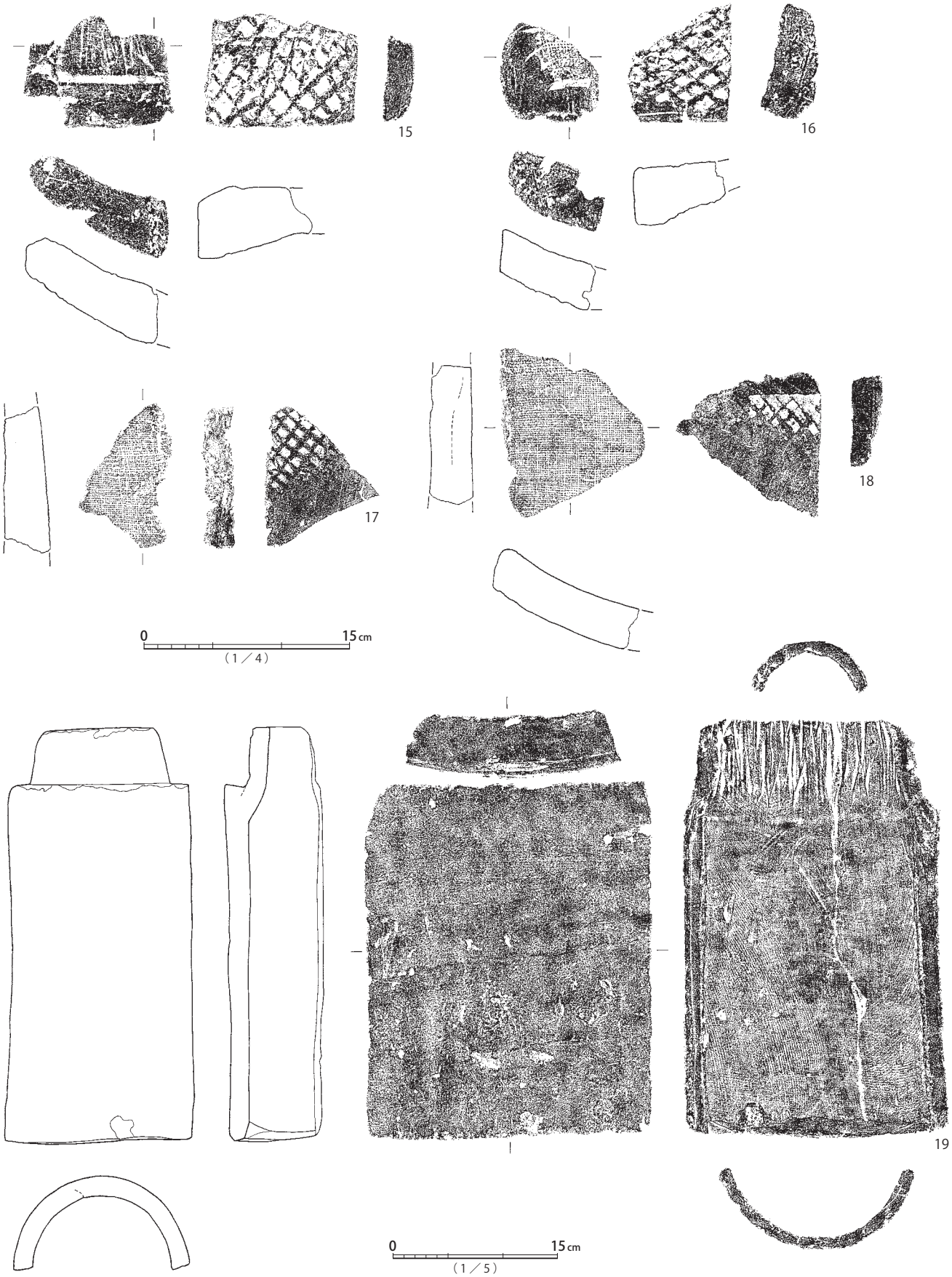


Fig.363　土坑1830号(4) 遺物

土坑 1830号

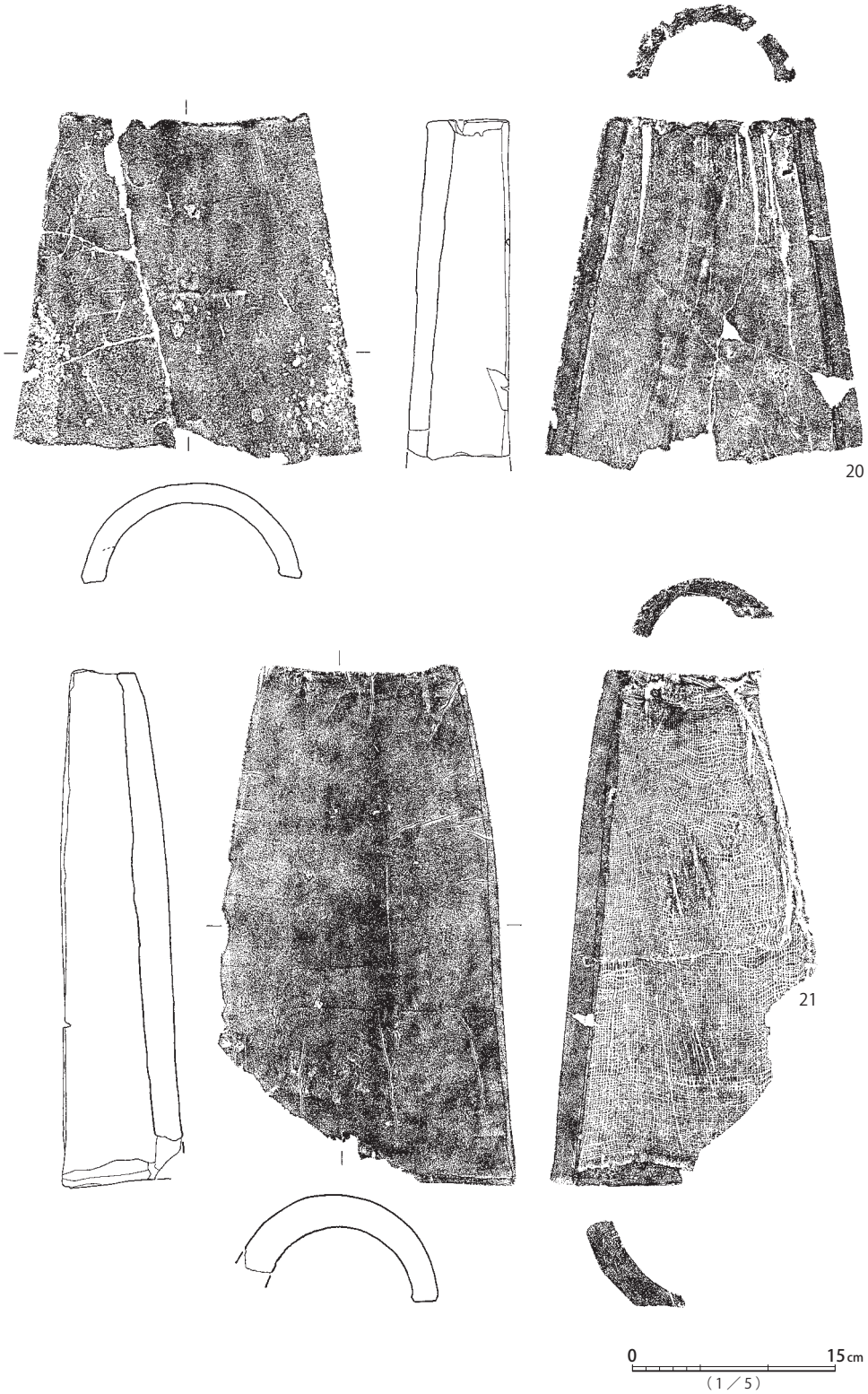


Fig.364　土坑1830号(5) 遺物

土坑 1830号

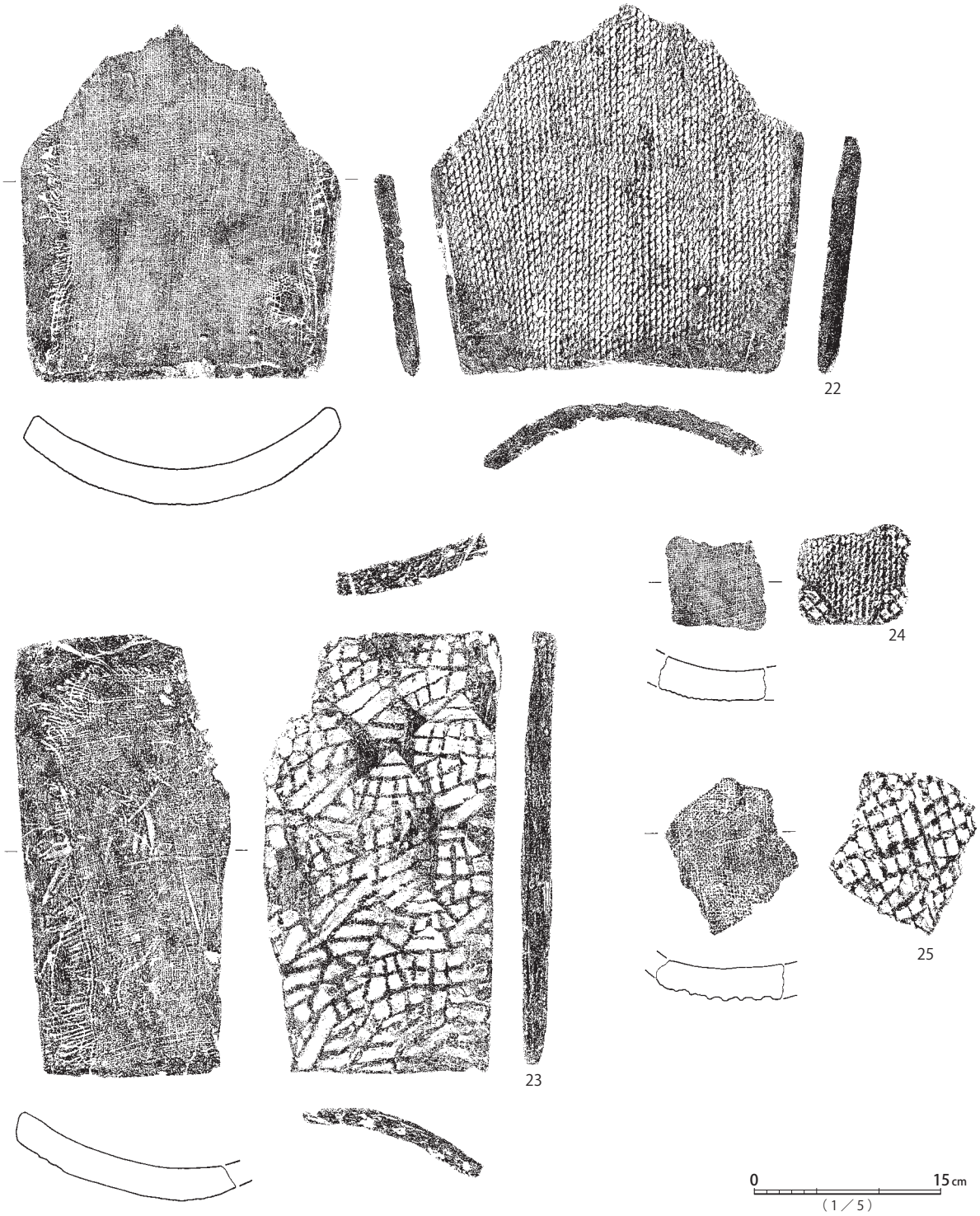


Fig.365　土坑1830号(6) 遺物

土壙墓 1328号

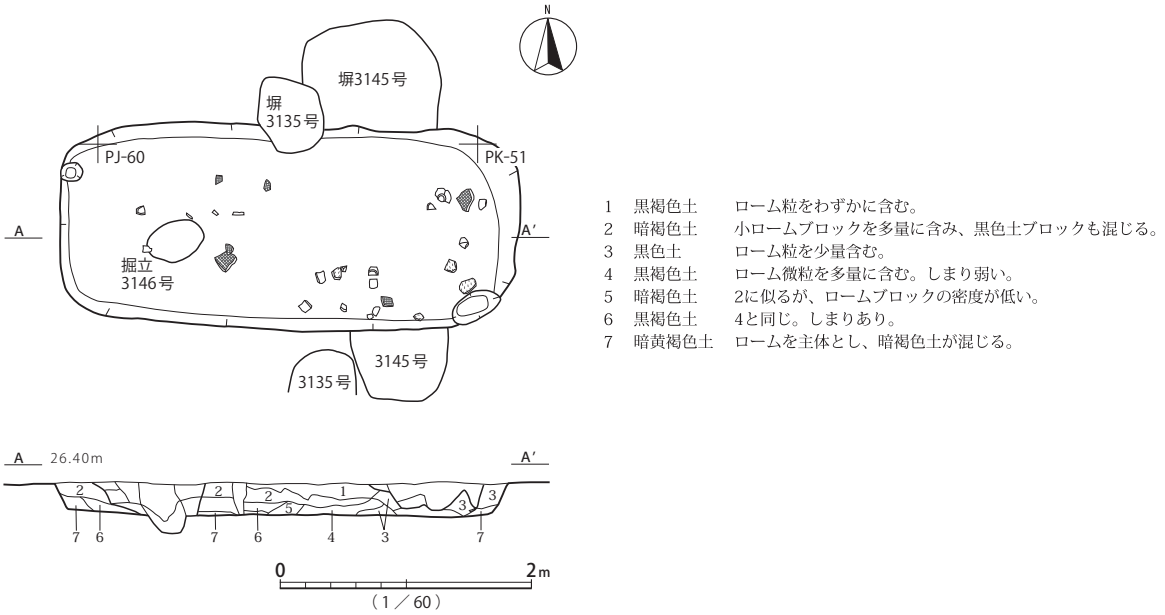


Fig.366　土壙墓1328号 遺構

第８節　ピット・炉・小鍛冶

ピット 1620 号　（Fig.396、PL.70）〔僧Ⅰ第 399・400 図〕

北辺部QL−10に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長楕円形を呈し、規模は0.92×0.61m、確認面からの深さは0.08mを測る。主軸方位はN−20°−Eである。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は１の塼のみである。

ピット 1837−1 号　（Fig.396、PL.70）〔僧Ⅰ第 594 図〕

東南部IP−63を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は円形を呈し、規模は直径0.47m、確認面からの深さは0.66mを測る。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は２の軒平瓦のみである。XI型式の無文で、直線顎の凸面全体に縄叩き目を残す。

ピット 1837−2 号　（Fig.396、PL.70）〔僧Ⅰ第 594 図〕

東南部IP−64を中心に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は楕円形を呈するものと考えられる。北側が調査区外に延びるため、規模は明確でないが、東西軸長0.45m、確認面からの深さは0.31mを測る。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は１の軒平瓦のみである。X型式の重圏文で、直線顎の凸面全体に縄叩き目を残す。

井戸 1640号

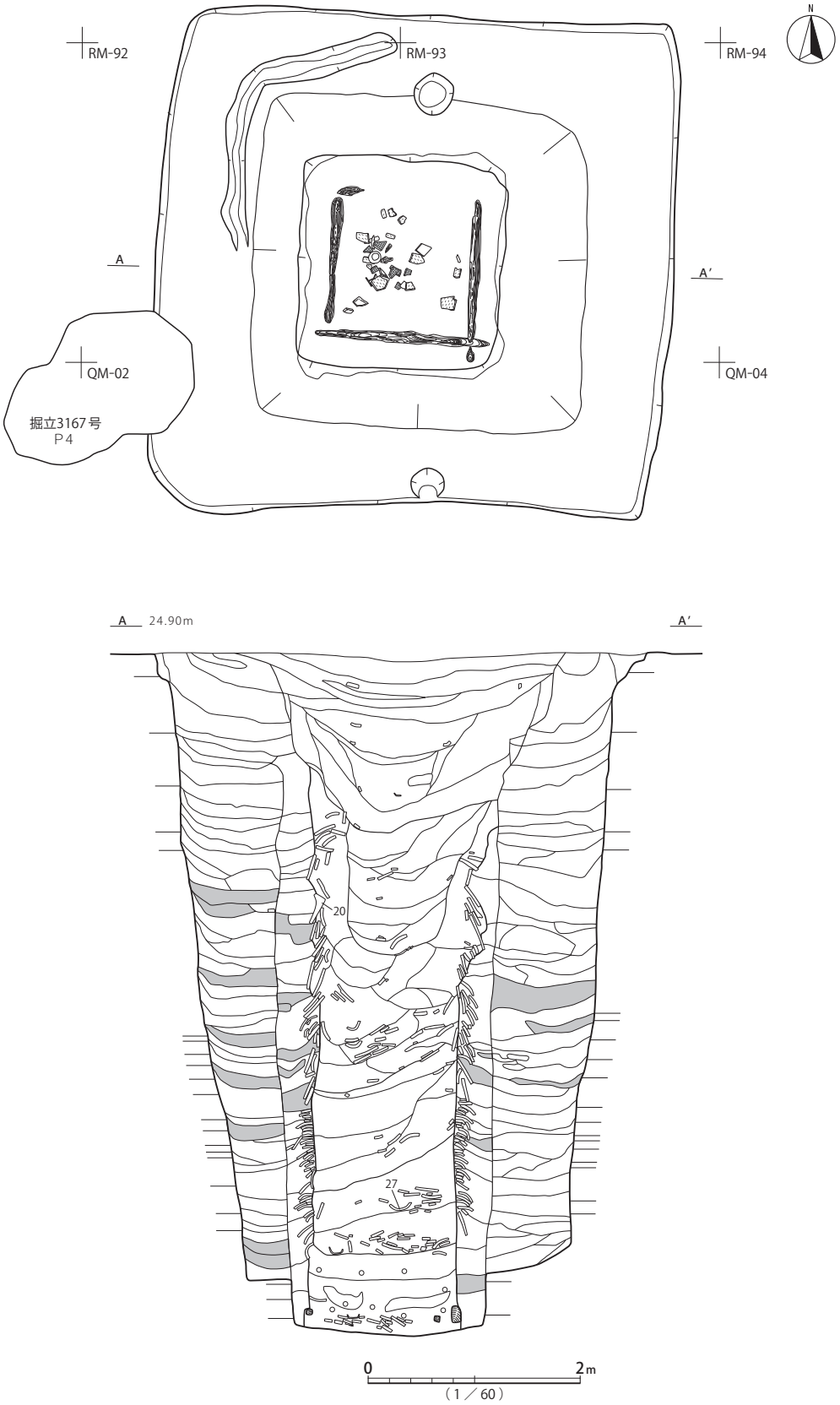
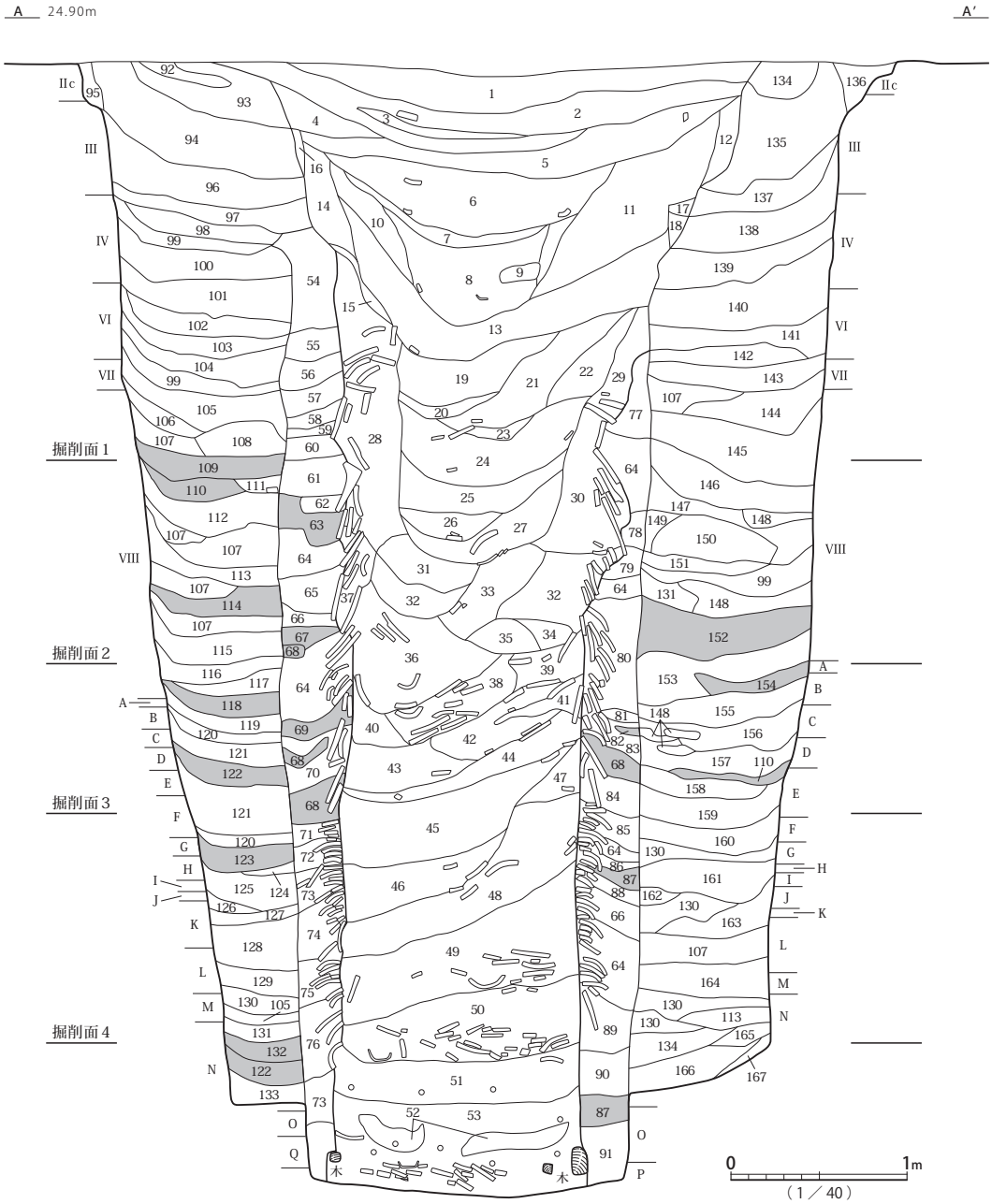


Fig.367　井戸1640号(1) 遺構

井戸 1640号



井戸内流入・崩落土

1 暗褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。
2 暗褐色土 粘土粒を多く含む。
3 暗褐色土 粘土を含む。
4 暗褐色土 ローム・粘土粒を多く含む。
5 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・粘土粒・木炭粒を含む。
6 暗褐色土 粘土粒・木炭粒を含む。
7 黒褐色土 ローム・粘土との混合。
8 黒褐色土 木炭を多く含む。しまりなし。
9 砂 紫色を帯びる。
10 暗褐色土 木炭粒を多く含む。
11 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・粘土粒を含む。
12 黒褐色土 ロームブロックとの混合。
13 黒褐色土 ローム粒・木炭粒を含む。
14 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
15 黒褐色土 ローム・粘土を含む。
16 暗褐色土 ロームとの混合。
17 黒褐色土 ローム粒・粘土粒との混合。
18 黒褐色土 ローム粒・粘土を多く含む。
19 黒褐色土 ローム粒・粘土粒をわずかに含む。粒子細かい。
20 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を多く含む。硬くしまる。
21 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。
22 黒褐色土 ローム粒をわずかに含む。
23 黒褐色土 ローム粒・粘土粒を含む。硬くしまる。
24 黒褐色土 ローム微粒を含む。粒子細かい。
25 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・木炭粒を含む。
26 黒褐色土 ローム粒・粘土粒・木炭粒を含む。
27 黒褐色土 ローム粒・粘土粒・小礫を含む。
28 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック・粘土粒を含む。
29 暗褐色土 ローム粒・粘土粒をわずかに含む。
30 黒褐色土 粘土粒を多く含み、ローム粒・ロームブロックも混じる。

Fig.368 井戸1640号(2) 遺構

井戸 1640号

31 黒褐色土　粘土粒・木炭粒をわずかに含む。
32 黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
33 黒色土　ローム粒をわずかに含む。粒子細かく、しまりあり。
34 黒色土　粘土粒をわずかに含む。
35 褐色土　ロームを主体とし、暗褐色土も混じる。
36 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。しまりなし。
37 黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。しまりあり。
38 ロームブロック　暗褐色土を含む。
39 黒色土　しまりあり。
40 黒褐色土　粗いローム粒を含み、粘土もわずかに混じる。
41 黒褐色土　ローム粒・砂質粘土を含む。
42 黒褐色土　粒子細かい。
43 黒褐色土　ローム粒を含み、ロームブロックもわずかに混じる。しまりなし。
44 黒褐色土　ローム粒を多く含み、粘土も混じる。
45 黒褐色土　ローム粒を含む。しまりなし。
46 黒褐色土　ローム粒・砂を多く含む。
47 黒褐色土　粒子細かい。
48 黒褐色土　砂との混合。ローム粒も混じる。
49 砂　粗い砂を多く含み、黒褐色土・ロームも混じる。鉄分を含み赤色化。
50 黒褐色土　砂粒を含む。
51 黒褐色土　粒子細かく、硬くしまる。
52 黒褐色土　鉄分を多く含む。
53 青黒色土　粒子細かく、硬くしまる。

内壁版築土

54 暗褐色土　ロームブロック・粘土を含む。
55 ロームブロック　暗褐色土・粘土を含む。
56 褐色土　ロームを多く含み、暗褐色土・粘土も混じる。
57 黒褐色土　ロームとの混合。粘土もわずかに混じる。
58 ロームブロック　黒褐色土を含み、粘土もわずかに混じる。
59 黒褐色土　ロームを含む。
60 黒褐色土　粘土粒を多く含み、ロームも混じる。
61 褐色土　ロームを多く含み、粘土も混じる。
62 褐色土　ロームを主体とし、粘土も混じる。
63 粘土　ロームを含む。
64 黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
65 黒褐色土　ローム粒・粘土を含む。
66 黒色土　粘土を含む。
67 粘土　粘土粒からなり、ローム粒を含む。
68 砂質粘土
69 砂質粘土　ロームを含む。
70 黒褐色土　ローム・粘土を含む。
71 粘土　ロームを多く含み、黒褐色土も混じる。
72 黒褐色土　粘土をわずかに含む。
73 黒褐色土　粘土を含む。
74 黒褐色土　粘土粒を含む。
75 黒褐色土　粘土粒との混合。
76 砂質粘土　ロームとの混合。
77 暗褐色土　ローム・粘土との混合。
78 暗褐色土　ローム粒を多く含み、粘土粒もわずかに混じる。
79 暗褐色土　ロームとの混合。粘土粒もわずかに混じる。
80 黒褐色土　ローム粒を含む。
81 ロームブロック
82 粘土
83 黒褐色土　ロームブロックを含む。
84 黒褐色土　砂質粘土・ローム粒を含む。
85 褐色土　ロームを主体とし、暗褐色土も混じる。
86 砂質粘土　黒褐色土との混合。
87 砂質粘土　黒褐色土を含む。
88 黒色土　暗褐色土を含む。
89 褐色土　ローム・粘土・黒褐色土との混合。
90 黒褐色土　粘土・砂質粘土との混合。
91 暗褐色土　砂質粘土との混合。

版築土

92 暗褐色土　ローム・粘土粒を含む。
93 ロームブロック　黒褐色土を含み、粘土粒も混じる。
94 ロームブロック　粘土ブロック・粘土粒を含む。
95 黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
96 ロームブロック　暗褐色土を含み、粘土ブロック・粘土粒も混じる。
97 黒褐色土　ロームブロック・粘土ブロック・粘土粒を含む。
98 ロームブロック　黒褐色土を含み、粘土ブロック・粘土粒も 混じる。
99 黒褐色土　ロームブロック・粘土粒を含む。
100 ロームブロック　粘土ブロックを含む。
101 ロームブロック　黒褐色土・粘土ブロックを含む。
102 黒褐色土　粗いローム粒・粘土粒を含む。
103 ロームブロック　黒褐色土との混合。粘土粒も混じる。
104 ロームブロック　黒褐色土・粘土粒との混合。
105 褐色土　ロームと粘土の混合。
106 暗褐色土　ローム・粘土との混合。
107 黒褐色土　ローム・粘土を含む。
108 ロームブロック　粘土ブロックとの混合。
109 砂質粘土　ロームブロックを含む。
110 砂質粘土
111 褐色土　ロームと砂質粘土の混合。
112 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒・砂質粘土を含む。
113 黒色土　粘土を含む。
114 粘土　ロームを含む。
115 黒褐色土　粘土粒との混合。ロームブロックも混じる。
116 粘土　ロームとの混合。黒褐色土も混じる。
117 黒褐色土　ローム粒・粘土ブロックを含む。
118 砂質粘土　暗褐色土・ローム粒を含む。
119 黒色土　ロームブロック・粘土を含む。
120 褐色土　ロームと粘土の混合。黒褐色土も混じる。
121 黒褐色土　ローム・粘土との混合。
122 褐色粘土　白色粘土との混合。
123 砂質粘土　黒褐色土を含む。
124 黒色土
125 ロームブロック　黒褐色土・粘土との混合。
126 黒色土　粘土粒をわずかに含む。
127 黒褐色土　粘土との混合。
128 黒色土　ロームブロックをわずかに含む。
129 褐色土　ロームを多く含み、黒色土・粘土も混じる。
130 黒色土　ローム・粘土を含む。
131 粘土　粘土粒とローム粒の混合。
132 砂質粘土　ロームをわずかに含む。
133 黒褐色土　ロームを多く含み、粘土も混じる。
134 黒褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
135 ロームブロック　暗褐色土・粘土粒を含む。
136 暗褐色土　ローム粒・粘土粒を含む。
137 褐色土　ロームを多く含み、暗褐色土・粘土も少量混じる。
138 黒褐色土　ロームとの混合。粘土粒も多く混じる。
139 暗褐色土　ロームブロック・粘土粒を含む。
140 ロームブロック　ローム粒を多く含み、粘土ブロック・粘土粒・暗褐色土も混じる。
141 褐色土　ローム粒と粘土粒の混合。粒子細かい。
142 ロームブロック　粘土との混合。
143 ロームブロック　ローム粒・暗褐色土との混合。粘土ブロック･粘土粒も混じる。
144 粘土ブロック　粘土粒・ロームブロックとの混合。暗褐色土もわずかに混じる。
145 黒褐色土　ロームブロックを含み、粘土粒もわずかに混じる。
146 ロームブロック　暗褐色土を含む。
147 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・粘土を含む。
148 ロームブロック
149 褐色土　ロームと暗褐色土の混合。粘土粒も混じる。
150 ロームブロック　暗褐色土･砂質粘土を含む。
151 暗褐色土　ロームブロックを含み、粘土粒もわずかに混じる。
152 粘土　ロームブロックを含む。
153 黒褐色土　ロームブロック・ローム粒・粘土粒を含む。
154 砂質粘土ブロック　暗褐色土・ロームを含む。
155 黒褐色土　ロームブロック・砂質粘土ブロックとの混合。
156 黒褐色土　ロームブロックを含む。
157 ロームブロック　黒褐色土・砂質粘土を含む。
158 黒褐色土　ロームブロック・砂質粘土との混合。
159 黒褐色土　ロームとの混合。
160 褐色土　ロームを主体とし、粘土も混じる。
161 褐色土　ローム・粘土・黒褐色土の混合。
162 粘土　黒色土との混合。
163 黒色土　ローム微粒を含む。
164 黒色土　ロームとの混合。
165 粘土　粘土粒とローム粒の混合。
166 暗褐色土　ローム・粘土を含む。
167 黒褐色土

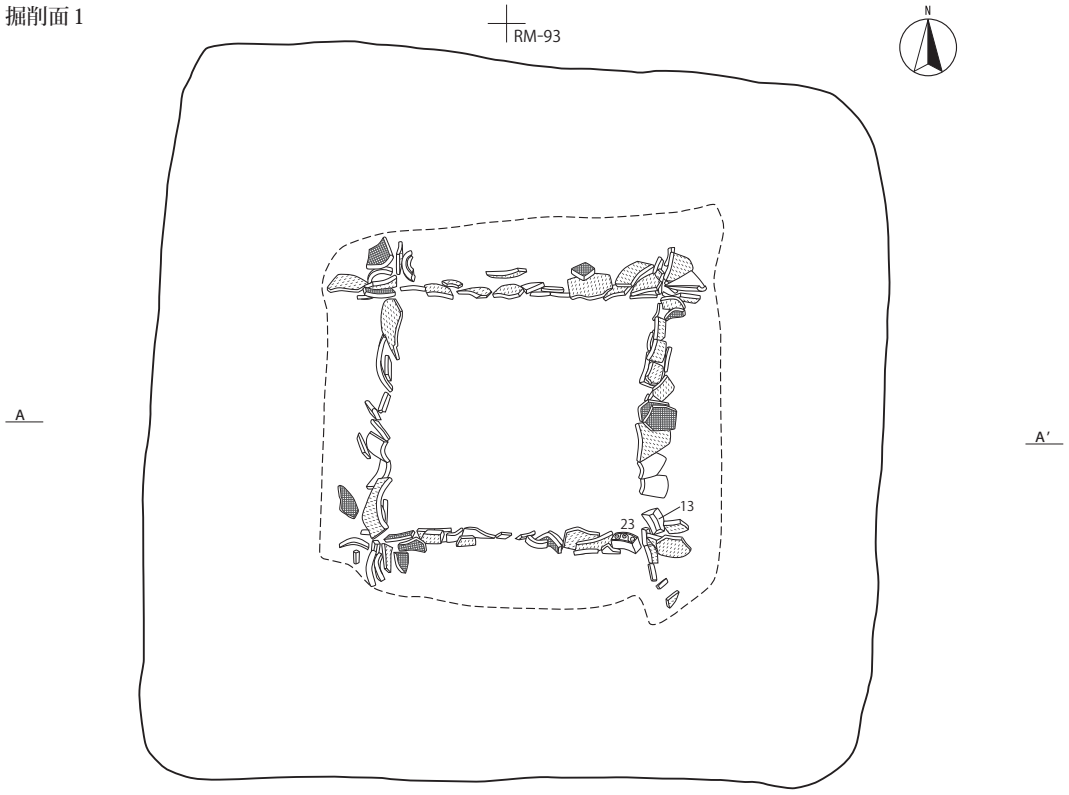
自然堆積土

A 茶白色砂　粘性なし。
B 褐色粘土　粘性強い。
C 褐色粘土　白色粘土を含む。粘性強い。
D 褐色粘土　白色粘土との混合。砂粒を含む。粘性強い。
E 白色粘土　鉄分を含む。粘性極めて強い。
F 白色粘土　砂粒を含む。部分的に鉄分含む。
G 薄青白色粘土　砂を含み、粒状の鉄分も混じる。粘性あり。
H 薄青白色粘土　細かい砂粒を含む。
I 薄茶色粘土　青白色粘土との混合。細砂粒を含む。鉄分が多い。
J 薄茶色粘土　白色粘土との混合。細砂粒を含む。
K 薄茶色粘土　白色粘土との混合。粗い砂粒を含む。
L 薄茶色粘土　白色粘土との混合。砂粒を含む。粘性強い。
M 褐色砂
N 白色砂　鉄分を含む。
O 砂　鉄分を含む。粒子粗い。
P 灰色砂　部分的に鉄分含む。
Q 灰色砂　褐色砂との混合。

Fig.369　井戸1640号(3) 遺構

井戸 1640号

掘削面1



掘削面2

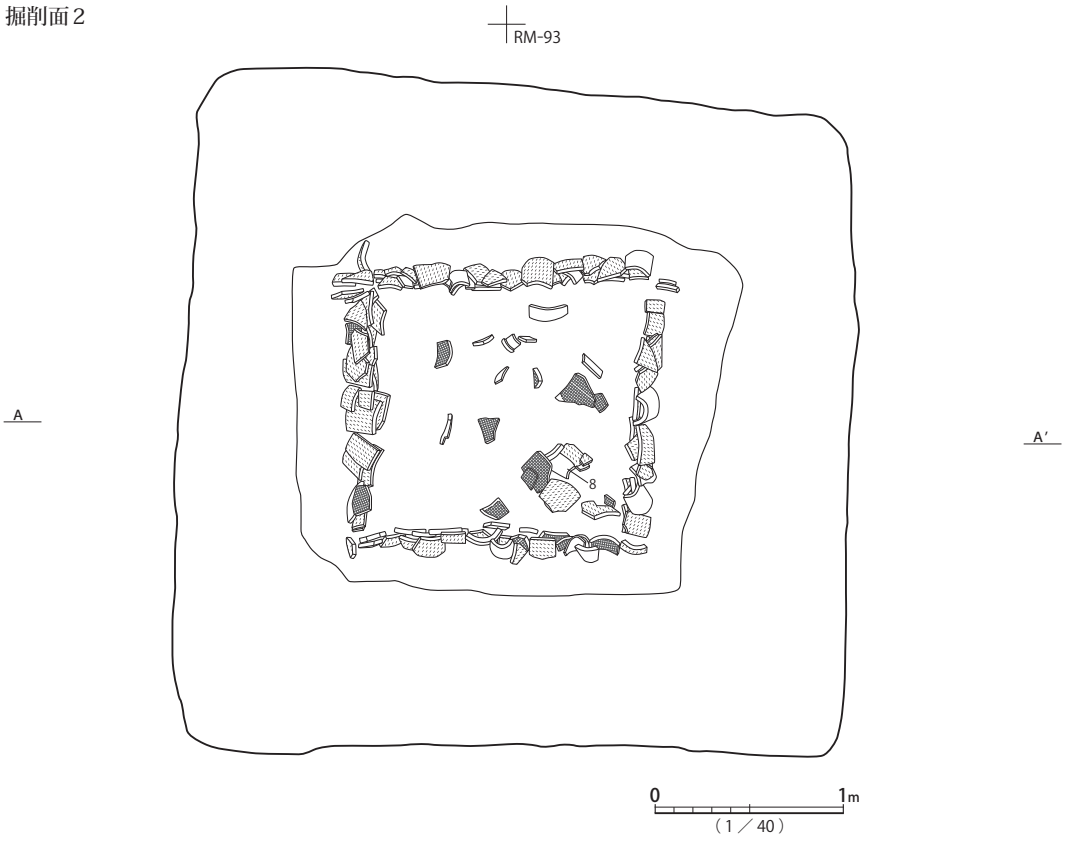
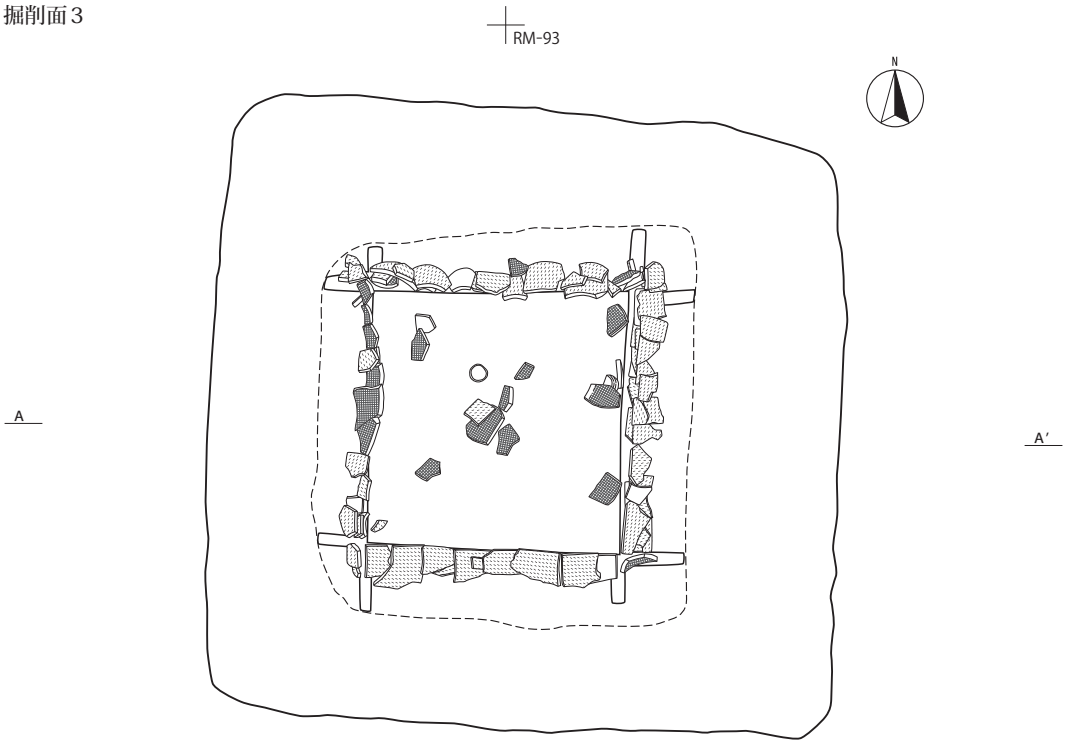


Fig.370　井戸1640号(4) 遺構

井戸 1640号

掘削面3



掘削面4

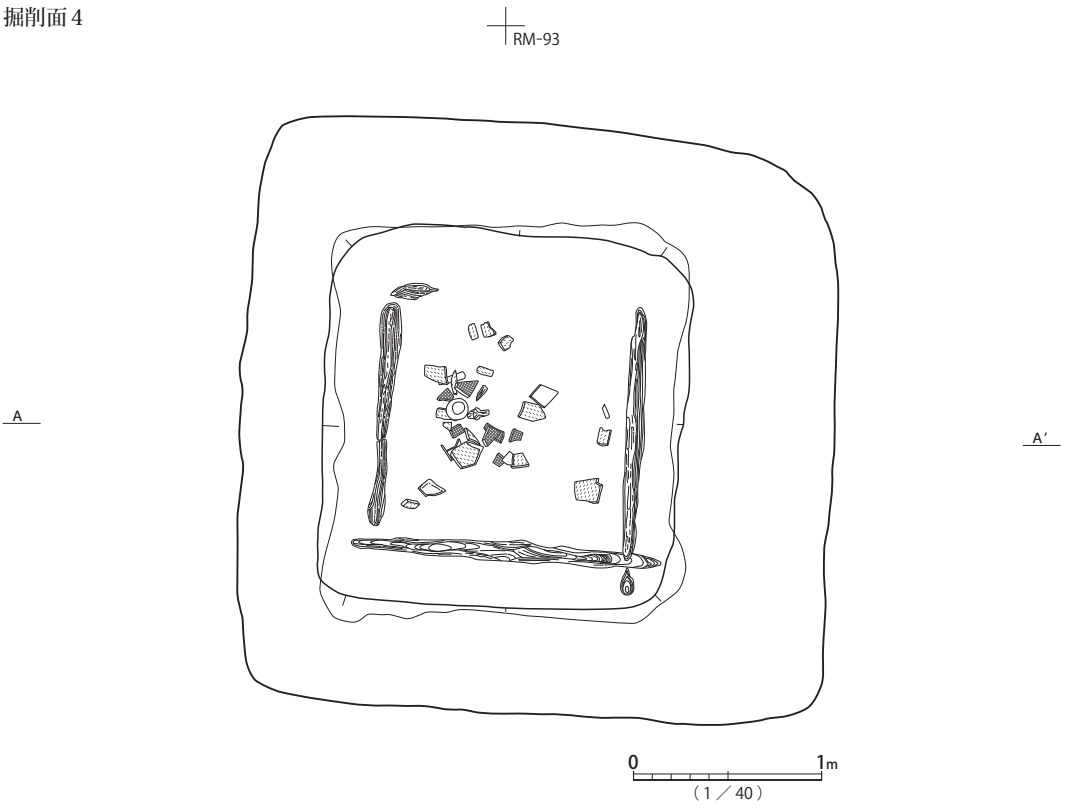
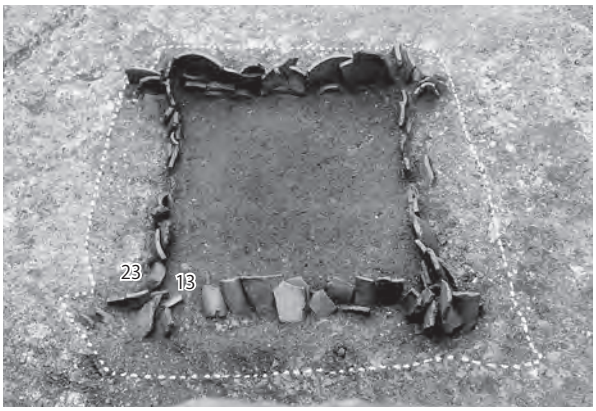
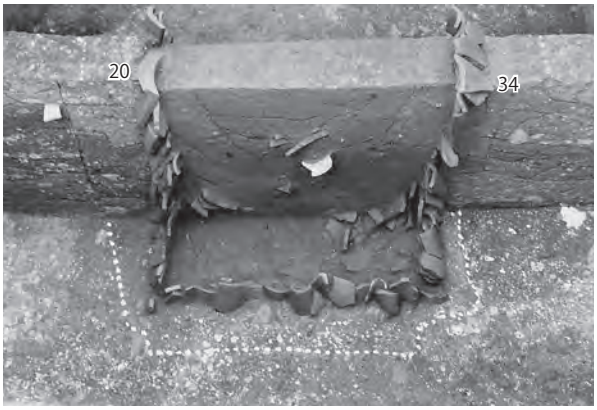


Fig.371　井戸1640号(5) 遺構


ph.1　覆土上位



ph.2　掘削面1　13・23



ph.3　掘削面1～2　20・34


ph.4　掘削面3


ph.5　掘削面3



ph.6　掘削面3～遺構下位　27


ph.7　遺構下位瓦積み内壁


ph.8　完掘状況

Fig.372　井戸1640号(6) 調査状況

井戸 1640号

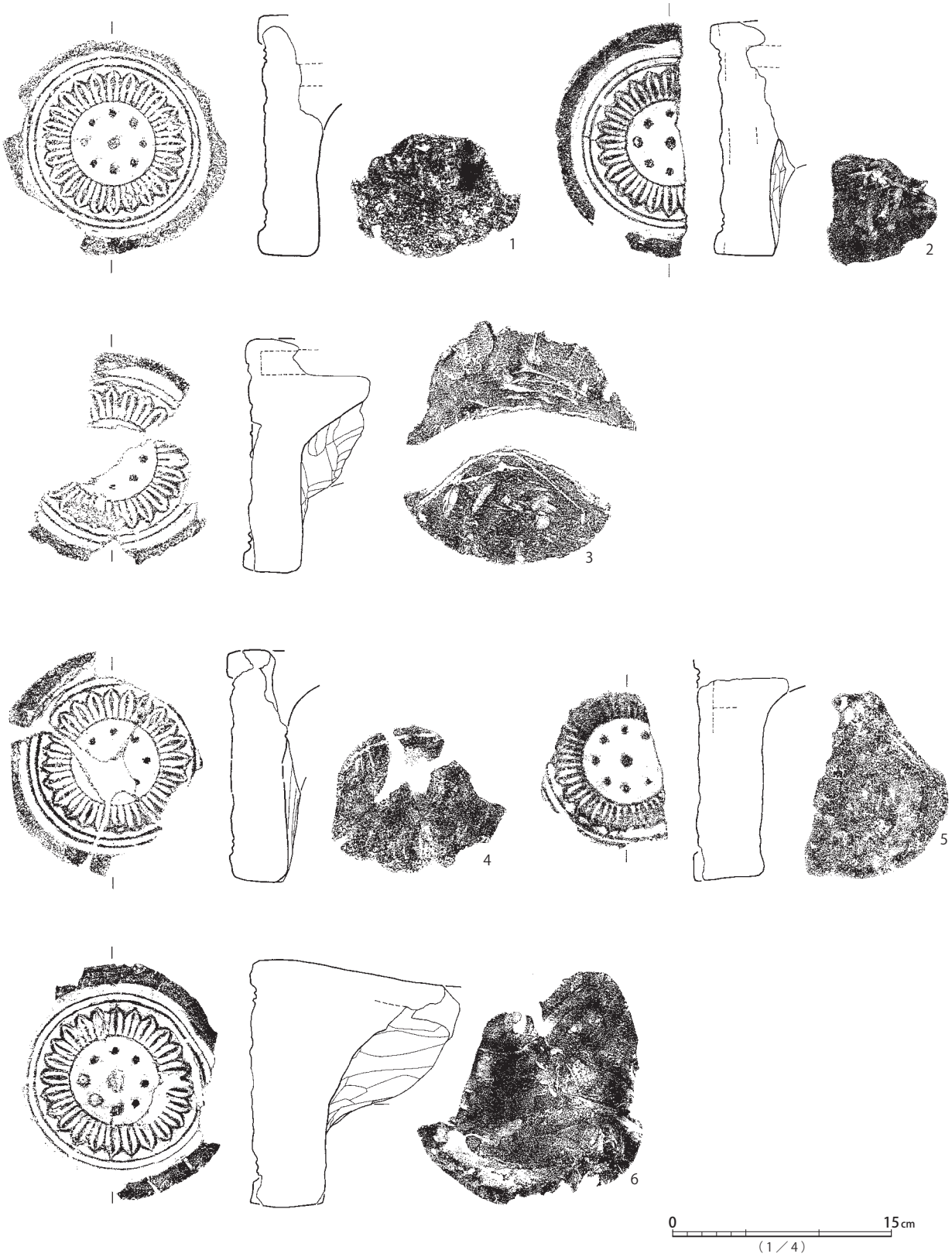


Fig.373　井戸1640号(7) 遺物

井戸 1640号

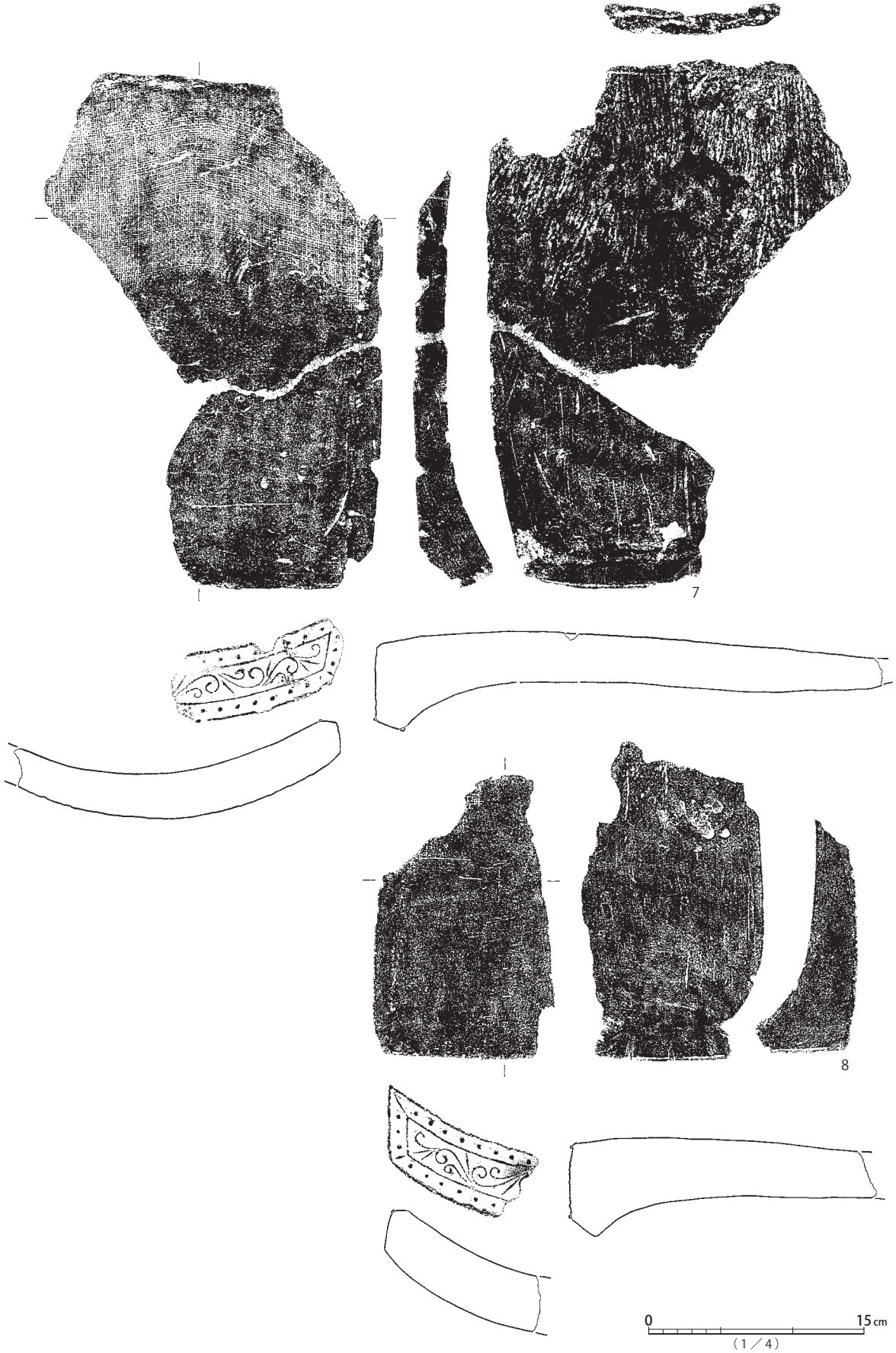


Fig.374　井戸1640号(8) 遺物

井戸 1640号



Fig.375　井戸1640号(9) 遺物

井戸 1640号

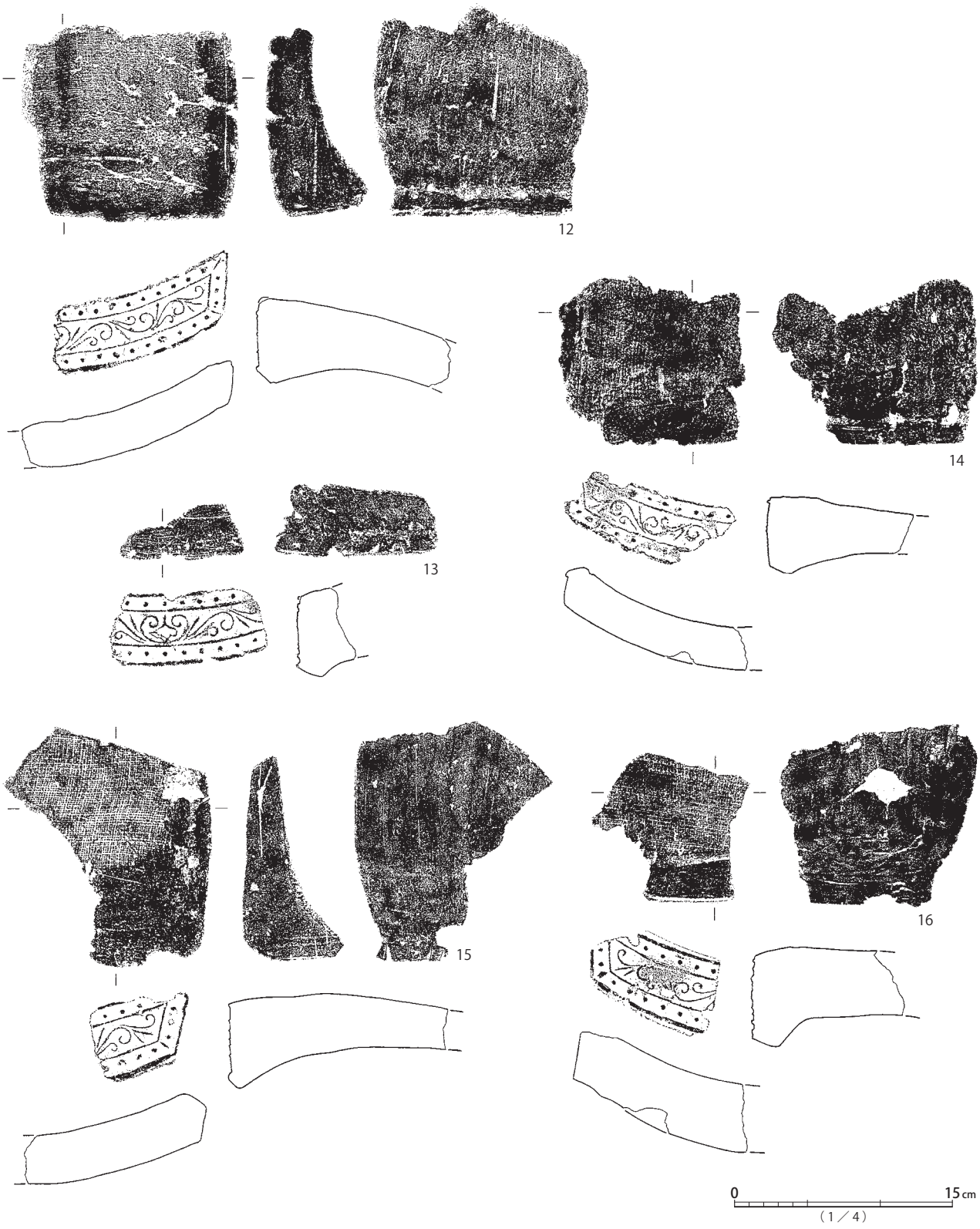


Fig.376　井戸1640号(10) 遺物

井戸 1640号

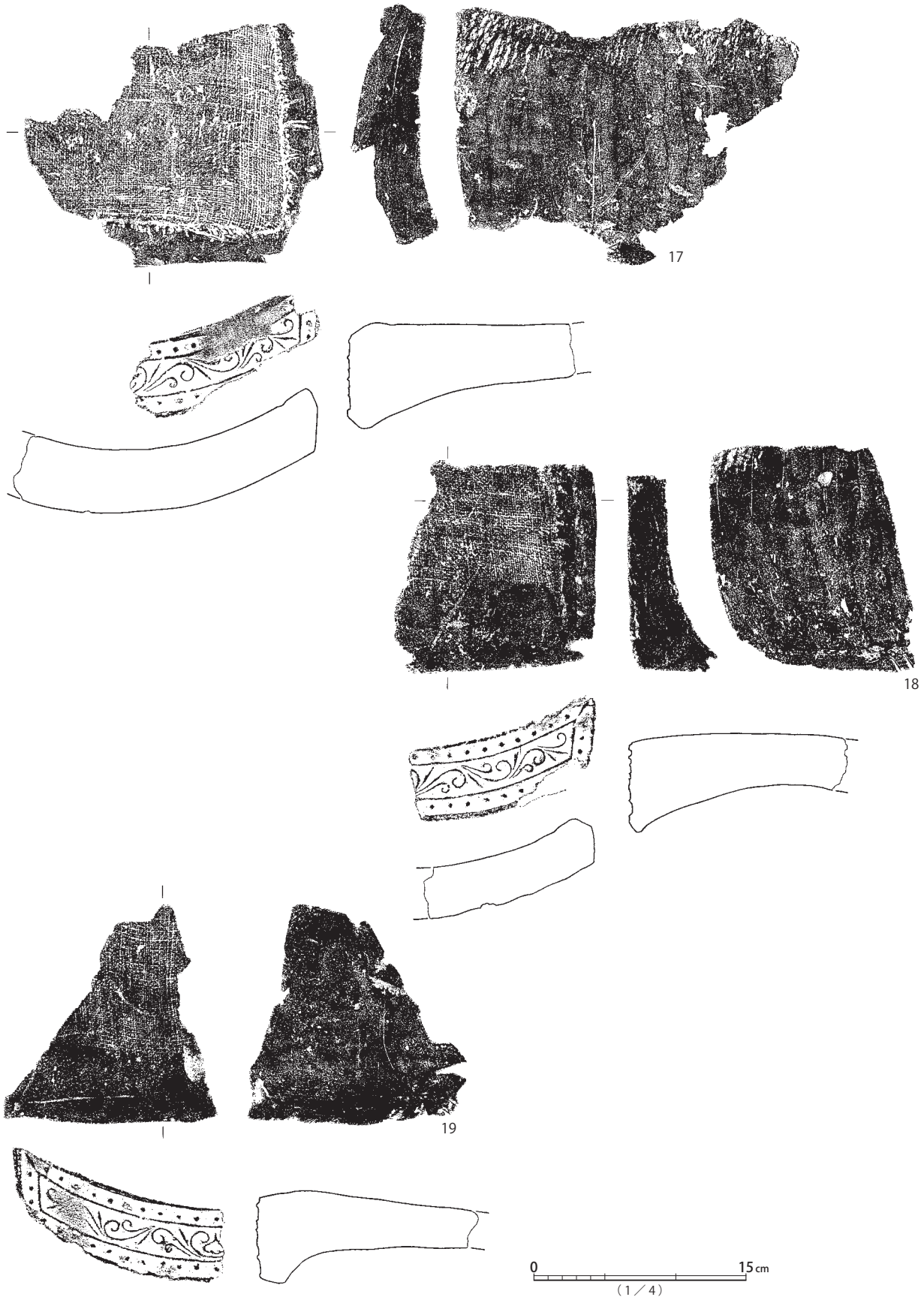


Fig.377　井戸1640号(11) 遺物

井戸 1640号

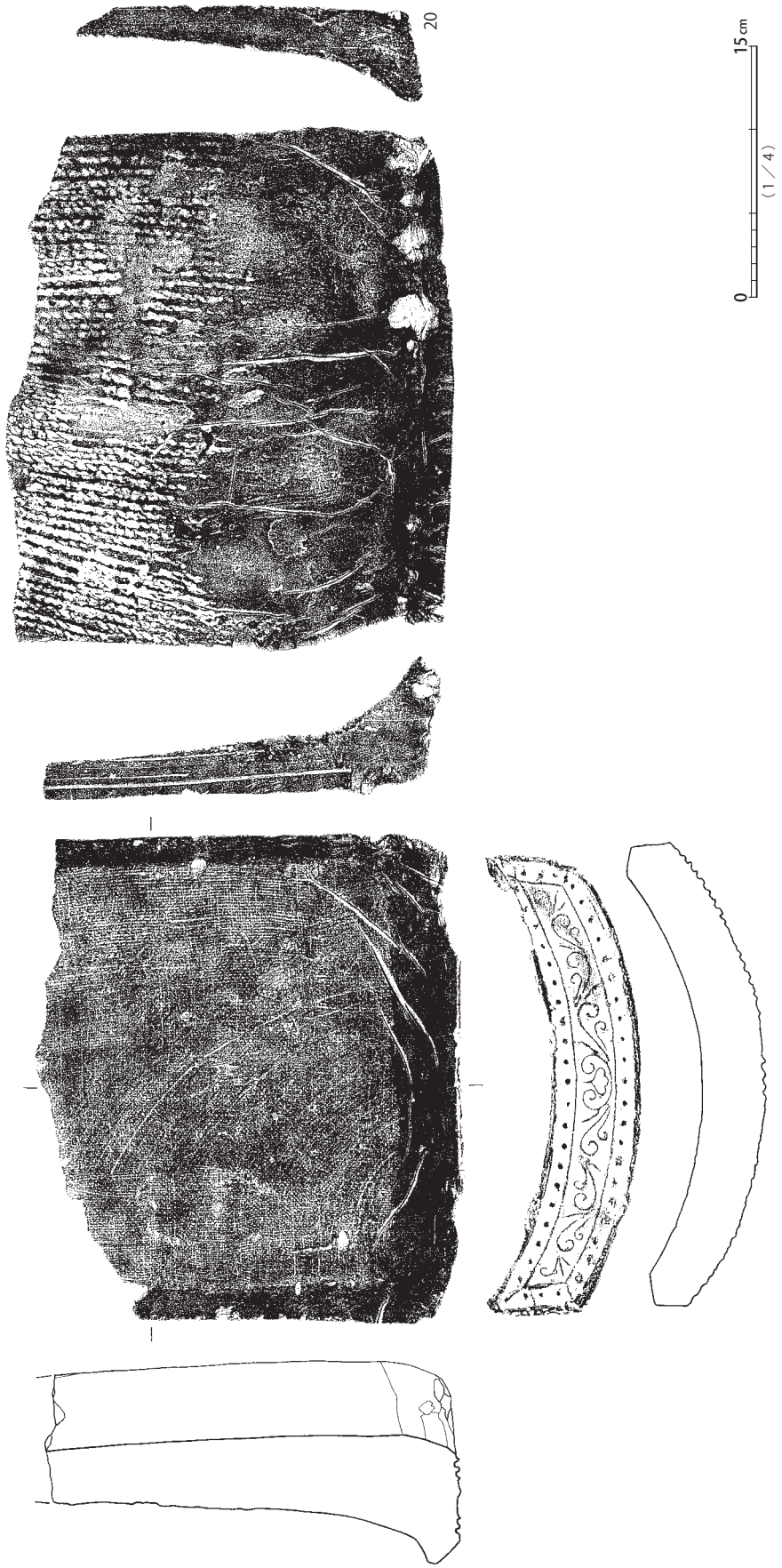


Fig.378　井戸1640号(12) 遺物

井戸 1640号

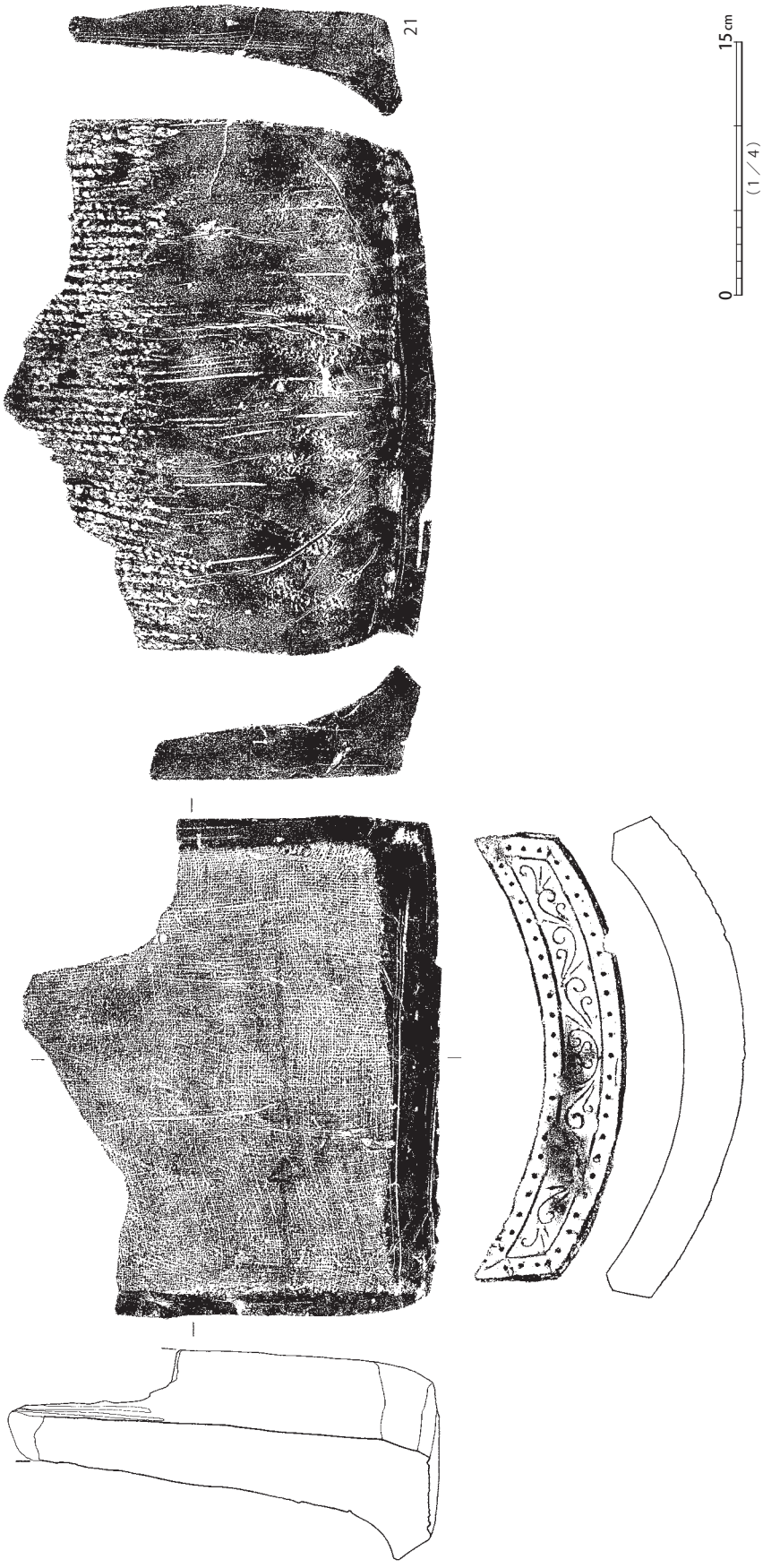


Fig.379　井戸1640号(13) 遺物

井戸 1640号

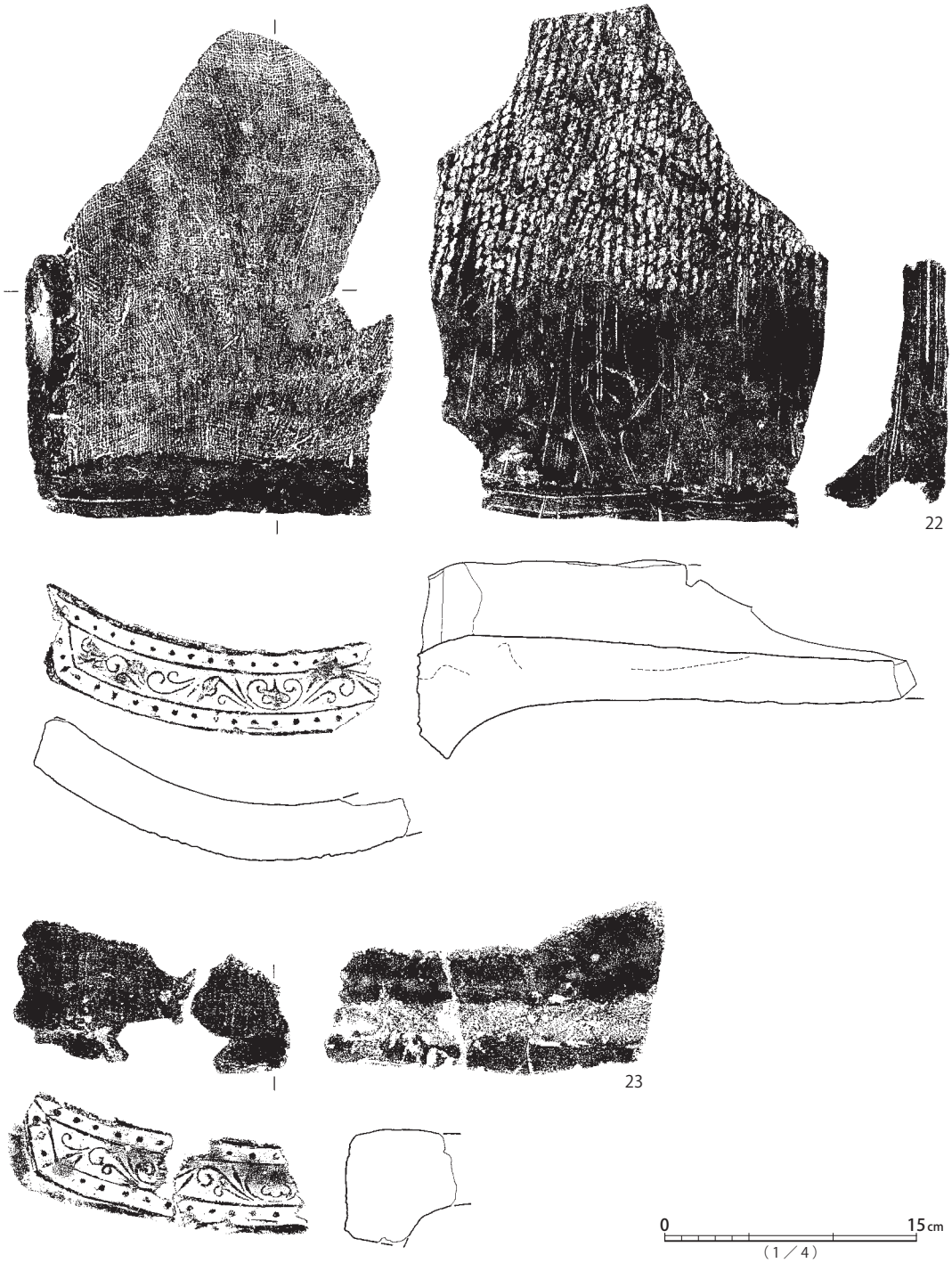


Fig.380　井戸1640号(14) 遺物

井戸 1640号

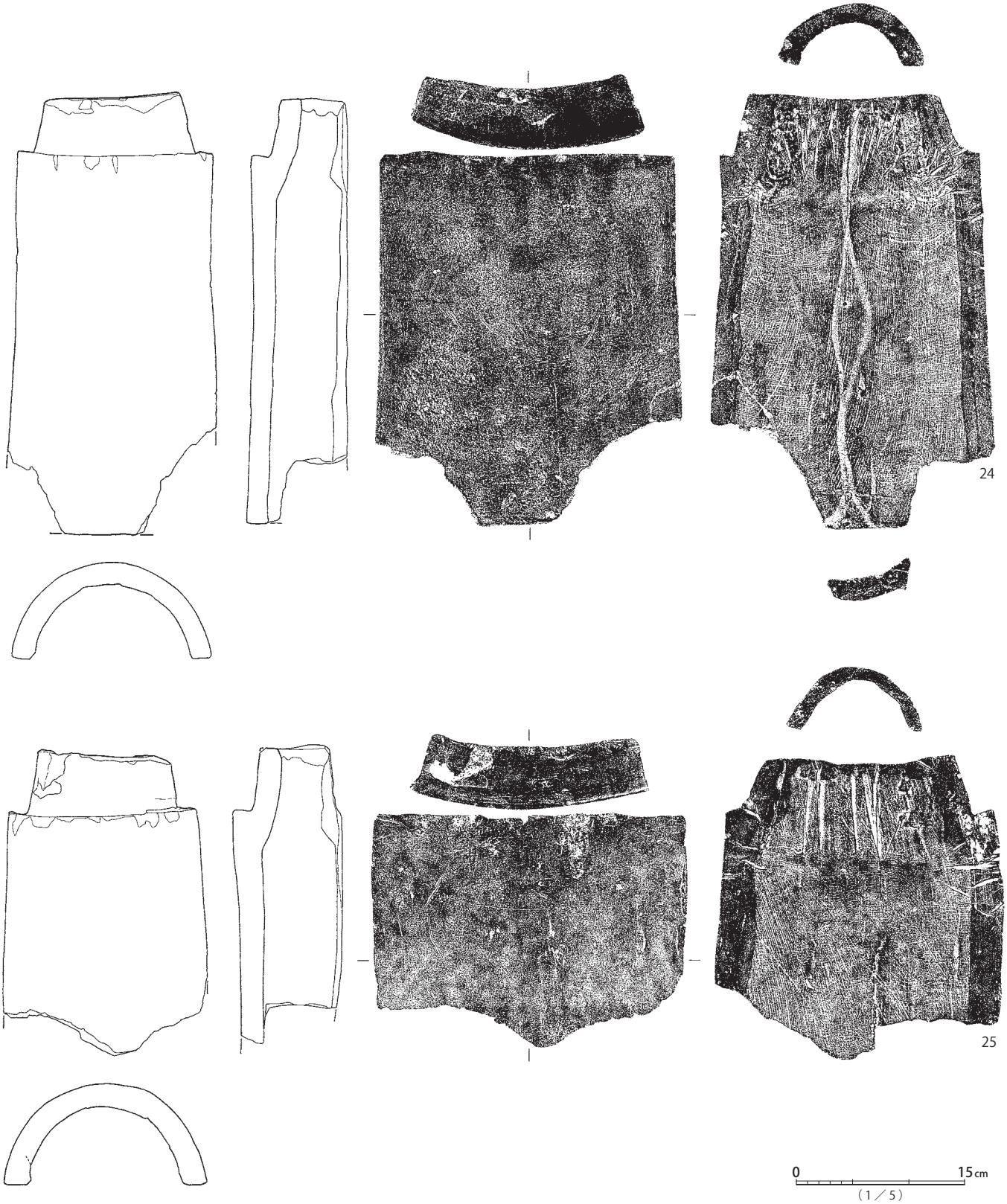


Fig.381　井戸1640号(15) 遺物

井戸 1640号

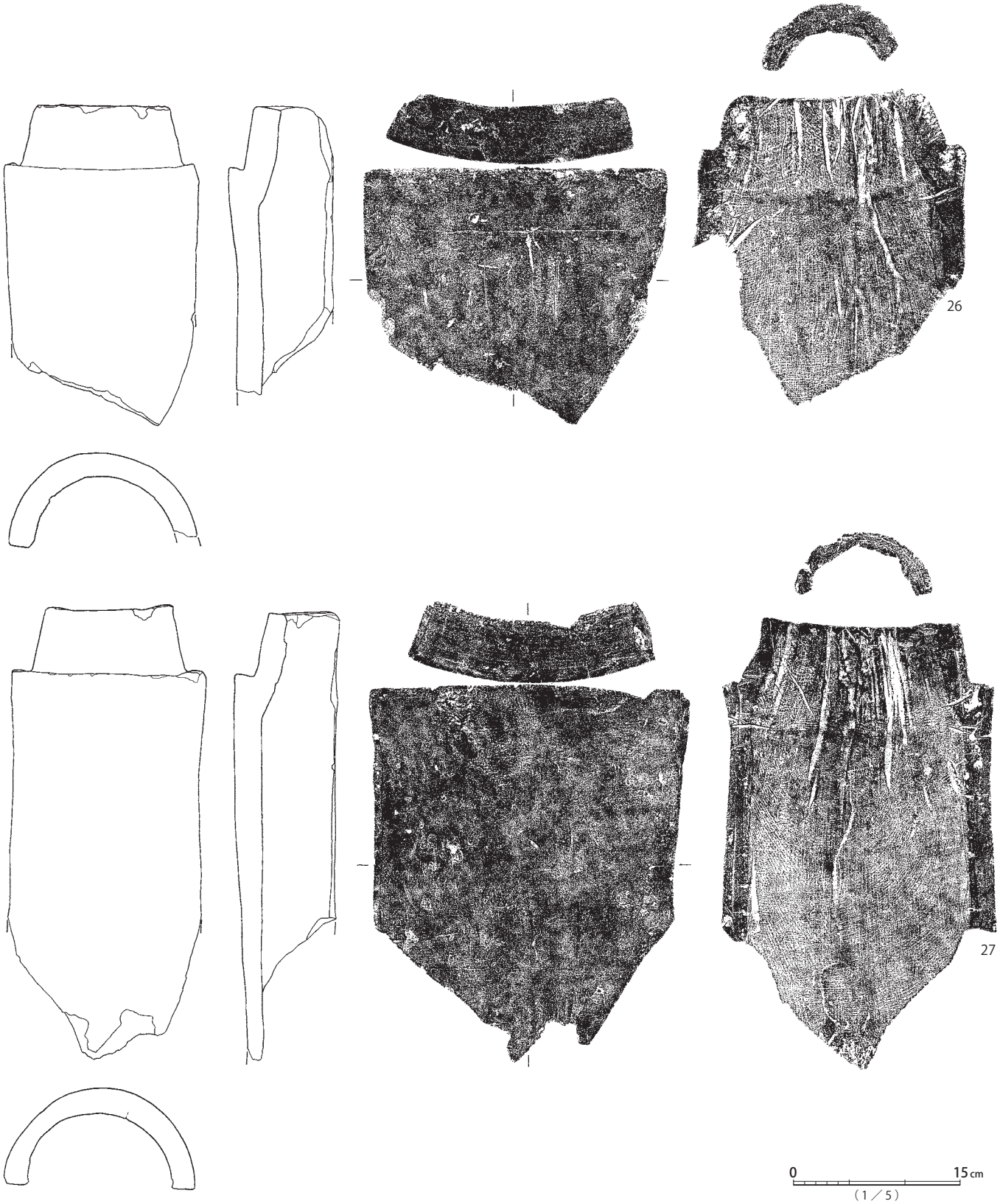


Fig.382　井戸1640号(16) 遺物

井戸 1640号

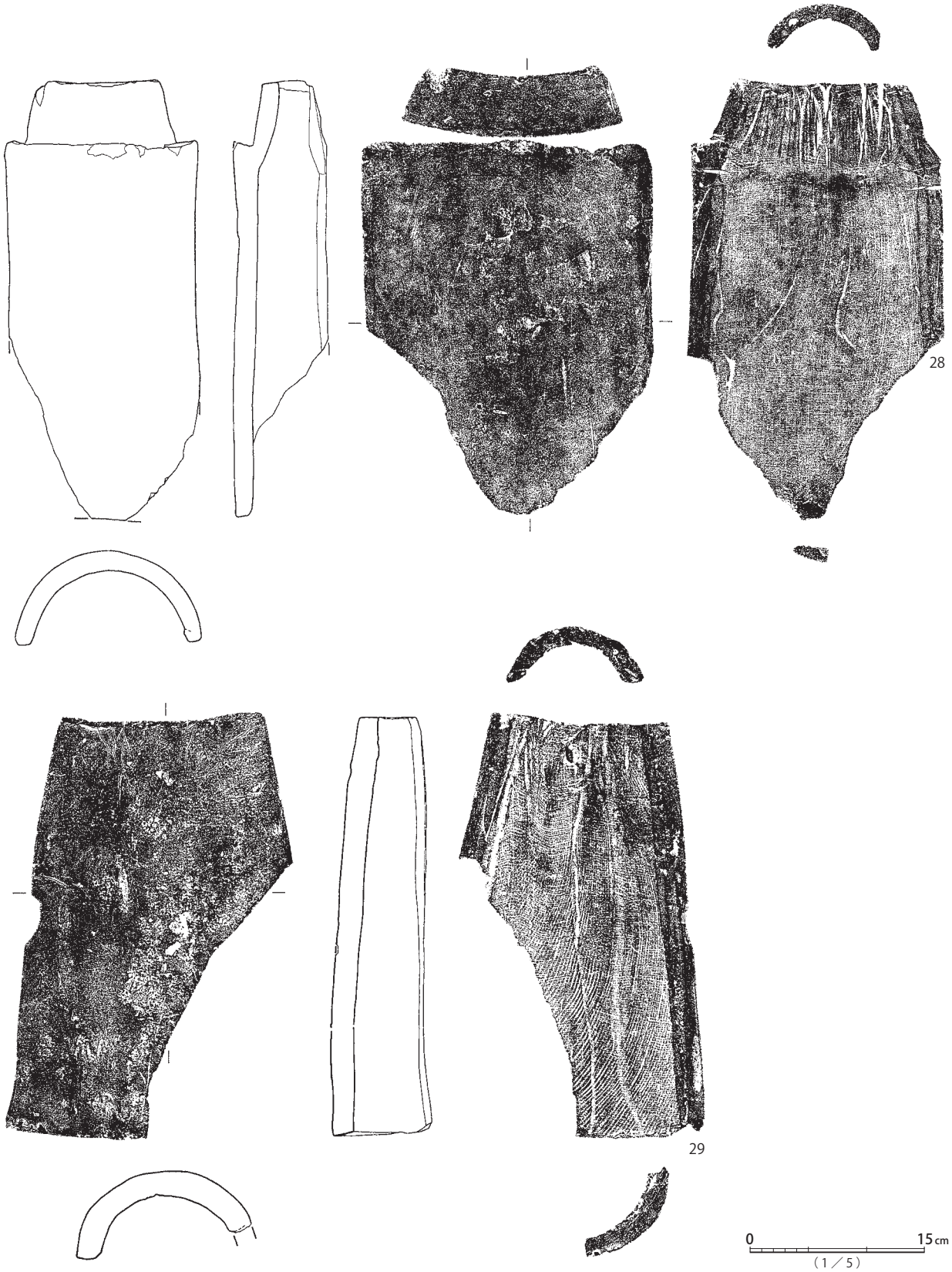


Fig.383　井戸1640号(17) 遺物

井戸 1640号

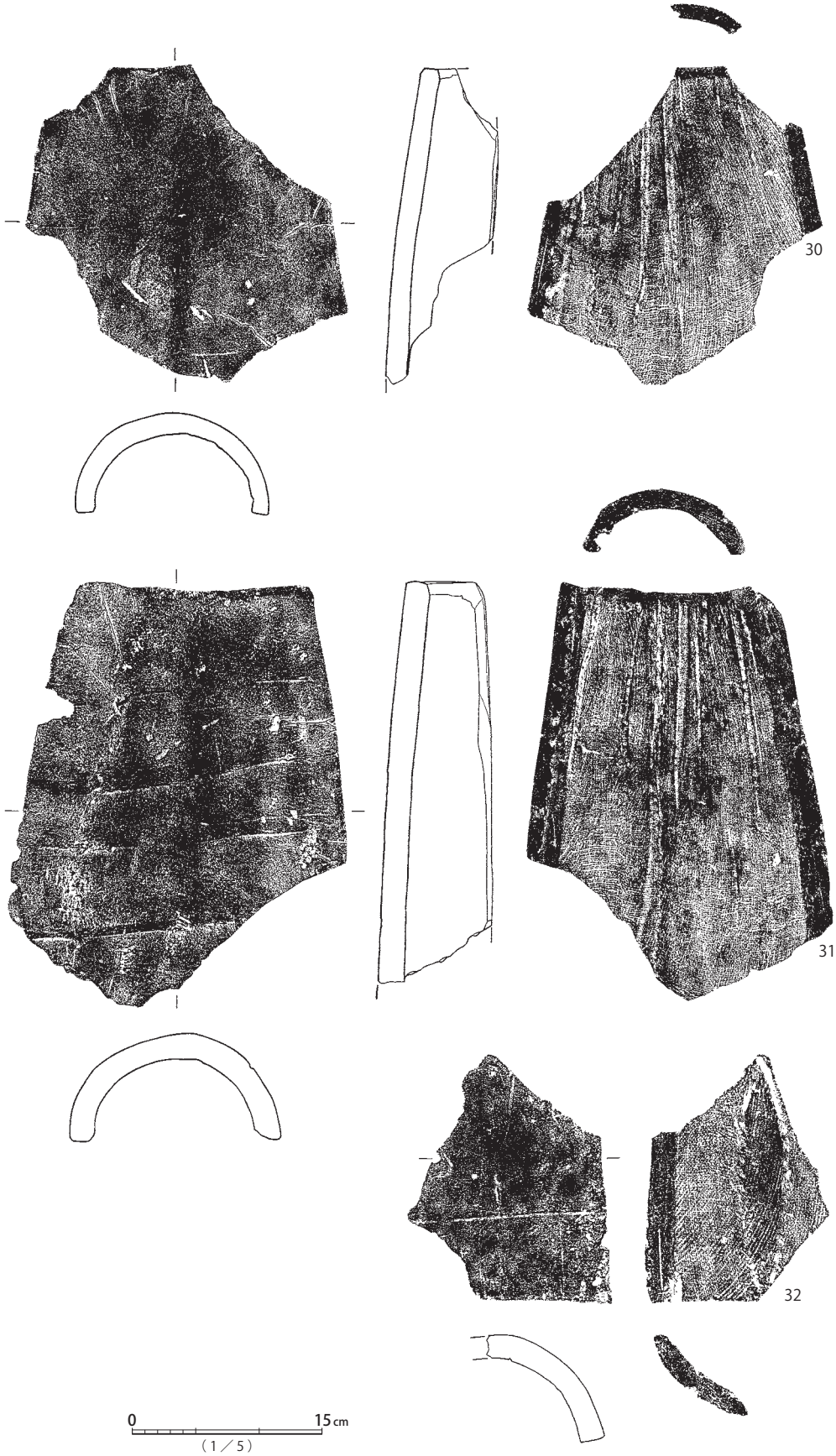


Fig.384　井戸1640号(18) 遺物

井戸 1640号

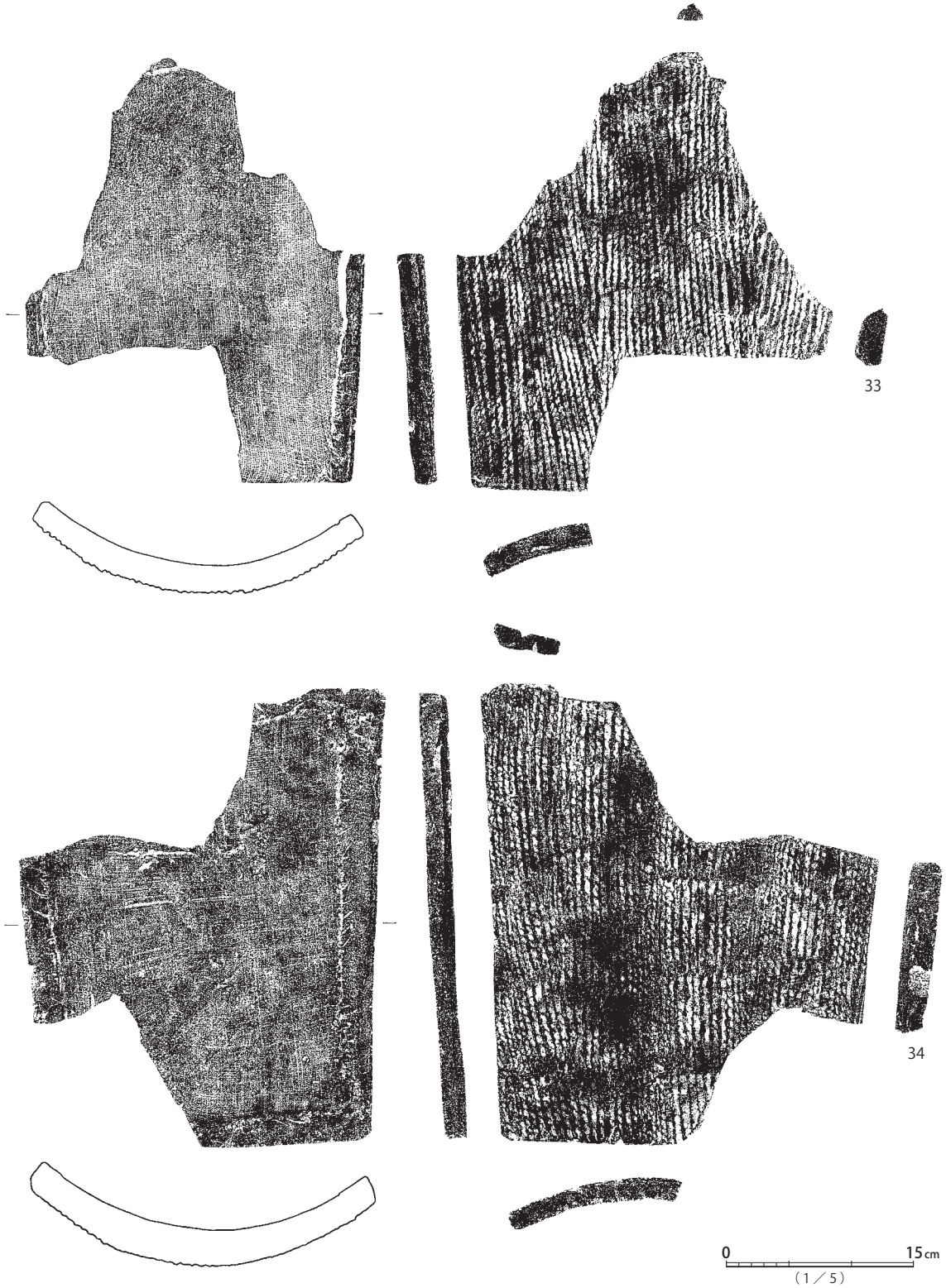


Fig.385　井戸1640号(19) 遺物

井戸 1640号



Fig.386　井戸1640号(20) 遺物

井戸 1640号



Fig.387　井戸1640号(21) 遺物

井戸 1640号

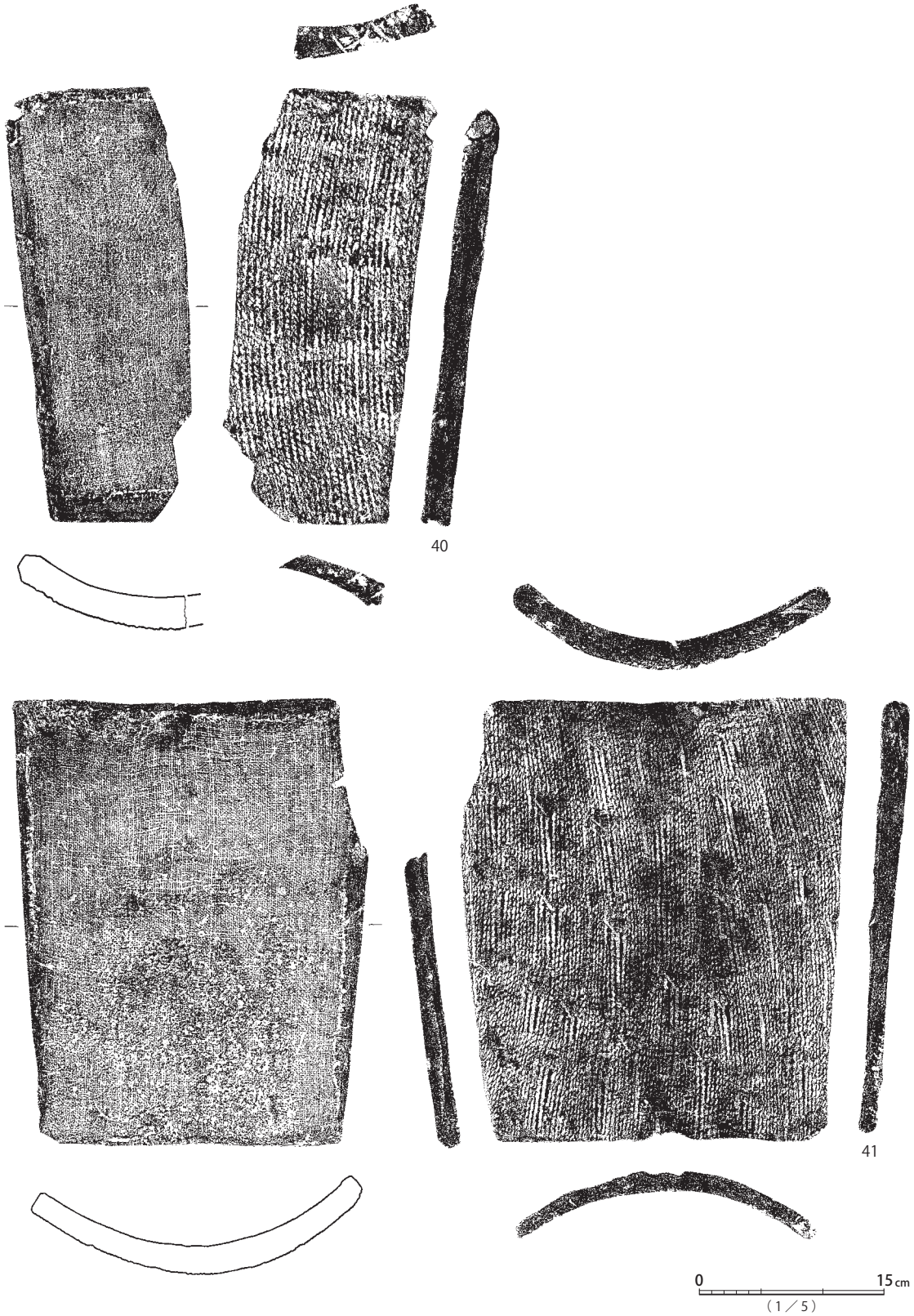


Fig.388　井戸1640号(22) 遺物

井戸 1640号

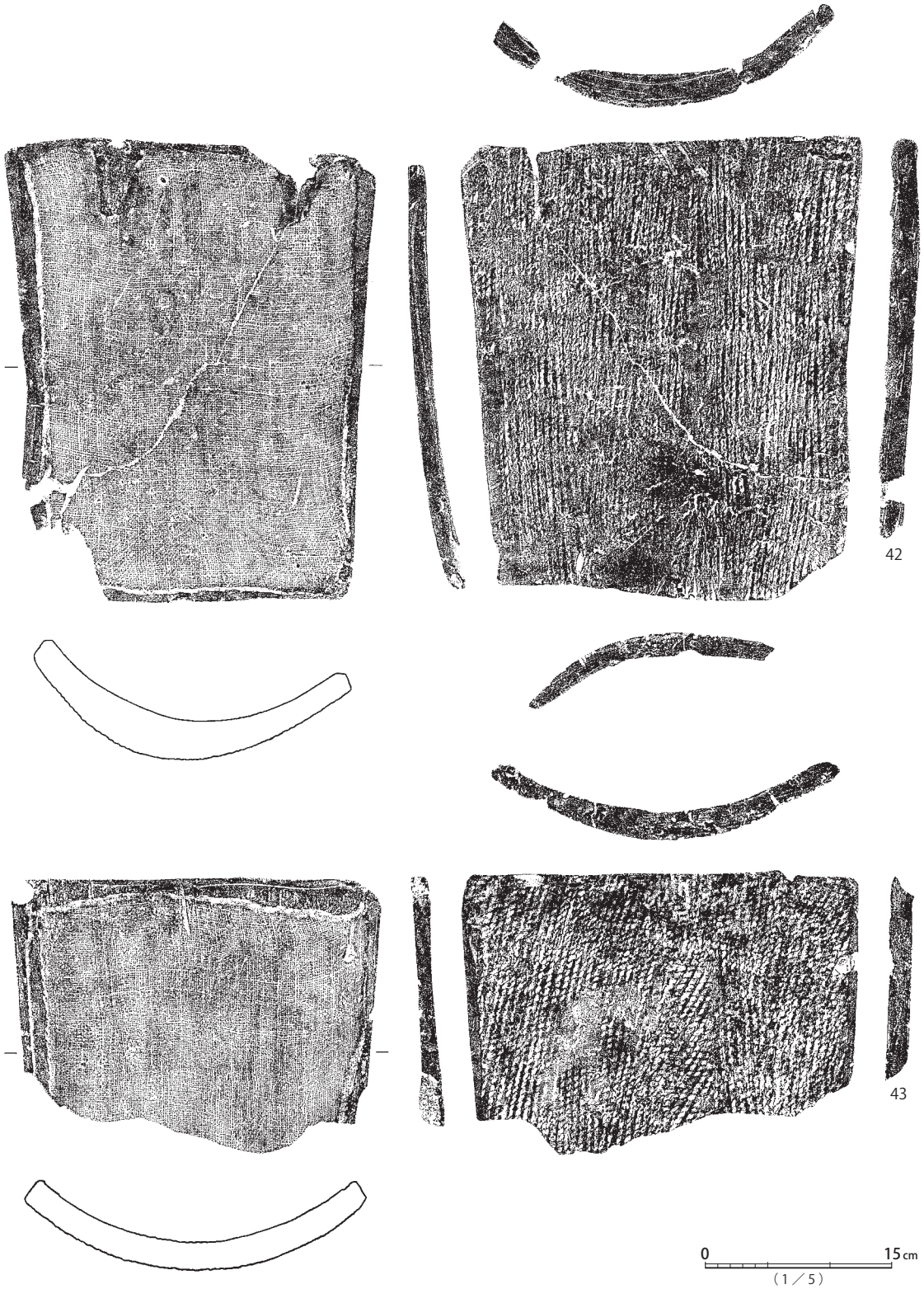


Fig.389　井戸1640号(23) 遺物

井戸 1640号

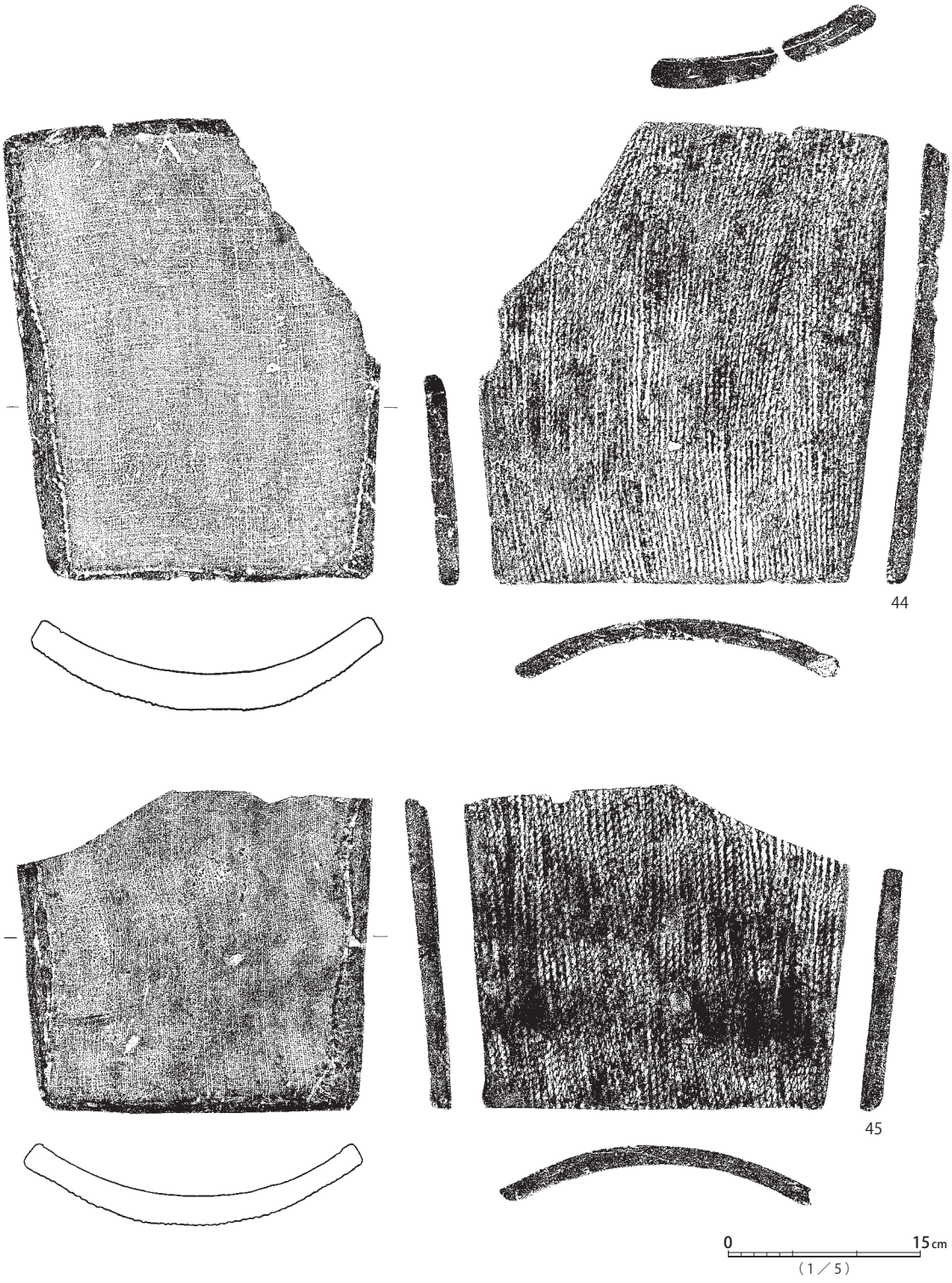


Fig.390　井戸1640号(24) 遺物

井戸 1640号

薄丸瓦

隅切瓦

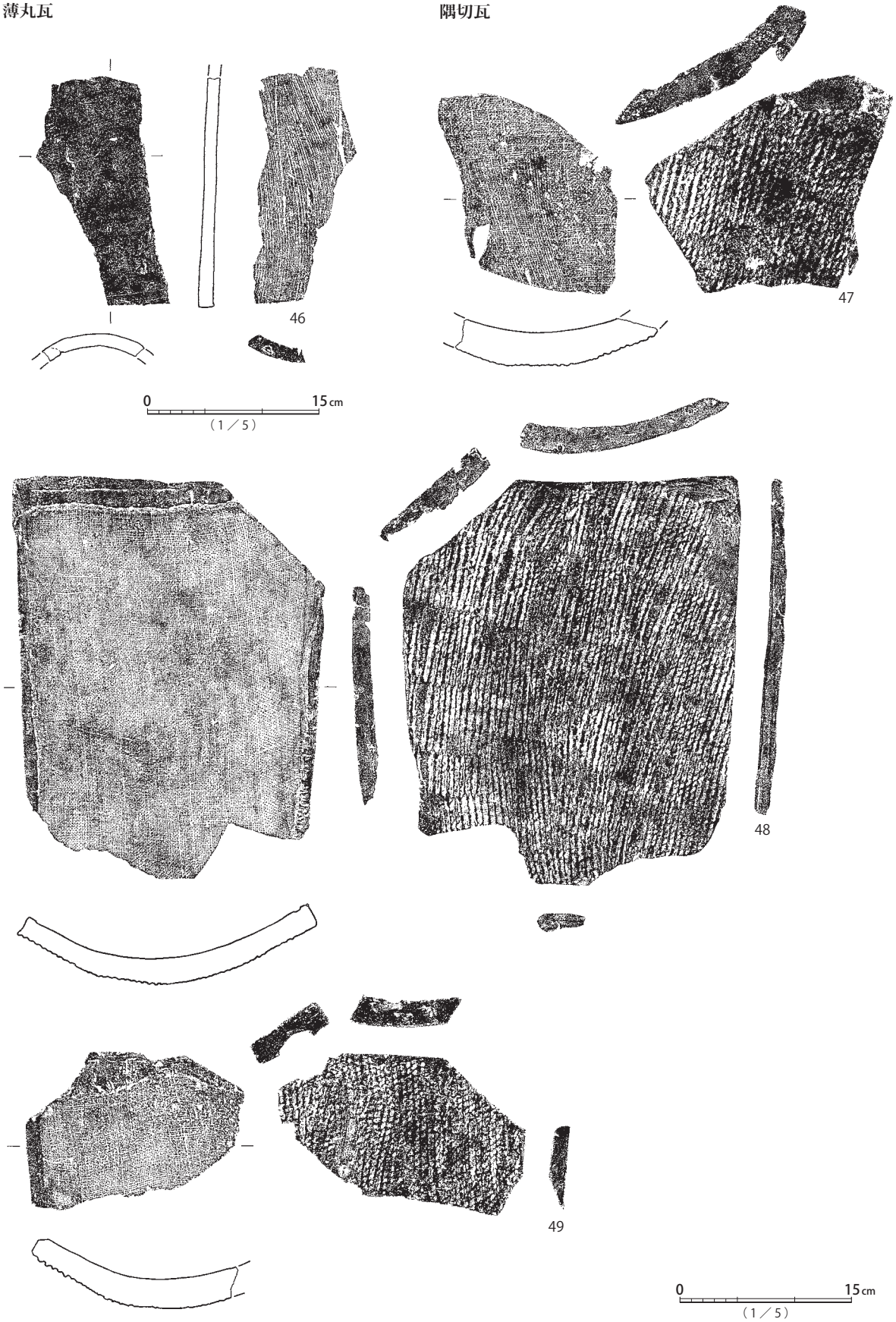


Fig.391　井戸1640号(25) 遺物

井戸 1640号

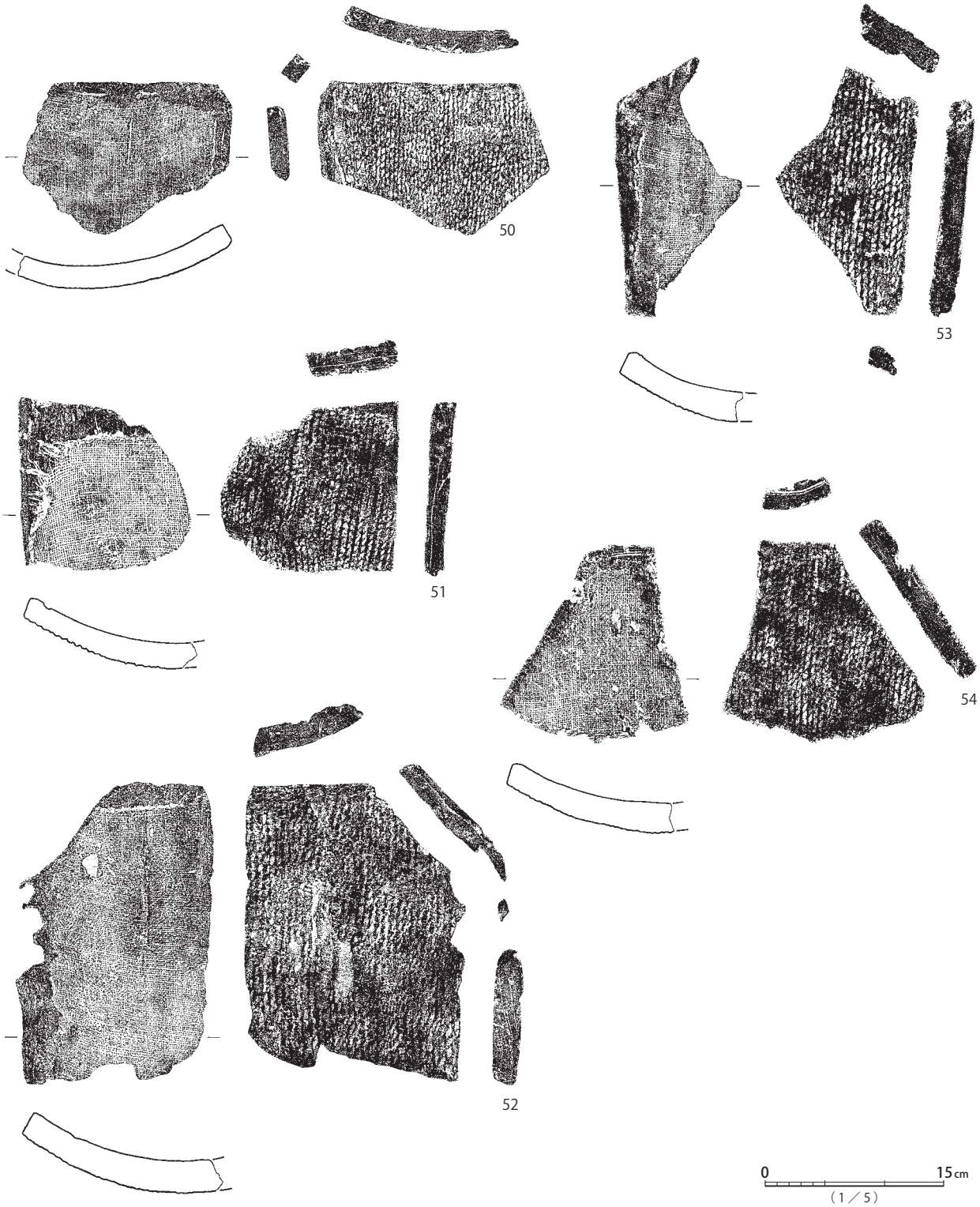
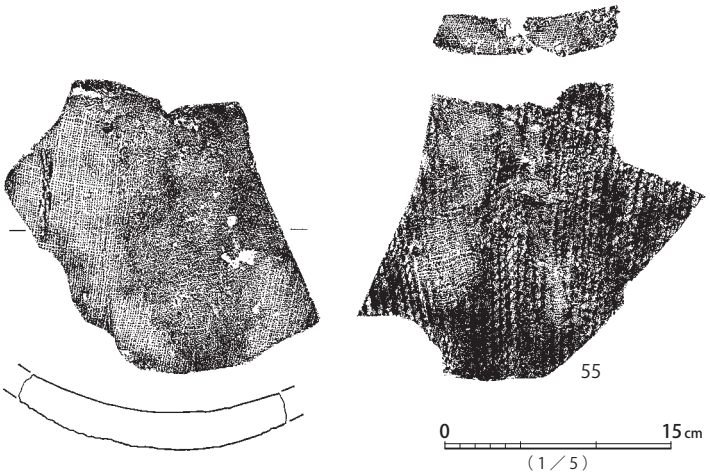


Fig.392　井戸1640号(26) 遺物

井戸 1640号



熨斗瓦

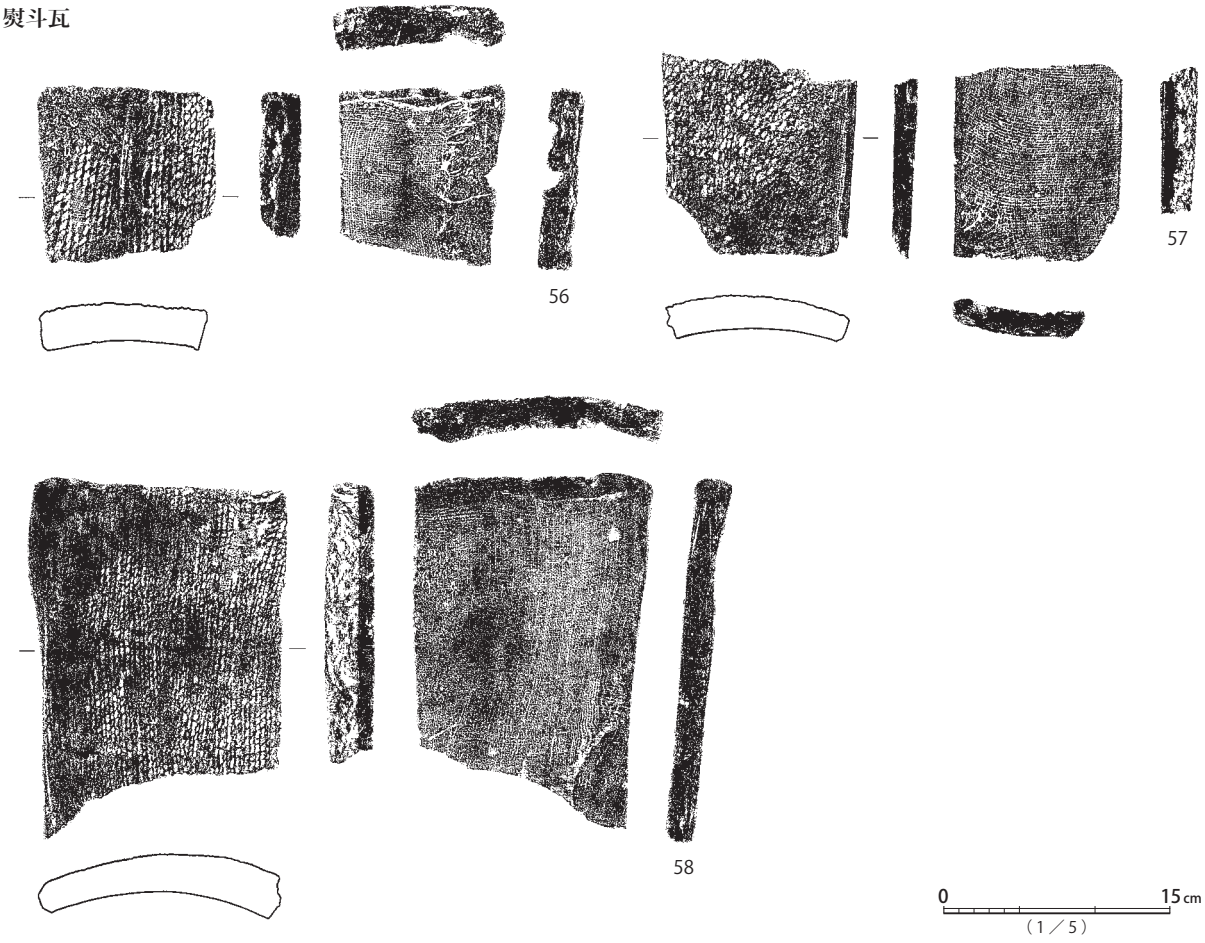


Fig.393　井戸1640号(27) 遺物

井戸 1640号

塼

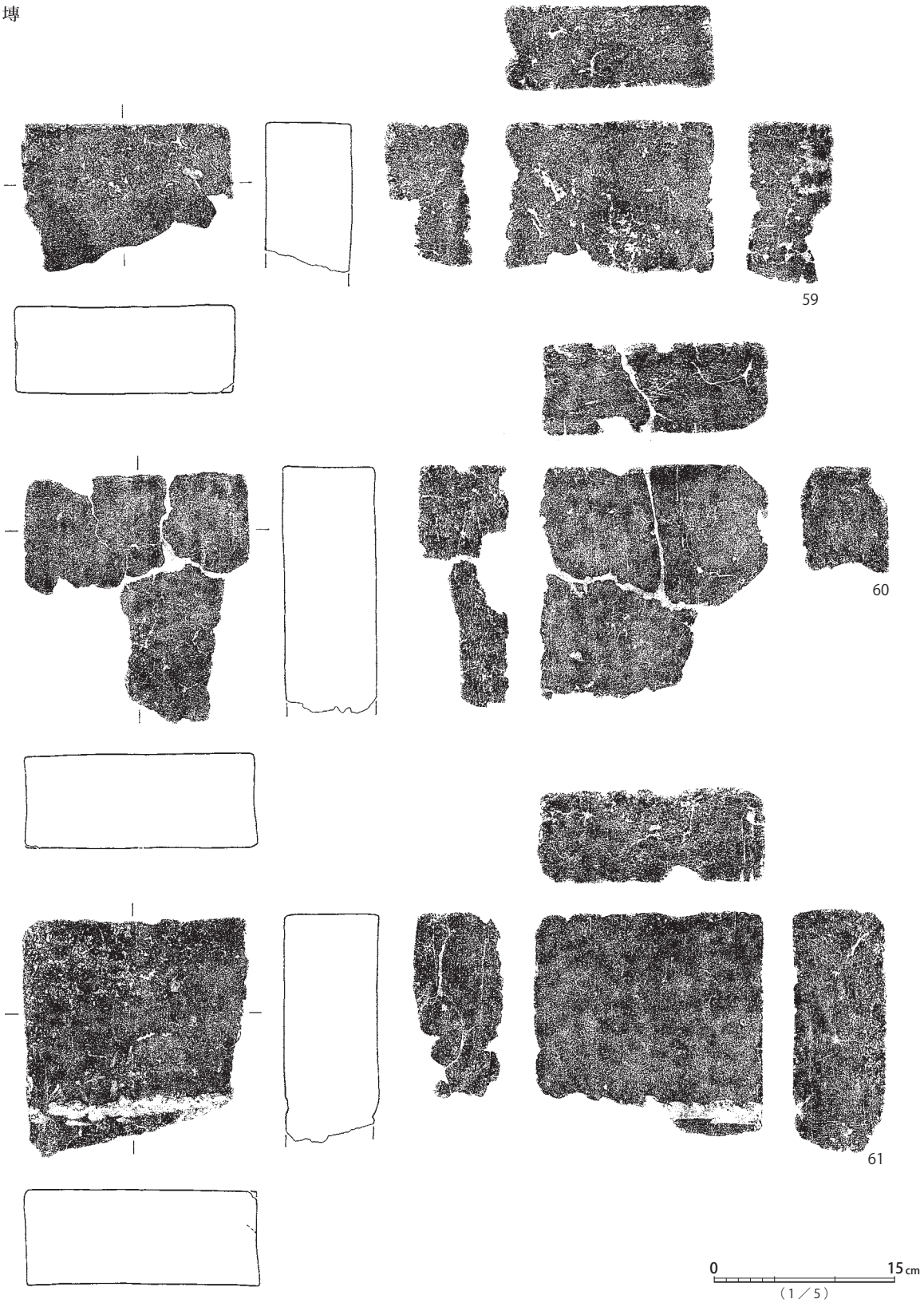


Fig.394　井戸1640号(28) 遺物

井戸 1640 号

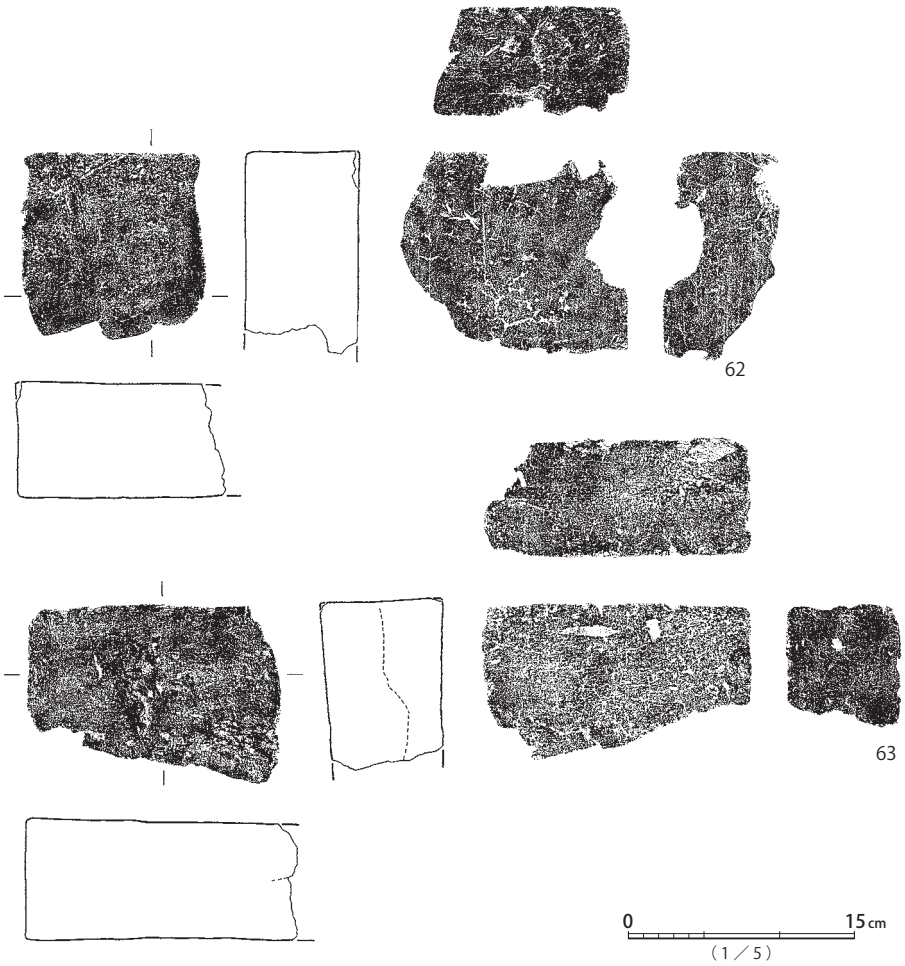


Fig.395　井戸1640号(29) 遺物

ピット 1809 号　（Fig.397、PL.70）〔僧 I 第 1116 図〕

薬師堂地区（セ 103）LL−13 に位置する。他遺構との重複はない。

平面形態は長方形を呈し、規模は1.68×1.20m、確認面からの深さは1.00mを測る。出土遺物がなく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は、1 はⅠ型式、2 はⅢ型式の均整唐草文軒平瓦である。1 は瓦当面と平瓦部の取り付けが鋭角で、顎部付近には赤色顔料が帯状に付着する。

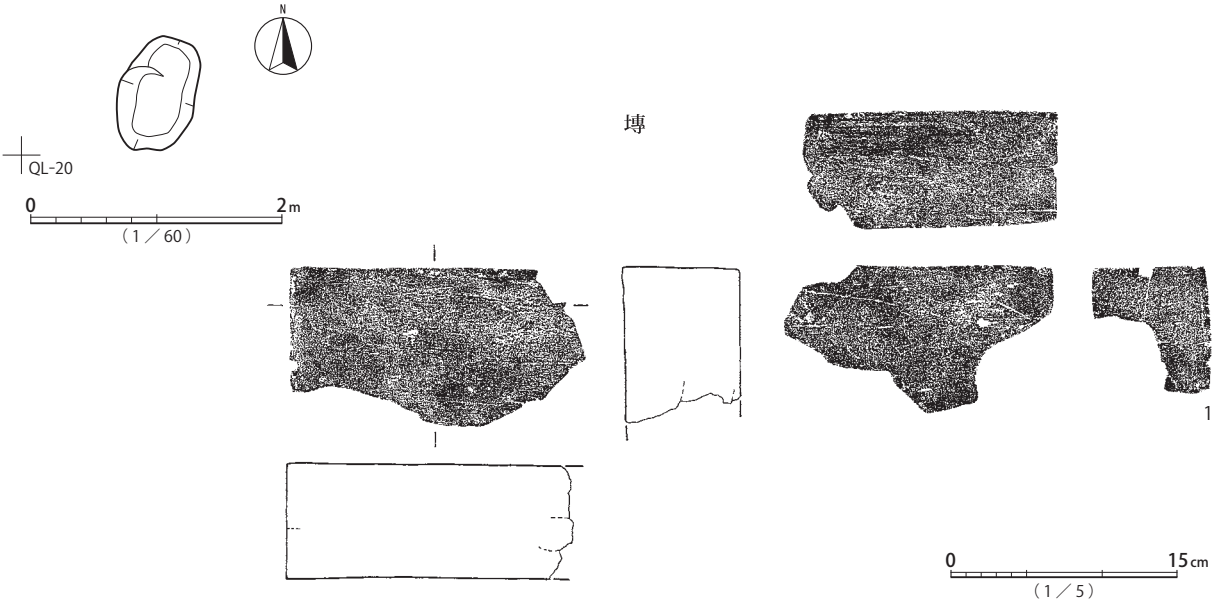
炉 1130 号　（Fig.398、PL.70）〔僧 I 第 751 図〕

東南部FP−23 に位置する。カマドの痕跡の可能性が考えられるが、明確でない。

平面形態は不整円形を呈し、規模は0.70×0.50m、確認面からの深さは0.13mを測る。出土遺物が少なく、帰属時期は明確でない。

実測可能遺物は 1 の軒平瓦のみである。Ⅶ型式の蕨手状唐草文で、凸面には格子叩き目が残る。

ピット 1620号



ピット 1837号

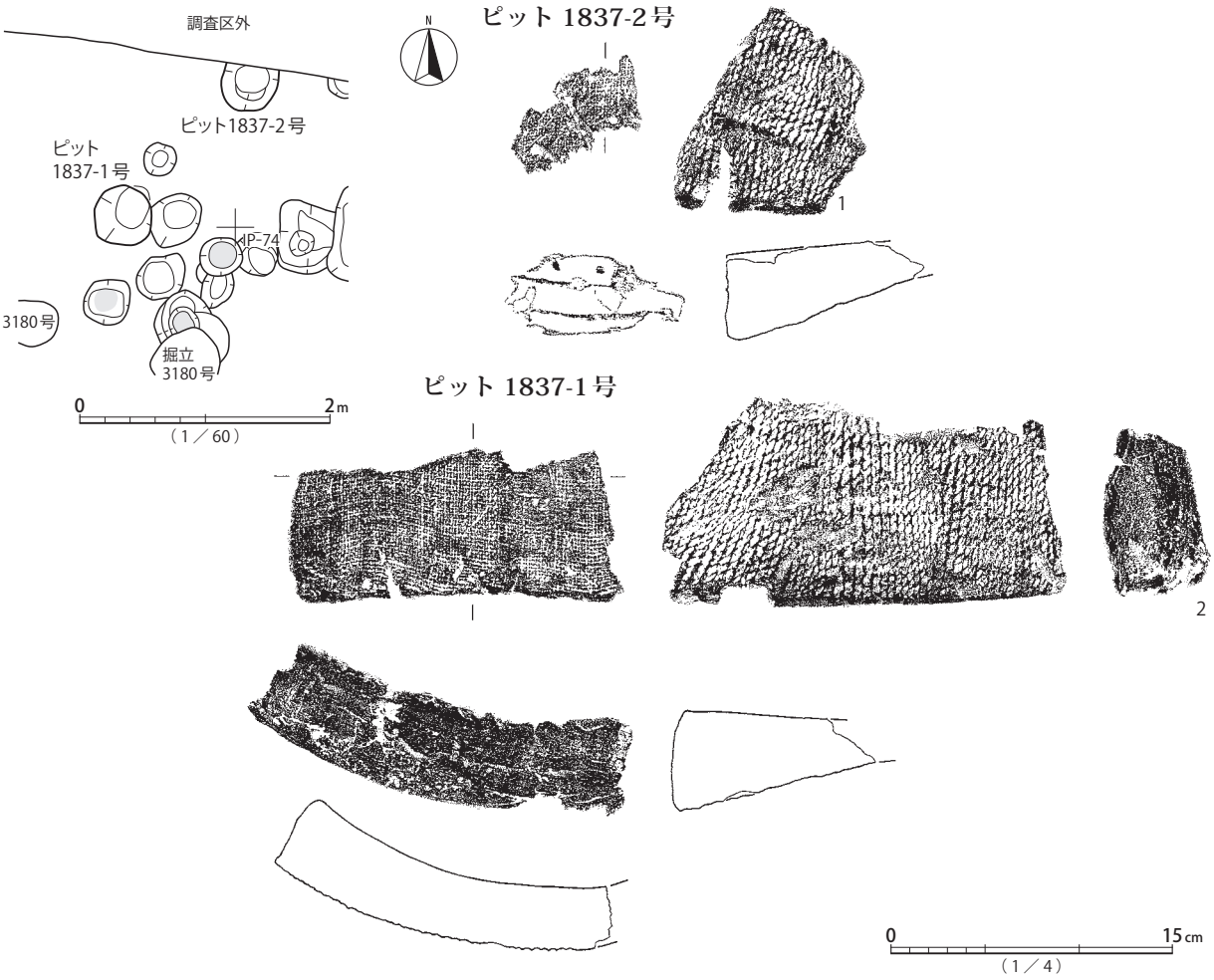
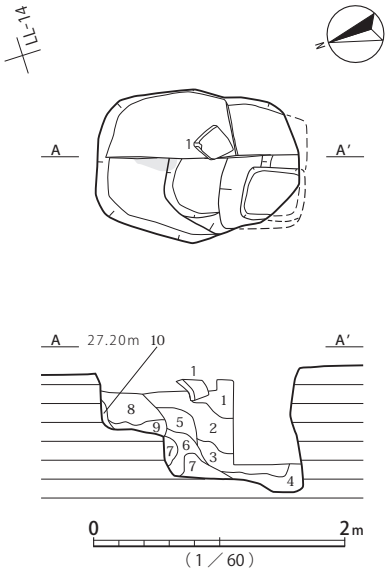


Fig.396　ピット1620号 遺構遺物、ピット1837号 遺構遺物

ピット 1809号



1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・整地土を含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒・整地土を含む。
4　暗褐色土　粗いロームブロックを含む。硬くしまる。
5　黒褐色土　褐色土との混合。
6　暗褐色土　ロームブロック・褐色土を含む。しまりなし。
7　ロームブロック　褐色土を含む。
8　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
9　暗褐色土　ローム粒・小ロームブロックを含む。
10　茶褐色土

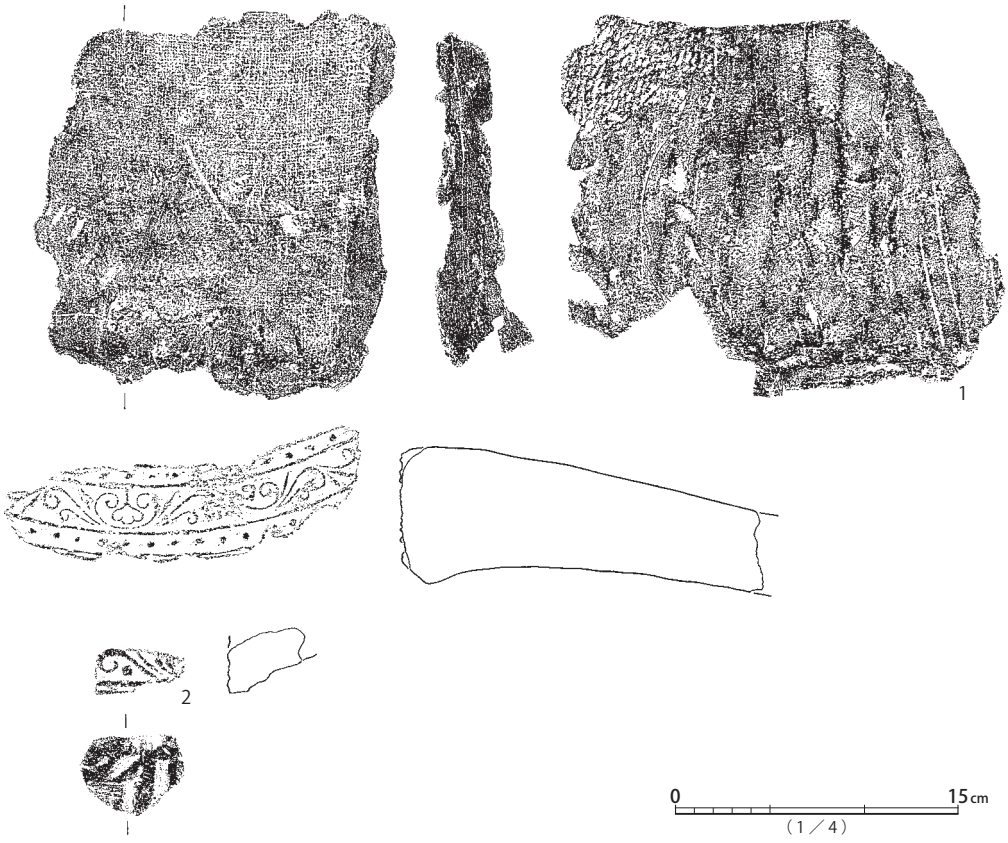
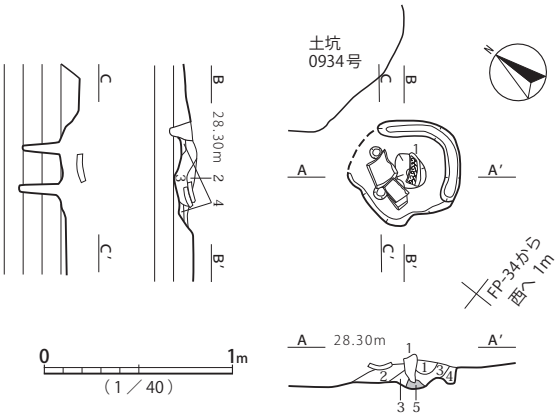


Fig.397　ピット1809号 遺構遺物

炉 1130 号





ph.1　出土状況 1

1　暗褐色土　ローム微粒を多量に含み、小ロームブロックが少量、焼土・粘土がわずかに混じる。
2　黒褐色土　粘土粒をやや多く含む。
3　暗褐色土　ローム・焼土・粘土の混合。
4　黒褐色土　ソフトロームとの混合。
5　白色粘土　粘土ブロック。

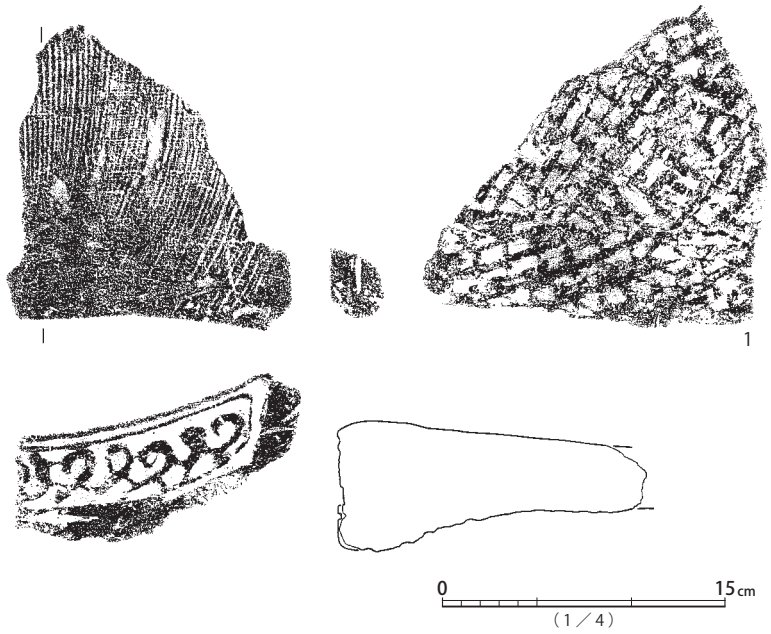


Fig.398　炉1130号 遺構遺物・調査状況

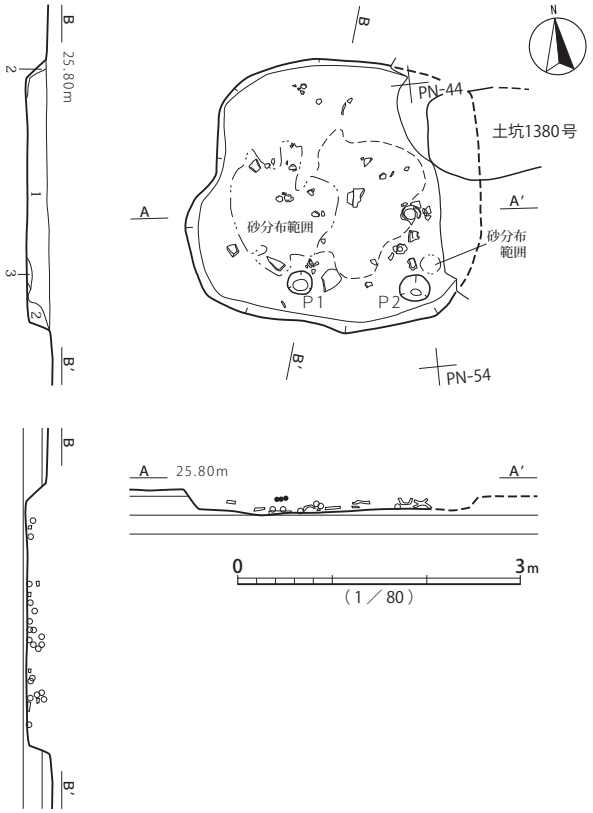
小鍛冶 1306 号　（Fig.399）〔僧 I 第 301・302 図〕

北辺部PN−43を中心に位置する。土坑1380号と重複するが、断面図など記録上の根拠がなく、新旧関係は明確でない。

平面形態は胴張隅丸方形を呈し、規模は2.82m四方、遺構下端面積は6.6㎡、確認面からの深さは0.22mを測る。主軸方位はN−15°−E程度を測るものと思われる。僧寺編年III期の所産と考えられる。

床面上から瓦片の出土が確認できるが、実測可能遺物として抽出されていない。

小鍛冶 1306号



1　暗褐色土　ローム細粒・焼土粒・粘土粒をわずかに含む。
　　粘性あり、しまり弱い。
2　黄褐色土　ロームへの漸移的層。しまりなし。
3　黒褐色土　ローム粒を少量含む。粘性あり、ややしまりあり。



ph.1　出土状況

Fig.399　小鍛冶1306号 遺構・調査状況

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第36集
上総国分寺台遺跡調査報告XXVII

上総国分僧寺跡 II（本文編 1）

平成28年3月18日　発行

編集発行　市原市教育委員会
埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436（41）9000

印　刷　凸版印刷株式会社　千葉営業所
千葉市美浜区中瀬二丁目6番地1
WBGマリブウエスト28F
TEL 043（350）5611